

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 52 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 52



平成 17 ( 2005 ) 年度

April 2005    March 2006

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 52 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 52

平成 17 ( 2005 ) 年度

April 2005—March 2006

# ま え が き

学長 荒 木 勤

本学の教育理念には優れた基礎研究者や優れた臨床研究の遂行能力をもつ臨床医の養成を掲げている。その目的の達成に向かって大学院を整備しながら重点化し、研究内容の質的・量的充実を図ってきた。研究体制の基盤強化の進歩とともに、一定の成果が今年度も達成されたと言える。その証しがこの研究業績年報52巻から伺える。

従来からの研究業績の評価は論文数 本，うち欧文数 本，学会誌 本，研究者一人当たり 本などを基準に評価されてきた。これらの評価はそれなりに重要な意義をもっている。

しかし、研究の重みは論文の数だけではない。深さであり幅である。そして社会へ貢献できる成果でなければならない。その為にも、常に研究に対するオリジナリティーや展開方策が問われる。国内のみならず国際的な競争の渦の中にあって、その業績が認知されるには一流の学術誌に投稿することが肝腎である。

いま、平成17年度の業績集から研究の質の向上、研究分野の幅も広がってきたことが伺える。欧文論文数が706本に至ったことは研究の活性化の証拠でもある。その中の多くは国際的に通用する魅力ある優れた論文である。グローバル時代のいま、研究の成果に対するプラス評価が、外国から聞こえることが嬉しい。産業界から応用の利く論文も求められてくる。知的財産・ベンチャー育成(TLO)につながる研究成果であって欲しい。本学の研究が21世紀COEプログラムに挑戦できるような内容のものであって欲しい。研究室では大学院生や若年研究者が自らの目的、達成方法を明らかにし、のびのびと研究することが期待される。そこから日本医科大学発、オンリーワンの仕事が生まれてくると信じる。わが大学の研究文化をどう育てていくか原点に戻って考えていく時期に来たと思う。

いまの業績年報の改革、改編への道を探って貰うためにも.....

終わりに、この業績年報の編集にご尽力下さった鈴木秀典研究委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
[心理学] .....	1
[文化人類学] .....	2
[経済学] .....	2
2. 自然科学 .....	3
[数 学] .....	3
[物理学] .....	3
[化 学] .....	4
[生物学] .....	5
3. 外国語 .....	9
[英 語] .....	9
[ドイツ語] .....	10
4. スポーツ科学 .....	11
[スポーツ科学] .....	11

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	15
2. 解剖学第二講座 .....	17
3. 生理学第一講座 .....	21
4. 生理学第二講座 .....	25
5. 生化学第一講座 .....	28
6. 生化学第二講座 .....	31
7. 薬理学講座 .....	38
8. 病理学第一講座 .....	42
9. 病理学第二講座 .....	48
10. 微生物学・免疫学講座 .....	57
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	61
12. 法医学講座 .....	66
13. 医療管理学講座 .....	69
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	72
[実験動物管理室] .....	72
[中央電子顕微鏡研究施設] .....	73
[情報科学センター] .....	75

## 〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座 .....	81
[付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)] .....	81
[付属病院老人科] .....	98

	[ 第二病院内科 ( 内科, 循環器科, 神経内科 ) ] .....	103
	[ 多摩永山病院内科, 循環器内科 ] .....	105
2.	内科学第二講座 .....	110
	[ 付属病院第2内科 ( 神経内科, 腎臓内科 ) ] .....	110
	[ 付属病院リウマチ科 ] .....	124
3.	内科学第三講座 .....	127
	[ 付属病院第3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ] .....	127
4.	内科学第四講座 .....	145
	[ 付属病院呼吸器内科 ] .....	145
5.	精神医学講座 .....	156
	[ 付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ] .....	156
	[ 付属病院東洋医学科 ] .....	160
6.	小児科学講座 .....	164
	[ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ] .....	164
7.	放射線医学講座 .....	177
	[ 付属病院放射線科 ] .....	177
	[ 第二病院放射線科 ] .....	184
	[ 多摩永山病院放射線科 ] .....	186
	[ 千葉北総病院放射線科 ] .....	186
8.	皮膚科学講座 .....	189
	[ 付属病院皮膚科 ] .....	189
	[ 第二病院皮膚科 ] .....	198
	[ 多摩永山病院皮膚科 ] .....	200
	[ 千葉北総病院皮膚科 ] .....	202
9.	外科学第一講座 .....	203
	[ 付属病院第1外科 ( 消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科 ) ] .....	203
	[ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科 ) ] .....	232
	[ 千葉北総病院外科 ] .....	237
10.	外科学第二講座 .....	242
	[ 付属病院第2外科 ( 内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科 ) ・千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外科 ] .....	242
	[ 第二病院外科 ( 外科, 心臓血管外科 ) ] .....	256
11.	脳神経外科学講座 .....	259
	[ 付属病院脳神経外科 ] .....	259
	[ 第二病院脳神経外科 ] .....	279
	[ 多摩永山病院脳神経外科 ] .....	282
	[ 千葉北総病院脳神経外科 ] .....	284
12.	整形外科科学講座 .....	291
	[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ] .....	291

13.	産婦人科学講座	298
	[ 付属病院女性診療科・産科 ]	298
	[ 第二病院女性診療科・産科 ]	307
	[ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]	310
	[ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]	314
14.	耳鼻咽喉科学講座	317
	[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]	317
15.	泌尿器科学講座	329
	[ 付属病院泌尿器科 ]	329
	[ 第二病院泌尿器科 ]	332
	[ 多摩永山病院泌尿器科 ]	333
	[ 千葉北総病院泌尿器科 ]	334
16.	眼科学講座	337
	[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]	337
17.	麻酔科学講座	342
	[ 付属病院麻酔科 ]	342
	[ 第二病院麻酔科 ]	348
	[ 多摩永山病院麻酔科 ]	350
	[ 千葉北総病院麻酔科 ]	351
18.	救急医学講座	356
	[ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・ 多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック ]	356
	[ 第二病院救命救急部 ]	367
	[ 多摩永山病院救命救急センター ]	369
	[ 千葉北総病院救命救急センター ]	370
	[ 成田国際空港クリニック ]	378
19.	形成外科学講座	379
	[ 付属病院形成外科・美容外科 ]	379
	[ 第二病院形成外科 ]	391
	[ 千葉北総病院形成外科 ]	395
20.	付属病院付置施設等	397
	[ 付属病院遺伝診療科 ]	397
	[ 付属病院集中治療室 ]	398
	[ 付属病院病理部 ]	404
	[ 付属病院中央検査部 ]	408
	[ 付属病院薬剤部 ]	410
	[ 付属病院生理機能センター ]	413
	[ 付属病院看護部 ]	416
	[ 付属病院放射線科技師室 ]	418

	[ 付属病院ME部 ].....	420
	[ ワクチン療法研究施設 ] .....	421
21.	第二病院付置施設等 .....	422
	[ 第二病院消化器病センター ] .....	422
	[ 第二病院病理部 ] .....	431
	[ 第二病院中央検査室 ] .....	435
	[ 第二病院薬剤科 ] .....	436
	[ 第二病院看護部 ] .....	437
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	439
	[ 多摩永山病院消化器科 ] .....	439
	[ 多摩永山病院病理部 ] .....	446
	[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	450
	[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	451
	[ 多摩永山病院看護部 ] .....	452
	[ 多摩永山病院放射線科技師室 ] .....	453
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	454
	[ 千葉北総病院内科 ] .....	454
	[ 千葉北総病院集中治療室 ] .....	461
	[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	464
	[ 千葉北総病院病理部 ] .....	465
	[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	469
	[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	470
	[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	473
	[ 千葉北総病院歯科 ] .....	474
	[ 千葉北総病院看護部 ] .....	475
〔4〕付置研究施設		
1.	老人病研究所 .....	479
	[ 病理学部門 ] .....	479
	[ 生化学部門 ] .....	482
	[ 免疫部門 ] .....	486
	[ 疫学部門 ] .....	488
	[ 分子生物学部門 ] .....	490
	[ 生体応答学部門 ] .....	492
〔5〕その他		
1.	教育推進室 .....	495
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....		
1.	平成17年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	499
2.	平成17年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況 .....	505
3.	平成17年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕.....	506
4.	平成17年度補助・委託一覧 .....	507
5.	平成17年度学術賞受賞一覧 .....	520
6.	平成17年度知的財産一覧（特許権）.....	525

# 〔 1 〕 基 礎 科 学



# 1. 人文科学・社会科学

## [ 心理学 ]

### 研究概要

本年度はコラージュ療法と投映描画法テストバッテリーの基礎的研究と臨床的研究、啓蒙活動に加え、医療管理学教室高柳和江助教授、アーツセラピー研究所の近藤育代、平田まり子らと「知的好奇心の惹起による高齢者の心理的变化」の共同研究を行った。この研究の結果は原著論文として2006年度の基礎科学紀要に投稿する予定である。

1. 「投映描画法テストガイドブック」を共著で山王出版から出版した。
2. 日本医科大学基礎科学紀要に原著論文「投映描画法テストバッテリーにおける中学生・高校生の特徴について第1報」を共著で発表した。
3. 日本心理臨床学会において「投映描法テストの読み方 - ワルテッグ描画テストを中心として - 」を鈴木康明氏と金丸隆太氏と共同で発表した。
4. 東京コラージュ療法研究会を5回行った。担当者は 藤掛 明（聖学院大学総合研究所）、杉浦京子（日本医科大学）、下山寿子（高崎商科大学）、佐藤仁美（放送大学）、金丸隆太（茨城大学大学院）であった。

その他、青森県・長野県教育センター、相模原青少年センター、神奈川県保健協会、法務省中野研修所、東京都・宇都宮家庭裁判所、海上自衛隊幹部学校、京都府看護協会、法務総合研究所などで研修の講師を務めた。また、9月にスイスよりブルーノ・リーネル氏を迎え「投映法テストバッテリーへの招待」を開催した。

5. 学生相談室が開室以来11年目となった。新入生全員に相談室長、専任カウンセラー、非常勤カウンセラーおよび精神科医2名の協力でUPI（学生健康調査）検査とFFIテスト（5因子性格検査）を実施し1分面接を行った。2004年度の学生相談室報告書第10号を発行した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 杉浦京子，原信一郎<sup>1)</sup>，鈴木康明<sup>2)</sup>，武内愛美，角館奈緒子（<sup>1)</sup>国立精神神経センター国府台病院心療内科，<sup>2)</sup>国士舘大学文学部）：投映描画法テストバッテリーにおける中学生・高校生の特徴について 第1報。日本医科大学基礎科学紀要 2005；（35）：37-61。

#### 著書

- 1) 杉浦京子，香月菜々子<sup>1)</sup>，鋤柄のぞみ<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>上智大学総合人間学部心理学科非常勤助手，<sup>2)</sup>NPOフトゥーロ十日市場心理相談室）：〔共著〕投映描画法ガイドブック，2005；山王出版。

#### 学会発表

##### (1) セミナー：

- 1) 杉浦京子：産業カウンセリングへの心理テストの活用：ワルテッグ描画テスト。日本産業カウンセリング学会，2005.9。

##### (2) 座長：

- 1) 杉浦京子：コラージュ療法による言語を介さない面接過程。日本学生相談学会第23回，2005.5。

##### (3) ポスターセッション：

- 1) 杉浦京子，鈴木康明<sup>1)</sup>，金丸隆太<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>国士舘大学文学部，<sup>2)</sup>茨城大学大学院）：投映描画法テストバッテリー

の読み方 その2：ワルテック描画テストを中心として．日本心理臨床学会，2005．9．

## [ 文化人類学 ]

### 研究概要

文化・文明の構造と機能，人間の行動原理と文化・文明との関連性，生活の豊かさの本質，現代社会における宗教的精神性の意義，日本人の心，理想的社会像等について究明している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：日本の心を探る：魂・八百万の神々の世界とその衰退．日医大基礎科学紀要 2005；(35): 73-85．

## [ 経済学 ]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，従来の研究を継続，発展させてきた．日本経済・世界経済の現状把握のための研究では，東アジアの経済発展とりわけ中国の躍進に焦点を当て，その現状と背景について研究してきた．とくに中国の躍進の秘密を対外赤字を垂れ流しつつ肥大化を続けるアメリカ市場と，輸出のための生産拠点を求めて海外進出していった日本企業との関係の中で明らかにするよう努めた．そして巨大消費市場を擁して立ち上がった中国がこの構造をどう変えるか検討し，東アジア経済圏，共通通貨圏成立への展望，そこでの日本の役割について考えた．成果は現在とりまとめ中で，2006年度に発表予定である．

また，電子マネーに関する研究では，最近の動向とその理論的位置づけについて論じた．論文（「情報通信技術の発達と貨幣：電子決済と電子マネー」）として，入校済みであり，近日中に発行予定である．

## 2. 自然科学

### [ 数学 ]

#### 研究概要

2次元多様体上の chiral anomaly を Wilson fermion の枠組で厳密に導出した。また、高次元に一般化するために、多様体の Laplacian の格子近似を解析した。(渡辺)

hyponormal operator や class A operator についての、principal function と spectrum の関係について研究している。(儀我)

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 綜説:

- 1) 渡辺 浩: 0のある風景. 数理科学 2005 ; 509 : 5-5 .
- 2) 渡辺 浩: 偶然と確率. 数理科学 2005 ; 509 : 49-53 .

###### (2) 研究報告書:

- 1) Giga M : The equivalence among three Kantorovich type inequalities . 数理解析研究所講義録 2005 ; 1427 : pp103-113 .

###### (3) 書評:

- 1) 渡辺 浩: 書評「数」. 数理科学 2005 ; 509 : 65-65 .

##### 学会発表

###### (1) 一般講演:

- 1) 儀我真理子: Class A operator の principal function の support について . 日本数学会年会, 2006 . 3 .

### [ 物理学 ]

#### 研究概要

1) (1) 以前フロンティア分子軌道がミオシンによる ATP 加水分解の初期過程を示唆するという結果を得たが、その発展的研究を行っている。(2) 酸化チタン表面での水分子の分解機構の理論的研究を行っている。(3) リン脂質リボソームの分子軌道法による研究を行っている。[香川]

2) (1) 調和振動子近似の範囲で Line Shape Function を計算する方法をまとめ、さらに調和振動子近似を超えた計算に挑戦している。(2) 哺乳類とバクテリアにおけるキサンチン脱水素酵素の3次元立体構造は非常に似ているが、阻害剤の応答に大きな差異がある。この違いの原因を探るための研究を開始した。[菊地]

3) クォーコニウム、ポトモニウムのスペクトラムをハイブリッドなポテンシャルを使って解析し、それをチャームクォークとボトムクォークからつくられている中間子の質量分析に応用し、予言し、これを発表した。[三浦]

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Itoh C<sup>(1)</sup>, Miura K , Watanabe T<sup>(2)</sup>(<sup>(1)</sup> Meiji-Gakuin Univ. , <sup>(2)</sup> Asia Univ. ) :  $b_1, B_2$  and a Hybrid Potential .

Prog. Theor. Phys. 2005 ; 114 (2): 359-368 .

- 2) Umesaki K<sup>1)</sup>, Kikuchi H ( <sup>1)</sup> Tokai Univ. ): A line-shape function in terms of changes in both molecular structure and force constants : A Gaussian approximation . J. Chem. Phys. 2006 ; 124 (7): 074304 1-11 .
- 3) 梅崎馨章<sup>1)</sup>, 菊地浩人 ( <sup>1)</sup> 東海大学 ): スペクトル形状関数の定式化 分子の構造変化及び力定数の変化による表現 . 東海大学紀要理学部 2006 ; 41 : 83-104 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 松林雄一<sup>1)</sup>, 森 和英<sup>2,3)</sup>, 中野 隆<sup>4)</sup>, 香川 浩 ( <sup>1)</sup> 関東学院大学・情科セ, <sup>2)</sup> WCSC, <sup>3)</sup> テクモスラ, <sup>4)</sup> 東工大院・情報理工 ): 酸化チタン表面での水分子の分解機構の理論的研究 - 半経験的分子軌道法 (PM5) による - . 分子構造総合討論会, 2005 . 9 .
- 2) 中野 隆<sup>1)</sup>, 松林雄一<sup>2)</sup>, 森 和英<sup>3,4)</sup>, 香川 浩 ( <sup>1)</sup> 東工大院・情報理工, <sup>2)</sup> 関東学院大・情報セ, <sup>3)</sup> WCSC, <sup>4)</sup> テクモスラ ): 酸化チタン表面での水分子の分解機構の理論的研究II . 日本コンピュータ化学会, 2005 . 10 .
- 3) 香川 浩, 荻原利彦<sup>1)</sup>, 松林雄一<sup>2)</sup>, 森 和英<sup>3)</sup>, 大江親臣<sup>4)</sup>, 田村祐介<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻布大・獣医, <sup>2)</sup> 関東学院大・情科セ, <sup>3)</sup> WCSC, <sup>4)</sup> 早大理工・化学, <sup>5)</sup> 日本SGI ): リン脂質リボソームの分子軌道法による研究 . 日本生物物理学会, 2005 . 11 .
- 4) 中川洋子<sup>1)</sup>, 菊地浩人, 樋口智江<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 微生物学・免疫学 ): HIV 外被糖蛋白 gp160 に特異的な細胞傷害性T細胞の認識応答性に関する研究 (2) . 日本免疫学会, 2005 . 12 .

## [ 化学 ]

### 研究概要

石田 :

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), 及び他の金属の三成分分離
- (2) 塩類水溶液系および塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原 :

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中 :

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応

中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

- (1) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井 :

2, 2'-ピピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究

(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

シリカゲルTLC, CMセルロースTLC及びゼオライトTLCに関する研究

(1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動

(2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討

(3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

(1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構

(2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Harada F<sup>1)</sup>, Onozuka T<sup>1)</sup>, Tomizawa H<sup>2)</sup>, Tanaka M, Miki E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, College of Science, Rikkyo University, <sup>2)</sup> Department of Radiological Science, School of Health Science, International University of Health and Welfare ): Substituent effect of 8-quinolinolato ligands on photo-induced isomerization for linear nitrosylruthenium (II) complexes - Experimental Study . *Inorganica Chimica Acta* 2006 ; 359 (2): 665-672 .

## [ 生物学 ]

### 研究概要

今年度も、発生生物学, 微生物生理学, 植物生態学の専門分野で, 個別の研究が行われた。各研究の概要は下記の通りである。

1) 消化管の器官形成や再生のしくみを明らかにするため, アフリカツメガエルをモデル動物として研究を進めている。小腸への遺伝子導入培養系を確立し, 甲状腺ホルモンによって発現が誘導される転写因子 bZip が, 上皮の細胞増殖を促進することなどを実証した。また, トランスジェニックカエルを使った実験にも着手した (学外共同研究)。GFPカエルなどを用いて, 幹細胞の起源や, 上皮再生に及ぼす細胞間, 細胞・細胞外マトリックス間相互作用の分子機構について解析中である。(岡)

2) これまで, 棘皮動物の体腔細胞について検討してきた。ウニについては, 体腔細胞の発生学的由来を検討する上で必要不可欠と思われる受精から稚ウニまでの継続飼育を確立してきた。今年度はアカウニ, ムラサキウニについても確立したので, 退職後は安定した材料確保のもとにこれまでの研究を継続していきたい。(関)

3) カロテノイドに関して, ゲノム配列が決められたシアノバクテリアを中心に色素同定と生合成遺伝子の機能, 紅色光合成細菌の色素分析と色素の生理学的性質, などを研究している。*Anabaena*では2種類のケト化酵素を2つの代謝経路で使い分けていることを見出した。NEDOの分担者としてカロテノイドを用いた重金属検出微生物センサーの開発を始めた (学外共同研究)。カロテノイドの入門書 (編集・執筆) を出版した。生理活性脂質データベースのカロテノイド部門責任者としてデータの追加・更新をしている。他大学の大学院学生などに研究指導も行っている。(高市)

4) 変動環境への植物の適応について, 極域や高山に生育する多年生植物をモデルとして研究している。発芽特性の変異やフェノロジー (生物季節: 一年の間の成長と繁殖のスケジュール) を中心に, データの解析を行っている。また新たに, 冬緑性草本を材料として生理生態学的な研究を開始した (学外共同研究)。温度環境の厳しい冬季に光合成を行うための適応や, 葉の存在しない夏季における根の機能を明らかにしたいと考えている。(西谷)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Ikuzawa M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Yasumasu S<sup>1)</sup>, Iuchi I<sup>1)</sup>, Shi Y-B<sup>3)</sup>, Ishizuya-Oka A ( <sup>1)</sup> Sophia Univ. , <sup>2)</sup> Hiroshima Pref. Inst. , <sup>3)</sup> National Inst. Child Health and Human Develop. ): Thyroid hormone-induced expression of a bZip-containing transcription factor activates epithelial cell proliferation during *Xenopus* larval-to-adult intestinal remodeling . *Develop Genes Evol* 2005 ; 216 ( 3 ): 109-118 .
- 2) Gall A<sup>1,2)</sup>, Henry S<sup>2)</sup>, Takaichi S , Robert B<sup>2)</sup>, Cogdell Rj<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Univ. Glasgow , <sup>2)</sup> Departement de Biologie Joliot Curie/CEA and URA CNRS ): Preferential incorporation of coloured-carotenoids occurs in the LH2 complexes from non-sulphur purple bacteria under carotenoid-limiting conditions . *Photosynth Res* 2005 ; 86 ( 1-2 ): 25-35 .
- 3) Fu L<sup>1)</sup>, Ishizuya-Oka A , Buchholz DR<sup>1)</sup>, Amano T<sup>1)</sup>, Shi Y-B<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> National Inst. Child Health and Human Develop. ): A causative role of stromelysin-3 in ECM remodeling and epithelial apoptosis during intestinal metamorphosis in *Xenopus laevis* . *J Biol Chem* 2005 ; 280 ( 30 ): 27856-27865 .
- 4) Maeda I<sup>1,2)</sup>, Yamashiro H<sup>1)</sup>, Yoshioka D<sup>2)</sup>, Onodera M<sup>2)</sup>, Ueda S<sup>2)</sup>, Miyasaka H<sup>3)</sup>, Umeda F<sup>1)</sup>, Kawase M<sup>1)</sup>, Takaichi S , Yagi K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Osaka Univ. , <sup>2)</sup> Utsunomiya Univ. , <sup>3)</sup> Kansai Electric Power Co. ): Unusual accumulation of demethylspheroidene in anaerobic-phototrophic growth of *crtA*-deleted mutants of *Rhodovulum sulfidophilum* . *Current Microbiol* 2005 ; 51 ( 3 ): 193-197 .
- 5) Yoshii Y<sup>1)</sup>, Takaichi S , Maoka T<sup>2)</sup>, Suda S<sup>3)</sup>, Sekiguchi H<sup>4)</sup>, Nakayama T<sup>1)</sup>, Inouye I<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Univ. Tsukuba , <sup>2)</sup> Res. Inst. Production Development , <sup>3)</sup> Univ. Ryukyus , <sup>4)</sup> Marine Biotechnol. Inst. ): Variation of siphonaxanthin series among the genus *Nephroselmis* ( Prasinophyceae, Chlorophyta ), including a novel primary methoxy carotenoid . *J Phycol* 2005 ; 41 ( 4 ): 827-834 .
- 6) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Masukawa H<sup>2)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. , <sup>2)</sup> Kanagawa Univ. ): The cyanobacterium *Anabaena* sp. PCC 7120 has two distinct b-carotene ketolases : CrtO for echinenone and CrtW for ketomyxol synthesis . *FEBS Lett* 2005 ; 579 ( 27 ): 6111-6114 .
- 7) Tojo M<sup>1)</sup>, Nishitani S : The effects of the smut fungus *Microbotryum histortarum* on survival and growth of *Polygonum viviparum* in Svalbard, Norway . *Can J Bot* 2005 ; 83 ( 11 ): 1513-1517 .
- 8) Takaichi S , Mochimaru M<sup>1)</sup>, Maoka T<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. , <sup>2)</sup> Res. Inst. Production Development ): Presence of free myxol and 4-hydroxymyxol and absence of myxol glycosides in *Anabaena variabilis* ATCC 29413, and proposal of biosynthetic pathway of carotenoids . *Plant Cell Physiol* 2006 ; 47 ( 2 ): 211-216 .

#### (2) 綜説 :

- 1) Ishizuya-Oka A , Shi Y-B<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> National Inst. Child Health and Human Develop. ): Molecular mechanisms for thyroid hormone-induced remodeling in the amphibian digestive tract : a model for studying organ regeneration . *Develop Growth Differ* 2005 ; 47 ( 9 ): 601-607 .
- 2) 岡 敦子 : 大腸の解剖と発生 . 最新医学 別冊 ( 新しい診断と治療のABC 「大腸腺種・大腸癌」 ) 2006 ; 35 : 28-35 .

### 著書

- 1) Yoshii Y<sup>1)</sup>, Suda S<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Inouye I<sup>4)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Univ. Fukui , <sup>2)</sup> Univ. Ryukyus , <sup>3)</sup> Res. Inst. Production Development , <sup>4)</sup> Univ. Tsukuba ): [ 分担 ] Diversity of carotenoids in the Prasinophyceae, primitive members of green plants . *Photosynthesis : Fundamental Aspects to Global Perspectives* ( Ed. by Art van der Est and Doug Bruce ), 2005 ; pp869-871 , Allen Press .

- 2) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. ): [ 分担 ] Carotenoids and carotenogenesis pathway in the cyanobacteria *Anabaena* sp. PCC7120 and *Nostoc punctiforme* PCC73102 . Photosynthesis : Fundamental Aspects to Global Perspectives ( Ed. by Art van der Est and Doug Bruce ), 2005 ; pp880-882 , Allen Press .
- 3) 高市真一 : [ 分担 ] 1 . カロテノイド , 4 . 生合成経路とその遺伝子 , 5 . 分離・分析方法 , 付録 . カロテノイド : その多様性と生理活性 ( 高市真一・編集 ), 2006 ; pp1-288 , 裳華房 .

#### 学会発表

##### (1) 招待講演 :

- 1) 高市真一 : シアノバクテリア , 光合成細菌のカロテノイド生合成経路と遺伝子 . 第2回カロテノイド若手研究者の会 , 2005 . 9 .

##### (2) ワークショップ :

- 1) 岡 敦子 : 両生類の変態に伴う消化管の再構築機構 . 第38回日本発生学会大会 , 2005 . 6 .
- 2) 岡 敦子 : 小腸上皮幹細胞の制御機構 : ツメガエルを用いた遺伝子導入系の開発 . 第2回日本消化管学会総会 , 2006 . 2 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Masukawa H<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. , <sup>2)</sup> Kanagawa Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Production Development ): Proposal for the biosynthetic pathway of carotenoids in *Anabaena* sp. PCC 7120 and *Nostoc punctiforme* PCC 73102 . The 14th International Symposium on Carotenoids ( ICS05 ) ( Edinburgh ), 2005 . 7 .
- 2) Tsuchiya T<sup>1)</sup>, Takaichi S , Misawa N<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Miyashita H<sup>1)</sup>, Mimuro M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Univ. , <sup>2)</sup> Marine Biotechnol. Inst. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Production Development ): The cyanobacterium *Gloeobacter violaceus* PCC 7421 use bacterial-type phytoene desaturase, CrtI, instead of plant-type desaturases . The 14th International Symposium on Carotenoids ( ICS05 ) ( Edinburgh ), 2005 . 7 .
- 3) 高市真一 , 持丸真里<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 駒澤大・自然 ): シアノバクテリアのカロテノイド合成系の多様性 . 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー XIII , 2005 . 6 .
- 4) 土屋 徹<sup>1)</sup>, 高市真一 , 三沢典彦<sup>2)</sup>, 眞岡孝至<sup>3)</sup>, 宮下英明<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大学院・地球環境 , <sup>2)</sup> 海洋バイオテクノロジー研 , <sup>3)</sup> 生産開発研 ): *Gloeobacter violaceus* PCC 7421 のフィトエン不飽和化酵素遺伝子から見たシアノバクテリアのカロテノイド生合成系の進化について . 第12回日本光生物学協会年会 , 2005 . 8 .
- 5) 高市真一 , 持丸真里<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 駒澤大・自然 ): シアノバクテリアにおけるカロテノイド生合成経路 , 遺伝子 , 酵素の多様性 . 第19回カロテノイド研究談話会 , 2005 . 9 .
- 6) 高市真一 , 草場 信<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学院・農学生命科学 , <sup>2)</sup> 生産開発研 ): イネ葉の老化により出現したルテイン-3-アセテート . 第19回カロテノイド研究談話会 , 2005 . 9 .
- 7) 鍋田 誠<sup>1)</sup>, 原田二郎<sup>2)</sup>, 高市真一 , 三沢典彦<sup>3)</sup>, 永島賢治<sup>1,4)</sup>, 松浦克美<sup>1,4)</sup>, 嶋田敬三<sup>1,4)</sup> ( <sup>1)</sup> 都立大院・理 , <sup>2)</sup> 立命館大・理工 , <sup>3)</sup> 海洋バイオテクノロジー研 , <sup>4)</sup> 首都大・生命科学 ): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* の環状カロテノイド蓄積変異株作成 . 第19回カロテノイド研究談話会 , 2005 . 9 .
- 8) 松井久実<sup>1)</sup>, 西田利穂<sup>1)</sup>, 高市真一 ( <sup>1)</sup> 麻布大・獣医 ): イモリ色素細胞に含まれるカロテノイドと結合脂肪酸について . 第19回カロテノイド研究談話会 , 2005 . 9 .
- 9) 高市真一 , 持丸真里<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 駒澤大・自然 ): シアノバクテリアのカロテノイド合成遺伝子・酵素の多様性 . 日本植物学会第69回大会 , 2005 . 9 .
- 10) 持丸真里<sup>1)</sup>, 増川 一<sup>2)</sup>, 高市真一 ( <sup>1)</sup> 駒澤大・自然 , <sup>2)</sup> 神奈川大・理 ): *Anabaena* sp. PCC 7120 のカロテノイド合成系遺伝子破壊株の作成 . 日本植物学会第69回大会 , 2005 . 9 .
- 11) 松井久実<sup>1)</sup>, 西田利穂<sup>1)</sup>, 高市真一 ( <sup>1)</sup> 麻布大・獣医 ): イモリの Carotenoid Coloration . 日本爬虫両棲類学会

第44回大会，2005．11．

- 12) 富田美紀<sup>1)</sup>，西谷里美，佐々木明彦<sup>2)</sup>，長谷川裕彦<sup>3)</sup>，増沢武弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大・理，<sup>2)</sup>東北大・理，<sup>3)</sup>明治大・地理): 日本列島における高山植物の生理生態 V．南アルプスのカール地形におけるムカゴトラノオの分布．第28回極域生物シンポジウム，2005．12．
- 13) 高市真一，持丸真里<sup>1)</sup>，増川 一<sup>2)</sup>，近藤久益<sup>3)</sup>，池内昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>駒澤大・自然，<sup>2)</sup>神奈川大・理，<sup>3)</sup>東京大学院・総合): シアノバクテリアのリコペン・シクラーゼ：未知の4番目のタイプが存在するか？．第47回日本植物生理学会年会，2006．3．
- 14) 持丸真里<sup>1)</sup>，増川 一<sup>2)</sup>，高市真一(<sup>1)</sup>駒澤大・自然，<sup>2)</sup>神奈川大・理): *Anabaena* sp. PCC 7120の遺伝子破壊株作成によるカロテノイド生合成酵素の機能解析．第47回日本植物生理学会年会，2006．3．
- 15) 鍋田 誠<sup>1)</sup>，原田二郎<sup>2)</sup>，高市真一，三沢典彦<sup>3)</sup>，永島賢治<sup>1,4)</sup>，松浦克美<sup>1,4)</sup>，嶋田敬三<sup>1,4)</sup>(<sup>1)</sup>都立大院・理，<sup>2)</sup>立命館大・理工，<sup>3)</sup>海洋バイオテクノロジー研，<sup>4)</sup>首都大・生命科学): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus*の環状カロテノイド蓄積変異株作成とその酸化障害耐性評価．第47回日本植物生理学会年会，2006．3．
- 16) 岡田まり<sup>1)</sup>，谷内由貴子<sup>1)</sup>，村上明男<sup>2)</sup>，高市真一，大竹臣哉<sup>1)</sup>，大城 香<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>福井県立大・海洋生物資源，<sup>2)</sup>神戸大・内海域センター): 不完全循環湖水月湖の酸化還元境界層付近に多数局在する微小 (<3 mm) 植物プランクトン．日本藻類学会第30回大会，2006．3．
- 17) 西谷里美，中村敏枝<sup>1)</sup>，可知直毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>首都大・生命科学): 冬緑性草本ヒガンバナにおける，呼吸速度の季節変化．第53回日本生態学会，2006．3．
- 18) 富田美紀<sup>1)</sup>，西谷里美，佐々木明彦<sup>2)</sup>，長谷川裕彦<sup>3)</sup>，増沢武弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大・理，<sup>2)</sup>東北大・理，<sup>3)</sup>明治大・地理): 南アルプスにおけるムカゴトラノオの成育特性．第53回日本生態学会，2006．3．



## 3 . 外国語

### [ 英語 ]

#### 研究概要

The English Department continued to provide, within the confines of the space allotted to it in the curriculum, training in the four major language skill areas. The first-year students were introduced to academic writing through the use of a newly published university textbook, and published textbooks were also used for the listening and speaking components of the first-year program. Training in academic writing continued into the first term of the second year, and this was supplemented with an introductory course on medical English. In addition, the first-year students were offered a seminar course on media English, and the second-year students a series of lectures on “ Women Writers in 19th- and 20th-century Britain and America ” and “ William Shakespeare's Romeo and Juliet ” . Two optional conversation classes were given at Shin Maruko on Wednesdays.

Linguistic research continued into the identification and classification of the grammatical and lexical misconceptions that commonly occur in Japanese students' English writing. The Department was, and still is, involved in the production of a writing textbook for senior high school students scheduled for publication early next year, as well as the revision of a previously published oral communication textbook. We also assisted in the compiling and editing of materials from the American Heart Association's annual conference in Dallas, Texas in November, 2005 for the benefit of Japanese researchers unable to attend the conference.

Literary research continued on the theme of “ Body, Medicine and Culture ” . Part of the research on the depiction of violated bodies in tragic Tudor Interludes was published as an article, and further research in the area will appear in book form in the future. Literary studies on Maria Edgeworth's Irish fiction and the genre of the Big House Novel were carried out, as was a study of the pedagogical use of literary texts in university English classes.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 中村 哲子 : 蹂躪される身体のメッセージ : 英国 1560 年代の復讐のインターロード 3 作品 . 日本医科大学基礎科学紀要 2005 ; 35 : 23-35 .

##### (2) 雑誌記事 :

- 1) ミントン TD : Learning, Improving, 日本人の間違いだらけの英文法完全治療クリニック . イングリッシュ・ジャーナル 2005 ; 毎月 1 ページ .

##### 著書

- 1) Fellows J<sup>1)</sup>, Sajdak BT<sup>2)</sup>, Kelly JR<sup>3)</sup>, Nakamura T , Takahashi I<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Cambridge University , <sup>2)</sup> Smith College , <sup>3)</sup> University of Massachusetts at Amherst , <sup>4)</sup> Keio University ): [ 分担編集 ] Annual Bibliography of English Language and Literature, Vol. 79 , 2005 ; Maney Publishing for the Modern Humanities Research Association .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習得しやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く"Kommunikativer Sprachunterricht"が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめ、「外国語」、敷衍すれば「ことばに対するセンスを養うことに重点を置いている。

なお、教室員の個別的活動についていえば、安藤は日独文化交流史研究を主眼として、とくに幕末・明治における来日外国人の事歴とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳をおこなっている。横内は初級ドイツ語教育および日独交流史における諸問題について調べている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 安藤 勉：明治末、慰藉の日本山岳と民俗：W. シュタイニツァーの場合。日独文化交流史研究 2005；(2005年号)。
- 2) 横内一実：旧ケルン東洋美術館を通して見る日独文化交流。日独文化交流史研究 2005；(2005年号)。

#### 著書

- 1) 安藤 勉：〔翻訳・解題〕オーストリア皇太子の日本日記：明治二十六年夏の記録，2005；講談社学術文庫。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 安藤 勉：オーストリア大公F. フェルディナントの日本観：サラエボ事件の21年前。日本独学史学会，2005。12。

## 4. スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。メロンより注出した Superoxide dismutase を大量に含むオキシカインの投与が、ギブス固定による骨格筋萎縮を抑制することを明らかにし、このオキシカインの作用について日本フリーラジカル学会に発表した（コンビ株式会社との共同研究）。運動時の肝臓でのアデニンヌクレオシドの分解と合成について研究し、これを Eur J Appl Physiol に発表した（東京工業大学との共同研究）。スペイン、マドリードの Cajal Institute, Laboratory of Neuroendocrinology の Ignacio Torres-Aleman 教授の研究室に約6ヶ月間留学して、継続的な精神的ストレス時に生ずる記憶力の低下に対して、継続的な身体運動が抑制効果を持つかことを明らかにした。

武藤：以下の項目について研究を行った。昨年に引き続き、マルチメジャー（特許申請）を使用しての高齢者生活活動力バッテリーテストを開発し測定値の標準化を進め、バッテリーテストの一般化を推進した。開発した生活活動力バッテリーテストの中で、特に自立生活で重要と考えられる歩行能力を測定した10m往復ジグザグ歩行に、年齢間や自立生活者群と介護保険被保険者群との間に顕著な差がみられ、高齢者が自立した生活を維持するためには歩行運動を中心とした補強運動を実施し、脚筋力の低下を防止する必要があると示唆された。発展途上の国にこそ次世代を担う青少年に対する健全なる体育・健康教育が必要と考え、カンボディア・シムリアップにおいて青少年の体格および体力、生活習慣等の調査研究を継続的に行っている。今年度は首都であり都市であるプノンペンにおいても調査を行い比較した結果、都市部に比較し体格に劣り、体力では筋力や瞬発力に劣ることが明らかになった。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mikami T, Kitagawa J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Human System Science, Tokyo Institute of Technology ): Intense exercise induces the degradation of adenine nucleotide and purine nucleotide synthesis via de novo pathway in the rat liver. Eur J Appl Physiol 2006 ; ( 96 ): 543-550 .

##### (2) 研究報告書：

- 1) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 青山敏彦<sup>2)</sup>, 長野信一<sup>3)</sup>, 武藤三千代, 真木 舞<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 元NHKテレビ・ラジオ体操指導者, <sup>3)</sup> NHKテレビ・ラジオ体操指導者 ): ラジオ体操と生活習慣・生活活動力・ラジオ体操と生活習慣・生活活動力の調査研究報告書 2006 .

##### (3) 研究報告：

- 1) 川守田千秋<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 増田敬子<sup>1)</sup>, 武藤三千代 ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 ): 中高年者の生活活動に対する欲求とその充足に関する研究．運動とスポーツの科学 2005 ; 11 ( 1 ): 23-33 .

##### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Mikami T, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ): Heat stress suppresses skeletal muscle damage after downhill running . 10th Annual Congress European College of Sport Science ( Belgrade ), 2005 . 7 .
- 2) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 ): カンボジアにおける青少年の体格と体力について．第

- 11 回目・韓健康教育シンポジウム (韓国春川市), 2005 . 8 .
- 3) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代 ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学 ): エルサルバドル国青少年の内戦前後の形態と体力について . 第11 回目・韓健康教育シンポジウム (韓国春川市), 2005 . 8 .
- 4) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 増田敬子<sup>1)</sup>, 衣笠竜太<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>武蔵野大学 ): 自立生活者と介護保険被保険者の生活活動力の比較 . 日本運動・スポーツ科学学会第12 回大会, 2005 . 6 .
- 5) 三上俊夫, 伊地知哲生<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>コンピ株式会社ファンクショナルフーズ事業部 ): SOD 活性誘導食品 ( オキシカイン ) の経口投与によりもたらされる廃用性筋萎縮の抑制効果 . 第27 回日本フリーラジカル学会学術集会, 2005 . 6 .
- 6) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本医科大学衛生学・公衆衛生学 ): 高齢者における歩行能力測定について . 第64 回日本公衆衛生学会総会, 2005 . 9 .
- 7) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 若山葉子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>日本医科大学衛生学・公衆衛生学 ): 高齢者の自立生活と生活活動力テスト . 第64 回日本公衆衛生学会総会, 2005 . 9 .
- 8) 若山葉子<sup>1)</sup>, 伊藤博子<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部隼二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学 ): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績 . 第64 回日本公衆衛生学会総会, 2005 . 9 .
- 9) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 平田大輔<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup>国立スポーツ科学センター ): カンボジアにおける青少年の体格・体力および生活習慣について . 日本体育学会第56 回大会, 2005 . 11 .

## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

今年度の解剖学第一講座は、下記分子解剖学的研究を進めた。

- (1) 胎盤の分子解剖学：a) 新規のIgG輸送体と考えられる、ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のIIb型Fc受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析を進めた。形態学的解析（森助手，研究生・倉澤）と共に，細胞の単離培養（石川朋子助手，羅助手，後藤助教授），PCR（羅助手，ポスドクター・三嶋），プロテオミクス解析（石川<sub>朋</sub>）を行った（産婦人科学講座・竹下俊行教授，石川源助手，生化学第一講座・西野武士教授，片山映助手，米国オハイオ州立大学医学部生理細胞生物学講座・John M. Robinson教授，自治医科大学産婦人科学講座・松原茂樹教授，鈴木光明教授，解剖学講座・屋代隆教授，宮崎大学医学部病理学第二講座・片岡寛章教授との共同研究）。
  - (2) パイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：生きた細胞でのFc受容体-小胞やカベオラの可視化および解析を行うために，三嶋，大学院生・川東，大学院生・神田が中心となり，GFP融合分子発現ベクター作製，トランスフェクション，細胞培養を行った。
  - (3) microRNAの分子解剖学的研究：三嶋とポスドクター・水口が中心となり，microRNAの大量クローニング&シーケンス解析技術の修得および開発を行った（外科学第一講座・田尻孝教授との共同研究）。
  - (4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：森，瀧澤<sub>孝</sub>助手が中心となり，新規分子TEX101に関して精巣後の精子成熟過程における発現解析を行った（順天堂大学大学院環境医学研究所・荒木慶彦助教授との共同研究）。
- 平成17年4月より神田知洋（平成12年日本医科大学卒）が大学院生として加わった。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Takayama T<sup>1)</sup>, Mishima T, Mori M, Jin H<sup>2,4)</sup>, Tsukamoto H<sup>2)</sup>, Takahashi K<sup>3)</sup>, Takizawa T, Kinoshita K<sup>4)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Sato I<sup>1)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Araki Y<sup>2)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498, <sup>2)</sup>Institute for Environmental and Gender-Specific Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Chiba 279-0021, <sup>3)</sup>Dept. Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Gunma University Graduate School of Medicine, Gunma 371-8511, <sup>4)</sup>Dept. Obstetrics and Gynecology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo 113-8421 ): Sexually dimorphic expression of the novel germ cell antigen TEX101 during mouse gonad development . Biol Reprod 2005 ; 72 ( 6 ): 1315-1323 .
- 2) Takizawa T, Anderson CL<sup>1)</sup>, Robinson JM<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Internal Medicine, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA, <sup>2)</sup>Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA ): A novel Fc gamma R-defined, IgG-containing organelle in placental endothelium . J Immunol 2005 ; 175 ( 4 ): 2331-2339 .
- 3) Mizuguchi Y, Yokomuro S<sup>1)</sup>, Mishima T, Arima Y<sup>1)</sup>, Kawahigashi Y, Kanda T, Yoshida H<sup>1)</sup>, Takizawa T, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Short hairpin RNA modulates transforming growth factor beta signaling in life-threatening liver failure in mice . Gastroenterology 2005 ; 129 ( 5 ): 1654-1662 .
- 4) Takayama T<sup>1)</sup>, Mishima T, Mori M, Ishikawa T, Takizawa T, Goto T, Suzuki M<sup>1)</sup>, Araki Y<sup>2)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498, <sup>2)</sup>Institute for Environmental and Gender-Specific Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine,

Chiba 279-0021 ): TEX101 is shed from the surface of sperm located in the caput epididymidis of the mouse .  
Zygote 2005 ; 13 ( 4 ): 325-333 .

- 5) Matsubara S<sup>1)</sup>, Takayama T<sup>1)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498 ): Leukocyte migration through the basement membrane : ultrastructural-cytochemical observation of the human fetal membrane in women with chorioamnionitis-related preterm delivery . Acta Histochem Cytochem 2005 ; 38 ( 5 ): 338-341 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 一般講演 :

- 1) Ishikawa G<sup>1)</sup>, Mori M , Isozaki T<sup>1)</sup>, Kataoka H<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup>Dept. Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Second Dept. Pathology, Faculty of Medicine, University of Miyazaki, Miyazaki 889-1692 ): In vivo expression of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 ( HAI-1) in preeclamptic term human placenta . The 11th International Federation of Placenta Associations Meeting ( Glasgow, UK ), 2005 . 9 .
- 2) 瀧澤俊広, 倉澤剛太郎, 石川 源<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学, <sup>2)</sup>自治医科大学産婦人科学 ): 経胎盤免疫グロブリン輸送機構の解明 : 胎盤血管系に発現している IIb 型 Fc 受容体は IIb2 型アイソフォームである . 第 57 回日本産婦人科学会総会, 2005 . 4 .
- 3) 後藤 忠, 石川朋子, 羅 善順, 森 美貴, 瀧澤敬美, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup>教育推進室 ): 日本医科大学における分子解剖学の授業評価 . 第 37 回医学教育学会総会, 2005 . 7 .
- 4) 後藤 忠, 石川朋子, 羅 善順, 森 美貴, 瀧澤敬美, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup>教育推進室 ): 分子解剖学教育に於ける SGL 方式導入に対するアンケート調査 . 第 73 回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 5) 石川 源<sup>1)</sup>, 磯崎太一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, Robinson JM<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学, <sup>2)</sup>Dept. Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus, OH 43210, USA ): ヒト初期胎盤におけるアルブミンの局在 : 免疫組織化学的解析 . 第 13 回日本胎盤学会学術集会, 2005 . 10 .
- 6) 後藤 忠, 石川朋子, 羅 善順, 森 美貴, 瀧澤敬美, 瀧澤俊広 : 上下肢の連続横断標本を用いた肉眼解剖学実習 . 第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006 . 3 .
- 7) 瀧澤俊広, 森 美貴, 石川朋子, 瀧澤敬美, 三嶋拓也, 羅 善順, 後藤 忠 : 生殖細胞に特異的な膜蛋白分子 TEX101 の精子成熟過程における修飾に関する解析 . 第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006 . 3 .
- 8) 竹村雅代, 石井佳奈, 後藤 忠, 瀧澤俊広 : ELF97 を用いたヒト好中球 phosphatases の組織化学的検出 . 第 111 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006 . 3 .

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座はこれまで、系統発生と進化を土台とした比較神経学研究として、主に魚類の神経回路の解明と脊椎動物との比較をおこなってきた。また、肉眼解剖学的研究として、解剖実習ご遺体に観察される成人の異常構造 (variation) の考察、発生機序等について検索をおこなってきた。平成17年4月に講座主任として小澤一史が着任し、教室の主たる研究テーマを「脳とホルモン、特に神経内分泌系における機能形態解析」に転換し、以下の具体的研究課題の解明を始めている。

- 1) 摂食制御神経ネットワークの構築とステロイドホルモンの影響：視床下部領域には摂食制御に関わる多数の神経細胞が存在するが、これらの神経細胞間のネットワークを三次元的に解析し、これらの神経細胞の形態変化、機能発現について、ステロイドホルモンの関与の観点から解析している。
- 2) 摂食制御神経ネットワークとストレス応答系とのクロストーク：摂食調節がストレス誘導あるいはストレス緩和にどのような機序で関わるかについて、神経形態学的アプローチによって解明を行っている。さらにこの複雑なクロストークが視床下部にフィードバックされ、神経内分泌学的調節機構に反映して、ホルモンバランス調節の上でどのような影響を及ぼすかについて研究展開する。
- 3) 思春期発現とエネルギー代謝調節の連動に関する神経学的、神経内分泌学的解析：思春期発現には視床下部領域のGnRH (gonadotropin-releasing hormone; 性腺刺激ホルモン放出ホルモン) ニューロンの機能発現が重要な因子となるが、GnRHニューロンの機能発現には様々な因子が関わることが報告されており、特に近年、エネルギー代謝調節機構との関連が目ざされている。そこで、摂食制御やエネルギー代謝調節に関わる神経機構とGnRHの機能発現の相関関係について形態科学的に解析を進めている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Tanaka M<sup>1)</sup>, Iijima N<sup>1)</sup>, Miyamoto Y<sup>1)</sup>, Fukusumi S<sup>2)</sup>, Itoh Y<sup>2)</sup>, Ozawa H, Iбата Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anatomy, Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2)</sup>Frontier Research Laboratories, Pharmaceutical Research Division, Takeda Pharmaceutical Company Ltd. ): Neurons expressing relaxin 3/INSL7 in the nucleus incertus respond to stress. *European Journal of Neuroscience* 2005; 21 (6): 1659-1670.
- 2) Han F<sup>1)</sup>, Ozawa H, Matsuda K<sup>1)</sup>, Nishi M<sup>1)</sup>, Kawata M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anatomy and Neurobiology, Kyoto Prefectural University of Medicine ): Colocalization of mineralocorticoid receptor and glucocorticoid receptor in the hippocampus and hypothalamus. *Neuroscience Research* 2005; 51 (4): 371-381.
- 3) Xue H-G, Yang C-Y, Ishida S, Ishizaka K, Ishihara A, Ishida A, Tanuma K : Duplicate testicular veins accompanied by anomalies of the testicular arteries. *Annals of Anatomy* 2005; 187 (4): 393-398.
- 4) Yamamoto N, Ito H : Fiber connections of the central nucleus of semicircular torus in cyprinids. *The Journal of Comparative Neurology* 2005; 491 (3): 186-211.
- 5) Yamamoto N, Ito H : Fiber connections of the anterior preglomerular nucleus in cyprinids with notes on telencephalic connections of the preglomerular complex. *The Journal of Comparative Neurology* 2005; 491 (3): 212-233.
- 6) Kawate T<sup>1)</sup>, Sakamoto H<sup>2)</sup>, Yang C-Y, Li Y<sup>1)</sup>, Shimada O<sup>1)</sup>, Astumi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anatomy, Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi, <sup>2)</sup>Department of



Physical Therapy, Health Science University): Immunohistochemical study of delta and mu opioid receptors on synaptic glomeruli with substance P-positive central terminals in chicken dorsal horn. *Neuroscience Research* 2005; 53 (3): 279-287.

- 7) Sano K, Hyakusoku H, Tanuma K (<sup>1</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery): Clinical reappraisal of the segmental pectoralis major turn-over flap for coverage of the local mediastinal wound. *Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery* 2005; 39 (5): 290-294.
- 8) Xue H-G, Yang C-Y, Yamamoto N, Ito H, Ozawa H: An indirect trigeminocerebellar pathway through the nucleus lateralis valvulae in a perciform teleost, *Oreochromis niloticus*. *Neuroscience Letters* 2005; 390 (2): 104-108.
- 9) Saito T, Tamatsukuri Y<sup>1)</sup>, Hitosugi T<sup>2)</sup>, Miyakawa K<sup>3)</sup>, Shimizu T<sup>2)</sup>, Oi Y<sup>2)</sup>, Yoshimoto M, Yamamoto Y, Spänel-Browski Katherina<sup>4)</sup>, Hanno Steike Dipl-Ing<sup>4)</sup> (<sup>1</sup> Student, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Faculty of Anesthesia, Department of Dentistry, Nihon University, <sup>3</sup> Department of Radiology, the National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup> Institute of Anatomy, Leipzig University): Three cases of retroesophageal right subclavian artery. *J Nippon Med Sch* 2005; 72 (6): 375-382.
- 10) Saigusa H<sup>1)</sup>, Tanuma K, Yamasita K, Saigusa M<sup>2)</sup>, Niiimi S<sup>3)</sup> (<sup>1</sup> Department of Otolaryngology, <sup>2</sup> Private Practice, Oral and Maxillofacial Surgery, <sup>3</sup> Department of Speech / Language Pathology and Audiology, International University of Welfare and Health): Nerve fiber analysis for the lingual nerve of the human adult subjects. *Surgical and Radiologic Anatomy* 2006; 28 (1): 59-65.
- 11) Xue H-G, Yamamoto N, Yang C-Y, Kerem G<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Sawai N, Ito H, Ozawa H (<sup>1</sup> Department of Anatomy, Xinjiang Medical University, Wulumuqi): Projections of the sensory trigeminal nucleus in a perciform teleost, *Tilapia (Oreochromis niloticus)*. *The Journal of Comparative Neurology* 2006; 495 (3): 279-298.

(2) 総説:

- 1) Ozawa H: Steroid hormones, their receptors and neuroendocrine system. *J Nippon Med Sch* 2005; 72 (6): 316-325.
- 2) 小澤一史, 河田光博<sup>1)</sup> (<sup>1</sup> 京都府立医科大学・解剖学生体構造科学部門): 視床下部領域における摂食制御神経系ネットワーク. *京都府立医科大学雑誌* 2005; 114 (6): 337-346.
- 3) 山本直之: 大脳 "新" 皮質は新しいのか?. *日本比較内分泌学会ニュース* 2006; 120: 13-17.
- 4) 山本直之, 小澤一史: GnRH (gonadotropin-releasing hormone) の体内分布. *日本臨床* 2006; 64: 13-17.

(3) インターネット掲載:

- 1) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Ito H (<sup>1</sup> National Institute of Radiological Sciences Chiba 263-8555): *Medaka Atlas: Brain*. National BioResource Project Medaka 2005.

著書

- 1) 山本直之: [分担] 神経系. *魚の科学事典* (谷内 透, 中坊徹次, 宗宮弘明他, 編集), 2005; pp132-147, 朝倉書店.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 小澤一史: 視床下部領域を中心とした新しい神経内分泌形態科学の展開. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.

(2) 招待講演:

- 1) 山本直之: 感覚上行路の進化: 大脳新皮質は新しいのか?. 第121回つくばブレインサイエンスセミナー, 2005. 7.

- 2) 山本直之：脳の進化：大脳”新”皮質は新しいのか？．第93回もりおか生物科学の集い，2006．3．
- (3) 教育講演：
- 1) Masuda R<sup>1)</sup>, Tanuma K ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Chiba-Hokusoh Hospital ): Current aspects of neuraxial anatomy : Epidural and subarachnoid spaces . 8th Biennial Congress Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine ( Chiba ( Makuhari ) ), 2005 . 12 .
- (4) シンポジウム：
- 1) Ozawa H : Sexual difference in the orexin neurons in rat brain . Joint meeting of British Society for Neuroendocrinology and Societe de Neuroendocrinologie en France ( Oxford, UK ), 2005 . 9 .
- 2) Ozawa H : A study on the ultrastructure of neurons of the rat brain under different corticosteroid conditions including aging revealed by high voltage electron microscopy . 4th World Congress of Cellular and Molecular Biology ( Poitiers, France ), 2005 . 10 .
- 3) 小澤一史, 松田賢一<sup>1)</sup>, 上田陽一<sup>2)</sup>, 中里雅光<sup>3)</sup>, 河田光博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>京都府立医科大学解剖学生体構造科学, <sup>2)</sup>産業医科大学生理学, <sup>3)</sup>宮崎大学医学部内科学 ): Orexinニューロンにおける性差発現とエストロゲンの関連性 ( 視床下部研究の新しい展開 ). 第32回日本神経内分泌学会 / 第20回日本下垂体研究会合同大会, 2005 . 7 .
- 4) 吉本正美, 克力木 古麗尼沙, 山本直之, 小澤一史, 伊藤博信：スズキ型魚類テラピアと哺乳類の三叉神経節における神経節細胞の体部位局在性分布に見られる共通性．第7回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2005 . 8 .
- 5) 山本直之, 石川裕二<sup>1)</sup>, 吉本正美, 薛 昊罡, 澤井信彦, 楊 春英, 伊藤博信, 小澤一史 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 硬骨魚類終脳の構築の再検討．第7回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2005 . 8 .
- 6) 石川裕二<sup>1)</sup>, 山本直之, 吉本正美, 保田隆子<sup>1)</sup>, 丸山耕一<sup>1)</sup>, 景 崇洋<sup>1)</sup>, 伊藤博信 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 硬骨魚メダカの間脳の発生．第7回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2005 . 8 .
- 7) 薛 昊罡, 楊 春英, 山本直之, 吉本正美, 澤井信彦, 伊藤博信, 小澤一史：硬骨魚類テラピアの三叉神経感覚核の線維連絡．第7回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2005 . 8 .
- 8) 山本直之, 可児美夏<sup>1)</sup>, 岡 良隆<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京大学・理学系研究科 ): 終神経のGnRH細胞群による行動の修飾：雄グーラミーの巣作り行動．シンポジウム「生命の基本を司る本能的脳機構」, 2006 . 1 .
- 9) 小澤一史：オレキシン神経系と性ステロイドホルモン．第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006 . 3 .
- 10) 田中雅樹<sup>1)</sup>, 飯島典生<sup>1)</sup>, 小澤一史 ( <sup>1)</sup>京都府立医科大学解剖学 ): 新規脳ペプチド relaxin3/INSL7の分布と機能検索．第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006 . 3 .
- (5) 一般講演：
- 1) Yamamoto N, Bahaxar N, Xue H-G, Ito H, Ozawa H : Connections of the olfactory bulb in cyprinids . Society for Neuroscience ( Washington DC, USA ), 2005 . 11 .
- 2) 小澤一史：副腎皮質ステロイドホルモンの変化に伴う神経細胞構造の変化，特に超高压電子顕微鏡の観察について．第61回日本顕微鏡学会学術講演会, 2005 . 6 .
- 3) 吉井崇喜<sup>1)</sup>, 坂本浩隆<sup>2)</sup>, 小澤一史, 上田陽一<sup>3)</sup>, 福居顕二<sup>2)</sup>, 河田光博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>京都府立医科大学精神医学, <sup>2)</sup>京都府立医科大学解剖学生体構造科学, <sup>3)</sup>産業医科大学生理学 ): PTSDモデルラットにおける視床下部バゾプレッシン発現の変化．第28回日本神経科学大会, 2005 . 7 .
- 4) 山本直之, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 伊藤博信 ( <sup>1)</sup>解剖学第一 ): コイ科魚類における終脳から菱脳の聴覚中枢への下行路．第28回日本神経科学大会, 2005 . 7 .
- 5) 木下雅恵<sup>1)</sup>, 小林 卓<sup>1)</sup>, 山本直之, 伊藤博信, 浦野明央<sup>1)</sup>, 伊藤悦朗<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>北海道大学・理学系研究科 ): ニジマス視蓋脳室周囲層ニューロンの電気生理学的・形態学的特徴．第28回日本神経科学大会, 2005 . 7 .
- 6) 楊 春英, Xue H-G, 山本直之：硬骨魚類テラピアにおける下葉散在核の線維連絡．第28回日本神経科学大会, 2005 . 7 .
- 7) 澤井信彦, 伊藤博信：真骨魚類テラピアの終脳背側野外側部から中心部への局所対応性投射．第28回日本神経科学大会, 2005 . 7 .

- 8) Xue H-G, 楊 春英, 山本直之: 硬骨魚類コイの浅視蓋前域核大細胞部の線維連絡. 第28回日本神経科学大会, 2005. 7.
- 9) 山本直之, パハシャル ヌルママット, 薛 昊罡, 吉本正美, 伊藤博信, 小澤一史: 硬骨魚類の終神経のGnRH細胞への入力神経路. 第32回日本神経内分泌学会 / 第20回日本下垂体研究会合同大会, 2005. 7.
- 10) 吉野綾穂<sup>1)</sup>, 横澤裕美<sup>1)</sup>, 浅川光夫, 田沼久美子, 小澤一史<sup>(<sup>1)</sup> 医学部第3学年)</sup>: 解剖実習で遭遇した馬蹄人の2例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 11) 東園和哉<sup>1)</sup>, 浅川光夫, 小澤一史<sup>(<sup>1)</sup> 医学部第3学年)</sup>: 大動脈弓より直接分岐する左椎骨動脈の1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 12) 葉山惟信<sup>1)</sup>, 浅川光夫, 小澤一史<sup>(<sup>1)</sup> 医学部第3学年)</sup>: 本邦成人における腎血管の異常例4例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 13) 小澤一史, 克力木 古麗尼沙, 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類と哺乳類の三叉神経節細胞の体部位局在性分布の共通性. 第46回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 2005. 10.
- 14) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 新見成二<sup>3)</sup><sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部解剖学, <sup>3)</sup> 医療福祉大学言語聴覚学科)</sup>: 舌下神経と迷走神経の吻合についての神経線維解析的研究. 第50回日本音声言語医学会総会, 2005. 10.
- 15) 木下雅恵<sup>1)</sup>, 伊藤悦朗<sup>1)</sup>, 浦野明央<sup>1)</sup>, 伊藤博信, 山本直之<sup>(<sup>1)</sup> 北海道大学理学系研究科)</sup>: ニジマス視蓋脳室周囲層ニューロンの分類. 第76回日本動物学会, 2005. 10.
- 16) 横澤裕美<sup>1)</sup>, 吉野綾穂<sup>1)</sup>, 浅川光夫, 田沼久美子, 三枝英人<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>(<sup>1)</sup> 医学部第3学年, <sup>2)</sup> 耳鼻咽喉科学)</sup>: 馬蹄腎形成に関する肉眼解剖的考察. 日本解剖学会関東支部第93回学術集会, 2005. 11.
- 17) 吉本正美, 克力木 古麗尼沙, 山本直之, 伊藤博信, 小澤一史: マウス三叉神経節の形態と体部位局在性に関する三次元的観察: スズキ型魚類ティラピアとの比較解剖. 日本解剖学会関東支部第93回学術集会, 2005. 11.
- 18) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部解剖学)</sup>: ヒト咽頭筋: 上部食道筋の神経線維解析的研究. 第29回日本嚥下医学会, 2006. 2.
- 19) 吉井崇喜<sup>1)</sup>, 坂本浩隆<sup>2)</sup>, 上田陽一<sup>3)</sup>, 小澤一史, 福居顯二<sup>1)</sup>, 河田光博<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup> 京都府立医科大学精神医学, <sup>2)</sup> 同解剖学生体構造科学, <sup>3)</sup> 産業医科大学生理学)</sup>: PTSDストレスモデルによるパゾプレッシン系への影響. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 20) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 浅川光夫<sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部解剖学)</sup>: ヒト咽頭: 食道上部筋層の神経支配についての研究. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 21) 山本直之, 薛 昊罡, 伊藤博信: コイ科魚類の嗅球の線維連絡. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 22) 青山純也<sup>1)</sup>, 山中 聡<sup>1)</sup>, 薛 昊罡, 田沼久美子, 浅川光夫, 小澤一史<sup>(<sup>1)</sup> 医学部第2学年)</sup>: 腹腔動脈と上腸間膜動脈のきわめて稀な変異例について. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 23) 長江将輝<sup>1)</sup>, 池田 巧<sup>1)</sup>, 三上靖夫<sup>1)</sup>, 長谷 齊<sup>1)</sup>, 小澤一史, 松田賢一<sup>2)</sup>, 坂本浩隆<sup>2)</sup>, 久保俊一<sup>1)</sup>, 河田光博<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup> 京都府立医科大学整形外科学, <sup>2)</sup> 同解剖学生体構造科学)</sup>: 多血小板血漿含浸ゼラチンハイドロゲル粒子の椎間板内投与による椎間板再生効果の組織学的検討. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 24) 楊 春英, 薛 昊罡, 山本直之, 吉本正美, 小澤一史: 硬骨魚類ティラピアにおける糸球体核円形部から下葉への投射パターンについて. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 25) 薛 昊罡, 楊 春英, 山本直之, 小澤一史: 硬骨魚類金魚の下オリーブ核への入力. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 26) 吉本正美, 山本直之, 楊 春英, 伊藤博信: 硬骨魚類ティラピアの下葉内側部の線維連絡. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.
- 27) 山本直之, ヌルママット パハシャル, 薛 昊罡, 伊藤博信: コイ科魚類の嗅球の線維連絡. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2006. 3.

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

平成17年度(2005年4月-2006年3月)

昨年度に引き続き今年度も米国科学アカデミー紀要を始めとする学術誌に7編の英文原著を発表することができた。文部科学省・学術振興会の科学研究費補助金では特定領域研究「性分化機構」が第2年目となり、ニューズレターを発行した(6月)。基盤研究(C)の新規採択があり、本年度は合計7課題が進行している。平成14年度から続いてきた基盤研究(B)は最終年度であり、プロモータランスジェニック法によりエストロゲン受容体分子を発現する神経細胞を可視化した動物を作出した。日本科学未来館の共同特別企画展「恋愛物語展」に協力すると共に、特定領域研究班の共同事業として、市民公開シンポジウムを企画し、好評を得た。これまで教育・研究に献身してきたパーハ一講師が、母国マレーシアに新設されるモナーシュ大学医学部マレーシア校の神経科学部門正教授として迎えられることとなった。今後も研究・教育の両面で密接な連携を保つこととしている。他の国際交流として日本学術振興会日米科学協力事業「脳研究」分野によるロックフェラー大学との共同研究、遼寧中医科大学との交流がある。研究室の多くが今年度も国内外の招待講演に招かれ、生殖生理学の各方面で成果を公表する機会を与えられた。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Parhar Is, Ogawa S, Sakuma Y: Three GnRH receptor types in laser-captured single cells of the cichlid pituitary display cellular and functional heterogeneity. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2005; 102(6): 2204-2209.
- 2) Parhar IS, Soga T, Ogawa S, Ogawa S<sup>1)</sup>, Pfaff Dw<sup>1)</sup>, Sakuma Y (<sup>1)</sup> Department of Neurobiology and Behavior, The Rockefeller University): Nonmammalian forms of gonadotropin-releasing hormone molecules in the brain of promoter transgenic rats. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2005; 102(16): 5880-5885.
- 3) Xiao K, Kondo Y, Sakuma Y: Differential regulation of female rat olfactory preference and copulatory pacing by the lateral septum and medial preoptic area. *Neuroendocrinology* 2005; 81(1): 56-62.
- 4) Kato M<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y, Kiyama R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Research Institute for Biological Resources and Functions, National Institute of Advanced Industrial Science): Biochemical Screening of Stable Dinucleosomes Using DNA Fragments from a Dinucleosome DNA Library. *J. Mol Biol* 2005; 350: 215-227.
- 5) Soga T, Ogawa S, Millar RP<sup>1,2)</sup>, Sakuma Y, Parhar IS (<sup>1)</sup> Medical Research Council Human Reproductive Sciences Unit Centre for Reproductive Biology, <sup>2)</sup> Division of medical Biochemistry, University of Cape Town): Localization of the Three GnRH Types and GnRH Receptors in the Brain of a Cichlid Fish: Insights into Their Neuroendocrine and Neuromodulator Functions. *Journal of Comparative Neurology* 2005; 487(1): 28-41.
- 6) Uchida H<sup>2)</sup>, Ogawa S, Harada M, Matushita M, Lwata M<sup>2)</sup>, Sakuma Y, Parhar IS (<sup>1)</sup> Laboratory of Ecophysiology, Kitasato University): The olfactory organ modulates gonadotropin-releasing hormone types and nest-building behavior in the tilapia *oreochromis niloticus*. *Journal of Neurobiology* 2005; 65(1): 2-11.
- 7) Hamada T, Wada-Kiyama Y, Sakuma Y: Visualizing forebrain-specific usage of an estrogen receptor alpha promoter for receptor down regulation in the rat. *Molecular Brain Research* 2005; 139(1): 42-51.

- 8) Kitahashi T, Sato H<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Kyoto University ): Cloning and functional analysis of promoters of three GnRH genes in a Cichlid . Biochemical and Biophysical Research Communications 2005 ; 336 ( 2 ): 536-543 .
- 9) Kondo Y, Sakuma Y : The medial amygdala controls coital access of female rats : A possible involvement of emotional responsiveness . Japanese Journal of Physiology 2005 ; 55 ( 6 ): 345-353 .
- 10) 佐久間康夫 : 脳の中で自分の性別を認識している部分はどこか . クリニカル ニューロサイエンス 2005 ; 23 ( 3 ): 1078-1079 .
- 11) 佐久間康夫 : 内分泌調節に見る脳と身体 : 性ホルモンがおこす不思議 . 科学 2006 ; 76 ( 3 ): 273-279 .
- 12) 佐久間康夫 : 目で見る性差 : 脳の形態的性差 . Hormone Frontier in Gynecology 2006 ; 13 ( 1 ): 2-5 .

## 著 書

- 1) 佐久間康夫 : [ 自著 ] ニューロンの特性からみた性差 . 脳の性分化 ( 山内兄人・新井康允 ), 2006 ; pp234-242 , 裳華房 .
- 2) 近藤保彦 : [ 自著 ] 雄型性行動と勃起 . 脳の性分化 ( 山内兄人・新井康允 ), 2006 ; pp242-259 , 裳華房 .
- 3) 近藤保彦 : [ 自著 ] 性指向性 . 脳の性分化 ( 山内兄人・新井康允 ), 2006 ; pp262-271 , 裳華房 .

## 学会発表

### ( 1 ) シンポジウム :

- 1) Parhar IS : A KiSS to puberty : To be or not to be single ( Frontiers in Reproductive Neuroscience ). AOSCE ( The Asia and Oceania Society For Comparative Endocrinology ), 2006 . 2 .
- 2) Uyesaka N : Deformation of Erythrocytes ( Understanding of Blood Rheology on Circulatory Physiology ). 第82回日本生理学会大会 , 2005 . 5 .
- 3) 加藤昌克 , 佐久間康夫 : ラットGnRHニューロンに発現するカルシウム活性化型カリウムチャネル . 第28回日本神経科学大会 , 2005 . 7 .
- 4) 加藤昌克 : GnRHニューロンの神経生理学 ( GnRHとGnRHニューロン ). シンポジウム「生命の基本を司る本能的脳機構」, 2006 . 1 .
- 5) 近藤保彦 , 肖 凱 , 佐久間康夫 : 成熟後も維持される雄ラット性指向性の性ホルモン依存性 . 学術フロンティア「脳機能の性差形成機構」公開シンポジウム , 2006 . 1 .
- 6) 佐久間康夫 : エストロゲンによる脳の性分化と機能表現の修飾 ( Steroid/thyroidホルモン系による脳発達の調節機構 ). 第41回脳のシンポジウム , 2006 . 2 .

### ( 2 ) 一般講演 :

- 1) Kitahashi T, Ogawa S, Sakuma Y, Parhar Is : Expression of Genes for Nuclear Receptors in Laser-Captured Pituitary Cells of Tilapia . The 15th International Congress of Comparative Endocrinology ( Boston, MA, USA ), 2005 . 5 .
- 2) Sato S : Near infrared radiation spectroscopy ( NIRS ) evaluates triptan effect . 12th the International Headache Society ( Kyoto, Japan ), 2005 . 10 .
- 3) Kondo S<sup>1)</sup>, Taniuchi T<sup>1)</sup>, Kondo Y ( <sup>1)</sup> Kanazawa University ): Lesions in the medial amygdala eliminate sexual preference but spare olfactory discrimination of sexually active males in estrogen-primed female rats . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC, USA ), 2005 . 11 .
- 4) Katsunuma R<sup>1)</sup>, Korosaki A<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>2)</sup>, Xiao K, Kondo Y, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Mejiro University , <sup>2)</sup> Tukuba University ): Involvement of the midbrain central gray in sexual motivation of female rats . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC, USA ), 2005 . 11 .

- 5) Kondo Y, Hoda K<sup>1)</sup>, Xiao K, Oriyasa C, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Gakusyuin University ): Molecular basis for postejaculatory suppression of sexual behavior in mice . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC, USA ), 2005 . 11 .
- 6) Oriyasa C, Kondo Y, Sakuma Y : Sex diffostatin mRNA in the rat preoptic areaerence in somat . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC, USA ), 2005 . 11 .
- 7) Sato S, Kato M, Teramoto A<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Brain Nerves Surgery ): Sex-specific and devel opmental modulation of GABA<sub>A</sub> current by melatonin in adult rat gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) neurons . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( washington, DC, USA ), 2005 . 11 .
- 8) Parhar IS : GnRH and GPCR : Laser-Captured Single Cell Gene Profiling . Frontiers in Molecular Endocrinology An International Conference cum Workshop ( Hyderabad, India ), 2005 . 12 .
- 9) 佐藤 俊, 加藤昌克, 寺本 明<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): ラットGnRHニューロンに発現する GABA<sub>A</sub>電流に対するメラトニンの修飾作用 発達の段階と性による差異 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 10) 許 晴, 濱田知宏, 和田-木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>産総研・生物機能工学 ): 雌ラットの視床下部におけるエストロゲン制御因子の解析 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 11) 濱田知宏, 佐久間康夫 : GFPを指標とする脳内エストロジェン受容体遺伝子プロモーターの周生期発現 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 12) 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫 : 雄ラット去勢後に見られる性指向性の一過性反転 : 芳香化の役割 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 13) 折笠千登世, 近藤保彦, 佐久間康夫 : 視床下部腹腔内側核ER 陽性ニューロンの中脳中心灰白質への投射 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 14) 丸山 徹<sup>1)</sup>, 大西 康<sup>2)</sup>, 藤野武彦<sup>3)</sup>, 佐藤亜弥<sup>3)</sup>, 武田誠子<sup>3)</sup>, 原田実根<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>九州大学・健康科学センター, <sup>2)</sup>同病態修復内科学講座, <sup>3)</sup>レオロジー機能食品研究所 ): 皮膚微小循環の規定因子としてのヒト赤血球変形能 : OPCのレオロジー学的効果 . 第82回日本生理学会大会, 2005 . 5 .
- 15) 西村一路, 加藤昌克, 佐久間康夫 : GnRHニューロン株細胞におけるBK電流に対するエストロゲンの長期作用 . 第1回環境生理学プレコングレス大会, 2005 . 5 .
- 16) 近藤保彦, 保田恵子, 肖 凱, 折笠千登世, 佐久間康夫 : 雄マウス射精後性行動抑制の分子機構 . 第32回日本神経内分泌学会/第20回日本下垂体研究会合同大会, 2005 . 7 .
- 17) 佐藤 俊, 加藤昌克, 寺本 明, 佐久間康夫 : GT1-7細胞のGABA<sub>A</sub>電流に対するメラトニンの修復作用と受容体ノックダウン . 第32回日本神経内分泌学会/第20回日本下垂体研究会合同大会, 2005 . 7 .
- 18) 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫 : 雄ラット去勢後に一過性に発現する性指向性反転 : エストロゲンの役割 . 第32回日本神経内分泌学会/第20回日本下垂体研究会合同大会, 2005 . 7 .
- 19) 近藤佐和<sup>1)</sup>, 谷内 通<sup>1)</sup>, 近藤保彦 ( <sup>1)</sup>金沢大学 ): メスラットによる正常オス・去勢オスの嗅覚弁別に扁桃体内側核破壊が及ぼす影響 . 第65回日本動物心理学会大会, 2005 . 10 .
- 20) 近藤保彦, 保田恵子, 肖 凱, 折笠千登世, 佐久間康夫 : マウスの射精後性行動抑制の分子メカニズム . 第65回日本動物心理学会大会, 2005 . 10 .
- 21) 近藤保彦 : 雌ラットの性的動機づけにおける中脳中心灰白質の関与 . 第65回日本動物心理学会大会, 2005 . 10 .
- 22) 木山裕子 : ジオクレオソームDNAライブラリーを用いたクロマチン高次構造の研究 . 平成17年度国立遺伝子学研究所研究会「クロマチンダイナミクスとゲノム機能制御」, 2005 . 10 .
- 23) 許 晴, 濱田知宏, 木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>産総研・生物機能工学 ): 成熟雌ラット視床下部におけるエストロゲン応答遺伝子の解析 . 第28回日本分子生物学会年会, 2005 . 12 .
- 24) 近藤保彦 : 雄マウスにおける射精後性行動抑制メカニズム . 第15回神経行動薬理若手研究者の集い ミニシンポジウム「性を主題とした神経・行動・薬理研究」, 2006 . 3 .

- 25) 許 晴, 濱田知宏, 和田-木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>産総研・シグナル分子 ): 成熟雌ラット視床下部における神経関連遺伝子のエストロゲン応答性 . 第83回日本生理学会大会, 2006 . 3 .
- 26) 濱田知宏, 佐久間康夫 : 脳の性分化に関わるエストロジェン応答遺伝子発現プロファイリング . 第83回日本生理学会大会, 2006 . 3 .
- 27) 西村一路, 加藤昌克, 佐久間康夫 : エストロゲンはGnRHニューロン株細胞であるGT1-7のBK電流を増強する . 第83回日本生理学会大会, 2006 . 3 .

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

生理学第二教室はストレス反応機構，摂食調節機構，てんかん発症機序，神経情報伝達機構，神経変性機序の解明を目指して研究を進めており，本年度は以下にあげる研究論文を中心に研究成果が得られた．

1. すでにわれわれは，CRFファミリーに属するUrocortin (Ucn) 2がストレス反応と摂食調節において重要な役割を果たしていることを明らかにしたが，Ucn 2の発現部位の詳細は不明であった．山内らは，Ucn 2 mRNAが視床下部，下垂体，副腎，胃，皮膚，卵巣，子宮など様々な臓器に発現していることを示した．とくに，下垂体ではUcn 2が前葉と中葉のPOMC細胞において発現することを認め，現在その発現調節や分泌調節に関する研究が発展的に進行している．さらに，Ucn 3の発現の部位や調節に関する研究も同時に行われている．

2. 根本らは pheochromocytoma cell line を用いて，noradrenaline 分泌に対する Ucn 2 の作用を検討した．その結果，Ucn 2 は PKA-Erk1/2 経路を介して tyrosine hydroxylase のリン酸化を促進すると同時に，PKA 経路を介して noradrenaline 分泌を促進する事実が明らかになった．

3. Interleukin (IL)-18 は感染症や肥満など様々な疾患と密接に関連したサイトカインであるが，洲鎌らは急性ストレス負荷により副腎由来の血漿 IL-18 が有意に上昇することを明らかにした．

グレリンによるエネルギー消費抑制作用機序をグレリン受容体発現抑制ラットを用いて解明中であり，興味深い成績が得られている．現在，分子レベルから行動レベルでのストレス反応調節機構の解明と，中枢性摂食異常症の病態解明と治療法開発のための研究も進行している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nemoto T, Mano-Otagiri A, Shibasaki T : Urocortin 2 induces tyrosine hydroxylase phosphorylation in PC12 cells . *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2005 ; 330 : 821-831 .
- 2) Conti B<sup>1)</sup>, Sugama S, Lucero J<sup>1)</sup>, Winsky-Sommerer R<sup>1)</sup>, Wirz SA<sup>1)</sup>, Maher P<sup>1)</sup>, Andrews Z<sup>1)</sup>, Barr AM), Morale MC<sup>1)</sup>, Paneda C<sup>1)</sup>, Pemberton J<sup>1)</sup>, Gaidarova S<sup>1)</sup>, Behrens MM<sup>1)</sup>, Beal MF<sup>2)</sup>, Sanna PP<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harold L. Dorris Neurological Research Center, Scripps Research Institute , <sup>2)</sup> Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University ) : Uncoupling protein 2 protects dopaminergic neurons from acute 1, 2, 3, 6-methyl-phenyl-tetrahydropyridine toxicity . *Journal of Neurochemistry* 2005 ; 93 ( 2 ) : 493-501 .
- 3) Yamauchi N, Otagiri A, Nemoto T, Sekino A, Oono H<sup>1)</sup>, Kato I<sup>2)</sup>, Yanaihara C<sup>2)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Mit-subishikagaku Institute of Life Sciences , <sup>2)</sup> Yanaihara Institute Inc ) : Distribution of Urocortin 2 in Various Tissues of the Rat . *Journal of Neuroendocrinology* 2005 ; 17 ( 10 ) : 656-663 .
- 4) Cho BP<sup>2)</sup>, Song DY<sup>2)</sup>, Sugama S, Shin DH<sup>3)</sup>, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Kim SS<sup>4)</sup>, Kim YS<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Yonsei University , <sup>3)</sup> Department of Preventive Medicine, Keimyung University , <sup>4)</sup> Department of Pharmacology, Kangwon National University ) : Pathological dynamics of activated microglia following medial forebrain bundle transection . *Glia* 2006 ; 53 ( 1 ) : 92-102 .
- 5) Sugama S, Wang N, Shimokawa N<sup>1)</sup>, Koibuchi N<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>2)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup>, Dhabhar FS<sup>3)</sup>, Conti B<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Integrative Physiology, Gunma University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of



Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, <sup>3)</sup> College of Dentistry and College of Medicine, Ohio State University, <sup>4)</sup> Harold L. Dorris Neurological Research Center, The Scripps Research Institute): The adrenal gland is a source of stress-induced circulating IL-18. *Journal of Neuroimmunology* 2006; 172 (1): 59-65.

(2) 綜説:

- 1) Shimokawa N<sup>1)</sup>, Dikic I<sup>2)</sup>, Sugama S, Koibuchi N<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Integrative Physiology, Gunma University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Institute of Biochemistry II, Goethe University Medical School): Molecular responses to acidosis of central chemosensitive neurons in brain. *Cellular Signaling* 2005; 17 (7): 799-808.
- 2) 大畠久幸, 芝崎 保: CRFの中樞作用. *内分泌・糖尿病科* 2005; 21 (5): 453-459.
- 3) 大畠久幸, 芝崎 保: CRFニューロン系と摂食障害. *Pharma Medica* 2006; 24 (3): 11-14.

(3) 研究報告書:

- 1) 芝崎 保, 眞野あすか, 関野あずさ, 根本崇宏, 大畠久幸: ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討. *平成16年度喫煙科学研究財団研究年報* 2005; pp933-937.
- 2) 眞野あすか, 根本崇宏, 関野あずさ: 中枢神経系および末梢組織のグレリンおよびその受容体のエネルギー代謝調節機構における役割の解明. *平成16年度財団法人成長科学協会研究年報* 第28号 2005; pp255-260.
- 3) 芝崎 保, 関野あずさ, 大畠久幸, 眞野あすか, 根本崇宏: 中枢性摂食異常症が女性に多いことの神経内分泌学的基盤の解明. *厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業* 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成17年度総括・分担研究報告書 2006; pp28-32.

(4) 追加分研究報告書:

- 1) 芝崎 保: エネルギー代謝調節機構におけるグレリン/GHSRの役割. *厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業* 高齢者のソマトポーズとエネルギー代謝に及ぼす新規ホルモン グレリンの役割と臨床応用 2005; pp21-23.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Sugama S, Wang N, Conti B<sup>1)</sup>, Shibasaki T (<sup>1)</sup> Harold L. Dorris Neurological Research Center, Scripps Research Institute): Induction of plasma Interleukin-18 in the stress. 第35回国際生理学会 (San Diego), 2005. 4.
- 2) Ohwada R<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>1)</sup>, Sato K<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Takano K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Med., Tokyo Women's Medical University): Plasma levels of receptor activator of nuclear factor- $\kappa$ B ligand (RANKL) and osteoprotegerin (OPG) in patients with anorexia nervosa. 87th Annual Meeting of the Endocrine Society (San Diego), 2005. 6.
- 3) Hotta M<sup>1)</sup>, Ohwada R<sup>1)</sup>, Sato K<sup>1)</sup>, Takano K<sup>1)</sup>, Shibasaki T (<sup>1)</sup> Dept. of Med., Tokyo Women's Medical University): Vitamin K2 or vitamin D3 can prevent spinal bone loss in severely emaciated anorexia nervosa patients. 87th Annual Meeting of The Endocrine Society (San Diego), 2005. 6.
- 4) 王 寧, 洲鎌秀永, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup> 脳神経外科学): Unique expressional mechanism of interleukin-18 in rodent pituitary. 第78回 日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 5) Sugama S: Evidence of microglial activation in the brain in acute stress. 第83回日本生理学会, 2006. 3.
- 6) 原田嘉夫: ラット脊髄1次求心性脱分極のグリシン作動性およびGABA作動性成分の発達に伴う変化. 第82回日本生理学会大会, 2005. 5.
- 7) 関野あずさ, 眞野あすか, 稲田詩乃, 根本崇宏, 芝崎 保: ニコチン急性投与のCRFファミリーペプチド発現

への影響．第78回 日本内分泌学会学術総会，2005．7．

- 8) 大畠久幸，芝崎 保：ストレスによる摂食抑制における背側縫線核のCRF受容体の役割に関する検討．第78回日本内分泌学会学術総会，2005．7．
- 9) 根本崇宏，山内直子，稲田詩乃，関野あずさ，眞野あすか，芝崎 保：ラットUrocortin 3遺伝子の同定と発現．第32回日本神経内分泌学会・第20回日本下垂体研究会 合同学術集会，2005．7．
- 10) 大畠久幸，芝崎 保：Corticotropin-releasing factorファミリーペプチドの脳室内投与後の摂食パターンの検討．第32回日本神経内分泌学会・第20回日本下垂体研究会 合同学術集会，2005．7．
- 11) 眞野あすか，関野あずさ，根本崇宏，稲田詩乃，周東佑仁<sup>1)</sup>，杉原 仁<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>(1)</sup>内科学第3): グレリン・growth hormone secretagogue (GHS)の褐色脂肪組織への作用．第78回日本内分泌学会学術総会，2005．7．
- 12) 根本崇宏，関野あずさ，山内直子，芝崎 保：初代培養下垂体細胞におけるUrocortin 2 mRNA発現および分泌調節．CRH・ACTH研究会，2006．3．
- 13) 原田嘉夫：外液二価イオン除去により幼若脊髄後根から記録された同期した周期性．第83回日本生理学会大会，2006．3．

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による三次元構造の解析結果を基に、発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析ではさらに高分解能および種々の阻害剤との複合体の解析を行って特異な反応機構の解析を進めている。さらに変異体のトランスジェニックマウスを作成し、その生理・病理的役割の解明を進めている。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるHBP23に関して、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討を引き続き行った。また、病理・生理的解明をモデルマウスなどを用いて進めている。

3) 上記以外のタンパク質をプロテオミクス法と結びつけ、新しいタンパク質の網羅的検索を行っている。また、タンパク3000プロジェクトの一環として、それらの中で重要な蛋白質の発現、精製、結晶化、構造解析と結びつけている。胎盤等のヒトの病態解析も行っている。また、好熱菌由来の特異な鉄イオウ蛋白質の物理化学的性質の解析も進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Maru Y<sup>1)</sup>, Nishino T, Kakinuma K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women ' s Medical University , <sup>2)</sup> University of Tokyo ): Expression of Nox genes in rat organs, mouse oocytes, and sea urchin eggs . DNA Seq. 2005 ; 16 ( 2 ): 83-88 .
- 2) Igarashi Y<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Matsumura H<sup>2)</sup>, Nakamura N<sup>2)</sup>, Ohno H<sup>2)</sup>, Samejima M<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> The University of Tokyo , <sup>2)</sup> Tokyo University of Agricultural and Technology ): Election transfer chain reaction of the extracellular flavocytochrome cellobiose dehydrogenase from the basidiomycete phanerochaete chrysosporium . FEBS J. 2005 ; 272 ( 11 ): 2869-2877 .
- 3) Nishino T, Okamoto K, Kawaguchi Y, Hori H<sup>1)</sup>, Matsumura T, Eger BT<sup>2)</sup>, Pai EF<sup>2)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> Ehime University , <sup>2)</sup> University of Toronto ): Mechanism of the conversion of xanthine dehydrogenase to xanthine oxidase : identification of the two cysteine disulfide bonds and crystal structure of a nonconvertible rat liver xanthine dehydrogenase mutant . J. Biol. Chem. 2005 ; 280 ( 26 ): 24888-24894 .
- 4) Kato S<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Abe Y, Matsumura T, Nishino T, Aoki M<sup>3)</sup>, Itoyama Y<sup>3)</sup>, Asayama K<sup>4)</sup>, Awaya A<sup>5)</sup>, Hirano A<sup>6)</sup>, Ohama E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tottori University , <sup>2)</sup> Tottori University Hospital , <sup>3)</sup> Tohoku University , <sup>4)</sup> University of Occupational and Environmental Health , <sup>5)</sup> Japan Science and Technology Agency , <sup>6)</sup> Montefiore Medical Center, Bronx ): Redox system expression in the motor neurons in amyotrophic lateral sclerosis ( ALS ): immunohistochemical studies on sporadic ALS, superoxide dismutase 1 ( SOD1 ) -mutated familial ALS, and SOD1-mutated ALS animal models . Acta Neuropathol ( Berl ) 2005 ; 110 ( 2 ): 101-112 .
- 5) Nagahara N<sup>1)</sup>, Katayama A ( <sup>1)</sup> Dept. of Environmental Medicine ): Post-translational regulation of mercap-

topyruvate sulfurtransferase via a low redox potential cysteine-sulfenate in the maintenance of redox homeostasis . J. Biol. Chem. 2005 ; 280 ( 41 ): 34569-34576 .

- 6) Iwasaki T , Kounosu A , Samoilova RI<sup>1)</sup> , Dikanov SA<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Russian Acad. of Sci. , <sup>2)</sup> Univ. of Illinois at UC ): <sup>15</sup>N HYSOCORE characterization of the fully deprotonated, reduced form of the archaeal Rieske [2Fe-2S] center . J. Am. Chem. Soc. 2006 ; 128 : 2170-2171 .

(2) 綜説 :

- 1) 岩崎俊雄 : 酸素呼吸系の初期機能進化パターン . 極限環境微生物学会誌 2005 ; 4 ( 2 ): 65-70 .

著 書

- 1) Okamoto K , Nishino T , Pai Emil F<sup>1)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup> University of Toront ): [ 共著 ] The Mammalian Xanthine Oxidoreductase : Mechanisms of Hydroxylation Reaction and Dehydrogenase / Oxidase Conversion . Flavins and Flavoproteins 2005 , 2005 ; pp379-390 , ARchiTect inc .
- 2) Igarashi K<sup>1)</sup> , Yoshida M<sup>1)</sup> , Samejima M<sup>1)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup> The University of Tokyo ): [ 共著 ] Election Transfer Chain Reaction of Cellobiose Dehydrogenase from the Basidiomycete *Phanerochaete chrysosporium* . Flavins and Flavoproteins 2005 , 2005 ; pp433-436 , ARchiTect inc .
- 3) Kondo S<sup>1)</sup> , Hase-Aoki K<sup>1)</sup> , Okamoto K , Nishino T ( <sup>1)</sup> Teijin Pharma Limited ): [ 共著 ] Febuxostat, a Novel Non-Purine Selective Inhibitor of Xanthine Oxidase : Mechanism of Action and Clinical Application . Flavins and Flavoproteins 2005 , 2005 ; pp895-898 , ARchiTect inc .
- 4) Fukunari A<sup>1)</sup> , Okamoto K , Nishino T , Eger BT<sup>2)</sup> , Pai EF<sup>2)</sup> , Kamezawa M<sup>1)</sup> , Osajima T<sup>1)</sup> , Mori H<sup>1)</sup> , Ikegawa R<sup>1)</sup> , Iwane J<sup>1)</sup> , Yamada I<sup>1)</sup> , Kato N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Pharma Corporation , <sup>2)</sup> University of Toronto , <sup>3)</sup> Hiroshima University ): [ 共著 ] Mechanism of Xanthine Oxidoreductase Inhibition by Y-700 and its Hypouricemic Effect in Humans . Flavins and Flavoproteins 2005 , 2005 ; pp899-904 , ARchiTect inc .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Nishino T : Mechanism of molybdenum-dependent hydroxylation : Crystal structure of reaction intermediate and roles of amino acid residues in the molybdenum active site . Gordon Research Conference ( UK ), 2005 . 7 .
- 2) 西野武士 : 種々の高尿酸血症治療薬をめざした阻害剤と蛋白質の複合体結晶構造解析から学ぶこと . 第3回産学連携フォーラム , 2006 . 2 .
- 3) 岩崎俊雄 : 酸素呼吸系の初期機能進化パターン . 第6回極限環境微生物学会 , 2005 . 7 .
- 4) 西野武士 : キサンチン脱水素酵素の構造と機能に関する研究 : モリブデン配位子構造とキサンチン水酸化機構 . 研究会「分子系の構造と電子状態」, 2005 . 9 .
- 5) 西野武士 : 新規尿酸生成阻害剤を用いた治療戦略 . 第39回日本痛風・核酸代謝学会 , 2006 . 2 .

(2) ワークショップ :

- 1) 岩崎俊雄 : シトクロム bc 複合体型 Rieske 鉄硫黄タンパク質の構造 , 機能 , 進化 . 第18回生物無機化学夏セミナー , 2005 . 8 .

(3) 一般講演 :

- 1) Okamoto K , Nishino T : The Mammalian Xanthine Oxidoreductase : Mechanisms of Hydroxylation Reaction and Dehydrogenase / Oxidase Conversion . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
- 2) Igarashi K<sup>1)</sup> , Yoshida M<sup>1)</sup> , Samejima M<sup>1)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup> The University of Tokyo ): Electron Transger

- Chain Reaction of Cellobiose Dehydrogenase from the Basidiomycete *Phanerochaete chrysosporium* . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
- 3) Kajisa T<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Igarashi K<sup>1)</sup>, Katayama A, Nishino T, Samejima M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The University of Tokyo): Characterization and Molecular Cloning of Cellobiose Dehydrogenase from the Brown-rot Fungus *Coniophora puteana* . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 4) Kusano T, Nishino T, Okamoto K, Nishino T : Synergistic mechanism of xanthine dehydrogenase / oxidase converting system exist in bovine milk . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 5) Matsumura T, Yamaguchi Y<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nishino T (<sup>1)</sup>Jikei University of Medicine ): Characterization of Recombinant Human Xanthine Oxidoreductase . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 6) Kondo S<sup>1)</sup>, Hase-Aoki K<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nishino T (<sup>1)</sup>Teijin Pharma Limited ): Febuxostat, a Novel Non-Purine Selective Inhibitor of Xanthine Oxidase - Mechanism of Action and Clinical Application - . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 7) Asai R, Nishino T, Okamoto K, Nishino T : A mutant of Xanthine oxidoreductase expressed as an oxidase form which produces high ratio of superoxide . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 8) Fukunari A<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nishino T, Eger B. T.<sup>2)</sup>, Pai E. F.<sup>2)</sup>, Kamezawa M<sup>1)</sup>, Osajima T<sup>1)</sup>, Mori H<sup>1)</sup>, Ikegawa R<sup>1)</sup>, Iwane J<sup>1)</sup>, Yamada I<sup>1)</sup>, Kato N<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Mitsubishi Pharma Co. , <sup>2)</sup>University of Toronto , <sup>3)</sup>Hiroshima University ): Mechanism of Xanthine Oxidoreductase Inhibition by Y-700 and its Hypouricemic Effect in Humans . 15th International Symposium on Flavins and Flavoptoteins ( Hayama, Japan ), 2005 . 4 .
  - 9) Dikanov SA<sup>1)</sup>, Samoilova RI<sup>2)</sup>, Kounosu A, Iwasaki T (<sup>1)</sup>Univ. of Illinois at UC , <sup>2)</sup>Russian Acad. of Sci. ): <sup>15</sup>N HYSCORE spectroscopy of archaeal Rieske proteins . 12th International Conference on Bioinorganic Chemistry ( Ann Arbor, USA ), 2005 . 8 .
  - 10) Iwasaki T, Ohmori D<sup>1)</sup>, Kounosu A (<sup>1)</sup>Juntendo Univ. ): Modular structure and assembly of archaeal respiratory complex II . International Symposium on Extremophiles and Their Applications ( Tokyo, Japan ), 2005 . 11 .
  - 11) Kusano T, Nishino T, Okamoto K, Nishino T : Converting mechanism of xanthine dehydrogenase / oxidase converting system in bovine milk . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
  - 12) Kawaguchi Y, Nishino T, Okamoto K, Kuwabara Y, Kounosu A, Nishino T : Characterization and crystal structure of rat xanthine oxidoreductase D428N mutant . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
  - 13) Nishino T, Okamoto K, Kawaguchi Y, Hori H<sup>1)</sup>, Nishino T (<sup>1)</sup>Ehime University ): Crystal structure of rat xanthine oxidoreductase F336L mutant . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
  - 14) Matsumura T, Yamaguchi Y<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nishino T (<sup>1)</sup>Jikei University of Medicine ): Characterization of Recombinant Human Xanthine Oxidoreductase and its mutants . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
  - 15) Abe Y, Matsumura T, Kato S<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Ohama E<sup>1)</sup>, Aoki M<sup>3)</sup>, Itoyama Y<sup>3)</sup>, Nishino T (<sup>1)</sup>Tottori University , <sup>2)</sup>Tottori University Hospital , <sup>3)</sup>Tohoku University ): Redox system in animal model of mutant superoxide dismutase 1-linked ALS . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
  - 16) 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : 組換え体を用いたヒト・キサンチン酸化酵素の結晶化と構造解析 . 第39回日本痛風・核酸代謝学会 , 2006 . 2 .

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

遺伝子治療は多くの難治性疾患の治療法としても期待されているが、その実用化にはいまだ多くの基礎研究が必要である。最近、レトロウイルスベクターによる先天性免疫不全症の幹細胞遺伝子治療に成功したが、その後にウイルスベクターが原因と思われる白血病が発症した例が報告されている。われわれは、遺伝子治療の発展を目指し、レトロウイルスベクターの改良と、安全性の高い新しいベクターとして注目されているアデノ随伴ウイルスベクターを使った遺伝子治療の開発を行っている。

#### 1) レトロウイルスベクターの安全性評価と改良

染色体に組み込まれたレトロウイルスベクター又はレンチウイルスベクターが周囲の遺伝子の発現に与える影響を検出するアッセイ系を確立し、内部プロモーターの比較、インスレーター配列の有用性の評価などを行った。改良したレンチウイルスベクターの有効性と安全性をマウス、サルを使った動物実験により確認した。

#### 2) アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターを使った遺伝子治療前臨床研究

様々な血清型の AAV ベクターの作製法を確立し、それらの組織特異性をマウスを使った実験で確認した。ライソゾーム病である異染性白質ジストロフィー (MLD) モデルマウスにたいする治療実験を進めている。MLD の欠損酵素であるアリルサルファターゼ A (ASA) 及びその活性化酵素 (FGE) を発現する AAV ベクターをモデルマウス脳内の海馬領域に直接投与したところ、神経細胞で発現した活性型 ASA が注入部位周囲のみならず、脳全体に分布することを認めた。その結果、蓄積していたサルファチドを減少させ、運動機能を有意に改善させることに成功した。多様な抗癌作用がある分子として最近注目されている MDA-7 (IL-24) 遺伝子を組み込んだ AAV ベクターを作製し、癌の遺伝子治療実験を行っている。in vitro の実験で MDA-7 が癌細胞にたいするアポトーシス誘導作用、血管新生抑制作用を持つことを確認した。ベクターを移植固形腫瘍モデルマウスに全身投与することで腫瘍増殖の抑制、生存曲線の改善が認められた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takahashi H, Kato K<sup>1)</sup>, Miyake K, Hirai Y, Yoshino S<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School ): Adeno-associated virus vector-mediated anti-angiogenic gene therapy for collagen-induced arthritis in mice . Clin. Exp. Rheumatol 2005 ; 23 ( 4 ): 455-461 .
- 2) Komaru K<sup>1)</sup>, Ishida Y<sup>1)</sup>, Amaya Y<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Orimo H, Oda K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences , <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women ' s University ): Novel aggregate formation of a frame-shift mutant protein of tissue-nonspecific alkaline phosphatase is ascribed to three cysteine residues in the C-terminal extension : Retarded secretion and proteosomal degradation . FEBS J 2005 ; 272 : 1704-1717 .
- 3) Taguchi K, Ogawa R, Migita M, Hanawa H, Ito H<sup>1)</sup>, Orimo H ( <sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Nippon Medical School ): The role of bone marrow-derived cells in bone fracture repair in a green fluorescent protein chimeric mouse model . Biochem Biophys Res Commun 2005 ; 331 : 31-36 .
- 4) Ikezono T<sup>1)</sup>, Shindo S<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Li L<sup>1)</sup>, Tomiyama S<sup>1)</sup>, Takumida M<sup>2)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup>, Watanabe A, Saito A<sup>1)</sup>, Yagi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otorhinolaryngology , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Expression of Cochlin in the Vestibular Organ of Rats . ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec 2005 ; 67 ( 5 ): 252-258 .

- 5) Goseki-Sone M<sup>1)</sup>, Sogabe N<sup>1)</sup>, Fukushi-Irie M<sup>1)</sup>, Mizoi L<sup>1)</sup>, Orimo H, Suzuki T<sup>2)</sup>, Nakamura H<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>4)</sup>, Hosoi T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women ' s University , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University , <sup>4)</sup> Health Science University , <sup>5)</sup> Endocrinology Section, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital ): Functional analysis of the single nucleotide polymorphism ( 781T>C ) in the *tissue-nonspecific alkaline phosphatase* gene associated with BMD . J Bone Miner Res 2005 ; 20 ( 5 ): 773-782 .
- 6) Orimo H , Shimada T : Regulation of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene expression by all-*trans*-retinoic acid in SaOS-2 osteosarcoma cell line . Bone 2005 ; 36 : 866-876 .
- 7) Takakusaki Y , Hisayasu S , Hirai Y , Shimada T : Co-expression of FGE is essential for synthesis and secretion of functional arylsulfatase A in a mouse model of metachromatic leukodystrophy . Hum Gene Ther 2005 ; 16 ( 8 ): 926-936 .
- 8) Tanabe H , Miyake K , Shimada T : HIV-mediated expression of Btk in hematopoietic stem cells is not sufficient to restore B cell function in X-linked immunodeficient mice . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 4 ): 203-212 .
- 9) Li L<sup>1)</sup>, Ikezono T<sup>1)</sup>, Watanabe A , Shindo S<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup>, Yagi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otorhinolaryngology ): Expression of full-length Cochlin p63s is inner ear specific . Auris Nasus Larynx 2005 ; 32 ( 3 ): 219-223 .
- 10) Inagaki S<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Hayakawa M<sup>1)</sup>, Fujita A<sup>1)</sup>, Yoshida J<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Kotani M<sup>3)</sup>, Sakuraba H<sup>3)</sup>, Shimada T , Murakami M<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Clinical Genetics, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science ): An asymptomatic heterozygous female with Fabry disease : implications for enzyme replacement therapy . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 387-390 .
- 11) Watanabe M<sup>1)</sup>, Nasu Y<sup>1)</sup>, Kashiwakura Y<sup>2)</sup>, Kusumi N<sup>1)</sup>, Tamayose K<sup>3)</sup>, Nagai A<sup>1)</sup>, Sasano T<sup>4)</sup>, Shimada T , Daida H<sup>2)</sup>, Kumon H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Okayama University Graduate School of Medicine and Dentistry , <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Juntendo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine , <sup>4)</sup> Institute of Molecular Cardiology, Johns Hopkins University School of Medicine ): Adeno-associated virus 2-mediated intratumoral prostate cancer gene therapy : long-term maspin expression efficiently suppresses tumor growth . Hum Gene Ther 2005 ; 16 : 699-710 .
- 12) Watanabe M<sup>1)</sup>, Kashiwakura Y<sup>2)</sup>, Kusumi N<sup>1)</sup>, Tamayose K<sup>3)</sup>, Nasu Y<sup>1)</sup>, Nagai A<sup>1)</sup>, Shimada T , Daida H<sup>2)</sup>, Kumon H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Okayama University Graduate School of Medicine and Dentistry , <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Juntendo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine ): Adeno-associated virus-mediated human IL-10 gene transfer suppresses the development of experimental autoimmune orchitis . Gene Ther 2005 ; 12 : 1126-1132 .
- 13) Miyake K , Inokuchi K<sup>1)</sup>, Miyake N , Dan K<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> The Third Department of Medicine ): Antiangiogenic gene therapy of myeloproliferative disease developed in transgenic mice expressing P230 ber/abl . Gene Ther 2005 ; 12 : 541-545 .
- 14) Kato K<sup>1)</sup>, Miyake K , Igarashi T , Yoshino S<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism ): HIV vector mediated intra-articular expression of angiostatin inhibits progression of collagen-induced arthritis in mice . Rheumatol Int 2005 ; 25 : 522-529 .
- 15) Hayakawa M<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Shimada T , Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Role of bone marrow cells in the healing process of

mouse experimental glomerulonephritis . Ped Research 2005 ; 58 : 323-328 .

- 16) Ogawa R , Mizuno H<sup>1)</sup> , Hyakusoku H<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup>Plastic and Reconstructive Surgery ): Bone Marrow Regeneration using Adipose-derived Stem Cells . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 : 45-47 .
- 17) Orimo H , Shimada T : Effects of phosphates on the expression of tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene and phosphate-regulating genes in short-term cultures of human osteosarcoma cell lines . Mol Cell Biochem 2006 ; 282 : 101-108 .
- 18) Ogawa R : The Importance of Adipose-Derived Stem Cells and Vascularized Tissue Regeneration in the Field of Tissue Transplantation . Current Stem Cell Research and Therapy 2006 ; 1 ( 1 ) : 13-20 .
- 19) Su S , Watanabe A , Yamamoto M , Nakajima E , Miyake K , Shimada T : Mutations in p53 cDNA sequence introduced by retroviral vector . Biochem Biophys Res Commun 2006 ; 340 ( 2 ) : 567-572 .
- 20) 渡邊 淳<sup>1)</sup> , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科 ): 医学部学生を対象とした臨床遺伝に関する理解度調査 : 医学部における臨床遺伝教育の必要性 . 医学教育 2005 ; 36 ( 4 ) : 235-241 .
- 21) 小川 令 , 百束比古<sup>1)</sup> , 渡邊 淳 , 久安早苗 , 池島三与子 , 島田 隆 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): ケロイドの網羅的遺伝子解析 . ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集 2006 ; 11 : 9-14 .

## (2) 総説 :

- 1) Seino Y<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> , Fukumoto H<sup>1)</sup> , Utsumi K<sup>1)</sup> , Hirai Y ( <sup>1)</sup>The First Department of Medicine, Nippon Medical School ): Cardiovascular Manifestations of Fabry Disease and the Novel Therapeutic Strategies . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 254-261 .
- 2) 島田 隆 : わかりやすい遺伝子治療「遺伝子治療とは何か」. 分子リウマチ 2005 ; 2 : 55-64 .
- 3) 島田 隆 : ウイルスペクターの最近の話題 : レトロウイルスペクターによる XSCID の遺伝子治療 . BioClinica 2005 ; 20 : 73-78 .
- 4) 島田 隆 : わかりやすい遺伝子治療「遺伝病の遺伝子治療はどこまで進んだか」. 分子リウマチ 2005 ; 2 : 141-143 .
- 5) 島田 隆 : わかりやすい遺伝子治療「癌は遺伝子治療で治るか」. 分子リウマチ 2005 ; 2 : 223-229 .
- 6) 島田 隆 : わかりやすい遺伝子治療「遺伝子治療の将来」. 分子リウマチ 2005 ; 2 : 297-303 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 小川 令 : 脂肪組織由来幹細胞を用いた組織再生 . 第73回日本医科大学医学会総会 , 2005 . 9 .

### (2) シンポジウム :

- 1) Hirai Y , Shimada T : AAV-Mediated Gene Therapy for Lysosomal Storage Disease . The 2nd Nikko International Symposium 2005 ; AAV and Its Application to Gene Therapy & Regenerative Medicine ( Tochiigi, Japan ) , 2005 . 9 .
- 2) Ogawa R , Hanawa H , Hirai Y , Kurai T , Mizuno H<sup>1)</sup> , Hyakusoku H<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup>Plastic and Reconstructive Surgery ): Potential Utility of Adipose-derived Mesenchymal Stem Cells as a Carrier for ex vivo Gene Therapy -Comparison of Stem Cells Derived from Fat and Bone Marrow- . 第11回 日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .
- 3) Watanabe A , Wada T , Tei K , Hata R , Fukushima Y , Shimada T ( <sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科 , <sup>2)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部 , <sup>3)</sup>東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報プログラム , <sup>4)</sup>神奈川歯科大学生体機能学講座生化学・分子生物学分野 ): A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome by the combination with RNAi mediated inhibition of a mutant allele and transcriptional activation of a normal allele in vascular EDS fibroblast . 第11回 日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .



- 4) Ogawa K, Hirai Y, Zenri K, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>Department of Pediatrics ): Gene Mediated Enzyme Replacement Therapy of Fabry Disease by AAV Serotype 1 Vector . 第11回日本遺伝子治療学会, 2005 . 7 .
- 5) 小川 令, 渡邊 淳, 島田 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学 ): ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断を目的とした遺伝子解析と応用 . 第30回日本外科系連合学会, 2005 . 6 .
- 6) 島田 隆 : 日本における遺伝子治療の現状 ( シンポジウム : 神経科学のためのウイルスベクター ). 第28回日本神経科学大会 Neuroscience2005, 2005 . 7 .
- (3) パネルディスカッション :
- 1) 小川 令, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞による血液系疾患治療戦略 . 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005 . 10 .
- 2) 小川 令 : 座談会 : わが研究室を代表して . 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005 . 10 .
- (4) 一般講演 :
- 1) Ogawa R, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>Plastic and Reconstructive Surgery ): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-derived Stromal Cells . The 50th Plastic Surgery Research Council ( Toronto, Canada ), 2005 . 5 .
- 2) Koike S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Akaishi S<sup>1)</sup>, Wang C<sup>1)</sup>, Watanabe A, Shimada T ( <sup>1)</sup>Plastic and Reconstructive Surgery ): Clinical and Basic Research of Keloid and Hypertrophic Scars . The 8th National Congress of Plastic and Reconstructive Surgery ( Ganzou, China ), 2005 . 5 .
- 3) Evans-Galea MV<sup>1)</sup>, Wielgosz MM<sup>1)</sup>, Hanawa H, Nienhuis AW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Experimental Hematology, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis, TN ): Evaluation of Lentiviral Vectors for Gene Therapy of Wiskott-Aldrich Syndrome . American Society of Gene Therapy 8th Annual Meeting ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 4) Hanawa H, Shimada T : Effects of the cHS4 Insulator Elements on Transgene Expression and Biological Titer of Lentiviral Vector . American Society of Gene Therapy 8th Annual Meeting ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 5) Hanawa H, Persons DA<sup>1)</sup>, Shimada T, Nienhuis AW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Experimental Hematology, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis, TN ): Diminished Mobilization of Self-Inactivating ( SIN ) Lentiviral Vectors Containing Globin Regulatory Elements Compared to Those Containing a Retroviral Long Terminal Repeat . American Society of Gene Therapy 8th Annual Meeting ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 6) Ogawa K, Hirai Y, Zenri-Aihara K, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>Department of Pediatrics ): The Use of AAV serotype 1 Vector for Expression of  $\beta$ -Galactosidase A in Fabry Knockout Mice . American Society of Gene Therapy 8th Annual Meeting ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 7) Takakusaki Y, Hisayasu S, Watanabe A, Adachi K, Shimada T : Co-Expression of FGE Is Essential for Gene Therapy of MLD Based on Cross-Correction of ASA Deficiency . American Society of Gene Therapy 8th Annual Meeting ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 8) Ogawa R, Hanawa H, Hirai Y, Kurai T, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup>Plastic and Reconstructive Surgery ): Potential Utility of Adipose-derived Stromal Cells ( ASCs ) as a Carrier for ex vivo Gene Therapy -Gene Transfer Efficiency of ASCs- . The 8th American Society of Gene Therapy ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 9) Watanabe A<sup>1)</sup>, Wada T<sup>2)</sup>, Tei K<sup>3)</sup>, Hata R<sup>4)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Division of Clinical Genetics ,  
<sup>2)</sup>Division of Clinical and Molecular Genetics, Shinsyu University Hospital , <sup>3)</sup>UPBSB, Department of Biophysics and Biochemistry, School of Science, University of Tokyo , <sup>4)</sup>Department of Biochemistry and Mole-

- cular Biology, Kanagawa Dental College ): A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome by the combination with RNAi mediated inhibition of a mutant allele and transcriptional activation of a normal allele . The 8th American Society of Gene Therapy ( St. Louis, Missouri, USA ), 2005 . 6 .
- 10) Ogawa R , Fujimura J<sup>1)</sup> , Mizuno H<sup>2)</sup> , Hyakusoku H<sup>2)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Pediatrics , <sup>2)</sup> Plastic and Reconstructive Surgery ): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells -The 2nd Report- . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville, Virginia, USA ), 2005 . 9 .
  - 11) Ogawa R , Fujimura J<sup>1)</sup> , Mizuno H<sup>2)</sup> , Hyakusoku H<sup>2)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Pediatrics , <sup>2)</sup> Plastic and Reconstructive Surgery ): Comparison of Stem Cells Harvested from Adipose Tissue and Bone Marrow . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville, Virginia, USA ), 2005 . 9 .
  - 12) Hisayasu S , Kurai T , Takakusaki Y , Hirai Y , Shimada T : Effect of FGE ( Smuf-1 ) co-expression on AAV mediated gene therapy of metachromatic leukodystrophy model mice . The 13th Annual Congress of the European Society of Gene Therapy ( Prague, Czech Republic ), 2005 . 10 .
  - 13) Uchida N , Hanawa H , Inokuchi K<sup>1)</sup> , Takashi S ( <sup>1)</sup> The Third Department of Internal Medicine ): Leukemogenesis of the b2a2 Type p210 BCR/ABL in a Bone Marrow Transplantation Mouse Model Using a Lentivirus Vector . 47th American Society of Hematology Annual Meet ( Atlanta, Georgia, USA ), 2005 . 12 .
  - 14) Hanawa H , Shimada T : Development of an In Vivo Exon Trapping Vector System To Detect Insertional Gene Activation by Lentiviral Vector . 47th American Society of Hematology Annual Meet ( Atlanta, Georgia, USA ), 2005 . 12 .
  - 15) 小川耕一 , 善利克子 , 平井幸彦 , 島田 隆 : AAV serotype 1 vector を用いた Fabry 病への遺伝子治療 . 日本人類遺伝学会第50回大会 ; 東アジア人類遺伝学会連合第5回大会 , 2005 . 9 .
  - 16) 久安早苗 , 高草木幸子 , 足立久美 , 平井幸彦 , 島田 隆 : 異染性ロイコジストロフィー ( MLD ) の遺伝子治療 : スルファターゼ活性化酵素の共発現による活性型 ASA の合成と分泌亢進 . 日本人類遺伝学会第50回大会 ; 東アジア人類遺伝学会連合第5回大会 , 2005 . 9 .
  - 17) 倉井年幸 , 北川 亮 , 久安早苗 , 平井幸彦 , 島田 隆 : AAVベクターによる異染性ロイコジストロフィー ( MLD ) の遺伝子治療 . 日本人類遺伝学会第50回大会 ; 東アジア人類遺伝学会連合第5回大会 , 2005 . 9 .
  - 18) 倉井年幸 , 高草木幸子 , 北川 亮 , 久安早苗 , 平井幸彦 , 島田 隆 : Gene therapy of metachromatic leukodystrophy by AAV vectors . 第48回日本先天代謝異常学会 ; 第5回アジア先天代謝異常学会 , 2005 . 11 .
  - 19) 小川耕一 , 善利克子 , 平井幸彦 , 島田 隆 : AAV serotype 1 ベクターを用いた Fabry 病モデルマウスの遺伝子治療 . 第48回日本先天代謝異常学会 ; 第5回アジア先天代謝異常学会 , 2005 . 11 .
  - 20) Hanawa H , Shimada T : The 1.2kb 5' HS4 insulator element in lentiviral vector LTR deteriorate transducing ability at reverse transcription step . 第11回日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .
  - 21) Kurai T , Kitagawa R , Hisayasu S , Hirai Y , Shimada T : Gene therapy of metachromatic leukodystrophy by AAV vectors . 第11回日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .
  - 22) Takakusaki Y , Hisayasu S , Adachi K , Hirai Y , Shimada T : Co-expression of FGE Is Essential for Over-Expression of Arylsulfatase A in MLD Model Mice . 第11回日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .
  - 23) Orimo H , Shimada T : Effects of phosphates on the expression of tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene and phosphate-regulating genes in human osteosarcoma cell lines . 第6回 ALPS ( アルカリホスファターゼ ) 研究会 , 2005 . 7 .
  - 24) Goseki-Sone M<sup>1)</sup> , Sogabe N<sup>1)</sup> , Fukushi-Irie M<sup>1)</sup> , Mizoi L<sup>1)</sup> , Orimo H , Suzuki T<sup>2)</sup> , Nakamura H<sup>3)</sup> , Orimo H<sup>4)</sup> , Hosoi T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women ' s University , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute for Gerontology , <sup>3)</sup> Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University , <sup>4)</sup> Health

- Science University, <sup>5)</sup> Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Analysis of the single-nucleotide polymorphism in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene associated with bone mineral density. 第6回 ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会, 2005. 7.
- 25) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科): 色覚特性 (色盲) を医学教育の中でどのように取り入れていくか: 高校教科書の現状と日本医科大学での試み. 第29回遺伝カウンセリング学会, 2005. 5.
- 26) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 畑隆一郎<sup>2)</sup>, 程久美子<sup>3)</sup>, 居作和人<sup>2)</sup>, 和田敬仁<sup>4)</sup>, 福嶋義光<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 神奈川歯科大学学生体機能学講座生化学・分子生物学分野, <sup>3)</sup> 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報プログラム, <sup>4)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部): 血管型 Ehlers-Danlos syndrome (EDSIV) に対する遺伝子治療方略の検討. 第37回日本結合組織学会学術集会, 2005. 5.
- 27) 折茂英生, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup> 教育推進室): 医学教育における栄養学教育の現状. 第59回日本栄養・食糧学会大会, 2005. 5.
- 28) 五関 - 曾根正江<sup>1)</sup>, 曾我部夏子<sup>1)</sup>, 福士 - 入江真理子<sup>1)</sup>, 溝井レナ<sup>1)</sup>, 折茂英生, 鈴木隆雄<sup>2)</sup>, 中村浩之<sup>3)</sup>, 折茂 肇<sup>4)</sup>, 細井孝之<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 日本女子大大学院・栄養学, <sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所, <sup>3)</sup> 学習院大・理・化学, <sup>4)</sup> 健康科学大, <sup>5)</sup> 東京都老人医療センター・内分泌科): 骨密度と関連する臓器非特異型アルカリホスファターゼ (TNSALP) 遺伝子多型の同定とその発現解析. 第59回日本栄養・食糧学会大会, 2005. 5.
- 29) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 平井幸彦, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科): 医学部での臨床遺伝教育: 日本医科大学の試み. 第12回日本遺伝子診療学会, 2005. 7.
- 30) 折茂英生, 島田 隆: ヒト骨肉腫細胞株短期培養時のリン酸による組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子とリン酸代謝関連遺伝子の発現誘導. 第23回日本骨代謝学会学術集会, 2005. 7.
- 31) 五関 - 曾根正江<sup>1)</sup>, 曾我部夏子<sup>1)</sup>, 福士 - 入江真理子<sup>1)</sup>, 折茂英生, 鈴木隆雄<sup>2)</sup>, 中村浩之<sup>3)</sup>, 折茂 肇<sup>4)</sup>, 細井孝之<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 日本女子大大学院・栄養学, <sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所, <sup>3)</sup> 学習院大・理・化学, <sup>4)</sup> 健康科学大, <sup>5)</sup> 東京都老人医療センター・内分泌科): 高齢女性における骨密度と関連する臓器非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子多型の同定とその発現解析. 第23回日本骨代謝学会学術集会, 2005. 7.
- 32) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 平井幸彦, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科): 日本医科大学における臨床遺伝教育の試み: 医学教育のなかで臨床遺伝をどのように位置づけるか. 第37回医学教育学会, 2005. 7.
- 33) 倉井年幸, 北川 亮, 久安早苗, 平井幸彦, 島田 隆: AAV Vector による異染性ロイコジストロフィー (MLD) の遺伝子治療. 第50回日本人類遺伝学会, 2005. 9.
- 34) 三宅弘一, Karlsson S<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup> Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University): Diamond-Blackfan 貧血のモデル作製とその分子生物学的機序の検討. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会 総会, 2005. 9.
- 35) 小川 令, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 島田 隆, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 小児科学, <sup>2)</sup> 形成外科学): 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた造血器疾患治療の試み. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 36) 小川 令, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup> 小児科学, <sup>2)</sup> 形成外科学): 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み - 第2報 -. 第8回 日本組織工学会, 2005. 9.
- 37) 小川 令, 渡邊 淳, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup> 小児科学, <sup>2)</sup> 形成外科学): ラットとマウス由来脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析. 第8回 日本組織工学会, 2005. 9.
- 38) 小川 令, 田口和宏, 右田 真, 島田 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 形成外科学): GFPキメラマウスを用いた骨折治療における骨髄細胞の役割の検討. 第8回日本組織工学会, 2005. 9.
- 39) 小川 令, 塙 秀樹, 平井幸彦, 倉井年幸, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 水野博司<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup> 小児科学, <sup>2)</sup> 形成外科学, <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討. 第8回日本組織工学会, 2005. 9.

- 40) 小川 令, 渡邊 淳, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>形成外科学): 脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析: マウスとラットの比較検討. 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 41) 小川 令, 田口和宏, 右田 真, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>形成外科学): 骨折治癒における骨髄細胞の役割の検討: GFPキメラマウスを用いて. 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 42) 小川 令, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>形成外科学): 脂肪組織と骨髄における間葉系幹細胞の比較検討. 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 43) 田口和宏, 小川 令, 右田 真, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>整形外科学): Green Fluorescence Protein (GFP) キメラマウスの骨折治癒過程における骨髄細胞の関与. 第20回日本整形外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 44) 倉井年幸, 久安早苗, 北川 亮, 平井幸彦, 島田 隆: AAVベクターによる異染性ロイコジストロフィー (MLD) の遺伝子治療. 第11回日本ライソゾーム病研究会, 2005. 12.

## 7. 薬理学講座

### 研究概要

当講座では、精神神経疾患病態の解明を通して、新しい作用機序に基づいた薬物開発の基盤を探索することを大きなテーマとして掲げ、分子生物学、電気生理学、動物行動学、画像解析法などを駆使し、幅広く研究している。17年度の研究成果は以下のとおりである。

#### 1. 動物を用いた研究

- a) マウスの飼育環境を操作することによって、行動量が増加し、これに伴って海馬におけるシナプス伝達が増加することを見出した。また、個体の行動量が海馬シナプスにおけるドパミン感受性と相関することも明らかとなった。
- b) 小脳の最終出力系細胞である小脳核細胞において、セロトニン受容体を介した修飾作用が見出され、この作用は発達依存的に変化することがわかった。
- c) 神経因性疼痛モデル動物において、グリア細胞由来神経栄養因子 (GDNF) による疼痛緩和効果の分子機構を探索するためにDNAアレイ解析を行った。その結果、細胞接着因子の1つがGDNFによる疼痛緩和効果に伴って発現変化し、実際にこの分子の発現を抑えるとGDNFの効果が見られなくなることを確認した。
- d) サルタキニン受容体をクローニングし、その薬理的性質を検討した結果、ヒト型受容体と同様のリガンド親和性を持つことが明らかとなった。脳内分布では、NK-1受容体mRNAが線条体に非常に豊富に存在した。さらに、放射線医学総合研究所と共同研究を行い、サル脳のNK-1受容体をin vivoでPET画像化し、mRNA分布との一致を確認した。
- e) マウス脂肪組織由来間葉系幹細胞を神経系細胞へ分化誘導できることを、電子顕微鏡の形態観察および免疫細胞染色において確認した。

#### 2. ヒトを対象にした研究

- a) ヒトを用いた機能的MRI実験において、注意機能および情動機能を検討する課題を作成し、責任部位の活動を検討した。健康人からデータを蓄積した後、精神神経疾患での検討を開始している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Saitow F, Suzuki H, Konishi S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Waseda University): -Adrenoceptor-mediated long-term up-regulation of the release machinery at rat cerebellar GABAergic synapses. *J. Physiol* 2005; 565: 487-502.
- 2) Fujimura J, Nagano M, Suzuki H: Differential expression of GABA<sub>A</sub> receptor subunits in the distinct nuclei of the rat amygdala. *Mol. Brain Res* 2005; 138: 17-23.
- 3) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H (<sup>1)</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pediatrics): Neural differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice. *Biochem. Biophys. Res. Commun* 2005; 333: 116-121.
- 4) Rusakov D<sup>1)</sup>, Saitow F, Lehre K<sup>2)</sup>, Konishi S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>University College London, UK, <sup>2)</sup>University of Oslo, Norway, <sup>3)</sup>Waseda University): Modulation of presynaptic Ca<sup>2+</sup> entry by AMPA receptors at individual GABAergic synapses in the cerebellum. *J. Neurosci* 2005; 25: 4930-4940.
- 5) Ishigami S<sup>1)</sup>, Nakajima A<sup>1)</sup>, Tanno M<sup>1)</sup>, Matsuzaki T<sup>1)</sup>, Suzuki H, Yoshino S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Joint Disease and Rheumatism): Effects of mirthful laughter on growth hormone, IGF-1 and substance P in patients with rheumatoid arthritis. *Clin. Exp. Rheumatol* 2005; 23: 651-657.

- 6) Iguchi T<sup>1)</sup>, Miyazawa K<sup>1)</sup>, Asada M, Gotoh A<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>2)</sup>, Ohyashiki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Medical University, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University): Combined treatment of leukemia cells with vitamin K2 and 1,25-dihydroxy vitamin D<sub>3</sub> enhances monocytic differentiation along with becoming resistant to apoptosis by induction of cytoplasmic p21CIP1. *Int. J. Oncol* 2005; 27: 893-900.
- 7) Takahashi H<sup>1,2)</sup>, Yahata N, Koeda M<sup>3)</sup>, Takano A<sup>1)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Suhara T<sup>1)</sup>, Okubo Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Asai Hospital, <sup>3)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>4)</sup> Dept. of Neuropsychiatry): Effects of dopaminergic and serotonergic manipulation on emotional processing: a pharmacological fMRI study. *Neuroimage* 2005; 27: 991-1001.
- 8) Nagano M, Saitow F, Haneda E, Konishi S<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>2)</sup>, Suzuki H (<sup>1)</sup> Waseda University, <sup>2)</sup> Kyoto University): Distribution and pharmacological characterization of primate NK-1 and NK-3 tachykinin receptors in the central nervous system of the rhesus monkey. *Br. J. Pharmacol* 2006; 147: 316-323.
- 9) Fujimura J, Shima Y<sup>1)</sup>, Arai H<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Katsushika Red Cross Hospital, <sup>2)</sup> Juntendo University School of Medicine, <sup>3)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>4)</sup> Dept. of Pediatrics): Management of a suprasellar arachnoid cyst identified using prenatal ultrasonography. *J. Clin. Ultrasound* 2006; 34: 92-94.

(2) 総説:

- 1) 八幡憲明, 大久保善朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>精神医学): 感情障害(気分障害)と帯状回. *Clin. Neurosci* 2005; 23: 1304-1306.
- 2) 大久保善朗<sup>1)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 八幡憲明(<sup>1)</sup>精神医学): 精神疾患と脳画像所見: 病態把握に対する検査所見の結びつき. *医学と薬学* 2005; 54: 759-764.
- 3) 鈴木秀典: 新しい哺乳類タキキニンファミリー hemokinin-1 と endokinins. *アレルギーと神経ペプチド* 2006; 2: 24-28.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) Konishi S<sup>1)</sup>, Ono Y<sup>1)</sup>, Zhou XM<sup>1)</sup>, Saitow F (<sup>1)</sup> Waseda University): GABA-Mediated inhibitory synapses in the cerebellum: They are well modulated. The 6th International Symposium on "Global Renaissance by Green Energy Revolution" (The 21st Century COE Program)(Nagaoka, Japan), 2005. 12.

(2) ワークショップ:

- 1) 浅田 穰, 水谷修紀<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, Demenico D<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京医歯大院, <sup>2)</sup>Inst. Nazl. Tumori, Italy): 細胞質保持タンパクBRAP2/IMPの機能. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.

(3) 一般講演:

- 1) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H (<sup>1)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Pediatrics): Neural Differentiation of Adipose-Derived Stem Cells Harvested from GFP Transgenic Mice and Rats. The 3rd International Fat Applied Technology Society (Charlottesville, USA), 2005. 9.
- 2) Ogawa R<sup>1)</sup>, Fujimura J, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells: The 2nd Report. The 3rd International Fat Applied Technology Society (Charlottesville, USA), 2005. 9.
- 3) Ogawa R<sup>1)</sup>, Fujimura J, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Comparison of Stem Cells Harvested from Adi-

- pose Tissue and Bone Marrow .The 3rd International Fat Applied Technology Society( Charlottesville, USA ), 2005 . 9 .
- 4) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup>Dept. of Pediatrics ): Adipose-derived stem cells from GFP transgenic mice and rats differentiated into neural cells . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC. USA ), 2005 . 11 .
  - 5) Ando K<sup>1,2)</sup>, Maeda J<sup>2)</sup>, Inaji M<sup>2)</sup>, Haneda E , Suhara T<sup>2)</sup>, Ishii H<sup>2)</sup>, Tanioka Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Central Institute for Experimental Animals , <sup>2)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Neurobehavioral protection of single dose deprenyl against MPTP toxicity in marmosets . Society for Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, DC. USA ), 2005 . 11 .
  - 6) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Migita M<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup>Dept. of Pediatrics ): Multilineage Differentiation of Adipose-Derived Stem Cells Harvested from GFP Transgenic Animals . The 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research ( Tokyo, JAPAN ), 2005 . 11 .
  - 7) 小林克典, 鈴木秀典 : Dopamine-induced potentiation of the hippocampal mossy fiber synaptic transmission . 第83回日本生理学会大会, 2006 . 3 .
  - 8) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>小児科学 ): マウス・ラット脂肪組織由来間葉系幹細胞を神経系へ分化誘導する . 第8回日本組織工学会, 2005 . 9 .
  - 9) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み -第2報- . 第8回日本組織工学会, 2005 . 9 .
  - 10) 小川 令<sup>1)</sup>, 塙 秀樹<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 倉井年幸<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 , <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討 . 第8回日本組織工学会, 2005 . 9 .
  - 11) 小川 令<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): ラットとマウス由来脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析 . 第8回日本組織工学会, 2005 . 9 .
  - 12) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた造血管疾患治療の試み . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
  - 13) 小川 令<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析-マウスとラットの比較検討- . 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005 . 10 .
  - 14) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): 脂肪組織と骨髄における間葉系幹細胞の比較検討 . 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005 . 10 .
  - 15) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 鈴木秀典, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導 . 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005 . 10 .
  - 16) 野村豪彦, 鈴木秀典, 海野雅浩<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京医歯大院 ): 急性持続性疼痛におけるKCC2蛋白発現の経時的変化 . 第33回日本歯科麻酔学会総会, 2005 . 10 .
  - 17) 浅田 穰, 水谷修紀<sup>1)</sup>, Delia D<sup>2)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup>東京医歯大院 , <sup>2)</sup>Inst. Nazl. Tumori, Italy ): BRAP2は細胞質保持蛋白である . 第28回日本分子生物学会年会, 2005 . 12 .
  - 18) 永野昌俊, 齋藤文仁, 羽田栄輔, 小西史朗<sup>1)</sup>, 林 基治<sup>2)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup>早稲田大学 , <sup>2)</sup>京都大学 ): マカケザル tachykinin 受容体 NK1, NK3のクローニングと中枢での発現分布 . 第79回日本薬理学会年会, 2006 . 3 .
  - 19) 野村豪彦, 坂井 敦, 永野昌俊, 海野雅浩<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup>東京医歯大院 ): 急性疼痛における陽イオン - クロライド共輸送体の経時的発現変化 . 第79回日本薬理学会年会, 2006 . 3 .

- 20) 安東 潔<sup>1,2)</sup>, 稲次基希<sup>2)</sup>, 前田 純<sup>2)</sup>, 羽田栄輔, 樋口真人<sup>2)</sup>, 須原哲也<sup>2)</sup>, 石井 一<sup>1)</sup>, 谷岡功邦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>実中研, <sup>2)</sup>放医研): マーモセットのdeprenylによる部分的神経保護作用とパーキンソニズムに対する明らかな軽減効果. 第79回日本薬理学会年会, 2006. 3.
- 21) 前田 純<sup>1)</sup>, 樋口真人<sup>1)</sup>, 稲次基希<sup>1)</sup>, 羽田栄輔, 季 斌<sup>1)</sup>, 岡内 隆<sup>1)</sup>, 須原哲也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放医研): エタノー  
ル脳内局所注入モデルにおける末梢性ベンゾジアゼピン受容体の細胞発現分布. 第79回日本薬理学会年会,  
2006. 3.
- 22) 齋藤文仁, 村野光和, 鈴木秀典: 小脳GABA作動性シナプスの発達変化. 第83回日本生理学会大会, 2006. 3.
- 23) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 鈴木秀典(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>小児科学): 脂肪  
組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導: 第2報. 第5回日本再生医療学会, 2006. 3.



## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

基礎的な研究としては、肺、腎、心、移植病理を中心に行なわれた。肺では、間質性肺炎における Foxf-1, MMP, TIMP の関与、間質性肺炎における MMP inducer の役割、DAD の筋線維芽細胞、腎では、糸球体腎炎修復と骨髄細胞、糸球体のネスチン発現、尿細管基底膜・硝子滴変性の電顕、心では、弁疾患と石灰化、ペースメーカー電極端子接触部の組織変化、移植では、移植組織における血管病態、T細胞と腎移植、慢性移植腎傷害の間質毛細血管、肝移植の細胞性・液性免疫などが報告された。方法論として、免疫組織化学における抗原賦活法が報告された。

診断病理学に関しては、臨床医学と協力して「薬剤性肺障害の評価、治療」、「急性肺障害/急性呼吸窮迫症候群の診療」、「特発性間質性肺炎の診断・治療」の各ガイドラインが発表された。また、特発性肺線維症：診断と治療、肺気腫病変の病理、肺がん取り扱い規約と細胞診、腎病理標準化に基づく標本の見方、移植臓器拒絶の病理、異種移植の現状と展望、などが総説、特別講演などで発表された。これらは、社会的ニーズに沿ったものであり、今後、ますます病理医の参加が必要となろう。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も行われた。胃腸間質性腫瘍、間質性肺炎、肺基底細胞癌、カルチノイド、肺癌、肺内線維性腫瘍、炎症性偽腫瘍、肺動脈血栓塞栓症、MALT リンパ腫、細胞診、腎糸球体細胞、レクチン、紫斑病性腎炎、ANCA 関連疾患、糖尿病性腎炎、ネフローゼ症候群、混合結合織病、心移植と腎障害、内耳の chchlin、NK 細胞などの報告が行われた。また、臨床各科との症例検討会が行われ、その中から、胃癌術後の嚥下障害と紅斑、SLE・高血圧・敗血症、肺気腫・巨大のう胞と気胸、などがまとめられた。

学会発表はされたが、論文化されていないものが目立つ。社会に還元する必要があることを肝に銘じたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Yoshihiro<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Inoue K<sup>1)</sup>, Wakamatsu K, Sugisaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): Occurrence of hyaline droplets in renal biopsy specimens : an ultrastructural study . Med Mol Morphol 2005 ; 38 ( 1 ) : 63-71 .
- 2) Hayakawa M<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>生化学第2 ): Role of bone marrow cells in the healing process of mouse experimental glomerulonephritis . Pediatric Research 2005 ; 58 ( 2 ) : 323-328 .
- 3) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Wakamatsu K, Inoue K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): Reduplicated basal lamina of the peritubular capillaries in renal biopsy specimens . J Submicrosc Cytol Pathol 2005 ; 37 ( 3-4 ) : 305-311 .
- 4) Li Q<sup>1)</sup>, Nakadai A<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Morimoto K<sup>2)</sup>, Ueda A<sup>3)</sup>, Krensky Alan M<sup>4)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup>大阪大学医学部社会環境医学, <sup>3)</sup>熊本大医学部予防環境医学, <sup>4)</sup>Stanford 大免疫学・移植生物学 ): Dimethyl 2, 2-dichlorovinyl phosphate ( DDVP ) markedly decreases the expression of perforin, granzyme A and granzyme B in human NK-92Cl cell line . Toxicology 2005 ; 213 ( 5 ) : 107-116 .
- 5) Ogano M<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Fukuma N<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Miyagi Y<sup>2)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Kitamura H ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup>Second Department of Surgery ): Sudden death in a case of cardiac amyloidosis immediately after pacemaker implantation for complete atrioventricular block . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 285-289 .

- 6) Ikezono T<sup>1)</sup>, Shindo S<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Li L<sup>1)</sup>, Tomiyama S<sup>1)</sup>, Takumida M<sup>1)</sup>, Ruby Pawankar<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>1)</sup>, Saito A<sup>1)</sup>, Yagi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学): Expression of cochlin in the vestibular organ of Rats. *J Otorhinolaryngol Relat Spec* 2005 ; 67 ( 12 ): 252-258 .
- 7) Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>, Yamamoto S<sup>1)</sup>, Lavelle JM<sup>1)</sup>, Barth RN<sup>1)</sup>, Robson SC<sup>2)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, <sup>2)</sup>Center for Immunobiology, Beth Israel Deaconess Medical Center/Harvard Medical School, Boston, MA, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA ): Thrombotic microangiopathic glomerulopathy in human decay accelerating factor-transgenic swine-to-baboon kidney xenografts. *J Am Soc Nephrol* 2005 ; 16 : 2732-2745 .
- 8) Bashuda H<sup>1)</sup>, Kimikawa M<sup>2)</sup>, Seino K<sup>3)</sup>, Kato Y<sup>2)</sup>, Ono F<sup>4)</sup>, Shimizu A, Yagita H<sup>1)</sup>, Teraoka S<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women ' s Medical University, <sup>3)</sup>Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), Research Center for Allergy and Immunology, Laboratory for Immune Regulation, <sup>4)</sup>The Corporation for Production and Research of Laboratory Primates ): Renal allograft rejection is prevented by adoptive transfer of anergic T cells in nonhuman primates. *J Clin Invest* 2005 ; 115 : 1896-1902 .
- 9) Inagi R<sup>1,2)</sup>, Nangaku M<sup>1,2)</sup>, Usuda N<sup>3)</sup>, Shimizu A, Onogi H<sup>1)</sup>, Izuhara Y<sup>1)</sup>, Nakazato K<sup>1)</sup>, Ueda Y<sup>1)</sup>, Oishi H<sup>4)</sup>, Takahashi S<sup>4)</sup>, Yamamoto M<sup>4)</sup>, Suzuki D<sup>5)</sup>, Kurokawa K<sup>1)</sup>, Van Ypersele De Strihou C<sup>6)</sup>, Miyata T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Molecular and Cellular Nephrology, Institute of Medical Sciences, Tokai University, <sup>2)</sup>Division of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo School of Medicine, <sup>3)</sup>Department of Anatomy, Fujita Health University School of Medicine, <sup>4)</sup>Department of Anatomy and Embryology and Center for Tsukuba Advanced Research Alliance, The University of Tsukuba, <sup>5)</sup>Department of Internal Medicine, Tokai University School of Medicine, <sup>6)</sup>Service de Nephrologie, Universite Catholique de Louvain ): Novel serpinopathy in rat kidney and pancreas induced by overexpression of meginin. *J Am Soc Nephrol* 2005 ; 16 : 1339-1349 .
- 10) Ishii Y<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>2)</sup>, Kubota K<sup>2)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Teraoka S<sup>1)</sup>, Shimizu A (<sup>1)</sup>Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo women ' s Medical University, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Dokkyo University School of Medicine ): Injury and progressive loss of peritubular capillaries in the development of chronic allograft nephropathy. *Kidney Int* 2005 ; 67 : 321-332 .
- 11) Ishii Y<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>2)</sup>, Kubota K<sup>2)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Teraoka S<sup>1)</sup>, Shimizu A (<sup>1)</sup>Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo women ' s Medical University, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Dokkyo University School of Medicine ): Loss of peritubular capillaries in the development of chronic allograft nephropathy. *Transplant Proc* 2005 ; 37 : 981-983 .
- 12) Sawada T<sup>1)</sup>, Shimizu A, Kubota K<sup>1)</sup>, Fuchinoue S<sup>2)</sup>, Teraoka S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Dokkyo University School of Medicine, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo women ' s Medical University ): Lobular damage caused by cellular and humoral immunity in liver allograft rejection. *Clin Transplant* 2005 ; 19 : 110-114 .
- 13) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 松本亜紀<sup>3)</sup>, 福田 悠, 山岸峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>4)</sup>, 岸田浩<sup>5)</sup>, 山岡淳一<sup>6)</sup>, 功刀しのぶ, 根井貴仁<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>内科学第4, <sup>4)</sup>内科学第3, <sup>5)</sup>内科学第1, <sup>6)</sup>皮膚科学: 胃癌術後に嚥下障害と顔面・手指に紅斑を呈した1例. *内科* 2005 ; 95 ( 2 ): 350-361 .
- 14) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 柏木哲也<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 北村博司, 栗原 怜<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2 ): 極早期に発見し得た MPO-ANCA 関連腎炎の1例. *日腎会誌* 2005 ; 47 ( 5 ): 536-539 .

- 15) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 宮元亮子, 角田美佐子, 土屋玲子, 小原 信, 福田 悠, 津久井拓<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>3)</sup>, 坏 宏一<sup>4)</sup>, 高山守正<sup>4)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>, 宮本正章<sup>4)</sup>, 福岡長知<sup>4)</sup>, 白杵二郎<sup>5)</sup>, 藤原ゆり, 川本雅司, 北村博司 ( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup> 附属病院病理部, <sup>3)</sup>小児科学, <sup>4)</sup>内科学第1, <sup>5)</sup>内科学第4): 全身性強皮症の経過中に肺高血圧をきたし敗血症にて死亡した1例. 内科 2005 ; 96 (2): 345-361 .

(2) 綜説 :

- 1) Shimizu A , Colvin Rb<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School ): Pathological features of antibody-mediated rejection . Current Drug Targets-Cardiovas & Haemat Dis 2005 ; 5 : 199-214 .
- 2) Tatsuguchi A , Seo T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>2)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Fukuda Y , Sugisaki Y<sup>3)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology ): Clinical significance of prostaglandin E synthase expression in colorectal cancer . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (1): 38-41 .
- 3) Harada A<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Kawashima T<sup>1)</sup>, Yutaka E<sup>1)</sup>, Kawamoto M , Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery II ): Expression of EMS-1/Cortactin and molecular characterization in lung adenocarcinoma . Cytometry Research 2006 ; 16 (1): 55-59 .
- 4) 北村博司: 硬化病変をいかに鑑別するか. 腎と透析 2005 ; 59 (1): 27-32 .
- 5) 城 謙輔<sup>1)</sup>, 北村博司, 今澤俊之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構千葉東病院臨床研究センター ): ANCA 関連腎炎の病理・病態生理 病理. 最新医学 2005 ; 24-36 .
- 6) 中山智子, 福田 悠: 特発性肺線維症: 診断と治療の進歩. I. 診断と病理. 4. 病理. 日本内科学会雑誌 2005 ; 94 (6): 1044-1051 .
- 7) 北村博司: 2次性巣状系球体硬化症の病理所見と鑑別. 腎と透析 2005 ; 59 : 436-438 .
- 8) 城 謙輔<sup>1)</sup>, 小池健太郎<sup>1)</sup>, 今澤俊之<sup>1)</sup>, 北村博司 ( <sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構千葉東病院臨床研究センター ): ネフローゼ症候群のすべて; 膜性増殖性系球体腎炎の鑑別診断. 腎と透析 2005 ; 59 : 378-381 .
- 9) 三井亜希子, 清水 章: ネフローゼ症候群のすべて: C1q腎症. 胃と透析 2005 ; 59 : 472-477 .

(3) 症例報告 :

- 1) Hirai K<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Kawamoto M ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): Basaloid carcinoma of the lung . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005 ; 53 (5): 263-265 .
- 2) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Fukuda Y , Watanabe M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): Spurt bleeding from a calcificated gastrointestinal stromal tumor in the stomach . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 (5): 304-307 .
- 3) 津田香織<sup>1)</sup>, 小林朋子<sup>1)</sup>, 橋本 修<sup>1)</sup>, 馬島 徹<sup>1)</sup>, 八田善弘<sup>2)</sup>, 竹内 仁<sup>2)</sup>, 沢田海彦<sup>2)</sup>, 赤柴恒人<sup>1)</sup>, 堀江孝至<sup>1)</sup>, 中山智子 ( <sup>1)</sup> 日本大学医学部呼吸器内科, <sup>2)</sup> 同医学部呼血液・膠原病内科 ): 急性転化を示した慢性骨髄性白血病に肺胞蛋白症を合併した1例. 呼吸 2005 ; 24 (6): 535-539 .
- 4) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 重盛朋子<sup>1)</sup>, 渥美健一郎<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 篠田欣也<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 中山智子 ( <sup>1)</sup> 内科学第4 ): 緊張性気胸様変化を呈した肺気腫・巨大肺嚢胞の1例. The lung perspective 2005 ; 13 (3): 2-6 .

(4) 研究報告書 :

- 1) 中山智子, 福田 悠: Microdissection と real time PCR 法を用いた間質性肺炎肺組織における Foxf1, FGF-10, FGF-R, MMP-1. 7 の発現についての検討. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患調査研究班 平成16年度研究報告書 2005 ; pp77-80 .

(5) 追加分原著 :

- 1) 米山剛一<sup>1)</sup>, 山口昌子<sup>1)</sup>, 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 川本雅司, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 同病理部): 卵巣原発カルチノイド症例の臨床病理学的検討. 日産婦 東京地方部会誌 2004 ; 53 (4) : 544-549 .

著 書

- 1) 北村博司 : [ 分担 ] 糖尿病性腎症の組織分類 . 腎生検病理診断標準化への指針 ( 日本腎臓学会・腎病理診断標準化委員会 ), 2005 ; pp167-174 , 東京医学社 .
- 2) 北村博司, 清水 章 : [ 分担 ] 生体腎移植が行われた Alport 症候群 . 移植腎臨床病理アトラス カルシンニユーリンインヒビターと腎 ( 両角國男, 山口 裕 ), 2005 ; pp252-257 , 東京医学社 .
- 3) 北村博司, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): [ 分担 ] 正常尿細管と間質 . 腎疾患の病理アトラスー尿細管間質疾患と血管疾患の WHO 分類 ( 重松秀一/城 謙輔/田口 尚 ), 2005 ; pp15-21 , 東京医学社 .
- 4) 清水 章 : [ 分担 ] 非典型的な尿細管間質疾患 . 腎疾患の病理アトラスー尿細管間質疾患と血管疾患の WHO 分類 ( 重松秀一/城 謙輔/田口 尚 ), 2005 ; pp167-178 , 東京医学社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 清水 章 : 異種移植の現状と展望 . 第9回腎移植病理研究会, 2005 . 7 .

(2) 招待講演 :

- 1) 福田 悠 : 肺気腫病変の病理 . 第55回日本呼吸器学会九州地方会総会・第57回日本結核病学会九州地方会総会, 2005 . 9 .

(3) 教育講演 :

- 1) 川本雅司 : 肺癌取扱い規約に沿った細胞診 . 日臨細胞学会東京都細胞検査士研修会, 2005 . 6 .
- 2) 清水 章 : 腎病理標準化に基づく腎組織標本の見方, 糸球体病変, 細胞反応から見た糸球体病変 . 第35回日本腎臓学会東部学術大会, 2005 . 10 .
- 3) 川本雅司 : 肺癌取扱い規約 : 第6版の解説 . 東京都細胞診従事者講習会, 2005 . 11 .

(4) シンポジウム :

- 1) 並松茂樹<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 尾崎正行<sup>1)</sup>, 若松恭子, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 目寝気組織化学 ( 酵素抗体法 ) において用いられる抗原賦活剤の考察 . 第37回日本臨床分子形態学会総会, 2005 . 9 .

(5) ワークショップ :

- 1) 小橋陽一郎<sup>1)</sup>, 北市正則<sup>2)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 天理よろづ相談所病院医学研究所病理, <sup>2)</sup> 国立病院機構・近畿中央胸部疾患センター・研究検査科): 肺のトピカルな病理診断アルゴリズム . 日本病理学会総会, 2005 . 4 .

(6) 一般講演 :

- 1) Shimizu A , Hisashi Y<sup>1)</sup>, Kuwaki K<sup>1)</sup>, Tseng Y-L<sup>1)</sup>, Dor F<sup>1)</sup>, Houser S<sup>2)</sup>, Wong BS<sup>1)</sup>, Schuurman H-J<sup>3)</sup>, Robson SC<sup>4)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Cooper DKC<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA , <sup>3)</sup> Immerge BioTherapeutics Inc . , Boston, MA , <sup>4)</sup> Center for Immunobiology, Beth Israel Deaconess Medical Center/Harvard Medical School, Boston, MA ) : Thrombotic microangiopathy due to humoral rejection in cardiac xenografts from a1, 3-galactosyltransferase gene-knockout ( GalT-KO ) pigs in baboons . American Transplant Congress 2005 , 2005 . 5 .
- 2) Odajima N<sup>1)</sup>, Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Nasuhara Y<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Fukuda Y , Senior RM<sup>2)</sup>, Nishimura M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Medicine, Hokkaido University School of Medicin , <sup>2)</sup> Division of Pulmonary Biology, Cincinnati

- Children's Hospital Medical Center): Basigin/Extracellular Matrix Metalloproteinase Inducer (EMMPRIN) in Association with Matrix Metalloproteinases (MMPs) in Human Interstitial Pneumonia. Conf Am Thoracic Society, 2005. 5.
- 3) Shimizu A, Hisashi Y<sup>1)</sup>, Kuwaki K<sup>1)</sup>, Tseng Y-L<sup>1)</sup>, Dor F<sup>1)</sup>, Houser S<sup>2)</sup>, Wong BS<sup>1)</sup>, Schuurman H-J<sup>3)</sup>, Robson SC<sup>4)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Cooper DKC<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, <sup>3)</sup> Immerge BioTherapeutics Inc., Boston, MA, <sup>4)</sup> Center for Immunobiology, Beth Israel Deaconess Medical Center/Harvard Medical School, Boston, MA): Thrombotic microangiopathy associated with humoral rejection in cardiac xenografts from a1, 3-galactosyltransferase gene-knockout (GalT-KO) pigs in baboons. 8th International Xenotransplantation Congress, 2005. 9.
- 4) Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>, Kumagai N<sup>1)</sup>, Kamano C<sup>2)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, <sup>2)</sup> 内科学第2, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA): Transplanted kidney is more sensitive in hyperglycemic injury than native kidney in diabetic miniature swine. Congress of the American Society of Nephrology 2005, 2005. 10.
- 5) Masuda Y, Shimizu A, Mii A, Fujita E, Ishizaki M, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): Inhibition of glomerular capillary repair in experimental proliferative glomerulonephritis is associated with the prolongation of GN with glomerular sclerosis. Congress of the American Society of Nephrology 2005, 2005. 10.
- 6) Shimizu A, Fujita E, Masuda Y, Ishizaki M, Iino Y<sup>1)</sup>, Y S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): The renal insufficiency during CyA administration after cardiac transplantation. The 2nd Japanese-Korean Joint Slide Conference of Renal Pathology, 2005. 11.
- 7) 恩田直美<sup>1)</sup>, 竹間友紀<sup>1)</sup>, とち窪寛<sup>1)</sup>, 羽田圭佑<sup>1)</sup>, ジュラット トホティ, 富樫真由子, 塚田克也<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 医学部学生, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 肺動脈血栓塞栓症の吸引療法に関する臨床病理学的検討. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 8) 富樫真由子, 田村浩一<sup>1)</sup>, 益田幸成, 福田 悠(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 各種大動脈弁疾患における弁膜石灰沈着像の比較検討. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 9) 中山智子, 田村浩一<sup>1)</sup>, 川本雅司, 福田 悠(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 発生母地が異なることが示唆されたいわゆる Intrapulmonary localized fibrous tumor (ILFT) の2例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 10) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 川本雅司, 横山宗伯<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院病理部, <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>4)</sup> 病理学第2): 肺大細胞性神経内分泌癌における免疫組織学的特徴; 肺小細胞癌, 大細胞癌, 低分化腺癌との比較検討. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 11) 石崎正通, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 北村博司, 益田幸成, 山中宣昭, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 腎系球体における Nestin の発現. 第94回 日本病理学会総会, 2005. 4.
- 12) 武内 進<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 中山智子, 福田 悠, 山脇 功<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第4, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学第二病院内科): Common variable immunodeficiency syndrome, ITPの経過中に肺浸潤影が出現し, 肺原発 MALT リンパ腫と診断された1例. 日本呼吸器学会関東地方会, 2005. 5.
- 13) 益田幸成, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): UUUモデルを用いた Thy-1腎炎への影響について. 第48回日本腎臓学会総会, 2005. 6.
- 14) 榎本 豊<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第2, <sup>2)</sup> 放射線医学): 炎症性偽腫瘍に非小細胞肺癌が混在した1例. 第143回日本肺癌学会関東支部会, 2005. 6.

- 15) 徳留さと<sup>1)</sup>, 宇都宮保典<sup>1)</sup>, 小池健太郎<sup>1)</sup>, 横尾 隆<sup>1)</sup>, 小比木英男<sup>1)</sup>, 伊藤順子<sup>1)</sup>, 宮崎陽一<sup>1)</sup>, 川村哲也<sup>1)</sup>, 細谷龍男<sup>1)</sup>, 河上牧夫<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>(1)東京慈恵医科大学腎臓・高血圧内科, 2)同病理部</sup>): ANCA関連血管炎を合併した糖尿病性腎症の1例 病理検討. 東京腎生検カンファレンス, 2005. 7.
- 16) 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 中山智子, 福田 悠<sup>(1)内科学第4)</sup>): 胃癌・食道癌治療後に間質性肺炎の軽快を示した皮膚筋炎の1例. 日本呼吸器学会関東地方会, 2005. 9.
- 17) 田村尚美, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: レクチンを用いた血管内皮細胞の同定とその応用. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 18) 新井孝司, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: 傷害系球体の修復における内皮細胞の役割. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 19) 片岡光枝, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: 傷害系球体の修復におけるメサンギウム細胞の役割. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 20) 石川吾利美, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: Hypoxyprobe-1キットによる急性及び慢性虚血腎の検討. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 21) 平井恭二<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>(1)外科学第2)</sup>): ヒト非小細胞肺癌におけるL1 adhesion molecule (CD171) の発現機序についての検討. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.
- 22) 原田明希摩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 川本雅司, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup><sup>(1)外科学第2, 2)解剖学第1)</sup>): 癌細胞におけるCortactinの検討とその分子生物学的意義: 微小管を中心に. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.
- 23) 平井恭二<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原田明希摩<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>(1)外科学第2)</sup>): 非小細胞肺癌における神経接着因子L1 adhesion molecule (CD171) の発現機序ならびにその腫瘍学的意義についての検討. 第58回日本胸部外科学会定期学術集会, 2005. 10.
- 24) 竹田陽子<sup>1)</sup>, 松島弘幸<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>(1)神戸大学附属病院腎臓内科, 2)神戸市立西市民病院</sup>): ネフローゼ症候群を呈したシェーグレン症候群の1例. 第8回Himeji Nephrology Forum, 2005. 11.
- 25) 北浦圭介<sup>1)</sup>, 土岐岳士<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>(1)新日鐵広畑病院内科, 2)神戸大学附属病院腎臓内科</sup>): MCTD診断16年後に肺腎症候群を併発した1例. 第8回Himeji Nephrology Forum, 2005. 11.
- 26) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 川本雅司, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup><sup>(1)付属病院病理部, 2)病理学第2, 3)外科学第2)</sup>): 明瞭な核内細胞質封入体を認めた腎癌甲狀腺転移の1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期大会, 2005. 11.
- 27) 永井祥子<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 川本雅司, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup><sup>(1)付属病院病理部, 2)病理学第2)</sup>): 異型嚢胞腺管 (atypical cystic duct; ACD) を認めた浸潤性乳管癌の1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期大会, 2005. 11.
- 28) 上田佳恵<sup>1)</sup>, 木島祥一郎<sup>1)</sup>, 藤田恵美子, 内海甲一<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup><sup>(1)内科学第2)</sup>): 心移植後慢性腎機能障害が出現した1例. 日本内科学会関東地方会, 2005. 12.
- 29) 藤永周一郎<sup>1)</sup>, 海野大輔<sup>1)</sup>, 原 聡<sup>1)</sup>, 高田 大<sup>1)</sup>, 村上仁彦<sup>2)</sup>, 大友義之<sup>3)</sup>, 清水 章<sup>(1)埼玉県立小児医療センター腎臓科, 2)同病理科, 3)順天堂練馬病院小児科</sup>): 長期寛解後に再燃をきたした紫斑病性腎炎HSPNの2例 病理検討. 第72回関東小児腎臓研究会, 2005. 12.
- 30) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 原田明希摩<sup>2)</sup>, 山岸茂樹<sup>2)</sup>, 川島徹生<sup>2)</sup>, 飯島慶仁<sup>2)</sup>, 岡本淳一<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>(1)多摩永山病院呼吸器・血管外科, 2)外科学第2・呼吸器外科, 3)大学院医学研究科機能制御再生外科学</sup>): 肺腺癌におけるCofilinの発現と分子生物学的意義. 第22回日本呼吸器外科学会総会, 2005.

(7) スライドカンファレンス:

- 1) Kawamoto M: Case 4 (IAP/LP05-J2). Japanese-Korean joint slide conference of pathology in Okinawa, The 2nd Japanese-Korean joint slide conference of lung pathology (Okinawa), 2005. 11.

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

病理学第二講座では消化器腫瘍を中心とした消化器疾患につき、有効な診断法と新たな治療法の開発を目的に研究を行なっている。

1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と消化管の癌（食道，胃，大腸癌）について培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用いて検討を行なっている。特に腫瘍細胞と間質細胞の細胞外基質，細胞増殖因子，接着因子と受容体の発現を免疫組織化学染色法や in situ hybridization 法と real-time PCR 法，遺伝子導入法などの分子病理学的手法を併せて総合的に研究している。細胞増殖因子では線維芽細胞増殖因子（FGF）ファミリーの FGF-7/KGF とその受容体の KGFR，細胞外基質では小型ロイシンリッチプロテオグリカンのファミリーの lumican について主に研究を行っている。これら細胞外基質や増殖因子の作用機構について，細胞骨格や細胞内シグナル伝達系との関連に注目し，細胞内における情報発現の調節機構の解明を試みている。更に細胞増殖因子と細胞外基質の相互関連，相互作用についての検討も行なっている。

2) 膵炎の発症，進展における細胞増殖因子の役割の研究：急性および慢性膵炎の病態の増悪と，組織の再生による回復過程に關する細胞増殖因子と細胞外基質の発現と局在を，形態学的また遺伝子レベルで解析し，それらの発現の制御や膵臓幹細胞同定・分化誘導による治療の可能性について検討している。

3) 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移や肉芽組織の形成における血管，リンパ管の増殖，分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており，その制御について研究を行っている。現在，血管内皮細胞増殖因子の VEGF や，リンパ管の特異的マーカーの D2-40 などを用いてリンパ管の局在と役割について検討している。

教室員と大学院生，研究生の努力と，共同研究の推進により研究成果はあがってきているが，なお一層の努力が必要と考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu H<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Okada S<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>4)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Chibahokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Chibahokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Chibahokuso Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tamanagayama Hospital ): Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue . Brain Tumor Pathol 2005 ; 22 : 59-74 .
- 2) Machida T, Kameyama K, Onda M, Naito Z, Kumazaki T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Characteristic localisation of denatured high-density lipoprotein ( HDL ) at the periphery of a lipid core in human atherosclerotic lesions . Pathology 2005 ; 37 ( 1 ): 32-38 .
- 3) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Changes to levels of serum neuron-specific enolase in a patient with small cell carcinoma of the pancreas . J Hepatobiliary Pancreat Surg 2005 ; 12 ( 1 ): 93-98 .
- 4) Yoshino M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Watanabe M<sup>1)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology ): Keratinocyte growth factor receptor expression in normal colorectal epithelial cells and differentiated type of colorectal cancer . Oncol Rep 2005 ; 13 ( 2 ): 247-252 .

- 5) Fukuhara M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Naito Z, Ishiwata T ( <sup>1)</sup>Departments of Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Re-expression of reduced VEGF activity in liver metastases of experimental pancreatic cancer . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ): 155-164 .
- 6) Katsuta M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Shinji S, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kudo M, Ishiwata T, Naito Z ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Correlation of hypoxia inducible factor-1alpha with lymphatic metastasis via vascular endothelial growth factor-C in human esophageal cancer . Exp Mol Pathol 2005 ; 78 ( 2 ): 123-130 .
- 7) Shinji S, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Seya T<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation , <sup>2)</sup>Department of Surgery, Chibahokuso Hospital ): Different expression levels of lumican in human carcinoid tumor and neuroendocrine cell carcinoma . Int J Oncol 2005 ; 26 ( 4 ): 873-880 .
- 8) Teranishi N, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Akimaru K<sup>1)</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Inflammatory Pseudotumor in the Spiegel Lobe of the Liver of an Elderly Woman . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ): 121-126 .
- 9) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Iketani M<sup>1)</sup>, Hirukawa M<sup>1)</sup>, Yokoyama M, Maeda S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Orthopaedic Surgery , <sup>2)</sup>Department of Pathology, Tamanagayama Hospital ): Epithelioid hemangioendothelioma of the phalanx : a case report . J Hand Surg. 2005 ; 30 ( 3 ): 615-619 .
- 10) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Nishi K<sup>1)</sup>, Naito Z, Akimaru K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Ruptured Metastatic Liver Tumor from an  $\alpha$ -fetoprotein-producing Gastric Cancer . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 4 ): 236-241 .
- 11) Xing C<sup>1, 2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Xu H<sup>1)</sup>, Takashi E, Yamada N, Naito Z, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Oncology, First Hospital of China Medical University, Shengyang, China , <sup>2)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Interleukin-8, cyclo-oxygenase-2, and trefoil factor family 1 gene expression and their association with Helicobacter pylori infection in the remnant stomach . Surg Today 2005 ; 35 ( 12 ): 1026-1032 .
- 12) Matsunobu T, Ishiwata T, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Kudo M, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, 2nd Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Surgery ): Expression of keratinocyte growth factor receptor correlates with expansive growth and early stage of gastric cancer . Int J Oncol 2006 ; 28 ( 2 ): 307-314 .
- 13) Shinji S, Naito Z, Ishiwata S<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Tanaka N<sup>2)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Matsuda A<sup>2)</sup>, Katsuta M<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Bioanalytical Pharmaceutics, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University , <sup>2)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Ubiquitin-specific protease 14 expression in colorectal cancer is associated with liver and lymph node metastasis . Oncol Rep 2006 ; 15 ( 3 ): 539-549 .
- 14) Haseba T<sup>1)</sup>, Du ester G<sup>2)</sup>, Shimizu A<sup>3)</sup>, Yamamoto I<sup>4)</sup>, Kameyama K, Ohno Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Legal Medicine , <sup>2)</sup>OncoDevelopmental Biology Program, Burnham Institute, USA , <sup>3)</sup>Department of Bioengineering, Soka University , <sup>4)</sup>Department of Forensic Dental Medicine, Kanagawa Dental College ): In vivo contribution of Class III alcohol dehydrogenase ( ADH3 ) to alcohol metabolism through activation by cytoplasmic solution hydrophobicity . Biochimica et Biophysica Acta ( BBA ) 2006 ; 1762 ( 3 ): 276-283 .
- 15) 椋 清美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 秋山裕美<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 剖検時における迅速細胞診断の有用性 . 臨床病理 2005 ; 53



(4): 284-289 .

16) 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 恩田宗彦, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 国立がんセンター がん予防・検診研究センター ): 病理組織像から分子イメージングへの架け橋 . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 3 ): 100-101 .

17) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 森山紀之<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部 ): 血管新生, 細胞増殖にかかわる変性IV型コラーゲンと光感受性物質会合: 微弱光照射による病態の評価と誘導制御の基礎研究 . 脈管学 2006 ; 46 ( 1-2 ): 67-71 .

(2) 綜説 :

1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 臨床に呼応した迅速細胞診 . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 3 ): 102-109 .

(3) 症例報告 :

1) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 宮元亮子<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>4)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>5)</sup>, 坪 宏一<sup>6)</sup>, 高山守正<sup>3)</sup>, 高野輝夫<sup>3)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup>, 福間長知<sup>3)</sup>, 臼杵二郎<sup>7)</sup>, 藤原ゆり, 川本雅司<sup>4)</sup>, 北村博司<sup>4)</sup>, 角田美佐子<sup>6)</sup>, 土屋玲子<sup>7)</sup>, 小原 信<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 内科学第1, <sup>4)</sup> 病理学第1, <sup>5)</sup> 小児科学, <sup>6)</sup> ICU, <sup>7)</sup> 内科学第4, <sup>8)</sup> 研修医 ): 全身性強皮症の経過中に肺高血圧をきたし敗血症にて死亡した1例 . 内科 2005 ; 96 ( 2 ): 345-361 .

2) 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 臍頭十二指腸切除術後の胆管空腸吻合部良性狭窄に続発した肝内結石症の2例 . 胆道 2005 ; 19 ( 5 ): 590-596 .

3) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 臓器病態制御外科, <sup>2)</sup> 第二病院消化器病センター ): 胃全摘Roux-Y再建術後のloop小腸粘膜に腺腫内腺癌を認めた非定型Cronkhite-Canada症候群の1例 . 日本臨床外科学会雑誌 2006 ; 67 ( 1 ): 107-111 .

(4) 追加症例報告 :

1) 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 有馬保正<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 大腿骨原発骨肉腫からの臍転移の1切除例 . 臍臓 2003 ; 18 ( 4 ): 524-527 .

著 書

1) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): [ 解説 ] 技術講座術中迅速診断における細胞診材料に対する迅速免疫染色の応用 . Medical Technology 第33巻 6号, 2005 ; pp597-603, Medical Technology .

2) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): [ 解説 ] 穿刺材料の塗抹法とそれらが細胞診に与える影響 . 病理と臨床 第23巻 6号, 2005 ; pp611-614, 文光堂 .

3) 石渡俊行, 内藤善哉 : [ 分担 ] 尿中塩基性線維芽細胞増殖因子 ( bFGF/FGF-2 ): Basic fibroblast growth factor ( bFGF/FGF-2 ) in urine . 日本臨床 第63巻, 2005 ; pp768-770, 日本臨床 .

4) 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>2)</sup>, 大須賀勝<sup>3)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 古川一博<sup>4)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3, <sup>2)</sup> 内科学第4, <sup>3)</sup> 内科学第1, <sup>4)</sup> 放射線医学 ): [ 分担 ] Evans症候群の経過中に遷延性黄疸を合併し治療に難渋した1例 . 内科 ( 小立鉦彦 ), 2005 ; pp572-585, 南江堂 .

5) 進士誠一, 内藤善哉, 石渡俊行, 松田明久<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): [ 分担 ] 第3章 大腸癌におけるmicrometastasis 3 微小転移を知るための工夫 ( 2 ) 抗CK20抗体免疫染色 . 大腸疾患NOW 2006 ( 武藤徹一郎・渡辺英伸, 杉原健一, 多田正大 ), 2006 ; pp103-109, 日本メディカルセンター .

## 学会発表

### (1) 教育シンポジウム：

- 1) 内藤善哉：イントロダクション：最近の乳癌事情（乳腺の臨床と病理）。IAP教育セミナー，2005．11．

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，池田研吾<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科)：背景粘膜の違いによる胃発癌リスク：発癌関連サイトカイン遺伝子発現の個体差をどう評価するか．第16回日本消化器癌発生学会総会，2005．10．

### (3) ワークショップ：

- 1) 松信哲朗，石渡俊行，吉野雅則<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>同病理部)：胃癌における線維芽細胞増殖因子受容体(KGFR/FGFR2 IIIb)とそのligandの発現．第64回日本癌学会総会，2005．9．
- 2) 加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，池田研吾<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：胃切除後再建法の長期予後の評価と摂食障害の対策：摂食刺激ホルモン グレリンの胃粘膜組織内mRNA発現と誘導の可能性：．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．

### (4) 一般講演：

- 1) Naito Z, Ishiwata T, Yoshino M<sup>1)</sup>, Matsunobu T, Kudo M, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, 2nd Hospital): Keratinocyte growth factor receptor expression in normal colorectal epithelial cells and differentiated type of colorectal cancer. The 4th Asia-Pacific IAP Congress (Beijing, China), 2005. 8.
- 2) Liu A<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Azuma K<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Egami K<sup>3)</sup>, Oosaki Y<sup>2)</sup>, Oguro T<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Naito Z, Sugisaki Y(<sup>1)</sup>Central Institute for EM Researches, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Chibahokuso Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Surgery): Gastrointestinal stromal tumors (GISTs): an immunohistochemical and ultrastructural study. The 4th Asia-Pacific IAP Congress (Beijing, China), 2005. 8.
- 3) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Ishikawa A<sup>2)</sup>, Nishi Y<sup>2)</sup>, Yoneyama K<sup>2)</sup>, Fujiwara Y, Onda M, Sugisaki Y<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Naito Z(<sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Obstetrics and Gynecology, <sup>3)</sup>Division of Surgical Pathology): A case of atypical polypoid adenomyoma of the endometrium with borderline atypia in the glandular elements. 日韓婦人科病理会議(釜山, 韓国), 2005. 9.
- 4) Shinji S, Tanaka N<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Seya T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Teranishi N, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Chibahokuso Hospital, <sup>2)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Chibahokuso Hospital): Liver metastasis in poorly differentiated adenocarcinoma with neuroendocrine features is associated with vascular endothelial growth factor (VEGF). 13th United European Gastroenterology Week 2005 (Copenhagen, Denmark), 2005. 10.
- 5) Matsunobu T, Ishiwata T, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Fujii T, Mastumoto K<sup>2)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Naito Z(<sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, 2nd Hospital): Expression of keratinocyte growth factor receptor and its ligands in gastric cancer. 10th World Congress on Advances in Oncology (Crete, Greece), 2005. 10.
- 6) Yoshino M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Matsunobu T, Kawamoto Y, Kawahara K, Kudo M, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Naito Z(<sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, 2nd Hospital): Do keratinocyte growth factor (KGF/FGF-7) and fibroblast growth factor (FGF)-10 stimulate esophageal cancer cell growth, via the KGF receptor (KGFR), proliferation or differentiation?. 10th World Congress on Advances in Oncology (Crete, Greece), 2005. 10.
- 7) Naito Z, Ishiwata T, Cho K, Uchida E<sup>1)</sup>, Nakazawa N, Onda M, Kudo M, Kawahara K, Fujii T,

- Kawamoto Y , Suzuki T , Teduka K , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Expression and role of lumican in pancreatic cancer tissues . 10th World Congress on Advances in Oncology ( Crete, Greece ), 2005 . 10 .
- 8 ) Naito Z , Ishiwata T , Cho K , Teduka K , Kawamoto Y , Kudo M , Uchida E<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Expression and role of lumican in pancreatic cancer cells and stromal tissues . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, Illinois ), 2005 . 11 .
- 9 ) Ishiwata T , Cho K , Ishiwata S<sup>1)</sup> , Fujii T , Kawahara K , Kudo M , Uchida E<sup>2)</sup> , Tajiri T<sup>2)</sup> , Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Bioanalytical Pharmaceutics , Faculty of Pharmaceutical Sciences , Kinki University , <sup>2)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Expression of ubiquitin-specific protease 14 in human pancreatic cancer cell lines and cancer tissues . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, Illinois ), 2005 . 11 .
- 10 ) Cho K , Tajiri T<sup>1)</sup> , Ishiwata T , Uchida E<sup>1)</sup> , Aimoto T<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>1)</sup> , Katsuno A<sup>1)</sup> , Kawamoto M , Nakazawa N , Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Keratinocyte growth factor receptor correlates with venous invasion via vascular endothelial growth factor in pancreatic cancer. . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, Illinois ), 2005 . 11 .
- 11 ) Kudo M , Ishiwata T , Nakazawa N , Kawahara K , Takenori F , Kawamoto Y , Teduka K , Suzuki T , Naito Z : KGF Gene Transfected Colorectal Cancer Cells Induced Cell Adhesion to Extracellular Matrix . 45th Annual Meeting, The American Society for Cell Biology ( San Francisco, CA ), 2005 . 12 .
- 12 ) Maeda S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>2)</sup> , Tamura K<sup>2)</sup> , Matsumoto K<sup>3)</sup> , Yanagimoto K<sup>3)</sup> , Ohaki Y<sup>4)</sup> , Arai S<sup>4)</sup> , Fukuda Y<sup>5)</sup> , Naito Z ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology , <sup>3)</sup> Dept. of Pathology, 2nd Hospital , <sup>4)</sup> Dept. of Pathology, Chibahokuso Hospital , <sup>5)</sup> Dept. of Pathology ): How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology, -A study of 10 cases of mesothelioma in Nippon Medical School- . The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. ( Chiang Mai, Thailand ), 2006 . 1 .
- 13 ) Katayama H<sup>1)</sup> , Maeda S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>1)</sup> , Hando K<sup>1)</sup> , Isobe H<sup>1)</sup> , Yanagida Y<sup>1)</sup> , Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tamanagayama Hospital ): Case of invasive micropapillary carcinoma diagnosed by fine-needle aspiration cytology . The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2006 . 1 .
- 14 ) Hando K<sup>1)</sup> , Maeda S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>1)</sup> , Katayama H<sup>1)</sup> , Azuma K<sup>1)</sup> , Isobe H<sup>1)</sup> , Yanagida Y<sup>1)</sup> , Kawano K<sup>1)</sup> , Iwase H<sup>1)</sup> , Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tamanagayama Hospital ): Usefulness of rapid cytological diagnosis at autopsy .The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology( Chiang Mai, Thailand ), 2006 . 1 .
- 15 ) 町田 稔<sup>1)</sup> , 亀山孝二 , 清水昭夫<sup>2)</sup> , 林 宏光<sup>3)</sup> , 田島廣之<sup>3)</sup> , 隈崎達夫<sup>3)</sup> , 森山紀之<sup>1)</sup> , 横山宗伯 , 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 国立がんセンター がん予防・検診研究センター , <sup>2)</sup> 創価大学工学部 , <sup>3)</sup> 放射線科ハイテクリサーチセンター ): 変性IV型コラーゲンと光感受性物質の会合-微弱光照射による血管新生 , 細胞増殖制御の基礎研究 . 第64回日本医学放射線学会学術集会 , 2005 . 4 .
- 16 ) 亀山孝二 , 町田 稔<sup>1)</sup> , 清水昭夫<sup>2)</sup> , 手塚 潔 , 喬 炎 , 恩田宗彦 , 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 国立がんセンター がん予防・検診研究センター , <sup>2)</sup> 創価大学工学部 ): 動脈硬化病変における基底膜成分で自己組織化を示すIV型コラーゲンの変性と疎水性亢進 , 脂質蓄積状態との関連性の検討 . 第64回日本医学放射線学会学術集会 , 2005 . 4 .
- 17 ) 進士誠一 , 田中宣威<sup>1)</sup> , 古川清憲<sup>2)</sup> , 瀬谷知子<sup>1)</sup> , 寺西宣央 , 田尻 孝<sup>2)</sup> , 工藤光洋 , 恩田宗彦 , 石渡俊行 , 横山宗伯 , 大秋美治<sup>3)</sup> , 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup> 臓器病態制御外科 , <sup>3)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7の発現について . 第94回日本病理学会総会 , 2005 . 4 .

- 18) 石崎正道<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 北村博司<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 腎系球体における Nestin の発現. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 19) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同外科): GIST (消化管間質腫瘍) における免疫染色及び電顕の検索. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 20) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 秋山裕美<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>2)</sup>, 富樫晃祥<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 臀部に発生した巨大悪性顆粒細胞種の1例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 21) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>4)</sup>病理学第1): 肺大細胞性神経内分泌癌における免疫組織学的特徴 - 肺小細胞癌, 大細胞癌, 低分化腺癌との比較検討 -. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 22) 藤原ゆり, 横山宗伯, 小町太郎<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 喬 炎, 恩田宗彦, 石渡俊行, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, <sup>2)</sup>同病理部): リンパ濾胞樹状細胞肉腫と考えられた左頸部腫瘍の1例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 23) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 胸腔内・大動脈下リンパ節発生の辺縁帯B細胞性リンパ腫と考えられる1例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 24) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 術中迅速診断における迅速免疫染色の応用. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 25) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 高崎秀明<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>3)</sup>, 寺西宣央, 石渡俊行, 大秋美治<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>臓器病態制御外科, <sup>3)</sup>多摩永山病院外科, <sup>4)</sup>千葉北総病院病理部): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌における VEGF 発現の意義. 第105回日本外科学会総会, 2005. 5.
- 26) 佐藤春明<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>付属病院病理部): 乳腺腺様嚢胞癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 27) 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 小池 昇<sup>2)</sup>, 船田信顕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>東京都立駒込病院病理科): 乳管腺腫 (Ductal adenoma) の細胞学的特徴. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 28) 松原美幸<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 北川泰之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>整形外科): 変性軟骨細胞は軟骨肉腫の細胞診断に有効か. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 29) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 対照的な臨床経過を示した体腔液原発悪性リンパ腫の2例. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 30) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌における Keratinocyte Growth Factor の発現と局在. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 31) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 寺西宣央, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>臓器病態制御外科): 内分泌細胞含有大腸腺癌における抗 VEGF 療法の可能性の検討. 第60回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 32) 寺西宣央, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1,2)</sup>, 進士誠一, 張 一光, 田中宣威<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>臓器病態制御外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 大腸癌の増殖転移における nestin 陽性微小血管の役割. 第60回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 33) 張 一光, 石渡俊行, 寺西宣央, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 進士誠一, 中村慶春<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>,

- 内藤善哉 ( <sup>1</sup>臓器病態制御外科 ): ヒト膵癌組織における KGFR 発現と臨床病理学的意義 . 第 60 回日本消化器外科学会 , 2005 . 7 .
- 34) 吉野雅則 , 石渡俊行 , 松信哲朗 , 小峰 修<sup>1</sup> , 松本光司<sup>2</sup> , 塩谷 猛<sup>1</sup> , 渡辺昌則<sup>1</sup> , 内藤善哉 , 渋谷哲男<sup>1</sup> , 徳永 昭<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター ): 食道癌における Keratinocyte growth receptor ( KGFR/FGFR2IIIb ) の発現と分化の関連性 . 第 60 回日本消化器外科学会 , 2005 . 7 .
- 35) 進士誠一 , 田尻 孝<sup>1</sup> , 田中宣威<sup>2</sup> , 古川清憲<sup>1</sup> , 鈴木英之<sup>1</sup> , 瀬谷知子<sup>2</sup> , 菅 隼人<sup>1</sup> , 鶴田宏之<sup>1</sup> , 松本智司<sup>1</sup> , 寺西宣央 , 張 一光 , 石渡俊行 , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第 1 , <sup>2</sup> 千葉北総病院外科 ): 大腸低分化腺癌における CK20/CK7/Villin の発現 . 第 64 回日本癌学会総会 , 2005 . 9 .
- 36) 寺西宣央<sup>1</sup> , 田中宣威<sup>1</sup> , 古川清憲<sup>1</sup> , 鈴木英之<sup>1</sup> , 瀬谷知子<sup>1</sup> , 菅 隼人<sup>1</sup> , 鶴田宏之<sup>1</sup> , 松本智司<sup>1</sup> , 進士誠一 , 張 一光 , 田尻 孝<sup>1</sup> , 石渡俊行 , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第 1 ): 大腸癌における nestin 陽性微小血管と臨床病理学的因子 , 予後の関連 . 第 64 回日本癌学会総会 , 2005 . 9 .
- 37) 瀬谷知子<sup>1</sup> , 田中宣威<sup>1</sup> , 横井公良<sup>1</sup> , 石川紀行<sup>1</sup> , 金沢義一<sup>1</sup> , 山田岳史<sup>1</sup> , 小泉岐博<sup>1</sup> , 進士誠一 , 田尻 孝<sup>2</sup> , 山下精彦<sup>2</sup> , 大秋美治<sup>3</sup> , 内藤善哉 , 寺西宣央<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2</sup> 外科学第 1 , <sup>3</sup> 千葉北総病院病理部 ): 出血をきたした胃 GIST 症例の検討 . 第 64 回日本癌学会総会 , 2005 . 9 .
- 38) 張 一光 , 内田英二<sup>1</sup> , 相本隆幸<sup>1</sup> , 中村慶春<sup>1</sup> , 進士誠一 , 勝野 暁<sup>1</sup> , 寺西宣央 , 川本聖郎 , 田尻 孝<sup>1</sup> , 石渡俊行 , 工藤光洋 , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第 1 ): ヒト膵癌組織における KGFR の発現と静脈侵襲との関連 . 第 64 回日本癌学会総会 , 2005 . 9 .
- 39) 劉 愛民<sup>1</sup> , 前田昭太郎<sup>2</sup> , 細根 勝<sup>2</sup> , 片山博徳<sup>2</sup> , 東 敬子<sup>2</sup> , 大秋美治<sup>3</sup> , 小黒辰夫<sup>3</sup> , 内藤善哉 , 杉崎祐一<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 , <sup>2</sup> 多摩永山病院病理部 , <sup>3</sup> 千葉北総病院病理部 ): 消化管及び消化管外原発 GIST における電顕的検索 . 第 37 回日本臨床分子形態学会総会 , 2005 . 9 .
- 40) 進士誠一 , 田中宣威<sup>1</sup> , 古川清憲<sup>2</sup> , 鈴木英之<sup>2</sup> , 瀬谷知子<sup>1</sup> , 菅 隼人<sup>2</sup> , 鶴田宏之<sup>2</sup> , 秋谷行宏<sup>2</sup> , 寺西宣央 , 張 一光 , 田尻 孝<sup>2</sup> , 石渡俊行 , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2</sup> 臓器病態制御外科 ): 大腸癌における E-cadherin 発現の臨床的意義 . DDW-Japan 2005 ( 第 47 回日本消化器病学会大会 ), 2005 . 10 .
- 41) 進士誠一 , 田中宣威<sup>1</sup> , 古川清憲<sup>2</sup> , 鈴木英之<sup>2</sup> , 瀬谷知子<sup>1</sup> , 菅 隼人<sup>2</sup> , 鶴田宏之<sup>2</sup> , 松本智司<sup>2</sup> , 秋谷行宏<sup>2</sup> , 寺西宣央 , 大秋美治<sup>3</sup> , 内藤善哉 , 田尻 孝<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2</sup> 臓器病態制御外科 , <sup>3</sup> 千葉北総病院病理部 ): 大腸低分化腺癌における脈管侵襲判定の意義 . 第 60 回日本大腸肛門病学会総会 , 2005 . 10 .
- 42) 瀬谷知子<sup>1</sup> , 田中宣威<sup>1</sup> , 横井公良<sup>1</sup> , 石川紀行<sup>1</sup> , 金沢義一<sup>1</sup> , 山田岳史<sup>1</sup> , 小泉岐博<sup>1</sup> , 進士誠一<sup>1</sup> , 大秋美治<sup>2</sup> , 山下精彦<sup>3</sup> , 田尻 孝<sup>3</sup> , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院外科 , <sup>2</sup> 同病理部 , <sup>3</sup> 外科学第 1 ): 術前診断に難渋した直腸悪性黒色腫の 1 例 . 第 60 回日本大腸肛門病学会総会 , 2005 . 10 .
- 43) 松信哲朗 , 石渡俊行 , 吉野雅則<sup>1</sup> , 渡辺昌則<sup>1</sup> , 松本光司<sup>2</sup> , 渋谷哲男<sup>1</sup> , 徳永 昭<sup>1</sup> , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター , <sup>2</sup> 同病理部 ): 胃癌培養細胞と胃癌組織における線維芽細胞増殖因子受容体 ( KGFR/FGFR2 IIIb ) の発現と役割 . 第 47 回日本消化器病学会大会 ( 第 13 回消化器関連学会週間 ), 2005 . 10 .
- 44) 内田英二<sup>1</sup> , 勝野 暁<sup>1</sup> , 相本隆幸<sup>1</sup> , 中村慶春<sup>1</sup> , 福原宗久<sup>1</sup> , 張 一光<sup>1</sup> , 川本聖郎<sup>1</sup> , 田尻 孝<sup>1</sup> , 田原一郎<sup>2</sup> , 島田 隆<sup>2</sup> , 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学第 1 , <sup>2</sup> 生化学第 2 ): ハムスター膵癌モデルの有用性 . 第 16 回日本消化器癌発生学会総会 , 2005 . 10 .
- 45) 松田範子<sup>1</sup> , 加藤俊二<sup>1</sup> , 真々田裕宏<sup>1</sup> , 谷合信彦<sup>1</sup> , 吉田 寛<sup>1</sup> , 秋丸琥甫<sup>1</sup> , 内藤善哉 , 松倉則夫<sup>1</sup> , 田尻 孝<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 臓器病態制御外科 ): 肝組織における血管内皮細胞増殖因子 ( VEGF ) , Hypoxia inducible factor-1 ( HIF-1 ) mRNA 発現の個人差と病理学的血管因子および肝癌治療法選択との関連 . 第 16 回日本消化器癌発生学会総会 , 2005 . 10 .
- 46) 牧野浩司<sup>1</sup> , 宮下正夫<sup>1</sup> , 野村 務<sup>1</sup> , 勝田美和子<sup>1</sup> , 高橋 健<sup>1</sup> , 萩原信敏<sup>1</sup> , 山下精彦<sup>1</sup> , 田尻 孝<sup>1</sup> , 長澤重直<sup>2</sup> , 二見良平<sup>2</sup> , 笹島耕二<sup>2</sup> , 内藤善哉 , 杉崎祐一<sup>3</sup> , Gabrielson E<sup>5</sup> ( <sup>1</sup> 臓器病態制御外科 , <sup>2</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>3</sup> 付属病院病理部 , <sup>4</sup> Johns Hopkins 大学病理部 ): 血管新生関連蛋白の過剰発現の解析を食道扁平

上皮癌の悪性度評価へ臨床応用の試み．第16回日本消化器癌発生学会総会，2005．10．

- 47) 川本聖郎，中村慶春<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，張 一光，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科学): 大量の腹腔内出血を来たした退形成性膵管癌の1例．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 48) 進士誠一，古川清憲<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，菅 隼人<sup>1)</sup>，鶴田宏之<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，秋谷行宏<sup>1)</sup>，寺西宣央，田中宣威<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 術後1年2ヶ月の長期経過後に発症した急性虫垂炎遺残膿瘍の1例．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 49) 浅川一恵<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，村瀬幸宏<sup>1)</sup>，横山宗伯，恩田宗彦，清水一雄<sup>3)</sup>，田村浩一<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，内藤善哉，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1，<sup>3)</sup>外科学第2): 明瞭な核内封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例．第44回日本臨床細胞学会，2005．11．
- 50) 永井祥子<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，横山宗伯，恩田宗彦，川本雅司<sup>2)</sup>，内藤善哉，田村浩一<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1): 異型嚢胞腺管 (atypical cystic duct ; ACD) を認めた浸潤性乳管癌の1例．第44回日本臨床細胞学会，2005．11．
- 51) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二，清水昭夫<sup>2)</sup>，林 宏光<sup>3)</sup>，田島廣之<sup>3)</sup>，隈崎達夫<sup>3)</sup>，森山紀之<sup>1)</sup>，横山宗伯，内藤善哉(<sup>1)</sup>国立がんセンター がん予防・検診研究センター，<sup>2)</sup>創価大学工学部，<sup>3)</sup>日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター): 間質質変-特に基底膜傷害における変性IV型コラーゲンに対する光線力学的診断・治療の基礎的検討．第46回日本脈管学会総会，2005．12．
- 52) 進士誠一，田中宣威<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，金子昌裕<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>臓器病態制御外科): 上部・下部直腸癌pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義．第64回大腸癌研究会，2006．1．
- 53) 進士誠一，田中宣威<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，金子昌裕<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，石渡俊行，内藤 善哉，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>臓器病態制御外科): 大腸癌リンパ節微小転移の生物学的意義．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 54) 松信哲朗，石渡俊行，二宮理貴<sup>1)</sup>，佐藤精一<sup>1)</sup>，近藤恭司<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，塩谷猛<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR) とKGFの発現および神経内分泌細胞のはたす役割．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 55) 松信哲朗，石渡俊行，前島顕太郎<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>，内藤善哉 (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>外科学第1): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) とKGFの胃癌における発現と神経内分泌細胞のはたす役割．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 56) 加藤俊二<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，前田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌リスクの個別評価: 背景粘膜の違いと発癌関連サイトカイン遺伝子発現の個体差．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 57) 相本隆幸<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，張 一光，川本聖郎，川東 豊<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>1)</sup>，水瀬 学<sup>1)</sup>，内藤善哉，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 超音波造影剤レボピストの胆管内注入ガイド下術中臍生検の有用性: 臍内胆管狭窄部の確実な同定と術中生検をめざして．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．
- 58) 勝田美和子<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，牧野浩司<sup>2)</sup>，野村 務<sup>2)</sup>，進士誠一<sup>2)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，石渡俊行，内藤善哉，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 食道癌におけるHIF-1 とVEGF-C発現の関連．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．
- 59) 張 一光，石渡俊行，中澤南堂，内田英二<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，寺西宣央，川本聖郎，田

尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1): ヒト膀胱癌における KGF, KGFR の発現と VEGF を介した静脈侵襲への関与 . 第 106 回日本外科学会定期学術集会 , 2006 . 3 .

(5) 追加分一般講演 :

- 1) Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Naito Z, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Prediction for the secondary carcinogenesis in the remnant stomach after gastrectomy using molecular biomarkers . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( 札幌 ), 2004 . 8 .
- 2) Miyashita M<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Naito Z, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery 1, <sup>2)</sup>Pathology of 2nd Hospital ): Over-expression of angiogenesis markers in esophageal cancer . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( 札幌 ), 2004 . 8 .
- 3) Watanabe M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Yoshino M<sup>1)</sup>, Komazaki T<sup>1)</sup>, Bo H<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology ): The effect of inhibiting keratinocyte growth factor family on colon cancer cells . The 3rd International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis ( 札幌 ), 2004 . 8 .
- 4) 飯田信也<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 古川恵子<sup>1)</sup>, 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 野口智子<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 奥平かおり<sup>1)</sup>, 樋口勝美<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup>東京白十字病院, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院病理部 ): 当科における進行再発乳癌に対するハーセプチン・タキサン同時併用療法の治療成績 . 第 12 回日本乳癌学会総会, 2004 . 6 .
- 5) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 古川恵子<sup>2)</sup>, 岩崎玲子<sup>2)</sup>, 野口智子<sup>2)</sup>, 源河敦史<sup>2)</sup>, 奥平かおり<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 有馬保生<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京白十字病院, <sup>2)</sup>日本医科大学臓器病態制御外科学, <sup>3)</sup>同付属病院病理部 ): 教室における炎症性乳癌の治療成績 . 第 12 回日本乳癌学会総会, 2004 . 6 .
- 6) 神田知洋<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>臓器病態制御外科 ): *Helicobacter pylori* (HP) の感染をともなわない胃癌症例の解析 . 第 15 回日本消化器癌発生学会総会, 2004 . 8 .
- 7) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター ): 胃全摘 Roux-Y 再建術後の loop 小腸に発生した粘膜内癌とピロリ菌 (HP) 陽性異所性胃粘膜の経験 . 第 66 回日本臨床外科学会総会, 2004 . 10 .

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。感染症学および感染免疫学：

[A] HIV に対する免疫応答の検討と感染伝播機構の解明：(1) SIV に感受性のあるサル CD4 および CD4/CD8 陽性 T 細胞株を樹立し SIV を感染させたところ、CD4 よりも CD4/CD8 T 細胞株内の方がウイルス増殖の早いことを見出した。(2) HIV の重要な標的である NKT 細胞へ抗原を提示する CD1d 分子がヒト、チンパンジー、サルにおいて遺伝的に保存されていることを確認した。(3) HIV の主要な標的細胞である樹状細胞が麻疹ウイルスにおいても主たる標的であることを見出した。(4) 結核菌感染樹状細胞を制御する主役は、CD1 分子拘束性の脂質抗原特異的キラー T 細胞であることを明らかにした。以上の事実は、HIV 感染樹状細胞を制御するためには CD1 拘束性、ウイルス脂質特異的な T 細胞が重要であることを示唆しており、新たな HIV 制御への道を開くものである。

[B] 皮膚・粘膜組織における基本免疫系の活性化：(1) ピロリ菌由来のウレアーゼが粘膜内に局在する B-1 細胞を活性化させ、リウマチ因子 (RF) や抗 DNA 抗体を放出させる事を見出した。このことは、ピロリ菌感染と自己免疫疾患発生との関連性を直接的に示したものであり、自己免疫疾患制御への新たな突破口となるものと期待される。(2) V 1V 1T 細胞及び V 2V 2T 細胞の株化に成功し、これら TCR を発現させた細胞株の誘導に成功した。

[C] CD1 分子より提示される結核菌由来の脂質の産生量が、培養温度依存性に上昇することを見出した。

腫瘍免疫学：

[A] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：腫瘍抗原を粘膜投与すると通常は抗原に対する不応答性 (寛容状態) が誘導されるが、粘膜アジュバントであるコレラトキシンとともに経口投与すると、全身免疫のみならず粘膜内に腫瘍特異的キラー T 細胞が誘導されることを見いだした。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Takahashi M, Ido E<sup>1)</sup>, Uesaka H<sup>1)</sup>, Fukushima T, Ibuki K<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Hayami M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Laboratory of Viral Pathogenesis, Institute for Virus Research, Kyoto University ): Comparison of susceptibility to SIVmac239 infection between CD4<sup>+</sup> and CD4<sup>+</sup>8<sup>+</sup> T cells. Arch. Virol. 2005 ; 150 : 1517-1528 .
- 2) Watari E, Shimizu M, Takahashi H : Langerhans cells stimulated by mechanical stress are susceptible to measles virus infection. Intervirology 2005 ; 48 : 145-152 .
- 3) Furukawa K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Norose Y ( <sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and biological Regulation ): Are sterile water and brushes necessary for hand washing before surgery in Japan? . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ) : 149-154 .
- 4) Enomoto Y, Sugita M, Matsunaga I<sup>1)</sup>, Naka T<sup>2)</sup>, Sato A<sup>2)</sup>, Kawashima T, Shimizu K<sup>3)</sup>, Takahashi H, Norose Y, Yano I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Cell Regulation, Institute for Virus Research, Kyoto University, <sup>2)</sup>Japan BCG General Laboratory, <sup>3)</sup>Department of Second Surgery : Temperature-dependent biosynthesis of glucose monomycolate and its recognition by CD1-restricted T cells. BBRC 2005 ; 337 : 452-456 .
- 5) Saito N<sup>1)</sup>, Takahashi M, Akahata W<sup>1)</sup>, Ido E<sup>1)</sup>, Hidaka C, Ibuki K<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Hayami M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Laboratory of Viral Pathogenesis, Institute for Virus Research, Kyoto University ): Analysis of evolu-



tionary conservation in CD1d molecules among primates . Tissue Antigens 2005 ; 66 ( 6 ) : 674-682 .

- 6) Yamanishi S , Iizumi T , Watanabe E , Shimizu M , Kamiya S<sup>1)</sup> , Nagata K<sup>2)</sup> , Kumagai Y , Fukunaga Y<sup>3)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University , <sup>2)</sup> Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pediatrics : Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by Helicobacter pylori urease . Infect. Immun. 2006 ; 74 ( 1 ) : 248-256 .
- 7) Wakabayashi A , Utsunomiya M<sup>1)</sup> , Hosoda T<sup>2)</sup> , Sato K<sup>2)</sup> , Takahashi H , Hirokawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology and Immunology, Aging and Developmental Science, Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup> The Division of Clinical Nutrition, Department of Food and Nutrition, Faculty of Home Economics, Japan Women's University ) : Induction of immunological tolerance by oral but not intravenous and intraportal administration of ovalbumin and the difference between young and old mice . J. Nutr. Health & Aging 2006 ; 10 ( 3 ) : 183-191 .

#### (2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : HIV/AIDSの病態進行とワクチン開発の進歩 . 日本エイズ学会誌 2005 ; 7 : 83-92 .
- 2) 高橋秀実 : 腸管における innate immunity . 無菌生物 2005 ; 35 : 21-25 .
- 3) 高橋秀実 : 自然免疫システムと HIV . 日本エイズ学会誌 2005 ; 7 : 556-565 .
- 4) 高橋秀実 : 丸山ワクチンの作用機序に関する一考察 . 日医大医会誌 2006 ; 2 : 1-2 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : 免疫システムの新たな実態 : 基本免疫と獲得免疫 . 第79回日本感染症学会総会 , 2005 . 4 .
- 2) 高橋秀実 : 脂質と粘膜免疫 . 第12回関東Lipid Artery研究会 , 2005 . 5 .
- 3) 高橋秀実 : 生薬の作用に関する一考察 . 東静漢方35周年記念会 , 2005 . 8 .
- 4) 高橋秀実 : 新たな治療法の模索 : 骨髄移植と標的治療薬 . 北区医師会学術講演会 , 2005 . 8 .
- 5) 高橋秀実 : 未病治療および病との共生 . 北区医師会学術講演会 , 2005 . 8 .
- 6) 高橋秀実 : 風邪に対する東洋医学的治療 . 文京区主催大学公開講座 , 2005 . 8 .
- 7) 高橋秀実 : 漢方薬でエイズウイルスの持続感染は制御できるか . 第5回東京大学実践漢方セミナー , 2005 . 12 .
- 8) 高橋秀実 : 樹状細胞を用いた腫瘍免疫に関する最近の話題 . 第581回日本泌尿器科学会東京地方会 , 2006 . 3 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 高橋秀実 : アレルギー・膠原病に対する新たな展開 . 日本医科大学医学会第15回公開「シンポジウム」, 2005 . 6 .
- 2) 高橋秀実 : 癌の免疫療法・丸山ワクチン作用機序に関する一考察 . 日本NPO丸山ワクチンと癌を考える会シンポジウム , 2005 . 9 .

##### (3) ワークショップ :

- 1) Takahashi H : Fetal-maternal transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific ( Kobe, Japan ) , 2005 . 7 .
- 2) Ohkuni H<sup>1)</sup> , Todome Y<sup>1)</sup> , Takahashi H , Naganuma H<sup>2)</sup> , Abe J<sup>3)</sup> , Ohtsuka H<sup>1)</sup> , Hatakeyama H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Medeca Japan Laboratory Co. Ltd , <sup>2)</sup> University of Tokushima , <sup>3)</sup> National Research Center for Child Health ) : Antibody titers to Streptococcus mitis-derived human platelet aggregation factor ( Sm-hPAF ) in the sera of patients with Kawasaki disease . XVIth Lancefield International Symposium on Streptococci and Streptococcal Diseases ( Cairns, Australia ) , 2005 . 9 .
- 3) Takahashi H : Endogenously expressed HIV-1 nef down-regulates not only class I MHC but also CD1a mole-

cules : A new target for vaccine development . The 18th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Hanoi, Vietnam ), 2005 . 11 .

- 4) Horiuchi R<sup>1)</sup>, Ido E<sup>1)</sup>, Akahata W<sup>1)</sup>, Enose Y<sup>1)</sup>, Ibuki K<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Goto T<sup>1)</sup>, Takahashi H, Hayami M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Laboratory of Viral Pathogenesis, Institute for Virus Research, Kyoto University): DNA vaccination of macaques by full-sized SHIV plasmids that produce non-infectious virus particles . The 10th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim ( Hanoi, Vietnam ), 2005 . 11 .
- 5) 高橋めぐみ, 高橋秀実: SIV感染に対するCD4陽性T細胞とCD4/8陽性T細胞の感受性の相違 . 文科省特定領域研究「サルを用いた感染症研究」の現状と今後を考える会議, 2005 . 9 .
- 6) 高橋秀実: 霊長類におけるCD1d分子の保存性とSIV/HIV感受性 . 文科省特定領域研究「サルを用いた感染症研究」の現状と今後を考える会議, 2005 . 9 .

(4) 一般講演:

- 1) 熊谷善博, 飯泉 匡, 山西慎吾, 長田久美子<sup>1)</sup>, 神谷 茂<sup>2)</sup>, 広田 薫<sup>3)</sup>, 渡邊恵理<sup>3)</sup>, 坂本長逸, 高橋秀美(<sup>1)</sup>兵庫医大病原微生物, <sup>2)</sup>杏林大学感染症学, <sup>3)</sup>内科学第2): Augmentation of Helicobacter pylori urease activity by its specific IgG antibody : implications for bacterial colonization enhancement . 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .
- 2) 大國寿士<sup>1)</sup>, 留目優子<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 大塚広樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>メディカジャパン研究所): 川崎病患児における Streptococcus mitis由来ヒト血小板凝集因子に対する抗体の検討 . 第79回日本感染症学会総会, 2005 . 4 .
- 3) 野呂瀬嘉彦, 大脇敦子, 新谷英滋, 高橋秀実, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>1)</sup>, 篠山明宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部細菌): RAPD-PCR法を用いた細菌DNA型別解析の検討 . 第73回日本医科大学医学学会総会, 2005 . 9 .
- 4) 高橋秀実, 里見操緒, 清水真澄, 新谷英滋, 渡理英二, 大脇敦子, 日高千鶴乃, 市川雅男, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科): 母乳中マクロファージを介したレトロウイルスの感染伝播のメカニズム: R5-type HIV-1をモデルとして . 第53回日本ウイルス学会総会, 2005 . 11 .
- 5) 高橋めぐみ, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実: 麻疹ウイルス変異株の持続感染に関する宿主因子 . 第53回日本ウイルス学会総会, 2005 . 11 .
- 6) 高橋秀実, 高橋めぐみ, 斉藤尚紀<sup>1)</sup>, 守屋慶一, 上坂浩実<sup>1)</sup>, 福島達伸, 井戸栄二<sup>1)</sup>, 伊吹謙太郎<sup>1)</sup>, 三浦智行<sup>1)</sup>, 速水正憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都大学ウイルス研究所・感染症モデル研究センター): サルCD4<sup>+</sup>T細胞とCD4<sup>+</sup>CD8<sup>+</sup>T細胞のSIVmac239に対する感受性の差違 . 第19回日本エイズ学会総会, 2005 . 12 .
- 7) 里見操緒, 清水真澄, 新谷英滋, 渡理英二, 大脇敦子, 八木幸恵, 渡邊嘉之, 日高千鶴乃, 市川雅男, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科): 初乳中マクロファージ上のDC-SIGNを介したHIV-1感染伝播の可能性 . 第19回日本エイズ学会総会, 2005 . 12 .
- 8) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 小宮暢子, 日高千鶴乃, 高橋秀実: HIV-1 Nef down-regulates surface expression of CD1a molecules in immature dendritic cells : analysis of interaction between CD1a cytoplasmic tail and HIV-1 Nef . 第19回日本エイズ学会総会, 2005 . 12 .
- 9) 日高千鶴乃, 渡邊恵理, 清水真澄, 山西慎吾, 里見操緒, 樋口智江, 高橋めぐみ, 新谷英滋, 高橋秀実: Th2優位の環境下におけるNKT細胞を介したX4-type HIV-1の感染拡大 . 第19回日本エイズ学会総会, 2005 . 12 .
- 10) 中川洋子, 菊地浩人<sup>1)</sup>, 樋口智江, 清水真澄, 高橋秀実(<sup>1)</sup>物理): HIV外被糖蛋白gp160に特異的な細胞傷害性T細胞の認識特異性に関する研究(2) . 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .
- 11) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 山西慎吾, 里見操緒, 日高千鶴乃, 渡理英二, 高橋秀実: HIV-1 Nef down-regulates the surface expression of CD1a molecules as well as class I MHC in immature dendritic cells . 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .
- 12) 高橋秀実, 里見操緒, 清水真澄, 新谷英滋, 渡理英二, 大脇敦子, 日高千鶴乃, 八木幸恵, 市川雅男, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科): Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-

SIGN . 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .

- 13) 若林あや子, 中川洋子, 清水真澄, 西山康裕<sup>1)</sup>, 守屋慶一, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>内科学第2 ): 経口免疫による腫瘍制御のメカニズム: ex vivoにおける特異的CTLの動態解析. 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .
- 14) 渡理英二, 渡邊恵理, 清水真澄, 小宮暢子, 中川洋子, 高橋秀実: 高感度Granzyme B活性測定法によるインフルエンザウイルス抗原特異的CTL応答の解析. 第35回日本免疫学会総会, 2005 . 12 .
- 15) 園部一成<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>付属病院中央検査部 ): RAPD法を用いた細菌DNA型別解析と使用ブライマーに関する検討. 第17回日本臨床微生物学会総会, 2006 . 1 .
- 16) 倉藤晶子<sup>1)</sup>, 佐々木恵<sup>1)</sup>, 金子栄子<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦 ( <sup>1)</sup>付属病院中央手術部, <sup>2)</sup>臓器病態制御外科 ): ラビング法による手術時手洗いの基礎的研究. 第21回日本環境感染学会総会, 2006 . 2 .
- 17) 大國寿士<sup>1)</sup>, 留目優子<sup>1)</sup>, 長宗秀明<sup>2)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>メディカジャパン研究所, <sup>2)</sup>徳島大学 ): 川崎病におけるStreptococcus mitis由来ヒト血小板凝集因子に対する抗体の検討. 第79回日本細菌学会総会, 2006 . 3 .

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

環境医学, 衛生・公衆衛生学領域から, 各スタッフの興味に従い, 社会医学に寄与するための研究テーマを選んで, 調査研究をすすめている。ラボ解析とフィールド調査を踏まえた「人」を対象とした予防医学研究が増えている。大学院生を中心とした循環器疫学研究の成果も出始めている。

長期的な視点での「研究目的」を設定し, 成果の積み重ねを期待したい。各自の研究をすすめるために, 引き続き外部研究資金の獲得を求めていきたいと考える。

各スタッフの主な研究内容は,

- ・ 携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究 (平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)), 禁煙が健康に及ぼす影響に関する研究 (喫煙科学研究財団補助金)(川田智之)
- ・ 環境化学因子シアンの解毒酵素であるメルカプトビルピン酸硫黄転移酵の構造と機能との関連および多様性に関する研究: 生体内一酸化硫黄の発生機構と生理作用, メルカプト乳酸システインジスルフィド尿症の発症機序および分子疫学的研究 (永原則之)
- ・ ウイルス肝炎地域流行の長期追跡研究, および都市部における定期的運動習慣をもつ地域在住者の健康調査 (若山葉子)
- ・ 免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製とその応用に関する研究 (稲垣弘文)
- ・ パーフォリンノックアウトマウスを用いた, 有機リン農薬による免疫機能低下機序の解明 (平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)), 森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明: 環境免疫学的視点から (農林水産省研究費)(李卿)
- ・ コチニンを指標にした喫煙のバイオロジカルモニタリングと, 地域における禁煙介入研究 (勝又聖夫)
- ・ 生体の免疫系におけるグランザイム3の役割の解明 (その検出方法と基質特異性の検討)(平田幸代)
- ・ 鉛中毒で活性低下するポルフォピリノーゲン合成酵素の酵素学的, 分子生物学的研究 (澤田典里)
- ・ 環境要因の呼吸器疾患の発症・増悪リスクとしての寄与の程度, および環境被害で観察される呼吸器障害の個体差の原因を追求する上で, 分子機構に基づいた予防対策に関する研究 (李英姫)

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Li Q, Inagaki H, Nakadai A, Shimizu T, Hirata K, Hirata Y: Insomnia as a sequela of sarin toxicity several years after exposure in Tokyo subway trains. *Percept. Motor Skills* 2005; 100 (3 Pt2): 1121-1126.
- 2) Li Q, Liang Z<sup>1)</sup>, Nakadai A, Kawada T (<sup>1)</sup> Department of Central Laboratory, China Medical University): Effect of electric foot shock and psychological stress on NK, LAK and CTL activities, NK receptors and mRNA transcripts of granzymes and perforin. *Stress* 2005; 8 (2): 107-116.
- 3) Kawada T, Suzuki S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Gunma Health Promotion Center): Validation study on self-reported height, weight and blood pressure. *Percept. Motor Skills* 2005; 101 (1): 187-191.
- 4) Li Q, Nakadai A, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Morimoto K<sup>2)</sup>, Ueda A<sup>3)</sup>, Krensky Alan M<sup>4)</sup>, Kawada T (<sup>1)</sup> First Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Preventive and Environmental Medicine, Graduate

School of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University , <sup>4)</sup> Division of Immunology and Transplantation Biology, Stanford University School of Medicine ): Dimethyl 2, 2-dichlorovinyl phosphate ( DDVP ) markedly decreases the expression of perforin, granzyme A and granzyme B in human NK-92CI cell line . Toxicology 2005 ; 213 ( 1-2 ): 107-116 .

- 5) Nagahara N , Katayama A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Post-translational regulation of mercaptopyruvate sulfurtransferase via a low redox potential cysteine-sulfenate in the maintenance of redox homeostasis . J. Biol. Chem. 2005 ; 280 ( 41 ): 34569-34576 .
- 6) Kawada T , Ooya M : Workload and health complaints in overtime workers : A survey . Arch. Med. Res. 2005 ; 36 ( 5 ): 594-597 .
- 7) Li Ying J , Azuma A<sup>1)</sup> , Usuki J<sup>1)</sup> , Abe S<sup>1)</sup> , Matsuda K<sup>1)</sup> , Sunazuka T<sup>2)</sup> , Shimizu T , Hirata Y , Inagaki H , Kawada T , Takahashi S<sup>3)</sup> , Kudoh S<sup>1)</sup> , Omura S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato University , <sup>3)</sup> Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba ): EM703 improves bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice by the inhibition of TGF- $\beta$  signaling in lung fibroblasts . Respir. Res. 2006 ; 7 ( 1 ): 16 .
- 8) Hirata Y , Inagaki H , Shimizu T , Li Q , Nagahara N , Minami M , Kawada T : Expression of enzymatically active human granzyme 3 in *Escherichia coli* for analysis of its substrate specificity . Arch. Biochem. Biophys. 2006 ; 446 ( 1 ): 35-43 .
- 9) Kawada T , Otsuka T : Relations of body mass index and coronary risk as estimated by the Framingham risk score . Percept. Motor Skills 2006 ; 102 ( 1 ): 254-258 .
- 10) Otsuka T , Kawada T , Katsumata M , Ibuki C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital ): Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population . Circ. J. 2006 ; 70 ( 3 ): 304-310 .
- 11) 若山葉子 , 川田智之 , 植田悠紀子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科 ): 定期住民健康診査成績からみたウイルス肝炎流行地域の肝機能異常率の検討 . 民族衛生 2005 ; 71 ( 5 ): 219-226 .

(2) 綜説 :

- 1) Nagahara N , Sawada N : The mercaptopyruvate pathway in cysteine catabolism : A physiologic role and related disease of the multifunctional 3 mercaptopyruvate sulfurtransferase . Curr. Med. Chem. 2006 ; 13 ( 10 ): 1219-1230 .

(3) Letters to the Editor :

- 1) Kawada T , Katsumata M , Suzuki H , Shimizu T : Oxygenation in the artery during nap sleep . Sleep Medicine 2006 ; 7 ( 1 ): 87 .

(4) 資料 :

- 1) 勝又聖夫 , 平田紀美子 , 中台亜里 , 稲垣弘文 , 川田智之 : 医学教育に用いることができるタバコ煙中の簡易なガス測定法の試み . 日本衛生学雑誌 2005 ; 60 ( 3 ): 355-361 .

著 書

- 1) 川田智之 : [ 分担 ] 産業保健 . シンプル衛生公衆衛生学 2006 ( 鈴木庄亮・久道 茂編 ), 2006 ; pp253-263 , 南江堂 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Li Ying J , Matsumoto A<sup>1)</sup> , Azuma A<sup>1)</sup> , Takizawa H<sup>2)</sup> , Kawada T , Sugawara I<sup>3)</sup> , Kudoh S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Fourth

Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine , <sup>3)</sup> Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis ): Mouse Strain Differences in Airway Hyperresponsiveness Caused by Low-Dose Diesel Exhaust Particles ( Theme : Clinical and physiological features of allergy and immunotoxicological diseases 2 ). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases ( ISOEAID05 )( Kumamoto ), 2005 . 9 .

- 2) Nakadai A , Li Q , Kawada T : Chlorpyrifos induced apoptosis in human immune cells ( Theme : Immunotoxicological study model to evaluate the allergenicity of each chemical substance by in-vivo and in-vitro experiment ). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases ( ISOEAID05 )( Kumamoto ), 2005 . 9 .

(2) パネルディスカッション :

- 1) Li Q , Nakadai A , Inagaki H , Katsumata M , Shimizu T , Hirata Y , Hirata K , Suzuki H , Miyazaki Y<sup>1)</sup> , Kagawa T<sup>1)</sup> , Koyama Y<sup>2)</sup> , Krensky AM<sup>3)</sup> , Morimoto K<sup>4)</sup> , Kawada T ( <sup>1)</sup> Forestry and Forest Products Research Institute , <sup>2)</sup> Nagano Prefecture Forest Research Center , <sup>3)</sup> Division of Immunology and Transplantation Biology, Stanford University School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine ): Forest Bath Enhances Human NK Activity ( Theme : Comprehensive and systemic preventive countermeasures against allergy and immuno-toxicology ). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases ( ISOEAID05 ) ( Kumamoto ), 2005 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) Sawada N , Nagahara N , Kawada T : A reducing agent activates human porphobilinogen synthase via intrasubunit transfer of a zinc ion . 9th International Congress of Amino Acids and Proteins ( Vienna ), 2005 . 8 .
- 2) Nagahara N , Yoshii T : An important role of sulfane sulfur at a catalytic cysteine of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase in defense against oxidative stress . 9th International Congress on Amino Acids and Proteins ( Vienna ), 2005 . 8 .
- 3) Li Ying J , Matsumoto A<sup>1)</sup> , Azuma A<sup>1)</sup> , Takizawa H<sup>2)</sup> , Kawada T , Sugawara I<sup>3)</sup> , Kudoh S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine , <sup>3)</sup> Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis ): Mouse Strain Differences in Airway Hyperresponsiveness Caused by Low-Dose Diesel Exhaust Particles . 10th Asian Pacific Society of Respirology ( APSR )( Guangzhou ), 2005 . 11 .
- 4) Kawada T , Katsumata M , Suzuki H , Sasazawa Y<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Takasaki University of Health and Welfare , <sup>2)</sup> Gunma Health Promotion Center ): Population Study on the Prevalence of insomnia among Japanese Women Living in a Village and a Local City . The 10th Asian Congress of Agricultural Medicine and Rural Health ( Kinugawa ), 2005 . 11 .
- 5) Li Q , Nakadai A , Ishizaki M<sup>1)</sup> , Morimoto K<sup>2)</sup> , Krensky AM<sup>3)</sup> , Kawada T ( <sup>1)</sup> First Department of Pathology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Division of Immunology and Transplantation Biology, Stanford University School of Medicine ): Effect of Dimethyl 2, 2-Dichlorovinyl Phosphate ( DDVP ) on the Expression of Perforin, Granzyme A and Granzyme B in Human NK Cells . BTS/UKEMS Spring Congress ( Coventry ), 2006 . 3 .
- 6) Hirata Y , Inagaki H , Li Q , Kawada T : Expression of enzymatically active recombinant human granzyme A . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .
- 7) Hirata Y , Inagaki H , Shimizu T , Kawada T : Analysis of substrate specificity of human granzyme A . 第

- 78回日本生化学会大会，2005．10．
- 8) Nagahara N, Yoshii T, Katayama A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology): Post-translational regulation of mercaptopyruvate sulfurtransferase activity by the redox: The maintenance of redox homeostasis via the cysteine degradation control．第78回日本生化学会大会，2005．10．
- 9) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: A reserve zinc ion coordinated with Cys<sup>223</sup> and His<sup>131</sup> moves to the other binding site in the activation of human porphobilinogen synthase by 2-mercaptoethanol．第78回日本生化学会大会，2005．10．
- 10) 李 英姫, 松本亜紀<sup>1,2)</sup>, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 滝澤 始<sup>3)</sup>, 菅原 勇<sup>2)</sup>, 川田智之, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第4, <sup>2)</sup>結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, <sup>3)</sup>東京大学呼吸器内科): ディーゼル排気粒子によるマウス気道炎症病態の系統差検討．第45回日本呼吸器学会総会，2005．4．
- 11) 中台亜里, 李 卿, 川田智之: 有機リン農薬 Chlorpyrifos によるヒト免疫細胞のアポトーシス．第78回日本産業衛生学会，2005．4．
- 12) 李 卿, 中台亜里, 石崎正通<sup>1)</sup>, 森本兼曩<sup>2)</sup>, 川田智之(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>2)</sup>大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学): 有機リン農薬 DDVP がヒトNK細胞内の Perforin, Granzyme A, Granulysin の濃度を減少させる．第78回日本産業衛生学会，2005．4．
- 13) 大塚俊昭, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科・循環器科): 指尖容積加速度脈波による冠動脈疾患リスク判定の試み: 地域健康診断における横断研究．第53回日本心臓病学会学術集会，2005．9．
- 14) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: サリン事件被害者検診と被害者の自覚症状．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 15) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学スポーツ科学, <sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎専門): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 16) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: タバコ煙中ガス成分の簡易な測定法の開発と医学教育での応用: その2．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 17) 川田智之, 伊藤博子, 勝又聖夫: 睡眠時の動脈血酸素飽和度: 睡眠段階との関係．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 18) 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 若山葉子(<sup>1)</sup>日本医科大学スポーツ科学, <sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎専門): 高齢者における歩行能力測定．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 19) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: タバコ煙中ガス成分の簡易的な測定法の開発と医学教育での応用: その1．第64回日本公衆衛生学会総会，2005．9．
- 20) 李 卿, 中台亜里, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 清水孝子, 平田幸代, 平田紀美子, 鈴木博子, 川田智之, 宮崎良文<sup>1)</sup>, 香川隆英<sup>1)</sup>, 小山泰弘<sup>2)</sup>, 森本兼曩<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>森林総合研究所, <sup>2)</sup>長野県林業総合センター, <sup>3)</sup>大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学): 森林浴がヒトNK活性及びリンパ球内 Perforin, Granulysin, Granzyme を増加させる．第5回分子予防環境医学研究会，2005．11．
- 21) 李 英姫, 松本亜紀<sup>1,2)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 滝澤 始<sup>3)</sup>, 川田智之, 菅原 勇<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第4, <sup>2)</sup>結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, <sup>3)</sup>東京大学呼吸器内科): 低濃度ディーゼル排気粒子曝露によるマウス気道過敏性の系統差．アレルギー・気道上皮細胞研究会第9回学術大会，2005．12．
- 22) 永原則之: 酵素の活性変動を基に行う診断のピットフォール．第76回日本衛生学会総会，2006．3．
- 23) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学スポーツ科学, <sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎専門): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績．第76回日本衛生学会総会，2006．3．

- 24) 勝又聖夫, 伊藤博子, 川田智之: サリン事件被害者の持続的な有訴状況. 第76回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 25) 李 英姫, 松本亜紀<sup>1,2)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 滝澤 始<sup>3)</sup>, 川田智之, 菅原 勇<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第4, <sup>2)</sup>結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, <sup>3)</sup>東京大学呼吸器内科): 低濃度DEP曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差. 第76回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 26) 澤田典里, 永原則之, 南 正康, 川田智之: デルタアミノレブリン酸脱水酵素の活性上昇と低下に伴う構造変化. 第76回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 27) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: リコンビナントヒトGranzyme Aの発現とその性質. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 28) 平田紀美子, 勝又聖夫, 中台亜里, 稲垣弘文, 川田智之: 光触媒による室内空気汚染物質の分解と生成. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 29) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: セリンプロテアーゼ阻害剤のヒトGranzyme 3及びAへの影響. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- (4) Landmark Lecture :
- 1) Li Q, Nakadai A, Matsushima H<sup>1)</sup>, Miyazaki Y<sup>2)</sup>, Krensky Alan M<sup>3)</sup>, Kawada T, Morimoto K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup>Forestry and Forest Products Research Institute, <sup>3)</sup>Division of Immunology and Transplantation Biology, Stanford University School of Medicine): Phytoncides ( wood essential oils ) induce human natural killer cell activity . The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases ( ISOEAID05 )( Kumamoto ), 2005 . 9 .



## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者の緊急薬毒物分析法を開発し、GC/MS、LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたベンゾジアゼピン系薬物の一斉スクリーニング、Tetrodotoxin等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる。

#### 2. トリカプト毒・フグ毒に関する研究

トリカプト毒・フグ毒について、急性中毒時の生理学的反応とLC/MS、GC/MSによる毒物および代謝物の関係について検討している。

#### 3. アルコール代謝

アルコール代謝の鍵酵素であるADH1・ADH3の寄与とその調節機構を生化学・薬物動態学的にあるいは培養心筋細胞内小器官および分子レベルで検討している。また、アルコール感受性の性差・個体差、アルコール関連障害の機序を培養細胞およびノックアウトマウスを用いて研究している。さらに、ウイスキー中の微量成分の生体への影響について検討している。

#### 4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

#### 5. 法医学実務的研究

平成15年6月より千葉県警察の司法解剖を受託している（法医学解剖室が本学に整備されるまで、当分の間日本大学医学部法医学解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を研究・検討している。また、死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究、骨からの年齢推定に関する検討等を行っている。さらに、剖検例以外にも刑事・民事にかかわる事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 平川慶子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ): 顔面への異物注入後高度合併症の治療経験 . 日本美容外科学会会報 2005 ; 27 ( 1 ): 85-85 .
- 1) Kurisaki E<sup>1)</sup>, Hayashida M, Nihira M, Ohno Y, Mashiko H<sup>2)</sup>, Okano T<sup>2)</sup>, Niwa S<sup>2)</sup>, Hiraiwa K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Fukushima Medical University School of Medicine ): Diagnostic Performance of TriageTM for Benzodiazepines : Urine Analysis of the Dose of Therapeutic Cases . Journal of Analytical Toxicology ( JAT ) 2005 ; 29 : 539-543 .
- 2) Haseba T , Deuster G<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Yamamoto I<sup>3)</sup>, Kameyama K<sup>4)</sup>, Ohno Y ( <sup>1)</sup> OncoDevelopmental Biology Program, Burman Institute, CA , <sup>2)</sup> Department of Bioengineering, Soka Univ. , <sup>3)</sup> Dept. of Forensic Dental Medicine, Kanagawa Dental College , <sup>4)</sup> Dept. of Pathology II Nippon Medical School ): In vivo contribution of Class III alcohol dehydrogenase ( ADH3 ) to alcohol metabolism through activation by cytoplasmic solution hydrophobicity . Biochem. Biophys. Acta 2006 ; 1762 : 276-283 .

- 3) 崔 范来, 大野曜吉, 長谷場健, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 飯酒孟勇<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学法医学, <sup>2)</sup> 日本大学医学部法医学): 焼死体の顔面表皮剥離による身元確認. 法医学の実際と研究 2005; 48: 143-145.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 大野曜吉: 医療現場と法医学. 第2回筑西市民病院学会, 2005. 12.  
2) 大野曜吉: ベンゾジアゼピン系薬物が関連した刑事・民事事件の法医鑑定. 第20回日本中毒学会東日本地方会, 2006. 2.

##### (2) 招待講演:

- 1) Nihira M, Hayakawa H, Ohno Y, Wada K, Hayashida M (<sup>1</sup>) Dept. of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine): Toxicological findings of aconitine poisoned patients. The International Association of Forensic Toxicologists 43rd International Meeting (TIAFT 2005)(Seoul, Korea), 2005. 8.

##### (3) シンポジウム:

- 1) 仁平 信: 法医中毒学の立場から「剖検試料取り扱いの留意点」(信頼性のある鑑定を目指して - 鑑定試料は如何にあるべきか - ). 日本法中毒学会第24年会, 2005. 8.  
2) 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 奥田貴史, 小池幸子, 平川慶子(<sup>1</sup>)形成外科学): 現在使用されている異物の成分と安全性. 第95回日本美容外科学会 2006. 2, 2006. 2.

##### (4) 一般講演:

- 1) Hayashida M, Nihira M, Hayakawa H<sup>1)</sup>, Cui F, Ohno H (<sup>1</sup>) Dept. of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine): Screening procedure for benzodiazepines by LC-ESI-MS with the timeprogramming SIM method and its application to postmortem fluids and tissues. The International Association of Forensic Toxicologists 43rd International Meeting (TIAFT 2005)(Seoul, Korea), 2005. 8.  
2) Hirakawa K, Koike K<sup>1)</sup>, Arifuku K<sup>2)</sup>, Uekusa K, Ohno Y<sup>3)</sup>, Onodera K<sup>4)</sup>, Aiboshi J<sup>4)</sup>, Yamamoto Y<sup>5)</sup> (<sup>1</sup>) Field of Surgery, Emergency and Critical Care Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>) Joint Technology Division, Jeol Datum LTD, <sup>3</sup>) Field of Social Medicine, Legal Medicine, Nippon Medical School Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>) Department of Critical Care Medicine, <sup>5</sup>) Field of Surgery, Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine): Metabolic characterization of small intestinal tissue in rats following hemorrhagic shock using multivariate statistical batch processing of 1H NMR spectra of PCA extracts of the tissue. The 44th annual meeting of the NMR Society of Japan and The 1st Asia-Pacific NMR symposium, 2005. 11.  
3) Inoue K<sup>1)</sup>, Itou M<sup>1)</sup>, Haseba T, Shimizu A<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) Dept. of Environmental Engineering for Symbiosis Faculty of Engineering, Soka Univ. ): Effects of solution hydrophobicity on activity of the alcohol dehydrogenase. Pacificchem 2005 (環太平洋国際化学会)(Hawaii), 2005. 12.  
4) Arifuku K<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Koike K<sup>2)</sup>, Uekusa K, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Ohno Y (<sup>1</sup>) JEOL DATUM LTD., <sup>2</sup>) Tohoku Univ Graduate School of Medicine): Integrated NMR-Spectroscopic and Chemometric Analysis of Mixtures; Two Hundred Kinds of Tea. The 46th ENC (Experimental Nuclear Magnetic Resonance Conference), 2005. 4.  
5) 平川慶子, 植草協子, 仁平 信, 小池 薫<sup>1)</sup>, 有福和紀<sup>2)</sup>, 松本美保, 大野曜吉(<sup>1</sup>) 東北大救急医学, <sup>2</sup>) 日本電子データム(株)): NMRによる代謝物プロファイルの多変量解析を用いた死後経過時間推定の基礎的研究. 第89次日本法医学会総会, 2005. 4.  
6) 林田真喜子, 仁平 信, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 崔 范来, 和田健太郎, 大野曜吉(<sup>1</sup>) 聖マリアンナ医科大学法医学): 剖検試料臓器中トリアゾラムとペラパミルのLC-ESI-MS分析. 第89次日本法医学会総会, 2005. 4.

- 7) 仁平 信, 林田真喜子, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 和田健太郎, 大野曜吉<sup>(1)</sup> 聖マリアンナ医科大学法医学): 日本医科大学法医学教室で測定したトリカブト中毒. 第89次日本法医学会総会, 2005. 4.
- 8) 大野曜吉: 法医中毒学的検査が論点となった鑑定人の立場から. 第11回法中毒懇話会, 2005. 4.
- 9) 林田真喜子, 仁平 信, 崔 范来, 大野曜吉, 早川秀幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学): LC-ESI-MSを用いて複数のベンゾジアゼピン系薬物が検出された剖検例の1例. 日本法中毒学会第24年会, 2005. 8.
- 10) 百束比古<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 奥田貴久<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>2)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉<sup>(1)</sup> 日本医科大学形成外科学, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院形成外科): 美容外科の問題点 - 非吸収性異物の注入による種々の合併症 -. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 11) 平川慶子, 植草協子, 小池 薫<sup>1)</sup>, 有福和紀<sup>2)</sup>, 仁平 信, 大野曜吉<sup>(1)</sup> 東北大学大学院救急医学, <sup>2)</sup> 日本電子データム(株): メタボロミクス用NMRデータ処理ソフトウェア「ALICE2 for Metabolome」の改良. 第33回日本磁気共鳴医学会大会, 2005. 9.
- 12) 平川慶子, 下池田勇一<sup>1)</sup>, 植草協子, 河原理子<sup>3)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 大野曜吉, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本電子(株)分析機器本部応用研究グループ, <sup>2)</sup> 形成外科学, <sup>3)</sup> 神栖済生会病院形成外科): 興味ある摘出異物標本の成分分析例. 第28回日本美容外科学会総会, 2005. 10.
- 13) 江浦重義<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 大野曜吉<sup>(1)</sup> 形成外科学, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院形成外科): デリバリーによる注入異物を受けた患者の検討. 第28回日本美容外科学会総会, 2005. 10.
- 14) 奥田貴久<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>2)</sup>, 平川慶子<sup>(1)</sup> 形成外科学, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院形成外科): バッグプロテゼ摘出希望者の検討. 第28回日本美容外科学会総会, 2005. 10.
- 15) 崔 范来, 大野曜吉, 長谷場健, 早川秀幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学): 中国の司法鑑定制度改革. 第74回日本法医学会関東地方会, 2005. 11.
- 16) 崔 范来, 大野曜吉, 長谷場健, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 飯沼孟勇<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学, <sup>2)</sup> 日本大学医学部法医学): 焼死体の顔面表皮剥離による身元確認. 第74回日本法医学会関東地方会, 2005. 11.
- 17) 手塚晶人<sup>1)</sup>, 明尾慶一郎<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 富田ゆかり, 和田健太郎, 仁平 信, 大野曜吉<sup>(1)</sup> 日本医科大学学生): アコニチン・テトロドトキシン混合投与時のマウス心電図変化. 第74回日本法医学会関東地方会, 2005. 11.
- 18) 計良陽子<sup>1,3)</sup>, 黒川留美<sup>2)</sup>, 藤田雅子<sup>1)</sup>, 林 由紀子<sup>1)</sup>, 南 成祐<sup>1)</sup>, 長谷場 健, 野口 悟<sup>1)</sup>, 加藤尚志<sup>3)</sup>, 西野一三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立精神神経センター神経研, <sup>2)</sup> 理研脳科学総合研究センター臨界期機構研究G, <sup>3)</sup> 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻): cDNA マイクロアレイを用いたLGMD2A筋における網羅的遺伝子発現解析. 第28回分子生物学会, 2005. 11.
- 19) 滝埜昌彦<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 大野曜吉, 栗崎恵美子<sup>2)</sup>, 平岩幸一<sup>2)</sup>, 寺田 賢<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 横河アナリティカルシステムズ(株), <sup>2)</sup> 福島県立医科大学法医学, <sup>3)</sup> 東邦大学医学部法医学): LC/TOF-MSを用いた外来精神科患者尿中エチゾラムとトリアゾラム及び代謝物の分離と定量. 日本法科学技術学会, 2005. 11.
- 20) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 宮内雅人<sup>2)</sup>, 菊池有道<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 救急医学): 当院高度救命救急センターにおける急性中毒の検討. 第20回日本中毒学会東日本地方会, 2006. 2.

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

医療管理学教室は、臨床とのつながりの強い社会医学としての位置づけで、医師国家試験の必須問題では38%が医療管理学の範疇である。高柳は、厚生労働省をはじめ地方自治体の各種委員会の委員にも委嘱されている。

学部教育では3年生の基礎配属で精神安寧の実験を行った。4年生の授業では教室独自のカリキュラムを作成した。「患者中心の医療」をテーマにした授業では学生の主導による医療シンポジウムを行った。「生きる気持ちの患者をサポートする医師」を求め、全身転移のがん患者である絵門ゆう子氏を特別講師として、公開講演と医療面接シミュレーションというユニークな授業を展開した。2ヵ月後、絵門ゆう子氏の葬儀に学生達は自発的に参列し、下級生に絵門氏の気持ちを伝え続けていくための本の寄贈や、講演会を自主的に開催した。

平成17年度の模擬患者 (Simulated Patient, SP) は35人が修了し、「医療面接」、「症候から考える」など、4年生の授業において12回活躍した。またEnglish Showerとして、Native Speaker16人の協力で、英語による医療面接のワークショップを行い、学生からの授業評価もよく、医学英語の重要性と意識づけに効果があった。また、新入生から継続的にすべきであるという意見があり、平成18年からの新入生ガイダンスにEnglish Showerが取り入れられた。

高柳は文部省科学研究費萌芽研究「医療安全を加味した医師の臨床判断教育と評価のためのシミュレーションツールの開発」を行い、米国のシミュレーション学会で発表した。また、平成17年度独立行政法人福祉医療機構助成金により「知的好奇心の惹起による高齢者の心理的・生理的变化」について、研究した。

研究生でハーバード大学 Mind Body Medical 研究所研究員でもある萩原由希子は教室でストレスと精神安寧についての研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takayanagi K, Hagihara Y : To Extend Health Resources in a Forested Hospital Environment- A Comparison Between Artificial and Natural Plants . Japan Mibyou System Association 2005 ; 11 ( 2 ) : 247-259 .
- 2) Takayanagi K, Hagihara Y : Can Individual Order-made Pleasing picture be Cost Effective? . Japan Mibyou System Association 2005 ; 11 ( 2 ) : 242-246 .
- 3) 高柳和江：専門医認定制機構加盟の主要な学会の設立目的と事業活動に関する分析：英米の内科学会、外科学会との比較を通して。病院管理 2005 ; 4 ( 21 ) : 67-73 .
- 4) 高柳和江：DPC時代の顧客満足。医療ジャーナル 2005 ; 4 ( 12 ) : 126-132 .

##### (2) 綜説：

- 1) 高柳和江：医療の質、矯正医療の将来を考える：医療の質から見た真の専門医制度とは何か。Jap J Orthodontics 2005 ; 3 ( 1 ) : 7-24 .
- 2) 高柳和江：ネットワークと癒し。癒しの環境研究会 2005 ; 10 ( 1 ) : 1-1 .
- 3) 高柳和江：光と癒し。癒しの環境研究会 2005 ; 10 ( 1 ) : 1-1 .
- 4) 高柳和江：斜めのベッドで眠れるか。癒しの環境研究会 2005 ; 10 ( 2 ) : 51-51 .
- 5) 高柳和江：間と癒し。癒しの環境研究会 2005 ; 10 ( 2 ) : 1-1 .
- 6) 高柳和江：明確な主張。アポロニア21 2005 ; ( 136 ) : 100-101 .
- 7) 高柳和江：臨床評価。アポロニア21 2005 ; ( 137 ) : 100-101 .
- 8) 高柳和江：ネットワーク。アポロニア21 2005 ; ( 138 ) : 102-103 .

- 9) 高柳和江：医療政策．アポロニア21 2005；(139)：100-101．
  - 10) 高柳和江：笑いは免疫力を高め，がん克服に役立つ最良のパトナー．月間がん 2005；7(8)：72-73．
  - 11) 高柳和江：患者コーチング．アポロニア21 2005；(140)：100-101．
  - 12) 高柳和江：自助努力と安全，そして精神的拘束のない国，スイス．癒しの環境研究会 2005；10(3)：28-32．
  - 13) 高柳和江：免疫力アップ．健康 2005；(9)：84-85．
  - 14) 高柳和江：自己コーチング．アポロニア21 2005；(141)：98-99．
  - 15) 高柳和江：パレート改善の総合医療．アポロニア21 2005；(142)：100-102．
  - 16) 高柳和江：プロセス・コントロール．アポロニア21 2005；(143)：100-101．
  - 17) 高柳和江：医療費の抑制．アポロニア21 2005；(144)：101-102．
  - 18) 高柳和江：高齢者に対する癒しの環境．老年期痴呆研究会誌 2005；15：1-2．
  - 19) 高柳和江：顧客主導の医療に向けて．新潟県病院協会報 2005；105：54-77．
  - 20) 高柳和江：小児外科学会の動向．順天堂小児外科同門会誌 2005；2：36-37．
  - 21) 高柳和江：利用しやすいトイレの広さ．MITE 2006；2(1)：6-6．
  - 22) 高柳和江：笑い療法士．アポロニア21 2006；(145)：100-101．
  - 23) 高柳和江：トイレの壁の有効利用．MITE 2006；2(2)：6-6．
  - 24) 高柳和江：笑い療法士の実践．アポロニア21 2006；(146)：100-101．
  - 25) 高柳和江：トイレの臭い．MITE 2006；2(3)：6-6．
  - 26) 高柳和江：進行性がんでも，元気．アポロニア21 2006；(147)：100-101．
  - 27) 高柳和江：トイレを病院のオアシスに．MITE 2006；2(12)：6-6．
  - 28) 高柳和江：モチベーションアップを引き出すあの手この手．MediCafe 2006；1(1)：18-18．
  - 29) 高柳和江：患者が元気で笑える医療・看護・看護．安佐医師会会報 2006；103：19-34．
- (3) 研究報告書：
- 1) 高柳和江：癒しの医療環境テキサス視察旅行報告書．癒しの環境研究会 2005．
  - 2) 高柳和江：療安全とコンピテンシーを加味した医師の臨床判断の評価のためのコンピューターシミュレーションツールの開発．文部省科学研究費萌芽の研究 2006．
  - 3) 高柳和江：知的好奇心の惹起による高齢者の心理的生理的变化．独立行政法人福祉医療機構 長寿社会福祉基金平成17年度助成事業 2006．

## 著 書

- 1) 高柳和江：〔分担〕日経病院ランキング，私はこう見る．日経病院ランキング，2004；pp46-46，日経新聞社．
- 2) 高柳和江：〔自著〕元気な病人になる秘訣第1版．元気な病人になる秘訣，2005；海竜社．
- 3) 高柳和江：〔自著〕初診時の対応．接遇ワンランクアップ作戦，2005；ティ・エル・エム・ジャパン．
- 4) 高柳和江：〔分担〕女性医師からのメッセージ．患者の視点での医療，2005；pp123-134，真興交易医書出版部．
- 5) 高柳和江：〔分担〕死に方のコツ，生き方のコツ．全国医師国民健康保険組合連合会，2005；pp33-48．
- 6) 高柳和江：〔分担〕小児外科学会の動向．小児外科，2005；pp36-37，順天堂小児外科教室．
- 7) 高柳和江：〔自著〕話を聞き取る，言葉をかける．接遇ワンランクアップ作戦，2006；ティ・エル・エム・ジャパン．
- 8) 高柳和江：〔自著〕電話をかけるプロの技．接遇ワンランクアップ作戦，2006；ティ・エル・エム・ジャパン．
- 9) 高柳和江：〔分担〕患者から見た癒しの環境．健康，2006；pp15-17，彩風社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：医療の質と患者安全管理 / 根本原因分析法．広島県医師会勤務医会，2005．3．
- 2) Takayanagi K：The principle of the healing environment in the healthcare settings．The First International Symposium of Architects for Health，2005．10．
- 3) 高柳和江：お笑い癒し．日本私立大学協会関東地区連絡協議会，2005．1．
- 4) 高柳和江：心の健康．愛知県保健センター大会，2005．3．
- 5) 高柳和江：これからの医療経済と医療管理．東京都私立病院会，2005．4．
- 6) 高柳和江：医療管理．京都私立病院協会開講式，2005．4．
- 7) 高柳和江：生き方死に方．獨協大学経済学部特別講座，2005．5．
- 8) 高柳和江：患者に癒しを，医師にも癒しを．姫路市医師会大会，2005．7．
- 9) 高柳和江：知的好奇心の惹起による高齢者の変化．第7回癒しの環境研究会全国大会，2005．8．
- 10) 高柳和江：癒しの医療．第38回医師国民保険学会，2005．9．
- 11) 高柳和江：癒しの環境．第6回安佐医師会学会，2005．11．

### (2) シンポジウム：

- 1) 高柳和江：癒しの環境．第43回全国自治体病院協議会大会，2005．10．

### (3) 一般講演：

- 1) Takayanagi K，Sugiura K<sup>1)</sup>，Kakudate N<sup>1)</sup>，Yanagisawa S<sup>2)</sup>，Okamoto K<sup>2)</sup>，Nishide K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学心理学，<sup>2)</sup>東京大学大学院工学系研究科建築学専攻)：Do Comfortable Bed Position Have A Healing Effect On Patients?．Annual meeting of AcademyHealth ( USA )，2005．6．
- 2) Takayanagi K：Animation effect for improve intellectual ability for the elderly．Annual meeting of Public Health Meeting ( USA )，2005．6．
- 3) Takayanagi K，Hagihara Y，Tajiri T<sup>1)</sup>，Seino Y<sup>2)</sup>，Kato S<sup>1)</sup>，Yokota H<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>内科学第1，<sup>3)</sup>救急医学)：Computed medical simulation program to assess final-year-residents' clinical decision making ability to enhance patient safety in Japan．6th Annual International Meeting on Medical Simulation ( USA )，2006．1．
- 4) 新実絹代<sup>1)</sup>，高柳和江(<sup>1)</sup>社会保険横浜看護専門学校)：顧客価値把握のためのプロセス調査の構築と展開<第1報 顧客プロセス調査の基本構想>．第43回日本病院管理学会，2005．1．
- 5) 新実絹代<sup>1)</sup>，高柳和江(<sup>1)</sup>社会保険横浜看護専門学校)：顧客価値把握のためのプロセス調査の構築と展開<第2報 顧客プロセス調査の実際>．第36回日本看護学会，2005．1．
- 6) 正木幸善<sup>1)</sup>，高柳和江，日吉雅也<sup>1)</sup>，徳田恵美<sup>1)</sup>，中村祐希<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院外科)：排便コントロールのための盲腸ポート手術の有用性について．第105回日本外科学会定期学術集会，2005．5．
- 7) 正木幸善<sup>1)</sup>，高柳和江，日吉雅也<sup>1)</sup>，徳田恵美<sup>1)</sup>，中村祐希<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院外科)：盲腸ポートによる排便コントロール．第22回日本二分脊椎研究会，2005．6．
- 8) 高柳和江，熊田朝子：学生の自主シンポジウムによる患者中心の医療教育．第37回日本医学教育学会大会，2005．7．
- 9) 高柳和江，志村俊郎<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>2)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，阿曾亮子<sup>1)</sup>，熊田朝子(<sup>1)</sup>教育推進室，<sup>2)</sup>内科学第2)：医療面接のSP教育について．第37回日本医学教育学会大会，2005．7．
- 10) 高柳和江，志村俊郎<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>2)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，阿曾亮子<sup>1)</sup>，角館奈緒子<sup>3)</sup>，熊田朝子(<sup>1)</sup>教育推進室，<sup>2)</sup>内科学第2，<sup>3)</sup>心理学)：模擬患者(SP)教育によるSPの行動変容の分析．第37回日本医学教育学会大会，2005．7．
- 11) 高柳和江，杉浦京子<sup>1)</sup>，西出和彦<sup>2)</sup>，岡本和彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学心理学，<sup>2)</sup>東京大学大学院工学系研究科建築学専攻)：医療安全を加味した医師の臨床判断教育と評価のためのシミュレーションツールの開発(ST研究会)．第43回日本病院管理学会，2005．10．

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

実験動物管理室では、新しい疾患モデル動物の開発や特性の解析を行い、人の疾患モデルとしての有用性の検討や生物学的検定に応用している。

WBN/Kob ラットの雄は3ヶ月齢で肺炎を、9ヶ月齢で糖尿病を発症する非肥満の2型糖尿病モデル動物である。このラットに肥満遺伝子を導入して確立したコンジェニック系肥満2型糖尿病モデルWBN/Kob -fattyラットの糖尿病発症機構および糖尿病性合併症の病態について、検討を行っている。

スナネズミはてんかん、脳虚血あるいはピロリ菌感染の実験動物モデルとして利用されている。寄生虫感染モデルとしても多種に感受性を示す宿主動物である。人獣共通感染症の一種として動物由来回虫が人に寄生して起こる幼虫移行症があり、ヒトに眼疾患や神経疾患を引き起こす。イヌ・ネコなどの動物由来回虫類もスナネズミに感染が成立し、ヒトと同様な症状を発現することを明らかにし、モデルとしての有用性を示した。

現代日本では生活習慣病が増加の一途をたどり、高騰する医療費を抑制するために予防を強化する動きがあり、漢方や機能性食品など補完代替医療が注目されている。しかし、食品の医学的効果あるいは薬理作用は経験的に知られている要素が強く、客観的なデータが必要とされている。抗糖尿病作用があるといわれる桑の葉や木酢液について、モデル動物を用いて検討し、予防的投与により糖尿病発症抑制効果があることを示した。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Akimoto T, Hayashi N<sup>1)</sup>, Adachi M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Zhang XJ<sup>1)</sup>, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Katsuta Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Viability and plasma vitamin K levels in the common bile duct-ligated rats. *Exp Anim* 2005 ; 54 (2): 155-161 .
- 2) Katsuta Y<sup>1)</sup>, Zhang XJ<sup>1)</sup>, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Akimoto T, Komeichi H<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Kato Y<sup>1)</sup>, Miyamoto A<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Arterial hypoxemia and intrapulmonary vasodilatation in rat models of portal hypertension. *J Gastroenterol* 2005 ; 40 (8): 811-819 .
- 3) Katsuta Y<sup>1)</sup>, Zhang XJ<sup>1)</sup>, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Akimoto T, Komeichi H<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Miyamoto A<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Hemodynamic features of advanced cirrhosis due to chronic bile duct ligation. *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 (4): 217-225 .
- 4) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Shichinohe K, Sukanuma M, Euaful S<sup>3)</sup>, Asano G<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Kinshasa Univ. , <sup>2)</sup>Clinical Welfare College, <sup>3)</sup>Agroyesun St. Martin Hospital, Ghana, <sup>4)</sup>Hakujikai General Hospital): Buruli and other ulcerative lesions. *Journal of Clinical Welfare* 2005 ; 2 (1): 49-52 .

##### 著書

- 1) 七戸和博, 菅沼眞澄：〔分担〕線虫類。パラサイト学, 2005 ; pp52-106, メディカグローブ。

##### 学会発表

###### (1) 一般講演：

- 1) 長 哲<sup>1)</sup>, 赤尾信明<sup>2)</sup>, 齋藤康秀<sup>1)</sup>, 茅根士郎<sup>1)</sup>, 菅沼眞澄, 七戸和博(<sup>1)</sup>麻布大・獣医・寄生虫, <sup>2)</sup>東医歯

- 大・院・国際環境寄生虫病): スナネズミにおける動物性回虫類幼虫移行症に関する研究: 5種回虫幼虫の移行経路とその病態の比較. 第74回日本寄生虫学会大会, 2005. 4.
- 2) 菅沼眞澄, 友田弥里<sup>1)</sup>, 勝部拓矢<sup>2)</sup>, 七戸和博<sup>(1)</sup> 東医歯大・院・国際環境寄生虫病, <sup>2)</sup> 島根県産業技術センター): 実験的糖尿病モデル動物における桑葉抽出物の作用. 第59回日本栄養・食糧学会大会, 2005. 5.
- 3) 秋元敏雄, 仲間一雅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>サイエンス・サービス): WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>* コンジェニック系の育成経過中のN3F1, N6F1およびN10F1世代間の糖尿病発症率の比較および4ヶ月齢における雌肥満ホモ個体の表現型について. 第140回日本獣医学会学術集会, 2005. 9.
- 4) 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博: アロマオイルの薬理的検討1. 第8回日本補完代替医療学会学術集会, 2005. 11.
- 5) 秋元敏雄, 仲間一雅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>サイエンス・サービス): 肥満2型糖尿病モデルWBN/Kob-*fatty* ラットの雄における糖尿病に起因する白内障および腎病変について. 第22回疾患モデル学会総会, 2005. 11.
- 6) 井口佳代<sup>1)</sup>, 森川温子<sup>1)</sup>, 浅田忠利<sup>1)</sup>, 友田弥里<sup>2)</sup>, 川口克彦<sup>3)</sup>, 城田恵次郎<sup>3)</sup>, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博(<sup>1)</sup>日獣大・動物科学・動物栄養, <sup>2)</sup>東医歯大・院・国際環境寄生虫病, <sup>3)</sup>東武医技専): 糖尿病モデルマウスにおける木酢液の抗糖尿病作用. 日仏獣医学会第32回研究例会, 2006. 3.
- 7) 緑川貴之<sup>1)</sup>, 豊留 篤<sup>2)</sup>, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 飯野正昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉工業大学・生命環境科学, <sup>2)</sup>千葉工業大学・精密機械工学): ヒスタミン誘発皮膚反応に及ぼす分子量の効果. 日仏獣医学会第32回研究例会, 2006. 3.
- 8) 山形孝太郎<sup>1)</sup>, 緑川貴之<sup>1)</sup>, 河原井英樹<sup>1)</sup>, 福永典隆<sup>1)</sup>, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 飯野正昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉工業大学・生命環境科学): 超音波処理赤血球膜内蛋白質封入率の向上. 日仏獣医学会第32回研究例会, 2006. 3.

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本研究施設には、本来病院病理部に属すべき電顕診断業務と、中央電子顕微鏡研究施設本来の機能である共同利用研究施設としての業務が混在している。このような施設の置かれた状況の下、技術論を含めた電顕診断に関わる研究と、共同研究および研究支援の形で進行する研究がある。

1. 電子顕微鏡診断: 付属4病院から年間240余例の検体を依頼されている。その対象は、腫瘍、炎症、変性等多岐に亘り、また、内科・小児科・脳神経外科・耳鼻咽喉・頭頸部外科・泌尿器科・整形外科・消化器外科・胸部外科・皮膚科とほぼ全科からの依頼を受けている。これ等の中から、今年度は、腎臓の病変について、消化管腫瘍に関して報告がなされた。

2. 独自の研究: 臨床に役立つ電顕診断学の発展を目指して、生検材料や実験動物を用いて、診断のための新しい電顕的指標を見出す研究を継続している。ヒト腎生検材料の検討から、タコ足細胞内に出現する二種類の autophagy を見付け、I, II 型と命名した。

3. 電顕技術開発: 従来の走査型電顕による X - 線回析では、軽金属を検出することは困難であったが、未蒸着試料を低真空で X - 線回析することにより微量な軽金属の検出を可能にした。

4. 共同研究ならびに技術指導: 学内より年間190の研究(対象検体としては427検体)に関わった。

技術提供は、機能する共同利用研究施設を自負する本施設の特徴の一つであり、基礎・臨床を問わず、依頼があれば試料作製から電顕所見までの研究補助をするシステムをとっている。年度により異なるが、今年度、基礎医学では病理学・微生物免疫学・薬理学・実験動物室、臨床では小児科・眼科・皮膚科・形成外科・内科・救命救急センター・付属病院病理部・生命科学センターへの技術提供を行った。

技術提供から共同研究になることや、解剖学第一のように学生講義や研究目的のために本施設の電子顕微鏡の利用を開放する例もある。

平成12年に教授会で、承認されながら実行されていない電顕診断部門の付属病院病理部への移管の問題、アクシ



ョンプラン21に向けて、共同利用研究施設としての研究部門の見直しが迫られる中、より活性化された研究施設への展開を求められている。現行は、基礎配属の学生、全科的とはいえまだまだ限られた研究者に止まっている施設の利用をより活性化する為に、これから研究を展開しようとする大学院生・研究者に向けて、講習会等による技術を含めた情報提供のプログラムを立ち上げる計画を立てている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Adachi A, Sato S, Sasaki Y, Ghazizadeh M, Maeda M<sup>1)</sup>, Kaizu K<sup>1)</sup>, Liu XL<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics ): Electron microscopic studies on the occurrence of activated neutrophils in peripheral blood of children with acute leukemias . J. Submicrosc. Cytol. Pathol. 2005 ; 37 ( 1 ) : 13-18 .
- 2) Omi T<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>2)</sup>, Sato S, Takezaki S<sup>2)</sup>, Honda M<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>3)</sup>, Hankins RW<sup>3)</sup>, Bjerring P<sup>4)</sup>, Thestrup PK<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Queen ' s Square Medical Center , <sup>2)</sup> Department of Dermatology , <sup>3)</sup> 3rd Diagnostic Division, Health Science Research Institute , <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Aarhus University ): Cutaneous immunological activation elicited by a low-fluence pulsed dye laser . British Journal of Dermatology 2005 ; 153 ( S2 ) : 57-62 .
- 3) Sato S, Kitamura H<sup>1)</sup>, Adachi A, Sasaki Y, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Inoue K, Sugisaki Y, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> 1st Department of Pathology ): Reduplicated basal lamina of the peritubular capillaries in renal biopsy specimens . J. Submicrosc. Cytol. Pathol. 2005 ; 37 ( 3-4 ) : 305-311 .
- 4) Misao Y<sup>1)</sup>, Takemura G<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Sato S, Suzuki K<sup>1)</sup>, Miyata S<sup>1)</sup>, Kosai K<sup>2)</sup>, Minatoguchi S<sup>1)</sup>, Fujiwara T<sup>3)</sup>, Fujiwara H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Regeneration Medicine and Bioethics, Gifu University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Gene Therapy and Regenerative Medicine, Gifu University Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Food Science ( T. F. ), Kyoto Women ' s University ): Bone marrow-derived myocyte-like cells and regulation of repair-related cytokines after bone marrow cell transplantation . Cardiovascular Research 2006 ; 69 ( 2 ) : 476-490 .
- 5) 沼野香世子<sup>1)</sup>, 尾見徳彌<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> クイーンズスクエアメディカルセンター - 皮膚科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学皮膚科学 ): グリコール・乳酸を用いたケミカルピーリング製剤による超微形態学的な皮膚変化 . 日本美容皮膚科学会雑誌 2005 ; 15 : 240-245 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 佐藤 茂：「肺サーファクタント研究の現在・未来」 2 . 超微形態的立場から . 第41回日本界面医学会学術研究会, 2005 . 11 .

#### (2) 一般講演：

- 1) Liu Am, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Egami K<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Oguro T<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology , <sup>2)</sup> Department of Surgery ): Gastrointestinal stromal tumors ( GISTs ): An immunohistochemical and ultrastructural study . The 4th Asia-Pacific IAP Congress ( IAP2005 ) ( Beijing, China ), 2005 . 8 .
- 2) Liu Am, Hosone M<sup>1)</sup> : Gastrointestinal stromal tumors ( GISTs ): An immunohistochemical and ultrastructural study on 17 cases . United States and Canadian Academy of Pathology Annual Meeting ( Atlanta, USA ), 2006 . 2 .
- 3) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎

- 祐一<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>(2)</sup>同外科,<sup>(3)</sup>病理学第2): GIST (消化管間質腫瘍)における免疫染色及び電顕的検索. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 4) 安達彰子, 佐佐木喜広, 佐藤 茂: ウーロン茶抽出物 (OTE) による電子顕微鏡試料作製への応用. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 5) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広, 井上京子: タコ足細胞に見られた2種類の autophagy: 腎生検. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 6) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 松井洋法<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>第二病院眼科): X線分析における低真空型走査電子顕微鏡の有用性 (石灰沈着した含水性アクリル人工レンズを用いて). 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 7) 松井洋法<sup>1)</sup>, 小原沢英彰<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 鈴木久晴<sup>1)</sup>, 村野奈緒<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>眼科学): 角膜内皮細胞間結合の観察: tight junction の存在性についての考察. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 8) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 小黒辰夫<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>(2)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>(3)</sup>病理学第2): 消化管及び消化管外原発 GIST における電顕的検索. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 9) 松村豪一<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 上田眞太郎<sup>2)</sup>, 高橋常雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科,<sup>(2)</sup>上田老人医学研究所,<sup>(3)</sup>神奈川歯科大学人体構造学): アフリカ産肺魚プロトテリス・アネクテンスの肺の超微構造と肺サーファクタントの生化学的分析. 第41回日本界面医学会学術研究会, 2005. 11.

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

1995年, 日本医科大広域学術ネットワークの敷設が始まり, 各拠点への説明会などと, 慌ただしかった年から10年が経過し, 約5000人の登録利用者, 約3500台の端末を有するネットワークとなった.

この1, 2年利用者に多大の負担をおかけしたインターネットの遅さも, 2006年1月に関係各方面のご理解の下に, 国立情報学研究所の学術情報ネットワーク (SINET) へ100Mbpsでの接続を実現できました. また, あわせて拠点間の接続も10Mbpsに増強することが出来た.

SINETは学術系ネットワークとして米国へ10Gbps+2. 4Gbpsの回線で接続されており, 米国経由で全欧のGEANTやSURFnetへ繋がっている. アジア圏に対してはAPANETやタイのThasiSARNへ接続している. 実測で100Mbpsに近い接続速度が得られている.

2003年ころから話題になり始めたWinnyのウイルスによる個人情報漏洩は, 2006年には, ほぼ連日の如く大規模な漏洩事件が報道されている. 著作権を侵害する事を主な目的とする利用者が多い中, 教育における注意喚起も重要な課題となった.

高等教育におけるIT活用として, e-LearningやLearning Management System (LMS) が, 本年は多くの先進的な大学での実運用が始まっている. 情報科学センターとしても, 21世紀の高等教育において, IT活用は外せない研究課題としてとらえ, JenzabarLMSやビデオサーバーの運用など, 多くの実験的活動を展開して来ている. 本年は, Clinical Simulation Lab や模擬患者関係で多くのコンテンツの収録, 公開が出来, 地道だが, 内容的に充実してきた年といえよう.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Itoh T, Wakahara S<sup>1)</sup>, Nakano T<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Inoue O<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Medical Image, National Institute of zRadiological Sciences, <sup>2)</sup> School of Allied Health Sciences, Faculty of Medicine, Osaka

Univ.): Effects of anesthesia upon  $^{18}\text{F}$ -FDG uptake in rhesus monkey brain . Annals of Nuclear Medicine 2005 ; 19 ( 5 ): 373-377 .

- 2) Itoh T , Kimura T<sup>1)</sup> , Hayasaka Y<sup>2)</sup> , Ohshima H<sup>3)</sup> , Kanai N<sup>3)</sup> , Yamazaki K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Information and communication technology, Tokai Univ. , <sup>2)</sup> Grad. School of Software and Information Science, Iwate Prefectural Univ. , <sup>3)</sup> Dept. of Biomedical engineering, Tokai Univ. ): Evaluation of the developmental process of postural control during school age using sway velocity . Journal of Advances Science 2005 ; 17 ( 3&4 ): 209-217 .
- 3) Itoh T , Tanaka M<sup>1)</sup> , Kobayashi K<sup>1)</sup> , Suzuki K<sup>2)</sup> , Inoue O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Medical Imaging, National Institute of Radiological Sciences , <sup>2)</sup> School of Allied Health Sciences, Faculty of Medicine, Osaka University ): Binding kinetics of  $^{11}\text{C}$ -N-methyl piperidyl benzilate (  $^{11}\text{C}$ -NMPB ) in a rhesus monkey brain using the cerebellum as a reference region . Annals of Nuclear Medicine 2005 ; 19 ( 6 ): 499-505 .

#### (2) 研究報告書 :

- 1) Kawano K , Toyama M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kanagawa Prefectural Fijisawa High School ): Effects of Qigong Training on High School Students II . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2006 ; 24 ( 1 ): pp204-207 .
- 2) Kokubo H<sup>1)</sup> , Yamamoto M<sup>1)</sup> , Watanabe T<sup>2)</sup> , Kawano K , Sakamoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> International Research Institute , <sup>2)</sup> Toho University ): Brain Blood Flow Change with Functional Near Infrared Spectroscopy while Guessing . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2006 ; 24 ( 1 ): pp224-230 .
- 3) 河野貴美子 : 熟高齢者の気功鍛錬における生理指標の変化 . 未病と抗老化 2005 ; 14 ( 1 ): pp159-161 .
- 4) 小久保秀之<sup>1)</sup> , 山本幹男<sup>1)</sup> , 河野貴美子 ( <sup>1)</sup> 国際総合研究機構 ) : 近赤外分光法による図形推測時の脳活動の研究 . 超心理学研究 2005 ; 10 ( 1, 2 ): pp33-36 .
- 5) 河野貴美子 : 脳波で探る特殊能力 . 超心理学研究 2005 ; 10 ( 1, 2 ): pp41-45 .

#### 著 書

- 1) 河野貴美子 : [ 分担 ] 脳波に探るスピリチュアルな世界 . 科学とスピリチュアリティの時代 ( 湯浅泰雄 , 春木豊 , 田中朱美 ) , 2005 ; pp287-296 , ピング・ネット・プレス社 .
- 2) 河野貴美子 , 菊池美也子 : [ 共著 ] 絶妙な脳力 ( 記憶・発想・思考 ) を作る技術 , 2005 ; 明日香出版社 .
- 3) 河野貴美子 : [ 監修 ] 集中力を鍛える そろばん ( 脳力アップ ) ドリル ( 岡久泰大問題作成 ) , 2006 ; 日本文芸社 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 河野貴美子 : 脳こそクールビズ . 第20回生命情報科学シンポジウム , 2005 . 9 .
- 2) 河野貴美子 : 脳波で探る特殊能力 . 第38回日本超心理学会大会 , 2005 . 12 .

##### (2) パネルディスカッション :

- 1) Kimura T<sup>1)</sup> , Hayasaka Y<sup>2)</sup> , Itoh T<sup>3)</sup> , Yamazaki K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokai University , <sup>2)</sup> Iwate Prefectural University , <sup>3)</sup> Nippon Medical School ): A Fundamental Study Toward Evaluation System for Postural Control Using Sway Velocity . 11th International Conference on Human-Computer Interaction ( Las Vegas, Nevada USA ) , 2005 . 7 .
- 2) 上野健爾<sup>1)</sup> , 益田 明<sup>2)</sup> , 西川善彰<sup>2)</sup> , 河野貴美子 , 有田八州穂<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大学 , <sup>2)</sup> 日本珠算連盟 , <sup>3)</sup> 多摩市立多摩第二小学校 ): 暗算について考える . 日本数学協会 , 2005 . 8 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) 渡部 昇 , 河野貴美子 , 滋野恭子 , 奥重秀彦 , 伊藤高司 : 必要などころで必要な情報にアクセスできるツール

- を目指して．日本医学教育学会，2005．7．
- 2) 渡部 昇，河野貴美子，滋野恭子，奥重秀彦，伊藤高司：新入生の「情報」関連知識の変化と情報教育の内容．情報処理教育研究集会，2005．11．
  - 3) 小久保秀之<sup>1)</sup>，山本幹男<sup>1)</sup>，河野貴美子<sup>(1)</sup>国際総合研究機構)：近赤外分光法による図形推測時の脳活動の研究．第38回日本超心理学学会大会，2005．12．
  - 4) 河野貴美子，外山美恵子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立藤沢高等学校)：高校生における気功の鍛錬とその効果 - 第2報．第20回生命情報科学シンポジウム，2006．3．
  - 5) 小久保秀之<sup>1)</sup>，山本幹男<sup>1)</sup>，渡辺恒夫<sup>2)</sup>，河野貴美子，坂本和己<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国際総合研究機構，<sup>2)</sup>東邦大学理学部)：近赤外分光血流計を用いた推測課題時の脳血流変化．第21回生命情報科学シンポジウム，2006．3．

## 〔 3 〕 臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 (一般内科, 循環器内科, 肝臓内科) ]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学, 肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的, 基礎的研究を行った. 循環器病学では, 不整脈に関する研究として, 心拍変動周波数解析などの数理学的手法, 薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈, 突然死発生との関連の検討, 抗不整脈薬の電気生理学的作用, 臨床効果の検討, 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療, 失神患者における自律神経機能の評価, 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討.

虚血性心疾患, 心筋疾患に関する研究として, 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium, 心筋虚血の検出, 虚血性心疾患における圧受容体反射, 急性心筋梗塞後の左室リモデリング, 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連, 虚血心筋保護法の検討, 虚血性心疾患, 心筋疾患における成長因子, 細胞増殖因子の検討, 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討.

肝臓病学では, 門脈圧亢進症の病態, 薬物療法に関する検討, 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態, SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生, 慢性肝疾患における肺循環異常, 2次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係.

糖尿病学では, 冠動脈疾患とインスリン抵抗性, 糖尿病患者における自律神経機能, 無症候性心筋虚血の病態, を検討している.

再生医学の臨床応用は2002年より開始され, 首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患(慢性閉塞性動脈硬化症・ピュルガー病・糖尿病性壊疽)への血管再生療法」の臨床応用に成功した. また重症心不全, 虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった. さらに日本獣医畜産大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるバイオ人工臓の開発も研究中である.

### 研究業績

#### 論文

[ 2004 年度追加分 ]

#### 綜説:

1) 高野仁司, 清野精彦: 高脂血症治療薬. 総合臨床 2004; 53: 2501-2508.

#### (1) 原著:

- 1) Tajima H, Murata S, Kumazaki T, Nakazawa K, Ichikawa K, Yamamoto T, Tanaka K, Takano T: Recent advances in interventional radiology for acute massive pulmonary thromboembolism. J Nippon Med Sch 2005; 72 (2): 74-84.
- 2) Akutsu K, Sato N, Yamamoto T, Morita N, Takagi H, Fujita N, Tanaka K, Takano T: A rapid bedside D-dimer assay (cardiac D-dimer) for screening of clinically suspected acute aortic dissection. Circ J 2005; 69 (4): 397-403.
- 3) Itoh A<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Kishida H, Ohsuga H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>明治薬科大学): Fast Fourier Transform (FFT) analysis of the effects of epalrestat, an aldose reductase inhibitor, on autonomic function in diabetic patients. Auto Nerv Syst 2005; 42 (2): 153-161.
- 4) Akimoto T<sup>1)</sup>, Hayashi N<sup>2)</sup>, Adachi M<sup>3)</sup>, Kobayashi N, Zhang Xj, Ohsuga M, Katsuta Y ( <sup>1)</sup>日本医科大

- 学動物実験管理室,<sup>2)</sup>同内科学第2,<sup>3)</sup>大橋病院): Viability and Plasma Vitamin K Levels in the Common Bile Duct-Ligated Rats . *Exp Anim* 2005 ; 54 ( 2 ): 155-161 .
- 5) Hirayama Y , Atarashi H , Kobayashi Y , Horie T , Iwasaki Y , Maruyama M , Miyauchi Y , Ohara T , Yashima M , Takano T : Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitor Therapy Inhibits the Progression From Paroxysmal Atrial Fibrillation to Chronic Atrial Fibrillation . *Circ J* 2005 ; 69 ( 6 ): 671-676 .
- 6) Ono T , Saitoh H , Yi G , Hnatkova K , Kobayashi Y , Atarashi H , Katoh T , Takano T , Malik M : Clinical implication of T-wave morphology analysis as a new repolarization descriptor . *Circ J* 2005 ; 69 ( 6 ): 666-670 .
- 7) Kumita S<sup>1)</sup> , Cho K<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>1)</sup> , Toba M<sup>1)</sup> , Fukushima Y<sup>1)</sup> , Mizumura S<sup>1)</sup> , Sano J , Takano T , Kunazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): Assessment of contractile response to dobutamine stress by means of ECG-gated myocardial SPECT : comparison with myocardial perfusion and fatty acid metabolism . *Ann Nucl Med* 2005 ; 19 ( 5 ): 379-386 .
- 8) Hayashi M , Tanaka K , Kato T , Morita N , Sato N , Yasutake M , Kobayashi Y , Takano T : Enhancing Electrical Cardioversion and Preventing Immediate Reinitiation of Hemodynamically Deleterious Atrial Fibrillation with Class III Drug Pretreatment . *J Cardiovasc Electrophysiol* 2005 ; 16 ( 7 ): 740-747 .
- 9) Yasutake H , Seino Y , Kashiwagi M , Honma H , Matsuzaki T , Takano T : Detection of cardiac sarcoidosis using cardiac markers and myocardial integrated backscatter . *Int J Cardiol* 2005 ; 10 ( 102 ( 2 ) ): 259-268 .
- 10) Shinada T , Hirayama Y , Maruyama M , Ohara T , Yashima M , Kobayashi Y , Atarashi H , Takano T : Inhibition of the reverse mode of the Na<sup>+</sup>/Ca<sup>2+</sup> exchange by KB-R7943 augments arrhythmogenicity in the canine heart during rapid heart rates . *J Electrocardiol* 2005 ; 38 ( 3 ): 218-225 .
- 11) Yamamoto T , Yasutake M , Takagi H , Akutsu K , Fujita N , Kasagami Y , Sato N , Nakagomi A , Kusama Y , Takayama M , Tanaka K , Takano T : Impact of the revised criteria for acute myocardial infarction using cardiac troponins in a Japanese population with acute coronary syndromes . *Circ J* 2005 ; 69 ( 7 ): 774-779 .
- 12) Otsu K<sup>1)</sup> , Kuruma A<sup>3)</sup> , Yanagida E<sup>1)</sup> , Shoji S<sup>3)</sup> , Inoue T<sup>4)</sup> , Hirayama Y , Uematsu H , Hara Y<sup>2)</sup> , Kasano S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学心臓血管学,<sup>2)</sup>同生化学,<sup>3)</sup>(株)理研科学): Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>ATPase and its functional coupling with Na<sup>+</sup>/Ca<sup>2+</sup> exchanger in mouse embryonic stem cells during differentiation into cardiomyocytes . *Cell Calcium* 2005 ; 37 : 137-151 .
- 13) Katsuta Y , Zhang Xj , Ohsuga M , Akimoto T , Komeichi H , Shimizu S , Inami T , Miyamoto A , Satomura K , Takano T : Hemodynamic features of advanced cirrhosis due to chronic bile duct ligation . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 4 ): 217-225 .
- 14) Katsuta Y , Higashi H , Zhang XJ , Kato Y , Shimizu S , Komeichi H , Ohsuga M , Satomura K , Takano T : Association of limited scleroderma and pulmonary hypertension in a patient with primary biliary cirrhosis . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 4 ): 230-235 .
- 15) Kanemura M , Katoh T , Tanaka T , Kamei S , Kuroki S , Takano T , Hayakawa H : Sluggish Upstroke of Signal-Averaged QRS Complex. An Arrhythmogenic Sigh in Patients with Anteroseptal Myocardial Infarction . *J Arrhythmia* 2005 ; 21 ( 3 ): 407-413 .
- 16) Kosugi M , Ono T , Yamaguchi H , Sato N , Dan K , Tanaka K , Takano T : Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy . *Int J Cardiol* 2005 ; 26 ( Epub ) .
- 17) Katsuta Y , Zhang XJ , Ohsuga M , Akimoto T , Komeichi K , Shimizu S , Kato Y , Miyamoto A , Satomura K , Takano T : Arterial hypoxemia and intrapulmonary vasodilatation in rat models of portal hypertension . *J Gastroenterol* 2005 ; 40 ( 8 ): 811-819 .

- 18) Yoshida H , Kusama Y , Kodani E , Yasutake M , Takano H , Atarashi H , Kishida H , Takano T : Pharmacological preconditioning with bradykinin affords myocardial protection through no-dependent mechanisms . *Int Heart J* 2005 ; 46 ( 5 ) : 877-887 .
- 19) Fukushima M , Seino Y , Kumita S<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>1)</sup> , Cho K<sup>1)</sup> , Takano T ( <sup>1)</sup>放射線医学 ): Dual-isotope myocardial SPECT in patients with redefined myocardial infarction . *Int J Cardiol* 2005 ; 104 ( 2 ) : 204-212 .
- 20) Seino Y , Takahashi H , Fukumoto H , Utsumi K<sup>1)</sup> , Hirai Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2 , <sup>2)</sup>Biochemistry and Molecular Biology ): Cardiovascular Manifestations of Fabry Disease and the Novel Therapeutic Strategies . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 5 ) : 254-261 .
- 21) Munakata Y<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>1)</sup> , Aoki W<sup>1)</sup> , Sugaya J<sup>1)</sup> , Saito K<sup>1)</sup> , Homma H , Konno S<sup>2)</sup> , Gembun Y<sup>2)</sup> , Miyamoto M<sup>2)</sup> , Sakamoto A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>生理機能センター , <sup>2)</sup>麻酔科学 ): A Study of Intraoperative Monitoring of Spinal Cord Function during Spinal Using Short-Latency Somatosensory Evoked Lower Extremities . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 6 ) : 393-394 .
- 22) Kato K , Fukuma N , Kimura-Kato Y , Aisu N , Tuchida T , Mabuchi K , Takano T : Improvement of sympathetic response to exercise by oral administration of ascorbic acid in patients after myocardial infarction . *Int J Cardiol* 2005 ; 20 ( Epub ) .
- 23) Morita N , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T : Anatomic and electrophysiologic evaluation of a right lateral atrioventricular Mahaim fiber . *Pacing Clin Electrophysiol* 2005 ; 28 ( 10 ) : 1138-1141 .
- 24) Katoh T , Mitamura H , Matsuda N , Takano T , Ogawa S , Kasanuki H : Emergency Treatment With Nifekalant, a Novel Class III Anti-Arrhythmic Agent, for Life-Threatening Refractory Ventricular Tachyarrhythmias : Post-Marketing Special Investigation . *Circ J* 2005 ; 69 ( 10 ) : 1237-1243 .
- 25) Li T , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Horie T , Taniguchi H , Hirasawa Y , Maruyama M , Ueno A , Abe J , Katoh T , Takano T : Efficacy of Electroanatomical Mapping for Radiofrequency Ablation of Right-sided Accessory Pathways . *J Arrhythmia* 2005 ; 21 ( 4 ) : 459-464 .
- 26) Katoh T , Ohara T , Ogawa S , Kodama I : Multicenter Survey on the Validity of the CD-ROM Guideline for Antiarrhythmic Drug Therapy Produced by the Japanese Circulation Society and the Japanese Society on Electrocardiology . *Circ J* 2005 ; 69 ( 11 ) : 1357-1360 .
- 27) Horie T , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Maruyama M , Katoh T , Takano T : Adenosine-sensitive atrial tachycardia originating from the proximal coronary sinus . *Heart Rhythm* 2005 ; 2 ( 12 ) : 1301-1308 .
- 28) Katsuta Y , Zhang XJ , Kato Y , Shimizu S , Komeichi K , Ohsuga M , Higashi H , Satomura K , Takano T : Hemodynamic features and impaired arterial oxygenation in patients with portopulmonary hypertension . *Hrpatol Res* 2005 ; 6 ( Epub ) .
- 29) Tang XL , Takano H , Xuan YT , Sato H , Kodani E , Dawn B , Zhu Y , Shirk GA , Wu WJ , Bolli R : Hypercholesterolemia abrogates late preconditioning via a tetrahydrobiopterin-dependent mechanism in conscious rabbits . *Circulation* 2005 ; 112 ( 14 ) : 2149-2156 .
- 30) Takayama H , Yodogawa K , Katoh K , Takano T : Evaluation of arrhythmogenic substrate in patients with hypertrophic cardiomyopathy using wavelet transform analysis . *Circ J* 2006 ; 70 ( 1 ) : 69-74 .
- 31) Sasayama S<sup>1)</sup> , Izumi T<sup>1)</sup> , Seino Y , Ueshima K<sup>1)</sup> , Asanoi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>CHF-HOT Sturdy Group ): Effects of Nocturnal Oxygen Therapy on Outcome Measures in Patients With Chronic Heart Failure and Cheyne-Stokes Respiration . *Circ J* 2006 ; 70 : 1-7 .
- 32) Yamanaka H , Suzuki T , Kishida H , Nagasawa K , Takano T : Relationship Between the Mismatch of 123I-BMPP and 201TI Myocardial Single-Photon Emission Computed Tomography and Autonomic Nervous System Activity in Patients with Acute Myocardial Infarction . *Int Heart J* 2006 ; 47 ( 2 ) : 193-207 .



- 33) Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T : Initial experiences of removal of intra-aortic balloon pumps with the Angio-Seal . J Invasive Cardiol 2006 ; 18 ( 3 ) : 130-132 .
- 34) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup>放射線医学 ): Pulmonary artery perforation repair during thrombectomy using microcoil embolization . Cardiovasc Intervent Radiol 2006 ; 29 ( 1 ) : 155-156 .
- 35) 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線医学 ): 重症急性肺血栓栓症に対する治療戦略: カテーテル治療を第一選択として . 静脈学 2005 ; 16 ( 2 ) : 79-85 .
- 36) 中村利枝<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿里<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 福間長知, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): エルゴメーター回転速度の差による運動負荷時の心拍反応の変化 . 心臓リハビリテーション 2005 ; 10 ( 2 ) : 237-239 .
- 37) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 本江雪貴美<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 福間長知, 加藤和代, 馬淵浩輔, 本間 博, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 心臓リハビリテーション導入期における抑うつ状態が血管内皮機能とサイトカインに及ぼす影響 . 心臓リハビリテーション 2005 ; 10 ( 2 ) : 258-261 .
- 38) 林 明聡, 小林義典, 森田典成, 岩崎雄樹, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫: ( アミオダロンと他療法との併用 ) 除細動器植込み例におけるアミオダロンの併用の効果 . Prog Med 2005 ; 25 : 1583-1587 .
- 39) 平澤泰宏, 中込昭裕, 小林義典, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 丸山光紀, 宮内靖史, 小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): アミオダロンは慢性心不全患者において単球のサイトカイン産生を抑制し心機能を改善する . Prog Med 2005 ; 25 : 1482-1485 .
- 40) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>集中治療室 ): アルコール関連失神に対するアルコール負荷Head-up tilt試験の有用性: PHYSIO FLOW PF-05 Lab 1による機序の推察 . 日本臨床生理学会雑誌 2005 ; 35 ( 6 ) : 337-340 .
- 41) 高野仁司: 多剤服用でコントロール不十分な高血圧症例に対する高容量バルサルタンの臨床効果 . Ther Res 2005 ; 10 : 2137-2042 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 清野精彦: 心不全治療における心筋マーカー測定の意義 ( 心不全診療における新たな展開 ). 循環器科 2005 ; 57 ( 3 ) : 239-245 .
  - 2) 林 明聡, 小林義典: 緊急に対応すべき不整脈とは . medicina 2005 ; 42 ( 4 ) : 564-567 .
  - 3) 加藤貴雄: 心電学マイルストーン . 心電図 2005 ; 25 ( 4 ) : 298 .
  - 4) 加藤貴雄: 誘因・悪化要因を考慮する!! . 日医新報 2005 ; 4224 : 53-56 .
  - 5) 加藤浩司, 宮本正章, 安武正弘, 高野照夫: 重症難治性虚血肢・心に対する自己骨髄幹細胞移植血管再生療法の現状 . 今日の移植 2005 ; 18 ( 3 ) : 259-266 .
  - 6) 岩崎雄樹, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 山下武志, 関口昭子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管学 ): 肺静脈のイオンチャンネルと電気現象: 肺静脈はなぜ不整脈源性か? . 心電図 2005 ; 25 ( 3 ) : 285-1660 .
  - 7) 林 明聡: 急性心筋梗塞以外のST上昇 ( 特集: 1枚の心電図から得られる大きなヒント ). Mebio 2005 ; 22 ( 5 ) : 44-52 .
  - 8) 加藤貴雄: シシリアン・ガンビットの考え方を活用する!! . 日医新報 2005 ; 4229 : 53-56 .
  - 9) 加藤和代, 福間長知, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 岸田 浩, 高野照夫: 心筋梗塞患者に対するアスコルビン酸投与後の運動負荷時交感神経反応性の改善 . 心臓 2005 ; 37 ( Suppl2 ) : 14-17 .
  - 10) 田島廣之, 村田 智<sup>1)</sup>, 中沢 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野沢志郎, 隈崎達夫, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山守正, 田中啓治, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室 ): カテーテル治療 . Ther Res 2005 ; 26 ( 6 ) :

1225-1227 .

- 11) 岩崎雄樹, 高野照夫: 新しい心肺蘇生法を学ぶ BLSとACLS 徐細動器と自動式体外徐細動器の使用法. 外科治療 2005 ; 92 : 1108-1111 .
- 12) 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 内科疾患の診断基準 病型分類・重症度 V . 循環器 急性心筋梗塞の診断基準・病型分類・重症度. 内科 2005 ; 95 : 1288-1292 .
- 13) 福本裕子, 清野精彦: 虚血性心筋症の診断 6) 虚血性僧房弁逆流. IHD Frontier 2005 ; 6 : 123-126 .
- 14) 加藤貴雄: 薬物相互作用に注意する!! . 日医新報 2005 ; 4233 : 53-56 .
- 15) 小林義典: 「不整脈治療」わが国における植込み型除細動器の使用は適正か? (新たなエビデンスで心疾患診療はこう変わる). EBM ジャーナル 2005 ; 6 ( 6 ): 86-92 .
- 16) 宮内靖史: 心筋梗塞と心房細動 (心房細動 update : 発生機序から最新の治療戦略まで). 循環器科 2005 ; 58 ( 1 ): 33-37 .
- 17) 加藤貴雄: いま心房細動が熱い! (特集: 心房細動 update ; 発生機序から最新の治療戦略まで). 循環器科 2005 ; 58 ( 1 ): 1-2 .
- 18) 加藤貴雄: ホルター心電図の情報を有効活用する!! その1. 不整脈発生状況を把握する. 日医新報 2005 ; 4237 : 53-56 .
- 19) 本間 博: 心房細動と脳血栓・塞栓症予防. 日医大医会誌 2005 ; 1 ( 3 ): 129-134 .
- 20) 本間 博: 心エコーによる壁運動評価は永遠の課題か?. 心エコー 2005 ; 6 ( 8 ): 666-673 .
- 21) 本間 博, 大野忠明: 両室ペーシングと組織ドブラ. 心エコー 2005 ; 6 ( 8 ): 714-723 .
- 22) 高山守正: ACLSはInterventional Cardiologistにとって他人事ではない. 心血管インターベンション 2005 ; 20 ( 4 ): 299-300 .
- 23) 宮内靖史: 心臓細動の治療戦略 (治療戦略の概観). ハートナーシング 2005 ; 18 ( 8 ): 61 ( 813 ) -68 ( 820 ).
- 24) 加藤貴雄: ホルター心電図の情報を有効活用する!! その2. 時間情報を活かす. 日医新報 2005 ; 4242 : 53-56 .
- 25) 高山守正, 高野照夫: 《CCUの治療成績と胸痛センターの役割》東京都CCUネットワーク (心血管エマージェンシー). 内科 2005 ; 96 ( 3 ): 497-500 .
- 26) 加藤貴雄: ホルター心電図の情報を有効活用する!! その3. 専門医コメントを参考にせよ. 日医新報 2005 ; 4246 : 53-56 .
- 27) 清野精彦, 浅井邦也, 小川晃生, 山下照代, 藤田進彦, 安武正弘, 高野照夫: 女性の虚血性心疾患の特徴. 循環器科 2005 ; 58 ( 4 ): 417-422 .
- 28) 宮本正章, 高木 元, 水野博司<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ): 重症難治性潰瘍に対する医療用ウジ治療と血管再生療法. Pharma Medica 2005 ; 23 ( 10 ): 41-47 .
- 29) 清野精彦: 心筋生化学マーカー. ハートナーシング 2005 ; 241 : 47-54 .
- 30) 清野精彦: 心不全のサブセット展開 From Hemodynamic to Myocardial Damage . 呼と循 2005 ; 53 ( 10 ): 1063-1068 .
- 31) 加藤貴雄: イベント心電計・家庭用心電計を使いこなす!! . 日医新報 2005 ; 4250 : 53-56 .
- 32) 清野精彦, 村田広茂, 土田貴也, 加藤祐子: 中枢性睡眠時無呼吸に対する夜間酸素療法の有効性 (特集: 睡眠時無呼吸症候群: 診断から治療まで). Heart View 2005 ; 10 ( 2 ): 112-118 .
- 33) 森田典成, 高野照夫: いい産じょく, 悪い産じょく: 産じょく期の母児の管理 内科合併症妊婦の産じょくケア 心疾患. 産婦人科の実際 2005 ; 54 ( 12 ): 2063-2070 .
- 34) 小川晃生, 福島正人, 清野精彦: 外来でできる迅速キット検査 急性冠症候群 (これだけは知っておきたい検査のポイント第7集). medicina 2005 ; 42 ( 12 ): 64-66 .
- 35) 福島正人, 小川晃生, 清野精彦: 血液生化学検査/酸素および関連物質 トロポニン T, ミオグロビン, ミオシ

- ン軽鎖，心筋型脂肪酸結合蛋白（これだけは知っておきたい検査のポイント第7集）. *medicina* 2005 ; 42 (12): 182-184 .
- 36) 加藤貴雄：心房細動が曲者!! . *日医新報* 2005 ; 4255 : 53-56 .
- 37) 高山守正：ハートアタックへの対応：東京都CCUネットワークの現状．*ハートナーシング* 2005 ; 18 (12): 57-62 .
- 38) 高山守正：循環器救急医療のOverview . *Heart View* 2005 ; 9 (13) : 8 (1328) -11 (1331) .
- 39) 清野精彦：最新の血液生化学検査を利用する：解釈と限界（急性冠症候群へのアプローチ）. *medicia* 2005 ; 42 (13) : 2109-2111 .
- 40) 清野精彦：心不全と腎機能（心腎関連：Cardiorenal Risk）. *血管医学* 2005 ; 6 (6) : 13 (577) -18 (582) .
- 41) 加藤貴雄：専門医ではそのような検査が行われるか？ . *日医新報* 2005 ; 4259 : 53-56 .
- 42) 高野仁司，高野照夫：血管内治療の現状と展望 薬剤溶出ステント導入後の経皮的冠動脈インターベンションの現況と展望．*メディカル・サイエンス・ダイジェスト* 2006 ; 32 (1) : 13-16 .
- 43) 清野精彦：急性心不全治療における強心薬の役割：Back to the future . *心臓* 2006 ; 38 (1) : 83-87 .
- 44) 加藤貴雄：薬剤によるQT延長をどのように評価するか：特にQT間隔計測の実際と問題点（薬剤性QT延長症候群）. *心臓* 2006 ; 38 (1) : 4-8 .
- 45) 加藤貴雄：不整脈の上流に目を向ける!! . *日医新報* 2006 ; 4264 : 69-72 .
- 46) 小林義典：牧野論文に対するEditorial Comment：梗塞心に出現するelectrical stormのメカニズム．*心臓* 2006 ; 38 (1) : 31 .
- 47) 加藤貴雄：薬物によるリズムコントロール．*Thrombosis and Circulation* 2006 ; 14 (1) : 23-28 .
- 48) 山本輝郎<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>2)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科学：栄養摂取量調査からみた栄養サポートチームの必要性．*日医大医会誌* 2006 ; 2 (1) : 32-35 .
- 49) 加藤浩司，清野精彦：Q8：不安定狭心症．救急・集中治療 2006 ; 17 (臨増) : e39-e45 .
- 50) 加藤貴雄：実地医にとっての不整脈診療のコツ問診の重要性（特集：不整脈治療のマネジメント）. *クリニカルプラクティス* 2006 ; 25 (2) : 2-4 .
- 51) 加藤貴雄：治療 3．不整脈の薬物療法の現状と展望 2) Sicilian Gambitによる理論的治療選択法とガイドライン（不整脈：診断と治療の進歩）. *日内誌* 2006 ; 95 (2) : 54-60 .
- 52) 加藤貴雄：QRSの直前・直後に注目!! . *日医新報* 2006 ; 4268 : 69-72 .
- 53) 小林義典：右室流出路からの心室性期外収縮が契機となった特異性心室細動の1例．*Cardiovasc Med-Surg* 2006 ; 8 (1) : 87-90 .
- 54) 宮本正章：今なぜ「医療用ウジ治療（MDI）か？ . *Pharma Medica* 2006 ; 24 (2) : 61-62 .
- 55) 清野精彦：虚血性心疾患の評価と生化学マーカー．*心臓* 2006 ; 38 (3) : 301-303 .
- 56) 清野精彦：「腎不全と心血管イベントの予防」心疾患と腎機能（特集：慢性腎疾患）. *日医雑誌* 2006 ; 134 (12) : 2350-2353 .
- 57) 高木郁代，清野精彦：心臓．*Vascular Lab* 2006 ; 3 : 58-62 .
- 58) 高野仁司，高野照夫：薬剤溶出ステント導入後の経皮的冠動脈インターベンションの現況と展望（特集：血管内治療の現況と展望）. *Medical Science Digest* 2006 ; 32 : 13-16 .
- (3) 症例報告：
- 1) Ogano M , Takano H , Fukuma N , Takayama M , Takano T , Miyagi Y<sup>1)</sup> , Ochi M<sup>1)</sup> , Shimizu K<sup>1)</sup> , Kitamura H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2 , <sup>2)</sup>病理学第1) : Sudden Death in a Case of Cardiac Amyloidosis Immediately after Pacemaker Implantation for Complete Atrioventricular block . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 (5) : 285-289 .
- 2) Zreiqat J , Tanaka K , Yasutake M , Sato N , Yajima T , Takano T : Aortic dissection with pseudo-aortic regurgitation and transient myocardial ischemia-a case report . *Angiology* 2005 ; 56 (6) : 781-784 .

- 3) 丸山光紀, 岡崎怜子, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 宮本新次郎<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 阿部純子, 淀川颯司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 小原俊彦, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): 頻拍中と同一の心房興奮様式を示す逆行性過常伝導を認めたATP感受性リエントリー性心房頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2005 ; 28 : 167-176 .
  - 4) 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 小鹿野道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 阿部純子, 平澤泰宏, 淀川颯司, 森田典成, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: QRS波形および先行周期の交互現象を認めた左脚前肢起源Verapamil感受性特発性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2005 ; 28 : 71-79 .
  - 5) 篠田暁与<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 宮本亮子, 谷口宏史, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線医学 ): モバイル肺血流シンチグラフィが有用であった, ショックにて発症した広範性肺塞栓症と奇異性塞栓による心筋梗塞を合併した1例. Ther Res 2005 ; 26 ( 6 ): 1069-1073 .
  - 6) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 宮本亮子<sup>1)</sup>, 角田美佐子<sup>1)</sup>, 土屋玲子<sup>1)</sup>, 小原 信<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 高山守正, 高野照夫, 宮本正章, 福間長知, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 藤原ゆり<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学CPC ): 全身性強皮症の経過中に肺高血圧をきたして肺血症にて死亡した1例. 内科 2005 ; 96 ( 2 ): 345-362 .
  - 7) 白杵二郎<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 大須賀勝, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 安武正弘, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 吉川一博<sup>1)</sup>, 壇 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学CPC ): Evans症候群の経過中に遷延性黄疸を合併し治療に苦渋した1例. 内科 2005 ; 96 ( 3 ): 571-586 .
  - 8) 高野仁司, 小鹿野道雄, 高野照夫, 清野精彦, 田村浩一<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 岸田 浩, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学CPC ): 完全房室ブロックに対するペースメーカー植込み直後に突然死をきたした心アミロイドーシスの1例. 内科 2005 ; 96 ( 4 ): 761-774 .
  - 9) 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 太良修平, 高木郁代, 大坪晴美, 高野照夫, 水野博司<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 多剤耐性緑膿菌 ( MDRP ) 合併糖尿病性壊死に対して医療用ウジ治療が有効であった1例. 診療と新薬 2005 ; 42 ( 11 ): 1207-1208 .
  - 10) 高野仁司, 小鹿野道雄, 高野照夫, 清野精彦, 田村浩一, 田近賢二, 宮城泰雄, 宮内靖史, 岸田 浩, 内藤善哉, 北村博司: 完全房室ブロックに対するペースメーカー植込み直後に突然死をきたした心アミロイドーシスの1例. 内科 2005 ; 10 : 2037-2042 .
  - 11) 宮本正章: 再び脚光を浴びる医療用無菌ウジ療法. Medical Tribune 2006 ; 39 ( 8 ): 42 .
- ( 4 ) 研究報告書 :
- 1) 岸田 浩: 循環器系副作用症例及び文献情報からの評価法等の検討に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 重篤な循環器系副作用 ( QT延長症候群等 ) の症例情報収集・評価およびそれに基づく併用薬剤のリスク因子の解明に関する研究 2005 ; pp12-15 .
  - 2) 加藤貴雄, 小原俊彦, 淀川颯司, 高山英男, 高野照夫: Wavelet変換を用いた体表面心電図時間周波数マッピング ( wavelet mapping ) による致死性不整脈の非侵襲的予知. 医科学応用研究財団研究報告2004 2005 ; pp42-45 .
  - 3) 高山守正, 住吉徹哉<sup>1)</sup>, 長尾 建<sup>1)</sup>, 山科 章<sup>1)</sup>, 芝田貴裕<sup>1)</sup>, 桜田春水<sup>1)</sup>, 田村 勤<sup>1)</sup>, 西祐太郎<sup>1)</sup>, 吉野秀朗<sup>1)</sup>, 笠貫 宏<sup>1)</sup>, 三田村秀雄<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 吉田伸子, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>東京都CCU連絡協議会 ): 心臓病患者家族のためのAED心肺蘇生法全体講習会実施報告. ICUとCCU 2005 ; 29 ( 9 ): pp710-718 .
  - 4) 加藤貴雄: ウェーブレット変換解析による心電図T波とU波の判別. 厚生労働科学研究費補助金 ( 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 ) 平成17年度分担研究報告書 2006 ; pp88-89 .

## 著 書

- 1) 小林義典：〔分担〕循環器4 期外収縮・発作性頻拍 非薬物療法：(3) 植込み型除細動器．新しい診断と治療のABC28 (井上 博), 2005 ; pp191-198, 最新医学社．
- 2) 加藤貴雄：〔分担〕循環器4 期外収縮・発作性頻拍 上室期外収縮・頻拍のガイドライン．新しい診断と治療のABC28 (井上 博), 2005 ; pp264-273, 最新医学社．
- 3) 高山守正：〔分担〕飲酒と喫煙の害．山の救急医療ハンドブック (堀 正二), 2005 ; p77, 山と溪谷社．
- 4) 高山守正：〔分担〕生活習慣病と山．山の救急医療ハンドブック (堀 正二), 2005 ; p152, 山と溪谷社．
- 5) 清野精彦：〔分担〕急性心筋梗塞の診断：トロポニン, H-FABPなど新規生化学マーカーの意義と選択は？．EBM 循環器疾患の治療2006-2007 (三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2005 ; pp2-7, 中外医学社．
- 6) 加藤貴雄：〔自著〕臨床医のためのやさしい心電図の読み方, 2005 ; 永井書店．
- 7) 清野精彦：〔分担〕急性冠症候群を迅速に診断 ラピッドテストの有用性と活用法．診療アップデート, 2005 ; pp34-40, 日経メディカル．
- 8) 岸田 浩：〔分担〕狭心症におけるCa拮抗薬の役割と使い方．新目でみる循環器病シリーズ 21 循環器病の薬物療法 (齋藤宗靖), 2006 ; pp200-207, メジカルビュー社．
- 9) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管研究所)：〔分担〕Kチャンネル遮断薬の使い方．新目でみる循環器病シリーズ 21 循環器病の薬物療法 (齋藤宗靖), 2006 ; pp182-187, メジカルビュー社．
- 10) 清野精彦, 山下照代, 小川晃生, 佐藤直樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：〔分担〕急性心不全の治療．新目でみる循環器病シリーズ 21 循環器病の薬物療法 (齋藤宗靖), 2006 ; pp12-23, メジカルビュー社．
- 11) 清野精彦：〔分担〕心臓神経症．今日の治療指針2006年版 (ポケット判)(山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2006 ; pp318-319, 医学書院．
- 12) 清野精彦, 小川晃生, 安武正弘, 高野照夫：〔分担〕虚血性心疾患 b. 中高年期．性差からみた女性の循環器疾患診療 (天野恵子, 山口 徹), 2006 ; pp64-82, メジカルビュー社．
- 13) 本間 博, 藤本啓志, 大野忠明：〔分担〕III読む 虚血性心疾患：血行再建を予定する患者．新目で見る循環器病シリーズ「心エコー図」(赤石 誠), 2006 ; pp109-113, メジカルビュー社．
- 14) 加藤貴雄：〔分担〕不整脈 洞不全症候群 (SSS)．循環器疾患最新の治療2006-2007 (山口 徹, 堀 正二), 2006 ; pp267-270, 南江堂．
- 15) 田中啓治, 高野照夫：〔分担〕急性心筋梗塞に伴う機械的合併症．循環器疾患最新の治療2006-2007 (山口 徹, 堀 正二), 2006 ; pp63-66, 南江堂．
- 16) 本間 博, 大野忠明：〔分担〕D 検診で心拡大を指摘されて受診 64歳, 女性．拡張期雑音あり．「Problem-basedでひもとく心エコー図の読み方」- 症状, 所見から考える心エコー診断のアプローチ - (羽田勝征), 2006 ; pp152-158, 分光堂．
- 17) 岸田 浩, 本間 博：〔分担〕心電図で病態を診る 4. 心筋虚血・心筋梗塞の診断と検査の進め方．新・心臓病診療プラクティス 7. 心電図で診る・治す (清水昭彦, 吉川純一, 笠貫宏, 土師一夫, 別府慎太郎, 松崎益徳), 2006 ; pp89-93, 文光堂．

## 学会発表

〔2004年度追加分〕

### シンポジウム：

- 1) 高野仁司：The Mechanisms of NO derived cardioprotection．第35回日本心臓血管外科学会学術集会, 2005. 3. ラウンドテーブルディスカッション：

- 1) 高野仁司, 高山守正, 細川雄亮, 大野忠明, 菊池有史, 稲見 徹, 加藤活人, 佐々木朝子, 渋井俊之, 吉川雅智, 加藤浩司, 川嶋修司, 山根吉人, 坪 宏一, 高木 元, 藤田進彦, 山本 剛, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤

直樹, 安武正弘, 高野照夫: PTSMAは閉塞性肥大型心筋症に合併した発作性心房細動の抑制に有効か? . 第5回PTSMAワークショップ, 2004 . 7 .

(1) 教育講演:

- 1) 清野精彦: 心不全の病態と治療: “subset” strategyの多面的展開. 第16回日本病態生理学学会大会, 2006 . 1 .

(2) シンポジウム:

- 1) Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukumoto Y, Fukushima M, Asai K, Fujita N, Yasutake M, Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): The Risk of Being Female ; Different Clinical Presentation, Pathophysiology, and Diagnostic Limitations in Acute Coronary Syndrome ( Long-term Prediction and Prevention of Cardiac Diseases and the Risk Factors ). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 2) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y, Takaki M<sup>2)</sup>, Arai M<sup>2)</sup>, Imai T<sup>3)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>3)</sup> Marunouchi Clinic ): Ongoing Myocardial Damage is Related to Development of Heart Failure in Patients with Hypertension and Preserved Left Ventricular Systolic Function ( Molecular Mechanism of Hypertensive Heart Failure ). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 3) Imai H<sup>1)</sup>, Seino Y, Sasayama S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Faculty of Economics, Musashi University, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Hamamatsu Rohsai Hospital ): Cost-Benefit-Analysis of Nocturnal Home-Oxygen-Therapy in Patients with Central Sleep Apnea due to Chronic Heart Failure ( Costs of Clinical Practice in Cardiovascular Diseases ). The 70th Anniversary Annual Meeting of the Japanese Circulation Society, 2006 . 3 .
- 4) 宮内靖史, 小林義典, 堀江 格, 岡崎怜子, 丸山光紀, 谷口宏史, 岩崎雄樹, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田 隆<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): 複雑心房切開術による開心術後に発症した心房頻拍の特徴とカテーテル・アブレーション ( 特殊疾患・特殊病態に伴う不整脈に対するカテーテル・アブレーション ). 第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2005 . 5 .
- 5) 佐藤信範<sup>1)</sup>, 仁ノ内絵里<sup>1)</sup>, 長田和士<sup>1)</sup>, 上田志朗<sup>1)</sup>, 金子貴俊<sup>2)</sup>, 鈴木聡子<sup>2)</sup>, 岸田 浩 ( <sup>1)</sup> 千葉大学大学院薬学研究院医薬品情報学, <sup>2)</sup> データインデックス ( 株 ) ): QT 延長に関する情報学的検討データベース作成の試み. 第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2005 . 5 .
- 6) 高野仁司, 高山守正, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高木 元, 高野照夫: Drug Eluting Stent時代のIVUSの役割とその方向性. 第11回日本血管内治療学会, 2005 . 7 .
- 7) 勝田悌美, 張 雪君, 大須賀勝: 門脈圧亢進症ラットモデルの全身および内臓循環 ( 門脈圧更新症における局所循環亢進 ). 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005 . 9 .
- 8) 加藤貴雄: 抗不整脈の種類と使い方 ( 心房細動と突然死 ). 第130回日本医学会シンポジウム, 2005 . 12 .
- 9) 加藤浩司<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 集中治療におけるエコー検査の役割 ( 集中治療チーム全体で考えよう「集中治療での循環モニター」 ). 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .
- 10) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 心電図モニターを見直せ: 重症心室性不整脈に対するICU管理 ( 若手医師ならびに看護師より問題提起があります { 集中治療の現場: 循環管理 } ). 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .

(3) パネルディスカッション:

- 1) 宮本正章, 安武正弘, 水野博司<sup>1)</sup>, 高野仁司, 高木 元, 加藤浩司, 太良修平, 多川政弘<sup>2)</sup>, 工藤圭介, 田畑泰彦<sup>3)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科学, <sup>2)</sup> 日本獣医畜産大学獣医外科, <sup>3)</sup> 京都大学再生医科学研究所 ): 重症難治性虚血肢に対する血管新生療法: 自己骨髄細胞移植及びDDS徐放化蛋白を中心とした総合的治療戦略 ( 血管疾患に対する再生療法の長期成績: その治療は本当に有効か? ). 第33回日本血管外科学会学術総会, 2005 . 6 .

- 2) 奥村 敏<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫, 常松尚志<sup>2)</sup>, 石川義弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院循環器センター, <sup>2)</sup>横浜市立大学循環制御医学): 成人期の心臓に特異的発現を示す5型アデニル酸シクラーゼの心不全発症に果たす役割とその特異的抑制薬による新しい心不全治療(心不全進展のメカニズムを考慮した分子レベルからの新たな心不全治療戦略). 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 3) 茅野眞男<sup>1)</sup>, 是恒之宏<sup>1)</sup>, 西村恒彦<sup>2)</sup>, 中村憲司<sup>3)</sup>, 清野精彦(<sup>1)</sup>国立病院機構東京医療センター循環器科, <sup>2)</sup>同大阪医療センター, <sup>3)</sup>東京女子医科大学成人医学センター): 心房細動におけるワーファリン管理料の医療経済学(費用対効果を考えた心疾患の治療戦略). 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.

(4) ワークショップ:

- 1) 宮本正章, 安武正弘, 高木 元, 高木郁代, 太良修平, 藤本啓志, 大坪春美, 水野博司<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 太田眞夫, 高野照夫(<sup>1)</sup>形成外科学): 多剤耐性緑膿菌(MDRP)合併糖尿病性壊疽に対する医療用ウジ治療. 第20回日本糖尿病合併症学会, 2005. 10.
- 2) 清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 福島正人, 安武正弘: 急性冠症候群(ストレス関連疾患). 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 3) 勝田侑実, 張 雪君, 大須賀勝: 肝肺症候群ラットモデルの肺内血管拡張と気管支動脈血流量の低酸素血症への関与(肝臓病と肺・門脈循環). 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 4) 清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 福本裕子, 福島正人: 心・腎相互関連: 心不全に伴う腎機能障害の病態生理(腎不全). 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.

(5) 一般講演:

- 1) Zhang XJ, Ohsuga M, La HI, Akimoto T, Kato Y, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Katsuta Y: Chronic Administration of Methylene Blue Ameliorates Hypoxemia in Rats with Chronic Bile Duct Ligation. VIth Sino-Japan Hepato-Pancreato-Biliary Symposium (Beijing, China), 2005. 4.
- 2) Hirasawa Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Yodogawa K, Morita N, Iwasaki Y, Maruyama M, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T: Successful Radiofrequency Ablation of Epicardial Left Ventricular Outflow Tract Tachycardia from the Anterior Interventricular Vein. Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2005. 5.
- 3) Takayama H, Katoh T, Yodogawa K: The Evaluation of Ischemic Non-sustained Ventricular Tachycardia by Wavelet Transform Analysis. Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2005. 5.
- 4) Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Shinoda A, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Maruyama M, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T: The Mechanism of the Cycle Length and QRS During Verapamil-sensitive Idopathic Left Ventricular Tachycardia. Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2005. 5.
- 5) Shirakabe A, Takano H, Nakamura S, Kikuchi A, Sasaki A, Yamamoto E, Kawashima S, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yoshikawa M, Kato K, Yamamoto T, Takayama M: Assessing coronary perforation during PCI. CCT2005 (Kobe, Japan), 2005. 9.
- 6) Kato Y, Fukuma N, Takayama M, Kato K, Honma H, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T: Cause of enhanced ventilatory response in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. American Heart Associations 2205 Scientific Sessions (Dallas, USA), 2005. 11.
- 7) Fukuma N, Tsuchida T, Ushijima A, Kato K, Kimura-Kato Y, Aisu N, Mabuchi K, Takano T: Heart rate response to exercise and sympathetic excitability through the baroreflex mechanism. American Heart Associations 2205 Scientific Sessions (Dallas, USA), 2005. 11.
- 8) Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukumoto H, Fukushima M, Takano T: Difference in elevation of N-terminal pro-BNP and conventional cardiac markers between patients with ST elevation versus non-ST ele-

- vation acute coronary syndrome . American Heart Associations 2205 Scientific Sessions ( Dallas, USA ), 2005 . 11 .
- 9) Takagi G , Takagi I , Arakawa M<sup>1)</sup> , Tara S , Yasutake M , Shidara Y<sup>2)</sup> , Shigeo O<sup>1)</sup> , Miyamoto M , Takano T ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院 , <sup>2)</sup>東京女子医科大学 ): Novel anti-cell death protein ( FNK ) enhances angiogenesis and preserves myocardium after myocardial infarction in swine . American Heart Associations 2205 Scientific Sessions ( Dallas, USA ), 2005 . 11 .
- 10) Miyauchi Y : Radiofrequency Catheter Ablation of Persistent Atrial Tachycardia Following Radial Procedure for Atrial Fibrillation . The 1st Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium ( Seoul, Korea ), 2005 . 12 .
- 11) Maruyama M : Fascicular Ventricular Tachycardia : Current Concepts . American College of Cardiology 2006 Annual Meeting ( Atlanta, USA ), 2006 . 3 .
- 12) Takano H , Takayama M , Kikuchi A , Kitamura M , Kosugi M , Shirakabe A , Nakamura S , Sasaki A , Yamamoto E , Kawashima S , Fujita N , Takagi G , Aoki S , Asai K , Yasutake M , Takano T : Impaired Coronary Microcirculation is a Predictor of Cardiac Events in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 13) Takagi G , Takagi I , Arakawa M<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>2)</sup> , Yasutake M<sup>3)</sup> , Tara S , Shidara Y , Asoh S<sup>1)</sup> , Ohta S<sup>1)</sup> , Miyamoto M , Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Science , <sup>2)</sup>Coronary Care Unit , <sup>3)</sup>2nd Department of Pathology, Graduate School of Medicine, Tokyo Women ' s Medical University ): Novel Anti-Cell Death Protein ( FNK ) Therapy Preserves Myocardium Through Angiogenesis Mechanism After Myocardial Infarction in Swine . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 14) Miyauchi Y , Kobayashi Y , Nitta T<sup>1)</sup> , Maruyama M , Iwasaki Y , Horie T , Taniguchi H , Ueno A , Tateoka K , Okazaki R , Hayashi M , Ishii Y<sup>1)</sup> , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Surgery II ): The Coronary Sinus Musculature as a Critical Isthmus of Macroreentrant Atrial Tachycardia Occurring in Patients after Surgery to Atrial Fibrillation . 第70回記念日本循環器学会・総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 15) Hayashi M , Kobayashi Y , Taniguchi H , Horie T , Hirasawa Y , Abe J , Iwasaki Y , Morita N , Maruyama M , Miyauchi Y , Ohmura K , Ohara T , Satoh N , Tanaka K , Katoh T , Takano T : Intra-fascicular Reentrant Ventricular Tachycardia Originating from Left Posterior Purkinje Fibers after Myocardial Infarction . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 16) Maruyama M , Kobayashi Y , Miyauchi Y , Ueno A , Tateoka T , Taniguchi H , Horie T , Hirasawa Y , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Hayashi M , Ohara T , Yashima M , Hirayama Y , Katoh T , Takano T , Miyamoto S<sup>1)</sup> , Tadera T<sup>1)</sup> , Ino T<sup>1)</sup> , Atarashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): Mapping-guided Ablation of the Cavotricuspid Isthmus : A Novel Simplified Approach for Radiofrequency Catheter Ablation of Isthmus-dependent Atrial Flutter . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 17) Fukuma N , Ushijima A , Manabe H , Kato K , Kato Y , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Honma H , Kishida H , Takano T : Alteration of Blood Pressure Response to Exercise Stress through Baroreflex Mechanism as a Possible Mechanism of Hypertension . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .
- 18) Hirasawa Y , Inakagomi A , Kobayashi Y , Murata H , Yamamoto T , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Horie T , Yodogawa K , Iwasaki Y , Morita N , Hayashi M , Maruyama M , Miyauchi Y , Ohara T , Hirayama Y , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 , <sup>2)</sup>集中治療室 ): Amiodarone Attenuates Monocyte Chemokine Production and Improves Cardiac Function in Patients with Idiopathic Dilated Cardiomyopathy and Ventricular Tachycardia . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会 , 2006 . 3 .



- 19) Okumura S<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Ogawa B<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Imai S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ohno N<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Takano T, Tsunematsu T<sup>2)</sup>, Ishikawa Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Physiology and Medicine, Yokohama City University School of Medicine ): Type5 Adenylyl Cyclase Hampers Desensitization of cAMP Signal to Attenuate Akt Signal and Myocyte Viability in the Heart . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 20) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Tsuneda T<sup>1)</sup>, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ): Arrhythmogenic Substrates of Atrial Fibrillation in Hypertension . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 21) Ono N, Kawase A, Hayashi H<sup>1)</sup>, Lin SF<sup>1)</sup>, Chen PS<sup>1)</sup>, Karagueuzian H<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, Department of Medicine, Cedars-Sinai Medical Center and David Geffen School of Medicine at UCLA ): Spontaneous Atrial Fibrillation Initiated by Early Afterdepolarization-mediated Triggered Activity in the Aged Atria during Glycolytic Inhibition . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 22) Ogano M, Iwasaki Y, Yamamoto T, Inami T, Aoki A, Morita N, Takano H, Takayama M, Takano T : Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation Restores Large vWF Multimer Deficit in Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 23) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Yamamoto E, Kamiya M, Yamamoto T, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M, Atarashi H<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital ): Statin Therapy Reduces Atherosclerotic Plaque Burden and Improves Prognosis in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 24) Takagi I, Takagi G, Yasutake M, Takano H, Katoh K<sup>1)</sup>, Miyamoto M, Takano T ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit ): Improvement of Endothelial Dysfunction Indicated Early Phase Recovery after Bone Marrow Vascular Regenerative Therapy in Human . 第70回日本記念循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 25) Munakata R<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Takano H, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M, Atarashi H<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital ): Metabolic Syndrome Increases Atherosclerotic Plaque Burden and Cardiac Events Associated with Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 26) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Seino Y, Endoh Y, Okazaki R, Hirasawa Y, Iwasaki Y, Aoki S, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital ): Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-Reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 27) 本間 博, 安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 横島友子, 福間裕美子, 伊藤恵子, 松崎つや子, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 山本幸弘<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学生理機能センター, <sup>2)</sup> 横河メディカルシステム ): 2次元ストレイン法による肥大心筋収縮様式の評価 . 第78回日本超音波医学会, 2005 . 4 .
- 28) 張 雪君, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 東 春香, 加藤良人, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章 ( <sup>1)</sup> 実験動物管理室 ): 門脈圧亢進症ラットモデルにおける肺内血管拡張と生理学的シャントの低酸素血症への関与 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 29) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福間長知, 中村利枝<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度の高速化が酸素摂取効果勾配に与える影響 . 第23回臨床運動療法研究会, 2005 . 4 .
- 30) 川嶋修司, 高野仁司, 吉川雅智, 高木 元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫, 飯野靖彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第2 ): 心臓カテーテル検査後の予防的血液透析は腎機能低下例の造影剤腎症を予防するか? . 第102

回日本内科学会講演会，2005．4．

- 31) 藤田進彦，村上大介，川嶋修司，田中古登子，宮本正章，太田眞夫，橋本英洋，高野照夫：持効型インスリン・グルルギンの使用状況と臨床効果．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，2005．5．
- 32) 田中古登子，川嶋修司，藤田進彦，宮本正章，太田眞夫，橋本英洋，高野照夫：2型糖尿病の各種合併症と接着因子及び凝固線溶系関連因子との検討．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，2005．5．
- 33) 丸山光紀，小林義典，宮内靖史，岩崎雄樹，小鹿野道雄，岡崎怜子，上野 亮，館岡克彦，谷口宏史，堀江格，阿部純子，平澤泰宏，小原俊彦，平山悦之，加藤貴雄，高野照夫，宮本新次郎<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>1)</sup>，井野 威<sup>1)</sup>，新 博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科，循環器科)：心房粗動に対する下大静脈・三尖弁輪間峡部アブレーションにおける新しいsimplified approachの検討．第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，2005．5．
- 34) 館岡克彦，小野卓也，岩崎雄樹，小林義典，本間 博，斎藤寛和，加藤貴雄，高野照夫，新 博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科，循環器科)：神経調節性失神に対する飲水負荷の血行動態への影響：Physio Flowを用いた検討．第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，2005．5．
- 35) 板倉潮人<sup>1)</sup>，小野卓哉，館岡克彦，淀川顕司，岩崎雄樹，小林義典，本間 博，斎藤寛和，加藤貴雄，高野照夫，新 博次<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院内科，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科，循環器科)：自動診断心電図におけるQT間隔延長の特色．第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，2005．5．
- 36) 堀江 格，宮内靖史，小林義典，村田広茂，篠田暁与，小鹿野道雄，岡崎怜子，上野 亮，館岡克彦，谷口宏史，平澤泰宏，阿部純子，淀川顕司，岩崎雄樹，林 明總，丸山光紀，小原俊彦，平山悦之，加藤貴雄，高野照夫：Reserved common atrial flutter のリエントリー回路：electroanatomical mappingを用いたentrainment mappingによる検討．第20回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，2005．5．
- 37) 村澤恒男<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，小野卓哉，伊佐治剛<sup>1)</sup>，網谷賢一<sup>1)</sup>，原田英博<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersionの変動：両者の関連性．第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 38) 本間 博，菅谷寿里<sup>1)</sup>，加藤政利<sup>1)</sup>，吉田由紀子<sup>1)</sup>，竹田裕子<sup>1)</sup>，中村利枝<sup>1)</sup>，斎藤公一<sup>1)</sup>，福間長知，加藤貴雄，加藤和代，加藤祐子，高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター)：心筋梗塞後の抑うつが心拍変動におよぼす影響．第25回ホルター心電図研究会，2005．6．
- 39) 森下登史<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，加藤浩司<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，岩崎雄樹<sup>1)</sup>，宮城泰雄<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，馬淵浩輔，高野照夫，山田研一<sup>2)</sup>，別府竜蔵<sup>2)</sup>，落 雅美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>外科学第2)：偽性仮性心室瘤の形成を経時的に観察しえた下壁心筋梗塞の1例．第196回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 40) 藤本啓志，宮本正章，山下照代，丸山光紀，高野仁司，小林義典，清野精彦，高野照夫：多剤耐性緑膿菌(MDRP)合併糖尿病性壊疽に対して医療用ウジ治療が有効であった1例．第196回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 41) 高野仁司，白壁章宏，鈴木浩臣，中村俊一，稲見 徹，佐々木朝子，山本英世，吉川雅智，加藤浩司，川嶋修司，坪 宏一，高木 元，藤田進彦，山本 剛，青木 聡，浅井邦也，佐藤直樹，安武正弘，高山守正，高野照夫：The Merits and demerits of multiple-sirolimus stents implantation for one diseased vessel．第14回日本心血管インターベンション学会，2005．6．
- 42) 吉川雅智，高野仁司，川嶋修司，高木 元，青木 聡，浅井邦也，加藤浩司，坪宏一，藤田進彦，山本 剛，佐藤直樹，安武正弘，高山守正，高野照夫：Clinical outcome after percutaneous coronary intervention in patients with end-stage renal disease．第14回日本心血管インターベンション学会，2005．6．
- 43) 加藤政利<sup>1)</sup>，加藤和代，福間長知，五十嵐亜希<sup>1)</sup>，平野美子<sup>1)</sup>，中村利枝<sup>1)</sup>，菅谷寿里<sup>1)</sup>，齋藤公一<sup>1)</sup>，牛島明子，愛須紀子，土田貴也，岸田 浩，高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター)：非侵襲的経皮的測定装置による運動負荷時炭酸ガス分圧評価の意義．第11回日本心臓リハビリテーション学会，2005．7．

- 44) 中村利枝<sup>1)</sup>, 加藤祐子, 福間長知, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 土田貴也, 愛須紀子, 岸田 浩, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 下肢ペダリング運動の回転数変化に伴う呼吸のEntrainment現象について. 第11回日本心臓リハビリテーション学会, 2005. 7.
- 45) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福間長知, 本江雪貴美<sup>1)</sup>, 和泉有妃子<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 岸田 浩, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 抑うつスコア定値である心筋梗塞患者における酸化ストレスマーカー. 第11回日本心臓リハビリテーション学会, 2005. 7.
- 46) 宮本正章, 高木 元, 安武正弘, 高野仁司, 太良修平, 藤本啓志, 大坪春美, 高野照夫: 医療用ウジを用いた多剤耐性緑膿菌感染合併重症糖尿病壊疽治療. 第26回日本炎症・再生医学会, 2005. 7.
- 47) 菊池有史, 丸山光紀, 山脇秀元, 稲見 徹, 大野忠明, 高野仁司, 本間 博, 清野精彦, 勝田悌実, 高野照夫: 肺動静脈瘻を合併した難治性僧房弁狭窄症の1例. 第528回日本内科学会関東地方会, 2005. 7.
- 48) 白壁章宏, 高野仁司, 中村俊一, 鈴木浩臣, 佐々木朝子, 稲見 徹, 山本英世, 吉川雅智, 川嶋修司, 高木元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 加藤浩司, 藤田進彦, 山本 剛, 佐藤直樹, 高山守正, 高野照夫: PCI中に合併した冠動脈穿孔例7例の検討. 第11回日本血管内治療学会, 2005. 7.
- 49) 網谷賢一, 竹野沙織, 宗像一雄: 治療中に中心静脈栄養カテーテル穿孔にて縦隔炎を来した1例. 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005. 8.
- 50) 吉田結富子<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 竹田普浩<sup>1)</sup>, 赤田信二<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>2)</sup>, 北村 晶<sup>2)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 中西一浩<sup>2)</sup>, 設楽敏朗<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 坂本篤裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>麻酔科学 ): 当院集中治療室におけるランジオロールの使用状況. 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005. 8.
- 51) 白壁章弘, 高山守正, 藤本啓志, 大野忠明, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>麻酔科学 ): 著明な左室内閉塞を有する閉塞性肥大型心筋症への非心臓手術の戦略. 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005. 8.
- 52) 加藤祐子, 福間長知, 高山守正, 加藤和代, 牛島明子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 岸田 浩, 高野照夫: 閉塞性肥大型心筋症における運動時の換気亢進についての検討. 第55回循環器負荷研究会, 2005. 8.
- 53) 張 雪君, 大須賀勝, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 宮元亮子, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌美 ( <sup>1)</sup>実験動物管理室 ): 肝肺症候群ラットモデルにおけるメチレンブルーの動脈血酸素化に対する効果. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 54) 時田祐吉<sup>1)</sup>, 岡田 薫<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 本間博, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科, 循環器科 ): 救急外来での急性心血管疾患の初期診断におけるD - dimer迅速測定の有用性. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 55) 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川頭司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 藤田進彦, 安武正弘, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP: 統合的リスクマーカーとしての有用性. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 56) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福間長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤裕子, 土田貴也, 本間 博, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 経皮的炭酸ガス分圧測定装置により測定された運動負荷時炭酸ガス分圧の意義. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 57) 中込明裕<sup>1)</sup>, 清野精彦, 青木 聡, 遠藤康実, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正, 新 博次<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科, 循環器科 ): スタチンは慢性心不全において心筋トロポニンTを低下させ, 心機能, 予後を改善させる. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 58) 高山守正, Montelase Pms Study Group: 急性心筋梗塞への修飾t-PA一回静注の多施設臨床成績: Montelase市販後全国集計調査によるreal world result. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 59) 高山守正, Montelase Pms Study Group: 修飾t-PA montelaseによる脳出血合併の危険と安全性: 市販後全国集計調査による急性心筋梗塞2, 823例への臨床現場での成績. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.

- 60) 大須賀勝, 張 雪君, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 宮元亮子, 加藤良人, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実<sup>(1)</sup> (実験動物管理室): 長期生存2次性胆汁性肝硬変ラットは門脈圧亢進症における前方説に従う. 第9回日本肝臓学会大会, 2005. 9.
- 61) 関野玲子<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 後藤弘子<sup>1)</sup>, 見友優子<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 藤本啓志, 東 春香, 横島友子, 福間祐美子, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 上野 亮, 大野忠明, 高野照夫<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 2次元ストレイン法による新しい左室新機能評価. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 62) 小澤明子<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 北嶋俊寛<sup>1)</sup>, 水谷康彦<sup>1)</sup>, 横澤裕美<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 塚田克也<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 新田隆<sup>3)</sup>, 山内仁紫<sup>3)</sup>, 神戸 将<sup>3)</sup>, 野口智子<sup>3)</sup>, 菅野重人<sup>3)</sup>, 清野精彦, 岡崎怜子<sup>(1)</sup> (医学部第3学年,<sup>2)</sup> 病理部,<sup>3)</sup> 外科学第2): 心房中隔欠損症・発作性心房細動に対する手術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 63) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 和泉有妃子<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 福間長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 急性心筋梗塞患者における抑うつと酸化ストレスマーカー 8iso-prostane の関係. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 64) 柴田康史<sup>1)</sup>, 飯野幸水<sup>1)</sup>, 里村克章, 久志本茂樹<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup> (中央検査部,<sup>2)</sup> 高度救命救急センター): 細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の有用性. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 65) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉, 館岡克彦, 小林義典, 本間 博, 斉藤寛和, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫<sup>(1)</sup> (波崎済生病院内科,<sup>2)</sup> 日本医科大学第二病院内科): 自動診断心電図にてQT延長とされた心電図のJT間隔とQRSの特徴. 第22回日本心電学会学術集会, 2005. 10.
- 66) 小野卓哉, ナトコヴァカテリナ<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 館岡克彦, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 斉藤寛和, 加藤貴雄, 高野照夫, マリックマレック<sup>1)</sup> (聖ジョージ病院循環器科,<sup>2)</sup> 波崎済生病院内科): T-wave morphology analysis における疾患別特徴: 心筋症と心筋梗塞の相違. 第22回日本心電学会学術集会, 2005. 10.
- 67) 安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東 春香, 横島友子, 福間祐美子, 伊藤恵子, 本間 博, 高野照夫, 松崎つや子<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 80才以上の高齢者においてドブタミン負荷心エコー法は有用か?. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 68) 宮内靖史, 堀江 格, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 林 明聡, 谷口宏史, 平澤泰宏, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 村田広茂, 高野照夫, 新 博次<sup>(1)</sup> (多摩永山病院内科): 冠動脈洞近位起源アデノシン感受性心房頻拍の特徴とカテーテル・アブレーション. 第17回カテーテル・アブレーション委員会公開研究会, 2005. 10.
- 69) 加藤浩司<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 米沢光平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫<sup>(1)</sup> (集中治療室): 急性心筋梗塞と大動脈弁狭窄症による心原性ショックに対して積極的治療によりショック離脱可能であった1例. 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 70) 岡崎怜子, 淀川顕司, 高野仁司, 小林義典, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫: LDLアフェレシスおよびステロイド療法が著効したCholesterol Crystal Embolism (CCE) の1例. 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 71) 谷口宏史, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: ベラパミル感受性左室特発性頻拍のリントリー回路: カルトシステムを用いた検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 72) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福間長知, 本間 博, 中村利枝<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 運動負荷時経皮炭酸ガス分圧変動の意義. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 73) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福間長知, 本間 博, 加藤政利<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 心筋梗塞における抑うつと自律神経機能障害. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.

- 74) 新真理子<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小串聡子<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 神谷仁孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学集中治療室, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>稲田登戸病院循環器科): 肺癌様の腫瘤陰影を呈した肺塞栓の1例. 第12回肺塞栓症研究会・学術集会, 2005. 11.
- 75) 馬淵浩輔, 福間長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 草間芳樹, 高野照夫: 経皮硝酸薬による皮膚刺激に関する検討: クロスオーバー法による検討. 第26回日本臨床薬理学会年会, 2005. 12.
- 76) 高木 元, 高木郁代, 佐藤直樹, 太良修平, 安武正弘, 宮本正章, 高野照夫, 荒川正行<sup>1)</sup>, 設楽雄次郎<sup>1,2)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学加齢科学・細胞生物学, <sup>2)</sup>東京女子医科大学第二病理学分野): 新規細胞死抑制蛋白(PTD-FNK)による血管新生効果及び心筋保護作用. 第46回日本脈管学会総会, 2005. 12.
- 77) 坏 宏一<sup>1,2)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 東 春香, 高野照夫(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>国立循環器病センター): 急性大動脈解離におけるD-dimer値の経時的変化とその測定意義. 第46回日本脈管学会総会, 2005. 12.
- 78) 中沢 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野沢志郎<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 林宏光<sup>1)</sup>, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫(<sup>1)</sup>放射線医学): 急性塊状肺動脈血栓症に対する血栓溶解療法の有用性: 肺動脈圧と遠隔血栓の関係. 第46回日本脈管学会総会, 2005. 12.
- 79) 藤田進彦, 高山守正, 佐々木朝子, 菊池有史, 藤本啓志, 大野忠明, 小原俊彦, 高野照夫, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 新田隆<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 西谷一晃<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2, <sup>2)</sup>十善病院): 分離型大動脈弁下狭窄症に合併した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第198回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 80) 吉田明日香<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 平澤泰宏, 安武正弘, 高野照夫, 山口博樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第3): 特発性血小板減少症を合併した劇症型心筋炎に対し補助循環, グロブリン大量療法を行い救命できた1例. 第198回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 81) 神谷仁孝, 高野仁司, 村井綱児, 藤田進彦, 高木 元, 山本 剛, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫: 第19回日本冠疾患学会, 2005. 12.
- 82) 篠田暁与, 藤田進彦, 村上大介, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫: 糖尿病を合併した特発性脾石症の1例. 第43回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2006. 1.
- 83) 上野 亮, 丸山光紀, 小林義典, 村田広茂, 山本哲平, 岡崎怜子, 館岡克彦, 谷口宏史, 堀江 格, 阿部純子, 淀川顕司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 小原俊彦, 平山悦之, 高山守正, 加藤貴雄, 高野照夫, 新博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的心筋中隔焼灼術後にみられたHV時間の交互現象および第3相/第4相ブロックと 遮断薬の効果. 第18回臨床不整脈研究会, 2006. 1.
- 84) 篠田暁与, 藤田進彦, 村上大介, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫: 糖尿病を合併した特発性脾石症の1例. 第43回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2006. 1.
- 85) 淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada症候群における高周波成分の変動とその意義: Wavelet変換法を用いた検討. 第16回体表心臓微小電位研究会, 2006. 2.
- 86) 小俣喜芳<sup>1)</sup>, 加藤貴雄(<sup>1)</sup>ムトウテクノス): インターネット上のディスクスペースを利用したホルター心電図伝送ならびに解析評価. 第3回心電図伝送システム研究会, 2006. 2.
- 87) 山本 剛<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): PCPS回路交換後に高サイトカイン血症による一過性白血球減少をきたした1例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 88) 高橋明子<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 野呂瀬準<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>2)</sup>, 阿部信二<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>内科学第4): 心病変を認めた顕微鏡的多発血管炎に対して血漿交換, ステロイド, シクロホスファミドを用いて改善した1例. 第33回日本集中治療医学会学術集会,

2006 . 3 .

- 89) 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 小林義典, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 重症心室性不整脈発症の契機となる心室性期外収縮の12誘導心電図の特徴 . 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .
- 90) 中込昭裕<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 清野精彦, 新博次<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科 ): カルベジロールは慢性心不全患者において単球 MCP : 1産生を抑制し左室機能を改善する . 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .
- 91) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 腎保護効果からみたナトリウム利尿ペプチドとフロセミド併用療法の問題点 . 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .
- 92) 宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木 元, 加藤浩司, 太良修平, 高野照夫, 水野博司<sup>1)</sup>, 多川政弘<sup>2)</sup>, 工藤圭介<sup>2)</sup>, 田畑泰彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科学, <sup>2)</sup> 日本獣医畜産大学獣医外科, <sup>3)</sup> 京都大学再生医科学研究所 ): 重症難治性虚血肢に対する総合的治療戦略 : 骨髄幹細胞及びDDS徐放化蛋白による血管新生療法と医療用ウジ治療 . 第4回日本フットケア学会学術集会, 2006 . 3 .
- 93) Takayama M, Shirakabe A, Ohno T, Fujimoto H, Fujita N, Satoh N, Kawashima S, Kimura Y, Takano H, Asai K, Takano T : Current Composite Therapeutic Strategy for Chronic Cardiac Failure Due to Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 94) Sugaya J<sup>1)</sup>, Fukuma N, Kato K, Saito K<sup>1)</sup>, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Honma H, Kishida H, Takano T ( <sup>1)</sup> Physiological Examination Center ): Increment in Oxidative Stress Relates to Type A But Not Depression Score in Patients with Mild Myocardial Infarction . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 95) Yamanaka H<sup>1)</sup>, Kishida H, Suzuki T<sup>2)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Health Care, 2nd Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Medical Office, Keio Corporation ): Relationship between the Mismatch of T1-201 and I-123-BMIPP Myocardial SPECT and Autonomic Function in Patients with Acute Myocardial Infarction . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 96) Setsuta K<sup>1)</sup>, Takaki M<sup>2)</sup>, Arai M<sup>2)</sup>, Ogawa T, Seino Y, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Risk Stratification Using C-Reactive Protein and Cardiac Troponin T in Patients with Non-Ischemic Chronic Heart Failure . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 97) Ushijima A, Fukuma N, Manabe H, Kato K, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Oikawa K, Mabuchi K, Takano T : Impairment of Sympathetic Excitability through Baroreflex Mechanism as a Cause of Limitation of Exercise Tolerance . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 98) Kato Y, Fukuma N, Miura K, Ushijima A, Manabe H, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T : Relation of Hypercapnic Chemosensitivity to Lowering PaCO<sub>2</sub> during Exercise in Patients with Chronic Heart Failure . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 99) 高木 元, 高木郁代, 荒川正行, 佐藤直樹, 安武正弘, 設楽雄二郎, 麻生定光, 太田成男, 宮本正章, 高野照夫 : Bcl-2 family による細胞死抑制心筋再生治療 . 第5回日本再生医療学会総会, 2006 . 3 .
- 100) 太良修平, 宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木 元, 高木郁代, 大坪春美, 工藤圭介<sup>1)</sup>, 多川政弘<sup>1)</sup>, 田畑泰彦<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 日本獣医畜産大学獣医外科, <sup>2)</sup> 京都大学再生医科学研究所 ): b-FGF 徐放化ハイドロゲルによる新規血管新生療法 . 第3回関東循環器再生医療研究会, 2006 . 5 .

(6) Featured Research Session :

- 1) Kitamura M, Takayama M, Kasashima S, Nakamura S, Kikuchi A, Kousugi M, Sasaki A, Kamiya M,

Yamamoto E, Takano H, Aoki S, Takano T : Pharmacological Modification on Left Ventricular Hemodynamics in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy to Evaluate Cases for Percutaneous Septal Myocardial Ablation (Frontier of Cardiomyopathy Research). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.

(7) Roundtable Discussion :

1) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Yasutake M, Takano T, Tajima H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Intensive and Coronary Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Therapeutic Strategy for Acute Pulmonary Embolism : Current Status and Future Perspectives (Pulmonary Thromboembolism in Japan : Present and Future). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.

(8) 教育セッション :

1) 安武正弘 : 心不全の心筋再生療法 (心不全治療 : 薬物療法から非薬物療法まで). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

高齢者の糖尿病, 動脈硬化, 脂質代謝異常, 高血圧症, 自律神経機能, 認知症および尿路感染症などに関する臨床的研究を行った. 糖尿病に関して, 糖尿病患者の食後血糖値は加齢の影響を受けないことを明らかにした. 「高齢者糖尿病のmetabolic syndromeに対する食事療法, および運動療法の介入効果に関する研究」を行った. コレスチミドの血糖降下作用を経年観察により明らかにした. 厚生労働省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合研究 - 無作為化比較研究 (J-EDIT) を中心に」の経年観察を行った. 頸動脈のIMTが糖尿病性腎症および網膜症の予測因子となることを断面調査により明らかにした. SU薬の低血糖からみた安全性を製剤間で比較検討した. 自律神経機能の評価法としてのウエーブレット解析の有用性を細小血管障害との関連から検討した.

動脈硬化に関して, ハイリスク高齢者の脳梗塞型別の頸動脈超音波所見を比較し, その特徴を明らかにした. PWV, ABI測定の臨床的意義を心血管病変との関連から検討した. 脳局所血流評価としてのSPECTの有用性を明らかにし, 薬効評価の面からも検討した.

高血圧症に関しては, 高齢者高血圧コホート研究: 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度, 高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS) を行った. 自律神経機能に関して, ウエーブレット解析による加齢変化を検討した. 認知症に関して, 釣藤散のアルツハイマー病の認知機能およびADLの改善効果を明らかにした. 認知症への取り組みとしての院内連携システム構築における問題点を検討した.

尿路感染症に関して, 高齢女性の無症候性白血球尿と自律神経機能および残尿量との相互関連を明らかにした. 膀胱内尿量測定の臨床的有用性を糖尿病性合併症との関連から検討した.

### 研究業績

#### 論文

[ 2004 年度追加分 ]

(1) 研究報告書 :

1) 荒木 厚<sup>1)</sup>, 大庭建三, 曾根博仁<sup>2)</sup>, 櫻井 孝<sup>3)</sup>, 梅垣宏行<sup>4)</sup>, 宮尾益理子<sup>5)</sup>, 吉村幸雄<sup>6)</sup>, 中野忠澄<sup>7)</sup>, 井藤英喜<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都老人医療センター内分泌科, <sup>2)</sup> 筑波大学臨床医学系内分泌代謝糖尿病内科, <sup>3)</sup> 神戸大学老年内科学, <sup>4)</sup> 名古屋大学医学部老年科学, <sup>5)</sup> 関東中央病院代謝科, <sup>6)</sup> 四国大学生生活科学部, <sup>7)</sup> 多摩北部医療セン

ター)：高齢者糖尿病の metabolic syndrome に対する食事療法，および運動療法の介入効果に関する研究．公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 16 年度研究報告集 2005；106-108．

(1) 原著：

- 1) Magata Y, Oba K, Inuzuka Y, Nakano H : Aging per se does not influence postprandial glucose levels in type 2 diabetes . Geriatrics and Gerontology International 2005 ; 5 (3) : 146-151 .
- 2) Nakaya N<sup>1)</sup>, Kita T<sup>2)</sup>, Mabuchi H<sup>3)</sup>, Matsuzaki M<sup>4)</sup>, Matsuzawa Y<sup>5)</sup>, Oikawa S, Saito Y<sup>6)</sup>, Sasaki J<sup>7)</sup>, Shimamoto K<sup>8)</sup>, Itakura H<sup>9)</sup>, The J-LIT Study Group ( <sup>1)</sup>Nakaya Clinic , <sup>2)</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup>Kanazawa University Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup>Yamaguchi University Graduate School of Medicine , <sup>5)</sup>Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>6)</sup>Chiba University Graduate School of Medicine , <sup>7)</sup>International University Graduate School of Health and Welfare , <sup>8)</sup>Sapporo Medical University School of Medicine , <sup>9)</sup>Ibaraki Christian University ) : Large-scale cohort study on the relationship between serum lipid concentrations and risk of cerebrovascular disease under low-dose simvastatin in Japanese patients with hypercholesterolemia -Sub-analysis of the Japan Lipid Intervention Trial ( J-LIT ). Circ J 2005 ; 69 (9) : 1016-1021 .
- 3) Suzuki T, Futami S, Igari Y, Matsumura N, Watanabe K, Nakano H, Oba K, Murata Y<sup>1)</sup>, Koibuchi H<sup>1)</sup>, Kigawa Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Hanno Koyu Hospital ) : A Chinese herbal medicine, Choto-San, improves cognitive function and activities of daily living of patients with dementia : a doubled-blind, randomized, placebo-controlled study . J Am Geriatr Soc 2005 ; 53 (12) : 2238-2240 .
- 4) 山下直子, 犬塚有紀, 野呂瀬準, 吉松寛臣, 山田幸弘, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 糖尿病患者の血糖値の変動に関する検討 : 年代別・治療法別の検討 . Geriatr Med 2005 ; 43 (6) : 979-985 .
- 5) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : ハイリスク高齢者におけるアテローム血栓性脳梗塞およびラクナ梗塞と頸動脈超音波所見との関連 . 日老医誌 2005 ; 42 (6) : 684-690 .

(2) 綜説：

- 1) 根本隆幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 鈴木達也, 大庭建三 ( <sup>1)</sup>外科学第1) : 糖尿病患者に対する外科治療 : 臍臓手術における糖尿病患者管理の実際 . 外科治療 2004 ; 91 (6) : 684-688 .
- 2) 中野博司, 山下直子, 大庭建三 : 慢性疾患患者の生活指導と高齢者総合的機能評価 . Geriatr Med 2005 ; 43 (4) : 577-581 .
- 3) 大庭建三 : 高齢患者・治療の留意点 : 糖尿病 . Medicament News 2005 ; (1835) : 11-12 .
- 4) 鈴木達也, 猪狩吉雅, 大庭建三 : 糖尿病性細小血管症 基礎・臨床のアップデート , 各論 II . 糖尿病性腎症 検査マーカーとその意義 . N - アセチル D グルコサミニダーゼ (NAG) . 日本臨床 2005 ; 63 (増刊号6) : 352-357 .
- 5) 大庭建三 : 高齢者糖尿病の治療 . 日老医誌 2005 ; 42 (5) : 512-515 .
- 6) 大庭建三, 中野博司 : 糖尿病の治療 最近の動向 非インシュリン療法 . Cefiro 2005 ; (2) : 44-49 .
- 7) 大庭建三 : 高齢者総合的機能評価 (CGA) の紹介 : 高齢糖尿病患者さんの療養指導への活用 . CDEJ News Letter 2005 ; (8) : 9 .
- 8) 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三 : 我が国における高齢者糖尿病の疫学 . 日本臨床 2006 ; 64 (1) : 12-18 .
- 9) 中野博司 : 臨床的観点からみた高齢期発症糖尿病の病態生理 . 日本臨床 2006 ; 64 (1) : 51-56 .
- 10) 大庭建三 : 加齢による身体的・精神的変化 (糖尿病治療・教育の面から) . Diabetes Team Now 2006 ; 6 (1) : 9-12 .
- 11) 中野博司, 大庭建三 : 高齢者糖尿病の薬物療法 : 経口血糖降下薬の適応, 使い分け, 留意点 . Geriatr Med 2006 ; 44 (3) : 327-331 .
- 12) 横野浩一<sup>1)</sup>, 荒木 厚<sup>2)</sup>, 大庭建三, 井藤英喜<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>神戸大学老年内科, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター内分泌科,



3) 多摩北部医療センター): 高齢者糖尿病の管理: 何が重要か, 何をを目指すのか. Geriatr Med 2006; 44 (3): 389-398.

(3) 症例報告:

- 1) Oba K, Suzuki K, Ouchi M, Matsumura N, Suzuki T, Nakano H: Repeated episodes of paralytic ileus in an elderly diabetic patients treated with voglibose. J Am Geriatr Soc 2006; 54 (1): 182-183.
- 2) 野呂瀬準, 山下直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 診断に難渋した高齢者リウマチ性多発筋痛症 (PMR) の1例. Geriatr Med 2005; 43 (5): 817-820.

(4) 研究報告書:

- 1) 大庭建三, 中野博司, 渡邊健太郎, 大内基司: 高齢者の1.5-Anhydroglucitol (1.5 AG) と頸動脈超音波所見との関連: 非糖尿病患者の断面調査による検討. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金; 長寿科学総合研究事業「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合的研究: 無作為化比較研究 (J-EDIT) を中心に」2006; pp64-76.

著書

- 1) 中野博司: [分担] 絶対医療禁忌・老年病科・治療. 医療禁忌マニュアル (富野康日己編), 2005; p85, 医歯薬出版.
- 2) 中野博司: [分担] 相対医療禁忌・老年病科・検査. 医療禁忌マニュアル (富野康日己編), 2005; pp186-187, 医歯薬出版.
- 3) 中野博司: [分担] 相対医療禁忌・老年病科・治療. 医療禁忌マニュアル (富野康日己編), 2005; pp287-292, 医歯薬出版.
- 4) 中野博司: [分担] 相対医療禁忌・老年病科・配合禁忌. 医療禁忌マニュアル (富野康日己編), 2005; pp426-427, 医歯薬出版.
- 5) 岡崎恭次, 中野博司, 大庭建三: [分担] 高齢者におけるインスリンの使い方. 日常診療に活かす老年病ガイドブック; 高齢者の薬の使い方 (大内耐義監修), 2005; pp164-168, メジカルビュー社.
- 6) 大庭建三: [分担] 内分泌代謝疾患. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 「老年学」第2版 (大内耐義編), 2005; pp171-182, 医学書院.
- 7) 大内耐義<sup>1)</sup>, 大庭建三, 中野博司ほか<sup>(1)</sup> 東京大学高齢医学): [編集] 老年医学update2005-06 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2005; メジカルビュー社.
- 8) 鳥羽研二<sup>1)</sup>, 大庭建三ほか<sup>(1)</sup> 杏林大学高齢医学): [編集] 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2005, 2005; メジカルビュー社.
- 9) 大庭建三, 中野博司: [分担] 低血糖. 看護のための最新医学講座第2版, 17 老人医療 (井藤英喜編), 2005; pp331-334, 中山書店.
- 10) 中野博司: [分担] 老年病科・検査. 医療禁忌診療科別マニュアル (富野康日己編), 2006; pp244-245, 医歯薬出版.
- 11) 中野博司: [分担] 老年病科・治療. 医療禁忌診療科別マニュアル (富野康日己編), 2006; pp246-255, 医歯薬出版.
- 12) 中野博司: [分担] 老年病科・配合禁忌. 医療禁忌診療科別マニュアル (富野康日己編), 2006; pp256-257, 医歯薬出版.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 大庭建三: 高齢者糖尿病の治療. 第47回日本老年医学会学術集会, 2005. 6.

- 2) 鈴木達也：高齢者総合的機能評価．第2回千駄木高齢者疾患研究会，2005．6．
- 3) 中野博司：臨床検査の教えるもの：糖尿病編．第2回千駄木高齢者疾患研究会，2005．6．

(2) ワークショップ：

- 1) 中野博司：高齢者の動脈硬化の非侵襲的診断法（高齢者のメタボリックシンドロームと血管障害）．第42回日本老年医学会関東甲信越地方会，2005．10．
- 2) 鈴木一成，中野博司，大庭建三，日本医科大学付属病院物忘れ診療プロジェクト委員会：大学病院における院内連携の一環としての物忘れ診療プロジェクト（認知症へのとり組み）．第43回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．3．

(3) 一般講演：

- 1) 鈴木達也，二見章子，鈴木一成，松村典昭，猪狩吉雅，木川好章，奥山 裕，中野博司，大庭建三：2型糖尿病患者のコレステミドによる血糖コントロールの経年観察 Responder，Non-Responder についての検討．第102回日本内科学会講演会，2005．4．
- 2) 渡邊健太郎，大内基司，斉藤好史，吉松寛臣，野呂瀬準，関水憲一，安岡比呂子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢者糖尿病性腎症と頸動脈超音波指標の関連：断面調査による検討．第102回日本内科学会講演会，2005．4．
- 3) 猪狩吉雅，松村典昭，山田宰弘，山本祐子，犬塚有紀，岡崎恭次，山下直子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：無症候性白血球尿に関する研究：自律神経機能及び膀胱内残尿量の面からの検討．第102回日本内科学会講演会，2005．4．
- 4) 松村典昭，猪狩吉雅，渡邊健太郎，犬塚有紀，潤渦由美子，山下直子，増谷祐人，鈴木達也，中野博司，大庭建三：ウエーブレット解析を用いた自律神経機能と年齢および糖尿病性細小血管症との関係．第102回日本内科学会講演会，2005．4．
- 5) 荒木 厚<sup>1)</sup>，大庭建三，曾根博仁<sup>2)</sup>，櫻井 孝<sup>3)</sup>，梅垣宏行<sup>4)</sup>，宮尾益理子<sup>5)</sup>，吉村幸雄<sup>6)</sup>，中野忠澄<sup>7)</sup>，井藤英喜<sup>7)</sup>（<sup>1)</sup>東京都老人医療センター内分泌科，<sup>2)</sup>筑波大学臨床医学系内分泌代謝糖尿病内科，<sup>3)</sup>神戸大学老年内科学，<sup>4)</sup>名古屋大学医学部老年科学，<sup>5)</sup>関東中央病院代謝科，<sup>6)</sup>四国大学生生活科学部，<sup>7)</sup>多摩北部医療センター）：高齢者糖尿病のmetabolic syndromeに対する食事療法，および運動療法の介入効果に関する研究．公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成16年度研究報告会，2005．5．
- 6) 渡邊健太郎，大内基司，山本祐子，野呂瀬準，山田宰弘，吉松寛臣，斉藤好史，山下直子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢者2型糖尿病の頸動脈超音波指標が糖尿病性腎症の予測因子となるか．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，2005．5．
- 7) 鈴木達也，二見章子，鈴木一成，松村典昭，猪狩吉雅，渡邊健太郎，犬塚有紀，木川好章，奥山 裕，中野博司，大庭建三：2型糖尿病患者のコレステミドによる血糖コントロールの経年観察．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，2005．5．
- 8) 中野博司，大内基司，山下直子，犬塚有紀，猪狩吉雅，松村典昭，渡邊健太郎，鈴木達也，大庭建三：SPECTによる局所脳血流の臨床評価の試み：薬効評価についての検討．第47回日本老年医学会学術集会，2005．6．
- 9) 二見章子，鈴木達也，鈴木一成，松村典昭，猪狩吉雅，中野博司，大庭建三，村田雄一<sup>1)</sup>，鯉淵 仁<sup>1)</sup>，木川好章<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>飯能友好病院）：高齢痴呆患者に対する釣藤散および牛車腎気丸の認知機能に対する改善効果の検討：2重盲検ランダム化比較試験による検討．第47回日本老年医学会学術集会，2005．6．
- 10) 犬塚有紀，中谷千瑞子，大内基司，斉藤好史，山下直子，渡邊健太郎，潤渦由美子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢糖尿病患者におけるグリクラジドとグリベンクラミドの血糖コントロールに対する安全性の比較検討．第47回日本老年医学会学術集会，2005．6．
- 11) 渡邊健太郎，野呂瀬準，吉松寛臣，関水憲一，鈴木一成，大内基司，斉藤好史，鈴木達也，中野博司，大庭建三：大血管症の指標が高齢者糖尿病性網膜症の予測因子となるか：断面調査による検討．第47回日本老年医学

会学術集会, 2005 . 6 .

- 12) 松村典昭, 二見章子, 増谷祐人, 山下直子, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ウエーブレット解析を用いた自律神経機能と年齢および糖尿病性細小血管症との関係. 第47回日本老年医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 13) 猪狩吉雅, 山本祐子, 山田宰弘, 安岡比呂子, 山下直子, 松村典昭, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 無症候性白血球尿に関する研究. 第47回日本老年医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 14) 二見章子, 伊藤公亮, 鈴木一成, 野呂瀨準, 三村成巨, 山下直子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司: 大腸癌を合併した高齢中枢神経系原発悪性リンパ腫の疑診例. 第34回老年者造血管疾患研究会, 2005 . 7 .
- 15) 野呂瀨準, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>内科学第1): バイパス術後早期のグラフト閉塞に対して経皮的冠インターベンションが有効であった高齢者不安定狭心症の1例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 16) 大内基司, 安岡比呂子, 斉藤好史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 化膿性脊椎炎および深部静脈血栓症を併発した高齢2型糖尿病の1例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 17) 関水憲一, 須田章子, 野呂瀨準, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ショックにて受診した高齢絞扼性イレウスの1例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 18) 森下千瑞子, 大内基司, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: インスリン自己注射が困難であった高齢1型糖尿病の1例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 19) 須田章子, 山下直子, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 大腸癌を合併した高齢中枢神経系原発悪性リンパ腫の疑診例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 20) 山本祐子, 猪狩吉雅, 吉松寛臣, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者における超音波による残尿量測定 of 臨床的有用性に関する検討; 糖尿病合併症の面からの検討. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .
- 21) 山本祐子, 山下直子, 吉松寛臣, 野呂瀨準, 斉藤好史, 大内基司, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者の局所脳血流の評価指標としてのSPECTの有用性の検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 22) 関水憲一, 猪狩吉雅, 野呂瀨準, 大内基司, 森下千瑞子, 山下直子, 犬塚有紀, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 無症候性白血球尿の臨床的意義; 自律神経機能の面からの検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 23) 森下千瑞子, 松村典昭, 安岡比呂子, 鈴木一成, 山下直子, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ウエーブレット解析の高齢者における有用性の検討(第2報): 糖尿病性細小血管症の影響. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 24) 大内基司, 山本祐子, 猪狩吉雅, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 関水憲一, 須田章子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 超音波による残尿量測定の高齢者における臨床的有用性; 糖尿病合併症の面からの検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 25) 安岡比呂子, 渡邊健太郎, 吉松寛臣, 関水憲一, 須田章子, 斉藤好史, 松村典昭, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病性網膜症と動脈硬化の超音波所見との関連性. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 26) 鈴木一成, 松村典昭, 犬塚有紀, 関水憲一, 須田章子, 山下直子, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ウエーブレット解析の高齢者における有用性の検討(第1報): 加齢変化に関する検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- 27) 野呂瀨準, 山本祐子, 鈴木一成, 大内基司, 斉藤好史, 森下千瑞子, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司: Ankle-Brachial Index と大動脈脈波速度の併用による虚血性心疾患の検出精度の検討. 第42

回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.

- 28) 伊藤 民, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: Insulinとglimepirideの併用療法が著効した, 慢性膵炎合併2型糖尿病の1例. 第534回日本内科学会関東地方会, 2006. 3.
- 29) 須田章子, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 脳梗塞治療中に多彩な菌血症をくり返し, 発症に長期の禁食の関与が疑われた1例. 第43回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2006. 3.
- 30) 大内基司, 野呂瀬準, 鈴木一成, 山下直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 潜在する総胆管結石症が肝障害, 嚥下性肺炎の誘引と疑われた高齢者の1例. 第43回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2006. 3.
- 31) 森下千瑞子, 山本祐子, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ALPの高度上昇を契機に発見された肝内胆管癌の1例. 第43回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2006. 3.
- 32) 関水憲一, 山下直子, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 非特異性間質性肺炎 (nonspecific interstitial pneumonia; NSIP) の併発とともにインスリン抵抗性の出現をみた高齢2型糖尿病の1例. 第43回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2006. 3.

## [ 第二病院内科 ( 内科, 循環器科, 神経内科 ) ]

### 研究概要

循環器, 神経内科および腎臓病学の領域において著書, 学会発表があった. 循環器病学では, RIを用いた心室の壁運動の画像診断について研究が継続してなされている. さらに標準的な検査として確立されるべく, 従来の検査方法との対比や血管作動物質との関係についての研究が進められた. 高血圧に関する著書が発行された. 神経内科学においては, 認知障害および脳血流に関する著書, 学会発表が数多くなされた. これらについての講演もあった. 腎臓病学においては, 血液浄化療法を中心とした研究がなされ, なかでも血液透析が循環動態や不整脈に与える影響についての研究が継続的に行われている. また, いわゆる血液透析のみではなく, LDLアフェレシスなどについての研究も引き続きなされた.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Mishina M<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Kitamura K, Kimura Y<sup>1)</sup>, Kawamura K<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Sakayori O<sup>1)</sup>, Hamamoto M<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y: Fuction of sigma1 receptors in Parkinson ' s disease. Acta Neurologica Scandinavica 2005; 112 (2): 103-107.

##### (2) 綜説:

- 1) 北村 伸: 痴呆と未病. 老人病研究所紀要 2005; 14 (1): 22-26.
- 2) 北村 伸: アルツハイマー病における血管因子の関与. 脳と循環 2005; 10 (2): 109-112.
- 3) 北村 伸, 劉 春玲: SPECTによる神経疾患診断. Mebio 2005; 22 (8): 88-94.
- 4) 北村 伸: II画像診断 2. 老年痴呆の画像診断 (SPECTを中心に). 日本内科学会誌 2005; 94 (8): 1513-1520.
- 5) 北村 伸: アルツハイマー病経過と予後, 死因. Modenn Physician 2005; 25 (9): 1138-1141.

#### 著書

- 1) 宗像一雄, 石川辰雄<sup>1)</sup>, 武田信彬<sup>2)</sup>, 上原誉志夫<sup>3)</sup>, 大林完二<sup>4)</sup>, 城所功文<sup>5)</sup>, 澤井廣量<sup>6)</sup>, 中川陽之<sup>7)</sup>, 山上恵一<sup>8)</sup>, 渡辺尚彦<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup> 石川循環器クリニック, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学青戸病院, <sup>3)</sup> 東京大学保健センター, <sup>4)</sup> 大林内科医院, <sup>5)</sup> 城所医院, <sup>6)</sup> 寺田病院, <sup>7)</sup> 中川医院/昭和大学第三内科, <sup>8)</sup> 恵仁堂医院, <sup>9)</sup> 早稲田大学スボ

ーツ科学学術院/東京女子医科大学付属第二病院):〔分担〕最近,急に発汗,手の震え,動悸などの症状が出て,頭痛もします.高血圧が心配で来ました.患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療,2005; pp237-240,南山堂.

- 2) 宗像一雄,石川辰雄,武田信彬,上原誉志夫,大林完二,城所功文,澤井廣量,中川陽之,山上恵一,渡辺尚彦<sup>1)</sup>石川循環器クリニック,<sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学青戸病院,<sup>3)</sup>東京大学保健センター,<sup>4)</sup>大林内科医院,<sup>5)</sup>城所医院,<sup>6)</sup>寺田病院,<sup>7)</sup>中川医院/昭和大学第三内科,<sup>8)</sup>恵仁堂医院,<sup>9)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院/東京女子医科大学付属第二病院):〔分担〕先生のところでは高血圧の治療中ですが,先週,妊娠していることがわかりました.降圧薬はこのまま服用してもよいでしょうか.患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療,2005; pp253-255,南山堂.
- 3) 宗像一雄,石川辰雄,武田信彬,上原誉志夫,大林完二,城所功文,澤井廣量,中川陽之,山上恵一,渡辺尚彦<sup>1)</sup>石川循環器クリニック,<sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学青戸病院,<sup>3)</sup>東京大学保健センター,<sup>4)</sup>大林内科医院,<sup>5)</sup>城所医院,<sup>6)</sup>寺田病院,<sup>7)</sup>中川医院/昭和大学第三内科,<sup>8)</sup>恵仁堂医院,<sup>9)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院/東京女子医科大学付属第二病院):〔分担〕以前から少し血圧が高いと言われていますが,最近,肥ってきたせいか,仕事中,会議中でも眠くなってしまいます.妻から夜間にいびきをかき時々呼吸が止まるようだとされています.例の睡眠時無呼吸症候群ではないかと心配で来ました.患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療,2005; pp263-267,南山堂.
- 4) 酒井行直,大野 大,大塚智之,村澤恒男,黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部):〔分担〕周術期,外傷(脳疾患患者を含む)に対する血液浄化.救急・集中治療 急性血液浄化法徹底ガイド(篠崎正博・秋澤忠男),2006; pp164-166,総合医学社.
- 5) 長嶋紀一<sup>1)</sup>,北村 伸(<sup>1)</sup>認知症介護研究センター):〔分担〕認知症の人の疾患と健康管理.認知症介護の基本,2006; pp30-38,中央法規出版.
- 6) 上島国利<sup>1)</sup>,三村 将<sup>2)</sup>,中込和幸<sup>3)</sup>,平島奈津子<sup>1)</sup>,北村 伸(<sup>1)</sup>昭和大学,<sup>2)</sup>昭和大学精神医学,<sup>3)</sup>鳥取大学統合内科):〔分担〕コリン作動薬は中核症状の進行をどのくらい遅らせることができるか?.EBM精神疾患の治療2006-2007,2006; pp327-332,中外医学社.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演:

- 1) 北村 伸:痴呆疾患の脳画像所見.第20回日本老年精神医学会総会,2005.6.

##### (2) 一般講演:

- 1) Takahashi N, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Iwahara S<sup>2)</sup>, Tetsuka S, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Uchida T, Hoshino K, Munakata K (<sup>1)</sup>Department of Radiology, 2nd Hospital NMS, <sup>2)</sup>Minamimachida Hospital): The Correlation between Regional Systolic-diastolic Functions Assessed by a Novel Program "cardioGRAF" and BNP in Patients with Non-ischemic CHF. 第9回日本心不全学会学術集会,2005.10.
- 2) Takahashi N, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Tezuka S, Hanaoka D, Ishikawa M, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Uchida T, Hoshino K, Ohsaka M<sup>2)</sup>, Munakata K (<sup>1)</sup>Department of Radiology, 2nd Hospital NMS, <sup>2)</sup>Institute of Gerontology, 2nd Hospital NMS): The Role of Diastolic Dyssynchrony Assessed by a Novel Program "cardioGRAF" for Tc99m-sestamibi-gated-SPECT in the Development of Congestive Heart Failure. 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会,2006.3.
- 3) 村澤恒男,酒井行直,網谷賢一,宗像一雄:維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersionの変動:不整脈基質への関与.第48回日本腎臓学会学術総会,2005.6.
- 4) 村澤恒男,酒井行直,小野卓哉<sup>1)</sup>,伊佐治剛,網谷賢一,原田英博,宗像一雄(<sup>1)</sup>内科学第1):維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersionの変動:両者の関連性.第50回(社)日本透析医学会学

術集会・総会，2005．6．

- 5) 網谷賢一，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄，尾崎 傑<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，市川 匠<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：維持透析患者の心室性不整脈と血液透析前後の細胞内外水分量変化，ANP，BNP，との関連について．第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 6) 磯雄友昭<sup>1)</sup>，尾崎 傑<sup>1)</sup>，市川 匠<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，大野 大，網谷賢一，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：難治性ネフローゼ症候群に対する二種類のLDLアフェレーシスによる治療効果の検討：第二報．第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 7) 尾崎 傑<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，市川 匠<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，大野 大，網谷賢一，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：ポリアーテルスルホンダイアライザー PES-150DSの性能評価．第50回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 8) 山本 彰<sup>1)</sup>， 橋直人，宗像一雄，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院放射線科)：cardioGRAFを用いた左室局所壁運動評価におけるフーリエ級数の影響について：心臓超音波検査との比較検討．第45回日本核医学総会，2005．11．
- 9) 山本 彰<sup>1)</sup>， 橋直人，宗像一雄，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院放射線科)：cardioGRAFを用いた左室局所壁運動評価におけるフーリエ級数の影響について：心プールシンチとの比較検討．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 10) 大塚智之，高橋直人，今城俊浩，南 史朗，宗像一雄：CA125の異常高値を示した Basedow 病クリーゼの1例．第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2006．3．

## [ 多摩永山病院内科，循環器内科 ]

### 研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが，多摩地区の中隔病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている．臨床研究が主体となるが，実験的研究にも積極的に従事している．

- 1) 虚血性心疾患に関して，経皮的カテーテルインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究.
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断，治療に関する研究.
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究：特に発作性心房細動例におけるアンギオテンシン受容体拮抗薬の効果に関する研究.
- 4) ブルガダ症候群に関連した全国的な多施設共同研究.
- 5) 抗不整脈薬の全国規模臨床治験への参加.
- 6) 高血圧症，糖尿病例における心臓超音波検査所見に関する研究.
- 7) 糖尿病例に対する外来インスリン導入に関する研究.
- 8) メタボリックシンドローム例における血糖降下薬・アンギオテンシン受容体拮抗薬の効果，抗炎症作用，抗動脈硬化作用に関する研究.
- 9) 救急疾患に対する各種血液マーカーに関する研究.
- 10) J-TRACE, J-CARE-CARDなどの日本循環器学会認定多施設共同研究への参加. など

上記の循環器領域における虚血，不整脈，メタボリックシンドロームといった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている．また，当院薬剤部との協力により慢性肺疾患，心疾患患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Itoh A<sup>1)</sup>, Ibuki C, Suzuki T, Atarashi H, Kishida H, Ogata H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pharmaceutical Services, <sup>2)</sup>Meiji Pharmaceutical University): Fast fourier transform (FFT) analysis of the effects of epalrestat, an aldose reductase inhibitor, on autonomic function in diabetic patients. *Auto Nerv Syst* 2005; 42: 153-161.
- 2) Tang XL, Takano H, Xuan YT, Sato H, Kodani E, Dawn B, Zhu Y, Shirk G, Wu WJ, Bolli R: Hypercholesterolemia Abrogates Late Preconditioning via a Tetrahydrobiopterin-Dependent Mechanism in Conscious Rabbits. *Circulation* 2005; 112 (13): 2149-2156.
- 3) Yoshida H, Kusama Y, Kodani E, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>: Pharmacological Preconditioning with Bradykinin Affords Myocardial Protection Through NO-dependent Mechanisms. *Int Heart J* 2005; 46 (5): 877-887.
- 4) Fukushima M, Seino Y<sup>1)</sup>, Kumita S, Nakajo H, Cho K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): Dual-isotope myocardial SPECT in patients with redefined myocardial infarction. *Int J Cardiol* 2005; 30 (104): 204-212.
- 5) Yoshida H, Kusama Y, Kodani E, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Pharmacological Preconditioning With Bradykinin Affords Myocardial Protection Through NO-dependent Mechanisms. *International Heart Journal* 2005; 46 (5): 877-887.
- 6) Song CJ<sup>1)</sup>, Nakagomi A, Chandar S<sup>2)</sup>, Cai H<sup>1)</sup>, Lim IGS<sup>3)</sup>, Mcneil HP<sup>3)</sup>, Freedman SB<sup>2)</sup>, Geczy CL<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>School of Medical Sciences, The University of New South Wales, <sup>2)</sup>Department of Cardiology, Concord Hospital and Vascular Biology Laboratory, Anzac Research Institute, University of Sydney, <sup>3)</sup>Department of Rheumatology, Prince of Wales Hospital, The University of New South Wales): C-reactive protein contributes to the hypercoagulable state in coronary artery disease. *Journal of Thrombosis and Haemostasis* 2005; 3: 1-10.
- 7) Otsuka T<sup>1)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup>, Katsumata M<sup>1)</sup>, Ibuki C(<sup>1)</sup>Environmental Medicine, Graduate School of Medicine): Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population. *Cir J* 2006; 70 (3): 304-310.
- 8) Otsuka T, Ibuki C, Suzuki T, Ishii K, Kodani E, Atarashi H, Kishida H, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a Rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris. *Circ J* 2006; 70 (4): 402-408.
- 9) Yamanaka H, Suzuki T, Kishida H, Nagasawa K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): Relationship Between the Mismatch of <sup>123</sup>I-BMIPP and <sup>201</sup>Tl Myocardial Single-Photon Emission Computed Tomography and Autonomic Nervous System Activity in Patients With Acute Myocardial Infarction. *International Heart Journal* 2006; 47 (2): 193-207.
- 10) 緒方憲一, 新 博次, 篠田暁与, 井上 博<sup>1)</sup>, 相澤義房(<sup>1)</sup>富山大学医学部第二内科, <sup>2)</sup>新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器分野): ビルジカイニド静注によるBrugada型心電図誘発試験: 不完全右脚ブロック症例における検討. *心電図* 2006; 26 (2): 153-161.
- 11) 小谷英太郎, 大塚俊昭, 石井健輔, 吉田博史, 時田祐吉, 宮地秀樹, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 有意狭窄のない冠動脈における冠攣縮性と冠予備能: アセチルコリン負荷試験の影響. *冠疾患誌* 2006; 12 (1): 17-23.

## (2) 綜説：

- 1) 新 博次：不整脈の治療薬．ハートナーシング 2005；18(2)：178-182．
- 2) 福島正人，清野精彦：心疾患（心不全）患者の感染症．MEDICAL DIGEST 2005；54(5)：23-31．
- 3) 新 博次：洞調律化あるいは維持のための抗不整脈薬の使い方．日本医事新報 2005；4231：22-26．
- 4) 新 博次：Brugada症候群．日本臨床 2005；63(7)：1190-1194．
- 5) 新 博次：患者背景からみた心房細動の薬物治療．循環器科 2005；58(3)：302-307．
- 6) 福島正人，小川晃生，清野精彦：血液生化学検査：トロポニンミオグロビン，ミオシン軽鎖，心筋型脂肪酸結合蛋白．Medicina 2005；42(12)：182-184．
- 7) 石井健輔，新 博次：薬剤の電気生理学的作用：I群薬．Heart View 2005；9(12)：209-211．
- 8) 新 博次：右脚ブロックの臨床的意義と軸偏位の診断．日本医事新報 2006；4263：108-109．
- 9) 新 博次：不整脈治療の原則．日本内科学会誌 2006；95(2)：228-233．
- 10) 篠田暁与：心房細動の治療としての適応を考える．クリニカルプラクティス 2006；25(2)：20-25．

## 著 書

- 1) 新 博次：〔追加分担〕不整脈．内科学レビュー2005（酒井 紀，早川弘一，西崎 統，小林祥泰，福井次矢監修），2005；pp39-43，総合医学社．
- 2) 新 博次：〔分担〕第1章 期外収縮・発作性頻拍の概念・定義と疫学：疫学．新しい診断と治療のABC「期外収縮・発作性頻拍」（井上 博），2005；pp17-23，最新医学社．
- 3) 新 博次：〔分担〕ガイドラインを治療にどう活用するか．新目でみる循環器病シリーズ「不整脈」（小川 聡編），2005；pp224-232，メジカルビュー社．
- 4) 小林義典，新 博次：〔分担〕心房中隔欠損．新目でみる循環器病シリーズ「先天性心疾患」（丹羽公一郎，中澤 誠編），2005；pp254-260，メジカルビュー社．
- 5) 新 博次：〔分担〕Naチャンネル遮断薬の使い方．新目でみる循環器病シリーズ「循環器病の薬物療法」（斎藤宗靖編），2006；pp165-171，メジカルビュー社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 新 博次：Brugada症候群とICD治療．第5回ICD公開研究会学術集会，2005．11．

### (2) 一般講演：

- 1) Tokita Y, Kusama Y, Shinoda A, Suzuki H, Okada K, Munakata R, Fukushima M, Ishii K, Yoshida H, Satoh W, Matsumoto S, Ogata K, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Ibuki C, Atarashi H, Takano T: Utility of Rapid D-dimer Measurement for Screening of Acute Cardiovascular Disease in Emergency Setting. 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会，2006．3．
- 2) Munakata R, Nakagomi A, Tokita Y, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Yasutake M, Kusama Y, Takayama M, Atarashi H, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine): Metabolic Syndrome Increases Atherosclerotic Plaque Burden and Cardiac Events Associated with Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes. 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会，2006．3．
- 3) Tokita Y, Kusama Y, Shinoda A, Suzuki H, Okada K, Munakata R, Fukushima M, Ishii K, Yoshida H, Satoh W, Matsumoto S, Ogata K, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Ibuki C, Atarashi H: Utility of Rapid D-dimer Measurement for Screening of Acute Cardiovascular Disease in Emergency Setting. 第70回日本循環器学会総会・学術集会，2006．3．
- 4) Nakagomi A, Seino Y<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Kusama Y,



- Atarashi H , Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-Reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure . 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 5) Okada K , Kurita A<sup>1)</sup>, Horiguchi Y<sup>1)</sup>, Takase B<sup>2)</sup>, Kusama Y , Atarashi H (<sup>1)</sup>Sanai Hospital , <sup>2)</sup>National Defense Medical College Research Institute ): Music Therapy is Useful for Cardiac Autonomic Nerve Functions in Octogenarian Patients With Cerebral Vascular Disorders, Dementia and Heart Failure . 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 6) Ogata K , Shinoda A , Okada K , Satoh W , Matsumoto S , Tadera T , Kusama Y , Atarashi H : Importance of RAS Inhibition in the Management of Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients with Metabolic Syndrome . 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 7) Nakagomi A , Munakata R , Tokita Y , Yamamoto E<sup>1)</sup>, Kamiya M<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Kusama Y , Takayama M<sup>1)</sup>, Atarashi H , Takano T (<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Statin Therapy Reduces Atherosclerotic Plaque Burden and Improves Prognosis in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第70回日本循環器学会, 2006 . 3 .
- 8) Maruyama M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Tateoka K<sup>1)</sup>, Taniguchi H<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Yashima M<sup>1)</sup>, Hiroshima Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Miyamoto S , Tadera T , Ino T (<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Mapping-guided Ablation of the Cavotricuspid Isthmus : A Novel Simplified Approach for Radiofrequency Catheter Ablation of Isthmus-dependent Atrial Flutter . 第70回日本循環器学会・学術集会, 2006 . 3 .
- 9) Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Nakagomi A , Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Murata H<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Ogano M<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Tateoka K<sup>1)</sup>, Taniguchi H<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Amiodarone Attenuates Monocyte Chemokine Production and Improves Cardiac Function in Patients with Idiopathic Dilated Cardiomyopathy and Ventricular Tachycardia . 第70回日本循環器学会・学術集会, 2006 . 3 .
- 10) 佐藤 越, 石井健輔, 宮本新次郎, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 甲状腺中毒症における心電図所見の検討 . 第102回日本内科学会講演会, 2005 . 4 .
- 11) 吉田博史, 鈴木浩臣, 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 右冠動脈血管蛇行病変に Heartrail 5Fr を使用した1例 . 第22回多摩地区虚血性心疾患研究会, 2005 . 6 .
- 12) 佐藤 越, 緒方憲一, 草間芳樹, 新 博次: 当院内科外来通院中の高齢者甲状腺機能異常例とその臨床的背景の検討 . 第47回日本老年医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 13) 吉田博史, 雪吹周生, 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 右冠動脈蛇行病変へのステントバルーン到達難を生じたPCIの1例: インナーガイドカテの功罪 . 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005 . 8 .
- 14) 大塚俊明<sup>1)</sup>, 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次(<sup>1)</sup>衛生学・公衆衛生学) 指尖容積加速度脈波による冠動脈疾患リスク判定の試み: 地域健康診断における横断研究 . 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005 . 9 .
- 15) 時田祐吉, 岡田 薫, 宮地秀樹, 松本 真, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 本間 博<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 新 博次(<sup>1)</sup>内科学第1): 救急外来での急性心血管の初期診断における D-dimer 迅速測定の有用性 . 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005 . 9 .
- 16) 中込明裕, 清野精彦<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 遠藤康実, 草間芳樹, 高山守正<sup>1)</sup>, 新 博次, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): スタチンは慢性心不全において心筋トロポニンTを低下させ, 心機能, 予後を改善させる . 第53回日本心

臓病学会学術集会，2005．9．

- 17) 岡田 薫，石井健輔，宮地秀樹，時田祐吉，小谷英太郎，田寺 長，雪吹周生，草間芳樹，新 博次，菅野重人<sup>1)</sup>，新田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 大動脈弁逸脱症に対して弁置換術を施行した1例．第197回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．10．
- 18) 福島正人，與田小百合，吉田博史，石井健輔，佐藤 越，緒方憲一，小谷英太郎，田寺 長，雪吹周生，草間芳樹，新 博次：高血圧，糖尿病例における左室弛緩障害の検討．第42回日本臨床生理学会総会，2005．10．
- 19) 宮内靖史<sup>1)</sup>，堀江 格<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，丸山光紀<sup>1)</sup>，岩崎雄樹<sup>1)</sup>，林 明聰<sup>1)</sup>，谷口宏史<sup>1)</sup>，平澤泰宏<sup>1)</sup>，上野亮<sup>1)</sup>，岡崎怜子<sup>1)</sup>，山本哲平<sup>1)</sup>，村田広茂<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，新 博次(<sup>1)</sup>内科学第1): 冠静脈洞近位起源アデノシン感受性心房頻拍の特徴とカテーテル・アブレーション．第17回カテーテル・アブレーション委員会公開研究会，2005．10．
- 20) 小谷英太郎，松本 真，鈴木浩臣，加藤活人，宗像 亮，時田祐吉，吉田博史，石井健輔，中込明裕，雪吹周生，草間芳樹，新 博次：偽性偽性副甲状腺機能低下症にともなった急性心筋梗塞の1例．第23回多摩虚血性心疾患研究会，2005．11．
- 21) 篠田暁与，草間芳樹，與田小百合，緒方憲一，小谷英太郎，田寺 長，中込明裕，雪吹周生，新 博次：高血圧症患者における左室拡張機能障害の検討：降圧薬との関連．第26回日本臨床薬理学会年会，2005．12．
- 22) 小谷英太郎，田寺 長，雪吹周生，草間芳樹，新 博次：一年を経て顕性化した感染経路不明の原発性細菌性心外膜炎の1例．第198回日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．12．
- 23) 福島正人，篠田暁与，宗像 亮，緒方憲一，小谷英太郎，田寺 長，雪吹周生，草間芳樹，長澤紘一<sup>1)</sup>，新博次(<sup>1)</sup>長澤医院): 成人脚ブロック患者における背景疾患と心臓超音波所見の特徴．第40回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会，2006．1．

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ( 神経内科 , 腎臓内科 ) ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります。

実験的研究では免疫抑制薬、フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護効果やそれらの治療薬や治療法の抗アポトーシス・アポトーシス誘導遺伝子への影響について検討を行っている。さらに、脳虚血モデルにて脳保護蛋白の導入による治療や骨髄幹細胞移植による再生医療も試みている。また、近年、抗高脂血症薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが、我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット (SHRSP) を用いてその予防効果について検討しており、興味ある知見を得つつある。

臨床的には、SCU (Stroke Care Unit) が設立され、脳卒中急性期の超早期診断・治療に取り組んでおり、MRI を用いた Diffusion, Perfusion W. I. による診断法の開発に力を注いでいる。その他、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT 等の画像診断機器を利用した研究を活発に行なっている。

腎臓内科では、従来から行なわれてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割や ARB およびスタチンの投与の影響についても研究を進めている。

また、腎クリニックや千葉北総病院内科および脳卒中センター (SCU) に教室員の派遣を行い、各施設での診療および研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2004 年度追加分 ]

##### (1) 原著 :

- 1) Okada T, Caplen NJ, Ramsey WJ, Onodera M, Shimazaki K, Nomoto T, Ajalli R, Wildner O, Morris J, Kume A, Hamada H, Blaese Rm, Ozawa K : In situ generation of pseudotyped retroviral progeny by adenovirus-mediated transduction of tumor cells enhances the killing effect of HSV-tk suicide gene therapy in vitro and in vivo . J Gene Med 2004 ; 6 ( 3 ) : 288-299 .
- 2) Yoshioka T, Okada T, Maeda I, Ikeda U, Shimpo M, Nomoto T, Takeuchi K, Nonaka-Sarukawa M, Ito T, Takahashi M, Matsushita T, Mizukami H, Hanazono Y, Kume A, Ookawara S, Kawano M, Ishibashi S, Shimada K, Ozawa K : Adeno-associated virus vector-mediated interleukin-10 gene transfer inhibits atherosclerosis in apolipoprotein E-deficient mice . Gene Ther 2004 ; 11 ( 24 ) : 1772-1779 .
- 3) 加藤丈夫, 清水 博, 黒川克朗, 野本達也, 瀬田健博, 亀井徹正, 伊東 稔, 柄沢 繁, 木村英紀, 田川朝子 : スギヒラタケ摂食後に腎不全患者に多発した脳症 : 10 症例の臨床的検討 . 脳と神経 2004 ; 56 ( 12 ) : 999-1007 .

##### (1) 原著 :

- 1) Mishina M, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Kitamura S, Kimura Y<sup>1)</sup>, Kawamura K<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Sakayori O, Hamamoto M, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup> 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ) : Function of signa1 receptors in Parkinson's disease .

- Acta Neurol Scand 2005 ; 112 ( 2 ): 103-107 .
- 2) Mishina M , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Fukuchi T , Kobayashi S<sup>2)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ , <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ): [ 11C ] TMSX PET によるアデノシン A2A 受容体分布の測定 . 脳循環代謝 2005 ; 17 ( 1 ): 79-80 .
  - 3) Yamazaki M , Esumi E<sup>1)</sup> , Nakano I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京多摩病院 , <sup>2)</sup> 自治医科大学 神経内科 ): Is motor neuronal cell death in amyotrophic lateral sclerosis apoptosis ? . Neuropathology 2005 ; 25 ( 4 ): 381-387 .
  - 4) Amemiya S , Kamiya T , Nito C , Inaba T , Kato K , Ueda M , Shimazaki K<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 自治医科大学生理学教室 ): Anti-apoptotic and neuroprotective effects of edaravone following focal ischemia in rats . Eur J Pharmacol 2005 ; 516 ( 5 ): 125-130 .
  - 5) Tanaka N , Utsumi K , Seta T , Usuda K , Komaba Y , Katsumata T , Katsura K , Sakamoto S , Katayama Y : Recurrent strokes in a young adult patient with Fabry ' s disease . Eur. J. Neurol 2005 ; 12 ( 6 ): 486-489 .
  - 6) Komaba Y , Senda M<sup>1)</sup> , Mishina M , Utsumi K , Ishii K<sup>2)</sup> , Katayama Y : Positron-emission tomography of dopaminergic system in anoxic encephalopathy with chorea . 脳循環代謝 2005 ; 17 ( 2 ): 111-116 .
  - 7) Nakamura H , Katsumata T , Nishiyama Y , Otori T , Katsura K , Katayama Y : Effect of ischemic preconditioning on cerebral blood flow after subsequent lethal ischemia in gerbils . Life Sci 2005 ; 78 ( 15 ): 1713-1719 .
  - 8) Mishina M , Komaba Y , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Tanaka N , Kominami S<sup>1)</sup> , Fukuchi T , Mizunari T<sup>1)</sup> , Hamamoto M , Teramoto A<sup>2)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター , <sup>2)</sup> 脳神経外科学 ): Efficacy of Edaravone, a Free Radical Scavenger, for the Treatment of Acute Lacunar Infarction . Neurol Med Chir ( Tokyo ) 2005 ; 45 ( 7 ): 342-346 .
  - 9) Ueda M , Nowak TS JR<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology University of Tennessee Health Science Center ): Protective preconditioning by transient global : ischemia in the rat : components of delayed injury progression and lasting protection distinguished by comparisons of depolarization thresholds for cell loss at long survival times . J Cereb Blood Flow Metab. 2005 ; 25 ( 8 ): 949-958 .
  - 10) Kanda Y<sup>1)</sup> , Katsura K , Hisayasu S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): Milk Growth factor ( MGF ) -induced differentiation of NT2/D1 cells . Neurosci Lett 2005 ; 384 ( 3 ): 260-264 .
  - 11) Miyasaka T , Watanabe A , Saito Y , Murayama S , David M. A. M , Yamazaki M , Rivka R , Morishima-Kawashima M , Nagashima K , Ihara Y : Visualization of newly deposited tau in neurofibrillary tangles and neuropil threads . J Neuropathol Exp Neurol 2005 ; 64 ( 8 ): 665-674 .
  - 12) Mizukoshi G , Katsura K , Katayama Y : Urinary 8-Hydroxy-2 ' -deoxy guanosine and serum S100B in acute cardioembolic stroke patients . Neurol. Res 2005 ; 27 ( 6 ): 644-646 .
  - 13) Seta T , Nagayama H , Katsura K , Hamamoto M , Araki T<sup>1)</sup> , Yokochi M<sup>2)</sup> , Utsumi K , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 埼玉県川口市立医療センター神経内科 , <sup>2)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): Factors influencing outcome in Guillain-Barré Syndrome : comparison of plasma adsorption against other treatments . Clin Neurol Neurosurg 2005 ; 107 ( 6 ): 491-496 .
  - 14) Liu Y , Okada T , Sheykhleslami K , Shimazaki K , Nomoto T , Muramatsu S , Kanazawa T , Takeuchi K , Ajalli R , Mizukami H , Kume A , Ichimura K , Ozawa K : Specific and efficient transduction of Cochlear inner hair cells with recombinant adeno-associated virus type 3 vector . Mol Ther. 2005 ; 12 ( 4 ): 725-733 .
  - 15) Okada T , Nomoto T , Yoshioka T , Nonaka-Sarykawa M , Ito T , Ogura T , Iwata-Okada M , Uchibori R , Shimazaki K , Mizukami H , Kume A , Ozawa K : 2. Large-scale production of recombinant viruses by use of a large culture vessel with active gassing . Hum Gene Ther. 2005 ; 16 ( 10 ): 1212-1218 .

- 16) Utsumi K , Mitsuhashi F<sup>1)</sup> , Asahi K<sup>2)</sup> , Sakurazawa M , Arii K , Komaba Y , Katsumata T , Katsura K , Kase R<sup>3)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>Department of Clinical Laboratory NMS , <sup>2)</sup>Third Department of Internal Medicine, Fukushima Medical University , <sup>3)</sup>Department of Clinical Genetics, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science ): Enzyme replacement therapy for Fabry disease : Morphologic and Histochemical changes in the urinary sediments . Clin Chim Acta 2005 ; 360 ( 1-2 ): 103-107 .
- 17) Yamazaki M , Hasegawa M , Mori O , Murayama S , Tsuchiya K , Ikeda K , Katayama Y , Oyamagi K : Tau-positive fine granules in the cerebral white matter : a novel finding exclusive to parkinsonism-dementia complex of Guam among the tauopathies . J Neuropathol Exp Neurol 2005 ; 64 ( 10 ): 839-846 .
- 18) Kato K , Shimazaki K , Kamiya T , Amemiya S , Inaba T , Oguro K , Katayama Y : Differential effects of sublethal ischemia and chemical preconditioning with 3-nitropropionic acid on protein expression in gerbil hippocampus . Life Sci 2005 ; 77 ( 23 ): 2867-2878 .
- 19) Kamiya T , Jacewicz M , Nowak TS JR , Pulsinelli WA : Cerebral blood flow thresholds for mRNA synthesis after focal ischemia and the effect of MK-801 . Stroke 2005 ; 36 ( 11 ): 2463-2467 .
- 20) Kamiya T , Nito C , Inaba T , Amemiya S , Kato K , Nishiyama Y , Suda S , Katayama Y : Cumulative neuroprotection by a combination of ozagrel sodium and edaravone against photochemical thrombotic ischemia in rats . 脳循環代謝 2005 ; 17 ( 4 ): 233-240 .
- 21) Yamamoto S , Lavelle JM , Vasgefi PA , Arakawa H , Samelson JE , Moran S , Teranishi K , Kamano C , Fishman J , Awwad M , Neville DM , Shimizu A , Sykes M , Sachs DH , Yamada K : Vascularized thymic lobe transplantation in a pig-to-baboon model : a novel strategy for xenogeneic tolerance induction and T-cell reconstitution . Transplantation 2005 ; 27 ( 80 ): 1783-1790 .
- 22) Hachiya NS , Ohkubo T , Kozuka Y , Yamazaki M , Mori O , Mizusawa H , Sakasegawa Y , Kaneko K : More than a 100-fold increase in immunoblot signals of laser-microdissected inclusion bodies with an excessive aggregation property by oligomeric actin interacting protein 2/d-lactate dehydrogenase protein 2 . Anal Biochem 2005 ; 347 ( 1 ): 106-111 .
- 23) Nobori S , Samelson-Jones E , Shimizu A , Hisashi Y , Yamamoto S , Kamano C , Teranishi K , Vagefi PA , Nuhn M , Okumi M , Wong B , Houser S , Sachs DH , Yamada K : Long-term acceptance of fully allogeneic cardiac grafts by cotransplantation of vascularized thymus in miniature swine . Transplantation 2006 ; 15 ( 81 ): 26-35 .
- 24) Suda S , Komaba Y , Kumagai T , Yamazaki M , Katsumata T , Kamiya T , Katayama Y : Progression of the olivopontocerebellar form of adrenoleukodystrophy as shown by MRI . Neurology 2006 ; 66 ( 1 ): 144-145 .
- 25) Nomoto T , Nagao T , Hirabayashi K<sup>1)</sup> , Seta T , Yokochi M<sup>2)</sup> , Katsura K , Katayama Y : Cerebral arteriopathy with extracranial artery involvement in a patient with ulcerative colitis . Neurological Sciences 2006 ; 243 ( 15 ): 87-89 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) Seino Y<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> , Fukumoto H<sup>2)</sup> , Utsumi K , Hirai Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): Cardiovascular manifestations of Fabry disease and the novel therapeutic strategies . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 254-261 .
- 2) 上田佳恵 , 藤田有子 , 木嶋祥一郎 , 水越元気 , 高田大輔 , 鎌野千佐子 , 金子朋広 , 内海甲一 , 勝又俊弥 , 桂研一郎 , 飯野靖彦 , 片山泰朗 : Churg-Strauss 症候群 . 日医大医会誌 2005 ; 1 ( 1 ): 21-25 .
- 3) 北村 伸 : 痴呆と未病 . 老人病研究所紀要 2005 ; 14 ( 1 ): 22-26 .
- 4) 片山泰朗 , 上田雅之 , 五十嵐博中<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>新潟大学脳研究所 ): ブレインアタック up date, Stroke MRI . Vasular

- Lab 2005 ; 2 ( 2 ): 179-185 .
- 5) 北村 伸 : アルツハイマー病における血管因子の関与 . 脳と循環 2005 ; 10 ( 2 ): 109-112 .
  - 6) 神谷達司, 片山泰朗 : 脳卒中の予防と治療 : 脳保護療法 . 日本医師会雑誌 2005 ; 133 ( 5 ): 643-647 .
  - 7) 三品雅洋, 駒場祐一, 田中伸幸, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 酒寄 修, 濱本 真, 寺本明<sup>2)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科 ): ラクナ梗塞におけるエダラボンの効果 : ロジスティック回帰分析を用いた検討 . Pharma Medica 2005 ; 23 ( 3 ): 193-193 .
  - 8) 上田雅之, 片山泰朗 : 「世界の医学誌から」脳卒中の予防にホルモン補充療法は勧められない-HRT とその後の脳卒中発症の関連 : メタアナリシス ( Bath PMW, GrayLJ. Association between hormone replacement therapy and subsequent stroke : a meta-analysis. BMJ 330 : 342-344, 2005 ). The Mainichi Medical Journal 2005 ; 1 ( 2 ): 128-129 .
  - 9) 藤田有子, 柏木哲也, 飯野靖彦 : 急性血液浄化法のすべて 酸塩基・電解質異常 . 腎と透析 増大号 2005 ; 58 ( 5 ): 554-560 .
  - 10) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): 脳梗塞患者に対する抗凝固療法のエビデンス . EBM ジャーナル 2005 ; 6 ( 5 ): 543-549 .
  - 11) 北村 伸, 劉 春玲 : SPECT による神経疾患診断 . Mebio 2005 ; 22 ( 8 ): 88-94 .
  - 12) 有井一正, 片山泰朗 : 虚血性脳疾患における抗血小板薬の適応と使いかたの実際 . Medical Practice 2005 ; 22 ( 9 ): 1593-1596 .
  - 13) 北村 伸 : アルツハイマー病経過と予後, 死因 . Modern Physician 2005 ; 25 ( 9 ): 1138-1141 .
  - 14) 桂研一郎, 片山泰朗 : 脳保護療法 . Molecular Medicine 2005 ; 42 ( 臨時 ): 455-459 .
  - 15) 長尾毅彦, 橋本洋一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 市立熊本市民病院神経内科 ): Stroke unit における治療の実際 . Medical Tribune 2005 ; ( 11 ): 56-57 .
  - 16) 柏木哲也, 大沢弘和, 飯野靖彦 : 電解質異常治療薬 . レジデントノート 2005 ; 7 ( 8 ): 1101-1107 .
  - 17) 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院診療放射線科 ): めまい, ふうつき, 頭痛 : 不定愁訴と画像診断 . 治療 2005 ; 87 ( 11 ): 2985-2990 .
  - 18) 長尾毅彦 : 脳卒中もしくは一過性脳虚血発作の既往をもつ非リウマチ性心房細動の症例の脳卒中予防に関する抗凝固療法と抗血小板療法の比較 . BRAIN RESCUE 2005 ; ( 12 ): 22-22 .
  - 19) 長尾毅彦, 尾花正義<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院リハビリテーション科 ): 脳梗塞 初期症状を見逃さない . 明日の友 2005 ; 159 ( 12 ): 20-33 .
  - 20) 臼田和弘, 片山泰朗 : 高齢者の頭痛 . 医学のあゆみ 2005 ; 215 ( 14 ): 1221-1228 .
  - 21) 新井裕至, 片山泰朗 : 特集 糖尿病と動脈硬化 その機序から診断と治療へ 糖尿病と脳血管障害 . 内分泌・糖尿病科 2006 ; 22 ( 1 ): 40-44 .
  - 22) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): 血栓溶解療法のためのトリアージ . Vascular Lab 2006 ; 3 ( 1 ): 35-38 .
  - 23) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): 急性期および慢性期における抗凝固薬の有用性と今後の展望 . 循環器科 2006 ; 59 ( 1 ): 63-66 .
  - 24) 高橋さやか, 高田大輔, 飯野靖彦 : I&Q の重要性 . 腎と透析 2006 ; 60 ( 1 ): 126-129 .
  - 25) 岡田尚巳, 野本達也, 吉岡 徹, 小澤敬也 : IL-10 発現 AAV ベクターを用いた心血管病変の遺伝子治療 . 最新医学 2006 ; 61 ( 2 ): 297-305 .
  - 26) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): CT か MRI か . Medicina 2006 ; 61 ( 2 ): 226-229 .
  - 27) 内海甲一 : Fabry 病 . 分子腎臓病学 2006 ; 64 ( 2 ): 537-540 .
  - 28) 片山泰朗 : 神経治療の未来 : 再生医療 . 神経治療学 2006 ; 23 ( 1 ): 1-5 .

(3) 症例報告:

- 1) 葉山修陽, 柏木哲也, 飯野靖彦: 極早期に発見し得た MPO-ANCA 関連腎炎の 1 例. 日本腎臓学会誌 2005; 47(5): 536-539.

著書

- 1) 長尾毅彦: [分担] 診療に影響を及ぼす問題点(全身). POSにおける歯科診療録の書き方, 2005; pp44-49, 医歯薬出版.
- 2) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院神経内科): [分担] 抗血小板療法・抗凝固療法・脳保護療法: その適応と移行. 脳卒中クリティカルパスと医療連携, 2005; pp88-95, メディカルレビュー社.
- 3) 北村 伸: [分担] コリン作動薬は中核症状の進行をどのくらい遅らせることができるか?. EBM精神疾患の治療2006-2007(上島国利, 三村 将, 中込和幸, 平島奈津子編), 2006; pp327-332, 中外医学社 東京.
- 4) 橋本和政, 片山泰朗: [分担] 透析患者の抗脳浮腫療法にグリセロールは使えるか?. ファーマナビゲーター脳卒中編(井林 雪郎), 2006; pp460-461, メディカルレビュー社.

学会発表

[2004 年度追加分]

(1) 一般講演:

- 1) 嶋貫久美子<sup>1)</sup>, 藤木美幸<sup>1)</sup>, 中原貴子<sup>1)</sup>, 森下純子<sup>1)</sup>, 村上奈美子<sup>1)</sup>, 小林真紀子<sup>1)</sup>, 村岡有紀<sup>1)</sup>, 河辺満彦<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup>駒込共立クリニック, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2非常勤講師): 外来透析看護師とケアマネージャーの連携. 第33回東京透析懇談会, 2005. 2.

(1) 特別講演:

- 1) 片山泰朗: 高齢脳血管障害患者の包括的アプローチ「後遺症, 特に脳卒中後うつ(PSD)対策について」. 第47回日本老年医学会学術集会ランチョンセミナー8, 2005. 6.
- 2) 片山泰朗: 脳梗塞急性期の最新治療. 第2回山口県脳卒中ネットワーク学術講演会, 2005. 7.

(2) 教育講演:

- 1) 神谷達司, 片山泰朗: 合同シンポジウム2 最先端科学と脳卒中医療: 分子生物学から生体神経移植まで. 脳卒中における急性期脳保護療法: 現在と将来. Neuroprotective Strategies in Stroke -Now and Future-. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005. 4.
- 2) 北村 伸: 痴呆疾患の脳画像所見. 第20回日本老年精神医学会総会, 2005. 6.

(3) シンポジウム:

- 1) Oyanagi K<sup>1)</sup>, Yamazaki M (<sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所神経病理): Tau-positive fine granules and glanular hazy astrocytes in ALS/PDC. NIH Neurodegenerative disorders on Guam & in the Pacific Regions Symposium (Guam, USA), 2005. 12.
- 2) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院神経内科): 心原性脳塞栓症の1次, 2次予防. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005. 4.
- 3) 桂研一郎, 片山泰朗: 高血糖による虚血性神経細胞障害憎悪のメカニズム. 第48回糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 4) 加藤健吾, 神谷達司, 上田雅之, 雨宮志門, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗: RAT局所脳虚血モデルにおける骨髓幹細胞の投与方法による分布と脳保護効果. 第31回日本脳卒中学会 合同シンポジウム5, 2006. 3.
- 5) 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup>, 元良健一<sup>1)</sup>, 新井健史<sup>1)</sup>, 吉澤 寿<sup>1)</sup>, 小林美紀<sup>2)</sup>, 有馬留志, 石川みずき<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>都立荏原病院放射線科, <sup>2)</sup>同神経内科): 脳梗塞急性期におけるSWI (Susceptibility Weighted Image) の有用性. 第31回日本脳卒中学会総会 合同シンポジウム1, 2006. 3.

(4) ランチョンセミナー :

1) 飯野靖彦 : 酸塩基平衡障害の読み方と治療法の違い . 第33回日本集中治療医学会学術集会 , 2006 . 3 .

(5) 一般講演 :

- 1) Mishina M , Ishii K<sup>1)</sup> , Kitamura S , Suzuki M<sup>2)</sup> , Mitani K<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>3)</sup> , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ , <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学神経内科 , <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ) : Relationship between regional hypometabolism of glucose and subscores of mini mental state examination in Alzheimer's Disease . 11th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping ( Toronto, Canada ) , 2005 . 6 .
- 2) Ito T , Okada T , Miyashita H , Nomoto T , Maeda S , Sarukawa M , Shimpo M , Yoshioka T , Matsushita T , Mizukami H , Kume A , Yamamoto K , Ikeda U , Shimazaki K , Ozawa K : Protection of Monocrotaline-Induced Pulmonary Hypertension by Adeno-Associated Virus Vector-Mediated Interleukin-10 Expression . 8th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy ( St. Louis, USA ) , 2005 . 6 .
- 3) Sarukawa M , Okada T , Yoshioka T , Nomoto T , Ito T , Maeda Y , Shimpo M , Matsushita T , Mizukami H , Shimazaki K , Kume A , Yamamoto K , Ikeda U , Shimada K , Ozawa K : Intramuscular Administration of AAV Vector Expressing Interleukin-10 in Dahl Salt-Sensitive Rats Prevents the Development of Hypertensive Heart Disease . 8th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy ( St. Louis, USA ) , 2005 . 6 .
- 4) Liu Y , Okada T , Shimazaki K , Nomoto T , Sheykholslami K , Muramatsu S , Mizukami H , Kume A , Xiao S , Ichimura K , Ozawa K : Protection Against Aminoglycoside-Induced Ototoxicity by AAV Vector-Mediated GDNF Gene Transfer into the Cochlea . Society of Gene Therapy ( St. Louis, USA ) , 2005 . 6 .
- 5) Mishina M , Ishii K<sup>1)</sup> , Kitamura S , Suzuki M<sup>2)</sup> , Mitani K<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>3)</sup> , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ , <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学神経内科 , <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ) : Correlation Between Brain Dysfunction and Regional Hypometabolism of Glucose During Resting State in Alzheimer's Disease . The 52nd Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Toronto, Canada ) , 2005 . 6 .
- 6) Otori T , Katsumata T , Tanaka N , Nishiyama Y , Nakamura H , Katayama Y : Stroke protection by atorvastatin treatment in stroke-prone spontaneously hypertensive rats ( SHRSPs ): 2. Measurement of regional cerebral blood flow ( rCBF ) by autoradiography . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ) , 2005 . 6 .
- 7) Katsura K , Watanabe M , Takahashi K , Mori T<sup>1)</sup> , Igarashi H , Ohkubo S , Mizukoshi G , Asoh S<sup>2)</sup> , Ohta S<sup>2)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 埼玉大学総合医療センター , <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所生化学部門 ) : Time-lag combination therapy for cerebral ischemia using the FNK protein transduction technology and an immunosuppressant, I : in vivo study . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ) , 2005 . 6 .
- 8) Watanabe M , Katsura K , Mizukoshi G , Ohsawa I<sup>1)</sup> , Asoh S<sup>1)</sup> , Ohta S<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 老人病研究所生化学部門 ) : Time-lag combination therapy for cerebral ischemia using the FNK protein transduction technology and an immunosuppressant II : in vitro study . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ) , 2005 . 6 .
- 9) Mizukoshi G , Katsura K , Watanabe M , Katayama Y : Biochemical markers of acute ischemic stroke patients . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ) , 2005 . 6 .
- 10) Hagiwara H , Nakamura H , Igarashi H , Kamiya T , Katayama Y : Predicting the fate of acute ischemic lesion with CT-Perfusion . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function



- ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
- 11 ) Kamiya T , Nito C , Amemiya S , Ueda M , Kato K , Nishiyama Y , Suda S , Inaba T , Katayama Y : The Neuroprotective Effects of A Newly Synthesized Poly ( ADP-ribose ) polymerase ( PARP ) Inhibitor ( KCL-440 ) on Neuronal Cell Death Following Transient Focal Ischemia In Rats . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 12 ) Amemiya S , Kamiya T , Inaba T , Ueda M , Kato K , Nito C , Suda S , Nishiyama Y , Katayama Y : Neuroprotective and anti-apoptotic effects of FK506 following transient focal ischemia in rats . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 13 ) Kato K , Shimazaki K<sup>1)</sup> , Okada T , Uchibori R , Kamiya T , Inaba T , Nomoto T , Oguro K , Yokota H , Fujii H , Watanabe E , Ozawa K<sup>2)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>自治医科大学生理学講座神経脳生理学 , <sup>2)</sup>同遺伝子治療研究部分子病治療研究センター ): Neurogenesis and differentiation after domic acid induced nerodegeneration in adult rat hippocampus . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 14 ) Tanaka N , Katsumata T , Otori T , Nishiyama Y , Nakamura H , Katayama Y : Stroke protection by atrovastatin treatment in stroke-prone spontaneously hypertensive rats ( SHRSP ): 1. Rate of morbidity and dimethyl arginine ( ADMA ) . XXIIInd International symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain ' 05&Brain PET ' 05 )( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 15 ) Mishina M , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Kawamura K<sup>1)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>2)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ , <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ): Distribution of Adenosine A2A Receptors in Human Brain Using [C-11] TMSX PET . XXIIInd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & VIIth International Conference on Quantification of Brain Function with PET, ( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 16 ) Komaba Y , Mishina M , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター ): Ipsilateral Thalamic Diaschisis in Patients with Cortical Infarction : Logistic Regression Analysis . XXIIInd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & VIIth International Conference on Quantification of Brain Function with PET ( Amsterdam , The Netherlands ), 2005 . 6 .
  - 17 ) Usuda K , Sakamaki M , Arai Y , Ishiwata A , Arii K , Arii T , Fukuchi T , Komaba Y , Kitamura S , Katayama Y : A case of headache attributed to otitis media chronia cholestearomatic with cerebral sigmoid sinus thrombosis . 12th Congress of the International Headache Society ( Kyoto, Japan ), 2005 . 10 .
  - 18 ) Nagao T , Mizukoshi G , Ida M<sup>1)</sup> , Arima R , Okamura M , Katayama Y , Yokochi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都立荏原病院診療放射線科 , <sup>2)</sup>同神経内科 ): Vertebrobasilar Artery Dissection as a Cause of Occipital Headache . 12th Congress of the International Headache Society ( Kyoto, Japan ), 2005 . 10 .
  - 19 ) Suzuki M<sup>1)</sup> , Hashimoto M<sup>1)</sup> , Kunta A<sup>1)</sup> , Matsui K<sup>1)</sup> , Honda H<sup>1)</sup> , Inoue K<sup>1)</sup> , Mishina M , Kawasaki K<sup>2)</sup> , Urashima M<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科 , <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ ): Cardiac sympathetic and nigrostriatal function in early Lewy body disease : Comparison between Parkinson ' s disease and dementia with Lewy bodies . 2nd International Symposium on Dopaminergic and Nondopaminergic Mechanisms in Parkinson ' s Disease. ( Osaka, Japan ), 2005 . 11 .
  - 20 ) Hashimoto M<sup>1)</sup> , Kawasaki K<sup>2)</sup> , Suzuki M<sup>1)</sup> , Inoue K<sup>1)</sup> , Mitani K<sup>2)</sup> , Mishina M , Oda K<sup>2)</sup> , Kimura Y<sup>2)</sup> , Ishiwata K<sup>2)</sup> , Ishii K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京慈恵医科大学神経内科 , <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ ): The regional correlation of pre- and post-synaptic striatal dopaminergic function in multiple system at-

rophy -A PET study-. 2nd International Symposium on Dopaminergic and Nondopaminergic Mechanisms in Parkinson ' s Disease. ( Osaka, Japan ), 2005 . 11 .

- 21) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Katayama Y : Initial symptoms of Elderly Onset Parkinson ' s Disease . 2nd International Symposium on Dopaminergic and Nondopaminergic Mechanisms in Parkinson ' s Disease. ( Osaka, Japan ), 2005 . 11 .
- 22) Hashimoto M<sup>1)</sup>, Kawasaki K<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>2)</sup>, Mishina M , Oda K<sup>2)</sup>, Kimura Y<sup>2)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京慈恵医科大学神経内科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ): The regional correlation of pre- and post-synaptic striatal dopaminergic function in multiple system atrophy . Society For Neuroscience 35th Annual Meeting ( Washington, D. C. ), 2005 . 11 .
- 23) Sakurazawa M , Mizukoshi G , Hisamatsu M , Morishita T , Katsumata T , Katayama Y : The frequency of cerebral artery dissection in ischemic stroke ; A single institution study from a university hospital . The 12th Congress of the International Headache Society , 2005 . 11 .
- 24) Suzuki M<sup>1)</sup>, Kawasaki K<sup>2)</sup>, Kimura Y<sup>2)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Urashima M<sup>1)</sup>, Mishina M , Hashimoto M<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ): Visualized regional imbalance of striatal dopaminergic function in Parkinson ' s Disease . The 18th World congress of Neurology ( Sydney, Australia ), 2005 . 11 .
- 25) Nagayama H , Hamamoto M , Ueda M , Katayama Y : The effects of ascorbic for the treatment of levodopa in Elderly patients with Parkinson ' s Disease . 4th International Parkinson ' s Disease Symposium ( Takamatsu, Kagawa ), 2006 . 3 .
- 26) 内海甲一, 勝又俊弥, 桂研一郎, 飯野靖彦, 片山泰朗: Fabry 病の酵素補充療法の評価法 . 第 102 回日本内科学会総会, 2005 . 4 .
- 27) 大鳥達雄, 坂本静樹, 水村 直<sup>1)</sup>, 勝又俊弥, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗(<sup>1)</sup>放射線医学): 脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧, 自律神経および脳血流量に対する効果: 24 時間心電血圧計, 頭部 SPECT 3D-SSP 解析を用いた検討 . 第 102 回日本内科学会総会, 2005 . 4 .
- 28) 西山 穰, 勝又俊弥, 中村秀紀, 大鳥達雄, 田中紀子, 片山泰朗: 脳梗塞患者における Asymmetric dimethylarginine ( ADMA ) と頸動脈エコー上のパラメーター及び危険因子の検討 . 第 102 回日本内科学会総会, 2005 . 4 .
- 29) 坂本静樹, 山崎峰雄, 大鳥達雄, 片山泰朗: アルツハイマー型痴呆治療薬有効例の有効持続時間に関する検討 . 第 102 回日本内科学会総会, 2005 . 4 .
- 30) 田中紀子, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: SHRSP を用いた Atorvastatin の脳卒中予防効果に関する研究 第 1 報: 発生率, 生存率および脳血流について . 第 20 回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 31) 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 高橋久美子, 水越元気, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 静脈投与を可能とした FNK 蛋白と FK506 時間差併用投与の脳細胞保護効果 I : in vivo study . 第 30 回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 32) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 静脈投与を可能とした FNK 蛋白と FK506 時間差併用投与の脳細胞保護効果 II : in vitro study . 第 30 回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 33) 水越元気, 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 片山泰朗: 生化学マーカー 8OHDdG, S100 による脳梗塞の評価 . 第 30 回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 34) 西山 穰, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 中村秀紀, 片山泰朗: 脳梗塞患者の頸動脈エコー上のブラーク性状と血中脂質, 動脈硬化マーカーとの関連 . 第 30 回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 35) 神谷達司, 仁藤智香子, 雨宮志門, 上田雅之, 加藤健吾, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける PARP ( Poly ( ADP-ribose ) polymerase ) 阻害薬の神経保護効果の検討 . 第 30 回日本脳卒中

学会総会, 2005 . 4 .

- 36) 加藤健吾, 神谷達司, 上田雅之, 雨宮志門, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗: ドーモイ酸投与によるラット海馬の神経細胞死と細胞新生およびその分化. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 37) 三品雅洋, 成相 直<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 北村 伸, 福地孝明, 小林士郎<sup>3)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター ): 脳血管障害における[11C]flumazenil PETの応用に関する検討. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 38) 福地孝明, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター ): 当センターにおけるdural AVF症例の報告. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 39) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 田中紀子, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: SHRSPを用いたAtorvastatinの脳卒中予防効果に関する研究 第2報: Autoradiography法による局所脳血流の測定. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
- 40) 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 高橋久美子, 水越元気, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門 ): 蛋白導入ドメインを結合したFNK蛋白とFK506併用投与の脳細胞保護効果I: in vivo study. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 41) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門 ): 蛋白導入ドメインを結合したFNK蛋白とFK506併用投与の細胞保護効果II: in vitro study. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 42) 水越元気, 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 片山泰朗: 急性期脳梗塞における酸化ストレスマーカー; 8-hydroxy-2'-deoxyguanosineの検討. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 43) 石渡明子, 片山泰朗, DJ C<sup>1)</sup>, 蓑島 聡<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>ワシントン大学放射線科 ): 早期アルツハイマー病における脳代謝低下部位の広がり統計画像診断. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 44) 西山 穰, 勝又俊弥, 中村秀紀, 大鳥達雄, 田中紀子, 片山泰朗: 脳梗塞患者におけるSDMAと頸動脈エコー上のパラメーターとの関連. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 45) 野本達也, 岡田尚己<sup>1)</sup>, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 竹内公一<sup>1)</sup>, 吉岡 徹<sup>1)</sup>, 去川睦子<sup>1)</sup>, 桂研一郎, 片山泰朗, 小澤敬也<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>自治医科大学生理学教室 ): Interleukin-10を用いたSHR-SPに対する遺伝子治療の試み. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 46) 瀬田健博, 水村 直<sup>1)</sup>, 勝又俊弥, 西山 穰, 桂研一郎, 駒場祐一, 永山 寛, 坂本静樹, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科 ): ラクナ梗塞患者における頸動脈超音波所見と脳血流分布との関連についての検討. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 47) 福地孝明, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター ): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当脳神経センター過去10年間における6例の報告. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 48) 加藤丈夫, 川並 透, 黒川克朗, 野本達也, 亀井徹正, 吉野 英, 木村英紀, 田川朝子, 安藤志保里: スギヒラタケ摂食後に腎不全患者に多発した亜急性脳症. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 49) 坂本静樹, 山崎峰雄, 大鳥達雄, 片山泰朗: 抗痴呆薬有効例の有効持続時間に関する検討. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 50) 神谷達司, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 須田 智, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるPARP阻害薬の神経保護効果の検討. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 51) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター ): アルツハイマー病におけるMMSEの各課題と脳ブドウ糖代謝の関係. 第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .
- 52) 鈴木正彦<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>1)</sup>, 川崎敬一<sup>2)</sup>, 三谷和子<sup>2)</sup>, 三品雅洋, 浦島充佳<sup>3)</sup>, 井上聖啓<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京

- 慈恵会医科大学神経内科,<sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ,<sup>3)</sup>東京慈恵会医科大学臨床研究開発室): パーキンソン病線条体における節前・節後ドパミン神経機構の相関解析. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 53) 山崎峰雄, 崎山快夫<sup>1)</sup>, 斎藤祐子<sup>1)</sup>, 文村優一<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎昌子<sup>3)</sup>, 山之内博<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 村山繁雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所老化ゲノム,<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部,<sup>3)</sup>初石病院神経内科,<sup>4)</sup>東京都多摩北部医療センター神経内科): 進行性核上性麻痺では痴呆症状のみを呈するサブグループが存在する. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 54) 岡村正哉, 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東京都立荏原病院診療放射線科,<sup>2)</sup>同神経内科): 心房細動を伴う脳塞栓症急性期の心内血栓検索におけるマルチスライスCTの有用性. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 55) 五十嵐博中, 山口 博, 井田正博<sup>1)</sup>, 酒巻雅典, 水越元気, 大久保誠二, 長尾毅彦, 片山泰朗 (<sup>1)</sup>東京都立荏原病院診療放射線科): MRIを用いた急性期脳梗塞のtherapeutic decision making. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 56) 長尾毅彦, 根本清貴<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 黄田常嘉<sup>3)</sup>, 大山雅史<sup>4)</sup>, 飯塚友道<sup>5)</sup>, 館野 周<sup>6)</sup>, 平井平伊<sup>7)</sup>, 松田博史<sup>8)</sup>, 本間 昭<sup>9)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>10)</sup> (<sup>1)</sup>県立友部病院精神科,<sup>2)</sup>日本医科大学放射線医学,<sup>3)</sup>順天堂大学精神科,<sup>4)</sup>博慈会記念総合病院内科,<sup>5)</sup>複十字病院神経内科,<sup>6)</sup>日本医科大学精神医学,<sup>7)</sup>順天堂大学精神科,<sup>8)</sup>埼玉医科大学核医学診療部,<sup>9)</sup>都老人総合研究所,<sup>10)</sup>東京都立荏原病院神経内科): アルツハイマー型痴呆における脳血流所見の推移. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 57) 加藤健吾, 神谷達司, 上田雅之, 雨宮志門, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗: ドーモイ酸投与によるラット海馬の神経細胞死と細胞新生およびその分化. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 58) 山崎峰雄, 斎藤祐子<sup>1)</sup>, 文村優一<sup>2)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 山崎昌子<sup>3)</sup>, 山之内博<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 村山繁雄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>東京都老人総合研究所老化ゲノム,<sup>3)</sup>初石病院神経内科,<sup>4)</sup>東京都多摩北部医療センター): 進行性核上性麻痺の臨床病理学的検討: 痴呆症状のみを呈するPSP亜群の存在. 第46回日本神経病理学会学術研究会総会, 2005. 5.
- 59) 山崎峰雄, 斎藤祐子<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 小柳清光<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所神経病理,<sup>2)</sup>東京都老人総合研究所老化ゲノム): グラム島パーキンソン症痴呆症脳の神経突起: -synucleinも蓄積しにくい. 第46回日本神経病理学会学術研究会総会, 2005. 5.
- 60) 平井 健<sup>1,2)</sup>, 長竿 淳<sup>1,3)</sup>, 山崎峰雄, 渡部和彦<sup>4)</sup>, 河上江美子<sup>1)</sup>, 渋谷 誠<sup>5)</sup>, 森田 俊<sup>6)</sup>, 高橋 均<sup>7)</sup>, 水谷俊雄<sup>8)</sup>, 林 秀明<sup>2)</sup>, 小柳清光<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所神経病理,<sup>2)</sup>都立神経病院神経内科,<sup>3)</sup>長寿科学振興財団,<sup>4)</sup>東京都神経科学総合研究所分子神経病理,<sup>5)</sup>東海大学八王子病院病態診断,<sup>6)</sup>信楽園病院病理部科,<sup>7)</sup>新潟大学脳研究所神経病理,<sup>8)</sup>都立神経病院検査科): 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の脊髄における細胞増殖: その局在について. 第46回日本神経病理学会学術研究会総会, 2005. 5.
- 61) 新井裕至, 山崎峰雄, 山崎昌子<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 片山泰朗 (<sup>1)</sup>初石病院神経内科,<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部,<sup>3)</sup>同病理学第2): 精神行動異常で発症し, 前頭側頭葉の高度萎縮を呈したがタウ・ユビキチン蓄積を伴わなかった痴呆の一部検例. 第46回日本神経病理学会総会学術研究会, 2005. 5.
- 62) 角南英子, 永山 寛, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: 両側難聴で発症した両側脳幹・小脳梗塞の1例. 第4回東京Strokeフロンティア, 2005. 5.
- 63) 石原 力, 飯塚美穂, 高田大輔, 鎌野千佐子, 金子朋広, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗: 経過中にサイトメガロウイルス感染による重篤な消化管出血を伴ったANCA関連腎炎の1例. 第526回日本内科学会関東地方会, 2005. 5.
- 64) 葉山修陽: 透析のmacroangiopathy. 第5回糖尿病, 腎, 血管に関する研究会, 2005. 5.
- 65) 瀬田健博, 野本達也, 野村浩一, 塚本和久, 東 直行, 金村應文, 片山泰朗: スギヒラタケ摂取に関連したと

- 考えられる急性脳症の1例．第176回日本内科学会東北地方会，2005．6．
- 66) 石渡明子，北村 伸，片山泰朗，DJ C<sup>1)</sup>，蓑島 聡<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ワシントン大学放射線科): 早期アルツハイマー病における脳代謝低下部位の広がり統計画像診断．第20回日本老年精神学会総会，2005．6．
- 67) 福地孝明，小南修史<sup>1)</sup>，三品雅洋，阿部 新，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 当脳神経センターにおいて脳内出血で発症した硬膜動静脈瘻6例の報告．第23回日本神経治療学会総会，2005．6．
- 68) 坂本静樹，大鳥達雄，片山泰朗: 脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧および脳血流量に対する効果: 24時間心電血圧計と頭部SPECT 3D-SSP解析を用いた検討．第23回日本神経治療学会総会，2005．6．
- 69) 濱本 真，片山泰朗: 典型的の前兆のみで頭痛を伴わない症例における atorvastatin の予防効果(2)．第23回日本神経治療学会総会，2005．6．
- 70) 鈴木 司<sup>1)</sup>，本田和弘<sup>1)</sup>，田中隆二<sup>1)</sup>，杉田慎二<sup>1)</sup>，高嶋英樹<sup>1)</sup>，宮司正道<sup>1)</sup>，中尾安秀<sup>1)</sup>，松野久子<sup>1)</sup>，伊部謙吾<sup>1)</sup>，文在 峰<sup>1)</sup>，山下倫生<sup>1)</sup>，古田和行<sup>1)</sup>，山下和之<sup>1)</sup>，中村 司<sup>1)</sup>，川越康博<sup>1)</sup>，三品雅洋(<sup>1)</sup>新松戸中央総合病院): 非典型的経過をたどったリステリアによる細菌性髄膜炎の1例．第43回内科臨床懇話会，2005．6．
- 71) 内海甲一，三橋 太<sup>1)</sup>，加瀬良一<sup>2)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>東京都臨床医学研究所臨床遺伝学研究部門): 尿沈渣中の卵円形脂肪体(maltese cross)を契機として発見し得たFabry病患者．第48回日本腎臓学会学術総会，2005．6．
- 72) 河辺満彦<sup>1)</sup>，川原弘久<sup>2)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>駒込共立クリニック 院長，<sup>2)</sup>名古屋共立病院): 清浄化血液透析systemにおける高感度CRPの検討．第48回日本腎臓学会学術総会，2005．6．
- 73) 河辺満彦<sup>1)</sup>，嶋貫久美子<sup>1)</sup>，小林真紀子<sup>1)</sup>，安倍和彦<sup>1)</sup>，川原弘久<sup>2)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>駒込共立クリニック，<sup>2)</sup>名古屋共立病院): 当院における透析液清浄化の評価．第50回日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 74) 嶋貫久美子<sup>1)</sup>，藤木美幸<sup>1)</sup>，村上奈美子<sup>1)</sup>，杉岡有紀<sup>1)</sup>，河辺満彦<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>駒込共立クリニック，<sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2非常勤講師): 医療施設とケアマネージャーの連携．第50回日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 75) 藤野鉄平，葉山修陽，柏木哲也，飯野靖彦: 血液透析患者における炎症性マーカーと動脈硬化について．第50回日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 76) 田畑一秀<sup>1)</sup>，葉山修陽(<sup>1)</sup>腎クリニック): 臨床現場での最大内部濾過流量の算出方法について．第50回日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 77) 藤田有子，金子朋広，町田佳恵，鎌野千佐子，高田大輔，内海甲一，北村博司，葉山修陽，飯野靖彦: 血栓性血管病変を伴う病理組織所見を呈した抗GBM抗体腎炎の1例．第50回日本透析医学会学術集会・総会，2005．6．
- 78) 西山 穰，勝又俊弥，片山泰朗: 脳梗塞患者における凝固線溶系データ，生化学データと頸動脈エコー上データとの関連の検討．第14回日本脳ドック学会総会，2005．7．
- 79) 藤田有子，金子朋広，町田佳恵，鎌野千佐子，高田大輔，内海甲一，山崎峰雄，勝又俊弥，飯野靖彦，片山泰朗: 血栓性血管病変を伴う病理組織所見を呈した抗GBM抗体腎炎の1例．第528回日本内科学会関東地方会，2005．7．
- 80) 永山 寛，濱本 真，上田雅之，片山泰朗: 多系統萎縮症患者のMIBG心筋シンチグラフィ．第5回パーキンソン病フォーラム，2005．8．
- 81) 長尾毅彦，諏訪 浩<sup>1)</sup>，船田信顕<sup>2)</sup>，高橋 学<sup>3)</sup>，横地正之<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院精神科，<sup>2)</sup>東京都立駒込病院検査科，<sup>3)</sup>東京都立荏原病院検査科，<sup>4)</sup>東京都立荏原病院神経内科): 急速に進行した精神症状を主徴とした嗜銀顆粒性痴呆の一剖検例．第174回日本神経学会 関東地方会，2005．9．
- 82) 西山 穰，勝又俊弥，片山泰朗: 脳梗塞患者におけるHOMA指数と頸動脈エコー上のパラメーターとの関連の検討．第24回Mt. Fujj Workshop on CVD，2005．9．
- 83) 長尾毅彦，根本清貴<sup>1)</sup>，水村 直<sup>2)</sup>，黄田常嘉<sup>3)</sup>，大山雅史<sup>4)</sup>，飯塚友道<sup>5)</sup>，館野 周<sup>6)</sup>，平井平伊<sup>3)</sup>，松田博史<sup>7)</sup>，本間 昭<sup>8)</sup>，横地正之<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>県立友部病院精神科，<sup>2)</sup>日本医科大学放射線医学，<sup>3)</sup>順天堂大学精神科，

- 4) 博慈会記念総合病院内科, 5) 複十字病院神経内科, 6) 日本医科大学精神医学, 7) 埼玉医科大学 核医学診療部, 8) 都老人総合研究所, 9) 東京都立荏原病院神経内科): アルツハイマー型痴呆における脳血流所見の推移. 第3回脳核医学画像解析研究会, 2005. 9.
- 84) Miyasaka T, Watanabe A, Saito Y, Murayama S, David M. A. M, Yamazaki M, Rivka R, Morishima-Kawashima M, Nagashima K, Ihara Y: Visualization of newly deposited tau in neurofibrillary tangles and neuropil threads. 第48回日本神経化学学会大会, 2005. 9.
- 85) 去川睦子, 吉岡 徹, 伊藤孝幸, 新保昌久, 山本啓二, 岡田尚巳, 野本達也, 小澤敬也, 池田宇一, 島田和幸: 心不全ラットモデルに対する抗炎症性サイトカインの遺伝子導入効果の検討. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 86) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> (老人病研究所生化学部門): 免疫抑制剤FK506の脳保護作用とそのメカニズム. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 87) 吉村明修<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 阿曾亮子<sup>1)</sup>, 坂本静樹, 片山泰朗, 新田 隆<sup>2)</sup>, 壇 和夫<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>教育推進室, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>内科学第3, <sup>4)</sup>脳神経外科学): 日本医科大学における臨床実習 (BSL: Bed Side Learning) のアンケートによる実態調査: 学生と教員の比較. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 88) 中嶋信人, 岡村正哉, 新井裕至, 永山 寛, 山口 博, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 坂本静樹, 片山泰朗, 西野一三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立精神神経センター神経研究所疾病研究第一部): 左縫工筋に限局してMRI異常所見を呈し, 多発筋炎との異同が問題となった糖原病の1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 89) 田中紀子, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: SHRSPを用いた Atorvastatin の脳卒中予防効果に関する検討: 発生率, 生存率, および脳血流について. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 90) 野本達也, 瀬田健博, 塚本和久, 國本健太, 鎌塚栄一郎, 亀山幹彦, 佐伯和則, 金村應文, 片山泰朗: TI-201 SPECTにて高集積を認めた出血性梗塞の1例. 第77回日本神経学会東北地方会, 2005. 9.
- 91) 水越元気, 菅野華子, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 坂本静樹, 片山泰朗: 診断に苦慮した脳結核腫の1例. 第10回日本神経感染症学会, 2005. 10.
- 92) 長尾毅彦, 諏訪 浩<sup>1)</sup>, 原口和也<sup>2)</sup>, 船田信顕<sup>3)</sup>, 高橋 学<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>東京都立荏原病院精神科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>東京都立駒込病院検査科, <sup>4)</sup>東京都立荏原病院検査科, <sup>5)</sup>同神経内科): 急激な幻覚妄想状態を主徴とした嗜銀顆粒性痴呆の1例. 第24回日本痴呆学会総会, 2005. 10.
- 93) 葉山修陽: HD, HDF, CAPDの原理と生体に対する生理的影響. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 94) 瀬田健博, 野本達也, 塚本和久, 水村 直, 金村應文, 西山 穰, 勝又俊弥, 片山泰朗: ラクナ梗塞患者における頸動脈所見と脳血流分布との関連について. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 95) 上田雅之, 濱本 真, 三品雅洋, 雨宮志門, 片山泰朗: 再発性小脳失調を呈した単純ヘルペス IgM 抗体持続陽性例. 第175回日本神経学会関東地方会, 2005. 11.
- 96) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 田中紀子, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: SHRSPを用いた Atorvastatin の脳卒中予防効果に関する効果 第2報: Autoradiography法による局所脳血流の測定. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 97) 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 水越元気, 櫻澤 誠, 片山泰朗: 高血糖, 高炭酸ガス血症ラットにおける虚血再灌流時の脂質代謝動態. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 98) 水越元気, 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 櫻澤 誠, 片山泰朗: 脳梗塞急性期における体温の影響. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 99) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 片山泰朗: 選択的ミトコンドリア K<sub>ATP</sub> チャンネル開口薬による虚血耐性現象の増強効果. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 100) 石渡明子, 北村 伸, 片山泰朗, DJ C<sup>1)</sup>, 蓑島 聡<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>ワシントン大学放射線科): アルツハイマー病の早期診断における, 統計学的画像解析法の実践的臨床応用への検討. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.

- 101) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CTによる急性期脳虚血の予後予測. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 102) 福地孝明, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 当センターで経験した硬膜静脈瘤16例の報告. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 103) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸, 三谷和子<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>2)</sup>, 福地孝明, 小林士郎<sup>3)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): アルツハイマー病におけるMMS各課題と糖代謝低下域の関係. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 104) 田中紀子, 勝又俊弥, 大島達雄, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: SHRSPを用いたAtorvastatinの脳卒中予防効果に関する研究 第1報: 発生率, 生存率および脳血流について. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 2005. 11.
- 105) 瀬田健博, 野本達也, 野村浩一: 特異な画像を呈した意識障害の1例. 第18回山形神経内科懇話会, 2005. 11.
- 106) 三品雅洋, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 三谷和子<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): アルツハイマー病におけるMini-Mental State各課題とブドウ糖代謝の相関 SPM2を用いた検討. 第45回日本核医学会総会, 2005. 11.
- 107) 橋本昌也<sup>1)</sup>, 川崎敬一<sup>2)</sup>, 鈴木正彦<sup>1)</sup>, 井上聖啓<sup>1)</sup>, 三谷和子<sup>2)</sup>, 三品雅洋, 織田圭一<sup>2)</sup>, 木村裕一<sup>2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup><sup>(1)</sup>東京慈恵医科大学神経内科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ): 多系統萎縮症における黒質線条体ドパミン節前・節後機能の相関的解析. 第45回日本核医学会総会, 2005. 11.
- 108) 長縄美香<sup>1)</sup>, 木村裕一<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 織田圭一<sup>2)</sup>, 三品雅洋, 成相 直<sup>3)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup><sup>(1)</sup>奈良先端科学大学院大学情報科学研究科像情報処理学, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, <sup>3)</sup>東京医科歯科大学脳神経外科): 動脈採血省略定量解析法の脳アデノシンA1およびA2A受容体画像化への適用. 第45回日本核医学会総会, 2005. 11.
- 109) 中嶋信人, 岡村正哉, 新井裕至, 永山 寛, 山口 博, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 坂本静樹, 片山泰朗, 西野一三<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>国立精神神経センター神経研究所疾病研究 第一部): 左縫工筋に限局してMRI異常所見を呈し, 多発筋炎との異同が問題となった糖尿病の1例. 第531回日本内科学会関東地方会, 2005. 11.
- 110) 上田佳恵, 木嶋祥一郎, 藤田恵美子, 金子朋広, 内海甲一, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗: 心移植後慢性腎機能障害が出現した1例. 第532回日本内科学会関東地方会, 2005. 12.
- 111) 野本達也: パーキンソン病の診断と治療. 北村山地区医師会学術研究会, 2005. 12.
- 112) 瀬田健博, 野本達也, 塚本和久, 粉川隆行, 亀山幹彦, 佐伯和則, 金村應文, 片山泰朗: Facial diplegia and paresthesiasと考えられたGuillain-Barré症候群の1例. 第178回日本内科学会東北地方会, 2006. 2.
- 113) 福地孝明, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター開設10年間で経験した硬膜動静脈瘤12例について. 第2回東京脳卒中診断治療研究会, 2006. 2.
- 114) 大島達雄, 水越元気, 駒場祐一, 片山泰朗: t-PAが著効した急性期脳梗塞の1例. 第2回東京脳卒中診断治療研究会, 2006. 2.
- 115) 阿部 新, 西山康裕: t-PA投与の判断に苦慮した前大脳動脈解離の1例. 第2回東京脳卒中診断治療研究会, 2006. 2.
- 116) 野本達也, 野村浩一, 塚本和久, 瀬田健博: 脳梗塞様症状で発症した血栓性血小板減少性紫斑病の1例. 第2回東京脳卒中診断治療研究会, 2006. 2.
- 117) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): Curse of Ondine'sを呈した延髄梗塞の1例. 第2回東京脳卒中診断治療研究会, 2006. 2.
- 118) 大久保誠二, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>新潟大学脳研究所付属統合脳機能センター): 深部小梗塞の進行に対

- する Diffusion and Perfusion MRI の有用性．第2回東京脳卒中診断治療研究会，2006．2．
- 119) 駒場祐一，片山泰朗：日本医科大学附属病院における Stroke Care Unit (SCU) の現状．第4回 SCU '06 Meeting，2006．2．
- 120) 鶴見昌史，山口 博，中村秀紀，加藤健吾，山崎峰雄，勝又俊弥，桂研一郎，片山泰朗：内腸骨動脈血管奇形によるうっ血性ミエロパチーの1例．第533回日本内科学会関東地方会，2006．2．
- 121) 上田雅之，濱本 真，廣瀬知人<sup>1)</sup>，雨宮志門，片山泰朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：成長ホルモン産生下垂体腺腫を合併した筋強直性ジストロフィーの1例．第176回日本神経学会地方会関東地方会，2006．3．
- 122) 西山康裕，駒場祐一，阿部 新，片山泰朗：非心原性虚血性脳卒中患者における血中 asymmetric dimethylarginine (ADMA) のスタチンによる影響．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 123) 阿部 新，植田敏浩<sup>1)</sup>，正田大介<sup>2)</sup>，野越慎司<sup>1)</sup>，伊藤敦史<sup>1)</sup>，畑 隆志<sup>1)</sup>，片山泰朗 (<sup>1)</sup>横浜市立脳血管医療センター脳卒中治療部，<sup>2)</sup>愛媛大学脳神経外科)：頸動脈狭窄拡張・ステント留置術は高度脳循環予備能力不全に有効．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 124) 福地孝明，小南修史<sup>1)</sup>，三品雅洋，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター)：硬膜動静脈瘻の21例の報告．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 125) 上田雅之，神谷達司，片山泰朗，Nowak T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>テネシー大学神経内科)：虚血耐性獲得における脱分極時間の意義：double priming model による検討．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 126) 三品雅洋，小林士郎<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>2)</sup>，熊谷智昭，福地孝明，水成隆之<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，片山泰朗，赫 彰郎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2)</sup>同救命救急センター，<sup>3)</sup>日本医科大学理事長)：脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 127) 熊谷智昭，三品雅洋，小林士郎<sup>1)</sup>，福地孝明，水成隆之<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>，片山泰朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科)：脳卒中ホットラインの利用状況．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 128) 野本達也，瀬田健博，塚本和久，國本健太<sup>1)</sup>，鎌塚栄一郎<sup>1)</sup>，桂研一郎，片山泰朗 (<sup>1)</sup>北村山公立病院脳神経外科)：急性期脳梗塞患者における症状，責任病巣の左右差の存在について．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 129) 萩原 浩，中村秀紀，五十嵐博中<sup>1)</sup>，神谷達司，片山泰朗 (<sup>1)</sup>新潟大学脳研究所)：Perfusion CT による急性期脳虚血の予後予測．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 130) 渡辺めぐみ，桂研一郎，高橋久美子，水越元気，櫻澤 誠，片山泰朗：選択的ミトコンドリア K<sub>ATP</sub> チャンネル開口薬 diazoxide による虚血耐性現象の増強効果．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 131) 水越元気，桂研一郎，渡辺めぐみ，櫻澤 誠，片山泰朗：脳梗塞急性期における体温の影響．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 132) 桂研一郎，渡辺めぐみ，水越元気，櫻澤 誠，片山泰朗：前脳虚血再灌流時の脂質代謝に及ぼす高血糖，高炭酸ガス血症の影響．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 133) 勝又俊弥，西山 穰，山口 博，有井孝子，田中紀子，大鳥達雄，中村秀紀，片山泰朗：インスリン抵抗性の有無による脳梗塞患者の病態の差異．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 134) 飯野靖彦：輸液処方における Na, K 濃度の決め方．第33回日本集中治療医学会学術集会，2006．3．
- 135) 原 啓子，金子朋広，木嶋祥一郎，上田佳恵，山崎峰雄，勝又俊弥，飯野靖彦，片山泰朗：発症早期に血漿交換が有用であった HELLP 症候群の1例．第534回日本内科学会関東地方会，2006．3．
- 136) 上田雅之，廣瀬知人<sup>1)</sup>，濱本 真，石崎 晃<sup>1)</sup>，江本直也<sup>1)</sup>，雨宮志門，岡村正哉，水野杏一<sup>1)</sup>，片山泰朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：筋緊張性ジストロフィーに合併した Acromegaly の1例．第6回東関東臨床ホルモン研究会，2006．3．
- 137) 塚本和久，野本達也，瀬田健博，亀山幹彦，佐伯和則，金村應文，西野一三，片山泰朗：脳梗塞発症で発見された成人発症セントラルコア病の1例．第78回日本神経学会東北地方会，2006．3．



(6) イブニングセミナー :

- 1) 葉山修陽 : 糖尿病性腎症の病態と治療 . 第11回日本HDF研究会 , 2005 . 12 .

## [ 付属病院リウマチ科 ]

### 研究概要

リウマチ科ではリウマチ性疾患 (関節リウマチ, 全身性エリテマトーデス, 変形性関節症など) の臨床的・基礎的研究を進めております . 具体的には, 臨床研究として, 内科的・外科的治療・リハビリテーション・精神的指導などを含めたトータルマネージメントを行うべく, リウマチ性疾患に対する神経・内分泌・免疫系の役割について, 生物学的製剤の有効性の検討, 人工関節の長期成績・耐久性のよい人工膝関節の開発について, 人工関節置換術の合併症, 手術後の肺塞栓症と深部静脈血栓症の予防と治療, リウマチ肺の臨床的研究などをおこなっております .

一方, 基礎的研究では, 関節リウマチの遺伝子治療, 関節リウマチにおける血管増殖因子と抑制因子の制御, 疾患修飾性抗リウマチ薬の薬剤耐性機構の解明, 膠原病発症の分子機構の解明とその制御, リウマチ肺の基礎的研究, 関節リウマチの骨・関節破壊の機構解明と骨粗鬆症の病態解明について研究を行っています .

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Nagashima M , Syue G , Yamamoto K , Yamahatsu S , Yoshino S : The ability for disease-modifying anti-rheumatic drugs to induce and maintain improvement in patients with rheumatoid arthritis . : -An epidemiology of DMARDs treatment in Japan- . Clin Exp Rheum 2005 ; 23 ( 1 ) : 27-35 .
- 2) Nagashima M , Matsuzaki T , Takenouchi K , Fujimori J<sup>1)</sup> , Yoshino S ( <sup>1)</sup> Hohfu Orthopedic and Rheumatoid Arthritis Clinic ) : Follow-up study of ankle arthrodesis in severe hind foot deformity in patients with rheumatoid arthritis using an intramedullary nail with fins . Modern Rheum 2005 ; 15 ( 4 ) : 269-274 .
- 3) Katsumata S , Nagashima M , Kato K , Tachihara A , Wauke K<sup>1)</sup> , Saito S<sup>1)</sup> , Jin E<sup>2)</sup> , Kawanami O<sup>2)</sup> , Ogawa R<sup>3)</sup> , Yoshino S ( <sup>1)</sup> Shizuoka Hospital for Rheumatism, Orthopedic and Rehabilitation , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Changes in coagulation-fibrinolysis marker and neutrophil elastase following the use of tourniquet during total knee arthroplasty and the influence of neutrophil elastase on thromboembolism . Acta Anaesthe Scand 2005 ; 49 ( 4 ) : 510-516 .
- 4) Miyake K<sup>1)</sup> , Ueki N<sup>1)</sup> , Suzuki K<sup>1)</sup> , Shinji Y<sup>1)</sup> , Kusunoki M<sup>1)</sup> , Hiratsuka T<sup>1)</sup> , Nishigaki H<sup>1)</sup> , Tatsuguchi A<sup>1)</sup> , Futangami S<sup>1)</sup> , Wada K<sup>1)</sup> , Sukui T<sup>1)</sup> , Nakajima A , Yoshino S , Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ) : Preventive therapy for non-steroidal anti-inflammatory drug-induced ulcers in Japanese patients with rheumatoid arthritis : the current situation and a prospective controlled-study of the preventive effects of lansoprazole or famotidine . Aliment Pharmacol Ther. 2005 ; 21 ( 2 ) : 67-72 .
- 5) Takahashi H<sup>1)</sup> , Kato K<sup>1)</sup> , Miyake K<sup>1,2)</sup> , Hirai Y<sup>1,2)</sup> , Yoshino S , Shimada T<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup> Division of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology ) : Adeno-associated virus vector-mediated anti-angiogenic gene therapy for collagen-induced arthritis in mice . Clin Exp Rheumatol. 2005 ; 23 ( 4 ) : 455-461 .
- 6) Ishigami S , Nakajima A , Matsuzaki T , Tanno M , Suzuki H<sup>1)</sup> , Yoshino S ( <sup>1)</sup> 薬理学 ) : The effects of mirthful laughter on growth hormone axis in patients with rheumatoid arthritis . Clin. Exp. Rheumatol.

2005 ; 23 ( 5 ): 651-657 .

7) Matsuzaki T , Nakajima A , Ishigami S , Tanno M , Yoshino S : Mirthful laughter differentially affects serum pro- and anti-inflammatory cytokine levels depending on the level of disease activity in patients with rheumatoid arthritis . Rheumatol. 2006 ; 45 ( 2 ): 182-186 .

8) 永島正一 , 藤森十郎 , 吉野槇一 : フィン付き髓内釘による足関節固定術 . 関節外科 2005 ; 24 ( 2 ): 90-96 .

9) 中島敦夫 , 高橋 央 , 吉野槇一 : 管理不良関節リウマチのコントロール : リウマチ内科医への提言 . モダンフイジシャン 2005 ; 25 ( 6 ): 697-699 .

#### (2) 綜説 :

1) 中島敦夫 : TNFファミリーの制御による関節リウマチ治療の可能性 . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 4 ): 204-206 .

2) 永島正一 , 周 豪奎 , 山本 要 : 関節リウマチの最新動向 骨免疫学的視点からの病因論・治療学 ビスフォスフォネート . 日本臨床 2005 ; 63 ( 9 ): 1607-1612 .

3) 永島正一 : 骨組織存在下における関節リウマチ滑膜細胞の破骨細胞への分化・誘導と骨破壊機序の解明 . Osteoporosis Japan 2005 ; 13 ( 4 ): 86-90 .

4) 中島敦夫 : 関節リウマチの診断と治療 . 日医大医学会誌 2006 ; 2 ( 1 ): 36-41 .

5) 立原章年 , 中島敦夫 : 関節リウマチの早期診断 : 抗CCP抗体の有用性 . 日医大医学会誌 2006 ; 2 ( 1 ): 50-51 .

#### (3) 症例報告 :

1) 山本 要<sup>1)</sup> , 佐野茂夫<sup>1)</sup> , 石神 伸 , 高橋 央 , 永島正一 , 吉野槇一 : 関節リウマチに伴う多発性圧迫骨折に対し多椎間固定を行った1例 . 関節の外科 2005 ; 32 ( 4 ): 117-121 .

#### (4) 研究報告書 :

1) 中島敦夫 : 生物製剤による肺障害に関する研究 . 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告会 2005 ; pp178 .

#### 著 書

1) 中村 洋 , 田中秀和 , 吉野槇一 : [ 分担 ] 多発性破壊性関節症を呈した多中心性網状組織球症 . 病理と臨床臨時増刊号「膠原病の病理診断マニュアル」( 能勢真人・尾崎承一 ) , 2005 ; pp279-281 , 文光堂 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

1) 中島敦夫 : 関節リウマチ患者における生物学的製剤使用の現状 . 呉西臨床整形外科医会学術講演会 , 2005 . 11 .

2) 永島正一 , 立原章年 , 周 豪奎 , 竹之内研二 : 関節リウマチおよび関節炎モデルにおけるビスフォスフォネートによる骨破壊および破骨細胞誘導抑制効果 . 第33回 日本リウマチ・関節外科学会 , 2005 . 11 .

##### (2) 教育講演 :

1) 中島敦夫 : 「 関節痛 , 腰痛を識る , 診る , 治す : 関節リウマチ 」 . 日本医師会生涯教育講座 , 2005 . 4 .

##### (3) シンポジウム :

1) 中島敦夫 : TNFファミリーの制御による関節リウマチ治療の可能性( アレルギー・膠原病に対する新たな展開 ) . 日本医科大学医学会第15回公開「シンポジウム」 , 2005 . 6 .

##### (4) ワークショップ :

1) 永島正一 , 高橋 央 , 石神 伸 , 吉野槇一 : Salazosulphapyridine と Methotrexate の多剤耐性遺伝子は異なる . 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム , 2005 . 4 .

2) 立原章年 , 永島正一 , 松崎 剛 , 山本宗宏 , 吉野槇一 : 関節リウマチ患者に対する各種 bisphosphonate の骨破壊および破骨細胞誘導抑制 . 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム , 2005 . 4 .

- 3) 石神 伸, 永島正一, 中島敦夫, 高橋 央, 立原章年, 松崎 剛, 山本宗宏, 森下 実, 竹之内研二, 吉野槇一: 人工膝関節置換術における深部静脈血栓症, 肺塞栓症の予防, 駆血帯非使用人工膝関節置換術の経験. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
- (5) 一般講演:
- 1) 中島敦夫, 吉野槇一, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部免疫): TRAIL 遺伝子導入T細胞によるコラーゲン誘導関節炎の治療. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 2) 高橋 央, 中村 洋, 石神 伸, 立原章年, 松崎 剛, 山本宗宏, 森下 実, 坂根 学, 竹之内研二, 吉野槇一: 人工膝関節置換術後の感染症例に関する調査. 第78回 日本整形外科学会, 2005. 5.
  - 3) 高橋 央, 永島正一, 石神 伸, 立原章年, 吉野槇一, 中島敦夫: 高度後足部変形に対するフィン付き髓内釘を用いた足関節固定術式の工夫. 第34回 リウマチの外科研究会, 2005. 8.
  - 4) 山本 要<sup>1)</sup>, 佐野茂夫<sup>1)</sup>, 石神 伸, 高橋 央, 永島正一, 吉野槇一: 関節リウマチに伴う多発性圧迫骨折に対し多椎間固定を行った1例. 第34回 リウマチの外科研究会, 2005. 8.
  - 5) 立原章年, 永島正一, 高橋 央, 石神 伸, 松崎 剛, 中島敦夫: 当科における人工肘関節置換術の術後成績と合併症. 第33回 日本リウマチ・関節外科学会, 2005. 11.
  - 6) 高橋 央, 中村 洋, 吉野槇一, 石神 伸, 立原章年, 松崎 剛, 角本土幸, 斉藤公久, 竹之内研二, 岩川賀世, 永島正一, 中島敦夫: 関節リウマチ患者における人工膝関節置換術後の感染症に関する調査. 第8回 東京リウマチ膠原病研究会, 2005. 11.
  - 7) 吉岡太郎<sup>1)</sup>, 平井 博<sup>1)</sup>, 宮本洋介<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>2)</sup>, 中島敦夫(<sup>1)</sup>白十字総合病院整形外科, <sup>2)</sup>同内科): エタネルセプトにて無菌性髄膜炎を発症したと思われる関節リウマチ(RA)の1例. 第16回 日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2005. 12.
  - 8) 岩川賀世, 金子礼志<sup>1)</sup>, 中島敦夫(<sup>1)</sup>順天堂大学浦安病院内科): DIPSSJが疑われた1例. 第16回 日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2005. 12.
  - 9) 竹之内研二, 岩川賀世, 角本土幸, 松崎 剛, 石神 伸, 立原章年, 高橋 央, 永島正一, 中島敦夫: 同種保存骨および十字プレートを用いた人工股関節再置換術の経験と短期成績. 第36回 日本人工関節学会, 2006. 2.
- (6) ポスター:
- 1) 坂根 学, 中島敦夫, 石神 伸, 立原章年, 松崎 剛, 山本宗宏, 森下 実, 竹之内研二, 吉野槇一: 関節リウマチ(RA)における生物学的製剤(Infliximab, Etanercept)の効果について. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 2) 中島敦夫, 坂根 学, 竹之内研二, 森下 実, 松崎 剛, 山本宗宏, 石神 伸, 立原章年, 高橋 央, 永島正一, 吉野槇一, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 長期NSAIDs使用中の慢性関節リウマチ患者における消化性潰瘍のRisk Factor の検討. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 3) 山本宗宏, 高橋 央, 中島敦夫, 永島正一, 石神 伸, 立原章年, 松崎 剛, 森下 実, 坂根 学, 吉野槇一: 既婚RA患者において下肢人工関節置換術が性生活に及ぼす影響. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 4) 山本宗宏, 石神 伸, 中島敦夫, 永島正一, 松崎 剛, 竹之内研二, 吉野槇一: 関節リウマチ患者とストレス: 怪談噺に熱中することの影響. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 5) 竹之内研二, 永島正一, 高橋 央, 森下 実, 坂根 学, 吉野槇一: 関節リウマチ患者に対する各種 bisphosphonate の骨形成および骨吸収抑制効果. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.
  - 6) 松岡利明, 立原章年, 金 恩恵<sup>1)</sup>, 吉野槇一, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理): 肺動脈血栓塞栓症の新しい動物モデル. 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会/第14回国際リウマチシンポジウム, 2005. 4.

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ]

##### 研究概要

###### 【血液内科】

血液病学の基礎的研究では、昨年度に引き続き基礎的研究としては急性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序、病態解析などに関して分子生物学、細胞生物学、腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い、さらに新たに真性多血症、本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発症機構、病態についても解析を開始した。また骨髄不全症候群の発症機序の解明も発展させた。臨床的研究では、真性多血症および本態性血小板血症の臨床病態解析を行い、造血幹細胞移植では臍帯血移植、骨髄非破壊的移植に関する治療研究を進展させた。

###### 【内分泌代謝内科】

内分泌代謝学の基礎研究として成長ホルモン分泌機構・食欲調節に関する研究が続けられ報告された。糖尿病発症の新たな機序として過酸化脂質、特に酸化 LDL ( 低比重リポ蛋白 ) の作用が検討され報告された。脂質過酸化を介した酸化ストレスが糖尿病の新規発症や増悪因子として考慮すべきであることが指摘された。臨床面では内分泌疾患の症例報告が多くなされた。厚生労働省科学研究では原発性高脂血症調査研究班・糖尿病合併症に関する調査研究 ( JDCS ) ・高齢糖尿病の合併症に関する前向き研究が ( 長寿科学総合研究 ) 進行しており、これら研究班の一員として参加している。また、農水省の推進事業である「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業 ( 異分野融合研究開発型 )」の「こめトコリエノールを活かす食品開発とこめアグリビジネスの展開」研究の中で血管新生、あるいは動脈硬化関連における研究事業が開始された。

###### 【消化器内科】

消化器病学は、逆流性食道炎、食道運動機能異常に対する病態生理学的検討、上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義、慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討、大腸腺腫、癌の病態に関する検討、大腸癌の診断法に関する研究、門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環環絡術およびその全身におよぼす影響に関する検討、慢性活動性 C 型肝炎の治療と免疫能、など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め、消化管粘膜の分子機構に関する研究、COX-2 の消化管癌に対する役割、など基礎的研究も実施されている。

##### 研究業績

###### 論文

###### ( 1 ) 原著 :

- 1) Toyota S<sup>1)</sup>, Nakamura N<sup>1)</sup>, Dan K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Yokosuka Kyouzai Hospital, Kanagawa, Japan ): Small cell variant of T-cell prolymphocytic leukemia with a gammadelta immunophenotype . Int J Hematol 2005 ; 81 ( 1 ): 66-68 .
- 2) Zhao XY<sup>1)</sup>, Scheider D<sup>1)</sup>, Biroc S<sup>1)</sup>, Parry R<sup>1)</sup>, Alickle B<sup>1)</sup>, Toy P<sup>1)</sup>, Xuan JA<sup>1)</sup>, Sakamoto C, Wada K, Schulze M<sup>2)</sup>, Tiemann Bm<sup>2)</sup>, Parry G<sup>1)</sup>, Dinter H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Berlex Biosciences, Richmond, California, <sup>2)</sup> Schering AG, Berlin, Germany ): Targeting tomoregulin for radioimmunotherapy of prostate cancer . Cancer Res 2005 ; 65 ( 7 ): 2846-2853 .
- 3) Miura Y<sup>1)</sup>, Hosono M<sup>1)</sup>, Oyamada C<sup>1)</sup>, Oikawa S, Kondo K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Laboratories for the Technology, Kirin Brewery Co ): Dietary isohumulones, the bitter components of beer, raise plasma HDL-cholesterol levels and reduce liver cholesterol and triacylglycerol contents similar to PPAR activations in C57BL/6 mice .

- Brit J Nutrition 2005 ; 93 ( 4 ): 559-567 .
- 4 ) Arai H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Matuzawa Y<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Oikawa S , Mabuchi H<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>1)</sup>, Itakura H<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Ouchi Y<sup>1)</sup>, Horibe H<sup>1)</sup>, Kita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Research Group on Serum Lipid Level survey 2000 in Japan ): Serum lipid survey and its trend in the general Japanese population in 2000 . J Atheroscler Thromb 2005 ; 12 ( 2 ): 98-106 .
  - 5 ) Yamaguchi H , Calado, T Rodrigo<sup>1)</sup>, Ly H<sup>2)</sup>, Kajigaya S<sup>1)</sup>, Baerlocher, M Gabriela<sup>3)</sup>, Chanock, J Stephen<sup>4)</sup>, Lansdorp, M Peter<sup>3)</sup>, Young, S Neal<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Hematology Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute , <sup>2)</sup>The Experimental Pathology Division, Department of Pathology and Laboratory Medicine, Emory University , <sup>3)</sup>The Terry Fox Laboratory, BC Cancer Research Centre, and and the Department of Medicine, University of British Columbia , <sup>4)</sup>The Pediatric Oncology Branch, National Cancer Institute ): Mutations of the Human Telomerase Complex Genes in Aplastic Anemia . N Engl J Med 2005 ; 352 : 1413-1424 .
  - 6 ) Tanosaki S<sup>1)</sup>, Gery S<sup>1)</sup>, Bose S<sup>1)</sup>, Bose N<sup>1)</sup>, Vadgama J<sup>1)</sup>, Koeffler HP<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Division of Hematology/Oncology, Cedars-Sinai Medical Center, University of California at Los Angeles School of Medicine, USA ): Down-regulation and growth inhibitory role of C/EBPalpha in breast cancer . Clinical Cancer Research 2005 ; 11 ( 9 ): 3184-3190 .
  - 7 ) Ogata K , Satoh C , Tachibana M , Hyodo H , Tamura H , Dan K , Kimura T<sup>1)</sup>, Sonoda Y<sup>2)</sup>, Tsuji T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular-Targeting Cancer Prevention, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine , <sup>2)</sup>Department of Hygiene, Kansai Medical University , <sup>3)</sup>Department of Industrial Science and Technology, Tokyo University of Science ): Identification and hematopoietic potential of CD45-clonal cells with very immature phenotype ( CD45-CD34-CD38-Lin- ) in patients with myelodysplastic syndromes . Stem Cells 2005 ; 23 ( 5 ): 619-630 .
  - 8 ) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Holloway RH , Sakamoto C : Transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs ) are the major mechanism of gastroesophageal reflux but are not the cause of reflux disease . Dig Dis SCI 2005 ; 50 (( 6 )): 1072-1077 .
  - 9 ) Miyake K , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Kusunoki M , Hiratsuka T , Nishigaki H , Tatsuguchi A , Futagami S , Wada K , Tsukui T , Nakajima A<sup>1)</sup>, Yoshino S<sup>1)</sup>, Sakamoto C (<sup>1)</sup>Department of Joint Disease and Rheumatism ): Preventive therapy for non-steroidal anti-inflammatory drug-induced ulcers in Japanese patients with rheumatoid arthritis : the current situation and a prospective controlled-study of the preventive effects of lansoprazole or famotidine . Aliment Pharmacol Ther 2005 ; 21 ( suppl 2 ): 67-72 .
  - 10 ) Miyake K , Tatsuguchi A , Suzuki K , Ueki N , Shinji Y , Kusunoki M , Iizumi T , Hiratsuka Y , Nishigaki H , Futagami S , Wada K , Tsukui T , Sakamoto C : Implications of corpus gastritis, atrophy and cyclooxygenase in the development of gastric erosions after curing Helicobacter pylori infection . Digestive and Liver Disease 2005 ; 37 ( 6 ): 394-401 .
  - 11 ) Shimura M<sup>1)</sup>, Hasumi A<sup>1)</sup>, Minamoto T<sup>1)</sup>, Hosono M<sup>1)</sup>, Miura Y<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Kono K<sup>1)</sup>, Oikawa S , Yosida A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Laboratories for the Technology, Kirin Brewery Co ): Isohumulones modulate blood lipid status through the activation of PPAR . Biochim Biophys A ( BBA ) - Molecular and Cell Biology of Lipids, 1736 2005 ; 51-60 .
  - 12 ) Kosugi M<sup>1)</sup>, Ono T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H , Sato N<sup>1)</sup>, Dan K , Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Coronary Care Unit and Intensive Care Unit ): Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy . Int J Cardiol. 2005 .
  - 13 ) Tamura H , Dan K , Tamada K<sup>1)</sup>, Nakamura K , Shioi Y , Hyodo H , Wang SD<sup>1)</sup>, Dong H<sup>2)</sup>, Chen L<sup>1)</sup>, Ogata K (<sup>1)</sup>The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins, Baltimor , <sup>2)</sup>Department

of Urology, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota ): Expression of functional B7-H2 and B7. 2 costimulatory molecules and their prognostic implications in de novo acute myeloid leukemia . Clin Cancer Res 2005 ; 11 ( 16 ): 5708-5717 .

- 14) Hiratsuka T , Futagami S , Tatsuguchi A , Suzuki K , Shinji Y , Kusunoki M , Shinoki K , Nishigaki H , Fujimori S , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : COX-1 and COX-2 conversely promote and suppress ischemia-reperfusion gastric injury in mice . ScandJGastroenterol 2005 ; 40 ( ( 8 ) ): 903-913 .
- 15) Zou D<sup>1)</sup> , Chen WH<sup>1)</sup> , Iwakiri K , Rigda R<sup>1)</sup> , Tippet M , Holloway RH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Inhibition of transient lower esophageal sphincter relaxations by electrical acupoint stimulation . Am J Gastrointest Liver Physiol 2005 ; 289 ( 2 ): G197-G201 .
- 16) Suzuki R<sup>1)</sup> , Nakamura S<sup>2)</sup> , Suzumiya J<sup>3)</sup> , Ichimura K<sup>2,4)</sup> , Ichikawa M<sup>5)</sup> , Ogata K , Kura Y<sup>6)</sup> , Aikawa K<sup>7)</sup> , Teshima H<sup>8)</sup> , Sako M<sup>9)</sup> , Kojima H<sup>10)</sup> , Nishio M<sup>11)</sup> , Yoshino T<sup>4)</sup> , Sugimori H<sup>12)</sup> , Kawa K<sup>13)</sup> , Oshimi K<sup>14)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Molecular Medicine, Aichi Cancer Center , <sup>2)</sup> Department of Pathology and Molecular Diagnostics, Aichi Cancer Center , <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine , <sup>4)</sup> Second Department of Pathology, Okayama University School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical College , <sup>6)</sup> Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine , <sup>7)</sup> Department of Hematology, National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center , <sup>8)</sup> Department of Laboratory Medicine, Osaka City General Hospital , <sup>9)</sup> Department of Pediatrics, Osaka City General Hospital , <sup>10)</sup> Division of Hematology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba , <sup>11)</sup> : Department of Internal Medicine II, Hokkaido University School of Medicine, <sup>12)</sup> : Department of Preventive Medicine, St. Marianna University School of Medicine, <sup>13)</sup> : Department of Pediatrics, Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, <sup>14)</sup> : Department of Hematology, Juntendo University ): Blastic natural killer cell lymphoma/leukemia ( CD56-positive blastic tumor ): prognostication and categorization according to anatomic sites of involvement . Cancer 2005 ; 104 ( 5 ): 1022-1031 .
- 17) Fujimori S , Kishida T , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Nagata K , Tatsuguchi A , Gudis K , Yokoi K<sup>1)</sup> , Tanaka S , Yamashita K<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Sakamoto C ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Helicobacter pylori infection increases the risk of colorectal adenoma and adenocarcinoma, especially in women . Journal of Gastroenterology 2005 ; 40 ( 9 ): 887-893 .
- 18) Yajima H<sup>1)</sup> , Noguchi T<sup>1)</sup> , Ikeshima E<sup>1)</sup> , Shiraki M<sup>1)</sup> , Kanaya T<sup>1)</sup> , Tsuboyama-Kasaoka N<sup>2)</sup> , Ezaki O<sup>2)</sup> , Oikawa S , Kondo K ( <sup>1)</sup> Central Laboratories for the Technology, Kirin Brewery Co , <sup>2)</sup> Division of Clinical Nutrition, National Institute of Health and Nutrition ): Prevention of diet-induced obesity by dietary isomerized hop extract containing isohumulones, in rodents . Int J Obesity 2005 ; 29 : 991-997 .
- 19) Nakaya N<sup>1)</sup> , Kita T<sup>1)</sup> , Mabuchi H<sup>1)</sup> , Matsuzaki M<sup>1)</sup> , Matsuzawa Y<sup>1)</sup> , Oikawa S , Saito Y<sup>1)</sup> , Sasaki J<sup>1)</sup> , Shimamoto K<sup>1)</sup> , Itakura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J-LIT Study Group ): Large-scale cohort study on the relationship between serum lipid concentrations and risk of cerebrovascular disease under low-dose simvastatin in Japanese patients with hypercholesterolemia : sub-analysis of the Japan Lipid Intervention Trial ( J-LIT ). Circ J 2005 ; 69 ( 9 ): 1016-1021 .
- 20) Dan K : Thrombocytosis in iron deficiency anemia . Intern Med 2005 ; 44 ( 10 ): 1090-1092 .
- 21) Nakayama K , Inokuchi K , Dan K : Hypermethylation of the putative tumor-suppressor genes DCC, p51/63 and O6-methylguanine-DNA methyltransferase ( MGMT ) and loss of their expressions in cell lines of hematological malignancies . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 270-277 .
- 22) Hiratsuka T , Futagami S , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Kusunoki M , Shinoki K , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Rebamipide reduces indomethacin-induced gastric

- injury in mice via down-regulation of ICAM-1 expression . *Dig Dis Sci* 2005 ; 50 ( suppl 1 ) : S84-S89 .
- 23 ) Sakamoto C , Gudis K : The role of cyclooxygenase in gastric mucosal protection . *Dig Dis Sci* 2005 ; 50 : 16-23 .
- 24 ) Tokita Y<sup>1)</sup> , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Sekikawa A<sup>1)</sup> , Kotake H<sup>1)</sup> , Toyota T<sup>1)</sup> , Miyazawa T<sup>2)</sup> , Sawai T , Oikawa S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Tohoku University School of Medicine , <sup>2)</sup>Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University , <sup>3)</sup>IwateMedical University ): Fructose Ingestion Enhances Atherosclerosis and Deposition of Advanced Glycated End-products in Cholesterol-fed Rabbits . *J Atheroscler Thromb* 2005 ; 12 ( 5 ) : 260-267 .
- 25 ) Arai H<sup>1)</sup> , Yamamoto A<sup>1)</sup> , Matsuzawa Y<sup>1)</sup> , Saito Y<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>1)</sup> , Oikawa S , Mabuchi H<sup>1)</sup> , Teramoto T<sup>1)</sup> , Sasaki J<sup>1)</sup> , Nakaya N<sup>1)</sup> , Itakura H<sup>1)</sup> , Isikawa Y<sup>1)</sup> , Ouchi Y<sup>1)</sup> , Horibe H<sup>1)</sup> , Egashira T<sup>1)</sup> , Hattori H1 , Shirahashi N1 , Kita T1 ( <sup>1)</sup>Research Group on Serum Lipid level survey 2000 in Japan ): Polymorphisms in four genes related to triglyceride and HDL-cholesterol levels in the general Japanese population in 2000 . *J Atheroscler Thromb* 2005 ; 12 ( 5 ) : 240-250 .
- 26 ) Nakagawa K<sup>1)</sup> , Oak J-H<sup>1)</sup> , Higuchi O<sup>1)</sup> , Tsuzuki T<sup>1)</sup> , Oikawa S , Otani H<sup>2)</sup> , Mune M<sup>2)</sup> , Cai H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University , <sup>2)</sup>Department of Internal Medicine, Wakayama Medical College , <sup>3)</sup>Division of Biological Sciences and Pritzker School of Medicine, University of Chicago ): Ion-trap tandem mass spectrometric analysis of Amadori -glycated phosphatidylethanolamine in human plasma with or without diabetes . *J Lipid Res* 2005 ; 46 : 2514-2524 .
- 27 ) Shimamoto K<sup>1)</sup> , Kita T<sup>1)</sup> , Mabuchi H<sup>1)</sup> , Matuzaki M<sup>1)</sup> , Matsuzawa Y<sup>1)</sup> , Nakaya N<sup>1)</sup> , Oikawa S , Sasaki J<sup>1)</sup> , Itakura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>J-LIT Study Group ): The risk of cardiovascular events in Japanese hypertensive patients with hypercholesterolemia : Sub-analysis of the Japan Lipid Intervention Trial ( J-LIT ) Study, a large-scale observational cohort study . *Hypertens Res* 2005 ; 28 : 879-887 .
- 28 ) Murano T<sup>1)</sup> , Sako T<sup>1)</sup> , Oikawa S , Shirai K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Clinical Laboratory Medicine, Sakura General Hospital, Toho University ): The recovery of dysfunctional lipoprotein lipase ( Asp204-Glu ) activity by modification of substrate . *Atherosclerosis* 2005 ; 183 ( 1 ) : 101-107 .
- 29 ) Nagata K , Wada K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Heregulin- and heregulin- expression is linked to a COX-2-PGE2 Pathway in human gastric fibroblasts . *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 2005 .
- 30 ) Hirano F<sup>1)</sup> , Kaneko K<sup>1)</sup> , Tamura H<sup>1)</sup> , Dong H<sup>1)</sup> , Wang S<sup>1)</sup> , Ichikawa M<sup>1,2)</sup> , Rietz C<sup>1,2)</sup> , Flies DB<sup>1,2)</sup> , Lau JS<sup>1)</sup> , Zhu G<sup>1,2)</sup> , Tamada K<sup>1,2)</sup> , Chen L<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Immunology, Mayo Clinic, <sup>2)</sup>The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins, USA ): Blockade of B7-H1 and PD-1 by Monoclonal Antibodies Potentiates Cancer Therapeutic Immunity . *Cancer Res* 2005 ; 65 ( 3 ) : 1089 .
- 31 ) Tanaka S , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Wada K , Seo T , Mitsui K , Yonezawa M , Nagata K , Fujimori S , Tsukui T , Kishida T , Sakamoto C : Monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage cyclooxygenase-2 expression in colonic adenoma . *Gut* 2006 ; 55 : 54-61 .
- 32 ) Akira K , Amano M , Okajima F , Hashimoto T , Oikawa S ( <sup>1)</sup>School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): Inhibitory effects of amlodipine and fluvastatin on the deposition of advanced glycation end products in aortic wall of cholesterol and fructose-fed rabbits . *Biol Pharm Bull* 2006 ; 29 ( 1 ) : 75-81 .
- 33 ) Sone H<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Isibashi S<sup>1)</sup> , Yamasaki Y<sup>1)</sup> , Oikawa S , Ito H<sup>1)</sup> , Saito Y<sup>1)</sup> , Ohashi Y<sup>1)</sup> , Akanuma Y<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Japan Diabetes Complications Study ( JDCS ) Group ): The new worldwide definition

of metabolic syndrome is not a better diagnostic predictor of cardiovascular disease in Japanese diabetic patients than the existing definitions : additional analysis from the Japan Diabetes Complications Study . *Diabetes Care* 2006 ; 29 ( 1 ): 145-147 .

- 34) Kidokoro-Kunii Y , Emoto N , Cho K<sup>1)</sup> , Oikawa S ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Analysis of the factors associated with Tc-99m pertechnetate in thyrotoxicosis and Graves' disease . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 ( 1 ): 10-17 .
- 35) Williamson Ea<sup>1)</sup> , Wolf I<sup>1)</sup> , O'Kelly J<sup>1)</sup> , Bose S<sup>1)</sup> , Tanosaki S<sup>1)</sup> , Koeffler Hp<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Hematology/Oncology, Cedars-Sinai Medical Center, UCLA School of Medicine, Los Angeles, CA, USA. ): BRCA1 and FOXA1 proteins coregulate the expression of the cell cycle-dependent kinase inhibitor p27 ( Kip1) . *Oncogene* 2006 ; 25 ( 9 ): 1391-1399 .
- 36) Futagami S , Hiratsuka T , Suzuki M , Wada K , Miyake K , Ohashi K , Shimizu M , Takahashi H , Gudis K , Kato S , Tskui T , Sakamoto C : T cells increase with gastric mucosal interleukin ( IL ) -7, IL-1 , and Helicobacter pylori urease specific immunoglobulin levels via CCR2 upregulation in Helicobacter pylori gastritis . *Gastroenterol Hepatol* 2006 ; 21 ( 1 ): 32-40 .
- 37) 吉村明修<sup>1)</sup> , 志村俊郎<sup>1)</sup> , 阿曾亮子<sup>1)</sup> , 坂本静樹<sup>2)</sup> , 片山泰朗<sup>2)</sup> , 新田 隆<sup>3)</sup> , 檀 和夫 , 寺本 明<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 教育推進室 , <sup>2)</sup> 内科学第2 , <sup>3)</sup> 外科学第2 , <sup>4)</sup> 脳神経外科学 ): 日本医科大学における臨床実習 ( BSL ) のアンケートによる実態調査 . *医学教育* 2005 ; 36 ( supp ): 43-43 .
- 38) 金沢秀典 , 坂本長逸 , 檀 和夫 : 第2部 医科 [ 治療 ] 門脈圧こう進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡路術 . *からだの科学 増刊 高度先進医療* 2005 ; 91-95 .
- 39) 檀 和夫 : 血液凝固異常への対処 : 止血異常の概観-血液学の立場から . *日本臨床麻酔学会誌* 2006 ; 26 ( 1 ): 108-114 .
- 40) 藤森俊二 , 岸田輝幸 , 坂本長逸 : Crohn病治療におけるbiotherapyの有効性 . *消化器病学の進歩2005-モノグラフ消化管* 2006 ; 26 : 609-613 .
- 41) 金沢秀典 : 難治性腹水の治療 : 利尿剤治療の限界と新しい治療法 . *Medical Practice* 2006 ; 23 ( 1 ): 127-132 .
- 42) 辰口篤志 , 坂本長逸 : COX-2 と膜型マトリックスメタロプロテアーゼの大腸癌における発現 . *Prog Med* 2006 ; 26 : 609-613 .

## ( 2 ) 綜説 :

- 1) Ogata K , Yoshida Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Takeda General Hospital ): Clinical implications of blast immunophenotypes in myelodysplastic syndromes . *Leuk Lymphoma* 2005 ; 46 ( 9 ): 1269-1274 .
- 2) Tatsuguchi A , Seo T , Shinji S<sup>1)</sup> , Yonezawa M , Hiratsuka T , Fukuda Y<sup>2)</sup> , Sugisaki Y<sup>3)</sup> , Furukawa K<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup> , Kishida T , Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Department of Surgery , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Surgical Pathology ): Clinical Significance of Prostaglandin E Synthase Expression in Colorectal Cancer . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 ( 1 ): 38-41 .
- 3) Saito Y<sup>1)</sup> , Matsunaga A<sup>2)</sup> , Oikawa S ( <sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine, Division of Bephtology and Rheumatology, and Dept. of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Division of Cardiology, Fukuoka University School of Medicine ): Impact of lipoprotein glomerulopathy on the relationship between lipids and renal diseases . *Am J Kid Dis* 2006 ; 47 ( 2 ): 199-211 .
- 4) 曾根博仁<sup>1)</sup> , 山崎義光<sup>2)</sup> , 石橋 俊<sup>3)</sup> , 及川眞一 , 片山茂裕<sup>4)</sup> , 齋藤 康<sup>5)</sup> , 井藤英喜<sup>6)</sup> , 赤沼安夫<sup>7)</sup> , 山田信博<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大学大学院臨床医学系内科 , <sup>2)</sup> 大阪大学大学院医学系研究科 , <sup>3)</sup> 自治医科大学内科 , <sup>4)</sup> 埼玉医科大学内科 , <sup>5)</sup> 千葉大学大学院医学系研究科細胞治療学 , <sup>6)</sup> 多摩北部医療センター , <sup>7)</sup> 朝日生命成人病研究所 , <sup>8)</sup> 筑波大学大学院臨床医学系内科 ): 耐糖能異常・糖尿病からみたメタボリックシンドローム . *内分泌・糖尿病科* 2005 ; 21 ( 4 ): 351-358 .



- 5) 田野崎栄, 檀 和夫: 寒冷凝集素症, 発作性寒冷血色素尿症. 日本臨床 2005 ; 63 (増刊号5): 450-453 .
- 6) 山口博樹, 猪口孝一, 檀 和夫: 「身近な話題・世界の話題」(26) 成人発症のDyskariotosis Congenita . 血液フロンティア 2005 ; 15 (6): 1000-1006 .
- 7) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の相違. 消化器科 2005 ; 40 (5): 508-513 .
- 8) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: 長期NSAIDsの服用中関節リウマチ患者にみられた平坦・陥凹型胃癌と鑑別を要する消化性潰瘍. 治療学 2005 ; 39 (5): 96-98 .
- 9) 山口博樹: 成人発症のDyskariotosis Congenita . 血液フロンティア 2005 ; 15 (6): 1000-1006 .
- 10) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): スタチン. 内分泌・糖尿病科 2005 ; 20 (1): 6-13 .
- 11) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): タボリックシンドロームの治療をどう考えるか: 耐糖能異常の治療. 治療学 2005 ; 39 (6): 603-606 .
- 12) 田野崎栄, 檀 和夫: 寒冷凝集反応. 日本臨床 2005 ; 63 (増刊号7): 137-139 .
- 13) 檀 和夫: 慢性骨髓増殖性疾患 5. 本態性血小板血症の診断と治療. 血液フロンティア 2005 ; 15 (8): 1293-1299 .
- 14) 田近賢二, 檀 和夫: 造血幹細胞移植: 診断と治療の進歩 I. 造血幹細胞移植の現状 3. さい帯血移植. 日本内科学会雑誌 2005 ; 94 (7): 1287-1292 .
- 15) 金沢秀典, 坂本長逸, 檀 和夫: 第2部 医科 [治療] 門脈圧こう進症に対する経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術. からだの科学 2005 ; 増刊 (高度先進医療): 91-95 .
- 16) 田近賢二, 檀 和夫: 造血幹細胞移植: 診断と治療の進歩 I. 造血幹細胞移植の現状 3. さい帯血移植. 日本内科学会雑誌 2005 ; 94 (7): 1287-1292 .
- 17) 金沢秀典, 坂本長逸, 檀 和夫: 門脈圧亢進症に対する経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術. からだの科学増刊 高度先進医療 2005 ; 91-95 .
- 18) 津久井拓, 狩野律子<sup>1)</sup>, 義沢雄介<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): じん麻疹様紅斑を契機に早期胃癌と*H. pylori* 感染症を診断した1例. 日本皮膚科学会雑誌 2005 ; 115 (8): 12-13 .
- 19) 檀 和夫: 主要疾患: 現況・病態・診断・治療 14 本態性血小板血症. 医学のあゆみ 2005 ; 別冊: 672-674 .
- 20) 田村秀人, 緒方清行: 補助刺激分子B7-H1およびB7-DC. Surgery Frontier 2005 ; 12 (3): 272-274 .
- 21) 及川眞一: 脂質代謝異常と糖尿病大血管症. 新しい診断と治療のABC 30 2005 ; 48-56 .
- 22) 山口博樹: テロメラーゼ複合体遺伝子異常と骨髓不全症. 医学のあゆみ 2005 ; 別冊: 205-209 .
- 23) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: ダブルバルーン小腸内視鏡検査の有用性: カプセル内視鏡検査との比較. 胃と腸 2005 ; 40 (11): 1518-1527 .
- 24) 二神生爾, 坂本長逸: 胃粘膜中IL-7, IL-1 発現 T-cell浸潤の検討. 日本臨床 2005 ; 63 (Suppl 11): 146-149 .
- 25) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): メタボリックシンドロームの臨床検査: リポ蛋白異常. 臨床検査 2005 ; 49 (13): 1713-1721 .
- 26) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院): メタボリックシンドロームの治療. 内分泌代謝内科・糖尿病科 2005 ; 21 (49): 365-372 .
- 27) 榎原義之, 金沢秀典, 中塚雄久, 坂本長逸: 難治性腹水に対するTIPSの長期治療成績と治療戦略. 消化器科 2005 ; 41 (4): 375-381 .
- 28) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>1)</sup>, 本間尚子<sup>1)</sup>, 沢辺元司<sup>2)</sup>, 新井富生<sup>2)</sup>, 田中康夫<sup>3)</sup>, 紀 健二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総

- 合研究所高齢者臓器,<sup>2)</sup>東京都老人医療センター病理部門,<sup>3)</sup>同内視鏡科):パレット食道の診断法,生検法と生検病理.日本臨床 2005;63:1429-1433.
- 29) 三宅一昌,坂本長逸:関節リウマチ患者(日本人)に対する長期NSAIDs長期投与患者におけるPPIとPG製剤の消化性潰瘍の治療;潰瘍予防と潰瘍治療効果について.消化器科 2005;41((4)):334-339.
- 30) 三井啓吾,田中 周,江原彰仁,小林 剛,瀬尾継彦,米沢真興,永田和弘,柴田喜明,辰口篤志,藤森俊二,坂本長逸,関田祥久,岸田輝幸:小腸内視鏡検査法の進歩 ダブルバルーン小腸内視鏡検査の有用性.カプセル内視鏡検査との比較.胃と腸 2005;40:1518-1527.
- 31) 三井啓吾,田中 周,江原彰仁,小林 剛,瀬尾継彦,米澤真興,柴田喜明,永田和弘,辰口篤志,藤森俊二,関田祥久,岸田輝幸,坂本長逸:カプセル内視鏡(VCE)とダブルバルーン内視鏡(DBE)の組み合わせによる小腸検査.Prog Dig Endosc 2005;58:50.
- 32) 田中 周:新しい小腸内視鏡検査法をめぐって.胃と腸 2005;1567-1584.
- 33) 猪口孝一:急性リンパ性白血病.血液・腫瘍科 2006;52(1):20-25.
- 34) 山口博樹:テロメラーゼ複合体遺伝子異常と骨髄不全症. Annual Review 血液2006 2006;48-55.
- 35) 檀 和夫:白血病の新しい治療動向と検査 4.分子標的治療と検査. Med Technol 2006;34(2):150-154.
- 36) 辰口篤志,坂本長逸:COX-2と膜型マトリックスメタロプロテアーゼの大腸癌における発現. Progress in Medicine 2006;26(3):41-44.
- 37) 楠 正典,三宅一昌,坂本長逸:消化器疾患ガイドライン;胃腺腫・胃ポリープ. 今月の治療・臨時増刊号 2006;40-43.
- 38) 曾根博仁<sup>1)</sup>,水野佐智子<sup>2)</sup>,笈田耕二<sup>3)</sup>,山崎義光<sup>4)</sup>,豊永哲至<sup>5)</sup>,及川眞一,齋藤 康<sup>6)</sup>,大橋靖雄<sup>7)</sup>,山田信博<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>筑波大学大学院臨床医学系内科,<sup>2)</sup>東京大学大学院医学系研究科保健科学,<sup>3)</sup>福井中央クリニック糖尿病生活習慣病科,<sup>4)</sup>大阪大学大学院医学系研究科,<sup>5)</sup>熊本大学大学院薬学研究部代謝内科学,<sup>6)</sup>千葉大学大学院医学系研究科細胞治療学,<sup>7)</sup>東京大学大学院医学系研究科保健科学,<sup>8)</sup>筑波大学大学院臨床医学系内科):日本の2型糖尿病患者における動脈硬化症の現状:Japan Diabetes Complication Study(JDCS)より. Angiology Frontier 2006;4(1):11-17.
- (3) 症例報告:
- 1) Kosugi M<sup>1)</sup>, Ono T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H, Sato N<sup>1)</sup>, Dan K, Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy. Int J Cardiol 2005.
- 2) Shoda T<sup>1)</sup>, Yoshimura M<sup>1)</sup>, Hayata D<sup>1)</sup>, Miyazawa Y<sup>1)</sup>, Ogata K(<sup>1)</sup>Chigasaki Tokusyukai General Hospital): Marked Spherocytosis in Clostridal Sepsis. Int J Hematol 2006;83(2):179-180.
- 3) 田中 周,三井啓吾,坂本長逸:Billroth II法再建後にダブルバルーン内視鏡を用いて,内視鏡的逆行性胆管造影を施行し得た1例.消化器内視鏡 2005;17(4):520-522.
- 4) 関田祥久,藤森俊二,江原彰仁,小林 剛,瀬尾継彦,三井啓吾,米澤真興,柴田喜明,永田和弘,田中 周,辰口篤志,山門 進,吉田 豊,岸田輝幸,坂本長逸:高濃度酸素療法が著効した多発性筋炎合併腸管囊胞状気腫症の1例. Prog. Dig. Endosc. 2005;66(2):35-38.

## 著 書

- 1) Iwakiri K: [分担] Endoscopic Diagnosis of Gastric Carcinoma. The Diversity of Gastric Carcinoma. Pathogenesis, Diagnosis, and Therapy (Kaminishi M, Takubo K, Mafune K), 2005; pp185-202, Springer.
- 2) 岩切勝彦: [分担] I. 消化器を深く知るための基本知識, B. 検査と診断の基本を学ぶ/機能検査, 食道内圧検査. 消化器病学(上西紀夫, 菅野健太郎, 田中雅夫, 滝川 一), 2005; pp111-114, メジカルビュー社.
- 3) 岩切勝彦, 坂本長逸: [分担] II. 消化器疾患を深く学ぼう, A. 食道疾患, 食道炎, 食道潰瘍. 消化器病学

- (上西紀夫, 管野健太郎, 田中雅夫, 滝川 一), 2005 ; pp193-197, メジカルビュー社 .
- 4) 岩切勝彦: [共著] I. 食道, 運動・機能異常, アカラシア. 専門医のための消化器病学 (白鳥康史, 下瀬川徹, 木下芳一, 金子周一, 櫻田博史), 2005 ; pp12-16, 医学書院 .
  - 5) 岩切勝彦: [分担] I. 食道, 運動・機能異常, アカラシア. 専門医のための消化器病学 (小俣政男, 千葉 勉, 白鳥康史, 下瀬川徹, 木下芳一, 金子周一, 櫻田博史), 2005 ; pp12-16, 医学書院 .
  - 6) 藤森俊二: [分担] 潰瘍性大腸炎と食物繊維製品について. CC-Japan, 2005 ; pp51, 三雲社 .
  - 7) 田近賢二: [自著] 知っておきたい難病の現況と対策 各種難病の診断と治療 再生不良性貧血. 月刊臨床と研究, 2005 ; pp91-94, 大道学館出版部 .
  - 8) 坂本長逸: [共著] 消化器癌の診断・治療, 内視鏡と病理の接点. 消化器癌の診断・治療, 2005 ; pp1-147, 新興医学出版社 .
  - 9) 田近賢二: [自著] 最新悪性リンパ腫診療-WHO分類時代のbest patient care《正しい診断のために》悪性リンパ腫のstaging. 内科, 2005 ; pp221-224, 南江堂 .
  - 10) 檀 和夫: [分担] 本態性血小板血症. 血液疾患ハンドブック上巻 (吉田弥太郎編), 2005 ; pp294-300, 医薬ジャーナル社 .
  - 11) 檀 和夫: [分担] 主要疾患: 現況・病態・診断・治療 14 本態性血小板血症. 別冊・医学のあゆみ 血液疾患 state of arts (坂田洋一, 小澤敬也編), 2005 ; pp672-674, 医歯薬出版 .
  - 12) 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸: [分担] NSAIDsの経口と坐薬での潰瘍のできる率に違いはあるか?. 消化管疾患: 治療のエビデンス, 2005 ; pp298-299, 文光堂 .
  - 13) 三宅一昌, 楠 正典, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: [分担] 関節リウマチ患者における長期NSAID投与による消化性潰瘍の治療; 潰瘍予防効果の実態調査と潰瘍治癒効果に対するPPIとPG製剤の前向き比較試験. 消化器病学の進歩2005, 2005 ; pp77-80, メジカルビュー社 .
  - 14) 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸: [共著] 臨床に直結する消化管疾患治療のエビデンス: NSAIDsの経口と坐薬での潰瘍のできる率に違いはあるか?. 臨床に直結する消化管疾患治療のエビデンス, 2005 ; pp298-299, 文光堂 .
  - 15) 藤森俊二: [分担] 粘土状便: プロトンポンプ阻害薬 (PPI) を使用していませんか. 下痢, 便秘治療のコツと落とし穴, 2005 ; pp89, 中山書店 .
  - 16) 藤森俊二: [分担] プロバイオティクス, プレバイオティクスはCrohn病の水様性下痢に使用する価値がある. 下痢・便秘治療のコツと落とし穴, 2005 ; pp142-144, 中山書店 .
  - 17) 檀 和夫: [分担] 貧血. ガイドライン外来診療2006 (泉孝英編), 2006 ; pp148-152, 日経メディカル開発 .
  - 18) 檀 和夫: [分担] 赤芽球瘡. 今日の治療指針2006 (山口 徹, 北原光夫編), 2006 ; pp486-487, 医学書院 .
  - 19) 二神生爾, 坂本長逸: [分担] H. pylori感染陽性患者におけるNSAIDs内服指導の注意点. NSAIDsの使い方 コツと落とし穴, 2006 ; p90, 中山書店 .
  - 20) 二神生爾, 坂本長逸: [分担] 内視鏡施行前 (生検) のNSAIDs内服指導の注意点. NSAIDsの使い方 コツと落とし穴, 2006 ; p115, 中山書店 .
  - 21) 三宅一昌, 坂本長逸: [分担] 消化性潰瘍. Annual Review消化器2006, 2006 ; pp226-228, 中外医学社 .
  - 22) 藤森俊二, 瀬尾継彦, 坂本長逸: [分担] 小腸病変ポリープ・ポリポーシス. カプセル内視鏡, 2006 ; 南江堂 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 第8回胃食道逆流症 (GERD) と咽喉頭疾患研究会, 2005 . 6 .
- 2) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 真壁郡市医師会学術講演会, 2005 . 6 .

- 3) 岩切勝彦：GERDの病態と治療．長崎県耳鼻咽喉科専門医講座学術講演会，2005．9．
- 4) 岩切勝彦：食道運動機能からみたGERDの病態と治療．第9回高知GERDスタディー，2005．11．
- 5) 岩切勝彦：食道運動機能からみたGERDの病態と治療．第17回中津臨床消化器勉強会，2005．12．
- (2) 招待講演：
- 1) 岩切勝彦：GERDの新知見．第59回日本食道学会学術集会，2005．6．
- (3) 記念講演：
- 1) 辰口篤志：大腸腫瘍発生における膜結合型プロスタグランジンE合成酵素（mPGES）の果たす役割．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- (4) シンポジウム：
- 1) Ogata K, Satoh C, Tachibana M, Hyodo H, Tamura H, Dan K, Kimura T<sup>1)</sup>, Sonoda Y<sup>2)</sup>, Tsuji T<sup>3)</sup>  
 ( <sup>1)</sup> Department of Molecular-Targeting Cancer Prevention, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Hygiene, Kansai Medical University, <sup>3)</sup> Department of Industrial Science and Technology, Tokyo University of Science ): CD45-Negative Clonal Cells with Very Immature Phenotype ( CD45-CD34-CD38-Lin- ) in Patients with Myelodysplastic Syndromes ( Stem Cell Biology II ). 8th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes ( Nagasaki ), 2005 . 5 .
- 2) Futagami S, Suzuki K, Shindo T, Hiratsuka T, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Shinji Y, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : APE expression in *H. pylori* infected gastritis mucosa : Comparison with long *H. pylori* infected mongolian gerbil models . 第11回日本ヘリコバクター学会，2005．6．
- 3) Hiratsuka T, Futagami S, Tatsuguchi A, Suzuki K, Shinji Y, Kusunoki M, Shinoki K, Nishigaki H, Fujimori S, Wada K, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : COX-1 and COX-2 Conversely Promote and Suppress Ischemia-Reperfusion Gastric Injury in Mice . The 4th Japan GRG/AGA symposium, 2006 . 1 .
- 4) 藤森俊二，岸田輝幸，坂本長逸：飲酒習慣は血清脂質と大腸腫瘍の危険性の性差に関係する．第69回日本消化器内視鏡学会総会，2005．4．
- 5) 岩切勝彦，林 良紀，坂本長逸：食道運動機能からみたNERDの病態．第1回日本消化管学会総会学術集会（2004追加分），2005．4．
- 6) 三宅一昌，楠 正典，坂本長逸：関節リウマチ患者における長期NSAID投与による消化性潰瘍の治療；潰瘍予防効果の実態調査と潰瘍治療効果に対するPPIとPG製剤の前向き比較試験．第91回日本消化器病学会総会，2005．4．
- 7) 田中 周，三井啓吾，坂本長逸：小腸疾患に対する治療法の新たな可能性．第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2005．6．
- 8) 平塚哲郎，二神生爾，進藤智隆，濱本達彦，鈴木健司，楠 正典，進士陽子，植木信江，飯泉 匡，和田 謙，三宅一昌，津久井拓，岩切勝彦，坂本長逸：FD（functional dyspepsia）患者に対する<sup>13</sup>C-acetateを用いた胃排出能の検討．第37回胃病態機能研究会，2005．7．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 榎原義之，金沢秀典，片倉玲樹，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：肝硬変におけるterlipresinの全身および肝，腎血行動態へ及ぼす影響．第12回門脈圧亢進症学会，2005．9．
- (6) セミナー：
- 1) 岩切勝彦：食道内圧検査の実際，胃酸逆流のメカニズム評価と食道運動異常症の診断．第91回日本消化器病学会総会，2005．4．
- 2) 岩切勝彦：GERDの病態と治療，多彩な臨床像．日本消化器病学会関東支部第7回教育講演会，2005．6．
- 3) 藤森俊二：小腸疾患の診断と治療の新展開-カプセル&ダブルバルーン内視鏡．第2回日本消化管学会総会，2006．2．

#### (7) ワークショップ:

- 1) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 小腸疾患に対する治療法の新たな展開. 日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 4.
- 2) 藤森俊二, 岸田輝彦, 坂本長逸: Crohn病治療におけるbiotherapyの有用性. 第91回日本消化器病学会, 2005. 4.
- 3) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 小腸疾患に対する新たな展開-カプセル内視鏡とDouble-balloon法の実際. 第69回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 5.
- 4) 岩切勝彦, 林 良紀, 坂本長逸: バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴. 第91回日本消化器病学会総会, 2005. 6.
- 5) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴. 第58回日本食道学会学術集会, 2005. 6.
- 6) 藤森俊二, 瀬尾継彦, 永田和弘, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 山門 進, 吉田 豊, 岸田輝彦, 坂本長逸: 当科におけるカプセル内視鏡の使用経験. 第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 6.
- 7) 厚川正則, 金沢秀典, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変における門脈血栓症の特徴とTIPSによる治療. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 8) 檀 和夫, 山田 隆, 木村之彦<sup>1)</sup>, 薄井紀子<sup>2)</sup>, 岡本真一郎<sup>3)</sup>, 杉原 尚<sup>4)</sup>, 高井和江<sup>5)</sup>, 増田道彦<sup>6)</sup>, 森真由美<sup>7)</sup>, 高齢者血液腫瘍研究会<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科大学病院第一内科, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学血液・腫瘍内科, <sup>3)</sup>慶應義塾大学病院血液内科, <sup>4)</sup>川崎医科大学血液内科, <sup>5)</sup>新潟県市民病院血液科, <sup>6)</sup>東京女子医科大学病院血液内科, <sup>7)</sup>東京都老人医療センター血液科): 真性赤血球増加症および本態性血小板血症の病態と治療: 高齢者血液疾患研究会全国調査の後方視的解析. 第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 9) 二神生爾, 平塚哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 植木信江, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸: FD (functional dyspepsia) 患者に対する13C-acetateを用いた胃排出能の検討. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 10) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 蛋白漏出性胃腸症における小腸内視鏡検査. 第13回日本消化器関連学会週間, 2005. 10.
- 11) 橋原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 難治性腹水治療におけるTIPSと腹水穿刺あるいは腹腔静脈シャントとの比較. 日本肝臓学会, 2005. 10.
- 12) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸, 関田祥久, 岸田輝彦: カプセル内視鏡(VCE)とダブルバルーン内視鏡(DBE)の組み合わせによる小腸検査. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 13) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 蛋白漏出性胃腸症における小腸内視鏡検査. 消化器内視鏡学会総会, 2005.
- 14) 小林 剛, 田中 周, 三井啓吾, 江原彰仁, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝彦, 坂本長逸: 原因不明の消化管出血におけるカプセル内視鏡(VCE)およびダブルバルーン内視鏡(DBE)の効率的診断, 治療戦略の検討. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 15) 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 山門 進, 吉田 豊, 岸田輝彦, 坂本長逸: クロウン病治療におけるプロバイオティクス, プレバイオティクスの有効性と問題点. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.

#### (8) 一般講演:

- 1) Tanaka S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C: Double-balloon Endoscopy: A novel endoscopic technique for the treatment of small intestinal disease. The 4th Korea-Japan Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Seoul, Korea), 2005. 3.
- 2) Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Ehara A, Kobayashi T, Sekita Y, Seo T, Yonezawa M, Nagata K,

- Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Benefits of the double-balloon enteroscopy in occult gastrointestinal bleedings . The 4th korea-Japan Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy ( Seoul, Korea ), 2005 . 3 .
- 3) Tanaka S , Mitsui K , Tatsuguchi A , Ehara A , Kobayashi T , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : A Novel Endoscopic Technique for The Treatment of Small Intestinal Diseases .The 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association( Chicago, IL ), 2005 . 4 .
  - 4) Tamura H , Dan K , Satoh C , Kondo A , Yamashita T<sup>1)</sup> , Tsuji T<sup>1)</sup> , Tamada K<sup>2)</sup> , Nakamura K , Shioi Y , Hyodo H , Wang SD<sup>2)</sup> , Dong H<sup>3)</sup> , Chen L<sup>2)</sup> , Ogata K ( <sup>1)</sup> Department of Industrial Science and Technology, Tokyo University of Science , <sup>2)</sup> The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins, Baltimore , <sup>3)</sup> Department of Urology, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota ) : Expression of B7 family molecules on blasts of patients with myelodysplastic syndromes and de novo acute myeloid leukemia . 8th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes ( Nagasaki ), 2005 . 5 .
  - 5) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C , Holloway R : Defective Triggering of Secondary Peristalsis in Patients With Non -Erosive Reflux Disease ( NERD ) . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 6) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C , Holloway R : Differences in Air Reflux Patterns During Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations ( TLESRS ) Between Patients With Reflux Disease and Healthy Subjects . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 7) Fujimori S , Kishida T , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Mitsui K , Seo T , Nagata K , Yonezawa M , Shibata Y , Tanaka S , Tatsuguchi A , Gudis K , Yokoi K , Tanaka N , Yamashita K , Tajiri T<sup>1)</sup> , Ohaki Y , Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School : First Department of Surgery ) : Helicobacter pylori Infection Increases the Risk of Colorectal Adenoma and Adenocarcinoma Especially in Women . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 8) Futagami S , Hiratsuka T , Tatsuguchi A , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Kusunoki M , Shinji Y , Shinoki K , Suzuki K , Wada K , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Cox-2 Expression Induced By Cd40 Engagement in Mesenchymal Cells Associated With Gastric Cancer Is Involved in Angiogenesis Via VEGF and Ccr2 Upregulation and the Anti-Apoptotic Effect . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 9) Seo T , Tatsuguchi A , Wada K , Yonezawa M , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Mitsui K , Nagata K , Shibata Y , Tanaka S , Fujimori S , Gudis K , Kishida T , Sakamoto C : The Clinical Significance of mPGES-1 Expression in Colorectal Cancer . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 10) Tatsuguchi A , Guo H , Fujimori S , Gudis K , Kishida T , Sakamoto C : Cyclooxygenase -2 Expression Correlates With Membrane-Type-1 Matrix Metalloproteinase Expression in Colorectal Cancer Tissue . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 11) Gudis K , Sakamoto C : Induced Microsomal Prostaglandin E Synthase-1 ( mPGES-1 ) Is Involved In Vascular Endothelial Growth Factor ( VEGF ) Release in Gastric Fibroblasts . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
  - 12) Futagami S , Hiratsuka T , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Shinji Y , Suzuki K , Kusunoki M , Shinoki K , Wada K , Gudis K , Miyake K , Ohashi K , Takahashi H , Tsukui T , Sakamoto C : Gamma-Delta T Cells

Accumulate With Gastric Mucosal IL-7, IL-1beta, and *H. Pylori* Urease Specific Immunoglobulin Levels Via Up-regulating Ccr2 in *H. Pylori* Gastritis . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .

- 13) Wada K , Nagata K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : TGA-A Is Induced By *Helicobacter Pylori* and IL-1b in Gastric Epithelial Cells . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
- 14) Mitsui K , Tanaka S , Tatsuguchi A , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Perspective of Double-Balloon Enteroscopic Diagnoses of Small Intestinal Diseases . The 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
- 15) Ehara A , Mitsui K , Tanaka S , Tatsuguchi A , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Double-balloon endoscopy for diagnoses of small bowel tumors . 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago, IL ), 2005 . 5 .
- 16) Tamura H , Kamegai J , Simizu T , Ishii S , Kano T , Isizaki A , Sugihara H , Oikawa S : Neuropeptide W inhibit growth hormone secretion via growth hormone-releasing hormone-containing neurons in adult male rats . The Endocrine Society's 87th Annual Meeting ( San Diego, CA, USA ), 2005 . 6 .
- 17) Shimonaka M<sup>1)</sup>, Emoto N , Ashizawa M , Hayashi M<sup>1)</sup>, Matsui K<sup>1)</sup>, Oikawa S , Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Chemistry, Tokyo University of Science , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School ): The mitogenic effect of thyroglobulin extracted from bovine, porcine and human thyroids on FRTL-5 rat thyroid cells . The Endocrine Society ' s 87th annual meeting ( San Diego, California, USA ), 2005 . 6 .
- 18) Emoto N , Ashizawa M , Oikawa S , Shimizu K<sup>1)</sup>, Toyoda A<sup>2)</sup>, Toyoda H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Bio-analytical Chemistry, Chiba University ): Structural analysis of chondroitin sulfate of human thyroglobulin purified from normal thyroids and papillary thyroid carcinomas. . The Endocrine Society ' s 87th annual meeting ( San Diego, California, USA ), 2005 . 6 .
- 19) Tanosaki S , Inokuchi K , Sawaguchi K , Takeuchi J , Tamai I , Okamoto M , Uchida N , Watanabe A , Inami M , Yamaguchi H , Dan K : Hematopoietic differentiation of ES cells from P230 Bcr/ Abl transgenic mouse . 47th Annual Meeting of American Society of Hematology ( Atlanta, Georgia ), 2005 . 12 .
- 20) Uchida N, Hanawa H, Inokuchi K, Dan K, Shimada T : Leukemogenesis of the b2a2 type p210 BCR/ ABL in a bone marrow transplantation mouse model using a Lentivirus vector . 47th American Society of Hematology annual meeting , 2005 . 12 .
- 21) Ogata K, Kishikawa Y, Shimazaki T, Satoh C, Tamura H, Otsuka Y, Dan K, Hayashi A, Shimazu M : Flow cytometric Characteristics of CD34+ cells in refractory anemia Their diagnostic Value . 47th American Society of Hematology annual meeting , 2005 . 12 .
- 22) Emoto N , Shimonaka M<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Matsui Y<sup>1)</sup>, Akasu H<sup>2)</sup>, Kitagawa W<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Chemistry, Tokyo University of Science , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School ): The mitogenic effect of thyroglobulin extracted from bovine, porcine and human thyroids on FRTL-5 rat thyroid cells . The 17th annual meeting of Asia-Pacific endocrine conference ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2006 . 1 .
- 23) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C , Holloway RH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Pattern of acid reflux during transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs) differ among patients with mild and severe reflux esophagitis and healthy subjects . 10th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus. ( Adelaide, Australia ), 2006 . 2 .
- 24) Gudis K , Tatsuguchi A , Wada K , Futagami S , Nagata K , Hiratsuka T , Shinji Y , Miyake K , Tsukui T ,

- Fukuda Y, Sakamoto C : Micro Prostaglandin E Synthase (MPGES)-1, MPGES-2 and Cytosolic PGES Expression in Human Gastritis and Gastric Ulcer Tissue . Shimoda, Japan , 2005 . 4 .
- 25) Tatsuguchi A , Guo H , Fujimori S , Gudis K , Kishida T , Sakamoto C : Cyclooxygenase-2 expression correlates with membrane-type-1 matrix metalloproteinase expression in colorectal cancer tissue . The 11th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology , 2005 . 4 .
- 26) Gudis K , Tatsuguchi A , Wada K , Futagami S , Nagata K , Hiratsuka T , Shinji Y , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Microsomal prostaglandin E synthase (mPGES) -1, mPGES-2 and cytosolic PGES expression in human gastritis and gastric ulcer tissue . The 11th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology , 2005 . 4 .
- 27) Tatsuguchi A , Sakamoto C : Cyclooxygenase-2 expression correlates with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer tissue . 6th International Gastric Cancer Congress , 2005 . 4 .
- 28) Tatsuguchi A , Guo H , Fujimori S , Gudis K , Kishida T , Sakamoto C : Cyclooxygenase-2 Expression Correlates with Membrane-Type-1 Matrix Metalloproteinase Expression in Colorectal Cancer Tissue . Shimoda, Japan , 2005 . 4 .
- 29) 近藤麻加 , 田野崎栄 , 兵働英也 , 中村恭子 , 田近賢二 , 猪口孝一 , 緒方清行 , 檀 和夫 : マクログロブリン血症に悪性リンパ腫を合併した1例 . 第152回日本臨床血液学会例会 , 2005 . 2 .
- 30) 近藤麻加 , 田野崎栄 , 兵働英也 , 中村恭子 , 田近賢二 , 猪口孝一 , 緒方清行 , 檀 和夫 : マクログロブリン血症に悪性リンパ腫を合併した1例 . 日本臨床血液学会例会 , 2005 . 4 .
- 31) 平塚哲郎 , 二神生爾 , 濱本達彦 , 進藤智隆 , 鈴木健司 , 楠 正典 , 植木信江 , 篠木 啓 , 和田 謙 , 三宅一昌 , 津久井拓 , 坂本長逸 : 当科で経験したFD ( Functional dyspepsia ) 患者に対する<sup>13</sup>C-acetateを用いた胃排出能の検討 . 第91回日本消化器病学会総会 , 2005 . 4 .
- 32) 津久井拓 , 進士陽子 , 篠木 啓 , 進藤智隆 , 濱本達彦 , 植木信江 , 楠 正典 , 鈴木健司 , 飯泉 匡 , 平塚哲郎 , 西垣 均 , 辰口篤志 , 二神生爾 , 和田 謙 , Gudis K , 三宅一昌 , 坂本長逸 : ヒト培養胃線維芽細胞のVEGF発現とプロスタグランジンE配合酵素 (PGES) . 第91回日本消化器病学会総会 , 2005 . 4 .
- 33) 林 良紀 , 岩切勝彦 , 田中由理子 , 琴寄 誠 , 川上明彦 , 坂本長逸 : HP感染の胃食道逆流に及ぼす影響 . 日本消化器病学会 , 2005 . 4 .
- 34) 辰口篤志 , 藤森俊二 , 田中 周 , 永田和弘 , 柴田喜明 , 米澤真興 , 瀬尾継彦 , 三井啓吾 , 岸田輝幸 , 坂本長逸 : ヒト大腸癌組織におけるシクロオキシゲナーゼ2と膜型マトリックスメタロプロテアーゼ1の発現 . 第91回日本消化器病学会総会 , 2005 . 4 .
- 35) 木村 祐 , 金沢秀典 , 中塚雄久 , 吉沢雅史 , 長田祐二 , 間宮康貴 , 榎原義之 , 滝 保彦 , 厚川正則 , 片倉玲樹 , 城所秀子 , 福田 健 , 張本滉智 , 坂本長逸 : 進行肝細胞癌に対するIFN併用low dose FP肝動注療法とlow dose FP肝動注療法の比較試験 . 第91回日本消化器病学会総会 , 2005 . 4 .
- 36) 滝 保彦 , 金沢秀典 , 中塚雄久 , 長田祐二 , 間宮康貴 , 榎原義之 , 木村 祐 , 厚川正則 , 片倉玲樹 , 城所秀子 , 水口淳子 , 張本滉智 , 福田 健 , 坂本長逸 : 慢性肝疾患における全身肝血行動態に関する検討 . 第91回日本消化器学会総会 , 2005 . 4 .
- 37) 田中 周 : 小腸内視鏡の新たな可能性 : 小腸の診断と治療をめぐって . 第1回SMS臨床消化器病研究会 , 2005 . 4 .
- 38) 岩切勝彦 , 林 良紀 , 琴寄 誠 , 田中由理子 , 川上明彦 , 坂本長逸 : 一過性LES弛緩は胃食道逆流 (GER) の主な原因であるが , 逆流性食道炎 (RE) 発症の原因ではない . 第7回日本国際消化管運動機能研究会 , 2005 . 5 .
- 39) 林 良紀 , 岩切勝彦 , 琴寄 誠 , 田中由理子 , 川上明彦 , 坂本長逸 : 食道運動機能からみたnon-erosive reflux disease (NERD) の病態 . 第7回日本国際消化管運動機能研究会 , 2005 . 5 .
- 40) 田中 周 : 新しい小腸内視鏡検査法をめぐって . 胃と腸 座談会 , 2005 . 5 .
- 41) 田中 周 : ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸内視鏡検査法 . 第69回日本消化器内視鏡学会総会 , 2005 . 5 .



- 42) 高橋陽子, 田中 周, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 慢性甲状腺炎を合併した Cronkhite-Canada 症候群の1例. 第284回消化器病学会関東支部例会, 2005. 5.
- 43) 岡島史宜, 栗原美樹子, 谷村恭子, 小野千速, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 膵 細胞のインスリン分泌能に対する過酸化資質の影響. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 44) 小野千速, 岡島史宜, 中島 泰, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 血清アディポネクチン濃度とメタボリックシンドローム. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 45) 谷村恭子, 中島 泰, 小野千速, 城所 葉, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: 2型糖尿病患者に対するインスリン治療と血清 adiponectin の変化. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 46) 中島 泰, 岡島史宜, 谷村恭子, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: 経過中に抗GAD抗体が陽性となった劇症1型糖尿病の1例. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 47) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸: NERD患者では空気注入による2次蠕動波出現率が健常者に比べ有意に低下している. 第59回日本食道学会学術集会, 2005. 6.
- 48) 江原彰仁, 山門 進, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 潰瘍性大腸炎に合併した大腸 Inflammatory Fibroid Polyp の1例. 第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 6.
- 49) 吉村 稔<sup>1)</sup>, 井畑絵里<sup>1)</sup>, 畑中一志<sup>1)</sup>, 緒方清行, 樋口敬和<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 茅ヶ崎徳洲会総合病院中央検査室, <sup>2)</sup> 昭和大学藤が丘病院内科血液): 著しい球状赤血球症を合併した Clostridium perfringens によるガス壊疽の1例. 第6回日本検査血液学会総会, 2005. 7.
- 50) 瀬尾継彦, 辰口篤志, 進士誠一<sup>1)</sup>, 古川清憲, 福田 悠<sup>2)</sup>, 岸田輝幸, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第1): 大腸癌における膜型 PGE 合成酵素 (mPGES)-1 の発現. 第63回大腸癌研究会, 2005. 7.
- 51) 飯泉 匡, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPS の長期予後に関する検討. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 7.
- 52) 福田 健, 林 良紀, 榎原義之, 張本滉智, 水口淳子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 特異な肝内血流異常を呈した特発性門脈圧亢進症の1例. 日本消化器病学会 第285回関東支部例会, 2005. 7.
- 53) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一: 大腸ホルモン Peptide YY (3-36) は GH 分泌を調節する. 第78回 日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 54) 杉原 仁, 田村秀樹, 石井新哉, 岡島史宜, 谷村恭子, 中島 泰, 亀谷 純, 及川眞一: 成長ホルモン, インスリン様成長因子が脂肪細胞のアディポネクチン, 血管内皮増殖因子に与える影響. 第78回 日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 55) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一: 消化管ホルモン Peptide YY (3-36) による GH 分泌調節作用. 第32回 日本神経内分泌学会, 2005. 7.
- 56) 石井新哉, 亀谷 純, 田村秀樹, 加納稔子, 杉原 仁, 及川眞一: レジスチンは Neuropeptide Y (NPY) を介し摂食を抑制する. 第32回 日本神経内分泌学会, 2005. 7.
- 57) 岡島史宜, 小野千速, 中島 泰, 谷村恭子, 及川眞一: 血清アディポネクチン濃度とメタボリックシンドローム. 第37回日本動脈硬化学会総会, 2005. 7.
- 58) 中島 泰, 小野千速, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 小竹英俊<sup>1)</sup>, 杉原 仁, 及川眞一 (<sup>1)</sup> 仙台赤十字病院): 耐糖能異常患者の血清脂質, アディポサイトカインに及ぼす塩酸ピオグリタゾンの影響について. 第37回日本動脈硬化学会総会, 2005. 7.
- 59) 谷村恭子, 熊本 基<sup>1)</sup>, 田辺義博<sup>2)</sup>, 江本直也, 宗像一雄<sup>3)</sup>, 中島 泰, 岡島史宜, 及川眞一 (<sup>1)</sup> クマモトクリ

- ニック, <sup>2)</sup> 下館市民病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学第二病院): 肥満高血圧患者における 1 受容体遮断薬 (ブナゾン: デタントールR) の代謝因子に対する影響. 第37回日本動脈硬化学会総会, 2005. 7.
- 60) 江本直也, 芦沢真代, 及川眞一, 松井康蔵<sup>1)</sup>, 林もゆる<sup>1)</sup>, 中下基之<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京理科大学理学部化学科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学第2): 精製ブタおよびヒトサイログロブリンの細胞増殖刺激作用. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 61) 田野崎栄, 稲見光春, 沢口和宏, 竹内純子, 玉井勇人, 岡本宗雄, 内田直也, 渡辺綾子, 山口博樹, 猪口孝一, 檀 和夫: P230 Bcr/Abl トランスジェニックマウスES細胞を用いた血液細胞分化の解析. 第67回日本血液学会, 第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 62) 稲見光春, 猪口孝一, 檀 和夫: 当施設におけるグリバック使用経験. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 63) 山下泰史<sup>1)</sup>, 田村秀人, 佐藤千香子<sup>2)</sup>, 近藤麻加, 緒方清行, 檀 和夫, 辻 孝<sup>3)</sup>, Lieping C<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第3, 東京理大基礎工, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学第3, 同老人病研究所生体機能制御学, <sup>3)</sup> 東京理大基礎工, <sup>4)</sup> シドニーキメル癌セ): 骨髄腫細胞における補助刺激分子B7-H2 (ICOSL) の発現. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 64) 近藤麻加, 田村秀人, 佐藤千賀子<sup>1)</sup>, 山下泰史<sup>2)</sup>, 中村恭子, 塩井由美子, 兵働英也, 檀 和夫, 緒方清行, 辻 孝<sup>3)</sup>, 玉田耕治<sup>4)</sup>, Chen L<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第3, 同老人病研究所生体機能制御学, <sup>2)</sup> 同内科学第3, 東京理大基礎工, <sup>3)</sup> 東京理大基礎工, <sup>4)</sup> Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins): 急性骨髄性白血病 (AML) および骨髄異形成症候群 (MDS) における B7 family 分子の発現. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 65) 山口博樹, 松本尚子<sup>1)</sup>, 柿原史子<sup>1)</sup>, 長谷川節雄<sup>1)</sup>, 猪口孝一, 檀 和夫 (<sup>1)</sup> 関野臨床薬理クリニック): 新規遺伝子解析装置を用いた本邦における G-CSF 受容体 (G-CSFR) 遺伝多型の頻度解析. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 66) 横瀬紀夫<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 塩井由美子, 緒方清行, 檀 和夫 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 付属病院病理部): 細胞内CD20陽性・細胞表面CD20陰性を示したCD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 67) 竹内純子, 山口博樹, 渡辺綾子, 沢口和宏, 小坂文子, 猪口孝一, 檀 和夫: 本邦の骨髄不全症における TERC 遺伝子異常の検索. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 68) 田村秀人, 山下泰史<sup>1)</sup>, 佐藤千香子<sup>2)</sup>, 岡本宗雄, 渡辺綾子, 近藤麻加, 緒方清行, 檀 和夫 (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第3, 東京理大基礎工, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学第3, 同老人病研究所生体機能制御学): 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) に合併した Pure white cell aplasia (PWCA) の1症例. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会 合同総会, 2005. 9.
- 69) 岸川佳史<sup>1)</sup>, 島崎朋子<sup>1)</sup>, 大塚喜彦<sup>1)</sup>, 林 明男<sup>1)</sup>, 島津光伸<sup>1)</sup>, 緒方清行 (<sup>1)</sup> 三菱化学ピーシーエル研究開発部): フローサイトメトリーによる不応性貧血の診断法. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会, 2005. 9.
- 70) 水木太郎, 田近賢二, 玉井勇人, 山口博樹, 中村恭子, 田村秀人, 田野崎栄, 檀 和夫: 房中隔欠損症合併同胞間骨髄移植の1例. 第67回日本血液学会, 第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 71) 玉井勇人, 山口博樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫, 秋山秀樹<sup>1)</sup>, 坂巻 寿<sup>1)</sup>, 豊田茂男<sup>2)</sup>, 浜口弘之<sup>3)</sup>, 富山順治<sup>4)</sup>, 五味聖二<sup>5)</sup>, 小林祥子<sup>6)</sup>, 村井善郎<sup>6)</sup>, 藤田 彰<sup>7)</sup> (<sup>1)</sup> 都立駒込病院, <sup>2)</sup> 横須賀共済病院, <sup>3)</sup> 日赤武蔵野赤十字病院, <sup>4)</sup> 都立墨東病院, <sup>5)</sup> 横浜南共済病院, <sup>6)</sup> 多摩北部医療センター, <sup>7)</sup> 公立昭和病院): 本邦における成人急性白血病11q23/MLLに関する fusion partner 別の予後追跡調査. 第67回日本血液学会, 第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 72) 平塚哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 飯泉 匡, 和田 謙,

- 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸: 当科における Functional dyspepsia 患者の病態に関する検討. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 9.
- 73) 鈴木健司, 間宮康貴, 張本滉智, 福田 健, 水口淳子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 長田祐二, 辰口篤志, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝原発と考えられたガストリノーマの1例. 日本消化器病学会, 2005. 9.
- 74) 田中由理子, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸: Nutcracker esophagusの1例. 第286回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 9.
- 75) 山脇秀元, 辰口篤志, 田中 周, 三井啓吾, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 非定型抗酸菌症に合併した空腸の MALT リンパ腫の1例. 第22回文京消化器内視鏡研究会, 2005. 9.
- 76) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 小腸内視鏡の新たな可能性: 小腸の診断と治療をめぐって. 第6回千駄木消化器癌セミナー, 2005. 9.
- 77) 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPSの効果に乏しい難治性腹水例に関する検討. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 78) 滝 保彦, 金沢秀典, 張本滉智, 福田 健, 城所秀子, 水口淳子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: II型肝腎症候群を伴う難治性腹水患者に対する TIPS. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 79) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 吉野慎一<sup>1)</sup>, 坂本長逸(<sup>1)</sup>リウマチ科): 長期NSAIDs使用関節リウマチ患者における胃潰瘍発症部位に関わる内視鏡的・臨床病理学的特徴. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 10.
- 80) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の相違. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 10.
- 81) 藤森俊二, 三井啓吾, 今井冬樹<sup>1)</sup>, 藤岡桂子<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸(<sup>1)</sup>フィプロ製薬・メディカル事業部): 寛解期潰瘍性大腸炎の便通異常に対するサイリウム種皮の有用性. 第47回日本消化器病学会総会, 2005. 10.
- 82) 滝 保彦, 金沢秀典, 城所秀子, 水口淳子, 張本滉智, 福田 健, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPS前後の肝腎血行動態変化に関するドップラー超音波検査による検討. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 83) 平塚哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: マウスにおける indomethacin 起因性胃粘膜傷害に対する rebamipide の粘膜防御メカニズムの検討. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 84) 進藤智隆, 二神生爾, 鈴木健司, 平塚哲郎, 濱本達彦, 植木信江, 進士陽子, 楠 正典, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 胃癌病変における APE (apurinic/aprimidinic endonuclease) 発現の検討: *H. pylori* 発癌モデルを用いて. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 85) 二神生爾, 平塚哲郎, 濱本達彦, 進藤智隆, 鈴木健司, 植木信江, 楠 正典, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, Gudis K, 坂本長逸: *H. pylori* 感染胃粘膜における V 1 と V 2 T cell の局在と胃粘膜防御におよぼす役割. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 86) 榎原義之, 金沢秀典, 片倉玲樹: 難治性腹水に対する TIPS の遠隔治療成績. 第7回肝不全治療研究会, 2005. 10.
- 87) 岡島史宜, 中島 泰, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 血清アディポネクチン濃度とメタボリックシンドローム. 第26回日本肥満学会, 2005. 10.
- 88) 川見典之, 平塚哲郎, 濱本達彦, 進藤智隆, 鈴木健司, 植木信江, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 二神生爾,

- 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: 早期胃癌にESD施行中粘膜下腫瘍発見し同時に切除した1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 89) 高橋陽子, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 間宮康孝, 辰口篤志, 中塚雄久, 岸田輝幸, 坂本長逸, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1): 門脈圧亢進性腸症(PHE)の1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 90) 松下洋子, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸: 送気下小腸鏡と比較してカプセル内視鏡で確認が容易であった空腸Angiodysplasiaの1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 91) 江本直也, 豊田亜希子<sup>1)</sup>, 豊田英尚<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>2)</sup>, 北川 亘<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室, <sup>2)</sup>日本医科大学外科学第2): 甲状腺乳頭癌におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸の組成変化. 第48回日本甲状腺学会, 2005. 11.
- 92) 脇田知志, 山口博樹, 岡部雅弘, 竹内純子, 玉井勇人, 中村恭子, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 骨髓線維症の髄外造血による胸水貯留に対して低用量放射線照射が有効だった1例. 第154回日本臨床血液学会例会, 2005. 11.
- 93) 川見典之, 片倉玲樹, 平塚哲郎, 濱本達彦, 田中由理子, 進藤智隆, 鈴木健司, 植木信江, 進士陽子, 楠 正典, 林 良紀, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 二神生爾, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 抗ARS抗体症候群に合併した胃癌, 食道癌切除後に間質性肺炎が自然軽快した1例. 第287回日本消化器病学会関東地方会, 2005. 12.
- 94) 植木信江, 三宅一昌, 進藤智隆, 濱本達彦, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: メトロニダゾールとアモキシシリンを用いた*H. pylori*二次除菌におけるクラリスロマイシンの付加的効果に関する検討. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 95) 藤森俊二, 関田祥久, 篠澤 功, 琴寄 誠, 吉澤雅史, 岸田輝幸, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 血清葉酸値は大腸腺腫を有する男性で低値を示す. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 96) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸: 当院におけるカプセル内視鏡の現状と問題点. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 97) 平塚哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 飯泉 匡, 岩切勝彦, 坂本長逸: FD (functional dyspepsia) 患者に対する<sup>13</sup>C - acetateを用いた胃排出能の検討. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 98) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 鈴木健司, 進士陽子, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸, 中島敦夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院リウマチ科): 発生部位に基づいた長期NSAIDs服用関連胃潰瘍の臨床的・内視鏡的特徴. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 99) 二神生爾, 鈴木健司, 平塚哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 楠 正典, 辰口篤志, 和田 謙, 三宅一昌, 坂本長逸, 津久井拓: 選択的COX-2阻害剤による胃癌発生抑制の検討. 第2回日本消化管学会総会学術集会, 2006. 2.
- 100) 山脇秀元, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1): 下血を繰り返し, ダブるバルーン法による小腸内視鏡により同定し得た, 非定型抗酸菌症に合併した空腸のMALTリンパ腫の1切除例. 第288回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 2.
- 101) 藤森俊二, 関田祥久, 篠澤 功, 琴寄 誠, 吉澤雅史, 岸田輝幸, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 血性葉酸値は大腸腺腫を有する男性で低値

- を示す．第2回日本消化管学会総会，2006．2．
- 102) 岡部雅弘，田野崎栄，北村由里，脇田知志，近藤麻加，兵働英也，中村恭子，山口博樹，山田 隆，緒方清行，田近賢二，猪口孝一，檀 和夫：亜硫酸（ATO）投与による好中球減少にG-CSFを併用し寛解を得た急性前骨髄球性白血病再発例．第155回日本臨床血液学会例会，2006．3．
- 103) 田中 周：小腸内視鏡の実際：ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡．第8回 札幌臨床腫瘍フォーラム，2006．3．
- 104) 新真理子，加納稔子，石崎 晃，今城麻美，原田太郎，中島 泰，谷村恭子，岡島史宜，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一：原発巣不明の異所性ACTH症候群．第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2006．3．
- 105) 今城麻美，石井新哉，石井雄道<sup>1)</sup>，田原重志<sup>1)</sup>，加納稔子，原田太郎，石崎 晃，岡島史宜，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，亀谷 純，杉原 仁，寺本 明<sup>1)</sup>，及川眞一（<sup>1)</sup>脳神経外科学）：パセドウ病に先端巨大症を合併した1例．第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2006．3．
- 106) 原田太郎，加納稔子，石崎 晃，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一，岡島史宜：視床下部性副腎皮質機能低下症の経過．第16回臨床内分泌代謝Update，2006．3．
- 107) 北村由梨，田村秀樹，加納稔子，中島 泰，谷村恭子，石井新哉，周東祐仁，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一，岡島史宜：副腎腺種によるクッシング症候群手術9年後に，ACTH単独欠損症を診断した症例．第16回臨床内分泌代謝Update，2006．3．
- 108) 加納稔子，中島 泰，今城麻美，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純，杉原 仁，及川眞一，岡島史宜：糖尿病足壊その改善に伴ってIGF-1の上昇を認めた先端巨大症の1例．第16回臨床内分泌代謝Update，2006．3．
- 109) 岡部雅弘，田野崎栄，北村由梨，脇田知志，近藤麻加，兵働英也，中村恭子，山口博樹，山田 隆，緒方清行，田近賢二，猪口孝一，檀 和夫：亜硫酸（ATO）投与による好中球減少にG-CSFを併用し寛解を得た急性前骨髄球性白血病再発例．第155回日本臨床血液学会例会，2006．3．
- 110) 榎原義之：TIPSによる難治性腹水の治療．第1回消化器病クロスファイア，2006．6．
- (9) スポンサーフォーラム：
- 1) 岩切勝彦：食道運動機能からみた軽症逆流性食道炎の病態と治療．第2回日本消化管学会総会学術集会，2006．2．

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院呼吸器内科 ]

#### 研究概要

(炎症) IIPsの活動性指標, KL-6, SP-D, ANCAの推移解析, NAC療法, 免疫抑制療法, 付随する免疫不全状態での感染病態の治療, 評価, 慢性気道炎症 (DPBと類縁疾患) に対するマクロライド療法, 作用機序解析, サルコイドーシス眼病変合併肺病変の解析を行っている. 間質性肺炎・肺線維症の病態に関して肺傷害と修復に関わる因子, 細胞・組織再生の基礎的理解をプレオマイシン, 放射線肺障害マウスモデルで解析している. 大気環境の健康被害影響解明のためディーゼル排気粒子曝露の影響を検討している.

(呼吸生理) COPDと睡眠時無呼吸症候群 (SAS) を生活習慣病として位置づけ研究・包括的治療を行った (特に栄養と運動, COPDと動脈硬化, %LAAと呼吸機能の比較などの研究が進行中). 患者教育に関する英国の大学との共同研究を継続している. また局地大気汚染による健康影響に関する疫学調査設計の検討や離島での大気汚染と呼吸NOとの関係の研究, COPDの疫学調査, 咳嗽音の音響学的検討, 咳嗽カウンターの開発, SAS患者での肥満と動脈硬化の検討など研究を国際学会で発表し論文化した.

(癌) 新薬を含む併用療法, 有合併症症例の治療, 個別化治療 (イレッサ感受性に関する変異解析やCPT-11の副作用に関する遺伝子多型解析等を研究), 抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づいたレジメン開発 (初回化学療法不応例でのCBDCA + PTX), 副作用対策等を行っている. 副作用に関してイレッサ肺障害での臨床研究の中心的施設として参加している. CPT-11の副作用対策として腸管循環抑制や遺伝子多型による予測等の研究を行っている. 個別化治療の基礎的研究として感受性, 副作用予測の研究を展開している. 肺癌の発癌, 増殖に関わる研究を遺伝子レベルで行ない, 発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し, 特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kokubo Y, Gemma K, Noro R, Seike M, Kataoka K, Matsuda K, Okano T, Minegishi Y, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S (<sup>1</sup>) Division of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Cancer and Infection center, Komagome Hospital): Reduction of PTEN protein and loss of epidermal growth factor receptor gene mutation in lung cancer with natural resistance to gefitinib (IRESSA). British journal of cancer 2005; 92: 1711-1719.
- 2) Kamio K, Matsushita I, Hijikata M, Tanaka G, Nakata K, Tokunaga K, Kobayashi Y, Taguchi Y, Homma S, Nakata K, Azuma A, Kudoh S, Keicho N: Promoter analysis and aberrant expression MUC5B gene in diffuse panbronchiolitis. Am J Respir Crit Care Med 2005; 171: 949-957.
- 3) Azuma A, Nukiwa T, Tsuboi E, Suga M, Abe S, Nakata K, Taguchi Y, Nagai S, Itoh H, Ohi M, Sato A, Kudoh S: A Double Blind And Placebo-Controlled Clinical Study Of Pirfenidone In Patients With Idiopathic Pulmonary Fibrosis. Am J Respir Crit Care Med 2005; 171: 1040-1047.
- 4) Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobayashi G, Washio M, Inaba Y, Tanaka H: Case-control study of medical history of medical history and Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan. Respirology 2005; 10 (4): 504-509.
- 5) Hiramatsu K, Saito Y, Sakakibara K, Azuma A, Takizawa H<sup>1)</sup>, Sugawara I<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>) Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>2</sup>) Mycobacterial Reference center,

- The Research Institute of Tuberculosis, Tokyo, Japan ): The effects of inhalation of diesel exhaust on murine mycobacterial infection . *Experimental Lung Research*. 2005 ; 31 ( 4 ): 405-415 .
- 6 ) Katsura H<sup>1)</sup>, Yamada K , Kida K ( <sup>1)</sup> Pulmonary Division, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center ): Both generic and disease specific health-related quality of life are deteriorated in patients with underweight COPD . *Respir Med* 2005 ; 99 ( 5 ): 624-630 .
  - 7 ) Miyake Y , Sasaki S , Yokoyama T , Chida K , Azuma A , Suda T , Kudoh S , Sakamoto N , Okamoto K , Kobayashi G , Washio M , Inaba Y , Tanaka H : Occupational and Environmental Factors and Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan . *Annals of Occupational Hygiene* 2005 ; 49 ( 3 ): 259-265 .
  - 8 ) Sakai F , Noma S , Kurihara Y , Yamada Y , Azuma A , Kudoh S , Ichikawa S : Leflunomide-related lung injury in patients with rheumatoid arthritis : imaging features . *Modern Rheumatology* 2005 ; 6 : 173-179 .
  - 9 ) Azuma A , Kudoh S : Editorial : Securing Safety and Efficacy of Macrolide Therapy for Chronic Small Airway Disease . *Internal Medicine* 2005 ; 44 ( 3 ): 167-168 .
  - 10 ) Azuma A : Editorial : Shared Mechanisms of Lung Injury and Subsequent Fibrosis. -Role of Surfactant Pathogenesis of Interstitial Pneumonia in hermansky-Pudlak Syndrome- . *Internal Medicine* 2005 ; 44 ( 6 ): 529-530 .
  - 11 ) Katsura H<sup>1)</sup>, Yamada K , Wakabayashi R , Kida K ( <sup>1)</sup> First Department of Medicine, Tokyo Women ' s Medical University ): The impact of dyspnea and leg fatigue during exercise on health-related quality of life in patients with underweight COPD . *Respiratory* 2005 ; 10 ( 4 ): 485-490 .
  - 12 ) Seike M<sup>1)</sup>, Kondo T<sup>1)</sup>, Fujii K<sup>1)</sup>, Okano T<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Matsuno Y<sup>2)</sup>, Gemm A , Kudoh S , Hirohashi S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Cancer Proteomics Project, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan , <sup>2)</sup> Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan. ) : Proteomic signatures for histological types of human cancer . *Proteomics* 2005 ; 5 ( 11 ): 2939-2948 .
  - 13 ) Hiramatsu K<sup>1)</sup>, Niederman MS<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Division of Pulmonary and Critical Care Medicine, Winthrop-University Hospital ): Health-care-associated pneumonia : a new therapeutic paradigm . *Chest* 2005 ; 128 ( 6 ): 3784-3787 .
  - 14 ) Kobayashi K , Green J , Shimonagayoshi M , Kanemoto N , Kasai R , Itoh Y , Fujiki U , Ohashi Y , Gotay C , Kudoh S : Validation of the care notebook for measuring physical, mental and life well-being of patients with cancer . *Quality of Life Research* 2005 ; 47 : 142-148 .
  - 15 ) Li YJ , Azuma A , Usuki J , Abe S , Matsuda K , Sunazuka T<sup>3)</sup>, Shimizu T , Hirata Y , Inagaki H , Kawada T<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>2)</sup>, Kudoh S , Omura S<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba , <sup>3)</sup> Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato University ): EM703 improves bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice by the inhibition of TGF-beta signaling in lung fibroblasts . *Respir Res* 2006 ; 7 ( 1 ) .
  - 16 ) Miyake Y , Sasaki S , Yokoyama T , Chida K , Azuma A , Suda T , Kudoh S , Sakamoto N , Okamoto K , Kobayashi G , Washio M , Inaba Y , Tanaka H : Dietary Fat and Meat Intake and Idiopathic Pulmonary Fibrosis : A Case-control Study in Japan . *International Journal of Tuberculosis and Lung Disease* 2006 ; 10 ( 3 ): 333-339 .
  - 17 ) Okano T , Gemma A , Hosoya Y , Hosomi Y , Nara M , Kokubo Y , Yoshimura A , Shibuya M , Nagashima M , Harris Cc , Kudoh S : Alterations in novel candidate tumor suppressor genes, ING1 and ING2 in human lung cancer . *Oncol Rep*. 2006 ; 15 ( 3 ): 545-549 .
  - 18 ) 齊藤好信, 吾妻安良太, 工藤翔二 : 特発性肺線維症 . 呼吸と循環 2005 ; 53 ( 7 ): 751-755 .
  - 19 ) 伊藤永喜, 村田 朗, 山本和男, 木田厚瑞, 工藤翔二 : 呼吸障害者の療養実態とテレメディスンに関する意識

調査．日本呼吸管理学会誌 2005；15（2）：276-282．

- 20) 榎本達治<sup>1)</sup>，吾妻安良太，松本亜紀，根井貴仁，平松久弥子，阿部信二，白杵二郎，工藤翔二（<sup>1</sup>）都立広尾病院呼吸器科）：ステロイド療法中の間質性肺炎患者に発症したニューモシスチス肺炎の臨床的検討．日本呼吸器学会雑誌 2005；43（12）：725-730．
- 21) 奥村昌夫<sup>1)</sup>，岩井和郎<sup>1)</sup>，尾形英雄<sup>1)</sup>，吉山 崇<sup>1)</sup>，吉森浩三<sup>1)</sup>，水谷清二<sup>1)</sup>，杉田博宣<sup>1)</sup>，吾妻安良太，工藤翔二（<sup>1</sup>）結核予防会複十字病院）：肺 Mycobacterium avium complex（MAC）症の結核類似空洞型と結節性気管支拡張型，その発症要因ならびに予後因子に関する臨床的検討．日本呼吸器学会雑誌 2006；44：3-11．
- 22) 奥村昌夫<sup>1)</sup>，岩井和郎<sup>1)</sup>，矢野郁也<sup>1)</sup>，佐藤明正<sup>1)</sup>，高橋光良<sup>1)</sup>，鹿住佑子<sup>1)</sup>，田中さゆり<sup>1)</sup>，吉山 崇<sup>1)</sup>，尾形英雄<sup>1)</sup>，中島由槻<sup>1)</sup>，吾妻安良太，工藤翔二（<sup>1</sup>）結核予防会複十字病院）：肺 Mycobacterium avium complex（MAC）症の結核類似空洞型と結節性気管支拡張型，その発症要因ならびに予後因子に関する臨床的検討．日本呼吸器学会雑誌 2006；44：91-98．

## （2）綜説：

- 1) 茂木 孝，吾妻安良多：プライマリケア医が知っておくべき COPD の病態・診断と治療：18．COPD の治療におけるマクロライド少量長期投与の妥当性．Progress in Medicine 2005；25（4）：1043-1047．
- 2) 村田 朗：吸入療法その（1）呼吸器疾患に欠かせない吸入療法．NESCO 2005；3（1）：1-6．
- 3) 半田恵美，山田浩一，木田厚瑞：包括的呼吸ケアの対象となる疾患の病態と治療（2）．呼吸器ケア 2005；3（4）：364-371．
- 4) 山田浩一，吉岡央子，村田 朗，木田厚瑞：COPD における栄養指導と運動療法．Progress in Medicine 2005；25（4）：1095-1098．
- 5) 吉村明修，弦間昭彦，工藤翔二：特発性肺線維症と肺癌．日本医事新報 2005；（4206）：18-24．
- 6) 吉澤靖之，稲瀬直彦，大谷義夫，白井 裕，工藤翔二：特発性肺線維症治療薬の最近の動向 シクロスポリン A．日本胸部臨床 2005；64（2）：106-116．
- 7) 工藤翔二：特集 薬剤性肺障害 総論：今日の薬剤性肺障害とその特長．Medical Science Digest 2005；31（5）：165-166．
- 8) 宇野秀之，堀口兵剛，大前和幸，内山徹雄，工藤翔二，香山不二雄：三宅島雄山噴火後の三宅村中央診療所診療記録からみる労働者の健康状態．産業衛生学雑誌 2005；47：142-148．
- 9) 吾妻安良太：高齢者呼吸器疾患の基礎と臨床の最前線 2．特発性間質性肺炎の新規治療効果．日本老年医学会雑誌 2005；42（1）：27-30．
- 10) 吾妻安良太，工藤翔二：特発性肺線維症治療薬の最新の動向：インターフェロナー . 日本胸部臨床 2005；（64）：126-130．
- 11) 福岡正博，工藤翔二，加藤治文，中田紘一郎，西脇 裕：3．ゲフィチニブ投与および非投与での急性肺障害・間質性肺炎に対するコホート内ケースコントロールスタディについて．特集：癌分子標的治療の現状と今後の展開～ゲフィチニブプロスペクティブ調査（特別調査）で何が変わるか～ 2005；41（2）．
- 12) 吾妻安良太：マクロライド薬の抗菌薬以外の作用．日本内科学会雑誌 2005；94（2）：376-385．
- 13) 白杵二郎：小特集 宿主・病態とマクロライド療法 慢性感染性疾患の治療戦略 マクロライド療法とは．感染と抗菌薬 2005；8（2）：198-203．
- 14) 工藤翔二：薬剤性肺障害はなぜ日本人に多発するのか．The Lung perspectives 2005；13（4）：466-467．
- 15) 工藤翔二：話題の疾患と治療 薬物による間質性肺炎．感染炎症免疫 2005；35（4）：336-337．
- 16) 村田 朗：急性増悪の ABC 急性増悪時における治療の選択と病診連携．COPD FRONTIER 2005；4（3）：185-190．
- 17) 白杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二：症例と Q & A で学ぶ 咳とたん の診療-慢性気道炎症を中心として：気管支拡張症と遺伝子異常．今月の治療 2005；13（9）：100-106．



- 18) 峯岸裕司, 弦間昭彦: 肺癌化学療法のリスクマネジメント(イレッサを中心に). 呼吸 2005 ; 24 (8): 700-703 .
  - 19) 工藤翔二: 1. 診断と病態 1. 概念の変遷. 特発性肺線維症 診断と治療の進歩 2005 ; 94 (6): 173-179 .
  - 20) 弦間昭彦, 宮田広樹, 腹子あきこ, 西澤光代, 若林恵子, 古賀美帆: 日本医科大学付属病院の外来化学療法. 癌と化学療法 2005 ; 32 (9): 1356-1357 .
  - 21) 清家正博, 近藤 格<sup>1)</sup>, 広橋説雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター研究所プロテオームインフォマティクス,<sup>2)</sup>国立がんセンター研究所): 蛍光2次元電気泳動に関する技術的進歩とその応用 -2D-DIGE と laser microdissection-. THE LUNG 2005 ; 13 (4): 84-88 .
  - 22) 吉岡央子, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の管理. medica 2005 ; 60 (10): 1746-1749 .
  - 23) 吾妻安良太: びまん性汎細気管支炎以外の慢性気道疾患におけるマクロライド療法. ラジオNIKKEI 2005 ; (7): 41-44 .
  - 24) 斉藤好信, 吾妻安良太: 特発性肺線維症, 病態と治療. 呼吸と循環 2005 ; 53 (7): 751-755 .
  - 25) 峯岸裕司, 弦間昭彦, 工藤翔二: 高齢者の癌をどうするか-2 高齢者の肺癌の臨床. ジェロントロジー 2005 ; 17 (1): 22-26 .
  - 26) 茂木 孝: 在宅呼吸管理の新展開: 在宅呼吸管理と医療費. 日本胸部臨床 2005 ; 64 (増刊): S46-S52 .
  - 27) 村田 朗: 動脈血ガス分析. 呼吸器科 2005 ; 8 (6): 500-509 .
  - 28) 藤田和恵, 吾妻安良太: インフルエンザ脳症. 都薬雑誌 2005 ; 27 (12): 4-9 .
  - 29) 工藤翔二: 特集 特発性肺線維症とその周辺: 治療の最前線. 最新医学 2005 ; 60 (12): 2523-2527 .
  - 30) 河野修興, 近藤康博, 吾妻安良太, 津田 徹, 中島 拓: 特集「特発性間質性肺炎: 診断と治療の進歩」間質性肺炎の臨床, 間質性肺炎への対処法. 日本内科学会雑誌 2005 ; (94): 1119-1134 .
  - 31) 吾妻安良太: 特発性肺線維症とその周辺. 治療の最前線. インターフェロン . 最新医学 2005 ; 60 (12): 2570-2576 .
  - 32) 斉藤好信, 吾妻安良太: 10. 肺の線維化における Th1/Th2 反応. Surgery Frontier 2005 ; 64-68 .
  - 33) 木田厚瑞, 内田幸男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都在住): 倫理学的問題, 患者サイドから求めるもの. THE LUNG perspectives 2006 ; 14 (1): 36-41 .
  - 34) 工藤翔二: 呼吸器疾患のための正しい知識のために. 日本医事新報 2006 ; (4266): 17-17 .
  - 35) 工藤翔二: 2006年を「呼吸器」の年に. 日本呼吸器学会誌 2006 ; 44 (1): 1-2 .
  - 36) 工藤翔二: 医学への道: 本間日臣が「伝言」に学ぶ(8) 決して寵児になってはいけないよと. 図書新聞 2006 ; 2764-2764 .
  - 37) 工藤翔二: COPDの治療と問題点. ガスメディア 2006 .
  - 38) 清家正博, 弦間昭彦: 発がん転移におけるプロテオミクス研究の現状と展望をみる. 分子呼吸器病 2006 ; 10 (2): 5-9 .
  - 39) 藤田和恵, 吾妻安良太, 工藤翔二: 間質性肺炎のガイドライン. 呼吸器科 2006 ; 9 (3): 256-265 .
  - 40) 工藤翔二: 病気を識る 特発性肺線維症 新規治療法への期待. NURSE SENKA 2006 ; 26 (3): 74-77 .
  - 41) 工藤翔二: 薬物による間質性肺炎. 感染・炎症・免疫 2006 ; 3 (4): 336-337 .
- (3) 症例報告:
- 1) 白杵二郎, 松本垂紀, 榎本達治, 吾妻安良太, 工藤翔二: 間質性肺炎が先行して発症した関節リウマチの1例. 日医大医会誌 2005 ; 1 (2): 79-83 .

## 著 書

- 1) Gemma A : [分担] Insight into individualized therapy of lung cancer-focusing on non-small-cell lung cancer . New Perspectives in Cancer Research and Therapy (SHIGEKI KURIYAMA, HITOSHI YOSHIJI), 2005 ;

pp357-376, RESEARCH SIGNPOST.

- 2) 村田 朗：〔分担〕その他の分泌物・穿刺液・胸水・臨床検査ガイド2005-2006（和田 攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内尉義），2005；pp950-953，文光堂。
- 3) 工藤翔二，忽滑谷直孝：〔分担〕1. 生化学検査/H. 血液ガス関係 動脈血O<sub>2</sub>分圧，オキシメーター・臨床検査ガイド2005 - 2006，2005；pp293-294，文光堂。
- 4) 工藤翔二：〔編集〕1. 呼吸器．内科学レビュー2005，2005；pp2-32，総合医学社。
- 5) 工藤翔二，吉村明修，弦間昭彦：〔共著〕急性肺障害・間質性肺炎（ILD）について：ゲフィチニブ（イレッサ）使用の観点から．がん分子標的治療，2005；pp133-136，メジカルレビュー社。
- 6) 弦間昭彦：〔分担〕肺癌薬物療法の個別的選択法．呼吸器診療のこつ（工藤翔二），2005；pp193-196，中山書店。
- 7) 弦間昭彦，吉村明修：〔分担〕抗癌剤治療時に出現する胸部異常陰影．呼吸器診療のこつ（工藤翔二），2005；pp235-238，中山書店。
- 8) 斉藤好信，吾妻安良太，工藤翔二：〔共著〕特発性肺線維症 病態と治療．呼吸と循環，2005；pp751-755，医学書院。
- 9) 吉岡央子，木田厚瑞：〔共著〕COPDの在宅呼吸ケアの新展開．Pharma Medica，2005；pp61-64，メディカルレビュー社。
- 10) 村田 朗：〔分担〕急性増悪の予防と日常の治療．メディカルスタッフのためのトータル呼吸ケア（田中一正），2005；pp110-133，MEDICAL VIEW。
- 11) 後藤里江，木田厚瑞：〔分担〕呼吸器疾患：慢性呼吸不全．看護のための最新医学講座 第2版 第17巻 老人の医療（監修：日野原重明，井村裕夫・監修協力：岩井郁子，北村 聖・編集：井藤英喜），2005；pp273-279，中山書店。
- 12) 後藤里江，木田厚瑞：〔分担〕呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患．看護のための最新医学講座 第2版 第17巻 老人の医療（監修：日野原重明，井村裕夫・監修協力：岩井郁子，北村 聖・編集：井藤英喜），2005；pp279-284，中山書店。
- 13) 吉岡央子，木田厚瑞：〔分担〕慢性閉塞性肺疾患（COPD）の管理．medicina，2005；pp1746-1749，医学書院。
- 14) 斉藤好信：〔自著〕ディーゼル排気微粒子の肺マクロファージに及ぼす影響．呼吸器科，2005；pp370-374，科学評論社。
- 15) 峯岸裕司，弦間昭彦：〔分担〕非小細胞肺癌再発例の治療．肺癌診療マニュアル，2005；pp68-70，中山書店。
- 16) 木田厚瑞：〔分担〕COPDの薬物療法．呼吸器診療のコツと落とし穴2 閉塞性肺疾患・呼吸不全（工藤翔二），2005；pp142-144，中山書店。
- 17) 工藤翔二，中浜 力，中森祥隆，守屋敦子，三笠桂一：〔座談会〕肺炎：診断と治療の進歩．日誌，2005；pp104-119，日本内科学会。
- 18) 茂木 孝：〔分担〕慢性期の呼吸ケア・各論：患者教育-在宅酸素療法．呼吸ケア実践ハンドブック：管理とリハビリテーションのすべて（永井厚志），2005；pp246-251，南江堂。
- 19) 村田 朗：〔分担〕睡眠時無呼吸症候群．呼吸ケア実践ハンドブック・管理とリハビリテーションのすべて（長井厚志），2005；pp94-110，南江堂。
- 20) 斉藤好信，吾妻安良太：〔共著〕Th1/Th2反応とその制御：新しい視点-10. 肺の線維化におけるTh1/Th2反応．Surgery Frontier，2005；pp378-382，メディカルレビュー。
- 21) 本橋典久，木田厚瑞：〔分担〕包括的呼吸リハビリテーションの考え方と進め方．アレルギー・免疫，2005；pp1682-1689，医薬ジャーナル社。
- 22) 工藤翔二：〔分担〕持続する咳・痰と息切れを訴える43歳男性．専門医を目指すケースメソッドアプローチ呼吸器疾患，2005；日本医事新報。
- 23) 篠田欣也，弦間昭彦：〔分担〕総論Ⅴ 治療 1. 薬物療法 e. 抗癌薬．呼吸器専門医マニュアル，2005；

pp100-102, 中山書店 .

- 24) 村田 朗：〔分担〕肺音の発生メカニズム．呼吸に辞典（有田秀穂），2006；pp449-456，朝倉書店．
- 25) 村田 朗：〔分担〕診断の進歩 1. 咳嗽音の客観化とモニタリゼーション．Annual Review 2006 呼吸器（工藤翔二，土屋了介，金沢 実，太田 健），2006；pp119-126，中外医学社．
- 26) 岡野哲也，弦間昭彦：〔共著〕かぜ症候群のすべて 本場に「かぜ」なのか かぜと肺癌．成人病と生活習慣病，2006；pp57-60，東京医学社．
- 27) 工藤翔二：〔座談会〕薬剤性肺障害の今日的課題．日本医師会雑誌，2006；pp2093-2110，日本医師会．
- 28) 村田 朗：〔分担〕1. 疾患説明．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp1-8，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 29) 村田 朗：〔分担〕3. 薬物療法．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp15-26，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 30) 村田 朗：〔分担〕8. 鼻腔の清潔．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp91-94，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 31) 村田 朗：〔分担〕15. 将来への影響．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp133-136，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 32) 村田 朗：〔分担〕16. 禁煙．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp137-144，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 33) 村田 朗：〔分担〕17. 病院との連絡．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp145-148，TECHNO COMMUNICATIONS．
- 34) 村田 朗：〔自著〕18. 支援団体．呼吸療法マスタースクール 7. 患者指導の実際（毛利昌史，町田和子），2006；pp149-152，TECHNO COMMUNICATIONS．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Kudoh S：Novel development of Macrolide treatment of respiratory diseases．第10回 APSR，2005．11．
- 2) 工藤翔二：1. 特発性間質性肺炎．第45回日本呼吸器学会学術講演会，2005．4．
- 3) 工藤翔二：抗リウマチ薬による薬剤性肺障害の診断をめぐって．第6回北海道リウマチ医の会，2005．4．
- 4) 工藤翔二：薬剤性肺障害をめぐる最近の話題：抗癌剤を中心に．和歌山肺癌治療学術講演会，2005．4．
- 5) 工藤翔二：最近の薬剤性肺炎と抗リウマチ薬．岐阜骨粗鬆症治療研究会，2005．6．
- 6) 工藤翔二：最近の薬剤性肺障害：抗がん剤を中心に．東京がん化学療法研究会月例会，2005．6．
- 7) 工藤翔二：COPDとマクロライド療法：COPD患者にマクロライドをどう使うか．アボットジャパン呼吸器フォーラム，2005．7．
- 8) 工藤翔二：各種肺病変の診断と治療．関節リウマチにおける肺病変を考える神奈川の会，2005．7．
- 9) 工藤翔二：有害反応対策 11. 肺障害．第6回臨床腫瘍セミナー，2005．7．
- 10) 工藤翔二：日本人における薬剤性肺障害：イレッサ，アラバが教えるもの．第13回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会九州地方会/第3回九州びまん性肺疾患研究会，2005．8．
- 11) 工藤翔二：COPD患者にマクロライドをどう使うか．アボットジャパン呼吸器フォーラム，2005．9．
- 12) 工藤翔二：日本人にとっての薬剤性肺障害について：抗癌剤を中心に．癌治療セミナー，2005．9．
- 13) 工藤翔二：COPDとマクロライド療法：COPD患者にマクロライドをどう使うか．相模原医師会内科医会学術講演会，2005．10．
- 14) 工藤翔二：COPDとクラリスについて．大正富山MR対象テレビ回線講演会，2005．10．
- 15) 工藤翔二：病院から在宅へ．第一回より良い呼吸のための研究会，2005．10．

- 16) Gemma A , Li C , Matsuda K , Seike M , Hosoya Y , Minegishi Y , Noro R , Nara M , Yukio H , Okano T , Kokubo Y , Takenaka K , Yoshimura A , Shibuya M , Shionoya A , Ogawa N , Uesaka H , Kudoh S : Chemotherapy strategy design in lung cancer based on gene expression profiles and sensitivity database . 第43回日本癌治療学会総会 , 2005 . 10 .
- 17) 工藤翔二 : COPD ( 慢性閉塞性肺疾患 ) を知ってますか ? . いきいき呼吸器健康講座 , 2005 . 11 .
- 18) 工藤翔二 : 日本人における薬剤性肺障害 : イレッサ , アラバが教えるもの . 第37回奈良県呼吸疾患研究会 , 2005 . 11 .
- 19) 工藤翔二 : 薬剤性の肺障害 . 第2回城南地区 Biological Round Table Meeting , 2005 . 12 .
- 20) 工藤翔二 : COPD とマクロライド . Medical symposium in Nagoya 上気道感染とマクロライド , 2006 . 1 .
- 21) 工藤翔二 : COPD ( 慢性閉塞性肺疾患 ) ってなに ? . 荒川区がん予防講演会 , 2006 . 1 .
- 22) 工藤翔二 : 間質性肺炎の歴史と課題 . 胸部画像検討会 : 第40回記念大会 , 2006 . 1 .
- 23) 工藤翔二 : 薬剤性肺臓炎の診断と治療 . 平成18年度内科学会生涯教育講演会 , 2006 . 3 .
- 24) 工藤翔二 : マクロライドの課題と今後の展望 . 日本内科学会北陸地方会第37回生涯教育講演会 , 2006 . 3 .
- (2) 教育講演 :
- 1) 村田 朗 : 6月度香川県内科医会呼吸器疾患懇話会 . 香川県内科医会呼吸器疾患懇話会 , 2005 . 6 .
  - 2) 村田 朗 : COPD の急性増悪 : 発症原因の多様性と包括的呼吸リハビリテーション . 第5回いわき呼吸ケア研究会 , 2005 . 7 .
  - 3) 村田 朗 : COPD の診断と治療 . 平成17年度 卸教育研修管理者継続研修会 , 2005 . 11 .
  - 4) 村田 朗 : 閉塞型睡眠時無呼吸症候群 : 寝ている間に病気がつくられる . 第17回 Hill Top GP Conference , 2006 . 2 .
- (3) シンポジウム :
- 1) 榎本達治<sup>1)</sup> , 馬場久美子<sup>1)</sup> , 林 宏紀<sup>1)</sup> , 渋谷泰寛<sup>1)</sup> , 中村清一<sup>1)</sup> , 吾妻安良太 , 根井貴仁 , 松本亜紀 , 平松久弥子 , 臼杵二郎 , 工藤翔二 , 倉根修二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立広尾病院呼吸器科 , <sup>2)</sup> 文京クリニック ) : ステロイド療法中の間質性肺炎患者に合併するカリニ肺炎の臨床像の検討 ( HIV 患者に合併するカリニ肺炎との比較検討 ) . 第45回日本呼吸器学会学術講演会 , 2005 . 4 .
  - 2) 工藤翔二 : 日本人における薬剤性肺障害 : ゲフィチニブ , レフルノミドを中心に . 東京医科歯科大学薬害監視学講座設立記念シンポジウム , 2005 . 5 .
  - 3) 峯岸裕司 , 竹中 圭 , 弦間昭彦 , 吉村明修 , 坪井栄孝 , 工藤翔二 : 間質性肺炎合併肺癌の治療の現状 . 第46回日本肺癌学会総会シンポジウム , 2005 . 10 .
  - 4) 茂木 孝 : COPD と肺癌の関連性 : 疫学 , 病理 , 病態からの Overview . ( COPD と肺癌 : 相互の早期診断と治療における接点 ) . 第72回閉塞性肺疾患研究会 , 2006 . 1 .
- (4) パネルディスカッション :
- 1) Yoshioka H , Yamamoto K , Yamada K , Murata A , Kudoh S , Kida K : Improved nutritional assessment of fat free mass in chronic obstructive pulmonary disease ( COPD ) . American thoracic society ( San Diego , USA ) , 2005 . 5 .
  - 2) Wakabayashi R , Murata A , Yamada K , Yamamoto K , Yoshioka H , Kudoh S , Kida K : A Clinical study on the consistency of a pre-screening questionnaire ( 11-Q ) and the BODE index on subjects with COPD . European Respiratory Society 15th Annual Congress ( Copenhagen ) , 2005 . 9 .
  - 3) Yamamoto K , Murata A , Yamada K , Yoshioka H , Kudoh S , Kida K : The annual variation of exhaled nitric oxide concentrations reflects bronchial hyperreactivity in schoolchildren : an epidemiologic study . European Respiratory Society 15th Annual Congress ( Copenhagen ) , 2005 . 9 .
  - 4) 吉岡央子 , 山本和男 , 山田浩一 , 村田 朗 , 木田厚瑞 , 工藤翔二 : 慢性閉塞性肺疾患における骨格筋量による

栄養状態の評価．日本呼吸器学会，2005．4．

(5) ワークショップ：

- 1) 木田厚瑞：ランチョンセミナー：COPDにおける栄養指導と酸素療法．第45回日本呼吸器学会学術講演会，2005．4．

(6) 一般講演：

- 1) Yamada K, Yoshioka H, Yamamoto K, Murata A, Wakabayashi R, Kudoh S, Kida Kouzui : Reduced size of free fat mass in the upper extremities differently affects the clinical features of chronic obstructive pulmonary disease ( COPD ). American Thoracic Society 2005 International Conference ( San Diego ), 2005 . 5 .
- 2) Yamada K, Yoshioka H, Yamamoto K, Murata A, Wakabayashi R, Kudoh S, Kida Kouzui : Attenuated dyspnea sensation in non-cardiopulmonary subjects who were life-long smokers . American Thoracic Society 2005 International Conference ( San Diego ), 2005 . 5 .
- 3) Omata M, Watanabe R, Kudoh S, Kida Kouzui : Correlation between an improvement of the reversibility of airflow limitation of air limitation and health-related QOL in chronic obstructive pulmonary disease . American Thoracic Society 2005 International Conference ( San Diego ), 2005 . 5 .
- 4) Morimoto K<sup>1)</sup>, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Takaku T<sup>1)</sup>, Kodama T<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Hayashihara K<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科) : Chronic Sinusitis as Risk Factor for Developing Pulmonary Disease Due to *Mycobacterium avium* Complex in Japan without Preexistent Pulmonary Disease and Demonstrable Immunodeficiency : Similarity To Diffuse . International Conference American Thoracic Society ( San Diego ), 2005 . 5 .
- 5) Morimoto K<sup>1)</sup>, Kimura T<sup>1)</sup>, Takaku T<sup>1)</sup>, Kodama T<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Hayashihara K<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科) : Chronic sinusitis may be one of the risk factors developing and deteriorating primary MAC pulmonary . ERS 15th Annual Congress ( Copenhagen ), 2005 . 5 .
- 6) Nei T<sup>1)</sup>, Yamano Y<sup>2)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The 4th Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ,  
<sup>2)</sup> The Department of Respiratory Medicine, Ebina General Hospital ) : The radiological findings of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia, from our 43 patients . European Respiratory Society ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 9 .
- 7) Murata A, Yamamoto K, Kida K, Kudoh S : The influence of a short period exposure to air pollution on exhaled nitric oxide measurement in school children . European Respiratory Society 15th Annual Congress ( Copenhagen ), 2005 . 9 .
- 8) Kimura K, Wakabayashi R, Kudoh S, Kida K : An epidemiologic study for chronic obstructive pulmonary disease ( COPD ) with pre-screening by a questionnaire . 2005 ERS Annual Congress ( Copenhagen ), 2005 . 9 .
- 9) Wakabayashi R, Kida K, Yamaguchi K<sup>1)</sup>, Segawa K<sup>1)</sup>, Handa E<sup>1)</sup>, Jones R<sup>2)</sup>, Hyland M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, Plymouth, UK ,  
<sup>3)</sup> Psychology Department, University of Plymouth, UK ) : Gender difference noted for patients with chronic obstructive pulmonary disease ( COPD ) by a lung information needs questionnaire ( LINQ ). European Respiratory Society ( Copenhagen ), 2005 . 9 .
- 10) Kokubo K, Gemma A, Noro R, Seike M, Kataoka K, Matsuda K, Okano T, Minegishi Y, Yoshimura A, Shibuya A, Kudoh S : Reduction of PTEN protein and loss of epidermal growth factor receptor ( EGFR ) gene mutation in lung cancer with natural resistance to gefitinib ( IRESSA ). 11th World conf on Lung cancer ( Barcelona ), 2005 . 11 .
- 11) Minegishi Y, Tsukino H, Gemma A, Kudoh S, Nishiwaki Y, Esumi H : Susceptibility to lung cancer and genetic polymorphism in the alcohol metabolite-related enzyme : ADH3, ALDH2, and CYP2E1 . 11th World conf on Lung cancer, 2005 ( Barcelona ), 2005 . 11 .
- 12) Noro R, Gemma A, Kosaihiro S, Minegishi Y, Seike M, Kataoka K, Kokubo Y, Yoshimura A, Kudoh

S : The relativity between gefutinib-sensitivity and the cell signal transduction downstream of EGFR . 11th World conf on Lung cance ( Barcelona ), 2005 . 11 .

- 13) Nei T, Saito T<sup>1)</sup>, Morimoto K<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Hayashihara K<sup>1)</sup>, Azuma A, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, National Hospital Organization, Ibaraki-higashi Hospital ): Unprognostic Substitution of *Mycobacterium avium-intracellulare* to *Mycobacterium abscessus* . Asian Pacific Society for Respiriology, annual meeting ( Guangzhou, China ), 2005 . 11 .
- 14) 吉岡央子, 山本和男, 山田浩一, 村田 朗, 木田厚瑞, 工藤翔二: 慢性閉塞性肺疾患における骨格筋量による栄養状態の評価 . 閉塞性肺疾患研究会, 2005 . 1 .
- 15) 根井貴仁, 松田久仁子, 瀬尾良嗣, 本橋典久, 齋藤好信, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 生理的環境下における mechanical stress が肺胞上皮に及ぼす影響 . 日本呼吸器学会総会, 2005 . 4 .
- 16) 根井貴仁, 榎本達治<sup>1)</sup>, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 都立広尾病院呼吸器内科 ): 東京都における呼吸器系特定疾病5疾患の実態調査 . 日本内科学会総会, 2005 . 4 .
- 17) 平松久弥子, 齋藤好信, 阿部信二, 松本亜紀, 吾妻安良太, 瀧澤 始<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>2)</sup>, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 東京大学医学部付属病院呼吸器内科, <sup>2)</sup> ( 財 ) 結核予防会結核研究所基礎研究部 ): ディーゼル排気ガス ( DE ) 曝露による動物実験 . 第3回肺研究フォーラム21, 2005 . 4 .
- 18) 小侯雅稔, 木田厚瑞, 工藤翔二, 若林律子: 安定期 COPD における気道閉塞可逆性テストと健康関連 QOL に関する研究 . 第45回呼吸管理学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 19) 北川知佳<sup>1)</sup>, 神津 玲<sup>2)</sup>, 千住秀明<sup>3)</sup>, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 保養会田上病院リハビリテーション科, <sup>2)</sup> 長崎大学歯学部リハビリテーション部, <sup>3)</sup> 長崎大学保健学科理学療法専攻 ): 地域住民 ( 50歳以上 ) における COPD 関連症状の疫学調査 . 第45回日本呼吸管理学会, 2005 . 4 .
- 20) 臼杵二郎, 松田久仁子, 吾妻安良太, 工藤翔二: プレオマイシン肺線維症における  $\alpha$ -smooth muscle actin 発現と Smad シグナルの検討 . 第45回日本呼吸器学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 21) 高久多希朗<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ): 過敏性肺炎自験例の検討: 診断の遅延をきたさないために . 第45回呼吸器学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 22) 林原賢治<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 橋詰寿律<sup>1)</sup>, 深井志摩夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ): 炎症性気管支ポリープの2例: 切除および自然消退例 . 第45回呼吸器学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 23) 森本耕三<sup>1)</sup>, 金子美子<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ): 空洞形成過程が追えた慢性壊死性肺アスペルギルス症の1例 . 第45回呼吸器学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 24) 林原賢治<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 橋詰寿律<sup>2)</sup>, 西村嘉裕<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup> 同茨城東病院外科 ): 抗酸菌 ( 結核・非結核性抗酸菌症 ) 治療中に合併した血小板減少症と血小板表面凝集 IgG ( PAIgG ) の検討 . 第80回日本結核病学会総会, 2005 . 4 .
- 25) 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup> 同茨城東病院外科 ): 一時感染型 MAC 症患者の背景因子の検討 . 第80回日本結核病学会総会, 2005 . 4 .
- 26) 高久多希朗<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 児玉孝秀<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ): 胸部画像所見から喀痰抗酸菌塗抹陽性を予期し得なかった結核の3例 . 第147回日本結核病学会関東支部会・第164回日本呼吸器学会関東地方会合同部会, 2005 . 5 .
- 27) 森本耕三<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構茨城東病院内科 ): Primary ciliary dyskinesia の2例 . 第113回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2005 . 6 .

- 28) 茂木 孝, 山田浩一, 本橋典久, 木田厚瑞, 工藤翔二: 肺気腫のHRCTによる重症度とQOL, 肺機能との関連に関する研究. 第71回閉塞性肺疾患研究会, 2005. 7.
- 29) 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 山口敬子<sup>1)</sup>, 山田浩一, 吉岡中央<sup>(1)</sup>呼吸ケアクリニック): COPD患者の運動療法の継続と外来における看護介入の効果に関する研究. 第15回日本呼吸管理学会学術集会, 2005. 7.
- 30) 若林律子, 山口敬子<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 山田浩一, 村田 朗, 木田厚瑞<sup>(1)</sup>呼吸ケアクリニック): 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) のセルフマネージメントのあり方に関する研究: 第1報. 第15回日本呼吸管理学会学術集会, 2005. 7.
- 31) 若林律子, 山口敬子<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 山田浩一, 村田 朗, 木田厚瑞<sup>(1)</sup>呼吸ケアクリニック): 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) のセルフマネージメントのあり方に関する研究: 第2報. 第15回日本呼吸管理学会学術集会, 2005. 7.
- 32) 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 山口敬子<sup>1)</sup>, 山田浩一, 吉岡央子, 村田 朗, 工藤翔二, 木田厚瑞<sup>(1)</sup>呼吸ケアクリニック): COPDにおける日誌指導からみたセルフマネージメントの効果の検討. 第15回日本呼吸管理学会学術集会, 2005. 7.
- 33) 林 宏紀<sup>1)</sup>, 森 健<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): 比較的短期間に進行した特発性肺胞蛋白症の1例. 第166回日本呼吸器学会関東地方会, 2005. 8.
- 34) 本橋典久, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 東京都サルコイドーシス公費助成中断患者の実態調査に関する研究. 第25回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会総会, 2005. 10.
- 35) 林原賢治<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 西村嘉裕<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>同茨城東病院外科): 長年, 気管支拡張症, びまん性細気管支炎として治療されていたprimary ciliary dyskinesia (PCD) の2例. 第59回国立病院総合医学会, 2005. 10.
- 36) 林 宏紀<sup>1)</sup>, 森 健<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 森下由紀雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>筑波大学臨床医学系病理): 多発結節影の消退・再燃を認めた肺限局型 Wegener's granuloma の1例. 第148回日本結核病学会関東支部会・第167回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 2005. 10.
- 37) 林 宏紀<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 森 健<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科): 発色が非典型的であった発色性非結核性抗酸菌症の2例. 第149回日本結核病学会関東支部会・第168回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 2005. 10.
- 38) 林 宏紀<sup>1)</sup>, 森 健<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 森下由紀雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>筑波大学臨床医学系病理): 副腎皮質ステロイドが奏効したpulmonary venoocclusive diseaseの1例. 第176回茨城県内科学会, 2005. 10.
- 39) 森 健<sup>1)</sup>, 小川良子<sup>1)</sup>, 内藤明日香<sup>1)</sup>, 林 宏紀<sup>1)</sup>, 木村 透<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 齋藤武文<sup>1)</sup>, 森下由紀雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院機構茨城東病院内科, <sup>2)</sup>筑波大学臨床医学系病理): リンパ節穿孔型気管支結核の1例. 第177回茨城県内科学会, 2005. 10.
- 40) 小斎平聖司, 弦間昭彦, 松田久仁子, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 奈良道哉, 岡野哲也, 篠田欣也, 吉村明修, 塩野谷亜紀, 尾川直樹, 上坂美花, 工藤翔二: 肺癌における遺伝子発現プロファイルと感受性データベースを用いた化学療法戦略デザイン. 第46回日本肺癌学会総会, 2005. 10.
- 41) 根井貴仁, 神宮亜希子, 坂本 徹<sup>1)</sup>, 阿部信二, 榎本達治<sup>2)</sup>, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 川本雅司<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本赤十字社医療センター第1呼吸器科, <sup>2)</sup>都立広尾病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学病理学第1): 塵肺に合併し, 好酸球増多を伴ったPulmonary cryptococcosisの1例. 第33回臨床呼吸器カンファレンス, 2005. 11.

- 42) 西澤光代, 宮田広樹, 腹子あきこ, 若林恵子, 古賀美帆, 本城和義, 片山志郎, 菊池有道, 弦間昭彦: 輸液療法室における外来抗がん剤療法: 疑義照会内容の分析・評価. 日本医科大学医学会総会, 2005. 11.
- 43) 岡野哲也, 弦間昭彦, 清家正博, 小久保豊, 片岡清子, 近藤 格, 広橋説雄: プロテオーム解析を用いた肺癌細胞株の感受性に関わる因子の検索. 第1回日本臨床プロテオーム研究会, 2005. 11.
- 44) 岡野哲也, 弦間昭彦, 清家正博, 小久保豊, 片岡清子, 近藤 格<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 広橋説雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター研究所): プロテオーム解析を用いた肺癌細胞株のイレッサ感受性に関わる因子の検索. 第九回東京呼吸病態研究会, 2005. 11.
- 45) 斉藤好信, 阿部信二, 森本泰介, 藤田和恵, 茂木 孝, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライド療法が無効であった難治性気道感染症に対するスピリーバの使用経験. 第4回DPB・難治性気道疾患研究会, 2006. 2.
- (7) Poster Discussion :
- 1) Usuki J, Matsuda K, Azuma A, Kudoh S : Expression of Smad proteins during myofibroblast differentiation in pulmonary fibrosis . 15th Europe Respiratory Society Annual Congress ( Copenhagen ), 2005 . 9 .
- (8) 研究会 :
- 1) 山田浩一, 村田 朗, 工藤翔二, 木田厚瑞: 健常長期喫煙者における呼吸困難感に関する研究. 第14回Pneumo Forum , 2005 . 11 .



## 5. 精神医学講座

### [ 付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]

#### 研究概要

教室の研究領域は、精神・神経生理学的研究を主体とし、コンサルテーション・リエゾン精神医学、セネストパチーをはじめとした様々な臨床研究、精神薬理研究があり、研究対象もうつ病、統合失調症をはじめとして、老年期精神障害、アルコール依存、神経症性障害、セネストパチー、自殺、睡眠障害など多岐に亘る。今年度は以下の研究を行った。

- 1) ポジトロンCTを用いた機能的な精神疾患の病態診断研究  
ポジトロンCTによる神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害患者など機能的な精神疾患の神経伝達機能の異常を調べた。
- 2) ポジトロンCTを用いた向精神薬の薬効評価に関する研究  
ポジトロンCTを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化との関連を調べ、向精神薬の治療効果の客観的評価法の開発を目指した。
- 3) ファンクショナルMRIを用いた精神疾患の高次脳機能障害の研究  
ファンクショナルMRIを用いて統合失調症患者と健常人を対象に、視覚刺激による情動反応の評価を行い、統合失調症患者における情動障害の神経基盤について検討した。
- 4) 血管性うつ病の研究  
脳卒中後のうつ病を含む血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
- 5) 救命救急に搬送された自殺未遂者の研究  
厚生労働省こころの健康科学研究事業「自殺関連うつ対策戦略研究」へ参加し、自殺対策に関する研究を行った。また高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例について、精神医学的検討を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Matuura M, Adachi N, Muramatsu R, Kato M, Onuma T, Okubo Y, Oana Y, Hara T : Intellectual disability and psychotic disorders of adult epilepsy . *Epilepsia* 2005 ; 46 ( Suppl. 1 ) : 11-14 .
- 2) Yasuno F, Suhara T, Okubo Y, Ichimiya T, Takano A, Sudo Y, Inoue M : Abnormal effective connectivity of dopamine D2 receptor binding in schizophrenia . *Psychiatry Res* 2005 ; 138 ( 3 ) : 197-207 .
- 3) Oda K, Matushima E, Okubo Y, Ohta K, Murata Y, Koide R, Miyasaka N, Kato M : Abnormal regional cerebral blood flow in systemic lupus erythematosus patients with psychiatric symptoms . *J Clin Psychiatry* 2005 ; 66 ( 7 ) : 907 913 .
- 4) Takahashi H, Yahata N, Koeda M, Takano A, Asai K, Suhara T, Okubo Y : Effects of dopaminergic and serotonergic manipulation on emotional processing : a pharmacological fMRI study . *Neuroimage* 2005 ; 27 ( 4 ) : 991-1001 .
- 5) Takano A, Suhara T, Yasuno F, Suzuki K, Tahashi H, Morimoto T, Lee Y-J, Kusuhara H, Sugiyama Y, Okubo Y : The antipsychotic sultopride is overosed : a PET study of drug-induced receptor occupancy in comparison with sulpiride . *Int J Neuropsychopharmacol* 2005 ; 9 : 1-7 .
- 6) Kunigi H, Owashi T, Kimura M, Inoue Y, Nakagawa S, Yabana T, Urushibara T, Kanai R, Aihara M, Yuuki N, Okubo T, Oshima A, Kubo K, Inoue T, Kitaichi Y, Shirakawa O, Isogawa K, Nakagawa H, Kamijima K, Nanko S, Knba S, Higuchi T, Mikuni M : Assessment of the Dexamethasone/CRH Test as a

State-Dependent Marker for Hypothalamic-Pituitary-Adrenal (HPA) Axis Abnormalities in Major Depressive Episode: A Multicenter Study. *Neuropsychopharmacology* 2006; 31(1): 212-220.

7) 伊藤敬雄, 葉田道雄, 大久保善朗: 幻肢痛と断端痛に対するSNRIの治療経験: 4症例報告. *臨床精神医学* 2005; 34(6): 829-834.

8) 伊藤敬雄, 葉田道雄, 原田章子, 大熊征司, 大久保善朗: 自殺未遂者における救命救急センター退院1年後の受療行動と再自殺. *精神医学* 2006; 48(2): 153-158.

#### (2) 綜説:

1) 館野 周, 大久保善朗: 頭部外傷後精神障害の治療について. *日医大医会誌* 2005; 1(1): 17-20.

2) 大久保善朗, 須原哲也: 画像診断からみた薬物療法の評価. *カレントセラピー* 2005; 23(1): 69-72.

3) 大久保善朗, 須原哲也: 脳イメージによる抗精神病薬の薬効評価. *HUMAN SCIENCE* 2005; 16(1): 22-25.

4) 大久保善朗: 精神科病床と脱施設化への道. *最新精神医学* 2005; 10(3): 143-150.

5) 下田健吾, 木村真人: 脳の老化とうつ状態: 血管性うつ病を中心に. 特集「うつ状態の精神医学」第3部「うつ状態の心理・生物学」. *精神治療医学* 2005; 34(5): 655-660.

6) 大久保善朗, 館野 周, 八幡憲明: 精神疾患と脳画像所見: 病態把握に対する検査所見の結びつき. *医学と薬学* 2005; 54(6): 759-764.

7) 木村真人: 脳卒中後のうつ病と認知障害との関連: 特集「うつ病」か「痴呆症(認知症)」か?. *精神科治療学* 2005; 20(9): 905-909.

8) 鈴木英明, 木村真人: 双極性感情障害(躁うつ病): F30躁病エピソード, F30.0軽躁病を含む. 第4章気分障害, 新精神科治療ガイドライン. *精神科治療学* 2005; 20(増刊号): 128-132.

9) 大久保善朗: 画像検査と精神科診断. *精神医学* 2005; 47(11): 1162-1163.

10) 大久保善朗: 新しい抗てんかん薬の開発動向. *臨床精神医学* 2005; 34(11): 1551-1555.

11) 伊藤敬雄: 精神科医療のリスクマネジメント: 自殺未遂者のケア. *臨床精神医学* 2005; (増刊): 287-293.

12) 館野 周, 大久保善朗, 須原哲也: 双極性障害の最近の脳画像研究. *精神科治療学* 2005; 20(12): 1263-1271.

13) 下田健吾, 木村真人: 慢性疲労症候群とうつ病. 特集 生活習慣病とうつ: 誤診と見逃しを避けるために. *成人病と生活習慣病* 2006; 36(3): 284-288.

#### (3) 症例報告:

1) 福田 一, 館野 周, 伊藤敬雄, 一宮哲哉, 朝山健太郎, 大久保善朗: 辺縁系脳炎後の緊張病様症状にETCが著効した1症例. *精神科* 2005; 6(1): 61-64.

2) 伊藤敬雄, 葉田道雄, 大久保善朗: 幻視痛および断端痛に対するSSRI, SNRIの有効性. *ペインクリニック* 2005; 26(7): 975-979.

#### (4) 短報:

1) Ito T, Hada Mi<sup>1)</sup>, Hayashi Sh<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital): Three cases of elder abuse introduced to the psychoneurology department by other sections. *Psychogeriatrics* 2005; 5(1)(A17).

#### 著 書

1) 木村真人, 下田健吾: [分担] 血管性うつ病, 血管性躁病. 感情障害, 精神科: 専門医に聞く最新の臨床(保坂 隆), 2005; pp53-55, 中外医学社.

2) 下田健吾, 木村真人: [翻訳] 第18章 抗うつ薬: 基礎メカニズムと薬理. 痛みの治療薬: その基礎から臨床まで, 2005; pp279-288, エルセビア・ジャパン.

3) 下田健吾, 木村真人: [翻訳] 第19章 抗うつ薬臨床管理. 痛みの治療薬: その基礎から臨床まで, 2005;

pp289-310, エルセピア・ジャパン.

- 4) 伊藤敬雄：〔分担〕肝移植後の続発性不眠症に対する高照度光療法とアロマセラピーの実践．睡眠障害診療のコツ(上島国利), 2006 ; pp168-170, 中山書店.
- 5) 伊藤敬雄：〔分担〕一般病棟入院中に生じた精神性不眠への環境調整を主とした治療法．睡眠障害診療のコツ(上島国利), 2006 ; pp175-177, 中山書店.
- 6) 下田健吾, 木村真人：〔分担〕老年性うつ病, 血管性うつ病では第一選択薬は？EBM精神疾患の治療．老人性うつ病(上島国利, 三村 将, 中込和幸, 平島奈津子), 2006 ; pp199-204, 中外医学社.

## 学会発表

### 〔前年度業績〕

#### (1) 一般講演：

- 1) Ito T : Sleep disturbance in attempted suicide example . The 2st Asia Pacific Regional Conference of The International Association for Suicide Prevention ( IASP ) . Singapore ( Singapore ), 2005 . 3 .

#### (1) 特別講演：

- 1) 大久保善朗：うつ病のNeuro Imaging：SSRIの薬効評価．第14回房総精神科研究学術講演会, 2005 . 4 .
- 2) 大久保善朗：分子イメージングによる抗精神病の薬効評価．第7回新潟臨床精神薬理フォーラム, 2005 . 5 .
- 3) 大久保善朗：ニューロイメージングによる抗精神病薬の薬効評価：統合失調症との関連．第9回静岡スキゾフレニア研究会, 2005 . 5 .
- 4) 大久保善朗：脳画像解析からみた統合失調症の病態と治療．CNSフォーラム, 2005 . 6 .
- 5) 大久保善朗：新規抗精神病薬の薬理プロフィール．第14回臨床精神薬理学会, 2005 . 10 .
- 6) 大久保善朗：ニューロイメージングによる抗精神病薬の薬効評価．第396回 北九州精神科集談会, 2005 . 10 .
- 7) 大久保善朗：脳画像を用いた第二世代抗精神病薬の薬効効果．Schizophrenia フォーラム, 2005 . 11 .
- 8) 大久保善朗：脳機能イメージからみた統合失調症の薬物治療．第10回日本神経精神医学会, 2005 . 11 .
- 9) 大久保善朗：脳機能画像からみた精神科薬物療法．第10回精神保健指定医研修会, 2005 .

#### (2) 教育講演：

- 1) 下田健吾：脳血管障害とうつ病：脳卒中後のうつ病および血管性うつ病．第106回日本心身医学会関東地方会, 2006 . 3 .

#### (3) シンポジウム：

- 1) Takano A , Suhara T , Yasuno F , Suzuki K , Takahashi H , Morimoto T , Lee Yj , Kushara H , Sugiyama Y , Okubo Y : Application of receptor occupancy for the re-evaluation of clinical dose . X Turku PET Symposium ( Turku ), 2005 . 5 .
- 2) 木村真人：卒中後・血管性うつ病の臨床. シンポジウム9「気分障害の生物学」. 第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会, 2005 . 7 .
- 3) 伊藤敬雄：自殺企図者への精神科コンサルテーション・リエゾンサービスの役割と課題．第33回日本救急医学会総会, 大宮, 2005 . 10 .

#### (4) ランチョンセミナー：

- 1) 大久保善朗：うつ病のニューロイメージング．第46回日本神経学会総会, 2005 . 5 .

#### (5) 一般講演：

- 1) Tateno A , Fukuta H , Sunao M , Arakawa R , Fujito T , Kobayashi T , Okubo Y : Regional cerebral blood flow in patients with both irreversible cognitive impairment and depression . 12th International Congress of International Psychogeriatric Association , 2005 . 9 .
- 2) Ito T , Okubo Y , Tateno A : Lack of sleep in attempted suicides of elderly people . 12th International Con-

- gress of International Psychogeriatric Association, 2005. 9.
- 3) Tateno A, Fukuta H, Sunao M, Arakawa R, Fujito T, Kobayashi T, Okubo Y: Regional cerebral blood flow in patients with both irreversible cognitive impairment and depression. 12th International Congress of International Psychogeriatric Association, 2005. 9.
  - 4) Koeda M, Takahashi H, Yahata N, Asai K, Okubo Y, Tanaka H: Neural Responses to Human Voice and Hemisphere Dominance for Lexical-Semantic Processing: An fMRI study. The 5th International Workshop On Biosignal Interpretation (Tokyo), 2005. 9.
  - 5) 小泉幸子, 下田健吾, 小西俊一郎, 池森紀夫, 田村良敦, 宮崎文兵, 塩川和良, 木村真人: 一般病床におけるうつ病治療: 当院の入院統計より. 第10回千葉総合病院精神科研究会, 2005. 4.
  - 6) 下田健吾, 小泉幸子, 木村真人: 特異な症状を呈した心因性健忘の1症例. 第10回千葉総合病院精神科研究会, 2005. 4.
  - 7) 宮崎加奈子, 中山菜央, 横田雅実, 下田健吾, 小泉幸子, 木村真人: 突発性難聴患者の心理的特性: ローレンツァッハテスト結果を中心に. 第10回千葉総合病院精神科研究会, 2005. 4.
  - 8) 横田雅実, 奥部愛子, 中山菜央, 下田健吾, 小泉幸子, 木村真人: パニック障害患者の心理的特性: 既往症と受診経緯を中心とした検討. 第10回千葉総合病院精神科研究会, 2005. 4.
  - 9) 舘野 周, 伊藤敬雄, 新井麻紀, 青木要子, 大久保善朗: 超高齢者うつ病の特徴とその治療. 第101回日本精神神経学会総会, 2005. 5.
  - 10) 大塚太郎, 黄田常嘉, 木村通宏, 水村 直, 松田博史, 根本清貴, 長尾毅彦, 舘野 周, 石渡明子, 久慈一英, 本間 昭, 新井平伊: [99mTc]ECD - SPECT を用いた早発性および晩発性アルツハイマー病局所脳血流の評価. 第20回日本老年精神医学会, 2005. 6.
  - 11) 伊藤敬雄: 自殺未遂例の睡眠不足. 第30回日本睡眠学会定期学術集会, 宇都宮, 2005. 7.
  - 12) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 拡散テンソルMRIを用いたアルツハイマー病(AD)および軽度認知障害(MCI)の白質変化. 第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会, 2005. 7.
  - 13) 小林 岐, 舘野 周, 荒川亮介, 西條朋行, 清田英樹, 大久保善朗: 精神科におけるブロードバンド回線を利用した遠隔医療の可能性. 第25回日本精神科診断学会, 2005. 9.
  - 14) 住吉宏樹, 宮崎文兵, 小西俊一郎, 下田健吾, 木村真人: 長期わたるうつ病性混迷にm - ETCが著効した症例. 第12回北総精神科医会, 2005. 9.
  - 15) 高島智子, 志宮優子, 村上順子, 中山菜央, 横田雅実, 近喰ふじ子, 下田健吾, 木村真人: 遊離テストロンとうつ病の関係. 第12回北総精神科医会, 2005. 9.
  - 16) 中山菜央, 横田雅実, 奥部愛子, 鈴木千賀子, 江本直也, 下田健吾, 橋口英俊, 木村真人: 糖尿病患者の心理学的研究. 第12回北総精神科医会, 2005. 9.
  - 17) 高島智子, 志宮優子, 村上順子, 中山菜央, 横田雅実, 近喰ふじ子, 下田健吾, 木村真人: 中高年の男性うつ病患者における遊離テストステロン値の検討(第1報). 第104回日本心身医学会関東地方会, 2005. 9.
  - 18) 中山菜央, 横田雅実, 奥部愛子, 鈴木千賀子, 江本直也, 下田健吾, 橋口英俊, 木村真人: 糖尿病患者に関する臨床心理学的研究: SCIを中心とする検討. 第104回日本心身医学会関東地方会, 2005. 9.
  - 19) 横田雅実, 橋口英俊, 木村真人: 生活習慣病としての歯周病疾患に関する健康行動理論の応用. 第104回日本心身医学会関東地方会, 2005. 9.
  - 20) 太田深秀, 安野史彦, 高橋英彦, 須原哲也, 安藤智道, 鈴木和年, 大久保善朗: 喫煙に対する渴望に関連した脳機能局在部位と脳内ドーパミン神経系との関連に関する研究. 喫煙科学研究財団平成16年度助成研究発表会, 2005. 10.
  - 21) 伊藤敬雄, 舘野 周, 鈴木博子, 大久保善朗: 高齢者自殺未遂例の睡眠障害. 第18回日本総合病院精神医学会総会, 松江, 2005. 11.

- 22) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 全生活史健忘を含む記憶障害が遷延した1症例(機能性健忘の立場から). 第10回日本神経精神医学会, 2005. 11.
- 23) 一宮哲哉, 大久保善朗, 荒川亮介, 奥村正紀, 齊藤卓弥, 高野晶寛, 伊藤 浩, 須原哲也: 抗うつ薬によるセロトニンおよびノルエピネフリントランスポーター占有率に関するPET研究. 第38回精神神経系薬物治療研究報告会, 2005. 12.
- 24) 油木絵里, 吉村梢恵, 横田雅実, 野口節子, 近喰ふじ子, 山田恵美子, 木村真人: 甲状腺機能障害に対する心理学的検討(第1報). 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- 25) 川添敏弘, 浅見 綾, 石間伏佳恵, 内山光則, 横田雅実, 近喰ふじ子, 益田律子, 木村真人: 疼痛性障害患者のアレキシサイミア傾向に関連する心理的特性について. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- 26) 森川隆司, 伊藤 幸, 南谷則子, 奥部愛子, 横田雅実, 木村真人: 慢性うつ病の就労困難例に対する心理学的検討: 逃避型抑うつとの関連. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- 27) 小林直人, 橋口英俊, 木村真人: 夫婦, 家族にとってのがん: がん患者夫婦へのインタビューを通じて. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- 28) 中山菜央, 古山めぐみ, 藤岡久恵, 三浦剛史, 山田岳史, 益田律子, 吉沢一巳, 木本陶子, 橋口英俊, 木村真人: 当院における疼痛緩和チームの活動状況と心理士の役割. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- 29) 中問房恵, 木村真人, 遠藤俊吉, 大津光寛, 岡田智雄, 佐藤田鶴子: 口腔セネストパチー28例に対するロールシャッハ・テストによる検討. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.
- (6) Poster presentation :
- 1) Ito T, Tateno A, Okubo Y : Lacking of sleep in attempted suicide example of elderly person . The 12th Congress of the International Psychogeriatric Association in Stockholm, Sweden, September 20-24, 2005 ( Stockholm Sweden ), 2005 . 9 .

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

平成17年2月より東邦大学医学部東洋医学科教授として転出された三浦於菟先生の後任として、それまで先生が築かれた日本医科大学における東洋医学の火を消さないために微生物学・免疫学教室教授の高橋が東洋医学科の部長を引き継ぐこととなった。その後、大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移り、新たな体制でスタッフおよび当科を選択した研修医らとともに、定期的なカンファレンスを含め診療および研究を実施している。

研究面であるが、生薬の真の作用機序を探ることを目的とし主として免疫学的な側面からの解析を主体に研究を展開している。これまでの成果に基づき、本年度は生薬の作用点と考えられる粘膜、特に小腸の粘膜組織における免疫システムについての研究をヒトのみならず動物モデルを駆使して実施した。その結果、サルの小腸粘膜よりCD4陽性CD8陽性の粘膜固有の特殊なT細胞株の樹立に成功した。また、粘膜組織を反映すると考えられるIgAを多量に含むヒト乳汁中には免疫応答の鍵を握る樹状細胞群が多数存在することを確認し、粘膜免疫における生薬などの抗原情報を伝達すると推測されるCD1分子が、ヒト・サル・チンパンジー・マウス間ではそれぞれ異なるものの、ヒトの中では殆ど多様性が認められないことを見いだした。こうした事実は、ヒトにおいて作用する物質が必ずしも他の動物種では作用しないこと、生薬の薬理作用の研究はやはりヒトの細胞群を用いて研究を進めることの重要性を示唆している。さらに最近、胃粘膜などの粘膜組織に局在する自己免疫との関連が指摘されているB-1細胞が、ピロリ菌のウレアーゼという酵素によって活性化しリウマチ因子を産生することを見いだした。以上の結果得られた細胞群を用いて、生薬群がこれらの粘膜に存在する細胞群に与える影響を検討し、その真の薬理効果を追跡した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Takahashi M<sup>1)</sup>, Ido E<sup>2)</sup>, Uesaka H<sup>2)</sup>, Fukushima T<sup>1)</sup>, Ibuki K<sup>2)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>, Hayami M<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Laboratory of Viral Pathogenesis, Institute for Virus Research, Kyoto University ): Comparison of susceptibility to SIVmac239 infection between CD4<sup>+</sup> and CD4<sup>+</sup> CD8<sup>+</sup> T cells . Arch. Virol. 2005 ; 150 : 1517-1528 .
- 2) Enomoto Y<sup>1)</sup>, Sugita M<sup>1)</sup>, Matsunaga I<sup>2)</sup>, Naka T<sup>3)</sup>, Sato A<sup>3)</sup>, Kawashima T<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Takahashi H , Norose Y<sup>1)</sup>, Yano I<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Laboratory of Cell Regulation, Institute for Virus Research, Kyoto University , <sup>3)</sup>Japan BCG General Laboratory ): Temperature-dependent biosynthesis of glucose monomycolate and its recognition by CD1-restricted T cells . BBRC 2005 ; 337 : 452-456 .
- 3) Saito N<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>2)</sup>, Akahata W<sup>1)</sup>, Ido E<sup>1)</sup>, Hidaka C , Ibuki K<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Hayami M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Laboratory of Viral Pathogenesis, Institute for Virus Research, Kyoto University , <sup>2)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School ): Analysis of evolutionary conservation in CD1d molecules among primates . Tissue Antigens 2005 ; 66 ( 6 ): 674-682 .
- 4) Satomi M<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Hidaka C , Ichikawa M<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School ): Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . J. Infect. Dis. 2005 ; 191 ( 1 ): 174-181 .
- 5) Watari E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School ): Langerhans cells stimulated by mechanical stress are susceptible to measles virus infection . Intervirology 2005 ; 48 ( 2 ): 145-152 .
- 6) Iizumi T<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>2)</sup>, Kamiya S<sup>3)</sup>, Hirota K , Watanabe E<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>4)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>3)</sup>Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine , <sup>4)</sup>Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Augmentation of *Helicobacter pylori* urease activity by its specific IgG antibody : implications for bacterial colonization enhancement . Biomed. Res. 2005 ; 26 ( 2 ): 35-42 .
- 7) Yamanishi S<sup>1)</sup>, Iizumi T<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Kamiya S<sup>2)</sup>, Nagata K<sup>3)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine , <sup>3)</sup>Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine ): Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* urease . Infect. Immun. 2006 ; 74 ( 1 ): 248-256 .
- 8) 三浦於菟 : 気虚証の盗汗症例とその病態 . 漢方の臨床 2005 ; 52 ( 8 ): 1170-1177 .
- 9) 三浦於菟 : 清心蓮子飲の有効性と効能 . 東静漢方研究室 2005 ; 28 ( 3 ): 1-9 .
- 10) 三浦於菟 : 滋陰降火湯と滋陰至宝湯の効能比較 . 東静漢方研究室 2005 ; 28 ( 3 ): 73-77 .

#### (2) 綜説:

- 1) 高橋秀実 : 自然免疫と獲得免疫の基礎 : 樹状細胞を介したウイルス特異的キラー - T細胞の誘導 . 最新医学 2005 ; 60 ( 3 ): 556-565 .
- 2) 三浦於菟 : 漢方ものしり辞典・東洋医学対語述語 ( 6 ) 癥瘕・積聚 . MEDICAL KANPO 2005 ; ( 春 ): 16 .
- 3) 三浦於菟 : 専門医のカルテから・花粉症 . 漢方・週刊朝日増刊号 2005 ; 110 ( 15 ): 97 .

- 4) 高橋秀実：HIV/AIDSの病態進行とワクチン開発の進歩．日本エイズ学会誌 2005；7(2)：83-92．
- 5) 高橋秀実：腸管における innate immunity．無菌生物 2005；35(1)：21-25．
- 6) 高橋秀実：自然免疫システムとHIV．日本エイズ学会誌 2005；7(3)：556-565．
- 7) 三浦於菟：漢方ものしり辞典・東洋医学対語述語(7) - 崩漏・癰閉．MEDICAL KANPO 2005；(秋)：12．
- 8) 三浦於菟：こうして東静漢方に行きついた．東静漢方研究室 2005；28(3)：73-77．
- 9) 三浦於菟：医学用語の語源．医学メディアセンタ - ニュース 2005；(11)：1-2．
- 10) 沼田健裕<sup>1)</sup>，三浦於菟<sup>(1)</sup>日本医科大学医学部)：漢薬記憶法(3)．漢方研究 2005；(12)：454-456．
- 11) 春木英一：小児科日常診療に役立つ漢方療法：特集 日常診療に役立つ最新の薬物治療と副作用対策．小児科増刊号 2006；47(5)：829-835．

## 著書

- 1) 三浦於菟，岡田研吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>岡田医院)：〔共著〕気血水健康法．イルカBOOKS，2005；pp1-183，冬青社．
- 2) 三浦於菟：〔自著〕こころと体に効く漢方学．新潮選書，2005；pp1-151，新潮社．
- 3) 平馬直樹，瀬尾港二<sup>1)</sup>，稲田恵子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>後藤学園)：〔共著〕図解 よくわかる東洋医学，2005；pp1-200，池田書店．
- 4) 三浦於菟，福生吉裕<sup>1)</sup>，波平恵美子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会老人病研究所，<sup>2)</sup>お茶の水女子大学文学部)：〔共著〕未病息災．健康双書，2005；pp1-191，農文協．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：新たな未病への挑戦 - 現代免疫学的視点からみた疾病の本態に関する洞察．第11回日本未病システム学会総会，2005．1．
- 2) 高橋秀実：腸管における innate immunity．第38回日本無菌生物ノ - トバイオロジ - 学会総会，2005．1．
- 3) 高橋秀実：免疫学の最新情報：新たな医学をめざして．平成16年度自己治癒力研究会総会，2005．2．
- 4) 高橋秀実：粘膜免疫とアレルギー - 第16回多摩小児アレルギー - 臨床懇話会，2005．3．
- 5) 高橋秀実：免疫システムの新たな実態：基本免疫と獲得免疫．第79回日本感染症学会総会，2005．4．
- 6) 高橋秀実：脂質と粘膜免疫．第12回関東Lipid Artery研究会，2005．5．
- 7) 古賀実芳：日常臨床に役立つ漢方15処方．阿賀北漢方研究会・県中央地区漢方勉強会，2005．6．
- 8) 高橋秀実：生薬の作用に関する一考察．東静漢方35周年記念会，2005．8．
- 9) 高橋秀実：新たな治療法の模索：骨髄移植と標的治療薬．北区医師会学術講演会，2005．8．
- 10) 高橋秀実：未病治療および病との共生．北区医師会学術講演会，2005．8．
- 11) 高橋秀美：風邪に対する東洋医学的治療．文京区主催大学公開講座，2005．8．
- 12) 高橋秀実：癌の免疫療法・丸山ワクチン作用機序に関する一考察．日本NPO丸山ワクチンと癌を考える会シンポジウム，2005．9．
- 13) 春木英一：『鍼灸による疼痛の治療』 - 整形外科疾患を中心に - 第57回日本良導絡自律神経学会東京学術大会，2005．10．
- 14) 三浦於菟：春期アレルギー - 性鼻炎の漢方薬治療：東洋医学的観点による分類の試み．第59回東邦医学会，2005．11．
- 15) 古賀実芳：はじめての漢方，「2005働く女性のための漢方セミナー：女性の悩みに漢方を」．朝日新聞社広報局主催，2005．11．
- 16) 古賀実芳：漢方薬の服薬指導について：よく質問される内容を中心に．臨床薬学研究会，2005．11．
- 17) 高橋秀実：漢方薬でエイズウイルスの持続感染は制御できるか．第5回東京大学実践漢方セミナー，2005．12．
- 18) 古賀実芳：「病人」を診る漢方：漢方外来診察室より．第1回 愛宕漢方医学研究会，2005．12．

(2) 教育講演 :

- 1) 平馬直樹 : 気の病証と治療 . 神奈川実践漢方勉強会 , 2005 . 1 .
- 2) 平馬直樹 : 血の病証と治療 . 神奈川実践漢方勉強会 , 2005 . 6 .
- 3) 平馬直樹 : 湿の病証と治療 . 神奈川実践漢方勉強会 , 2005 . 10 .

(3) シンポジウム :

- 1) 春木英一 : 小児アレルギー - 性疾患に対する中医学的治療 . 第27回日本小児東洋医学会秋季大会 , 2005 . 9 .

(4) ワークショップ :

- 1) Takahashi H : Fetal-maternal transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific Symposium ( Kobe, Japan ) , 2005 . 7 .
- 2) Takahashi H : Endogenously expressed HIV-1 nef down-regulates not only class I MHC but also CD1a molecules : A new target for vaccine development . Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 18th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Hanoi, Vietnam ) , 2005 . 11 .
- 3) Takahashi H : Fetal-maternal transmission of macrophage-tropic HIV-1 captured by breast milk macrophages . The 17th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim ( Hanoi, Vietnam ) , 2005 . 11 .
- 4) 高橋秀実 : 霊長類におけるCD1d分子の保存性とSIV/HIV感受性 . 文科省特定領域研究「サルを用いた感染症研究」の現状と今後を考える会議 , 2005 . 9 .
- 5) 高橋秀実 , 里見操緒<sup>1)</sup> , 清水真澄<sup>1)</sup> , 新谷英滋<sup>1)</sup> , 渡理英二<sup>1)</sup> , 大脇敦子<sup>1)</sup> , 日高千鶴乃 , 市川雅男<sup>1)</sup> , 竹下俊行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 , <sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科 ) : 母乳中マクロファージを介したレトロウィルスの感染伝播のメカニズム : R5 - type HIV-1 をモデルとして . 第53回日本ウイルス学会総会 , 2005 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) 平馬直樹 : 新安医学を訪ねて . 東京臨床中医学研究会 , 2005 . 1 .
- 2) 平馬直樹 : 丁甘仁とその時代 . 阿蘇漢方シンポジウム , 2005 . 3 .
- 3) 三浦於菟 : 倦怠感を訴える精神障害者の東洋医学的病態像 . 第56回日本東洋医学会学術総会 , 2005 . 5 .
- 4) 三浦於菟 : 一貫煎の症例 . 温知会研究会 , 2005 . 5 .
- 5) 三浦於菟 : 最近の治験から - 清心蓮子飲及び滋陰降火湯と滋陰至宝湯の症例と効能 . 第20回東静漢方シンポジウム , 2005 . 7 .
- 6) 高岡直子<sup>1)</sup> , 小菅孝明<sup>2)</sup> , 熊谷由紀恵<sup>1)</sup> , 河野吉成<sup>1)</sup> , 林田和郎<sup>1)</sup> , 土屋 喬 , 三浦於菟 ( <sup>1)</sup>東邦大学医療センター - 大森病院東洋医学科 , <sup>2)</sup>小管医院 ) : 顔面紅潮に対する温経湯の1例 . 第62回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会 , 2005 . 10 .
- 7) 高橋秀実 , 高橋めぐみ<sup>1)</sup> , 斉藤尚紀<sup>2)</sup> , 守屋慶一<sup>1)</sup> , 上坂浩実<sup>2)</sup> , 福島達伸<sup>1)</sup> , 井戸栄治<sup>2)</sup> , 伊吹謙太郎<sup>2)</sup> , 三浦智行<sup>2)</sup> , 速水正憲<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 , <sup>2)</sup>京都大学ウイルス研究所・感染症モデル研究センター - ) : サル CD4<sup>+</sup> T細胞とCD4<sup>+</sup> CD8<sup>+</sup> T細胞のSIVmac239に対する感受性の差違 . 第19回日本エイズ学会総会 , 2005 . 12 .
- 8) 高橋秀実 , 里見操緒<sup>1)</sup> , 清水真澄<sup>1)</sup> , 新谷英滋<sup>1)</sup> , 渡理英二<sup>1)</sup> , 大脇敦子<sup>1)</sup> , 日高千鶴乃 , 八木幸恵<sup>1)</sup> , 市川雅男<sup>1)</sup> , 竹下俊行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 , <sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科 ) : Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN . 第35回日本免疫学会総会 , 2005 . 12 .



## 6. 小児科学講座

### [ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

#### 研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の協力のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主たる研究内容は、再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究、白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明、川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究、小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究、小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討、小児呼吸器疾患の臨床的特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用、新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討、小児慢性疲労症候群の病態の解析、小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Taguchi K, Ogawa R, Migita M, Ito H, Orimo H : The role of bone marrow-derived cells in bone fracture repair in a green fluorescent protein chimeric mouse model. . *Biochem Biophys Res Commun* 2005 ; 27 ( 331 ): 31-36 .
- 2) Adachi A<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Maeda M, Kaizu K, Liu X-L<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Research ): Electronmicroscopic studies on the occurrence of activated neutrophils in peripheral blood of children with acute leukemias . *Submicrosc. Cytol. Pathol.* 2005 ; 37 ( 1 ): 13-18 .
- 3) Hayakawa M, Ishizaki M, Hayakawa J, Migita M, Murakami M, Shimada T, Fukunaga Y : Role of bone marrow cells in the healing process of mouse experimental glomerulonephritis . *Pediatr Res* 2005 ; 58 ( 2 ): 323-328 .
- 4) Koizumi K<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Okada D<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Kinoshita H<sup>1)</sup>, Enomoto Y<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Maeda M ( <sup>1)</sup> Dept. of Surg II ): Video-assisted thoracic surgery for Ewing's sarcoma of the mediastinum in a 3-year-old girl . *Ann Thrac Cardiovasc Surg* 2005 ; 11 ( 2 ): 117-120 .
- 5) Yanagihara T, Hayakawa M, Yoshida J, Tsuchiya M, Morita T, Murakami M, Fukunaga Y : Long-term follow-up of diffuse membranoproliferative glomerulonephritis type I . *Pediatric Nephrology* 2005 ; 20 : 585-590 .
- 6) Maeda M, Fukunaga Y, Asano T, Migita M, Ueda T, Hamada H, Hayakawa J, Narazaki H, Kaizu K : Clinical aspects of infant leukemia experiences of a single institution of Japan : high level of serum immunoglobulin M in infant leukemia. . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 6 ): 355-363 .
- 7) Igarashi S<sup>1)</sup>, Manabe A<sup>2)</sup>, Ohara A<sup>3)</sup>, Kumagai M<sup>4)</sup>, Saito T<sup>4)</sup>, Okimoto Y<sup>5)</sup>, Kamijo T<sup>6)</sup>, Isoyama K<sup>7)</sup>, Kajiwara M<sup>8)</sup>, Sotomatsu M<sup>9)</sup>, Sugita K<sup>10)</sup>, Sugita K<sup>11)</sup>, Maeda M, Yabe H<sup>12)</sup>, Kinoshita A<sup>13)</sup>, Kaneko T<sup>14)</sup>, Hayashi Y<sup>15)</sup>, Ikuta K<sup>16)</sup>, Hanada R<sup>17)</sup>, Tshuchida M<sup>18)</sup> ( <sup>1)</sup> Narita Red Cross Hospitals, <sup>2)</sup> St Luke's International Hospital, <sup>3)</sup> Toho University, <sup>4)</sup> National Center for Child Health and Development, <sup>5)</sup> Chiba

- Children's Hospital , <sup>6)</sup> Shinshu University , <sup>7)</sup> Showa University , <sup>8)</sup> Tokyo Medical and Dental University , <sup>9)</sup> Maebashi Red Cross Hospital , <sup>10)</sup> Dokkyo University School of Medicine , <sup>11)</sup> Yamanashi University, <sup>12)</sup> Tokai University, <sup>13)</sup> St. Marianna University School of Medicine, <sup>14)</sup> Tokyo Metropolitan Kiyose Children's Hospital, <sup>15)</sup> Gunma Children's Medical Center, <sup>16)</sup> Yokohama City University School of Medicine, <sup>17)</sup> Saitama Children's Medical Center <sup>18)</sup> Ibaraki Children's Hospital ): No advantage of dexamethasone over prednisolone for the outcome of standard- and intermediate-risk childhood acute lymphoblastic leukemia in the Tokyo Children's Cancer Study Group L95-14 protocol . J Clin Oncol 2005 ; 23 ( 27 ): 6489-6498 .
- 8) Maeda M , Fukunaga Y , Asano T , Migita M , Ueda T , Hamada H , Hayakawa J , Narazaki H , Kaizu K : Clinical Aspects of Infants Leukemia-Experiences of a single institution of Japan . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 355-363 .
- 9) Yuichi F<sup>1)</sup> , Yoshio Shima<sup>1)</sup> , Fumiko Shindoh<sup>1)</sup> , Mizue Nakajima<sup>1)</sup> , Mitsuyoshi Urashima<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital , <sup>2)</sup> Jikei Medical University ): Clinical significance of measuring lactate levels in cord blood to predict development of respiratory distress syndrome in neonates . Japan Medical Association Journal 2005 ; 48 ( 6 ): 268-276 .
- 10) Fujimura J , Nagano M<sup>1)</sup> , Suzuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pharmacology ): Differential expression of GABAA receptor subunits in the distinct nuclei of the rat amygdala . Mol Brain Res 2005 ; 138 : 17-23 .
- 11) Fujimura J , Ogawa R<sup>1)</sup> , Mizuno H<sup>1)</sup> , Fukunaga Y , Suzuki H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Dept. of Pharmacology ): Neural differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice . Biochem Biophys Res Commun 2005 ; 333 : 116-121 .
- 12) Asano T , Nakamura K , Fujino H , Horichi N , Ohmori T , Hasagawa K , Isoe T , Adachi M , Otake N , Fukunaga Y : Altered expression of topoisomerase II contributes to etoposide cross-resistant K562/MX2 cell line by aberrant methylation . Brit J Cancer 2005 ; 92 ( 8 ): 1486-1492 .
- 13) Matsunaga S , Asano T , Tsutsuda-Asano A , Fukunaga Y : Indometacin overcomes doxorubicin resistance by inhibiting Multi-drug resistance protein 1 ( MRP1 ) . Cancer Chemother Pharmacol 2005 .
- 14) Maeda M : Clinical aspects of infant Leukemia-Experiences of a single institution of Japan. Level of serum immunoglobulin M infantleukemia . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 355-363 .
- 15) Asano T , Kleinerman ES , Zwilling LA , Fukunaga Y : Adenovirus-mediated human topoisomerase II increases the sensitivity of etoposide-resistant cancer cell . Acta Oncologica 2005 ; 44 ( 3 ): 240-247 .
- 16) Kishi M , Ohki Y , Orimo H : Three-year follow-up study on serum leptin levels in GH deficient children with GH replacement therapy . Clin Pediatr Endocrinol 2006 ; 15 ( 1 ): 35-39 .
- 17) Yamanishi S<sup>1,2)</sup> , Iizumi T<sup>1)</sup> , Watanabe E<sup>1)</sup> , Shimizu M<sup>1)</sup> , Kamiya S<sup>3)</sup> , Nagata K<sup>4)</sup> , Kumagai Y<sup>1)</sup> , Fukunaga Y<sup>2)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics , <sup>3)</sup> Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine ): Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* urease . Infection and Immunity 2006 ; 74 ( 1 ): 248-256 .
- 18) Fujimura J , Shima Y<sup>1)</sup> , Arai H<sup>2)</sup> , Ogawa R<sup>3)</sup> , Fukunaga Y ( <sup>1)</sup> Dept. of Premature and Neonatal Medicine, Katsushika Red Cross Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, Juntendo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery ): Management of a suprasellar arachnoid cyst identified using prenatal ultrasonography . J Clin Ultrasound 2006 ; 34 : 92-94 .
- 19) 浅野由美<sup>1)</sup> , 前田美穂 ( <sup>1)</sup> 兵庫医科大学 ): 再生不良性貧血のQOL 調査について . 日本小児血液学会雑誌 2005 ; 19 ( 4 ): 277-279 .
- 20) 平岡美依奈<sup>1)</sup> , 渡辺とよ子<sup>1)</sup> , 川上 義<sup>2)</sup> , 瀧川逸朗<sup>3)</sup> , 多田 裕<sup>4)</sup> , 林 良寛<sup>5)</sup> , 加部一彦<sup>6)</sup> , 西田 朗<sup>7)</sup> , 竹

内敏雄<sup>8)</sup>, 宮島 祐<sup>9)</sup>, 島 義雄<sup>10)</sup>, 佐久間泉, 高田昌亮, 保坂篤人, 副田敦裕, 加部一彦, 西田朗, 竹内敏雄, 宮島祐, 佐久間泉, 島義雄, 高田昌亮, 保坂篤人, 長谷川廉, 副田敦裕, 豊田美穂子, 斉藤友博<sup>(1)</sup> 都立墨東病院新生児科, <sup>2)</sup> 日赤医療センター新生児未熟児科, <sup>3)</sup> 都立大塚病院新生児科, <sup>4)</sup> 東邦大学小児科, <sup>5)</sup> 慈恵医大小児科, <sup>6)</sup> 愛育病院新生児科, <sup>7)</sup> 都立八王子小児病院新生児科, <sup>8)</sup> 昭和大学小児科, <sup>9)</sup> 東京医大小児科, <sup>10)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, 東京女子医大小児科, 順天堂大学小児科): 極低出生体重児における未熟児網膜症: 水分投与量と体重増加に関する検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2005; 41(3): 576-582.

21) 浅野 健, 高木篤史, 羽鳥誉之, 浜田久光, 今井大洋, 藤野 修: 日本医科大学千葉北総病院における小児のペニシリン耐性肺炎球菌の検出状況と薬剤感受性の最近4年間の検討. 日本小児耳鼻咽喉科研究会誌 2005.

(2) 綜説:

- 1) Murakami M, Hayakawa M, Yanagihara T, Fukunaga Y: Proteinuria screening for children. *Kidney International Supplement* 2005; 94: s23-s27.
- 2) Ayusawa M<sup>1)</sup>, Sonobe T<sup>1)</sup>, Uemura S<sup>1)</sup>, Ogawa S, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Kiyosawa N<sup>1)</sup>, Ishii M<sup>1)</sup>, Harada K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine): Revision of diagnostic guidelines for Kawasaki disease (the 5th revised edition). *Pediat Int* 2005; 47(2): 232-234.
- 3) Maeda M: Trace elements related to anemia. *Biomedical Research on Trace Elements* 2005; 16(1): 19-24.
- 4) Shima Y, Fukumi D, Ogawa S: Intrauterine hemodynamics of tricuspid valve dysplasia in a growth-restricted infant. *Arch Gynecol Obstet* 2006; 273: 366-369.
- 5) 大木由加志, 折茂裕美: 小児・思春期糖尿病(糖尿病“診断と治療”最近の進歩). *Cefiro* 2005; 2: 50-54.
- 6) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 注目されている膠原病様縁疾患: 線維筋痛症. *小児科診療* 2005; 68(4): 697-702.
- 7) 伊藤保彦, 福永慶隆: 子どもの集団生活と心身の健康: 慢性疲労症候群をもつ子どもと集団生活. *小児科臨床* 2005; 58(4): 666-672.
- 8) 前田美穂, 浅野 薫<sup>1)</sup>, 小澤利行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> シスメックス株式会社中央研究所): 無侵襲的手法によるヘモグロビン測定法. *日本臨床検査自動化学会誌* 30(2): 157-160, 2005 2005; 30(2): 157-160.
- 9) 前田美穂: 貧血検診. *小児内科* 2005; 37(4): 500-504.
- 10) 前田美穂, 浅野 健: 身体所見-血液疾患. *小児科* 2005; 46(5): 676-679.
- 11) 浅野 健, 前田美穂: 検査-血液. *小児科* 2005; 46(5): 689-694.
- 12) 小川俊一: 小児期心・血管疾患に対するアンギオテンシン変換酵素阻害薬およびアンギオテンシンII-1型受容体拮抗薬の適応と効果. *小児科* 2005; 46(7): 1151-1158.
- 13) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: 免疫抑制治療に伴う免疫機能低下 治療中の全身性エリテマトーデスと易感染性の問題. *小児内科* 2005; 37(6): 810-813.
- 14) 前田美穂: 内分泌障害と大腿骨頭壊死. *小児内科* 2005; 37(9): 1229-1233.
- 15) 伊藤保彦, 福永慶隆: 小児の線維筋痛症. *日本医事新報* 2005; (4250): 10-14.
- 16) 伊藤保彦: 自己免疫性疲労症候群と周辺疾患. *日医大医学会誌* 2005; 1(4): 200-209.
- 17) 大木由加志, 折茂裕美: 2型糖尿病に対する経口糖尿病薬(血糖調節 from A to Z). *小児科診療* 2005; 68: 1863-1868.
- 18) 勝部康弘, 初鹿野見春, 渡辺美紀, 池上 英, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 未熟心筋の虚血抵抗性機序の解析: ATP感受性チャンネルの役割. *日本小児循環器学会雑誌* 2005; 21(6): 647-652.
- 19) 上砂光裕: 1. 小児循環器領域の日常診療に必要な molecular genetics 小児循環器領域における分子遺伝学. *日本小児循環器学会雑誌* 2005; 21(6): 619-627.
- 20) 藤野 修, 川上康彦, 高石康子: 初回無熱性けいれんへの対応. *小児科* 2005; 46(13): 2159-2166.
- 21) 前田美穂, 浅野 健: 知っておきたい診療上の留意点; 身体所見 各論: 血液疾患. *小児科* 2005; 46(5):

676-679 .

- 22) 浅野 健, 前田美穂: 知っておきたい診療上の留意点; 検査: 血液. 小児科 2005 ; 46 ( 5 ): 689-694 .
- 23) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 渡辺 淳, 浅野ありさ, 右田 真, 島田 隆: 大学病院遺伝診療部における遺伝看護実践. 小児看護 2006 ; 29 : 158-163 .
- 24) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 若年性特発性関節炎におけるメトトレキサートの使い方と問題点. 小児科 2006 ; 47 ( 4 ): 511-516 .

(3) 症例報告:

- 1) Maeda M , Hayakawa J , Ueda T , Migita M , Asano T , Fukunaga Y , Amano Y : Brain white matter changes during treatment of a child for acute lymphoblastic leukemia . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 252-253 .
- 2) Migita M , Hayakawa J , Shima H , Kobayashi H , Yamataka A , Murakami M , Miyano T , Fukunaga Y : A case of Henoch-Schonlein purpura with rare complications : necrosis of the small intestine, neurological symptoms, and pericardial tamponade . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 383-386 .
- 3) Inagaki S , Migita M , Hayakawa M , Yoshida J , Ishizaki M , Kotani M , Sakuraba H , Shimada T , Murakami M , Fukunaga Y : An asymptomatic heterozygous female with fabry disease : implications for enzyme replacement therapy . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 387-390 .
- 4) Maeda M , Hayakawa J , Ueda T , Migita M , Asano T , Fukunaga Y , Asano Y : Brain white matter changes during treatment of a child for acute lymphoblastic leukemia . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 252-253 .
- 5) Maeda M , Hayakawa J , Ueda T , Migita M , Asano T , Fukunaga Y , Amano Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology ): Brain white matter changes during treatment of a child for acute lymphoblastic leukemia . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 252-253 .
- 6) Asano T , Sasaki N , Yashiro K , Hatori T , Kuwabara K , Hamada H , Imai T , Fujino O : Acute pancreatitis with Kawasaki disease : Analysis in cases of Kawasaki disease with elevated serum amylase levels . Eur J Pediatr 2005 ; 164 ( 3 ): 180-181 .
- 7) Asano T , Abe M , Asano M , Imai T , Kamisago M , Kuwabara K , Nakajima M , Ohaki Y , Sugisaka Y , Itoh Y , Fujino O : SAPHO syndrome in a 13 year-old boy with aberrant lymphocyte infiltration in the acne skin . Eur J Pediatr 2005 ; 164 ( 7 ): 466-468 .
- 8) Fujimatu M : Pyriform Sinus Fistula . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ): 2-3 .
- 9) Asano T , Aki K , Okada T , Hatori T , Kuwabara K , Hamada H , Imai T , Fujino O : Usefulness of DNA analysis of tuberculosis by axillar suppurative lymphadenitis with rupture in a BCG-vaccinated infant . Pediatr Int 2006 .
- 10) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 初鹿野見春<sup>1)</sup>, 木田恵子<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>研修医): イミダゾリン系点鼻薬により意識障害を来した1幼児例. 小児科臨床 2005 ; 58 : 886-890 .
- 11) 加藤直樹<sup>1)</sup>, 長尾竜兵<sup>1)</sup>, 河島尚志<sup>1)</sup>, 有瀧健太郎<sup>1)</sup>, 中島みずほ<sup>1)</sup>, 篠本雅人<sup>1)</sup>, 星加明德<sup>1)</sup>, 沼部博直<sup>1)</sup>, 蒔田芳男<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>: グリクラジドが著効した新生児一過性糖尿病. 小児科 2005 ; 46 ( 7 ): 1211-1215 .
- 12) 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 早川真理<sup>2)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 山高篤行<sup>3)</sup>, 宮野 武<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院小児科, <sup>3)</sup>順天堂大学小児外科): 極低出生体重児に伴った横隔膜弛緩症に対する術前管理の経験. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2005 ; 41 ( 3 ): 583-587 .
- 13) 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>, 岡崎任晴<sup>2)</sup>, 山高篤行<sup>2)</sup>, 宮野 武<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>順天堂大学小児外科): 頭蓋内伸展を伴った口腔内巨大奇形腫の1例. 日本周産期・新生児医学会雑誌

誌 2005 ; 41 ( 3 ) : 594-597 .

#### (4) 研究報告書 :

- 1) 大木由加志, 岸 恵, 折茂裕美, 大川拓也 : O-GTT による肥満および非肥満思春期2型糖尿病児のインスリン抵抗性について . 平成16年度厚生科学研究・効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「小児2型に関する経口血糖降下薬のエビデンスの確立 : 特にメトフォルミンの至適投与量, 有効性と安全性の研究」. 平成16年度厚生科学研究報告書 2005 ; pp30-36 .
- 2) 伊藤保彦, 福永慶隆 : 小児自己免疫性疲労症候群における成長ホルモンの関与について . 平成17年度厚生労働科学研究費補助金「引きこもりに繋がる小児慢性疲労, 不登校の治療・予防に関する臨床的研究」報告書 2006 ; pp14-17 .
- 3) 前田美穂 : 貧血検査の実施成績 . 東京都予防医学協会年報 2006 ; 35 ( 1 ) : pp57-61 .

#### 著 書

- 1) 伊藤保彦 : [ 分担 ] 特集「知っておきたい診療上の留意点」II. 検査-3. 血清検査 ( 自己免疫病・膠原病 ) . 小児科46 ( 増刊号 ) ( 「小児科」編集部 ) , 2005 ; pp699-705 , 金原出版 .
- 2) 伊藤保彦, 福永慶隆 : [ 分担 ] 慢性疲労症候群の自己免疫学的側面 : 自己免疫性疲労症候群との関係 . 別冊・医学のあゆみ「疲労の科学」( 渡辺恭良 ) , 2005 ; pp125-129 , 医歯薬出版 .
- 3) 前田美穂 : [ 分担 ] ライフステージと栄養 : 幼児期 . スタンダード栄養・食物シリーズ10 : 応用栄養学 ( 近藤和雄, 鈴木恵美子, 脊山洋右, 藤原葉子編 ) , 2005 ; pp102-113 , 東京化学同人 .
- 4) 前田美穂 : [ 分担 ] ライフステージと栄養 : 学童期 . スタンダード栄養・食物シリーズ10 ( 近藤和雄, 鈴木恵美子, 脊山洋右, 藤原葉子編 ) , 2005 ; pp114-121 , 東京化学同人 .
- 5) 前田美穂, 鈴木真理子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>津田塾大学) : [ 分担 ] ライフステージと栄養 : 思春期 . スタンダード栄養・食物シリーズ10 : 応用栄養学 ( 近藤和雄, 鈴木恵美子, 脊山洋右, 藤原葉子編 ) , 2005 ; pp122-129 , 東京化学同人 .
- 6) 伊藤保彦 : [ 分担 ] そこが知りたい小児臨床検査のポイント . XII. 自己抗体検査 . 2 . リウマチ性疾患に見いだされる疾患標識自己抗体 . 3 ) シェーグレン症候群の疾患標識抗体 . 抗Ro/SSA抗体 , 抗La/SSB抗体 . 小児内科37 ( 増刊号 ) ( 「小児内科」「小児外科」編集委員会共編 ) , 2005 ; pp358-360 , 東京医学社 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 前田美穂 : 小児の鉄欠乏性貧血 . 川口医師会セミナー , 2005 . 9 .

##### (2) 教育講演 :

- 1) 前田美穂 : 小児白血症経験者における視床下部 : 下垂体機能 . 第108回日本小児科学会学術集会 , 2005 . 4 .

##### (3) シンポジウム :

- 1) 伊藤保彦 : 小児の慢性疲労と自己免疫 . 第49回日本リウマチ学会総会 , 2005 . 4 .
- 2) 伊藤保彦 : 自己免疫性疲労症候群と周辺疾患 . 日本医科大学医学会第15回公開シンポジウム , 2005 . 6 .
- 3) 小川俊一<sup>1)</sup>, 小川 潔<sup>2)</sup>, 山岸正明<sup>3)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>埼玉県立小児医療センター循環器科, <sup>3)</sup>京都府立医科大学附属小児疾患研究施設小児心臓血管外科) : 若手医師のための勉強会 ( 教育セミナー ) . 第41回日本小児循環器学会総会・学術集会 , 2005 . 7 .
- 4) 西澤善樹 : 小児科医よりママたちへのメッセージ . 川崎市市民自主学級 : 子どもと楽しく向きあうために , 2005 . 9 .
- 5) 伊藤保彦 : 「臨床必須研修の現場に必要な小児医薬品の基礎知識」NSAIDs : 小児リウマチ医の立場から . 第32回日本小児臨床薬理学会 , 2005 . 10 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) 島 義雄<sup>1)</sup>, 西巻 滋<sup>2)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>横浜市立大学小児科): Fetal Inflammatory Response Syndrome (FIRS) 関連疾患と標的臓器 (ワークショップ: PVL). 日本未熟児新生児学会, 2005. 12.

(5) セミナー :

- 1) 伊藤保彦: 小児のシェーグレン症候群と周辺疾患. 第14回日本シェーグレン症候群研究会, 2005. 9.

(6) ワークショップ :

- 1) 前田美穂: 小児がんの視床下部・下垂体機能について: 小児血液の立場から. Childhood Cancer Survivors Workshop, 2005. 7.
- 2) 高橋浩之<sup>1)</sup>, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 小原 明<sup>2)</sup>, 真部 淳<sup>3)</sup>, 外松 学<sup>4)</sup>, 熊谷昌明<sup>5)</sup>, 菊地 陽<sup>6)</sup>, 磯山恵一<sup>7)</sup>, 上條 岳彦<sup>8)</sup>, 梶原道子<sup>9)</sup>, 杉田憲一<sup>10)</sup>, 金子 隆<sup>11)</sup>, 前田美穂, 木下明俊<sup>12)</sup>, 杉田完爾<sup>13)</sup>, 林 泰秀<sup>14)</sup>, 花田良二<sup>6)</sup>, 土田昌宏<sup>15)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学, <sup>2)</sup>東邦大学, <sup>3)</sup>聖路加国際病院, <sup>4)</sup>前橋赤十字病院, <sup>5)</sup>国立成育医療センター, <sup>6)</sup>埼玉小児医療センター, <sup>7)</sup>昭和大学, <sup>8)</sup>信州大学, <sup>9)</sup>東京医科歯科大学, <sup>10)</sup>獨協医科大学, <sup>12)</sup>聖マリアンナ医科大学, <sup>13)</sup>山梨大学 <sup>14)</sup>群馬小児医療センター<sup>15)</sup>茨城こども病院): 小児 ALL の TCR, IgH 再構成をターゲットとした MRD の検出と予後-TCCSG L99-15 研究における後方視的検討. 第 67 回日本血液学会・第 47 回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 3) 石田也寸志<sup>1)</sup>, 大園秀一<sup>2)</sup>, 吉成みやこ<sup>3)</sup>, 前田美穂, 栗山貴久子<sup>4)</sup>, 松下竹次<sup>5)</sup>, 有瀧健太郎<sup>6)</sup>, 石井栄三郎<sup>7)</sup>, 浅見恵子<sup>8)</sup>, 堀部敬三<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>愛媛大学, <sup>2)</sup>広島大学, <sup>3)</sup>東北大学, <sup>4)</sup>京都府立医科大学, <sup>5)</sup>国際医療センター, <sup>6)</sup>成育医療センター, <sup>7)</sup>長野こども病院, <sup>8)</sup>新潟がんセンター, <sup>9)</sup>名古屋医療センター): JPLSG 長期フォローアップ委員会の取り組み. 第 21 回日本小児がん学会, 第 47 回日本小児血液学会合同学会, 2005. 11.
- 4) 浅野由美<sup>1)</sup>, 前田美穂 (<sup>1)</sup>兵庫医科大学): 再生不良性貧血長期生存例の QOL について. 第 47 回日本小児血液学会委員会, 2005. 11.

(7) 一般講演 :

- 1) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y, Suzuki H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pharmacology): Neurogenic differentiation of adipose-derived stromal cells isolated from GFP transgenic mice. The Joint Meeting of the Tissue Engineering Society International and the European Tissue Engineering Society (Switzerland), 2004. 10.
- 2) Ogawa K<sup>1,2)</sup>, Hirai Y<sup>1)</sup>, Zenri K<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and molecular Biology, <sup>2)</sup>Department of Pediatrics): Gene mediated enzyme replacement therapy of Fabry disease by AAV serotype 1 vector. The 11th Annual Meeting 2005 (Boston, MA, USA), 2005. 1.
- 3) Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y: Subchemical hypothyroidism and autoimmune fatigue syndrome. Experimental Biology 2005 (San Diego, CA, USA), 2005. 4.
- 4) Asano T: Indomethacin overcomes doxorubicin resistance by inhibiting Multi-drug resistance protein 1 (MRP1/ABCC1) promoter activity. American Association of Cancer Research, 2005. 4.
- 5) Ogawa K<sup>1)</sup>, Hirai Y<sup>1)</sup>, Zenri K<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup>Department of Pediatrics): The Use of AAV Serotype 1 Vectpr for Expression of  $\beta$ -Galactosidase A in Fabry Knockout Mice. American Society of Gene Therapy's 8th Annual Meeting (St. Louis), 2005. 6.
- 6) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y, Suzuki H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pharmacology): Neural Differentiation of Adipose-Derived Stem Cells Harvested from GFP Transgenic Mice and Rats. The 3rd International Fat Applied Technology Society (Charlottesville, USA), 2005. 9.

- 7) Hajikano M<sup>1)</sup>, Katsube Y<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup>, Fukazawa R<sup>2)</sup>, Kamisago M<sup>2)</sup>, Kuramochi Y<sup>2)</sup>, Uchikoba Y<sup>2)</sup>, Ikegami E<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, 2nd Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital, Pediatrics, Tokyo, Japan ): Developmental changes of the right ventricular function using color tissue Doppler and strain echocardiography . European Society of Cardiology , 2005 . 9 .
- 8) Katsube Y<sup>1)</sup>, Hajikano M<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup>, Fukazawa R<sup>2)</sup>, Kamisago M<sup>2)</sup>, Kuramochi Y<sup>2)</sup>, Uchikoba Y<sup>2)</sup>, N. Sperelakis<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School 2nd Hospital, Pediatrics, Kawasaki, Japan , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Hospital, Pediatrics, Tokyo, Japan , <sup>3)</sup> University of Cincinnati, Mol. & Cell. Physiology Dept, Cincinnati, United States of America ): Adrenomedullin activates mitochondrial KATP channels in neonatal rat ventricular myocytes . European Society of Cardiology , 2005 . 9 .
- 9) Kaizu K , Maeda M , Asano T , Migita M , Hamada H , Fukunaga Y : The GH provocation test poorly predicts final attained height in patients with childhood leukemia after the completion of therapy . 37th SIOOP ( Vancouver, Canada ), 2005 . 9 .
- 10) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Hajikano M , Katsube Y : Estimation of abnormal micro-coronary circulation by Doppler flow wire in children with Kawasaki disease . 6th International Congress on Coronary Artery Disease ( Istanbul, Turkey ), 2005 . 10 .
- 11) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Hajikano M , Katsube Y : Coronary micro-vascular resistance improves after coronary intervention in children with Kawasaki disease . 6th International Congress on Coronary Artery Disease ( Istanbul, Turkey ), 2005 . 10 .
- 12) Itoh Y , Igarashi T , Fukunaga Y : The predominance of anti-Ro52 and its relationship with clinical manifestations in children with Sjogren's syndrome. American College of Rheumatology . American College of Rheumatology. 69th Annual Scientific Meeting ( San Diego, CA. USA ), 2005 . 11 .
- 13) Kuramochi Y<sup>1, 2)</sup>, Ogawa S , Fukunaga Y , Sawyer DB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Center of Molecular Stress Response, Boston University Medical Center , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Shizuoka Medical Center ): A potential mechanism of erbB2 requirement for the maintenance and repair of cardiomyocyte coupling . The 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research ( Tokyo ), 2005 . 11 .
- 14) Fujimura J , Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y , Suzuki H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Dept. of Pharmacology ): Multilineage Differentiation of Adipose-Derived Stem Cells Harvested from GFP Transgenic Animals . The 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research ( Tokyo ), 2005 . 11 .
- 15) Asano T , Hatori T , Kuwabara K , Hamada H , Imai T , Fujino O : Proteomic analysis in cerebrospinal fluids with influenza encephalopathy . 1st congress of Asian Society of Pediatric Research , 2005 . 11 .
- 16) Ogawa C<sup>1)</sup>, Ohara A<sup>2)</sup>, Manabe A<sup>1)</sup>, Hanada R<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>4)</sup>, Koh K<sup>5)</sup>, Kaijiwara M<sup>6)</sup>, Maeda M , Sugita K<sup>7)</sup>, Kikuchi A<sup>3)</sup>, Ioyama K<sup>8)</sup>, Noguchi Y<sup>9)</sup>, Saito M<sup>10)</sup>, Ota S<sup>11)</sup>, Fukushima T<sup>12)</sup>, Yabe H<sup>13)</sup>, Toyoda Y<sup>14)</sup>, Saito T<sup>15)</sup>, Tsuchida M<sup>16)</sup> ( <sup>1)</sup> St. Rukas Hospital , <sup>2)</sup> Toho University , <sup>3)</sup> Saitama Children's Medical Center , <sup>4)</sup> Yokohama City University School of Medicine , <sup>5)</sup> Tokyo University , <sup>6)</sup> Toko Medical and Dental University , <sup>7)</sup> Dokkyo University School of Medicine , <sup>8)</sup> Showa University , <sup>9)</sup> Narita Red Cross Hospital , <sup>10)</sup> Juntendo University , <sup>11)</sup> Teikyo University. <sup>12)</sup> Tyukuba University <sup>13)</sup> Tokai University <sup>14)</sup> Kanagawa Children's Medical Center <sup>15)</sup> Natinal Center Child Health and Development <sup>16)</sup> Ibaraki Children's Hospital ): Treatment outcome of discontinued L-Asparaginase in children with Standard-Risk acute Lymphoblastic Leukemia : Tokyo Children's Cancer Study Group ( TCCSG ) Study L99-15 . 47th American Society of Hematology ( Atlanta, USA ), 2005 . 12 .
- 17) Kuramochi Y<sup>1, 2, 3)</sup>, Sawyer DB<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Center of Molecular Stress Response, Boston University Medical Center , <sup>3)</sup> Department of Pediatrics, Shizuoka Medical Cen-

- ter): A potential mechanism of erbB2 requirement for the maintenance and repair of cardiomyocyte coupling. 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.
- 18) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 小児における subclinical Sjogren 症候群と線維筋痛症の関係についての検討. 第49回日本リウマチ学会総会, 2005. 4.
- 19) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 桑原奈津子, 濱田久光, 今井大洋, 藤野 修, 福永慶隆: 小児における subchemical hypothyroidism と自己免疫性疲労症候群の関係についての検討. 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 20) 藤田敦士, 右田 真, 福永慶隆: 胃食道逆流症により咽頭けいれんを呈した1乳児例. 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 21) 柳原 剛: 東京都における学校検尿陽性率の疫学的検討(30年の推移から). 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 22) 池上 英, 深澤隆治, 初鹿野見春, 渡邊美紀, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一, 福永慶隆: Anthracycline 系薬剤の心筋障害における, 活性酸素スカベンジャー・edaravone の抑制効果. 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 23) 布山裕一<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 浦島充佳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科,<sup>2)</sup>慈恵医大小児科): 呼吸窮迫症候群発症予知における臍帯動脈乳酸値の有用性の検討. 日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 24) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 藤川 敏, 小林史子, 福永慶隆, 永島正一, 吉野慎一: Baker's cyst を合併した多関節型JIAの一女児例. 第49回日本リウマチ学会, 2005. 4.
- 25) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 高木篤史<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 船越 慶<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院小児科,<sup>2)</sup>独協医科大学神経内科): Fisher 症候群の1例. 第274回日本小児科学会神奈川県地方会, 2005. 4.
- 26) 藤松真理子, 高木篤史, 三科 香, 熊坂 栄, 重松淑子, 浅井牧子, 初鹿野見春, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: Fisher 症候群の1症例. 第266回川崎市小児科医会症例検討会, 2005. 4.
- 27) 西澤善樹, 三科 香, 熊坂 栄, 重松淑子, 浅井牧子, 初鹿野見春, 藤松真理子, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: 長期呼吸管理を要した先天性筋緊張性筋ジストロフィーの1例. 第266回川崎市小児科医会症例検討会, 2005. 4.
- 28) 三科 香, 熊坂 栄, 重松淑子, 浅井牧子, 初鹿野見春, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: SIADH 様症状を呈したインフルエンザの1例. 第266回川崎市小児科医会症例検討会, 2005. 4.
- 29) 上砂光裕, 浅野 健, 小川俊一, 福永慶隆: プロテインチップシステムを用いた川崎病急性期に発現する血清蛋白の解析. 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 30) 浅野 健, 羽鳥誉之, 桑原健太郎, 濱田久光, 今井大洋, 藤野 修: インフルエンザ脳炎・脳症に発現する脳脊髄液中蛋白のプロテオミクス解析. 第108回日本小児科学会総会, 2005. 4.
- 31) 上砂光裕, 浅野 健, 小川俊一, 福永慶隆: プロテインチップシステムを用いた川崎病急性期に発現する血清蛋白の解析. 第108回日本小児科学会, 2005. 4.
- 32) 柳原 剛, 黒田奈緒, 早川真理, 村上睦美, 福永慶隆, 土屋正己<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>つちや小児科): Secind Renal Biopsy を行ったぶどう膜炎を伴う尿細管間質性腎炎. 第40回日本小児腎臓病学会学術集会, 2005. 5.
- 33) 黒田奈緒, 柳原 剛, 早川真理, 村上睦美, 福永慶隆, 森田尚克<sup>1)</sup>, 山田敏生<sup>1)</sup>, 守田利貞<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三島社会保険病院,<sup>2)</sup>静岡医療センター): リポ蛋白系球体症の1例. 第40回日本小児腎臓病学会, 2005. 5.
- 34) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆, 神尾政彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鹿島病院): 茨城県小学生・中学生における学校検診尿検査. 第40回日本小児腎臓病学会, 2005. 5.
- 35) 西巻 滋<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 佐藤美保<sup>1)</sup>, 安ひろみ<sup>1)</sup>, 熊本紀子<sup>1)</sup>, 藤田秀次<sup>1)</sup>, 石田史彦<sup>1)</sup>, 岩崎志穂<sup>1)</sup>, 堀口靖子<sup>1)</sup>, 関 和男<sup>1)</sup>, 横田俊平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学小児科,<sup>2)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 慢性肺疾患の発症を予見できるか(尿中 2-MG 値と臍帯血サイトカイン値との比較). 神奈川県新生児未熟児連絡会, 2005. 6.
- 36) 藤田武久, 藤野 修, 伊藤 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>水方苑): 7歳過ぎまで経過をみている4p-症候群の2例. 第47回日本小



児神経学会, 2005 . 6 .

- 37) 浅野 健, 阿部正徳, 浅井牧子, 上砂光裕, 桑原健太郎, 中島瑞恵, 伊藤保彦, 藤野 修: SAPHO症候群における 瘡部分の浸潤リンパ球の免疫組織学的検討. 第15回 小児リウマチ学会, 2005 . 6 .
- 38) 倉持雪穂<sup>1,2,3)</sup>, ダグラスソーヤー<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>Boston University Medical Center, <sup>3)</sup>静岡医療センター小児科): Neuregulin-1beta/erbB4シグナルはROSにより誘導され抗アポトーシス作用を発揮する. 第41回日本小児循環器学会, 2005 . 7 .
- 39) 倉持雪穂<sup>1,2,3)</sup>, ダグラスソーヤー<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>Boston University Medical Center, <sup>3)</sup>静岡医療センター小児科): Neuregulin-1betaによる心筋リモデリング. 第41回日本小児循環器学会, 2005 . 7 .
- 40) 池上 英, 深澤隆治, 初鹿野見春, 渡邊美紀, 内木場庸子, 倉持雪穂, 大久保隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: Anthracycline系薬剤による心筋障害と活性酸素スカベンジャーedaravoneによるその抑制効果. 第41回日本小児循環器学会総会, 2005 . 7 .
- 41) 島 義雄<sup>1)</sup>, 西巻 滋<sup>2)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup>横浜市立大学小児科): 早産児の疾患における胎内での侵襲応答の質的検討. 日本周産期・新生児医学会総会, 2005 . 7 .
- 42) 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 超低出生体重児の羊膜破裂シーケンスの1例. 日本周産期・新生児医学会, 2005 . 7 .
- 43) 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 新生児早期に診断し, 経時的にその血行動態を観察し得た単純型大動脈縮窄症の1例. 日本周産期・新生児医学会, 2005 . 7 .
- 44) 西巻 滋<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>2)</sup>, 佐藤美保<sup>1)</sup>, 安ひろみ<sup>1)</sup>, 岩崎志穂<sup>1)</sup>, 横田俊平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学小児科, <sup>2)</sup>葛飾赤十字産院): 慢性肺疾患のpredictorとしての臍帯血中cytokine値と尿中 2-microglobulin値の比較. 日本周産期・新生児医学会, 2005 . 7 .
- 45) 勝部康弘, 初鹿野見春, 池上 英, 渡辺美紀, 内木場庸子, 倉持雪穂, 大久保隆志, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: アドレノメジュリンは新生仔ラット心筋筋細胞のミトコンドリアKATPチャンネルを開口する. 第44回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2005 . 7 .
- 46) 初鹿野見春, 勝部康弘, 渡辺美紀, 池上 英, 内木場庸子, 倉持雪穂, 大久保隆志, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 健常者の新生児早期から学童期にかけての右心機能の変遷: カラー組織ドブラ心エコー法 (tissue velocity strain) を含めた解析・評価. 第44回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2005 . 7 .
- 47) 西澤善樹, 浅井牧子, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 小西英喜<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 既往帝王切開妊婦の経膈分娩における母児の安全性. 第41回日本周産期・新生児医学会総会, 2005 . 7 .
- 48) 浅井牧子, 熊坂 栄, 西澤善樹, 藤田武久: 気胸の経過中に先天性嚢胞状腺種様肺奇形を疑う嚢胞性病変を認めた新生児の1例. 第41回日本周産期・新生児医学会総会, 2005 . 7 .
- 49) 浅井牧子, 藤田武久, 西澤善樹, 藤松真理子, 勝部康弘: 口唇口蓋裂の経過中にAicardi症候群の診断に至った1例. 第36回神奈川小児神経懇話会, 2005 . 7 .
- 50) 小川耕一<sup>1)</sup>, 藍原克子<sup>1)</sup>, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): AAV serotype 1 vector を用いたFabry病への遺伝子治療. 第50回日本人類遺伝学会, 2005 . 9 .
- 51) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み-第2報-. 第8回日本組織工学会, 2005 . 9 .
- 52) 初鹿野見春, 藤松真理子, 田北裕子, 浅井牧子, 重松淑子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: 川崎病ガンマグロブリン不応例3例の検討. 第276回日本小児科学会神奈川県地方会, 2005 . 9 .
- 53) 浅野 健, 福永慶隆: ドキソルピシン耐性白血病細胞におけるプロテオミクス解析. 第67回 日本血液学会, 2005 . 9 .
- 54) 浅野由美, 前田美穂 (<sup>1)</sup>兵庫医科大学): 小児再生不良性貧血のQOL調査について. 第67回日本血液学会・第

- 47回日本臨床血液学会合同総会，2005．9．
- 55) 黒田奈緒，安藝 薫，柳原 剛，五十嵐徹，伊藤保彦，村上睦美，福永慶隆，清水 章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): ぶどう膜炎を伴う尿管管質性腎炎症候群 (TINU) の3症例．第15回日本小児リウマチ学会総会，2005．10．
- 56) 池上 英，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，大久保隆志，倉持雪穂，内木場庸子，渡邊美紀，初鹿野見春，山内仁紫<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>，小川俊一(<sup>1)</sup>外科学心臓血管外科): 川崎病既往児の冠動脈バイパス術 (CABG) 前後での微小冠循環動態の検討．第25回日本小児循環動態研究会，2005．10．
- 57) 池上 英，深澤隆治，鈴木伸子，渡邊 誠，初鹿野見春，渡邊美紀，倉持雪穂，大久保隆志，上砂光裕，勝部康弘，小川俊一: 免疫グロブリンは末梢血好中球，単球の走化性に影響を与えない．第25回日本川崎病研究会，2005．10．
- 58) 岸 恵，大木由加志: 成長ホルモン分泌不全低身長児 (GHD) におけるGH補充治療後3年間のTh1, Th2, Th1/Th2の検討．第39回日本小児内分泌学会学術集会，2005．10．
- 59) 布山裕一<sup>1)</sup>，島 義雄<sup>1)</sup>，中島瑞恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科): 腸重積を併発した超低出生体重児の1例．日本赤十字社医学会総会，2005．10．
- 60) 藤松真理子，大江裕美子，金子麗奈，竹野紗織，富田剛志，岡田拓也，田北裕子，浅井牧子，初鹿野見春，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久，勝部康弘: 入浴けいれんの1例．第270回川崎市小児科医会症例検討会，2005．10．
- 61) 初鹿野見春，大江裕美子，金子麗奈，竹野紗織，富田剛志，田北裕子，岡田拓也，浅井牧子，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久，勝部康弘: 寒冷凝集素症の1例．第270回川崎市小児科医会症例検討会，2005．10．
- 62) 浅井牧子，大江裕美子，金子麗奈，竹野紗織，富田剛志，田北裕子，岡田拓也，初鹿野見春，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久，勝部康弘(<sup>1)</sup>第二病院小児科): Aicardi症候群の1例．第270回川崎市小児科医会症例検討会，2005．10．
- 63) 初鹿野見春，勝部康弘，上砂光裕，深澤隆治，日野佳昭，渡辺美紀，池上 英，小川俊一: 川崎病のγ-グロブリン治療による血漿 ANP, BNP, CNP, アドレノジュリン値の推移と心機能の評価．第25回日本川崎病研究会，2005．10．
- 64) 小川耕一<sup>1)</sup>，善利克子<sup>1)</sup>，平井幸彦<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): AAV serotype 1 ベクターを用いたFabry病モデルマウス遺伝子治療．第5回アジア先天代謝異常症シンポジウム，2005．11．
- 65) 海津聖彦，前田美穂，黒田奈緒，小林史子，榎崎秀彦，右田 真，福永慶隆: 一過性の神経障害とMRI上大脳白質の変化を呈した造血管悪性腫瘍症例．第47回日本小児血液学会，2005．11．
- 66) 浅野 健，福永慶隆: ドキソルピシン耐性白血病細胞の核，細胞質分画のプロテオミクス解析．第46回日本小児血液学会，2005．11．
- 67) 加藤陽子<sup>1)</sup>，前田美穂<sup>2)</sup>，新井 心<sup>2)</sup>，有瀧健太郎<sup>3)</sup>，菊地 陽<sup>2)</sup>，後藤晶子<sup>4)</sup>，小林美由紀<sup>5)</sup>，杉田憲一<sup>6)</sup>，恒松由記子<sup>3)</sup>，徳山美香<sup>7)</sup>，福永慶隆<sup>8)</sup>，別所文雄<sup>8)</sup>，星 順隆<sup>1)</sup>，細谷亮太<sup>9)</sup>，柳沢隆昭<sup>1)</sup>，森本克<sup>9)</sup>，土田昌宏<sup>10)</sup>，島崎晴代<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慈恵医科大学，<sup>2)</sup>埼玉小児医療センター，<sup>3)</sup>成育医療センター，<sup>4)</sup>横浜市立大学，<sup>5)</sup>東京大学，<sup>6)</sup>獨協医科大学，<sup>7)</sup>東邦大学，<sup>8)</sup>杏林大学，<sup>9)</sup>聖路加国際病院，<sup>10)</sup>茨城こども病院): 本邦における小児悪性腫瘍患児のターミナルケア並びに小児緩和医療に関する現状と問題点．第47回日本小児血液学会，2005．11．
- 68) 三浦信之<sup>1)</sup>，真部 淳<sup>2)</sup>，嶋田博之<sup>3)</sup>，熊谷昌明<sup>4)</sup>，金子 隆<sup>5)</sup>，前田美穂<sup>6)</sup>，木下明俊<sup>6)</sup>，沖本由理<sup>7)</sup>，加藤陽子<sup>8)</sup>，上條岳彦<sup>9)</sup>，豊田恭徳<sup>10)</sup>，生田孝一郎<sup>11)</sup>，小原 明<sup>12)</sup>，花田良二<sup>13)</sup>，土田昌宏<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学，<sup>2)</sup>聖路加国際病院，<sup>3)</sup>慶応大学，<sup>4)</sup>成育医療センター，<sup>5)</sup>清瀬小児病院，<sup>6)</sup>聖マリアンナ内科大学，<sup>7)</sup>千葉こども病院，<sup>8)</sup>慈恵会医科大学，<sup>9)</sup>信州大学，<sup>10)</sup>神奈川こども医療センター，<sup>11)</sup>横浜市立大学，<sup>12)</sup>東邦大学，<sup>13)</sup>埼玉小児医療センター，<sup>14)</sup>茨城こども病院): CD10陽性T細胞型急性リンパ性白血病 (T-ALL) の臨床像および予後．第47回日本小児血液学会，2005．11．
- 69) 海津聖彦，前田美穂，黒田奈緒，小林史子，榎崎秀彦，右田 真，福永慶隆: 一過性の神経障害とMRI上大脳

- 白質の変化を呈した造血器腫瘍症例．第47回日本小児血液学会，2005．11．
- 70) 嶋田博之<sup>1)</sup>，木下明俊<sup>2)</sup>，前田美穂，井田孔明<sup>3)</sup>，太田節雄<sup>4)</sup>，齋藤正博<sup>5)</sup>，清谷千賀子<sup>6)</sup>，小池和俊<sup>7)</sup>，田淵健<sup>8)</sup>，高橋浩之<sup>9)</sup>，富澤大輔<sup>10)</sup>，黒澤秀光<sup>11)</sup>，花田良二<sup>12)</sup>，土田昌宏<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>慶応大学，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学，<sup>3)</sup>東京大学，<sup>4)</sup>帝京大学，<sup>5)</sup>順天堂大学，<sup>6)</sup>成育医療センター，<sup>7)</sup>茨城こども病院，<sup>8)</sup>神奈川こども医療センター，<sup>9)</sup>横浜市立大学，<sup>10)</sup>東京医科歯科大学，<sup>11)</sup>獨協医科大学，<sup>12)</sup>埼玉小児医療センター): 小児骨髄性白血病の長期生存者における晩期障害の検討．第47回日本小児血液学会，2005．11．
- 71) 菅野華子<sup>1)</sup>，中島瑞恵<sup>1)</sup>，島 義雄<sup>1)</sup>，布山裕一<sup>1)</sup>，加藤善史<sup>2)</sup>，山高篤行<sup>2)</sup>，宮野 武<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科，<sup>2)</sup>順天堂大学医学部小児科): 腸管重複症の体内診断の1例．第50回日本未熟児新生児学会，2005．12．
- 72) 黒田奈緒，島 義雄，新藤史子，熊坂 栄，福永慶隆，中島瑞恵: 神経皮膚黒色症の1例．第50回日本未熟児新生児学会，2005．12．
- 73) 山西慎吾，飯泉 匡，渡邊恵理，清水真澄，渡邊嘉之，樋口智江，野呂瀬嘉彦，熊谷善博，高橋秀美: ピロリ菌由来ウレアーゼによるB細胞活性化作用．第35回日本免疫学会，2005．12．
- 74) 中島瑞恵<sup>1)</sup>，島 義雄<sup>1)</sup>，西巻 滋<sup>2)</sup>，菅野華子<sup>1)</sup>，布山裕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科，<sup>2)</sup>横浜市立大学小児科): 周産期の炎症性疾患概念から見た未熟児網膜症．日本未熟児新生児学会，2005．12．
- 75) 菅野華子<sup>1)</sup>，島 義雄<sup>1)</sup>，中島瑞恵<sup>1)</sup>，布山裕一<sup>1)</sup>，加藤善史<sup>2)</sup>，山高篤行<sup>2)</sup>，宮野 武<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院小児科，<sup>2)</sup>順天堂大学小児外科): 腸管重複症の胎内診断の1例．日本未熟児新生児学会，2005．12．
- 76) 黒田奈緒<sup>1)</sup>，島 義雄<sup>2)</sup>，中島瑞恵<sup>2)</sup>，新藤史子<sup>2)</sup>，熊坂 栄<sup>2)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院小児科，<sup>2)</sup>葛飾赤十字産院): 神経皮膚黒色症の1例．日本未熟児新生児学会，2005．12．
- 77) 浅野 健，高木篤史，羽鳥誉之，濱田久光，今井大洋，藤野 修: 当院における小児のPRSP検出状況と薬剤感受性の検討．小児耳鼻科研究会，2005．12．
- 78) 板倉剛志<sup>1)</sup>，鈴木憲康<sup>1)</sup>，野本恵子<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室，<sup>2)</sup>同第二病院救命救急部): ICU内のMRSA定着環境調査．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 79) 森本 進，津金香代子，浅井逸子，新宅孝征，勝部康弘(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 化学発光酵素免疫測定法を原理とするPIVKA - II測定の基礎的検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 80) 吉田美和，浅井逸子，因泥弘之，小伊藤保雄，新宅孝征，勝部康弘(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 緊急異常値速報システムの構築．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 81) 山賀節子，西島美輝子，越谷美由紀，隠岐和美，荒木久美，荒井誠一，大塚紀子，高久貴子，新宅孝征，勝部康弘(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 健常者における就業前後のABIとCAVIの検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 82) 井上雅則<sup>1)</sup>，井梅和美<sup>1)</sup>，花出 豊<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室，<sup>2)</sup>同麻酔科): 輸血業務の安全への取り組み．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 83) 井出尚子，臼井一城，成定昌昭，吉岡美香，中島由美子，菅原 痛，新宅孝征，勝部康弘(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): DダイマーとFDPの測定値の乖離と試薬特性についての考察．第73回日本医科大学医学会総会，2005．
- 84) 藤田武久<sup>1)</sup>，初鹿野見春<sup>1)</sup>，平山恒憲<sup>2)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院小児科，<sup>2)</sup>国立病院機構福島病院小児科): 家族歴で発作性運動誘発性舞蹈病性アテトーゼを有する乳児けいれんの同胞例．第37回神奈川小児神経懇話会，2006．1．
- 85) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆: 小児自己免疫性疲労症候群における成長ホルモンの関与について．平成17年度厚生労働科学研究費補助金「引きこもりに繋がる小児慢性疲労，不登校の治療・予防に関する臨床的研究」班会議，2006．2．
- 86) 渡辺誠司<sup>1)</sup>，奥村良法<sup>1)</sup>，愛波秀男<sup>1)</sup>，倉持雪穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>静岡県立こども病院神経科，<sup>2)</sup>静岡医療センター小児科): 部分発作を起始とするWest症候群の1例．第60回東海てんかん集談会，2006．2．
- 87) 倉持雪穂<sup>1)</sup>，須藤真里子<sup>1)</sup>，小泉慎也<sup>1)</sup>，植田高弘<sup>1)</sup>，渡邊正則<sup>2)</sup>，守田利貞<sup>1)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡医療セン

ター小児科,<sup>2)</sup>渡邊クリニック): 溶連菌感染に伴い症状の憎悪・軽快を反復したチックの1例. 第34回静岡県東部臨床小児懇話会, 2006. 2.

- 88) 嶋崎 譲, 秋月哲史, 岩田裕吉, 小澤安文, 勝部康弘, 神田東人, 木村和弘, 五味淵誠, 田辺 誠, 豊田博史, 中澤 潔, 宮川正久, 村野浩太郎, 柳澤信子, 山下行雄, 由井史樹, 渡辺 茂,<sup>(1)</sup>川崎市医師会学校医部会川崎市心臓病判定委員会): 川崎市立学校心臓病検診の現況 平成16年度検診結果を中心に. 第23回川崎市医師会医学会, 2006. 2.
- 89) 初鹿野見春, 勝部康弘, 渡辺美紀, 池上 英, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 川崎病冠動脈病変に対するアンギオテンシンII型受容体拮抗薬の有用性. 第1回神奈川県川崎病研究会, 2006. 2.
- 90) 岡田拓也, 西澤善樹, 田北裕子, 浅井牧子, 初鹿野見春, 藤松真理子, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘, 田角喜美雄<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)たつのこどもクリニック): 胸部巨大血管腫の1乳児例. 第279回日本小児科学会神奈川県地方会, 2006. 3.
- 91) 海津聖彦, 小野慎平, 小林史子, 前田美穂: 急速に進行し死亡したLCHの新生児例. 第22回 LCH研究会, 2006. 3.

(8) ポスター:

- 1) Ogawa R<sup>1)</sup>, Fujimura J, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hykusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells. The 2nd Report. International Fat Applied Technology Society (Charlottesville, USA), 2005. 9.
- 2) Ogawa R<sup>1)</sup>, Fujimura J, Mizuno H<sup>1)</sup>, Hakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Comparison of Stem Cells Harvested from Adipose Tissue and Bone Marrow. The 3rd International Fat Applied Technology Society(Charlottesville, USA), 2005. 9.
- 3) Fujimura J, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Fukunaga Y, Suzuki H<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pharmacology): Adipose-derived stem cells from GFP transgenic mice and rats differentiated into neural cells. Society for Neuroscience (Washington, DC, USA), 2005. 11.
- 4) 小川 令<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2): ラットとマウス由来脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析. 第8回日本組織工学会, 2005. 9.
- 5) 小川 令<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析: マウスとラットの比較検討. 第14回 日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 6) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>薬理学): 脂肪組織と骨髄における間葉系幹細胞の比較検討. 第14回 日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 7) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>薬理学): 脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導. 第14回 日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 8) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 福永慶隆, 百束比古<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>薬理学): 脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導: 第2報. 第5回日本再生医療学会, 2006. 3.

(9) ポスター発表:

- 1) Fujimura J, Ogawa R, Mizuno H, Fukunaga Y, Suzuki H (<sup>1</sup>)Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pharmacology): Neurogenic Differentiation of Adipose-derived Stem Cells Isolated from GFP Transgenic Mice. 4th Asia Pacific Symposium on Neural Regeneration (Osaka), 2004. 12.
- 2) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 福永慶隆, 鈴木秀典<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>)形成外科学, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研

究施設,<sup>3)</sup>薬理学): GFPトランスジェニックマウスを用いた脂肪組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導．第4回日本再生医療学会総会, 2005．3．

- 3) 小川 令<sup>1)</sup>, 橘 秀樹<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 倉井年幸<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 水野 博<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討．第4回日本再生医療学会総会, 2005．3．
- 4) 小川 令<sup>1)</sup>, 藤村樹里, 水野博司<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた造血器疾患治療の試み．第73回日本医科大学医学会総会, 2005．9．
- 5) 藤村樹里, 小川 令<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 福永慶隆, 鈴木秀典<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>薬理学): マウス・ラット脂肪組織由来間葉系幹細胞を神経系へ分化誘導する．第8回日本組織工学会, 2005．9．
- 6) 小川 令<sup>1)</sup>, 橘 秀樹<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 倉井年幸<sup>2)</sup>, 藤村樹里, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>生化学第2, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討．第8回日本組織工学会, 2005．9．

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

一般撮影部門では、フラットパネルを用いたデジタルマンモグラフィーや下肢静脈造影の診断精度向上の研究が行われ一定の評価が得られた。

CT部門では、マルチスライスCTを使用した非侵襲的な3次元CTアンギオグラフィーや脳血流検査が行われ、虚血性心疾患の冠動脈狭窄や大動脈疾患の病態評価、急性脳梗塞の状態評価について検討され、その臨床的有用性が広く認識されるに至っている。

MRI部門では脂肪抑制を併用したsteady state法が開発され、体幹部や四肢の血管撮像法の画質向上がなされ、高速撮像法を用いた肥大型心筋症治療後の心機能および形態評価も行われている。また肝特異性造影剤を用いた肝腫瘍性病変の診断能の向上についても検討されている。

超音波部門では高精度の超音波診断が浸透し、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症の病態についても研究され臨床への寄与が進んでいる。

血管造影・IVR部門では肺塞栓症や深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法やCTガイド下経皮的肺生検が引き続き行われており研究成果をあげている。骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環下高濃度抗癌剤治療の臨床応用も進んでおり、また他施設との共同研究も開始されている。

核医学部門では心電図同期心筋SPECTを用いた心筋viability評価や虚血性心疾患の病態解析に関する研究がすすんでいる。また脳血流の定位定量的解析法としてS. E. E. 法やe-ZIS法が開発され、広く全国に普及し認知されるに至った。この方法を用いて脳変性疾患に対する研究がすすんでいる。

放射線治療部門では頭頸部腫瘍の放射線治療の皮膚障害軽減についての検討がなされている。またヨウ素125密封小線源を用いた早期前立腺癌に対する小線源永久挿入療法の安全性についても検討が行われている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tajima H, Murata S, Kumazaki T, Abe Y, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine): Pulmonary artery perforation repair using microcoil embolization. Cardiovasc & Intervent Radiol 2005; 29(1): 155-156.
- 2) Murata S, Tajima H, Abe Y, Fukunaga T, Nakazawa K, Mohamad Raa, Kumazaki T: Temporary occlusion of two hepatic veins for chemoembolization of hepatocellular carcinoma with arteriohepatic vein shunts. American J of Roentgenology 2005; 184: 415-417.
- 3) Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Kusakai G<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>3)</sup>, Kimata R<sup>3)</sup>, Himeno S<sup>4)</sup>, Satake M<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, <sup>2)</sup> Department of Gastrointestinal Surgery, University of Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Public Health and Molecular Toxicology, School of Pharmaceutical Science, Kitasato University, <sup>5)</sup> Department of Radiology, National Cancer Center Hospital): Reduction of drug leakage by negative-balance isolated pelvic perfusion: correlation between leakage and in-out flow rate in a pig model. J Cancer Res Clin Oncol 2005; 131: 575-580.
- 4) Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Depart-

ment of Radiology, Center for Advanced Medical Technology<sup>2)</sup>): Transcatheter Management for Multiple Liver Tumors after Hepatic Artery Obstruction Following Reservoir Placement . Hepato-Gastroenterology 2005 ; 52 ( 63 ): 852-856 .

- 5) Kumita S , Cho K , Nakajo H , Toba M , Fukushima Y , Mizumura S , Sano J<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Assessment of contractile response to dobutamine stress by means of ECG-gated myocardial SPECT comparison with myocardial perfusion and fatty acid metabolism . Ann Nucl Med 2005 ; 19 ( 5 ): 379-386 .
- 6) Amano Y , Kumita S , Takayama M<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Internal Medicine I ): Comparison of contrast-enhanced MRI with iodine-123 BMIPP for detection of myocardial damage in hypertrophic cardiomyopathy . AJR 2005 ; 185 : 312-318 .
- 7) Amano Y , Nozaki A , Takahama K , Kumazaki T : Reduction in flow artifacts by using interleaved data acquisition in segmented balanced steady-state free precession cardiac MRI . Comput Med Imag Graph 2005 ; 29 ( 6 ): 441-445 .
- 8) Murakami R , Kumazaki T , Tajima H , Hayashi H , Kuwano T , Hakozaki K , Kiriyama T : Urinary excretion of vasoactive factors following contrast media exposure in humans . Nephron Clinical Practice 2005 ; 101 ( 3 ): c150-c154 .
- 9) Hayashi H , Takagi R , Takahama K , Kaizu T , Tateno N , Kuribayashi S , Hidaka F , Yoshihara Y , Sato H , Kumazaki T : Advances of Diagnostic Imaging Related to Progress in Multidetector-row CT Scanners : Impact on the Evaluation of Vascular Diseases . J Jpn Coll Angiol 2005 ; 45 : 597-606 .

(2) 綜説 :

- 1) Tajima H<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Nakazawa K<sup>1)</sup> , Ichikawa K<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>2)</sup> , Tanaka K<sup>2)</sup> , Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology , <sup>2)</sup>Department of Internal Medicine, Coronary Care Unit ): Recent Advanced in Interventional Radiology for Acute Massive Pulmonary Thromboembolism . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ): 74-84 .
- 2) Tajima H , Murata S , Kumazaki T , Abe Y , Takano T : Pulmonary artery perforation repair during thrombectomy using microcoil embolization . Cardiovasc Intervent Radiol 2006 ; 29 ( 1 ): 155-156 .
- 3) Murata S , Tajima H , Abe Y , Onozawa S , Uchiyama F , Kumazaki T , Nomura K : Innovative therapeutic development of isolated liver perfusion : Applicability to the treatment of hepatic malignancy . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ): 48-50 .
- 4) 林 宏光<sup>1)</sup> , 高木 亮<sup>1)</sup> , 高濱克也<sup>1)</sup> , 貝津俊英<sup>1)</sup> , 清水康弘<sup>1)</sup> , 松田 亮<sup>1)</sup> , 舘野展之<sup>1)</sup> , 栗林茂彦<sup>1)</sup> , 日高史貴<sup>1)</sup> , 吉原尚志<sup>1)</sup> , 佐藤英尊<sup>1)</sup> , 桑子智之<sup>1)</sup> , 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター ): 最先端技術の臨床応用5 . MDCTによる血管疾患の低侵襲的診断 三次元CT血管造影の現状と治療支援画像としての可能性 特集 放射線診療の過去・現在・未来 . 日獨医報 2005 ; 50 ( 1 ): 183-193 .
- 5) 林 宏光 , 高木 亮 , 高濱克也 , 貝津俊英 , 清水康弘 , 松田 亮 , 舘野展之 , 栗林茂彦 , 日高史貴 , 吉原尚志 , 佐藤英尊 , 桑子智之 , 隈崎達夫 : MDCTによる血管疾患の低侵襲的診断 三次元CT血管造影の現状と治療支援画像としての可能性 . 日獨医報 2005 ; 50 ( 1 ): 183-193 .
- 6) 隈崎達夫 , 大友 邦<sup>1)</sup> , 今井 裕<sup>2)</sup> , 林 宏光 ( <sup>1)</sup>東京大学大学院医学研究科放射線医学 , <sup>2)</sup>東海大学医学部基礎診療学系画像診断学 ): 画像診断 : その進化と新たな挑戦 . Current therapy 2005 ; 23 ( 2 ): 90-95 .
- 7) 市川和雄 , 田島廣之 , 隈崎達夫 : 32 動脈造影 . Vascular Lab 増刊 2005 ; 2 ( 増刊号 ): 147-153 .
- 8) 林 宏光 , 隈崎達夫 : CT angiographyによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断 . Vascular Lab 2005 ; 2 ( 増刊号 ): 421-426 .
- 9) 田島廣之<sup>1)</sup> , 隈崎達夫<sup>1)</sup> , 林 宏光<sup>1)</sup> , 村田 智<sup>1)</sup> , 村上隆介<sup>1)</sup> , 松田 亮<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセ

- ンター): I. 肺塞栓症, 深部静脈血栓症 肺塞栓症, 深部静脈血栓症の診断. 関節外科. 基礎と臨床. 特集 肺塞栓症および深部静脈血栓症の診断と治療 2005 ; 24 (4): 26-33 .
- 10) 林 宏光, 隈崎達夫: マルチスライスCTによる冠動脈疾患の非侵襲的診断. 総合臨床 2005 ; 54 (4): 1423-1424 .
- 11) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 特集 肺血栓塞栓症の診断と治療 急性肺血栓塞栓症6) カテーテル治療の効果と限界. 呼吸器科 2005 ; 7 (6): 553-560 .
- 12) 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 救急のIVR. 2. 外傷・出血におけるTAEの実際: 塞栓物質の選択を中心に. 連載 (3) IVRマニュアル/2004日本血管造影・IVR学会総会「技術教育セミナー」より 2005 ; 20 (3): 306-310 .
- 13) 古川一博, 田島廣之, 林 宏光, 天野康雄, 高木 亮, 村田 智, 市川和雄, 隈崎達夫: 腎泌尿器疾患のわかりやすい画像診断 - 正常画像と異常画像 - 2腎・尿管5腎外傷 - CT・IVRを中心として. 腎と透析 2005 ; 59 (増刊号): 300-305 .
- 14) 福永 毅<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): Interventional Radiology. カレントセラピー特集 急性腹症から腹部救急疾患へ - 画像診断の進歩と治療の最前線 2005 ; 23 (9): 18-22 .
- 15) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 6. IVR治療の適応, 実際, 治療成績 特集 外科医が知っておくべき急性肺血栓塞栓症. Surgery Frontier 2005 ; 12 (3): 37-41 .
- 16) 林 宏光, 隈崎達夫: Vascular disease マルチスライスCTで識る. Heart View 2005 ; 9 (11): 1258-1265 .
- 17) 高木 亮, 林 宏光, 隈崎達夫: マルチスライスCTの有用性. 治療. 2005 ; 87 (11): 2924-2929 .
- 18) 林 宏光, 高木 亮, 高濱克也, 貝津俊英, 清水康弘, 松田 亮, 館野展之, 栗林茂彦, 日高史貴, 吉原尚志, 佐藤英尊, 桑子智之, 隈崎達夫: 高濃度造影剤50ml使用によるCT angiography 血栓閉塞型大動脈解離. 日本Schering 2005 ; 1 : 2-3 .
- 19) 高木 亮: (1) 中枢神経領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 47-47 .
- 20) 林 宏光: (2) 心臓血管領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 48-48 .
- 21) 渡 潤: (3) 胸部領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 48-49 .
- 22) 市川太郎: (4) 腹部領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 49-49 .
- 23) 岡田 進: (5) 骨盤領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 49-50 .
- 24) 村上隆介: (6) 乳腺領域. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 50-50 .
- 25) 保坂純郎: (7) 静脈疾患. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 50-51 .
- 26) 水村 直: (8) 核医学. 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 51-52 .
- 27) 田島廣之: (9) IVR (interventional radiology). 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 52-53 .



- 28) 古川一博：(10) PACS (IT). 臨床医学の展望2006 臨床放射線医学 - 診断面 - 日本医事新報 2006 ; 4267 (4267): 53-53 .
- 29) 田島廣之：序説 特集 静脈血栓塞栓症 成因・診断から治療・予防まで . 臨床画像 2006 ; 22 (3): 245-245 .
- 30) 田島廣之：カテーテル治療の現状と展望・肺血栓塞栓症 特集 静脈血栓塞栓症 成因・診断から治療・予防まで . 臨床画像 2006 ; 22 (3): 290-301 .

## 著 書

- 1) 市川和雄：〔自著〕X章 放射線科 . レビューブックマイナー for medical 第2版 (メディックメディア), 2005 ; pp22-31, メディックメディア .
- 2) 町田 幹, 林 宏光, 隈崎達夫：〔共著〕正常画像と異常画像—マルチスライスCT . 腎と透析 8月増大号特集 腎泌尿器疾患のわかりやすい画像診断, 2005 ; pp202-207, 東京医学社 .
- 3) 市川和雄, 田島廣之, 隈崎達夫, 松尾 汎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>松尾循環器科クリニック): 〔共著〕II. 血管疾患の診断法 血管造影 . 血管疾患を知る . 新・目でみる循環器病シリーズ 17, 2005 ; pp110-118, メジカルビュー社 .
- 4) 市川和雄：〔自著〕消化器 . 病気がみえる vol. 1 第2版 (医療情報科学研究所), 2006 ; pp69-71, メディックメディア .

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Hayashi H : Minimally invasive diagnosis of cardiovascular disease with MDCT : current status and future direction . 1st MDCT Symposium in Tokyo , 2006 . 2 .
- 2) 汲田伸一郎：心臓核医学について . 第56回沖縄県核医学懇話会 , 2005 . 5 .
- 3) 林 宏光：マルチスライスCTによる血管疾患の画像診断 何がどこまでわかるようになったか . 第14回CMRS , 2005 . 5 .
- 4) 林 宏光：マルチスライスCTによる最新の画像診断 切らずに診る人体 2005 . 埼玉県内科医会学術講演会 , 2005 . 5 .
- 5) 趙 圭一：アドリアマイシン心不全ラットにおける99mTc-MIBI心筋保持能低下 - 早期洗い出し率と後期洗い出し率の比較 - . カーディオライト心筋動態研究会 , 2005 . 6 .
- 6) 水村 直：脳血流SPECTの最新動向について . 第21回青森県核医学研究会 , 2005 . 7 .
- 7) 林 宏光：マルチスライスCTによる低侵襲的脈管診断 基礎から治療支援画像としての応用まで . 第1回Toyama MDCT Forum , 2005 . 7 .
- 8) 高木 亮：急性期脳梗塞におけるCTPの臨床的意義 . 第6回栃木MSCTセミナー , 2005 . 7 .
- 9) 汲田伸一郎：心臓核医学の役割 . 心臓血管研勉強会 , 2005 . 8 .
- 10) 汲田伸一郎：心臓核医学の実際と将来展望 ; Tc-99m-sestamibiを用いた臨床検査プロトコール . 静岡東部心臓核医学講演会 , 2005 . 9 .
- 11) 林 宏光：画像診断機器意見交換会 マルチスライスCTを中心に . 第2回画像診断機器意見交換会 , 2005 . 9 .
- 12) 林 宏光：切らずに診る人体：マルチスライスCTによる最先端の画像診断 . 第36回組織学会夏季セミナー , 2005 . 9 .
- 13) 高木 亮：脳神経領域におけるMSCTの臨床応用 現状と今後の展望 . 第3回埼玉MSCT研究会 , 2005 . 9 .
- 14) 汲田伸一郎：心臓核医学の実際と将来展望 ; Tc-99m-sestamibiを用いた臨床検査プロトコール . 静岡東部心臓核医学講演会 , 2005 . 9 .
- 15) 林 宏光：画像診断機器意見交換会 マルチスライスCTを中心に . 第2回画像診断機器意見交換会 , 2005 . 9 .

- 16) 林 宏光：切らずに診る人体：マルチスライスCTによる最先端の画像診断．第36回繊維学会夏季セミナー，2005．9．
- 17) 高木 亮：脳神経領域におけるMSCTの臨床応用 現状と今後の展望．第3回埼玉MSCT研究会，2005．9．
- 18) 汲田伸一郎：心臓核医学の臨床応用法．第18回21世紀カンファレンス，2005．11．
- 19) 汲田伸一郎：心臓核医学の有用性と将来展望．第17回岐阜循環器核医学研究会，2005．11．
- 20) 高木 亮：脳腫瘍の評価におけるPermeability surface mapの臨床応用．第3回CT perfusion研究会，2005．11．
- 21) 水村 直：脳機能解析の臨床応用について．第7回肥後循環核医学セミナー，2005．11．
- 22) 高木 亮：造影剤・撮像技術・頭部神経領域 CT灌流画像の臨床的意義．東京MDCTフォーラム，2006．2．
- 23) 汲田伸一郎：臨床に即した心臓核医学；CT, MRI, USとの使い分け．STRメディカルカンファレンス，2006．3．
- 24) 田島廣之：肺塞栓症のIVR．第19回香川Interventional Radiology研究会，2006．3．
- (2) 招待講演：
- 1) 村田 智：難治性がんに対する革新的Drug Delivery Systemの研究・開発（同窓会医学研究助成金受賞記念講演）．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 2) 汲田伸一郎：心臓核医学；他のモダリティとの比較．第1回Education Seminar of Myocardial Perfusion Imaging，2006．2．
- (3) 教育講演：
- 1) Hayashi H：CTA and MRA Assessment of PAD Pre and Post IVR．Complex Catheter Therapeutics，2005．9．
- 2) 田島廣之：肺血栓塞栓症：カテーテルによる治療．第9回先端医療懇話会，2005．4．
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター)：3 肺塞栓症の画像診断：Interventional Radiology．第64回日本医学放射線学会学術集会，2005．4．
- 4) 高木 亮：脳腫瘍画像診断のピットフォール 画像診断クイズ．第23回日本脳腫瘍病理学会，2005．4．
- 5) 林 宏光：循環器疾患の診断におけるマルチスライスCTの有用性．マルチスライスCT学術講演会，2005．9．
- 6) 林 宏光：マルチスライスCTによる心臓・脈管疾患の低侵襲的診断：大動脈から冠動脈・Adamkiewicz動脈まで．第68回日本外科学会卒後教育セミナー，2005．11．
- 7) 田島廣之，呂 彩子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学法医学)：肺血栓塞栓症．第25回日本画像医学会学術大会，2006．2．
- 8) 保坂純郎：下肢静脈瘤の最新カテーテル治療 EVLT (endovenous laser treatment) の基礎臨床．第25回日本画像医学会学術大会，2006．2．
- (4) シンポジウム：
- 1) 村上隆介：Clinical evaluation of isoosmolar contrast media in angiography with special Reference to its on Renal Function．Contrast Media Forum, Tokyo, 2006．2．
- 2) 汲田伸一郎：重症冠動脈疾患の治療と核医学 冠血行再建術の適応決定と評価．第11回日本心臓核医学会学術大会，2006．3．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) Ichikawa K：“What would you do?” Case 3 Emergency IVR．ISIR & JSAIR，2005．5．
- (6) セミナー：
- 1) Kumazaki T：Endovascular management of aortic disease for ISIR and JSAIR．ISIR & JSAIR，2005．5．
- (7) 一般講演：
- 1) Amano Y, Nozaki A<sup>1)</sup>, Takahama K<sup>1)</sup>, Kumazaki T (<sup>1)</sup>GEYMS): Reduction in flow artifacts by using interleaved data acquisition in segmented balanced steady-state free precession cardiac MR imaging．The 13th scientific meeting of ISMRM (Miami (FL, USA)), 2005．5．
- 2) Amano Y, Kumita S, Takayama M<sup>1)</sup>, Kumazaki T (<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine I): Value of contrast-enhanced magnetic resonance imaging for detection of myocardial damage in hypertrophic cardiomy-

- opathy : comparison with 123I BMIPP SPECT . The 13th scientific meeting of ISMRM ( Miami ( FL, USA ) ), 2005 . 5 .
- 3) Hosaka J<sup>1)</sup>, Hidaka F<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Matsuda R<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology and Center for Advanced Medical Technology ): Endovenous laser treatment of insufficient saphenous vein . An idea to reduce minor complications . Annual Meeting and Postgraduate Course of the Cardiovascular and Interventional Radiology Society of Europe. CIRSE ( Nice, FRANCE ), 2005 . 9 .
  - 4) Amano Y , Kumazaki T : Null point of the right ventricular myocardium in contrast-enhanced inversion-recovery MR imaging : a comparison with null point of the left ventricular myocardium . The 91st annual meeting of RSNA ( IL, USA ) , 2005 . 11 .
  - 5) Amano Y : Null point of the right ventricular myocardium in contrast-enhanced inversion-recovery MR imaging . A comparison with null point of the left ventricular myocardium . RSNA ( Chicago, USA ) , 2005 . 11 .
  - 6) Hayashi H : Image analysis pre- and post-intervention CTA , MRA . Complex Catheter therapeutics , 2005 . 9 .
  - 7) 林 宏光 , 高木 亮 , 高濱克也 , 貝津俊英 , 清水康弘 , 松田 亮 , 館野展之 , 栗林茂彦 , 日高史貴 , 吉原尚志 , 桑子智之 , 桐山智成 , 箱崎謙太 , 隈崎達夫 : MDCT による Adamkiewicz 動脈の診断 : 二相撮像法の有用性について . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 8) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup>内科学第1): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓破砕療法 : 術中肺動脈モニタリングの重要性 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 9) 高木 亮 , 佐藤英尊 , 吉原尚志 , 林 宏光 , 隈崎達夫 : 内頸動脈閉塞症例における頭頸部CTAを併用した脳CTPの臨床的意義 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 10) 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 著明な hepatic arterio-portal shunts を有する手術不能な肝細胞がんに対する治療法 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 11) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): レーザー静脈閉塞法 ( EVLT ) の in vivo での基礎的検討 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 12) 福永 毅<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 倉持正志<sup>2)</sup>, 倉本憲明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup>日立総合病院放射線科 , <sup>3)</sup>国立東京災害医療センター放射線科): 膵十二指腸動脈瘤破裂に対する塞栓術 : 12年間の治療成績 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 13) 福嶋善光 , 保坂純郎 , 古川一博 , 栗林茂彦 , 田島廣之 , 隈崎達夫 : 血管超音波法と脈波速度による閉塞性動脈硬化の評価 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 14) 村上隆介 , 田島廣之 , 林 宏光 , 村田 智 , 市川和雄 , 中澤 賢 , 福永 毅 , 小野澤志郎 , 佐藤英尊 , 隈崎達夫 : 造影剤による腎障害に対する Endothelin および Nitric の役割 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 15) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>2)</sup>, 木全亮二<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup>付属病院麻酔科 , <sup>3)</sup>付属病院泌尿器科): Negative in-out flow rate 閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の臨床評価 . 第64回日本医学放射線学会総会 , 2005 . 4 .
  - 16) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): Leriche 症候群に対する腎動脈ステント留置術 . 第2回末梢血管・血管内治療研究会 , 2005 . 5 .
  - 17) 村田 智 : テーマ・過去 , 現在 , 将来の展望 . 第40回千駄木肝カンファレンス , 2005 . 6 .
  - 18) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup>集中治療室): 腹腔

動脈stentingが奏効した急性大動脈解離分枝閉塞の1例．第17回関東IVR研究会，2005．7．

- 19) 市川和雄<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，寺嶋克幸<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，落 雅美<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>集中治療室，<sup>3)</sup>外科学第2)：外傷性腹部大動脈仮性瘤に対し，ステントグラフトを留置した1例．大動脈ステントグラフト研究会，2005．7．
- 20) 天野康雄：左室・右室心筋のnull pointの相違に関する検討．第33回日本磁気共鳴医学会大会，2005．9．
- 21) 箱崎謙太，古川一博，駒田康成，松田 亮，桐山智成，田島廣之，隈崎達夫：診断に苦渋した肝内胆管拡張症に伴った肝内胆管結石の1例．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 22) 古川一博，田島廣之，天野康雄，高木 亮，隈崎達夫，大湾朝仁<sup>1)</sup>，秀永慎一<sup>1)</sup>，松村善雄<sup>1)</sup>，土橋俊男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科技師室)：付属病院におけるPACSとRISの現状と今後の展望．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 23) 中澤 賢<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，村上隆介<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>2)</sup>，山本 剛<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>集中治療室)：後頸骨動脈末梢まで迷入したcoronary stentの経皮的回収．第15回救急放射線研究会，2005．10．
- 24) 水村 直：SPM解析におけるVoxel-based Registrationと統計的異常領域のExtet評価．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 25) 水村 直，中川原謙二<sup>1)</sup>，高橋正昭<sup>2)</sup>，汲田伸一郎，趙 圭一，石原真木子<sup>3)</sup>，隈崎達夫(<sup>1)</sup>中村記念病院脳外，<sup>2)</sup>中村記念病院放射線科，<sup>3)</sup>千葉北総病院放射線科)：脳動脈閉塞症の3D-SSPによる経過観察法の開発：最大値参照法を用いた定性画像評価法の再現性．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 26) 趙 圭一，汲田伸一郎，中條秀信，鳥羽正浩，水村 直，石原真木子<sup>1)</sup>，秋山一義，福嶋善光，隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科)：アドリアマイシン心不全ラット心筋におけるTc-99m MIBIの早期および後期洗い出しの比較．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 27) 林 宏光<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，高濱克也<sup>1)</sup>，貝津俊英<sup>1)</sup>，館野展之<sup>1)</sup>，清水康弘<sup>1)</sup>，松田 亮<sup>1)</sup>，栗林茂彦<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，桐山智成<sup>1)</sup>，箱崎謙太<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター)：Multidetector-row-CT angiographyによる骨盤・下肢閉塞動脈硬化症の診断：現状とその課題点を明らかにする．第46回日本脈管学会総会，2005．12．
- 28) 中澤 賢<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，山本剛<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，高野昭夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>集中治療室，<sup>3)</sup>内科学第1)：急性塊状肺動脈血栓症に対する血栓破砕療法の有用性・肺動脈圧と遠隔血栓の関係．第46回日本脈管学会総会，2005．12．
- 29) 天野康雄：肥大型心筋症におけるMRIの有用性と課題．第32回心機能研究会，2006．1．
- 30) 高木 亮<sup>1)</sup>，水村 直<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，吉原尚志<sup>1)</sup>，日高史貴<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター)：CT Perfusionを用いた慢性期の脳虚血性病変の評価．第11回三次元CT・MRI研究会，2006．2．
- 31) 林 宏光<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，高濱克也<sup>1)</sup>，貝津俊英<sup>1)</sup>，清水康弘<sup>1)</sup>，館野展之<sup>1)</sup>，福嶋善光<sup>1)</sup>，栗林茂彦<sup>1)</sup>，日高史貴<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，桐山智成<sup>1)</sup>，箱崎謙太<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター)：CEV-CPRを利用した新しい血管狭窄病変の自動診断：color mapによる定性評価と狭窄部径の定量評価．第11回三次元CT・MRI研究会，2006．2．
- 32) 日高史貴<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，高濱克也<sup>1)</sup>，貝津俊英<sup>1)</sup>，清水康弘<sup>1)</sup>，館野展之<sup>1)</sup>，福嶋善光<sup>1)</sup>，栗林茂彦<sup>1)</sup>，佐藤英尊<sup>1)</sup>，桐山智成<sup>1)</sup>，箱崎謙太<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター)：動脈硬化性腹部大動脈瘤から変化した炎症性腹部大動脈瘤：Multidetector-row CT angiographyによる経時的な評価．第11回三次元CT・MRI研究会，2006．2．
- 33) 佐藤英尊<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，日高史貴<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>2)</sup>，高橋 健<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射

線科ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup> 外科学第1): von Reckling Hausen病に合併した小腸多発性GISTの1例 - MSCTを用いたMPR画像の有用性について. 第11回三次元CT・MRI研究会, 2006. 2.

- 34) 古川一博, 田島廣之, 天野康雄, 高木 亮, 高濱克也, 箱崎謙太, 桐山智成, 隈崎達夫: 既存のPACSに対するRIS導入. 第25回日本画像医学会, 2006. 2.
- 35) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 骨盤内進行癌に対するNegative in-out flow rate閉鎖循環下抗癌剤灌流療法. 第14回クリニカル・ビデオフォーラム(CVF), 2006. 2.
- 36) 汲田伸一郎: 本邦の心臓核医学ガイドラインをどう活かすか; 心電図同期心筋SPECTの臨床的意義. 第15回日本心臓核医学会, 2006. 3.
- 37) 佐藤英尊, 村田 智, 田島廣之, 小野澤志郎, 市川和雄, 中澤 賢, 福永 毅, 隈崎達夫, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科): Transcatheter Arterial Embolization with Combined N-butyl Cyanoacrylate and Coils for Hemorrhage via the External Iliac Artery due to Invasion of Recurrent Cervical Carcinoma. 第42回腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 38) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室, <sup>3)</sup>外科学第2): 一筋縄ではいかなかった外傷性腹部仮性大動脈瘤の1例. 第15回東京血管外科画像診断治療研究会, 2006. 3.

(8) ポスター:

- 1) Sato H, Tajima H, Murata S, Murakami R, Fukunaga T, Onozawa S, Kumazaki T: Successful retrieve of ruptured dilator of temporary vena cava filter. ISIR & JSAIR, 2005. 5.
- 2) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Nakazawa K, Fukunaga T, Kumazaki T: Transcatheter arterial embolization with NBCA and coils for catastrophic bleeding due to recurred cervical carcinoma. ISIR & JSAIR, 2005. 5.
- 3) Nakazawa K, Tajima H, Fukunaga T, Murata S, Ichikawa K, Onozawa S, Satho H, Kumazaki T: Serial CT observation of left atrium free air after CT guided needle biopsy of the lung. ISIR & JSAIR, 2005. 5.
- 4) 天野康雄: 左室・右室心筋のnull pointの相違に関する検討. 第33回日本磁気共鳴医学会大会, 2005. 9.

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

#### 放射線診断学:

1. 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている.
2. 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし, 結核, 癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている. 肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している.
3. 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する. いわゆるFunctional Radiologyに目標をおき, またH. Pyloriの胃の胃粘膜変化についても研究中である.
4. 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し, より効率の良い, より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である.
5. MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用, 乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる. また, 高分解能MRIによる膵の微小病変の描出, 2次膵管描出の研究, dynamic MRIによ

る結節性肺病変の質的診断について研究中である。

Interventional Radiology :

1. 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

放射線治療学 :

1. 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

核医学 :

1. 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。

2. 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

## 研究業績

論文

(1) 総説 :

- 1) 佐藤雅史，山田丈士<sup>1)</sup>，三角茂樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学放射線科): 縦隔病変．画像診断 2005 ; 25 (4): 450-459 .
- 2) 佐藤雅史，三角茂樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学放射線科): 先天性疾患．画像診断 2005 ; 25 (4): 460-475 .

著書

- 1) 佐藤雅史 : [ 分担 ] 胸部．画像診断のご法度 それでいいの? ( 管 信一 ) , 2005 ; pp55-95 , 秀潤社 .
- 2) 佐藤雅史 : [ 分担 ] 胸部．胸部画像診断のここが鑑別ポイント ( 土屋一洋・酒井文和 ) , 2006 ; pp140-141 , 羊土社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 佐藤雅史 : 胸部写真の読み方と結核の画像診断 . 第13回徳島放射線医学会 , 2005 . 4 .

(2) 教育講演 :

- 1) 佐藤雅史 : 胸部MD - CTにおける冠状断面ルーチン追加の有用性とCT検査の放射線被曝の現状 . 第3回大阪マルチスライスCT学術講演会 , 2005 . 5 .

(3) 一般講演 :

- 1) Takahashi N<sup>1)</sup> , Yamamoto A , Iwahara S<sup>1)</sup> , Tezuka S<sup>1)</sup> , Takenaga K<sup>1)</sup> , Amitani K<sup>1)</sup> , Yamaguchi T<sup>1)</sup> , Uchida T<sup>1)</sup> , Hoshino K<sup>1)</sup> , Munakata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of 1st internal medicine , NMS 2nd Hospital ): The Correlation between Regional Systolic-diastolic Functions Assessed by a Novel Program " cardioGRAF " and BNP in patients with Non-ischemic CHF . 第9回日本心不全学会学術集会 , 2005 . 10 .
- 2) Takahashi N<sup>1)</sup> , Yamamoto A , Tezuka S<sup>1)</sup> , Hanaoka D<sup>1)</sup> , Ishikawa M<sup>1)</sup> , Takenaga K<sup>1)</sup> , Amitani K<sup>1)</sup> , Yamaguchi T<sup>1)</sup> , Uchida T<sup>1)</sup> , Hoshino K<sup>1)</sup> , Ohsaka M<sup>1)</sup> , Munakata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of 1st internal medicine , NMS 2nd Hospital ): The Role of Diastolic Dyssynchrony Assessed by a Novel Program " cardioGRAF " for Tc99m - sestamibi - gated - SPECT in the Development of congestive Heart Failure . The 70th Anniversary , Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2006 . 3 .
- 3) Keida T<sup>1)</sup> , Yanbe K<sup>1)</sup> , Ohhira H<sup>1)</sup> , Shimabukuro T<sup>2)</sup> , Sakakibara N<sup>2)</sup> , Okishige K<sup>3)</sup> , Yamamoto A (<sup>1)</sup>Department of Cardiology , Edogawa Hospital , Tokyo , <sup>2)</sup>Department of Cardiovascularsurgery , Edogawa Hospital Tokyo . , <sup>3)</sup>Department of Cardiology , Heart Center Yokohama Bay Red Cross Hospital . ): Assessment of Left ventricular synchrony with a Novel Analysis Program ( Cardio-

GRAF) using ECG-gated Myocardial SPECT. The 70th Anniversary, Annual Scientific Meeting of Japanese Circulation Society, 2006. 3.

- 4) 山本 彰, 高橋直人<sup>1)</sup>, 山田丈士, 阿部和也, 金城忠志, 鶴田晴子, 梶原景子, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期SPECTの新解析プログラムcardio - GRAFによる心不全における左室局所壁運動同調異常の評価. 第64回日本医学放射線学会総会, 2005. 4.
- 5) 慶田毅彦<sup>1)</sup>, 上田敬博<sup>1)</sup>, 奥村弘史<sup>1)</sup>, 大平洋司<sup>1)</sup>, 島袋高志<sup>2)</sup>, 榊原直樹<sup>2)</sup>, 沖重 薫<sup>3)</sup>, 山本 彰(<sup>1)</sup>江戸川病院循環器内科, <sup>2)</sup>同循環器外科, <sup>3)</sup>横浜赤十字病院循環器科): 両心室ペーシング適応の新らしい指標: 新しく開発した心電図同期心筋SPECT解析プログラム(cardio - GRAF)を用いた左心室同期性の検討. 第20回日本心臓ペーシング・電気生理学学会, 2005. 5.
- 6) 山本 彰, 高橋直人<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): cardioGRAFを用いた左室機能評価におけるフォーリエ級数の影響について: 心プールシンチとの比較検討. 第45回日本核医学会総会, 2005. 11.
- 7) 山本 彰, 高橋直人<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): cardioGRAFを用いた左室局所壁運動評価におけるフォーリエ級数の影響について: 心臓超音波検査との比較検討. 第45回日本核医学会総会, 2005. 11.
- 8) 山本 彰: アスベストに関連して. 結核対策特別促進事業研修会, 2006. 2.

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を継続している.
2. コンピュータを活用した医用画像処理の研究を続けている.
3. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている.
4. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断について研究, 検討が行われている.
5. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている.
6. CTにおける経静脈造影の至適タイミング, 方法について研究を行っている.
7. CTによる心疾患の診断について研究を行っている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説:

- 1) 小林由子, 山田浩子<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>1)</sup>, 市川太郎, 中井章人, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 腹膜病変: 症例2 deciduoid mesothelioma. 画像診断 2006; 26(2): 194-195.

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

婦人科系の腫瘍について, 女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて, 画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っている. 特に, 奇形腫系統のまれな症例についての報告を行った.

救命救急分野では, 外傷症例のIVRを積極的に行っている. 救命救急部とはカンファランスを毎週行い, IVRを施行した症例以外についても, 臨床像と画像との対比検討を常に行っている. 救急放射線研究会での報告も行った.

消化器疾患については、外科・内科・病理部と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と癌の深達度、転移・浸潤所見などについて、手術所見および病理所見との比較検討を常に行っている。

IVR領域においては、外傷症例や悪性腫瘍に対する塞栓治療の他に、ASO、深部静脈血栓症、透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い、良好な成績を得ている。静脈閉塞に対するステント治療も積極的に行っている。炭酸ガスを用いた血管撮影についての検討も行っている。

MRI部門では、脳腫瘍症例や精神・神経疾患における拡散テンソル解析を用いた白質評価の研究を行っている。シークエンスについての基礎的検討も行っており、研究会にて発表した。

一般撮影部門では、FCRを用いた撮影技術の検討を行っている。特に、ノイズ処理技術を用いた低線量撮影の研究を引き続き行っている。尿路撮影において、倫理委員会の認可を得て、通常線量と低線量での撮影の比較検討を行った。それにより、1/3線量で通常線量と同等の画像を得られるとの結果を得た。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Shimizu H<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Okada S, Maeda S<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Chiba-hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, Chiba-hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Pathology, Tama-nagayama Hospital, <sup>4)</sup> Dept. of Pathology ): Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue. Brain Tumor Pathology 2005 ; 22 : 59-74 .

#### (2) 症例報告：

- 1) Okada S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Inoue K, Nakajo H, Kawamata H, Kuamazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Radiology ): A case of dermoid cyst of the ovary with malignant transformation complicated with small intestinal fistula formation. Radiation medicine 2005 ; 23 ( 6 ) : 443-446 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 岡田 進, 井上幸平, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): FCRのノイズ抑制処理を用いた、単純X Pおよび造影検査の被曝線量低減に関する検討。第24回日本画像医学会, 2005 . 2 .
- 2) 丸山智之<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 三輪宗史<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院中央画像検査室 ): 全脊椎撮影に於ける低線量撮影の検討。日本放射線技術学会 第61回総会学術大会, 2005 . 4 .
- 3) 石原真木子, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 井上幸平, 小倉順子, 中條秀信, 木島鉄仁, 川俣博志, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): 神経膠腫における拡散テンソル解析を用いた白質内浸潤の評価：術後放射線治療への応用。第64回日本医学放射線学会学術集会, 2005 . 4 .
- 4) 桑子智之, 岡田 進, 小倉順子, 木島鉄仁, 石原真木子, 川俣博志, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理学教室, <sup>2)</sup> 同女性診療科産科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科 ): 稀な感染経路で発症した、黄色肉芽腫性化膿性卵管卵巣炎の1例。第427回日本医学放射線学会関東地方会, 2005 . 6 .
- 5) 川俣博志, 桑子智之, 木島鉄仁, 小倉順子, 石原真木子, 岡田 進, 田島廣之<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): 急性下肢深部静脈血栓症に対する血管内治療：腸骨静脈ステント留置術の検討 ( 第2報 )。第11回日本血管内治療学会総会, 2005 . 7 .
- 6) 木股伸恒<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 奥村 敏<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 川俣博志, 桑子智之, 小倉順子, 木島鉄仁, 岡田 進, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院循環器センター, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科 ): 抗凝固療法中の腰動脈出血による巨大後腹膜血腫に対して経カテーテル的動脈血栓塞栓術が有効であった1例。第11回日本血管内治療学会総会, 2005 . 7 .



- 7) 丸山智之<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 三輪宗史<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>(1)</sup> (千葉北総病院中央画像検査室): CRによる高周波信号の特徴抽出: 肋骨撮影への応用. 日本放射線技術学会 第33回秋期学術大会, 2005. 10.
- 8) 岡田 進, 川俣博志, 石原眞木子, 木島鉄仁, 小倉順子, 桑子智之, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科): 上腸間膜動脈症候群により門脈内ガスを生じた1例. 第15回救急放射線研究会, 2005. 10.
- 9) 中嶋隆夫<sup>1)</sup>, 深井靖雄<sup>1)</sup>, 江川慶長<sup>1)</sup>, 村重良一<sup>1)</sup>, 南 和文<sup>1)</sup>, 今野俊介<sup>2)</sup>, 宮本雅史<sup>2)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 家田俊也<sup>3)</sup>, 岡田 進, 丸山智之<sup>4)</sup>, 渡辺典男<sup>4)</sup>, 川村義彦<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院整形外科, <sup>2)</sup> 付属病院整形外科, <sup>3)</sup> 大洗海岸病院整形外科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院中央画像検査室): 低線量全脊椎撮影の試み. 第39回日本側弯症学会, 2005. 11.
- 10) 中嶋隆夫<sup>1)</sup>, 橋口 宏<sup>1)</sup>, 深井靖雄<sup>1)</sup>, 今野俊介<sup>2)</sup>, 望月正孝<sup>1)</sup>, 南 和文<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>2)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 家田俊也<sup>3)</sup>, 岡田 進, 丸山智之<sup>4)</sup>, 渡辺典男<sup>4)</sup>, 川村義彦<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院整形外科, <sup>2)</sup> 付属病院整形外科, <sup>3)</sup> 大洗海岸病院整形外科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院中央画像検査室): 1 / 20低線量CR撮影像におけるCobb角測定誤差の検討. 第39回日本側弯症学会, 2005. 11.
- 11) 桑子智之, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 門脈ガス血症4例の検討. 第25回日本画像医学会, 2006. 2.
- (2) 展示:
- 1) 丸山智之<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 三輪宗史<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 中嶋隆夫<sup>2)</sup>, 岡田 進 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>2)</sup> 同整形外科): Development of an Imaging System Using 1 / 20th the Normal Dose: Application to Whole Spinal Imaging. Radiological Society North America, 91st Scientific Assembly and Annual Meeting ( Chicago ), 2005. 11.
- 2) 小倉順子, 岡田 進, 井上幸平, 中條秀信, 木島鉄仁, 石原眞木子, 川俣博志, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河原 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科): 脂腺癌を伴った皮様嚢腫の1例. 第18回腹部放射線研究会, 2004. 5.
- 3) 小倉順子, 岡田 進, 桑子智之, 木島鉄仁, 石原眞木子, 川俣博志, 大秋美治<sup>1)</sup>, 西城由之<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 同女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科): Troussau 症候群による多臓器梗塞を合併した1例. 第428回日本医学放射線学会関東地方会, 2005. 12.

## 8. 皮膚科学講座

### [ 付属病院皮膚科 ]

#### 研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム .
  - ・CRHがおよぼす毛周期への影響 .
  - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用 .
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析 .
3. 皮膚抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発 .
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapy の基礎的研究 .
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
  - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする .
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法 .
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発
14. 心療皮膚科
  - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conufertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略 .

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Katayama M, Yamanishi T<sup>1)</sup>, Fujimoto K<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Chiba-Hokusou Hospital ): A Case of Anaphylaxis Due to Fish Oil . J Environ Dermatol 2005 ; 12 ( 2 ): 96-100 .
- 2) Mitsuishi T, Ohara K<sup>1)</sup>, Kawashima K<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Toranomon Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Dermatology, Tokyo Women's Medical University ): Prevalence of human papillomavirus DNA sequences in verrucous carcinoma of the lip : genomic and therapeutic approaches . Cancer Lett 2005 ; 222 ( 2 ): 139-143 .
- 3) Futagami A, Aoki M, Kawana S : A case of peripheral T-cell lymphoma unspecified involving subcuta-

- neous tissue . Leuk Lymphoma 2005 ; 46 ( 5 ) : 785-788 .
- 4) Omi T , Kawana S , Sato S<sup>1)</sup> , Takezaki S , Honda M<sup>2)</sup> , Igarashi T , Hankins R<sup>3)</sup> , Bjerring P<sup>4)</sup> , Thestrup-Pedersen K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electro Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Yokohama-Shi , <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Aarhus University , <sup>4)</sup> Third Diagnostic Division, Health Sciences Research Institute ) : Cutaneous immunological activation elicited by a low-fluence pulsed dye laser . Br J Dermatol 2005 ; 153 ( 12 ) : 57-62 .
  - 5) Niimi Y , Pawankar R<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology ) : Increased expression of matrix metalloproteinase-2, matrix metalloproteinase-9 and matrix metalloproteinase-13 in lesional skin of bullous pemphigoid . Int Arch Allergy Immunol 2006 ; 139 ( 2 ) : 104-113 .
  - 6) Kikuchi I , Morimoto K , Kawana S , Tanuma H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kawaguchi-Shi ) : Usefulness of itraconazole for sporotrichosis in Japan : study of three cases and literature comparison of therapeutic effects before and after release on the market . Eur J Dermatol 2006 ; 16 ( 1 ) : 42-47 .
  - 7) Kosaka S , Kawana S , Zouboulis C<sup>1)</sup> , Hasan T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Wellman Center for Photomedicine, MGH Harvard Medical School ) : Targeting of sebocytes by aminolevulinic acid-dependent photosensitization . Photochem Photobiol 2006 ; 82 ( 2 ) : 453-457 .
  - 8) Takezaki S , Omi T , Sato S<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School ) : Ultrastructural observations of human skin following irradiation with visible red light-emitting diodes ( LEDs ) : A preliminary in vivo report . Laser Therapy 2006 ; 14 ( 4 ) : 153-160 .
  - 9) Kawana S , Zaifu L , Nagano M<sup>1)</sup> , Suzuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology ) : Role of substance P in stress-derived degranulation of dermal mast cells in mice . J Dermatol Sci 2006 ; 42 ( 1 ) : 47-54 .
  - 10) Niimi Y , Pawankar R<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology ) : Increased expression of matrix metalloproteinase-2, matrix metalloproteinase-9 and matrix metalloproteinase-13 in lesional skin of bullous pemphigoid . Int Arch Allergy Immunol 2006 ; 139 ( 2 ) : 104-113 .
  - 11) Mitsuishi T , Iida K<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Vaccine Research ) : Papulonecrotic tuberculid with spontaneous remission . J Dermatol 2006 ; 33 ( 2 ) : 112-114 .
  - 12) Kato Y , Pawankar R<sup>1)</sup> , Kimura Y , Kawana S ( <sup>1)</sup> Departments of Otolaryngology ) : Increased Expression of RANTES, CCR3 and CCR5 in the Lesional Skin of Patients with Atopic Eczema . Int Arch Allergy Immunol 2006 ; 139 ( 3 ) : 245-257 .
  - 13) 義澤雄介 , 小坂素子 , 川名誠司 : 市中獲得型MRSA感染症 . 臨皮 2005 ; 59 ( 6 ) : 559-562 .
  - 14) 川名誠司 : 血管炎 . 日皮会誌 2005 ; 115 ( 5 ) : 724-731 .
  - 15) 川名誠司 : 紫斑・血管炎をどのように診るか . Clinical Derma 2005 ; 7 ( 2 ) : 7-8 .
  - 16) 尾見徳彌 , Marc M<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> Department of Electrical and Electronic Engineering, Wales University ) : IFL ( Intense flush lump ) ( CyDen, UK ) を用いた光治療の可能性 . Aesthetic Dermatol 2005 ; 15 ( 2 ) : 176 .
  - 17) 秋本真喜雄<sup>1)</sup> , 尾見徳彌 ( <sup>1)</sup> 関東学院大学工学部 ) : 高周波直流パルス型イオン導入装置の開発とその美容皮膚科学への応用 . Aesthetic Dermatol 2005 ; 15 ( 2 ) : 170 .
  - 18) 秋本真喜雄<sup>1)</sup> , 尾見徳彌 , 河原 誠<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 関東学院大学工学部 , <sup>2)</sup> I. C. I Cosmetics Japan ) : 高周波直流パルス型イオンフォレーシス装置の開発とその皮膚科学への応用 . 電気学会電子・情報・システム部門大会後援論文集 2005 ; 2005 : TC11-19 .
  - 19) 川名誠司 : 未梢CRFの役割 - 皮膚・内分泌・糖尿病科 2005 ; 21 ( 5 ) : 490-498 .
  - 20) 尾見徳彌 , 奥山ます美<sup>1)</sup> , 本田光芳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市 ) : パルスダイレーザーを用いた伝染性軟属腫の治療 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2005 ; 24 ( 2 ) : 213-216 .

- 21) 沼野香世子, 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>横浜市, <sup>2)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設): グリコール・乳酸を用いたケミカルピーリング製剤による超微形態学的な皮膚変化. *Aesthetic Dermatol* 2005 ; 15 (3): 240-245 .
- 22) 沼野香世子, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 尾見徳彌 ( <sup>1)</sup>横浜市): グリコール・乳酸を用いたケミカルピーリング製剤 (Velie. I. C. I. Cosmetics, Japan) を用いたpH値と皮膚変化の相関. *Aesthetic Dermatol* 2005 ; 15 (3): 240-245 .
- 23) 奥山ます美<sup>1)</sup>, 尾見徳彌 ( <sup>1)</sup>横浜市): セルライトに対するマッサージ装置や外用剤による軽減効果の比較. *Aesthetic Dermatol* 2006 ; 16 (1): 27-31 .
- 24) 川名誠司: 好酸球と血管炎. *皮膚アレルギーフロンティア* 2006 ; 4 (1): 29-33 .
- (2) 綜説 :
- 1) 義澤雄介: アトピー性皮膚炎治療の未来. *日医大医学会誌* 2005 ; 1 (4): 207-209 .
  - 2) 立原利江子: さそうのモデルマウスにおけるALAのKinetics. *Aesthetic Dermatol* 2005 ; 15 (1): 9-14 .
  - 3) 三好憲雄<sup>1)</sup>, 立原利江子 ( <sup>1)</sup>福井大学医学部腫瘍病理学): PDTの基礎 PDTメカニズムと体内光生成物の反応性について. *Aesthetic Dermatol* 2005 ; 15 (1): 1-8 .
  - 4) 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑とは. *健康教室* 2005 ; 56 (7): 72-74 .
  - 5) 尾見徳彌: シミによりホワイトライト (INtense Pulased Light) 機器一覧. *Vis Dermatol* 2005 ; 4 (8): 816-817 .
  - 6) 尾見徳彌: ホワイトライト (INtense Pulased Light) を用いた症例. *Vis Dermatol* 2005 ; 4 (8): 814-815 .
  - 7) 川名誠司: 好酸球性血管炎および薬剤性血管炎. 前実績研修会必須Aコース 2005 ; 特別号: 1-8 .
  - 8) 新見やよい: 疱疹状皮膚炎. *日本医師会雑誌* 2005 ; 134 (特別号(2)): 123 .
  - 9) 新見やよい: 線状水疱性皮膚症. *日本医師会雑誌* 2005 ; 134 (特別号(2)): 124 .
  - 10) 新見やよい: 皮膚結核. *日本医師会雑誌* 2005 ; 134 (特別号(2)): 315 .
  - 11) Higashi N, Kawana S: サイトカイン/ケモカインと血管炎. *MB Derma* 2006 ; 110 (2): 12-22 .
- (3) 治験 :
- 1) 中村健一, 川名誠司: 尋常性ざ瘡に対する乳化剤ポリソルベート60 & 80含有基礎化粧品 (フォーミュラB<sup>®</sup>) の有用性. *日本美容皮膚科学会雑誌* 2005 ; 15 (1): 88-93 .
- (4) 症例報告 :
- 1) Katayama M, Yamanishi T<sup>1)</sup>, Fujimoto K<sup>1)</sup>, Kawana S: A Case of Anaphylaxis Due to Fish Oil. *J Environ Dermatol* 2005 ; 12 (2): 96-100 .
  - 2) Amano A, Sakai N, Higashi N, Yoshizawa Y, Kawana S: A Case of Hypereosinophilic syndrome. *J Dermatol* 2005 ; 32 (4): 286-289 .
  - 3) Nakata T, Yamanishi T<sup>1)</sup>, Fujimoto K<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Chiba-hokusou Hospital): A Case of an Anaphylaxis of Edible Bird 's Nest. *J Environ Dermatol* 2005 ; 12 (3): 127-129 .
  - 4) Higashi N, Kawana S: Atopic eczema complicated by systemic lupus erythematosus. *Eur J Dermatol* 2005 ; 15 (6): 500-502 .
  - 5) Yoshida Y<sup>1)</sup>, Ishizawa T<sup>1)</sup>, Mitsuhashi Y<sup>2)</sup>, Kondo S<sup>1)</sup>, Ohta N<sup>2)</sup>, Sakai N ( <sup>1)</sup>Departments of Dermatology, Yamagata University Faculty of Medicine, <sup>2)</sup>Otolaryngology, Yamagata University Faculty of Medicine): A patient with subaural arteriovenous malformation complicated by macrotia. *Clinical & Experimental Dermatology* 2006 ; 31 (1): 151-152 .
  - 6) 荻田あづさ<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): キシロカイン<sup>®</sup>: とケフレックス<sup>®</sup>: のDrug Combinationによる蕁麻疹型薬疹の1例. *日皮アレルギー* 2004 ; 12 (1): 5-8 .
  - 7) 二神綾子, 中田朋子, 川名誠司: Pigmented mammary paget diseaseの1例. *日本皮膚病理組織学学会誌*

- 2005 ; 21 ( 2 ) : 6-9 .
- 8) 久木野竜一, 立原利江子, 新見やよい, 川名誠司: Blistering Mastocytoma . 皮膚臨床 2005 ; 47 ( 3 ) : 334-335 .
- 9) 木下順平<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 斉藤明彦<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ): イオヘキソールによる Stevens-Johnson 症候群の 1 例 . 皮膚臨床 2005 ; 47 ( 3 ) : 393-395 .
- 10) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司: 先天性毛細血管拡張性大理石様皮膚の 2 例 . 臨皮 2005 ; 59 ( 4 ) : 413-415 .
- 11) 中田朋子, 川名誠司: erythema ab igne . 皮膚病診療 2005 ; 27 ( 4 ) : 393-396 .
- 12) 東 直行, 川名誠司: 「治療ノート」を用いた小児のアトピー性皮膚炎診療の試み . 日小皮会誌 2005 ; 24 ( 1 ) : 57-61 .
- 13) 加藤篤衛, 三石 剛, 田中 周<sup>1)</sup>, 西成田真<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>日本医科大学内科学第 3, <sup>2)</sup>日立市 ): 腸管 Behcet 病の 1 例 . 臨皮 2005 ; 59 ( 7 ) : 641-643 .
- 14) 中田朋子, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科 ): ヤーコンと大豆によるアナフィラキシーの 1 例 . 日皮アレルギー 2005 ; 13 ( 2 ) : 75-78 .
- 15) 二神綾子, 川名誠司: 聞き慣れない病名 2005 pseudolymphomatous folliculitis . 皮膚病診療 2005 ; 27 ( 増刊号 ) : 95-98 .
- 16) 中田朋子, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: A Case of an Anaphylaxis of Edible Bird ' s Nest . J Environ Dermatol 2005 ; 12 ( 3 ) : 127-129 .
- 17) 久保田智樹, 堺 則康, 川名誠司: 塩酸メキシレチンによる Stevens-Johnson 症候群型薬疹 . 皮膚病診療 2005 ; 27 ( 10 ) : 1157-1160 .
- 18) 吉野朋子, 菊地伊豆実, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司: 栄養障害型先天性表皮水ほう症の親子例 . 皮膚臨床 2005 ; 47 ( 13 ) : 1853-1857 .
- 19) 久保田智樹, 川名誠司: Vasculitis allergica cutis ( VAC ) と考える 2 例 . 関東皮膚脈管懇話会記録集 2 ( テーマ: 細小血管レベルの血管炎 ) 2006 ; 25-27 .
- 20) 二神綾子, 矢部朋子, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 壇 和夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>内科学第 3 ): CD8, CD30 陽性の皮膚 T 細胞性リンパ腫の 1 例 . Skin cancer 2006 ; 20 ( 3 ) : 357 .
- 21) 中田朋子, 菊地伊豆実, 落合廣武, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司: 2 重膜濾過血漿交換療法が奏効した尋常性天疱瘡: 抗デスマグレイン抗体価のモニタリングにより寛解導入できた 1 例 . 日皮会誌 2006 ; 116 ( 2 ) : 215-221 .
- 22) 川久保恵, 青木見佳子, 山形健治, 川名誠司: 皮膚線条様または癬痕様外観を呈した石灰化上皮腫の 2 例 . 臨皮 2006 ; 60 ( 3 ) : 268-270 .
- ( 5 ) 研究報告書 :
- 1) 義澤雄介, 川名誠司: アトピー性皮膚炎に対する Broadband UVB 照射療法: 低照射量・低頻度照射法を用いた長期治療の試み . 西日皮膚 2005 ; 67 ( 4 ) : pp392-396 .
- 2) 義澤雄介, 川名誠司: 円形脱毛症治療におけるエバスタチンの有用性 . 日皮会誌 2005 ; 115 ( 10 ) : pp1473-1480 .
- 3) 川名誠司, 新見やよい, 東 直行, 菊地伊豆実: アトピー性皮膚炎患者に対するベシル酸ペボタスチン ( タリオン<sup>®</sup>: 錠 ) の有効性, 安全性の検討 . 新薬と臨牀 2005 ; 54 ( 10 ) : pp1325-1331 .

## 著 書

- 1) Suzuki K, Kimura Y, Kawana S : [ 共著 ] Persistent Plaques and Linear Pigmentation in Adult-onset Still's Disease . Arthritis Research ( Frank Columbus ), 2005 ; Nova Science Publishers .
- 2) 尾見徳彌: [ 分担 ] 光老化皮膚 . Herbal Therapy ( 川田 暁 ), 2005 ; pp236-252, 南山堂 .

- 3) 尾見徳彌：〔分担〕脱毛．美容皮膚科学（宮地良樹，松永佳世子，古川福実，宇津木龍一），2005；pp184-194，南山堂．
- 4) 尾見徳彌：〔分担〕多毛症．美容皮膚科学（宮地良樹，松永佳世子，古川福実，宇津木龍一），2005；pp570-576，南山堂．
- 5) 立原利江子，川名誠司：〔分担〕MediLuxTM system MediLux PlusTM systemについて．光老化皮膚（川田暁），2005；pp85-98，南山堂．
- 6) 川名誠司：〔分担〕アナフィラクトイド紫斑 - II章 皮膚疾患カラーアトラス 8. 血管・リンパ管の疾患（毛細血管拡張を示す疾患を含む）．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS101，協和企画．
- 7) 川名誠司：〔分担〕蕁麻疹様血管炎 - II章 皮膚疾患カラーアトラス 8. 血管・リンパ管の疾患（毛細血管拡張を示す疾患を含む）．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS103，協和企画．
- 8) 川名誠司：〔分担〕結節性多発動脈炎 - II章 皮膚疾患カラーアトラス 8. 血管・リンパ管の疾患（毛細血管拡張を示す疾患を含む）．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS104，協和企画．
- 9) 川名誠司：〔分担〕Topics - ANCA 関連血管炎．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS116，協和企画．
- 10) 川名誠司：〔分担〕overview - （5）紫斑になる疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS65，協和企画．
- 11) 川名誠司：〔分担〕overview - （9）水疱・膿疱を示す疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS117，協和企画．
- 12) 川名誠司：〔分担〕overview - （15）潰瘍をつくる疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；ppS173，協和企画．
- 13) 久保田智樹：〔分担〕皮膚アレルギー性血管炎-II章 皮膚疾患カラーアトラス 8. 血管・リンパ管の疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp102，協和企画．
- 14) 新見やよい：〔分担〕疱疹状皮膚炎-II章 皮膚疾患カラーアトラス 9. 水疱・膿疱を示す疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp123，協和企画．
- 15) 新見やよい：〔分担〕線状IgA水疱症-II章 皮膚疾患カラーアトラス 9. 水疱・膿疱を示す疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp124，協和企画．
- 16) 新見やよい：〔分担〕角層下膿疱症乾癬-II章 皮膚疾患カラーアトラス 9. 水疱・膿疱を示す疾患．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp130，協和企画．
- 17) 新見やよい：〔分担〕皮膚結核-II章 皮膚疾患カラーアトラス 22. 皮膚の感染症．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp315，協和企画．
- 18) 山岡淳一，宮地良樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>京都大学皮膚科）：〔分担〕ビタミンEと疾患・ビタミンEと皮膚疾患．ビタミンEの臨床（平井俊策），2005；pp217-232，医薬ジャーナル．
- 19) 三石 剛：〔分担〕単純ヘルペス-II章 皮膚疾患カラーアトラス 22. 皮膚の感染症．実践 皮膚病変のみかた（生涯教育シリーズ68）（西岡 清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三），2005；pp303，協和企画．
- 20) 三石 剛：〔分担〕带状疱疹-II章 皮膚疾患カラーアトラス 22. 皮膚の感染症．実践 皮膚病変のみかた

- (生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp304,協和企画.
- 21) 三石 剛:〔分担〕水痘-II章 皮膚疾患カラーアトラス 22.皮膚の感染症.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp305,協和企画.
- 22) 三石 剛:〔分担〕手足口病-II章 皮膚疾患カラーアトラス 22.皮膚の感染症.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp306,協和企画.
- 23) 竹崎伸一郎:〔分担〕掌蹠膿疱症-II章 皮膚疾患カラーアトラス 9.水疱・膿疱を示す疾患.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp127,協和企画.
- 24) 竹崎伸一郎:〔分担〕Haloapeau 稽留性肢端皮膚炎-II章 皮膚疾患カラーアトラス 9.水疱・膿疱を示す疾患.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp128,協和企画.
- 25) 二神綾子:〔分担〕扁平苔癬-II章 皮膚疾患カラーアトラス 14.皮膚の角化を示す疾患.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp169,協和企画.
- 26) 二神綾子:〔分担〕Gibertばら色靴糠疹-II章 皮膚疾患カラーアトラス 14.皮膚の角化を示す疾患.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp171,協和企画.
- 27) 二神綾子:〔分担〕毛孔性紅色靴糠疹-II章 皮膚疾患カラーアトラス 14.皮膚の角化を示す疾患.実践 皮膚病変のみかた(生涯教育シリーズ68)(西岡 清,片山一朗,勝岡憲生,川名誠司,斉藤隆三),2005; pp171,協和企画.
- 28) 三石 剛:〔分担〕疣贅治療考.ウイルス性疣贅(イボ)は癌化する?(江川清文),2005; pp40-42,医歯薬出版.
- 29) 竹崎伸一郎,小坂好男<sup>1)</sup>:〔分担〕ビタミン・ビタミン様物質.今日のサプリメント(丁 宗鐵,佐竹元吉),2006; pp164-172,南山堂.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 川名誠司:好酸球が関連する皮膚疾患.腎臓内科セミナー,2005.12.

##### (2) 招待講演:

- 1) 川名誠司:好酸球が関与する血管炎.第106回福山皮膚科医会,2005.11.

##### (3) 教育講演:

- 1) 川名誠司:血管炎症候群の位置づけ.第104回日皮会総会学術大会,2005.4.

##### (4) シンポジウム:

- 1) Omi T: Morphological and autoimmunological changes in human skin irradiated in vivo with a 633 nm LED system. Advances in LED Technology, An International Scientific Forum (London), 2005. 11.
- 2) Sakai N<sup>1)</sup>, Waterman EA<sup>1)</sup>, Nguyen NT<sup>1)</sup>, Horst BAJ<sup>1)</sup>, Veitch DP<sup>1)</sup>, Dey CN<sup>1)</sup>, Ortiz-Urda S<sup>1)</sup>, Khavari PA<sup>1)</sup>, Marinkovich NP<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Epithelial Biology, Stanford University, Stanford, CA, USA): Laminin-5 Beta 3 Chain Promotes Epidermal Carcinogenesis Through Type VII Collagen Binding and Pi3k Activation. The American Society for Cell Biology (San Francisco, USA), 2005. 12.
- 3) 立原利江子:新世代-Smooth-Pulsed Lightによる光治療効果.第26回日本レーザー医学会総会・第16回国際レーザー医学会,2005.9.

##### (5) セミナー:

- 1) 尾見徳彌:組織学的観点から見たChemical peeling,光治療ざ瘡治療における有用性.第104回日皮会総会学術大会,2005.4.

- 2) 立原利江子：新世代 Smooth-pulsed light による尋常性 瘡の治療．第104回日皮会総会学術大会，2005．4．
- (6) 一般講演：
- 1) Omi T , Kawana S , Sato S<sup>1)</sup> , Okuyama M<sup>2)</sup> , Honda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electro Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Yokohama-Shi ): Visible red LED phototherapy for skin rejuvenation . 25th Anniversary Meeting of American Society for Laser Medicine and Surgery ( Lake Buena Vista, Florida, USA ) , 2005 . 4 .
  - 2) Tachihara R , Ochiai H , Kato T , Kawana S : Smooth pulsed-light therapy at 400-700 & 870-1200nm for acne vulgaris . 25th Anniversary Meeting of American Society for Laser Medicine and Surgery ( Lake Buena Vista, Florida, USA ) , 2005 . 4 .
  - 3) Tachihara R , Shimoda T , Ochiai H , Kato T , Kawana S : Smooth pulsed light therapy at 500-670&870-1400nm for vascular lesions in Asian . 4th International Academy of Cosmetic Dermatology World Congress ( Paris, France ) , 2005 . 7 .
  - 4) Higashi N , Kawana S : Elevated serum levels of I-309/CCL1 in patients with severe atopic dermatitis . 4th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis ( Arcachon, France ) , 2005 . 9 .
  - 5) Akilov OE<sup>2)</sup> , Kosaka S<sup>1,2)</sup> , Foley JW<sup>2)</sup> , Hasan T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Wellman Center for Photomedicine, MGH Harvard Medical School ): Photodynamic killing of Leishmania major with cationic dyes . 11th Congress of the European society for Photobiology ( Aix-Les-Bains, France ) , 2005 . 9 .
  - 6) Kosaka S<sup>1,2)</sup> , Akilov OE<sup>2)</sup> , Hasan T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Wellman Center for Photomedicine, MGH Harvard Medical School ): Phototoxic activity of 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX against Leishmania major . 11th Congress of the European society for Photobiology ( Aix-Les-Bains, France ) , 2005 . 9 .
  - 7) Kawana S , Liang Z , Shimoda T : Role of substance P in stress-derived activation of dermal mast cells . 15th International Symposium of Itch ( 東京 ) , 2005 . 10 .
  - 8) 山岡淳一 , 川名誠司 : Changes in cutaneous nerve fibers, NGF and NGF receptors after murine skin scratching . 第15回国際痒みシンポジウム , 2005 . 10 .
  - 9) Omi T , Sato S<sup>1)</sup> , Kawana S , Hankins RW<sup>2)</sup> , Honda M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electro Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Aarhus University , <sup>3)</sup>Yokohama-Shi ): Increases of skin homing T cells by LED phototherapy at 630nm . Annual Meeting of the European Society for Laser Dermatology ( London, UK ) , 2005 . 11 .
  - 10) 竹崎伸一郎 , 川名誠司 : ストレスによる脱毛におけるCRHの役割 . 中国医学科学院・中国協和医科大学・皮膚病性病研究所学術会議 ( 中国南京 ) , 2005 . 5 .
  - 11) 山西貴仁<sup>1)</sup> , 栗原和久<sup>1)</sup> , 藤本和久<sup>1)</sup> , 川名誠司 , 鈴木さやか<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科 , <sup>2)</sup>印西市 ): 劇症型溶連菌感染症の1例 . 第69回日皮会東京支部学術学会 , 2005 . 2 .
  - 12) 竹内淳子<sup>1)</sup> , 青木見佳子<sup>1)</sup> , 新見やよい , 庄村江里子<sup>2)</sup> , 山田浩之<sup>2)</sup> , 瀬戸かん一<sup>2)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院皮膚科 , <sup>2)</sup>鶴見大学歯学部第一口腔外科 ): 緊満性水疱を形成した粘膜苔癬の1例 . 第104回日皮会総会学術大会 , 2005 . 4 .
  - 13) 野呂佐知子 , 三石 剛 , 加藤篤衛 , 川名誠司 : Bowen癌の1例 . 第21回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 , 2005 . 5 .
  - 14) 片山美玲<sup>1)</sup> , 青木見佳子<sup>1)</sup> , 竹内淳子<sup>1)</sup> , 川名誠司 , 岩切加奈<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院皮膚科 , <sup>2)</sup>横浜市 ): transient acantholytic dermatosisの1例 . 日皮会第799回東京支部地方会 , 2005 . 5 .
  - 15) 竹崎伸一郎 , 根本典子<sup>1)</sup> , 古川 薫<sup>1)</sup> , 宮澤七郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>北里大学医学部電子顕微鏡センター ): 混合加圧固定 , ルテニウム酸染色による表皮細胞内層板顆粒の観察 . 医学生物学電子顕微鏡技術学会第21回学術講演・総会 ,



2005 . 5 .

- 16) 中田朋子, 立原利江子, 川名誠司, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 坂根 学<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>リウマチ科): Multicentric reticulohistiocytosis (MRH) の1例. 日皮会第799回東京支部地方会, 2005 . 5 .
- 17) 荻田あづさ, 二神綾子, 下田貴子, 川名誠司, 内海甲一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): Fabry 病の1例. 日皮会第800回合同臨床東京支部地方会, 2005 . 6 .
- 18) 富山 幹<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 江川ゆり<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>横浜市): MCTD, SjS を合併した男性SLE の1例. 日皮会第800回合同臨床東京支部地方会, 2005 . 6 .
- 19) 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司, 佐藤元康<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): Benign cephalic histiocytosis の1例. 第29回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 2005 . 7 .
- 20) 山岡淳一, 川名誠司: 皮膚擦過刺激がひき起こすマウス皮膚神経線維増加および神経成長因子発現変化の経時的定量的解析. 第26回日本炎症再生医学会, 2005 . 7 .
- 21) 山岡淳一, 川名誠司: マウス皮膚擦過刺激による神経線維および神経成長因子発現の変化. 第30回日本皮膚アレルギー学会総会学術大会・第30回日本接触皮膚炎学会, 2005 . 7 .
- 22) 安本美奈子, 落合廣武, 川名誠司: PNCとPNの境界例. 第5回関東皮膚脈管懇話会, 2005 . 7 .
- 23) 又吉武光, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 高田香織, 野呂佐知子, 川名誠司(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): ダラシンによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例劇症型溶連菌感染症の1例. 第30回日本皮膚アレルギー学会総会学術大会・第30回日本接触皮膚炎学会, 2005 . 7 .
- 24) 二神綾子, 中田朋子, 川名誠司: Pigmented mammary Paget disease の1例. 第21回日本皮膚病理組織学会, 2005 . 7 .
- 25) 狩野律子: イレッサ®によるざそう様発疹の1例. 日皮会第801回東京支部地方会, 2005 . 7 .
- 26) 又吉武光, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ダラシンによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例. 第35回日本皮膚アレルギー学会総会学術大会・第30回日本接触皮膚炎学会総会学術大会, 2005 . 7 .
- 27) 若林俊輝, 義澤雄介, 又吉武光, 高田香織, 川名誠司: 抗凝固療法が奏功したと考えられるコレステロール結晶塞栓症の1例. 日皮会第801回東京支部地方会, 2005 . 7 .
- 28) 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): パルスダイレーザーを用いた伝染性軟属腫の治療. 第29回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 2005 . 7 .
- 29) 下田貴子, 立原利江子, 川名誠司: 尋常性ざ瘡に対する外用ALA-PDT の治療経験 効果と副作用について. 第23回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2005 . 9 .
- 30) 奥田貴久<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 下田貴子, 川名誠司(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 重度耳介変形の治療経験. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 31) 河野美乃里<sup>1)</sup>, 荒井かおる<sup>1)</sup>, 五十嵐司<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): Necribiotic Xanthogranuloma の1例. 日皮会第802回東京支部地方会, 2005 . 9 .
- 32) 久保田智樹, 立原利江子, 川名誠司: 本態性血小板増多症(ET) に伴った足趾潰瘍の1例. 日皮会第802回東京支部地方会, 2005 . 9 .
- 33) 高田香織, 義澤雄介, 野呂佐知子, 中田朋子, 川名誠司, 田中道雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>流山市): 汎発型稽留性肢端皮膚炎と考える1例. 第20回日本乾癬学会学術大会, 2005 . 9 .
- 34) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司, 齋藤 裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): 環状丘疹性梅毒疹の1例. 第56回日皮会中部支部学術大会, 2005 . 9 .
- 35) 安本美奈子, 立原利江子, 下田貴子, 川名誠司: actinic keratosis に対するALA-PDT の治療経験. 第23回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2005 . 9 .
- 36) 落合廣武: 肺結核の治療50年後に発症した皮膚腺病の1例. 第56回日皮会中部支部学術大会, 2005 . 9 .
- 37) 狩野律子, 安本美奈子, 木村陽一<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>日立市): シクロスポリンが有効であった毛孔性紅色黴糠疹

- の1例．第20回日本乾癬学会学術大会，2005．9．
- 38) 荻田あづさ，青木見佳子，富山 幹，川名誠司，山口裕史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): Mucinous carcinoma of the skinの1例．第56回日皮会中部支部学術大会，2005．9．
- 39) 落合廣武，新見やよい，川名誠司: 肺結核の治療50年後に発症した皮膚腺病の1例．第56回日皮会中部支部学術大会，2005．9．
- 40) 尾見徳彌，Clement M<sup>1)</sup>，川名誠司(<sup>1)</sup> Department of Electrical and Electronic Engineering, Wales University): IFL (Intense Flush Lump) を用いた光治療の可能性．第23回日本美容皮膚科学会総会学術大会，2005．9．
- 41) 秋本真喜雄<sup>1)</sup>，尾見徳彌(<sup>1)</sup> 関東学院大学工学部): 高周波直流パルス型イオン導入装置の開発とその美容皮膚科学への応用．第23回日本美容皮膚科学会総会学術大会，2005．9．
- 42) 沼野香世子，奥山ます美<sup>1)</sup>，尾見徳彌(<sup>1)</sup> 横浜市): 微微形態からみた乳酸，グリコール酸ケミカルピーリング製剤を用いたpH値と皮膚変化の相関．第23回日本美容皮膚科学会総会学術大会，2005．9．
- 43) 奥山ます美<sup>1)</sup>，尾見徳彌(<sup>1)</sup> 横浜市): マッサージ装置，EMS装置，外用剤によるセルライトの軽減効果．第23回日本美容皮膚科学会総会学術大会，2005．9．
- 44) 高田香織，金森幸男，金子勝美，飯田和美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> ワクチン療法研究施設): 低濃度DNFBにより惹起される接触皮膚炎の解析．第55回日本アレルギー学会総会学術大会，2005．10．
- 45) 山岡淳一，川名誠司: マウス皮膚擦過刺激後に生ずる substance P および受容体の変化パターン．第55回日本アレルギー学会総会学術大会，2005．10．
- 46) 二神綾子，新見やよい，川名誠司: 抗デスマグレイン3抗体高値を伴い，紫外線照射後に水疱を形成した結節性痒疹の1例．第27回水疱症研究会，2005．10．
- 47) 又吉武光，安本美奈子，久保田智樹，義澤雄介，新見やよい，川名誠司: 落葉状天疱瘡に対するステロイド治療中にサイトメガロとカリニ原虫による肺炎の発症が疑われた1例．第57回日皮会西部支部学術大会，2005．10．
- 48) 竹内淳子<sup>1)</sup>，荻田あづさ<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司，山田利恵<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院皮膚科，<sup>2)</sup> 川崎市): Livedo racemosaの2例．日皮会第803回東京支部地方会，2005．11．
- 49) 東 直行，加藤篤衛: folliculitis decalvansの1例．日皮会山形地方会第332回例会，2005．12．
- 50) 山岡淳一，川名誠司: マウス皮膚擦過により生ずる substance P，受容体および分解酵素の変動について．日皮会第804回東京支部地方会，2005．12．
- 51) 久保田智樹，川名誠司: アナフィラクトイド紫斑 (AP) との鑑別が問題となった，皮膚アレルギー性血管炎 (VAC) の1例．第29回皮膚脈管膠原病研究会，2006．1．
- 52) 小坂素子<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司，森山マサミ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院皮膚科，<sup>2)</sup> 横浜市): ステロイド局所注射による皮膚萎縮の2例．日皮会第805回東京支部地方会，2006．1．
- 53) 天野彰人<sup>1)</sup>，三石 剛，高田香織，森本健介，野呂佐知子，高木佐千代，川名誠司(<sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科): 腹部症状を認めたアナフィラクトイド紫斑 (AP) の3例．第29回皮膚脈管膠原病研究会，2006．1．
- 54) 落合廣武，二神綾子，川名誠司: 術後45年を経て皮膚再発を認めた乳癌の1例．日皮会第805回東京支部地方会，2006．1．
- 55) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>，加藤篤衛，水野博司<sup>2)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科，<sup>2)</sup> 形成外科・美容外科): Dufourmentel flapにより再建した臀部毛巣洞の2例．第82回日本形成外科学会北海道・東北支部東北地方会，2006．2．
- 56) 新見やよい，安本美奈子，川名誠司，橋本 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 久留米大学医学部皮膚科): 抗BP230抗体陽性の抗p200類天疱瘡．第69回日皮会東京支部学術大会，2006．2．
- 57) 安本美奈子，立原利江子，下田貴子，川名誠司: 外用ALA-PDTを用いた皮膚腫瘍の治療．第69回日皮会東京支部学術大会，2006．2．
- 58) 片山美玲<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司(<sup>1)</sup> 第二病院皮膚科): CD4陽性皮膚T細胞性リンパ腫の1例．第69回日

皮会東京支部学術大会，2006．2．

59) 竹崎伸一郎，川名誠司：基礎疾患の見つからなかった壞疽性膿皮症．日皮会東北六県合同地方会学術大会第333回例会，2006．2．

60) 山岡淳一，川名誠司：皮膚を搔くことが引き起こす病態について．第16回感染・免疫・アレルギー研究会，2006．3．

(7) 展示：

1) Wakabayashi T, Kawana S, Hanada K<sup>1)</sup>, Nakane A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Hirosaki University School Medicine, <sup>2)</sup> Department of Bacteriology, Hirosaki University School Medicine ): Analysis of mechanism of urushiol-induced contact hypersensitivity in mice . 66th SID Annual Meeting ( St. Louis, USA ), 2005 . 5 .

2) 若林俊輝，川名誠司，花田勝美<sup>1)</sup>，中根明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大学皮膚科，<sup>2)</sup> 同細菌学講座 ): Analysis of mechanism of urushiol-induced contact hypersensitivity in mice . 日本研究皮膚科学会第30回年次学術大会・総会，2005 . 4 .

3) Tachihara R, Nakano K<sup>1)</sup>, Kawana S, Miyoshi N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of dermatology, Osaka Medical School, <sup>2)</sup> Department of pathology, Medical School, Fukui University ): The kinetics of protoporphyrin-IX in the acne model, rhino mouse following topical and oral administration of 5-aminolevulinic acid . 日本研究皮膚科学会第30回年次学術大会・総会，2005 . 4 .

4) 若林俊輝，川名誠司，花田勝美<sup>1)</sup>，中根明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大学皮膚科，<sup>2)</sup> 同細菌学講座 ): Analysis of mechanism of urushiol-induced contact hypersensitivity in mice . 第35回日本皮膚アレルギー学会総会・第30回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会，2005 . 7 .

5) 安本美奈子，三石 剛，狩野律子，野呂佐知子，松本智司<sup>1)</sup>，高崎秀明<sup>1)</sup>，川名誠司 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 肛門周囲皮膚および膣粘膜にPaget現象を呈した肛門管癌の1例．第104回日皮会総会学術大会，2005 . 4 .

6) 狩野律子，義澤雄介，小坂素子，中田朋子，川名誠司，木村陽一<sup>1)</sup>，国松淳和<sup>2)</sup>，小田敦子<sup>3)</sup>，根井貴仁<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日立市，<sup>2)</sup> 日本医科大学内科学第2，<sup>3)</sup> 同内科学第4 ): 顕微鏡的多発血管炎 ( MPA ) の3例．第104回日皮会総会学術大会，2005 . 4 .

7) 三石 剛，山田 修<sup>1)</sup>，中武真由香<sup>1)</sup>，金子健彦<sup>2)</sup>，大原国章<sup>2)</sup>，川名誠司 ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学総合研究所，<sup>2)</sup> 同愛記念病院皮膚科 ): 外陰部腫瘍におけるテロメラーゼ活性の半定量的解析．第104回日皮会総会学術大会，2005 . 5 .

8) 二神綾子，矢部朋子，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司，壇 和夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院皮膚科，<sup>2)</sup> 内科学第3 ): CD8，CD30陽性の皮膚T細胞性リンパ腫の1例．第21回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会，2005 . 5 .

9) 川久保恵，青木見佳子，川名誠司：和からしによる蕁麻疹の1例．第30回日本皮膚アレルギー学会総会学術大会・第30回日本接触皮膚炎学会，2005 . 7 .

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断・研究 .

2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用 .

3. 薬疹，接触皮膚炎，食物アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作，抗原の検索 .

4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与：gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒 .

## 研究業績

### 論文

#### (1) 症例報告：

- 1) Katayama M, Yamanishi T<sup>1)</sup>, Fujimoto K<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Chiba-hokusou Hospital ): A case of Anaphylaxis Due to Fish Oil. Journal of Environmental Dermatology 2005 ; 12 ( 2 ): 96-100 .
- 2) 小坂素子, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): 先天性毛細血管拡張性大理石様皮膚の2例. 臨床皮膚科 2005 ; 59 ( 4 ): 413-415 .
- 3) 青木見佳子: シリーズカラーアトラス1. 皮膚疾患: 他科領域に関連した医原性皮膚障害 ( I ). 日医大医会誌 2005 ; 1 ( 4 ): 153-155 .
- 4) 青木見佳子: 乳房Paget病vs乳頭部腺腫 ( adenoma of the nipple ). Visual Dermatology 2006 ; 5 ( 1 ): 40-42 .
- 5) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院形成外科, <sup>2)</sup> 同皮膚科, <sup>3)</sup> 付属病院形成外科 ): Bednar tumor ( Pigmented dermatofibrosarcoma protuberans ) の1例. 日本形成外科学会誌 2006 ; 26 ( 2 ): 128-133 .
- 6) 中田朋子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 菊地伊豆美<sup>1)</sup>, 落合廣武<sup>1)</sup>, 山形健治<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 第二病院皮膚科 ): 2重膜濾過血漿交換療法が奏効した尋常性天疱瘡. 日本皮膚科学会雑誌 2006 ; 116 ( 2 ): 215-221 .
- 7) 青木見佳子: シリーズカラーアトラス1. 皮膚疾患: 他科領域に関連した医原性皮膚障害 ( II ). 日医大医会誌 2006 ; 2 ( 1 ): 9-11 .
- 8) 川久保恵, 青木見佳子, 山形健治<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 山形皮膚科クリニック ( 川崎市 ), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科 ): 皮膚線条様または癬痕様外観を呈した石灰化上皮腫の2例. 臨床皮膚科 2006 ; 60 ( 3 ): 268-270 .

### 著書

- 1) 青木見佳子: [ 分担 ] 閉塞性血栓性血管炎. 実践 皮膚病変のみかた ( 西岡 清, 片山一郎, 勝岡憲生, 川名誠司, 斉藤隆三 ), 2005 ; p110, 日本医師会 .
- 2) 青木見佳子: [ 分担 ] 閉塞性動脈硬化症. 実践 皮膚病変のみかた ( 西岡 清, 片山一郎, 勝岡憲生, 川名誠司, 斉藤隆三 ), 2005 ; p111, 日本医師会 .

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 竹内淳子, 青木見佳子, 新見やよい<sup>1)</sup>, 庄村江里子<sup>2)</sup>, 山田浩之<sup>2)</sup>, 瀬戸皖一<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 鶴見大学歯学部第一口腔外科 ): 緊満性水疱を形成した粘膜苔癬の1例. 第104回日本皮膚科学会総会, 2005 . 4 .
- 2) 川久保恵, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): 和からしによる蕁麻疹の1例. 第35回日本皮膚アレルギー学会総会, 2005 . 7 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 片山美玲, 青木見佳子, 竹内淳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 岩切加奈<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 横浜市 ): transient acantholytic dermatosis の1例. 日本皮膚科学会第799回東京地方会, 2005 . 5 .
- 2) 荻田あづさ, 二神綾子<sup>1)</sup>, 下田貴子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院内科学第2 ): Fabry病の1例. 第800回日本皮膚科学会合同臨床地方会, 2005 . 6 .
- 3) 富山 幹, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 江川ゆり<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 横浜市 ): MCTD. SjSを

- 合併した男性 SLE の 1 例 . 日本皮膚科学会第 800 回東京地方会 , 2005 . 6 .
- 4) 小坂素子 , 新見やよい<sup>1)</sup> , 川名誠司<sup>1)</sup> , 齋藤 裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 東京都 ): 環状丘疹性梅毒疹の 1 例 . 第 56 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 , 2005 . 9 .
- 5) 荻田あづさ , 青木見佳子 , 富山 幹 , 川名誠司<sup>1)</sup> , 山口裕史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 川崎市 ): Mucinous carcinoma of the skin の 1 例 . 第 56 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 , 2005 . 9 .
- 6) 竹内淳子 , 荻田あづさ , 青木見佳子 , 川名誠司<sup>1)</sup> , 山田利恵<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 川崎市 ): Livedo racemosa の 2 例 . 日本皮膚科学会第 803 回東京地方会 , 2005 . 11 .
- 7) 小坂素子 , 青木見佳子 , 川名誠司<sup>1)</sup> , 森山マサミ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 横浜市 ): ステロイド局所注射による皮膚萎縮の 2 例 . 日本皮膚科学会第 805 回東京地方会 , 2006 . 1 .
- 8) 片山美玲 , 青木見佳子 , 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): CD4 陽性皮膚 T 細胞性リンパ腫の 1 例 . 第 69 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 , 2006 . 2 .

## [ 多摩永山病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン/サイトカインの解析と治療戦略 .
2. 薬疹 , 接触皮膚炎 , 食物アレルギー : 皮膚テストによる原因物質の確認と交差感作 , 抗原の検索 .
3. 皮膚腫瘍 , 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究 .
4. ケミカルピーリング , イオンフォレーシス , 炭酸ガスレーザーによる美容的治療 .

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説 :

- 1) 東 直行 : Drug-induced hypersensitivity syndrome ( DIHS ) とは . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 2 ): 84-84 .
- 2) 東 直行 , 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): サイトカイン/ケモカインと血管炎 . MB Derma 2006 ; 110 ( 2 ): 12-22 .

##### (2) 症例報告 :

- 1) Amano A , Sakai N , Higashi N , Yoshizawa Y<sup>1)</sup> , Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Nippon Medical School ): A case of hypereosinophilic syndrome . J Dermatol 2005 ; 32 ( 4 ): 286-289 .
- 2) Higashi N , Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Nippon Medical School ): Atopic eczema complicated by systemic lupus erythematosus . Eur J Dermatol 2005 ; 15 ( 6 ): 500-502 .
- 3) Yoshida Y<sup>1)</sup> , Ishizawa T<sup>1)</sup> , Mitsuhashi Y<sup>1)</sup> , Kondo S<sup>1)</sup> , Sakai N<sup>2, 3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Yamagata University , <sup>2)</sup> Dept. of Dermatology, Kitamura Public Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Dermatology, Nippon Medical School ): A patient with subaural arteriovenous malformation complicated by macrotia . Clin Exp Dermatol 2006 ; 32 ( 1 ): 151-152 .
- 4) 中田朋子 , 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): erythema ab igne . 皮膚病診療 2005 ; 27 ( 4 ): 393-396 .
- 5) 東 直行 , 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): 「治療ノート」を用いた小児のアトピー性皮膚炎診療の試み . 日小皮会誌 2005 ; 24 ( 1 ): 57-61 .
- 6) 東 直行<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院皮膚科 ): カバキコマチグモ刺咬症 . Visual Dermatology 2005 ; 4 ( 6 ): 606-607 .
- 7) 中田朋子 , 山西貴仁<sup>1)</sup> , 藤本和久<sup>2)</sup> , 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院皮膚科 ): ヤーコンと大豆によるアナフィラキシーの 1 例 . 日本皮膚アレルギー学会誌 2005 ; 13 ( 2 ): 75-78 .

- 8) 中田朋子, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院皮膚科): A case of an anaphylaxis of Edible Bird 's Nest . J of Environmental Derma ( Osaka ) 2005 ; 12 ( 3 ) : 127-129 .
- 9) 中田朋子, 新見やよい<sup>1)</sup>, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 山形健治<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 第二病院皮膚科): 2重膜濾過血漿交換療法が奏効した尋常性天疱瘡 抗デスマグレイン抗体価のモニタリングにより寛解導入できた1例 . 日皮会誌 2006 ; 116 ( 2 ) : 215-221 .

(3) 研究報告書 :

- 1) 川名誠司<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 東 直行, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): アトピー性皮膚炎患者に対するベシル酸ベボタスチン ( タリオン錠 ) の有効性, 安全性の検討 . 新薬と臨床 2005 ; 54 ( 10 ) : pp1325-1331 .

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 五十嵐司<sup>1,2)</sup>, 落合廣武<sup>2,3)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 会津中央病院皮膚科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科): 尋常性狼瘡の1例 . 第104回日本皮膚科学会総会, 2005 . 4 .

(2) 一般講演 :

- 1) Higashi N , Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): Elevated serum levels of I-309/CCL1 in patients with severe atopic dermatitis . 4th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis ( Arcachon, France ), 2005 . 9 .
- 2) Sakai N<sup>1,2)</sup>, Waterman EA<sup>2)</sup>, Nguyen NT<sup>2)</sup>, Horst BAJ<sup>2)</sup>, Veitch DP<sup>2)</sup>, Dey CN<sup>2)</sup>, Ortiz-Urda S<sup>2)</sup>, Khavari PA<sup>2)</sup>, Marinkovich MP<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Epithelial Biology, Stanford University): Laminin-5 Beta 3 Chain Promotes Epidermal Carcinogenesis Through Type VII Collagen Binding and Pi3k Activation . The 45th Annual Meeting, The American Society for Cell Biology ( San Francisco, CA, USA ), 2005 . 12 .
- 3) 東 直行<sup>1)</sup>, 瀬田健博<sup>2)</sup>, 野村浩一<sup>2)</sup>, 野本達也<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同神経内科): 腎機能低下, スギヒラタケ摂取に関連した急性脳症患者に認められた紫斑の1例 . 日本皮膚科学会山形地方会総会第330回例会, 2005 . 4 .
- 4) 東 直行<sup>1)</sup>, 伊吾田慎一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同形成外科): 北村山公立病院における蜂刺傷の統計的考察 . 第104回日本皮膚科学会総会, 2005 . 4 .
- 5) 中田朋子, 立原利江子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 中島敦夫<sup>2)</sup>, 坂根 学<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同リウマチ科): Multi-centric reticulohistiocytosis ( MRH ) の1例 . 日本皮膚科学会第799回東京地方会, 2005 . 5 .
- 6) 瀬田健博<sup>1)</sup>, 野本達也<sup>1)</sup>, 野村浩一<sup>1)</sup>, 塚本和久<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 金村應文<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院神経内科, <sup>2)</sup> 同皮膚科, <sup>3)</sup> 同内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学内科学第2): スギヒラタケ摂取に関連したと考えられる急性脳症の1例 . 第176回日本内科学会東北地方会例会, 2005 . 6 .
- 7) 東 直行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科): アトピー性皮膚炎における単球由来のサイトカイン発現について : IL-18を中心に . 第412回山形皮膚科勉強会, 2005 . 7 .
- 8) 東 直行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科): 皮膚アレルギー性血管炎の1例 . 第413回山形皮膚科勉強会, 2005 . 8 .
- 9) 東 直行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科): 腎機能低下, スギヒラタケ摂取に関連した急性脳症患者に認められた紫斑の1例 . 第413回山形皮膚科勉強会, 2005 . 8 .
- 10) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup>, 新井克志<sup>4)</sup>, 平本 力<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup> 北村山公立病院皮膚科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科, <sup>4)</sup> 防衛医大形成外科, <sup>5)</sup> 栃木県, 自治医大皮膚科): 褥瘡の局所処置とドレッシング : 山形県北村山地区 . 第7回日本褥瘡学会, 2005 . 8 .
- 11) 河野美乃里, 荒井かおる, 五十嵐司, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): Necrobiotic Xanthogranulomaの1例 . 日本皮膚科学会第802回東京地方会, 2005 . 9 .
- 12) 東 直行<sup>1,2)</sup>, 加藤篤衛<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 北村山公立病院皮膚科): folliculitis decal-

vansの1例．日本皮膚科学会山形地方会総会第332回例会，2005．12．

- 13) 天野彰人，三石 剛<sup>1)</sup>，高田香織<sup>1)</sup>，森本健介<sup>1)</sup>，野呂佐知子<sup>1)</sup>，高木佐知代<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 腹部症状を認めたアナフィラクトイド紫斑 (AP) の3例．第29回皮膚脈管膠原病研究会，2006．1．

## [ 千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 薬疹，接触性皮膚炎，食物アレルギー：パッチテスト，プリックテスト，チャレンジテスト，光パッチテストによる原因物質の確認と，交叉感作，抗原決定基の検索，アレルギーカードの発行．
2. 皮膚腫瘍の臨床診断，形成外科学的治療・再建術および病理学的研究：特に電顕，酵素抗体法を用いた研究．
3. 動物性皮膚疾患：疥癬，Creeping disease等に対する新しい内服治療法の研究．
4. 褥瘡，難治性潰瘍：新しい素材，薬剤を用いた保存的，外科的治療，および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究．
5. 皮膚真菌症：白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究，白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究．
6. 水疱症：尋常性天疱瘡，水疱性類天疱瘡に対する，血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 藤本和久：伝染性膿痂疹．日本医師会雑誌 2005；134(特別号(2)): 290-290．
- 2) 藤本和久：ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群．日本医師会雑誌 2005；134(特別号(2)): 291-291．

##### (2) 症例報告：

- 1) 荻田あづさ<sup>1)</sup>，山西貴仁，藤本和久，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): キシロカインRとケフレックスRのDrug Combinationによる蕁麻疹型薬疹の1例．日皮アレルギー 2004；12(1): 5-8．
- 2) 木下順平<sup>1)</sup>，山西貴仁，藤本和久，斉藤明彦<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科，<sup>2)</sup>付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): イオヘキソールによるStevens-Johnson症候群の1例．皮膚臨床 2005；47(3): 393-395．
- 3) Katayama M<sup>1)</sup>，Yamanishi T，Fujimoto K，Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): A Case of Anaphylaxis Due to Fish Oil．J Environ Dermatol 2005；12(2): 96-100．
- 4) 中田朋子<sup>1)</sup>，山西貴仁，藤本和久，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ヤーコンと大豆によるアナフィラキシーの1例．日皮アレルギー 2005；13(2): 75-78．
- 5) Nakata T<sup>1)</sup>，Yamanishi T，Fujimoto K，Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): A Case of an Anaphylaxis of Edible Bird's Nest．J Environ Dermatol 2005；12(3): 127-129．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 山西貴仁，藤本和久，栗原和久，川名誠司<sup>1)</sup>，鈴木さやか<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科，<sup>2)</sup>印西市): 劇症型溶連菌感染症の1例．第68回日本皮膚科学会東京支部学術学会，2005．2．
- 2) 又吉武光<sup>1)</sup>，山西貴仁，藤本和久，高田香織<sup>1)</sup>，野呂佐知子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ダラシンによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例．第35回日本皮膚アレルギー学会・第30回日本接触皮膚炎学会・合同学術大会，2005．7．

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1 外科 ( 消化器外科 , 乳腺外科 , 一般外科 , 移植外科 ) ]

#### 研究概要

教室では、消化器外科・一般外科・乳腺外科・移植外科学を中心に臨床医学に直結し、しかも将来につながる研究を目的とし、先端医療を含めた臨床的、基礎的研究を行っている。具体的には、外科腫瘍学を基本に、消化器全般 ( 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾 )、乳腺、移植に関して、外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている。

1. 鏡視下手術 ( 腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡 ) を用いた低侵襲手術を導入し、基礎的技術習熟のためのトレーニングシステムの構築およびその実践。
2. 生体肝移植における過小グラフト問題に対して、小腸同時切除が過小グラフトの outflow block を解決可能かどうかを実験動物 ( イヌ ) を用いて証明。
3. 門脈圧亢進症による食道、胃静脈瘤の病態生理の解明および新しい治療法の開発。
4. 肝不全に対する高圧酸素療法の有用性を証明すべく、障害肝ラットへの高圧酸素療法の効果を病理組織学的に検索。
5. 腹膜炎、イレウス、急性膵炎などを中心とする急性腹症、腹部救急疾患の病態、とくに細菌性ショック発来機構の解明ならびにイレウスの新しい診断法の確立。
6. 創傷治癒、外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践。
7. 乳癌、肝癌および膵癌の FNA 細胞診断の向上に努めるべく、手術標本からの FNA 細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定、定量から組織診断の鑑別への応用。
8. 悪性腫瘍に関して、外科的治療を中心として治療成績の向上、基礎的研究として増殖因子の役割、胃十二指腸疾患におけるヘリコバクテラ・ピロリの役割、胃癌発生における遺伝子多形性の意義、肝癌発生の分子生物学的解明、膵癌転移機構の解明、大腸癌発生における細菌性因子の関与の研究など、スタッフの指導のもとに、それぞれのテーマに対し教室員が配属されて積極的に研究が進められている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Shinji S, Tajiri T, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Seya T, Tanaka N, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Different expression levels of lumican in human carcinoid tumor and neuroendocrine cell carcinoma . Int J of Oncology 2005 ; 26 ( 4 ): 873-880 .
- 2) Yamazaki S<sup>1)</sup>, Kato S, Matsukura N, Ohtani M<sup>2)</sup>, Ito Y<sup>1)</sup>, Suto H<sup>1)</sup>, Yamazaki Y<sup>2)</sup>, Yamakawa A<sup>1)</sup>, Tokudome S<sup>3)</sup>, Higashi H<sup>4)</sup>, Hatakeyama M<sup>4)</sup>, Azuma T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Int Med II, Univ Fukui , <sup>2)</sup>Dept. End Med, Univ Fukui , <sup>3)</sup>Dept. Health Prom Prev Med, Nagoya City Univ , <sup>4)</sup>Div. MolOncol, Inst Genetic Med., Hokkaido Univ. ): Identification of *Helicobacter pylori* and the *cagA* genotype in gastric biopsies using highly sensitive real-time PCR as a new diagnostic tool . FEMS Immunol Med Microbiol 2005 ; 44 ( 2 ): 261-268 .
- 3) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyono S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital ): A study of histopathological assessment criteria for assessing malignancy of gastrointestinal stromal



- tumor, from a clinical standpoint . J of Gastroenterology 2005 ; 40 ( 5 ): 467-473 .
- 4) Taniai N , Yoshida H , Mamada Y , Tajiri T : The Treatment of Gastric Fundal Varices - Endoscopic Therapy *versus* Interventional Radiology . Hepato-Gastroenterology 2005 ; 52 ( 63 ): 949-953 .
  - 5) Mizuguchi Y , Yoshida H , Yokomuro S , Arima Y , Mamada Y , Taniai N , Akimaru K , Tajiri T : Collagen IV is a Predictor for Clinical Course in Patients with Malignant Obstructive Jaundice . Hepato-Gastroenterology 2005 ; 52 ( 63 ): 672-677 .
  - 6) Furukawa K , Tajiri T , Suzuki H , Norose Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Microbiology & Immunology ): Are Sterile Water and Brushes Necessary for Hand Washing before Surgery in Japan? . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ): 149-154 .
  - 7) Fukuhara M , Uchida E , Tajiri T , Aimoto T , Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Integrative Pathology ): Reexpression of Reduced VEGF Activity in Liver Metastases of Experimental Pancreatic Cancer . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ): 155-164 .
  - 8) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Yamamoto K , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Tajiri T : A Randomized Control Trial of Bimonthly *Versus* Biweekly Endoscopic Variceal Ligation of Esophageal Varices . American J of Gastroenterology 2005 ; 100 ( 9 ): 2005-2009 .
  - 9) Mineta S , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Akimaru K , Kumita S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>Dept. of Radiology ): Changes in Distribution of Splenic Venous Flow in the Patients with Cirrhotic Liver . Hepato-Gastroenterology 2005 ; 52 ( 65 ): 1313-1319 .
  - 10) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Akimaru K , Tajiri T : Fixation of the Greater Omentum for Prevention of Delayed Gastric Emptying after Left-sided Hepatectomy : A Randomized Controlled Trial . Hepato-Gastroenterology 2005 ; 52 ( 65 ): 1334-1337 .
  - 11) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>1)</sup>, Sekita Y<sup>1)</sup>, Seo T<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Yamashita K , Tajiri T , Ohaki Y<sup>3)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>3rd Dept. of Internal Medicine , <sup>2)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital ): *Helicobacter pylori* infection increases the risk of colorectal adenoma and adenocarcinoma, especially in women . J of Gastroenterology 2005 ; 40 ( 9 ): 887-893 .
  - 12) Matsuda A , Furukawa K , Suzuki H , Matsutani T , Tajiri T , Chaudry IH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama, Birmingham, AL USA ): Dehydroepiandrosterone Modulates Toll-Like Receptor Expression On Splenic Macrophages of Mice After Severe Polymicrobial Sepsis . SHOCK 2005 ; 24 ( 4 ): 364-369 .
  - 13) Suzuki H , Furukawa K , Kan H , Tsuruta H , Matsumoto S , Akiya Y , Shinji S , Tajiri T : The Role of Transanal Endoscopic Microsurgery for Rectal Tumors . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 278-284 .
  - 14) Mizuguchi Y , Yokomuro S , Mishima T<sup>1)</sup>, Arima Y , Shimizu T , Kawahigashi Y , Kanda T , Yoshida H , Takizawa T<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>Molecular Anatomy & Functional Morphology ): Short Hairpin RNA Modulates Transforming Growth Factor Signaling in Life-Threatening Liver Failure in Mice . Gastroenterology 2005 ; 129 ( 5 ): 1654-1662 .
  - 15) Xing C<sup>1)</sup>, Kato S , Matsukura N , Matsuda N , Xu H<sup>1)</sup>, Takashi E<sup>2)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>Dept. of Oncology, First Hospital of China Medical Univ. Shengyang, China , <sup>2)</sup>Integrative Pathology ): *Interleukin-8*, *Cyclo-oxygenase-2*, and *Trefoil Factor Family 1* Gene Expression and Their Association with *Helicobacter pylori* Infection in the Remnant Stomach . Surgery Today 2005 ; 35 ( 12 ): 1026-1032 .
  - 16) Matsunobu T<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>2)</sup>, Matsumoto K<sup>3)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Tajiri T , Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Center for Digestive Diseases, Second Hospital , <sup>2)</sup>Integrative Pathology , <sup>3)</sup>Division

- of Pathology, Second Hospital ): Expression of keratinocyte growth factor receptor correlates with expansive growth and early stage of gastric cancer . International J of Oncology 2006 ; 28 : 307-314 .
- 17) Fujita I , Kiyama T , Mizutani T , Okuda T , Yoshiyuki T , Tokunaga A , Tajiri T : Factor XIII Therapy of Anastomotic Leak, and Circulating Growth Factors . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ) : 18-23 .
- 18) Shinji S , Naito Z<sup>1)</sup> , Ishiwata S<sup>2)</sup> , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Tanaka N , Furukawa K , Suzuki H , Seya T , Matsuda A , Katsuta M , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Integrative Pathology , <sup>2)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki Univ. ) : Ubiquitin-specific protease 14 expression in colorectal cancer is associated with liver and lymph node metastases . Oncology Reports 2006 ; 15 ( 3 ) : 539-543 .
- 19) Amano M<sup>1)</sup> , Okuda T , Amano Y<sup>1)</sup> , Tajiri T , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology ) : Magnetic resonance imaging of gastrointestinal stromal tumor in the abdomen and pelvis . J of Clinical Imaging 2006 ; 30 ( 2 ) : 127-131 .
- 20) Taniai N , Yoshida H , Mamada Y , Kawano Y , Mizuguchi Y , Akimaru K , Tajiri T : Is Intraoperative Adjuvant Therapy Effective for Satellite Lesions in Patients undergoing Reduction Surgery for Advanced Hepatocellular Carcinoma? . Hepato-Gastroenterology 2006 ; 53 ( 68 ) : 258-261 .
- 21) 鶴田宏之 , 古川清憲 , 田尻 孝 : イレウス : 腸疾患 . 消化器外科学レビュー 2005 - 最新主要文献と解説 - 2005 ; ( 4 ) : 56-61 .
- 22) 有馬保生 , 田尻 孝 , 横室茂樹 : 胆道癌の病型分類 . 内科 2005 ; 95 ( 6 ) : 1179-1182 .
- 23) 加藤俊二 , 松倉則夫 , 小野寺浩之 , 奥田武志 , 水谷 崇 , 木山輝郎 , 吉行俊郎 , 藤田逸郎 , 徳永 昭<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター ) : 胃癌手術後の在院死症例よりみた手術の morbidity, mortality の改善 . 日消外会誌 2005 ; 38 ( 6 ) : 579-584 .
- 24) 田尻 孝 : 門脈圧亢進症と部分的脾動脈塞栓術 ( PSE ) . 日門亢会誌 2005 ; 10 ( 2 ) : 61-62 .
- 25) 鶴田宏之 , 田尻 孝 , 古川清憲 , 高崎秀明<sup>1)</sup> , 鈴木英之 , 菅 隼人 ( <sup>1)</sup>神栖済生会病院外科 ) : イレウス . 消化器の臨床 2005 ; 8 ( 3 ) : 257-265 .
- 26) 松倉則夫 : 非胃・十二指腸疾患とのかかわり / *H. pylori*以外の *Helicobacter* 属をみる . Helicobacter Res 2005 ; 9 ( 3 ) : 226-234 .
- 27) 古川清憲 , 松田明久 , 秋谷行宏 , 前澤勝美 , 丸山 弘 , 鈴木英之 , 高崎秀明 , 田尻 孝 : 重症腹膜炎周術期の病態 免疫能の変化とその制御 : 特集 : 周術期重症感染症の病態と治療 . 日本腹部救急医学会誌 2005 ; 25 ( 5 ) : 701-706 .
- 28) 中村慶春 , 古川清憲 , 田尻 孝 : 肝・胆・膵外科手術のドレナージ . OPE NURSING 2005 ; 20 ( 9 ) : 45-51 .
- 29) 谷合信彦 , 川野陽一 , 高橋 翼 , 柿沼大輔 , 水口義昭 , 清水哲也 , 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 内田英二 , 相本隆幸 , 中村慶春 , 秋丸琥甫 , 村田 智<sup>1)</sup> , 田島廣之<sup>1)</sup> , 隈崎達夫<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>放射線科 ) : 消化器外科領域における消化管・腹腔内動脈出血に対する IVR : 特集 : 腹部救急領域における IVR : カテーテル止血術の進歩と課題 . 日本腹部救急医学会誌 2005 ; 25 ( 6 ) : 815-820 .
- 30) 加藤俊二 , 松倉則夫 , 田尻 孝 : *H. pylori* と炎症反応 - サイトカインを中心に - : 特集 *H. pylori* と胃がん . 細胞 2005 ; 37 ( 11 ) : 436-439 .
- 31) 藤田逸郎 , 木山輝郎 , 徳永 昭<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター ) : 胃切除周術期・術後の体成分組成の変化 : 日常診療の指針 . 外科治療 2006 ; 94 ( 1 ) : 83-84 .
- 32) 松倉則夫 : 胆道癌のリスクファクター : *Helicobacter* 属 膵癌・胆道癌の診断と治療 : 最新の研究動向 . 日本臨床 2006 ; 64 ( 1 ) : 339-343 .
- 33) 松倉則夫<sup>1)</sup> , 加藤俊二 ( <sup>1)</sup>松倉中央クリニック ) : 「残胃の癌」発生の危険因子 : 残胃の癌 : 治療と予防 . 外科治療 2006 ; 94 ( 3 ) : 259-263 .
- 34) 松田 健<sup>1)</sup> , 津久井拓<sup>1)</sup> , 松久威史<sup>1)</sup> , 木村 祐<sup>1)</sup> , 江上 格<sup>2)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科 , <sup>2)</sup>同外

科): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例. 日腹救急医誌 2006; 25(3): 451-454.

(2) 綜説:

- 1) 加藤俊二, 田尻 孝, 田中 周<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): Cronkhite-Canada症候群にともなう消化管病変. 日医大医学会誌 2005; 1(2): 46-47.
- 2) 加藤俊二, 松倉則夫, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 田尻 孝: *Helicobacter pylori* Q&A: 胃全摘をした患者さんに尿素呼気試験をおこなう際の留意点を教えてください. *Helicobacter Research* 2005; 9(3): 274-275.
- 3) 野村 務, 山下精彦, 宮下正夫, 田尻 孝: パレット食道に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 日本臨床 2005; 63(8): 1458-1462.
- 4) 田尻 孝: 激変する社会環境の中で本学に期待すること. 日医大医学会誌 2005; 1(4).
- 5) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 山下精彦, 田尻 孝: 食道・胃静脈瘤治療. 日医大医学会誌 2005; 1(4): 161-167.
- 6) 秋丸琥甫: 生体肝移植の問題点: 特に過小グラフト対策について. 日医大医学会誌 2005; 1(4): 156-160.
- 7) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 有馬保生, 横室茂樹, 田尻 孝: 膵癌・胆道癌の診断と治療 最新の研究動向: B. 胆道癌 V. 胆道癌の診断 胆道癌の診断: 総論. 日本臨床 2006; 64(増1): 389-392.
- 8) 木山輝郎, 三枝英人<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院栄養サポートチーム副委員長, <sup>2)</sup>内科学第1): 栄養摂取量調査からみた栄養サポートチームの必要性. 日医大医学会誌 2006; 2(1): 32-35.

(3) 症例報告:

- 1) Teranishi N, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Akimaru K, Naito Z<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>Integrative Pathology): Inflammatory Pseudotumor in the Spiegel Lobe of the Liver of an Elderly Woman. *J Nippon Med Sch* 2005; 72(2): 121-126.
- 2) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Ohkawa K<sup>3)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Uchida E, Tajiri T (<sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital): Hirschsprung's Disease in Adults: Report of a Case and Review of the Literature. *J Nippon Med Sch* 2005; 72(2): 113-120.
- 3) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Okuda T, Miyashita M, Tajiri T: Percutaneous Transhepatic Insertion of Metal Stents with a Double-pigtail Catheter in Afferent Loop Obstruction following Distal Gastrectomy. *Hepato-Gastroenterology* 2005; 52(63): 680-682.
- 4) Taniai N, Akimaru K, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Mamada Y, Yoshida H, Tajiri T: Hemophagocytic Syndrome after Living-donor Liver Transplantation for Fulminant Liver Failure: A Case Report. *Hepato-Gastroenterology* 2005; 52(63): 923-926.
- 5) Furukawa K, Taniai N, Suzuki H, Kiyama T, Nomura T, Takahashi T, Yoshiyuki T, Tajiri T: An Abdominal Incisional Hernia Repair using the Composix<sup>®</sup>; Kugel Patch: Two Cases Reports. *J Nippon Med Sch* 2005; 72(3): 182-186.
- 6) Takahashi K, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Nakamura Y, Mizuguchi Y, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Tajiri T: A Case Report of Metachronous Hepatocellular Carcinoma and Early Esophageal Cancer. *J Nippon Med Sch* 2005; 72(3): 187-190.
- 7) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Nakamura Y, Nomura T, Yoshioka M, Kiyama T, Kato S, Nishi K, Naito Z<sup>1)</sup>, Akimaru K, Tajiri T (<sup>1)</sup>Integrative Pathology): Ruptured Metastatic Liver Tumor from an  $\alpha$ -fetoprotein-producing Gastric Cancer. *J Nippon Med Sch* 2005; 72(4): 236-241.
- 8) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Nakamura Y, Nomura T, Okuda T, Uchida E, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>2)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>Dept. of Analytic Human Pathology, <sup>2)</sup>Uchida Hospital): Spurt Bleeding

- from a Calcificated Gastrointestinal Stromal Tumor in the Stomach . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 304-307 .
- 9) Togashi A , Matsukura N , Kato S , Masuda G , Ohkawa K , Tokunaga A , Yamada N<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup> Integrated Pathology ) : Simple and accurate <sup>13</sup>C-urea breath test for detection of *Helicobacter pylori* in the remnant stomach after surgery . J of Gastroenterology 2006 ; 41 ( 2 ) : 127-132 .
  - 10) 鈴木英之 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 野村 務 , 進士誠一 , 田尻 孝 : 腹腔鏡下に切除した腸間膜嚢胞性リンパ管腫の1例 . 日本内視鏡外科学会雑誌 2005 ; 10 ( 2 ) : 225-228 .
  - 11) 柏原 元 , 宮下正夫 , 野村 務 , 牧野浩司 , 丸山 弘<sup>1)</sup> , 二見良平<sup>1)</sup> , 勝田美和子 , 高橋 健 , 笹島耕二<sup>1)</sup> , 山下精彦 , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ) : アルカリ飲用による腐蝕性食道炎の2例 . Progress of Digestive Endoscopy 2005 ; 66 ( 2 ) : 42-43 .
  - 12) 山本一仁 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 鈴木英之 , 飯田信也 , 松本智司 , 菅 隼人 , 鶴田宏之 , 相本隆幸 , 古川恵子 , 進士誠一 , 田中 周<sup>1)</sup> , 三井啓吾<sup>1)</sup> , 坂本長逸<sup>1)</sup> , 山下精彦 , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ) : 空腸憩室の Angiodysplasia から大量出血をきたした1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2005 ; 66 ( 2 ) : 80-81 .
  - 13) 坂東功一<sup>1)</sup> , 古谷政一<sup>1)</sup> , 清水康仁<sup>1)</sup> , 櫻澤信行<sup>1)</sup> , 柳 健<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 下館市民病院外科 ) : 腹腔鏡診断が有用であった急性腹膜炎像を呈した Fitz-Hugh-Curtis 症候群の1例 . 日臨外会誌 2005 ; 66 ( 7 ) : 1766-1770 .
  - 14) 松田明久<sup>1)</sup> , 古谷政一<sup>1)</sup> , 清水康仁<sup>1)</sup> , 沖野哲也<sup>1)</sup> , 佐々木順平<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 筑西市民病院外科 ) : ガストログラフィンによる上部消化管造影で尿路が造影された腸閉塞の1例 . 日臨外会誌 2005 ; 66 ( 10 ) : 2455-2458 .
  - 15) 相本隆幸 , 内田英二 , 中村慶春 , 勝野 暁 , 張 一光 , 内藤善哉<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ) : 術前に膵漿液性嚢胞腺腫との鑑別が困難であった膵内分泌腫瘍の1例 . 膵臓 2005 ; 20 ( 5 ) : 465-470 .
  - 16) 上田純志 , 相本隆幸 , 内田英二 , 横室茂樹 , 中村慶春 , 勝野 暁 , 張 一光 , 内藤善哉<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ) : 早期胃癌を合併した膵体尾部漿液性嚢胞腺腫の1例 . 膵臓 2005 ; 20 ( 5 ) : 471-476 .
  - 17) 松田明久<sup>1)</sup> , 橋本正好<sup>1)</sup> , 桑名壮太郎<sup>1)</sup> , 山門 進<sup>1)</sup> , 植木信江<sup>1)</sup> , 古川清憲 , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 三菱重工大倉山病院外科 ) : 日本住血吸虫症を合併した多発早期大腸癌の1例 . 日消外会誌 2005 ; 38 ( 12 ) : 1839-1843 .
  - 18) 相本隆幸 , 内田英二 , 川東 豊 , 勝野 暁 , 張 一光 , 清水哲也 , 水口義昭 , 中村慶春 , 横室茂樹 , 有馬保生 , 内藤善哉<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ) : 膵頭十二指腸切除術後の胆管空腸吻合部良性狭窄に続発した肝内結石症の2例 . 胆道 2005 ; 19 ( 5 ) : 590-596 .
  - 19) 加藤俊二 , 内藤善哉<sup>1)</sup> , 奥田武志 , 木山輝郎 , 徳永 昭<sup>2)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 , <sup>2)</sup> 第二病院消化器病センター ) : 胃全摘 Roux-Y 再建術後の loop 小腸粘膜に腺腫内腺癌を認めた非定型 Cronkhite-Canada 症候群の1例 . 日臨外会誌 2006 ; 67 ( 1 ) : 107-111 .
  - 20) 沖野哲也<sup>1)</sup> , 木内博之<sup>2)</sup> , 小川芳雄<sup>2)</sup> , 高橋由至<sup>2)</sup> , 李 栄浩<sup>2)</sup> , 平方敦史<sup>2)</sup> , 寺田淑恵<sup>2)</sup> , 滝沢隆雄<sup>2)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院消化器科 , <sup>2)</sup> 同外科 ) : Docetaxel 化学療法が奏効し切除可能となった stageIV 胃癌の1例 . 日消外会誌 2006 ; 39 ( 1 ) : 44-48 .
  - 21) 柿沼大輔 , 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 平方敦史 , 川野陽一 , 水口義昭 , 清水哲也 , 高橋 翼 , 加藤俊二 , 秋丸琥甫 , 田尻 孝 : CDDP 静注併用 5 - FU 持続動注化学療法により長期生存が得られた多発性肝細胞癌の1例 . 肝臓 2006 ; 47 ( 1 ) : 16-21 .
  - 22) 相本隆幸 , 田尻 孝 , 内田英二 , 中村慶春 , 勝野 暁 , 張 一光 , 川本聖郎 : 膵仮性嚢胞内出血 . 日医大医会誌 2006 ; 2 ( 1 ) : 47-49 .
  - 23) 沖野哲也<sup>1)</sup> , 古谷政一<sup>1)</sup> , 清水康仁<sup>1)</sup> , 松田明久<sup>1)</sup> , 佐々木順平<sup>1)</sup> , 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 筑西市民病院外科 ) : CA19-9 産生胃癌の1例 . 外科 2006 ; 68 ( 3 ) : 329-333 .
  - 24) 中村慶春 , 内田英二 , 相本隆幸 , 勝野 暁 , 張 一光 , 川本聖郎 , 横室茂樹 , 田尻 孝 : 膵頭十二指腸切除術

後に Retrograde transhepatic pancreatic duct drainage (RTPD) に起因する胆道出血をきたした1例。日本腹部救急医学会誌 2006 ; 26 (3): 437-441 .

## 著書

- 1) 有馬保生, 田尻 孝, 横室茂樹: [分担] Part2 手術手技: 胆嚢摘出術; 4 治療. 消化器病診療-良きインフォームド・コンセントに向けて (財団法人 日本消化器病学会・「消化器病診療」編集委員会), 2005 ; pp358-361, 医学書院 .
- 2) 鈴木英之: [分担] 消化器手術後にみられる便通異常とその対策: 診断. 下痢・便秘診療のコツと落とし穴 (平塚秀雄), 2005 ; pp116-117, 中山書店 .
- 3) 宮下正夫, 高橋 健, 田尻 孝: [分担] 感染と遺伝子多型. 侵襲と免疫 (編集責任者: 熊本労災病院 小川道雄), 2005 ; pp17-21, メジカルビュー社 .
- 4) 木山輝郎: [分担] 病院の医療と安全: 理論と実践. クリニカルパス (監修: 小川 龍, 長谷川幸子), 2005 ; pp162-168, 真興貿易 (株) 医書出版部 .
- 5) 加藤俊二: [分担] 肝良性腫瘍. 今日の治療指針 (山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2006 ; pp401-402, 医学書院 .
- 6) 進士誠一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松田明久, 鈴木英之, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>病理学第2): [分担] 3. 微小転移を知るための工夫 (2) 抗CK20 抗体免疫染色: 第3章 大腸癌における micrometastasis . 大腸疾患NOW 2006 (監修: 武藤徹一郎・編集: 渡辺英伸, 杉原健一, 多田正大), 2006 ; pp103-109, 日本メディカルセンター .
- 7) 松倉則夫: [分担] ヘリコバクター・ピルス感染症. 南山堂「医学大辞典」(第19版)(代表者: 鈴木 肇), 2006 ; pp2286-2286, 南山堂 .
- 8) 田尻 孝, 宮下正夫, 柏原 元: [分担] 外科的侵襲と副腎機能. 侵襲と免疫 (編集責任者: 熊本労災病院 小川道雄), 2006 ; pp24-26, メジカルビュー社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 宮下正夫: p53血清抗体検査による新しい癌検診. 第6回日本実地医家消化器内視鏡研究会, 2005 . 5 .
- 2) 古川清憲: 創傷管理のアンケート結果報告「創傷治療と管理」. 第2回東京消化器外科感染症研究会, 2005 . 6 .
- 3) 吉村成子: ダイビングのより一層の安全を考える. 第5回日本高気圧環境医学会関東地方会総会学術集会, 2005 . 6 .

### (2) シンポジウム:

- 1) Kato S, Matsukura N, Kanda T, Matsuda N, Tsukada K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup> Division of Pathology, <sup>2)</sup> Integrative Pathology): Modulation of Acidity and IL-1 mRNA Levels in the Stomach with *H. pylori* Eradication Therapy in the Remnant and Un-operated Stomach: Aim for Prevention of Secondary Carcinogenesis in the Remnant Stomach after Gastrectomy 「Cancer/*H. pylori*」. The 11th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology (Shimoda, Japan), 2005 . 4 .
- 2) Akimaru K: Peritoneal patch for reconstruction of large veins . The 6th Sino-Japanese Symposium on Hepato-Biliary-Pancreatic Diseases (Beijing, China), 2005 . 4 .
- 3) 加藤俊二, 神田知洋, 上田純志, 岩崎玲子, 新井政男, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 松倉則夫, 田尻 孝: 残胃における *H. pylori* 除菌後の問題点: 胃酸分泌能の回復と除菌後残胃潰瘍をきたした症例「ヘリコバクター」. 潰瘍病態研究会第14回フォーラム, 2005 . 8 .
- 4) 内田英二, 勝野 暁, 田尻 孝: 急性膵炎合併症の課題: 臓器不全から感染症, 消化管病変へ「急性膵炎の合

併症 治療法と予防法の進歩と現状」. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.

- 5) 高柳和江<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 加藤俊二, 横田裕行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医療管理学, <sup>2)</sup>高度救急救命センター): 医療安全を加味した医師の臨床判断教育と評価のためのシミュレーションツールの開発. 第43回日本病院管理学会学術総会, 2005. 10.

### (3) パネルディスカッション:

- 1) 加藤俊二, 松倉則夫, 神田知洋, 上田純志, 岩崎玲子, 新井政男, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 田尻 孝: 残胃粘膜における発がん関連サイトカイン遺伝子発現の個体差の意義: 胃発がんリスクの少ない十二指腸潰瘍症例との比較. 第5回胃癌リスクファクター研究会, 2005. 6.
- 2) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 横室茂樹, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 手術合併症が医療過誤に変わるとき「術後合併症と医療過誤」. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 3) 横室茂樹, 有馬保生, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 神田知洋, 田尻 孝: 腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆嚢癌症例の検討「胆嚢癌に対する切除術式の選択とその根拠」. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 4) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 田尻 孝: 門脈圧亢進症に伴うシャント脳症に対する部分脾動脈塞栓術の有用性「門脈圧亢進症における脾動脈塞栓術」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 5) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 池田研吾, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>病理学第2): 背景粘膜の違いによる胃発がんリスク: 発癌関連サイトカイン遺伝子発現の個体差をどう評価するか「消化器癌の発生・進展と感染や炎症の関わり」. 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005. 10.
- 6) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 田尻 孝: 安全かつ効果的なPSEとその発展. 第15回 Portal Hemodynamics Forum, 2005. 11.
- 7) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 菅野仁士, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝: パイポラ血管シーリング装置の使用法とその限界「腹腔鏡下手術における適切な血管処理方法の選択」. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 8) 勝野 暁, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 重症急性膵炎の輸液及び経腸栄養 MOFの予防のために「急性膵炎に対する輸液と栄養管理」. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.

### (4) セミナー:

- 1) 谷合信彦: 映像で見る肝切除・肝移植のPitfall. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.

### (5) ランチョンセミナー:

- 1) 古川清憲: 外科領域における深在性真菌症の治療戦略. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.

### (6) ワークショップ:

- 1) Matsutani T<sup>1)</sup>, Miyashita M, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T, Chaudry IH<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham, USA): Age-associated difference in liver injury following severe trauma-hemorrhage. The 3rd WORLD SHOCK FORUM (Tokyo, Japan), 2006. 2.
- 2) 加藤俊二, 田尻 孝: 確実なPTEG挿入法を指導, 習得するための工夫「The Technical Introduction 確実な技術導入のための工夫」. 第4回日本PTEG研究会・学術集会, 2005. 4.
- 3) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除クリニカルパスにおける予防的抗菌薬の実際と感染治療薬の工夫「胃癌術後クリニカルパスの実際と工夫」. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 4) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>2)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 野村 務, 牧野浩司, 宮下正

- 夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3,<sup>(2)</sup>千葉北総病院内科): バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴「食道アカラシアに対する治療法の選択とその根拠」. 第59回日本食道学会学術集会, 2005 . 6 .
- 5) 勝野 暁, 内田英二, 田尻 孝: 大量下血を呈した重症急性膵炎「症例から学ぶ重症急性膵炎の治療」. 第36回日本膵臓学会大会, 2005 . 7 .
- 6) 水口義昭, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 突発性門脈圧亢進症における術後門脈血栓症の検討「門脈血栓症の治療」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005 . 9 .
- 7) 清水哲也, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 高橋 翼, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 胃静脈瘤の自然経過と破裂時の特徴からみた出血予知「胃静脈瘤の出血予知」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005 . 9 .
- 8) 高橋 翼, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 田尻 孝: 若手医師からみた静脈瘤治療「若手医師からみた静脈瘤治療」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005 . 9 .
- 9) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和夫<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 会田邦晴, 田尻 孝<sup>(1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 潰瘍性大腸炎に対する全結腸摘出術後に発症した門脈系血栓症に対する血栓溶解・破砕・吸引術 経皮経肝のアプローチ 「門脈血栓症の治療」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005 . 9 .
- 10) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 三枝順子<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>(2)</sup>同病理部): 胃癌における5-FU代謝関連酵素とP-53, bcl-2蛋白発現. 第64回日本癌学会学術総会, 2005 . 9 .
- 11) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 齋藤行世<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>坪井病院外科): 初心者による大腸内視鏡検査の工夫, 新規考案大腸内視鏡検査用脱気チューブ併用の検討「大腸内視鏡検査法の基本と工夫 (VTR)」. DDW-Japan 2005 KOBE (第70回日本消化器内視鏡学会総会), 2005 . 10 .
- 12) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝: 門脈大循環シャント脳症に対するシャント塞栓時の脾動脈塞栓術併用効果の検討「門脈圧亢進症における側副血行路の治療とその予後」. DDW-Japan 2005 KOBE (第9回日本肝臓学会大会), 2005 . 10 .
- 13) 真々田裕宏, 秋丸琥甫, 吉田 寛: エビデンスに基づく難治性腹水の治療戦略: 腹腔 静脈シャント術「エビデンスに基づく門脈圧亢進症 (食道静脈瘤, 脳症, 腹水) 治療戦略」. DDW-Japan 2005 KOBE (第9回日本肝臓学会大会), 2005 . 10 .
- 14) 宮下正夫, 勝田美和子, 高橋 健, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 山下精彦, 田尻 孝, Poirier MC<sup>1)</sup>, Sirjuddin P<sup>1)</sup>, Pratt MM<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Laboratory of Cellular Carcinogenesis and Tumor Promotion, National Cancer Institute, USA): 食道癌における polycyclic aromatic hydrocarbon-DNA adducts の免疫組織化学的検討「消化器癌の発生に關与する環境因子」. 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 15) 菅 隼人, 古川清憲, 田尻 孝: 大腸切除術後吻合部狭窄に対する内視鏡的拡張術の検討 . 第23回日本大腸検査学会総会, 2005 . 11 .
- 16) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 池田研吾, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): 胃切除後再建法の長期予後の評価と摂食障害の対策: 摂食刺激ホルモングレリンの胃粘膜組織内mRNA 発現と誘導の可能性「胃切除における再建の工夫と長期成績」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .
- 17) 山下直行, 加藤俊二, 木山輝郎, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 湖山信篤<sup>3)</sup>, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>今泉西病院外科,<sup>(2)</sup>坪井病院外科,<sup>(3)</sup>北里研究所メディカルセンター病院): 噴門側胃切除における迷走神経温存胃前壁漿膜筋層縦切開噴門形成の手法と評価「胃切除における再建の工夫と長期成績」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

- 18) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: イレウスに対する腹腔鏡手術の適応「イレウスに対する鏡視下手術の適応と限界」. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 19) 木山輝郎, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 吉行俊郎, 加藤俊二<sup>(1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌における抗癌剤感受性試験(CD-DST法)の新しい試み: 5FUとCDHPの相乗効果の検討「オーダーメイドの胃癌治療 - 感受性テストの新しい試み」. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- (7) プレナリーセッション:
- 1) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 横室茂樹, 吉田 寛, 勝野 暁, 張 一光, 有馬保生, 田尻 孝: 切除不能膵癌に対するGemcitabine少量持続投与の試み「切除不能膵癌に対する治療」. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- (8) サージカルフォーラム:
- 1) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 勝田美和子, 寺西宣央, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌におけるVEGF発現の意義「大腸癌(VEGF, 他)」. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 2) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 有馬保生, 高橋 翼, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝内胆管癌におけるTGF- $\beta$ 1の発現と意義「胆道癌(臨床・基礎研究1)」. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 3) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 癌手術後再発の指標としてのp53血清抗体, 及び腫瘍マーカーの検討「食道癌(腫瘍マーカー)」. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 4) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>4)</sup>同病理部): 電顕所見からみた消化管及び消化管外原発GIST症例の臨床病理学的検討「胃癌(病理)」. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 5) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 田尻 孝, Chaudry IH<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>Univ. of Alabama at Birmingham, USA): 同種間での異なった遺伝子背景の違いによる外傷出血性ショック後の免疫能の相違「侵襲2」. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 6) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 古川清憲, 鈴木英之, 田尻 孝: 大腸癌同時性肝転移症例に対する肝切除例の検討「肝転移のある大腸癌の問題点3」. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 7) 山下直行, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 木山輝郎, 加藤俊二, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 田尻 孝(<sup>1)</sup>今泉西病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>坪井病院外科): 幽門側胃切除, BI器械吻合の成績「自動縫合器の諸問題3」. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 8) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 松本智司, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 田尻 孝: J-VACドレーン先端を用いた肝管空腸吻合部ショートステントの有用性「胆道(その他)」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 9) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): GIST・EGIST症例におけるMAGE-A family蛋白発現とその臨床的意義「多臓器・その他」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 10) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永



山病院外科): マウス Trauma-hemorrhage 後の肺局所の炎症性サイトカインとサイトケラチン発現と年齢差による相違「救急」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

11) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 食道癌における HIF-1 と VEGF-C 発現の関連「食道(診断・病理2)」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

12) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌リンパ節微小転移の生物学的意義「大腸癌(予後因子)」. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

(9) 一般講演 :

1) Makino H , Miyashita M , Katsuta M , Nomura T , Matumoto K<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> , Sasajima K<sup>3)</sup> , Yamashita K , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, 2nd Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II , <sup>3)</sup>Dept. of Surgery, Tama-nagayama Hospital ): Over-expression of proteins elated with angiogenesis in esophageal squamous cell cancer . 96th Annual Meeting 2005 of AACR ( Anaheim, USA ), 2005 . 4 .

2) Matsuda A , Furukawa K , Takasaki H , Suzuki H , Matsutani T , Kashiwabara M , Tajiri T : Preoperative oral immune-enhancing nutritional supplementation corrects Th1/Th2 imbalance in patients undergoing elective surgery for colorectal cancer . 28th Annual Conference on Shock ( Marcoisland, Florida, USA ), 2005 . 5 .

3) Kato S , Okuda T , Yamashita N , Fujita I , Mizutani T , Kiyama T , Yoshiyuki T , Matsukura N , Tokunaga A , Tajiri T : Usefulness of Percutaneous Trans-esophageal Gastro-tubing ( PTEG ) as a Palliation Therapy for Peritoneal Carcinomatosis after Gastrectomy . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ), 2005 . 5 .

4) Kiyama T , Tajiri T , Mizutani T , Okuda T , Fujita I , Yamashita N , Kannno H , Kato S , Tokunaga A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Gastrointestinal Disease Center, Second Hospital ): Prediction of 5-fluorouracil and CDHP Synergism for Advanced Gastric Cancer Using a Collagen Gel Droplet Embedded Culture . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ), 2005 . 5 .

5) Watanabe H<sup>1)</sup> , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Suzuki S<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Nagasawa S<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Study of Lymph Node Metastasis Affects the Prognosis in Stomach Cancer Undergone Curative Excision . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ), 2005 . 5 .

6) Tokunaga A<sup>1)</sup> , Lee Y , Masuda G , Okuda T , Fujita I , Kiyama T , Maejima K<sup>1)</sup> , Bou H<sup>1)</sup> , Shioya T<sup>1)</sup> , Watanabe M<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Institute of Gastroenterology, Second Hospital ): Gastritis in the Gastric Remnant after Gastrectomy . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ), 2005 . 5 .

7) Sakurazawa N<sup>1)</sup> , Koyama N<sup>1)</sup> , Yamashita N , Watanabe M<sup>1)</sup> , Maezawa K<sup>1)</sup> , Hosono Y<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> , Kato H<sup>1)</sup> , Saito Y<sup>1)</sup> , Iwanami H<sup>1)</sup> , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Tsuboi Hospital ): A novel device, the colon-air-discharge-tube, is easier, safer and lesser discomfort to the patients during total colonoscopy .DDW2005( Chicago, USA ), 2005 . 5 .

8) Okawa K , Miyashita M , Sasajima K , Maruyama H , Matsutani T , Kim C<sup>1)</sup> , Takeda S<sup>1)</sup> , Sakamoto A , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiol ): Pulmonary Responses of Cytokines Following Major Surgery . 28th Annual Conference on Shock ( Marcoisland, Florida, USA ), 2005 . 6 .

9) Akimaru K , Matsuda N , Kakinuma D , Kawano Y , Taniai N , Mamada Y , Yoshida H , Tajiri T : Is hyperbaric oxygen profitable for the impaired remnant liver after hepatectomy? . 41st World Congress of Surgery of ISS/SIC ( Durban, South Africa ), 2005 . 8 .

- 10) Tajiri T , Arima Y , Uchida E , Yoshida H , Yokomuro S , Nomura T , Mamada Y , Tani N , Aimoto T , Nakamura Y : Evaluation of the Primary Running Closure of Common Bile Duct after Laparoscopic Cholecystectomy in Patient with CBD Stones . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 11) Nomura T , Miyashita M , Makino H , Maruyama H , Katsuta M , Kashiwabara M , Takahashi K , Sasajima K , Yamashita K , Tajiri T : Argon Plasma Coagulation in the Treatment of Superficial Esophageal Carcinoma . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 12) Nakamura Y , Tajiri T , Uchida E , Yokomuro S , Yoshida H , Kiyama T , Nomura T , Mizutani T , Aimoto T , Tani N , Arima Y : A Case of Laparoscopically Assisted Distal Pancreatectomy with Preservation of the Spleen for Islet Cell Tumor of the Pancreas . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 13) Shimizu T , Arima Y , Yokomuro S , Yoshida H , Mamada Y , Nomura T , Tani N , Aimoto T , Nakamura Y , Mizuguchi Y , Kawahigashi Y , Uchida E , Akimaru K , Tajiri T : Incidental Gallbladder Cancer Diagnosed During and after Laparoscopic Cholecystectomy . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 14) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Nagasawa S<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Togashi A<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): A Comparative Study between Various Operative Procedures of Laparoscopic Common Bile Duct Exploration . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 15) Matsutani T<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Uchida E , Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital ): Pancreatic Cyst Associated with Pancreas Divisum Treated with Laparoscopy Assisted Cystgastrostomy in the Intra-gastric Approach : A Case Report . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
- 16) Kato S , Matsukura N , Matsuda N , Tsukada K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T , Matsuda T<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>Division of Pathology , <sup>2)</sup>Integrative Pathology , <sup>3)</sup>Gastroenterology Div. , Tama-Nagayama Hospital ): The association with *H. pylori* related diseases and host factors : IL-1 genetic polymorphism and diseases of duodenal ulcer or gastric ulcer, atrophic gastritis and gastric cancer . World Congress of Gastroenterology 2005 ( Montreal, Canada ), 2005 . 9 .
- 17) Tanaka N<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Teranishi N , Yamashita K , Tajiri T , Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II ): E-cadherin expression in colorectal cancer . 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 10 .
- 18) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T , Ohaki Y<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology ): Expression of emmprin, matrix metalloproteinase-9 and type IV collagen in colorectal cancer with/without liver metastasis . 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 10 .
- 19) Shinji S<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Furukawa K , Suzuki H , Teranishi N , Ohaki Y<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital ): Liver metastasis in poorly differentiated adenocarcinoma with neuroendocrine features is associated with vascular endothelial growth factor ( VEGF ). 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 10 .

- 20) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Katsuno A, Cho K, Tajiri T : Efficacy and Feasibility of A Fixed-Dose Rate Infusion of Low-Dose Gemcitabine in Pancreatic Cancer . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 21) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Katsuno A, Cho K, Kawamoto M, Tajiri T : Severe Acute Pancreatitis Associated with Choledochocoele in An Elderly Patient . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 22) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Katsuno A, Cho K, Kawamoto M, Tajiri T : Adenoma of The Minor Papilla Associated with Pancreas Divisum . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 23) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Katsuno A, Cho K, Kawamoto M, Tajiri T : A Case of Laparoscopically Assisted Distal Pancreatectomy with Preservation of The Spleen for Islet Cell Tumor of The Pancreas Complicating Multiple Endocrine Neoplasm Type 1 . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 24) Cho K, Tajiri T, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Uchida E, Aimoto T, Nakamura Y, Katsuno A, Kawamoto M, Nakazawa N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Keratinocyte Growth Factor Receptor Correlates with Venous Invasion Via Vascular Endothelial Growth Factor in Pancreatic Cancer . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 25) Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Cho K, Teduka K<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Kudo M<sup>1)</sup>, Uchida E, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): Expression and Role of Lumican in Pancreatic Cancer Cells and Stromal Tissues . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 26) Ishiwata T<sup>1)</sup>, Cho K, Ishiwata S<sup>2)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Uchida E, Tajiri T, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II , <sup>2)</sup>Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki Univ. ): Expression of Ubiquitin-specific Protease 14 in Human Pancreatic Cancer Cell Lines and Cancer Tissues . 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 2005 . 11 .
- 27) 高橋 翼, 古川清憲, 鈴木英之, 木山輝郎, 野村 務, 勝野 暁, 田尻 孝 : Composix® ; Kugel Patch を用いた腹壁欠損修復術の1経験例 . 第3回日本ヘルニア研究会, 2005 . 4 .
- 28) 勝野 暁, 高橋 翼, 野村 務, 真々田裕宏, 木山輝郎, 鈴木英之, 古川清憲, 田尻 孝 : 当科における成人鼠径ヘルニア再発例の検討 . 第3回日本ヘルニア研究会, 2005 . 4 .
- 29) 野崎元子<sup>1)</sup>, 壺井和彦<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>美杉会佐藤病院外科 ): PTEG挿入直後の縦隔気腫の原因とその対策 . 第4回日本PTEG研究会・学術集会, 2005 . 4 .
- 30) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): *H. pylori* 除菌前後の胃内pHの変動と胃粘膜におけるIL-1 遺伝子発現からみた残胃環境の変化 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 31) 山下直行, 木山輝郎, 加藤俊二, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科 ): 術前TS-1 + CDDPによるStageIV胃癌の予後改善 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 32) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 寺西宣央, 田尻 孝, 工藤光洋<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部 ): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7の発現について . 第94回日本病理学会, 2005 . 4 .
- 33) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 松本智司, 山本一仁, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 大網固定法による左側肝切除後のdelayed gastric emptying予防 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .
- 34) 加藤俊二, 木山輝郎, 松倉則夫, 神田知洋, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 宮下正夫, 徳永 昭<sup>1)</sup>,

- 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 病理学第2): 胃切除後の諸問題: 摂食刺激ホルモン ghrelin の胃粘膜組織内発現からみた胃を残す術式の利点とヘリコバクター・ピロリ (HP) 除菌治療の効果. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 35) 飯田信也, 古川清憲, 古川恵子, 宮田広樹<sup>1)</sup>, 西澤光代<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 薬剤部): 当科における乳癌外来化学療法の安全管理・患者QOL向上への取り組み. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 36) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝: 膀胱癌に対する Gemcitabine 少量定量持続投与の試み: その安全性と有用性. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 37) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 勝田美和子, 高橋 健, 萩原信敏, 山下精彦, 田尻 孝, 長澤重直<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, Edward G<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学第2, <sup>3)</sup> 同付属病院病理部, <sup>4)</sup> Johns Hopkins Univ. 病理部): 食道扁平上皮癌の分子生物学的解析を悪性度評価へ臨床応用する試み. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 38) 奥田武志, 田尻 孝, 山下直行, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行輝郎, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 病理部): 胃GISTの治療戦略: 最適な手術方法を求めて. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 39) 藤田逸郎, 木山輝郎, 山下直行, 奥田武志, 水谷 崇, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 山下精彦 (<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター): 高齢者胃癌手術症例の検討. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 40) 高橋 翼, 古川清憲, 鈴木英之, 木山輝郎, 野村 務, 真々田裕宏, 相本隆幸, 谷合信彦, 川東 豊, 田尻 孝: Composix Kugel Patch を用いた腹壁欠損および腹壁癒痕ヘルニア修復術. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 41) 柏原 元, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 山下精彦, 田尻 孝: 視床下部下垂体副腎系 (HPA axis) からみた腹腔鏡補助下幽門側胃切除術 (LADG) における手術侵襲の評価. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 42) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN (E), MMP-9 (M-9), IV型コラーゲン (IVc) の発現. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 43) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科): 総投与量からみた進行胃癌 (stage IV), 再発胃癌における TS-1 の効果. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 44) 大川敬一<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 堀場光二<sup>1)</sup>, 丸山 弘, 松谷 毅, 山下精彦, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 麻酔科): 食道癌術後の気管支肺胞洗浄液 (BALF) 中の IL-8 と術後肺機能の評価. 第20回日本 Shock 学会総会, 2005. 5.
- 45) 竹森 健<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 麻酔科): 食道癌術後患者の P/F 比およびサイトカインに対するシベレスタットナトリウムの影響. 第20回日本 Shock 学会総会, 2005. 5.
- 46) 相本隆幸, 横室茂樹, 神田知洋, 川東 豊, 内田英二, 有馬保生, 田尻 孝: 膵頭十二指腸切除後2年後の良性胆管空腸吻合部狭窄に続発した肝内結石例2例. 第284回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 5.
- 47) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 岩崎玲子, 山下精彦, 田尻 孝, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): 腺癌との混在を示した食道小細胞型未分化癌の1切除例. 第284回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 5.
- 48) 山本一仁, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 田尻 孝, 村田

- 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): EISおよびEVL前後の血行動態の変化について. 第5回静脈瘤血行動態研究会, 2005. 5.
- 49) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 勝田悌実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 門脈大循環シャント閉鎖術と脾動脈塞栓術の併施が有用であった高アンモニア血症の1例. 第5回静脈瘤血行動態研究会, 2005. 5.
- 50) 奥田武志, 田尻 孝, 山下直行, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌再発時の消化管閉塞症状に対する緩和処置の検討. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 51) 山下直行, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 宮下正夫, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科): StigelV胃癌に対するTS 1 + CDDPによるNeoadjuvant Chemotherapyの成績と適応. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 52) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 加藤俊二, 水谷 崇, 奥田武志, 山下直行, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>集中治療室): 胃全摘出術後の慢性呼吸不全急性憎悪に対し非侵襲的陽圧換気(NIPPV)が有用であった1例. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 53) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): T2胃癌の検討(MPとSSとの比較を通して). 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 54) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 病理所見・臨床経過からみた胃原発GIST症例と他臓器原発症例の比較検討. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 55) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 山下精彦, 金沢義一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 経口摂取不可能な高度進行胃癌患者に対し, 腸瘻造設後TS 1 + CDDP投与が奏功し, 切除可能となった1症例. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 56) 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科): 当科における乳癌外来化学療法の取り組み. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 57) 飯田信也, 古川清憲, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科): 乳癌手術におけるドレーン留置期間を規定する諸因子の解析. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 58) 古川恵子, 古川清憲, 野口智子, 岩崎玲子, 飯田信也, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 土屋眞一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部): 当科でのセンチネルリンパ節生検の検討. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 59) 岩崎玲子, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 野口智子, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部): 皮膚付属器への分化を伴った腺様嚢胞癌(Adenoid Cystic Carcinoma)の1例. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 60) 野口智子, 古川清憲, 古川恵子, 飯田信也, 岩崎玲子, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部): リンパ節転移を多数認めたMatrix-producing carcinoma(MPC)の1例. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 61) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 前治療を有する転移性乳癌に対するカペシタピン/サイクロフォスファミド併用経口療法の検討. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 62) 樋口勝美<sup>1)</sup>, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 田尻 孝(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科): 超音波で葉状腫瘍と診断した粘液癌の1例. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 63) 伊藤佳菜<sup>1)</sup>, 唐澤久美子<sup>1)</sup>, 広川 裕<sup>1)</sup>, 織畑剛太郎<sup>2)</sup>, 児島邦明<sup>2)</sup>, 高橋 勇<sup>3)</sup>, 鈴木貴久<sup>4)</sup>, 古川恵子, 古

- 川清憲 ( <sup>1</sup> ) 順天堂大学放射線科, <sup>2</sup> ) 同乳腺一般外科, <sup>3</sup> ) 江戸川病院乳腺外科, <sup>4</sup> ) 東京臨海病院外科 ): Capecitabine 併用にて放射線療法を施行した進行・再発乳癌の4例. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 64) 重原健吾 <sup>1</sup> ), 島貫公義 <sup>1</sup> ), 杉浦 篤 <sup>1</sup> ), 廣井 信 <sup>1</sup> ), 旭 修司 <sup>1</sup> ), 秋丸琥甫, 田尻 孝 ( <sup>1</sup> ) 会津中央病院外科 ): 鼠径ヘルニア術後 meshoma の1例. 第149回東北外科集談会, 2005. 6.
- 65) 高橋 翼, 秋丸琥甫, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 田尻 孝: 高齢者の劇症肝不全に対し生体肝移植を施行した1例. 第23回日本肝移植研究会, 2005. 6.
- 66) 渡辺秀裕 <sup>1</sup> ), 江上 格 <sup>1</sup> ), 笹島耕二 <sup>1</sup> ), 宮本昌之 <sup>1</sup> ), 鈴木成治 <sup>1</sup> ), 横山 正 <sup>1</sup> ), 丸山 弘 <sup>1</sup> ), 長澤重直 <sup>1</sup> ), 松谷 毅 <sup>1</sup> ), 田尻 孝 ( <sup>1</sup> ) 多摩永山病院外科 ): 早期胃癌の手術治療成績. 第30回日本外科系連合学会学術集会, 2005. 6.
- 67) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術の施行間隔からみた治療成績の比較検討. 第41回日本肝臓学会総会, 2005. 6.
- 68) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫: 門脈・静脈腫瘍栓合併肝細胞癌の切除成績と適応. 第41回日本肝臓学会総会, 2005. 6.
- 69) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝, 笹島耕二 <sup>1</sup> ), 丸山 弘 <sup>1</sup> ) ( <sup>1</sup> ) 多摩永山病院外科 ): CD-DST 法による食道癌化学療法の個別化への試み. 第59回日本食道学会学術集会, 2005. 6.
- 70) 松谷 毅 <sup>1</sup> ), 宮下正夫, 笹島耕二 <sup>1</sup> ), 丸山 弘 <sup>1</sup> ), 野村 務, 牧野浩司, 柏原 元, 高橋 健, 二見良平 <sup>1</sup> ), 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1</sup> ) 多摩永山病院外科 ): 胸部食道癌手術侵襲後の生体反応と Gender difference. 第59回日本食道学会学術集会, 2005. 6.
- 71) 吉村成子: ダイビングインストラクターである医師のリスクマネジメント. 第5回日本高気圧環境医学会関東地方会総会学術集会, 2005. 6.
- 72) 藤田俊郎, 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 寺西宣央, 石川義典, 田尻 孝: Crohn病の術後吻合部狭窄により腸閉塞を来した1例. 第797回外科集談会, 2005. 6.
- 73) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 中村慶春, 相本隆幸, 野村 務, 横室茂樹, 有馬保生, 内田英二, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 悪性胆道狭窄に対する胆管ステントが破損した2例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 74) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 横室茂樹, 有馬保生, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 膵癌に対する術後補助療法としてのGemcitabine少量定量持続投与の試み. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 75) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 松本智司, 山本一仁, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 大腸癌両葉転移性肝癌 (H2, H3) 症例の治療成績. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 76) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 脈管侵襲陽性肝細胞癌に対する手術治療の成績と適応. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 77) 中村慶春, 田尻 孝, 横室茂樹, 野村 務, 有馬保生, 内田英二, 吉田 寛, 谷合信彦, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 神田知洋, 川本聖郎, 江上 格: 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡補助下手術. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 78) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 高度進行切除不能肝細胞癌に対しUFT, 5-FU動注化学療法施行し長期PRが得られた1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 79) 宮本昌之 <sup>1</sup> ), 江上 格 <sup>1</sup> ), 笹島耕二 <sup>1</sup> ), 渡辺秀裕 <sup>1</sup> ), 横山 正 <sup>1</sup> ), 丸山 弘 <sup>1</sup> ), 鈴木成治 <sup>1</sup> ), 松谷 毅 <sup>1</sup> ), 長澤重直 <sup>1</sup> ), 二見良平 <sup>1</sup> ), 増田剛太郎 <sup>1</sup> ), 富樫晃祥 <sup>1</sup> ), 川野陽一 <sup>1</sup> ), 勝田美和子 <sup>1</sup> ), 田尻 孝 ( <sup>1</sup> ) 多摩永山病院外科 ): 総胆管結石症に対する腹腔鏡下手術各術式選択基準とその比較検討. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 80) 横山 正 <sup>1</sup> ), 江上 格 <sup>1</sup> ), 笹島耕二 <sup>1</sup> ), 宮本昌之 <sup>1</sup> ), 丸山 弘 <sup>1</sup> ), 長澤重直 <sup>1</sup> ), 松谷 毅 <sup>1</sup> ), 福原宗久 <sup>1</sup> ), 川野陽

- 一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 急性胆管炎を契機に発見され良好な内視鏡像が得られた主膵管型PMTの1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 81) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 腎細胞癌根治術後17年後の膵転移と早期胃癌を併発し同時に切除し得た症例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 82) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 吉田 寛, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): 非アルコール性脂肪性肝炎を背景として発症した肝細胞癌の1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 83) 川野陽一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): C型慢性肝炎のインターフェロン療法による持続ウイルス排除(SVR)12年後に発生した破裂肝細胞癌を切除し得た1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 84) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝: 食道原発gastrointestinal stromal tumor (GIST) の1例. 第285回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 7.
- 85) 岩崎玲子, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 野口智子, 宮下正夫, 田尻 孝: 乳癌に対するタキソテル投与により広範な食道炎および多発性胃潰瘍をきたした1例. 第285回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 7.
- 86) 佐々木崇<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌手術後の吻合部に発生した巨大炎症性ポリープの1例. 第285回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 7.
- 87) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 膵癌に対する Gemcitabine 少量定量持続投与の試み. 第36回日本膵臓学会大会, 2005. 7.
- 88) 相本隆幸, 内田英二, 勝野 暁, 中村慶春, 張 一光, 田尻 孝: 慢性膵炎における手術適応の再検討. 第36回日本膵臓学会大会, 2005. 7.
- 89) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 門脈・上腸間膜静脈・脾静脈血栓症を合併した膵仮性嚢胞内出血の1例. 第36回日本膵臓学会大会, 2005. 7.
- 90) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 菅野仁士, 吉行俊郎, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下胃切除における消化管ホルモン・グレリンの変化. 第42回日本外科代謝栄養学会, 2005. 7.
- 91) 菅野仁士, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃切除周術期の糖代謝: 開腹手術と腹腔鏡手術の比較. 第42回日本外科代謝栄養学会, 2005. 7.
- 92) 加藤俊二, 松倉則夫, 神田知洋, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 田尻 孝: 十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術後の *H. pylori* 除菌治療の効果と非穿孔例との比較. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 93) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 再発症例から検討した大腸癌術後フォローアップの効率. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 94) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 田尻 孝: PEGキットを用いた幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後の消化管再建とその有用性. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 95) 谷谷信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 門脈・静脈腫瘍栓合併肝細胞癌の切除成績. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 96) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 山下精彦, 高橋 健, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 柏原 元, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌における血管新生関連蛋白の過剰発現. 第60

- 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 97) 菅 隼人, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 田尻 孝: 当科における虚血性腸炎症例の検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 98) 勝田美和子, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌における HIF-1 と VEGF-C の発現. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 99) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝内胆管癌細胞株 HuCCT1 における HGF, IL-6, TGF- $\beta$ 1 の発現. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 100) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 寺西宣央, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸腺癌における抗 VEGF 療法の可能性の検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 101) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 清水哲也, 柏原 元, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌における p53 シグナルの蛋白・遺伝子発現解析 (Akt1-3, MDM2, p53 の発現形式より). 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 102) 張 一光, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 寺西宣央, 勝野 暁, 進士誠一, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): ヒト膵癌組織における KGFR 発現と臨床病理学的意義. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 103) 寺西宣央, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 進士誠一, 張 一光, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌の増殖転移における nestin 陽性微小血管の役割. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 104) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 当科における肝細胞癌に対するラジオ波凝固療法 (RFA) 治療戦略とその成果. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 105) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 臨床・病理像から見た GIST 及び EGIST 症例の診断・治療の問題点. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 106) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 小腸内視鏡と蛋白漏出性シンチにて診断した蛋白漏出性 blind loop syndrome の1例. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 107) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 年齢差によるマウス Trauma-hemorrhage 後の肝障害・高ビリルビン血症の相違. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 108) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌における 5-FU, 代謝関連酵素の検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 109) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 5FU 関連酵素 OPRT, DPD, TS と 5FU の抗腫瘍効果の関連: CD-DST を用いて. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 110) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 当科における直腸癌に対する局所切除の現況. 第63回大腸癌研究会, 2005. 7.
- 111) 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 進士誠一, 古川清憲, 福田 悠<sup>2)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>病理学第1): 大腸癌における膜型 PGE 合成酵素 (mPGES)-1 の発現. 第63回大腸癌研究会, 2005. 7.



- 112) 松本智司, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 川野陽一, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: Vp3肝細胞癌を伴った食道静脈瘤症例の治療戦略. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 113) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 村島直哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三宿病院内科): 保存的治療が不能であった食道胃静脈瘤に対し経腹的食道離断術を施行した1例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 114) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝性脳症に対して傍臍静脈閉鎖術が有効であった4例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 115) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 松本智司, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 小腸静脈瘤出血に対し緊急小腸部分切除術を施行した1例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 116) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 田中宣威<sup>1)</sup>, 吉田 寛(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 肝動脈 - 門脈短絡路 (A-Pシャント) が原因となった, 門脈圧亢進症に伴った難治性腹水の1症例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 117) 長澤重直<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 脂肪肝から急速に肝硬変を呈したNAFLDの1症例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 118) 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 川野陽一, 吉田寛, 真々田裕宏, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): デンバーシャント挿入後, 低血糖発作を繰り返した末期肝細胞癌を合併したB型肝炎硬変の1例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 119) 谷 杏彌, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 山下精彦, 高橋 健, 赤城一郎, 黄 哲守, 田尻 孝, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>筑西市民病院外科): 食道癌の術後再発症例に対しTXT (Docetaxel) を用いた化学療法が有効であった1例. 第286回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 9.
- 120) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 吉田 寛, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 神田知洋, 田尻 孝: 悪性閉塞性黄疸患者における予後予測因子としての4型コラーゲンについての検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 121) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 柿沼大輔, 高橋 翼, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝内胆管癌細胞株 HuCCT1 における炎症性サイトカインIL-6 の発現と増殖作用の検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 122) 新井政男, 有馬保生, 横室茂樹, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 山初和也<sup>1)</sup>, 神田知洋, 田尻 孝(<sup>1)</sup>横須賀市立うわまち病院外科): 浮遊胆嚢による胆嚢捻転症が術前に診断しえた1例. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 123) 神田知洋, 横室茂樹, 有馬保生, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 吉田寛, 田尻 孝: 胆嚢癌術後に挙上腸脚へ穿破した仮性肝動脈瘤の1例. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 124) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 内田英二, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 自験例における膵・胆管合流異常症の胆嚢癌に関する臨床病理学のおよび分子生物学的検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 125) 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術後の多発肝転移, リンパ節転移に gemcitabine による全身化学療法が奏功している十二指腸乳頭部癌の1例. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.

- 126) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術後長期生存が得られた高度進行胆嚢癌3症例に対する臨床的検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 127) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 福原宗久, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝, 田原一郎<sup>1)</sup>, 島田隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>生化学第2): PGHAM-1細胞によるハムスター実験膵癌モデルの有用性. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 128) 宮下正夫, 高橋 健, 牧野浩司, 野村 務, 西 恵吾, 山下精彦, 新見晶子<sup>1)</sup>, 前田 淳<sup>1)</sup>, 山下克子<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>東京女医大成人医学センター): p53血清抗体による癌ハイリスク症例のスクリーニング. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 129) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 長澤重直<sup>1)</sup>, 土屋喜一, 萩原信敏, 二見良平<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 柏原 元, 高橋 健, 赤城一郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道扁平上皮癌の深達度と癌関連遺伝子の蛋白発現との検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 130) 山下直行, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科): 胃癌手術における迷走神経温存の残胃環境に対する効果. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 131) 進士誠一, 田尻 孝, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 寺西宣央, 張 一光, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7/Villinの発現. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 132) 勝野 暁, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: BOP誘発ハムスター膵癌に対するCOX-2阻害剤の抗腫瘍効果の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 133) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二, 田尻 孝: 食道扁平上皮癌におけるp53経路蛋白・遺伝子発現解析. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 134) 張 一光, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 進士誠一, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2): ヒト膵癌組織におけるKGFRの発現と静脈侵襲との関連. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 135) 寺西宣央, 田中宣威, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 張 一光, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2): 大腸癌における nestin 陽性微小血管と臨床病理学的因子, 予後の関連. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 136) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): GISTにおけるMAGE-A family 蛋白発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 137) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 胃癌治癒切除例を通してみた手術治療の考察. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 138) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道扁平上皮癌における E-cadherin 発現の臨床的意義. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 139) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 寺西宣央 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 出血をきたした胃GIST症例の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 140) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 肝動注療法を行った大腸癌肝転移症例の臨床病理学的因子とTS, DPD発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.

- 141) 加藤俊二, 神田知洋, 上田純志, 岩崎玲子, 新井政男, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 松倉則夫, 田尻 孝: 残胃における *H. pylori* 除菌後の問題点: 胃酸分泌能の回復と除菌後残胃潰瘍をきたした症例. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 142) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 菅野仁士, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝: グレリンと体重の変動からみた噴門側胃切除: 幽門側胃切除および胃全摘との比較. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 143) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 慢性膵炎の合併症に対する外科的治療とその長期予後. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 144) 勝田美和子, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 進士誠一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌における D2-40 発現の意義. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 145) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 寺西宣央, 張 一光, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌における E-cadherin 発現の臨床的意義. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 146) 高橋 翼, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 小児の肝外門脈閉塞症に対して B-RTO が奏功した1例. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 147) 張 一光, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 川本聖郎, 寺西宣央, 勝野 暁, 進士誠一, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): ヒト膵癌組織における KGF, VEGF の発現と臨床病理学的意義. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 148) 寺西宣央, 古川清憲, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 張 一光, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 大腸癌の癌巢内と癌周囲における nestin 陽性微小血管の同定. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 149) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): GIST に対する悪性度の判定基準に関する新提案. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 150) 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 小野田正美<sup>1)</sup>, 横山滋彦<sup>2)</sup>, 吉田 寛, 田尻 孝<sup>(1)</sup>聖ヨゼフ病院内科, <sup>2)</sup>横須賀市立うわまち病院外科): 日本住血吸虫症に膵臓癌を合併した1例. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 151) 鈴木健司<sup>1)</sup>, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 水口淳子<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 木村祐<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金澤秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 肝原発と考えられたガストリノーマの1例. DDW-Japan 2005 KOBE (第47回日本消化器病学会大会), 2005. 10.
- 152) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 切除不能胆嚢癌症例に胆道ステント留置と gemcitabine 化学療法が QOL の改善に有効であった1例. DDW-Japan 2005 KOBE (第70回日本消化器内視鏡学会総会), 2005. 10.
- 153) 加藤俊二, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>松倉中央クリニック, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2): *H. pylori* 感染に起因する上部消化管疾患発症の個人差: 十二指腸潰瘍 vs 胃潰瘍, 萎縮性胃炎, 胃癌の成因におよぼす IL-1 多型の影響. DDW-Japan 2005 KOBE (第70回日本消化器内視鏡学会総会), 2005. 10.
- 154) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 佐々木順平, 林謙太郎, 田尻 孝: 日本住血吸虫症を合併した直腸癌の1例. DDW-Japan 2005 KOBE (第70

- 回日本消化器内視鏡学会総会), 2005 . 10 .
- 155) 山下直行, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>北里研究所メディカルセンター病院内科, <sup>2)</sup>坪井病院外科, <sup>3)</sup>今泉西病院外科 ): 迷走神経温存胃切除の残胃環境の内視鏡の評価 . DDW-Japan 2005 KOBE ( 第70回日本消化器内視鏡学会総会 ), 2005 . 10 .
- 156) 横山滋彦<sup>1)</sup>, 羽尾邦彦<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高邑知生<sup>2)</sup>, 杉山由佳<sup>2)</sup>, 小澤 稯<sup>2)</sup>, 鎌倉広俊<sup>2)</sup>, 辻本志朗<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>横須賀市立うまち病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理検査科 ): 食道狭窄を来し再燃を繰り返すカンジダ食道炎に対し内視鏡の治療が有効であった1例 . DDW-Japan 2005 KOBE ( 第70回日本消化器内視鏡学会総会 ), 2005 . 10 .
- 157) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 松本智司, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 大腸癌両葉転移性肝癌の治療戦略 . DDW-Japan 2005 KOBE ( 第9回日本肝臓学会大会 ), 2005 . 10 .
- 158) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 有馬保生, 柿沼大輔, 高橋 翼, 松本智司, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 肝内胆管癌細胞株における TGF- 1 の autocrine growth effect . DDW-Japan 2005 KOBE ( 第9回日本肝臓学会大会 ), 2005 . 10 .
- 159) 松田範子, 秋丸琥甫, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝 : 障害肝切除後残肝再生に対する高圧酸素療法の効果 . DDW-Japan 2005 KOBE ( 第9回日本肝臓学会大会 ), 2005 . 10 .
- 160) 内田英二, 勝野 暁, 相本隆幸, 中村慶春, 福原宗久, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝, 田原一郎<sup>1)</sup>, 島田隆<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>病理学第2 ): ハムスター肝癌モデルの有用性 . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 161) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 勝田美和子, 高橋 健, 萩原信敏, 山下精彦, 田尻 孝, 長澤重直<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, Edward G<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>3)</sup>同付属病院病理部, <sup>4)</sup>Dept. of Pathology, Johns Hopkins Univ., USA ): 血管新生関連蛋白の過剰発現の解析を食道扁平上皮癌の悪性度評価へ臨床応用の試み . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 162) 山下直行, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科 ): 胃癌手術における迷走神経温存の残胃環境に対する効果 . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 163) 山下直行, 野村 務, 川本聖郎, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 牧野浩司, 宮下正夫, 田尻 孝, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科 ): 噴門側胃切除後の残胃癌の3例 . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 164) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 清水哲也, 田尻 孝 : 食道扁平上皮癌における Akt, Mdm2 の発現の検討 . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 165) 松田範子, 加藤俊二, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): 肝組織における血管内皮細胞増殖因子 ( VEGF ), Hypoxia inducible factor-1 ( HIF-1 ) mRNA 発現の個人差と病理学的血管因子および肝癌治療法選択との関連 . 第16回日本消化器癌発生学会総会, 2005 . 10 .
- 166) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 内田英二, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 自験例における膵管胆道合流異常合併胆嚢癌症例の臨床病理学のおよび分子生物学的検討 . 第28回日本膵管胆道合流異常研究会, 2005 . 10 .
- 167) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝 : Gemcitabine 少量定量持続投与による切除不能肝癌治療 . 第43回日本癌治療学会総会, 2005 . 10 .

- 168) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 溝下勤<sup>2)</sup>, 塚本徹哉<sup>2)</sup>, 立松正衛<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2,<sup>2)</sup>愛知県がんセンター腫瘍病理部): *H. pylori* の既感染をともなわない胃癌発症の頻度と胃型, 腸型の形質発現の特徴. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 169) 奥田武志, 田尻 孝, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 水谷 崇, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾: 術前化学療法が奏功した胃神経内分泌細胞癌の1例. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 170) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 田尻 孝: 膵癌に対する Gemcitabine 少量定量持続投与による術後補助療法. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 171) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 当科における下部直腸・肛門管癌に対する術前化学放射線療法. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 172) 山下直行, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 安藤真弘<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>坪井病院外科,<sup>2)</sup>同内科): Stage IV 胃癌に対する術前化療の意義. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 173) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): 再発小腸 GIST に対し Glivec の低用量投与にて著効を示した1例. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 174) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 化学療法による遅延性悪心・嘔吐および食欲低下と血清サブスタンスP値の推移. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 175) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同消化器科,<sup>3)</sup>同病理部): GIST・EGIST 症例における切除不能・術後再発例の検討. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 176) 鷲尾祐子<sup>1)</sup>, 坂元優美<sup>1)</sup>, 政木美希<sup>2)</sup>, 西巻順子<sup>2)</sup>, 本橋昌美<sup>2)</sup>, 田中宏美<sup>2)</sup>, 林喜久代<sup>2)</sup>, 丸田明子<sup>3)</sup>, 宮下正夫, 岩切勝彦<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内視鏡センター内視鏡技師,<sup>2)</sup>同看護師,<sup>3)</sup>同看護助手,<sup>4)</sup>内科学第3): フタール製剤とアルコールフラッシュ併用の残留濃度変化の報告. 第55回日本消化器内視鏡技師研究会, 2005. 10.
- 177) 鈴木英之, 古川清憲, 高崎秀明, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 大腸癌治療切除後の再発形式に関する検討. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 178) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 赤城一郎, 田尻 孝: 深達度 mp のS状結腸癌に合併した閉塞性大腸炎の1例. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 179) 松本智司, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 寺西宣央, 田尻 孝: 胃透視検査後に発症したバリウム虫垂炎の2例. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 180) 進士誠一, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>病理学第2): 大腸低分化腺癌における脈管侵襲判定の意義. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 181) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>病理学第2): 術前診断に難渋した直腸悪性黒色腫の1例. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 182) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 大腸癌における CPT-11 の効果と TS 活性の関係. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 183) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: 日本住血吸虫症を合併した直腸癌の1例. 第18回日本外科感染症学会総会, 2005. 11.
- 184) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 赤城一郎, 石川義典, 田尻 孝, 加藤はる<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所細菌第二部): 結腸切除術後 MRSA 腸炎に引

- き続き偽膜性腸炎を発症した1例．第18回日本外科感染症学会総会，2005．11．
- 185) 古川恵子，古川清憲，飯田信也，奥平かおり，岩崎玲子，野口智子，谷 杏彌，樋口勝美<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>東京白十字病院外科，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部): Trastuzumab (T) と Paclitaxel (P) の併用療法が著効した，肝転移を伴う炎症性乳癌の1例．第2回日本乳癌学会関東地方会，2005．11．
- 186) 小泉正樹<sup>1)</sup>，近藤恭司<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，千原直人<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，李 栄浩，藤田逸郎，田尻 孝<sup>(1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃切除後のGERDと胆汁逆流およびpH．第35回胃外科・術後障害研究会，2005．11．
- 187) 的場康徳<sup>1)</sup>，赤坂喜清<sup>1)</sup>，夏越祥次<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>2)</sup>，田尻 孝，愛甲 孝<sup>1)</sup>，黒島一直<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>鹿児島大学消化器外科，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター，<sup>3)</sup>栄和会寺田病院外科): 難治性潰瘍の治癒促進作用としての大網の肉芽化とアポトーシスそして癒痕抑制の役割．第35回日本創傷治癒学会，2005．11．
- 188) 松田範子，秋丸琥甫，清水哲也，加藤俊二，木山輝郎，徳永 昭<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>，吉村成子<sup>2)</sup>，田尻 孝，田久保海誉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>吉村せいこクリニック，<sup>3)</sup>東京都老人総合研究所高齢者の臓器と組織の研究グループ): 障害肝70%切除後残肝再生に対する高圧酸素療法の有効性．第40回日本高気圧環境医学会総会，2005．11．
- 189) 橋川加奈子<sup>1)</sup>，阿部佳之<sup>1)</sup>，小野俊正<sup>1)</sup>，関英一郎<sup>2)</sup>，権田厚文<sup>2)</sup>，東井靖子<sup>3)</sup>，古旗 淳<sup>3)</sup>，秋丸琥甫(<sup>1)</sup>川崎太田総合病院検査科，<sup>2)</sup>同消化器外科，<sup>3)</sup>順天堂大学大学院医学研究科細胞病理): 診断に難渋した悪性腹膜中皮腫の1例．第44回日本臨床細胞学会秋期大会，2005．11．
- 190) 加藤俊二，松倉則夫<sup>1)</sup>，池田研吾，山下直行，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，田尻 孝(<sup>1)</sup>松倉中央クリニック)十二指腸潰瘍穿孔例にみられる胃粘膜組織内各種サイトカインの個体差と非穿孔例との比較．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 191) 木山輝郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，山下直行，池田研吾，菅野仁士，吉行俊郎，加藤俊二，田尻 孝: 消化器外科病棟における栄養スクリーニングからみた栄養管理の問題点．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 192) 木山輝郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，山下直行，池田研吾，菅野仁士，吉行俊郎，加藤俊二，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌における抗癌剤感受性試験(CD-DST法)の検討．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 193) 野村 務，宮下正夫，牧野浩司，高橋 健，赤城一郎，山下精彦，田尻 孝，丸山 弘<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 食道表在癌の治療成績: 開胸開腹術，鏡視下手術，CRTの比較．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 194) 相本隆幸，内田英二，中村慶春，勝野 暁，張 一光，横室茂樹，田尻 孝: 幽門輪温存痔頭十二指腸切除術におけるPEG kitを用いた消化管再建術とその効能．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 195) 奥田武志，田尻 孝，加藤俊二，木山輝郎，水谷 崇，藤田逸郎，山下直行，池田研吾，徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 幽門狭窄をきたした胃癌の臨床病理学的検討．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 196) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，高橋 健，山下精彦，大川敬一<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): リトラクターを用いた鎖骨牽引による頸部側からの食道癌の頸部・反回神経周囲リンパ節郭清．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 197) 菅 隼人，古川清憲，鈴木英之，飯田信也，鶴田宏之，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，佐々木順平，田尻 孝: 結腸の固定異常が原因と考えられた遅発性S状結腸人工肛門狭窄の1例．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 198) 中村慶春，田尻 孝，横室茂樹，相本隆幸，川本聖郎，勝野 暁，谷合信彦，吉田 寛，有馬保生，張 一光，内田英二: ESTを契機に急激に発生した多発結石によってAOSCを発症した良性胆道狭窄の1例．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．

- 199) 山下直行, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科): 扁平上皮癌併存の印環細胞癌の再発(縦郭, 髄膜)に集学的治療を行った胃癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 200) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 当科における Clostridium difficile 感染症の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 201) 池田研吾, 加藤俊二, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 田尻 孝, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>松倉中央クリニック): 胃切除後早期の残胃の癌に対する対策: 術前 *Helicobacter pylori* (HP) 除菌の有用性について. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 202) 進士誠一, 古川清憲, 宮下正夫, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 田中宣威<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 術後1年2ヶ月の長期経過後に発症した急性虫垂炎遺残膿瘍の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 203) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝: 食道原発 solitary fibrous tumor (SFT) の1切除例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 204) 川本聖郎, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): 大量の腹腔内出血を来した退形成性膵管癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 205) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): GANT (Gastro-intestinal autonomic nerve tumor) の臨床病理学的検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 206) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 5-FU/i-LV+PSK を基調とした免疫化学療法が長期著効を示している同時性多発肺転移を有する stage 4 b 進行大腸癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 207) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 大腸癌多発肝転移・大動脈リンパ節転移に対し TS-1/CPT-11 外来化学療法で長期継続症例の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 208) 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 排便時違和感を主訴とした臀部巨大悪性顆粒細胞腫の1手術例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 209) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 腋窩リンパ節転移から診断された潜在性乳癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 210) 大川敬一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌術後無気肺と胸水貯留, 気胸を繰り返し認めた1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 211) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 藤平威夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>栗山中央病院): 小腸が盲嚢から小腸異常裂孔に脱出嵌頓した大腸裂孔ヘルニアの1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.

- 212) 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (千葉北総病院外科): 当院における胃癌姑息手術症例の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 213) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (千葉北総病院外科): 十二指腸断端の縫合不全に対する内視鏡を用いた経鼻的 catheter duodenostomy の1治療例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 214) 吉村和泰<sup>1)</sup>, 吉安正行<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>2)</sup>, 秋谷行宏, 池田研吾, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (博慈会記念総合病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 胸水にて発症した横行結腸癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 215) 沖野哲也<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (筑西市民病院外科): CA19-9産生胃癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 216) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 齋藤行世<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (坪井病院): 直腸の広範囲早期癌に対する内視鏡的粘膜全周切開後, 経肛門の切除した1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 217) 奥田武志, 田尻 孝, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 武田守正<sup>1)</sup> (武田内科医院): 難治性胃潰瘍に続発したDouble Pylorusの1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 218) 河島 讓, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 松本智司, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 寺西宣央, 新井政男, 藤田俊郎, 田尻 孝: 術後吻合部狭窄・直腸皮膚瘻にステント留置が有効であった1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 219) 高橋陽子<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 間宮康孝<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝<sup>(1)</sup> (内科学第3): 門脈圧亢進性腸症 (PHE) の1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 220) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 神田知洋, 吉田 寛, 田尻 孝: RNA干渉発現分子による TGF-beta1 シグナル伝達の調節と肝障害の抑制. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 221) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 柿沼大輔, 松本智司, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛: 肝内胆管癌細胞株における TGF- 1 の発現, シグナル伝達, 増殖への影響に関する検討. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 222) 松田明久, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 丸山 弘, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 田尻 孝: Th1/Th2 バランス理論による術後感染性合併症予測に関する検討. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 223) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 田尻孝<sup>(1)</sup> (多摩永山病院外科): Gender difference から見た胸部食道癌手術後のサイトカインと接着分子の変動. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 224) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻孝: 腹腔鏡下に切除したS状結腸憩室症に伴うポリープ様粘膜脱の1例. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 225) 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 菅野仁士, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻孝: 腹腔鏡補助下噴門側および幽門側胃切除の栄養学的検討. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 226) 野村 務, 古川清憲, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 高橋 翼, 勝野 暁, 川東 豊, 有馬保生, 横室茂樹, 中村慶春, 田尻 孝: 嵌頓鼠径ヘルニア手術時における腹腔鏡を用いた腹腔内検索. 第18回日本内視鏡外



科学会総会，2005．12．

- 227) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，高橋 健，中溝宗永<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 腹腔鏡補助下の遊離空腸採取の試み．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 228) 菅 隼人，古川清憲，鈴木英之，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，石川義典，赤城一郎，田尻 孝: 下部直腸癌に対し術前CRT後にTEM（経肛門の内視鏡下マイクロサージャリー）を行った1例．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 229) 中村慶春，内田英二，相本隆幸，勝野 暁，張 一光，川本聖郎，野村 務，水谷 崇，木山輝郎，吉田 寛，横室茂樹，谷合信彦，田尻 孝: 腺癌による十二指腸閉塞に対し腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した1例．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 230) 中村慶春，内田英二，相本隆幸，勝野 暁，張 一光，川本聖郎，野村 務，横室茂樹，有馬保生，田尻 孝: 胆石症の精査中に発見された膵尾部腫瘍に対し全腹腔鏡下脾温存膵尾部切除術を胆摘と同時に施行した1例．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 231) 宮本昌之<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，長澤重直<sup>1)</sup>，石塚朋樹<sup>1)</sup>，二見良平<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，勝田美和子<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 肝癌に対する腹腔鏡下RFA術後の再発形式とその対応．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 232) 松谷 毅<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 膵管融合不全に随伴した膵仮性嚢胞に対し腹腔鏡補助下（胃内）嚢胞胃吻合術を施行した1例．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 233) 高田英志，菅 隼人，古川清憲，鈴木英之，飯田信也，鶴田宏之，秋谷行宏，寺西宣央，上田純志，田尻 孝: 26歳の下部直腸（Rb）の若年性ポリープの1手術例．第287回日本消化器病学会関東支部例会，2005．12．
- 234) 川見典之<sup>1)</sup>，片倉玲樹<sup>1)</sup>，平塚哲郎<sup>1)</sup>，濱本達彦<sup>1)</sup>，田中由理子<sup>1)</sup>，進藤智隆<sup>1)</sup>，鈴木健司<sup>1)</sup>，植木信江<sup>1)</sup>，進士陽子<sup>1)</sup>，楠 正典<sup>1)</sup>，林 良紀<sup>1)</sup>，飯泉 匡<sup>1)</sup>，琴寄 誠<sup>1)</sup>，二神生爾<sup>1)</sup>，和田 謙<sup>1)</sup>，三宅一昌<sup>1)</sup>，津久井拓<sup>1)</sup>，岩切勝彦<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，山下直行，田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 抗ARS抗体症候群に合併した胃癌，食道癌切除後に間質性肺炎が自然軽快した1例．第287回日本消化器病学会関東支部例会，2005．12．
- 235) 山下直行，野村 務，加藤俊二，木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，池田研吾，牧野浩司，宮下正夫，田尻 孝: 噴門側胃切除後の残胃癌の3例．第799回外科集談会，2005．12．
- 236) 進士誠一<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，金子昌裕<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>同病理部): 上部・下部直腸癌pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義．第64回大腸癌研究会，2006．1．
- 237) 宮本昌之<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，長澤重直<sup>1)</sup>，松谷毅<sup>1)</sup>，二見良平<sup>1)</sup>，川野陽一<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，富樫晃祥<sup>1)</sup>，勝田美和子<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔鏡下総胆管切石術（Lap. CBDE）における手技上の進歩とその意義．第25回多摩消化器シンポジウム，2006．2．
- 238) 山脇秀元<sup>1)</sup>，江原彰仁<sup>1)</sup>，小林 剛<sup>1)</sup>，関田祥久<sup>1)</sup>，瀬尾継彦<sup>1)</sup>，三井啓吾<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，柴田喜明<sup>1)</sup>，永田和弘<sup>1)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，辰口篤志<sup>1)</sup>，藤森俊二<sup>1)</sup>，岸田輝幸<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，牧野浩司，田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 下血を繰り返し，ダブルパルーン法による小腸内視鏡により同定し得た，非定型抗酸菌症に合併した空腸のMALTリンパ腫の1切除例．第288回日本消化器病学会関東支部例会，2006．2．
- 239) 石川義典: 肝腫瘍に対する肝切除の3症例．第43回千駄木肝カンファレンス，2006．2．
- 240) 吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，水口義昭，清水哲也，柿沼大輔，石川義典，神田知洋，松本智司，横室茂樹，秋丸琥甫，田尻 孝: 大網固定法による肝内および肝門部胆管癌に対する肝左葉切除後の delayed gastric emptying 予防．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．

- 241) 木山輝郎, 田尻 孝, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 吉行俊郎, 加藤俊二, 菅野仁士: 外科病棟における栄養サポートチームの意義. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 242) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 川東 豊, 横室茂樹, 水瀬 学, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2): 超音波造影剤レボピストの胆管内注入ガイド下術中臍生検の有用性: 臍内胆管狭窄部の確実な同定と術中生検をめざして. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 243) 奥田武志, 田尻 孝, 池田研吾, 山下直行, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理部, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 胃GISTの治療戦略: 再発・高リスク症例の治療. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 244) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 山下精彦, 高橋 健, 赤城一郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): CD-DST法による感受性試験を食道癌化学療法の個別化へ応用する試み. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 245) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 野村 務, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側臍切除術を施行した7例の検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 246) 清水哲也, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝内胆管癌における TGF- $\beta$ 1 の mitoinhibition, apoptosis 作用に対する検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 247) 高橋 健, 牧野浩司, 野村 務, 柏原 元, 勝田美和子, 清水哲也, 赤城一郎, 宮下正夫, 田尻 孝: 食道扁平上皮癌における Akt-Mdm2 経路の制御に関する検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 248) 張 一光, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 中澤南堂<sup>1)</sup>, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): ヒト臍癌における KGF, KGFR の発現と VEGF を介した静脈侵襲への関与. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 249) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 切除不能進行臍癌に対する塩酸ゲムシタピン (GEM) /カペシタピン (CAP) 併用化学療法の試み その有効性と展望について. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 250) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>2)</sup>, 坊 英樹<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 若年者胃癌のリスクファクターと鳥肌胃炎. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 251) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌における 5-FU 関連酵素の臨床病学的検討. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 252) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>2)</sup>, 佐藤精一<sup>2)</sup>, 近藤恭司<sup>2)</sup>, 前島顕太郎<sup>2)</sup>, 吉野雅則<sup>2)</sup>, 坊 英樹<sup>2)</sup>, 塩谷猛<sup>2)</sup>, 尾形昌男<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>3)</sup>同病理部): 胃癌における keratinocyte growth factor receptor (KGFR) と KGF の発現および神経内分泌細胞のはたす役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 253) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 高橋 健, 赤城一郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 食道癌CRT後の食道気管瘻に対するステント治療の経験. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 254) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 高田英志, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下に切除した狭窄型虚血性小腸炎の1症例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 255) 松本智司, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 菅 隼人, 田尻 孝, 秋谷行宏: 高圧酸素療法が奏効した重度壊疽性筋膜炎の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.

- 256) 中村慶春, 有馬保生, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 総胆管内に石灰乳胆汁が認められた胆嚢結石症の1症例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 257) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 有馬保生, 田尻 孝: 急性胆嚢炎で発症した下部胆管癌の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 258) 岩崎玲子, 松本智司, 古川清憲, 高橋 健, 吉田 寛, 鈴木英之, 田尻 孝: 緊急切開排膿術を要した虫垂癌の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 259) 谷 杏彌, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 山下精彦, 田尻 孝: 食道癌CRT後の上部消化管大量出血のため, 左胃動脈塞栓後に緊急サルベージ手術を施行した1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 260) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 難治性小腸皮膚瘻に対する経皮的口側腸管ドレナージで根治的手術を回避した1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 261) 佐藤精一<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 成人鼠径ヘルニア嵌頓症例の検討. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 262) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 佐藤精一<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 成人原発性小腸軸捻転症の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 263) 沖野哲也<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 新井政男<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>筑西市民病院外科): 鈍的外傷による腸間膜損傷の2例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 264) 加藤俊二, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 松倉則夫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>病理学第2): 胃発癌リスクの個別評価: 背景粘膜の違いと発癌関連サイトカイン遺伝子発現の固体差. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 265) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 水谷 崇, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 山下直行, 池田研吾, 菅野仁士, 加藤俊二, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討: 5年間の経験. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 266) 奥田武志, 山下直行, 池田研吾, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 田尻 孝: High risk group GIST と再発GIST の治療戦略. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 267) 藤田逸郎, 木山輝郎, 奥田武志, 山下直行, 池田研吾, 加藤俊二, 水谷 崇, 田尻 孝, 徳永 昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 高齢者胃癌手術における腹腔鏡補助下胃切除の検討. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 268) 山下直行, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 菅野仁士, 宮下正夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科): 胃癌手術における迷走神経温存の残胃環境に対する効果. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 269) 山下直行, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 菅野仁士, 宮下正夫, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院, <sup>3)</sup>今泉西病院外科): 胃癌取扱い規約 (第13版) に対する提案. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 270) 菅野仁士, 木山輝郎, 加藤俊二, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 池田研吾, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃切除後のインスリン分泌量および血糖値の変動: 胃癌に対する腹腔鏡および開腹手術の比較. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 271) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 津久井

- 拓<sup>2)</sup>, 水谷 崇<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同消化器科): 胃GISTにおけるMAGE-A family 蛋白発現とその病理学的・臨床的意義. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 272) 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎, 藤田逸郎, 菅野仁士, 池田研吾, 山下直行, 奥田武志, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永昭, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院消化器科): Paclitaxel/CDDP併用療法が奏効した術後再発胃癌の1例. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 273) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 山下精彦<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): Paclitaxel/CDDP療法にて腹水が消失した進行胃癌の3例. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 274) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>第二病院消化器病センター): 当科におけるNeoadjuvant Chemotherapyの現状. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 275) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>2)</sup>, 吉野雅則<sup>2)</sup>, 坊 英樹<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター,<sup>3)</sup>同病理部): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR)とKGFの胃癌・神経内分泌腫瘍における発現と役割. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 276) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 高橋 健, 寺西宣央, 神田知洋, 鈴木英之, 古川清憲, 田尻 孝: 特発性多発性潰瘍による小腸穿孔の1手術例. 第800回外科集談会, 2006. 3.
- (10) サージカルフォ-ラム:
- 1) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 合併症と医療過誤の間にて informed consentの重要性 「外科治療におけるインフォームドコンセントをめぐる諸問題2」. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- (11) ディベートセッション:
- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 田尻 孝: 当科における食道胃静脈瘤に対する内視鏡的治療「EVL and EIS」. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- (12) ビデオクリニック:
- 1) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 野村 務, 横室茂樹, 水谷 崇, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 木山輝郎, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下脛体尾部切除術を施行したMixed acinar-endocrine腫瘍の1例「隣1」. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- (13) ビデオシンポジウム:
- 1) 山下直行, 木山輝郎, 加藤俊二, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 池田研吾, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>坪井病院外科,<sup>2)</sup>北里研究所メディカルセンター病院,<sup>3)</sup>今泉西病院外科): 噴門側胃切除における迷走神経温存残胃前壁漿膜筋層縦切開噴門形成術の評価「胃切除後の再建をどうするか: 術式の新しい工夫」. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 2) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 田尻 孝: 機能的端々吻合における縫合器使用の工夫とコツ. 第16回東京大腸手術手技研究会, 2005. 11.
- 3) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝: 直腸腫瘍に対するTEMの有用性と問題点「TEMの問題点と普及性について」. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- (14) 合同シンポジウム:
- 1) 石川義典, 中村慶春, 内田英二, 木山輝郎, 相本隆幸, 藤田逸郎, 中田 淳, 古川清憲, 田尻 孝: 急性偽性腸閉塞に対し大建中湯が著効した3例「大建中湯 various application」. 第15回外科漢方研究会(第67回日本臨床外科学会総会), 2005. 11.

## [ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科 ) ]

### 研究概要

「研究体制とその現状」

研究目的：臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。  
研究体制：消化器系臓器別に上部消化管、下部消化管、肝・胆・膵の3領域における病態生理、臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は、癌に関連するものが多い。手術手技、腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。  
研究者は、自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。

研究材料、方法：診療業務から得た臨床データ、血液、組織、臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には、当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は、武蔵小杉病院・老人病研究所の協力、文部科学省、厚生労働省の科学研究補助金による研究、多施設共同研究、日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会、総会、多摩地域の研究会で発表する。あるいは、原著、症例報告、著書等に論文として公表する。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 江上 格, 宮本昌之, 横山 正: 肝細胞がんの治療後のフォローアップ診療. 治療 2005 ; 87 (4): 1509-1514 .
- 2) 渡邊秀裕, 鈴木成治, 江上 格: 治癒切除胃癌の再発死亡例 (高齢者と若齢者の比較検討). 日本高齢消化器医学会誌 2005 ; 7 (2): 64-70 .
- 3) 松田 健<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 木村 祐<sup>1)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例. 日腹救急医誌 2006 ; 25 (3): 451-454 .
- 1) Matsuda A, Furukawa K, Suzuki H, Matsutani T, Tajiri T, Chaudry IH : Dehydroepiandrosterone modulates toll-like receptor expression on splenic macrophages of mice after severe polymicrobial sepsis . Shock 2005 ; 24 : 364-369 .
- 2) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 二見良平, 川野陽一, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子: 腹腔鏡下総胆管切石術 (Lap. CBDE) における手技上の進歩とその意義. 多摩消化器シンポジウム誌 2006 ; 20 (1): 22-25 .

##### (2) 症例報告：

- 1) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Ohkawa K<sup>3)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>4)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama-nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tama-nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Chiba-hokuso Hospital, <sup>4)</sup> First Department of Surgery ): Hirschsprung's Disease in Adults : Report of a Case and Review of the Literature . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 (2): 113-120 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Suzuki S, Egami K, Sasajima K, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Watanabe H, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Nagasawa S, Hosone M<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>3)</sup>, Okihama Y<sup>3)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Pathology, Inst. of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hosp., Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hosp., Nippon Medical School, <sup>4)</sup> First Dept. of Surgery, Nippon Medical School ): Relationship between DNA

- copy number aberrations determined by quantitative microsatellite analysis and clinical outcome in patients with stomach cancer . 6th International Gastric Cancer Congress , 2005 . 5 .
- 2) Watanabe H, Egami K, Sasajima K, Miyamoto M, Suzuki S, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Nagasawa S, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Dept. of Surgery, Nippon Medical School ): Study of Lymph Node Metastasis Affects the Prognosis in Stomach Cancer Undergone Curative Excision . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ), 2005 . 5 .
  - 3) Matsutani T , Kang S , Bland KI , Chaudry IH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Center for Surgical Res. and Department of Surgery, University of Alabama ): Aged-related differences in pulmonary injury following bone fracture and soft-tissue trauma and hemorrhage . 28th annual conference on shock ( Florida, USA ), 2005 . 6 .
  - 4) Okawa K , Miyashita M<sup>1)</sup>, Sasajima K , Maruyama H , Matsutani T , Kim C<sup>2)</sup>, Takeda S<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Dept. of Surgery Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Anesthesiol, Nippon Medical School ): Pulmonary responses of cytokine following major surgery . 28th annual conference on shock ( Florida, USA ), 2005 . 6 .
  - 5) Matsuda A , Furkawa K , Takasaki H , Suzuki H , Mtsutani T , Kashiwabara M , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ( First Dept. of Surgery, Nippon Medical School ): Preoperative immune-enhancing nutritional supplementation corrects Th1/Th2 imbalance undergoing effective surgery for colorectal cancer . 28th annual conference on shock ( Florida, USA ), 2005 . 6 .
  - 6) Miyamoto M, Egami K, Sasajima K, Watanabe H, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Matsutani T, Nagasawa S, Futami R, Togashi A, Masuda G, Kawano Y, Katsuta M, Tajiri T : A comparative study between various operative procedures of laparoscopic common bile duct exploration . 7<sup>th</sup> Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery, ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
  - 7) Matsutani T, Egami K, Sasajima K, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Uchida E, Tajiri T : Pancreatic cyst associated with pancreas divisum treated with laparoscopy assisted cystgastrostomy in the intragastric approach : a case report . 7<sup>th</sup> Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery, ELSA 2005 ( Hong Kong ), 2005 . 8 .
  - 8) Matsutani T, Miyashita M, Sasajima K, Tajiri T, Chaudry IH : Age-associated difference in liver injury following severe trauma-hemorrhage . 3<sup>rd</sup> World Shock Forum ( Tokyo, Japan ), 2006 . 2 .
  - 9) 渡辺秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): T2胃癌の検討 ( MPとSSとの比較を通して). 第77回日本胃癌学会総会, 2005 . 5 .
  - 10) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 松田 健, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 外科学第1): 病理所見・臨床経過からみた胃原発GIST症例と他臓器原発症例の比較検討 . 第77回日本胃癌学会総会, 2005 . 5 .
  - 11) 鈴木成治, 江上 格, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖濱裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 多摩永山病院消化器科, <sup>3)</sup> 同病理部, <sup>4)</sup> 外科学第1): 電顕所見からみた消化管及び消化管外原発GIST症例の臨床病理学的検討 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .
  - 12) 松谷 毅, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 田尻 孝<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 臓器生態制御外科, <sup>2)</sup> University of Alabama at Birmingham ): 同種間での異なった遺伝子背景の違いによる外傷出血性ショック後の免疫能の相違 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .
  - 13) 横山 正, 宮本昌之, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 江上 格: 当施設における脾切除後再建の工夫とその成績 . 第6回多摩肝胆膵クラブ, 2005 . 5 .
  - 14) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 長澤重直, 二見良平,

- 増田剛太郎, 富樫晃祥, 川野陽一, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 総胆管結石症に対する腹腔鏡下手術術式選択基準とその比較検討. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 15) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 福原宗久, 川野陽一, 富樫晃祥, 二見良平, 増田剛太郎, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 急性胆管炎を契機に発見され良好な内視鏡像が得られた主膵管型 IPMT の1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 16) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 長澤重直, 二見良平, 増田剛太郎, 川野陽一, 富樫章祥, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科学): 腎細胞癌根治術後17年後の膵転移と早期胃癌を併発し同時に切除し得た症例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 17) 二見良平, 江上 格, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 川野陽一, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 非アルコール性脂肪性肝炎を背景として発症した肝細胞癌の1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 18) 川野陽一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): C型慢性肝炎のインターフェロン療法による持続ウイルス削除 (SVR) 12年後に発生した破裂肝細胞癌を切除し得た1例. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜, 2005. 6.
- 19) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 二見良平, 増田剛太郎, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 前治療を有する転移性乳癌に対するカペシタピン/サイクロフォスファミド併用経口療法の検討. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 20) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 富樫晃祥, 鈴木成治, 江上 格, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): 腎部に発生した巨大肉腫の1例.(社)日本病理学会関東支部平成17年度総会および第27回学術集会, 2005. 6.
- 21) 渡邊秀裕: 緩和における消化器外科の関わり. 第9回三多摩緩和ケア研究会プログラム, 2005. 6.
- 22) 鈴木成治: 手技の実際. 第9回三多摩緩和ケア研究会プログラム, 2005. 6.
- 23) 渡邊秀裕: アンケート調査結果をふまえて. 第9回三多摩緩和ケア研究会プログラム, 2005. 6.
- 24) 江上 格: 特別講演. 第9回三多摩緩和ケア研究会プログラム, 2005. 6.
- 25) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 早期胃癌の手術治療成績. 第30回日本外科系連合学会学術集会, 2005. 6.
- 26) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 当科における肝細胞癌に対するラジオ波凝固療法 (RFA) 治療戦略とその成果. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 27) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 臨床・病理像から見たGIST及びEGIST症例の診断・治療の問題点. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 28) 丸山 弘, 笹島耕二, 松谷 毅, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科学): 小腸内視鏡と蛋白漏出性シンチにて診断した蛋白漏出性blind loop syndromeの1例. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 29) 松谷 毅, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科学): 年齢差によるマウス Trauma-hemorrhage後の肝障害・高ビリルビン血症の相違. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 30) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup>統御機構病理学): 食道扁平上皮癌におけるHIF-1 とVEGF-Cの発現. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.

- 31) 松田 健<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 木村 裕<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>(1)</sup> (多摩永山病院消化器科): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 32) 酒井貴史, 水谷行伸, 手嶋浩恵, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹, 木村 祐<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>(1)</sup> (多摩永山病院消化器科): パルスドブラ法を用いた門脈および脾静脈血流測定の有用性について. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 33) 石塚朋樹, 江上 格, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 川野陽一, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (外科学第1): デンパーシャント挿入後, 低血糖発作を繰り返した末期肝細胞癌を合併したB型肝炎硬変の1例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 34) 長澤重直, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup> (外科学第1): 脂肪肝から急速に肝硬変を呈したNAFLDの1症例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 35) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 田尻 孝<sup>1)</sup> (外科学第1): 胃癌治癒切除例を通してみた手術治療の考察. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 36) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 外科学第1): GISTにおけるMAGE-A family 蛋白発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 37) Mohammad G<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 坊 秀樹<sup>2)</sup>, 鈴木成治, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup> (老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup> 第二病院外科): ヒト食道扁平上皮癌における放射線照射後のMetAP2遺伝子発現の抑制について. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 38) 清水 一<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 鈴木成治, 小西英喜<sup>2)</sup>, Gress T<sup>3)</sup>, 鈴木利光<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup> (日本医科大学老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup> 同第二病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> University of Ulm Germany, <sup>4)</sup> 福島県立医科大学医学部病理学第二講座): ヒト卵巣癌におけるプロテアーゼネキシン1の機能解析. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 39) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup> (外科学第一): 食道扁平上皮癌におけるE-cadherin発現の臨床的意義. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 40) 高橋 健<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (臓器病態制御外科学): 食道扁平上皮癌におけるp53経路蛋白・遺伝子発現解析. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 41) 二見良平, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 石塚朋樹, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子: 胃癌・膵転移の膵全摘施行後長期生存の1例. 第71回城西外科研究会プログラム, 2005. 9.
- 42) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 二見良平, 増田剛太郎, 勝田美和子, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 臓器病態制御外科学): 自験例における膵・胆管合流異常症の胆嚢癌に関する臨床病理学および分子生物学的検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 43) 増田剛太郎, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 松谷毅, 二見良平, 富樫晃祥, 川野陽一, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup> (外科学第1): 術後長期生存が得られた高度進行胆嚢癌3症例に対する臨床的検討. 第41回日本胆道学会学術集会, 2005. 9.
- 44) 富樫晃祥, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 松谷 毅, 二見良平, 増田剛太郎, 勝田美和子, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (臓器病態制御外科): 術後の多発肝転移, リンパ節転移にgemcitabineによる全身化学療法が奏効している十二指腸乳頭部癌の1例. 第41回日本胆道学会



学術集会, 2005 . 9 .

- 45) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 渡邊秀裕, 田尻 孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>外科学第1): 切除不能胆嚢癌症例に胆道ステント留置とgemcitabine化学療法がQOLの改善に有効であった1例. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005 . 10 .
- 46) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌におけるD-2-40発現の意義. 第47回日本消化器病学会大会, 2005 . 10 .
- 47) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 津久井拓<sup>1)</sup>, 松田健<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): GIST・EGIST症例における切除不能・術後再発例の検討. 第43回日本癌治療学会総会, 2005 . 10 .
- 48) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治: 胃癌の予後に及ぼす年齢の影響. 第43回日本癌治療学会総会, 2005 . 10 .
- 49) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 松田 健<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): GANT (Gastro-intestinal autonomic nerve tumor) の臨床病理学的検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 50) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 松谷 毅, 川野陽一, 富樫晃祥, 二見良平, 増田剛太郎, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 5-FU/i-LV+PSKを基調とした免疫化学療法が長期著効を示している同時性多発肺転移を有するstage4b進行大腸癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 51) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 渡邊秀裕, 長澤重直, 二見良平, 増田剛太郎, 川野陽一, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌多発肝転移・大動脈リンパ節転移に対しTS-1/CPT-11外来化学療法で長期継続症例の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 52) 二見良平, 江上 格, 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 増田剛太郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 腋窩リンパ節転移から診断された潜在性乳癌の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 53) 富樫晃祥, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 川野陽一, 二見良平, 増田剛太郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 排便時違和感を主訴とした臀部巨大悪性顆粒細胞腫の1手術例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 54) 鈴木成治, 丸山 弘, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 長澤重直, 石塚朋樹, 二見良平, 増田剛太郎, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 勝田美和子, 津久井拓<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科): Modified FOLFOX-6療法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 第18回多摩大腸疾患懇話会, 2005 . 11 .
- 55) 石塚朋樹, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 江上 格: 日本住血吸虫症に合併した胆管細胞癌の1例. 第7回多摩肝胆膵クラブ, 2005 . 11 .
- 56) 横山 正, 宮本昌之, 松谷 毅, 石塚朋樹, 江上 格: 当科膵腸縫合不全症例の対応について: 完全膵管外瘻の利点と欠点. 第7回多摩肝胆膵クラブ, 2005 . 11 .
- 57) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 石塚朋樹, 二見良平, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡下RFA術後の再発形式とその対応. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005 . 12 .
- 58) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 廣井 信, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 膵管融合不全に随伴した膵仮性嚢胞に対し腹腔鏡補助下(胃内)嚢胞胃吻合術を施行した1例. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005 . 12 .

- 59) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Gender differenceから見た胸部食道癌手術後のサイトカインと接着分子の変動. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 60) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治: 胃癌手術成績にみる年齢の影響. 日本高齢消化器病学会, 2006. 1.
- 61) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治: 吐血により発症した高齢者消化性潰瘍の臨床的検討. 日本高齢消化器病学会, 2006. 1.
- 62) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 津久井拓<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃GISTにおけるMAGE-A family蛋白発現とその病理学的・臨床的意義. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 63) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 石塚朋樹, 増田剛太郎, 二見良平, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 難治性小腸皮膚瘻に対する経皮的口側腸管ドレナージで根治的手術を回避した1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006. 3.
- 64) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 長澤重直, 松谷 毅, 富樫晃祥, 二見良平, 増田剛太郎, 勝田美和子, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 切除不能進行膵癌に対する塩酸ゲムシタピン(GEM)/カペシタピン(CAP)併用化学療法を試み: その有効性と展望について. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 65) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 松久威史, 松田 健<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): GIST・EGIST症例におけるMAGE-A family蛋白発現とその臨床的意義. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 66) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): マウスTrauma-hemorrhage後の肺局所の炎症性サイトカインとサイトケラチン発現と年齢差による相違. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科および一般外科領域における, 基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. 院内においては内科, 放射線科, 病理との合同カンファランスを行い, 診断・外科的治療の質の向上を図っている.

1. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対する外科的治療とともに化学療法による集学的治療を行い, 患者の延命とQOLの向上を図り良好な成績を得ている.
2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.
3. 腹腔鏡下手術については胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌, 早期大腸癌, また進行癌にも適応拡大し, 手技の改良とともに低侵襲手術の導入を積極的に行なっている.
4. 乳癌症例の増加に伴い手術例数の増加, 適応に準じた縮小手術の積極的な導入, 進行乳癌に対する化学内分泌療法により乳癌患者のQOLの向上に努めている.
5. 消化器癌を中心として病理学的・分子生物学的手法を用いた癌の生物学的特性に関する研究を行い, 国際学会をはじめとした学会発表とともに内外の学会誌, 専門誌へ発表している.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Yokoi K, Tanaka N, Kyono S, Ishikawa N, Seya T, Horiba K, Kanazawa Y, Yamashita K, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>1st Dept. of Surgery ): A study of histopathological assessment criteria for assessing malignancy of gastrointestinal stromal tumor, from a clinical standpoint. Journal of Gastroenterology 2005 ; 40 ( 5 ): 467-473 .

### 著書

- 1) 進士誠一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田中宣威, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>外科学第1 ): [ 分担 ] 3. 微小転移を知るための工夫 ( 2 ) 抗CK20 抗体免疫染色: 第3章 大腸癌における micrometastasis . 大腸疾患NOW2006 ( 監修: 武藤徹一郎・編集: 渡辺英伸, 杉原健一, 多田正大 ), 2006 ; pp103-109, 日本メディカルセンター .
- 2) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 田中宣威, 日野光紀<sup>2)</sup>, 濱本 真<sup>2)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 佐治 守<sup>4)</sup>, 山本臣生<sup>5)</sup>, 横田貴久<sup>5)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>6)</sup>, 成田真一<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同看護部, <sup>4)</sup>同薬剤科, <sup>5)</sup>同庶務課, <sup>6)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>7)</sup>西新井病院臨床検査科 ): [ 共著 ] 医療機関必携 医療現場の危険有害化学物質取扱い ( 労働安全管理のために ). 医療機関必携 医療現場の危険有害化学物質取扱い ( 労働安全管理のために ) ( 清水秀樹 ), 2006 ; pp1-180, メディカグループ .

### 学会発表

#### (1) ワークショップ:

- 1) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1 ): 胃癌における5-FU代謝関連酵素とp-53, bcl-2蛋白発現 . 第64回日本癌学会学術総会, 2005 . 9 .

#### (2) サージカルフォーラム:

- 1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部 ): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌における VEGF 発現の意義 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .
- 2) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>外科学第1 ): 大腸癌リンパ節微小転移の生物学的意義 . 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

#### (3) 一般講演:

- 1) Tanaka N, Shinji S, Seya T, Kanazawa Y, Teranishi N<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology II ): E-Cadherin Expression in Colorectal Cancer . 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 10 .
- 2) Seya T, Tanaka N, Yokoi K, Kanazawa Y, Yamada T, Koizumi M, Shinji S, Yamashita K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Surgery, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Pathology II ): Expression of Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and type IV Collagen in Colorectal Cancer with/without Liver Metastasis . 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005 . 10 .
- 3) Shinji S, Tanaka N, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Seya T, Furukawa K<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Teranishi N<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Naito

- Z<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Integrative Pathology, <sup>2)</sup>1st Dept. of Surgery, <sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Chiba Hoku-soh Hospital): Liver Metastasis in Poorly Differentiated Colorectal Adenocarcinoma with Neuroendocrine Features is Associated with Vascular Endothelial Growthfactor (VEGF). 13th United European Gastroenterology Week (Copenhagen, Denmark), 2005. 10.
- 4) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 瀨谷知子, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7の発現について. 第94回日本病理学会, 2005. 4.
- 5) 瀨谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN (E), MMP-9 (M-9), IV型コラーゲン(IVc) の発現. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 6) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀨谷知子, 堀場光二, 山田岳史, 白川 毅, 小泉岐博, 吉岡正人, 工藤秀徳, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 総投与量からみた進行胃癌(stageIV), 再発胃癌におけるTS-1の効果. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 7) 白川 毅, 田中宣威, 横井公良, 長谷川博一, 石川紀行, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山田岳史, 小野寺浩之, 山下精彦<sup>1)</sup>, 金沢義一(<sup>1)</sup>外科学第1): 経口摂取不可能な高度進行胃癌患者に対し, 腸瘻造設後TS-1 + CDDP投与が奏効し, 切除可能となった1症例. 第77回日本胃癌学会総会, 2005. 5.
- 8) 大川敬一, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 堀場光二, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科): 食道癌術後の気管支肺胞洗浄液(BALF)中のIL-8と術後肺機能の評価. 第20回日本Shock学会総会, 2005. 5.
- 9) 山田岳史, 益田律子<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 古山めぐみ<sup>3)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 伊藤由紀子<sup>3)</sup>, 吉沢一巳<sup>4)</sup>, 木本陶子<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>同看護部, <sup>4)</sup>同薬剤部): 緩和ケアにおける知識・意識: 現状調査と, 現状分析をもとに実施した学習会の評価. 第10回日本緩和医療学会総会, 2005. 6.
- 10) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀨谷知子, 堀場光二, 山田岳史, 白川 毅, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌における5-FU代謝関連酵素の検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 11) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀨谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 小泉岐博, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 5FU関連酵素OPRT, DPD, TSと5FUの抗腫瘍効果の関連: CD-DSTを用いて. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 12) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀨谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸腺癌における抗VEGF療法の可能性の検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 13) 寺西宣央<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌の増殖転移におけるnestin陽性微小血管の役割. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 14) 吉岡正人, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威, 吉田 寛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝動脈-門脈短絡路(A-Pシャント)が原因となった, 門脈圧亢進症に伴った難治性腹水の1症例. 第12回日本門脈圧亢進症学会総会, 2005. 9.
- 15) 瀨谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 出血をきたした胃GIST症例の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 16) 小泉岐博, 田中宣威, 山下精彦, 横井公良, 瀨谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 進士誠一, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理, <sup>2)</sup>外科学第1): 肝動注療法を行った大腸癌肝転移症例の臨床病理学的因子とTS, DPD発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.

- 17) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清恵<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7/Villinの発現. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 18) 横井公良, 田中宣威, 長谷川博一, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山下精彦, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): GISTに対する悪性度の判定基準に関する新提案. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 19) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清恵<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 大腸癌におけるE-cadherin発現の臨床的意義. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 20) 横井公良, 田中宣威, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 再発小腸GISTに対し, Glivecの低用量投与にて著効を示した1例. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 21) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 長谷川博一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 化学療法による遅延性悪心・嘔吐および食欲低下と血清サブスタンスP値の推移. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 22) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 大秋美治<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 術前診断に難渋した直腸悪性黒色腫の1例. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 23) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 工藤秀徳, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌におけるCPT-11の効果とTS活性の関係. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 24) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清恵<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 大腸低分化腺癌における脈管侵襲判定の意義. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.
- 25) 大川敬一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 小泉岐博, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 食道癌術後無気肺と胸水貯留, 気胸を繰り返し認めた1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 26) 堀場光二, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 大川敬一, 峯田 章, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 長谷川博一, 京野昭二: 乳癌術後5年目の肺転移に対しPaclitaxelが著効した1症例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 27) 白川 毅, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 大川敬一, 山田岳史, 吉岡正人, 小泉岐博, 山下精彦, 岡田 進<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 藤平威夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>3)</sup>栗山中央病院): 小腸が盲嚢から小網異常裂孔に脱出嵌頓した大網裂孔ヘルニアの1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 28) 進士誠一<sup>1)</sup>, 古川清恵<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術後1年2ヶ月の長期経過後に発症した急性虫垂炎遺残膿瘍の1例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 29) 工藤秀徳, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 吉岡正人, 小泉岐博, 峯田 章, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 当院における胃癌姑息手術症例の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 30) 小泉岐博, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 大川敬一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 峯田 章, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 十二指腸断端の縫合不全に対する内視鏡を用いた経鼻的catheter duodenostomyの1治療例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 31) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大川敬一, 堀場光二, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>)外科学第1): リトラクターを用いた鎖骨牽引による頸部側からの食道癌の頸部・反回神経周囲リンパ節郭清．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 32) 進士誠一，田中宣威，瀬谷知子，横井公良，石川紀行，堀場光二，金沢義一，山田岳史，白川 毅，大川敬一，金子昌裕，工藤秀徳，小泉岐博，吉岡正人，大秋美治<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>外科学第1): 上部・下部直腸癌pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義．第64回大腸癌研究会，2006．1．
- 33) 小泉岐博，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，金沢義一，大川敬一，山田岳史，白川 毅，工藤秀徳，吉岡正人，進士誠一：当科における腹腔鏡下S状結腸切除術．第11回千葉胸・腹腔鏡下手術研究会，2006．1．
- 34) 山田岳史，益田律子<sup>1)</sup>，三浦剛史<sup>2)</sup>，藤岡久恵<sup>3)</sup>，吉澤一巳<sup>4)</sup>，木本陶子<sup>4)</sup>，田中宣威(<sup>1</sup>)千葉北総病院麻酔科，<sup>2)</sup>同泌尿器科，<sup>3)</sup>同看護部，<sup>4)</sup>同薬剤部): 緩和ケア卒後学習の重要性：知識調査を元に計画した学習会の評価．第6回千葉県緩和医療研究会，2006．2．
- 35) 山田岳史，田中宣威，横井公良，石川紀行，金沢義一，白川 毅，大川敬一，田尻 孝<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)外科学第1): Paclitaxel/CDDP療法にて腹水が消失した進行胃癌の3例．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 36) 金沢義一，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，山田岳史，白川 毅，大川敬一，工藤秀徳，吉岡正人，小泉岐博，山下精彦，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)外科学第1): 胃癌における5-FU関連酵素の臨床病理学的検討．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2 外科 ( 内分泌外科 , 心臓血管外科 , 呼吸器外科 ) ・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科, 第二病院外科, 第二病院消化器病センター, 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育, 研究, 診療を担っている。

付属病院第二外科では, 以下の項目を重点的に研究している。

1) 心臓血管外科部門では, 冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療, 心房細動を中心とした不整脈外科, 心筋保護法, 小児開心術術式等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる。

2) 呼吸器外科領域では, 肺癌外科治療を中心に年間約200例の手術を施行している。肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢者, 低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な結果をあげ, 国内外で評価を受けている。併せて分子生物学, 遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。さらに肺縦隔良性疾患, 多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実践し, 社会的に貢献している。

3) 内分泌外科領域では, 甲状腺, 副甲状腺, 副腎および乳腺疾患を対象に年間約200例の手術を行っている。1998年からは内視鏡下手術として, 副腎はもとより甲状腺, 副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery (VANS法) を国内外で最も早く取り組み, 高度先進医療として国から認められている。全国各地からの紹介患者も多く, また, 海外からの評価も高く, 国際学会での発表, ライブ手術も頻回に行っている。さらには, 遺伝子学を中心に基礎研究も積極的に行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yajima T, Yamada K, Okubo N, Nitta T, Ochi M, Shimizu K: Effects of muscle potential depression and muscle stimulation caused by different insulation coating configurations on cardiac pacemakers. The Japanese Society for Artificial Organs 2005 2005; 8(1): 47-50.
- 2) Ishii Y<sup>1)</sup>, Schuessler R<sup>1)</sup>, Gaynor S<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Fu A<sup>1)</sup>, Boineau J<sup>1)</sup>, Damiano R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Washington University School of Medicine): Inflammation of the atrium following cardiac surgery is associated with inhomogeneity of atrial conduction and atrial fibrillation. Circulation 2005; 111: 2881-2888.
- 3) Mikami I, You L, He B, Xu Z, Batra S, Lee A, Mazieres J, Reguart N, Uematsu K, Koizumi K, Jablons D (<sup>1)</sup> Department of Surgery, UCSF Cancer Center): Efficacy of Wnt-1 monoclonal antibody in sarcoma cells. BMC Cancer 2005; 24(5): 1-7.
- 4) Ganor S<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Diodato M<sup>1)</sup>, Prasad S<sup>1)</sup>, Barnett K<sup>1)</sup>, Damiano N<sup>1)</sup>, Wickline SA<sup>1)</sup>, Schuessler R<sup>1)</sup>, Damiano R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Washington University School of Medicine): Successful performance of the Cox-Maze procedure on the beating heart without cardiopulmonary bypass: A chronic animal study using bipolar radiofrequency ablation. Ann Thorac Surg 2005; 78: 1071-1077.
- 5) Kobayashi J<sup>1)</sup>, Tashiro T<sup>2)</sup>, Ochi M, Yaku H<sup>3)</sup>, Watanabe G<sup>4)</sup>, Satoh T<sup>5)</sup>, Tagusari O<sup>1)</sup>, Nakajima H<sup>1)</sup>,

- Kitamura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Cardiovascular Surgery, National Cardiovascular Center , <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, University of Fukuoka School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto Prefectural University of Medicine , <sup>4)</sup> Department of General and Cardiothoracic Surgery, Kanazawa University School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Preventive Medicine and Public Health, Kitasato University School of Medicine ): Early Outcome of a Randomized Comparison of Off-Pump and On-Pump Multiple Arterial Coronary Revascularization . *Circulation* 2005 ; 112 ( 9 ): 338-343 .
- 6 ) Gaynor S<sup>1)</sup> , Diodato M<sup>1)</sup> , Prasad S<sup>1)</sup> , Ishii Y<sup>1)</sup> , Schuessler R<sup>1)</sup> , Bailey M<sup>1)</sup> , Damiano N<sup>1)</sup> , Bloch J<sup>1)</sup> , Damiano R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Washington University School of Medicine ): A prospective, single center clinical trial of a modified Cox-Maze procedure using bipolar radiofrequency ablation. *J Thorac Cardiovasc Surg* . *J Thorac Cardiovasc Surg* 2005 ; 128 : 535-542 .
- 7 ) Predescu D<sup>1)</sup> , Predescu S<sup>1)</sup> , Shimizu J<sup>1)</sup> , Miyawaki-Shimizu K<sup>1)</sup> , Malik AB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine ): Constitutive eNOS-derived nitric oxide is a determinant of endothelial junctional integrity . *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol*. 2005 ; 289 ( 3 ): L371-L381 .
- 8 ) Srinivasan R<sup>1)</sup> , Balow JE<sup>1)</sup> , Sabnis S<sup>1)</sup> , Lundqvist A<sup>1)</sup> , Igarashi T , Takahashi Y<sup>1)</sup> , Austin H<sup>1)</sup> , Tisdale J<sup>1)</sup> , Barrett J<sup>1)</sup> , Geller N<sup>1)</sup> , Childs R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NIH/NHLBI ): Nephrotic syndrome : an under-recognised immune-mediated complication of non-myeloablative allogeneic haematopoietic cell transplantation. . *Br J Haematol* 2005 ; 131 ( 1 ): 74-79 .
- 9 ) Savani BN<sup>1)</sup> , Srinivasan R<sup>1)</sup> , Espinoza DI<sup>1)</sup> , Dorrance C<sup>1)</sup> , Takahashi Y<sup>1)</sup> , Igarashi T , Rezvani K<sup>1)</sup> , Lundqvist A<sup>1)</sup> , Barrett J<sup>1)</sup> , Childs R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NIH/NHLBI ): Treatment of relapsed blast-phase Philadelphia-chromosome-positive leukaemia after non-myeloablative stem-cell transplantation with donor lymphocytes and imatinib . *Lancet Oncol* 2005 ; 6 ( 10 ): 809-812 .
- 10 ) Gaynor S<sup>1)</sup> , Schuessler R<sup>1)</sup> , Bailey M<sup>1)</sup> , Ishii Y<sup>1)</sup> , Boineau J<sup>1)</sup> , Gleva M<sup>1)</sup> , Cox J<sup>1)</sup> , Damiano R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Washington University School of Medicine ): Surgical treatment of atrial fibrillation : Predictors of late recurrence . *J Thorac Cardiovasc Surg* 2005 ; 129 : 104-111 .
- 11 ) Predescu S<sup>1)</sup> , Predescu P<sup>1)</sup> , Miyawaki-Shimizu K<sup>1)</sup> , Klein IK<sup>1)</sup> , Malik AB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine ): Cholesterol-dependent syntaxin-4 and SNAP-23 clustering regulates caveolar fusion with the endothelial plasma membrane . *J Biol Chem* 2005 ; 280 ( 44 ): 37130-37138 .
- 12 ) Fujii M , Chambers D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas ' Hospital ): Myocardial protection with intermittent cross-clamp fibrillation : does preconditioning play a role? . *European Journal of Cardio-thoracic Surgery* 2005 ; 28 ( 6 ): 821-832 .
- 13 ) John P<sup>1)</sup> , Davy C<sup>2)</sup> , John K<sup>3)</sup> , Gianni A<sup>4)</sup> , Ochi M , Et AL ( <sup>1)</sup>Division of Cardiothoracic Surgery, Emory University , <sup>2)</sup> Department of Anesthesia&Perioperative Medicine, London Health Sciences Centre , <sup>3)</sup> Cardiothoracic Surgical Unit, Flinders Medical Center , <sup>4)</sup> Bristol Heart Institute, University of Bristol , ): Off-Pump versus Conventional Coronary Artery Bypass Grafting : A Meta-Analysis and Consensus Statement From The 2004 ISMICS Consensus Conference . *Innovations* 2005 ; 1 ( 1 ): 3-27 .
- 14 ) Koizumi K , Haraguchi S , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Yamagishi S , Okada D , Kinoshita H , Nakajima Y , Shimizu K : Surgical Treatment for Superior Sulcus Tumor . *Surgery Today* 2005 ; 35 ( 5 ): 357-363 .
- 15 ) Koizumi K , Haraguchi S , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Okada D , Ysmagishi S , Kawashima T , Kinoshita H , Enomoto Y , Nakajima Y , Shimizu K : Surgical Treatment for Lung Cancer Patients with Poor Pulmonary Function . *Ann Thorac Caridiovasc Surg* 2005 ; 11 ( No2 ): 87-92 .
- 16 ) Sakamoto S , Nitta T , Ishii Y , Miyagi Y , Ohmori H , Shimizu K : Interatrial Electrical Connections : The Precise Location and Preferential Conduction . *J Cardiovasc Electrophysiol* 2005 ; 16 : 1077-1086 .



- 17) Ganor S<sup>1)</sup>, Byrd G<sup>1)</sup>, Diodato M<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Lee A<sup>1)</sup>, Prasad S<sup>1)</sup>, Gopal J<sup>1)</sup>, Schuessler R<sup>1)</sup>, Damiano R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Washington University School of Medicine ): Microwave Ablation for Atrial Fibrillation : Dose-Response Curves in the Cardioplegia-Arrested and Beating Heart. . Ann Thorac Surg 2006 ; 81 : 72-76 .
- 18) Miyawaki-Shimizu K<sup>1)</sup>, Predescu D<sup>1)</sup>, Shimizu J<sup>1)</sup>, Broman M<sup>1)</sup>, Predescu S<sup>1)</sup>, Malik AB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pharmacology, Univ. of Illinois College of Medicine ): siRNA-induced caveolin-1 knockdown in mice increases lung vascular permeability via the junctional pathway . Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2006 ; 290 ( 2 ): L405-L413 .
- 19) Uruno T<sup>1)</sup>, Miyauchi A<sup>1)</sup>, Shimizu K, Tomoda C<sup>1)</sup>, Takamura Y<sup>1)</sup>, Ito Y<sup>1)</sup>, Miya A<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Matsuzuka F<sup>1)</sup>, Amino N<sup>2)</sup>, Kuma K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Kuma Hospital , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Kuma Hospital ): A Prophylactic Infusion of Calcium Solution Reduces the Risk of Symptomatic Hypocalcemia in Patients after Total Thyroidectomy . World Journal of Surgery 2006 ; 30 ( 3 ): 304-308 .
- 20) Kurita T, Mitamura H, Aizawa Y, Nitta T, Aomura K, Tsuboi N, Chinushi M, Kobayashi Y, Soejima K, Satomi K, Furushima H, Ohe T, Ogawa S, Kodama I, Ohtsu H, Yamazaki T : Japanese Randomized Trial for Investigation of a Combined Therapy of Amiodarone and Implantable Cardioverter Defibrillator in Patients With Ventricular Tachycardia and Fibrillation : The Nippon ICD Plus Pharmacologic Option Necessity ( NIPPON ) Study Design . Circ J 2006 ; 70 : 316-320 .
- 21) 北川 亘, 清水一雄 : 内視鏡下手術 . 診断と治療 2005 ; 93 ( 7 ): 1143-1146 .
- 22) 秋丸琥甫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 移植外科 ): 生体肝移植の問題点 : 特に過小グラフト対策について . 日医大医学会誌 2005 ; 1 ( 4 ): 156-160 .
- 23) 長嶺義哲<sup>1)</sup>, 鳥羽博明<sup>1)</sup>, 藤谷健二<sup>1)</sup>, 村山良太<sup>1)</sup>, 宮里恵子<sup>1)</sup>, 蔵下 要<sup>1)</sup>, 亀山眞一郎<sup>1)</sup>, 伊志嶺朝成<sup>1)</sup>, 古波倉史子<sup>1)</sup>, 新里誠一郎<sup>1)</sup>, 福本泰三<sup>2)</sup>, 北川 亘<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 浦添総合病院外科, <sup>2)</sup> 同呼吸器外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学第2 ): VANS ( video-Assisted Neck Surgery ) 内視鏡補助下甲状腺手術17例の経験 . 沖縄医学会雑誌 2005 ; 44 ( 2 ): 71-75 .
- 24) 平井恭二, 小泉 潔, 落 雅美, 山田研一, 栗田二郎, 平田知己, 山岸茂樹, 川島徹生, 岡田大輔, 榎本 豊, 中島由貴, 清水一雄 : 塵肺合併肺癌肺切除ならびにOPCABG同時手術の経験 . 胸部外科 2005 ; 58 : 51-54 .
- 25) 赤石純子<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ): 乳癌におけるゲノム・遺伝子情報解析の進展 : 乳癌の個性と予後予測システム . Mamma 2005 ; ( 51 ): 11-13 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) Nitta T : Surgery for atrial fibrillation . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2005 ; 11 ( 3 ): 154-158 .
- 2) Harada A, Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Yamagishi S, Kawashima T, Enomoto Y, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Shimizu K ( <sup>1)</sup> Department of Pathology 1 ): Expression of EMS-1/Cortactin and molecular characterization in lung adenocarcinoma . Cytometry Research 2006 ; 16 ( 1 ): 55-59 .
- 3) 清水一雄 : 特集 乳腺内視鏡外科手術の適応とその限界 : 乳腺内視鏡外科手術 . 日鏡外会誌 2005 ; 10 ( 2 ): 141-142 .
- 4) 新田 隆 : 心房細動 - 治療の悩みとコツ : 外科治療の展望 . Heart View 2005 ; 9 ( 4 ): 484-489 .
- 5) 赤須東樹, 清水一雄 : 甲状腺良性結節の手術 : 甲状腺片葉切除術 . 日本外科学会雑誌 2005 ; 106 ( 5 ): 362-363 .
- 6) 落 雅美 : Penetrating atherosclerotic ulcer : 1 . 発生機序と臨床的特徴 . 日本醫事新報 2005 ; ( 4232 ): 93-95 .
- 7) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美 : 特集 甲状腺外科-新たな知見に基づく治療戦略 : 甲状腺鏡視下手術の実際と展望 . 外科治療 2005 ; 93 ( 2 ): 193-198 .
- 8) 新田 隆 : 心房細動の外科治療 . HEART nursing 2005 ; 18 ( 8 ): 843-850 .

- 9) 落 雅美：慢性血液透析患者に対する冠動脈バイパス術．日本集中治療医学会雑誌 2005；12(4)：376-378．
- 10) 石井庸介，新田 隆：心房細動手術の現状と将来．循環器科 2005；58：73-77．
- 11) 小泉 潔：肺癌を除く胸腔内腫瘍の診療の現況 良性肺腫瘍．呼吸器科 2005；8(3)：189-197．
- 12) 清水一雄：特集：癌に対する低侵襲ならびに機能温存・再建手術 I. 甲状腺癌 1. 内視鏡下手術．外科 2006；68(1)：1-6．
- 13) Maruyama Y, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ogasawara H, Imura H<sup>1)</sup>, Ochi M, Shimizu K ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): Surgical experience of subacute pulmonary thromboembolism with severe pulmonary hypertension. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006；12(1)：60-62．
- 14) Kubokura H<sup>1)</sup>, Koizumi K, Yoshino N<sup>1)</sup>, Harada A, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Shimizu K ( <sup>1)</sup>Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital ): Establishment of the New Adjuvant Therapy using CD40-CD40Ligand Stimulation after Surgery for Lung Cancer. J Nippon Med Sch 2006；73(1)：42-44．
- (3) Reply to the Editor：
- 1) Nitta T：Atrial fibrillation：Isolation or ablation? . J Thorac Cardiovasc Surg 2005；130(1)：234-234．
- (4) 症例報告：
- 1) Hirai K, Koizumi K, Hirata T, Yamagishi S, Shimizu K, Kawamoto M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Pathology 1): Basaloid carcinoma of the lung. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005；53(5)：263-265．
- 2) Yamagishi S, Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Kurita J, Shimizu K：Experience of Thoracoscopic Extirpation of Intrapulmonary Lymphangioma. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005；53(6)：313-316．
- 3) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，田中久美：VANS法による内視鏡補助下甲状腺全摘除術．手術 2005；59(9)：1303-1307．
- 4) Yoshino N<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Koizumi K, Shimizu K ( <sup>1)</sup>Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital ): Lymphoepithelioma-like Carcinoma of the Lung Case in which the Patient Has Been Followed Up for 7 Years Postoperatively. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005；53(12)：653-656．
- 5) Fukushima M, Homma K<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>2)</sup>, Suzuki R<sup>2)</sup>, Koike T<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Niigata Cancer Center, <sup>2)</sup>Department of Thoracic Surgery, Niigata Cancer Center ): Histologically unique case of combined small cell and squamous cell carcinoma in a polypoid bronchial tumor. Pathol Int 2005；55(12)：785-791．
- 6) Koizumi K, Haraguchi S, Mikami I, Kubokura H, Okada D, Yamagishi S, Kinoshita H, Enomoto Y：Video-assisted Thoracic Surgery for Ewing's Sarcoma of the Mediastinum in a 3-Year-Old Girl. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2005；11(2)：117-120．
- 7) Yamauchi S<sup>1)</sup>, Maruyama Y<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>1)</sup>, Imura H<sup>1)</sup>, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Iwaki H<sup>1)</sup>, Yamashita H<sup>1)</sup>, Shimizu K ( <sup>1)</sup>Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Surgical Treatment of Free-floating Thrombi in the Right Side of the Heart in Patients with Pulmonary Thromboembolism. J Nippon Med Sch 2006；73(1)：33-37．
- 8) 北川 亘，軸菌智雄，赤須東樹，杉野公則<sup>1)</sup>，伊藤公一<sup>1)</sup>，清水一雄 ( <sup>1)</sup>伊藤病院 ): 前頸部皮膚吊り上げ法を用い内視鏡補助下甲状腺全摘術を施行した多発性内分泌腺腫瘍症 (MEN) 2A型の1例．外科 2005；67(10)：1203-1207．
- 9) 中山景介，岡田大輔，小泉 潔，中島由貴，飯島慶仁，清水一雄：埋没型孤立性線維性腫瘍の1例．呼吸器外科学会雑誌 2006；20(1)：91-96．
- 10) 中山景介，岡田大輔，小泉 潔，中島由貴，飯島慶仁，清水一雄：胸腔鏡下に摘出し得た巨大後縦隔脂肪種の1例．呼吸器外科学会雑誌 2006；20(2)：175-179．

(5) 研究報告書：

- 1) 相澤義房, 奥村 謙, 山口 徹, 笠貫 宏, 小川 聡, 井上 博, 堀江 稔, 鎌倉史郎, 大江 透, 平岡唱和, 古賀義則, 池主雅臣, 新田 隆, 清水 歩, 住友直方, 吉沢正夫 (不整脈死の予知と予防ガイドライン作成班): 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2003-2004年度合同研究班報告) 心臓突然死の予知と予防法のガイドライン. Circulation Journal 2005; 69: pp1209-1265.

著 書

- 1) 別所竜蔵, 田中茂夫: [分担] 植込型除細動器. エキスパートナース Mook, SELECT, 新版 心電図マニュアル (早川弘一), 2004; pp168-174, 照林社.
- 2) 新田 隆: [分担] ICDの適応: 欧米との違い. ガイドラインに基づいた 最新 ペースメーカー・ICD 植込みと管理 (田中茂夫, 笠貫 宏), 2005; pp27-34, 南江堂.
- 3) 新田 隆: [分担] ICDの植込み手技と条件設定. ガイドラインに基づいた 最新 ペースメーカー・ICD 植込みと管理 (田中茂夫, 笠貫 宏), 2005; pp169-181, 南江堂.
- 4) 新田 隆: [分担] maze手術の不整脈治療効果. 心不全と不整脈 - 慢性心不全の生命予後改善のために (笠貫 宏, 松崎益徳), 2005; pp225-232, 南江堂.
- 5) 新田 隆: [分担] 非薬物療法: (2) 心室頻拍の外科治療. 最新医学 別冊新しい診断と治療のABC: 期外収縮・発作性頻拍 (井上 博), 2005; pp183-190, 最新医学社.
- 6) 清水一雄: [分担] 再現 医師国家試験問題解説書・必修篇. 第99回 再現 医師国家試験問題解説書・必修篇 (再現医師国家試験問題解説書編集委員会), 2005; (株) 医学評論社.
- 7) 新田 隆: [分担] 手術療法. 新目でみる循環器病シリーズ 不整脈 (小川 聡), 2005; pp208-221, メジカルビュー.
- 8) 新田 隆: [分担] 成人先天性心疾患に合併する不整脈の外科治療. 新目でみる循環器病シリーズ 成人先天性心疾患 (丹羽公一郎, 中澤 誠), 2005; pp208-215, メジカルビュー.
- 9) 新田 隆: [分担] 心房細動に対する外科治療. 心臓外科 Knack & Pitfalls: 弁膜症外科の要点と盲点 (高本眞一, 四津良平), 2005; pp109-113, 文光堂.
- 10) 新田 隆: [分担] 心房細動に対する外科治療. 心臓外科 (新井達太), 2005; pp450-459, 医学書院.
- 11) 平田知己: [分担] CASE 30 繰り返す肺炎を主訴として来院した49歳男性. 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 9 (工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志), 2005; pp313-319, 日本医事新報社.
- 12) 平田知己: [分担] CASE 31 労作時呼吸困難, 血痰を主訴に来院した33歳女性. 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 9 (工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志), 2005; pp320-328, 日本医事新報社.
- 13) 石井庸介, 新田 隆: [共著] 心房細動と外科手術. 新・心臓病診療プラクティス 心電図で診る・治す (清水明彦・笠貫 宏), 2006; pp279-283, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Tanaka K, Fukunari N<sup>1)</sup>, Igarashi T, Akasu H, Shimizu K, Ito K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Showa University Northern Hospital, <sup>2)</sup> Ito Hospital ): Clinical Evaluation of Thyroid Tumor with Real-time Tissue Elastography. The 17th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2006. 1.
- 2) 小泉 潔: 肺癌外科治療の今昔. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 3) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 吉野直之<sup>1)</sup>, 原田明希摩, 山内茂生<sup>1)</sup>, 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): CD40-CD40Ligandを用いた肺癌術後における Adjuvant 療法の有効性の検討 (丸山記念研究助成金受賞記念講演). 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.

- 4) 小泉 潔：肺癌外科治療の今昔．第14回京滋賀内視鏡研究会，2005．10．
- 5) 落 雅美：Off Pump Coronary Artery Bypass．第21回循環器内科・外科フォーラム，2006．3．

(2) 招待講演：

- 1) Shimizu K：Clinical Study on Totally Gasless Endoscopic Thyroidectomy based on over 300 Cases of Experience．The Korean Association of Endocrine Surgeons (Seoul, Korea)，2005．9．
- 2) Nitta T：AF Surgery is Indicated after Two Procedures of Catheter Ablation for AF．Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Seoul, Korea)，2005．12．
- 3) 新田 隆：肺静脈反復性興奮と細動様伝導．九州EP研究会，2005．4．
- 4) 新田 隆：心房細動の外科治療．さが"Circulation"シンポジウム，2005．7．
- 5) 新田 隆：心房細動への新たな外科的アプローチ．日和山セミナー，2005．7．
- 6) 新田 隆：心房細動の外科治療．三重胸部外科講演会，2006．1．

(3) 教育講演：

- 1) Nitta T：Is Map-guided Atrial Fibrillation Surgery the Answer to Our Problems?．ISMICS (International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery)：Postgraduate Course：5th Annual Surgical Treatment for Atrial Fibrillation (New York)，2005．5．
- 2) Nitta T, Kambe M, Maruyama Y, Ohmori H, Miyagi Y, Fujii M, Ishii Y, Bessho R, Kanno S, Yajima T, Ochi M：AF Surgery：The Optimal Lesion Set and Preferred Ablation Device：Map-Directed Lesson Set．Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Seoul, Korea)，2005．12．
- 3) 新田 隆：How to session：ICD植込み手技．第21回日本心臓ペースティング電気生理学会学術大会，2005．5．
- 4) 新田 隆：植込み時トラブルシューティング．植込み型除細動器 (ICD) 研修セミナー，2005．5．
- 5) 新田 隆：心房細動外科治療の最前線 Techniques & Pitfalls．九州大学講演会，2005．11．

(4) シンポジウム：

- 1) Ochi M, Kanno S, Bessho R, Yamada K, Ishii Y, Fujii M, Maruyama Y, Kanbe M, Shimizu K：Off-Pump CABG, Up-to-Date：OPCAB as a Tool in the Drug Eluting Stent Era．18th Annual Meeting World Society of Cardio-Thoracic Surgeons -Japan Chapter-, 2005．7．
- 2) Shimizu K：Video-assisted and Endoscopic Thyroidectomy．10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (Hong Kong)，2006．3．
- 3) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 宮城泰雄, 大森裕也, 落 雅美, 清水一雄：弁膜症に合併した心房細動に対する治療戦略．第21回日本医工学治療学会，2005．5．
- 4) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 宮城泰雄, 大森裕也, 落 雅美, 清水一雄：新しいアブレーションデバイスをういた心房細動のPitfallと問題点．第21回日本心臓ペースティング・電気生理学会学術大会，2005．5．
- 5) 阿部治彦<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>(1)</sup>福岡大学第二内科)：不整脈患者の運転と就労に関する諸問題 ICD患者の就労に関する問題点と実態調査．第21回日本心臓ペースティング電気生理学会学術大会，2005．5．
- 6) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 宮城泰雄, 大森裕也, 落 雅美, 清水一雄：進化する心房細動手術新しいアブレーションデバイスをういた心房細動手術のPitfallと問題点．第21回日本心臓ペースティング電気生理学会学術大会，2005．5．
- 7) 宮内靖史, 小林義典, 堀江 格, 岡崎怜子, 丸山光紀, 谷口宏史, 岩崎雄樹, 上野 亮, 平澤泰宏, 小鹿野道雄, 館岡克彦, 小原俊彦, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田 隆, 大森裕也 清水一雄：特殊疾患・特殊病態に伴う不整脈に対するカテーテル・アブレーション複雑心房切開術による開心術後に発症した心房頻拍の特徴とカテーテルアブレーション．第21回日本心臓ペースティング電気生理学会学術大会，2005．5．
- 8) 落 雅美, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 丸山雄二, 神戸 将：Drug Eluting Stent時代を迎えた虚血性心

疾患の外科治療．第30回日本外科系連合学会学術集会，2005．6．

9) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，田中久美，五十嵐健人：70歳以上の高齢者甲状腺乳頭癌手術症例の検討（高齢者甲状腺癌）．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．

10) 新田 隆：Knack and Pitfalls in AF Surgery．葉山ハートセミナー，2006．1．

11) 平田知己，山岸茂樹，川島徹生，平井恭二，小泉 潔，清水一雄：IP合併肺癌の術後急性増悪に関するリスクファクターの解析（呼吸器合併症を有する肺癌の治療）．第106回日本外科学会総会，2006．3．

(5) パネルディスカッション：

1) 北川 亘，赤須東樹，田中久美，清水一雄：甲状腺結節に対するVANS法の評価（甲状腺結節に対するminimum invasive surgeryの評価）．第105回日本外科学会総会，2005．5．

2) 丸山雄二，落 雅美，神戸 将，大森裕也，藤井正大，宮城泰雄，石井庸介，別所竜蔵，菅野重人，清水一雄：再手術例に対するOPCABの戦略：胸骨切開を回避する術式の工夫（開存グラフトを有する症例における再冠動脈バイパス術）．第19回日本冠疾患学会学術集会，2005．12．

(6) セミナー：

1) Shimizu K：Video-Assisted Neck Surgery（VANS Method）for Thyroid and Parathyroid Diseases Using Gasless Lifting Procedure 313 Cases of Experience．10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons（Hong Kong），2006．3．

(7) ランチョンセミナー：

1) 落 雅美：多枝OPCABにおけるハートポジショニングのテクニック：テナクルズの使用経験．第58回日本胸部外科学会総会，2005．10．

(8) ワークショップ：

1) 平井恭二，小泉 潔，平田知己，山岸茂樹，川島徹生，岡田大輔，榎本 豊，清水一雄：間質性肺炎合併肺疾患の周術期管理と急性増悪時の対策について．第22回日本呼吸器外科学会総会，2005．6．

2) 平田知己，小泉 潔，原田明希摩，平井恭二，川島徹生，山岸茂樹，榎本 豊，清水一雄，窪倉浩敏<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，原口秀司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器外科，<sup>2)</sup>第二病院外科）：アクチン脱重合因子・コフィリンによる肺癌細胞株の運動能の抑制．第64回日本癌学会総会，2005．9．

3) 平井恭二，小泉 潔，飯島慶仁，榎本 豊，川島徹生，清水一雄：当科における若手呼吸器外科医に対する胸腔鏡下手術教育について．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．

(9) 一般講演：

1) Kambe M，Akasu H，Kitagawa W，Tanaka K，Jikuzono T，Tani A，Sshimizu K<sup>1)</sup>，Kobayashi E<sup>1)</sup>，Sakuma I<sup>1)</sup>，Iseki H<sup>2,3)</sup>，Muragaki Y<sup>2)</sup>，Maruyama T<sup>3)</sup>，Shimizu K（<sup>1)</sup>BioMedical Precision Engineering Lab.，Graduate School of Frontier Sciences，The University of Tokyo，<sup>2)</sup>Faculty of Advanced Techno-Surgery（FATS），Institute of Advanced Biomedical Engineering & Science，Graduate School of Medicine，Tokyo Women's Medical University，<sup>3)</sup>Dep. of Neurosurgery，Neurological Institute，Tokyo Women's Medical University）：Intraoperative photodynamic identification of human parathyroid gland using 5-ALA induced protoporphyrin IX．The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference（Ho Chi Minh City Saigon，Viet-Nam），2004．9．

2) Hirai K，Koizumi K，Hirata T，Yamagishi S，Harada A，Shimizu K，Kawamoto M：Prognostic significance of the tumor suppressor gene maspin in non-small lung cancer．96th Annual Meeting AACR（Anheim USA），2005．4．

3) Okamoto J<sup>1)</sup>，Onda M<sup>1)</sup>，Miya F<sup>2)</sup>，Hirata T，Miyamoto S<sup>1)</sup>，Asaka S<sup>1)</sup>，Akaishi J<sup>1)</sup>，Harada A，Mikami I，Hirai K（<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Biology，Institute of Gerontology，Nippon Medical School，<sup>2)</sup>SNP Research Center，RIKEN（Institute of Physical and Chemical Research））：Up-Regulation of UDSL-1（Up-regulation

- gene in Double and Second primary Lung Cancer 1 ) Is Stepping on the Accelerator for Lung Double Cancer and Second Primary Lung Cancer . American association for cancer research ( AACR ) 96th Annual meeting ( Anaheim, USA ), 2005 . 4 .
- 4 ) Ishii Y , Gaynor S<sup>1)</sup> , Schuessler R<sup>1)</sup> , Boineau J<sup>1)</sup> , Damiano R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Washington University School of Medicine ): Inflammation of the atrium following cardiac surgery is associated with inhomogeneity of atrial conduction . World Society of Cardio-thoracic surgeons XVIII annual meeting ( Karuizawa ), 2005 . 5 .
- 5 ) Suzuki S , Egami K<sup>1)</sup> , Sasajima K<sup>1)</sup> , Ghazizadeh M<sup>2)</sup> , Shimizu H<sup>2)</sup> , Watanabe H , Miyamoto M<sup>1)</sup> , Yokoyama T<sup>1)</sup> , Maruyama H<sup>1)</sup> , Matsutani T<sup>1)</sup> , Nagasawa S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>3)</sup> , Matsuda T<sup>4)</sup> , Okihama Y<sup>4)</sup> , Matsuhisa T<sup>4)</sup> , Kawanami O<sup>2)</sup> , Tajiri T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hosp. , Nippon Medical School, Tokyo , <sup>2)</sup> Dept. of Molecular Pathology, Inst. of Gerontology, Nippon Medical School, Kanagawa , <sup>3)</sup> Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hosp. , Nippon Medical School, Tokyo , <sup>4)</sup> Dept. of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hosp. , Nippon Medical School, Tokyo , <sup>5)</sup> The First Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo ): Relationship between DNA copy number aberrations determined by quantitative microsatellite analysis and clinical outcome in patients with stomach cancer . 6 th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama ), 2005 . 5 .
- 6 ) Fujii M , Bessho R , Ochi M , Shimizu K , Chambers D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas ' Hospital ): Myocardial protection and esmolol : optimal concentration and administration in blood-perfused rat hearts . 25th European section meeting of international society for heart research ( Tromso, Norway ), 2005 . 6 .
- 7 ) Kanno S , Betsuyaku T<sup>1)</sup> , Nitta T , Sasaki T , Ohmori H , Ochi M , Shimizu K , Saffitz Jeffrey E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University , <sup>2)</sup> Washington University ): Infarct healing and arrhythmias affected by gap junction remodeling in Cx43-deficient mice . Europace 2006 ( Czech Republic ), 2005 . 6 .
- 8 ) Tanaka K , Fukunari N<sup>1)</sup> , Igarashi T , Akasu H , Kitagawa W , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Ito Hospital ): Clinical Evaluation of Thyroid Tumor with Real-time Tissue Elastography . American Institute of Ultrasound in Medicine ( Orland, USA ), 2005 . 6 .
- 9 ) Fujii M , Kambe M , Maruyama Y , Ishii Y , Bessho R , Ochi M , Shimizu K , Nishina D<sup>1)</sup> , Chambers D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas ' Hospital ): Esmolol and cardioprotection : Does addition of esmolol to St Thomas ' Hospital cardioplegia enhance cardioprotection? . 18Th Annual Meeting-Japan Chapter-World Society of Cardio-Thoracic Surgeons ( Karuizawa, Nagano ), 2005 . 7 .
- 10 ) Hirai K , Koizumi K , Hirata T , Yamagishi S , Harada A , Shimizu K , Kawamoto M : Expression of L1CAM in non-small cell lung cancer . 11th World conference on lung cancer ( Spain ), 2005 . 7 .
- 11 ) Koizumi K , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Okada D , Yamagishi S , Kawashima T , Enomoto Y , Nakajima Y , Iijima Y , Shimizu K : Surgical Treatment of Lung Cancer combined with Interstitial Pneumonia-especially on Surgical Approach and Postoperative Acute Exacerbation . 11th IASLO International Association for Study of Lung Cancer ( Balcerona, Spain ), 2005 . 7 .
- 12 ) Okamoto J<sup>1)</sup> , Onda M<sup>1)</sup> , Hirata T , Miyamoto S<sup>1)</sup> , Asaka S<sup>1)</sup> , Akaishi J<sup>1)</sup> , Mikami I , Hirai K , Haraguchi S , Koizumi K , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School ): Comprehensive gene expression analysis of Lung Adenocarcinoma in Female with 30K oligo-nucleotide microarray . 第11回世界肺癌学会議 ( IASLC )( Barcelona, Spain ), 2005 . 7 .
- 13 ) Hirata T<sup>1)</sup> , Yamagishi S<sup>1)</sup> , Kawashima T<sup>1)</sup> , Miyamoto M<sup>2)</sup> , Egami K<sup>2)</sup> , Koizumi K ( <sup>1)</sup> Dept. of Thoracic Surgery, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School ): Estimation of less invasive surgery in VATS lobectomy for lung cancer spent

more than 1000ml of blood loss and/or more than 5 hours of duration of surgery . The congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2005 ( Hong - Kong ), 2005 . 8 .

- 14) Ohmori H , Nitta T , Bessho R , Ishii Y , Fujii M , Maruyama Y , Kanbe M , Ochi M , Shimizu K : Electrophysiological Mechanism of Atrial Fibrillation in a Novel Experimental Model of Left Atrial Volume Load . Asia Pacific Atrial Fibrillation Symposium ( Seoul ), 2005 . 12 .
- 15) Miyauchi K , Nitta T , Ishii Y , Ohmori H , Okazaki R , Maruyama M , Iwasaki Y , Taniguchi H , Horie T , Katoh T , Atarashi H , Takano T : Radiofrequency Catheter Ablation of Persistent Atrial Tachycardia Following Radial Procedure for Atrial Fibrillation. . Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium ( Seoul, Korea ), 2005 . 12 .
- 16) Tani A , Akasu H , Noguchi T , Tsuchiya R , Tanaka K , Igarashi T , Kitagawa W , Shimizu K : Two cases of pheochromocytoma with “ TAKOTSUBO ” -like cardiomyopathy . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 17) Tsuchiya R , Akasu H , Noguchi T , Tani A , Tanaka K , Igarashi T , Kitagawa W , Shimizu K : Intraoperative photodynamic evaluation of thyroid papillary carcinoma . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 18) Noguchi T , Akasu H , Tsuchiya R , Tani A , Tanaka K , Igarashi T , Kitagawa W , Shimizu K : Thyroid Metastatic Carcinoma From Renal Carcinoma Sixteen Years After Radical Nephrectomy ; A Case Report . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 19) Asayama I<sup>1)</sup> , Onose H<sup>1)</sup> , Ishikawa T<sup>1)</sup> , Yamada E<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>1)</sup> , Kitagawa W , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Kanaji Hospital ): Case of a Huge Adenomatous Goiter that Merged Follicular Carcinoma Accompanied with Lungs Metastasis. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 20) Yamashita K<sup>1)</sup> , Haraguchi S<sup>1)</sup> , Endo N<sup>1)</sup> , Takushima M<sup>1)</sup> , Kawamura J<sup>1)</sup> , Yamashita Y<sup>1)</sup> , Orii K<sup>1)</sup> , Hioki M<sup>1)</sup> , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, Second Hospital ): Video-Assisted Breast Surgery ( VABS ): Cosmetics and Treatment Results for 120 Cases. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 21) Tanji H<sup>1)</sup> , Uchida K<sup>1)</sup> , Haruta N<sup>1)</sup> , Iwamoto H<sup>1)</sup> , Asano K<sup>1)</sup> , Hayashi M<sup>1)</sup> , Hayashi T<sup>1)</sup> , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Takanobashi Central Hospital ): Usefulness of Intraoperative Parathyroid Hormone Analysis in Video-Assisted Parathyroid Surgery for Primary Hyperparathyroidism. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 22) Emoto N<sup>1)</sup> , Shimonaka M<sup>2)</sup> , Hayashi M<sup>2)</sup> , Matsui Y<sup>2)</sup> , Akasu H , Kitagawa W , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup> Department of Chemistry, Tokyo University of Science ): The Mitogenic Effect of Thyroglobulin Extracted from Bovine, Porcine and Human Thyroids on FRTL-5 Rat Thyroid Cells. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 23) Tsuchiya R , Akasu H , Noguchi T , Tani A , Tanaka K , Igarashi T , Kitagawa W , Shimizu K : Intraoperative Photodynamic Evaluation of Thyroid Papillary Carcinoma. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 24) Tani A , Akasu H , Noguchi T , Tsuchiya R , Tanaka K , Igarashi T , Kitagawa W , Shimizu K : Two Cases of Pheochromocytoma with “ TAKOTSUBO ” -like Cardiomyopathy. . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 25) Haraguchi S<sup>1)</sup> , Hioki M<sup>1)</sup> , Yamashita K<sup>1)</sup> , Koizumi K , Shimizu K ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Large Cell Neuroendocrine Carcinoma of The lung : A review of 15 Patients. .

- The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur ), 2006 . 1 .
- 26) Ishii R<sup>1)</sup>, Kameyama K<sup>1)</sup>, Yano Y<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Hirakawa S<sup>1)</sup>, Shibuya H<sup>1)</sup>, Nagahama M<sup>1)</sup>, Fukunari N<sup>1)</sup>, Sugino K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Shimizu K ( <sup>1</sup> Ito Hospital ): Primary Neurilemmoma of the Thyroid . The 17th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2006 . 1 .
- 27) Tanaka K , Fukunari N<sup>1)</sup>, Igarashi T , Akasu H , Shimizu K , Ito K<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> Department of Surgery, Showa University Northern Hospital , <sup>2</sup> Ito Hospital ): Evaluation of thyroid malignancy using real-time tissue elastography . European Congress of Radiology ( Wien, Austria ), 2006 . 3 .
- 28) Shimizu K : Video-assisted Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery : Prophylactic Technique for Complications Learned from 320 Cases Experience . 10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons ( Hong Kong ), 2006 . 3 .
- 29) Ishii R<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Kameyama K<sup>1)</sup>, Yano Y<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Hirakawa S<sup>1)</sup>, Shibuya H<sup>1)</sup>, Nagahama M<sup>1)</sup>, Fukunari N<sup>1)</sup>, Sugino K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Shimizu K ( <sup>1</sup> Ito Hospital ): Squamous Cell Carcinoma of the Thyroid . 10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons ( Hong Kong ), 2006 . 3 .
- 30) Ishii Y<sup>1)</sup>, Kronengold R<sup>2)</sup>, Virmani R<sup>3)</sup>, Gaynor S<sup>1)</sup>, Diodato M<sup>1)</sup>, Goldman S<sup>2)</sup>, Prechtel E<sup>2)</sup>, Rivera E<sup>3)</sup>, Damiano R<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Washington University School of Medicine , <sup>2</sup> Kensey Nash Corporation , <sup>3</sup> American Registry of Pathology ): A novel bio-engineered small caliber vascular graft incorporating sirolimus for coronary artery bypass grafting . 第105回日本外科学会総会 , 2005 . 5 .
- 31) 神戸 将, 新田 隆, 山内仁紫, 大森裕也, 藤井正大, 川瀬康裕, 落 雅美, 清水一雄: 成人心房中隔欠損症に合併した心房細動の外科治療 . 第7回成人先天性心疾患研究会, 2005 . 1 .
- 32) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 平田知己, 三上 巖, 原田明希摩, 平井恭二, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 宮本静代<sup>1)</sup>, 赤石純子<sup>1)</sup>, 原口秀司, 小泉 潔, 清水一雄 ( <sup>1</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ): マイクロアレイによる肺重複癌・異時性肺原発癌を増加させる遺伝子の同定 . 第2回日本癌学会カンファレンス, 2005 . 3 .
- 33) 神戸 将, 落 雅美, 宮城泰雄, 丸山雄二, 大森裕也, 藤井正大, 石井庸介, 山田研一, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄: 低左心機能症例に対するOPCAB術後中期成績の検討 . 第10回日本冠動脈外科学会学術大会, 2005 . 4 .
- 34) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 清水一雄: 原発性副甲状腺機能亢進症に対するラジオガイド下手術の有用性の検討 . 第17回日本内分泌外科学会総会, 2005 . 4 .
- 35) 藤井正大, 別所竜蔵, 仁科 大<sup>1)</sup>, Chambers D<sup>1)</sup>, 落 雅美, 清水一雄 ( <sup>1</sup> Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas ' Hospital ): Esmolol and cardioprotection : Does addition of esmolol to St Thomas ' Hospital cardioplegia enhance cardioprotection? . 第29回心筋保護・心臓保存研究会, 2005 . 5 .
- 36) 新田 隆, 神戸 将, 大森裕也, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 菅野重人, 落 雅美, 清水一雄: 術中マッピング所見から見た心房細動の電気生理学的機序の経時的变化 . 第105回日本外科学会総会, 2005 . 5 .
- 37) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): 自然気胸40症例の検討: 当科におけるクリニカルパス導入への試み . 第22回日本呼吸器外科学会総会, 2005 . 5 .
- 38) 鈴木成治, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜祐司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2</sup> 同消化器科, <sup>3</sup> 同病理部, <sup>4</sup> 外科学第1 ): 病理所見・臨床経過から見た胃原発GIST症例と他臓器原発症例の比較検討 . 第77回日本胃癌学会総会, 2005 . 5 .
- 39) 鈴木成治, 江上 格<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜祐司<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup>, 前田正太郎<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>5)</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3</sup> 多摩永山病院消化器科, <sup>4</sup> 同病理部, <sup>5</sup> 外科学第1 ): 電顕所見からみた消化管及び消化管外原発GIST症例の臨床病理学的検討 . 第105回日本外科学会総会, 2005 . 5 .
- 40) 藤井正大, 落 雅美, 神戸 将, 丸山雄二, 山田研一, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 清水一雄: 術中操作がモノフィ



ラメント・ポリプロピレン糸に与える影響メカニカルダメージの検討から 第1報．第33回日本血管外科学会総会，2005．6．

- 41) 丸山雄二，落 雅美，神戸 将，藤井正大，宮城泰雄，山田研一，別所竜蔵，菅野重人，矢島俊巳，新田 隆，清水一雄：5年間繰り返す創部感染の後人工心肺補助下ペースメーカーリード抜去術を施行した1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 42) 丸山雄二，落 雅美，別所竜蔵，山田研一，藤井正大，宮城泰雄，神戸 将，村野光和，清水一雄：胸腹部大動脈全置換術後，正常径遠位弓部大動脈破裂に対して緊急手術を施行した Marfan 症候群の1例．第33回日本血管外科学会総会，2005．6．
- 43) 天神敏博，赤須東樹，北川 亘，清水一雄：乳癌培養細胞を利用し小核出率を測定した抗癌剤における染色体異常の観察．第13回日本乳癌学会総会，2005．6．
- 44) 山下裕正<sup>1)</sup>，山内茂夫<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，坂本俊一郎<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，落 雅美，清水一雄<sup>(1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：上行大動脈置換術後に人工血管中枢側に大動脈再解離を認めた1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 45) 吉野直之<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，山下裕正<sup>1)</sup>，坂本俊一郎<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，小泉 潔，清水一雄<sup>(1)</sup>千葉北総病院胸部外科)：大腸M癌からの転移と考えられた，肺mucinous carcinomaの1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 46) 飯島慶仁，小泉 潔，平田知己，平井恭二，三上 巖，福島光浩，山岸茂樹，川島徹生，岡田大輔，木下裕康，榎本 豊，岡本淳一，中島由貴，清水一雄：一側肺全摘術の評価と反省．第30回日本外科系連合学会学術集会，2005．6．
- 47) 山下裕正<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，坂本俊一郎<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，落 雅美，清水一雄<sup>(1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：上行大動脈置換術後に人口血管中枢側に大動脈再解離を認めた1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 48) 竹内真吾，小泉 潔，平井恭二，平田知己，川島徹生，山岸茂樹，榎本 豊，木下裕康，岡本淳一，中島由貴，清水一雄：大腸癌肺転移症例に対する外科的治療の検討(転移性肺腫瘍)．第22回日本呼吸器外科学会総会，2005．6．
- 49) 中山景介，岡田大輔，小泉 潔，三上 巖，榎本 豊，木下裕康，飯島慶仁，清水一雄：診断に苦慮した縦隔リンパ節結核腫の1例．第22回日本呼吸器外科学会総会，2005．6．
- 50) 岡本淳一<sup>1)</sup>，音田正光<sup>1)</sup>，平田知己，三上 巖，原田明希摩，平井恭二，浅香晋一<sup>1)</sup>，宮本静代<sup>1)</sup>，赤石純子<sup>1)</sup>，原口秀司，小泉 潔，清水一雄<sup>(1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)：マイクロアレイによる肺重複癌・異時性肺原発癌を増加させる遺伝子の同定．第22回日本呼吸器外科学会総会，2005．6．
- 51) 平田知己，小泉 潔，原田明希摩，山岸茂樹，川島徹生，飯島慶仁，岡本淳一，清水一雄：肺腺癌におけるCofilinの発現と分子生物学的意義．第22回日本呼吸器外科学会総会，2005．6．
- 52) 平田知己，山岸茂樹，川島徹生，小泉 潔，清水一雄：Induction Therapyが奏効した椎体浸潤肺癌の1例．第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2005．6．
- 53) 山内仁紫，八巻重雄<sup>1)</sup>，藤井正大，大森裕也，丸山雄二，神戸 将，小川俊一<sup>2)</sup>，落 雅美，清水一雄<sup>(1)</sup>日本肺血管研究所，<sup>2)</sup>日本医科大学小児科学)：高度肺高血圧症を伴った先天性心疾患の手術適応と術後の薬物治療．第41回日本小児循環器学会総会，2005．7．
- 54) 原田明希摩，小泉 潔，平田知己，平井恭二，川島徹生，山岸茂樹，榎本 豊，川本雅司<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>(1)</sup>病理学第一)：肺腺癌におけるCortactinの発現検討．第15回日本サイトメトリー学会学術集会，2005．7．
- 55) 藤井正大，落 雅美，神戸 将，丸山雄二，宮城泰雄，石井庸介，山田研一，別所竜蔵，菅野重人，清水一雄：橈骨動脈のskip incision採取法とI-composite graftとしての使用法，そしてその成績．第10回冠動脈外科学会，2005．7．

- 56) 丸山雄二, 落 雅美, 神戸 将, 大森裕也, 藤井正大, 宮城泰雄, 石井庸介, 山田研一, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄: Redo OPCABの戦略: 胸骨切開を回避する術式の工夫. 第10回日本冠動脈外科学会学術大会, 2005. 7.
- 57) 丸山雄二, 落 雅美, 神戸 将, 大森裕也, 藤井正大, 宮城泰雄, 石井庸介, 山田研一, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄: Drug Eluting Stent時代のCABG: 80歳以上超高齢者に対するOPCABの意義. 第10回日本冠動脈外科学会学術大会, 2005. 7.
- 58) 天神敏博, 田中久美, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: 乳癌細胞を用いたIn vitro遺伝毒性試験. 第15回日本サイトメトリー学会学術集会, 2005. 7.
- 59) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 清水一雄: 我々の施行している整容面を重視した内視鏡補助下頸部内分泌手術(VANS法)の現状. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 60) 鈴木成治, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 臨床・病理像から見たGIST及びEGIST症例の診断・治療の問題点. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 61) 平井恭二, 小泉 潔, 平田知己, 原田明希摩, 川島徹生, 榎本 豊, 清水一雄: ヒト非小細胞肺癌におけるL1adhesion moleculeの発現機序についての検討. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.
- 62) 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 原田明希摩, 小泉 潔, 清水一雄 (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 肺癌におけるMoesinの発現の検討とその分子生物学的意義. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 63) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 原田明希摩, 小泉 潔, 清水一雄 (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 肺癌細胞におけるCD40シグナリングのよる抗腫瘍効果の分子生物学的機序の解明. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 64) 赤石純子<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 清水一雄 (<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): cDNAマイクロアレイを用いた体系的遺伝子発現解析において甲状腺未分化癌で発現低下を示した新規遺伝子の細胞増殖抑制効果の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 65) 鈴木成治, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 沖浜祐司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>外科学第1): GISTにおけるMAGE-A family蛋白発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 66) 山内仁紫, 八巻重雄<sup>1)</sup>, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄 (<sup>1)</sup>日本肺血管研究所): 高度肺高血圧を伴った心房中隔欠損症の肺生検による手術適応決定と術後遠隔期の問題点. 第58回日本胸部外科学会総会, 2005. 10.
- 67) 大森裕也, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 石井庸介, 宮城泰雄, 丸山雄二, 神戸 将, 落 雅美, 清水一雄: 左心房容量負荷モデルにおいて誘発される持続性心房細動のマッピング所見. 第58回日本胸部外科学会総会, 2005. 10.
- 68) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 山田研一, 藤井正大, 宮城泰雄, 大森裕也, 丸山雄二, 神戸 将, 落 雅美, 清水一雄: 心房細動手術のPitfallと問題点: 簡略化Maze手術は有効か?. 第58回日本胸部外科学会総会, 2005. 10.
- 69) 原田明希摩, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 川島徹生, 山岸茂樹, 榎本 豊, 川本雅司<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 清水一雄 (<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>解剖学第1): 癌細胞におけるCortactinの検討とその分子生物学的意義-微小管を中心に. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 10.
- 70) 藤井正大, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 石井庸介, 山田研一, 別所竜蔵, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: Off-pump CABG術後の心房細動予防: 術後早期, 超短時間作用型  $\beta$ -blockerの利用. 第58回日本胸部外科学会総会, 2005. 10.
- 71) 平井恭二, 小泉 潔, 原田明希摩, 榎本 豊, 山岸茂樹, 川島徹生, 清水一雄, 川本雅司: 非小細胞肺癌における神経接着因子L1 adhesion moleculeの発現機序ならびにその腫瘍学的意義についての検討. 第58回日本胸

部外科学会総会，2005．10．

- 72) 丸山雄二，落 雅美，神戸 将，大森裕也，藤井正大，宮城泰雄，石井庸介，山田研一，別所竜蔵，菅野重人，清水一雄：再手術例に対するOPCABの戦略：胸骨再切開を回避する術式の工夫．第58回日本胸部外科学会総会，2005．10．
- 73) 天神敏博，赤須東樹，北川 亘，清水一雄：癌培養細胞を利用した遺伝毒性試験．第43回日本癌治療学会総会，2005．10．
- 74) 土屋玲子，赤須東樹，田中久美，五十嵐健人，北川 亘，清水一雄：甲状腺乳頭癌の光線力学的術中評価の試み．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．
- 75) 野口智子，赤須東樹，田中久美，五十嵐健人，北川 亘，川本雅司<sup>1)</sup>，土屋眞一<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>(<sup>1)</sup>病理部)</sup>：腎細胞眼甲状腺転移症例の検討．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．
- 76) 清水一雄，北川 亘，赤須東樹，五十嵐健人，田中久美，天神敏博，石井律子<sup>1)</sup>，軸園智雄<sup>2)</sup>，朝山 功<sup>3)</sup>，山田 哲<sup>3)</sup><sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院，<sup>2)</sup>隈病院，<sup>3)</sup>金地病院)</sup>：内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術305例の経験：合併症から学んだ反省と予防に関する検討．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．
- 77) 岡田 薫，石井健輔，宮地秀樹，時田祐吉，小谷英太郎，田寺 長，雪吹雪周生，草間秀樹，新 博次，菅野重人，新田 隆：大動脈弁逸脱に対して弁置換術を施行した1例．日本循環器学会関東甲信越地方会，2005．10．
- 78) 軸園智雄<sup>1)</sup>，友田智哲<sup>1)</sup>，小林 薫<sup>1)</sup>，太田 寿<sup>1)</sup>，森田新二<sup>1)</sup>，宮内 昭<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>医療法人神甲会隈病院)</sup>：甲状腺内埋没異所性副甲状腺腫の1例．第15回日本乳腺甲状腺超音波診断会議，2005．10．
- 79) 赤石純子<sup>1)</sup>，音田正光<sup>1)</sup>，岡本淳一<sup>1)</sup>，長浜充二<sup>2)</sup>，伊藤公一<sup>2)</sup>，清水一雄<sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>伊藤病院)</sup>：cDNA マイクロアレイを用いた体系的遺伝子発現解析において甲状腺未分化癌で発現異常を呈した遺伝子の機能解析の検討．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．
- 80) 石井律子<sup>1)</sup>，矢野由希子<sup>1)</sup>，佐々木裕三<sup>1)</sup>，大桑恵子<sup>1)</sup>，平川昭平<sup>1)</sup>，渋谷 洋<sup>1)</sup>，長浜充二<sup>1)</sup>，福成信博<sup>1)</sup>，杉野公則<sup>1)</sup>，伊藤公一<sup>1)</sup>，伊藤國彦<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院外科)</sup>：甲状腺原発の経神経腫の1例．第38回甲状腺外科研究会，2005．10．
- 81) 岡本淳一<sup>1)</sup>，音田正光<sup>1)</sup>，中島敏晶<sup>1)</sup>，平井恭二，平田知己，原田明希摩，三上 巖，山岸茂樹，川島徹生，小泉 潔<sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)</sup>：若年者肺癌と高齢者肺癌における遺伝子網羅の解析による遺伝子の発現比較．第58回日本胸部外科学会総会，2005．10．
- 82) 鈴木成治，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，津久井拓<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup><sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>同病理部，<sup>4)</sup>外科学第1)</sup>：GIST・EGIST症例における切除不能・術後再発例の検討．第43回日本癌治療学会総会，2005．10．
- 83) 山岸茂樹，小泉 潔，平井恭二，川島徹生，榎本 豊，飯島慶仁，原口秀司，平田知己，清水一雄：原発性肺癌手術前後の血清I-CTP値の推移．第46回日本肺癌学会学術総会，2005．11．
- 84) 村野光和<sup>1)</sup>，酒井欣男<sup>1)</sup>，望月 功<sup>1)</sup>，藤本将史<sup>1)</sup>，松山孝義<sup>1)</sup>，平本剛士<sup>1)</sup>，遠藤直哉，清水一雄<sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院外科)</sup>：小腸GISTの再発に対し，術後メシル酸イマチニブが著効した1症例．神奈川県消化器病医学会総会，2005．11．
- 85) 平井恭二，小泉 潔，原田明希摩，榎本 豊，川島徹生，清水一雄，川本雅司：非小細胞肺癌における神経接着因子L1 adhesion moleculeの発現機序ならびにその腫瘍学的意義についての検討．第46回日本肺癌学会学術総会，2005．11．
- 86) 丸山雄二，落 雅美，矢島俊巳，神戸 将，大森裕也，藤井正大，石井庸介，別所竜蔵，清水一雄：右上肢に限局したAVMに伴う右多発性上腕動脈瘤破裂に対する一手術例．第13回日本血管外科学会関東甲信越地方会，2005．11．
- 87) 赤須東樹，北川 亘，田中久美，清水一雄：甲状腺悪性腫瘍の光線力学的術中同定と評価．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．

- 88) 菅野重人, 別役徹生<sup>1)</sup>, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>北海道大学 ): Cx43-deficient miceにおける心筋梗塞修復過程と不整脈. 第4回コネキシン研究会, 2005. 11.
- 89) 山下裕正<sup>1)</sup>, 山内茂夫<sup>1)</sup>, 山田研一<sup>1)</sup>, 岩城秀行<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 揖斐孝行<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ): 上腸間膜動脈閉塞を伴う腹部大動脈瘤の1症例. 東葛心臓血管外科研究会, 2005. 11.
- 90) 朝山 功<sup>1)</sup>, 石川隆志<sup>1)</sup>, 山田 哲<sup>1)</sup>, 北川 亘, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>金地病院外科 ): 肺転移を伴った濾胞癌を合併した巨大腺腫様甲状腺腫の1切除例の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 91) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 清水一雄: 原発性副甲状腺機能亢進症に対するラジオナビゲーション手術の現況. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 92) 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 清水一雄: 内視鏡補助下頸部甲状腺・副甲状腺手術 ( VANS法 ) の現状: 300例の臨床例を振り返って. 第48回日本甲状腺学会, 2005. 11.
- 93) 中山景介, 岡田大輔, 小泉 潔, 清水一雄: 間質性肺炎との鑑別が困難であった妊娠中に発症した癌性リンパ管症の1例. 第45回日本肺癌学会総会, 2005. 11.
- 94) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 中島敏晶<sup>1)</sup>, 平井恭二, 平田知己, 原田明希摩, 三上 徹, 山岸茂樹, 川島徹生, 小泉 潔, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門 ): 若年者肺癌と高齢者肺癌における遺伝子網羅的解析による遺伝子の発現比較. 第46回日本肺癌学会学術総会, 2005. 11.
- 95) 平田知己, 小泉 潔, 飯島慶仁, 岡本淳一, 榎本 豊, 山岸茂樹, 川島徹生, 三上 徹, 平井恭二, 清水一雄: IP合併肺癌における術後急性増悪と開胸アプローチ. 第46回日本肺癌学会学術総会, 2005. 11.
- 96) 鈴木成治, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>外科学第1 ): GANT ( Gastro-intestinal autonomic nerve tumor ) の臨床病理学的検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 97) 鈴木成治, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 水谷 崇<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科 ): Modified FOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 第18回多摩大腸疾患懇話会, 2005. 11.
- 98) 大森裕也, 山内仁紫, 神戸 将, 丸山雄二, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線医学 ): レーザー血管内治療 ( EVLT ) を併用した1次性下肢静脈瘤に対する治療戦略. 第46回日本脈管学会総会, 2005. 12.
- 99) 藤井正大, 落 雅美, 神戸 将, 丸山雄二, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 山内仁紫, 清水一雄, 小川俊一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>小児科学 ): 川崎病罹患児の巨大冠動脈瘤に対するredo-OPCABによる手術戦略. 第19回冠疾患学会, 2005. 12.
- 100) 神戸 将, 新田 隆, 丸山雄二, 大森裕也, 藤井正大, 宮城泰雄, 石井庸介, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄: 心室頻拍と心房細動を合併した虚血性心筋症に対し, Dor手術とRadial手術を同時施行した1例. 第136回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 101) 飯島慶仁, 平井恭二, 榎本 豊, 川島徹生, 山岸茂樹, 小泉 潔, 清水一雄: FDG-PET陽性であった肺アスペルギローマの1例. 第136回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 102) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中久美, 五十嵐健人: 内視鏡補助下頸部内分泌手術 ( VANS法 ) の現状と今後: 300例の臨床経験を振り返って. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 103) 中山景介, 岡田大輔, 小泉 潔, 清水一雄: 経過中に縮小傾向を示した胸壁奇形腫の1例. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 104) 平田知己<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 片山広宣<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 肺腫瘍に対する術中迅速細胞診の有用性. 第46回日本肺癌学会関東部会, 2005. 12.
- 105) 神戸 将, 新田 隆, 山内仁紫, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 落 雅美,

- 清水一雄：発作性心房細動・心房粗動を合併したEbstein奇形に対し三尖弁形成術と簡略化Radial手術を同時施行した1例．第8回成人先天性心疾患研究会，2006．1．
- 106) 栗田二郎，落 雅美，別所竜蔵，山田研一<sup>1)</sup>，石井庸介，藤井正大，宮城泰雄，丸山雄二，神戸 将，松山孝義，清水一雄<sup>(<sup>1</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)</sup>：悪性腫瘍合併冠動脈疾患に対するoff-pump CABGと悪性腫瘍同時手術．心臓血管外科ウインターセミナー，2006．2．
- 107) 山岸茂樹<sup>1)</sup>，ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，小泉 潔，清水一雄，川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所分子病理部門)</sup>)：Clinicopathological characterization of MetAP2 expression in non-small cell lung cancer．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 108) Ishii Y, Schuessler R<sup>1)</sup>, Boineau J<sup>1)</sup>, Bailey M<sup>1)</sup>, Gleva M<sup>1)</sup>, Damiano R<sup>1)</sup>, Schuessler RB, Boineau JP, Damiano RJ (<sup>(<sup>1</sup> Washington University School of Medicine, Washington University School of Medicine)</sup>)：Incidence of postoperative atrial tachyarrhythmias following the Cox-Maze procedure．第70回日本循環器学会総会，2006．3．
- 109) 藤井正大，別所竜蔵，落 雅美，清水一雄，Chambers D<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1</sup> Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas ' Hospital)</sup>)：Cardioprotection and esmolol：optimal concentration and administration in blood-perfused rat hearts．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 110) 菅野重人，新田 隆，佐々木孝，宮城泰雄，大森裕也，丸山雄二，落 雅美，清水一雄：Connexin43を標的とする心筋傷害治療へのアプローチ．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 111) Miyachi Y, Kobayashi Y, Nitta T, Maruyama M, Iwasaki Y, Horie T, Taniguchi H, Ueno A, Tateoka K, Okazaki R, Hayashi M, Ishii Y, Kato T, Takano T：The coronary sinus musculature as a critical isthmus of macroreentrant atrial tachycardia occurring in patients after surgery for atrial fibrillation．第70回日本循環器学会総会，2006．3．
- 112) 新田 隆，神戸 将，丸山雄二，大森裕也，宮城泰雄，藤井正大，石井庸介，別所竜蔵，菅野重人，矢島俊巳，落 雅美，清水一雄：心室頻拍の外科治療．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- 113) 鈴木成治，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，津久井拓<sup>2)</sup>，水谷 崇<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>(<sup>1</sup> 多摩永山病院外科，<sup>2)</sup> 同消化器科，<sup>3)</sup> 外科学第1)</sup>)：胃GISTにおけるMAGE-A family蛋白発現とその病理学的・臨床的意義．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 114) 鈴木成治，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，長澤重直<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，津久井拓<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，前田昭太郎<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>(<sup>1</sup> 多摩永山病院外科，<sup>2)</sup> 同消化器科，<sup>3)</sup> 同病理部，<sup>4)</sup> 外科学第1)</sup>)：GIST・EGIST症例におけるMAGE-A family蛋白発現とその臨床的意義．第106回日本外科学会総会，2006．3．
- (10) 講演：
- 1) 鈴木成治：緩和における消化器外科の関わり：手技の実際．第3回三多摩緩和ケア研究会，2005．6．
- (11) 招請講演：
- 1) Koizumi K：Experiences of Surgical Treatment of Lung Cancer with Vertebral Invasion．IVth IASLC, Chinese International Conference on Lung Cancer (China), 2005．8．

## [ 第二病院外科 ( 外科 , 心臓血管外科 ) ]

### 研究概要

心臓血管外科領域，呼吸器外科領域，乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている．

- 1) 心臓血管外科領域：開診術周術期における各種薬剤の薬理効果，および有効な心筋保護の確立について取り組んでいる．OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行

っている。また、高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の管理・治療法について検討し、成績の向上を計っている。末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である。

2) 呼吸器外科領域：肺腺腫を除く縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、自然気胸に対してほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み、肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット、デメリットを評価している。また、再発肺癌や2次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。集学的治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている。

3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域：診断では、MRIを中心にした微細画像診断により、癌の進展形態を評価し、手術方針の決定に役立てている。手術では、乳腺内視鏡手術を中心にし、鏡視下乳房温存手術、乳頭・皮膚保存乳腺全摘術、胸筋温存乳房切除術を行い、センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている。化学療法は、外来通院投与を中心に積極的に行い、QOLを高めるよう努力している。また、タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法についての有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Haraguchi S, Hioki M, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Yamashita K, Yamashita Y, Kawamura J, Hirata T<sup>2)</sup>, Yamagishi S<sup>3)</sup>, Koizumi K<sup>3)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 仙台労災病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 同外科学第2 ): Resection of Sternal Tumors and Reconstruction of the Thorax : A Review of 15 patients . Surgery Today 2006 ; 36 : 225-229 .
- 2) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): 日本人におけるシプロフロキサシン点滴静注時の肺組織移行性 . 日臨外会誌 2006 ; 67 ( 2 ): 7 .

#### (2) 症例報告：

- 1) Haraguchi S, Hioki M, Takao H<sup>1)</sup>, Yamashita K, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 仙台労災病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学第2 ): Resection of Sternal Metastasis from Endometrial Carcinoma Followed by Reconstruction with Sandwiched Marlex and Stainless steel Mesh : Report of a Case . Surgery Today 2006 ; 36 : 184-186 .
- 2) Haraguchi S, Hioki M, Takushima M, Yanagimono K<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第2 ): Metastatic Chest Wall Tumor Suspected to be of Lung Origin by Immunoreactivity for Cytokeratin 7 and 20 . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2006 ; 54 ( 3 ): 132-136 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) Yamashita K, Haraguchi S, Orii K, Okubo N, Yamashita Y, Kawamura J, Takushima M, Endo N, Hioki M, Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): Video-Assisted Breast Surgery ( VABS ): Cosmetics and Treatment Results for 100 Cases . The 3rd Congress of The World Society for Breast Health Jointly with The 5th Biennial Meeting of The Asian Breast Cancer Society ( 東京 ), 2005 . 4 .

#### (2) ワークショップ：

- 1) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 大久保直子, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院外科学第2 ): 乳腺内視鏡手術を含めた乳癌治療の標準療法とは . 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .

#### (3) 一般講演：

- 1) Yamashita K, Haraguchi S, Endo N, Takushima M, Kawamura J, Yamashita Y, Orii K, Hioki M,

- Shimizu K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Video-Assisted Breast Surgery (VABS): Cosmetics and Treatment Results for 120 Cases. 17th Asia-Pacific Endocrine Surgery Conference (Malaysia), 2006. 1.
- 2) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Koizumi K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Large Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Lung: A Review of 15 Patients. 17th Asia-Pacific Endocrine Surgery Conference (Malaysia), 2006. 1.
- 3) Yamashita K, Hioki M, Shimizu K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Video-Assisted Breast Surgery (VABS): Sentinel Lymph Node Biopsy Guided by 3D-CT Lymphography. 10th Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (Hong Kong), 2006. 3.
- 4) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 大久保直子, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺疾患に対する内視鏡手術の評価. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 5) 山下浩二, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 大久保直子, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術の整容性と治療成績. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 6) 宅島美奈, 原口秀司, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 大久保直子, 山下浩二, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 転移性肺壁腫瘍初発原発性肺癌の1例. 第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2005. 6.
- 7) 川村 純, 遠藤直哉, 織井恒安, 宅島美奈, 山下康夫, 大久保直子, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): ASD術後SMA血栓症を来した1例. 第134回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2005. 6.
- 8) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 高齢者肺癌の治療成績の検討. 第46回日本肺癌学会総会, 2005. 10.
- 9) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 大久保直子, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術の応用と治療成績. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 10) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 織井恒安, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉: 自然気胸鏡視下手術の術後再発危険因子の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 11) 宅島美奈, 山下浩二, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 高齢者局所進行甲状腺リンパ腫に対してリツキシマブが著効した1例. 第112回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2005. 11.
- 12) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 炎症性乳癌の治療成績. 第2回日本乳癌学会関東地方会, 2005. 11.
- 13) 遠藤直哉, 日置正文, 原口秀司, 山下浩二, 山下康夫, 織井恒安, 川村 純, 宅島美奈, 家所良夫: 下肢静脈瘤合併妊産婦に産後発症したDVT・PTEの2例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 14) 織井恒安, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 大久保直子, 山下浩二, 大久保直子, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 周術期に血液浄化を必要とした心大血管手術症例の検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 15) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 乳腺内視鏡手術VABSにおける3D-CTリンパ管造影センチネルリンパ節生検と術前化学療法により縮小手術. 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.
- 16) 山下浩二, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 再建法の向上による乳腺切除量の増大と乳房温存術の限界. 第18回乳腺内視鏡手術研究会, 2005. 12.
- 17) 山下浩二, 宅島美奈, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 術前化学療法と乳房再建を含めた乳腺内視鏡手術による乳房温存両府の適応拡大. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

平成17年度当教室における論文業績は英文24編，和文27編の計51編であった．英文論文の分野別内訳は，下垂体腫瘍11編，他の脳腫瘍6編，脳血管障害7編であり，基礎的研究13編，臨床的研究11編であった．一方，和文論文の分野別内訳は，下垂体腫瘍10編，他の脳腫瘍3編，脳血管障害2編，その他12編であり，基礎的研究2編，臨床的研究25編であった．これに，分担著書として和文24編が加わる．学会発表は，240回あり，内国際学会は27回であった．一方，研究補助金に関しては，文部科学省科学研究費を7件，厚生労働省科学研究費を2件取得している．

当教室の基礎的な研究グループは，下垂体，悪性脳腫瘍，血管障害，神経外傷の4つに分かれている．また，治療を主体とした横断的なグループとしては，血管内治療，神経内視鏡，バイパス手術や脊髄・脊椎等のグループが活動している．下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため，研究者数も多く基礎の教室や老人研究所，さらには他の大学との関連が深く，したがって業績も最も多い．この分野は引き続き，本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい．他の脳腫瘍については，教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の科学療法の基礎的，臨床的研究に加えて，症例報告がいくつかみられた．一方，脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが，業績，特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない．さらに，少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教員もおり，症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である．最近の話題として頭痛の新しい治療法や低髄圧症候群に関する啓発的な論文も発表した．

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助手以上には科研費応募を義務としている．平成16年から実施された卒後臨床研修制度のため2年間はいわゆる入局がない状況の下，教室員は診療，研究，教育上の活動にかなりの制限を受けている．前年度よりやや論文業績が減少した理由の1つもここに求められると思われる．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Abbud RA<sup>1)</sup>, Takumi I<sup>2)</sup>, Barker EM<sup>1)</sup>, Ren SG<sup>1)</sup>, Chen DY<sup>1)</sup>, Wawrowsky K<sup>1)</sup>, Melmed S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine and Department of Surgery, Cedars Sinai Research Institute, UCLA School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Early multipotential pituitary focal hyperplasia in the  $\alpha$ -subunit of glycoprotein hormone-driven pituitary tumor-transforming gene transgenic mice . Mol Endocrinol 2005 ; 19 ( 5 ): 1383-1391 .
- 2) Weber F<sup>1)</sup>, Fukino K<sup>2)</sup>, Sawada T<sup>1)</sup>, Williams N<sup>1)</sup>, Sweet K<sup>3)</sup>, Brena RM<sup>1)</sup>, Plass C<sup>1)</sup>, Caldes T<sup>4)</sup>, Mutter GL<sup>5)</sup>, Villalona-Calero MA<sup>6)</sup>, Eng C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Human Cancer Genetics Program, Comprehensive Cancer Center, The Ohio State University, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Human Genetics, Department of Internal Medicine, College of Medicine and Public Health, The Ohio State University, <sup>4)</sup> Laboratory of Molecular Oncology, San Carlos University Hospital, <sup>5)</sup> Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, <sup>6)</sup> Division of Hematology/Oncology, Department of Internal Medicine, College of Medicine and Public Health, The Ohio State University ): Variability in organ-specific EGFR mutational spectra in tumour epithelium and stroma may be the biological basis for differential responses to tyrosine kinase inhibitors . Br J Cancer 2005 ; 92 ( 10 ): 1922-1926 .



- 3) Uematsu M<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Aokage T<sup>1)</sup>, Nishimaki K<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Asoh S<sup>1)</sup>, Teramoto A, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Departments of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Prognostic significance of the immunohistochemical index of survivin in glioma : a comparative study with the MIB-1 index . *J Neurooncol* 2005 ; 72 ( 3 ): 231-238 .
- 4) Kim K<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kamiyama H<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital ): Method for measuring sinus and vein pressure during surgery : technical note . *Surg Neurol* 2005 ; 63 ( 6 ): 569-570 .
- 5) Akino K<sup>1)</sup>, Akita S<sup>2)</sup>, Mizuguchi T<sup>3)</sup>, Takumi I<sup>4)</sup>, Yu R<sup>1)</sup>, Wang X<sup>1)</sup>, Rozga J<sup>3)</sup>, Demetriou A<sup>3)</sup>, Melmed S<sup>1)</sup>, Ohtsuru A<sup>5)</sup>, Yamashita S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Cedars-Sinai Research Institute UCLA School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Developmental and Reconstructive Medicine , <sup>3)</sup> Department of Surgery, Cedars-Sinai Research Institute UCLA School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>5)</sup> Department of Molecular Medicine, Nagasaki University, Graduate School of Biomedical Sciences, Atomic Bomb Disease Institute ): A novel molecular marker of pituitary tumor transforming gene involves in a rat liver regeneration . *J Surg Res* 2005 ; 129 ( 1 ): 142-146 .
- 6) Chihara K<sup>1)</sup>, Koledova E<sup>2)</sup>, Shimatsu A<sup>3)</sup>, Kato Y<sup>4)</sup>, Kohno H<sup>5)</sup>, Tanaka T<sup>6)</sup>, Teramoto A, Bates PC<sup>7)</sup>, Attanasio AF<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Clinical Molecular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Eli Lilly Japan K. K. , <sup>3)</sup> Clinical Research Center for Endocrine and Metabolic Disease, Kyoto Medical Center , <sup>4)</sup> Division of Endocrinology, Metabolism, Hematology and Oncology, Shimane University , <sup>5)</sup> Department of Endocrinology and Metabolism, Fukuoka Children ' s Hospital , <sup>6)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development , <sup>7)</sup> Cambridge Medical Writing Services , <sup>8)</sup> Cascina del Rosone ): An individualized GH dose regimen for long-term GH treatment in Japanese patients with adult GH deficiency . *Eur J Endocrinol* 2005 ; 153 ( 1 ): 57-65 .
- 7) Mishina M<sup>1)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kominami S<sup>2)</sup>, Fukuchi T<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>2)</sup>, Hamamoto M<sup>3)</sup>, Teramoto A, Katayama Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> The Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Efficacy of edaravone, a free radical scavenger, for the treatment of acute lacunar infarction . *Neurol Med Chir* 2005 ; 45 ( 7 ): 342-346 .
- 8) Mishina M<sup>1)</sup>, Komaba Y<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Kominami S<sup>3)</sup>, Fukuchi T<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>3)</sup>, Hamamoto M<sup>2)</sup>, Teramoto A, Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Efficacy of edaravone, a free radical scavenger, for the treatment of acute lacunar infarction . *Neurol Med Chir* 2005 ; 45 ( 7 ): 344-348 .
- 9) Weber F<sup>1)</sup>, Fukino K<sup>2)</sup>, Villalona-Calero M<sup>3)</sup>, Eng C<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Genomic Medicine Institute, Lerner Research Institute, Cleveland Clinic Foundation , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Experimental Therapeutics Program, The Ohio State University Comprehensive Cancer Center , <sup>4)</sup> Division of Human Cancer Genetics, Department of Molecular Virology, Immunology, and Medical Genetics, The Ohio State University ): Limitations of single-strand conformation polymorphism analysis as a high-throughput method for the detection of EGFR mutations in the clinical setting . *J Clin Oncol* 2005 ; 23

( 24 ): 5847-5848 .

- 10) Murai Y , Ikeda Y<sup>1)</sup> , Sato H<sup>2)</sup> , Yamamoto Y<sup>3)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Division of Haematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Parasitology, Hirosaki University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Biological Production, Akita Prefectural University ): Anomalous internal carotid anastomosis to contralateral anterior cerebral artery . *Can J Neurol Sci* 2005 ; 32 ( 2 ): 359-360 .
- 11) Murai Y , Kominami S<sup>1)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Mizunari T<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital ): The long-term effects of transluminal balloon angioplasty for vasospasms after subarachnoid hemorrhage : analyses of cerebral blood flow and reactivity . *Surg Neurol* 2005 ; 64 ( 2 ): 122-127 .
- 12) Takahashi H<sup>1)</sup> , Yamaguchi F , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Long-term outcome and reconsideration of intracystic chemotherapy with bleomycin for craniopharyngioma in children . *Childs Nerv Syst* 2005 ; 21 ( 8-9 ): 701-704 .
- 13) Yamada SM<sup>1)</sup> , Nakane M<sup>2)</sup> , Aoki M<sup>3)</sup> , Nakayama H<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kochi University School of Medicine , <sup>2)</sup> Neuroscience Research, Abbott Laboratories , <sup>3)</sup> Department of Radiology, Hirosaki University School of Medicine , <sup>4)</sup> Graduate School of Engineering Science, Osaka University ): Multiple cerebral infarctions after atypical herpes simplex encephalitis . *Eur J Neurol* 2005 ; 12 ( 9 ): 739-740 .
- 14) Yamada SM<sup>1)</sup> , Nakai E<sup>1)</sup> , Toyonaga S<sup>1)</sup> , Nakabayashi H<sup>1)</sup> , Park KC<sup>1)</sup> , Shimizu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kochi University School of Medicine ): A rapidly enlarging nocardial brain abscess mimicking malignant glioma . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 5 ): 308-311 .
- 15) Takumi I<sup>1)</sup> , Isayama K<sup>2)</sup> , Osamura RY<sup>3)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital , <sup>2)</sup> Division of Neurosurgery, Matsue Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Intracisternal neurinoma of the C1 posterior root . *Acta Neurochir* 2005 ; 147 ( 11 ): 1189-1192 .
- 16) Kim K<sup>1)</sup> , Mizunari T<sup>1)</sup> , Mizutani N<sup>2)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Takizawa K<sup>3)</sup> , Kamiyama H<sup>3)</sup> , Murai Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Shizuoka Kosei Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital ): Giant intracranial aneurysm of the anterior communicating artery treated by direct surgery using A3-A3 side-to-side anastomosis and A3-RA graft-STA anastomosis . *Acta Neurochir ( Wien )*: [Epub ahead of print] 2005 ; 353-357 .
- 17) Shimizu K , Adachi K , Teramoto A : Growth hormone enhances natural killer cell activity against glioma . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 6 ): 335-340 .
- 18) Nishina Y<sup>1)</sup> , Takano K<sup>1)</sup> , Yasufuku-Takano J<sup>1)</sup> , Teramoto A , Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Faculty of Medicine ): Mechanism of D ( 2 ) agonist-induced inhibition of GH secretion from human GH-secreting adenoma cells . *Endocr J* 2005 ; 52 ( 6 ): 775-779 .
- 19) Kimata-Hayashi N<sup>1)</sup> , Takano K<sup>1)</sup> , Yasufuku-Takano J<sup>1)</sup> , Teramoto A , Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Faculty of Medicine ): Mechanism of adrenomedullin-induced prolactin release from human prolactin-releasing adenoma cells . *Endocr J* 2005 ; 52 ( 6 ): 769-773 .
- 20) Okinaga H<sup>1)</sup> , Takano K<sup>1)</sup> , Hayashi S<sup>1)</sup> , Yasufuku-Takano J<sup>1)</sup> , Teramoto A , Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Faculty of Medicine ): Mechanisms of TRH-induced GH release ( paradoxical response ) in human somatotroph adenoma cells . *Endocr J* 2005 ; 52 ( 6 ): 763-767 .
- 21) Kim K<sup>1)</sup> , Yamada S<sup>2)</sup> , Usui M<sup>2)</sup> , Sano T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba

- Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology, School of Medicine, The University of Tokushima ): Co-localization of honeycomb Golgi and ACTH granules in a giant ACTH-producing pituitary adenoma . *Endocr Pathol* 2005 ; 16 ( 3 ): 239-244 .
- 22 ) Yoshida D<sup>1)</sup> , Kim K<sup>2)</sup> , Yamazaki M , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Expression of hypoxia-inducible factor 1alpha and cathepsin D in pituitary adenomas . *Endocr Pathol* 2005 ; 16 ( 2 ): 123-131 .
- 23 ) Kim K<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Expression of hypoxia-inducible factor 1alpha and vascular endothelial growth factor in pituitary adenomas . *Endocr Pathol* 2005 ; 16 ( 2 ): 115-121 .
- 24 ) Taoda T<sup>1)</sup> , Hara Y<sup>1)</sup> , Masuda H<sup>1)</sup> , Nezu Y<sup>1)</sup> , Sanno N<sup>2)</sup> , Teramoto A , Takekoshi S<sup>3)</sup> , Osamura Ry<sup>3)</sup> , Tagawa M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Veterinary Surgery, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>2)</sup> Sanno Clinic , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Functional and morphological changes in the hypothalamus-pituitary posterior lobe system after hypophysectomy in the dog . *J Vet Med Sci* 2006 ; 68 ( 1 ): 1-7 .
- 25 ) 朴 啓彰<sup>1)</sup> , 中林博道<sup>1)</sup> , 山田昌興<sup>1)</sup> , 豊永晋一<sup>1)</sup> , 清水恵司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 高知大学医学部附属病院脳神経外科 ): 持続脳圧測定ドレナージシステム サフティ脳室ドレナージセットの使用経験 . *脳神経外科速報* 2005 ; 15 ( 7 ): 661-664 .
- 26 ) 山口文雄 , 高橋 弘<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ): 脳腫瘍生検術における術中蛍光診断 “ Stereotactic Fluorescence Biopsy ” の有用性 . *脳神経外科速報* 2005 ; 15 ( 7 ): 667-672 .
- 27 ) 戸田茂樹 , 寺本 明 : BRAIN ATTACK & FREE RADICAL フリーラジカルと生体 Part 4 : アスコルビン酸ラジカルと脳虚血 . *BRAIN RESCUE* 2005 ; ( 9 ): 18-19 .
- 28 ) 田原重志 , 山王なほ子<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 山王クリニック ): Pituitary adenoma . *日本臨床* 2005 ; 63 ( 9 ): 145-150 .
- 29 ) 足立好司 , 寺本 明 : Diagnosis procedure combination の展開と脳腫瘍 . *神経治療学* 2005 ; 22 ( 5 ): 603-606 .
- 30 ) 金 景成<sup>1)</sup> , 井須豊彦<sup>2)</sup> , 松本亮司<sup>2)</sup> , 宮本倫行<sup>2)</sup> , 磯部正則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 , <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科 ): Spina bifida occulta に合併した腰椎片側椎弓分離症の1例 . *脳神経外科* 2005 ; 33 ( 11 ): 1119-1123 .
- 31 ) 三品雅洋<sup>1)</sup> , 石渡喜一<sup>2)</sup> , 石井賢二<sup>2)</sup> , 福地孝明<sup>1)</sup> , 小林士郎<sup>3)</sup> , 片山泰朗<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 , <sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設 , <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 , <sup>4)</sup> 同内科学第2 ): [11C]TMSX PET によるアデノシン A2A 受容体分布の測定 . *Cerebral Blood Flow and Metabolism* 2005 ; 17 : 79-80 .
- 32 ) 杉山 誠<sup>1)</sup> , 岡田 崇<sup>1)</sup> , 樋口皓史<sup>1)</sup> , 矢部薫憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科 ): 水頭症患者における脳室心房 ( VA ) シャント手術40例 : 手術方法と合併症の検討 . *Video Journal of Japan Neurosurgery* 2006 ; 14 ( 1 ) .
- 33 ) 金 景成<sup>1)</sup> , 井須豊彦<sup>1)</sup> , 松本亮司<sup>1)</sup> , 宮本倫行<sup>1)</sup> , 磯部正則<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科 ): Far-out syndrome の1例 . *脳神経外科* 2006 ; 34 ( 3 ): 313-317 .
- ( 2 ) 総説 :
- 1 ) 寺本 明 : 高倉公朋先生 . *Clin Neurosci* 2005 ; 23 ( 4 ): 472-472 .
- 2 ) 喜多村孝幸 , 寺本 明 : 低髄液圧症候群 : 脳脊髄液減少症 . *臨床検査* 2005 ; 49 ( 4 ): 431-434 .

- 3) 喜多村孝幸：低髄液圧症候群：脳脊髄液減少症．今月の治療 2005；13(5)：109-113．
- 4) 大山健一，田原重志，寺本 明：頭蓋骨腫瘍と腫瘍様病変：トルコ鞍病変．Clin Neurosci 2005；23(5)：565-567．
- 5) 大山健一，寺本 明：下垂体偶発腫 (pituitary incidentaloma) の自然史と治療方針．医学のあゆみ 2005；213(5)：321-324．
- 6) 戸田茂樹，寺本 明：頭蓋単純撮影の基礎 特殊撮影方法とその意義．Clin Neurosci 2005；23(5)：503-506．
- 7) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科)：神経疾患の治療とサイトカイン：インターフェロンによる脳腫瘍の治療．Clin Neurosci 2005；23(8)：935-937．
- 8) 勝野 亮<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2</sup>付属病院高度救命救急センター)：高血圧性脳内出血に対する急性期治療．救急医学 2005；29(9)：1061-1069．
- 9) 高橋 弘<sup>1)</sup>，河野 潤(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科)：脳腫瘍の診断と治療 最新の研究動向：cDNA microarray を用いた悪性神経膠腫の遺伝子発現プロファイル．日本臨床 2005；63(9)：515-519．
- 10) 鈴木雅規，石井雄道，宮井俊輔<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，<sup>2</sup>山王クリニック)：下垂体腺腫における nestin の免疫組織学的検討．日本内分泌学会雑誌 2005；81(Supple)：58-59．
- 11) 大山健一<sup>1)</sup>，田原重志，山王なほ子<sup>2)</sup>，足立好司，喜多村孝幸，長村義之<sup>3)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>虎の門病院間脳下垂体外科，<sup>2</sup>山王クリニック，<sup>3</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)：転移性下垂体腫瘍の1例．日本内分泌学会雑誌 2005；81(Supple)：166-167．
- 12) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術 その2 ．脳神経外科速報 2005；15(10)：920-925．
- 13) 喜多村孝幸，寺本 明：各科領域の頭痛：2次性を中心に「脳神経外科」．日本臨床 2005；63(10)：1759-1762．
- 14) 喜多村孝幸：片頭痛．くらしとからだ 2005；12-13．
- 15) 大山健一<sup>1)</sup>，山田正三<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>虎の門病院間脳下垂体外科)：クッシング病．ホルモンと臨床 2005；53(12)：1259-1261．
- 16) 田原重志，山王なほ子<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>山王クリニック)：標準治療と最新治療：メリット・デメリット 先端巨大症．Clin Neurosci 2005；23(12)：1446-1447．
- 17) 石井雄道，田原重志，寺本 明：非機能性下垂体腺腫．ホルモンと臨床 2005；53(12)：57-60．
- 18) 鈴木雅規，峰松健夫<sup>1)</sup>，宮井俊輔<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，<sup>2</sup>山王クリニック)：Immunohistochemical studyにてACTHと $\beta$ -SUを同時発現したcushing's diseaseの2例．ACTH RELATED PEPTIDES 2005；16．

## 著 書

- 1) 金 景成<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：〔分担〕頭部・頸部の手術 - 開頭術 (腫瘍と血腫)．手術患者のケア・マニュアル (岩井武尚・落海真喜枝編集)，2005；pp76-81，医学芸術社．
- 2) 山口文雄：〔分担〕Neuroimaging Quiz：結節性硬化症 Tuberous sclerosis．Clin Neurosci，2005；pp579-580，中外医学社．
- 3) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科)：〔自著〕知ってるつもりの脳神経外科の常識 非常識．Clin Neurosci (谷 諭編著)，2005；p590，中外医学社．
- 4) 金 景成<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：〔分担〕周術期合併症の予防と治療 A．呼吸不全，心不全，不整脈．脳神経外科学大系第4巻 周術期管理 (児玉南海雄編集)，2005；pp244-253，中山書店．

- 5) 寺本 明：〔編集〕Acromegaly Handbook (千原和夫・寺本 明・島津 章監修), 2005 ; メディカルレビュー社 .
- 6) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : シャント機能不全に伴い著明な脳浮腫を呈した1例. Clin Neurosci, 2005 ; pp699-700, 中外医学社 .
- 7) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : Cerebral Cysticercosis. Clin Neurosci, 2005 ; pp825-826, 中外医学社 .
- 8) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 悪性黒色腫の頭蓋内転移による腫瘍内出血. Clin Neurosci, 2005 ; pp939-940, 中外医学社 .
- 9) 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 外傷性頸動脈損傷 (隆起性病変損傷). Clin Neurosci, 2005 ; pp1063-1064, 中外医学社 .
- 10) 喜多村孝幸: 〔分担〕プリオン病. 脳神経外科学大系第12巻 神経外傷感染炎症性疾患 (山浦晶総編集), 2005 ; pp441-445, 中山書店 .
- 11) 寺本 明: 〔編集〕A. 視床下部・下垂体疾患 下垂体腺腫. 講義録 内分泌・代謝学 (寺本民生・片山茂裕編集), 2005 ; pp49-54, メディカルレビュー社 .
- 12) 戸田茂樹: 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 低髄液圧症候群 (脳脊髄液減少症). Clin Neurosci, 2005 ; pp1195-1196, 中外医学社 .
- 13) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 〔分担〕出血性脳血管障害: 脊髄動静脈奇形. Clin Neurosci, 2005 ; pp1149-1152, 中外医学社 .
- 14) 寺本 明, 根本 繁<sup>1)</sup>, 寺田友昭<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>自治医科大学血管内治療部, <sup>2)</sup>和歌山県立医科大学脳神経外科): 〔座談会〕脳血管内治療の現況. Clin Neurosci, 2005 ; pp1182-1194, 中外医学社 .
- 15) 足立好司: 〔自著〕(外科系感染症)脳神経外科領域. 抗菌薬使用のガイドライン (日本感染症学会・日本化学療法学会編集), 2005 ; pp152-157, 協和企画 .
- 16) 山口文雄, 野村竜太郎, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 〔共著〕マッピングで何が変わったか? : 目的の明確化 What has intraoperative functional mapping changed?: Clarification of its purpose. 脳腫瘍の外科 Biological behavior へのとつた新しい治療戦略 (山下純宏編集), 2005 ; pp66-75, メディカ出版 .
- 17) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>山王クリニック): 〔自著〕メタボリックシンドロームは誰にでも克服できる!, 2005 ; コアラブックス .
- 18) 山口文雄: 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 上衣下巨細胞性星細胞腫 subependymal giant cell astrocytoma. Clin Neurosci, 2005 ; pp1441-1442, 中外医学社 .
- 19) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 脊髄硬膜動静脈瘻 (Spinal dural AV fistula). Clin Neurosci, 2006 ; pp117-118, 中外医学社 .
- 20) 喜多村孝幸: 〔分担〕VIII. 外傷; 1. 脳脊髄液減少症 (低髄液圧症候群). Annual Review 神経2006 (柳澤信夫・篠原幸人・岩田 誠・清水輝夫・寺本 明編集), 2006 ; pp172-177, 中外医学社 .
- 21) 田原重志, 寺本 明: 〔自著〕間脳下垂体系. 脳神経外科学体系第1巻 神経科学 (山浦晶編集), 2006 ; pp272-280, 中山書店 .
- 22) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>山王クリニック): 〔自著〕チェックポイント: 見落としやすい病気の話11 先端巨大症[上]. MMJ/毎日メディカルジャーナル, 2006 ; pp176-177, 毎日新聞社出版局 .
- 23) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 著明な線維化を伴う脳腫瘍. Clin Neurosci, 2006 ; pp237-238, 中外医学社 .
- 24) 喜多村孝幸: 〔分担〕慢性頭痛の診療ガイドライン (日本頭痛学会編集), 2006 ; pp1-227, 医学書院 .
- 25) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : Mixed pineocytoma pineoblastoma (PC-PB). Clin Neurosci, 2006 ; pp341-342, 中外医学社 .

26) 戸田茂樹, 寺本 明:〔自著〕頸椎前方固定術における手術の工夫. Clin Neurosci, 2006; pp344-345, 中外医学社.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) Teramoto A: Transsphenoidal pituitary surgery-Its results and complications. Harbin International Neurosurgical Conference 2005 '( Harbin, China ), 2005 . 8 .
- 2) Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School): Modern therapeutic strategies for malignant astrocytoma. Harbin International Neurosurgical Conference 2005 '( Harbin, China ), 2005 . 8 .
- 3) Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School): Treatment against human malignant glioma in relation to comprehensive gene expression analysis. The 2nd Annual Meeting of the Chinese Society on Neuro-oncology ( Chendu, China ), 2005 . 11 .
- 4) 寺本 明: 先端巨大症の診断と治療. 第2回さいたま間脳下垂体疾患懇話会, 2005 . 4 .
- 5) 寺本 明: 下垂体腫瘍の診断と治療: 最近の動向. 学術講演会, 2005 . 6 .
- 6) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症による頭痛について ( 見逃されやすい頭痛の診断 ). 第8回北海道頭痛勉強会, 2005 . 6 .
- 7) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術の成績と合併症. 第3回仙台脳神経外科セミナー, 2005 . 7 .
- 8) 寺本 明: 下垂体腫瘍の診断と治療: 最近の動向. 第8回日本病院脳神経外科学会, 2005 . 7 .
- 9) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術の成績と合併症. 第34回春秋コンgres, 2005 . 7 .
- 10) 寺本 明: 先端巨大症の診断と治療. 脳研セミナー, 2005 . 7 .
- 11) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術のコツとピットフォール. 第5回関西脳神経外科研究会, 2005 . 7 .
- 12) 喜多村孝幸: 頭痛治療のトピックス. 第6回墨田区病診連携の会, 2005 . 7 .
- 13) 寺本 明: 経蝶形骨手術のコツとピットフォール. プレイントーク学術講演会, 2005 . 9 .
- 14) 寺本 明: 経蝶形骨手術のコツとピットフォール. 第5回大阪脳腫瘍治療アップデート, 2005 . 9 .
- 15) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の診断と治療. The 22nd Clinical Neurology Club, 2005 . 9 .
- 16) 寺本 明: 下垂体外科の今日的意義. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .
- 17) 喜多村孝幸: 頭痛の診断・治療のトピックス. 習志野市医師会学術講演会, 2005 . 10 .
- 18) 寺本 明: ホルモン産生下垂体腫瘍の診断と治療. 第11回徳島内分泌研究会, 2005 . 11 .
- 19) 寺本 明: ホルモン産生下垂体腫瘍の臨床. 和歌山下垂体セミナー, 2005 . 11 .
- 20) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): ピマン性脳損傷. 平成17年日本医科大学医学会診療教授特別講演会, 2005 . 11 .
- 21) 喜多村孝幸: 頭痛における診断・治療のトピックス. 第5回東北信片頭痛研究会, 2005 . 11 .
- 22) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の診断と治療. 第2回新潟頭痛研究会, 2005 . 11 .
- 23) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山王クリニック): 脳卒中を防ぐには. 横須賀税理士会特別講演会, 2005 . 12 .

##### (2) 教育講演:

- 1) 喜多村孝幸: 脳室内腫瘍の臨床像と内視鏡手術. 第23回日本脳腫瘍病理学会教育セミナー, 2005 . 4 .
- 2) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術のスタンダードとバリエーション. 第9回Waterfront Neurosurgical Conference, 2005 . 6 .
- 3) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の診断と治療. 第35回日本ペインクリニック学会関西地方会教育セミナー, 2005 . 6 .
- 4) 喜多村孝幸: 頭痛. 文京区保健サービスセンター講演会, 2005 . 7 .
- 5) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症. 日本鍼灸師会学術講演会, 2005 . 8 .

- 6) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術のコツとピットフォール．第10回日本脳腫瘍の外科学会，2005．11．
- 7) 高橋 弘<sup>1)</sup>，山口文雄，寺本 明（<sup>1</sup>第二病院脳神経外科）：小児悪性グリオーマの治療戦略：特にテント上と脳幹部について．第10回日本脳腫瘍の外科学会，2005．11．

(3) シンポジウム：

- 1) Fukino K<sup>1)</sup>，Shen L<sup>2)</sup>，Matsumoto S<sup>3)</sup>，Morrison CD<sup>3)</sup>，Mutter GI<sup>4)</sup>，Eng C<sup>3)</sup>（<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School, <sup>2</sup>Division of Epidemiology and Biometrics, School of Public Health, The Ohio State University, <sup>3</sup>Division of Human Cancer Genetics, Department of Molecular Virology, Immunology, and Medical Genetics, The Ohio State University, <sup>4</sup>Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School）：Combined total genome loss-of-heterozygosity scan of breast cancer stroma and epithelium reveals multiplicity of stromal targets．The 96th Annual Meeting of American Association for Cancer Research (California, U. S. A. ), 2005．4．
- 2) 寺本 明：下垂体腫瘍の診断と治療．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 3) 山崎道生，江頭 登<sup>1)</sup>，石井雄道，宮井俊輔<sup>1)</sup>，長村義之<sup>1)</sup>，寺本 明（<sup>1</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学）：非機能性腺腫におけるEgr-1の発現．第23回日本脳腫瘍病理学会，2005．4．
- 4) 松野 彰<sup>1)</sup>，水谷晃子<sup>2)</sup>，竹腰 進<sup>3)</sup>，伊藤丈夫<sup>4)</sup>，高野幸路<sup>5)</sup>，冲永寛子<sup>5)</sup>，長島 正<sup>1)</sup>，長村義之<sup>3)</sup>，寺本明（<sup>1</sup>帝京大学市原病院脳神経外科，<sup>2</sup>東海大学医学部基礎医学系，<sup>3</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，<sup>4</sup>東海大学教育研究支援センター，<sup>5</sup>東京大学腎臓内分泌内科）：下垂体ホルモンのmRNAおよび蛋白の細胞内局在と，細胞内輸送と分泌機構に関する解析．第23回日本脳腫瘍病理学会，2005．4．
- 5) 吉田陽一，足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明（<sup>1</sup>第二病院脳神経外科）：フランス Bicêtre 病院における小児後頭蓋窩脳動静脈奇形14例の検討．第33回日本小児神経外科学会，2005．5．
- 6) 志村俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>教育推進室）：両大学の合同教育システムの構築について．日本医科大学・日本獣医畜産大学合同シンポジウム，2005．7．
- 7) 高橋 弘<sup>1)</sup>，河野 潤，山口文雄，足立好司，寺本 明（<sup>1</sup>第二病院脳神経外科）：cDNA microarray 遺伝子発現プロファイル解析を用いた悪性グリオーマのインターフェロン併用化学療法．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 8) 大山健一，田原重志，石井雄道，鈴木雅規，山崎道生，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明（<sup>1</sup>山王クリニック）：下垂体偶発腫自然史から予測した下垂体部腫瘍の増大因子．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 9) 山口文雄，寺本 明：新しい白質刺激双極電極を用いた術中錐体路モニタリング．第10回日本脳腫瘍の外科学会，2005．11．
- 10) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明：脳室内病変に対する内視鏡下 biopsy の有用性と注意点．第12回日本神経内視鏡学会，2005．12．
- 11) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，寺本 明：下垂体部腫瘍200例における内視鏡単独での経鼻的手術の治療成績とその限界点．第12回日本神経内視鏡学会，2005．12．
- 12) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，山王なほ子<sup>1)</sup>，大山健一<sup>2)</sup>，寺本 明（<sup>1</sup>山王クリニック，<sup>2</sup>虎の門病院間脳下垂体外科）：下垂体部腫瘍における内視鏡単独での経鼻的手術の治療成績とその限界点：顕微鏡手術との比較から．第16回日本間脳下垂体腫瘍学会，2006．2．
- 13) 石井雄道，田原重志，鈴木雅規<sup>1)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，吉田陽一，竹井麻生（<sup>1</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科）：pituitary multiple adenomaの診断と治療戦略：診断，治療に苦慮した症例の教訓から．第16回日本間脳下垂体腫瘍学会，2006．2．
- 14) 横田裕行<sup>1)</sup>，猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，荒木 尚<sup>1)</sup>，渥美生弘<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，寺本明，小林士郎<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>救急医学，<sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科）：頭部外傷を含む多発外傷における Doctor Ambulance (DA) システムの意義：preventable trauma death 回避へ向けて．第29回日本神経外傷学

会, 2006 . 3 .

- 15) 寺尾 健<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): Acute & Rehabilitation type SCU運営上の問題点 . 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006 . 3 .

#### (4) パネルディスカッション :

- 1) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明 : 頭痛診療の Tips, Traps, Techniques . ADITUS Japan, 2005 . 7 .

#### (5) セミナー :

- 1) 喜多村孝幸, 寺本 明 : 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術 . 第25回日本脳神経外科コンgres総会ランチョンセミナー, 2005 . 5 .
- 2) 太組一朗<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): PTTG トランスジェニックマウスにおける下垂体表現型の変化 : David Geffen School of Medicine, University of Californiaにおける研究 . 東海大学医学部病理診断学セミナー, 2005 . 6 .
- 3) 喜多村孝幸 : 頭痛診療の基本とコツ . 千代田・文京地区頭痛医療推進セミナー, 2005 . 7 .
- 4) 喜多村孝幸 : 頭痛診療の基本とコツ . 墨田地区頭痛医療推進セミナー, 2005 . 7 .
- 5) 喜多村孝幸 : 頭痛の診断と治療のトピックス . 江戸川地区頭痛医療推進セミナー, 2005 . 7 .
- 6) 喜多村孝幸 : 頭痛治療のトピックス ( 脳脊髄液減少症を中心として ) . 第27回日本疼痛学会ランチョンセミナー, 2005 . 7 .
- 7) 石井雄道 : 下垂体腫瘍発生における転写因子の役割 . 第78回日本内分泌学会学術総会イブニングセミナー, 2005 . 7 .
- 8) 喜多村孝幸 : 頭痛の診断と治療のトピックス . 足立区頭痛医療推進セミナー, 2005 . 8 .
- 9) 喜多村孝幸 : 頭痛の診断と治療のトピックス . 千代田区頭痛医療推進セミナー, 2005 . 9 .
- 10) 小林士郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 片頭痛を見逃さないために . 第74回東葉臨床医学セミナー, 2005 . 10 .
- 11) 喜多村孝幸 : 脳神経外科における頭痛治療のトピックス . 第64回日本脳神経外科学会総会ランチョンセミナー, 2005 . 10 .
- 12) 小南修史<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 今年一番の症例 髄膜腫の1例 . 第16回西関東 Neuro IVR セミナー, 2005 . 12 .
- 13) 野手洋治<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 脳血栓症に対する血小板活性化最新モニタリング : 血小板マイクロパーティクル . 第11回日本脳神経外科救急学会ランチョンセミナー, 2006 . 1 .
- 14) 喜多村孝幸 : 頭痛の診断・治療のトピックス . 千代田・文京区頭痛医療推進セミナー, 2006 . 2 .
- 15) 渡邊 玲<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): Myelopathy を呈した骨盤 AVM の1例 . 第17回西関東 Neuro IVR セミナー, 2006 . 3 .
- 16) 小南修史<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 種々の脊髄短絡性血管障害 . 第17回西関東 Neuro IVR セミナー, 2006 . 3 .

#### (6) ワークショップ :

- 1) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): STA-MCA 吻合術において recipient artery をどう選択するか . 第24回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005 . 9 .
- 2) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 当施設における脳虚血急性期の治療体制 : 治療方針及び現状の問題点を含めて . 第24回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005 . 9 .
- 3) 伊藤智美<sup>1)</sup>, 野口 素<sup>1)</sup>, 松田朋子<sup>1)</sup>, 豊田紋子<sup>1)</sup>, 宮本恵美<sup>1)</sup>, 岡田知弥子<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院看護部脳神経センター, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科 ): SCU を有する脳神経センターにおける看護の取り組み . 第24回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005 . 9 .



4) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 田原重志, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 下垂体卒中を契機に軽快した acromegaly の 1 例 . 第 3 回千葉アクロメガリーワークショップ , 2005 . 9 .

(7) 一般講演 :

- 1) Yoshida D<sup>1)</sup>, Kim K<sup>2)</sup>, Noha M , Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Cell invasion of human pituitary adenoma cell line HP-75 in hypoxia . The 2nd Quadrennial meeting of the World Federation of Neuro-Oncology ( Edinburgh, UK ), 2005 . 5 .
- 2) Takahashi H<sup>1)</sup>, Kouno J , Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Comprehensive gene expression analysis of human malignant glioma using cDNA microarray for therapeutic strategy . The 2nd Quadrennial meeting of the World Federation of Neuro-Oncology/The 6th meeting of the European Association of Neuro-Oncology ( Edinburgh, UK ), 2005 . 5 .
- 3) Noha M , Nakane M<sup>1)</sup>, Nakayama H<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital , <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): TWIST : a novel candidate for cell invasion regulator in malignant glioma . The 6th meeting of European Association of Neuro-Oncology ( Edinburgh, UK ), 2005 . 5 .
- 4) Noha M , Yoshida D<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Notch2 induces CBF1-independent pathway in glioblastoma, implicating novel Notch signal element . The 6th meeting of European Association of Neuro-Oncology ( Edinburgh, UK ), 2005 . 5 .
- 5) Teramoto A : Diagnostic value of cavernous sinus sampling in Cushing syndrome . The 13th Quadrennial Congress of World Federation of Neurosurgical Society ( Marrakesh, Morocco ), 2005 . 6 .
- 6) Takahashi H<sup>1)</sup>, Adachi K , Yamaguchi F , Kogiku M<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School ): Strategy of treatment against supratentorial and infratentorial malignant gliomas in children . The 33rd Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery ( Vancouver, Canada ), 2005 . 6 .
- 7) Suzuki M , Yamazaki M , Oyama K , Tahara S , Sanno N , Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Immunohistochemical study of three cases of cushing's disease comitted GH/PRL . The Endocrine society's 87th Annual Meeting ( SanDiego, USA ), 2005 . 6 .
- 8) Suzuki M , Miyai S<sup>1)</sup>, Oyama K , Tahara S , Sanno N , Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Immunohistochemical study of five cases of pituitary corticotroph cell adenomas co-expressed -SU . Pituitary Congress 2005 ( SanDiego, USA ), 2005 . 6 .
- 9) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>The Second Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup>The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>3)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Ipsilateral thalamic diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis . The 22nd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & VIIth International Conference on Quantification of Brain Function with PET ( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .
- 10) Mishina M<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kimura Y<sup>2)</sup>, Kawamura K<sup>2)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Sasaki T<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup>The Second Department of Internal Medicine ): Distribution of adenosine A2A receptors in human brain using[C-11]TMSX PET . The 22nd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & 7th International Conference on Quantifica-

tion of Brain Function with PET ( Amsterdam, The Netherlands ), 2005 . 6 .

- 11 ) Mishina M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Mitani K<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>4)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>3)</sup>  
( <sup>1)</sup> The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital ,  
<sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> The Second Department of Internal  
Medicine , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital ) : Relationship be-  
tween regional hypometabolism of glucose and subscores of mini mental state examination in Alzheimer's dis-  
ease . The 11th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping ( Toronto, Canada ), 2005 . 6 .
- 12 ) Mishina M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Mitani K<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>4)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>3)</sup>  
( <sup>1)</sup> The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital ,  
<sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> The Second Department of Internal  
Medicine , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital ) : Correlation be-  
tween brain dysfunction and regional hypometabolism of glucose during resting state in Alzheimer's disease .  
The 52nd Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Toronto, Canada ), 2005 . 6 .
- 13 ) Takumi Ichiro <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba  
Hokusō Hospital ) : Early multipotential pituitary focal hyperplasia in the alpha-subunit of glycoprotein hor-  
mone-driven pituitary tumor-transforming gene transgenic mice . The 20th Japan Neurosurgery English  
Forum ( Nagano, Japan ), 2005 . 7 .
- 14 ) Toda S , Ikeda Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Medical University Hachioji Med-  
ical Center ) : Brain edema-relieving action and active oxygen-scavenging activity of alfa and beta blockers  
during cerebral ischemia-reperfusion : evaluation using a rat model of forebrain ischemia-reperfusion . 2005  
Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ( Boston, USA ), 2005 . 10 .
- 15 ) Ikeda Y<sup>1)</sup>, Yoshino F<sup>2)</sup>, Lee M<sup>3)</sup>, Uchino H<sup>4)</sup>, Toda S ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Medical  
University Hachioji Medical Center , <sup>2)</sup> Jisseiken , <sup>3)</sup> Department of pharmacology, Kanagawa Dental College ,  
<sup>4)</sup> Department of Anesthesiology, Tokyo Medical University ) : Antioxidant characterization of edaravone, a  
novel free radical scavenger, in acute cryogenic brain injury : determination by in vitro X-band and in vivo  
L-band electron spin resonance ( ESR ) . 2005 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ( Boston,  
USA ), 2005 . 10 .
- 16 ) Kominami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital ) : Presurgical  
embolization of meningiomas with NBCA . The 8th Congress of the World Federation of Interventional and  
Therapeutic Neuroradiology ( Venice, Italy ), 2005 . 10 .
- 17 ) Sato S , Kitamura T , Teramoto A : Reevaluating selective serotonin reuptake inhibitor ( SSRI ) as pro-  
phylactics for tension, migraine and cluster headache . The 12th Congress of the International Headache So-  
ciety ( Kyoto, Japan ), 2005 . 10 .
- 18 ) Sato S , Kitamura T , Teramoto A : NIRS evaluates triptan effect . The 12th Congress of the International  
Headache Society ( Kyoto, Japan ), 2005 . 10 .
- 19 ) Kitamura T , Sato S , Teramoto A : An assessment of support tool for migraine treatment, FAME ( Formu-  
la Assessment for Migrain Eurs ) . The 12th Congress of the International Headache Society ( Kyoto, Japan ),  
2005 . 10 .
- 20 ) Morimoto D<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of  
Nippon Medical School ) : Biological significance of phosphorylated cAMP response element binding protein  
in pituitary adenomas . 2005 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ( Boston, USA ), 2005 . 10 .
- 21 ) Teramoto A : Recent management of functioning pituitary adenomas . The 2nd Annual Meeting of the Chi-

- nese Society on Neuro-oncology ( Chendu, China ), 2005 . 11 .
- 22) Sato S , Kato M<sup>1)</sup> , Teramoto A , Sakuma Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology ) : Sex-specific and developmental modulation of GABAA current by melatonin in adult rat gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) neurons . The 35th Annual Meeting of Society for Neuroscience ( Washington, DC, USA ), 2005 . 11 .
- 23) Takei M , Suzuki M , Sanno N , Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ) : Immunohistochemical detection of somatostatin receptor ( SSTR ) 2A in clinically “ non-functioning ” pituitary adenomas . The 95th Annual Meeting of The United States and Canadian Academy of Pathology ( Atlanta, USA ), 2006 . 2 .
- 24) 王 寧<sup>1)</sup> , 洲鎌秀永<sup>1)</sup> , 寺本 明 , 芝崎 保<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理学第2 ) : Unique expressional mechanism of interleukin-18 in rodent pituitary . 第78回日本内分泌学会学術総会 , 2005 . 7 .
- 25) 佐藤 俊 , 加藤昌克<sup>1)</sup> , 寺本 明 , 佐久間康夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理学第1 ) : Sex-specific and developmental modulation of GABAA current by melatonin in rat GnRH neurons . 文部科学省科学研究費特定領域研究性分化機構の解明第2回領域会議 , 2005 . 9 .
- 26) 包 義君 , 吉田大蔵<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ) : Expression of laminin beta 2 ; a novel marker of pituitary apoplexy . 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会 , 2006 . 2 .
- 27) 金 景成<sup>1)</sup> , 井須豊彦<sup>2)</sup> , 宮本倫行<sup>2)</sup> , 松本亮司<sup>2)</sup> , 磯部正則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 , <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科 ) : 頸椎前方除圧固定術後頸椎アライメントの変化に関する検討 . 第23回東北北海道脊髄疾患研究会 , 2005 . 4 .
- 28) 玉置智規<sup>1)</sup> , 齊藤寛浩<sup>2)</sup> , 岩本直高<sup>1)</sup> , 野手洋治<sup>1)</sup> , 佐々木光由<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 流山中央病院脳神経外科 ) : 軽微な交通外傷による plaque injury から artery to artery emboli をきたした1例 . 第34回日本脳卒中の外科学会 , 2005 . 4 .
- 29) 勝野 亮<sup>1)</sup> , 高島伸之介<sup>2)</sup> , 横堀将司<sup>3)</sup> , 渥美生弘<sup>2)</sup> , 佐藤秀貴<sup>2)</sup> , 横田裕行<sup>2)</sup> , 山本保博<sup>2)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 同高度救命救急センター , <sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院脳神経外科 ) : くも膜下出血と脳内出血の心電図変化 . 第34回日本脳卒中の外科学会 , 2005 . 4 .
- 30) 勝野 亮<sup>1)</sup> , 高島伸之介<sup>2)</sup> , 横堀将司<sup>3)</sup> , 渥美生弘<sup>2)</sup> , 佐藤秀貴<sup>2)</sup> , 横田裕行<sup>2)</sup> , 山本保博<sup>2)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 同高度救命救急センター , <sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院脳神経外科 ) : 頭蓋内疾患における T 細胞性免疫と脳代謝の関係 . 第8回日本臨床救急医学会総会 , 2005 . 4 .
- 31) 吉田大蔵<sup>1)</sup> , 金 景成<sup>2)</sup> , 饒波正博<sup>3)</sup> , 森本大二郎<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 , <sup>3)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科 ) : ヒト下垂体腺腫細胞の細胞浸潤の低酸素状態での変化 . 第23回日本脳腫瘍病理学会 , 2005 . 4 .
- 32) 戸田茂樹 , 喜多村孝幸 , 寺本 明 : 当施設における脳脊髄液減少症の診断と治療 . 第96回日本脳神経外科学会関東地方会 , 2005 . 4 .
- 33) 鈴木雅規 , 峰松健夫<sup>1)</sup> , 大山健一 , 田原重志 , 山王なほ子<sup>2)</sup> , 長村義之<sup>1)</sup> , 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 , <sup>2)</sup> 山王クリニック ) : 下垂体 incidentaloma における MIB-1 index の検討 . 第23回日本脳腫瘍病理学会 , 2005 . 4 .
- 34) 鈴木雅規 , 石井雄道 , 宮井俊輔<sup>1)</sup> , 山王なほ子<sup>2)</sup> , 寺本 明 , 長村義之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 , <sup>2)</sup> 山王クリニック ) : 下垂体腺腫における nestin の免疫組織学的検討 . 第94回日本病理学会総会 , 2005 . 4 .
- 35) 饒波正博<sup>1)</sup> , 平田雅文<sup>1)</sup> , 中根 一<sup>1)</sup> , 中山比登志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科 ) : 突発性難聴と初診された glioblastoma の1例 . 第96回日本脳神経外科学会関東地方会 , 2005 . 4 .
- 36) 饒波正博<sup>1)</sup> , 平田雅文<sup>1)</sup> , 中根 一<sup>1)</sup> , 中山比登志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科 ) : Multi focal に発症した glioblastoma の1例 . 第29回ニューロ・オンコロジーの会 , 2005 . 4 .

- 37) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 小島豊之, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 低髄圧症候群の治療症例. 第96回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 4.
- 38) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 高齢者の腰部脊柱管狭窄症に関する考察. 第18回日本老年脳神経外科学会, 2005. 4.
- 39) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Anterior temporal approachの有用性. 第14回脳神経外科手術と機器学会, 2005. 4.
- 40) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎症に対する術式選択: RABEA (titanium cage) を用いた前方固定術と経椎体法の比較. 第14回脳神経外科手術と機器学会, 2005. 4.
- 41) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> (1) 千葉北総病院病理部, 2) 同脳神経センター脳神経外科, 3) 同放射線科, 4) 多摩永山病院病理部, 5) 病理学第2): 細胞診における浸潤性星細胞腫と周囲組織のインターフェイス. 第23回日本脳腫瘍病理学会, 2005. 4.
- 42) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 成相 直<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設科, 3) 日本医科大学第二病院内科, 4) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 5) 内科学第2): 脳血管障害における[11C]flumazenil PETの応用に関する検討. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005. 4.
- 43) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院内科, 2) 同脳神経センター脳神経外科, 3) 内科学第2): 当センターにおけるdural AVF症例の報告. 第30回日本脳卒中学会総会, 2005. 4.
- 44) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 各種大型血栓化動脈瘤に対する治療戦略. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 45) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術症例の検討. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 46) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 村井保夫, 上山博康<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈病変に対するRAグラフトの適応に関する文献的考察と我々の方法. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 47) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 鈴木紀成<sup>4)</sup>, 齊藤寛浩, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 放射線医学,<sup>3)</sup> 多摩永山病院脳神経外科,<sup>4)</sup> 第二病院脳神経外科): 虚血性脳血管障害の血流評価における3D-SSPの有用性. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 48) 齊藤寛浩, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 渡邊 玲<sup>3)</sup>, 寺尾 健<sup>3)</sup>, 酒井直之<sup>3)</sup>, 寺本 明, 水成隆之<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 第二病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 当施設のCEA合併症について. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 49) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 高島伸之介<sup>2)</sup>, 横堀将司<sup>3)</sup>, 渥美生弘<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 同高度救命救急センター,<sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院脳神経外科): くも膜下出血と脳内出血の心電図変化. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 50) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 小島豊之, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 低髄圧症候群の治療症例. 第96回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 4.
- 51) 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 寺本 明, 前田昭太郎<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科, 3) 同病理部): 大きな脳内血腫を合併した転移性amelanotic melanomaの1例. 第96回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 4.
- 52) 岩本直高<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 大きな脳内血腫を合併した転移性amelanotic melanoma. 第18回日本老年脳神経外科学会, 2005. 4.

- 53) 齊藤寛浩<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (流山中央病院脳神経外科): 急性期STA-MCA bypass. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 54) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 宮本倫行<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 金属固定術後再発例に対して減圧術が有効であった症例. 道東脳神経外科集談会, 2005. 5.
- 55) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 高島伸之介<sup>2)</sup>, 横堀将司<sup>3)</sup>, 渥美生弘<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (日本医科大学第二病院脳神経外科, 2) 同救急医学, 3) 武蔵野赤十字病院脳神経外科): 頭部外傷後塩類喪失症候群を呈した3例. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.
- 56) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (第二病院脳神経外科): 松果体PNETの長期生存の1例. 第33回日本小児神経外科学会, 2005. 5.
- 57) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): High flow bypass: Radial artery graft bypassの実際. 第25回日本脳神経外科コンgres総会, 2005. 5.
- 58) 小南修史<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈系の解剖と発生. 第36回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2005. 5.
- 59) 小南修史<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳動静脈奇形に対する血管内治療. 第36回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2005. 5.
- 60) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院内科, 2) 同脳神経センター脳神経外科, 3) 内科学第2): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当脳神経センター過去10年間における6例の報告. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 61) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院内科, 2) 同脳神経センター脳神経外科, 3) 内科学第2): アルツハイマー病におけるMMSEの各課題と脳ブドウ糖代謝の関係. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 62) 平間章郎<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup> (1) 多摩北部医療センター神経内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科, 3) 同脳神経センター脳神経外科): Malignant Lymphomaとの鑑別が困難であった脳梗塞の1例. 第45回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 5.
- 63) 田原重志: 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の有用性. 木曜会特別講演会, 2005. 5.
- 64) 佐藤 俊, 加藤昌克<sup>1)</sup>, 寺本 明, 佐久間康夫<sup>1)</sup> (1) 生理学第1): ラットGnRHニューロンに発現するGABAA電流に対するメラトニンの修飾作用: 発達段階と性による差異. 第82回日本生理学大会, 2005. 5.
- 65) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 宮本倫行<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 高橋達郎<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 同中央検査科): 腰椎部黄色靭帯内出血の1例. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 66) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 宮本倫行<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方除圧固定術後頸椎アライメントの変化に関する検討. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 67) 齊藤寛浩<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (流山中央病院脳神経外科): 頸動脈疾患の外科治療. 東葛頸動脈研究会, 2005. 6.
- 68) 岩本直高, 春田周宇介<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 加茂 潤<sup>1)</sup>, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 勝野 亮, 横堀将司<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (救急医学): 覚醒剤 (amphetamine) 服用が誘因となり脳出血を生じた症例. 第19回日本神経救急学会学術集会, 2005. 6.
- 69) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 硬膜外ブラッドパッチが奏功した脳脊髄液減少の1例. 第6回千葉頭痛研究会, 2005. 6.
- 70) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎外側椎間板障害の圧迫要因. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 71) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,

- 2) 釧路労災病院脳神経外科): 高齢者腰部脊柱管狭窄症の臨床的特徴と手術方針．第20回日本脊髄外科学会，2005．6．
- 72) 井須豊彦<sup>1)</sup>，金 景成<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>，宮本倫行<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): スーパーフィクソープを用いた頸椎前方固定術：手術手技．第20回日本脊髄外科学会，2005．6．
- 73) 福地孝明<sup>1)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，阿部 新<sup>3)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科，<sup>3)</sup> 内科学第2): 当脳神経センターにおいて脳内出血で発症した硬膜動静脈瘻6例の報告．第23回日本神経治療学会総会，2005．6．
- 74) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，野村竜太郎<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 虚血性病変の後にくも膜下出血を続発した後下小脳動脈解離性病変の1例．第19回日本神経救急学会学術集会，2005．6．
- 75) 大山健一: Pituitary incidentalomaの自然史と手術適応．第16回日本医科大学内分泌懇話会，2005．6．
- 76) 足立好司: 脳腫瘍のMRI・CTの3D画像と外科手術．第82回日本獣医循環器学会・第70回獣医麻酔外科学会・第37回日本獣医画像診断学会，2005．6．
- 77) 玉置智規<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 脳腫瘍について．2005年度第3回永山病院看護部研修会，2005．7．
- 78) 勝野 亮<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 救急医学): 頭蓋内疾患における免疫反応と脳代謝の関係．第10回日本脳代謝モニタリング研究会，2005．7．
- 79) 山王直子<sup>1)</sup>，田原重志，寺本 明(<sup>1)</sup> 山王クリニック): 先端巨大症患者におけるオクトレオチド徐放製剤による治療経験．第78回日本内分泌学会学術総会，2005．7．
- 80) 鈴木雅規，峰松建夫<sup>1)</sup>，宮井俊輔<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，<sup>2)</sup> 山王クリニック): GH産生腫瘍を伴ったCushing病の1例．第78回日本内分泌学会学術総会，2005．7．
- 81) 鈴木雅規，峰松健夫<sup>1)</sup>，宮井俊輔<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，<sup>2)</sup> 山王クリニック): Immunohistochemical studyにてACTHと $\beta$ -SUを同時発現したCushing's diseaseの2例．第20回日本下垂体研究会，2005．7．
- 82) 佐藤 愛<sup>1)</sup>，野口 素<sup>1)</sup>，佐々木優子<sup>1)</sup>，高橋祐子<sup>1)</sup>，加藤美和子<sup>1)</sup>，松本麻衣子<sup>1)</sup>，小田むつみ<sup>1)</sup>，堀米優子<sup>1)</sup>，久野香織<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院看護部脳神経センター，<sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科): 誤嚥性肺炎予防に有効な口腔ケアの検討．第14回日本意識障害学会，2005．7．
- 83) 佐藤 俊，加藤昌克<sup>1)</sup>，寺本 明，佐久間康夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理学第1): GT1-7細胞のGABA<sub>A</sub>電流に対するメラトニンの修飾作用と受容体ノックダウンの効果．第32回日本神経内分泌学会，2005．7．
- 84) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，宮本倫行<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): Spina bifida occultaに合併した脊椎分離症の1例．第24回東北北海道脊髄疾患研究会，2005．7．
- 85) 三品雅洋<sup>1)</sup>，石渡喜一<sup>2)</sup>，石井賢二<sup>2)</sup>，木村裕一<sup>2)</sup>，織田圭一<sup>2)</sup>，長縄美香<sup>3)</sup>，石川雅智<sup>4)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>5)</sup>，北村 伸<sup>6)</sup>，片山泰朗<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設科，<sup>3)</sup> 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科，<sup>4)</sup> 千葉大学大学院精神科，<sup>5)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>6)</sup> 同第二病院内科，<sup>7)</sup> 同内科学第2): [C-11]TMSX PETを用いた未治療の典型的パーキンソン病1例におけるアデノシンA2A受容体分布の測定．第5回パーキンソン病フォーラム，2005．8．
- 86) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，宮本倫行<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): Far-out syndromeの1例．第25回東北北海道脊髄疾患研究会，2005．9．
- 87) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，宮本倫行<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター

- 脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症に対する再手術例の検討. 釧路脳神経疾患研究会, 2005. 9.
- 88) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博<sup>3)</sup>, 北川 亮<sup>4)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同千葉北総病院脳神経センター, <sup>3)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学生化学第2): 下垂体腺腫における Discoidin Domain Receptor 1 (DDR1) の細胞浸潤に果たす意義に関する研究. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 89) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 発症30日後の検査にて明らかとなった脳底動脈動脈瘤の1例. 第97回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 9.
- 90) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科): 脳梁膨大部病変とうっ血乳頭を伴ったストレス多血症の1例 第2報. 第47回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 9.
- 91) 太組一朗<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 難治性てんかんの1症例. 第47回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 9.
- 92) 佐藤 俊, 足立好司, 竹井麻生, 寺本 明, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 安芸 薫<sup>1)</sup>, 芦田光隆<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小児科学): 先天性凝固第13因子欠乏症における脳内出血の再発. 第97回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 9.
- 93) 喜多村孝幸: 頭痛の診断と治療のトピックス. 第4回香川頭痛研究会, 2005. 9.
- 94) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 宮本倫行<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症に対する再手術例の検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 95) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 宮本倫行<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): far-out syndromeの1例. 第55回日本脳神経外科学会北海道支部学術集会, 2005. 10.
- 96) 齊藤寛浩<sup>1)</sup>, 山崎道生, 鈴木雅規, 酒井直之, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 流山中央病院脳神経外科): Progressing stroke に対する急性期血行再建術. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 97) 吉田陽一, 小南修史<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 寺本 明, Weon Yc<sup>3)</sup>, Sachet M<sup>3)</sup>, Mahadevan J<sup>3)</sup>, Alvarez H<sup>3)</sup>, Rodesch G<sup>3)</sup>, Lasjaunias P<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 同第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup> Service de neuroradiologie et radiologie interventionnelle, CHU de Bicetre): Bicêtre病院における小児テント上single-hole脳動静脈奇形41例の検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 98) 玉置智規<sup>1)</sup>, 澤田恵子<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 頸動脈隆起性病変の性状とPWV. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 99) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 救急医学): 頭蓋内疾患における免疫応答. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 100) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 神経下垂体部ジャーミノーマの発生部位と内分泌所見の関係. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 101) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 目白第二病院脳神経外科): ラットを用いた脳神経外科手術トレーニングのバリエーション: 準備と実践. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 102) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 救急医学): 脳虚再血灌流における活性酸素の役割について. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 103) 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 酒井直之, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 血小板マイクロパーティクル: 脳虚血時の血小板活性最新モニタリング. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.

- 104) 田原重志, 喜多村孝幸, 大山健一<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 石井雄道, 鈴木雅規, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 虎の門病院間脳下垂体外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック ): 下垂体部腫瘍に対する内視鏡単独での経鼻的手術の治療成績とその限界点. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 105) 山口文雄, 寺本 明: 新しい白質電気刺激双極電極「日医・山口電極」を用いた術中錐体路マッピング. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 106) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): 内頸動脈瘤に対するRAグラフトの周術期合併症と長期予後. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 107) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 包 義君, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博<sup>3)</sup>, 寺本 明, 鈴木雅規<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 同多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体腺腫における Discoidin Domain Receptor 1 ( DDR1 ) の発現とその意義. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 108) 吹野晃一<sup>1)</sup>, 山口文雄, 中村 治<sup>2)</sup>, 篠浦伸禎<sup>2)</sup>, 岡本幸一郎<sup>3)</sup>, 山田良治<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京都立駒込病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 国立国際医療センター脳神経外科 ): プロボフォル内頸動脈投与による優位大脳半球スクリーニング. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 109) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 志賀尚子<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>3)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>4)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>4)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院救命救急部, <sup>2)</sup> 多摩永山病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 救急医学 ): 多発外傷を伴う頭部外傷症例に対する救急体制: 当院における初療体制について. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 110) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 河野 潤, 山口文雄, 足立好司, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ): cDNA microarray 遺伝子発現プロファイル解析による悪性グリオーマの治療戦略. 第23回日本脳腫瘍学会, 2005. 10.
- 111) 鈴木雅規, 竹井麻生, 田原重志, 山王なほ子, 長村義之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体非機能腺腫における somatostatin receptor subtype2, subtype5 の発現・解析. 第9回日本内分泌病理学会学術総会, 2005. 10.
- 112) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): Anterior circulation thrombosed aneurysm に対する手術戦略: 一時的または恒久的バイパスを用いて. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 113) 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 治療困難な硬膜動静脈瘻に対するアプローチと治療戦略. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 114) 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 頸椎外側椎間板障害の診断と手術法: 術中所見の検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 115) 太組一朗<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 脳下垂体腺腫形成における PTTG ( pituitary tumortransforming gene ) の役割: PTTG-tg マウスの検討から. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 116) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 当施設における未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術症例の検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 117) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 脳動脈瘤再手術例の検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 118) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科 ): 診断, 治療が困難であった海綿状血管腫の画像診断と病理組織学的検討. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 119) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博, 鈴木雅規<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体腺腫におけるリン酸化CREB発現の



- 低酸素状態biomarkerとしての意義．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 120) 竹井麻生，田原重志，大山健一<sup>1)</sup>，鈴木雅規，山王なほ子，長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 虎の門病院間脳下垂体外科，<sup>2)</sup> 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)：術後octreotide投与にて内分泌学的寛解が得られた巨大下垂体腺腫の1例．第1回アクロメガリーフォーラム，2005．10．
- 121) 金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎固定術後頸椎アライメントの変化に関する検討．第40回日本脊髄障害医学会，2005．11．
- 122) 金 景成<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：ぴかぴかの一年生．第16回脊髄疾患VTR技術研究会，2005．11．
- 123) 吉田陽一，小南修史<sup>1)</sup>，金澤隆三郎，寺本 明，Weon Yc<sup>2)</sup>，Sachet M<sup>2)</sup>，Mahadevan J<sup>2)</sup>，Alvarez H<sup>2)</sup>，Rodesch G<sup>2)</sup>，Lasjaunias P<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> Department of Diagnostic and Therapeutic Neuroradiology, C. H. U. de Bicetre, Paris XI University)：パリ Bicêtre における小児テント上 single-hole 脳動静脈奇形41例の検討．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 124) 齊藤寛浩<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 流山中央病院脳神経外科)：脳卒中の診断と治療．流山市医師会学術講演会，2005．11．
- 125) 木暮一成<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：超高齢者(80歳)変形性腰椎症の2例．第11回千駄木ニューロカンファレンス，2005．11．
- 126) 金 景成<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：Far-out症候群の1例．第11回千駄木ニューロカンファレンス，2005．11．
- 127) 小南修史<sup>1)</sup>，布施 明<sup>2)</sup>，スィーワッタナクンキッテイボン<sup>3)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 救急医学，<sup>3)</sup> 旭中央病院脳神経外科)：アンラベリングしたコイルの回収法のひとつ．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 128) 小南修史<sup>1)</sup>，布施 明<sup>2)</sup>，吉田陽一，金澤隆三郎，鈴木雅規，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 救急医学)：脳動静脈奇形に対する塞栓術の限界．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 129) 寺尾 健<sup>1)</sup>，渡邊 玲<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：髄膜腫の手術前塞栓術をNBCAにて行った1例．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 130) 三品雅洋<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>2)</sup>，北村 伸<sup>3)</sup>，石渡喜一<sup>2)</sup>，三谷和子<sup>2)</sup>，鈴木正彦<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>4)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究施設，<sup>3)</sup> 日本医科大学内科学第2，<sup>4)</sup> 同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：アルツハイマー病における Mini-Mental State 各課題とブドウ糖代謝の相関：SPM2を用いた検討．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 131) 福地孝明<sup>1)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科，<sup>3)</sup> 内科学第2)：当センターで経験した硬膜動静脈瘻16例の報告．第17回日本脳循環代謝学会総会，2005．11．
- 132) 三品雅洋<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>2)</sup>，北村 伸<sup>3)</sup>，三谷和子<sup>2)</sup>，鈴木正彦<sup>2)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>4)</sup>，石渡喜一<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究施設，<sup>3)</sup> 日本医科大学内科学第2，<sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：アルツハイマー病における MMSE 各課題と糖代謝低下域の関係．第17回日本脳循環代謝学会総会，2005．11．
- 133) 太組一朗<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：Segmental Anormally を疑う両側内頸動脈閉塞の1例．第48回千葉北総神経放射線研究会，2005．11．
- 134) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：高齢者変形性腰椎症の臨床経過と当科における手術方針．第40回日本脊髄障害医学会，2005．11．
- 135) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>，山崎道生<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 目白第二病院脳神経外科)：当施設における脳血管撮影の適用：特に比較的軽症の脳梗塞患者に対して．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．

- 136) 戸田茂樹, 高山泰広<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>救急医学): Biopex を用いた cage による頸椎前方固定術の工夫. 第98回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 12.
- 137) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 基礎疾患を有し, 急激な経過を得た重症脳膿瘍の2例. 第98回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 12.
- 138) 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 三叉神経痛で発症した小脳橋角部類上皮腫の1例. 第98回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 12.
- 139) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明: 神経内視鏡単独手術の適応と将来への発展. 第12回日本神経内視鏡学会, 2005. 12.
- 140) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 慢性硬膜下血腫術後に生じた特発性脳内出血の1例. 第98回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 12.
- 141) 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 新しい白質電気刺激双極電極 NY Tract Finder を用いた術中錐体路モニタリング. 第29回日本脳神経CI学会総会, 2006. 1.
- 142) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): MRI 上重度脊柱管狭窄を呈さない変形性腰椎症の画像診断. 第29回日本脳神経CI学会総会, 2006. 1.
- 143) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 基礎疾患を有し急激に進行した重症脳腫瘍2例. 第29回日本脳神経CI学会総会, 2006. 1.
- 144) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Ebastine と Claarythromycin を投与中に reversible posterior leukoencephalopathy syndrome をきたした1例. 第29回日本脳神経CI学会総会, 2006. 1.
- 145) 山口文雄: 脳神経疾患の画像の見方. 関東神経整理検査技術研究会主催第33回日曜講習会, 2006. 1.
- 146) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明<sup>(1)</sup>山王クリニック): アクロメガリー患者における心血管危険因子と動脈硬化度. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.
- 147) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 包 義君, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): ペプチドハイドロゲルを用いた下垂体腺腫細胞の3D culture model の意義. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.
- 148) 竹井麻生, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 田原重志, 山王なほ子, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体非機能腺腫における Somatostatin receptor subtype の発現, 解析. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.
- 149) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 鈴木雅規, 饒波正博, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体腺腫におけるリン酸化 CREB 発現の in situ hypoxia biomarker としての意義. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.
- 150) 王 寧<sup>1)</sup>, 洲鎌秀永<sup>1)</sup>, 寺本 明, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理学第2): 下垂体および下垂体腺腫におけるインターロイキン18発現. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.
- 151) 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 腫瘍手術における PDD 利用の意義と 5-ALA を用いた SDT の基礎的研究. 第2回日本脳神経外科光線力学研究会, 2006. 2.
- 152) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎固定術後頸椎アライメントの変化に関する検討. 釧路脳神経外科懇話会, 2006. 2.
- 153) 太組一朗<sup>1)</sup>, 野村竜太郎<sup>1)</sup>, 野村浩一<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): てんかんで発症した右前頭葉, 側頭葉, 頭頂葉に及ぶ広範な病変の1例. 第49回千葉北総神経放射線研究会, 2006. 2.
- 154) 戸田茂樹: 私にとっての Spinal Surgeon 像. Authentic Spinal Surgeon Summit, 2006. 2.

- 155) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症(特異性低髄液圧症候群)の診断と治療. 第14回城南クリニカルニューロサイエンス研究会, 2006. 2.
- 156) 高山泰広<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 寺本 明, 村井保夫, 吉田陽一, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 外傷性内頸動脈瘤の1症例. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.
- 157) 竹井麻生, 鈴木雅規, 山崎道生, 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>山王クリニック, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): ACTH産生下垂体腺腫corticotroph cell adenomaにおけるCrooke変性の臨床・病理学的検討. CRH・ACTH研究会, 2006. 3.
- 158) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一, 布施 明<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>救急医学): 単純な経静脈的塞栓ができない硬膜動静脈瘤に対する血管内治療のアプローチ. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 159) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 大型内頸動脈瘤に対する手術戦略 バイパス, 血管内操作を併用して. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 160) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 再手術を必要とした脳動脈瘤の手術検討. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 161) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈瘤に対するRAグラフトの合併症, その原因と予後. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 162) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 対側内頸動脈閉塞を合併する内頸動脈狭窄症のCEA手術 閉塞側STA-MCA吻合術の必要性についての検討. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 163) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳血栓症における血小板活性化最新モニタリングとしての血小板マイクロパーティクル. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 164) 玉置智規<sup>1)</sup>, 澤田恵子<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 頸動脈隆起性病変の性状とPWV. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 165) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 高齢者変形性脊椎症手術の留意点. 第19回日本老年脳神経外科学会, 2006. 3.
- 166) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 脊柱管内に明らかな原因を認めなかった下肢痛の1例. 第61回東葛脳神経外科カンファレンス, 2006. 3.
- 167) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>2)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 赫 彰郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同救命救急センター, <sup>3)</sup>内科学第2): 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 168) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>内科学第2): 硬膜動静脈瘤21例の報告. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 169) 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>内科学第2): 脳卒中ホットラインの利用状況. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 170) 竹井麻生, 鈴木雅規, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 山王なほ子, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>虎の門病院間脳下垂体外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 内分泌寛解が得られた巨大下垂体腺腫の1例. 第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2006. 3.
- 171) 喜多村孝幸: 頭痛の診断・治療のトピックス. 第3回千葉県央頭痛フォーラム, 2006. 3.

(8) マイスター賞受賞講演:

- 1) 寺本 明: 下垂体腫瘍の診断法の開発と外科的治療に対する貢献. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.

(9) 教育シンポジウム：

- 1) 寺本 明：Microadenomaの臨床像と治療．第9回日本内分泌病理学会学術総会，2005．10．

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的疾患（顔面痙攣，三叉神経痛など）とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を対象としている．最近では，救急疾患の増加により，手術件数が飛躍的に増加しており，それに伴う臨床的な研究に力を注いでいる．特に従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍についても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を行い，良好な結果を収めてきている．脳血管障害や頭部外傷に関しては超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである．小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経系奇形に関しても，形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる．

一方，基礎的研究も盛んで，毎年確実に国内外に論文を発表している．特に，悪性腫瘍に関しては，多くの基礎的研究に基づいて特異的免疫療法と非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する臨床的研究が盛んである．また，分子生物学的研究も盛んで，一部文部科学研究補助金も援助を受けながら，脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究，腫瘍血管新生抑制に関する基礎的研究，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎的研究，さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Weber F<sup>1)</sup>, Fukino K, Villalona-Calero M<sup>1)</sup>, Eng C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Ohio State University ): Limitations of Single-Strand Conformation Polymorphism Analysis As a High-Throughput Method for the Detection of EGFR Mutations in the Clinical Setting . J Clin Oncol 2005 ; 23 ( 4 ): 5847-5848 .
- 2) Weber F<sup>1)</sup>, Fukino K, Sawada T<sup>1)</sup>, Williams N<sup>1)</sup>, Sweet K<sup>1)</sup>, Brena RM<sup>1)</sup>, Plass C<sup>1)</sup>, Caldes T<sup>1)</sup>, Mutter GL<sup>2)</sup>, Villalona-Calero Ma<sup>1)</sup>, Eng C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Ohio State University , <sup>2)</sup> Harvard Medical School ): Variability in organ-specific EGFR mutational spectra in tumour epithelium and stroma may be the biological basis for differential responses to tyrosine kinase inhibitors . Br J Cancer 2005 ; 92 ( 4 ): 1922-1926 .
- 3) Takahashi H, Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): Long-term outcome and reconsideration of intracystic chemotherapy with bleomycin for craniopharyngioma in children . Child's Nerv Syst 2005 ; 21 ( 8-9 ): 701-704 .
- 4) Yoshida D, Kim K<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): Expression of hypoxia-inducible factor 1alpha and cathepsin D in pituitary adenomas . Endocr Pathol 2005 ; 16 ( 2 ): 123-131 .
- 5) Kim K<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical school Hospital ): Expression of hypoxia-inducible factor 1alpha and vascular endothelial growth factor in pituitary adenomas . Endocr Pathol 2005 ; 16 ( 2 ): 115-121 .
- 6) Wang M<sup>1)</sup>, Yoshida D, Liu S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): Inhibition of cell invasion by indomethacin on glioma cell lines : in vitro study . J Neurooncol 2005 ; 72 ( 1 ): 1-9 .
- 7) Wang M<sup>1)</sup>, Tang J<sup>1)</sup>, Liu S<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital ): Expression

of cathepsin B and microvascular density increases with higher grade of astrocytomas. J Neurooncol 2005 ; 71 (1): 3-7 .

- 8) Yoshida D , Kogiku M , Noha M<sup>1)</sup> , Takahashi H , Teramoto A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Teikyo University , <sup>2)</sup> Nippon Medical School ): A case of pleomorphic xanthoastrocytoma presenting with massive tumoral hemorrhage . J Neurooncol 2005 ; 71 (2): 169-171 .
- 9) Yoshida D , Kim K<sup>1)</sup> , Noha M<sup>2)</sup> , Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Teikyo University ): Hypoxia inducible factor 1-alpha regulates of platelet derived growth factor-B in human glioblastoma cells . J Neurooncol 2006 ; 76 (1): 13-21 .
- 10) 吉田大蔵 , 金 景成<sup>1)</sup> , 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 下垂体腺腫における組織酸素分圧低下の生物学的意義 . 日医大医学会誌 2005 ; 1 (3): 110-116 .
- 11) 高橋 弘 : Neuroimaging Quiz : シャント機能不全に伴い著明な脳浮腫を呈した1例 . Clinical Neurosci 2005 ; 23 (6): 699-700 .
- 12) 吉田大蔵 : Neuroimaging Quiz : Cerebral Cysticercosis . Clinical Neurosci 2005 ; 23 (7): 825-826 .
- 13) 山口文雄<sup>1)</sup> , 高橋 弘 , 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 脳腫瘍生検術における術中蛍光診断"Stereotactic Fluorescence Biopsy"の有用性 . 脳外速報 2005 ; 15 (7): 667-672 .
- 14) 吉田大蔵 : Neuroimaging Quiz : Cerebral Cysticercosis . Clinical Neurosci 2006 ; 24 (3): 825-826 .

(2) 総説 :

- 1) 高橋 弘 : 神経疾患の治療とサイトカイン ; インターフェロンによる脳腫瘍の治療 . Clinical Neurosci 2005 ; 23 (8): 935-937 .
- 2) 勝野 亮 , 横田裕行<sup>1)</sup> , 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター , <sup>2)</sup> 同脳神経外科 ): 高血圧性脳内出血に対する急性期治療 . 救急医学 2005 ; 29 (9): 1061-1069 .
- 3) 高橋 弘 , 河野 潤 : 脳腫瘍の診断と治療 最新の研究動向 : cDNA microarray を用いた悪性神経膠腫の遺伝子発現プロファイル . 日本臨床 2005 ; 63 (9): 515-519 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Takahashi H : Modern therapeutic strategies for malignant astrocytoma . Harbin International Neurosurgical Congress ( Harbin, China ), 2005 . 8 .
- 2) Takahashi H : Treatment against human malignant glioma in relation to comprehensive gene expression analysis . The 2nd Annual Meeting of the Chinese Society of Neuro-oncology ( Chen-du, China ), 2005 . 11 .
- 3) 高橋 弘 : 小児悪性グリオーマの治療戦略 : 特にテント上と脳幹部について . 第10回日本脳腫瘍の外科学会 , 2005 . 11 .

(2) シンポジウム :

- 1) Fukino K , Shen L<sup>1)</sup> , Matsumoto S<sup>1)</sup> , Morrison CD<sup>1)</sup> , Mutter GI<sup>2)</sup> , Eng C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Ohio University , <sup>2)</sup> Harvard Medical School ): Combined Total Genome Loss-of-Heterozygosity Scan of Breast Cancer Stroma and Epithelium Reveals Multiplicity of Stromal Targets . Minisymposium ( Clinical Research 10 ) in 96th Annual Meeting of American Association for Cancer Research ( AACR ) ( Canada USA ), 2005 . 4 .

(3) 一般講演 :

- 1) Yoshida D , Kim K<sup>1)</sup> , Noha M<sup>2)</sup> , Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Teikyo University ): Cell invasion of human pituitary adenoma cell line, HP-75 in hypoxia . 2nd Quadrennial meeting of the World Federation of Neuro-Oncology / 6th meeting of the European Association of Neuro-Oncology . ( Edinburg, UK ), 2005 . 5 .

- 2) Takahashi H , Kouno J , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Nippon Medical School Hospital ): Comprehensive gene expression analysis of human malignant glioma using cDNA microarray for therapeutic strategy. . 2nd Quadrennial meeting of the World Federation of Neuro-Oncology / 6th meeting of the European Association of Neuro-Oncology. ( Edinburg, UK ), 2005 . 5 .
- 3) Takahashi H , Adachi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Kogiku M , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Nippon Medical School Hospital ): Strategy of treatment against supratentorial and infratentorial malignant gliomas in children. . 33rd Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery. ( Vancouver, Canada ), 2005 . 6 .
- 4) Morimoto D , Yoshida D , Noha M<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Osamura Y<sup>3)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> Teikyo University , <sup>2</sup>) Nippon Medical School Hospital , <sup>3</sup>) Tokai University ): Biological Significance of Phosphorylated cAMP Response Element Binding Protein in Pituitary Adenoma. .Congress of Neurological Surgeons( Boston USA ), 2005 . 10 .
- 5) 森本大二郎, 吉田大蔵, 饒波正博<sup>1)</sup>, 鈴木雅則<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>帝京大学溝口病院, <sup>2</sup>) 付属病院脳神経外科, <sup>3</sup>) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体腺腫におけるリン酸化CREB発現の in situ hypoxia biomarker としての意義 . 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2005 . 2 .
- 6) 勝野 亮, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>) 同脳神経外科 ): くも膜下出血と脳内出血の心電図変化 . 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005 . 4 .
- 7) 勝野 亮, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>) 同脳神経外科 ): 頭蓋内疾患におけるT細胞性免疫と脳代謝の関係 . 第8回日本臨床救急医学会総会, 2005 . 4 .
- 8) 吉田大蔵, 金 景成<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>2)</sup>, 森本大二郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2</sup>) 帝京大学 ): ヒト下垂体腺腫細胞の低酸素状態での細胞浸潤の変化 . 第23回日本脳腫瘍病理学会, 2005 . 4 .
- 9) 勝野 亮, 高島伸之介<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>) 同脳神経外科 ): 頭部外傷後塩類喪失症候群を呈した3例 . 第19回日本外傷学会, 2005 . 5 .
- 10) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院脳神経外科 ): 松果体PNETの長期生存の1例 . 第33回日本小児神経外科学会, 2005 . 5 .
- 11) 勝野 亮, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>) 同脳神経外科 ): 頭蓋内疾患における免疫反応と脳代謝の関係 . 第10回日本脳代謝モニタリング研究会, 2005 . 7 .
- 12) 吉田大蔵, 森本大二郎, 包 義君<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2</sup>) 帝京大学溝口病院, <sup>3</sup>) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体腺腫におけるDiscoidin Domain Receptor 1 (DDR1)の細胞浸潤に果たす意義に関する研究 . 第37回日本臨床分子形態学会, 2005 . 9 .
- 13) 森本大二郎, 吉田大蔵, 饒波正博<sup>1)</sup>, 鈴木雅則<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 帝京大学溝口病院, <sup>2</sup>) 日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>3</sup>) 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 ): 下垂体腺腫におけるリン酸化CREB発現の低酸素状態biomarkerとしての意義 . 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .
- 14) 勝野 亮, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) 付属病院高度救命救急センター, <sup>2</sup>) 同脳神経外科 ): 頭蓋内疾患における急性期IL - 4の変動 . 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .
- 15) 吹野晃一, 山口文雄<sup>1)</sup>, 中村 治<sup>2)</sup>, 篠浦伸禎<sup>2)</sup>, 岡本幸一郎<sup>2)</sup>, 山田良治<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2</sup>) 東京都立駒込病院 ): プロボフォル内頸動脈投与による優位大脳半球スクリーニング . 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .

- 16) 吉田大蔵, 森本大二郎, 包 義君<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>帝京大学溝口病院, <sup>3)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体腺腫における Discoidin Domain Receptor 1 (DDR1) の発現とその意義. 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 17) 高橋 弘, 河野 潤, 山口文雄<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科): cDNA microarray 遺伝子発現プロファイル解析を用いた悪性グリオーマのインターフェロン併用化学療法. 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 18) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 神経下垂体部ジャーミノーマの発生部位と内分泌所見の関係. 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 19) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 鈴木紀成, 二宮宣分<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 多発外傷を伴う頭部外傷症例に対する救急体制: 当院における初療体制について. 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 20) 高橋 弘, 河野 潤, 山口文雄<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): cDNA microarray 遺伝子発現プロファイル解析による悪性グリオーマの治療戦略. 第23回日本脳腫瘍学会, 2005. 10.
- 21) 森本大二郎, 吉田大蔵, 勝野 亮, 吹野晃一, 鈴木紀成, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 慢性硬膜下血腫術後に生じた特発性脳内出血の1例. 第98回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 12.
- 22) 勝野 亮, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 頭蓋底骨折に伴い両側性外転神経麻痺を来した症例. 第11回日本脳神経外科救急学会, 2006. 1.
- 23) 吉田大蔵, 森本大二郎, 包 義君<sup>1)</sup>, 北川 亮<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): ペプチドハイドロゲルを用いた下垂体腺腫細胞の3D culture modelの意義. 第16回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2006. 2.

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は、日本脳神経外科専門医訓練施設として付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら以下の研究を行っている。これらは全てハイレベルの受診者満足度を目的とした観点からの研究と考えている。

多摩地区は高齢者人口が増加の一途をたどり、それに伴い虚血性脳血管障害症例が急増している。それゆえ、上記疾患に対する研究を第一とした。すなわち、内頸動脈狭窄症に対しては外科的治療戦略のさらなる改善・工夫についての研究を行った。また、脳梗塞急性期症例に対し、最も重要な要因のひとつである血小板機能の病態解明について、従来にはなかった最新の研究が可能となり目下進行中である。そして近々その報告ができると確信している。なお、3D-CTAなどの画像検査・頸動脈エコー・PWV・経頭蓋超音波ドプラー検査および電気生理学的検査(ABR, SEP)等を駆使し、臨床研究の一助としている。

特にPWVおよび頸動脈エコーについては、脳梗塞予防・再発防止の観点からも研究を行っている。

次に、いわゆる無症候性疾患、特に高齢者の脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤などに対しては、QOLを第一とした手術法についての改良研究を行った。なお、従来摘出困難とされていた頭蓋底腫瘍に対しては、予後改善目的に手術法の検討のみならず手術器具の開発研究も行っている。

なお、当教室の主体の1つである脳下垂体腺腫、および悪性脳腫瘍や脊椎・脊髄疾患については、付属病院他専門スタッフの協力を得て、脳神経外科学教室共通のプロトコールに従い治療・研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tamaki T, Sawada K, Hayashi S, Node Y, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Carotid atherosclerosis and arterial peripheral pulse wave velocity in cerebral thrombosis. Journal of Clinical Neuroscience 2006 ; 13 (1): 45-49 .
- 2) Node Y, Tamaki T, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Clinical analysis of the patients with anterior skull base and craniofacial injury in the acute head trauma. Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology 2006 ; 316-320 .
- 3) Node Y, Tamaki T, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Clinical features in the patients with "Platform Accident" in Tokyo. Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology 2006 ; 391-395 .
- 4) 鈴木雅規, 石井雄道<sup>1)</sup>, 宮井俊輔<sup>2)</sup>, 山王なほ子<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>3)</sup>山王クリニック): 下垂体腺腫における nestin の免疫組織学的検討. 第15回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding2005 2005 .
- 5) 鈴木雅規, 峰松健夫<sup>1)</sup>, 宮井俊輔<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>2)</sup>山王クリニック, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科): Immunohistochemical study にて ACTH と -SU を同時発現した Cushing ' s disease の2例. ACTH RELATED PEPTIDES 2005 ; 16 .

### 著書

- 1) 玉置智規：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Gliomatosis cerebri. Clinical Neuroscience, 2005 ; pp343-344, 中外医学社 .
- 2) 玉置智規：〔分担〕Neuroimaging Quiz：外傷性頸動脈損傷（隆起性病変損傷）. Clinical Neuroscience, 2005 ; pp1063-1064, 中外医学社 .
- 3) 野手洋治：〔分担〕Neuroimaging Quiz：悪性黒色腫. Clinical Neuroscience, 2005 ; pp939-940, 中外医学社 .

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 玉置智規：脳梗塞とCEA. 2005年度第二回永山病院看護部研修会, 2005 . 3 .
- 2) 玉置智規：脳腫瘍について. 2005年度第三回永山病院看護部研修会, 2005 . 7 .

#### (2) 一般講演：

- 1) Suzuki M, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Oyama K<sup>2)</sup>, Tahara S<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>3)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Toranomon Hospital, <sup>3)</sup>Sanno Clinic, <sup>4)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Immunohistochemical study of three cases of Cushing ' s disease comitted GH/PRL. ENDO2005 ( San Diego ), 2005 . 6 .
- 2) Suzuki M, Miyai S<sup>1)</sup>, Oyama K<sup>2)</sup>, Tahara S<sup>3)</sup>, Sanno N<sup>4)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Osamura RY<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup>Toranomon Hospital, <sup>3)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>4)</sup>Sanno Clinic): Immunohistochemical study of Five cases of pituitary corticotroph cell adenomas co - expressed a - SU. Pituitary congress 2005 ( San Diego ), 2005 . 6 .
- 3) 鈴木雅規, 峰松健夫<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>2)</sup>, 田原重志<sup>3)</sup>, 山王なほ子<sup>4)</sup>, 長村義之<sup>5)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>2)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>4)</sup>山王クリニック, <sup>5)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学): 下垂体偶発腫における MIB - 1 index の検討. 第23回日本脳腫瘍



病理学会, 2005 . 4 .

- 4) 鈴木雅規, 石井雄道<sup>1)</sup>, 宮井俊輔<sup>2)</sup>, 山王なほ子<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>3)</sup>山王クリニック, <sup>4)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学): 下垂体腺腫における nestin の免疫組織学的検討 . 第94回日本病理学会総会, 2005 . 4 .
- 5) 玉置智規, 岩本直高, 斉藤寛浩, 野手洋治: 軽微な交通外傷による plaque injury から artery to artery emboli をきたした1例 . 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005 . 4 .
- 6) 鈴木雅規, 田原重志<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>2)</sup>, 宮井俊輔<sup>3)</sup>, 山王なほ子<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>4)</sup>山王クリニック): GH産生腺腫を伴ったクッシング症候群の1例: 海綿静脈洞サンプリングのピットフォール . 第78回日本内分泌学会総会, 2005 . 7 .
- 7) 鈴木雅規, 峰松健夫<sup>1)</sup>, 宮井俊輔<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>2)</sup>山王クリニック, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科): Immunohistochemical study にて ACTH と -SU を同時発現した Cushing ' s disease の2例 . 第20回日本下垂体研究会, 2005 . 7 .
- 8) 野手洋治, 玉置智規, 佐々木光由, 山田 明, 酒井直之, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 血小板マイクロパーティクル - 脳虚血時の血小板活性最新モニタリング . 第64回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .
- 9) 鈴木雅規, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 峰松健夫<sup>2)</sup>, 梶谷華子<sup>3)</sup>, 山王なほ子<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部基盤診療系病理診断学, <sup>4)</sup>山王クリニック): 下垂体腺腫における somatostatin receptor 2A の発現・解析 . 第9回日本内分泌病理学会, 2005 . 10 .
- 10) 玉置智規, 澤田恵子, 野手洋治: 頸動脈隆起性病変の性状とPWV . 第64回脳神経外科学会総会, 2005 . 10 .
- 11) 鈴木雅規, 佐々木光由, 山田 明, 酒井直之, 玉置智規, 野手洋治: 基礎疾患を有し, 急激な経過を得た重症脳膿瘍の2例 . 第98回日本脳神経外科学会 関東地方会, 2005 . 12 .
- 12) 野手洋治, 玉置智規, 山田 明, 鈴木雅規, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳血栓症に対する血小板活性化最新モニタリング . 第11回日本脳神経外科救急学会, 2006 . 1 .
- 13) 鈴木雅規, 佐々木光由, 山田 明, 酒井直之, 玉置智規, 野手洋治: 基礎疾患を有し, 急激な経過を得た重症脳膿瘍の2例 . 第29回日本脳神経CI学会, 2006 . 1 .
- 14) 玉置智規, 山田 明, 酒井直之, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): Ebastine と Clarythromycin を投与中に reversible posterior leukoencephalopathy syndrome をきたした1例 . 第29回日本脳神経CI学会総会, 2006 . 1 .
- 15) 野手洋治, 玉置智規, 山田 明, 鈴木雅規, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳血栓症における血小板活性化モニタリングとしての血小板マイクロパーティクル . 第31回日本脳卒中学会総会, 2006 . 3 .
- 16) 玉置智規, 澤田恵子, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 頸動脈隆起性病変とPWV . 第31回脳卒中学会総会, 2006 . 3 .
- 17) 玉置智規, 山田 明, 土屋雅人, 鈴木雅規, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): Ebastine と Clarythromycin を投与中に reversible posterior leukoencephalopathy syndrome をきたした1例 . 第99回脳神経外科学会関東地方会, 2006 . 3 .

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設12年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍, 脳代謝, 脳血管内手術, 脊髄脊椎外科を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った . Stroke Care Unit (SCU) および, 脳卒中ホットラインも順調に稼動しており, ドクターヘリを加味した病診連携も確固た

るものとなり千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。

- 1) 脳血管障害：High flow bypassの内，radial artery graft bypass の連続症例の検討を行い，その有効性を実証した。posterior circulation aneurysm に対する，Anterior temporal approachの有用性を報告した。当施設でのCEA合併症に関して詳細な検討を加えた。
- 2) 頭部外傷：ドクターヘリ導入後の利用状況の検討を行い，その有用性を確認した。多発外傷例に対するDoctor Ambrane (DA) システムの意義を強調した。
- 3) 脳腫瘍：脳下垂体腺腫形成におけるPTTG (pituitary tumortransforming gene) の役割を論じた。
- 4) 脳代謝：アルツハイマー病におけるMMSE各課題と糖代謝低下域の関係を検討した。脳血管障害における[11C] flumazenil PETの応用に関して発表した。
- 5) 脳血管内手術：治療困難な硬膜動静脈瘻に対するアプローチと治療戦略を検討した。
- 6) 脊髄脊椎外科：頸椎外側椎間板障害の診断と手術法を報告した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Mishina M , Ishiwata S<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Kitamura S<sup>2)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Kawamura K<sup>1)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Sakayori O<sup>2)</sup> , Hamamoto M<sup>2)</sup> , Kobayashi S , Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Function of sigma 1 receptors in Parkinson's disease . Acta Neurol Scand 2005 ; 112 ( 2 ): 103-107 .
- 2) Akino K<sup>2)</sup> , Akita S<sup>2)</sup> , Mizuguchi T<sup>3)</sup> , Takumi I , Yu R<sup>1)</sup> , Wnag XY<sup>1)</sup> , Rozga J<sup>1)</sup> , Demetriou AA<sup>1)</sup> , Melmed S<sup>1)</sup> , Oturu A<sup>2)</sup> , Yamashita S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine ; Department of Surgery, Cedars\_Sinai Research Institute UCLA School of Medicine, Los Angeles , <sup>2)</sup> Department of Molecular Medicine, Nagasaki University, Graduate School of Biomedical Acienes, Atomic Bomb Disease Institute , <sup>3)</sup> Department of Developmental and Reconstructive Medicine ): A novel molecular maker of pituitary tumor transforming gene involves in a rat liver regeneration . Journal of Surgical Research 2005 ; 129 : 142-146 .
- 3) Abbud RA<sup>1)</sup> , Takumi I , Baker EM<sup>1)</sup> , Ren SG<sup>1)</sup> , Dar-Yong C<sup>2)</sup> , Wawrowsky K<sup>1)</sup> , Melmed S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Medicine and S. Mark Taper Imaging Center ( D. -Y. C. ) , Cedars Sinai Research Institute, David Geffen School of Medicine at University of California at Los Angeles , <sup>2)</sup> S. Mark Taper Imaging Center. Cedars Sinai Research Institute, David Geffen School of Medicine at University of California at Los Angeles ): Early Multipotential Pituitary Focal Hyperplasia in the -Subunit of Glycoprotein Hormone-Driven Pituitary Tumor-Transforming Gene Transgenic Mice . Molecular Endocrinology 2005 ; 19 ( 5 ): 1383-1391 .
- 4) Mishina M , Komaba Y<sup>1)</sup> , Kobayashi S , Tanaka N<sup>1)</sup> , Kominami S , Fukuchi T , Mizunari T , Hamamoto M<sup>1)</sup> , Teramoto A<sup>2)</sup> , Katayama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Efficacy of edaravone, a free radical scavenger, for the treatment of acute lacunar infarction. . Neurol Med Chir ( Tokyo ) 2005 ; 45 : 342-346 .
- 5) Shimizu H<sup>1)</sup> , Mori O<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>1)</sup> , Kamoi S<sup>1)</sup> , Kobayashi S , Okada S<sup>2)</sup> , Maeda S<sup>3)</sup> , Naito Z<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon MedicalSchool ChibaHokuso Hospital , <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ChibaHokuso Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue . Brain Tumor Pathol 2005 ; 22 : 59-74 .
- 6) Takumi I , Isayama K<sup>1)</sup> , Osamura Y<sup>2)</sup> , Kobayashi S , Teramoto A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Neurosurgery, Matue Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery,

Nippon Medical School): Intracisternal neurinoma of the C1 posterior root. Acta Neurochir 2005; 147: 1189-1192.

- 7) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 福地孝明, 小林士郎, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2): [11C]TMSX PETによるアデノシン A2A 受容体分布の測定. Cerebral Blood Flow and Metabolism 2005; 17: 79-80.
- 8) 三品雅洋, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 田中伸幸<sup>1)</sup>, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>脳神経外科学): ラクナ梗塞におけるエダラボンの効果: ロジスティック回帰分析を用いた検討. Pharma Medica 2005; 23(3): 193-193.

## 著 書

- 1) 金 景成, 小林士郎: [分担] 頭部・頸部の手術: 開頭術(腫瘍と血腫). 手術患者のケア・マニュアル(岩井武尚・落海真喜枝), 2005; pp76-81, 医学芸術社.
- 2) 金 景成, 小林士郎: [分担] 呼吸不全, 心不全, 不整脈. 脳神経外科学体系4. 周術期管理. (山浦晶), 2005; pp244-253, 中山書店.
- 3) 小南修史: [分担] 出血性脳血管障害: 脊髄動静脈奇形. Clin Neurosci, 2005; pp1149-1152, 中外医学社.
- 4) 小南修史: [分担] Neuroimaging Quiz: 脊髄硬膜動静脈瘻(Spinal dural AV fistula). Clin Neurosci, 2006; pp117-118, 中外医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 小南修史: 内頸動脈系の解剖と発生. 第36回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2005. 5.
- 2) 小南修史: 脳動静脈奇形に対する血管内治療. 第36回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2005. 5.
- 3) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎: 硬膜外ブラッドパッチが奏功した脳脊髄液減少の1例. 第6回千葉頭痛研究会, 2005. 6.
- 4) 太組一朗: PTTGトランスジェニックマウスにおける下垂体表現型の変化: David Geffen School of Medicine, University of Californiaにおける研究. 東海大学医学部病理診断学セミナー, 2005. 6.
- 5) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 木村裕一<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 長縄美香<sup>2)</sup>, 石川雅智<sup>3)</sup>, 福地孝明, 小林士郎, 北村 伸<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, <sup>2)</sup>奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科, <sup>3)</sup>千葉大学大学院精神科, <sup>4)</sup>日本医科大学内科学第2): [C-11]TMSX PETを用いた未治療の典型的パーキンソン病1例におけるアデノシン A2A 受容体分布の測定. 第5回パーキンソン病フォーラム, 2005. 8.
- 6) 小林士郎: 片頭痛を見逃さないために. 第74回東葉臨床医学セミナー, 2005. 10.
- 7) 小林士郎: ビマン性脳損傷. 平成17年度日本医科大学医学会講演会診療教授特別講演会, 2005. 11.
- 8) 小林士郎: 脳卒中にならないために. 第1回成田脳卒中市民公開講座, 2005. 11.

### (2) 招待講演:

- 1) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): High flow bypass: Radial artery graft bypassの実際. 第25回日本脳神経外科コンgres総会, 2005. 5.

### (3) シンポジウム:

- 1) 寺尾 健, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): Acute & Rehabilitation type SCU運営上の問題点. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.

### (4) 一般講演:

- 1) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Second Department of Internal Medicine,

- Nippon Medical School): Ipsilateral Thalamic Diaschisis in Patients with Cortical Infarction : Logistic Regression Analysis . XXIIInd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & VIIth International Conference on Quantification of Brain Function with PET, ( Amsterdams ), 2005 . 6 .
- 2) Mishina M , Ishi K<sup>1)</sup> , Kitamura S<sup>2)</sup> , Suzuki M<sup>1)</sup> , Mitani K<sup>1)</sup> , Kobayashi S , Ishikawa K<sup>1)</sup> , Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Relationship between regional hypometabolism of glucose and subscores of mini mental state examination in Alzheimer's Disease . 11th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping ( Toronto ), 2005 . 6 .
  - 3) Mishina M , Ishi K<sup>1)</sup> , Kitamura S<sup>2)</sup> , Suzuki M<sup>1)</sup> , Mitani K<sup>1)</sup> , Kobayashi S , Ishikawa K<sup>1)</sup> , Katayama Y<sup>2)</sup> : Correlation Between Brain Dysfunction and Regional Hypometabolism of Glucose During Resting State in Alzheimer's Disease . The 52nd Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Toronto ), 2005 . 6 .
  - 4) Kominami S : Presurgical Embolization of Meningiomas with NBCA . 8th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Italy ), 2005 . 10 .
  - 5) Mishina M , Ishikawa K<sup>1)</sup> , Ishi K<sup>1)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Kawamura K<sup>1)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Kobayashi S , Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Distribution of Adebosine A2A Receptors In Human Brain Using [C-11]TMSX PET . XXIIInd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function & VIIth International Conference on Quantification of Brain Function with PET , 2005 . 6 .
  - 6) Takumi I : Early multipotential pituitary focal hyperplasia in the alpha-subunit of glycoprotein hormone-driven pituitary tumor-transforming gene transgenic mice . 第20回日本脳神経外科国際学会フォーラム, 2005 . 7 .
  - 7) 水谷暢秀, 小島豊之, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 低随圧症候群の治療症例 . 第961回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005 . 4 .
  - 8) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学 ): 高齢者の腰部脊椎管狭窄症に関する考察 . 第18回日本老年脳神経外科学会, 2005 . 4 .
  - 9) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): Anterior temporal approachの有効性 . 第14回脳神経外科手術と機器学会, 2005 . 4 .
  - 10) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学 ): 頸椎症に対する術式選択 : RABEA ( titanium cage ) を用いた前方固定術と経椎体法の比較 . 第14回脳神経外科手術と機器学会, 2005 . 4 .
  - 11) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小林士郎, 岡田 進<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第2 ): 細胞診における浸潤性星細胞腫と周囲組織のインターフェイス . 第23回日本脳腫瘍病理学会, 2005 . 4 .
  - 12) 三品雅洋, 成相 直<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 福地孝明, 小林士郎, 片山泰朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都老人総合研究所, ポジトロン研究所グループ, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2 ): 脳血管障害における[11C] flumazenil PET の応用に関する検討 . 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
  - 13) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 阿部 新, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学内科学第2 ): 当センターにおける dural AVF 症例の報告 . 第30回日本脳卒中学会総会, 2005 . 4 .
  - 14) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 各種大型血栓化動脈瘤に対する治療戦略 . 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005 . 4 .
  - 15) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術症例の検討 . 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005 . 4 .
  - 16) 梅岡克哉, 村井保夫<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川

- 赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈病変に対するRAグラフトの適応に関する文献的考察と我々の方法. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 17) 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 水成隆之, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 斉藤寛浩<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>放射線医学): 虚血性脳血管障害の血流評価における3D-SSPの有用性. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 18) 斉藤寛浩<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 当施設のCEA合併症について. 第34回日本脳卒中の外科学会, 2005. 4.
- 19) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 阿部 新<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当脳神経センター過去10年間における6例の報告. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 20) 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): アルツハイマー病におけるMMSEの各課題と脳ブドウ糖代謝の関係. 第46回日本神経学会総会, 2005. 5.
- 21) 平間章郎, 三品雅洋, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: Malignant Lymphomaとの鑑別が困難であった脳梗塞の1例. 第45回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 5.
- 22) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 頸椎外側椎間板障害の圧迫要因. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 23) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 高齢者腰部脊柱管狭窄症の臨床的特徴と手術方針. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 24) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 宮本倫行<sup>1)</sup>, 木暮一成(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): スーパーフィクスープを用いた頸椎前方固定術 手術手技 Anterior cervical fusion using Super Fixsorb-surgical technique. 第20回日本脊髄外科学会, 2005. 6.
- 25) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 阿部 新<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 当脳神経センターにおいて脳内出血で発症した硬膜動静脈瘻6例の報告. 第23回日本神経治療学会総会, 2005. 6.
- 26) 梅岡克哉, 太組一朗, 野村竜太郎, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 虚血性病変の後にくも膜下出血を続発した後下小脳動脈解離性病変の1例. 第19回日本神経救急学会学術集会, 2005. 6.
- 27) 佐藤 愛<sup>1)</sup>, 野口 素<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 高橋祐子<sup>1)</sup>, 加藤美和子<sup>1)</sup>, 松本麻衣子<sup>1)</sup>, 小田むつみ<sup>1)</sup>, 堀込優子<sup>1)</sup>, 久野香織<sup>1)</sup>, 水成隆之(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部脳神経センター): 誤嚥性肺炎予防に有効な口腔ケアの検討. 第14回日本意識障害学会, 2005. 7.
- 28) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): STA-MCA吻合術においてrecipient artery をどう選択するか. 第24回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005. 9.
- 29) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 当施設における脳虚血急性期の治療体制: 治療方針及び現状の問題点を 含めて. 第24回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005. 9.
- 30) 伊藤智美<sup>1)</sup>, 野口 素<sup>1)</sup>, 松田朋子<sup>1)</sup>, 豊田紋子<sup>1)</sup>, 宮本恵美<sup>1)</sup>, 岡田知弥子<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 水成隆之(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部脳神経センター): SCUを有する脳神経センターにおける看護の取り組み. 第24回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2005. 9.
- 31) 梅岡克哉, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 発症30日後の検査にて明らかとなった脳底動脈動脈瘤の1例. 第97回日本脳神経外科学会関東地方会, 2005. 9.
- 32) 梅岡克哉, 田原重志<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体卒中を契機に軽快したAcromegalyの1例. 第3回千葉アクロメガリーワークショップ, 2005. 9.
- 33) 三品雅洋, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳梁膨大部病変とうっ血乳頭を伴ったストレス多血症の1例: 第2報. 第47回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 9.
- 34) 太組一朗, 水成隆之, 小林士郎: 難治性てんかんの1症例. 第47回千葉北総神経放射線研究会, 2005. 9.
- 35) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): Anterior circulation thrombosed aneurysmに対する手術

- 戦略：一時的または恒久的バイパスを用いて．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 36) 小南修史，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：治療困難な硬膜動静脈瘻に対するアプローチと治療戦略．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 37) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2</sup>日本医科大学脳神経外科学)：頸椎外側椎間板障害に診断と手術法：術中所見の検討．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 38) 太組一朗，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：脳下垂体腺腫京成におけるPTTG (pituitary tumor-transforming gene) の役割；PTTG-tgマウスの検討から．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 39) 水谷暢秀，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：当施設における未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術症例の検討．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 40) 梅岡克哉，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：脳動脈瘤再手術例の検討．第64回日本脳神経外科学会総会，2005．10．
- 41) 木暮一成：超高齢者(80歳)変形性腰椎症の2例．第11回千駄木ニューロカンファレンス，2005．11．
- 42) 金 景成：Far-out症候群の1例．第11回千駄木ニューロカンファレンス，2005．11．
- 43) 小南修史，布施 明<sup>1)</sup>，キッテイボン スイワツタナクン<sup>2)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2</sup>旭中央病院脳神経外科，<sup>3</sup>日本医科大学脳神経外科学)：アンラベリングしたコイルの回収法のひとつ．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 44) 小南修史，布施 明<sup>1)</sup>，吉田陽一<sup>2)</sup>，金沢隆三郎<sup>2)</sup>，鈴木雅規<sup>2)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>救急医学，<sup>2</sup>脳神経外科学)：脳動静脈奇形に対する塞栓術の限界．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 45) 寺尾 健，渡辺 玲，小南修史，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：髄膜腫の手術前塞栓術をNBCAを用いて行った1例．第21回日本脳神経血管内治療学会総会，2005．11．
- 46) 三品雅洋，石井賢二<sup>1)</sup>，北村 伸<sup>2)</sup>，石渡喜一<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>1)</sup>，鈴木正彦<sup>1)</sup>，小林士郎，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設，<sup>2</sup>日本医科大学内科学第2)：アルツハイマー病におけるMini-Mental State各課題とブドウ糖代謝の相関：SPM2を用いた検討．第45回日本核医学会総会，2005．11．
- 47) 福地孝明，小南修史，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第2)：当センターで経験した硬膜動静脈瘻16例の報告．第17回日本脳循環代謝学会総会，2005．11．
- 48) 三品雅洋，石井賢二<sup>1)</sup>，北村 伸<sup>2)</sup>，三谷和子<sup>1)</sup>，鈴木正彦<sup>1)</sup>，福地孝明，小林士郎，石渡喜一<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設，<sup>2</sup>日本医科大学内科学第2)：アルツハイマー病におけるMMSE各課題と糖代謝低下域の関係．第17回日本脳循環代謝学会総会，2005．11．
- 49) 太組一朗，水成隆之，小林士郎：Segmental Anormally を疑う両側内頸動脈閉塞の1例．第48回千葉北総神経放射線研究会，2005．11．
- 50) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>釧路労災病院脳神経外科)：高齢者変形性腰椎症の臨床経過と当科における手術方針．第40回日本脊髄障害医学会，2005．11．
- 51) 小南修史：今年一番の症例：髄膜腫の1例．第16回西関東Neuro IVRセミナー，2005．12．
- 52) 野村竜太郎，太組一朗，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学)：三叉神経痛で発症した小脳橋角部類上皮腫の1例．第98回日本脳神経外科学会関東地方会，2005．12．
- 53) 太組一朗，小林士郎，水谷暢秀<sup>1)</sup>，森 修<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>脳神経外科学，<sup>2</sup>千葉北総病院病理部)：てんかん重積となったNeureteric Cystの1症例．第29回日本てんかん外科学会，2006．1．
- 54) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2</sup>日本医科大学脳神経外科学)：MRI上重度脊柱管狭窄を呈さない変形性腰椎症の画像診断．第29回日本脳神経CI学会総会，2006．1．
- 55) 太組一朗，野村竜太郎，野村浩一，寺尾 健，金 景成，渡辺 玲，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：てんかんで発症した右前頭葉，側頭葉，頭頂葉に及ぶ広範な病変の1例．第49回千葉北総神経放射線研究会，2006．2．

- 56) 金 景成, 野村竜太郎, 野村浩一, 寺尾 健, 太組一朗, 渡辺 玲, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳梗塞に合併した右尾状核病変の1例. 第49回千葉北総神経放射線研究会, 2006. 2.
- 57) 渡辺 玲: Myelopathyを呈した骨盤AVMの1例. 第17回西関東Neuro IVR セミナー, 2006. 3.
- 58) 小南修史: 種々の脊髄短絡性血管障害. 第17回西関東Neuro IVR セミナー, 2006. 3.
- 59) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 高齢者変形性脊椎症手術の留意点. 第19回日本老年脳神経外科学会, 2006. 3.
- 60) 三品雅洋, 小林士郎, 武井健吉<sup>1)</sup>, 福地孝明, 水成隆之, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup>内科学第2): 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 61) 福地孝明, 小南修史, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 硬膜動静脈瘻21例の報告. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 62) 熊谷智昭, 三品雅洋, 小林士郎, 福地孝明, 水成隆之, 寺本 明<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>内科学第2): 脳卒中ホットラインの利用状況. 第31回日本脳卒中学会総会, 2006. 3.
- 63) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 大型内頸動脈瘤に対する手術戦略: バイパス, 血管内操作を併用して. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 64) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>救急医学): 単純な経静脈的塞栓ができない硬膜動静脈瘻に対する血管内治療のアプローチ. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 65) 渡辺 玲, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 対側内頸動脈閉塞を合併する内頸動脈狭窄症のCEA手術 閉塞側STA-MCA吻合術の必要性についての検討. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 66) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 再手術を必要とした脳動脈瘤の手術検討. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 67) 村井保夫, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈瘤に対するRAグラフトの合併症, その原因と予後. 第35回日本脳卒中の外科学会, 2006. 3.
- 68) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 脊柱管内に明らかな原因を同定できなかった下肢痛の1例. 第62回東葛脳神経外科カンファレンス, 2006. 3.
- 69) 横田裕行<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>2)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 頭部外傷を含む多発外傷におけるDoctor Ambulance (DA) システムの意義: preventable trauma death 回避へ向けて. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.

## 12. 整形外科学講座

### [ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

#### 研究概要

整形外科学教室の平成17年度の研究は、臨床的研究と分子生物学的な基礎的研究に大別することができる。臨床的研究としては、脊椎部、肩・肘・股・膝関節部、手の外科、足の外科、骨・軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別に見ると脊椎では頸・腰椎部疾患の診断・治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経・腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、検査法における新知見を報告している。

基礎的研究では、基礎医学教室ならびに老人病研究所との共同研究である骨粗鬆症における薬剤の免疫応答の研究および分子生物学的研究、関節軟骨細胞死に関する研究成果を報告した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nambu A, Aoki T, Shirai Y, Ito H : Evaluation of the changes in the muscle sympathetic nerve activity and anterior tibial muscle blood flow caused by the Valsalva maneuver in patients with lumbago and healthy subjects . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ) : 96-104 .
- 2) Sudo Y, Ezura Y<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>3)</sup>, Inoue S<sup>4)</sup>, Shiraki M<sup>5)</sup>, Ito H, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School Kawasaki, <sup>2)</sup> Epidemiology and Health Promotion Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Department of Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>4)</sup> Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine University of Tokyo, <sup>5)</sup> Research Institute and Practice for Involutional Diseases ): Association of single nucleotide polymorphisms in the promoter region of the pro-opiomelanocortin gene ( POMC ) with low bone mineral density in adult women . J Hum Genet 2005 ; 50 ( 5 ) : 235-240 .
- 3) Kuriyama N, Ito H : Electromyographic functional analysis of the lumbar spinal muscles with low back pain . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ) : 165-173 .
- 4) Kawaji H, Miyamoto M, Gembun Y, Ito H : A Case Report of Rapidly Progressing Cauda Equina Symptoms due to Rheumatoid Arthritis . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 290-294 .
- 5) Sawaizumi T, Nanno M, Nambu A, Ito H : Percutaneous leverage pinning in the treatment of Bennett's fracture . J Orthop Sci 2005 ; 10 ( 1 ) : 27-31 .
- 6) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H : Intrathecal triamcinolone injection for the treatment of trigger digits in adult . Hand Surg 2005 ; 10 : 37-42 .
- 7) Ek E<sup>1)</sup>, Ojaimi J<sup>1)</sup>, Kitagawa Y, Choong P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Orthop, St. Vincent Hospital Melbourne ): Outcome of patients with osteosarcoma over 40 years of age : Is angiogenesis a marker of survival? . Int Semin Surg Oncol 2006 ; ( 21 ) : 3-7 .
- 8) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 中嶋祐作, 堀口 元, 伊藤博元 : 外来診療における腰痛の実態調査 . 日本腰痛会誌 2005 ; 11 ( 1 ) : 143-147 .
- 9) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 斉藤 善, 伊藤博元 : De Quervain病に対するステロイド腱鞘内注入の治療



成績：トリアムシノロンとベタメサゾンの比較調査．日手会誌 2005；22(3): 22-25．

- 10) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 小寺訓江, 斉藤 善, 飯澤典茂, 伊藤博元: 手指の関節近傍骨折に対する non-bridging 型創外固定法．骨折 2005；27: 363-367．
- 11) 沢泉卓哉, 南野光彦, 飯澤典茂, 南部昭彦, 中嶋祐作, 小寺訓江, 堀口 元, 伊藤博元: 手指の骨折に対する創外固定: 装着後整復固定の方法と治療成績．日創外固定会誌 2005；16: 17-21．
- 12) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 飯澤典茂, 伊藤博元: 手術的治療を行った橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討．日肘会誌 2005；12: 23-24．
- 13) 小寺訓江, 玉井健介, 河路秀巳, 伊藤博元: 膝関節痛を初発症状とした大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折の1例．Hip Joint 2005；31: 445-448．
- 14) 今野俊介, 青木孝文, 伊藤博元: 短母指外転筋のF波基線を標準化する方法についての検討．第27回脊髄機能診断研究会誌 2005；27(1): 62-65．
- 15) 青木孝文, 今野俊介, 南部昭彦, 伊藤博元: 頸椎症性脊髄症においてF波に先行発火する波形について．脊髄機能診断学 2005；27: 66-69．
- 16) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 伸筋腱側索拘縮としてのPIP関節部痛とその対策．東日本整災誌 2005；17: 147-150．
- 17) 飯澤典茂, 成田哲也, 森 淳, 高松 眞, 伊藤博元: 脛骨プラトー骨折の臨床成績．骨折 2005；27(2): 673-676．
- 18) 飯澤典茂, 澤泉卓哉, 家田俊也, 斉藤 善, 小寺訓江, 伊藤博元: 肘頭骨折術後臨床成績の検討．日本肘関節学会雑誌 2005；12(2): 125-126．
- 19) 元文芳和, 伊藤博元: 腰痛を診る: 腰椎椎間板ヘルニアを中心に．日医大医会誌 2006；2(1): 42-46．
- 20) 青木孝文, 今野俊介, 伊藤博元: 頸椎症性脊髄症におけるF波出現様式の多様性．臨床脳波 2006；48(2): 101-104．
- 21) 堀口 元, 沢泉卓哉, 飯澤典茂, 斉藤 善, 伊藤博元: 新鮮舟状骨骨折の保存的治療成績．骨折 2006；28(1): 84-86．
- 22) 元文芳和: 椎間板ヘルニアの理解．Clinical Study. 2006；27(2): 45-50．

## (2) 綜説:

- 1) 宮本雅史, 伊藤博元: 慢性腰痛に対する運動療法の効果．日本腰痛会誌 2005；11(1): 92-96．
- 2) 宮本雅史, 伊藤博元: 腰痛の診療．モダンフィジシャン 2005；26(2): 237-241．
- 3) 宮本雅史, 伊藤博元: 急性腰痛症の診療ガイドライン．日整会整形外科看護研究会誌 2005；1: 18-20．
- 4) 宮本雅史, 伊藤博元: 腰痛のガイドラインと海外の現状．JIM 2005；15(10): 830-832．
- 5) 伊藤博元: 頸肩腕症候群の自動運動療法．MB Med Reha. 2005；55: 113-119．
- 6) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩甲帯の疾患の診断と手術適応．ペインクリニック 2005；26: 1594-1601．
- 7) 沢泉卓哉, 林 央介, 伊藤博元: 手指末節骨の骨延長: 治療成績と問題点．整・災外 2006；49(1): 51-58．
- 8) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩関節周辺疾患に対する診療の実際: 保存療法の考え方と進め方．リウマチ科 2006；35(2): 136-141．
- 9) 沢泉卓哉: ばね指(弾撥指)の診断と治療．整痛みと臨床 2006；16: 45-50．
- 10) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 伊藤博元: 検査診断. 電気生理: 順行性感覚神経インテグレーション法による診断．関節外科 2006；25(3): 32-37．

## (3) 症例報告:

- 1) Kitagawa Y, Ito H, Iketani M<sup>1)</sup>, Hirukawa M<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Iketani Orthopaedic Clinic, <sup>2)</sup> Hirukawa Orthopaedic Clinic, <sup>3)</sup> Second Dept. of Pathology, <sup>4)</sup> Division of Pathology, Tama-nagayama Hospital): Epithelioid hemangioendothelioma of the phalanx: a case report．J Hand Surg [Am] 2005；30

(3): 615-619 .

2) 沢泉卓哉, 林 央介, 伊藤博元: 乳癌の骨転移を危くされた手関節痛の1例: 骨転移と骨壊死. 日医大医学会誌 2005 ; 1 (4): 195-197 .

3) 堀口 元, 飯沢典茂, 橋口 宏, 高山景範, 伊藤博元: 両側肩関節に発症した Tumoral calcinosis の1例. 肩関節 2006 ; 29 (2): 469-472 .

4) 中嶋祐作, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 田口和宏, 林 央介, 伊藤博元: 橈側列形成不全 (two-bone forearm) に対しイリザロフ法による bifocal lengthening が有効であった1例. 日本創外固定・骨延長学会雑誌 2006 ; 17 : 51-55 .

(4) 追加分原著 :

1) Kitagawa Y, Ito H, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Sawaizumi T, Maeda S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Dept. of Pathology, <sup>2)</sup> Division of Pathology, Tama-nagayama Hospital ): The effect of cellular proliferative activity on recurrence and local tumor extent of localized giant cell tumor of tendon sheath . J Hand Surg [Br] 2004 ; 29 (6): 604-607 .

2) 飯澤典茂, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 林 央介, 伊藤博元: 手指PIP関節内骨折成績不良例の検討. 骨折 2004 ; 26 (1): 312-315 .

(5) 追加分症例報告 :

1) Kitagawa T, Tamai K, Ito H : Oral alendronate treatment for polyostotic fibrous dysplasia : a case report . J Orthop Sci 2004 ; 9 (5): 521-525 .

2) Kitagawa Y, Ito H, Sawaizumi T, Matsubara M<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, <sup>2)</sup> Second Dept of Pathology, <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-nagayama Hospital, ): Fine needle aspiration cytology of primary epithelioid sarcoma . A report of 2 cases . Acta Cytologica 2004 ; 48 (3): 391-396 .

3) 山形健治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 下田貴子<sup>1)</sup>, 小宮暢子<sup>1)</sup>, 小坂祥子<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 北川泰之 ( <sup>1)</sup> 皮膚科学 ): 原発巣切除12年後に筋肉内転移を認めた悪性黒色腫の1例. 臨床皮膚科 2004 ; 58 (9): 766-768 .

4) 東 直行<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 木村陽一<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 北川泰之, 横山宗伯<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 皮膚科学, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 前腕部に巨大腫瘤を呈した悪性線維性組織球腫の1例. Skin Cancer 2004 ; 19 (2): 224-228 .

著 書

1) 宮本雅史: [ 分担 ] 病態・椎間板ヘルニア診療ガイドライン ( 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会編 ), 2005 ; pp23-32, 南江堂 .

2) 南 和文: [ 分担 ] 骨折と捻挫と脱臼. 新・病気とからだの読本6 骨・筋肉と皮膚の病気 ( 長野 昭 ), 2005 ; pp5-40, 暮らしの手帖社 .

3) 森 淳: [ 分担 ] このケガは大丈夫か; 腰部. ケガをしたときのスポーツ医へのかかり方. 第2版. ( 日本整形外科学会編 ), 2005 ; pp79-85, 東京: 日本整形外科学会 .

4) 森 淳: [ 分担 ] このケガは大丈夫か; 大腿部 = ふともも. ケガをしたときのスポーツ医へのかかり方. 第2版. ( 日本整形外科学会編 ), 2005 ; pp89-92, 東京: 日本整形外科学会 .

5) 森 淳: [ 分担 ] 中高年者とスポーツ. ケガをしたときのスポーツ医へのかかり方. 第2版. ( 日本整形外科学会編 ), 2005 ; pp161-166, 東京: 日本整形外科学会 .

6) 宮本雅史, 伊藤博元: [ 分担 ] 日常生活上の注意. プライマリケアのための腰部脊柱管狭窄-外来マネージメント ( 菊地臣一編 ), 2005 ; pp59-66, 医薬ジャーナル社 .

7) 藤井信人: [ 分担 ] 代謝・内分泌疾患. 整形外科学テキスト, 2005 ; pp280-287, 南江堂 .

8) 伊藤博元: [ 分担 ] 視診: 姿勢, 四肢の変形, 筋萎縮, 皮膚の異常, 腫脹. 整形外科診療実践ガイド, 2006 ; pp3-6, 文光堂 .

- 9) 伊藤博元：〔分担〕インピンジメント症候群．整形外科診療実践ガイド，2006；pp539-540，文光堂．
- 10) 伊藤博元：〔分担〕肩峰下滑液包炎．整形外科診療実践ガイド，2006；pp540-541，文光堂．
- 11) 伊藤博元：〔分担〕石灰沈着性腱炎．整形外科診療実践ガイド，2006；pp541-542，文光堂．
- 12) 伊藤博元：〔分担〕上腕二頭筋腱・腱鞘炎．整形外科診療実践ガイド，2006；pp542-543，文光堂．
- 13) 伊藤博元：〔分担〕上腕二頭筋長頭腱脱臼．整形外科診療実践ガイド，2006；pp543-544，文光堂．
- 14) 宮本雅史，伊藤博元：〔分担〕腰痛症．ガイドライン外来診療（泉孝英 編），2006；pp203-209，日経メディカル開発．

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) Sawaizumi T, Ito H：Non-bridging type external fixation for the fracture of the digits．The 7th annual scientific meeting of Ho Chi Minh City hand surgery society (Ho Chi Minh)，2006．3．

### (2) 教育講演：

- 1) 伊藤博元：肩関節外傷とスポーツ障害における画像診断．奈良整形外科講演会，2005．5．
- 2) 沢泉卓哉：舟状骨骨折に対する治療とその展望．中野区医師会整形外科医会，2005．7．
- 3) 伊藤博元：上肢の疼痛性疾患・スポーツ障害における診療のポイント．第4回長崎慢性疼痛疾患研究会，2005．7．
- 4) 伊藤博元：肩関節外傷とスポーツ障害の画像診断的アプローチ．大阪整形外科・リハビリテーション研究会，2005．7．
- 5) 森 淳：運動のためのメディカルチェック；整形外科系．第32回日本整形外科学会スポーツ医学研修会，2005．8．
- 6) 藤井信人：足関節と足部のスポーツ外傷・障害．東京都臨床整形外科医会南多摩ブロック研修会，2005．10．
- 7) 沢泉卓哉：手関節尺側部痛を呈する疾患：その鑑別と治療．東京都臨床整形外科医会総合研修会，2005．11．
- 8) 伊藤博元：肩関節の骨折とスポーツ障害の画像診断．九州肩関節症例検討会，2005．11．
- 9) 成田哲也：運動のためのメディカルチェック - 整形外科系．平成17年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会，2005．11．
- 10) 伊藤博元：外傷後，術後のリハビリテーション．運動器リハビリテーション医師研修会，2006．1．
- 11) 伊藤博元：外傷後，術後のリハビリテーション．運動器リハビリテーション医師研修会，2006．2．
- 12) 藤井信人：足関節と足部の靭帯損傷．港北区医師会学術講演会，2006．2．
- 13) 森 淳：バスケットボール傷害の特性と治療；膝関節を中心に．第247回葛飾区医師会整形外科集談会学術講演，2006．3．
- 14) 伊藤博元：肩関節のスポーツ障害，疼痛性疾患の診療のポイント．第34回宮崎県スポーツ医学研究会，2006．3．
- 15) 伊藤博元：肩の疼痛性疾患・スポーツ障害における診療のポイント．第21回仙台肩関節研究会，2006．3．
- 16) 伊藤博元：外傷後，術後のリハビリテーション．運動器リハビリテーション医師研修会，2006．3．
- 17) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2006．3．

### (3) シンポジウム：

- 1) Ito H, Miyamoto M, Shirai Y：Epidemiological study on low back pain and occupational risk factors among taxi drivers．14th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Karuizawa)，2005．4．
- 2) Aoki T：A minimally invasive reduction and fixation technique for depressive type fracture of the calcaneus．The 14th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Karuizawa, Japan)，2005．4．
- 3) Ito H：A distinction between non and delayed-union on the tibial ununited fractures．3rd Japan-Russia IT/Business Strategy Conference (St. Petersburg)，2005．7．
- 4) 伊藤博元，飯沢典茂，橋口 宏，高山景範：単純X線撮影による肩関節外傷性不安定症のPoserolateral

Notch (PLN) 像の検討 . 第78回日本整形外科学術総会 , 2005 . 5 .

5) 宮本雅史 : 診療ガイドラインの現状と今後 “ 急性腰痛症の診療ガイドライン・海外の現状と課題 ” . 第5回日本整形外科看護研究会 , 2005 . 6 .

6) 沢泉卓哉 , 南野光彦 , 飯澤典茂 , 須藤悦宏 , 堀口 元 : 粉碎型橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討 . 第18回日本肘関節学会 , 2006 . 1 .

(4) パネルディスカッション :

1) 青木孝文 , 中嶋祐作 , 吉沢隆明 , 牧野 晃 , 伊藤博元 : 小児外反扁平足に対する装具療法の適応 . 第30回日本足の外科学会 , 2005 . 6 .

2) 伊藤博元 : アキレス腱断裂診療ガイドライン作成にあたって . 第31回日本整形外科スポーツ医学会 , 2005 . 7 .

(5) 一般講演 :

1) Aoki T , Horiguchi G , Konno S , Sawaizumi T , Ito H : Case reports of clinical application of extrnal fixator for foot trauma . The 1st international Congress of External Fixation ( Rima, Peru ) , 2005 . 5 .

2) Sawaizumi T , Nanno M , Ito H : Efficacy of stabilization of the ulnar stump in the Sauve-Kapandji procedure : Comparison among three different operative procedures . The 60th Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand ( San Antonio ) , 2005 . 9 .

3) Nanno M , Bufford WL , Patterson RM , Andersen CR , Viegas SF : Three-Dimensional Analysis of Ligamentous Attachments of the 1st through 5th Carpometacarpal joints . 21st International Wrist Investigator Workshop ( San Antonio, Texa ) , 2005 . 9 .

4) Konno S , Aoki T , Nakajima Y , Horiguchi G , Yoshizawa T , Ito H : Polynomial Expressions to Approximate Curved Baselines of F-Waves . 52nd Annual Scientific Meeting of American Association of Neuromuscular & Electrodiagnostic Medicine ( Monterey ) , 2005 . 9 .

5) Hashiguchi H , Ito H , Banzai Y , Horiguchi G : Factors influencing the outcome of conservative treatments for partial thickness tear of the rotator cuff . SICOT/SIROT 2005 XXIII World Congress ( Istanbul ) , 2005 . 9 .

6) Hashiguchi H , Ito H , Banzai Y , Horiguchi G : Evaluation of radiographic findings on patients with impingement syndrome of the shoulder . SICOT/SIROT 2005 XXIII World Congress ( Istanbul ) , 2005 . 9 .

7) Kitagawa Y , Ek E<sup>1)</sup> , Choong P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Orthopaedics, St. Vincent Hospital Melbourne ) : Treatment of periacetabular malignancies using the saddle prosthesis . Australian Orthopaedic Association 65th Annual Scientific Meeting ( Perth ) , 2005 . 10 .

8) Thai D<sup>1)</sup> , Kitagawa Y , Choong P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Orthopaedics, St. Vincent Hospital Melbourne ) : Surgical treatment and outcomes of bony metastases to the shoulder girdle : a retrospective analysis of 93 patients . Australian Orthopaedic Association 65th Annual Scientific Meeting ( Perth ) , 2005 . 10 .

9) Ek E<sup>1)</sup> , Ojaimi J<sup>1)</sup> , Kitagawa Y , Galloway S<sup>1)</sup> , Choong P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Orthopaedics, St. Vincent Hospital Melbourne ) : Osteosarcoma in Patients above the age of 40 years : the melbourne experience . Australian Orthopaedic Association 65th Annual Scientific Meeting ( Perth ) , 2005 . 10 .

10) Kitagawa Y , Ito H , Sawaizumi T , Maeda S<sup>1)</sup> , Yokoyama M<sup>2)</sup> , Matsubara M<sup>3)</sup> , Amano Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tama-nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital , <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology , <sup>4)</sup> Dept. of Radiology ) : Preoperative diagnosis of giant cell tumor of tendon sheath . The 6th meeting of Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society ( Chiang Mai ) , 2006 . 1 .

11) Hashiguchi H , Ito H , Banzai Y , Egawa Y : Clinical evaluation of epiphyseal separation in the proximal humerus caused by sports activity . AAOS 2006 Annual Meeting, ( Chicago ) , 2006 . 3 .

12) Hashiguchi H , Ito H , Banzai Y , Egawa Y : Outcomes of arthroscopic subacromial decompression alone for patients with partial-thickness rotator cuff tear . AAOS 2006 Annual Meeting ( Chicago ) , 2006 . 3 .

- 13) 青木孝文, 今野俊介, 南部昭彦, 伊藤博元: 頸椎性脊髄症においてF波に先行発火する波形について. 第27回脊髄機能診断学, 2005. 2.
- 14) 青木孝文, 河路秀巳, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 陥没型踵骨骨折に対する低侵襲手術手技とその術後成績. 第46回関東整形災害外科学会, 2005. 3.
- 15) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 斉藤 善, 伊藤博元: de Quervain病に対するステロイド腱鞘内注入の治療成績: トリアムシロンとベタメサゾンの前向き比較調査. 第48回日本手の外科学会, 2005. 4.
- 16) 齋藤 善, 澤泉 卓哉, 堀口 元, 伊藤博元: 当施設における日帰り手の外科手術: 開始後1年間の現状について. 第48回日本手の外科学会, 2005. 4.
- 17) 中嶋隆夫, 深井靖雄: 骨形成不全による多発性骨折の1例. 第7回千葉西北部整形外科研究会, 2005. 4.
- 18) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 斉藤 善, 伊藤博元: 舟状骨偽関節に対する血管柄付き第2中手骨基部骨移植術の治療成績. 第78回日本整形外科学会学術総会, 2005. 5.
- 19) 沢泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 斉藤 善, 伊藤博元: 創外固定を用いた橈骨遠位端骨折の治療成績: non-bridging法とbridging法の比較. 第78回日本整形外科学会学術総会, 2005. 5.
- 20) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 堀口 元, 伊藤博元: 中学・高校生における腰痛実態の調査研究. 第79回日本整形外科学会学術総会, 2005. 5.
- 21) 松原美幸<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>(1)</sup> (付属病院病理部): 変性軟骨細胞は軟骨肉腫の細胞診断に有用か. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 22) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 堀口 元, 須藤悦宏, 伊藤博元: ローランドモリススコアの対象群の違いによる回答傾向の検討. 第34回日本脊椎脊髄病学会, 2005. 6.
- 23) 橋口 宏, 南 和文, 江川慶長, 伊藤博元, 萬歳祐子: 肩関節上方関節唇損傷に対する保存療法の治療成績. 第13回よこはまスポーツ整形外科フォーラム, 2005. 6.
- 24) 森 淳, 成田哲也, 飯澤典茂, 高松 眞, 吉澤隆明, 伊藤博元: Slit Anchor Buttonを用いたAugmentation法による膝前十字靭帯再建術の短期成績. 第31回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2005. 7.
- 25) 堀口 元, 沢泉卓哉, 飯沢典茂, 斉藤 善, 伊藤博元: 舟状骨骨折の保存的治療成績. 第31回日本骨折治療学会, 2005. 7.
- 26) 青木孝文, 河路秀巳, 堀口 元, 吉澤隆明, 牧野 晃, 伊藤博元: 低侵襲手術手技による踵骨骨折の治療法. 第31回日本骨折治療学会, 2005. 7.
- 27) 林 央介, 飯澤典茂, 角田 隆, 伊藤博元: 肩甲骨胸郭面下角に発生した外骨腫の1例. 第630回関東整形災害外科学会, 2005. 9.
- 28) 宗像裕美子<sup>1)</sup>, 中村利江<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和<sup>(1)</sup> (生理機能センター): 脊椎・脊髄手術における下肢刺激による体性感覚誘発電位モニターについての検討. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 29) 江川慶長, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 伊藤博元: 中高齢者の大腿骨顆部骨壊死に対しモザイクプラスティを施行した2例. 第54回東日本整形災害外科学会, 2005. 9.
- 30) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 江川慶長, 堀口 元: 肩腱板不全断裂に対する保存的治療に影響を及ぼす因子の検討. 第32回日本肩関節学会, 2005. 9.
- 31) 堀口 元, 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 手根管症候群の発症に関する手内在筋の関与について. 第11回神奈川手・肘の外科研究会, 2005. 10.
- 32) 村重良一: 大腿骨転子部骨折に対する髄内釘型hip screw systemの合併症の検討. 第6回千葉股関節研究会, 2005. 10.
- 33) 南 和文: 腰椎疲労骨折の診断と治療. 第3回北総整形外科カンファレンス, 2005. 10.
- 34) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 中嶋祐作, 田口和宏, 伊藤博元: 外来診療における腰痛患者の心理状態. 第13回日本腰痛学会, 2005. 11.

- 35) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 田口和宏, 伊藤博元: 腰痛による外来受診者と一般腰痛有訴者との生活動作障害の比較検討. 第13回日本腰痛学会, 2005. 11.
- 36) 青木孝文, 今野俊介, 堀口 元, 吉澤隆明, 伊藤博元: 手根管症候群における感覚性神経障害の時間経過についての考察. 第35回日本臨床神経生理学学会, 2005. 11.
- 37) 中嶋隆夫, 深井靖雄, 江川慶長, 村重良一, 南 和文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元, 家田俊也, 岡田 進<sup>1)</sup>, 丸山智之<sup>2)</sup>, 渡辺典男<sup>2)</sup>, 川村義彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同中央画像検査室): 低線量全脊椎撮影の試み. 第39回日本側弯症学会, 2005. 11.
- 38) 中嶋隆夫, 橋口 宏, 深井靖雄, 望月正孝, 南 和文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元, 家田俊也, 岡田 進<sup>1)</sup>, 丸山智之<sup>2)</sup>, 渡辺典男<sup>2)</sup>, 川村義彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同中央画像検査室): 1/20低線量CR撮影像におけるCobb角測定誤差の検討. 第39回日本側弯症学会, 2005. 11.
- 39) 今野俊介, 青木孝文, 江川慶長, 堀口 元, 吉澤隆明, 伊藤博元, 中村利江<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>1)</sup>, 宗像祐美子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>生理機能センター): 数学的近似によるF波判読パラメータの変化についての検討. 第35回日本臨床神経生理学学会, 2005. 12.
- 40) 江川慶長, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 村重良一, 南 和文, 伊藤博元: 60歳以上の大腿骨顆部骨壊死に対しモザイクプラスチックを施行した症例. 第31回日本関節鏡学会, 2005. 12.
- 41) 丸山晴久, 伊藤博元: Cannulated screwを用いて治療した鎖骨骨折の5症例. 第12回救急整形外傷シンポジウム, 2006. 1.
- 42) 中嶋隆夫, 橋口 宏, 深井靖雄, 江川慶長, 村重良一, 南 和文: 脊椎手術における周術期DVT, PTE対策についての検討. 第6回ちば脊椎カンファレンス, 2006. 1.
- 43) 南 和文: スポーツ傷害の治療: ヒアルロン酸の効果. 関節疾患懇話会, 2006. 1.
- 44) 沢泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元: 腱鞘炎に対するトリウムシノロン腱鞘内注入: 治療効果と満足度調査. 第20回東日本手の外科研究会, 2006. 2.
- 45) 堀口 元, 沢泉卓哉, 青木孝文, 斉藤 善, 伊藤博元: 生体内吸収性ポリ-L乳酸接合材を使用したSauve-Kapandji法の成績. 第20回東日本手の外科研究会, 2006. 2.
- 46) 林 央介, 沢泉卓哉, 斉藤 善, 堀口 元, 伊藤博元: 体部横断骨折と軸圧骨折を合併した月状骨骨折の1例. 第20回東日本手の外科研究会, 2006. 2.
- 47) 今野俊介, 青木孝文, 江川慶長, 堀口 元, 吉澤隆明, 伊藤博元, 中村利江<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>1)</sup>, 宗像裕美子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>生理機能センター): 上肢誘発F波のパラメータ判読評価に関する検討. 第28回脊髄機能診断研究会, 2006. 2.
- 48) 沢泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 飯澤典茂, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元: 橈骨遠位端骨折に対するオリープワイヤーによる小骨片固定を併用したnon-bridge型創外固定法. 第19回日本創外固定・骨延長学会, 2006. 3.
- 49) 堀口 元, 沢泉卓哉, 伊藤博元: Tumoral calcinosisによる手根管症候群の1例. 第46回関東整形災害外科学会, 2006. 3.
- 50) 北川泰之: 骨腫瘍, 軟部腫瘍のおはなし. 日本医科大学多摩永山病院第21回公開講座, 2006. 3.
- 51) 丸山晴久, 成田哲也, 赤石文洋, 萬歳祐子, 須藤賢太郎, 吉澤隆明, 伊藤博元: Cannulated screwによる鎖骨骨折の治療経験. 第46回関東整形災害外科, 2006. 3.
- 52) 南 和文: 腰椎分離症の治療と課題. 第21回神戸整形外科セミナー, 2006. 3.
- 53) 中嶋祐作, 沢泉卓哉, 南部昭彦, 田口和宏, 林 央介, 伊藤博元: 橈側列形成不全 (two-bone forearm) に対しイリザロフ法によるbifocal lengtheningが有効であった1例. 第18回日本創外固定・骨延長学会, 2006. 6.
- (6) 追加分一般講演:
- 1) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 北川泰之 (<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診を軟部腫瘍診療にどう活用するか? 軟部腫瘍細胞診を一般化するために. 第45回日本臨床細胞学会総会, 2004. 7.

## 13．産婦人科学講座

### [ 付属病院女性診療科・産科 ]

#### 研究概要

生殖内分泌医学，産婦人科手術学，周産期医学，婦人科腫瘍学の各部門でそれぞれ精力的，積極的に研究が行われた．

生殖医学部門では，不育症治療におけるNK細胞活性の意義，子宮内膜症に対するGnRH漸減療法，子宮外妊娠における術後の血中hCG減衰曲線の解析などがなされ，国際学会での報告がなされた．また，卵巣チョコレート嚢胞と癌化に関する臨床病理学的研究が行なわれている．

産婦人科手術学部門では，筋腫核出術，単純子宮摘出術等に対しての腹腔鏡下手術の適応拡大とその有用性などが検討された．

周産期医学領域では，常位胎盤早期剥離の成因における詳細な臨牀的検討がなされた．また，胎盤を介する免疫グロブリンの輸送につき免疫組織学的解析がなされた．

婦人科腫瘍学部門では，卵巣腫瘍患者における血管新生因子，血管新生抑制因子の発現，特にVEGF，エンドスタチン等の測定がなされ，その意義が検討された．また，卵巣癌の転移形式と組織型との関連に関して臨牀病理学的検討が行なわれた．また，婦人科癌に対する新規バイオマーカーの探索がプロテオミクスの手法を用いて進行中である．

以上各分野において独創的な研究が積極的になされている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nakai A , Taniuchi Y , Miyake H , Nakai M , Yokota A , Takeshita T : Increased level of granulocyte elastase in cervical secretion is an independent predictive factor for preterm delivery . *Gynecol Obstet Invest* 2005 ; 60 ( 2 ): 87-91 .
- 2) Akira S , Abe T , Igarashi K , Nishi Y , Kurose K , Watabnabe M , Takeshita T : Gasless laparoscopic surgery using a new Intra-abdominal fan retractor system : An experience of 500 cases . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 4 ): 213-216 .
- 3) Yokota A , Nakai A , Taniuchi Y , Okuda N , Nakai M , Takeshita T : Maternal treatment with MCI-186 does not improve delayed deterioration of cellular bioenergetic state and mitochondrial activity following transient intrauterine ischemia in the fetal rat brain . *J Nippon Med Sch* 2005 ; 72 ( 2 ): 127-130 .
- 4) Shinagawa S , Suzuki S , Chihara H , Otsubo Y , Takeshita T , Araki T : Maternal basal metabolic rate in twin pregnancy . *Gynecol Obstet Invest* 2005 ; 60 ( 3 ): 145-148 .
- 5) Okino K , Konishi H , Doi D , Yoneyama K , Ota Y , Jin E , Kawanami O , Takeshita T : Up-regulation of growth factor receptor-bound protein 10 in cervical squamous cell carcinoma . *Oncol Rep* 2005 ; 13 ( 6 ): 1069-1074 .
- 6) Ichikawa M , Chen L : Role of B7-H1 and B7-H4 molecules in down-regulating effector phase of T-cell immunity : novel cancer escaping mechanisms . *Front Biosci* 2005 ; 1 ( 10 ): 2856-2860 .
- 7) Ishikawa G , Isozaki T , Takeshita T , John MR<sup>1)</sup> , Takizawa T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Anatomy , <sup>2)</sup> Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University ) : Immunohistochemical localization of albumin in the first trimester human placenta . *Placenta* 2005 ; 26 ( 10 ): A3 .

- 8) 鴨井青龍, 竹下俊行: 産婦人科感染症アップデート 子宮頸癌のスクリーニングからみた HPV 感染症. 産婦人科の世界 2005 ; 57 ( 12 ): 1145-1152 .
- 9) 竹下俊行, 西 弥生, 石川 源, 里見操緒, 明樂重夫: 妊産婦 不育症に関する最近の考え方. 産婦人科の治療 2005 ; 87 ( 3 ): 1029-1032 .
- 10) 西 弥生, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体症候群 習慣流産と抗リン脂質抗体. 産婦人科の実際 2005 ; 54 ( 4 ): 561-566 .
- 11) 鴨井青龍, 川瀬里衣子, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行, 上杉健哲<sup>1)</sup>, 岸 宏久<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 石倉 浩<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>成田赤十字病院産婦人科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup>千葉大大学院医学研究院病態病理学 ): 7歳的女性に発症した高カルシウム血症型卵巣小細胞癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2005 ; 23 ( 2 ): 179-184 .
- 12) 黒瀬圭輔, 山口昌子, 石川温子, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 化学療法が著効した子宮体部原発悪性リンパ腫 ( diffuse large B-cell lymphoma ) の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2005 ; 23 ( 2 ): 191-195 .
- 13) 土居大祐, 平泉良枝, 山口昌子, 川瀬里衣子, 石川温子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 若年性子宮体癌 18例の臨床病理学的検討. 日本婦人科腫瘍学会誌 2005 ; 23 ( 2 ): 131-134 .
- 14) 平泉良枝, 倉品隆平, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 磯 太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 内腸骨動脈塞栓術により救命し得た進行流産後DICを来した1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2005 ; 54 ( 2 ): 171-174 .
- 15) 竹下俊行: 不育症とその対策 不育症の検査. 産婦人科治療 2005 ; 91 ( 2 ): 127-133 .
- 16) 竹下俊行: 不育症-診断と治療の最前線. 日本医事新報 2005 ; 2425 : 24-30 .
- 17) 竹下俊行: 症例から学ぶ生殖医学 3) 不育症 NK細胞活性高値例. 日本産科婦人科学会雑誌 2005 ; 57 ( 9 ): 336-340 .
- 18) 立山尚子, 品川寿弥, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 土居大祐, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 産婦人科救急疾患に対するIVRが有用であった症例の検討. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2005 ; 54 ( 3 ): 453-457 .
- 19) 石川 源, 吉田有里, 西 弥生, 竹下俊行: 周産期の医療・看護と生殖補助医療 不育症治療とその周産期予後. 周産期医学 2005 ; 35 ( 10 ): 1361-1366 .
- 20) 荻原弘光<sup>1)</sup>, 松橋智彦<sup>1)</sup>, 澤倫太郎, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 朝倉禎史<sup>2)</sup>, ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>東京都立墨東病院 ): 物摂取頻度調査による妊娠末期妊婦の栄養摂取量評価: 「2005年版日本人の食事摂取基準」との比較. 日本臨床栄養学会雑誌 2005 ; 1 ( 27 ): 227 .
- 21) 石川 源: 人工妊娠中絶の麻酔: 静脈麻酔. 産婦人科の世界 2005 ; 57 ( 11 ): 981-987 .
- 22) 荻原弘光, 河村 堯, 佐藤和美<sup>1)</sup>, 澤倫太郎, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院 栄養科 ): 周産期の栄養と食事 産科編 3. 病態栄養と食事-1 つわり, 悪阻. 周産期医学 2005 ; 35 : 128-134 .
- 23) 西 弥生, 磯 太一, 品川寿弥, 村田知昭, 三浦 敦, 中川道子, 館岡佐知, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠25週に常位胎盤早期剥離を発症し溶血性尿毒症症候群をきたした1絨毛膜2羊膜性双胎の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2005 ; 54 ( 4 ): 505-508 .
- 24) 稲川智子, 阿部 崇, 平泉良枝, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡が性腺の同定, 摘出に有用であった精巣性女性化症候群の1例. 日本産科婦人科内視鏡学会 2005 ; 21 ( 2 ): 414-417 .
- 25) 鈴木俊治, 村田知昭, 澤倫太郎, 竹下俊行, 窪谷 潔<sup>1)</sup>, Power GG<sup>2)</sup>, 米山芳雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>窪谷医院, <sup>2)</sup>Loma Linda大 周産期生理学, <sup>3)</sup>ピッツバーグ大 ): 胎児変動一過性徐脈出現時の母体酸素投与に関する検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2005 ; 41 : 11 .
- 26) 山口昌子, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 小林三平<sup>1)</sup>, 根本将之<sup>1)</sup>, 磯 太一 ( <sup>1)</sup>海老名総合病院 ): 過多月経が原因と思われた貧血の管理中に急死し, 病理解剖で肺血栓塞栓症と判断された1例. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌



2006 ; 42 ( 2 ) : 110-112 .

- 27) 磯 太一, 品川寿弥, 竹下俊行: 異常が生じたら ( 1 ) 弛緩出血 . ペリネイタルケア 2006 ; 新春増刊 : 161-169 .
- 28) 阿部 崇, 土居大祐, 西 弥生, 品川寿弥, 米山剛一, 竹下俊行: 子宮頸部明細胞腺癌の1例 . 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2006 ; 55 ( 1 ) : 15-18 .
- 29) 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 中井晶子<sup>1)</sup>, 峯 克也 ( <sup>1)</sup>多摩南部地域病院産婦人科 ): 卵巣原発 carcinosarcoma の1例 . 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2006 ; 55 ( 1 ) : 107-110 .
- 30) 品川寿弥, 明樂重夫, 竹下俊行: 産婦人科領域における子宮動脈栓塞術 . 日医大医会誌 2006 ; 1 ( 3 ) : 140-141 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 横田明重, 明樂重夫, 竹下俊行: EBM に基づく子宮筋腫の診療 子宮筋腫のGnRHアゴニスト療法 . 産婦人科治療 2005 ; 92 ( 3 ) : 285-288 .
- 2) 明樂重夫: 産婦人科医が関わる専門医制度マニュアル, 日本内視鏡外科学会技術認定医 . 産婦人科の実際 2005 ; 54 ( 5 ) : 705-710 .
- 3) 明樂重夫, 竹下俊行: 薬物処方の実際, 子宮筋腫 . 産科と婦人科 2005 ; 72 : 311-314 .
- 4) 岡井 崇<sup>1)</sup>, 岩下光利<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 井坂恵一<sup>1)</sup>, 太田博明<sup>1)</sup>, 上妻志郎<sup>1)</sup>, 佐藤和雄<sup>1)</sup>, 杉本充弘<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 田中政信<sup>1)</sup>, 中林正雄<sup>1)</sup>, 名取道也<sup>1)</sup>, 山本樹生<sup>1)</sup>, 吉田幸洋<sup>1)</sup>, 金山尚裕<sup>1)</sup>, 斎藤 滋, 大槻克文 ( <sup>1)</sup>東京早産予防研究会 ): 早産・新たな予知・予防戦略・多施設共同ランダム化比較試験による早産予防のための妊婦管理ガイドラインの作成 . 産婦人科の実際 2005 ; 55 ( 1 ) : 77-86 .
- 5) 明樂重夫: 子宮内膜炎による骨盤痛への対応 . 産婦人科の世界 2005 ; 57 ( 5 ) : 333-339 .
- 6) 明樂重夫: 腹腔鏡下手術の現況 . 産婦人科治療 2005 ; 91 ( 3 ) : 231-238 .
- 7) 郭原弘光, 河村 堯, 佐藤和美<sup>1)</sup>, 加福文子<sup>2)</sup>, 澤倫太郎, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院 栄養科, <sup>2)</sup>辻学園栄養専門学校 ): 周産期の栄養と食事 産科編 3. 病態栄養と食事-1 つわり, 悪阻 . 周産期医学 2005 ; 35 ( 増刊 ) : 128-134 .
- 8) 佐藤英尊, 村田 智, 田島廣之, 小野沢史郎, 市川和雄, 中沢 賢, 福永 毅, 隈崎達夫, 竹下俊行: 再発子宮頸部癌の浸潤による外腸骨動脈の出血に対して動脈壁外へのN-butyl Cyanoacrylateとマイクロコイルによる充填法にて止血しえた1例 . 日本腹部救急医学会雑誌 2005 ; 26 ( 2 ) : 306-306 .
- 9) 大島正行<sup>1)</sup>, 佐藤花代子<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): 深部静脈血栓により術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した予定帝王切開の1症例 . 分娩と麻酔 2005 ; 87 : 25-28 .

( 3 ) 追加分原著 :

- 1) Satomi M, Shimizu M<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Watarai E<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Hidaka C<sup>1)</sup>, Ichikawa M, Takeshita T, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 ): Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast-milk macrophages via DC-SIGN . J Infect Dis 2005 ; 191 ( 2 ) : 174-181 .
- 2) Hirono F, Kaneko K, Tamura H, Dong H, Wang S, Ichikawa M, Rietz C, Flies DB, Lua JS, Zhu G, Tamada K, Chen L : Blockade of B7-H1 and PD-1 by monoclonal antibodies potentiates cancer therapeutic immunity . Cancer Res. 2005 ; 65 ( 3 ) : 1089-1096 .

著 書

- 1) 西 弥生: [ 分担 ] 採卵 . 不妊ケア ( 鈴木秋悦, 久保春海 ), 2005 ; pp97-101, 医歯薬出版 .
- 2) 磯 太一, 品川寿弥, 竹下俊行: [ 共著 ] スキルアップ分娩介助, 弛緩出血 . ペリネイタルケア, 2005 ; pp161-169, メディカ出版 .

- 3) 土居大祐：〔分担〕リンパ浮腫の取り扱い．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp122-123，医学の世界社．
- 4) 石川 源：〔分担〕外来で行う麻酔．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp206-209，医学の世界社．
- 5) 竹下俊行：〔分担〕抗リン脂質抗体陽性妊婦の取り扱い．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp71-73，医学の世界社．
- 6) 永野玲子，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院)：〔分担〕産褥期の乳腺炎．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp104-105，医学の世界社．
- 7) 明樂重夫：〔分担〕子宮外妊娠．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp42-45，医学の世界社．
- 8) 土居大祐：〔分担〕子宮癌の術後外来管理．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp118-119，医学の世界社．
- 9) 中山裕樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター)：〔分担〕子宮癌検診．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp110-111，医学の世界社．
- 10) 土居大祐：〔分担〕子宮癌術後の排尿障害．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp120-121，医学の世界社．
- 11) 明樂重夫：〔分担〕子宮筋腫の治療．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp106-109，医学の世界社．
- 12) 中山裕樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター)：〔分担〕子宮体癌の後療法．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp116-117，医学の世界社．
- 13) 澤倫太郎：〔分担〕子宮内胎児発育遅延．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp68-70，医学の世界社．
- 14) 明樂重夫：〔分担〕子宮内膜症．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp154-157，医学の世界社．
- 15) 中山裕樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター)：〔分担〕子宮内膜増殖症の取り扱い．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp114-115，医学の世界社．
- 16) 永野玲子，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院)：〔分担〕子宮復古不全．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp100-101，医学の世界社．
- 17) 中山裕樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター)：〔分担〕子宮頸部異形成の取り扱い．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp112-113，医学の世界社．
- 18) 澤倫太郎：〔分担〕出生前診断の実際：母体血液マーカーの実際．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp36-37，医学の世界社．
- 19) 竹下俊行：〔分担〕切迫流産．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp40-41，医学の世界社．
- 20) 永野玲子，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院)：〔分担〕乳汁分泌の促進と抑制．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp102-103，医学の世界社．
- 21) 澤倫太郎：〔分担〕妊娠悪阻の外来検査．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp38-39，医学の世界社．
- 22) 磯 太一：〔分担〕妊娠中のX線被曝．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp90-92，医学の世界社．
- 23) 磯 太一：〔分担〕妊婦には処方しない方がよい薬：薬物の胎児への影響．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp94-99，医学の世界社．

- 24) 磯 太一：〔分担〕妊婦のかぜ．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp86-89，医学の世界社．
- 25) 竹下俊行：〔分担〕不育症・習慣流産のスクリーニング．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp158-159，医学の世界社．
- 26) 磯 太一：〔分担〕胞状奇胎・絨毛性疾患の診断と管理．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp46-53，医学の世界社．
- 27) 澤倫太郎：〔分担〕羊水過多・羊水過少．産婦人科の世界 産婦人科外来診療マニュアル（竹下俊行），2006；pp71-73，医学の世界社．
- 28) 磯 太一，阿部 崇，村田知昭，品川寿弥，竹下俊行：〔共著〕細菌性膣症と早産．臨床と微生物，2006；pp175-183，近代出版．
- 29) 明樂重夫：〔分担〕日本産科婦人科学内視鏡学会技術認定制度．産科婦人科の最新医療（武谷雄二，丸尾 猛，吉村泰典），2006；pp325-329，先端医療技術研究所．

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) 石川 源：産婦人科領域での麻酔法：診療所で安全に行うために．東京産婦人科医会 第260回臨床研究会，2005．8．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 明樂重夫：我が国における産婦人科内視鏡手術の現状と問題点．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．

##### (3) ワークショップ：

- 1) 竹下俊行：NK細胞活性高値症例．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．

##### (4) 一般講演：

- 1) Ishikawa G, Mori M<sup>1)</sup>, Isozaki T, Kataoka H<sup>2)</sup>, Takeshita T, Takizawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Second Department of Pathology University of Miyazaki ): In Vivo Expression of Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor Type 1 (HAI-1) in Preeclamptic Term Human Placenta . 11th IFPA meeting ( Scotland ), 2005 . 9 .
- 2) 西 弥生，里見操緒，金 栄淳，石川 源，平泉良枝，村田知昭，明樂重夫，竹下俊行：NK細胞活性高値不育症例の抗リン脂質抗体陽性率に関する検討．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 3) 阿部 崇，明樂重夫，松橋智彦，西 弥生，竹下俊行：NTX局注投与は子宮外妊娠手術後の存続外妊症（Persistent Ectopic Pregnancy）を予防しうるか？．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 4) 五十嵐健治，明樂重夫，石川温子，竹下俊行：ラット胎仔視床下部におけるCRH, iNOSmRNAの発現と応答様式．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 5) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>，倉沢剛太郎<sup>1)</sup>，石川 源，竹下俊行，松原茂樹<sup>2)</sup>，( <sup>1)</sup> 日本医科大学解剖学第1，<sup>2)</sup> 自治医大 ): 経胎盤免疫グロブリン輸送機構の解明：胎盤血管系に発現しているIIb型Fc受容体はIIb2型アイソフォームである．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 6) 澤倫太郎，竹下俊行：効率的な産婦人科医療提供のための新しい臨床手技コード導入の意義．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 7) 横田明重，中井章人，奥田直貴，三宅秀彦，越野立夫，竹下俊行：子宮筋腫に対するGnRH agonistの術前投与は腹式単純子宮全摘術の輸血リスクを回避できるか？．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．
- 8) 谷内良成，中井章人，奥田直貴，中井晶子，三宅秀彦，横田明重，越野立夫，竹下俊行：子宮動脈一過性虚血によるラット新生仔脳の遅発性エネルギー代謝不全に対するビタミン投与の効果．第57回日本産科婦人科学会，2005．4．

- 9) 黒瀬圭輔, 沖野恵子, 石川温子, 八田充子, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行: 上皮性卵巣癌におけるPTEN蛋白質発現の低下. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 10) 富山僚子, 西 弥生, 中川道子, 吉田有里, 明樂重夫, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本大生物資源化学部 ): 体外成熟培養卵子の初期発生および着床能について. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 11) 明樂重夫, 中川道子, 西 弥生, 竹下俊行: 難治性・再発性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法についての検討. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 12) 峯 克也, 片山 映<sup>1)</sup>, 松村智裕<sup>1)</sup>, 西野武士<sup>1)</sup>, 桑原慶充, 石川 源, 村田知昭, 澤倫太郎, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 進純郎<sup>3)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2, <sup>2)</sup>大宮中央総合病院, <sup>3)</sup>葛飾赤十字産院 ): 2次元免疫プロットティングを用いた妊娠中毒症の病態プロテオミクス. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 13) 村田知昭, 米山芳雄<sup>1)</sup>, 澤倫太郎, 鈴木俊治<sup>2)</sup>, 荏原弘光, 大坪保雄<sup>3)</sup>, 桑原慶充 ( <sup>1)</sup>ピッツバーグ大寄附研究講座, <sup>2)</sup>東京臨海病院, <sup>3)</sup>大宮中央総合病院 ): 妊娠中毒症における, Insulin like growth factor を介したPregnancy-associated plasma protein A の生理学的意義の検討. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 14) 荏原弘光, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊婦の体重変化曲線作成プログラムの開発パターン解析の試み. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 15) 米山剛一, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 石川温子, 品川寿弥, 松橋智彦, 土居大祐, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣腫瘍症例の血中HGF (hepatocyte growth factor: 肝細胞増殖因子) 値の検討. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 16) 永野玲子, 五十嵐美和, 山田浩子, 弘末卓也, 林 瑞成, 大村 浩, 若麻績佳樹, 中井章人, 竹下俊行: 双胎妊娠において妊娠24週未満に一児以上が胎内死亡, もしくは死産となった15症例の検討. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 17) 林 瑞成, 五十嵐美和, 山田浩子, 永野玲子, 弘末卓也, 大村 浩, 若麻績佳樹, 竹下俊行: 妊婦におけるプロテインS活性低下の臨床意義についての検討. 第57回日本産科婦人科学会, 2005. 4.
- 18) 平泉良枝, 倉品隆平, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 磯 太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 内腸骨動脈塞栓術により救命し得た進行流産後DICを来した1例. 第23回日本産婦人科感染症研究会, 2005. 5.
- 19) 三宅秀彦, 中井章人, 谷内良成, 横田明重, 竹下俊行: 頸管粘液中の顆粒球エラストーゼ測定は早産予知に役立つか?. 第23回日本産婦人科感染症研究会, 2005. 5.
- 20) 立山尚子, 品川寿弥, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 土居大祐, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 産婦人科救急疾患に対するIVRが有用であった症例の検討. 第334回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2005. 5.
- 21) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 山田 隆, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 三田俊二, 土居大祐, 井畑 穰<sup>3)</sup>, 杉浦 賢<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川立がんセンター, <sup>2)</sup>横浜市立大学 ): 子宮外腺癌の内膜細胞診の鑑別. 第46回日本臨床細胞学会, 2005. 5.
- 22) 川越信隆, 品川寿弥, 阿部 崇, 印出祐介, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 磯崎太一, 土居大祐, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 子宮悪性腫瘍加療中の大量性器出血に対する動脈塞栓術. 第109回日本産科婦人科学会 関東連合地方部会, 2005. 6.
- 23) 藤江裕美, 小西英喜, 石野博嗣, 山田真理子, 沖野恵子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 竹下俊行: エタノールパッチテストを用いたPaclitaxelによるアルコール副障害予知の検討. 第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 6.
- 24) 沖野恵子, 松島 隆, 深見武彦, 藤江裕美, 石野博嗣, 山田真理子, 小西英喜, 可世木久幸, 竹下俊行: 下肢静脈血栓症により発見された巨大子宮筋腫. 第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 6.
- 25) 吉田有里, 西 弥生, 品川寿弥, 館岡佐知, 明樂重夫, 竹下俊行: 月経困難症を契機に発見され, 腹腔鏡下に治療し得た非交通性副角子宮の1例. 第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 6.
- 26) 印出祐介, 米山剛一, 吉田有里, 中川道子, 西 弥生, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 竹下俊行: 術前に診

- 断し得た子宮体部 lipoleopmyoma の1例．第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2005．6．
- 27) 高橋 肇，横田明重，三田俊二，国重浩二，中井晶子，川端伊久乃，三宅秀彦，中井章人，竹下俊行：前置癒着胎盤に対する modified cesarean hystrectomy の経験．第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2005．6．
- 28) 山本晃人，村田知昭，石川 源，松橋智彦，吉田有里，川越信隆，磯 太一，澤倫太郎，竹下俊行：羊水過多を伴った鎖肛の1例．第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2005．6．
- 29) 印出佑介，米山剛一，吉田有里，中川道子，西 弥生，阿部 崇，黒瀬圭輔，土居大祐，竹下俊行：術前に診断し得た子宮体部 lipoleiomyoma の1例．第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2005．6．
- 30) 品川寿弥，石川温子，土居大祐，黒瀬圭輔，米山剛一，磯 太一，明樂重夫，竹下俊行：婦人科腫瘍出血に対しての動脈塞栓術．第38回日本婦人科腫瘍学会，2005．7．
- 31) 米山剛一，黒瀬圭輔，沖野恵子，石川温子，山田 隆，川瀬里衣子，土居大祐，竹下俊行：卵巣腫瘍症例における血中 VEGF (vascular endothelial growth factor) 値の解析．第38回日本婦人科腫瘍学会，2005．7．
- 32) 松村好克，鴨井青龍，里見操緒，渡辺美千明，河村 堯，土居大祐，米山剛一，竹下俊行：扁平上皮癌を主体とした卵巣癌の1例．第38回日本婦人科腫瘍学会，2005．7．
- 33) 吉田有里，石川 源，村田知昭，阿部 崇，弘末卓也，品川寿弥，磯 太一，澤倫太郎，桑原慶充，竹下俊行：抗リン脂質抗体陽性妊婦の周産期予後．第41回日本周産期・新生児医学会，2005．7．
- 34) 林 瑞成，永野玲子，若麻績佳樹，大森意索<sup>1)</sup>，清水光政<sup>1)</sup>，渡辺とよ子<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>(1)</sup>東京都立墨東病院周産期センター新生児科)：当周産期センターにおける母体搬送された26週未満の切迫早産および前期破水症例の検討．第41回日本周産期・新生児医学会，2005．7．
- 35) 永野玲子，林 瑞成，若麻績佳樹，大森意索<sup>1)</sup>，清水光政<sup>1)</sup>，渡辺とよ子<sup>1)</sup>，中井章人，竹下俊行<sup>(1)</sup>東京都立墨東病院周産期センター新生児科)：当科における妊娠22・23週の分娩の検討．第41回日本周産期・新生児医学会，2005．7．
- 36) 西 弥生，阿部 崇，石川 崇，黒瀬圭輔，明樂重夫，竹下俊行：子宮外妊娠に対するう腹腔鏡下卵管線状切開術中MTX局注投与の有用性．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 37) 倉品隆平<sup>1)</sup>，西 弥生，明樂重夫，可世木久幸<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>(1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：妊娠中の卵巣腫瘍摘出における腹腔鏡吊り上げ法腹腔鏡下手術の有用性．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 38) 吉田有里，西 弥生，品川寿弥，館岡佐知，明樂重夫，竹下俊行：腹腔鏡下に治療し得た非交通性副角子宮の1例．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 39) 松橋智彦，渡辺美千明，河村 堯，阿部 崇，黒瀬圭輔，石川温子，米山剛一，明樂重夫，竹下俊行：腹腔鏡下子宮筋腫手術(LAM, LAVH)を導入して．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 40) 石川 源，黒瀬圭輔，倉品隆平，吉田有里，山口昌子，阿部 崇，西 弥生，石川温子，渡辺美千明，明樂重夫，竹下俊行：腹腔鏡手術マニュアル導入の試み：安全・確実な手術を旨として．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 41) 黒瀬圭輔，山口昌子，阿部 崇，西 弥生，石川温子，渡辺美千明，明樂重夫，竹下俊行：良性卵巣嚢腫の診断にて腹腔鏡下手術を行い悪性腫瘍と判断した症例の検討．第45回日本産科婦人科内視鏡学会，2005．7．
- 42) 西 弥生，阿部 崇，富山僚子，山本晃人，村田知昭，澤倫太郎，磯 太一，明樂重夫，竹下俊行：当科においてART施行後中期流産に至った3症例の検討．第23回日本受精着床学会，2005．8．
- 43) 西 弥生，磯 太一，品川寿弥，村田知昭，三浦 敦，中川道子，館岡佐知，澤倫太郎，竹下俊行：PIHから溶血性尿毒症症候群をいたしたと考えられる1絨毛膜2羊膜双胎の1例．第26回日本妊娠高血圧学会，2005．9．
- 44) 西 弥生，磯 太一，品川寿弥，村田知昭，三浦 敦，中川道子，館岡佐知，澤倫太郎，竹下俊行：妊娠25週に常位胎盤早期剥離を発生し溶血性尿毒症症候群をきたした1絨毛膜2羊膜双胎の1例．第335回日本産科婦人科学会東京地方部会，2005．9．
- 45) 櫻庭志乃<sup>1)</sup>，永野玲子，吉田有里，五十嵐健治，根本将之<sup>1)</sup>，林 瑞成<sup>1)</sup>，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院周産

- 期センター産科): 妊娠中に経皮経肝胆管ドレナージ(PTCD)を行い、ドレナージチューブを留置した状態で妊娠を継続、分娩に至った1例。第335回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2005. 9.
- 46) 川越信隆, 渡辺昇一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>勝楽堂病院産婦人科): 予定帝王切開術中, 突然の呼吸困難と急激な体温上昇を認めた1例。第335回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2005. 9.
- 47) 米山剛一, 黒瀬圭輔, 沖野恵子, 土居大祐, 小西英喜, 竹下俊行: 卵巣腫ようにおける血中VEGF (vascular endothelial growth factor) 値の意義。第65回日本癌学会, 2005. 9.
- 48) 吉田有里, 西 弥生, 品川寿弥, 館岡佐知, 明樂重夫, 竹下俊行: 月経困難症を呈し腹腔鏡下に治療し得た非交通性副角子宮の1例。第73回日本医科大学医学会, 2005. 9.
- 49) 印出佑介, 米山剛一, 吉田有里, 中川道子, 西 弥生, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 竹下俊行: 術前に診断し得た子宮体部lipoleiomyoma の1例。第73回日本医科大学医学会, 2005. 9.
- 50) 深見武彦<sup>1)</sup>, 倉品隆平<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 切迫早産患者の早産予知における子宮頸管領域腺像消失の意義: 頸管長と頸管粘液エラストラーゼとの比較。第73回日本医科大学医学会, 2005. 9.
- 51) 倉品隆平<sup>2)</sup>, 藤江裕美<sup>2)</sup>, 石野博嗣<sup>2)</sup>, 沖野恵子<sup>2)</sup>, 深見武彦<sup>2)</sup>, 松島 隆<sup>2)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 可世木久幸<sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup>, 竹下俊行(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 妊娠・産褥に発症した脳梗塞の2例。第73回日本医科大学医学会, 2005. 9.
- 52) 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 荏原弘光<sup>1)</sup>, 松野邦彦<sup>1)</sup>, 松橋智彦<sup>1)</sup>, 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院女性診療科・産科): 子宮内膜症を伴った卵巣硬化性間質性腫ようの1例。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 53) 川端伊久乃, 中井章人, 山田 隆, 三宅秀彦, 横田明重, 竹下俊行: 当科における早産治療の変遷と早産率の推移。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 54) 松島 隆<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 深見武彦<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 内膜症性嚢胞における腹腔鏡下嚢腫摘出術と腹腔鏡下膿腫蒸散術との再発率・妊娠率についての検討。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 55) 倉品隆平, 藤江裕美, 石野博嗣, 沖野恵子, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠・産褥に発症した脳梗塞の2例。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 56) 萩原祐介, 村田知昭, 西 弥生, 石川 源, 三浦 敦, 品川寿弥, 澤倫太郎, 磯 太一, 米山剛一, 竹下俊行(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 妊娠27週に急性増悪して診断された深部静脈血栓症合併妊娠の1例。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 57) 根岸靖幸, 荏原弘光, 八木修立郎, 大坪保雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮中央総合病院): 妊娠合併血球貧食症候群とHELLP症候群の類似点。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 58) 里見操緒, 松橋智彦, 印出佑介, 五十嵐美和, 荏原弘光, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行: 卵巣に発生した扁平上皮癌の1例。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 59) 米山剛一, 西 弥生, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 阿部 崇, 石川温子, 土居大祐, 竹下俊行: Low malignant potential 症例も含んだポリープ状異型腺筋腫症例の検討。第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 60) 近江恭子, 西 弥生, 品川寿弥, 磯 太一, 村田知昭, 阿部 崇, 石川 源, 立山尚子, 澤倫太郎, 竹下俊行(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 子宮筋腫合併妊娠経膈分娩後に大量出血をきたしUAEを施行した癒着胎盤の1例。第119回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 61) 石川 源, 磯 太一, 竹下俊行, Jhon MR<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>オハイオ州立大学生理, <sup>2)</sup>日本医科大学解剖学第1): ヒト初期胎盤におけるアルブミンの局在: 免疫組織化学的解析。第13回日本胎盤学会, 2005. 10.
- 62) 磯 太一, 吉田有里, 川越信隆, 印出佑介, 西 弥生, 村田知昭, 石川 源, 品川寿弥, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 不妊治療後に発生した胎児共存奇胎の1例。第23回日本絨毛性疾患研究会, 2005. 10.

- 63) 峯 克也, 片山 映<sup>1)</sup>, 松村智裕<sup>1)</sup>, 西野武士<sup>1)</sup>, 桑原慶充, 石川 源, 村田知昭, 澤倫太郎, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 太田雄治郎<sup>3)</sup>, 進 純郎<sup>4)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本医科大学生化学第1, <sup>2)</sup>大宮中央総合病院産婦人科, <sup>3)</sup>多摩南部地域病院産婦人科, <sup>4)</sup>葛飾赤十字産院産婦人科 ): 妊娠高血圧症候群患者血清および胎盤のプロテオーム解析 . 第26回日本妊娠高血圧学会, 2005 . 10 .
- 64) 松島 隆<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 深見武彦<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科 ): 内膜症性嚢胞における腹腔鏡下嚢腫摘出術と腹腔鏡下嚢腫蒸散術との再発率・妊娠率についての検討 . 第337回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 10 .
- 65) 藤江裕美, 小西英喜, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 10代女性の子宮頸部細胞診異常とその背景 . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 66) 鴨井青龍, 河村 堯, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 竹下俊行: 若年子宮体癌の子宮温存を目的とした高用量黄体ホルモン療法における病理組織学的効果予知因子の検討 . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 67) 土居大祐, 黒瀬圭輔, 沖野恵子, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣癌の組織型別再発様式の検討 . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 68) 黒瀬圭輔, 沖野恵子, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 良性卵巣腫瘍の診断にて腹腔鏡下手術を行い悪性腫瘍と判明した症例の検討 . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 69) 中野貴子, 倉藤晶子, 佐々木恵, 上村明子, 金子栄子, 石川 源, 明樂重夫, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>付属病院 看護部中央手術部 ): 腹腔鏡手術マニュアル導入の試み 安全・確実な手術を目指して . 日本手術医学会, 2005 . 10 .
- 70) 鈴木奈津子<sup>1)</sup>, 坂本美一<sup>1)</sup>, 大森安恵<sup>1)</sup>, 磯 太一 ( <sup>1)</sup>東日本循環器病院糖尿病センター ): 抗GAD抗体陽性で分娩後に増加を認めた糖尿病妊婦の1症例 . 第21回日本糖尿病・妊娠学会, 2005 . 11 .
- 71) 梶川 望, 阿部 崇, 西 弥生, 村田知昭, 黒瀬圭輔, 品川寿弥, 土居大祐, 澤倫太郎, 磯 太一, 竹下俊行: 分娩誘発中に発症した頭位臍帯下垂症例の1例 . 第26回分娩監視研究会, 2005 . 11 .
- 72) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 井畑 穰<sup>1)</sup>, 三田俊二, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 山田 隆, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 佐治晴哉<sup>2)</sup>, 杉浦 甫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター, <sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科 ): 卵巣癌術前診断における内膜細胞診の役割 . 第44回日本臨床細胞学会, 2005 . 11 .
- 73) 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 井畑 穰<sup>1)</sup>, 三田俊二<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 山田 隆, 土居大祐, 佐治晴哉<sup>2)</sup>, 杉浦 甫<sup>2)</sup>, 清水基弘<sup>3)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター, <sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科 ): 最小偏倚腺癌 (悪性腺腫) の1例 . 第44回日本臨床細胞学会終期大会, 2005 . 11 .
- 74) 佐藤利瑞<sup>1)</sup>, 西井しのぶ<sup>1)</sup>, 西川秋佳<sup>2)</sup>, 河村俊治<sup>3)</sup>, 山本智子<sup>3)</sup>, 山田 勉<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子, 河合尚基<sup>4)</sup>, 長田宏巳<sup>5)</sup>, 岡野匡雄<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>東部地域病院検査科, <sup>2)</sup>国立医薬品食品衛生研究所病理部, <sup>3)</sup>東京女子医科大学病理, <sup>4)</sup>東部地域病院婦人科, <sup>5)</sup>上尾中央総合病院病理部, <sup>6)</sup>多摩がん検診センター ): 多彩な組織増を示した子宮頸部のmucinous adenocarcinoma の1例 . 第44回日本臨床細胞学会終期大会, 2005 . 11 .
- 75) 富山僚子, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本大学生物資源学部 ): マウスIVM卵子の染色体異常について . 第50回日本不妊学会, 2005 . 11 .
- 76) 深見武彦<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 松原直樹<sup>2)</sup>, 小野恭子<sup>2)</sup>, 山崎輝行<sup>2)</sup>, 波多野久昭<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>飯田市立病院, <sup>3)</sup>ノア・ウィメンズクリニック ): 胎盤ポリープのマネージメント . 第50回日本不妊学会, 2005 . 11 .
- 77) 西 弥生, 磯 太一, 品川寿弥, 阿部 崇, 富山僚子, 五十嵐健治, 平泉良枝, 明樂重夫, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>日本大学生物資源学部 ): 反復流産後のAsherman症候群に関する検討 . 第50回日本不妊学会, 2005 . 11 .
- 78) 渡辺美千明, 吉田有里, 山口昌子, 阿部 崇, 西 弥生, 石川 源, 黒瀬圭輔, 倉品隆平, 明樂重夫, 可世木久幸, 竹下俊行: 当教室における子宮奇形に対する鏡視下手術への取り組み . 第18回日本内視鏡外科学会, 2005 . 12 .

- 79) 石川 源, 阿部 崇, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡下卵管線状切開術において存続絨毛症は予防できるか. 第18回日本内視鏡外科学会, 2005. 12.
- 80) 阿部 崇, 土居大祐, 西 弥生, 品川寿弥, 米山剛一, 竹下俊行: 子宮頸部明細胞腺癌の1例. 第336回日産婦東京地方部会例会, 2005. 12.
- 81) 明樂重夫, 西 弥生, 峯 克也, 阿部 崇, 竹下俊行: 難治性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法: 点鼻法と皮下投与法を比較して. 第27回エンドメトリオーシス研究会, 2006. 1.
- 82) 峯 克也, 明樂重夫, 中井晶子, 阿部 崇, 西 弥生, 齋藤生朗<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>(1)</sup> (多摩南部地域病院検査科, <sup>2)</sup> 同婦人科): 嚢胞性病変を示したRecto-vaginal endometriosis type3型の2症例. 第27回エンドメトリオーシス研究会, 2006. 1.
- 83) 三浦 敦, 草間 薫, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣癌直腸浸潤が疑われた深部子宮内膜症を伴った偽嚢胞の1例. 第27回エンドメトリオーシス研究会, 2006. 1.
- 84) 吉田有里, 永野玲子, 櫻庭志乃<sup>1)</sup>, 朝倉禎史, 五十嵐健治, 根本将之<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 若麻績佳樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 都立墨東病院周産期センター産科): 胎盤形態異常を認めた子宮内胎児発育遅延の1例. 第337回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2006. 2.
- 85) 石川 源, 土居大祐, 梶川 望, 菊地英美, 弘末卓也, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 大量腹水を呈し, 甲状腺成分をともなった成熟嚢胞性奇形腫の1例. 第337回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2006. 2.
- (5) 追加分一般講演:
- 1) 山口昌子<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 小林三平<sup>1)</sup>, 根本将之<sup>1)</sup>, 磯 太一 (<sup>1)</sup> 海老名総合病院): 過多月経が原因と思われる貧血の管理中に急死し, 病理解剖で肺血栓塞栓症と診断された1例. 第370回日本産婦人科神奈川部会, 2005. 3.

## [ 第二病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

- 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における, 胎児超音波診断に加え,
  - 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究.
  - 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測.
  - 子宮頸管無力症における超音波画像の変化.
  - 妊娠初期胎嚢像の三次元超音波断層像等の研究を行っている.
- 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や, 内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている.
- 婦人科腫瘍 抗がん剤タキソールの臨床研究施設であり, 副作用の解説, 研究発表を行っている. 子宮頸癌におけるHPV typingによる追跡調査を継続して.

### 研究業績

#### 論文

- (1) 原著:
- Fukami T, Kurashina R, Fujie Y, Okino K, Matsushima T, Konishi H, Kaseki H, Asakura H, Takeshita T: The absence of cervical gland are and risk of spontaneous preterm delivery. J Nippon Med Sch 2005; 72 (6): 391-392.
  - 朝倉啓文: 産科医不足と医療体制. 母子保健 2005.
  - 鈴木俊二, 朝倉啓文, 茨 聡, 杉山力一, 前村俊光, 塚原優己, 田中政信, 西野英男, 松岡幸一郎, 長田尚夫: 全国NICUにおける長期入院例の検討. 日本周産期新生児学会雑誌 2005; 72 (6): 837-842.



- 4) 洪井庸子, 藤江裕美, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 長期IUD留置による骨盤膜炎を発症した2例. 神奈川地方部会誌 2005; 42(1): 2-5.
- 5) 朝倉啓文: 妊娠・出産の安全性と快適性の確保; 背景と大学付属病院の進む方向性. 神奈川母性衛生学会誌 2005; (8): 13-17.
- 6) 小島美貴子, 沖野恵子, 倉品隆平, 藤江裕美, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 当院で経験した脳梗塞の1症例. 神奈川地方部会誌 2006; 42(2): 23-26.
- 7) 岡井 崇<sup>1)</sup>, 岩下光利<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 井坂恵一<sup>1)</sup>, 大田博明<sup>1)</sup>, 上妻志郎<sup>1)</sup>, 佐藤和雄<sup>1)</sup>, 杉本充弘<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 田中政信<sup>1)</sup>, 中林正雄<sup>1)</sup>, 名取道也<sup>1)</sup>, 山本樹生<sup>1)</sup>, 吉田幸洋<sup>1)</sup>, 金山尚裕<sup>1)</sup>, 斎藤 滋<sup>1)</sup>, 大槻克文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京早産予防研究会世話人会 ): 多施設共同ランダム化比較試験による早産予防のための妊婦管理ガイドラインの作成. 産婦人科の実際 2006; 55(1): 77-86.

(2) 綜説:

- 1) 朝倉啓文: 性器ヘルペス合併妊産婦とその管理. 産婦治療 2005; 90(4): 605-609.
- 2) 朝倉啓文, 松島 隆: CPD. 産と婦 2005; 72(4): 1561-1566.
- 3) 朝倉啓文: 産科・周産期のインフォームドコンセント, 正常経膣分娩. 産婦実際 2005; 54(11): 1755-1762.
- 4) 朝倉啓文, 深見武彦: 早産のリスクファクター. 産婦実際 2006; 55(1): 1-9.
- 5) 可世木久幸: AIH, HITのインフォームドコンセント. 産科と婦人科 2006; 73(増刊): 113-120.

著 書

- 1) 朝倉啓文: [ 自著 ] 常位胎盤早期剥離. 妊娠中毒症から妊娠高血圧症候群へ 過去から未来へ (日本中毒症学会編集), 2005; pp241-244, メディカルビュー社.
- 2) 朝倉啓文: [ 自著 ] 産科出血, 産科ショック. 今日の治療方針, 2005; 医学書院.
- 3) 山中美智子<sup>1)</sup>, 武井美城<sup>1)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 石川浩志<sup>1)</sup>, 高橋恒男<sup>1)</sup>, 遠藤方哉<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 佐々木繁<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市立大学病院 ): [ 共著 ] 本邦における神経管閉鎖障害発生動向と葉酸摂取勧告. 周産期シンポジウム, 2005; pp63-67, メディカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 朝倉啓文: 母子保健の理念, 妊娠中の症状等に対する処置. 平成17年度母性健康管理講習会(女性労働協会), 2005. 4.
- 2) 朝倉啓文: 胎児脳障害の発生機序について. 相模原産婦人科医会, 2005. 4.

(2) 招待講演:

- 1) Kaseki H: Development of digital video flexible operating hysteroscope. The 7th Annual Meeting of Asia-Pacific Association of Endoscopy ( APAGE ). ( Hong Kong ), 2005. 11.

(3) 教育講演:

- 1) 朝倉啓文: 正期産仮死と胎児脳障害についての一考察. 第26回分娩監視研究会, 2005. 4.

(4) シンポジウム:

- 1) Kaseki H, Thuthumi O<sup>1)</sup>, Mathuzaki T<sup>1)</sup>, Hoshiai H<sup>1)</sup>: Endoscopic Board Certified Fellow System in Japan. XV Annual Congress of the International Society for Gynecologic Endoscopy ( Vuenos Aires ), 2006. 3.
- 2) Nishida N, Kaseki H, Asakura H: Development of Flexible Digital Video Operating Hysteroscope. XV Annual Congress of the International Society for Gynecologic Endoscopy ( Vuenos Aires ), 2006. 3.
- 3) 可世木久幸: 日本産科婦人科内視鏡学会 ( JSGOE ) のガイドラインのコンセンサス. 第18回日本内視鏡外科科学会, 2005. 12.

(5) 一般講演：

- 1) Kaseki H : Hysterofiberscopic Intervention to Placental Polypectomy . Global Congress of Gynecologic Endoscopy, AAGL 34th Annual Meeting. ( San Fransisco ), 2005 . 11 .
- 2) Nishida N , Kaseki H , Fukami T , Mathushima T , Asakura H : Hysterofiberscopic Intervention for Placental remnants . 2nd Asian American Multi Specialty Congress ( Honoruru ), 2006 . 2 .
- 3) 深見武彦, 藤江裕美, 洪井庸子, 石野博嗣, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井章人<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科 ): 双胎妊娠における腎葉間動脈の血流速度波形の特徴 acceleration time の解析より . 第57回日本産科婦人科学会, 2005 . 4 .
- 4) 藤江裕美, 小西英喜, 石野博嗣, 山田真理子, 沖野恵子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : エタノールパッチテストを用いた Paclitaxel によるアルコール副障害予知の検討 . 第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 6 .
- 5) 沖野恵子, 松島 隆, 深見武彦, 藤江裕美, 石野博嗣, 山田真理子, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 下肢静脈血栓症により発見された巨大子宮筋腫 . 第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 6 .
- 6) 吉田有里, 西 弥生, 品川寿弥, 館岡佐知, 明樂重夫, 竹下俊行 : 月経困難症を契機に発見され腹腔鏡下に治療し得た非交通性副角子宮の1例 . 第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 6 .
- 7) 小島三貴子, 沖野恵子, 倉品隆平, 藤江裕美, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 全国NICUにおける長期入院例の検討 . 第371回日産婦学会神奈川地方部会, 2005 . 7 .
- 8) 鈴木俊二<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 杉山力一<sup>1)</sup>, 前村俊満<sup>1)</sup>, 田中政信<sup>1)</sup>, 西野英男<sup>1)</sup>, 松岡幸一郎<sup>1)</sup>, 茨 聡<sup>1)</sup>, 清川尚<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本産婦人科医会 ): 全国NICUにおける長期入院例の検討 . 第41回日本周産期・新生児医学会, 2005 . 7 .
- 9) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 浅井政子<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 小西英喜, 朝倉啓文 ( <sup>1)</sup>第二病院小児科 ): 既往帝王切開妊婦の経膈分娩における母児の安全性 . 第41回日本周産期・新生児医学会, 2005 . 7 .
- 10) 山中美智子<sup>1)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 平原史樹<sup>2)</sup>, 朝倉啓文, 鈴木俊二<sup>2)</sup>, 前村俊満<sup>2)</sup>, 宮城悦子<sup>1)</sup>, 佐々木繁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学病院産婦人科, <sup>2)</sup>日本産婦人科医会 ): わが国における腹膜破裂の発生動向 : 日本産婦人科医会外表奇形等調査から . 第45回日本先天異常学会, 2005 . 7 .
- 11) 平原史樹<sup>1)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 山中美智子<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 鈴木俊二<sup>2)</sup>, 前村俊満<sup>2)</sup>, 宮城悦子<sup>1)</sup>, 佐々木繁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学病院産婦人科, <sup>2)</sup>日本産婦人科医会 ): 不妊治療, 生殖補助医療にみられた先天異常症例の検討 : 日本産婦人科医師会先天異常モニタリング調査より . 第45回日本先天異常学会, 2005 . 7 .
- 12) 吉田有里, 石川 源, 村田知昭, 安部 崇, 品川寿弥, 桑原慶充, 磯 太一, 澤倫太郎, 竹下俊行 : 抗リン脂質抗体陽性女と婦の周産期予後 . 第41回日本周産期新生児医学会, 2005 . 7 .
- 13) 吉田有里, 西 弥生, 品川寿弥, 館岡佐知, 明樂重夫, 竹下俊行 : 腹腔鏡下に治療し得た非交通性副角子宮の1例 . 第45回日本産科婦人科内視鏡学会, 2005 . 7 .
- 14) 松島 隆, 可世木久幸, 藤江裕美, 沖野恵子, 深見武彦, 小西英喜, 朝倉啓文 : 子宮内膜症性のう胞における腹腔鏡下のう腫摘出術と腹腔鏡下のう腫蒸散術との再発率, 妊娠率についての検討 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 15) 倉品隆平, 藤江裕美, 沖野恵子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 子宮内膜症性のう胞における腹腔鏡下のう腫摘出術と腹腔鏡下のう腫蒸散術との再発率, 妊娠率についての検討 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 16) 深見武彦, 倉品隆平, 藤江裕美, 沖野恵子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 妊娠・産褥に発症した脳梗塞の2例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 17) 賀来佳男, 松島 隆, 藤江裕美, 沖野恵子, 深見武彦, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文 : 分娩後はじめて頸部筋腫でなく子宮体筋腫と判明し, 筋腫核出 ( 子宮温存 ) が可能になった1例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .

- 18) 近藤和代, 堀あすか, 吉賀尚子, 小河原美代子, 朝倉啓文: 混合病棟大部屋における母子同室褥婦と他患者との間に見られる気遣い. 第46回日本母性衛生学会総会, 2005. 9.
- 19) 松島 隆, 可世木久幸, 藤江裕美, 沖野恵子, 深見武彦, 小西英喜, 朝倉啓文: 内膜症性のう胞における腹腔鏡下のう腫核出術と腹腔鏡下蒸散術との再発率, 妊娠率についての検討. 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 20) 倉品隆平, 藤江裕美, 沖野恵子, 深見武彦, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠・産褥に発症した脳梗塞の2例. 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 21) 山田浩子<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 越野立夫<sup>1)</sup>, 山口 暁, 山口 稔<sup>(1)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科): 高度会陰裂傷に対する妊婦運動の効果(第2法). 第19回女性スポーツ研究会, 2005. 10.
- 22) 松原直樹<sup>1)</sup>, 小野恭子<sup>1)</sup>, 深見武彦, 松島 隆, 波多野久昭, 山崎輝行<sup>1)</sup>, 可世木久幸, 朝倉啓文, 小西郁生<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>飯田市立病院産婦人科, <sup>2)</sup>信州大学産婦人科): 胎盤ポリープに対し子宮鏡下手術が有効であった症例. 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005. 10.
- 23) 石井陽子<sup>1)</sup>, 吉賀尚子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行 (<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科 看護師): 続発性微弱陣痛と高度一過性徐脈を認めた1例. 第26回分娩監視研究会, 2005. 11.
- 24) 松原直樹<sup>1)</sup>, 波多野久昭, 深見武彦, 松島 隆, 山崎輝行<sup>1)</sup>, 可世木久幸, 朝倉啓文 (<sup>1)</sup>飯田市立病院): 胎盤ポリープ除去術にはヒステロファイバースコープが有効である. 第45回日本産科婦人科内視鏡学会, 2005. 11.
- 25) 深見武彦, 松原直樹<sup>1)</sup>, 小野恭子<sup>1)</sup>, 松島 隆, 波多野久昭, 山崎輝行, 可世木久幸, 朝倉啓文 (<sup>1)</sup>飯田市立病院産婦人科): 胎盤ポリープのマネージメント. 第50回日本不妊学会, 2005. 11.
- 26) 松原直樹<sup>1)</sup>, 小野恭子<sup>1)</sup>, 波多野久昭, 山崎輝行<sup>1)</sup>, 可世木久幸 (<sup>1)</sup>飯田市立病院産婦人科): ART不成功に対して子宮鏡手術が有効であった症例. 第50回日本不妊学会, 2005. 11.
- 27) 菊谷真理子, 土橋一慶<sup>1)</sup>, 小泉さおり<sup>2)</sup>, 志村三枝子<sup>1)</sup>, 土橋千冬<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千川産婦人科医院, <sup>2)</sup>帝京大学病院): マンモグラフィ, 超音波検査を併用した乳癌検診の有用性. 第15回日本乳癌健診の有用性, 2005. 11.
- 28) 石井陽子<sup>1)</sup>, 森岡邦栄<sup>1)</sup>, 大沢いずみ<sup>1)</sup>, 西尾麻衣子<sup>1)</sup>, 吉賀尚子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 朝倉啓文 (<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科 看護師): 頻回授乳を実施した母親の母乳栄養に対する満足度. 第18回神奈川母性衛生学会, 2006. 2.
- 29) 小関 聡, 塗山百寛, 福田敏子, 朝倉啓文, 持丸文雄, 平原史樹, 東條龍太郎, 八十島唯一: 神奈川県内の産科医療期間における分娩取り扱い数調査と将来予測. 第373回日産婦学会神奈川地方部会, 2006. 2.
- 30) 吉田有里, 永野玲子<sup>1)</sup>, 櫻庭志乃<sup>1)</sup>, 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 五十嵐健治, 根本将之<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 若麻績佳樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都立墨東病院周産期センター産科): 胎盤形態異常を認めた子宮内胎児発育遅延の1例. 東京地方部会, 2006. 2.
- 31) 菊谷真理子, 尾形永太郎<sup>1)</sup>, 土橋一慶<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>尾形産婦人科クリニック, <sup>2)</sup>千川産婦人科医院): 乳房のしこりを主訴にした症例の診断方法について. 第1回産婦人科乳癌学会, 2006. 3.

## [ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している。また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある。

## (2) 出生前診断

羊水・絨毛染色体検査，超音波診断等を中心に検討を行っている．

## (3) 周産期領域

臨床面では，妊娠高血圧症候群，子宮内胎児発育遅延に対し，超音波断層装置，生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている．超音波断層装置による母体腎，肝臓の観察では，新たな視点から，妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある．また，胎児，新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い，脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Nakai A, Taniuchi Y, Miyake H, Nakai M, Yokota A, Takeshita T : Increased level of granulocyte elastase in cervical secretion is an independent predictive factor for preterm delivery . Gynecol obstet Invest 2005 ; 60 : 87-91 .
- 2) Yokota A, Nakai A, Taniuchi T, Okuda N, Nakai M, Takeshita T : Maternal treatment with MCI-186 does not improve delayed deterioration of cellular bioenergetic state and mitochondrial activity following transient intrauterine ischemia in the fetal rat brain . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ) : 127-130 .
- 3) 奥田直貴，國重浩二，三田俊二，横田明重，越野立夫，中井章人：Multidetector-row CT（MDCT）が診断に有効であった産褥子宮内容除去術後子宮穿孔の1例．日産婦東京会誌 2005；54（2）：240-244．
- 4) 奥田直貴，川端伊久乃，山田 隆，高橋 肇，三宅秀彦，横田明重，中井章人：産褥4日目に発症した不全子宮内反症の1例．日産婦東京会誌 2005；54（3）：370-373．
- 5) 山田 隆，横田明重，奥田直貴，中井晶子，山田浩子，川端伊久乃，谷内良成，高橋 肇，三宅秀彦，中井章人：当院における前置癒着胎盤に対するmodified cesarean hysterectomyの試み．日産婦東京会誌 2005；54（4）：543-550．
- 6) 川端伊久乃，山田浩子，國重浩二，横田明重，中井章人，竹下俊行：漿液性網膜剥離を発症した妊娠高血圧症候群の検討．妊高誌 2005；13：105-106．

#### (2) 綜説：

- 1) 越野立夫，三宅秀彦：産褥：産褥熱（産婦人科薬物処方の実際：産科：周産期）．産科と婦人科 2005；72（増刊）：138-140．
- 2) 中井章人：分娩後明らかになる妊婦スポーツの効果（特集：アミノ酸とスポーツ栄養学）．臨床スポーツ医学 2005；22（7）：892-893．
- 3) 三宅秀彦，中井章人：妊娠と血圧のメカニズムの基本（特集：胎児の心地よい環境に必要なこと：妊娠と高血圧のメカニズムを知ろう）．助産雑誌 2005；59（9）：790-794．
- 4) 川端伊久乃，中井章人：4) 妊娠中の運動と栄養（周産期の栄養と食事：産科編：2. 妊娠中の栄養と食事）．周産期医学 2005；35（増刊）：123-127．
- 5) 川端伊久乃，中井章人：回旋異常と難産（特集：安全で快適なお産をめざして：難産対策new step）．周産期医学 2006；36（1）：19-22．
- 6) 横田明重，明樂重夫，竹下俊行：子宮筋腫のGnRHアゴニスト療法（特集：EBMに基づく子宮筋腫の診療）．産婦人科治療 2006；92（3）：285-288．

### 著書

- 1) 越野立夫：〔監修・執筆〕新産婦人科学Qシリーズ．新産婦人科学Qシリーズ（越野立夫），2005；日本医事

新報社。

- 2) 中井章人, 横田明重, 三田俊二, 三宅秀彦, 高橋 肇, 谷内良成, 國重浩二, 川端伊久乃, 奥田直貴, 中井晶子:〔分担・執筆〕新産婦人科学Qシリーズ.産婦人科学Qシリーズ(越野立夫),2005;日本医事新報社.
- 3) 中井章人:〔自著〕EBMに基づく周産期リスクサインと妊産婦サポートマニュアル.EBMに基づく周産期リスクサインと妊産婦サポートマニュアル(中井章人),2005;(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 4) 中井章人:〔分担〕1.実施条件とメディカルチェック:11.マイナートラブルを予防するマタニティエクササイズ:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp186,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 5) 中井章人:〔分担〕2.妊娠中の運動効果:11.マイナートラブルを予防するマタニティエクササイズ:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp187,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 6) 中井章人:〔分担〕3.分娩への影響:11.マイナートラブルを予防するマタニティエクササイズ:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp188,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 7) 中井章人:〔分担〕4.産褥期の母体への効果:11.マイナートラブルを予防するマタニティエクササイズ:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp188,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 8) 谷内良成:〔分担〕1.里帰り分娩の頻度:21.「里帰り分娩」メリット・デメリットをめぐって:最近,評判のよくない理由:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp219,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 9) 谷内良成:〔分担〕2.里帰り分娩のメリット:21.「里帰り分娩」メリット・デメリットをめぐって:最近,評判のよくない理由:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp220,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 10) 谷内良成:〔分担〕3.里帰り分娩のデメリット:21.「里帰り分娩」メリット・デメリットをめぐって:最近,評判のよくない理由:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp220,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 11) 谷内良成:〔分担〕4.里帰り分娩の今後:21.「里帰り分娩」メリット・デメリットをめぐって:最近,評判のよくない理由:II.妊産婦の健康教育:保健相談の実践:第II編:妊産婦・褥婦の健康教育:保健相談の実践.この道のプロとなるための母と子の健康教育:妊産婦の保健相談・子育て支援(中林正雄,安達知子監修),2005;pp222,(株)ライフ・サイエンス・センター.
- 12) 中井章人:〔分担〕周産期・産科7:妊婦健診・妊婦の血液検査.産婦人科外来診療マニュアル(竹下俊行編集企画,飯塚理八,木下勝之,滝沢憲,武谷雄二,吉村泰典編集),2006;pp26-28,医学の世界社.
- 13) 中井章人:〔分担〕周産期・産科8:妊娠時期別超音波スクリーニング.産婦人科外来診療マニュアル(竹下俊行企画編集,飯塚理八,木下勝之,滝沢 憲,武谷雄二,吉村泰典編集),2006;pp30-35,医学の世界社.
- 14) 中井章人:〔分担〕周産期・産科17:切迫早産.産婦人科外来診療マニュアル(竹下俊行編集企画,飯塚理八,

木下勝之, 滝沢 憲, 武谷雄二, 吉村泰典編集), 2006 ; pp60-62, 医学の世界社 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 横田明重 : 婦人科がん検診と予後 . 日本医科大学付属多摩永山病院第21回公開講座, 2006 . 3 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) Taniuchi Y, Okuda N, Nakai M, Nakai A, Takeshita T : Maternal treatment with aspirin attenuates secondary mitochondrial dysfunction in neonatal rat brain . Society for Gynecologic Investigation 2006 Annual Scientific Meeting ( Toronto, Canada ), 2006 . 3 .
- 2) 横田明重, 中井章人, 奥田直貴, 三宅秀彦, 越野立夫, 竹下俊行 : 子宮筋腫に対するGnRH agonistの術前投与は腹式単純子宮全摘術の輸血リスクを回避できるか? . 第57回日本産科婦人科学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 3) 谷内良成, 中井章人, 奥田直貴, 中井晶子, 三宅秀彦, 横田明重, 越野立夫, 竹下俊行 : 子宮動脈一過性虚血によるラット新生仔脳の遅発性エネルギー代謝不全に対するビタミン投与の効果 . 第57回日本産科婦人科学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 4) 永野玲子<sup>1)</sup>, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 山田浩子<sup>1)</sup>, 弘末卓也<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 大村 浩<sup>1)</sup>, 若麻績佳樹<sup>1)</sup>, 中井章人, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>東京都立墨東病院周産期センター産科 ): 双胎妊娠において妊娠12週以上24週未満に一児以上が胎内死亡もしくは死産となった15症例の検討 . 第57回日本産科婦人科学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 5) 深見武彦, 藤江裕美, 洪井庸子, 石野博嗣, 山田真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井章人, 竹下俊行 : 双胎妊娠における腎葉間動脈の血流速度波形の特徴 : acceleration timeの解析より . 第57回日本産科婦人科学会学術講演会, 2005 . 4 .
- 6) 三宅秀彦, 中井章人, 谷内良成, 横田明重, 竹下俊行 : 頸管粘液中の顆粒球エラストラーゼ測定は早産予知に役立つか? . 第23回日本産婦人科感染症研究会, 2005 . 5 .
- 7) 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人 : 羊水染色体分析を取り巻く環境の年次的変化 . 第29回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2005 . 5 .
- 8) 三宅秀彦, 谷内良成, 横田明重, 中井章人 : 子宮頸管縫縮術症例の予後の検討 : 子宮頸管長測定と分娩時期について . 東京早産予防研究会第5回学術集会, 2005 . 5 .
- 9) 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人 : 産褥4日目に発症した不全子宮内反症の1例 . 第334回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2005 . 5 .
- 10) 高橋 肇, 横田明重, 三田俊二, 國重浩二, 中井晶子, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行 : 前置癒着胎盤に対するmodified cesarean hysterectomyの経験 . 第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2005 . 6 .
- 11) 高橋 肇, 横田明重, 中井章人, 山口 暁<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山口病院) : 新生児B群溶連菌 ( GBS ) スクリーニングの有用性についての検討 . 第41回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2005 . 7 .
- 12) 奥田直貴, 谷内良成, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行 : ラット新生仔低酸素脳症発生とミトコンドリア膜透過性遷移の関連 . 第41回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2005 . 7 .
- 13) 永野玲子<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 中井章人, 竹下俊行, 若麻績佳樹<sup>1)</sup>, 大森意素<sup>2)</sup>, 清水光政<sup>2)</sup>, 渡辺とよ子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立墨東病院周産期センター産科, <sup>2)</sup>同周産期センター新生児科) : 当院における妊娠22・23週の分娩の検討 . 第41回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2005 . 7 .
- 14) 山田 隆, 横田明重, 奥田直貴, 中井晶子, 山田浩子, 川端伊久乃, 谷内良成, 高橋 肇, 三宅秀彦, 中井章人 : 当院における前置癒着胎盤に対するmodified cesarean hysterectomyの試み . 第335回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2005 . 9 .
- 15) 奥田直貴, 横田明重, 西 佳史, 山田 隆, 三宅秀彦, 中井章人 : GnRH agonistの術前投与は子宮筋腫に対す

る腹式単純子宮全摘術の輸血リスクを軽減できるか？．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

- 16) 片山博徳<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，東 敬子<sup>1)</sup>，磯部宏昭<sup>1)</sup>，柳田裕美<sup>1)</sup>，川野記代子<sup>1)</sup>，岩瀬裕美<sup>1)</sup>，日吾美栄子<sup>1)</sup>，椋 清美<sup>1)</sup>，原 博<sup>1)</sup>，中井章人，内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同病理学第2): 子宮内細胞診におけるセルブロック法の有用性について．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 17) 吉田温子<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，三宅秀彦，横田明重，中井章人(<sup>1)</sup>多摩永山病院周産期棟): 高度会陰裂傷発症に対するリスク因子の検討．第46回日本母性衛生学会総会・学術集会，2005．10．
- 18) 川端伊久乃，山田浩子，國重浩二，横田明重，中井章人，竹下俊行：漿液性網膜剥離を発症した妊娠高血圧症候群の検討．第26回日本妊娠高血圧学会，2005．10．
- 19) 山田浩子，三宅秀彦，中井晶子，奥田直貴，川端伊久乃，山田 隆，高橋 肇，谷内良成，横田明重，中井章人，竹下俊行：既往分娩様式は前置胎盤症例の予後にいかなる影響を与えるか？．第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2005．10．
- 20) 川端伊久乃，中井章人，山田 隆，三宅秀彦，横田明重，竹下俊行：当科における早産治療の変遷と早産率の推移．第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2005．10．
- 21) 山田浩子，林 昌子，川端伊久乃，横田明重，中井章人，朝倉啓文，越野立夫，山口 暁<sup>1)</sup>，山口 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山口病院): 高度会陰裂傷に対する妊婦運動の効果：第2報．第19回女性スポーツ医学研究会学術集会，2005．12．
- 22) 山本晃人，三宅秀彦，山田浩子，川端伊久乃，山田 隆，横田明重，中井章人：子癇発作の画像診断の検討：reversible posterior leukoencephalopathy syndrome をきたした子癇症例の経験より．第336回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2005．12．
- 23) 林 昌子，三宅秀彦，山本晃人，山田浩子，奥田直貴，川端伊久乃，谷内良成，山田 隆，横田明重，中井章人：当科における妊産婦健康診査未受診症例の検討．第19回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第337回日産婦東京地方部会例会，2006．2．

## [ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

- 1) 婦人科腫瘍：婦人科腫瘍分野は千葉北総病院女性診療科・産科における診療の中心的な位置を占めている．腫瘍学は症例1例1例の集積が大切であり，症例報告を中心に研究を行っている．また，抗癌剤の効果予知因子の研究の一環として，今回は子宮内膜癌にたいする高用量黄体ホルモン療法における効果予知因子の解明について研究をおこなった．
- 2) 婦人科内視鏡手術：腹腔鏡手術の教育システムの確立の必要性が謳われている．特に腹腔鏡下子宮筋腫核出術は子宮壁の修復に正確な縫合結紮を要し，生育機関においては術式と導入方法の工夫が必要とされてきた．これまで腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術を標準術式として導入してきたが，今回，導入における問題点と術式の妥当性について検討を加えた．さらに子宮内膜症や卵巣嚢腫に対する手術，子宮全摘術，および卵管卵管間質部妊娠を含む子宮外妊娠手術および子宮奇形に対する腹腔鏡手術あるいは子宮鏡手術についても症例を重ねている．
- 3) 周産期：ハイリスク妊娠の管理および分娩における問題点について検討し，緊急帝王切開術に対する諸問題を関係各部門と検討，分析した．妊産婦の栄養管理について，具体的に各症例について検討し日本人妊産婦に必要な栄養所要量について研究をおこなった．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Akira Shigeo<sup>1)</sup>, Abe T<sup>1)</sup>, Igarashi K<sup>1)</sup>, Nishi Y<sup>1)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Watanabe M, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院 女性診療科・産科): Gasless Laparoscopic Surgery Using a New Intra-abdominal Fan Retractor System : An Experience of 500 Cases . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 4 ) : 213-216 .
- 2) Shimizu H<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Okada S<sup>4)</sup>, Maeda S<sup>5)</sup>, Naito Z<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology, NMS Chibahokusoh Hospital , <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, NMS Chibahokusoh Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, NMS Chibahokusoh Hospital , <sup>4)</sup> Department of Radiology, NMS Chibahokusoh Hospital , <sup>5)</sup> Department of Pathology NMS Hospital ): Cytological interface if diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue . Brain Tumor Pathology 2005 ; 22 : 59-74 .
- 3) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>2)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Attached Hospital ): Weight Management Program for Pregnant Women. ( 1 ) Hypothesis, Proof, and Development of the Program. . XIXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics & Gynecology 2005 ; XIXth ACOG 2005 Abstract Book : 245-248 .
- 4) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>2)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Attached Hospital ): Weight Management Program for Pregnant Women. ( 2 ) Criteria Analysis and Intervention Timing. . XIXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics & Gynecology 2005 ; XIXth ACOG 2005 Abstract Book : 241-244 .

#### (2) 綜説：

- 1) 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科：産婦人科感染症アップデート：子宮頸癌のスクリーニングからみたHPV感染症．産婦人科の世界 2005 ; 57 ( 12 ) : 1145-1153 .

#### (3) 症例報告：

- 1) 荻原弘光, 鴨井青龍, 揖斐孝之, 松野邦彦, 松橋智彦, 印出佑介, 五十嵐美和, 里見操緒, 渡辺美千明, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup> 同放射線科): 卵巣悪性腫瘍を強く疑った卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．日本産科婦人科学会 関東連合地方部会会報 2006 ; 43 ( 1 ) : 63-70 .

### 著書

- 1) 荻原弘光, 佐藤和美<sup>1)</sup>, 加福文子<sup>2)</sup>, 澤倫太郎<sup>3)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院栄養科, <sup>2)</sup> 辻学園栄養専門学校, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): [ 分担 ] 周産期の食事と栄養 産科編 3 . 病態栄養と食事 1 . つわり, 悪阻 . 周産期医学 増刊号 ( 「周産期医学」編集委員会 ), 2005 ; pp128-134 , 東京医学社 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>2)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Attached Hospital ): Weight Management Program for Pregnant Women. ( 1 ) Hypothesis, Proof, and Development of the Program. . The XIXth Asia and Oceanic Congress of Obstetrics & Gynecology ( Seoul, Korea ), 2005 . 10 .
- 2) Chihara H<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>2)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School Attached Hospital ): Weight Management Program for Pregnant



- Women. (2) Criteria Analysis and Intervention Timing . The XIXth Asia and Oceanic Congress of Obstetrics & Gynecology ( Seoul, Korea ), 2005 . 10 .
- 3) Kamoi S, Asakura T, Matsumura Y, Kawase R, Satomi M, Igarashi K, Watanabe M, Kawamura T, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital ): Mitotic Index versus apoptotic index in biopsies as predictor of response to high dose progesterone therapy for endometrial adenocarcinoma . 第57回日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 2005 . 4 .
  - 4) 荏原弘光, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 妊婦の体重変化曲線作成プログラムの開発とパターン解析の試み . 第57回日本産科婦人科学会学術総会, 2005 . 4 .
  - 5) 松村好克, 里見操緒, 朝倉禎史, 川瀬里衣子, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯: 母児共に救命し得た高齢妊娠 妊娠23週に心不全を発症した56才妊婦を経験して . 第109回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 6 .
  - 6) 松村好克, 鴨井青龍, 里見操緒, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 扁平上皮癌を主体とした卵巢腫瘍の1例 . 第38回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2005 . 7 .
  - 7) 荏原弘光, 朝倉禎史, 松橋智彦, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 妊婦の体重変化作成プログラムの開発と臨床応用の実際(1): 仮説の証明とプログラムの開発 . 第29回日本産婦人科栄養・代謝研究会, 2005 . 7 .
  - 8) 朝倉禎史, 荏原弘光, 松橋智彦, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 妊婦の体重変化作成プログラムの開発と臨床応用の実際(2): 体重変化のパターン解析と介入時期の検討 . 第29回日本産婦人科栄養・代謝研究会, 2005 . 7 .
  - 9) 松橋智彦, 渡辺美千明, 河村 堯, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 石川温子, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡下子宮筋腫手術(LAM, LAVH)を導入して . 第45回 日本産科婦人科内視鏡学会, 2005 . 7 .
  - 10) 渡辺美千明, 松橋智彦, 河村 堯, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術(LAM)を標準術式として新たに導入して . 第16回 吊り上げ手術研究会, 2005 . 9 .
  - 11) 揖斐孝之, 荏原弘光, 松野邦彦, 松橋智彦, 朝倉禎史, 松村好克, 里見操緒, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 子宮内膜症を伴った卵巢硬化性間質性腫瘍の1例 . 第110回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2005 . 10 .
  - 12) 荏原弘光, 朝倉禎史, 松橋智彦, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 食物摂取頻度調査による妊娠末期妊婦の栄養摂取量評価: 「2005年版日本人の食事摂取基準」との比較 . 第27回日本臨床栄養学会総会, 2005 . 11 .
  - 13) 渡辺美千明, 吉田有里, 山口昌子, 阿部 崇, 西 弥生, 石川 源, 黒瀬圭輔, 倉品隆平, 明樂重夫, 可世木久幸, 竹下俊行: 当教室における子宮奇形に対する鏡視下手術への取り組み . 第18回日本内視鏡外科学会, 2005 . 12 .
  - 14) 松橋智彦, 嶺 貴彦, 印出佑介, 五十嵐美和, 里見操緒, 荏原弘光, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 子宮体部横紋筋肉腫の1例 . 日本産科婦人科学会千葉地方部会, 2006 . 2 .

## 14 . 耳鼻咽喉科学講座

[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物学的方法等を駆使している。

英文・和文論文、学会発表で示されている通り、研究とその結果の提示が積極的に行われている。また、外部の競争的研究費への申請も例年通り積極的に行われ、文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費を多く獲得している。

国際的学会や国内の学会への参加と、学会発表も積極的に行われ成果をあげているが、大学間のセミナーについても研究の更なる発展のために開催している。すでに10年以上になる、3大学セミナー（東京大学、東京慈恵会医科大学、および日本医科大学）や、昨年第1回を行った韓国のSeoul National UniversityとのJoiny Meetingによって、研究の更なる発展が期待されている。

平成18年5月には、第107回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会・総会を新高輪プリンスホテル国際館パミールで八木教授が会長として主催するが、本学耳鼻咽喉科学教室としては第55回学会を大藤教授が主催して以来のことになる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yagi T, Koizumi Y, Kimura M, Sugisaki K : Three dimensional analysis of eye movements using four times high-speed video camera . *Auris Nasus Larynx* 2005 ; 32 ( 2 ) : 107-112 .
- 2) Bunnag C<sup>1)</sup>, Perapun J<sup>1)</sup>, Pawankar R ( <sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Mahidol Univ, Bangkok, Thailand ) : Quality of life assessment in Thai patients with allergic rhinoconjunctivitis using the SF-36 questionnaire ( Thai version ) . *Rhinology* 2005 ; 43 ( 2 ) : 99-103 .
- 3) Nonaka M, Pawankar R, Fukumoto A, Ogihara N, Sakanushi A, Yagi T : Distinct role for nasal fibroblasts in the initiation of the eosinophilic inflammatory response . *Clin Exp Allergy Rev* 2005 ; 5 ( 2 ) : 77-80 .
- 4) Li L, Ikezono T, Watanabe A, Shindo S, Pawankar R, Yagi T : Expression of full-length Cochlin p63s is inner ear specific . *Auris Nasus Larynx* 2005 ; 32 ( 3 ) : 219-223 .
- 5) Bunnag C<sup>1)</sup>, Watcharee L<sup>1)</sup>, Perapun J<sup>1)</sup>, Pawankar R ( <sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Mahidol Univ, Bangkok, Thailand ) : The relationships between nasal symptoms, the SF-36 and the Rhinoconjunctivitis quality of life ( Rcq-36 ) questionnaires in Thai patients . *Journal of the World Allergy Organization* 2005 ; 17 ( 5 ) : 193-197 .
- 6) Pawankar R : Anti-IgE therapy offers promise. *J EAACI News* . *J EAACI News*. ( ed Bachert C ) 2005 ; 7 : 17-19 .
- 7) Pawankar R : Allergy an Epidemic of the 21st century . *Journal of the World Allergy Organization* 2005 ; 17 ( 5 ) : 169-169 .
- 8) Takizawa R, Pawankar R, Yamagishi S, Yagi T : Beyond immune defense : Epithelial cells as immunoregulators of airway inflammation . *Journal of the World Allergy Organization* 2005 ; 17 ( 5 ) : 203-207 .
- 9) Okuda M, Ohkubo K, Gotoh M, Okamoto Y<sup>1)</sup>, Konno A<sup>1)</sup>, Ogino S<sup>2)</sup>, Enomoto M<sup>3)</sup>, Imai T<sup>4)</sup>, So N<sup>5)</sup>,

- Ishikawa T<sup>6)</sup>, Takenaka Y<sup>7)</sup>, Mandai T<sup>8)</sup>, Crawford B<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup> Chiba U , <sup>2)</sup> Osaka U , <sup>3)</sup> Wakayama Red Cross , <sup>4)</sup> Saint Lukas , <sup>5)</sup> So clinic , <sup>6)</sup> Kumamoto U , <sup>7)</sup> Osaka Med C , <sup>8)</sup> Osaka Seijinnbyou , <sup>9)</sup> MAPPI value ): Comparative study of two Japanese rhinoconjunctivitis quality-of-life questionnaires . *Acta Otolaryngologica* 2005 ; 125 ( 10 ): 736-744 .
- 10 ) Tsunoda K<sup>1)</sup>, Ishimoto S<sup>1)</sup>, Aikawa J<sup>2)</sup>, Shinogami S<sup>2)</sup>, Murakami R<sup>3)</sup>, Saigusa H , Kondo K<sup>4)</sup>, Bitou S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Sensory Organs , <sup>2)</sup> Nissan Tamagawa Hospital , <sup>3)</sup> Dept of Radiology , <sup>4)</sup> University of Tokyo , <sup>5)</sup> National Tokyo Medical Center ): Bent ( head-down ) posture and aberrant common carotid arteries of the neck : another new risk factor for stroke ? . *Laryngoscope* 2005 ; 115 ( 11 ): 2074-2075 .
- 11 ) Hess A<sup>1)</sup>, Labbe D<sup>1)</sup>, Watanabe K , Wilhelm B<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of ENT, University of Cologne ): Evidence for an Akt-kinase/NO/cGMP pathway in the cochlea of guinea pigs . *Eur Arch Otorhinolaryngol* 2005 ; 263 ( 1 ): 75-78 .
- 12 ) Pawankar R : Mast cells in allergic airway disease and chronic rhinosinusitis . *Chem Immunol Allergy* 2005 ; 87 : 111-129 .
- 13 ) Gotoh M , Okubo K , Okuda M : Inhibitory effects of facemasks and eyeglasses on invasion of pollen particles in the nose and eyes : a clinical study . *Rhinology* 2005 ; 43 : 266-270 .
- 14 ) Robertson NG , Cremers CW , Huygen PL , Ikezono T , Krastins B , Kremer H , Kuo SF , Liberman MC , Merchant SN , Miller CE , Nadol JB , Sarracino DA , Verhagen WI , Morton CC : Cochlin immunostaining of inner ear pathologic deposits and proteomic analysis in DFNA9 deafness and vestibular dysfunction . *Hum Mol Genet* 2006 ; 15 ( 7 ): 1071-1085 .
- 15 ) Pawankar R : Allergic rhinitis and Asthma : Are they manifestations of one syndrome? Editorial . *Clin Exp Allergy* 2006 ; 36 ( 1 ): 1-4 .
- 16 ) Kato Y<sup>1)</sup>, Pawankar R , Kimura S<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, NMS ): Increased expression of Regulated on activation normal T-cell expressed and secreted, CCR3 and CCR5 in the lesional skin of patients with atopic dermatitis . *Int Archives Allergy Allergy Immunol* 2006 ; 139 ( 2 ): 245-257 .
- 17 ) Niimi Y<sup>1)</sup>, Pawankar R , Kawana S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, NMS ): The Role of Matrix Metalloproteinase-2, Matrix Metalloproteinase-9, Matrix Metalloproteinase-13 in Lesional Skin of Bullous Pemphigoid . *Int Archives Allergy Immunology* 2006 ; 139 ( 2 ): 104-113 .
- 18 ) Saigusa H , Aino I , Iwasaki C , Saigusa M<sup>1)</sup>, Niimi S<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Private practice of maxillofacial surgery, Texas , <sup>2)</sup> Dept of Speech pathology and audiology, International University of welfare and health ): M-mode color Doppler ultrasonic imaging of vertical tongue movement during articulatory movement . *Journal of Voice* 2006 ; 20 ( 2 ): 38-45 .
- 19 ) Saigusa H , Tanuma K<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Saigusa M<sup>2)</sup>, Niimi S<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Dept of Anatomy , <sup>2)</sup> Private practice of maxillofacial surgery, Texas, U. S. A. , <sup>3)</sup> Dept of Speech pathology and audiology, International university of welfare and health ): Nerve fiber analysis of the lingual nerve of the human adult subjects . *Surgical Radiologic Anatomy* 2006 ; 28 ( 1 ): 59-65 .
- 20 ) Pawankar R , Bunnag C<sup>1)</sup>, Gendeh B<sup>2)</sup>, Damayanti S<sup>3)</sup>, Cho JS<sup>4)</sup>, Vicente G<sup>5)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of ORL, Mahidol Univ, Bangkok, Thailand , <sup>2)</sup> Dept. of ORL, HUKM, KL , <sup>3)</sup> Dept. of ORL, Univ Jakarta, Jakarta, Indonesia , <sup>4)</sup> Dept. of ORL, Kyung Hee Univ, Seoul, Korea , <sup>5)</sup> Dept. of ORL, St. Lukes Hosp, Manila, Phillipines ): A retrospective Asian study on Intermittant and Persistent allergic rhinitis . *J Allergy Asthma* 2006 ; 1 : 10-15 .
- 21 ) Pawankar R : Anti-inflammatory roles of second generation antihistamines . *Current Drugs for allergic diseases* 2006 ; 5 : 12-16 .
- 22 ) Pawankar R : Anti-inflammatory effects of Anti-IgE therapy in allergic airway disease . *Allergy and Asthma*

Proceedings and News 2006 ; 3 : 1-6 .

- 23) 池園哲郎：外リンパろうの診断マーカーとしてのCochlin-Tomoprotein (CTP). 臨床検査 2005 ; 49 (11): 1259-1263 .
- 24) 池園哲郎：「末梢前庭器から前庭神経核へ-最近の知見-」1. COCH遺伝子とめまい . Equilib Res 2005 ; 64 (1): 1-11 .
- 25) 池園哲郎：聴力改善手術 7. 外リンパろう . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2005 ; 77 (5): 162-173 .
- 26) Ikezono T, Shindo S, Ishizaki M, Li L, Tomiyama S, Takumida M, Pawankar R, Watanabe A, Saito A, Yagi T : Expression of cochlin in the vestibular organ of rats . ORL 2005 ; 67 (5): 252-258 .
- 27) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のQOLについて：抗ロイコトリエン剤の有効性 . 日気食会報 2005 ; 56 (2): 194-196 .
- 28) 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>東埼玉総合病院耳鼻咽喉科 ): 鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞の特性と関連性 . 日本鼻科学会誌 2005 ; 44 (1): 93-95 .
- 29) 八木聰明：急速眼球運動の解析：ビデオ画像を用いた方法 . 都医師会雑誌 2005 ; 58 (3): 198-202 .
- 30) 横島一彦, 中溝宗永, 島田健一, 小津千佳, 相田瑞恵, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聰明：頭頸部既手術症例における遊離組織移植術の検討 . 頭頸部外科 2005 ; 15 (6): 55-60 .
- 31) 小町太郎, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治, 粉川隆行, 中村 毅：診断に苦慮した高齢発症の重症筋無力症による嚥下障害の1例 . 日本気管食道科学会会報 2005 ; 56 (3): 286-291 .
- 32) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰：鼻正常者の鼻症状 . アレルギー 2005 ; 54 (6): 551-554 .
- 33) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰, 石田祐子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本臨床アレルギー研究所): 空中スギ花粉の着衣, 皮膚への付着 . アレルギー 2005 ; 54 (6): 555-558 .
- 34) 横山有希子, 三枝英人, 八木聰明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科): 上咽頭癌照射後, 晩期に感音難聴と嚥下障害を発症した1例 . 音声言語医学 2005 ; 46 (3): 167-173 .
- 35) 三枝英人：嚥下障害診療の取り組み：嚥下障害診療の原型を求めて . 音声言語医学 2005 ; 46 (3): 196-200 .
- 36) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰, 石田祐子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本臨床アレルギー研究所): 季節前スギ花粉症の高率発症への疑問：鼻内スギ花粉数の測定から . アレルギー 2005 ; 54 (7): 636-640 .
- 37) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>東埼玉総合病院耳鼻咽喉科 ): 慢性副鼻腔炎に対するモンテルカスト内服とプロピピ酸フルチカゾン点鼻併用効果 . 耳鼻免疫アレルギー 2005 ; 23 (2): 134-134 .
- 38) 新藤 晋, 池園哲郎, 田原重志<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 経蝶形骨洞アプローチによる開放術を行った錐体先コレステリン肉芽腫の1例 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2005 ; 77 (11): 839-843 .
- 39) 長谷川恭子, 横島一彦, 中溝宗永, 島田健一, 八木聰明：妊娠中に発症した喉頭粘表皮癌の一手術症例 . 頭頸部外科 2005 ; 15 (2): 135-137 .
- 40) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 島田健一, 齋藤明彦, 小津千佳, 相田瑞恵, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明：縦隔気管孔形成手術症例での右鎖骨と第1肋骨断端連結の遠隔成績：鋼線の転帰と肩関節運動 . 頭頸部癌 2005 ; 31 (3): 465-469 .
- 41) 大久保公裕：ARIAとPG-MARJ2005 . Prog Med 2005 ; 25 (10): 2741-2747 .
- 42) 小町太郎, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治, 粉川隆行, 中村 毅：上部消化管内視鏡検査後に反回神経麻痺を来した1例 . 喉頭 2005 ; 17 (2): 106-209 .
- 43) 三枝英人：嚥下の仕組み：直立とヒトの嚥下との関係についての形態学的考察 . JOHNS 2005 ; 21 (12): 1718-1724 .
- 44) 今井 透<sup>1)</sup>, 藤倉輝道<sup>2)</sup>, 新井寧子<sup>2)</sup>, 余田敬子<sup>2)</sup>, 北嶋 整<sup>2)</sup>, 相田瑞恵, 小津千佳, 酒主敦子, 大久保公裕, 森山 寛<sup>3)</sup>, 遠藤朝彦<sup>3)</sup>, 宇井直也<sup>3)</sup>, 吉村 剛<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>聖路加, <sup>2)</sup>女子医大東医療センター, <sup>3)</sup>慈恵医大):

2005年のスギ花粉症に対するラマトロバンと抗ヒスタミン薬の併用効果：QOL調査．耳鼻咽喉科展望 2005；48(6)：427-438．

- 45) 山本輝郎<sup>1)</sup>，三枝英人，高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院外科学第1，<sup>2)</sup>同院長)：栄養摂取調査からみた栄養サポートチームの必要性．日医大医学会誌 2006；2：32-35．
- 46) 三枝英人：急性の呼吸困難を伴う喉頭疾患とその治療：喉頭の4つの特殊性．東京都耳鼻咽喉科医会雑誌 2006；119：61-68．
- 47) 三枝英人：喉頭外傷と嚔声・失声．JOHNS 2006；22(4)：561-566．

(2) 綜説：

- 1) Pawankar R：Allergic Rhinitis and asthma from epidemiology to treatment．Progress in Medicine 2005；4：233-244．
- 2) Pawankar R：Rhinitis Asthma and Sinusitis in the 21st century. Horizons Section．Journal of the World Allergy Organization 2005；11：215-217．
- 3) Pawankar R：Allergy an Epidemic of the 21st century. Editorial．Journal of the World Allergy Organization 2005；5：203-207．
- 4) 後藤 穰，大久保公裕：アレルギー性鼻炎のかゆみの成因と治療．アレルギー科 2005；19(4)：360-364．
- 5) 八木聰明：聴力改善手術-乳突充填術．耳喉頭頸 2005；77(5)：105-111．
- 6) 八木聰明：補聴器適合検査施設基準とその許可．耳喉頭頸 2005；77(7)：441-445．
- 7) 大久保公裕：花粉症．日本臨床 2005；63(増刊5)：145-150．
- 8) 馬場俊吉：真珠腫性中耳炎 open then closed法．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2005；77(5)：99-103．
- 9) 馬場俊吉：耳鳴治療の最前線 3．プロスタグランジン．ENT 2005；49：51-54．
- 10) Pawankar R：Treatment approaches for the Combined Allergy Asthma Syndrome．Allergy from the Nose to the Lung 2005；3(3)：11-16．
- 11) 三枝英人：小児における胃食道逆流症による耳鼻咽喉科的疾患：その成長形態学的考察．小児科 2005；46(9)：1505-1514．
- 12) 後藤 穰：多因子疾患としてのアレルギーとその予防の戦略．アレルギー科 2005；20(2)：130-137．
- 13) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎．JOHNS 2005；21(9)：1287-1290．
- 14) 青木秀治：特集・めまい薬の上手な使い方：めまいを伴う突発性難聴．Monthly Book ENTONI 2005；(53)：109-112．
- 15) 馬場俊吉：耳鳴の診断と最新の治療 1．千葉県医師会雑誌 2005；57：28-28．
- 16) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の近未来の治療戦略．Q&Aでわかるアレルギー疾患 2005；1(3)：238-239．
- 17) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎(花粉症)に対する鼻噴霧用ステロイド薬治療のEBM．アレルギーの臨床 2005；25(11)：871-875．
- 18) 大久保公裕：新しい薬剤開発の動向．MB ENT 2005；57(12)：58-63．
- 19) 大久保公裕：花粉症に対する抗IgE抗体療法．Medical Science Digest 2005；31(13)：527-529．
- 20) 後藤 穰：抗アレルギー薬のQOLの評価．ENTONI 2005；57：40-47．
- 21) 後藤 穰：花粉症の点鼻薬．Q&Aでわかるアレルギー疾患 2005；1(3)：265-267．
- 22) 大久保公裕，奥田 稔：花粉症を含むアレルギー性鼻炎の疫学．アレルギーの臨床 2006；26(1)：23-26．
- 23) Pawankar R：Allergy in a changing world. WAO highlights．Allergy from the Nose to the Lung 2006；16-18．
- 24) 後藤 穰：スギ花粉症に対するアレルゲン特異的免疫療法の現状と問題点．アレルギー科 2006；21(1)：13-21．
- 25) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎・花粉症．医学と薬学 2006；55(2)：177-182．
- 26) 大久保公裕：スギ花粉症の舌下免疫療法．感染症免疫 2006；35(2)：162-163．

- 27) 大久保公裕：スギ花粉症の薬物療法のポイント．PTM 2006；12(1)．
- 28) 後藤 穰：免疫療法の進歩とエビデンス．アレルギーの臨床 2006；26(342)：124-128．
- 29) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎の治療．レジデントノート 2006；7(11)：1547-1550．
- 30) 後藤 穰：レーザー治療の効果と注意点．治療 2006；88(2)：301-306．
- 31) 大久保公裕：免疫療法の実際2.花粉症・アレルギー性鼻炎．アレルギーの臨床 2006；26(3)：194-200．
- 32) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のQOL．東京都医師会雑誌 2006；59(3)：11-16．
- 33) 後藤 穰：小児花粉症患者の治療．アレルギーの臨床 2006；26(343)：247-248．
- 34) 馬場俊吉：突発性難聴と平衡機能．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006；78(3)：219-224．
- (3) 症例報告：
- 1) Gotoh M, Okubo K：Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis．Allergology International 2005；54：167-171．
- 2) 横山有希子<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>2)</sup>，八木聡明<sup>2)</sup>，新美成二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科，<sup>3)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科)：上咽頭癌照射後，晩期に感音難聴と嚥下障害を発症した1例．音声言語学会 2005；46(3)：167-173．
- 3) 酒主敦子，野中 学，福元 晃，Pawankar R，荻原 望，八木聡明：抗ロイコトリエン薬(Montelukast)が著効した慢性副鼻腔炎症例．アレルギーの臨床 2005；25(8)：646-650．
- (4) 翻訳：
- 1) 後藤 穰：花粉由来の脂質メディエーターによるヒト末梢血好酸球の遊走と活性化．鼻アレルギーフロンティア 2005；5(1)：32-33．
- 2) 後藤 穰：皮膚テストと誘発検査で診断した交差反応性のある食物アレルギーに対するカバノキ花粉免疫療法の効果．鼻アレルギーフロンティア 2005；5(2)：24-25．
- 3) 後藤 穰：間欠性鼻炎における神経ペプチド陽性線維の変化．アレルギーと神経ペプチド 2006；2：20-21．
- 4) 後藤 穰：グルココルチコイドは慢性気道炎症モデルにおけるブラディキニン受容体の発現を増強を抑制する．アレルギーと神経ペプチド 2006；2：22-23．
- (5) 研究報告書：
- 1) 李 麗淑，池園哲郎，新藤 晋，八木聡明，渡邊 淳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2)：COCH遺伝子の発現特異性．厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成16年度報告書 2005；pp35-36．
- 2) 池園哲郎，新藤 晋，李 麗淑，松田 帆，小泉康雄，齋藤明彦，馬場俊吉，八木聡明：慢性外リンパ瘻．厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成16年度報告書 2005；pp37-38．
- 3) 池園哲郎，小川千鶴子，酒主敦子，小泉康雄，新藤 晋，八木聡明：めまい及び随伴症状に対するカリジノゲナーゼとアデノシン三リン酸二ナトリウムの治療効果比較．厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成16年度報告書 2005；pp39-41．
- 4) 池園哲郎：内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発・治療指針の作成．厚生労働科学研究費補助金 感覚器障害研究事業 平成16年度報告書 2005；pp1-6．

## 著 書

- 1) Pawankar R：〔分担〕Allergic rhinitis：Inflammatory mechanisms．In Mold Allergy and pathogenesis．(VP Kurup．)，2005；pp1-17，Research Signpost．Trivandrum．
- 2) Pawankar R，Bunnag C：〔分担〕Asthma and allergic rhinitis．A Handbook for patients，2005；pp1-14，Medical Publisher，Bangkok．

- 3) Pawankar R, Tam A : [ 分担 ] A practical guide on AR and comorbid Asthma . Principles on AR and asthma , 2005 ; pp1-17 , Int. Med. Pub Hong Kong .
- 4) Pawankar R, Lee BW : [ 分担 ] You, your body and allergic rhinitis . A Handbook for patients , 2005 ; pp1-10 , Singapore Med Pub Singapore .
- 5) Pawankar R, Hs P, Js Cho : [ 分担 ] A knowledge guide on allergic rhinitis and asthma diagnosis and management . Update on AR and asthma for patients , 2006 ; pp1-16 , Med. Publishers, Seoul .
- 6) Pawankar R : [ 分担 ] Recent advances in the Management of AR and co-morbid asthma . Allergy Asthma Update , 2006 ; pp24-32 , Mrittika Int .
- 7) Pawankar R, Nonaka M, Aida M : [ 分担 ] Role of mast cells in chronic rhinosinusitis . Update on Rhinosinusitis ( V. Santhana & T. Vishwanathan. ) , 2006 ; pp28-36 , Creative International .
- 8) Pawankar R : [ 分担 ] Future perspectives of AR treatment . Current Drugs and future therapy for allergic disease ( S. Abbas and C. Gupta ) , 2006 ; pp5-12 , Medical International .
- 9) Pawankar R : [ 分担 ] Objective assessment of allergic rhinitis . In : Frontiers of CRD ( S. Joshi & C. Ravindran ) , 2006 ; pp36-44 , Mrittika Int .
- 10) Pawankar R, JL Huang : [ 分担 ] A practical guide for patients with allergic rhinitis and concomitant asthma . Patient guide on AR , 2006 ; pp1-16 , G-Med. Int. Taipei .
- 11) Pawankar R, Adachi M, Saito H : [ 分担 ] 喘息とアレルギー性鼻炎の患者さんのため．喘息とアレルギー性鼻炎の関連 , 2005 ; pp1-18 , Excerpta Medica .
- 12) 池園哲郎 : [ 分担 ] メニエール病と外リンパ瘻 内耳窓閉鎖術で改善する慢性外リンパ瘻を見逃さないために．めまい診療のコツと落とし穴 , 2005 ; pp30-31 , 中山書店 .
- 13) 野中 学 : [ 自著 ] 上気道から下気道までの気道粘膜 : 耳鼻咽喉科の立場から . 気道をめぐる疾患群 , 2005 ; pp1-5 , CMCジャパン .
- 14) 馬場俊吉 : [ 分担 ] Approach Series ' 05 耳鼻咽喉科 . 耳鼻咽喉科 ( 馬場俊吉 ) , 2005 ; 医学評論社 .
- 15) 馬場俊吉 : [ 分担 ] 再現医師国家試験問題解説書 一般/臨床編 . 再現医師国家試験問題解説書 , 2005 ; 医学評論社 .
- 16) 馬場俊吉 : [ 分担 ] 耳鼻咽喉科 . 耳鼻咽喉科 ( 馬場俊吉 ) , 2005 ; 医学評論社 .
- 17) 野中 学, 黒野祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鹿兒島大学耳鼻咽喉科) : [ 自著 ] 鼻茸の成因と機序 . 副鼻腔炎 , 2005 ; pp1-3 , エルゼビアジャパン .
- 18) 池園哲郎 : [ 分担 ] 良性発作性頭めまい症 . 診療アップデート ( 日経メディカル ) , 2005 ; pp132-135 , 日経BP社 .
- 19) 大久保公裕 : [ 分担 ] 第2章 , 免疫 . 病気が分かるからだのビジュアル百科 ( 服部光男 , 岡島重孝 ) , 2005 ; pp47-60 , 小学館 .
- 20) 大久保公裕 : [ 分担 ] 第5章 , 感覚器 . 病気が分かるからだのビジュアル百科 ( 服部光男 , 岡島重孝 ) , 2005 ; pp251-276 , 小学館 .
- 21) 馬場俊吉 : [ 分担 ] 耳鼻咽喉口腔系 . 1CBT こあかり オリエンテーション ( 安田幸雄 松田重之 ) , 2005 ; pp301-310 , 医学評論社 .
- 22) 馬場俊吉 : [ 分担 ] 2. CBT こあかり シュミレーション . シュミレーション , 2005 ; 医学評論社 .
- 23) 野中 学, 福元 晃, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明 : [ 自著 ] 鼻副鼻腔と下気道疾患における線維芽細胞の特性と関連性 . アレルギー科 , 2005 ; pp275-280 , 科学評論社 .
- 24) 三枝英人 : [ 分担 ] 音声障害 . 今日の治療指針 ( 山口 徹 , 北原光夫 ) , 2006 ; pp1080-1080 , 医学書院 .
- 25) 渡邊健一 : [ 分担 ] 外耳炎 ( 外耳道湿疹を含む ) . 今日の治療指針 私はこう治療している ( 山口 徹 ) , 2006 ; pp1052-1053 , 医学書院 .

- 26) 馬場俊吉：〔分担〕真珠腫性中耳炎．今日の治療指針 2006，2006；pp1057-1057，医学書院．
- 27) 中溝宗永，横島一彦：〔分担〕2．舌癌の手術 5) 舌前1/2切除と再建．イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科頭頸部外科 咽喉頭頸部編 (村上 泰)，2006；pp18-19，東京医学社．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Pawankar R, Scadding G : Update on Rhinitis treatment : Meet the Expert . 19th Congress of the World Allergy Organization and 24th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology ( Munich ), 2005 . 6 .
- 2) Pawankar R : Recent advances in management of AR and asthma . Pakistan Medical Association Seminar ( Dubai ), 2005 . 7 .
- 3) Pawankar R : Update on the management of AR and co-morbid asrthma . 10th Annual Cong of Malaysian Thoracic Society ( Kuala Lumpur ), 2005 . 7 .
- 4) Pawankar R : Can treating AR improve asthma and how? . Hong Kong College of Allergy ( Hong Kong ), 2005 . 11 .
- 5) Pawankar R : ARIA Update : Recent evidences on treating AR and asthma . Allergy Symposium : Thai Allergy Society ( Bangkok, Thailand ), 2005 . 11 .
- 6) Pawankar R : Recent advances in the treatment of AR and co-morbid asthma . 10th Annual Congress of Korean Physicians ( Seoul ), 2005 . 11 .
- 7) Pawankar R : Recent advances on the management of allergic rhinitis and co-morbid asthma : The ARIA Update . 10th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology ( Guangzhou ), 2005 . 11 .
- 8) Pawankar R : Advances in the management of AR and asthma management . 10th Annual Congress of Korean Geriatrics and Physicians ( Seoul ), 2005 . 11 .
- 9) Pawankar R : Recent advances in the management of treating AR with co-morbid asthma : The WHO ARIA guidelines . Allergy Symposium of the Hong Kong Society of Pulmonologists ( Hong Kong ), 2005 . 11 .
- 10) Pawankar R : Immunotherapy in the treatment of AR and asthma . Allergy Update Seminar ( Mumbai, India ), 2005 . 12 .
- 11) Pawankar R : Diagnosis and Management of Non-allergic rhinitis . 15th ENT Seminar South Zone ( Kochi, India ), 2005 . 12 .
- 12) Pawankar R : An Update on the pathogenesis and management of Rhinosinusitis . ENT Seminar. Mumbai ENT Association ( Mumbai, India ), 2005 . 12 .
- 13) Pawankar R : Leukotrienes in AR and asthma : What do the guidelines say . 10th Annual Congress of Taiwan Society of Pulmonologists ( Taipei ), 2005 . 12 .
- 14) Pawankar R : Allergy Symp, Singapore ; Advances in AR and co-morbid asdthma management . Singapore Medical Association Seminar ( Singapore ), 2005 . 12 .
- 15) Pawankar R : Updating treatment guidelines : ARIA update . Singapore Allergy Society Seminar ( Singapore ), 2005 . 12 .
- 16) Pawankar R : Treating AR an important aspect of asthma management . Singapore Society of Pulmonologists Seminar ( Singapore ), 2005 . 12 .
- 17) Pawankar R : Recent Advances in the assessment and treatment of AR and asthma . Allergy Symposium of the Brunei Chest Society ( Brunei ), 2005 . 12 .
- 18) Pawankar R : Leuokotrienes in AR and asthma : what do the guidelines say? . Allergy Symposium.



- Malaysian Thoracic Society ( Malaysia ), 2005 . 12 .
- 19) Pawankar R : Allergy a systemic disease ; From pathomechanisms to treatment strategies . 4th International Heart Lung Conference APCC ( Mumbai, India ), 2006 . 1 .
  - 20) Pawankar R : Advances in the management of AR and co-morbid asthma . Indian Academy of Allergy 10th Symposium on Allergy ( Bangalore, India ), 2006 . 1 .
  - 21) 三枝英人 : GERD による咽喉頭症状 : その形態学的考察 . 第 1 回札幌 LPRD 研究会 , 2005 . 7 .
  - 22) 三枝英人 : 嚥下障害の診断と治療 . 調布市医師会学術講演会 , 2005 . 9 .
  - 23) 三枝英人 : 急性の呼吸困難を伴う喉頭疾患とその治療 . 東京都耳鼻咽喉科医学会学術講演会 , 2005 . 9 .
  - 24) 三枝英人 : LPRD の発症と漢方治療 . 第 19 回愛知東洋医学研究会 , 2006 . 2 .
  - 25) 池園哲郎 : 手術で良くなる感音難聴 : その新しい診断法 . 平成 17 年度第 2 回慶耳会学術講演会 , 2006 . 2 .
  - 26) 青木秀治 : 鼓室形成術のインフォームドコンセント ( 耳鼻咽喉科領域の最近の話題 ) . 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会学術集会 , 2006 . 2 .
  - 27) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎の免疫療法 . 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 , 2006 . 2 .
  - 28) 島田健一 : 鼻汁好酸球検査および RAST ・ RIST 検査の実際と意義 . 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 , 2006 . 2 .
  - 29) 三枝英人 : 舌筋の解剖学的研究 . 第 16 回名古屋嚥下懇話会 , 2006 . 3 .
  - 30) 後藤 穰 : スギ花粉症治療の最新の話 . 富山県耳鼻咽喉科臨床研究会 , 2006 . 3 .
- ( 2 ) 招待講演 :
- 1) Pawankar R : International Consensus on Rhinosinusitis . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 2) 横島一彦 , 中溝宗永 : 頭頸部癌の臨床 根治性と QOL のバランスを考えた治療戦略 . 第 2 回東京女子医科大学第二病院耳鼻咽喉科地域医療研究会 , 2005 . 6 .
  - 3) 横島一彦 , 中溝宗永 : 頭頸部癌手術のリスクファクター 循環器疾患 . 第 36 回頭頸部癌治療カンファレンス , 2006 . 3 .
- ( 3 ) 教育講演 :
- 1) Pawankar R , Lee KH , Nonaka M , Yamagishi S : Mast cells in chronic rhinosinusitis . 11th Cong of International Rhinology Society ( Sydney, Australia ), 2005 . 10 .
  - 2) Pawankar R : Early Immune influences in allergic airway disease. .Pune Pediatric Symposium( Pune, India ), 2005 . 12 .
  - 3) Pawankar R : Immunomodulation in the treatment of allergic airway disease. . Pune Chest Seminar ( Pune, India ), 2005 . 12 .
  - 4) 青木秀治 : 内科診療に役立つめまいの診療 . 江戸川区医師会内科系臨床研究会 , 2005 . 4 .
  - 5) 馬場俊吉 : めまいの臨床について . 鎌ヶ谷医師会学術集会 , 2005 . 5 .
  - 6) 大久保公裕 : アレルギー疾患における抗ヒスタミン薬の使用法 ( 耳鼻咽喉科の立場から ) . 第 55 回日本アレルギー学会 , 2005 . 10 .
  - 7) 後藤 穰 : 花粉症治療の新たな展開 . 日耳鼻千葉地方部会 ・ 千葉県耳鼻咽喉科医学会学術講演会 , 2005 . 10 .
- ( 4 ) シンポジウム :
- 1) Pawankar R , G Scadding : Current and future treatment of Allergic Rhinitis . 19th Congress of the World Allergy Organization and 24th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology ( Munich, Germany ), 2005 . 6 .
  - 2) Pawankar R , Ozu C , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Novel therapies for Rhinitis . 19th Congress of the World Allergy Organization and 24th Congress of the European Academy of Allergy Asthma

- and Clinical Immunology ( Munich, Germany ), 2005 . 6 .
- 3) Pawankar R : Updating Treatment guidelines : A Report from ARIA. . 19th Congress of the World Allergy Organization and 24th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology ( Munich, ), 2005 . 6 .
  - 4) Pawankar R , Takizawa R , Ozu C , Nonaka M , Yamagishi S : Future therapies for allergic rhinitis. . 18th Congress of the International Federation of Otolaryngological Societies ( IFOS )( Rome, Italy ), 2005 . 6 .
  - 5) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Yagi T : Treatment of allergic rhinitis and co-morbid asthma : ISBAAR symposium . 18th Congress of the International Federation of Otolaryngological Societies ( IFOS ) ( Rome, Italy ), 2005 . 6 .
  - 6) Pawankar R , Nonaka M , Yamagishi S , Yokoyama Y , Yagi T : Low dose long term macrolide therapy in the management of nasal polyposis and chronic rhinosinusitis . 18th Congress of the International Federation of Otolaryngological Societies ( IFOS )( Rome, Italy ), 2005 . 6 .
  - 7) Pawankar R : Evidence based treatment for allergic rhinitis. . 11th ASEAN ORL ( Bali , Indonesia ), 2005 . 9 .
  - 8) Pawankar R : Safety and indications for Intranasal steroids in allergic rhinitis and rhinosinusitis. . 11th ASEAN ORL ( Bali , Indonesia ), 2005 . 9 .
  - 9) Pawankar R : ARIA Update : Plenary session . 11th Cong of International Rhinology Society ( Sydney , Australia ), 2005 . 10 .
  - 10) Pawankar R , Aida M , Yokoyama Y , Mori S , Ozu C : Gamma delta T cells in allergic airway disease. . 4th European Asthma Congress ( Athens, Greece ), 2005 . 10 .
  - 11) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Ozu C : Role of cystenyl leukotrienes in AR and asthma. . 4th European Asthma Congress ( Athens, Greece ), 2005 . 10 .
  - 12) Pawankar R : International Consensus on Rhinosinusitis . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 13) Pawankar R : Evidence based treatment of AR : ARIA . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 14) Pawankar R , Takizawa R , Ozu C , Yamagishi S , Nonaka M : Indications and safety of intranasal corticosteroids . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 15) Pawankar R , Mori S , Takizawa R , Yamagishi S , Ozu C : Matrix metalloproteinases in allergic airway disease . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 16) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S : Anti-IgE treatment in AR and asthma. . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 17) Pawankar R , Nonaka M , Lee Kh , Yamagishi S , Aida M : Update on the pathomechanisms of nasal polyps . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 18) Pawankar R : Can treating AR prevent asthma? . 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
  - 19) Pawankar R : Non-Allergic Rhinitis : The Big Enigma. . 62nd American Academy of Allergy Asthma and Immunology ( Miami, USA ), 2006 . 3 .
  - 20) 大久保公裕 : 生物製剤 ( 抗 IgE を中心に ) . 第 17 回日本アレルギー学会春季臨床大会 , 2005 . 4 .
  - 21) Pawankar R : International Consensus on Rhinosinusitis : Allergic Rhinosinusitis : Is it an entity? . 第 44 回日本鼻科学会 , 2005 . 9 .
  - 22) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 島田健一 , 奥田 稔 : 花粉症に対する舌下免疫療法・液剤 ( 耳鼻咽喉科領域における免疫寛容・減感作療法の最前線 ) . 第 55 回日本アレルギー学会総会 , 2005 . 10 .

(5) パネルディスカッション :

- 1) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の新しい免疫療法 . 第44回日本鼻科学会 , 2005 . 9 .

(6) セミナー :

- 1) 後藤 穰 : 鼻アレルギーの治療戦略 ロイコロリエン受容体拮抗薬を中心に . 千葉アレルギー・ロイコトリエン研究会2005 , 2005 . 6 .
- 2) 渡邊健一 : 内耳とアポトーシス . 第14回日本耳科学会総会 , 2005 . 10 .
- 3) 三枝英人 : ヒト舌の前後運動についての機能解剖学的及び機能生理学的研究 . 第28回三大学セミナー , 2005 . 12 .
- 4) 後藤 穰 : スギ花粉症における初期療法の検証 . 第7回 Nasal Allergy Meeting 学術集会 , 2005 . 12 .
- 5) 後藤 穰 : 早めの花粉症対策について . 日本アレルギー協会関東支部千葉ブロック東地区 市民公開講座 , 2006 . 2 .

(7) ワークショップ :

- 1) Pawankar R : Allergens in Asia . Pre-Congress Allergy Workshop, 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
- 2) Pawankar R : Managing AR with co-morbid asthma . Pre-Congress Allergy Workshop, 10th Asian Research Symposium in Rhinology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2005 . 12 .
- 3) 三枝英人 , 中村 毅 , 愛野威一郎 , 松岡智治 , 小町太郎 , 粉川隆行 : 小児におけるGERDによる急性喉頭狭窄例について . 第57回日本気管食道科学会総会 , 2005 . 11 .

(8) 一般講演 :

- 1) Kazuhiko Y , Munenaga N : Free tissue transfer for reconstruction in secondary surgery of the head and neck . The 1st. Nippon Medical School - Seoul National University joint meeting in ORL-HNS ( Tokyo ), 2005 . 6 .
- 2) Yagi T : Round Table Discussion “ Instrument Vestibular Testing ” . The 18th IFOS World Congress ( Rome ), 2005 . 6 .
- 3) Ikezono T : Inner Ear Proteomics and its Application as a Novel diagnostic test for PLF -Impact on the treatment of inner ear diseases . Nippon Medical School-Soul National University Joint Meeting ( Tokyo, Japan ), 2005 . 6 .
- 4) Okubo K , Gotoh M , Okuda M : Epinastine hydrochloride protects the nasal reactivity by provocation tests with Japanese cedar pollen allergen better than placebo and fexofenadine hydrochloride . 19th World Allergy Congress ( Munch ), 2005 . 6 .
- 5) Erka V , Pawankar R : Impact of concomitant allergic rhinitis and asthma on patient health and Quality of life : Results of an International Survey. . 19th Congress of the World Allergy Organization and 24th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology. ( Munich, Germany ), 2005 . 6 .
- 6) Watanabe K , Asoh S<sup>1)</sup> , Yamagata T<sup>1)</sup> , Yagi T , Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Biochem. Cell Biol. , Inst. Dev. Aging Sci. , Grad. Sch. Med. Nippon Med. Sch. ) : The protein therapy using super anti-apoptotic FNK decreases cisplatin-induced hearing loss . 42th Work shop on inner ear biology ( Tuebingen, Germany ), 2005 . 9 .
- 7) Yagi T : Symposium “ Vertigo, recent progress of evaluation . The 25th Politzer Society Meeting ( Seoul ), 2005 . 10 .
- 8) Nonaka M , Ogihara N , Pawankar R , Fukumoto A<sup>1)</sup> , Sakanushi A , Yagi T ( <sup>1)</sup> 東埼玉総合病院 耳鼻咽喉科 ) : The expression of CC-chemokines ( RANTES, MCP-4 ) by TLR ligands-stimulated nasal polyp fibroblasts . 11th Congress of the international Rhinologic Society ( Sydney ), 2005 . 11 .
- 9) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 島田健一 , 奥田 稔 : スギ花粉症に対する舌下免疫療法 . 第24回耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 2006 . 3 .

- 10) 愛野威一郎, 三枝英人: 舌癌術後等の咽頭への送り込み障害に対する摂食補助具の更なる工夫. 第15回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2005. 4.
- 11) 三枝英人, 愛野威一郎, 小町太郎, 大久保公裕: 気管切開管理下にある患者に対する人工喉頭の開発. 第15回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2005. 4.
- 12) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰: 季節前スギ花粉症の発症. 第17回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2005. 4.
- 13) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 相田瑞恵, 杉崎一樹, 後藤裕一, 馬場俊吉, 八木聰明: 頭部外傷と内耳障害. 第106回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2005. 5.
- 14) 荻原 望, 野中 学, Pawankar R, 福元 晃<sup>1)</sup>, 酒主敦子, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>東埼玉総合病院 ): 種々の病原由来物質による鼻茸線維芽細胞からのRANTES産生. 第106回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2005. 5.
- 15) 横島一彦, 中溝宗永, 島田健一, 小津千佳, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聰明: 頸部既手術症例における再建材料の選択. 日本頭頸部癌学会, 2005. 6.
- 16) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 松田 帆, 小泉康雄, 齋藤明彦, 馬場俊吉, 八木聰明: 本当にメニエール病か 慢性外リンパ瘻との鑑別診断. 第2回東京メニエール病カンファレンス, 2005. 6.
- 17) 島田健一, 横島一彦, 中溝宗永, 八木聰明: 喉頭癌stageIVの検討. 第29回頭頸部癌学会, 2005. 6.
- 18) 中村 毅, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治: 一側声帯麻痺を来したKennedy-Alter-Sung症候群の1例. 第167回日耳鼻東京都地方部会学術講演会, 2005. 7.
- 19) 福元 晃<sup>1)</sup>, 野中 学, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>東埼玉総合病院耳鼻咽喉科 ): Toll like receptor (TLR) リガンドとIL-4刺激による鼻茸線維芽細胞からのTARC産生. 第44回日本鼻科学会総会, 2005. 9.
- 20) 三枝英人, 中溝宗永, 中村 毅, 愛野威一郎, 松岡智治: 放射線晩期合併症による進行性嚥下障害に対して桂枝人参湯が有効であった1例. 第21回耳鼻咽喉科漢方研究会, 2005. 10.
- 21) 三枝英人, 田沼久美子<sup>1)</sup>, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 新美成二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2, <sup>2)</sup>帝京大学解剖学教室, <sup>3)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科 ): 舌下神経と迷走神経の吻合についての神経線維解析的研究. 第50回日本音声言語医学会総会, 2005. 10.
- 22) 滝沢竜太, Pawankar R, Garofalo R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>テキサス大学医学部小児科 ): RSウイルス感染アレルギーマウスの病状と気道における炎症性遺伝子発現の検討. 第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2005. 10.
- 23) 今井 透<sup>1)</sup>, 大久保公裕, 藤倉輝道<sup>2)</sup>, 相田瑞恵, 小津千佳, 酒主敦子, 遠藤朝彦<sup>3)</sup>, 宇井直也<sup>3)</sup>, 吉村 剛<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>聖路加, <sup>2)</sup>女子医大東医療センター, <sup>3)</sup>慈恵医大 ): 2005年のスギ花粉症に対するラマトロバンと抗ヒスタミン薬の併用効果. 第55回日本アレルギー学会, 2005. 10.
- 24) 渡邊健一, 麻生定光<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 八木聰明, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>大学院加齢科学・細胞生物 ): 細胞死抑制活性強化蛋白質FNKは抗癌剤シスプラチン副作用による聴覚障害を抑制する. 第78回日本生化学会大会, 2005. 10.
- 25) 新藤 晋: 発生過程におけるCochlin発現の検討 ウェスタンブロッティングを用いて. 第64回日本めまい平衡医学会総会, 2005. 11.
- 26) 愛野威一郎, 三枝英人, 中村 毅, 松岡智治, 小町太郎, 粉川隆行: 機能性喘鳴および発声障害を来した1例. 第57回日本気管食道科学会総会, 2005. 11.
- 27) 中村 毅, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治, 小町太郎, 粉川隆行: 吸入抗コリン薬(チオトロピウム)による喉頭乾燥症の1例. 第57回日本気管食道科学会総会, 2005. 11.
- 28) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 関根久遠, 八木聰明: CTP検出法を臨床検査として確立するためのクオリティーコントロール. 第63回日本平衡神経科学会総会, 2005. 11.
- 29) 新藤 晋, 池園哲郎, 李 麗淑, 八木聰明: 発生過程におけるCochlin発現の検討: ウェスタンブロッティングを用いて. 第63回日本平衡神経科学会総会, 2005. 11.
- 30) 加藤政利, 野原秀明, 緒方たつ子, 斉藤公一, 本間 博, 新藤 晋, 池園哲郎, 八木聰明: エアーカロリック

テストの検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

- 31) 中溝宗永，横島一彦，粉川隆行，小津千佳，三枝英人，八木聰明，宮下次廣<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 下咽頭癌 T1, T2 症例の検討．第57回日本気管食道科学会，2005．11．
- 32) 関根久遠，三枝英人，小津千佳，空野恵理子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念病院耳鼻咽喉科): ラリンジアル・マスク麻酔下に摘出した乳児喉頭異物の1例．小児耳鼻咽喉科研究会，2005．12．
- 33) 横島一彦，中溝宗永，小津千佳，稲井俊太，島田健一，酒主敦子，斉藤明彦，粉川隆行，八木聰明: 下咽頭喉頭全摘術における副甲状腺機能温存．第16回日本頭頸部外科学会，2006．1．
- 34) 中溝宗永，横島一彦，粉川隆行，島田健一，齋藤明彦，小津千佳，稲井俊太，酒主敦子，相田瑞恵，八木聰明: 下咽頭癌 T3, T4 症例における再発・死因の検討．第16回日本頭頸部外科学会，2006．1．
- 35) 斉藤明彦，中溝宗永，横島一彦，小津千佳，稲井俊太，酒主敦子，八木聰明: 舌根癌に対する喉頭温存手術．第16回日本頭頸部外科学会，2006．1．
- 36) 島田健一，中溝宗永，横島一彦，小津千佳，稲井俊太，酒主敦子，斉藤明彦，粉川隆行，八木聰明: 早期声門癌放射線治療の救済手術．第16回日本頭頸部外科学会，2006．1．
- 37) 荻原 望，斉藤明彦，豊田雅基，野中 学，富山俊一: 両側上顎洞に発生した未分化癌の1例．日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，2006．1．
- 38) 松田 帆，後藤 穰，島田健一，横山有希子，酒主敦子，馬場俊吉: 進行性感音難聴と顔面神経麻痺で発症した髄膜癌腫瘍の1症例．日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会，2006．1．
- 39) 中村 毅，三枝英人，愛野威一郎，粉川隆行，小町太郎: 舌前後運動の嚥下時の体位による筋活動の変化．第29回日本嚥下医学会，2006．2．
- 40) 三枝英人，田沼久美子<sup>1)</sup>，田沼 裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2，<sup>2)</sup>帝京大学解剖学教室): ヒト咽頭筋: 上部食道筋の神経線維解析的研究．第29回日本嚥下医学会，2006．2．
- 41) 三枝英人，田沼久美子<sup>1)</sup>，田沼 裕<sup>2)</sup>，浅川光夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2，<sup>2)</sup>帝京大学解剖学教室): ヒト咽頭筋，食道上部筋層の神経支配についての研究．第111回日本解剖学会総会，2006．3．

(9) Round table discussion :

- 1) Ikezono T : "Treatment of Meniere's Disease" The importance of differential diagnosis of Meniere's disease, especially versus PLF . The 18th World Congress of the International Federation of Otorhinolaryngological Societies (IFOS)(Rome, Italy), 2005 . 6 .

## 15．泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

##### 臨床研究

1. 従来開腹でおこなっていた手術の全てを腹腔鏡下手術で行っている．特に，前立腺癌全摘の腹腔鏡下手術は本邦で先端をいっており，開腹術と比較した検討を行っている．
2. 前立腺癌診断においては，前立腺特異抗原（PSA）およびその関連パラメーターによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断に関する研究のみならず，超音波パワードブラ法，超音波 Fusion 3D 法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている．
3. 前立腺癌全摘除術から得られた前立腺癌の全割全包埋標本を作製し，領域別癌の好発部位，進展形式を解析し臨床応用している．
4. 局所進行性前立腺癌に対しては，術前ホルモン化学療法を行い，根治の可能性を模索している．
5. 膀胱癌，上皮尿路腫瘍，腎癌の治療においては，特に，quality of life (QOL) を重視し，最先端技術を駆使し臓器温存を行っている．浸潤性膀胱癌に対しては，抗癌剤の動注化学療法や，さらに，放射線医学講座・隈崎教授との共同研究として行っている「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている．小径腎細胞癌に対しては，腹腔鏡下腎部分切除術により，低侵襲に腎温存を行っている．
6. perfusion CT を世界に先駆け腎癌組織型の術前鑑別診断に対し応用している．
7. 男性学にも力を入れており，勃起機能検査，薬物療法，男性更年期に関する研究を行っている．

##### 基礎研究

1. 癌の「低酸素応答」について，泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究．
2. 生体内微量金属メタロチオネインと抗癌剤耐性および腎機能保護の研究．
3. 老人病研究所分子生物学部門ご指導のもと，「膀胱癌，前立腺癌における染色体・遺伝子異常の解明」に関する研究．
4. 前立腺炎に対する免疫組織学的研究．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Uchikoba T, Horiuchi K, Oka F, Sato M, Tsuboi N, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Nishimura T ( <sup>1)</sup> Dept. Pathology, Nippon Med. Sch. Hokuso Hospital ): Diagnosing the location of carcinoma in situ ( CIS ) of the urinary bladder using pirarubicin hydrochloride . Urologia internationalis 2005 ; 74 ( 4 ): 235-239 .
- 2) Uchikoba T, Horiuchi K, Satoh M, Oka F, Saitoh Y, Tsuboi N, Nishimura T : Urethral stent ( Angiomed-Memotherm ) implantation in high-risk patients with urinary retention . Acta Urol. Jpn. 2005 ; 51 ( 4 ): 235-239 .
- 3) Kiriya I, Kimura G, Kondo Y, Saito Y, Kimata R, Suzuki Y, Nishimura T : Luteinizing hormone-releasing hormone agonist monotherapy for prostate cancer : outcome and prognostic factors . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ): 89-95 .
- 4) Kondo Y, Hamada J, Kobayashi C, Nakamura R, Suzuki Y, Kimata R, Nishimura T, Hara S : Overexpression of hypoxia-inducible factor-1a in renal and bladder cancer cells increases tumorigenic potency . J. Urol 2005 ; 173 : 1762-1766 .

- 5) Murata S<sup>1)</sup>, Tagima H<sup>1)</sup>, Kusakai G<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Kondo Y, Kimata R, Satake M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): Reduction of drug leakage by negative-balance isolated pelvic perfusion : correlation between leakage and in-out flow rate in a pig model . Journal of Cancer Research and Clinical Oncology 2005 ; 131 ( 9 ): 575-580 .
- 6) Kimura G, Nishimura T, Kimata R, Saito Y, Yoshida K : Random systematic sextant biopsy versus power Doppler ultrasound-guided target biopsy in the diagnosis of prostate cancer : Positive rate and clinicopathological features . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ): 262-269 .
- 7) Shioji G, Ezura Y<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>1)</sup>, Ohgaki K, Fujiwara H, Kubota Y<sup>2)</sup>, Ichikawa T<sup>3)</sup>, Inoue K<sup>4)</sup>, Shuin T<sup>5)</sup>, Habuchi T<sup>6)</sup>, Ogawa O<sup>7)</sup>, Nishimura T, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Molecular Biology Nippon Med. Sch. , <sup>2)</sup>Dept. Urology, Yokohama City Univ. Med. Sch. , <sup>3)</sup>Dept. Urology, Graduate Sch. Med. ChibaUniv. , <sup>4)</sup>Dept. Urology, Showa Univ. Fujigaoka Hospital , <sup>5)</sup>Dept. Urology, Kochi Medical Univ. , <sup>6)</sup>Dept. Urology, Akita Univ. , <sup>7)</sup>Dept. Urology, Univ. Kyoto Med. Sch. ): Nucleotide variations in genes encoding plasminogen activator inhibitor-2 and serine prosteinase inhibitor B10 associated with prostate cancer . J Hum. Genet. 2005 ; 50 ( 10 ): 507-515 .
- 8) Yukihiko K, Matsuzawa I, Watanabe J, Hamasaki T, Yoshida K, Nishimura T : Utility of extracorporeal traction with nylon thread for easier vesicourethral anastomosis in laparoscopic prostatectomy . Int. J. Urol. 2005 ; 12 ( 12 ): 1082-1084 .
- 9) Chen H<sup>1)</sup>, Tsuboi N, Nishimura T, Norose Y<sup>2)</sup>, Saito Y, Kimata R, Kondo Y, Kimura G (<sup>1)</sup>Dept. Urology, Second Hospital, Xi'an Jiaotong Univ. China, <sup>2)</sup>Dept. Microbiology and Immunology, Nippon Med. Sch. ): Study of prostatic fluid from patients with elevated levels of prostate-specific antigen . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ): 24-28 .
- 10) 高橋 悟, 藤村哲也, 太田信隆, 西松寛明, 鈴木和雄, 近藤幸尋, 牛山知己, 久米春喜, 石川 晃, 富田京一, 北村唯一 (<sup>1)</sup>東京大学泌尿器科, <sup>2)</sup>浜松医科大学泌尿器科): 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術: 初期6例の治療成績 . 泌尿器外科 2005 ; 18 ( 3 ): 257-262 .
- 11) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 西村泰司, 陳海文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>西安交通大学泌尿器科): 前立腺癌の診断: 主に生検の適応と再生検の適応について . 日本外科系連合学会誌 2005 ; 30 ( 2 ): 102-109 .
- 12) 近藤幸尋, 鈴木康友, 濱崎 務, 西村泰司, 陳海文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>西安交通大学泌尿器科): 前立腺癌の治療: 手術治療を中心に . 日本外科系連合学会誌 2005 ; 30 ( 2 ): 110-117 .
- 13) 吉田和弘, 西村泰司, 近藤幸尋, 木村 剛, 陳海文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>西安交通大学泌尿器科): PSA 採血の功罪 . 日本外科系連合学会誌 2005 ; 30 ( 2 ): 118-122 .
- 14) 西村泰司, 本田 了, 橘 政昭<sup>1)</sup>, 滝沢佐奈江<sup>2)</sup>, 水町重範<sup>2)</sup>, 陳海文(<sup>1)</sup>東京医科大学泌尿器科, <sup>2)</sup>水町クリニック, <sup>3)</sup>西安交通大学泌尿器科): 会員制クリニックにおける前立腺癌検診の実際 . 日本外科系連合学会誌 2005 ; 30 ( 2 ): 123-125 .
- 15) 近藤幸尋, 市川智彦, 伊藤直樹, 上平 修, 榊原尚行, 田中正利, 羽瀨友則, 西村泰司(<sup>1)</sup>千葉大学泌尿器科, <sup>2)</sup>札幌医科大学泌尿器科, <sup>3)</sup>名古屋大学泌尿器科, <sup>4)</sup>福岡大学泌尿器科, <sup>5)</sup>秋田大学泌尿器科): 日本の腎細胞癌に対する鏡視下腎摘除術における合併症の調査: 日本Endourology and ESWL 学会学術委員会報告 . Jpn J Endourol ESWL 2005 ; 18 : 92-96 .
- 16) 根本 勺<sup>1)</sup>, 富田祐司<sup>1)</sup>, 松沢一郎, 清水宏之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院, <sup>2)</sup>はせがわ病院): 北村山公立病院における表在性ぼうこう癌の治療成績 . 山形県医師会会報 2005 ; 648 : 15-18 .
- 17) 木村 剛: 腎癌転移巣においてサイトカイン療法は基本であるか? . 腎癌研究会会報 2005 ; ( 29 ): 37-40 .
- (2) 綜説:
- 1) 西村泰司: 慢性前立腺炎によると思われる痛みとその治療 . 日本医事新報 2005 ; ( 4228 ): 96-96 .

- 2) 近藤幸尋, 濱崎 務, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術: 適応と発展性. 腎と透析 2005 ; 58 (6): 850-854 .
- 3) 近藤幸尋: 回腸導管造設術: 手術手技 尿路変更・膀胱拡大術. 臨床泌尿器科 2005 ; 59 (7): 497-505 .
- 4) 近藤幸尋, 鈴木康友, 西村泰司: 前立腺がんの手術治療. からだの科学 2005 ; 243 : 57-61 .
- 5) 木村 剛: 膀胱・前立腺・陰嚢内臓器 US . 腎と透析 2005 ; 59 (2): 181-191 .

(3) 症例報告:

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>2)</sup>, 西村泰司 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院, <sup>2)</sup>はせがわ病院 ): 2次内分泌療法開始後にDIC伴う重篤な病勢進行をきたした再燃性前立腺癌. 臨床泌尿器科 2006 ; 60 : 61-63 .
- 2) 根本 勺<sup>1)</sup>, 松沢一郎 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院 ): 青年期に発症した精巢上体垂捻転の1例. 日医大医学会誌 2006 ; 2 (1): 25-26 .

著 書

- 1) 本田 了, 西村泰司: [ 分担 (2004年度追加) ] 前立腺肥大症. 腎疾患・透析最新の治療 (飯野靖彦・槇野博史), 2005 ; pp217-219, 南江堂 .
- 2) 根本 勺<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>北村山公立病院 ): [ 山形地区新聞 ] 尿路結石について. 月刊サンデータイムス Dr. s mail, 2005 ; 山形新聞 .
- 3) 西村泰司: [ 分担 ] 経尿道的前立腺切除術 (TURP) と看護上の注意点. THE BEST NURSING 術式別泌尿器科看護の知識と実際 ( 算 義行 ), 2005 ; pp106-118, メディカ出版 .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 木村 剛: 早期前立腺癌治療の個別化を目指してノモグラムによる個別化. 第93回日本泌尿器科学会総会, 2005 . 4 .
- 2) 近藤幸尋: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における尖部処理, 神経温存の工夫 (根治的前立腺摘除術: 尖部処理, 神経温存の工夫). 日本泌尿器科学会総会, 2005 . 4 .
- 3) 近藤幸尋: 癌化学療法における腎毒性とその対策 (腎不全の予防). 第14回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会, 2005 . 7 .

(2) セミナー:

- 1) 木村 剛, 西村泰司: 前立腺癌の領域別発生頻度と発生部位別進展経路: 病理学的解析と臨床応用. 第1回七山セミナー, 2005 . 11 .

(3) ワークショップ:

- 1) 鈴木康友: 前立腺癌細胞に対するシスプラチン耐性因子としての低酸素環境の役割. 前立腺癌ワークショップ, 2005 . 9 .
- 2) 近藤幸尋, 濱崎 務, 松沢一郎, 鈴木康友, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における病理学的治療成績向上のための尖部処理 (前立腺全摘除術の手術成績向上のために). 内視鏡外科学会, 2005 . 12 .

(4) 一般講演:

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>, 富田祐司<sup>1)</sup>, 西村泰司 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院 ): 北村山公立病院におけるパワードプラー超音波下前立腺癌生検の検討. 山形泌尿器科研究会, 2005 . 12 .
- 2) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 富田祐司, 高橋 亮, 吉田和弘, 西村泰司: Gray zone症例における経直腸的前立腺尖部前方生検の有用性. 第93回日本泌尿器科学会総会, 2005 . 4 .
- 3) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 三浦剛史, 鈴木康友, 清水宏之, 木全亮二, 坪井成美, 木村 剛, 吉田和広, 西村 泰司: 周術期からみた腹腔鏡下前立腺全摘除術. 日本泌尿器科学会総会, 2005 . 4 .



- 4) 鈴木康友：前立腺癌細胞に対するシスプラチン耐性因子としての低酸素環境の役割．日本泌尿器科学会総会，2005．4．
  - 5) 高橋 亮，藤松真理子，勝部康弘：初回排尿の遅延で発見された傍尿道嚢腫の1例．第14回日本小児泌尿器科学会総会，2005．7．
  - 6) 木村 剛，木全亮二，浜崎 務，鈴木康友，近藤幸尋，清水宏之，斎藤友香，高橋 亮，吉田和弘，西村泰司：前立腺癌の領域別発生頻度と発生部位別進展経路．第70回日本泌尿器科学会東部総会，2005．9．
  - 7) 木村 剛，近藤幸尋，浜崎 務，鈴木康友，木全亮二，吉田和弘，西村泰司：根治的前立腺全摘除術後の生化学的再発（PSAF）予測のための術前ノモグラムの妥当性の検討：米国版（Kattanノモグラム）と日本版（Egawaノモグラム）との比較．第43回日本癌治療学会，2005．10．
  - 8) 近藤幸尋，木村 剛，濱崎 務，松沢一郎，鈴木康友，吉田和弘，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術の現状；Oncological outcomeと周術期合併症．日本癌治療学会，2005．10．
  - 9) 陳 海文<sup>1)</sup>，西村泰司，野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>，齋藤友香，木全亮二，近藤幸尋，木村 剛（<sup>1)</sup>西安交通大学泌尿器科，<sup>2)</sup>日本医科大学微生物学・免疫学）：PSA高値患者における前立腺液の研究．第16回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会，2005．11．
  - 10) 近藤幸尋，濱崎 務，松沢一郎，鈴木康友，木全亮二，吉田和弘，三浦剛史，坪井成美，木村 剛，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術の尖部処理と病理学的治療成績向上．日本Endourology&ESWL学会，2005．11．
  - 11) 高橋 亮，木村 剛，松沢一郎，鈴木康友，浜崎 務，斎藤友香，木全亮二，近藤幸尋，吉田和弘，西村泰司：3rd line抗アンドロゲン剤として酢酸クロルマジノンが有効であった進行性前立腺癌．第572回日本泌尿器科学会東京地方会，2006．1．
  - 12) 高橋 亮，近藤幸尋：体腔鏡下ファーストケースとしてのハンドアシスト体腔鏡下腎摘除術の経験．第38回泌尿器科手術手技関東地区研究会，2006．1．
- (5) 展示：
- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>，松沢一郎，木村 剛，西村泰司（<sup>1)</sup>北村山公立病院）：多彩な腫瘍随伴症候群および下大静脈腫瘍塞栓を伴った腎盂原発扁平上皮癌の1例．第93回日本泌尿器科学会総会，2005．4．
  - 2) 根本 勺<sup>1)</sup>，小栗鉄也<sup>2)</sup>，近藤幸尋，西村泰司（<sup>1)</sup>北村山公立病院，<sup>2)</sup>名古屋市立大学）：前立腺癌細胞株におけるcdc25抑制剤 DA3003-2の抗腫瘍効果．第64回日本癌学会総会，2005．9．
  - 3) 根本 勺<sup>1)</sup>，松沢一郎，清水宏之<sup>2)</sup>，西村泰司（<sup>1)</sup>北村山公立病院，<sup>2)</sup>はせがわ病院）：山形県北村山地区における前立腺癌検診導入後の患者像の臨床的変遷．第70回日本泌尿器科学会東部総会，2005．9．
  - 4) 小栗鉄也<sup>1)</sup>，別所裕次<sup>1)</sup>，阿知和宏行<sup>1)</sup>，宮崎幹視<sup>1)</sup>，村松秀樹<sup>1)</sup>，前田浩義<sup>1)</sup>，新美 岳<sup>1)</sup>，佐藤滋樹<sup>1)</sup>，上田龍三<sup>1)</sup>，根本 勺，John SL<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>名古屋市立大学，<sup>2)</sup>ピッツバーグ大学）：HER2/neuシグナルによるcdc25B蛋白の発現誘導とエストロゲンレセプター への作用．第64回日本癌学会総会，2005．9．

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石，排尿障害を中心に診療・研究を行っているが，特筆すべきものを以下に示す．

1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い，膀胱温存の可能性について検討している．基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる塩酸ピラルピシンの癌細胞内への取り込みの検討より癌と正常組織の内視鏡下鑑別診断に臨床応用している．さらにブタを用いた基礎実験を行い，細径プローブ超音波による膀胱の正常構造を同定し，今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用すると共に，細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し，臨床応用している．

2) 前立腺癌の正診率を高めるために超音波パワードプラ法を採用している。局所進行性前立腺癌に対しては、ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている。基礎的には前立腺操作における PSA molecular form の変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている。

3) 排尿障害に対して、神経因性膀胱の場合は薬物療法を中心に治療成績を検討している。前立腺肥大症による場合には、重篤合併症をもつ者に対する永久留置型尿道ステントの有用性を検討するとともに、基礎的には経尿道的切除術の際の出血を調べ臨床面での安全性向上に役立っている。

4) 腎結石ならびに尿管結石に対して、体外衝撃波結石破碎術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Uchikoba T, Horiuchi K, Satoh M, Oka F, Saitoh Y<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital ): Urethral stent ( Angiomed-Memotherm ) implantation in high-risk patients with urinary retention . Acta Urologica Japonica 2005 ; 51 ( 4 ): 235-239 .
- 2) 久保田元<sup>1)</sup>, 杉山 彰<sup>1)</sup>, 奥原博久<sup>1)</sup>, 大垣憲司, 藤原博通<sup>2)</sup>, 大場修司<sup>3)</sup>, 関戸康友<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 静岡医療センター放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, <sup>3)</sup> 静岡医療センター泌尿器科, <sup>4)</sup> 静岡医療センター臨床検査科病理 ): 尿路変更に用いた回腸から発生した悪性腫瘍の1例 . 臨床放射線 2005 ; 50 ( 9 ): 1091-1094 .

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 堀内和孝：前立腺肥大症・尿失禁．平成17年度日本女性薬剤師会研修講座，診療ガイドライン薬剤コーススクリーンング講習会，2006．3．

#### (2) セミナー：

- 1) 堀内和孝：前立腺肥大症に伴う排尿障害の薬物療法．川崎市中原区薬剤師会勉強会，2006．3．

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は開設して17年になるが研究業績の主なもの次のようなものである。

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2000例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。

最近、切除を行わないで生食水を灌流液として使用し、経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ、これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した。この術式を用いたPSAの研究を続けている。

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより、前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して、輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3横指）前立腺全摘除術を施行している。断端陽性例に対しては放射線療法を行っている。

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6ヶ月後に腫瘍核出術，腎部分切除術が腎摘出術を行っている。今までの研究では，9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍：副腎，腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) Hiraoka Y, Shimizu Y, Takahashi H, Iwamoto K, Hattori T, Abe H : New Modified Radical Perneal Prostatectomy : Dividing the Dorsal Vein Complex . THE AMERICAN JOURNAL OF UROLOGY REVIEW 2005 ; 3 ( 4 ) : 179-181 .
- 2) Shimizu Y, Hiraoka Y, Iwamoto K, Takahashi H, Abe H, Ogawa H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東五反田クリニック): Is Complete Resection of Hypertrophic Adenoma of the Prostate Possible with TURP? . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 3 ) : 146-148 .
- 3) 平岡保紀：前立腺肥大症の治療 . year note 2006 別冊 SELECTED ARTICLES 2005 ; 833-842 .

### 著書

- 1) 平岡保紀：〔自著〕前立腺肥大症を完全に治す本（第2版），2005；pp1-220，マキノ出版。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Hiraoka Y : First report of a new transurethral detaching prostatectomy of the prostate ( TUDP ) . 100th American Urological Association, Annual Meeting ( SAN Antonio ), 2005 . 5 .
- 2) 平岡保紀，清水有二，岩本和矢，高橋洋文，服部智任，阿部裕行：大きい前立腺肥大症に対する新経尿道の前立腺剥離摘出術の開発。第78回多摩泌尿器科学会，2005。6。

#### (2) ポスター：

- 1) 平岡保紀，清水有二，岩本和矢，高橋洋文，服部智任，伊藤 博，沼沢和夫，阿部裕行：モーセレーターを用いた新しい経尿道の前立腺剥離摘出術の開発（第1報）。第93回日本泌尿器科学会総会，2005。4。
- 2) 阿部裕行，清水有二，平岡保紀：Malignant mesothelioma of tunica vaginalis testis。第70回日本泌尿器科学会東部総会，2005。9。

## [ 千葉北総病院泌尿器科 ]

### 研究概要

千葉北総病院では，PSA 高値の症例に対し麻酔下に経直腸的に12ヵ所生検を行い癌の発見に努めている。前立腺癌の発見確率とPSA，超音波検査所見，直腸診所見などの関係を検討している。早期前立腺癌に対しては，開腹の前立腺全摘術と共に腹腔鏡下前立腺全摘術も積極的に行って，両術式の成績の比較検討をしている。

尿路結石に対しては，体外衝撃波結石破碎術はもちろんのこと，経尿道的尿管結石碎石術，経皮的腎結石破碎術も行うことにより結石の完全摘除を目指している。

膀胱腫瘍に対しては経尿道的に膀胱腫瘍を深部筋層まで切除し，病理学的に浸潤度を正確に診断したのち，浸潤性膀胱腫瘍に対しては動注化学療法を行い膀胱保存に努めている。

前立腺肥大症に対しては，従来の電気メスによる経尿道的前立腺切除術とともに，ホルミウムレーザーを用いたレ

ーザー前立腺焼灼術を行い高令者などのHigh riskな患者様にも安全な手術を提供できるように努めている。  
腎腫瘍，副腎腫瘍，腎盂腫瘍に対しても従来の開腹手術とともに，腹腔鏡下手術を行いその成績を比較中である。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Shioji G<sup>1,2)</sup>, Ezura Y<sup>1,3)</sup>, Nakajima T<sup>1)</sup>, Ohgaki K<sup>1,2)</sup>, Fujiwara H<sup>1,2)</sup>, Kubota Y<sup>4)</sup>, Ichikawa T<sup>5)</sup>, Inoue K<sup>6)</sup>, Shuin T<sup>7)</sup>, Habuchi T<sup>8)</sup>, Ogawa O<sup>9)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, <sup>2)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 2-3-10 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0062, Japan, <sup>4)</sup> Department of Urology, Yokohama City University Medical School, Yokohama, Japan, <sup>5)</sup> Department of Urology, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, <sup>6)</sup> Department of Urology, Showa University Fujigaoka Hospital, Yokohama, Japan, <sup>7)</sup> Department of Urology, Kochi Medical University, Kochi, Japan, <sup>8)</sup> Department of Urology, Akita University, Akita, Japan, <sup>9)</sup> Department of Urology, University of Kyoto Medical School, Kyoto, Japan): Nucleotide variations in genes encoding plasminogen activator inhibitor-2 and serine proteinase inhibitor B10 associated with prostate cancer. *Journal of human genetics* 2005; 50 (10): 507-515.
- 2) Haiwen C<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup>, Norose Y<sup>3)</sup>, Saito Y<sup>2)</sup>, Kimata R<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>2)</sup>, Kimura G<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Second Hospital, Xi'an Jiaotong University, China, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Dept. of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Study of Prostatic Fluid from Patients with Elevated Levels of Prostate-Specific Antigen. *J Nippon Med Sch* 2006; 73 (1): 24-28.

#### (2) 臨床統計：

- 1) 根本 勺<sup>1)</sup>, 富田祐司, 松沢一郎<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学泌尿器科学): 北村山公立病院における表在性膀胱癌の治療成績. *山形医師会会報* 2005; 648: 15-18.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 坪井成美, 三浦剛史, 富田祐司, 塩路 豪, 藤原博通<sup>1)</sup>, 斉藤友香<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部): 日本医大千葉北総病院における膀胱腫瘍の治療. *千葉泌尿器科集談会*, 2005. 6.

#### (2) 一般講演：

- 1) 塩路 豪, 江面陽一, 中島敏晶, 藤原博通, 西村泰司, 江見 充(<sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門): 前立腺癌発症とPAI2遺伝子多型との関連. *日本泌尿器科学会*, 2005. 4.
- 2) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 小泉はるか<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>3)</sup>, 三浦剛史, 益田律子<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤部, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 同外科, <sup>4)</sup> 同麻酔科): Pain Management Team活動報告(第2報): 間歇PCAを用いたがん性疼痛対策. *日本緩和医療学会*, 2005. 6.
- 3) 富田祐司, 根本 勺<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学泌尿器科): 就学的治療により安全に治療が可能であった膀胱結石. *日本泌尿器科学会東北地方会*, 2005. 9.
- 4) 三浦剛史: 日本医科大学千葉北総病院における根治的前立腺摘出術の検討. *東葛泌尿器科EBM研究会*, 2005. 11.
- 5) 根本 勺<sup>1)</sup>, 富田祐司, 西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 北村山公立病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学泌尿器科学): 北村山公立病院におけるパウダー超音波下前立腺生検の検討. *山形泌尿器科研究会*, 2005. 12.
- 6) 山田岳史<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 三浦剛史, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 吉澤一巳<sup>4)</sup>, 木本陶子<sup>4)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科,

- 2) 同麻酔科, 3) 同看護部, 4) 同薬剤部): 大学病院における看護師に対する緩和医療教育 緩和ケア卒後学習の重要性: 知識中長をもとに計画した学習会の評価. 千葉緩和医療研究会, 2006. 2.
- 7) 中山菜央<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 藤岡久恵<sup>2)</sup>, 三浦剛史, 山田岳史<sup>3)</sup>, 益田律子<sup>4)</sup>, 吉澤一巳<sup>5)</sup>, 木本陶子<sup>5)</sup>, 橋口英俊<sup>6)</sup>, 木村真人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 同外科, <sup>4)</sup> 同麻酔科, <sup>5)</sup> 同薬剤部, <sup>6)</sup> ルーテル学院大学大学院 ): 当院における疼痛緩和チームの活動状況と心理士の役割. 日本心身医学会 東京地方会, 2006. 3.

## 16 . 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]

#### 研究概要

従来からの研究が継続されたほか、新しいスタッフによる新研究の展開が開始された。超音波白内障手術の酸化ストレスに関する研究、感染性眼内炎予防としてのオゾン水応用に関する研究の継続の他、角膜創傷治癒におけるCOX関連蛋白の機序解明やMMP-12の関連に関する研究が継続された。眼免疫の基礎研究は、眼組織移植の免疫研究の継続として、角膜移植後の眼内免疫抑制性微小環境の維持におけるProgrammed Death Ligand-1の機能研究、2次リンパ器官と角膜における骨髄細胞の動態研究、羊膜移植の免疫応答の研究、羊膜由来神経前駆細胞の移植による網膜再生の研究も継続し、それぞれ成果を報告した。新たに、角膜拒絶反応のin vitroモデルの作成と、免疫寛容誘導性樹状細胞の樹立の研究を開始した。臨床研究として、眼炎症外来における内因性内眼炎の全症例の臨床統計を報告した他、自己免疫性内眼疾患の臨床サンプルを用いて病態関連因子の解析を開始した。新生血管予防の内科的療法として、新発想薬の効果や毒性研究を調べ、薬物安全性の向上を含めた内科的薬物療法開発の基礎を築く研究が進められた。糖尿病網膜症患者管理のあり方について、医師、看護師、栄養士等、それぞれの立場で糖尿病患者のデータを取り、データマイニング法による解析から、より効果的な患者管理法を確立する研究が継続された。新たに参加したスタッフの研究として、「患者QOLの改善」をメインテーマとし、涙を含むオキュラーサーフェスの病態評価、および大脳における自覚症状の他覚化の研究およびロービジョン患者におけるQOL改善、医療コミュニケーション、医療事故軽減の分野での研究、Vogt-Koyanagi-原田病の分子免疫学的解析、網膜変性モデルマウスを用いた原因遺伝子解析および機能研究が開始された。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Oharazawa H, Ibaraki N, Ohara K, Reddy VN : The inhibitory effects of Arg-Gly-Asp ( RGD ) -peptide on cell attachment and migration in a human lens epithelial cell line . *Ophthalmic Res* 2005 ; 37 ( 4 ) : 191-196 .
- 2) Kamiya K<sup>1)</sup>, Wang MC, Uchida S<sup>1, 2)</sup>, Amano S<sup>1)</sup>, Oshita T<sup>3)</sup>, Sakuragawa N<sup>2)</sup>, Hori J ( <sup>1)</sup> University of Tokyo School of Medicine , <sup>2)</sup> Toho University School of Medicine , <sup>3)</sup> University of Tsukuba ) : Topical application of culture supernatant from human amniotic epithelial cells suppresses inflammatory reactions in cornea . *Exp Eye Res* 2005 ; 80 ( 5 ) : 671-679 .
- 3) Hinkovska-Galcheva V<sup>1)</sup>, Boxer L<sup>1)</sup>, Kindzelskii A<sup>2)</sup>, Hiraoka M, Abe A<sup>3)</sup>, Goparju S<sup>4)</sup>, Spiegel S<sup>4)</sup>, Petty Howard R<sup>2)</sup>, Shayman J<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Division of Hematology, Oncology , <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology and Visual Science , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Nephrology , <sup>4)</sup> Department of Biochemistry, Virginia Commonwealth University School of Medicine, Richmond, Virginia 23298 and Department of Microbiology and Immunology, University of Michigan Medical School , <sup>5)</sup> Univ. Michigan, Nephrology ) : Ceramide 1-phosphate, a mediator of phagocytosis . *J Biol Chem* 2005 ; 280 ( 28 ) : 26612-26621 .
- 4) Hiraoka M, Abe A<sup>1)</sup>, Shayman J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Michigan, Nephrology ) : Structure and function of lysosomal phospholipase A2 : identification of the catalytic triad and the role of cysteine residues . *J. Lipid Res* 2005 ; 46 ( 11 ) : 2441-2447 .
- 5) Fijita M, Igarashi T, Kurai T, Sakane M<sup>1)</sup>, Yoshino S<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Joint Disease and Rheuma-

tism): Correlation between dry eye and rheumatoid arthritis activity . American Journal of Ophthalmology 2005 ; 140 ( 11 ): 810-815 .

- 6) 西脇真美子<sup>1)</sup>, 蓮沼智子<sup>1)</sup>, 福嶋邦昭<sup>1)</sup>, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup>ほうせん診療所 ): 若年健康成人における眼底所見の検討 . 日本医事新報 2005 ; 4228 : 28-31 .
- 7) 藤田美穂, 堀 純子, 小原澤英彰, 高橋 浩 : 視神経萎縮を伴った片眼性の球状角膜1例 . 眼科臨床医報 2005 ; 99 ( 8 ): 668-671 .
- 8) 幸野敬子<sup>1)</sup>, 土坂寿行<sup>2)</sup>, 前田利根<sup>3)</sup>, 小原澤英彰, 堀 純子 ( <sup>1)</sup>幸野メディカルクリニック, <sup>2)</sup>土坂眼科クリニック, <sup>3)</sup>オリンピアクリニック ): フタール消毒薬 ( ディスオーパR ) による白内障手術の水疱性角膜 . 臨床眼科 2005 ; 59 ( 10 ): 1705-1709 .
- 9) 堀 純子 : 角膜学会学術奨励賞受賞講演綜説 : 角膜移植の免疫特権 : 拒絶を回避する角膜組織の開発 . 日本眼科紀要 2005 ; 56 : 871-876 .

(2) 綜説 :

- 1) 水谷由紀夫 : コンタクトレンズの展望 : 2003年度 . 眼科 2005 ; 47 ( 5 ): 635-657 .
- 2) 水谷由紀夫 : シンポジウム2 : コンタクトレンズに関する選択基準安全性からの選択 . 日本コンタクトレンズ学会誌 2005 ; 47 ( 2 ): 88-92 .
- 3) 堀 純子 : 第70回日本中部眼科学会シンポジウム 10 : 羊膜移植の現状と未来 : 羊膜と免疫反応 . 日本眼科紀要 2005 ; 56 : 722-727 .
- 4) 小原澤英彰, 高橋 浩 : 合併症に対する薬物療法1 網膜症 . 治療学 2005 ; 39 ( 9 ): 66-68 .
- 5) 高橋 浩 : 強膜炎 : 2005年臨時増刊号 : 前眼部疾患と病変の診かた . 眼科 2005 ; 47 : 1657-1662 .
- 6) 禰津直久 : CLAPIKSによる術後遠視の治療 : LASIKの合併症とその対策 . IOL&RS 2005 ; 19 ( 4 ): 424-427 .
- 7) 堀 純子 : 角膜移植の新しい展開学術 : 角膜移植と免疫 : 拒絶を回避する新しい戦略 . 日本の眼科 2006 ; 77 ( 1 ): 111-116 .
- 8) 堀 純子 : どこまで進んだ分子病態の解明と標的治療 : 前眼部の免疫 , 眼炎症自動制御の分子機構 . 臨床眼科 2006 ; 60 ( 2 ): 116-123 .
- 9) 小原澤英彰 : 花粉症から目を守るセルフケアの知識 . 眼科ケア 2006 ; 8 ( 2 ): 22-27 .

(3) 追加分原著 :

- 1) Koto K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Igarashi T , Yoshino S<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Department of Joint Disease and Rheumatism , <sup>2)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology ): Human immunodeficiency virus vector-mediated intra-articular expression of angiostatin inhibits progression of collagen-induced arthritis in mice . Rheumatol Int 2004 .
- 2) Hori J , Wang MC , Takemori T<sup>1)</sup>, Azuma M<sup>2)</sup>, Yagita H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>国立感染免疫研究所 , <sup>2)</sup>順天堂大免疫 , <sup>3)</sup>東京医歯大分子免疫 ): Role of Programmed Death 1 and B7-H1 in survival of allogeneic corneal transplants . Clin Invest Med 2004 ; 27S : 205 .
- 3) Norio T<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Suzuki N<sup>2)</sup>, Igarashi T , Uchida E<sup>3)</sup>, Misawa T<sup>4)</sup>, Yamazaki Y<sup>4)</sup>, Shimada T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Department of Surgery, Jikei University of Medicine , <sup>2)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>3)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation , <sup>4)</sup>Department of Surgery, Jikei University of Medicine , <sup>5)</sup>Department of Medicine ): Adeno-Associated Virus Vector-Mediated Expression of Endostatin Inhibits Tumor Growth and Metastasis in an Orthotropic Pancreatic Cancer Model in Hamsters . Cancer Research 2004 ; 64 ( 20 ): 7486-7490 .

## 著 書

- 1) 禰津直久：〔追加分担〕眼内レンズ度数計算．すぐに役立つ眼科診察の知識 白内障，2002；pp32-35，金原出版．
- 2) 堀 純子：〔分担〕術後眼内炎：器具消毒薬の眼毒性．眼科プラクティス 1 術後眼内炎，2005；pp186-187，文光堂．
- 3) 小野眞史：〔分担〕涙液クリアランス障害型ドライアイ．眼科プラクティス3 オーキュラーサーフェスのすべて，2005；pp76-79，文光堂．
- 4) 小野眞史：〔分担〕Meige症候群．眼科プラクティス3 オーキュラーサーフェスのすべて，2005；pp164-167，文光堂．
- 5) 小野眞史：〔分担〕lid-wiper epitheliopathy．眼科プラクティス3 オーキュラーサーフェスのすべて，2005；pp168-168，文光堂．
- 6) 高橋 浩：〔分担〕炎症性疾患：季節性アレルギー性結膜炎．眼科プラクティス3 オーキュラーサーフェスのすべて，2005；pp130-130，文光堂．
- 7) 小野眞史：〔分担〕まぶたが腫れるのはなぜ？．Q&Aでわかるアレルギー疾患 花粉症の治癒をめざして創刊3号 Vol. 1/No. 3，2005；pp250-252，丹水社．

## 学会発表

〔2005年度追加分〕

### シンポジウム：

- 1) 禰津直久：眼内レンズ度数計算の精度を高める．白内障手術「残された問題は解決できるか」．日本眼科手術学会，2005．1．

### (1) 特別講演：

- 1) 堀 純子：免疫特権から学ぶ角膜移植と羊膜移植の現在と将来．第174回高知大学眼科研究会，2005．4．
- 2) 堀 純子：羊膜と免疫応答「羊膜移植の落とし穴と新たな活用」．第10回 Tokyo Ocular Surface Forum，2005．5．
- 3) 高橋 浩：ランチョンセミナー，眼科医のためのヒアルロン酸講座．第20回日本眼内レンズ屈折手術学会，2005．6．
- 4) 高橋 浩：角膜上皮疾患治療の進歩，ドライアイから遺伝子治療まで．第4回北海道角膜セミナー，2005．6．
- 5) 高橋 浩：難儀な手術シリーズ(第1回)．第2回千駄木眼科フォーラム，2005．7．
- 6) 堀 純子：眼組織移植の免疫．東京歯科大学ドーナツセミナー，2005．9．
- 7) 高橋 浩：白内障超音波白内障手術と酸化ストレス - もう一つの内皮障害因子．第1回高知眼炎症研究会，2005．10．
- 8) 小野眞史：ドライアイ所見と愁訴のギャップ - ドライアイの自覚症状の他覚化．東京眼科集談会，2005．10．
- 9) 高橋 浩：角膜内皮細胞「日常診療に役立つ知識」．第38回東京緑内障セミナー，2005．11．
- 10) 堀 純子：羊膜の免疫．京都コルネアクラブ，2005．12．
- 11) 高橋 浩：難儀な手術シリーズ(第2回)．第3回千駄木眼科フォーラム，2005．12．
- 12) 堀 純子：B7-H1-induced apoptosis as a mechanism of immune privilege of the eye．第2回 Tokyo Ocular immunology meeting，2006．1．

### (2) シンポジウム：

- 1) 堀 純子：J. Wayne Streileinメモリアルシンポジウム 眼免疫研究の最前線「眼組織移植と免疫特権の最前線」．第39回日本眼炎症学会，2005．7．
- 2) 高橋 浩，後藤 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医大)：内眼炎診察のABC．第39回日本眼炎症学会，2005．7．



(3) 一般講演:

- 1) Kitahara Y, Miyashita M, Takahashi H, Kakinuma K<sup>1)</sup>, Sakuragawa N<sup>1)</sup>, Hori J ( <sup>1)</sup>東邦大学 ): Fate of human amnion mesenchyme cell-derived neural progenitors transplanted into subretinal space of xenogeneic recipients . The Association for Research in Vision and Ophthalmology ( USA ), 2005 . 5 .
- 2) Hori J, Wang MC, Miyashita M, Takahashi H, Takemori T<sup>1)</sup>, Yagita H<sup>2)</sup>, Azuma M<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>国立感染免疫研究所, <sup>2)</sup>東京医歯大分子免疫, <sup>3)</sup>順天堂大免疫 ): Cornea-associated B7-H1 promotes T-cell apoptosis as a potential mechanism of immune privilege of corneal allografts . The Association for Research in Vision and Ophthalmology ( USA ), 2005 . 5 .
- 3) Miyashita M, Kitahara Y, Wang MC, Takahashi H, Takemori T<sup>1)</sup>, Hori J ( <sup>1)</sup>国立感染研究免疫所 ): Dynamics of bone marrow cells in normal corneas and corneal allografts of mice . The Association for Research in Vision and Ophthalmology ( USA ), 2005 . 5 .
- 4) Abe A<sup>1)</sup>, Hiraoka M, Shayman J<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Univ. of Michigan, Nephrology ): Positional specificity of lysosomal phospholipase A2 ( LPLA2 ). The 28th Annual Meeting of Molecular Biology Society of Japan , 2005 . 12 .
- 5) 小野眞史: ドライアイとは「シルマーテスト ( 涙液量検査 ) の実際 - シェーングレンの診断と治療」. 第6回ドライマウス研究会, 2005 . 4 .
- 6) 鈴木久晴: ヘルペス角膜ぶどう膜炎が疑われた2例 . 第22回 Cornea & Ocular Surface in Tokyo , 2005 . 4 .
- 7) 岩波美陽, 藤井博明, 藤田美穂, 松井洋法, 小原澤英彰: 急性後部多発性斑状網膜色素上皮症 ( APMPE ) の1例 . 第19回神奈川県・昭和大学藤が丘合同オープンカンファランス, 2005 . 4 .
- 8) 堀 純子: 羊膜と免疫応答「羊膜移植の落とし穴と新たな活用法」. 第10回 Tokyo Ocular Surface Forum , 2005 . 5 .
- 9) 鈴木久晴, 高橋 浩, 志和利彦: コロボーマ白内障に眼内レンズ下方ループを逢着し, 嚢内固定できた1例 . 第44回日本白内障学会総会, 第20回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 2005 . 6 .
- 10) 大久保暁司, 鈴木久晴, 高橋 浩, 志和利彦: 患者さんは白内障手術教育をどう思っているか . 第44回日本白内障学会総会, 第20回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 2005 . 6 .
- 11) 出津伸一<sup>1)</sup>, 安藤 潔<sup>2)</sup>, 小野眞史, 鈴鴨よしみ<sup>3)</sup>, 道又 顕<sup>1)</sup>, 福原俊一<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>東北大学, <sup>2)</sup>東海大学, <sup>3)</sup>京都大学 ): 神経難病患者へのコーチング介入効果「ランダム化比較試験」. 第42回日本リハビリテーション医学会学会, 2005 . 6 .
- 12) 出津伸一<sup>1)</sup>, 安藤 潔<sup>2)</sup>, 小野眞史, 鈴鴨よしみ<sup>3)</sup>, 道又 顕<sup>1)</sup>, 福原俊一<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>東北大学, <sup>2)</sup>東海大学, <sup>3)</sup>京都大学 ): 神経難病患者へのコーチング介入効果「研究会事務局の運営の重要性」. 第42回日本リハビリテーション医学会学会, 2005 . 6 .
- 13) 禰津直久: 白内障と緑内障とのつきあいかた . 玉川区健康フォーラム, 2005 . 6 .
- 14) 田嶋友子, 堀 純子, 田中花子, 平岡美紀, 高橋 浩: トリアムシノロン経テノン嚢球後注射が著効した再発性乳頭管炎の1例 . 第39回日本眼炎症学会, 2005 . 7 .
- 15) 小野眞史: ドライアイとは「シルマーテスト ( 涙液量検査 ) の実際 - シェーングレンの診断と治療」. 第7回ドライマウス研究会, 2005 . 7 .
- 16) 田中花子, 堀 純子, 平岡美紀, 高橋 浩: 日本医科大学眼科における内眼炎の臨床統計 . 第39回日本眼炎症学会, 2005 . 7 .
- 17) 水谷由紀夫, 大堀 伸, 稲垣不二夫, 鈴木久晴, 高橋 浩: シリコンオイルハイドロゲルコンタクトレンズのCL前涙液層とCL後涙液層 . 第48回日本コンタクトレンズ学会, 2005 . 7 .
- 18) 松井洋法, 佐藤 茂, 佐佐木義弘, 小原澤英彰, 鈴木久晴, 村野奈緒: 角膜内皮細胞結合の観察「tight junctionの存在性についての考察」. 第37回日本臨床分子形態学会総会, 2005 . 9 .
- 19) 小野眞史, 灰田宗孝<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東海大学 ): 大脳光トポグラフィーを用いたドライアイ患者不快感の直接検出 . 第59

- 回日本臨床眼科総会，2005．10．
- 20) 柴田桂子，鈴木久晴，高橋 浩：ヘルペス性ぶどう膜炎が疑われた2例．第59回日本臨床眼科学会，2005．10．
- 21) 鈴木久晴，高橋 浩，堀 純子，平岡美紀，志和利彦：ベストペーパー賞. ペンタカムでみた白内障手術前後の角膜厚と体積の変化．第59回日本臨床眼科学会，2005．10．
- 22) 小野眞史：ドライアイ関連疾患，どれをどう治療すべきか？インストラクションコース．第59回日本臨床眼科学会，2005．10．
- 23) 小野眞史：ドライアイとは「シルマーテスト（涙流量検査）の実際 - シェーングレンの診断と治療」．第8回ドライマウス研究会，2005．10．
- 24) 小野眞史：ドライアイの所見と愁訴のギャップ - ドライアイの自覚症状の他覚化．東京都眼科集談会，2005．10．
- 25) 松井洋法，丹後英介，藤田美穂，岩波美陽，小原澤英彰：白内障術後に水晶体嚢真性落屑が確認された1症例．第4回 Bay Ophthalmic Surgical Seminar，2005．11．
- 26) 小野眞史：難病患者のコーチング2，コーチし，コーチされた体験．第5回コーチ大会，2005．11．
- 27) 竹内八重子，小野眞史：内服与薬の実施準備段階におけるインシデントの検討「作業過程による比較」．第25回日本看護学会学術集会，2005．11．
- 28) 平岡美紀，阿部 晃<sup>1)</sup>，Shaman J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ミシガン大・肝臓内科)：リソゾームホスホリパーゼA2の構造と機能：触媒トライアドの同定とシステインの残基の役割．第28回日本分子生物学会年会，2005．12．
- 29) 鈴木久晴，高橋 浩，堀 純子，平岡美紀，志和利彦：ペンタカムでみた白内障手術前後の角膜厚と体積の変化．第29回日本眼科手術学会総会，2006．1．
- 30) 小野眞史：眼瞼痙攣とドライアイにおける開瞼困難感発生状況．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 31) 堀 純子，宮下 恵，高橋 浩，竹森利忠<sup>1)</sup>，東みゆき<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染免疫研究所，<sup>2)</sup>東京歯科大・分子免疫)：角膜拒絶反応のin vitroモデルにおけるProgrammed Death Ligand 1の機能解析．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 32) 柴田桂子，高橋 浩，小野眞史，鈴木久晴：シャインブルーク画像を用いた涙膜水槽分布解析の試み．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 33) 宮下 恵，堀 純子，北原由紀，高橋 浩：角膜移植後の頸部リンパ説と脾臓における骨髄由来細胞の解析．第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 34) 鈴木久晴，大木幸太郎<sup>1)</sup>，志和利彦，高橋 浩，高橋圭三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大木眼科，<sup>2)</sup>浮之城眼科)：トリバンブルーによる角膜内臓細胞侵襲の評価．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 35) 坂本明日香<sup>1)</sup>，中村雅胤<sup>1)</sup>，武藤 栄<sup>1)</sup>，高橋 浩(<sup>1)</sup>参天製薬株式会社)：培養ヒト角膜上皮細胞における紫外線障害に対するヒアルロン酸の効果．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．
- 36) 王 明聡，堀 純子，高橋 浩：羊膜上皮の抗原性と羊膜再移植後の拒絶反応の解析．第30回角膜カンファランス，第22回日本角膜移植学会，2006．2．

## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本年度は従来の多くのテーマを踏襲するとともに、本教室のメインテーマとして麻酔の機序解明、重症患者管理と生体侵襲・ショック、神経因性疼痛を掲げた初年度であり、種々の研究が行われた。以下に主な内容を示す。

基礎研究：マイクロアレイ，realtime RT-PCR，細胞培養装置，パッチクランプ，心・血管灌流装置等を用いて，麻酔による体内遺伝子発現への影響，呼吸中枢と痙攣閾値の関連，頸動脈小体活動機序，ショックにおける人工酸素運搬体の効果，神経因性疼痛に及ぼす神経遮断効果等。

臨床研究：臨床麻酔，外科系集中治療，ペインクリニック領域において，周術期遮断薬の効果，周術期心イベントの発生要因，新たな輸液製剤の臨床的效果，外科侵襲による生体反応，非侵襲的人工呼吸管理，新たな疼痛管理法等。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sano Y<sup>1)</sup>, Oi Y<sup>2)</sup>, Sakamoto A, Ogawa R ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Kusunoki Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nihon University School of Dentistry ): Anesthesia and circulating blood volume . European Journal of Anaesthesiology 2005 ; 22 ( 4 ): 258-262 .
- 2) Seki M<sup>1)</sup>, Kashimoto S<sup>2)</sup>, Nagata O<sup>3)</sup>, Yoshioka H<sup>4)</sup>, Ishiguro T<sup>1)</sup>, Nishimura K<sup>5)</sup>, Honda O<sup>6)</sup>, Sakamoto A, Omi A<sup>7)</sup>, Ogihara Y<sup>7)</sup>, Fujimoto K<sup>8)</sup>, Iwade M<sup>8)</sup>, Yamada T<sup>9)</sup>, Nomura M<sup>3)</sup>, Takeda J<sup>9)</sup>( <sup>1)</sup>癌研病院, <sup>2)</sup>山梨大学, <sup>3)</sup>東京女子医科大学, <sup>4)</sup>都立豊島病院, <sup>5)</sup>順天堂大学, <sup>6)</sup>国立がんセンター, <sup>7)</sup>東京医科大学, <sup>8)</sup>横浜市立大学, <sup>9)</sup>慶応義塾大学 ): Are the incidences of cardiac events during noncardiac surgery in Japan the same as in the United States and europe?. Anesthesia & Analgesia 2005 ; 100 ( 5 ): 1236-1240 .
- 3) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): Predicting Difficult Intubation in Apparently Normal Patients : A Meta-analysis of Bedside Screening Test Performance . Anesthesiology 2005 ; 103 ( 2 ): 429-437 .
- 4) Sakamoto A, Imai J<sup>1)</sup>, Nishikawa A<sup>2)</sup>, Honma R<sup>1)</sup>, Ito E<sup>1)</sup>, Yanagisawa Y<sup>1)</sup>, Kawamura M<sup>3)</sup>, Ogawa R, Watanabe S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Clinical Informatics, Tokyo Medical and Dental University , <sup>2)</sup>Nippon Gene, Co. , Ltd. , <sup>3)</sup>Medicrome, Inc. ): Influence of inhalation anesthesia assessed by comprehensive gene expression profiling . Gene 2005 ; 356 : 39-48 .
- 5) Nagano T<sup>1)</sup>, Toyada T<sup>2)</sup>, Tanabe H<sup>2)</sup>, Nagato T<sup>2)</sup>, Tsuchida T<sup>2)</sup>, Kitamura A, Kasai G<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Internal Medicine, Kamisu Saiseikai Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital ): Clinical features of hematological disorders caused by copper deficiency during long-term enteral nutrition . Internal Med 2005 ; 44 ( 6 ): 554-559 .
- 6) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): Aprotinin in major orthopedic surgery : a systematic review of randomized controlled trials . Anesthesia & Analgesia 2005 ; 101 ( 6 ): 1602-1607 .
- 7) Koda S, Takeda S, Onimaru H<sup>1)</sup>, Akada S, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>Dept. of Physiology, Showa university school of medicine ): Cannabinoid suppressed bicuculline-induced convulsion without respiratory depression in the

brainstem-spinal cord preparation from newborn rats . Biomedical Research 2005 ; 26 ( 6 ) : 241-247 .

- 8) Shimada Y<sup>1)</sup>, Kitamura A, Nakanishi K, Hongo T, Kim C, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School Secand Hospital ): Effect of bicarbonated Ringer's solution on the acid-base balance in patients undergoing abdominal aortic aneurysm repair . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ) : 364-369 .
- 9) Kim C, Shvarev T<sup>1,2)</sup>, Takeda S, Sakamoto A, Lindahl SG<sup>3)</sup>, Eriksson LI<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Neurogenomic Laboratory, Institute of Cytology & Genetics, Siberian Division of the Russian Academy of Sciences, Novosibirsk, 630090, Russia, <sup>2)</sup>Neonatal Research Unit, Astrid Lindgren Children ' s Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Anesthesiology and intensive Care Medicine, Karolinska Hospital and institute, Stockholm, Sweden ): Midazolam depresses carotid body chemoreceptor activity . Acta Anaesthesiologica Scandinavica 2006 ; 50 ( 2 ) : 144-149 .
- 10) Kim C, Sakamoto A : Differences in the leukocyte response to incision during upper abdominal surgery with epidural versus general anestheisa . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ) : 4-9 .
- 11) Terajima K, Tsueshita T, Sakamoto A, Ogawa R : Fluid resuscitation with hemoglobin vesicles in a rabbit model of acute hemorrhagic shock . Shock 2006 ; 25 ( 2 ) : 184-189 .
- 12) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): SIRS/ALI に対するシベレスタットナトリウムの有効性 . 呼吸 2005 ; 24 ( 4 ) : 356-358 .
- 13) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 寺嶋克幸, 赤田信二<sup>1)</sup>, 小林克也, 中西一浩, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): 集中治療室における非侵襲的陽圧換気 ( NPPV ) の使用状況の推移 . 日本集中治療医学会雑誌 2006 ; 13 ( 1 ) : 41-47 .
- 14) 坂本篤裕 : 手術中の輸液管理 : 21 世紀も細胞外液大量投与が主流か ? . 臨床麻酔 2006 ; 臨 : 393-408 .

## (2) 綜説 :

- 1) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): ARDS の診療 どう治療するか ARDS 治療の実際 5. 水分管理の実際 . 臨床医 2005 ; 31 ( 4 ) : 458-459 .
- 2) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 重症治療室とケア Q79 急性肺水腫の患者さんのケアポイントは何 ? . 呼吸ナーシングケア Q&A 2005 ; 10 ( 5 ) : 34-36 .
- 3) Nava S<sup>1)</sup>, 陳 和夫<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>3)</sup>, 今中秀光<sup>4)</sup>, 長谷川隆一<sup>5)</sup>, 西村匡司<sup>6)</sup>( <sup>1)</sup>respiratory intensive care unit, Istituto Scienfico di Pavia, Italy, <sup>2)</sup>京都大学附属病院理学療法部, <sup>3)</sup>日本医科大学集中治療室, <sup>4)</sup>国立循環器病センター外科系集中治療室, <sup>5)</sup>公立陶生病院救急部, <sup>6)</sup>徳島大学医学部救急集中治療 ): NPPV の適応と初期設定 . 呼吸 2005 ; 24 ( 7 ) : 648-659 .
- 4) 坂本篤裕 : 遮断薬のすすめ ICU での使用 . 臨床麻酔 2005 ; 29 ( 9 ) : 1452-1457 .
- 5) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): NPPV のスタートからゴールまで . Home Care Today 2005 ; 9 ( 9 ) : 38-40 .
- 6) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): ICU ・急性期病棟における人工呼吸のリスクマネジメント 人工呼吸のリスクマネジメント . 呼吸器ケア 2005 ; 3 ( 10 ) : 72-75 .
- 7) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 陽陰圧体外式人工呼吸の適応とセッティング 人工呼吸器と集中ケア . 救急集中治療 2005 ; 17 ( 11 ) : 1124-1127 .
- 8) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 急性心不全 : 酸素吸入 ・呼吸補助 ・循環管理 Q&A . 救急集中治療 2006 ; 17 ( 1 ) : 135-139 .
- 9) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): ウィーニング中から抜管後の鎮静 ・鎮痛のポイント . 呼吸器ケア 2006 ; 4 ( 3 ) : 85-89 .

## (3) 症例報告 :

- 1) Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>3)</sup>, Nakajima Y<sup>4)</sup>, Akada S<sup>2)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>3)</sup>大和成和病院麻酔科, <sup>4)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): A case of Cardiac Tamponade Following

Esophageal Resection . J Anesth 2005 ; 19 ( 4 ) : 249-251 .

- 2) Kim C , Sakamoto A , Ogawa R : Effect of landiolol on nonsustained ventricular tachycardia during electroconvulsive therapy . Anesthesia & Analgesia 2005 ; 101 ( 4 ) : 1247-1247 .
- 3) Terajima K , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Onodera H , Takeda S<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Sakamoto A ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : Unmasking of Brugada syndrome by an antiarrhythmic drug in a patient with septic shock . Anesthesia & Analgesia 2006 ; 102 ( 1 ) : 233-236 .
- 4) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup> , 益田律子<sup>1)</sup> , 志賀俊哉<sup>1)</sup> , 今永和幸<sup>1)</sup> , 井上哲夫<sup>1)</sup> , 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 ) : 頭部三点固定時に生じた連発する上室性期外収縮に対するエスモロールの効果 . 日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 ( 2 ) : 203-206 .
- 5) 吉田結富子 , 佐藤千代 , 古市昌之 , 坂本篤裕 : NLA 麻酔時に筋硬直により一時的に換気不能となった1症例 . 臨床麻酔 2006 ; 30 ( 3 ) : 573-574 .

## 著 書

- 1) 竹田晋浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : [ 編集 ] IV 章 NPPV ( 非侵襲的陽圧換気 ) . ナースのための呼吸療法 クリニカル・ナースBOOKシリーズ , 2005 ; pp51-58 , 医学芸術社 .
- 2) 坂本篤裕 : [ 分担 ] ブロッカー . 心臓血管麻酔の進歩 ( 武田純三 , 森田茂穂 ) , 2005 ; pp150-160 , 真興交易医書出版部 .
- 3) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 術中のトラブルシューティング . 麻酔科診療プラクティス17巻 ( 弓削孟文 ) , 2005 ; pp248-253 , 文光堂 .
- 4) 竹田晋浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : [ 分担 ] 急性心不全の治療 NPPV ( 非侵襲的陽圧換気療法 ) は必要であるか ? . EBM 循環器疾患の治療2006-2007 ( 三田村秀雄 , 山科 章 , 川名正敏 , 桑島 巖 ) , 2005 ; pp330-334 , 中外医学社 .
- 5) 北村 晶 : [ 分担 ] 腎機能 , 腎不全患者の一般外科手術 ; 周術期の輸液 , 輸血療法 . 麻酔科診療プラクティス ( 稲田英一 ) , 2005 ; pp234-237 , 文光堂 .
- 6) 竹田晋浩<sup>1)</sup> , 赤田信二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : [ 分担 ] 非侵襲的人工呼吸 ( NPPV ) . もっとも新しい人工呼吸ケア ( 磨田 裕 ) , 2005 ; pp44-49 , 学習研究社 .
- 7) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 血液製剤の使用と安全管理 . 病院の医療安全 : 理論と実際 ( 小川 龍 , 長谷川幸子 ) , 2005 ; pp119-138 , 真興交易医書出版部 .
- 8) 鈴木規仁 : [ 翻訳 ] 第7章 非ステロイド性抗炎症薬 [ 臨床 ] . 痛みの治療薬・その基礎から臨床まで ( 井上哲夫 , 鈴木 勉 , 高橋秀則 , 長瀬 博 , 成田 年 , 益田律子 , 輪嶋善一郎 ) , 2005 ; pp87-108 , エルゼビア・ジャパン株式会社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Sakamoto A : Perioperative use of ultra-short acting blocker ; Landiolol comes on the field . . 2nd International symposium of cardiac anesthesia in Sendai ( Sendai ) , 2005 . 9 .
- 2) 坂本篤裕 : 周術期における short acting blocker . 第6回周術期セミナー in 盛岡 , 2005 . 5 .
- 3) 坂本篤裕 : 周術期における landiolol の使用と展望 . 第32回岡山麻酔・蘇生セミナー , 2005 . 5 .
- 4) 坂本篤裕 : 周術期における炎症反応と遺伝子発現 . 第73回日本医科大学医学部総会 , 2005 . 9 .
- 5) 坂本篤裕 : 周術期における short acting blocker ランジオロールの実際と可能性 . 東北血管作動薬研究会 2005 , 2005 . 9 .
- 6) 坂本篤裕 : 周術期における炎症反応と遺伝子発現 . 第3回石川臨床麻酔フォーラム , 2005 . 9 .

- 7) 坂本篤裕：ランジオロールの使い方 麻酔使用から集中治療使用へ．富山県周術期管理フォーラム，2005．10．
  - 8) 坂本篤裕：ランジオロールの現状と新たな適応．京都麻酔科医会学術講演会，2005．11．
  - 9) 坂本篤裕：ランジオロールの現状と新たな適応．愛知県周術期管理研究会，2006．1．
  - 10) 坂本篤裕： 遮断薬の現状と新たな適応．北海道周術期管理研究会，2006．2．
- (2) 招待講演：
- 1) 坂本篤裕：血管内治療にともなう救急処置．第11回日本血管内治療学会総会，2005．7．
- (3) シンポジウム：
- 1) Terajima K, Tsueshita T, Sakamoto A：Fluid resuscitation effects using Hemoglobin vesicles in anesthetized rabbit acute hemorrhagic shock．Xth International Symposium on Blood Substitutes．(Providence, USA)，2005．6．
  - 2) Takeda S：Clinical trials on respiratory care．The 13th congress of asia pacific association for respiratory care (Yokohama)，2005．9．
  - 3) 寺嶋克幸，杖下隆哉，坂本篤裕：ウサギ出血性ショックモデルに対する人工赤血球の臓器酸素分圧と血漿浸透圧への影響．第12回血液代替物学会総会，2005．6．
  - 4) 寺嶋克幸：透析患者におけるOff-pumpの周術期管理．第3回 Metropolitan Cardiovascular surgeon, Anesthesiologists & Comedical Staff Symposium，2005．10．
  - 5) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：ARDS診断基準の問題点と治療(シンポジウム集中治療の現場呼吸管理)．第33回日本集中治療医学会学術集会，2006．3．
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 寺嶋克幸：2アゴニストの臨床的展開：ICUにおける展開(麻酔科医としての2アゴニストを知る)．日本臨床麻酔学会第25回大会，2005．11．
- (5) セミナー：
- 1) 北村 晶：重炭酸リンゲル液の臨床的意義．第32回日本集中治療医学会学術集会，2005．2．
  - 2) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：非侵襲的人工呼吸療法NPPVの基礎，適応と限界．第1回秋田人工呼吸セミナー，2005．5．
  - 3) 坂本篤裕：周術期におけるランジオロールの使い方．日本麻酔科学会第52回学術集会，2005．6．
  - 4) 寺嶋克幸：ICU/CCUにおけるデックスメドミジンの役割．第50回日本集中治療医学会近畿地方会，2005．6．
  - 5) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：急性呼吸不全に対するNPPVの応用．第1回山形呼吸療法セミナー，2005．6．
  - 6) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：人工呼吸療法におけるNPPVの位置づけ，適応と限界．第1回沖縄県NPPV研究会，2005．6．
  - 7) 坂本篤裕：造影剤によるアナフィラキシーの救命処置．日本放射線科専門医会2005年ミッドサマーセミナー，2005．7．
  - 8) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：NPPVの基礎．第3回徳島人工呼吸セミナー，2005．9．
  - 9) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：ALI/ARDSの診断基準と問題点．東京エラスターゼフォーラム，2005．9．
  - 10) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：症例に学ぶNPPVの実際．第4回大阪大学人工呼吸セミナー，2005．10．
  - 11) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：非侵襲的人工呼吸療法(NPPV)の基礎．長崎人工呼吸セミナー，2005．10．
  - 12) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：最新のエビデンスに基づくNPPVの適応と限界．第2回京滋NPPVセミナー，2005．11．
  - 13) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：NPPVの基礎，適応と限界．仙台NPPVセミナー，2005．11．
  - 14) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：エビデンスに基づくNPPV，最近の話題．第2回栃木県NPPVセミナー，2006．2．
  - 15) 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：新しい呼吸管理：NPPV．兵庫県SIRS/ALIシンポジウム2006，2006．3．

(6) 一般講演:

- 1) Yamamoto H<sup>1)</sup>, Satoh K<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科): The hemodynamic time course of landiolol hydrochloride, an ultra-short-acting b-blocker : Comparison with those of esmolol hydrochloride. . 28th congress of Scandinavian Society of Anaesthesiology and Intensive Care Medicine ( ベルギー ), 2005 . 7 .
- 2) Tsueshita T , Terajima K , Miyashita M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Sakamoto A ( <sup>1)</sup>外科学第1): Is the influences of Hemoglobin-Vesicles permitted in vivo? . 3rd World Shock Forum ( Tokyo ), 2006 . 2 .
- 3) 佐藤千代, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 癌性疼痛患者に対する硬膜外鎮痛法の検討 . 第11回 硬膜外麻酔研究会, 2005 . 2 .
- 4) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 赤田信二<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>集中治療室): ALI/ARDSに対するNPPVの効果と限界 . 第94回臨床呼吸生理研究会学術集会, 2005 . 4 .
- 5) 佐藤花代子<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 患者認識システムを用いた輸血療法 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 6) 杖下隆哉, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 人工赤血球及びラクトリンゲルの凝固能への影響について . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 7) 金 徹, 中里桂子, 吉田結富子, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科): 腹部大動脈, 下大静脈遮断中のCVPと骨盤腔内静脈圧の推移 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 8) 中里桂子, 吉田結富子, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科): 骨盤腔内閉鎖循環下抗癌剤灌流療法 ( NIPP ) の麻酔管理 第2報 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 9) 大島正行<sup>1)</sup>, 佐藤花代子<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 胃電計を用いた予定帝王切開術中の胃の電気的活動の評価 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 10) 佐藤花代子<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院麻酔科): ディプリフューザーTCIを用いた全身麻酔導入時の血行動態の検討 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 11) 竹森 健, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: TUR-Bt中に誤って電解質灌流液を用いられた1例 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 12) 三井誠司, 坂本篤裕: Off pump CABG中におけるランジオロール持続投与の血行動態への影響 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 13) 中西一浩, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 金 徹, 坂本篤裕, 竹田晋浩<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>大和成和病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学集中治療室): 人工心肺下心臓手術におけるインターロイキン6の心筋障害抑制作用 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 14) 河原裕泰, 結城禎一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科): 乳房部分切除術後の術後痛におけるプロプラノロールの効果 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 15) 北村 晶, 吉田結富子, 坂本篤裕, 小川 龍: 人工血管バイパス術における代謝生アシドーシスへの重炭酸リンゲル液使用による効果 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 16) 安藤岳史, 中西一浩, 金 徹, 坂本篤裕: ランジオロールのボラス投与で心房細動から洞調律に戻った1症例 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第45回合同学術集会, 2005 . 6 .
- 17) 鈴木規仁, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>榊原記念病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 慢性肺梗塞による肺高血圧患者の麻酔管理における右室駆出率の変化 . 第52回日本麻酔学会学術集会, 2005 . 6 .
- 18) 寺嶋克幸, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 小林克也, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>同集中治療室): 抗不整脈薬によって明らかとなった高齢者ブルガダ症候群の1例 . 第52回日本麻酔学会総

会, 2005 . 6 .

- 19) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小林克也, 池崎弘之<sup>3)</sup>, 金 徹, 田中啓治<sup>4)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学集中治療室, <sup>2)</sup> 同千葉北総病院麻酔科, <sup>3)</sup> 大和成和病院麻酔科 ): 気管挿管人工呼吸器からの離脱にNPPVを用い良好な結果を得た1症例 . 第27回日本呼吸療法医学会学術総会, 2005 . 7 .
- 20) 加藤信也<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 ): SCSによって下肢疼痛が軽減したSMONの1例 . 日本ペインクリニック学会第39回大会, 2005 . 7 .
- 21) 大川敬一<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 集中治療室 ): 食道癌術後の気管支肺胞洗浄液 ( BALF ) 中のIL-8と術後肺機能の評価 . 第27回日本呼吸療法医学会学術集会, 2005 . 7 .
- 22) 竹田晋浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 各種人工呼吸器のポイント . 第27回日本呼吸療法医学会, 2005 . 7 .
- 23) 横塚 基, 三井誠司, 寺嶋克幸, 中西一浩, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 食道癌手術における輸液・輸血量の検討 . 第3回周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2005 . 8 .
- 24) 吉田結富子, 寺嶋克幸, 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 金 徹, 設楽敏朗<sup>2)</sup>, 池崎弘之<sup>3)</sup>, 中西一浩, 北村 晶, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 榊原記念病院麻酔科, <sup>3)</sup> 大和成和病院麻酔科, <sup>4)</sup> 日本医科大学内科学第1 ): 当院集中治療室におけるランジオロールの使用状況 . 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005 . 8 .
- 25) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院麻酔科 ): 胸腹部大動脈瘤の脊髄モニターとしてのSEN-4100の使用経験 . 第10回日本心臓血管麻酔学会, 2005 . 9 .
- 26) 大島正行<sup>1)</sup>, 佐藤花代子<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 ): VPシャントの既往を有する患者の腹腔鏡した卵巣摘出術の麻酔経験 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第45回合同学術集会, 2005 . 9 .
- 27) 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 ): 材質の違いによる硬膜外カテーテル穿刺・挿入時の合併症発現率の比較 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 28) 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 三井記念病院麻酔科 ): Off-pump CABGにおける心筋拡張能の検討 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 29) 古市昌之, 金 徹, 吉田結富子, 佐藤千代, 坂本篤裕 : 頸椎症性脊髄症術後の喉頭異変による挿管困難の1例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 30) 寺嶋克幸, 坂本篤裕 : 小児の侵襲的処置におけるデクスメトミジンをを用いた鎮静経験 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 31) 北村 晶, 安藤岳史, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 三井記念病院麻酔科 ): 食道癌周術期における重炭酸リンゲル液使用の効果 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 32) 佐藤千代, 坂本篤裕 : オピオイド投与中の悪心嘔吐に対し, マレイン酸クロルフェニラミンが著効した症例の経験 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 33) 吉田結富子, 古市昌之, 佐藤千代, 坂本篤裕 : NLA 麻酔時に筋硬直により一時的に換気不能となった1症例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 34) 岸川洋昭, 坂本篤裕 : 経鼻挿管後に滲出性中耳炎を生じた1症例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 35) 中里桂子, 三井誠司, 足立 仁, 金 徹, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 抜管後換気不全となり, Negative pressure pulmonary edema ( NPPE ) が疑われた2症例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 36) 安藤岳史, 金 徹, 坂本篤裕 : モニターの不適切なアラーム設定と麻酔科医の注意不足により無呼吸となり危機的状況に陥った症例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .
- 37) 竹森 健, 北村 晶, 坂本篤裕 : 巨大縦隔腫瘍摘出術中に再拡張性肺水腫をきたした1症例 . 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005 . 11 .



- 38) 山梨義高, 北村 晶, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>三井記念病院麻酔科): レゼクトスコープにより水中毒をきたした症例. 日本臨床麻酔学会第25回大会, 2005. 11.
- 39) 寺嶋克幸, 坂本篤裕, 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 腎機能障害患者の冠動脈バイパス術の予後の危険因子. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 40) 坂本篤裕, 寺嶋克幸, 中西一浩, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 外科侵襲とCarboxy-hemoglobin (CO-Hb) 変動. 第12回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2005. 12.
- 41) 小林克也, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 中西一浩, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 急性心筋梗塞後の心室中隔穿孔に対しNPPVとIABPの併用にて術前管理した1症例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 42) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 中西一浩, 小林克也, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 集中治療室における非侵襲的陽圧換気(NPPV)の使用状況の推移. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 43) 鈴木規仁, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 赤田信二<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 中西一浩, 本郷 卓<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>集中治療室): 非侵襲的陽圧換気(NPPV)施行時の鎮静: デクスメドミジンの効果. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 44) 吉田結富子, 赤田信二<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 宮城泰雄<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 市川和雄<sup>3)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>放射線科): 外傷性腹部動脈瘤ステント術後, 腸管膜動脈瘤破裂によりショックに陥ったが, 救命し得た1症例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 45) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 寺嶋克幸, 赤田信二<sup>2)</sup>, 中西一浩, 金 徹, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 本郷 卓<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>集中治療室): ICUにおける非侵襲的陽圧換気(NPPV)とMRSA発症症例の推移. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 46) 寺嶋克幸, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 赤田信二<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>大和成和病院麻酔科): 予定心臓手術患者でのデクスメドミジンの消化器系への影響. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 47) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>集中治療室): 腎保護効果からみたナトリウム利尿ペプチドとフロセミド併用療法の問題点. 第33回日本集中治療医学会学術集会総会, 2006. 3.
- 48) 山本 剛<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>集中治療室): PCPS回路交換後に高サイトカイン血症による一過性の白血球減少をきたした1例. 第33回日本集中治療医学会学術集会総会, 2006. 3.
- 49) 篁 武郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院麻酔科): 恐傷腎の1症例(恐怖体験が原因と考えられる意識消失発作に対する補腎平熄薬による治療). 第10回日本東洋医学会山形県部, 2006. 3.

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

当施設では, 産科麻酔, 術後鎮痛, 循環動態, ペインクリニック領域を主に研究している.

#### 1. 産科麻酔

- (1) 帝王切開術中に用いる子宮収縮薬であるエルゴメトリンとオキシトシンが胸部硬膜外圧に与える影響.
- (2) 仰臥位低血圧症候群と硬膜外圧, 下肢静脈圧の変動.
- (3) 子宮収縮薬による出血量の差異.
- (4) 妊婦の感覚閾値の上昇とプロゲステロン値との関連.

(5) 母子のきずなが希薄になりがちな帝王切開でカンガルーケアを導入したが、その問題点。

(6) 帝王切開術後硬膜外鎮痛の安静時起立への影響。以上について検討した。

## 2. 術後鎮痛

(1) ケタミンは、硬膜外モルヒネ/ブピバカインによる鎮痛を増強するが、その血中濃度について検討した。

(2) ロピバカイン硬膜外持続投与における有用性を検討した。

## 3. 循環動態

ランジオロールの系時的血行動態の変化について検討した。

## 4. ペインクリニック

(1) 当施設では積極的にエピドラスコピーを導入している。癒着性硬膜外炎症例におけるエピドラスコピーの診断・治療での有用性、また日本整形外科学会の腰痛スコアからみたエピドラスコピーの有効性を多施設で検討した。

(2) 外来での腰部硬膜外ブロック後の重心動揺を検討し、安全に帰宅できるように必要な観察時間を検討した。

腹腔鏡下子宮筋腫核出術では、生理食塩液を使用するため出血量の算定が困難であるが、ヘモキューを用いた出血量の算定について検討した。また、医育機関と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷、体腔内異物遺残防止対策と麻酔法について検討した。さらに当院での赤血球製剤の使用状況を検討した。

症例報告では、脳死ドナーの麻酔管理、深部静脈血栓に対する下大静脈フィルター留置症例の麻酔管理について報告した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

1) Suzuki M, Kinoshita T, Kikutani T, Yokoyama K, Inagi T, Sugimoto K, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Shimada Y ( <sup>1)</sup>Department of Surgery, second Hospital ): Determining the Plasma Concentration of Ketamine That Enhances Epidural Bupivacaine-and-Morphine-Induced Analgesia . Anesthesia and Analgesia Vol. 101 2005 ; 101 : 777-784 .

2) Shimada Y, Kitamura A<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Hongo T<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital ): Effect of Bicarbonated Ringer's Solution on the Acid-base Balance in Patients Undergoing Abdominal Aortic Aneurysm Repair . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ) : 364-369 .

3) 鈴木万三, 島田洋一 : 全身麻酔下での術中低体温に対する硬膜外麻酔の影響 . 臨床体温 2005 ; 23 : 44-47 .

#### (2) 症例報告：

1) Suzki M , Koda S<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>2)</sup> , Kawamura N<sup>2)</sup> , Shimada Y ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Urology, Ebina General Hospital ) : The Relationship Between Cardiac Output Measured by the Thermodilution Method and That Measured by the Carbon Dioxide Rebreathing Technique During Laparoscopic Surgery . Anesth Analg 2005 ; 100 : 1381-1383 .

2) Oshima M<sup>1, 2)</sup> , Shimada Y<sup>1)</sup> , Takeuchi H<sup>2)</sup> , Kinoshita K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University School of Medicine ) : Blood Loss Estimation during Laparoscopic Myomectomy Using HemoCue . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 4 ) : 226-229 .

3) Shimada Y , Marumo H , Kinoshita T , Suzuki M , Oya H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Orthopaedics, Yokohama Asahi General Hospital ) : A Case of Cervical Spondylitis during Stellate Ganglion Block . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 295-299 .

4) Shimada Y , Suzuki M , Fukuyo Y : Blood Concentration of Propofol in a Patient with Delayed Emergence from Propofol-nitrous Oxide Anesthesia . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 5 ) : 300-303 .

(3) その他：

- 1) 内木亮介, 佐藤花代子, 横山健至, 鈴木万三, 丸茂穂積, 島田洋一：日本医科大学第二病院麻酔科外来（ペインクリニック）. ペインクリニック 2005；26（7）：1017-1020.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 島田洋一：産科麻酔と医療訴訟．第108回分娩と麻酔研究会，2005．12．

(2) シンポジウム：

- 1) Suzuki M, Shimada Y：Effect of perioperative Ketamine infusion on the development of persistent pain after theracong．ASA annual meeting 2005 Jurnal symposium ( Atranta, USA ), 2005．10．
- 2) 鈴木万三：ダブルルーメン挿管，固定に関する私の工夫．第52回日本麻酔学会総会 企画「私の工夫」，2005．6．

(3) 一般講演：

- 1) Yamamoto H, Satoh K, Shimada Y, Sakamoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Dep. of Anesthesiology, Nippon Med Sch)：The hemodynamic time course of landiolol hydrochloride, an ultra-short-acting  $\alpha_1$ -blocker：Comparison with those of esmolol hydrochloride．The Scandinavian Society of Anaesthesiology and Intensive Care Medicine ( Reykjavik Iceland ), 2005．6．
- 2) Suzuki M, Shimada Y, Murase A, Kinoshita T, Marumo H：Intlation of distal cuff with water reduced the influence of malposition of the endobronchial doublelumen tube during lung separation．ASA annual meeting 2005 ( Atranta, USA ), 2005．10．
- 3) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 望月 功<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1)</sup>東戸塚記念病院)：一般病院における拡張型心筋症合併開腹手術の1例．第27回日本手術医学会，2005．10．
- 4) 井上由佳里<sup>1)</sup>, 玉置悦子<sup>1)</sup>, 阿久津純子<sup>1)</sup>, 横尾香代子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1)</sup>第二病院中央手術室)：震災を想定した手術室のシュミレーションの試み．第27回日本手術医学会，2005．10．
- 5) 野沢大樹<sup>1)</sup>, 馬上春子<sup>1)</sup>, 横尾香代子<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1)</sup>第二病院中央手術室)：手術室看護師の器械管理に対する役割意識・問題意識と発生するミスとの関係．第27回日本手術医学会，2005．10．
- 6) 大島正行, 島田洋一, 深見武彦<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：深部静脈血栓により術前に下大静脈フィルターを留置して麻酔管理した予定帝王切開の1症例．第107回分娩と麻酔研究会，2005．12．
- 7) 大島正行, 佐藤花代子, 島田洋一, 渋井庸子<sup>1)</sup>, 藤江裕美<sup>1)</sup>, 深見武彦<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 朝倉哲文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：胃電計を用いた予定帝王切開術中の胃の電気的活動の評価．第107回分娩と麻酔研究会，2005．12．

(4) ポスター：

- 1) 井上雅則<sup>1)</sup>, 井梅和美<sup>1)</sup>, 花出 豊<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室)：輸血業務の安全への取り組み．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

本年度もペインクリニック領域において，治療困難な痛みに対する新しい神経ブロックについて思案，検討した．特に筋膜痛症候群と顎関節症を対象にしたブロックに重点を置き，基礎的研究を継続して行っている．また新しくエピドラスコピーを導入し，治療，研究を進めている．

手術室においては，挿管困難症における既存の喉頭鏡の比較研究および新たな喉頭鏡の開発も進めている．

## 研究業績

### [ 千葉北総病院麻酔科 ]

#### 研究概要

“ 外科的侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止 ”, “ 硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔の生体への影響および管理法・手技 ” をテーマとした臨床研究が継続されている。

本年度も手術室, 病室, 外来 (ペインクリニック) など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践手技, マグネシウム, 遮断薬, カルペリチドなど各種薬物が麻酔中の循環動態および気道抵抗に及ぼす影響についての検討, 疼痛における東洋医学的効果など, 多岐に亘る研究が行われた。新たな薬物の生体環境に及ぼす役割など基礎的研究のほか患者の苦痛の除去, QOLの改善はもとより, 医師側の治療への協力・助力となる方向での手技的配慮などを主題とした研究が中心となった。鎮痛法 (術後鎮痛, 難治性疼痛, 脊髄くも膜下麻酔, 神経ブロック) の向上にむけた研究は今後も継続して行うことにしている。

教職員はほとんどが専門医資格および学位取得者であり, 具体的なテーマは個々の自由裁量によっている。しかし, 本年度は全員で分担し, 米国 Albany 医科大学 H. S. Smith 教授監修による「Drugs for Pain」の邦訳を行った。痛み の治療に用いられる薬物の基礎的背景から臨床アプローチまで, 系統的にレビューした up-to-date な書である。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Shiga T, Wajima Z, Inoue T : Computed tomography and ultrasonography to detect appendicitis . Ann Intern Med 2005 ; 142 ( 9 ): 799-799 .
- 2) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Sakamoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Apropitin in major orthopedic surgery : a systematic review of randomized controlled trials . Anesth Analg 2005 ; 101 ( 6 ): 1602-1607 .

###### (2) 綜説:

- 1) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Sakamoto A : Predicting difficult intubation in apparently normal patients : a meta-analysis of bedside screening test performance . Anesthesiology 2005 ; 103 ( 2 ): 429-437 .
- 2) 輪嶋善一郎: 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔における感染症合併症と予防法, 発生後の治療法について。臨床麻酔 2005 ; 30 ( 3 ): 559-561 .
- 3) 志賀俊哉, 井上哲夫: マグネシウム投与の抗不整脈効果 (特集: イオン化マグネシウム)。Anesthesia 21 Century 2005 ; 1318-1324 .
- 4) 輪嶋善一郎: 第25回日本臨床麻酔学会特集 周術期管理における 1 遮断薬の有用性。Medical Tribune 2005 ; 38 ( 50 ): 10-10 .
- 5) 小倉 明: 抗凝固療法と硬膜外麻酔。日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 ( 1 ): 120-127 .
- 6) 井上哲夫: 気道確保のデバイスに関する最近の知見 (特集: 安全な気道管理)。麻酔 2006 ; 55 ( 1 ): 5-12 .

###### (3) 症例報告:

- 1) 輪嶋善一郎, 益田律子, 志賀俊哉, 今永和幸<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学横浜市北部病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科): 頭部三点固定時に生じた連発する上室性期外収縮に対するエスモロールの効果。日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 : 203-205 .

## 著 書

- 1) Masuda R : [ 分担 ] Current aspects of neuraxial anatomy : Epidural and subarachnoid spaces . 8th Biennial Congress of the Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine ( Hanaoka K, Yuge O, Fukuda K, and Arita H ) , 2005 ; ppS69-S72 , MEDIMOND INTERNATIONAL PROCEEDING .
- 2) 井上哲夫 : [ 分担 ] Difficult airway に対する各種気道確保 . 麻酔科の新しい流れ ( 後藤文夫 , 並木昭義 , 島田康弘編集 ) , 2005 ; pp74-77 , 先端医療技術研究所 .
- 3) 井上哲夫 , 鈴木 勉<sup>1)</sup> , 高橋秀則<sup>2)</sup> , 長瀬 博<sup>3)</sup> , 成田 年<sup>1)</sup> , 益田律子 , 輪嶋善一郎 ( <sup>1)</sup> 星薬科大学薬学部薬品毒性学教室 , <sup>2)</sup> 帝京大学付属市原病院ペインセンター , <sup>3)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 ) : [ 翻訳 ] 第 1 章 ~ 第 39 章 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp1-658 , エルゼビア・ジャパン .
- 4) 益田律子 : [ 翻訳 ] 第 1 章 緒言 . 痛みの治療薬 ( 井上哲夫 , 鈴木 勉<sup>1)</sup> , 高橋秀則<sup>2)</sup> , 長瀬 博<sup>3)</sup> , 成田 年<sup>1)</sup> , 益田律子 , 輪嶋善一郎 ) , 2005 ; pp1-10 , エルゼビア・ジャパン .
- 5) 設楽敏朗 , 長瀬 博<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 翻訳 ] 第 3 章 アセトアミノフェン [ 実験室 ] . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp25-42 , エルゼビア・ジャパン .
- 6) 設楽敏朗 , 長瀬 博<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 翻訳 ] 第 4 章 アセトアミノフェン [ 臨床 ] . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp43-54 , エルゼビア・ジャパン .
- 7) 志賀俊哉 , 長瀬 博<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 翻訳 ] 第 5 章 非ステロイド性抗炎症薬とシクロオキシゲナーゼ-2 選択的阻害薬 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp55-74 , エルゼビア・ジャパン .
- 8) 志賀俊哉 , 長瀬 博<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 翻訳 ] 第 6 章 シクロオキシゲナーゼ-2 阻害薬の基礎科学 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp75-86 , エルゼビア・ジャパン .
- 9) 鈴木規仁 , 長瀬 博<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 翻訳 ] 第 7 章 非ステロイド性抗炎症薬 [ 臨床 ] . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp87-108 , エルゼビア・ジャパン .
- 10) 益田律子 : [ 翻訳 ] 第 13 章 抗けいれん薬による疼痛治療 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp205-214 , エルゼビア・ジャパン .
- 11) 益田律子 : [ 翻訳 ] 第 14 章 慢性疼痛治療で用いられる抗けいれん薬 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp215-238 , エルゼビア・ジャパン .
- 12) 益田律子 : [ 翻訳 ] 第 15 章 抗れんかん薬と疼痛 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp239-248 , エルゼビア・ジャパン .
- 13) 益田律子 , 長瀬 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 ) : [ 翻訳 ] 第 16 章 2-作動薬 [ 基礎 ] . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp249-262 , エルゼビア・ジャパン .
- 14) 益田律子 , 長瀬 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大学薬学部生命薬科学 ) : [ 翻訳 ] 第 17 章 2-作動薬 [ 臨床 ] . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp263-278 , エルゼビア・ジャパン .
- 15) 吉澤一巳<sup>1)</sup> , 成田 年<sup>2)</sup> , 益田律子 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤部 , <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学 ) : [ 監修 ] 第 20 章 グルタミン酸受容体拮抗薬 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp311-326 , エルゼビア・ジャパン .
- 16) 後藤真弓 , 高橋秀則<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学付属市原病院ペインセンター ) : [ 翻訳 ] 第 23 章 その他の鎮痛薬 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp347-368 , エルゼビア・ジャパン .
- 17) 森 隆浩<sup>1)</sup> , 益田律子 ( <sup>1)</sup> 帝京大学付属市原病院ペインセンター ) : [ 監修 ] 第 25 章 硬膜外鎮痛における相乗効果 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp385-404 , エルゼビア・ジャパン .
- 18) 益田律子 : [ 翻訳 ] 第 27 章 くも膜下鎮痛薬の臨床応用 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp433-450 , エルゼビア・ジャパン .
- 19) 井上哲夫 : [ 翻訳 ] 第 28 章 神経因性疼痛の末梢的基礎 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp451-473 , エルゼビア・ジャパン .
- 20) 井上哲夫 : [ 翻訳 ] 第 29 章 末梢における鎮痛 . 痛みの治療薬 , 2005 ; pp473-490 , エルゼビア・ジャパン .

- 21) 輪嶋善一郎：〔翻訳〕第30章 末梢神経にオピオイドを作用させて得る鎮痛法．痛みの治療薬，2005；pp491-508，エルゼビア・ジャパン．
- 22) 加藤信也，鈴木 勉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬品毒性学教室)：〔翻訳〕第31章 外用鎮痛薬．痛みの治療薬，2005；pp509-516，エルゼビア・ジャパン．
- 23) 中島祐史，成田 年<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬品毒性学教室)：〔翻訳〕第32章 疼痛下における炎症性サイトカインの役割 疼痛治療への可能性．痛みの治療薬，2005；pp517-538，エルゼビア・ジャパン．
- 24) 益田律子：〔翻訳〕第33章 鎮痛のための潜在的標的．痛みの治療薬，2005；pp539-562，エルゼビア・ジャパン．
- 25) 輪嶋善一郎：〔翻訳〕第34章 急性痛に対する鎮痛薬の使用．痛みの治療薬，2005；pp563-591，エルゼビア・ジャパン．
- 26) 吉澤一巳<sup>1)</sup>，成田 年<sup>2)</sup>，輪嶋善一郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤部，<sup>2)</sup>星薬科大学薬品毒性学)：〔監修〕第35章 鎮痛薬の相互作用．痛みの治療薬，2005；pp563-591，エルゼビア・ジャパン．
- 27) 加藤信也，益田律子：〔翻訳〕第36章 片頭痛の基本的な薬理学的治療．痛みの治療薬，2005；pp607-620，エルゼビア・ジャパン．
- 28) 加藤信也，益田律子，鈴木 勉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬品毒性学教室)：〔翻訳〕第37章 頭痛に対する臨床的薬物治療．痛みの治療薬，2005；pp621-636，エルゼビア・ジャパン．

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) Masuda R：Intrathecal Analgesia．8th Bangladesh Society for Study of Pain ( Dhaka )，2006．3．
- 2) 益田律子：女性特有の疼痛と対策．平成17年度 日本産婦人科学会千葉地方部会秋季学術集会，2005．10．

##### (2) 教育講演：

- 1) Masuda R，Tanuma K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of 2nd Anatomy, Nippon Medical School)：Current aspects of neuraxial anatomy：Epidural and subarachnoid space．8th Biennial Congress Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine (8th Biennial Congress AOSRA)(Makuhari)，2005．12．
- 2) 加藤信也：星状神経節ブロックおよび電気刺激．日本良導絡自律神経学会，2005．5．
- 3) 益田律子：くも膜下鎮痛・最近の話題．日本ペインクリニック学会第39回大会，2005．7．

##### (3) シンポジウム：

- 1) 井上哲夫：パルスオキシメータ(呼吸循環モニター)の現状と将来)．第16回日本臨床モニター学会総会，2005．4．
- 2) 輪嶋善一郎：シンポジウム[安全な硬膜外麻酔]：安全な硬膜外穿刺法．第12回硬膜外麻酔研究会，2006．2．

##### (4) パネルディスカッション：

- 1) 輪嶋善一郎：1遮断薬の臨床応用の将来的可能性．日本臨床麻酔学会第25回大会，2005．11．
- 2) 益田律子：ペインクリニック・緩和医療とオピオイド(麻酔医とオピオイド)．日本臨床麻酔学会第25回大会，2005．11．

##### (5) 一般講演：

- 1) Ogura A，Saitoh T，Wajima Z，Yoshikawa T<sup>1)</sup>，Inoue T(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital)：Does catheter tip stiffness affect the incidence of complications during the lower thoracic epidural catheterization?．Euroanaesthesia Annual Meeting (Vienna, Austria)，2005．5．
- 2) Yoshikawa T<sup>1)</sup>，Ogura A，Imanaga K<sup>2)</sup>，Shiga T(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, NHO Tochigi National Hospital，<sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, Tobu Hospital)：Pretreating with lidocaine into the vein contralateral to that for propofol injection significantly reduce pain on injection of propofol．ASA Annual Meeting(Atlanta, USA)，2005．10．

- 3) Ogura A, Imanaga K<sup>1)</sup>, Saito T, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Tobu Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, NHO Tochigi National Hospital ): Does catheter tip stiffness alter the incidence of complications during epidural catheterization in the lower thoracic region? . ASA Annual Meeting ( Atlanta, USA ), 2005 . 10 .
- 4) Imanaga K<sup>1)</sup>, Wajima Z, Inoue T, Shiga T, Ogura A ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Tobu Hospital ): Comparison of epidural anesthesia and spinal anesthesia on the patient ' s postoperative recovery for quality of life in adult inguinal hernia repair . . ASA Annual Meeting ( Atlanta, USA ), 2005 . 10 .
- 5) Wajima Z, Shiga T, Saitoh T, Imanaga K<sup>1)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Tobu ): Prophylactic Administration of High-Dose Landiolol Blunts Hyperdynamic Responses during Electroconvulsive Therapy and Does Not Shorten Seizure Duration . American Society of Anesthesiologists 2005 Annual Meeting ( Atlanta ), 2005 . 10 .
- 6) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Sakamoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Predicting Difficult Intubation in Apparently Normal Patients : A Meta-Analysis of Bedside Screening Test Performance . American Society of Anesthesiologists 2005 Annual Meeting ( Atlanta ), 2005 . 10 .
- 7) 齋藤 剛, 益田律子, 加藤信也, 井上哲夫: 硬膜外併用静脈麻酔下に悪性高熱発症が疑われた1症例 . 日本麻酔・薬理学会, 2005 . 5 .
- 8) 小倉 明, 齋藤 剛, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 吉河達祐<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科 ): 硬膜外カテーテル先端材質の違いによる穿刺・挿入時の合併症出現率の比較 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 9) 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 縣 秀栄<sup>2)</sup>, 今永和幸<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup>同栃木病院歯科口腔外科, <sup>3)</sup>東京都地域病院公社東部地域病院麻酔科 ): プロポフォール<sup>®</sup>の注入時痛は年齢の影響を受けない . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 10) 今永和幸<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 井上哲夫, 小倉 明, 吉河達祐<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都地域病院公社東部地域病院麻酔科, <sup>2)</sup>独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科 ): 成人鼠径ヘルニア根治術に対する脊椎麻酔と硬膜外麻酔の比較 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 11) 益田律子, 井上哲夫, 後藤真弓: 帝王切開術におけるフェンタニル添加がブピバカイン脊髄も膜下麻酔の無痛域・心拍数・呼吸に及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 12) 吉澤一巳<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 片岡邦博<sup>1)</sup>, 小泉はるか<sup>2)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>3)</sup>, 三浦剛史<sup>4)</sup>, 益田律子 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤部, <sup>2)</sup>同看護部, <sup>3)</sup>同外科, <sup>4)</sup>同泌尿器科 ): PainManagementTeam 活動報告 ( 第3報 ): 間歇PCAを用いたがん性疼痛対策 . 第10回日本緩和医療学会総会, 2005 . 6 .
- 13) 山田岳史<sup>1)</sup>, 益田律子, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 古山めぐみ<sup>3)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 伊藤由紀子<sup>3)</sup>, 吉澤一巳<sup>4)</sup>, 木本陶子<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>同看護部, <sup>4)</sup>同薬剤部 ): 緩和ケアにおける知識・意識: 現状調査と現状分析をもとに実施した学習会の評価 . 第10回日本緩和医療学会総会, 2005 . 6 .
- 14) 後藤真弓, 井上哲夫, 志賀俊哉, 益田律子: 1254例の喉頭展開難易度の検討 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 15) 鈴木規仁, 設楽敏朗, 益田律子, 井上哲夫: 慢性肺梗塞による肺高血圧患者の麻酔管理における右室駆出率の変化 . 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005 . 6 .
- 16) 加藤信也, 益田律子, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ): 脊髄硬膜外刺激療法によって下肢疼痛が軽減したSMONの1例 . 日本ペインクリニック学会第39回大会, 2005 . 7 .
- 17) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1,2)</sup>, 小野寺英貴<sup>1,2)</sup>, 井上哲夫, 小林克也<sup>1,2)</sup>, 池崎弘之<sup>3)</sup>, 金 徹<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同麻酔科, <sup>3)</sup>大和成和病院麻酔科 ): 気管挿管人工呼吸器からの離脱にNPPVを用いた良好な結果を得た1症例 . 第27回日本呼吸療法医学会学術集会, 2005 . 7 .

- 18) 上西蔵人<sup>1)</sup>, 益田律子, 井上哲夫, 原 義明<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 不安定型骨盤骨折の1症例. 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第45回合同学術集会, 2005. 9.
- 19) 加藤信也, 齋藤 剛, 益田律子: 星状神経節に対するブロック及び直流電気刺激. 第57回日本良導絡自律神経学会学術大会, 2005. 10.
- 20) 齋藤 剛, 加藤信也, 益田律子: 低髄液圧症候群の良導絡チャート. 第57回日本良導絡自律神経学会学術大会, 2005. 10.
- 21) 小倉 明, 井上哲夫, 坂本篤弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 材質の違いによる硬膜外カテーテル穿刺・挿入時の合併症出現率の比較. 第25回臨床麻酔学会, 2005. 11.
- 22) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 設楽敏朗, 今永和幸<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 吉河達裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学横浜市北部病院麻酔科, <sup>2)</sup>独立行政法人国立病院機構栃木病院麻酔科): 高用量ランジオロールが電気痙攣療法(ECT)時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第52回学術集会, 2005. 11.
- 23) 小倉 明: 安全な硬膜外カテーテルとは. 第12回硬膜外麻酔研究会, 2006. 2.
- 24) 山田岳史<sup>1)</sup>, 益田律子, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 吉澤一巳<sup>4)</sup>, 木本陶子<sup>4)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>同看護部, <sup>4)</sup>同薬剤部): 緩和ケア卒後学習の重要性: 知識調査を元に計画した学習会の評価. 第6回千葉県緩和医療研究会, 2006. 2.



## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成17年度の研究概要を各班別に記した。

##### 外傷班

外傷症例検討を週1回施行し、骨盤骨折を伴う出血性ショック、腹部刺創などについて、当院での治療方針を検討中である。また、外傷学会への参加、JATEC、JPTECへの参加、協力、院内研修医師への外傷診療教育、指導を行った。

##### 感染症班

救命救急領域における抗MRSA薬、抗真菌薬の臨床研究を施行した。また、Intensive insulin therapyの感染症に対する有効性、安全性の評価、Infection control doctorの救命救急センターでの活動内容と効果、問題点を検討し報告した。

##### 整形班

寛骨臼骨折に対する新しい手術進入法について検討を行い、各学会のシンポジウムで発表し、高く評価が得られたと考える。また、海外の学会にも参加・演題発表し、国内だけでなく国際レベルの医療も視野において今後活動していくつもりであります。

##### 脳外班

重症脳血管障害、頭部外傷、頸髄損傷、および蘇生後脳症に関する治療、頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的、基礎的研究を行なった。これらの中で横堀らは日本救急医学会ファイザー賞優秀論文賞を受賞した。また、AHAガイドライン2006公表に先立ち、蘇生後脳症に対する当施設の脳低体温療法導入のガイドラインを作成した。これらの研究は国内外の多くの学会で発表し、文部科学省や厚生労働省からの科学研究費の助成を受け、高い評価を得た。

##### 熱傷班

重症熱傷患者におけるIL-18の検討を行い、熱傷重症度と相関し、肝機能に影響なく、呼吸機能障害と関係していた。また、重症熱傷患者における耐性菌の検討を行い、多剤耐性菌に対して、受傷直後から抗生物質の投与をコントロールし、感染対策として医療従事者の標準的感染予防を徹底することにより、耐性菌の減少を報告した。重症熱傷患者の治療を均一化および質の向上を行うために、治療マニュアルの作成を行った。

##### 災害班

東京DMATの活動を本格的に開始した。日本医大チームが数度現場に出動し、その活動内容について報告した。また、NBC災害に関わる組織連携のあり方（厚労省厚生科学研究班）について基盤整備を中心に特に地方のボトムアップ策を研究した。

##### 病態生理班

細菌感染症の鑑別診断と重症度判定におけるプロカルシトニンの役割およびステロイド投与中のプロカルシトニン動態、血小板増多症および減少状態におけるトロンボポエチンの動態と病態へ関与を報告した。また、日本救急医学会よりの急性期DIC診断基準の作成に加わり、新しいDIC治療開始基準を発表し、日本血栓止血学会よりDIC治療ガイドラインの提唱を行った。

##### 基礎研究班

ショックに続発する多臓器障害の発症機序を解明することを研究課題として、腸間膜リンパ液に着目し研究を行っている。われわれは腸間膜リンパ液中に存在する炎症性メディエータ、中でも脂質メディエータに注目し分析を進め

ている。また、出血性ショック後の多臓器障害に対する治療戦略として、代用血液の有用性を明らかにするため、腸間膜リンパ液中の炎症性メディエータに与える影響についても検討している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ninomiya N<sup>1, 2)</sup>, Nemoto K<sup>1)</sup>, Kaji M<sup>1)</sup>, Shiga N<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences ): Regulation of the Endocannabinoid System in Endotoxicosis of Conscious Guinea Pigs . Journal of Japanese Association for Acute Medicine 2005 ; 16 ( 5 ): 218-226 .
- 2) Aikawa N, Fujisima S, Endo S, Sekine I, Kogawa K, Yamamoto Y, Kushimoto S, Yukioka H, Kato N, Totsuka K, Ikeda T, Ikeda K, Harada K, Satomura S : Multicenter prospective study of procalcitonin as an indicator of sepsis . J Infect Chemother 2005 ; 11 : 152-159 .
- 3) Araki T, Otsubo H, Makino Y, Elliott I, Iida K, Ochi A, Weiss KS, Chuang HS, Rutka TJ, Snead Iii O Carter ( <sup>1)</sup> Divisions of Neurosurgery, Neurology, Diagnostic Imaging, Department of Pediatric Imaging, The Hospital for Sick Children ): Efficacy of Dexamethasone on cerebral swelling and seizures during subdural grid EEG recording in children . Epilepsia 2006 ; 47 ( 1 ): 176-180 .
- 4) Yokobori S, Yokota H, Yamamoto Y : Pediatric Posterior Leukoencephalopathy Syndrome and NSAID-Induced Acute Tubular Interstitial Nephritis . Pediatric Neurology 2006 ; 34 : 245-247 .
- 5) Yoshida R, Aiboshi J, Koike K, Sato N, Yamamoto Y : Serum Interleukin-18 Concentrations in Burn Patients . JMAJ 2006 ; 49 ( 2 ): 55-61 .
- 6) 丸藤 哲, 射場敏明, 江口 豊, 大友康裕, 岡本好司, 小関一英, 真弓俊彦, 村田厚夫, 池田寿昭, 石倉宏恭, 上山昌史, 小倉裕司, 久志本成樹, 齋藤大蔵, 遠藤重厚, 島崎修次: 急性期DIC診断基準-多施設共同前向き試験結果報告 . 日救急医学会誌 2005 ; 16 ( 4 ): 188-202 .
- 7) 横田裕行, 柴田泰史, 辻井厚子, 山本保博, 畝本恭子, 黒川 顕, 久保田稔: 脳死症例における短潜時体性感覚誘発電位所見とその有用性: 聴性脳幹反応所見と比較して . 脳死・脳蘇生 2005 ; 17 : 24-29 .
- 8) 横田裕行, 柴田泰史, 辻井厚子, 山本保博, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院救命救急部, <sup>2)</sup> 付属病院中央検査室 ): 脳死症例における短潜時体性感覚誘発電位所見とその有用性: 聴性脳幹反応所見と比較して . 脳死・脳蘇生 2005 ; 17 ( 1 ): 24-29 .
- 9) 小井土雄一, 山本保博, 久志本成樹, 吉田竜介, 近藤久禎: 熱中症・偶発性低体温症 疾患に応じた輸液療法 . 総合臨床 2005 ; 54 ( 10 ): 2681-2986 .
- 10) 林 幹彦, 大泉 旭, 横田裕行, 川井 真, 山本保博, 布施 明: Jafferson 骨折に椎骨動脈仮性動脈瘤を合併した1例 . 日本救急医学会関東地方会雑誌 2005 ; 26 : 44-45 .
- 11) 荒木 尚, Drake J, Rutka J, Dirks P, 横田裕行, 山本保博 ( <sup>1)</sup> トロント小児病院脳神経外科 ): 小児頭部外傷の診断と治療 . 脳神経外科 2006 ; 34 ( 2 ): 135-146 .

#### (2) 座談会：

- 1) 山本保博, 平澤博之<sup>1)</sup>, 浅井康文<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学, <sup>2)</sup> 札幌医科大学医学部救急集中治療医学 ): 救急救命士の業務の拡大と変わりゆく病院前救急救助活動 . カレントセラピー 2005 ; 23 ( 7 ): 88-93 .

#### (3) 綜説：

- 1) 渥美生弘, 横田裕行: 脳血管障害; わずかな画像所見も見逃すな! . レジデントノート 2005 ; 7 ( 1 ): 44-50 .

- 2) 小井土雄一: JMTDR 特集 救急略語辞典. 救急医学 2005 ; 29 (4): 452-453 .
  - 3) 山本保博: 切り傷・刺し傷. はつらつ 2005 ; 27 (3): 10-11 .
  - 4) 横田裕行: 脳死判定と臓器提供. 臨床医 2005 ; 31 (5): 650-652 .
  - 5) 横田裕行: 大規模災害における国際緊急援助チーム. 日本医事新報 2005 ; 4229 : 59-64 .
  - 6) 桑本健太郎, 横田裕行: 視神経管骨折, 頭蓋をめぐって. Clinical Neuroscience 2005 ; 23 (5): 548-550 .
  - 7) 高島伸之助, 横田裕行, 山本保博: 日本医科大学高度救命救急センターにおける救急患者の対応, 院内救急; 今, そしてこれから. 救急医学 2005 ; 29 : 643-646 .
  - 8) 横田裕行: スマトラ沖地震津波災害における国際緊急援助医療チームの活動. 近代消防 2005 ; 533 : 36-37 .
  - 9) 小井土雄一, 吉田竜介, 木野毅彦, 佐藤憲明: 院内救急対応に有用な救急カートの内容 器具. 救急医学 2005 ; 29 (6): 710-715 .
  - 10) 吉田竜介, 小井土雄一, 山本保博: 急性肝障害. 救急医学 2005 ; 29 (7): 837-841 .
  - 11) 久志本成樹: 敗血症におけるプロカルシトニンの測定. 検査と技術 2005 ; 33 (7): 687-690 .
  - 12) 山本保博: 打撲傷. はつらつ 2005 ; 27 (4): 10-11 .
  - 13) 横田裕行: 神経原性ショック 病態と治療. 救急医学 2005 ; 20 : 765-768 .
  - 14) 小井土雄一, 山本保博, 横田裕行, 川井 真: 救急医療の教育研修 特集: 地域医療のトピックー「救急医療」を考えよう. 公衆衛生 2005 ; 69 (7): 546-548 .
  - 15) 久志本成樹: 開腹時のcritical decision. 救急医学 2005 ; 29 (8): 897-904 .
  - 16) 久志本成樹: ダメージコントロール術後の閉腹法. 救急医学 2005 ; 29 (8): 979-988 .
  - 17) 山本保博: 骨折・捻挫. はつらつ 2005 ; 27 (5): 10-11 .
  - 18) 勝野 亮, 横田裕行, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 高血圧性脳内出血に対する急性期治療. 救急医学 2005 ; 29 : 1061 .
  - 19) 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: CT 所見陰性の頭痛に腰椎穿刺, ER 救急医療の方向性を探る. 救急医学 2005 ; 29 (10): 1495-1497 .
  - 20) 小井土雄一: トリアージQ&A. 看護技術 2005 ; 51 (10): 876-877 .
  - 21) 吉田竜介, 山本保博: 事例呈示に基づくシミュレーショントレーニングについて. 救急医療ジャーナル 2005 ; 75 (13): 30-34 .
  - 22) 吉田竜介, 山本保博: 救急救命士による薬剤投与の実際と訓練方策に関して. 救急救命 2005 ; 8 (2): 12-15 .
  - 23) 山本保博: やけど. はつらつ 2005 ; 27 (6): 10-11 .
  - 24) 北原孝雄, 有賀 徹, 横田裕行: 臓器提供病院から見た移植システムのありかた; 臓器提供. 日本臨床 2005 ; 63 (11): 2037-2046 .
  - 25) 山本保博: 家族が倒れた時の対処法. IPPO 2005 ; 3 (5): 70-71 .
  - 26) 山本保博: のどの詰まり・誤飲. はつらつ 2006 ; 28 (1): 10-11 .
  - 27) 山本保博: 腹痛・胃痛. はつらつ 2006 ; 28 (2): 10-11 .
- (4) 巻頭言:
- 1) 山本保博: 地震, 雷, 火事, オヤジ. 救急救命 2005 ; 8 (1): 7-7 .
  - 2) 山本保博: 日本集団災害医学会理事長に就任して. 日本集団災害医学会誌 2005 ; 10 (1): 0-0 .
  - 3) 山本保博: 最近の頻発化・激甚化する災害の医療対応策. ぼうさい 2005 ; 30 : 2-2 .
- (5) Editorial :
- 1) Yamamoto Y : Tendency for Increasing Severity of Natural Disasters and the Indian Ocean Tsunami Disaster . Japan Medical Association Journal 2005 ; 48 (7): 325-325 .
- (6) Regular Articles :
- 1) Hirata K<sup>1,2)</sup>, Matsumoto Y<sup>2)</sup>, Ohno K<sup>2)</sup>, Hirano M<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pharmacy, Nippon

Medical School, <sup>2)</sup> Department of Clinical Pharmacology and Toxicology, Showa Pharmaceutical University, <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School): Pharmacokinetics of Midazolam in Critically Ill Patients Receiving Continuous Hemodiafiltration using a Polymethy1 Methacrylate and/or Polysulfone Membrane. . Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2005 ; 31 (2): 99-104 .

(7) 症例報告 :

- 1) Chin T<sup>1,2)</sup>, Sakata Y<sup>2)</sup>, Amenomori S<sup>2)</sup>, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School): The Use of a Bioabsorbable Bone Pin Fixation for Nasal Fractures. J Nippon Med Sch 2005 ; 72 (3): 179-181 .
- 2) Yokobori S, Yokota H, Yamamoto Y : Pediatric Posterior Reversible Leukoencephalopathy Syndrome and NSAID-Induced Acute Tubular Intertitial Nephritis. Pediatric Neurology 2006 ; 34 (3): 245-247 .
- 3) 猪鹿倉恭子, 馬場千晶, 牧 真彦, 上田康晴, 望月 徹, 黒川 顕, 横田裕行, 山本保博: 中心性脊髄損傷に伴う椎骨動脈損傷による小脳梗塞の1例. 日本神経救急学会雑誌 2005 ; 18 : 39-41 .
- 4) 直江康孝, 志賀尚子, 北橋章子, 横田裕行, 猪鹿倉恭子: 救急室緊開頭血腫除去術を施行した2症例. 日本神経救急学会雑誌 2005 ; 18 : 58-61 .
- 5) 白石振一郎, 横田裕行, 山本保博: 感染源同定に苦慮した敗血症性ショックの1例: 敗血症治療のガイドライン. 日医大医学会誌 2005 ; 1 (3): 135-139 .
- 6) 横堀将司, 小井土雄一, 青木 健<sup>1)</sup>, 鶴田広樹<sup>1)</sup>, 山本保博 (<sup>1)</sup> 東京消防庁救急部救急管理課): ガス爆発事故における東京DMATの活動報告. 日本集団災害医学会雑誌 2005 ; 10 (1): 19-23 .
- 7) 畝本恭子, 牧 真彦, 上笠 宙, 望月 徹, 横山裕行, 黒川 顕, 山本保博: 遠隔部より動脈性出血を来した急性硬膜下血腫の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2005 ; 26 : 92-93 .

(8) 研究報告書 :

- 1) 山本保博, 浅井康文<sup>1)</sup>, 滝口雅博<sup>2)</sup>, 田中秀治<sup>3)</sup>, 野口 宏<sup>4)</sup>, 石井 昇<sup>5)</sup>, 谷川攻<sup>6)</sup>, 郡山一明<sup>7)</sup>, 高山隼人<sup>8)</sup>, 吉田竜介 (<sup>1)</sup> 札幌医科大学救急集中治療部, <sup>2)</sup> 健康保険青森健康管理センター, <sup>3)</sup> 国土館大学体育学部, <sup>4)</sup> 愛知医科大学, <sup>5)</sup> 神戸大学大学院医学系研究科, <sup>6)</sup> 広島大学大学院医歯薬学総合研究科, <sup>7)</sup> (財) 救急振興財団救急救命九州研修所, <sup>8)</sup> 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター): 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書 2005 .
- 2) 山本保博, 大友康裕<sup>1)</sup>, 明石真言<sup>2)</sup>, 岡部信彦<sup>3)</sup>, 奥村 徹<sup>4)</sup>, 郡山一明<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構東京災害医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 独立行政法人放射線医学総合研究所緊急被ばく医療センター被ばく医療部, <sup>3)</sup> 国立感染症研究所感染症情報センター, <sup>4)</sup> 順天堂大学救急・災害医学研究室, <sup>5)</sup> (財) 救急振興財団救急救命九州研修所): 厚生労働科学研究費補助金厚生労働特別研究「NBC災害・テロ対応のシミュレーションと標準的対応に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書. 厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」平成17年度総括・分担研究報告書 2005 .
- 3) Ohshige K<sup>1)</sup>, Shimazaki S<sup>2)</sup>, Hirasawa H<sup>3)</sup>, Nakamura M<sup>3)</sup>, Kin H<sup>4)</sup>, Fujii C<sup>5)</sup>, Okuchi K<sup>6)</sup>, Yamamoto Y<sup>7)</sup>, Akashi K<sup>8)</sup>, Takeda J<sup>9)</sup>, Hanyuda T<sup>10)</sup>, Tochikubo O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Public Health, Yokohama City University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Chiaba University Graduate School of Medicine, <sup>4)</sup> Funabashi Municipal Medical Center, <sup>5)</sup> Senri Critical Care Medical Center, <sup>6)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nara Medical University, <sup>7)</sup> Department of Emer-

gency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>8)</sup> St. Marianna University, School of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Anesthesiology, School of Medicine, Keio University, <sup>10)</sup> Japan Medical Association): Evaluation of out-of-hospital cardiopulmonary resuscitation with resuscitative drugs: a prospective comparative study in Japan. Resuscitation 2005; 66: pp53-61.

## 著書

- 1) 山本保博, 吉田竜介: [監修] BLSインストラクターガイド. BLSインストラクターガイド(総監修: 山本保博, 技術監修: 吉田竜介), 2005; 財団法人東京救急協会.
- 2) 横田裕行: [分担] 脳神経外科救急と臓器提供. 脳神経外科体系第5巻脳神経外科救急(山浦晶総編集), 2005; pp416-417, 中山書店.
- 3) 横田裕行: [分担] 頭部外傷. 実践外傷初療学, 2005; pp191-204, 永井書店.
- 4) 小関一英, 久志本成樹: [監訳協力] 外傷患者の初期診療. エビデンスに基づくアプローチ, 2005; メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 5) 久志本成樹: [翻訳] 鈍的腹部外傷. 外傷患者の初期診療. エビデンスに基づくアプローチ(小関一英), 2005; pp46-56, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 6) 山本保博: [監修] 第27回救急救命士国家試験問題回答・解説集. 第27回救急救命士国家試験問題回答・解説集, 2005; へるす出版.
- 7) 吉田竜介, 山本保博: [自著] BLSとAED. 臨床スポーツ医学, 2005; pp865-875, 文光堂.
- 8) 吉田竜介, 山本保博: [自著] 人工呼吸と心臓マッサージ: 2000年に心肺蘇生法の手順が変わった. 治療, 2005; pp2081-2087, 南山堂.
- 9) 横田裕行: [分担] 熱中症. きょうの健康, 2005; pp50-53, 日本放送出版協会.
- 10) 横田裕行: [分担] けがと出血. きょうの健康, 2005; pp54-57, 日本放送出版協会.
- 11) 横田裕行: [分担] 水の事故. きょうの健康, 2005; pp58-62, 日本放送出版協会.
- 12) 林 幹彦, 横田裕行: [分担] 外傷患者の重症度スコアリング「改訂外傷スコア」とは何? ナーシングケア Q&A. 全科に必要なクリティカルケア(岡元和文編集), 2005; pp64-66, 総合医学社.
- 13) 横田裕行: [分担] 頭部外傷患者の治療. 第11回脳神経外科看護教育研修会テキスト, 2005; pp3-1-3-9, 日本脳神経財団.
- 14) 辻井厚子: [分担] VI. 頻度の高い症状の診断と対処 5. 失神. 救急研修標準テキスト(日本救急医学会), 2005; pp194-198, 医学書院.
- 15) 田邊晴山: [分担] 救急画像カンファランス QandA. 救急医学, 2005; pp989-991, へるす出版.
- 16) 杉浦和朗, 横田裕行: [分担] 頭蓋・脳外傷・神経外傷. 脳神経外科大系(山浦晶総編集), 2005; pp151-171, 中山書店.
- 17) 山本保博: [監修] 救急医療の基本と実際: 小児, 新生児, 高齢者. 救急医療の基本と実際: 小児, 新生児, 高齢者(監修), 2005; 荘道社.
- 18) 林 幹彦<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>会津中央病院救命救急センター): [分担] 第1章事故編: Case7: プレス機に指を挟まれた. シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル1(事故・事件・アウトドア編), 2005; pp49-53, 羊土社.
- 19) 林 幹彦<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>会津中央病院救命救急センター): [分担] 第2章事件編: Case17: 夜間に第5指を切断したやくざが来た. シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル1(事故・事件・アウトドア編), 2005; pp111-114, 羊土社.
- 20) 林 幹彦<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>会津中央病院救命救急センター): [分担] 第3章アウトドア編: Case30: テニスをしていた転倒して肘をついた. シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル1(事故・事件・アウトドア編),

- 2005 ; pp174-178 , 羊土社 .
- 21) 横田裕行 : [ 分担 ] スリランカ津波災害に対する緊急医療支援 : スリランカ国への対応を中心に . 災害医療を考える ( いざという時にあわてないために ) ( 東久留米医師会 ) , 2005 ; pp3-12 , 東久留米医師会 .
- 22) 山本保博 : [ 監修 ] 第28回救急救命士国家試験問題回答・解説集 . 第27回救急救命士国家試験問題回答・解説集 , 2005 ; へるす出版 .
- 23) 横堀将司 , 横田裕行 : [ 分担 ] 頭部外傷 周術期の輸液・輸血療法 . 麻酔科診療プラクティス ( 稲田英一編集 ) , 2005 ; pp170-171 , 文光堂 .
- 24) 大泉 旭 , 川井 真 : [ 分担 ] 第1章 事故編 Case 2 転倒して右手をついた少年 . シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル1 ( 千代孝夫 ) , 2005 ; pp19-23 , 羊土社 .
- 25) 横田裕行 : [ 分担 ] 神経系の障害 . アトラス応急処置マニュアル原書第8版 ( 監訳 : 山本保博 , 黒川 顕 ) , 2005 ; pp175-188 , 南江堂 .
- 26) 横田裕行 : [ 分担 ] 異物 . アトラス応急処置マニュアル原書第8版 ( 監訳 : 山本保博 , 黒川 顕 ) , 2005 ; pp209-216 , 南江堂 .
- 27) 横田裕行 : [ 分担 ] 救命救急処置 . アトラス応急処置マニュアル原書第8版 ( 監訳 : 山本保博 , 黒川 顕 ) , 2005 ; pp251-280 , 南江堂 .
- 28) 山本保博 : [ 監訳 ] アトラス応急処置マニュアル原書第8版 ( 監訳 : 山本保博 , 黒川 顕 ) , 2005 ; 南江堂 .
- 29) 久志本成樹 : [ 分担 ] 外傷性気胸・外傷性血胸 . 今日の治療指針2006年版 ( 山口 徹 , 北原光夫 , 福井次矢 ) , 2006 ; pp39-40 , 医学書院 .
- 30) 山本保博 : [ 企画編集 ] 映像で学ぶACLSトレーニング . 映像で学ぶACLSトレーニング , 2006 ; へるす出版 .
- 31) 山本保博 , 中谷壽男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>関西医科大学救急医学科) : [ 分担 ] 急性中毒 . 今日の治療指針2006 , 2006 ; pp1179-1208 , 医学書院 .
- 32) 川井 真 : [ 分担 ] 減圧切開術 . 今日の治療指針 , 2006 ; pp94-95 , 医学書院 .
- 33) 川井 真 : [ 共著 ] 熱傷 . 整形外科診療実践ガイド , 2006 ; pp161-162 , 文光堂 .
- 34) 川井 真 : [ 分担 ] 凍傷 . 整形外科診療実践ガイド , 2006 ; pp163-164 , 文光堂 .
- 35) 川井 真 : [ 分担 ] 電撃傷 . 整形外科診療実践ガイド , 2006 ; pp166-168 , 文光堂 .
- 36) 川井 真 : [ 分担 ] 播種性血管内凝固症候群 . 整形外科診療実践ガイド , 2006 ; pp177-178 , 文光堂 .
- 37) 久志本成樹 , 山本保博 : [ 分担 ] 肺血栓塞栓症 / 深部静脈血栓症の予防対策 . 救急医学領域 . 静脈血栓塞栓症ガイドブック ( 小林隆夫 ) , 2006 ; pp151-171 , 中外医学社 .
- 38) 宮内雅人 : [ 執筆 ] 治療編 . 救急治療・薬剤ハンドブック第2版 ( 山本保博 ) , 2006 ; じほう .
- 39) 山本保博 : [ 総合監修 ] 診療科医薬品集 : 救急治療・薬剤ハンドブック第2版 . 診療科医薬品集 : 救急治療・薬剤ハンドブック第2版 , 2006 ; じほう .
- 40) 横田裕行 : [ 分担 ] 18 外傷 熱傷 . 管理栄養士合格指導講座実践編 臨床栄養学 Lesson , 2006 ; pp128-131 , U-CAN .
- 41) 小井土雄一 : [ 分担 ] 出血の手当て . 家庭の安全・安心 : 暮らしの危機管理マニュアル (( 財 ) 全国危険物安全協会 ) , 2006 ; p144 , 時事通信社 .
- 42) 小井土雄一 : [ 分担 ] けがの手当て . 家庭の安全・安心 : 暮らしの危機管理マニュアル (( 財 ) 全国危険物安全協会 ) , 2006 ; p145 , 時事通信社 .
- 43) 小井土雄一 : [ 分担 ] やけどの手当て . 家庭の安全・安心 : 暮らしの危機管理マニュアル (( 財 ) 全国危険物安全協会 ) , 2006 ; p146 , 時事通信社 .
- 44) 小井土雄一 : [ 分担 ] 熱中症の手当て . 家庭の安全・安心 : 暮らしの危機管理マニュアル (( 財 ) 全国危険物安全協会 ) , 2006 ; p147 , 時事通信社 .
- 45) 小井土雄一 : [ 分担 ] のどに異物がつまったときの手当て . 家庭の安全・安心 : 暮らしの危機管理マニュアル

((財)全国危険物安全協会), 2006 ; p149, 時事通信社 .

46) 川井 真 : [分担] 直達牽引 . 救急医学, 2006 ; pp341-343, へるす出版 .

47) 小原良規, 川井 真 : [共著] 犬の散歩中に引っ張られて倒れた . シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル2, 2006 ; pp19-23, 羊土社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 山本保博 : 救急医療領域における高気圧療法の現状と課題について . 第5回日本高気圧環境医学会関東地方会総会・学術集会, 2005 . 6 .
- 2) 山本保博 : 進化の歪みから考える怪我と病気 : ダーウィン医学と救急医療 . 第一回クリティカルケアセミナー, 2005 . 6 .
- 3) 山本保博 : 進化の歪みから考えるケガと病気 . 第14回青森救急医学会総会, 2005 . 9 .
- 4) 山本保博 : 一般市民の電気ショック器を用いた心肺蘇生法の普及 . 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部救急講演会, 2005 . 9 .
- 5) 山本保博第3回沖縄県敗血症治療研究会 : 21世紀の救急医療と災害医療 : その最前線 . 2005 . 10 .
- 6) 山本保博 : NBC災害に対する初期医療対応について : ハブ空港における準備は出来ているのか . 成田NBCテロリズム対策研究会, 2005 . 11 .

### (2) 招待講演 :

- 1) 横田裕行 : 臓器提供と脳死 . 移植医療勉強会, 2005 . 4 .
- 2) 横田裕行 : いま私たちがなすべきこと : 移植医療を広めるために . 第23回日本呼吸器外科学会総会市民公開講座, 2005 . 6 .
- 3) 横田裕行 : スマトラ沖地震津波災害の緊急医療支援 : スリランカ国への対応を中心に . 東久留米医師会創立30周年記念講演会, 2005 . 6 .
- 4) 横田裕行 : 脳死メカニズムと脳死判定 . 第4回JATCO総合研修会, 2005 . 9 .
- 5) 横田裕行 : 脳死と臓器提供 . 第3回青森県における臓器提供に関する提供施設懇話会, 2005 . 11 .
- 6) 横田裕行 : 救急医療と臓器提供 . 第8回熊本移植医療研究会, 2005 . 12 .
- 7) 久志本成樹 : 重症敗血症をどう治療する : 敗血症に伴うショックと凝固異常に対するアプローチ . 平成17年度第6回長崎県病院薬剤師会学術講演会, 2006 . 3 .
- 8) 荒木 尚 : 小児頭部外傷の診断と治療 . 小児集中治療ワークショップ, 2006 . 11 .
- 9) 荒木 尚 : トロント小児病院における小児重症頭部外傷の診断と治療 . 国立成育医療センター講演会, 2006 . 11 .

### (3) 教育講演 :

- 1) 横田裕行 : 海外医療援助 スリランカ津波災害から学ぶもの . 平成17年度防衛医学セミナー第51回防衛衛生学会, 2006 . 2 .
- 2) 久志本成樹 : 急性期病態におけるDICの捉え方と新しい診断基準 . 城北地区急性期治療フォーラム, 2006 . 3 .

### (4) 基調講演 :

- 1) 山本保博 : 安全・安心な街づくりのための心肺蘇生法とAEDの普及 . 日本救急医療財団AED普及・啓発シンポジウム, 2005 . 9 .
- 2) 山本保博 : 使いやすいAEDの設置と利用の手引き . 日本救急医療財団AED普及・啓発シンポジウム, 2006 . 1 .

### (5) シンポジウム :

- 1) Oizumi A, Kawai M, Kushimoto S, Yamamoto Y : Lumbar Burst Fractures Treated with Combined Anterior and Posterior Surgery . The 6th Combined Congress of Spine & Pediatric Orthopaedic Sections, APOA ( Taipei, Taiwan ), 2005 . 11 .

- 2) 山本保博, 横田裕行, 小井土雄一, 久志本成樹: 脳死下臓器提供の定着: 救急医療の立場から. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
  - 3) 横田裕行, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 園生雅生<sup>1)</sup>, 北原孝雄<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 布施 明<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>臓器提供施設内における脳死判定に関する研究班 ): 脳幹機能評価のための短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) 想定法. 第18回日本脳死・脳蘇生学会, 2005. 6.
  - 4) 大泉 旭, 川井 真, 原 義明<sup>1)</sup>, 林 幹彦, 山本保博, 伊藤博元<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院整形外科 ): Modified Stoppa approach で手術を行った寛骨臼骨折症例の検討. 第31回日本骨折治療学会, 2005. 7.
  - 5) 横田裕行, 勝野 亮, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 久志本成樹, 畝本恭子, 小井土雄一, 川井 真, 黒川 顕, 山本保博, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院中央検査室, <sup>2)</sup>多摩永山病院中央検査室 ): 短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) を用いた脳幹機能評価: 聴性脳幹反応 (ABR) と比較して. 第20回日本救命医療学会総会, 2005. 9.
  - 6) 吉田竜介, 小井土雄一, 久志本成樹, 相星淳一, 横田裕行, 山本保博: 事後検証制度開始後に改善された救急医療体制に関して. 第33回日本救急医学会総会, 2005. 10.
  - 7) 横田裕行, 猪鹿倉恭子, 佐藤秀貴, 布施 明, 荒木 尚, 渥美生弘, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 山本保博, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科 ): 頭部複合外傷における Doctor Ambulance システムの意義: 防ぎ得る外傷死 (preventable trauma death) 回避へ. 第64回日本脳死神経外科総会, 2005. 10.
  - 8) 久志本成樹: 3例の法的脳死判定に基づく臓器提供施設としての経験から. 平成17年度 中日本支部北陸ブロック臓器提供に関する懇談会, 2005. 11.
  - 9) 久志本成樹: アンチトロンピンIII/活性化プロテインC治療のガイドライン. 第28回日本血栓止血学会, 2005. 11.
  - 10) 大泉 旭, 川井 真, 原 義明, 小原規良, 小柳正雄, 長谷川英寿, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup>付属病院整形外科 ): 寛骨臼骨折に対する Modified Stoppa approach による整復固定の検討. 第32回日本股関節学会, 2005. 11.
  - 11) 横田裕行, 猪鹿倉恭子, 佐藤秀貴, 布施 明, 直江康孝, 荒木 尚, 渥美生弘, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 頭部外傷を含む多発外傷における doctor ambulance (DA) システムの意義: preventable trauma death 回避へ向けて. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 横田裕行, 高島伸之助, 勝野 亮, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 辻井厚子, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 吉田竜介, 山本保博: 3次救急医療施設における新研修医向け神経救急系教育の問題点. 第33回日本救急医学会, 2005. 10.
- (7) セミナー:
- 1) Oizumi A: Treatment of Peritrochanteric Femoral Fractures. Masters Fracture Forum (Dana Point, California, USA), 2005. 5.
  - 2) 久志本成樹: DICの概念の変化と急性期病態における新しいDIC診断基準. DIC seminar, 2005. 9.
  - 3) 久志本成樹: 十二指腸損傷に対する pyloric exclusion. 第3回外傷外科手術手技研究会, 2005. 4.
  - 4) 久志本成樹: 大動脈損傷の手術. 第4回外傷外科手術手技研究会, 2005.
- (8) ランチョンセミナー:
- 1) 山本保博, 小井土雄一, 横田裕行: 自然災害 (地震・津波) と旅行医学. 日本旅行医学会第4回大会, 2005. 4.
  - 2) 横田裕行: スマトラ沖地震津波災害から学ぶもの: スリランカ国への対応を中心に. 第53回日本職業・災害学会学術集会, 2005. 11.
- (9) ワークショップ:
- 1) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 当院の Domestic Air Rescue 患者受け入れの現状 『救急医療と自衛隊』. 第33回日本救急医学会総会, 2005. 10.
  - 2) 杉田正夫<sup>1)</sup>, 貫井英明<sup>1)</sup>, 小川 彰<sup>2)</sup>, 嘉山孝正<sup>3)</sup>, 畑沢 順<sup>4)</sup>, 中川原譲二<sup>5)</sup>, 永広信治<sup>6)</sup>, 横田裕行, 佐々



- 木真理<sup>7)</sup>, 和田 司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>山梨大学医学部脳神経外科,<sup>2)</sup>岩手医科大学医学部脳神経外科,<sup>3)</sup>山形大学医学部脳神経外科,<sup>4)</sup>大阪大学医学部トレーサー医学,<sup>5)</sup>中村記念病院脳神経外科,<sup>6)</sup>徳島大学医学部脳神経外科,<sup>7)</sup>岩手医科大学医学部放射線科): 脳死診断における脳血流検査の意義. 第64回日本脳神経外科総会, 2005. 10.
- 3) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 当院のDomestic Air Rescue患者の受入れ状況. 第33回日本救急医学会, 2005. 10.
- 4) 小井土雄一, 山本保博, 島田 靖, 中田敬司, 中江竜太: 災害時等における救急救命士の効果的な活用について. 第11回日本集団災害医学会総会, 2006. 2.
- 5) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部): 多発外傷を伴う頭部外傷における予後不良因子. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.
- 6) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部): 脳ヘルニアを来たしながら短時間に自然消失した小児急性硬膜下血腫の1例. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.
- (10) 一般講演:
- 1) Koido Y: Activities of Japanese Disaster Relief Team Against the Tsunami Disaster in the Indian Ocean. 14th World Congress for Disaster and Emergency Medicine (Edinburgh, Scotland), 2005. 5.
- 2) Koido Y: Evaluation of the usefulness of the fiberscope for confirmation of intubation. Airway2005 first international symposium on airway management in the adult, child and newborn (Padova, Italy), 2005. 6.
- 3) Araki T, Otsubo H, Ochi A, Makino Y, Irene E, Weiss S, Chang S, James R, O Snead Carter: The Efficacy of Dexamethasone on cerebral swelling and seizures during subdural grid EEG recording in children. The 33rd annual meeting of International Society for Pediatric Neurosurgery (Vancouver, Canada), 2005. 10.
- 4) Koido Y: Disaster Management in Japan. 37th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health & 2005 Asia Pacific Health Forum (Taipei, Taiwan), 2005. 11.
- 5) 勝野 亮, 横堀将司, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋内疾患におけるT細胞性免疫と脳代謝の関係. 日本臨床救急医学会, 2005. 4.
- 6) 小井土雄一, 吉田竜介, 横田裕行, 山本保博, 天ヶ谷三也<sup>1)</sup>, 青木 健<sup>1)</sup>, 鶴田広樹<sup>1)</sup>, 鶴田健二<sup>1)</sup>, 金子邦清<sup>2)</sup>, 小幡佳寛<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京消防庁,<sup>2)</sup>ペンタックス株式会社): 挿管確認用ファイバースコープの有用性についての検討. 第8回日本臨床救急医学会総会, 2005. 4.
- 7) 久志本成樹, 山本保博, 小井土雄一, 相星淳一, 小川太志, 加茂 潤: 重症感染症における血清トロンボエチンレベルは血小板数, 炎症性メディエーターと相関する. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 8) 久志本成樹, 小川太志, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 鈍的胸部大動脈損傷に対するPCPS補助下人工血管置換術. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.
- 9) 久志本成樹, 小川太志, 加茂 潤, 田邊晴山, 白石振一郎, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: Open abdominal managementを要する症例ではいつまで定型的閉腹が可能か. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.
- 10) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 山本保博, 里村慎二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部,<sup>2)</sup>和光純薬工業臨薬研究開発本部): テロイド投与症例におけるプロカルシトニン値と重症度との関連性について. 第54回日本医学検査学会, 2005. 5.
- 11) 勝野 亮, 高島伸之助, 横堀将司, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 頭部外傷後塩類喪失症候群を呈した3例. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.
- 12) 相星淳一, 塚本剛志, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博(<sup>1)</sup>東北大学救急部): Liposome Encapsulated Hemoglobinは出血性ショック後の腸間膜リンパ節中のCINC-1を軽減する. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.

- 13) 大泉 旭, 川井 真, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>2)</sup>, 山崎亮一<sup>3)</sup>, 林 幹彦, 伊藤博元<sup>4)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院整形外科): 一期的髄内釘固定は長管骨開放骨折の標準的治療になり得るか. 第78回日本整形外科学会学術総会, 2005. 5.
- 14) 田邊晴山: 遅発性の再出血をきたした, 肝動脈門脈シャントを伴った肝外傷の1例. 第19回日本外傷学会, 2005. 5.
- 15) 久志本成樹, 小川太志, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: Open abdomenに対する早期閉創・閉腹法: 両側腹直筋鞘前葉反転法の有用性. 第30回日本外科系連合学会学術集会, 2005. 6.
- 16) 岩本直高, 春田周宇介, 小川太志, 加茂 潤, 高島伸之助, 勝野 亮, 横堀将司, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 覚醒剤 (amphetamine) 服用が誘因となり脳出血を生じた症例. 第19回日本神経救急学会学術集会, 2005. 6.
- 17) 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博: 管理に難渋した脳低体温療法後 Lance-Adams 症候群の1例. 第18回日本脳死・脳蘇生学会, 2005. 6.
- 18) 田邊晴山: 当院での熱傷の治療を通しての国際協力. 日本熱傷学会, 2005. 6.
- 19) 中江竜太, 渥美生弘, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 左側頭葉底部に T2WI 高信号域を認めた一酸化炭素中毒の1例. 第27回日本中毒学会総会・学術集会, 2005. 7.
- 20) 勝野 亮, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋内疾患における免疫反応と脳代謝の関係. 第11回日本脳代謝モニタリング研究会, 2005. 7.
- 21) 久志本成樹, 小川太志, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: Open abdomenに対する早期閉創・閉腹における両側腹直筋鞘前葉反転法の有用性. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 22) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup>, 久志本成樹, 山本保博<sup>(1)</sup> 付属病院中央検査部, <sup>2)</sup> 内科学第1): 細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の有用性について. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 23) 久志本成樹, 芦刈淳太郎<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup>, 石松伸一<sup>3)</sup>, 大庭正敏<sup>4)</sup>, 唐沢秀治<sup>5)</sup>, 田中秀治<sup>6)</sup>, 西山謹吾<sup>7)</sup>, 広瀬保夫<sup>8)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 日本臓器移植ネットワーク東日本支部, <sup>2)</sup> 昭和大学救急医学, <sup>3)</sup> 聖路加国際病院救命救急センター, <sup>4)</sup> 古川市立病院救命救急センター, <sup>5)</sup> 船橋市立医療センター脳神経外科, <sup>6)</sup> 杏林大学医学部救急医学, <sup>7)</sup> 高知赤十字病院救命救急センター, <sup>8)</sup> 新潟市民病院救命救急センター): 脳死下臓器提供手続きにおける医療費請求上の問題点. 第33回日本救急医学会総会・学術集会, 2005. 10.
- 24) 宮内雅人, 平田清貴, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 当院における服薬中毒による自殺企図患者の現状. 第33回日本救急医学会総会, 2005. 10.
- 25) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup>, 久志本成樹, 山本保博<sup>(1)</sup> 付属病院中央検査部, <sup>2)</sup> 内科学第1): 外傷患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値の変動. 第33回日本救急医学会総会, 2005. 10.
- 26) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>, James R<sup>2)</sup>, James D<sup>2)</sup>, Peter D<sup>2)</sup>, Robin H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup> The Hospital for Sick Children, Division of Neurosurgery): トロント小児病院における小児頭部外傷の診断と治療. 第64回日本脳神経外科学会総会, 2005. 10.
- 27) 永井周子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻健康情報学分野): スマトラ沖地震津波災害インドネシア津波災害救援, 国際緊急援助隊医療チーム活動報告. 日本公衆衛生学会, 2005. 10.
- 28) 勝野 亮, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋内疾患における免疫応答. 第64回日本脳神経外科学会, 2005. 10.
- 29) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 志賀尚子<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>4)</sup>, 二宮宣文<sup>2)</sup>, 横田裕行, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部, <sup>2)</sup> 多摩永山病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 脳神経外科学): 多発外傷を伴う頭部外傷症例に対する救急体制: 当院における初療体制について. 第64回日本脳神経外科総会, 2005. 10.
- 30) 宮内雅人, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 当院における服薬中毒による自殺企図患者の現状と

対応．第33回日本救急医学会，2005．10．

- 31) 塚本剛志，相星淳一，小池 薫<sup>1)</sup>，久志本成樹，小井土雄一，吉田竜介，川井 真，横田裕行，小関一英<sup>2)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>東北大学付属病院救急部，<sup>2)</sup>川口市立医療センター救命救急センター): 出血性ショック後の腸間膜リンパ液に存在する炎症性メジエータ検討．第33回日本救急医学会，2005．10．
- 32) 柴田泰史<sup>1)</sup>，飯野幸永<sup>1)</sup>，里村克章<sup>2)</sup>，久志本成樹，山本保博<sup>(1)</sup>付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>内科学第1): 外傷患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)上昇の背景には骨格筋傷害が関与する．第45回日本臨床化学学会年会，2005．11．
- 33) 田邊晴山，小川太志，久志本成樹，小井土雄一，横山裕行，山本保博：完成 重症肺動脈血栓・塞栓症に対するPCPSの適応．第36回過大侵襲研究会，2005．11．
- 34) 久志本成樹，小井土雄一，川井 真，横田裕行，吉田竜介，山本保博：ステロイド投与症例における細菌感染症重症度診断の指標としてのプロカルシトニン測定の有用性．第16回バイオメディカルフォーラム，2005．12．
- 35) 荒木 尚，大坪 宏，越智文子，牧野祐子，Irene E，Chang S，Weiss S，James R，O Snead Carter：The Efficacy of Dexamethasone on cerebral swelling and seizures during subdural grid EEG recording in children．日本てんかん外科学会，2006．1．
- 36) 横田裕行，高山泰広，渥美生弘，荒木 尚，佐藤秀貴，山本保博，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 3次救急医療施設における神経系救急医療教育の問題点：特に新研修医制度に関して．第11回日本脳神経外科救急医学会，2006．1．
- 37) 勝野 亮，渥美生弘，佐藤秀貴，横田裕行，山本保博，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋低骨折に伴い両側外転神経麻痺を来した症例．第11回日本脳神経外科救急医学会，2006．1．
- 38) 雨森俊介，神田倫秀，渥美生弘，久志本成樹，小井土雄一，山本保博：遅発性後腹膜気腫を合併した気管支喘息患者の多発外傷の1例．日本救急医学会関東地方会，2006．2．
- 39) 宮内雅人，久志本成樹，小井土雄一，横田裕行，川井 真，山本保博：治療に難渋したA型劇症肝炎の1例．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．
- 40) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>1)</sup>，林田眞喜子<sup>2)</sup>，仁平 信<sup>2)</sup>，宮内雅人<sup>3)</sup>，菊池有道<sup>1)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>法医学教室): 当院高度救命救急センターにおける急性中毒の検討．第20回日本中毒学会東日本地方会，2006．2．
- 41) 宮内雅人，平田清貴<sup>1)</sup>，小井土雄一，横田裕行，川井 真，山本保博<sup>(1)</sup>付属病院薬剤部): 内視鏡を利用した胃洗浄が奏効したとおもわれるアセトアミノフェン大量服用の1例．第20回日本中毒学会東日本地方会，2006．2．
- 42) 渥美生弘，横田裕行，佐藤秀貴，荒木 尚，高山泰広，高嶋伸之助，山本保博：3次救命救急センターにおける脳神経外科専門医資格を有する救急医の意義．第29回日本神経外傷学会，2006．3．
- 43) 久志本成樹，小川太志，相星淳一，小井土雄一，吉田竜介，横田裕行，山本保博：Open abdomenに対して定型的筋膜閉鎖による閉腹はいつまで可能か．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．
- 44) 荒木 尚，横田裕行，山本保博，James R<sup>1)</sup>，James D<sup>1)</sup>，Robin H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Hospital for Sick Children): 小児脊椎髄外傷診断のピットフォール．第29回日本神経外傷学会，2006．3．
- 45) 久志本成樹，小川太志，相星淳一，小井土雄一，吉田竜介，横田裕行，山本保博：Open abdomenに対する早期閉鎖・閉腹における両側腹直筋鞘前葉反転の有用性．第42回日本腹部救急医学会，2006．3．
- 46) 高山泰広，横田裕行，佐藤秀貴，荒木 尚，渥美生弘，高嶋伸之助，寺本 明<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，吉田洋一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>脳神経外科学): 外傷性内頸動脈瘤の1例．第29回日本神経外傷学会，2006．3．
- 47) 渥美生弘，横田裕行，佐藤秀貴，荒木 尚，高山泰広，高嶋伸之助，山本保博：3次救命救急センターにおける脳神経外科専門医資格を有する救急医の意義．第29回日本神経外傷学会，2006．3．
- 48) 荒木 尚，高嶋伸之助，高山泰広，渥美生弘，佐藤秀貴，横田裕行，山本保博，Rotka JT<sup>1)</sup>，Grake JM<sup>1)</sup>，Dirkes PB<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>トロント小児病院脳神経外科): 小児脊椎髄損傷の診断におけるピットフォール．第29回日本

神経外傷学会，2006．3．

- 49) 尾本健一郎，小川太志，雨森俊介，田邊晴山，久志本成樹，小井戸雄一，山本保博：急性膵炎の特殊療法についての自施設ガイドライン作成の試み．第42回日本腹部救急医学会，2006．3．

(11) 講師：

- 1) 横田裕行：頭部外傷患者の治療．2005．7．
- 2) 横田裕行：AEDの普及に関する行政の対応について．平成17年度保健師等救急蘇生法指導者講習会，2005．11．
- 3) 横田裕行：病院啓発について．都道府県臓器移植コーディネーター研修会，2006．2．

(12) 診療と研究のトピックス：

- 1) 久志本成樹，小川太志，相星淳一，小井土雄一，吉田竜介，横田裕行，山本保博：Open abdomenに対する早期閉創・閉腹における両側腹直筋鞘前葉反転法の有用性．第42回日本腹部救急医学会総会，2006．3．

(13) 特別発言：

- 1) 山本保博：民間防衛の立場からみた大災害時の救出救助期対応．第9回地域防災緊急医療ネットワーク・フォーラム，2006．3．

## [ 第二病院救命救急部 ]

### 研究概要

当科に導入されている患者情報システム（電子カルテ）による重症度モニタリングに関連する研究，また，救急医療施設の方向性に関する他科との協調・協力型体制の意義，重症頭部外傷・蘇生後脳症に対する軽度脳低体温療法の有用性は引き続きなされている．さらに，他科と協力して行うDamage Control Surgeryの意義，顔面外傷診断に於ける3D-CT scanの有用性，頸髄損傷に対するNPPV（Non-invasive Positive Pressure Ventilation）導入と腹臥位による呼吸理学療法の有用性，全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害（ALI/ARDS）のCT gradeを用いた病態調査，各種薬剤のTDMの解析，WHONETというmicrobiology laboratory database software導入による院内耐性菌のlocal factorの検討，グラム染色画像のコンピューター解析と管理による診療と教育への応用など，救急医学および集中治療学と病院感染管理に於ける新しい研究が成されている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 畝本恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，牧 真彦，望月 徹，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター）：神経救急疾患におけるpreventable deathの回避への取り組み．日本救急医学会関東地方会誌 2005；26：18-22．
- 2) 上田康晴：人工呼吸管理の基本：人工呼吸器が必要な場合．Emergency Care 2005；18（5）：414-420．
- 3) 上田康晴：救急室での人工呼吸．救急室での呼吸器ケア 2005．
- 4) 上田康晴：一酸化炭素中毒患者数激増を背景として：日本における一酸化炭素中毒の疫学的変遷．中毒研究 2006．

(2) 座談会：

- 1) 黒川 顕，黒木由美子<sup>1)</sup>，島崎修次<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>財団法人日本中毒情報センターつくば中毒110番施設長，<sup>2)</sup>杏林大学医学部救急医学教授）：日常診療に役立つ急性薬物中毒の診断と治療．Current Therapy 2005；23：94-99．
- 2) 黒川 顕，坂本哲也<sup>1)</sup>，福家伸夫<sup>2)</sup>，杉田 学<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>帝京大学医学部救命救急センター，<sup>2)</sup>同市原病院救急集中治療センター，<sup>3)</sup>順天堂練馬病院救急・集中治療科）：ICU研修で求めるもの，求められるもの．臨床医 2005；31：654-665．

(3) 綜説：

- 1) 黒川 顕：救急医療の方向性を探る：大学付属病院（分院）の併設型救急．救急医学 2005；29：1236-1239．

(4) 症例報告：

- 1) 畝本恭子，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター）：遠隔部より動脈性出血を来たした急性硬膜下血腫の1例．日本救急医学会関東地方学会誌 2005；92-93．

著 書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕効果的指導のための私の工夫：「救急」の研修 - 三次救急医療施設の立場から．臨床研修指導医のためのポケットマニュアル2005（畑尾正彦），2005；羊土社．
- 2) 黒川 顕：〔分担〕第27回救急救命士国家試験解答・解説集．第27回救急救命士国家試験解答・解説集（山本保博），2005；pp3-5，へるす出版．
- 3) 黒川 顕：〔分担〕第28回救急救命士国家試験解答・解説集．第28回救急救命士国家試験解答・解説集（山本保博），2005；pp3-15，へるす出版．
- 4) 黒川 顕：〔分担〕酸・アルカリ中毒．今日の治療指針，2006；p118，医学書院．
- 5) 黒川 顕：〔分担〕中毒の標準治療：消化管除染．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；pp49-55，永井書店．
- 6) 黒川 顕：〔分担〕中毒の標準治療：血液浄化法．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；pp56-58，永井書店．
- 7) 黒川 顕：〔分担〕中毒の標準治療：強制利尿．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；pp59-60，永井書店．
- 8) 黒川 顕：〔分担〕中毒の標準治療：拮抗薬．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；p61，永井書店．
- 9) 黒川 顕：〔分担〕有毒ガス 塩素ガス．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；pp165-167，永井書店．
- 10) 黒川 顕：〔分担〕工業用品 シアンとシアン化合物．中毒症のすべて（黒川 顕），2006；pp318-321，永井書店．
- 11) 畝本恭子，横田裕行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター）：〔共著〕第5章脳卒中急性期治療の実際13：ICU管理の実際．ファーマナビゲーターシリーズ脳卒中編，2006；メディカルレビュー社．
- 12) 黒川 顕，酒井行直<sup>1)</sup>，大野 大<sup>1)</sup>，大塚智之<sup>1)</sup>，村澤恒男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属第二病院内科）：〔分担〕周術期，外傷（脳疾患患者を含む）に対する血液浄化．救急・集中治療：急性血液浄化法徹底ガイド（篠崎正博・秋澤忠男），2006；pp164-166，総合医学社．
- 13) 黒川 顕：〔監修〕救急治療・薬剤ハンドブック第2版．救急治療・薬剤ハンドブック第2版（山本保博），2006；じほう．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 上田康晴：救命医療の立場から：hANPは心不全治療薬を超えた．ハンプフォーラム in Kawasaki，2005．10．
- 2) 上田康晴：胸部外傷後にPE & 脊髄梗塞を合併した1例．第16回バイオメディカルフォーラム，2005．12．
- 3) 上田康晴：シベスタットナトリウムの投与時期による効果判定．第2回千駄木呼吸管理研究会，2006．3．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 黒川 顕：臨床研修必修化に伴う救命救急部の変化．第33回日本救急医学会総会，2005．10．

(3) ワークショップ：

- 1) 望月 徹，鷲 盛久<sup>1)</sup>，早川秀幸<sup>1)</sup>，南 正康<sup>2)</sup>，河野公一<sup>3)</sup>，富士原彰<sup>4)</sup>，白川洋一<sup>5)</sup>，黒川 顕（<sup>1)</sup>聖マリ安娜医科大学法医学教室，<sup>2)</sup>労働科学研究所，<sup>3)</sup>大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室，<sup>4)</sup>同救急医療部，<sup>5)</sup>愛媛大学医学部救急医学）：化学災害．第27回日本中毒学会，2005．7．
- 2) 黒川 顕：救急医の役割．第33回日本救急医学会総会，2005．10．

(4) 一般講演：

- 1) 唐木千晶, 上田康晴, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕：抜管時にプレセデックスが有効であった2症例．第8回日本臨床救急医学会総会, 2005．4．
- 2) 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕：CO中毒の疫学的変遷．第27回日本中毒学会総会, 2005．7．
- 3) 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕：当救命救急センターでの中毒患者について．第27回日本中毒学会総会, 2005．7．
- 4) 望月 徹, 畝本恭子, 上田康晴, 上笹 宙, 牧 真彦, 唐木千晶, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター)：救命救急医がICD(感染制御医)として救急処置室と集中治療室で感染管理を行う利点と検討すべき問題点．第33回日本救急医学総会, 2005．10．
- 5) 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕：プチ救命救急センター立ち上げにみるER方式の問題点．第33回日本救急医学会総会, 2005．10．
- 6) 上田康晴, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕：患者情報統合システム Meta Vision (FUKUDA DENSHI) を用いた救急医療教育．第33回日本救急医学会総会, 2005．10．
- 7) 上田康晴, 野口周作<sup>1)</sup>, 牧 真彦, 黒川 顕(<sup>1)</sup> 付属第二病院薬剤部)：テイコプラニン (TEIC) 大量投与の有効性とTEIC血中濃度について．第33回日本集中治療医学会総会, 2006．3．

## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設では多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷, 頭部外傷, 虚血性心疾患, 整形外科外傷, 脳血管障害, 熱傷, 薬物中毒, 災害医療と多岐にわたる患者に対してそれぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に診療にあたるとともに, 併せて各分野での臨床研究を行っている．さらに, 頭部外傷に対する軽度低体温療法, 病院前から継続して行われる救急医療システムによって救命し得た患者の蘇生後低体温療法にも積極的に取り組んでいる．また, 災害医療に関しても海外への派遣に積極的に参加している．近年では基礎実験として, エンドトキシン血症に対するPMX, 各種薬剤の有効性の研究を行っている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Ninomiya N<sup>1)</sup>, Nemoto K, Kaji M, Shiga N, Shimada Y, Yamamoto Y (<sup>1)</sup> Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences)：Regulation of the Endocannabinoid System in Endotoxemia of Conscious Guinea Pigs．日本救急医学会雑誌 2005；16(5)：218-225．

#### 著書

- 1) 加地正人：〔分担〕腹部外傷：JA TEC時代の外傷外科．2005年救急医学8月号, 2005；pp965-972, へるす出版．
- 2) 加地正人：〔分担〕肋骨骨折(フレイルチェストを含む)．2006年今日の治療指針(編集：水島 裕), 2006；pp39, 医学書院．

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション：

- 1) 加地正人：多発外傷の Modern Strategy 鈍的胸部大動脈損傷の治療：現状と課題．第19回日本外傷学会，2005．5．

### (2) 一般講演：

- 1) 加地正人，島田 靖，稲垣栄次，原 俊輔，中野渡雄一，志賀尚子，弥富俊太郎，石川秀一，二宮宣文，田中秀治：ドクターアンビュランスを開始して．第8回日本臨床救急医学会総会，2005．4．
- 2) 中野渡雄一，原 俊輔，直江康孝，加地正人，二宮宣文，久保田稔：血中濃度の異常高値を示したメラトニン中毒の1例．第8回日本臨床救急医学会総会，2005．4．
- 3) 久野将宗，加地正人，弥富俊太郎，稲垣栄次，原 俊輔，小柳正雄，玉井英世，二宮宣文：Missed injury の臍損傷の1治療例．第8回日本臨床救急医学会総会，2005．4．
- 4) 佐々木崇，久野将宗，中野渡雄一，加地正人，二宮宣文：緊急PCI後PCPSを要しVSPを併発した1治療例．第35回過大侵襲研究会，2005．4．
- 5) 久野将宗，中野渡雄一，島田 靖，直江康孝，志賀尚子，原 俊輔，加地正人，二宮宣文：脳低体温療法を施行するも対照的な経過をたどった院外Vfの2症例．第56回日本救急医学会関東地方会，2005．5．
- 6) 稲垣栄次，原 俊輔，小柳正雄，弥富俊太郎，玉井英世，加地正人，二宮宣文：Missing injury 減少に向けた Tertiary survey の実施．第19回日本外傷学会，2005．5．
- 7) 加地正人，大友康裕，久志本成樹，井上潤一，松本 尚，稲垣栄次，小井土雄一，二宮宣文，益子邦洋，辺見弘，山本保博：鈍的胸部大動脈損傷の治療と課題．第33回日本救急医学会総会，2005．10．
- 8) 久野将宗，加地正人，稲垣栄次，原 俊輔，小柳正雄，島田 靖，中野渡雄一，志賀尚子，直江康孝，二宮宣文：心タンポナーデが原因と考えられたCPAOAに関する検討．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
- 9) 石井達男，二宮宣文，曾山明美，榊原牧子，青木政幸，山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>白髭橋病院集中治療科，<sup>2)</sup>日本エマージェンシーアシスタンス，<sup>3)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：国際医療帰省搬送：急性冠症候群患者の実情．第12回日本航空医療学会総会，2005．11．
- 10) 稲垣栄次，久野将宗，原 俊輔，小柳正雄，島田 靖，中野渡雄一，志賀尚子，直江康孝，加地正人，二宮宣文：胸部ショットガン損傷の1例．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．
- 11) 二宮宣文：自爆テロにおける緊急患者搬送とボールベアリング爆弾外傷の治療．第11回日本集団災害医学会総会，2006．2．

### (3) 症例報告：

- 1) 原 俊輔，加地正人，稲垣栄次，久野将宗，島田 靖，小柳正雄，中野渡雄一，志賀尚子，直江康孝，二宮宣文：鈍的腹部外傷で卵巣損傷からDPL陽性となった2例．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．

### (4) 要旨演題：

- 1) 中野渡雄一，根本香代，志賀尚子，島田 靖，久保田稔，二宮宣文，山本保博：エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおけるポリミキシンB 固定化カラム(PMX)血液灌流およびnafamostat mesilateの効果．第10回エンドトキシン血症救命治療研究会，2006．2．

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された．その後，平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に，また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された．平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され，各種学会・研究会において活発な活動を行っている．平成13年10

月よりドクターヘリ事業を開始し、重症外傷の治療に目覚ましい効果を挙げている。研究テーマとしては、救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発、小児救急医療、多発外傷の病態生理、特に出血性ショックの病態解明、広範囲熱傷や気道熱傷の病態解明、重症骨盤骨折の病態生理の解明ならびに敗血症、SIRS、多臓器不全の病態解明、感染制御、シミュレーション医学を取り入れた救急医学教育学の研究等がある。またプレホスピタルケアの充実を目指し、北総救命会における救急隊員に対する講習会、北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Sakamoto Y, Kutsukata N, Takei K, Tomita Y, Ueno Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School ): Effectiveness of a “ Doctor-Helicopter ” System in Japan . IMAJ 2006 ; 8 : 8-11 .
- 2) Hata N, Kobayashi N, Imaizumi T, Yokoyama S, Shinada T, Tanabe J, Shiiba K, Suzuki Y, Matsumoto H, Mashiko K, Takuhiro K : Use of an Air Ambulance System Improves Time to Treatment of Patients with Acute Myocardial Infarction . INTERNAL MEDICINE 2006 ; 45 ( 2 ) : 45-50 .
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学): IIIb型肝損傷におけるDamage control surgeryの決断基準. 日外傷会誌 2005 ; 19 ( 4 ) : 329-335 .
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 阿部幸喜, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学): 腹部臓器損傷におけるDamage Control Surgery の適応と意義; TAEとの関連において. 日本腹部救急医学会雑誌 2005 ; 25 ( 7 ) : 911-916 .
- 5) 阪本雄一郎, 松本 尚, 原 義明, 工廣紀斗司, 武井健吉, 上野幸廣, 阿部幸喜, 富田祥輝, 益子邦洋: 汎発性腹膜炎に起因した敗血症性ショックに対する治療戦略についての検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2005 ; 9 ( 1 ) : 112-116 .

#### (2) 綜説：

- 1) Mashiko K : Trauma Systems in Japan : History, Present Status and Future Perspectives . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 4 ) : 194-202 .
- 2) 武井健吉, 益子邦洋: 小児外傷初期治療における診察のポイント. 小児外科 2005 ; 37 ( 2 ) : 141-145 .
- 3) 益子邦洋, 工廣紀斗司, 原 義明: 災害時救急におけるトリアージの仕方とトリアージタッグの取り扱い. 治療 2005 ; 87 ( 増刊 ) : 1044-1048 .
- 4) 益子邦洋: 重度交通事故患者の救命を可能にするドクターヘリ. アスカ21 2005 ; 14 ( 2 ) : 10-11 .
- 5) 武井健吉, 益子邦洋: SIDS. 救急医学 2005 ; 29 ( 4 ) : 488-489 .
- 6) 武井健吉, 清水直樹<sup>1)</sup>, 宮坂勝之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 国立成育医療センター救急診療科, <sup>2)</sup> 同集中治療科): PALS. 救急医学 2005 ; 29 ( 4 ) : 465-465 .
- 7) 松本 尚: AAA. 救急医学 2005 ; 29 ( 4 ) : 375-375 .
- 8) 松本 尚: ACS. 救急医学 2005 ; 29 ( 4 ) : 383-383 .
- 9) 益子邦洋: 心臓・血管. プレホスピタル・ケア 2005 ; 18 ( 3 ) : 40-45 .
- 10) 阪本雄一郎, 松本 尚: トリアージの基本とその訓練の実際. 救急医学 2005 ; 29 ( 6 ) : 726-732 .
- 11) 益子邦洋: ますます進化し続けるドイツのヘリコプター救急体制. アスカ21 2005 ; 14 ( 3 ) : 10-11 .
- 12) 益子邦洋, 原 義明, 富田祥輝: 外傷センター整備の重要性. THE BONE 2005 ; 19 ( 4 ) : 37-43 .
- 13) 松本 尚: ダメージコントロール初回手術の具体的術式. 救急医学 2005 ; 29 ( 8 ) : 973-977 .
- 14) 松本 尚: 広域医療圏をカバーするドクターヘリ常駐型外傷センター. 救急医学 2005 ; 29 ( 10 ) : 1269-1273 .
- 15) 武井健吉, 松本 尚, 益子邦洋: 救命救急センターに小児科医が勤務することの意義. 救急医学 2005 ; 29



(臨時増刊号): 1221-1225.

- 16) 益子邦洋, 松本 尚: メディカルコントロール協議会. 救急医学 2005; 29(11): 1575-1580.
- 17) 益子邦洋: 職業ドライバーが行う応急救護処置の実態と今後の課題. アスカ21 2005; 14(4): 10-11.
- 18) 武井健吉, 松本 尚, 益子邦洋, 鈴木 晋<sup>1)</sup>, 佐藤成志<sup>2)</sup>, 杉田浩一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>印西地区消防組合消防本部, <sup>2)</sup>市原市消防局, <sup>3)</sup>千葉市消防局): 正しい資器材の使い方; バック・マスク人工呼吸. プレホスピタル・ケア 2005; 18(5): 52-55.
- 19) 松本 尚, 益子邦洋: 外傷. 救急医学 2006; 30(1): 91-97.
- 20) 益子邦洋: 交通事故死亡例調査で明らかになったプレホスピタルケアの課題. アスカ21 2006; 15(1): 10-11.
- 21) 松本 尚: レトロスペクティブ・メディカル・コントロール; 検証と症例検討. ERマガジン 2006; 3(1): 33-38.
- 22) 朽方規喜, 益子邦洋: 心嚢穿刺, 心嚢開窓法. 救急医学 2006; 30(3): 290-292.

### (3) 調査・報告:

- 1) 関根和弘<sup>1)</sup>, 松本 尚, 中澤厚元<sup>2)</sup>, 血脇敏行<sup>2)</sup>, 平山芳照<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>野田市消防本部, <sup>2)</sup>印西地区消防組合消防本部, <sup>3)</sup>千葉県消防学校): 消防学校救急科におけるJPTEC™プロバイダーコースの実践. 日臨救医誌 2006; 9: 24-32.

### (4) 追加分研究報告書:

- 1) 長江啓泰<sup>1)</sup>, 石井隆之<sup>2)</sup>, 石川博敏<sup>3)</sup>, 伊藤勝利<sup>4)</sup>, 小島幸夫<sup>5)</sup>, 戸澤秀実<sup>6)</sup>, 本田克也<sup>7)</sup>, 益子邦洋, 松岡弘<sup>8)</sup>, 森 望<sup>9)</sup>, 森永教夫<sup>10)</sup>, 山ノ井利美<sup>11)</sup>, 米澤英樹<sup>12)</sup>, 和迎健二<sup>6)</sup>, 野津真生<sup>6)</sup>, 木内信仁<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学, <sup>2)</sup>警察庁交通局交通企画課, <sup>3)</sup>財団法人日本自動車研究所安全研究部, <sup>4)</sup>社団法人日本自動車工業会, <sup>5)</sup>警察庁科学警察研究所交通部, <sup>6)</sup>国土交通省自動車交通局技術安全部, <sup>7)</sup>筑波大学医学専門学群社会医学系法医学, <sup>8)</sup>芦森工業株式会社, <sup>9)</sup>国土交通省国土技術政策総合研究所, <sup>10)</sup>国土交通省道路局地方道・環境課, <sup>11)</sup>日産自動車株式会社第1車両開発本部, <sup>12)</sup>独立行政法人交通安全環境研究所): 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 平成16年度人体傷害データベース構築に係る調査・分析報告. 平成16年度 人体傷害データベース構築に係る 調査・分析報告書 2005; 1-221.
- 2) 益子邦洋, 荻野隆光<sup>1)</sup>, 猪口貞樹<sup>2)</sup>, 岡田真人<sup>3)</sup>, 野口 宏<sup>4)</sup>, 坂本照夫<sup>5)</sup>, 篠崎正博<sup>6)</sup>, 松本 尚, 大友康裕<sup>7)</sup>, 石原 晋<sup>8)</sup>, 大重賢治<sup>9)</sup>, 前川武男<sup>10)</sup>, 奥村 徹<sup>11)</sup>, 上川雄士<sup>11)</sup>順天堂大学医学部附属順天堂医院 (<sup>1)</sup>川崎医科大学救急医学, <sup>2)</sup>東海大学救急医学, <sup>3)</sup>聖隷三方原病院救命救急センター, <sup>4)</sup>愛知医科大学高度救命救急センター, <sup>5)</sup>久留米大学高度救命救急センター, <sup>6)</sup>和歌山県立医科大学救急医学, <sup>7)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター, <sup>8)</sup>県立広島病院救命救急センター, <sup>9)</sup>横浜市立大学医学部公衆衛生学, <sup>10)</sup>順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院): ドクターヘリの実態と評価に関する研究. 平成16年度厚生労働科学研究費助成(医療技術評価総合研究事業)新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究 分担研究 ドクターヘリの実態と評価に関する研究 2005; 1-105.
- 3) 松本 尚: 4. 広域医療搬送に従事する派遣医療者に要求される資質, 能力. 平成16年度厚生労働科学研究(医療技術評価総合研究事業)新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究(主任研究者 小濱啓次) 分担研究(分担研究者 大友康裕) 災害時における広域緊急医療のあり方に関する研究平成16年度報告書 2005; 25-29.
- 4) 松本 尚, 坂本哲也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部附属病院救命救急センター): 3. 広域航空搬送適応疾患の診療指針. 平成16年度厚生労働科学研究(医療技術評価総合研究事業)あらたな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究(主任研究者 小濱啓次) 分担研究 災害時における広域緊急医療のあり方に関する研究 2005; 19-24.
- 5) 越 正毅<sup>1)</sup>, 桑原雅夫<sup>1)</sup>, 杉山雅洋<sup>1)</sup>, 竹内健蔵<sup>1)</sup>, 松本 尚, 井料隆雅<sup>1)</sup>, 田中伸治<sup>1)</sup>, 武藤祥郎<sup>2)</sup>, 斉藤博

之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>交通事故防止の社会的推計に関する研究会,<sup>2)</sup>国土交通省道路局): 道路交通における人身被害に伴う損失額推計に関する調査研究. 道路交通における人身被害に伴う損失額推計に関する調査研究 報告書 2005; 1-123.

- 6) 益子邦洋: MC体制にかかる財源確保に関する事項. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究(主任研究者 小濱啓次)分担研究 メディカルコントロールの実態と評価に関する研究(分担研究者 横田順一郎) 2005; 70-77.
- 7) 近森 順<sup>1)</sup>, 鎌田 実<sup>1)</sup>, 永井正夫<sup>1)</sup>, 松林功作<sup>1)</sup>, 三宅哲志<sup>1)</sup>, 住田俊介<sup>1)</sup>, 内山伊知郎<sup>1)</sup>, 小高松男<sup>1)</sup>, 小野古志郎<sup>1)</sup>, 春日伸予<sup>1)</sup>, 加藤隆一<sup>1)</sup>, 清水伸吾<sup>1)</sup>, 小杉教之<sup>1)</sup>, 小林英世<sup>1)</sup>, 多田栄治<sup>1)</sup>, 八谷道紀<sup>1)</sup>, 縄田雄美<sup>1)</sup>, 林広敏<sup>1)</sup>, 藤原敬生<sup>1)</sup>, 樋口世喜夫<sup>1)</sup>, 福田雅旨<sup>1)</sup>, 古谷國貴<sup>1)</sup>, 杉本洋一<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 宮寄拓郎<sup>1)</sup>, 村田隆裕<sup>1)</sup>, 山岡成行<sup>1)</sup>, 和田政信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>将来の交通・安全委員会): 将来の交通・安全委員会; 第1次活動報告書. 将来の交通・安全委員会; 第1次活動報告書 2005; 1-43.

#### (5) 研究報告書:

- 1) 益子邦洋, 井口憲一<sup>1)</sup>, 太田昭雄<sup>2)</sup>, 岡本 努<sup>3)</sup>, 唄 繁樹<sup>4)</sup>, 立原進一<sup>4)</sup>, 塩沢文夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>全日本トラック協会, <sup>2)</sup>全日本交通安全協会, <sup>3)</sup>国土交通省総合政策局, <sup>4)</sup>警察庁交通局交通企画課, <sup>5)</sup>日本交通福祉協会): 職業ドライバーの応急救護処置講習の受講実態に関する調査研究(平成16年度財団法人佐川交通社会社団課題研究助成). 職業ドライバーの応急救護処置講習の受講実態に関する調査研究報告書 2005; pp1-45.

#### 著 書

- 1) 松本 尚: [追加分担] 第1節 重傷度・緊急度の判断. 外傷病院前救護ガイドラインJPTECTM (JPTEC協議会テキスト編集委員会編), 2005; pp186-191, プラネット.
- 2) 松本 尚: [追加分担] 第4節 腹部外傷. 外傷病院前救護ガイドラインJPTECTM (JPTEC協議会テキスト編集委員会編), 2005; pp82-86, プラネット.
- 3) 松本 尚: [分担] 病院前救護におけるメディカルコントロール. 病院前救護とメディカルコントロール(日本救急医学会・厚生労働省・総務省消防庁監修 日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会編集), 2005; pp169-182, 医学書院.
- 4) 行岡哲男<sup>1)</sup>, 野口 宏<sup>2)</sup>, 平出 敦<sup>3)</sup>, 益子邦洋, 松本 尚, 横田順一郎<sup>4)</sup>, 奈良浩介<sup>5)</sup>, 田中秀治<sup>6)</sup>, 中谷壽男<sup>7)</sup>, 小澤和弘<sup>8)</sup>, 飯國安許<sup>9)</sup>, 有賀 徹<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科大学救急医学, <sup>2)</sup>愛知医科大学高度救命救急センター, <sup>3)</sup>京都大学大学院医学研究科教育推進センター, <sup>4)</sup>大阪府立泉州救命救急センター, <sup>5)</sup>救急救命東京研修所, <sup>6)</sup>国士舘大学スポーツ医科学科, <sup>7)</sup>関西医科大学救急医学, <sup>8)</sup>名古屋市消防局救急対策室, <sup>9)</sup>出雲市外4町広域消防組合消防本部, <sup>10)</sup>昭和大学救急医学): [分担] オフライン・メディカルコントロール. 病院前救護とメディカルコントロール(日本救急医学会・厚生労働省・総務省消防庁監修 日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会編集), 2005; pp217-288, 医学書院.
- 5) 益子邦洋: [追加分担] 緊急検査の理解. 系統看護学講座 別巻4 救急看護学(加来信雄 藤井千穂 葛西 猛 千代孝夫 高橋章子 編集), 2005; pp128-138, 医学書院.
- 6) 小林国男<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 坂本哲也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学救命救急センター): [追加分担] 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版II. 薬剤投与 救急救命士標準テキスト追補版II(救急救命士教育研究会監修), 2005; pp1-202, へるす出版.
- 7) 小井土雄一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 白石一也<sup>2)</sup>, 益子邦洋(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科): [翻訳(共著)] イラスト救急処置マニュアル. イラスト救急処置マニュアル第15刷(大塚敏文 監訳), 2005; 南江堂.
- 8) 益子邦洋: [編集] エディトリアル. 救急医学 救急略語辞典(益子邦洋編集), 2005; pp1-501, へるす出版.
- 9) 原 義明: [翻訳(分担)] Chapter18 四肢の挫滅創. 外傷患者の初期診療; エビデンスに基づくアプローチ(小関一英監訳), 2005; pp176-180, メディカルサイエンスインターナショナル.

- 10) 原 義明：〔翻訳(分担)〕Chapter19 手の外傷・外傷患者の初期診療；エビデンスに基づくアプローチ(小関一英監訳), 2005；pp181-186, メディカルサイエンスインターナショナル。
- 11) 益子邦洋, 大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 〔共著〕ER救急ハンドブック 改訂第2版；初期救急から救命救急まで, 2005；pp1-438, インターメディカ。
- 12) 島崎修次, 浅井康文, 有賀 徹, 杉本 壽, 前川剛志, 益子邦洋, 行岡哲男: 〔編集〕救急研修標準テキスト(日本救急医学会監修 島崎修次 浅井康文 有賀 徹 杉本 壽 前川剛志 益子邦洋 行岡哲男 編集), 2005；pp1-407, 医学書院。
- 13) 益子邦洋: 〔分担〕重傷度と緊急度。救急研修標準テキスト(日本救急医学会監修 島崎修次 浅井康文 有賀 徹 杉本 壽 前川剛志 益子邦洋 行岡哲男 編集), 2005；pp26-30, 医学書院。
- 14) 松本 尚: 〔分担〕腹痛。救急研修標準テキスト(日本救急医学会監修 島崎修次 浅井康文 有賀 徹 杉本 壽 前川剛志 益子邦洋 行岡哲男 編集), 2005；pp231-234, 医学書院。
- 15) 益子邦洋, 大友康裕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>3)</sup>, 小井士雄<sup>一2)</sup>, 上野幸廣(<sup>1)</sup>国立病院機構災害医療センター, <sup>2)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup>国立国際医療センター): 〔翻訳(共著)〕アトラス応急処置マニュアル原書第8版(山本保博 黒川 顯 監訳), 2005；pp1-285, 南江堂。
- 16) 松本 尚: 〔分担〕四肢血管・神経損傷。今日の治療指針 2006年版(Volume48)(山口 徹・北原光夫・福井次矢 総編集), 2006；pp54-54, 医学書院。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 益子邦洋: 胸部外傷の診断と初期治療。第38回奈良外科学会学術大会, 2005. 5.
- 2) 益子邦洋: わが国における外傷診療；JPTEC, JA TEC。第3回岡山卒後救急セミナー, 2005. 12.

##### (2) 招待講演:

- 1) 益子邦洋: Trauma Care System utilizing Doctor-Heli and Information Technology。第三回日露IT/ビジネス戦略会議(サンクトペテルブルグ/モスクワ), 2005. 7.
- 2) 益子邦洋: わが国ヘリコプター救急の進展に向けて。平成17年度全国航空消防防災協議会・消防防災航空隊長会議, 2005. 6.
- 3) 益子邦洋: いざという時の救急処置。第9回市民公開講座, 2005. 10.

##### (3) 教育講演:

- 1) 益子邦洋: 外傷救急診療をめぐる新しい流れ。第30回広島麻酔・集中治療フォーラム, 2005. 9.
- 2) 武井健吉: 小児三次救急医療の現状と問題点；ドクターヘリを活用した取り組み。第11回北総救命会フォーラム, 2005. 12.
- 3) 益子邦洋: 肝外傷。2005年度後期日本消化器外科学会教育集会, 2006. 2.

##### (4) 基調講演:

- 1) 益子邦洋: メディカルコントロール体制構築の現状と課題。救急医療防災セミナー, 2005. 10.

##### (5) シンポジウム:

- 1) 益子邦洋: ドクターヘリの役割とその有効性。第55回日本病院学会, 2005. 7.
- 2) 松本 尚, 益子邦洋, 原 義明, 工廣紀斗司, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 阿部幸喜, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 事後検証票のQuality Improvementのための試み。第33回日本救急医学会総会・学術集会, 2005. 10.
- 3) 松本 尚, 益子邦洋, 石原 晋<sup>1)</sup>, 猪口貞樹<sup>2)</sup>, 大重賢治<sup>3)</sup>, 大友康裕<sup>4)</sup>, 岡田真人<sup>5)</sup>, 荻野隆光<sup>6)</sup>, 奥村 徹<sup>7)</sup>, 坂本照夫<sup>8)</sup>, 篠崎正博<sup>9)</sup>, 野口 宏<sup>10)</sup>, 前川武男<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>県立広島病院救命救急センター, <sup>2)</sup>東海大学医学部付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup>横浜市立大学医学部公衆衛生学, <sup>4)</sup>国立病院機構災害医療センター救命救急

センター，<sup>5)</sup> 聖隷三方原病院救命救急センター，<sup>6)</sup> 川崎医科大学附属病院高度救命救急センター，<sup>7)</sup> 順天堂大学医学部附属静岡病院救命救急センター，<sup>8)</sup> 久留米大学病院高度救命救急センター，<sup>9)</sup> 和歌山県立医科大学附属病院救命救急センター，<sup>10)</sup> 愛知医科大学附属病院高度救命救急センター): 外傷症例からみたドクターヘリの有効性．第12回日本航空医療学会総会，2005．11．

- 4) 益子邦洋：千葉県ドクターヘリの実績および有用性．救急シンポジウム；救急医療におけるヘリコプターの役割，2005．11．

#### (6) パネルディスカッション：

- 1) 阪本雄一郎，松本 尚，原 義明，工廣紀斗司，森田良平，武井健吉，上野幸廣，阿部幸喜，富田祥輝，山口重貴，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：緊急腹部手術を要した多発外傷症例の検討．第19回日本外傷学会，2005．5．
- 2) 加地正人<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，稲垣栄次<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>2)</sup>，益子邦洋，辺見 弘<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>独立行政法人国立病院機構災害医療センター)：鈍的胸部大動脈損傷の治療：現状と課題．第19回日本外傷学会，2005．5．
- 3) 益子邦洋，阿部幸喜，鈴木春男<sup>1)</sup>，伊藤文夫<sup>1)</sup>，榛澤芳男<sup>1)</sup>，安井一彦<sup>1)</sup>，大橋秀幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉県交通事故調査委員会)：交通事故死亡例調査で明らかになった重度外傷に対するプレホスピタルケアの現状と課題．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
- 4) 松本 尚，益子邦洋，原 義明，工廣紀斗司，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，阿部幸喜，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：胸部大動脈損傷を救命するために具備すべきもの．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．

#### (7) ワークショップ：

- 1) 益子邦洋：胸部損傷分類．第19回日本外傷学会，2005．5．
- 2) 阪本雄一郎，松本 尚，原 義明，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：肝・脾損傷におけるinitial fluid resuscitationの反応による止血法選択の妥当性および出血性ショック症例に対する輸液・輸血の体制についての検討．第67回日本臨床外科学会総会，2005．11．
- 3) 武井健吉：小児医療施設と救命救急センターの連携による広域小児三次救急医療システム；成人救命救急センターから送る立場として．第13回小児集中治療ワークショップ，2005．11．
- 4) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：血漿中Plasminogen activator inhibitor type-1 (PAI-1) 値からみたPMX-DHP施行時間の検討．第10回エンドトキシン血症救命治療研究会，2006．2．

#### (8) 一般講演：

- 1) Mashiko K：An outcome evaluation of physician staffed helicopter emergency medical service system (Doctor-Heli) in Japan. . Airmed 2005 (Barcelona, Spain), 2005．6．
- 2) 阿部幸喜，原 義明，益子邦洋，松本 尚，工廣紀斗司，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，山口重貴：骨盤骨折の観血的整復固定術にて，大量出血を呈し，止血に難渋した1例．第35回過大侵襲研究会，2005．4．
- 3) 山口重貴，原 義明，松本 尚，工廣紀斗司，阪本雄一郎，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，阿部幸喜，益子邦洋：四肢単独の重症外傷における治療戦略．第8回千葉県救急医療研究会，2005．4．
- 4) 阿部幸喜，益子邦洋，伊藤文夫<sup>1)</sup>，鈴木春男<sup>1)</sup>，榛澤芳雄<sup>1)</sup>，安井一彦<sup>1)</sup>，大橋秀幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉県事故調査委員会)：千葉県における交通事故死亡例調査の検討．第19回日本外傷学会，2005．5．
- 5) 原 義明，森田良平，富田祥輝，大泉 旭<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：本当に抜釘術は必要か．第78回日本整形外科学会総会，2005．5．
- 6) 原 義明，森田良平，富田祥輝，大泉 旭<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：横靭帯付着部剥離骨折を伴う環椎軸

- 椎不安定に対する診断的意義についての検討．第31回日本骨折治療学会，2005．7．
- 7) 益子邦洋，松本 尚，原 義明，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝：交通事故に関連する救急医療体制のあるべき姿と今後の課題．GIA ダイアログ2005，2005．8．
  - 8) 武井健吉，松本 尚，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋，清水直樹<sup>1)</sup>，椎間優子<sup>1)</sup>，小原崇一郎<sup>1)</sup>，中川 聡<sup>1)</sup>，阪井裕一<sup>1)</sup>，宮坂勝之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立成育医療センター)：小児医療施設と救命救急センターの連携による広域小児三次救急医療システム．第172回日本小児学会地方会，2005．9．
  - 9) 阪本雄一郎，松本 尚，原 義明，工廣紀斗司，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，阿部幸喜，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：自衛隊医療スタッフの臨床トレーニングについての考察．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 10) 原 義明，益子邦洋，小濱啓次<sup>1)</sup>，坂本照夫，荻野隆光<sup>2)</sup>，篠崎正博<sup>3)</sup>，野口 宏<sup>4)</sup>，岡田真人<sup>5)</sup>，前川武男<sup>6)</sup>，猪口貞樹<sup>7)</sup>，松本 尚，阿部幸喜，富田祥輝，上野幸廣，武井健吉，阪本雄一郎，工廣紀斗司，川井 真<sup>8)</sup>，山本保博<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>川崎医療福祉大学保健看護学科，<sup>2)</sup>川崎医科大学附属病院救急部・高度救命救急センター，<sup>3)</sup>和歌山県立医科大学救急集中治療部，<sup>4)</sup>愛知医科大学附属病院高度救命救急センター，<sup>5)</sup>聖隷三方原病院小児科，<sup>6)</sup>順天堂大学伊豆長岡病院外科，<sup>7)</sup>東海大学医学部専門診療学系救命救急医学，<sup>8)</sup>日本医科大学救急医学)：内因性心肺停止患者におけるDrヘリ搬送の効果について．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 11) 武井健吉，益子邦洋，松本 尚，原 義明，工廣紀斗司，阪本雄一郎，上野幸廣，富田祥輝，阿部幸喜，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：小児救急医療体制の整備には救命救急センターの協力と安全迅速な患者搬送の確立が必要である．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 12) 上野幸廣，阿部幸喜，富田祥輝，武井健吉，阪本雄一郎，工廣紀斗司，原 義明，松本 尚，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：医療従事者の結核感染の実態と今後の対策；本院での調査から．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 13) 加地正人<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>2)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，井上潤一<sup>2)</sup>，松本 尚，稲垣栄次<sup>1)</sup>，小井戸雄一<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，益子邦洋，辺見 弘<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本救急医学会救急医学，<sup>2)</sup>国立病院機構災害医療センター救命救急センター)：鈍的胸部大動脈損傷の治療と課題．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 14) 富田祥輝，原 義明，益子邦洋，松本 尚，工廣紀斗司，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：脛腓骨骨折における骨折部位とコンパートメント症候群発生率の関係．第33回日本救急医学会総会・学術集会，2005．10．
  - 15) 牧野俊郎<sup>1)</sup>，浅野悦洋<sup>1)</sup>，飯島勝利<sup>1)</sup>，恵志正輝<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>2)</sup>，益子邦洋，田中宣威<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学成田国際空港クリニック，<sup>2)</sup>同千葉北総病院集中治療室，<sup>3)</sup>同外科)：空港クリニックの救急医療体制．第12回日本航空医療学会，2005．11．
  - 16) 阪本雄一郎，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋：救急室において開腹手術および開胸大動脈クランプを施行した救命し得た腸間膜損傷症例の1例．第32回外傷症例検討会，2005．11．
  - 17) 上野幸廣，阪本雄一郎，富田祥輝，武井健吉，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：誤飲による上部消化管異物の22例の検討．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．
  - 18) 加藤 建，松本 尚，阪本雄一郎，原 義明，朽方規喜，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋：腹腔ドレナージと術後の積極的洗浄が著効した重症急性膵炎の1例．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．
  - 19) 嶺 貴彦，松本尚，原義明，朽方規喜，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋：腹腔内出血に伴う切迫心停止に対し，ERT・大動脈遮断術，およびダメージコントロール手術を行い救命し得た1例．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．
  - 20) 松本 尚，辺見 弘<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>1)</sup>，本間正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>平成17年度厚生労働科学研究事業「災害時医療体制の整備促進に関する研究」研究班)：災害時広域医療搬送計画におけるStaging Care Unit運営の現状と課題．第11

回日本集団災害医学会総会，2006．2．

21) 上西蔵人，原義明，富田祥輝，松本尚，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：骨挫傷についての検討．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．

(9) ポスター：

1) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Takei K, Ueno Y, Tomita Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Emergency Medicine)：A New Criteria Deciding Damage Control Surgery for Severe Abdominal Trauma．The 14th World Congress on Disaster&Emergency Medicine ( WCDEM2005)( Edinburgh, Scotland ), 2005．5．

2) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Takei K, Ueno Y, Yoshiteru T, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Emergency Medicine, Nippon Medical School)：Relationship between effect of polymyxin B-immobilized fiber and high mobility group box-1 protein in septic shock patients．26th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 2006．3．

3) 阪本雄一郎，松本 尚，上川雄士，工廣紀斗司，原 義明，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：高齢者汎発性腹膜炎手術症例に対する手術戦略についての検討．第105回日本外科学会定期学術集会，2005．5．

4) 朽方規喜，落 雅美<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，三原和平<sup>1)</sup>，内室智也<sup>1)</sup>，迫 秀則<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉中央メディカルセンター心臓血管外科)：閉塞性動脈硬化症に対する血栓内膜除去術：膝下病変に対するアプローチとその成績．第33回日本血管外科学会学術総会，2005．6．

(10) 診療と研究のトピックス：

1) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：腹部臓器損傷を含む多発外傷症例の治療戦略に関する検討．第42回日本腹部救急医学会総会，2006．3．

## [ 成田国際空港クリニック ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 牧野俊郎：航空機に起因した肺血栓塞栓症いわゆるエコノミークラス症候群．日本旅行医学会学会誌第4号 2005；pp69-74．

#### 著書

- 1) 牧野俊郎，黒川 顕，小池 薫，吉田竜介，富岡譲二，小川理郎：〔分担〕第27回救急救命士国家試験問題解答解説集（山本保博），2005；pp15-29，へるす出版．
- 2) 牧野俊郎：〔分担〕血栓・止血・血管学 血栓症制圧のために（一瀬白帝），2005；pp109-118，中外医学社．
- 3) 牧野俊郎，黒川 顕，小池 薫，吉田竜介，富岡譲二，小川理郎：〔分担〕第28回救急救命士国家試験問題解答解説集（山本保博），2005；pp49-61，へるす出版．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 牧野俊郎，浅野悦洋，飯島勝利，恵志正輝，畑 典武，益子邦洋，田中宣威：空港クリニックの救急医療体制．第12回日本航空医療学会総会，2005．11．
- 2) 浅野悦洋，飯島勝利，恵志正輝，牧野俊郎，酒井悦嗣：国際空港クリニック・外国における医療費の検討．第12回日本航空医療学会総会，2005．11．
- 3) 牧野俊郎，浅野悦洋，村越秀光，恵志正輝，畑 典武，益子邦洋：成田空港と救急医療．第51回日本宇宙航空環境医学会大会，2005．11．
- 4) 村越秀光，浅野悦洋，岩瀬龍之，牧野俊郎：空港クリニックにおけるBODY PACKERに（麻薬飲み込み患者）についての検討．第51回日本宇宙航空環境医学会大会，2005．11．
- 5) 浅野悦洋，村越秀光，恵志正輝，岩瀬龍之，牧野俊郎：海外旅行における疾病別医療費．第51回日本宇宙航空環境医学会大会，2005．11．

## 19．形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科・美容外科 ]

#### 研究概要

当講座の研究活動で、脂肪組織由来幹細胞による組織工学、再生医療への貢献は本邦のみならず国際的にも注目されている。本研究はその開発者の一人でもある水野博司助教授が2002年日本医科大学に導入したもので、その後小川 令講師らによる骨髄再生、飛田護邦研究生による歯周病の再生治療は内外のマスコミでも取り上げられ、再生医療最先端の成果として脚光を浴びている。また、留学生らによる各種皮弁生着における幹細胞の効果は今後の形成外科における再生医療の導入の端緒ともいえよう。臨床面に於いても本年度は、10年前に百束比古教授が開発した、血管付加超薄皮弁が遂に米国の教科書に掲載され、国際的に認知されたことも特記すべき事象である。さらにケロイドや褥瘡、下肢血流障害といった全身疾患との関連が深い分野でも臨床・研究面において本邦をリードしている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hu Z-Q, Ogawa R, Aoki R, Gao J-H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup>Nan-fang Hospital, China ): Temporalis muscle-galea pedicled flap for reconstruction of longstanding facial paralysis . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 2 ): 105-112 .
- 2) Tosa M, Ghazizadeh M, Shimizu H<sup>1)</sup>, Hirai T, Hyakusoku H, Kawanami O<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Molecular Pathology, Institute of Gerontology ): Grobal gene expression analysis of keloid fibroblasts in response to electron beam irradiation reveales the involvement of Interloikin-6 Pathway . J. Invest. Dermatology 2005 ; 124 : 704-713 .
- 3) Taguchi K<sup>1)</sup>, Ogawa R, Migita M<sup>2)</sup>, Hanawa H<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Orimo H<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>Orthopedics , <sup>2)</sup>Pediatrics , <sup>3)</sup>Biochemistry ): The role of bone marrow-derived cells in bone fracture repair in a green fluorescent protein chimeric mouse model . Biochem Biophys Res Commun 2005 ; 331 ( 1 ): 31-36 .
- 4) Chin T, Ogawa R, Murakami M, Hyakusoku H : An anatomical study and clinical cases of 'super-thin flaps' with transverse cervical perforator . British Journal of Plastic Surgery 2005 ; 58 ( 4 ): 550-555 .
- 5) Hu Z-Q, Hyakusoku H, Gao J-H<sup>1)</sup>, Aoki R, Ogazwa R, Yan X<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Nan-fang Hospital ): Penis reconstruction using three different method . Br. J. Plast. Surg 2005 ; 58 ( 4 ): 487-492 .
- 6) Sano K, Hyakusoku H, Tanuma K : Clinical reappraisal of the segmental pectoralis major turn-over flap for coverage of the local mediastinal wound . Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 2005 ; 39 ( 5 ): 290-294 .
- 7) Sano K, Doi K<sup>1)</sup>, Hattori Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Ogori 1st Central Hospital ): Double-strand suturing fixation technique for treatment of acute volar plate avulsion fracture of the base of the middle phalanx . Ann Plast Surg 2005 ; 55 ( 5 ): 542-544 .
- 8) Chin T : A modified cheek retractor . Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral radiology and Endodontology 2005 ; 99 ( 6 ): 54-54 .
- 9) Kuroda S, Akimoto M : Finite Element Analysis of Undermining of Pressure Ulcer with a Simple Cylinder Model . J. Ni. M. S 2005 ; 72 ( 3 ): 174-178 .
- 10) Chin T, Sakata Y<sup>1)</sup>, Amenomori S<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Critical Care Medicine ): The use of bioabsorbable pin fixation for nasal fractures . J. Ni. M. S 2005 ; 72 ( 3 ): 179-181 .
- 11) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R, Mizuno H, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Pediatrics , <sup>2)</sup>Pharmacology ): Neural



- differentiation of adipose-derived stem cells isolated from GFP transgenic mice . *Biochem Biophys Res Commun* 2005 ; 333 ( 1 ): 116-121 .
- 12) Murakami M , Hyakusoku H , Ogawa R : The multi-lobed propeller flap method . *Plast. Reconstr. Surg* 2005 ; 116 ( 2 ): 599-604 .
- 13) Mizuno H , Hyakusoku H , Fujimoto M , Kawahara S , Aoki R : Simultaneous bilateral breast reconstruction with autologous tissue transfer after the removal of injectable artificial materials : a 12-year experience . *Plast. Reconstr. Surg* 2005 ; 116 ( 2 ): 450-458 .
- 14) Sano K , Yoshizu T<sup>1)</sup> , Maki Y , Tsubokawa M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Niigata Hand Surgery Foundation ) : Easy-removal “ Ribon-knot suturing ” for pediatric wound care . *Plast. Reconstr. Surg* 2005 ; 116 ( 2 ): 694-695 .
- 15) Ogawa R : The importance of Adipose-Derived Stem Cells and Vasacularized Tissue Regeneration in the Field of Tissue Transplantation . *Current Stem Cell Reserch & Therapy* 2006 ; 1 ( 1 ): 13-20 .
- 16) Sano K , Hallock GG<sup>1)</sup> , Ozeki S<sup>2)</sup> , Suzuki H<sup>3)</sup> , Mawatari R<sup>3)</sup> , Yoshino K<sup>3)</sup> , Hamazaki M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospitals , <sup>2)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Dokkyo University Koshigaya Hospital , <sup>3)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Kenwakai Otemachi Hospital ) : Devastating massive knee defect reconstruction using the cornucopian chimera flap from the subscapular axis : two case reports . *J Reconstr Microsurg* 2006 ; 22 ( 1 ): 25-32 .
- 17) Ogawa R , Mizuno H , Hyakusoku H , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Biochemistry ) : Bone Marrow Regeneration using Adipose-derived Stem Cells . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 ( 1 ): 45-47 .
- 18) Fujimura J<sup>1)</sup> , Shimada Y<sup>1)</sup> , Arai H<sup>1)</sup> , Ogawa R , Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Pediatrics ) : Management of a suprasellar arachnoid cyst identified using prenatal sonography . *Journal of Clinical Ultrasound* 2006 ; 34 ( 1 ): 92-94 .
- 19) 小川 令 , 百束比古 : 新しい皮弁分類法の提唱 : 血管吻合を考慮した新しい皮弁手術手技分類法 . *日医大医学会誌* 2005 ; 1 ( 1 ): 26-32 .
- 20) 河原理子 , 百束比古 , 青木 律 , 平川慶子<sup>1)</sup> , 大野曜吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学 ) : 顔面への異物注入後高度合併症の治療経験 . *日本美容外科学会会報* 2005 ; 27 ( 1 ): 85-91 .
- 21) 伊吾田慎一<sup>1)</sup> , 東 直行<sup>1)</sup> , 菅野順子<sup>1)</sup> , 小野塚雅子<sup>1)</sup> , 天野千春<sup>1)</sup> , 笹原孝子<sup>2)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院皮膚科形成外科 , <sup>2)</sup> 医療福祉連携室 ) : 北村山公立病院の褥瘡対策 . *北村山医誌* 2005 ; 9 ( 1 ): 1-16 .
- 22) 陳 貴史 , 百束比古 : 褥瘡・皮膚潰瘍に対するトレチノイントコフェリル軟膏 ( オルセノン軟膏 ) とスルファジアジン銀クリーム ( ゲーベンクリーム ) 混合軟膏による治療 . *日本褥瘡学会誌* 2005 ; 7 ( 2 ): 199-202 .
- 23) 秋元正宇<sup>1)</sup> , 黒田周一<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科 ) : 側頭部開頭術後変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation : 骨口ウによる術中シミュレーションの工夫 . *日頭顎顔会誌* 2005 ; 21 ( 3 ): 222-227 .
- 24) 佐野和史 , Geoffrey GH<sup>1)</sup> , 百束比古 , 馬渡玲子<sup>2)</sup> , 鈴木裕彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery Lehigh Valley Hospitals , <sup>2)</sup> 健和会大手町病院整形外科 ) : 遊離内側腓腹筋通枝皮弁による四肢皮膚軟部組織欠損の治療 . *日本マイク口会誌* 2005 ; 18 ( 4 ): 359-363 .
- 25) 小川 令 , 菊池美智子<sup>1)</sup> , 加藤一良<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 桐生高木病院 ) : 褥瘡対策委員会が褥瘡の予防や治療に与えた効果の検討 . *日褥瘡会誌* 2005 ; 7 ( 2 ): 184-189 .
- 26) 小川 令 , 百束比古 : ケロイドおよび肥厚性癬痕の予防と治療法 . *日医大医学会誌* 2005 ; 1 ( 3 ): 121-128 .
- 27) 佐野和史 , 土井一輝<sup>1)</sup> , 服部泰典<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小郡第一中央病院 ) : 拇指CM関節治療のメタアナリシス . *日手会誌* 2005 ; 22 ( 2 ): 87-92 .
- 28) 橋田絵里香 , 岩切 致 , 赤石諭史 , 青木 律 , 百束比古 : 遅発性異物反応を併発した吸収性プレート ( FIX-SORB®-MX ) の使用例 . *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 2005 ; 21 ( 4 ): 323-328 .
- 29) 小川 令 , 百束比古 , 赤石諭史 : 美容的観点から考えた耳部ケロイドの治療 : 電子照射療法およびピアス孔の

再建も含めて．日本美容外科学会会報 2005；27（3）：173-177．

- 30) 青木雅代，河原理子，百束比古：シリコンインプラント埋入後無菌性膿瘍を合併した1例．日本美容外科学会会報 2005；27（3）：27-32．
- 31) 宮本正章<sup>1)</sup>，高木 元<sup>1)</sup>，水野博司，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)：重症難治性潰瘍に対する医療用ウジ治療と血管再生療法．Pharma Medica 2005；23（10）：41-47．
- 32) 百束比古，青木 律：美容外科手術の後遺症と治療．形成外科 2005；48（増刊号）：21-28．
- 33) 陳 貴史，島本 実，川井 真<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，百束比古(<sup>1)</sup>救急医学)：小児熱傷患者の創処置における疼痛対策の重要性．熱傷 2005；31（5）：251-261．
- 34) 小川 令，百束比古，渡邊 淳<sup>1)</sup>，久安早苗<sup>1)</sup>，池島三与子<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2)：ケロイドの網羅的遺伝子解析．ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集 2006；11（1）：9-14．

(2) 綜説：

- 1) 水野博司：脂肪組織由来幹細胞．最新医学 2005；60（8）：1755-1758．
- 2) 青木 律：小児単純性血管腫，莓状血管腫に対するレーザー治療．小児科 2005；46（13）：2174-2180．
- 3) 村上正洋，百束比古，小川 令：Superficial Cervical Artery Flap：20年間の経験とその発展．日医大医会誌 2006；2（1）：12-17．
- 4) 百束比古，小川 令，村上正洋，高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中国南方医大形成外科)：熱傷後瘢痕拘縮に対する皮弁移植の適応と新展開．熱傷 2006；32（1）：1-11．

(3) 症例報告：

- 1) Murakami M，Ogawa R，Nishikawa M，Hyakusoku H：A rare case of hypertrophic scar on the scalp．Plast Reconstr Surg 2006；117（1）：321-322．
- 2) 小川 令，百束比古：イソジンシュガーパスタが奏功した褥瘡2症例の検討．臨床医薬 2005；21（3）：369-373．
- 3) 赤石諭史，東 直行<sup>1)</sup>，矢部朋子<sup>1)</sup>，井村 純<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学)：皮疹軽快とともに血清中 RANTES, eotaxin, IL 13 値の低下を認めた好酸球性膿疱性毛包炎の1例．臨床皮膚科 2005；59（3）：258-262．
- 4) 陳 貴史，望月 功<sup>1)</sup>，村上裕壱<sup>1)</sup>，宅島美奈<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院)：残胃癌からの汎発性皮膚転移癌の1例．皮膚科の臨床 2005；47（5）：691-694．
- 5) 大木更一郎<sup>1)</sup>，大木琴美<sup>1)</sup>，百束比古(<sup>1)</sup>会津中央病院)：高性能マットレス使用下に瘻孔・2次感染を生じた遷延性褥瘡の2例．日褥瘡会誌 2005；7（2）：211-215．
- 6) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古(<sup>1)</sup>会津中央病院)：島状大腿二頭筋皮弁での再建が有用であった車椅子患者の坐骨部褥瘡の2例．日褥瘡会誌 2005；7（2）：216-222．
- 7) 青木伸峰，水野博司，島本 実，百束比古：頬部に生じたエックリン螺旋腺腫の1例．形成外科 2005；48（12）：1312-1318．
- 8) 土佐真美子<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>2)</sup>，村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科，<sup>2)</sup>同皮膚科)：Bedner Tumor (Pigmented dermatofibrosarcoma protuberance) の1例．日形会誌 2006；26（1）：128-133．
- 9) 久保一人<sup>1)</sup>，土佐真美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科)：外陰部に発生した基底細胞癌の1例．形成外科 2006；49（2）：223-225．

著 書

- 1) Akimoto M，Kuroda S，Hyakusoku H：〔分担〕Use of calcium phosphate bone paste for deformity of post craniofacial trauma．Craniofacial Surgery (David J. David)，2005；pp367-368，Medimond (Bologna, Italy)．
- 2) Hyakusoku H，Ogawa R：〔分担〕Subdermal vascular network flaps (The concept of the superthin flap)．

Perforator flaps, Anatomy, Technique & Clinical Applications ( St Louis, Missouri ), 2006 ; pp1002-1027 , Quality Medical Publishing, Inc .

- 3) Sano K , Hallock GG<sup>1)</sup> , Rice DC<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic surgery, Lehigh Valley Hospitals ): [ 分担 ] Medial sural artery perforator flap . Perforator flaps, Anatomy, Technique & Clinical Applications ( St Louis, Missouri ), 2006 ; pp679-688 , Quality Medical Publishing, Inc .
- 4) 百束比古 , 青木 律 , 河原理子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神栖再生会形成外科 ): [ 分担 ] 人工材料の基礎知識 . 美容皮膚科学 , 2005 ; pp405-413 , 南山堂 .
- 5) 百束比古 : [ 自著 ( 監修 ) ] フェイスリフト実践マニュアル . フェイスリフト実践マニュアル , 2006 ; pp1-114 , 全日本病院出版会 .
- 6) 青木 律 , 小池幸子 , 百束比古 , 杉野宏子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 青山エルクリニック ): [ 分担 ] しわ , たるみの機序ならびに非侵襲適治療による skin tightening について . フェイスリフト実践マニュアル ( 百束比古 ) , 2006 ; pp5-10 , 全日本病院出版会 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) Hyakusoku H , Gao J-H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nam-Fan Medical University ): My epochal original flaps and local flap methods in burn reconstructive surgery since 1980 's . 4th National Chinese Congress of Plastic Surgery ( Guangzhou ) , 2005 . 5 .
- 2) Aoki R , Hyakusoku H , Koike S : Non-ablative skin tightening with new energy source . 4th National Chinese Congress of Plastic Surgery ( Guangzhou ) , 2005 . 5 .
- 3) Mizuno H , Ogawa R , Aoki R , Hyakusoku H : Adipose derived stem cells ; Mesengenic Potential in vivo and Future Clinical Application . 4th National Chinese Congress of Plastic Surgery ( Guangzhou ) , 2005 . 5 .
- 4) Hyakusoku H , Kawahara S , Aoki R , Nomoto S , Le F : Complication of an augmentation of non-absorbable fillers for cosmetic purpose . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ) , 2005 . 10 .
- 5) 小川 令 : 脂肪組織由来幹細胞を用いた組織再生 . 第73回日本医科大学医学学会総会 , 2005 . 9 .

##### ( 2 ) シンポジウム :

- 1) Ogawa R , Hanawa H<sup>1)</sup> , Hirasi Y<sup>1)</sup> , Kurai T<sup>1)</sup> , Mizuno H , Hyakusoku H , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): Potential Utility of Adipose-derived Mesenchymal Stem Cells as a Carrier for ex vivo Gene Therapy c Comparison of Stem Cells Derived from Fat and Bone Marrow- . 第11回日本遺伝子治療学会 , 2005 . 7 .
- 2) 小川 令 , 百束比古 , 村上正洋 , 高 建華<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 南方医大南方病院 ): 輪郭重視部位に対する種々の thin flap の適用と結果 . 第48回日本形成外科学会 , 2005 . 4 .
- 3) 青木 律 , 百束比古 , 杉野宏子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 青山エルクリニック ): 美麗を目的とした多重治療 ( MTA : Multiple treatment of anti-aging ) . 第48回日本形成外科学会 , 2005 . 4 .
- 4) 青木 律 , 百束比古 , 奥田貴史 , 小池幸子 , 平川慶子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学NMR研究室 ): 現在使用されている異物の成分と安全性 . 第95回日本美容外科学会 , 2005 . 4 .
- 5) 小川 令 , 渡辺 淳<sup>1)</sup> , 島田 隆<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断を目的とした遺伝子解析と応用 . 第30回日本外科系連合学会 , 2005 . 6 .
- 6) 小川 令 , 百束比古 : 難治性潰瘍に対するポビドンヨード製剤を用いた治療の是非について . 第30回日本外科系連合学会 , 2005 . 6 .
- 7) 小川 令 , 大木更一郎 , 水野博司 , 百束比古 : ラット鼠径皮弁を用いた組織工学Prefabricated Flap ( プレハブ皮弁 ) モデルの作成 . 第8回日本組織工学会 , 2005 . 9 .
- 8) 水野博司 , 百束比古 , 小川 令 , 糸井由里恵 , 青木 律 : 美容外科領域における再生医療 : その適応と倫理に

ついて．第28回日本美容外科学会，2005．10．

- 9) 青木 律，百束比古，小池幸子，杉野宏子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>青山エルクリニック): 加齢に対する手術療法と非手術療法各種 non-ablative rejuvenation 療法の組合せ治療について．第28回日本美容外科学会，2005．10．
  - 10) 水野博司，小川 令，糸井由里恵，飛田護邦，岩切 致，村上正洋，百束比古：脂肪由来幹細胞に関する動物基礎実験と再生医療への展開．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
  - 11) 小川 令，大木更一郎，水野博司，百束比古，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来間葉系幹細胞による血液系疾患治療戦略．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- (3) セミナー：
- 1) 青木 律：Skin rejuvenationにおける新戦略 skin tightening から skin replacement へ functional resurfacing が可能にした新しい皮膚治療の可能性．第28回日本美容外科学会，2005．10．
  - 2) 小川 令：我が教室を代表して．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- (4) 一般講演：
- 1) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T : Bone Marrow Regeneration Using Adipose-derived Stromal Cells . The 50th Plastic Surgery Research Council ( Toronto ), 2005 . 5 .
  - 2) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-derived Stromal Cells . The 8th American Society of Gene Therapy ( St. Louis ), 2005 . 6 .
  - 3) Ogawa R, Hyakusoku H : Treatment of Pressure Ulcers using Isodine Sugar Paste . The 5th Asian Pacific Congress on Antisepsis ( Cairns ), 2005 . 7 .
  - 4) Ogawa R, Fujimura J<sup>1)</sup>, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Pharmacology , <sup>2)</sup> Second Biochemistry and Molecular Biology ): Bone Marrow Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells -The 2nd Report- . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville ), 2005 . 9 .
  - 5) Ogawa R, Fujimura J<sup>1)</sup>, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Pharmacology , <sup>2)</sup> Second Biochemistry and Molecular Biology ): Comparison of Stem Cells Harvested from Adipose Tissue and Bone Marrow . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville ), 2005 . 9 .
  - 6) Fujimura J<sup>1)</sup>, Ogawa R, Mizuno H, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Pharmacology , <sup>2)</sup> Pediatrics ): Neural Differentiation of Adipose-Derived Stem Cells Harvested from GFP Transgenic Mice and Rats . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville ), 2005 . 9 .
  - 7) Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Itoi Y, Hyakusoku H : In vivo periodontal tissue regeneration by adipose-derived stem . The 3rd International Fat Applied Society ( Charlottesville ), 2005 . 9 .
  - 8) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H : Use of calcium phosphate bone paste for deformity of post craniofacial trauma . the XIth Bi-Annual Congress of the International Society of craniofacial Surgery ( Queensland, Australia ), 2005 . 9 .
  - 9) Aoki R, Koike S, Hyakusoku H : Mechanical skin rejuvenation for the consideration on selecting the devices . 5th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
  - 10) Le F, Gao JH<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Ogawa R (<sup>1)</sup> Nangfang Hospital ): Current clinical therapy of keloid in China and Japan . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
  - 11) Wang CH<sup>1)</sup>, Gang Z<sup>1)</sup>, Guangyu C<sup>1)</sup>, Hyakusoku H (<sup>1)</sup> Plastic Surgery Hospital in Chinese Academy of Medical Sciences ): Comprehensive treatment system for hypertrophic scar and keloid . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
  - 12) Uysal CA, Hyakusoku H : Plastic and reconstructive surgery in Turkey . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .

- 13) Nomoto S, Hyakuosku H, Murakami M, Iwakiri I, Mizuno H, Aoki R, Oki K, Ogawa R : Dicade of our flaps Distally based sural flap without sural nerve and superficial cervical artery perforator flap . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
- 14) Mizuno H, Ogawa R, Tobita M, Itoi Y, Hyakuosku H : in vivo tissue generation by adipose-derived srem cells . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
- 15) Koike S, Ogawa R, Aoki R, Hyakusoku H : Clinical use of TitanTM including experiment study with animal . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
- 16) Iwakiri I, Hyakusoku H, Murakami M, Nomoto S, Gao JH<sup>1)</sup>, Le F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nang-Fang Hospital): Microvascular augmented CP or OCP flap for postburn scar contracture in neck . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery ( Tokyo ), 2005 . 10 .
- 17) Wang CM, Zhou G<sup>1)</sup>, Chen G<sup>1)</sup>, Hyakusoku H (<sup>1)</sup>Plastic Surgery Hospital in Chinese Academy of Medical Science): The study of comprehensive treatment system for hypertrophic scar and keloid . 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery , 2005 . 10 .
- 18) Aoki M, Ogawa R, Akaishi S, Ono S, Hyakusoku H : Silicone gel sheeting therapy for scar management . The 1st Scar Meeting ( Montpellier, France ), 2006 . 3 .
- 19) Ogawa R, Miyashita T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H (<sup>1)</sup>Radiology): Novel protocols of multimodel therapy for keloids and hypertrophic scars - investigation into the optimal dose of postoperative electron-beam irradiation . The 1st Scar Meeting ( Montpellier, France ), 2006 . 3 .
- 20) Ogawa R, Hyakusoku H, Aoki R, Ono S : The concept of the super-thin flap for reconstructive post-burn scar . The 1st Scar Meeting ( Montpellier, France ), 2006 . 3 .
- 21) 小川 令, 赤石諭史, 館野 温<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup>放射線医学): ケロイド術後電子線療法における照射線量の検討 . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 22) 大木更一郎, 百束比古, 大木琴美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科): 腋臭症ドレッシング時における圧迫圧の検討 . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 23) 河原理子, 百束比古, 青木雅代: いわゆるハイドロジェルを用いた美容外科的治療による合併症症例の経験 . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 24) 水野博司, 小池幸子, 青木伸峰, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 自家骨髄細胞移植による血管再生治療を施行した四肢壞疽症例の外科手術に関する検討 . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 25) 小池幸子, 水野博司, 青木伸峰, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 虚血性難治性足趾潰瘍に対する治療のアルゴリズム . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 26) 岩切 致, 橘田絵里香, 百束比古: ピンホイール皮弁法(仮称)を用いた左腋窩癬痕拘縮の治療経験 . 第48回日本形成外科学会, 2005 . 4 .
- 27) 佐野和史, 土井一輝<sup>1)</sup>, 服部泰典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小郡第一病院整形外科): 拇指CM関節症治療のメタアナリシス . 第48回日本手の外科学会学術集会, 2005 . 4 .
- 28) 村上正洋<sup>1)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup>第二病院形成外科): Pectoral intercostal perforator-based flap による手掌の熱傷癬痕拘縮再建 . 第7回横浜形成外科フォーラム, 2005 . 5 .
- 29) 野本俊一, 岩切 致, 赤石諭史, 橘田絵里香, 利根川均, 百束比古: 左頸部に生じた鱈性癌と思われる1例 . 第21回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2005 . 5 .
- 30) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律, 百束比古 (<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科): 炭火による深達性熱傷の検討 . 第31回日本熱傷学会, 2005 . 6 .
- 31) 岩切 致, 百束比古, 村上正洋: Central hub axis flap method . 第31回日本熱傷学会, 2005 . 6 .
- 32) 高 建華<sup>1)</sup>, 魯 峰<sup>1)</sup>, 百束比古, 村上正洋 (<sup>1)</sup>中国南方病院形成外科): Expanded staged super-thin flap

- による熱傷瘢痕の再建．第31回日本熱傷学会，2005．6．
- 33) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古，小川 令，大木更一郎<sup>(1)</sup>第二病院形成外科): SCAP ( Superficial cervical artery perforator ) 皮弁による熱傷再建例の検討．第31回日本熱傷学会，2005．6．
- 34) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科): Kenzan punctured skin graft．第31回日本熱傷学会，2005．6．
- 35) Vinh V-Q<sup>1)</sup>，小川 令，村上正洋<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>ベトナム国立熱傷研究所，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院形成外科): Supraclavicular flapによる熱傷頸部瘢痕拘縮再建の30例．第31回日本熱傷学会，2005．6．
- 36) 大木更一郎<sup>1)</sup>，大木琴美<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>2)</sup>，青木 律，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院形成外科): microvascular augmented super-thin flapによる高度熱傷瘢痕拘縮の再建．第31回日本熱傷学会，2005．6．
- 37) 大木更一郎<sup>1)</sup>，橘田絵里香<sup>1)</sup>，大木琴美<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院形成外科): 側頭部表皮母斑摘出時に悪性高熱を併発した1例．日本形成外科学会第242回東京地方会，2005．7．
- 38) 石井暢明，佐野和史，百束比古: 上腕皮下埋入型避妊薬の合併症の1例．第93回日本美容外科学会，2005．7．
- 39) 魯 峰，小川 令，青木伸峰，大木更一郎，平川慶子<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>日本医科大学NMR研究室): テフロンによる隆鼻術によって異物反応をきたした症例の経験．第93回日本美容外科学会，2005．7．
- 40) 石井暢明，百束比古，佐野和史，水野博司，小池幸子: 上腕皮下埋入型避妊薬の合併症により摘出に至った1例．日本美容外科学会第93回学術集会，2005．7．
- 41) 青木伸峰，村上正洋，中村 敏，百束比古: 創状態と臨床データの整合性を欠く得意な坐骨部褥瘡の1例．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 42) 大木更一郎<sup>1)</sup>，大木琴美<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院): 大転子部褥瘡から化膿性股関節炎，関節切除となった1例．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 43) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>，東 直行<sup>2)</sup>，百束比古，新井克志<sup>3)</sup>，平本 力<sup>4)</sup><sup>(1)</sup>北村山公立病院形成外科，<sup>2)</sup>同皮膚科，<sup>3)</sup>防衛医大形成外科，<sup>4)</sup>自治医大皮膚科): 褥瘡の局所処置とドレッシング 山形県北村山地区 ．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 44) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院形成外科): 会津中央病院における脊髄損傷患者の褥瘡手術症例の検討．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 45) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院形成外科): 会津中央病院における脊髄損傷患者の褥瘡手術症例の検討．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 46) 小川 令，田口和宏<sup>1)</sup>，右田 真<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>3)</sup><sup>(1)</sup>整形外科，<sup>2)</sup>小児科学，<sup>3)</sup>生化学第2): GFPキメラマウスを用いた骨折治癒における骨髄細胞の役割の検討．第8回日本組織工学会，2005．9．
- 47) 小川 令，藤村樹里<sup>1)</sup>，水野博司，百束比古，島田 隆<sup>2)</sup><sup>(1)</sup>薬理学，<sup>2)</sup>生化学第2): 脂肪組織由来幹細胞を用いた骨髄再生の試み 第2報 ．第8回日本組織工学会，2005．9．
- 48) 青木伸峰，小川 令，大木更一郎，百束比古: 小範囲下腿潰瘍への植皮術後に Toxic Shock Syndrome を生じたと考えられた症例の検討．日本形成外科学会関東支部第243回東京地方会，2005．9．
- 49) 江浦重義，百束比古，岩切 致，野本俊一: Distally based sural flap without sural nerveのクロスレッグ法による移植で救済した下腿複雑開放骨折の1例．日本形成外科学会関東支部第243回東京地方，2005．9．
- 50) 河原理子<sup>1)</sup>，百束比古，野本俊一，小川 令<sup>(1)</sup>神栖再生会病院形成外科): エステ脱毛による熱傷症例の経験．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 51) 小池幸子，小川 令，青木 律，百束比古: 広帯域赤外線ライト ( タイタン TM ) について 動物実験も含めて ．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 52) 小池幸子，小川 令，百束比古: 当科に於けるリストカット瘢痕に対する修正法の検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 53) 野本俊一，百束比古，河原理子<sup>1)</sup>，小川 令<sup>(1)</sup>神栖再生会病院形成外科): 乳房プロテーゼにおけるシリコン

ゴムの外殻の帰趨についての検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．

- 54) 小川 令，水野博司，河原理子<sup>1)</sup>，赤石諭史，百束比古<sup>(1)</sup>神栖済生会病院形成外科): 自家脂肪組織注入による豊胸術の後遺症症例の検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 55) 江浦重義，野本俊一，河原理子<sup>1)</sup>，小川 令，百束比古，平川慶子<sup>2)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神栖済生会病院形成外科): デリバリーによる異物注入を受けた患者の検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 56) 平川慶子<sup>1)</sup>，下池田勇一<sup>2)</sup>，植草慶子<sup>1)</sup>，河原理子<sup>3)</sup>，小川 令，大野曜吉<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>法医学，<sup>2)</sup>日本電子，<sup>3)</sup>神栖済生会病院形成外科): 興味ある摘出異物標本の成分分析例．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 57) 奥田貴久，百束比古，小川 令，河原理子<sup>1)</sup>，平川慶子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神栖済生会病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学法医学): バッグプロテアーゼ摘出希望者の検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 58) 小川 令，青木雅代，野本俊一，河原理子<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>神栖済生会病院形成外科): 生理食塩水充填プロテアーゼの破壊による合併症の1例．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 59) 河原理子<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>神栖済生会病院形成外科): 海外美容外科ツアーの事例と考察．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 60) 百束比古，小川 令，野本俊一: Post-surgical stress disorder (PSSD) の提唱．第28回日本美容外科学，2005．10．
- 61) 野本俊一，百束比古，青木 律，岩切 致，小川 令: 美容外科あるいは美容医療後遺症患者の検討．第28回日本美容外科学会，2005．10．
- 62) 土佐眞美子，ガジザデモハメッド<sup>2)</sup>，清水 一<sup>2)</sup>，大木琴美<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科，<sup>2)</sup>老人病院研究所病理部門): ケロイド発生におけるIL-6シグナル伝達回路に関する機能解析．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- 63) 小川 令，渡辺 淳<sup>1)</sup>，藤村樹里<sup>2)</sup>，水野博司，百束比古，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2，<sup>2)</sup>小児科学): 脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析: マウスとラットの比較検討．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- 64) 飛田護邦，水野博司，小川 令，百束比古: 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生に関する研究．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- 65) 小川 令，田口和宏<sup>1)</sup>，右田 真<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>整形外科，<sup>2)</sup>小児科学): 骨折治癒における骨髄細胞の役割の検討: GFPキメラマウスを用いて．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- 66) 小川 令，大木更一郎，水野博司，百束比古: 再生組織の移植方法の検討．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，2005．10．
- 67) 田口和宏<sup>1)</sup>，小川 令，右田 真<sup>2)</sup>，伊藤博元<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科，<sup>2)</sup>小児科学，<sup>3)</sup>生化学第2): Green Fluorescence Protein (GFP) キメラマウスの骨折治癒過程における骨髄細胞の関与．第20回日本整形外科基礎学術集会，2005．10．
- 68) 秋元正宇<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚手術シミュレーションにおける熱収縮トラス要素を用いた仮想縫合法．第15回日本シミュレーション外科学会，2005．10．
- 69) 秋元正宇<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>千葉北総病院形成外科): 正方弁法とZ形成術が作る谷の深さ: 有限要素法によるシミュレーションから．第15回日本シミュレーション外科学会，2005．10．
- 70) 青木雅代，小川 令<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院形成外科): 立体ワイヤフレームを用いた指趾熱傷に対する植皮術の検討．第11回日本熱傷学会東北地方会，2005．11．
- 71) 大木更一郎，百束比古，小川 令，青木伸峰，小池幸子: 下口唇唇状皮弁のUターン法による上口唇への移植．第23回日本頭蓋顎顔面外科学会，2005．11．
- 72) 野本俊一，百束比古，青木 律，小川 令，河原理子: 最近の顔面異物注入症例の検討．第23回日本頭蓋顎顔面外科学会，2005．11．

- 73) 魯 峰, 百束比古, 岩切 致, 小川 令, 高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>南方医大整形外科): Expanded staged super-thin flapによる顔面頸部熱傷瘢痕の再建. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 74) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 正方弁原法とその変法による埋没耳形成術. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 75) 岩切 致, 村上正洋<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 顔面部褥瘡の発生と治療およびその対策について. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 76) 岩切 致, 橘田絵里香, 赤石諭史, 百束比古: 吸収性プレート(FIXORBE R-MX)による異物反応が生じた1例. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 77) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: Flap-in-flap法およびFlap-by-flap法による鼻翼の三時限的再建. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 78) 野本俊一, 岩切 致, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 橘田絵里香, 利根川均<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科,<sup>2)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 左頬部に生じた鱈性癌と思われる1例. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 79) 大木琴美<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 大木更一郎, 小川 令, 魯 峰, 高 建華<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科,<sup>2)</sup>南方医大整形外科): 遊離あるいは有茎皮弁による頬部再建の検討. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 80) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): SCAP(Superficial Cervical Artery Perforator) flap. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 81) 陳 貴史<sup>1)</sup>, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 微小血管を付加したOCP皮弁とCP皮弁の臨床および血管解剖学的検討. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 82) 大木更一郎, 百束比古, 小川 令, 大木琴美, 平井 隆: 同種血管束による組織移植および創傷治癒促進の実験. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 83) 水野博司, 小川 令, 青木 律, 百束比古: 遊離皮弁によって整容目的の再建を行った下腿部広範囲皮膚欠損症例の検討. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 84) 水野博司, 百束比古, 岩切 致, 野本俊一, 村上正洋<sup>1)</sup>, 利根川均<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科,<sup>2)</sup>博慈会記念病院形成外科): 腓腹神経を温存したDistally based sural flapによる下腿再建. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 85) Uysal CA, 百束比古, 水野博司, 大木更一郎, 小川 令, 魯 峰: Prefabricated Secondary Vascularized Flapの分類と新展開. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 86) 赤石諭史, 小川 令, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕に対する術後電子線照射療法の検討. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 87) 水野博司, 小池幸子, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 虚血性難治性足趾潰瘍に対する治療戦略. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 88) 土佐真美子<sup>1)</sup>, モハメッドガジザデ<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科,<sup>2)</sup>老人病研究所): ケロイド発生過程におけるIL-6 signal pathwayの関与についての機能解析. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 89) 水野博司, 小川 令, 飛田護邦, 糸井由里恵, 南部正樹<sup>1)</sup>, 岩切 致, 村上正洋, 百束比古(<sup>1)</sup>防衛医大形成外科): 脂肪組織幹細胞による組織再生: 臨床応用への道のり. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 90) 野本俊一, 岩切 致, 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: 経皮的冠動脈拡張術(PTCA)の放射線被曝により生じた右肩甲骨部放射線潰瘍の治療経験. 第244回日本形成外科学会東京地方会, 2005. 12.
- 91) 小川 令, 青木雅代, 百束比古: 初診時に診断がつかなかった下眼瞼腫瘍の2症例. 第1回福島県形成外科研究会, 2005. 12.
- 92) 佐野和史, 百束比古, 吉津孝衛<sup>1)</sup>, 牧 裕<sup>1)</sup>, 坪川直人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>手の外科研究所): 簡便な抜糸が可能である



- Ribbon-not suturing technique を用いた創閉鎖法．第11回形成外科内視鏡・手術手技研究会，2006．2．
- 93) 青木伸峰，佐野和史，小池幸子，橋田絵里香，百束比古：指末節の完全 avulsion injury に対する delayed extended thenar flap による再建の1例．第245回日本形成外科学会東京地方会，2006．3．
- 94) 青木雅代，佐野和史，青木伸峰，橋田絵里香，百束比古：重度視力障害を伴う糖尿病患者の化膿性足関節炎の1例：患肢温存の成功例．第245回日本形成外科学会東京地方会，2006．3．
- 95) 小川 令，水野博司，大木更一郎，百束比古：組織工学と移植学の融合と展開：再生組織の皮弁移植実験モデルの検討．第5回日本再生医療学会，2006．3．
- 96) 飛田護邦，水野博司，小川 令，百束比古：脂肪組織由来間葉系幹細胞を応用した歯周組織再生の試み．第5回日本再生医療学会，2006．3．
- 97) 糸井由里恵，水野博司，百束比古<sup>(1)</sup>日本医科大学内科学第1，<sup>(2)</sup>北里大学人工皮膚開発センター)：脂肪組織由来幹細胞からの脂肪組織再生の試み 3種の担体における in vitro での比較．第5回日本再生医療学会，2006．3．
- 98) 南部正樹<sup>(1)</sup>，石原雅之<sup>(1)</sup>，水野博司，山本直人<sup>(1)</sup>，東 隆一<sup>(1)</sup>，高瀬凡平<sup>(1)</sup>，服部秀美<sup>(1)</sup>，中村伸吾<sup>(1)</sup>，清澤智晴<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>防衛医大形成外科)：コラーゲンスポンジと脂肪組織由来幹細胞を併用した培養真皮の研究．第5回日本再生医療学会総会，2006．3．
- (5) ポスター：
- 1) Hyakusoku H, Kawahara S, Aoki R, Koike S : Complications of an augmentation of non-absorbable fillers for cosmetic purposes . 4th National Chinese Congress of Plastic Surgery ( Beijing ), 2005 . 5 .
- 2) Koike S, Ogawa R, Akaishi S, Wang C-M<sup>(1)</sup>, Watanabe A<sup>(2)</sup>, Shimada T<sup>(2)</sup>, Hyakusoku H (<sup>(1)</sup>Plastic Surgery Hospital, Pekin Union Medical College, Peking, China, <sup>(2)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Med School) : Clinical and Basic Research of Keloid and Hypertrophic Scars . 4th National Chinese Congress of Plastic Surgery ( Beijing ), 2005 . 5 .
- 3) Ogawa R, Akaishi S, Taeno A<sup>(1)</sup>, Kuribayashi S<sup>(1)</sup>, Miyashita T<sup>(1)</sup>, Hyakusoku H (<sup>(1)</sup>Department of Radiology) : Investigation into the Optimal Dose of Postoperative Electron-beam Irradiation for Keloids and Hypertrophic Scars . 50th Plastic Surgery Research Council ( Toronto ), 2005 . 5 .
- 4) Ogawa R, Hanawa H<sup>(1)</sup>, Hirai Y<sup>(1)</sup>, Kurai T<sup>(1)</sup>, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Potential Utility of Adipose-derived Stromal Cells ( ASCs ) as a Carrier for ex vivo Gene Therapy c Gene Transfer Efficiency of ASCs - . 8th American Society of Gene Therapy ( St. Louis ), 2005 . 6 .
- 5) Tobita M, Mizuno H, Ogawa R, Itoi Y, Hyakusoku H : Novel therapeutic approach for periodontal tissue engineering using adipose-derived stem cells . 8th Annual Meeting of Tissue Engineering Society International ( 上海 ), 2005 . 10 .
- 6) Itoi Y, Mizuno H, Tobita M, Hyakusoku H : Comparison of scaffolds for adipogenesis in vivo by adipose-derived stem cells . 8th Annual Meeting of Tissue Engineering Society International ( 上海 ), 2005 . 10 .
- 7) Hyakusoku H, Ogawa R, Aoki R, Ono S : Novel surgical methods for keloids and hypertrophic scars . The 1st Scar Meeting ( Montpellier, France ), 2006 . 3 .
- 8) Tosa M, Ghazizadeh M, Ogawa R, Murakami M, Kawanami O : Response of keloid fibroblasts to electron beam irradiation by cDNA microarray analysis . The 1st Scar Meeting ( Montpellier, France ), 2006 . 3 .
- 9) 青木雅代，赤石諭史，佐野和史，岩切 致，百束比古：遊離広背筋皮弁を用いて再建した左上肢褥瘡の治療経験．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
- 10) 中村 敏，村上正洋，百束比古：日本医科大学付属病院形成外科における犬・猫咬傷123例の検討．第48回日本形成外科学会，2005．4．
- 11) 野本俊一<sup>(1)</sup>，大木更一郎<sup>(1)</sup>，大木琴美<sup>(1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>会津中央病院形成外科)：外傷性全耳介断裂の pocket

- principle法による再建の経験．第48回日本形成外科学会，2005．4．
- 12) 赤石諭史，青木 律，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：陰核 mucous cyst の1例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 13) 内谷栄一<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，土佐眞美子<sup>1)</sup>，久保一人<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：再発を繰り返した epithelial-myoepithelial carcinoma の1例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 14) 土佐眞美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，久保一人<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：Bedner tumor (pigmented dermatofibrosarcoma protuberans) の治療経験．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 15) 久保一人<sup>1)</sup>，土佐眞美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：外陰部に発生した基底細胞癌の治療経験．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 16) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，久保一人，村上正洋，百束比古<sup>(1)</sup> (会津中央病院形成外科)：頭蓋骨より発生した巨大な軟骨腫の1症例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 17) 土佐眞美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，久保一人<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：帝王切開後の肥厚性瘢痕およびケロイドの検討．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 18) 土佐眞美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，久保一人<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：肥厚性瘢痕およびケロイドに対するシリコンクッション療法：第1報，適応と治療効果に関する検討．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 19) 土佐眞美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，内谷栄一<sup>1)</sup>，久保一人<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：いわゆるケロイドに対するクッション療法：第2報，帝王切開後ケロイド発生予防効果の検討．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 20) 岩切 致，陳 貴史<sup>1)</sup>，村上正洋，百束比古<sup>(1)</sup> (高度救命救急センター)：顔面部褥瘡の統計と治療について．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 21) 大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古，大木琴美<sup>1)</sup>，野本俊一<sup>1)</sup> (会津中央病院形成外科)：術後抗生剤局所投与により治癒しえた褥瘡の3例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 22) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，野本俊一<sup>1)</sup>，村上正洋，百束比古<sup>(1)</sup> (会津中央病院形成外科)：治療に難渋した高齢者の腰背部放射線潰瘍の1例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 23) 青木伸峰，水野博司，小池幸子，百束比古：血管内カテーテル操作に起因したコレステロール結晶塞栓症による足趾壊疽の2例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 24) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古，小川 令<sup>(1)</sup> (第二病院形成外科)：The scar band rotation flap．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 25) 水野博司，百束比古，大木更一郎，佐野和史：遊離血管束移植による secondary vascularized flap の臨床結果．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 26) 利根川均<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (博慈会記念総合病院形成・美容外科)：I2PL (Ellipse Flex) とフィラーのコンビネーションによる rejuvenation．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 27) 秋元正宇<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> (千葉北総病院形成外科)：Square flap method による埋没耳形成術の有効性について：有限要素法による解析から．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 28) 橋田絵里香，岩切 致，赤石諭史，青木 律，百束比古：Delayed foreign body reaction を呈した吸収性プレート (FixorbMX) の使用例．第48回日本形成外科学会，2005．4．
  - 29) 岩切 致，大木更一郎，村上正洋，百束比古，稲田浩美<sup>1)</sup>，三原恵理<sup>1)</sup> (看護部)：日本医科大学付属病院における顔面部褥瘡について．第7回日本褥瘡学会，2005．8．
  - 30) 岡 敏行<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>2)</sup>，岩切 致，百束比古<sup>(1)</sup> (筑西市民病院形成外科)，<sup>2)</sup> (同外科)：殿部表皮嚢腫から発生したと思われる有棘細胞癌の1例．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 31) 青木 律，奥田貴久，江浦重義，百束比古：美容的観点を考慮に入れた顔面皮膚腫瘍摘出術．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

- 32) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学皮膚科学 ): 早期皮膚癌に対する Day Surgery . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 33) 内谷栄一<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科 ): 再発を繰り返した上筋上皮癌の1例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 34) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科 ): 正方弁による埋没耳形成術 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 35) 奥田貴久, 青木 律, 江浦重義, 百束比古, 下田貴子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>皮膚科学 ): 重度耳介変形の治療経験 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 36) 水野博司, 百束比古, 小坂真一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>大和成和病院心臓外科 ): 開心術後の縦隔合併症に対する腹直筋皮弁の有用性 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 37) 赤石諭史<sup>1)</sup>, 橘田絵里香, 大木更一郎, 百束比古 : 新しい皮弁 : 穿通枝双茎遊離超薄皮弁 ( SCAP-DICP ) . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 38) 岩切 致, 大木更一郎, 百束比古, 稲田浩美<sup>1)</sup>, 三原恵理<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>看護部 ): 付属病院における顔面部褥瘡の検討 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 39) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>会津中央病院形成外科 ): 術後抗生剤局所投与によって治療しえた褥瘡の3例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 40) 黒田周一<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科 ): ズレの褥瘡発生への影響の解析 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 41) 佐野和史, 百束比古 : キメラ型内側腓腹筋穿通枝皮弁を用いた皮膚欠損の再建 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 42) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科 ): Q スイッチ Nd-YAG レーザー装置 ( Q-YAG5 ) による老人性色素斑の臨床試験報告 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 43) 西川みどり<sup>1)</sup>, 石井和博<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>, 小川 令, 百束比古 ( <sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup>第二病院形成外科 ): 極めて稀な頭部癬痕ケロイドの1例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 44) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科 ): 予防接種部位に発生したケロイド長径の経時的変化について . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 45) 小池幸子, 小川 令, 百束比古 : リストカットの傷跡の修正法 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 46) 大木琴美<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科 ): 遠赤外線効果の相乗効果が示唆された深達性炭火熱傷の検討 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 47) 野本俊一, 岩切 致, 百束比古, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 利根川均<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院形成外科 ): 左頬部に生じた鱈性癌と思われる1例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 48) 青木伸峰, 佐野和史, 橘田絵里香, 百束比古 : 科に於ける Zone II III 屈筋腱損傷治療の検討 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 49) 橘田絵里香, 青木雅代, 青木伸峰, 佐野和史, 百束比古 : 化膿性膝関節炎後の救済措置として関節固定術を行う際の問題点 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 50) 江浦重義, 百束比古, 岩切 致, 野本俊一 : Distally based sural flap without sural nerve のクロスレッグ法による移植で救済した下腿複離開放骨折の1例 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 51) 小川 令, 藤村樹里, 水野博司, 島田 隆, 百束比古 ( <sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>生化学第2 ): 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた造血器疾患治療の試み . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 52) 飛田護邦, 水野博司, 小川 令, 百束比古 : 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生 . 第73回日本医科大学医学会総会, 2005 . 9 .
- 53) 百束比古, 野本俊一, 奥田貴久, 河原理子<sup>1)</sup>, 平川慶子<sup>2)</sup>, 植草協子<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>神栖済生会病院形成外

- 科,<sup>2)</sup>日本医科大学法医学):美容外科の問題点:非吸収性異物の注入による種々の合併症.第73回日本医科大学医学学会総会,2005.9.
- 54)青木雅代<sup>1)</sup>,野本俊一,河原理子<sup>2)</sup>,百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科,<sup>2)</sup>神栖済生会病院形成外科):生理食塩水充填プロテーゼの破潰による合併症の1例.第73回日本医科大学医学学会総会,2005.9.
- 55)小川 令,埴 秀樹<sup>1)</sup>,平井幸彦<sup>1)</sup>,倉井年幸<sup>1)</sup>,藤村樹里<sup>2)</sup>,渡邊 淳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2,<sup>2)</sup>薬理学):脂肪組織由来間葉系幹細胞と骨髄由来間葉系幹細胞の比較検討.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 56)小川 令,渡邊 淳<sup>1)</sup>,藤村樹里<sup>2)</sup>,水野博司,百束比古,島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2):ラットとマウス由来脂肪組織由来間葉系幹細胞のcDNA マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子解析.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 57)藤村樹里<sup>1)</sup>,小川 令,水野博司,福永慶隆<sup>2)</sup>,鈴木秀典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学,<sup>2)</sup>小児科学):マウス・ラット脂肪組織由来間葉系幹細胞を神経系へ分化誘導する.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 58)飛田護邦,水野博司,村上正洋<sup>1)</sup>,百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科):3-D peptido scaffoldを用いた脂肪組織由来幹細胞による軟骨再生.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 59)糸井由里恵,水野博司,百束比古:脂肪組織由来幹細胞を用いたin vivoでの脂肪組織再生と担体の検討.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 60)河瀬陽子<sup>1)</sup>,徳原 真<sup>1)</sup>,高戸 毅<sup>2)</sup>,水野博司,浜崎辰夫<sup>1)</sup>,大河内仁志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立国際医療センター再生組織細胞医学研究部,<sup>2)</sup>東京大学医学部口腔外科):ニューロスフェア法を用いたヒト脂肪組織からの神経細胞誘導の検討.第8回日本組織工学会,2005.9.
- 61)魯 峰,小川 令,百束比古,高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>南方医大形成外科):ケロイドおよび肥厚性瘢痕におけるギャップ結合細胞間情報伝達異常とコネキシン発現の解析.第14回日本形成外科学会基礎学術集会,2005.10.
- 62)小川 令,藤村樹里<sup>1)</sup>,水野博司,百束比古,島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学,<sup>2)</sup>生化学第2):脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導.第14回日本形成外科学会基礎学術集会,2005.10.
- 63)糸井由里恵,水野博司,百束比古:各種担体と脂肪組織由来幹細胞の組合せにおける脂肪組織形成の比較.第14回日本形成外科学会基礎学術集会,2005.10.
- 64)小川 令,藤村樹里<sup>1)</sup>,水野博司,百束比古:脂肪組織と骨髄における間葉系幹細胞の比較検討.第14回日本形成外科学会基礎学術集会,2005.10.
- 65)水野博司,小池幸子,百束比古,宮本正章<sup>1)</sup>,高野照夫<sup>1)</sup>,黒柳能光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1,<sup>2)</sup>北里大学人工皮膚開発センター):細胞治療を取り入れた虚血性難治性足趾潰瘍に対する治療アルゴリズム.第5回日本再生医療学会,2006.3.
- 66)飛田護邦,水野博司,村上正洋,百束比古:合成ポリペプチドを担体とした脂肪組織由来幹細胞による軟骨再生.第5回日本再生医療学会,2006.3.
- 67)藤村樹里<sup>1)</sup>,小川 令,水野博司,福永慶隆<sup>1)</sup>,百束比古,鈴木秀典<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学,<sup>2)</sup>薬理学):脂肪組織由来間葉系幹細胞の神経系細胞への分化誘導 第2報.第5回日本再生医療学会,2006.3.

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

1. 臨床:皮膚悪性腫瘍の治療では皮膚科とともにsentinel node navigation surgery を開始し,縮小手術を実践している.また,ケロイドおよび肥厚性瘢痕の治療においては,昨年同様,術後電子線照射の線量の調整やシリコンクッションの使用などbest Protocolを目指している.さらに座瘡後のケロイドに対しては新しい治療法として光線力学療法(PDT)を開始した.

2. 基礎:ケロイド発生因子のひとつにIL-6 Pathwayが関与していることを解明し,現在は抗IL-6抗体薬を用いたケロイド抑制効果について,細胞レベルで検討中である.今後,既に他疾患で臨床応用されている抗IL-6抗体薬を用

いた臨床応用へとつなげていく予定である。また、熱傷再建に用いてきた pectoral intercostal perforator flap の血行動態解明のため解剖学第二講座のもとで微小血管造影を行い、より安全な皮弁作製法を開発している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tosa M, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Hirai T, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): Global gene expression analysis of keloid fibroblasts in response to electron beam irradiation reveals the involvement of Interleukin-6 Pathway. J. Invest. Dermatology 2005; 124: 704-713.
- 2) Chin T<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): An anatomical study and clinical cases of 'super-thin flaps' with transverse cervical perforator. British Journal of Plastic Surgery 2005; 58(4): 550-555.
- 3) Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): The multi-lobed propeller flap method. Plast. Reconstr. Surg 2005; 116(2): 599-604.

#### (2) 綜説：

- 1) 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 村上正洋, 高 建華<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 南方医科大学形成外科): 熱傷後瘢痕拘縮に対する皮弁移植の適応と新展開. 熱傷 2006; 32: 1-11.
- 2) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Superficial Cervical Artery Flap: 20年間の経験とその発展. 日医大医会誌 2006; 2(1): 12-17.

#### (3) 症例報告：

- 1) Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): A rare case of hypertrophic scar on the scalp. Plast. Reconstr. Surg 2006; 117(1): 321-322.
- 2) 土佐眞美子, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同形成外科・美容外科): Bedner Tumor (Pigmented dermatofibrosarcoma protuberance) の1例. 日形会誌 2006; 26: 128-133.
- 3) 久保一人, 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 外陰部に発生した基底細胞癌の1例. 形成外科 2006; 49(2): 223-225.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋, 高 建華<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 中国南方医大南方病院): 輪郭重視部位に対する種々の thin flap の適用と結果. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.

#### (2) 一般講演：

- 1) Nomoto S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Murakami M, Iwakiri I<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>1)</sup>, Oki K<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): Decade of our flaps Distally based sural flap without sural nerve and superficial cervical artery perforator flap. 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery (Tokyo), 2005. 10.
- 2) Iwakiri I<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Murakami M, Nomoto S<sup>1)</sup>, Gao Jh<sup>2)</sup>, Le F<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nang-Fang Hospital): Microvascular augmented CP or OCP flap for postburn scar contracture in neck. 15th Japan-China Joint Meeting of Plastic Surgery (Tokyo), 2005. 10.

- 3) 村上正洋, 内谷栄一, 大木琴美, 土佐眞美子, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): Pectoral intercostal perforator-based flap による手掌の熱傷瘢痕拘縮再建. 第7回横浜形成外科フォーラム, 2005. 5.
- 4) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 炭火による深達性熱傷の検討. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 5) 岩切 致<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): Central hub axis flap method. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 6) 高 建華<sup>1)</sup>, 魯 峰<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 村上正洋(<sup>1)</sup>中国南方病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): Expanded staged super-thin flap による熱傷瘢痕の再建. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 7) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): SCAP ( Superficial cervical artery perforator ) 皮弁による熱傷再建例の検討. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 8) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): Kenzan punctured skin graft. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 9) Vinh V-Q<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ベトナム国立熱傷研究所, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): Supraclavicular flap による熱傷頸部瘢痕拘縮再建の30例. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 10) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): Microvascular augmented super-thin flap による高度熱傷瘢痕拘縮の再建. 第31回日本熱傷学会, 2005. 6.
- 11) 青木伸峰<sup>1)</sup>, 村上正洋, 中村 敏<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): 創状態と臨床データの整合性を欠く得意な坐骨部褥瘡の1例. 第7回日本褥瘡学会, 2005. 8.
- 12) 土佐眞美子, ガジザデモハメッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 大木琴美, 内谷栄一, 村上正洋, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病院研究所病理部門, <sup>2)</sup>付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発生におけるIL-6シグナル伝達回路に関する機能解析. 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 13) 岩切 致<sup>1)</sup>, 村上正洋, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): 顔面部褥瘡の発生と治療およびその対策について. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.
- 14) 大木琴美, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 魯 峰<sup>2)</sup>, 高 建華<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>中国南方医大形成外科): 遊離あるいは有茎皮弁による頬部再建の検討. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 15) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): SCAP ( Superficial Cervical Artery Perforator ) flap. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 16) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 大木琴美, 平井 隆(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科): 同種血管束による組織移植および創傷治癒促進の実験. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 17) 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 利根川均<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>博慈会記念病院形成外科): 腓腹神経を温存したDistally based sural flap による下腿再建. 第32回マイクロサージャリー学会, 2005. 12.
- 18) 土佐眞美子, ガジザデモハメッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発生過程におけるIL-6 signal pathway の関与についての機能解析. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 19) 水野博司<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 飛田護邦<sup>1)</sup>, 糸井由里恵<sup>1)</sup>, 南部正樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>防衛医大形成外科): 脂肪組織幹細胞による組織再生: 臨床応用への道のり. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- (3) ポスター:
- 1) Tosa M, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of

- Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Molecular Pathology, Institute of Gerontology): Response of keloid fibroblasts to electron beam irradiation by cDNA microarray analysis. International 1st Scar Meeting (Montpellier, France), 2006. 3.
- 2) 久保一人, 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 外陰部に発生した基底細胞癌の治療経験. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 3) 中村 敏<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 付属病院形成外科における犬・猫咬傷123例の検討. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 4) 内谷栄一, 平井 隆, 土佐眞美子, 久保一人, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 再発を繰り返したepithelial-myoepithelial carcinomaの1例. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 5) 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 久保一人, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Bedner tumor (pigmented dermatofibrosarcoma protuberans) の治療経験. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 6) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 久保一人<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 頭蓋骨より発生した巨大な軟骨腫の1症例. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 7) 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 久保一人, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 帝王切開後の肥厚性瘢痕およびケロイドの検討. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 8) 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 久保一人, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 肥厚性瘢痕およびケロイドに対するシリコンクッション療法: 第1報, 適応と治療効果に関する検討. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 9) 土佐眞美子, 平井 隆, 内谷栄一, 久保一人, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): いわゆるケロイドに対するクッション療法: 第2報, 帝王切開後ケロイド発生予防効果の検討. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 10) 岩切 致<sup>1)</sup>, 陳 貴史<sup>2)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 顔面部褥瘡の統計と治療について. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 11) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 治療に難渋した高齢者の腰背部放射線潰瘍の1例. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 12) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): The scar band rotation flap. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.
  - 13) 岩切 致<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 稲田浩美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 付属病院看護部): 日本医科大学付属病院における顔面部褥瘡について. 第7回日本褥瘡学会, 2005. 8.
  - 14) 内谷栄一, 平井 隆, 土佐眞美子, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 再発を繰り返した上皮筋上皮癌の1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
  - 15) 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Q スイッチNd-YAG レーザー装置 (Q-YAG5) による老人性色素斑の臨床試験報告. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
  - 16) 西川みどり<sup>1)</sup>, 石井和博<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 極めて稀な頭部瘢痕ケロイドの1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
  - 17) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 予防接種部位に発生したケロイド長径の経時的変化について. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
  - 18) 大木琴美, 村上正洋, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 遠赤外線効果の相乗効果が示唆された深達性炭火熱傷の検討. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
  - 19) 飛田護邦<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 3-D peptido scaffoldを用いた脂肪組織由来幹細胞による軟骨再生. 第8回日本組織工学会, 2005. 9.

20) 飛田護邦<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 合成ポリペプチドを担体とした脂肪組織由来幹細胞による軟骨再生. 第5回日本再生医療学会, 2006. 3.

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

主に皮膚手術シミュレーションの研究, 褥瘡の発生機序コンピュータシミュレーションの研究に成果があった.

(1) 皮膚手術シミュレーションの研究: 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行う. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明する. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価する. これらの結果から, 新しい, より合理的で, 誰にでも可能な手術法を開発することができる.

(2) 褥瘡発生機序の研究: 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明する. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高い体位の考案. 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発. 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発. 等が期待できる.

(3) シミュレーションによる皮膚形成術の教材作成: 皮膚形成術の皮膚の変形, 内部応力の発生などを3次元グラフィックスで表示し, 視覚的に理解できる教材を作成する. 皮膚形成術は, 医学生, 研修医といった初学者には非常に理解し難いものである. 皮膚形成術の手術シミュレーションを3次元的なアニメーションで, 同時に力学的な特性も併せて表示することで, 皮膚形成術の術式, 特徴, 適応などを初学者にも用意に理解させることができる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Kuroda S, Akimoto M: Finite Element Analysis of Undermining of Pressure Ulcer with a Simple Cylinder Model. J Nippon Med Sch 2005; 72 (3): 174-178.
- 2) Chigira M, Akimoto M: Use of a skin adhesive (octyl-2-cyanoacrylate) and the optimum reinforcing combination for suturing wounds. Scand. J. Plast. Reconstr. Surg. Hand Surg 2005; 39 (6): 334-338.
- 3) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古: 側頭部開頭術後変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation: 骨口ウによる術中シミュレーションの工夫. 日頭顎顔会誌 2005; 21: 221-227.

#### 著書

- 1) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): [ 分担 ] Use of calcium phosphate bone paste for deformity of post craniofacial trauma. Craniofacial Surgery ( David J. David ), 2005; pp367-368, Medimond, ( Bologna Italy ).

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Use of calcium phosphate bone paste for deformity of post craniofacial trauma. the XIth Bi-Annual Congress of the International Society of Craniofacial Surgery ( Queensland, Australia ), 2005. 9.
- 2) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Square flap method による埋没耳形成術の有効性について: 有限要素法による解析から. 第48回日本形成外科学会, 2005. 4.



- 3) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 正方弁による埋没耳形成術. 第73回日本医科大学医学学会総会, 2005. 9.
- 4) 黒田周一, 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): ズレの褥瘡発生への影響の解析. 第73回日本医科大学医学学会総会, 2005. 9.
- 5) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚手術シミュレーションにおける熱収縮トラス要素を用いた仮想縫合法. 第15回日本シミュレーション外科学会, 2005. 10.
- 6) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 正方弁法とZ形成術が作る谷の深さ: 有限要素法によるシミュレーションから. 第15回日本シミュレーション外科学会, 2005. 10.
- 7) 秋元正宇: 有限要素法による皮膚手術シミュレーションにおける縫合の表現. 第14回日本形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 8) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 正方弁原法とその変法による埋没耳形成術. 第23回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2005. 11.

## 20. 付属病院付置施設等

### [ 付属病院遺伝診療科 ]

#### 研究概要

日本医科大学付属病院では新しい時代の遺伝子医学に対応するため、平成10年に第二生化学、小児科、産婦人科、看護部門が協力して小児科遺伝外来において遺伝診療を開始した。遺伝子診療部、遺伝診療科などの遺伝子医療部門が大学病院や国立医療機関を中心に全国的に立ち上がってきているなか、平成15年5月からは独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年1月には、私立大学として初めて日本医科大学付属病院が臨床遺伝専門医研修施設として認定された。日本医科大学付属病院遺伝診療科は全国で数少ない専門医養成のための研修機関として認知され、この3年間に6名の臨床遺伝専門医を輩出し、現在も学内外から研修医が集まっている。

外来は臨床遺伝専門医、看護師のチームで担当している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点については、外来担当者以外に、内科、小児科、外科、産婦人科などの臨床医、遺伝子研究者、臨床心理士などが参加した遺伝診療カンファレンスで検討されている。これらの議論も参考に、遺伝診療科外来では、対象疾患に関する遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の状況に最大限配慮したカウンセリングを行っている。

これまでに遺伝診療科で担当した疾患は、様々な先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症などで、平成17年7月までに、のべ111件（新患）の症例について外来診療を行っている。遺伝子検査についてはハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型 Ehlers-Danlos 症候群、Gaucher 病をはじめとしたライソゾーム病などについての遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。

遺伝診療は、新しい医学領域であるが、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められている。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師が密接に連携して、遺伝と遺伝病にたいする様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立している。我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医大を代表する診療科として発展させていきたい。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2)：医学部学生を対象とした臨床遺伝に関する理解度調査：医学部における臨床遺伝教育の必要性。医学教育 2005；36(4)：235-241。
- 2) 鈴木由美<sup>1)</sup>，渡辺裕子<sup>1)</sup>，千葉弘子<sup>1)</sup>，渡邊 淳，浅野ありさ，右田 真，島田 隆(<sup>1)</sup>付属病院看護部)：大学病院遺伝診療部における遺伝看護実践。小児看護 2006；29(2)：158-163。
- 3) 渡邊 淳，島田 隆：小児臨床における遺伝問題とその対応。小児看護 2006；29(2)：201-206。

##### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Watanabe A, Wada T, Tei K, Hata R, Fukushima Y, Shimada T (<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2, <sup>2)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部, <sup>3)</sup>東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報プログラム, <sup>4)</sup>神奈川歯科大学生体機能学講座生化学・分子生物学分野)：A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome by the combination with RNAi mediated inhibition of a mutant allele and transcriptional activation of a normal allele in vascular EDS fibroblast. 第11回 日本遺伝子治療学会, 2005. 7.

## (2) 一般講演：

- 1) Watanabe A<sup>1)</sup>, Wada T<sup>2)</sup>, Tei K<sup>3)</sup>, Hata R<sup>4)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2,<sup>2)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部,<sup>3)</sup>東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報プログラム,<sup>4)</sup>神奈川歯科大学生体機能学講座生化学・分子生物学分野): A novel gene therapy strategy for vascular Ehlers-Danlos syndrome by the combination with RNAi mediated inhibition of a mutant allele and transcriptional activation of a normal allele. The 8th American Society of Gene Therapy, 2005. 6.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 色覚特性(色盲)を医学教育の中でどのように取り入れていくか: 高校教科書の現状と日本医科大学での試み. 第29回日本遺伝カウンセリング学会, 2005. 5.
- 3) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 畑隆一郎<sup>2)</sup>, 程久美子<sup>3)</sup>, 居作和人<sup>2)</sup>, 和田敬仁<sup>4)</sup>, 福嶋義光<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2,<sup>2)</sup>神奈川歯科大学生体機能学講座生化学・分子生物学分野,<sup>3)</sup>東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報プログラム,<sup>4)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部): 血管型 Ehlers-Danlos syndrome (EDSIV) に対する遺伝子治療方略の検討. 第37回日本結合組織学会学術集会, 2005. 5.
- 4) 鈴木由美, 渡邊 淳, 渡辺裕子, 浅野ありさ, 千葉弘子, 右田 真, 島田 隆: 羊水検査で認められた染色体異常の遺伝カウンセリングのフォローアップ. 第29回日本遺伝カウンセリング学会, 2005. 5.
- 5) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ, 右田 真, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 医学部での臨床遺伝教育: 日本医科大学の試み. 第12回日本遺伝子診療学会, 2005. 7.
- 6) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ, 右田 真, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 日本医科大学における臨床遺伝教育の試み: 医学教育のなかで臨床遺伝をどのように位置づけるか. 第37回医学教育学会, 2005. 7.
- 7) 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>3)</sup>, 及川真一<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部,<sup>2)</sup>分子遺伝医学,<sup>3)</sup>付属病院小児科,<sup>4)</sup>付属病院内分泌代謝内科): 未発症で同定された成人発症II型シトルリン血症のクライアント・家族の抱える問題と支援. 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005. 9.
- 8) 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部,<sup>2)</sup>小児科学,<sup>3)</sup>分子遺伝医学): 遺伝性神経筋疾患シャルコー・マリー・トウス病の遺伝子診断を希望された患者のカウンセリングを通して. 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005. 9.
- 9) 千葉弘子<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 都甲明子<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院看護部,<sup>2)</sup>同小児科,<sup>3)</sup>山口病院産婦人科,<sup>4)</sup>日本医科大学分子遺伝医学): 遺伝外来における結婚前遺伝カウンセリングでの看護職の役割. 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005. 9.

## [ 付属病院集中治療室 ]

### 研究概要

アスピリンレジスタンスの実態ならびにその遺伝子背景に関する研究: The Study on Profile and Genetic factors of Aspirin Resistance (ProGAR) が国立循環器センターを中心に始まり, 日本医大集中治療室も冠動脈疾患のデータ集積に参加した. 致死的な心室頻拍, 心室細動の緊急治療において選択される抗不整脈薬の多施設共同前向き研究として, 塩酸ニフェカランの有効性を検討するトライアル, カルペリチドの急性腎不全を対象とした臨床前期第二層試験も進行中である. 注目を集めているクリピドグレルの non-ST elevation 急性冠症候群を対象とした2重盲検群間比較による前期第二層試験は17年中にデータ集積を終え, 現在キーオープン目前である. またBNP注射薬の国内試験の前段階の検討会が開催された. これからはわれわれの研究もリドカインからニフェカランへ, パナルジンからクリピドグレルへ, カルペリチドからBNPへと移っていくと思われる.

本年度の集中治療室の研究業績は急性冠症候群, 急性肺血栓塞栓症, 大動脈解離などを中心に積み重ねられている. 厳しい集中治療に追われ, BSL や研修医教育に日常の多くの時間を割かなければならない中, スタッフの努力の結果である.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Tanaka K, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Radiology, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine): Recent advances in interventional radiology for acute massive pulmonary thromboembolism. J Nippon Med Sch 2005; 72 (2): 74-84.
- 2) Akutsu K, Sato N, Yamamoto T, Morita N<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Fujita N, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): A rapid bedside D-dimer assay (cardiac D-dimer) for screening of clinically suspected acute aortic dissection. Circ J 2005; 69 (4): 397-403.
- 3) Yamamoto T, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takagi H, Akutsu K, Fujita N, Kasagami Y, Sato N, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): Impact of the revised criteria for acute myocardial infarction using cardiac troponins in a Japanese population with acute coronary syndrome. Circ J 2005; 69 (7): 774-779.
- 4) Hayashi M<sup>1)</sup>, Tanaka K, Kato T<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Sato N, Yasutake M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): Enhancing electrical cardioversion and preventing immediate reinitiation of hemodynamically deleterious atrial fibrillation with class III drug pretreatment. J Cardiovasc Electrophysiol 2005; 16 (7): 740-747.
- 5) Kosugi M<sup>1)</sup>, Ono T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H, Sato N, Dan K<sup>2)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>内科学第3): Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy. Int J Cardiol 2005; 26.
- 6) Zreiqat J<sup>1)</sup>, Tanaka K, Yasutake M<sup>1)</sup>, Sato N, Yajima T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2): Aortic dissection with pseudo-aortic regurgitation and transient myocardial ischemia: a case report. Angiology 2005; 56 (6): 233-236.
- 7) Koda S<sup>1)</sup>, Takeda S, Onimaru H<sup>2)</sup>, Akada S, Sakamoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup>Department of Physiology, School of Medicine Showa University): Cannabinoid suppressed bicuculline-induced convulsion without respiratory depression in the brainstem-spinal cord preparation from newborn rats. Biomed Res 2006; 26 (11): 241-247.
- 8) Terajima K<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Onodera H<sup>1)</sup>, Takeda S, Tanaka K, Sakamoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology): Unmasking of Brugada syndrome by an antiarrhythmic drug in a patient with septic shock. Anesth Analg 2006; 102 (1): 233-236.
- 9) Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Medicine): Initial experience of intra-aortic balloon pumps with angio-seal. Journal of invasive cardiology 2006; 18 (3): 130-132.
- 10) 竹田晋浩: SIRS/ALI に対するシベレスタットナリウムの有効性. 呼吸 2005; 24 (4): 356-358.
- 11) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線科): 重症急性肺血栓塞栓症に対する治療戦略: カテーテルを第一選択として. 静脈学 2005; 16 (2): 79-85.
- 12) 岩崎雄樹, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄<sup>1)</sup>, 岡崎玲子<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 舘岡克彦<sup>1)</sup>, 堀江 格<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 淀川顕司, 森田典成<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): QRS 波形および先行周期の交互現象を認めた左脚前枝起源 Verapamil 感受性特発性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2005; 28: 71-79.
- 13) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野沢志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1): カテーテル治療. Ther Res 2005; 26 (6):

1225-1227 .

- 14) 加藤浩司, 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 重症難治性虚血肢・心に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法の現状. 今日の移植 2005 ; 18 (3): 259-266 .
- 15) 竹田晋浩, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 赤田信二, 小林克也<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 田中啓治, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 集中治療室における非侵襲的陽圧換気 (NPPV) の使用状況の推移 . 日本集中治療医学会誌 2006 ; 13 (1): 41-46 .

## (2) 綜説 :

- 1) 竹田晋浩 : ARDSの診療 どう治療するか ARDSの実際 5. 水分管理の実際 . 臨床医 2005 ; 31 (4): 458-459 .
- 2) 田中啓治 : 経皮の心肺補助法 (PCPS) . 月刊メディカル・サイエンス・ダイジェスト 2005 ; 31 (4): 112-113 .
- 3) 岩崎雄樹 : 心房細動における血栓の発症機序 3 左心房心内膜機能 . 治療学 2005 ; 39 (4): 371-374 .
- 4) 竹田晋浩 : 重症治療室とケア Q79急性肺水腫の患者さんのケアポイントは何? . 呼吸ナーシングケアQ&A 2005 ; 10 (5): 34-36 .
- 5) 山本 剛 : 経皮の心肺補助装置 (PCPS) の効果と適応 . 呼吸器科 2005 ; 7 (6): 655-660 .
- 6) 岩崎雄樹, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 新しい心肺蘇生法を学ぶ : BLSとACLS : 除細動器と自動式体外除細動器の使用法 . 外科治療 2005 ; 92 (6): 1108-1111 .
- 7) 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 内科疾患の診断基準 病型分類・重症度 V. 循環器 急性心筋梗塞の診断基準・病型分類・重症度 . 内科 2005 ; 95 (6): 1288-1292 .
- 8) Nava S<sup>1)</sup>, 陳 和夫<sup>2)</sup>, 竹田晋浩, 今中秀光<sup>3)</sup>, 長谷川隆一<sup>4)</sup>, 西村匡司<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>respiratory intensive care unit, Istituto Scientifico di Pavia, Italy, <sup>2)</sup>京都大学附属病院理学療法部, <sup>3)</sup>国立循環器病センター外科系集中治療, <sup>4)</sup>公立陶生病院救急部, <sup>5)</sup>徳島大学医学部救急集中治療): NPPVの適応と初期設定 . 呼吸 2005 ; 24 (7): 648-659 .
- 9) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管研究所): 心房細動update : 発生機序から最新の治療戦略まで 心房細動の治療戦略 : レートコントロールかリズムコントロールか . 循環器科 2005 ; 58 (1): 55-60 .
- 10) 岩崎雄樹, 小林義典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心房細動update : 発生機序から最新の治療戦略まで 心房細動発生基質の電気生理学的特長 . 循環器科 2005 ; 58 (1): 9-14 .
- 11) 竹田晋浩 : NPPVのスタートからゴールまで . HOME CARE TODAY 2005 ; 9 (9): 38-40 .
- 12) 竹田晋浩 : ICU・急性期病棟における人工呼吸のリスクマネジメント 人工呼吸のリスクマネジメント . 呼吸器ケア 2005 ; 3 (10): 34-36 .
- 13) 赤田信二, 竹田晋浩 : 陽陰圧体外式人工呼吸の適応とセッティング 人工呼吸と集中ケア . 救急集中治療 2005 ; 11 (11): 1124-1127 .
- 14) 篠田暁与<sup>1)</sup>, 山本 剛, 宮元亮子<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 塚 宏一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): モバイル肺血流シンチグラフィが有用であった, ショックにて発症した広範囲性塞栓症と奇異性塞栓による心筋梗塞を合併した1例 . Ther Res 2005 ; 26 (6): 1069-1073 .
- 15) 田島廣之<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 市川和雄<sup>2)</sup>, 福永 毅<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 山本 剛, 高山守正<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): カテーテル治療 . Ther Res 2005 ; 26 (6): 1225-1227 .
- 16) 竹田晋浩, 赤田信二 : 急性心不全, 酸素吸入・呼吸補助, 循環管理Q&A . 救急集中治療 2006 ; 17 (1): 135-139 .
- 17) 塚 宏一<sup>1)</sup>, 田中啓治 (<sup>1)</sup>国立循環器病センター病院内科心臓血管部門): 開存B型大動脈解離慢性期における治療戦略 . 脈管学 2006 ; 46 (2): 61-66 .

## (3) レビュー :

- 1) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>2)</sup>, 関口昭子<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>心臓血管研究

所): 肺静脈のイオンチャンネルと電気現象: 肺静脈はなぜ不整脈源性か? . 心電図 2005 ; 25 ( Supplement3 ): 20-26 .

#### (4) 症例報告:

- 1) Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Takeda S, Miyashita M<sup>1)</sup>, Ikezaki H, Nakajima Y, Akada S, Makino H<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka K ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery ): A Case of cardiac Tamponade Following Esophageal Resection . J Anesth 2005 ; 19 ( 4 ): 249-251 .

#### 著 書

- 1) 竹田晋浩: [ 編集 ] IV 章 NPPV ( 非侵襲的陽圧換気 ). ナースのための呼吸療法 クリニカル・ナース BOOK シリーズ, 2005 ; pp51-58, 医学芸術社 .
- 2) 加藤浩司, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): [ 分担 ] 7. 補助循環をいつ使うか, どのように使うか . 新・心臓プラクティス6 心不全に挑む・患者を救う ( 筒井博之, 吉川純一, 松崎益徳 ), 2005 ; pp239-239, 文光堂 .
- 3) 竹田晋浩: [ 分担 ] 急性心不全の治療 NPPV ( 非侵襲的陽圧換気療法 ) は必要であるか? . EBM 循環器疾患の治療2006-2007 ( 三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖 ), 2005 ; pp330-334, 中央医学社 .
- 4) 竹田晋浩, 赤田信二: [ 分担 ] 非侵襲的人工呼吸 ( NPPV ). もっとも新しい人工呼吸ケア ( 磨田 裕 ), 2005 ; pp44-49, 学習研究所 .
- 5) 加藤浩司, 清野精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1 ): [ 分担 ] 循環管理 Q & A 研修医からの質問337 II. 狭心症 Q8 不安定狭心症 . 救急・集中治療 第17巻 臨時増刊号 2005 ( 山科 章 ), 2006 ; pp39-46, 総合医学社 .
- 6) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>心臓血管研究所): [ 分担 ] Kチャンネル遮断薬の使い方 . 循環器病の薬物療法 ( 新目でみる循環器病シリーズ ) ( 斎藤宗靖 ), 2006 ; pp182-187, メジカルビュー社 .
- 7) 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1 ): [ 分担 ] 急性心筋梗塞に伴う機械的合併症 . 循環器疾患最新の治療 2006 ~ 2007 ( 山口 徹, 堀 正二 ), 2006 ; pp63-65, 南江堂 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) 山本 剛: 大動脈疾患救急ネットワークの構築 ( 大血管疾患救急医療の現状と問題点 ). 第25回東京CCU研究会, 2005 . 11 .
- 2) 淀川顕司, 岩崎雄樹, 山本 剛, 村井綱児, 吉川雅智, 加藤浩司, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治: 現場シリーズ: 若手医師ならびに看護師より問題提起があります『集中治療の現場: 循環管理』心電図モニターを見直せ: 重症心室性不整脈に対するICU管理 . 第33回日本集中治療学会学術集会, 2006 . 3 .
- 3) 加藤浩司, 佐藤直樹, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1 ): 集中治療チーム全体で考えよう『集中治療での循環モニター』集中治療における心エコー検査の役割 . 第33回日本集中治療学会学術集会, 2006 . 3 .
- 4) 竹田晋浩: ARDS診断基準の問題点と治療 ( シンポジウム集中治療の現場呼吸管理 ). 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .

##### (2) パネルディスカッション:

- 1) 加藤浩司: ACLS治療のトランスレーショナルリサーチ: ニューデバイスから再生医療まで 重症虚血心筋に対する自家骨髄細胞移植の効果の検討 . 心筋梗塞研究会, 2005 . 7 .

##### (3) セミナー:

- 1) 山本 剛: 循環器救急疾患におけるDダイマー迅速測定キットの有用性一過性の白血球減少をきたした1例 . 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005 . 8 .
- 2) 山本 剛: 薬物療法とカテーテル治療の使い分けまたは併用 ( 急性肺塞栓症の重症例に対する診断と治療はい

かにあるべきか). 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.

(4) 一般講演:

- 1) Takeda S: Clinical trials on respiratory care. The 13th congress of asia pacific association for respiratory care (横浜), 2005. 9.
- 2) 佐藤直樹, 山本 剛, 藤田進彦, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 加藤浩司, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>(1)</sup> (内科学第1): Etiology of Acute Heart Failure from 1980 to 2004 in Cardiac Care Unit of Nippon Medical School. 第9回日本心不全学会学術集会, 2005. 10.
- 3) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>2)</sup>, Sekiguchi A<sup>2)</sup>, Kato T<sup>2)</sup>, Tsuneda T<sup>2)</sup>, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T<sup>(1)</sup> (The First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Institute): Arrhythmogenic Substrates of Atrial Fibrillation in Hypertension. 第70回日本循環器学会学術集会, 2006. 3.
- 4) 藤田進彦, 村上大介, 川嶋修司, 田中古都子, 宮本正章, 太田眞夫: 持効型インスリン・グラギルンの使用状況と臨床の効果. 第48回日本糖尿病学会学術集会, 2005. 5.
- 5) 竹田晋浩: 各種人工呼吸器のポイント. 第27回日本呼吸療法医学会, 2005. 7.
- 6) 山本 剛, 佐藤直樹, 吉川雅智, 加藤浩司, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 坪 宏一<sup>2)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (内科学第1, <sup>2)</sup> 国立循環器病センター 血管内科部門): 非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP: 統合的リスクマーカーとしての有用性. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 7) 山本 剛, 佐藤直樹, 吉川雅智, 加藤浩司, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 坪 宏一, 藤田進彦, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (内科学第1): 非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP: 統合的リスクマーカーとしての有用性. 第53回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 8) 関口昭子<sup>1)</sup>, 山下武志<sup>1)</sup>, 加藤武史<sup>1)</sup>, 相良耕一<sup>1)</sup>, 飯沼宏之<sup>1)</sup>, 伝 隆泰<sup>1)</sup>, 相沢忠範<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹, 大塚崇之<sup>2)</sup>, 常田孝幸<sup>3)</sup> (心臓血管研究所, <sup>2)</sup> 東邦大学医学部大森病院, <sup>3)</sup> 富山医薬大学 内科学第2): 心房細動による心房内皮障害予防: オルメサルタンの意義. 日本心電図学会学術集会, 2005. 9.
- 9) 加藤浩司, 藤田進彦, 山本 剛, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 吉川雅智, 佐藤直樹, 高山守正<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (内科学第1): 急性心筋梗塞と大動脈弁狭窄症による心原性ショックに対して積極的治療によりショック離脱可能であった1例. 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 10) 山本 剛: 急性肺循環障害と心機能. 第12回表蔵王心臓・血管討論会, 2005. 10.
- 11) 山本 剛: 薬物治療とカテーテル (急性肺塞栓症に対する急性期治療と予防). 第27回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 教育セッション, 2005. 10.
- 12) 野呂瀬準, 加藤浩司, 吉川雅智, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 宮城泰雄, 山本 剛, 寺嶋克幸, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 落 雅美<sup>2)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (内科学第1, <sup>2)</sup> 外科学第2): バイパス術後早期のぐらふと閉塞に対して経皮的冠インターベンションが有効であった高齢者不安定狭心症の1例. 第42回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 13) 新真理子, 山本 剛, 小串聡子, 村井綱児, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 神谷仁孝<sup>3)</sup> (日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup> 同放射線医学, <sup>3)</sup> 稲田登戸病院循環器科): 肺癌様の腫瘍陰影を呈した肺梗塞の1例. 第12回肺塞栓症研究会, 2005. 11.
- 14) 吉田明日香, 山本 剛, 吉川雅智, 加藤浩司, 淀川顕司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 宮城泰雄, 佐藤直樹, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup> (内科学第1, <sup>2)</sup> 内科学第3): 特発性血小板減少性紫斑病を合併した劇症型心筋炎に対し補助循環, Yグロブリン大量療法を行い救命した1例. 第198回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 15) 山本 剛, 寺嶋克幸<sup>2)</sup>, 加藤浩司, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 宮城泰雄, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (内科学第1, <sup>2)</sup> 麻酔科学): PCPS回路交換後に高サイトカイン血症による一過性の白血球減少をきたした1例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.

- 16) 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 赤田信二, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 本郷 卓, 田中啓治, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 非侵襲的陽圧換気(NPPV)施行時の鎮静: デクスメドミジンの効果. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 17) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 赤田信二, 中西一浩<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 本郷 卓, 田中啓治, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): ICUにおける非侵襲的陽圧換気(NPPV)とMRSA発現症例の推移. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 18) 赤田信二, 竹田晋浩, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 田中啓治, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 集中治療室における非侵襲的陽圧換気(NPPV)の使用状況の推移. 第33回日本集中治療医学会, 2006. 3.
- 19) 山本 剛, 寺嶋克幸, 加藤浩司, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 宮城泰雄, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): PCPS回路交換後に高サイトカイン血症による一過性の白血球減少をきたした1例. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 20) 岩崎雄樹, 加藤浩司, 淀川顕司, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 重症心室性不整脈発症の契機となる心室性期外収縮の12誘導心電図の特徴. 第33回日本集中治療学会, 2006. 3.
- 21) 田中啓治, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 加藤浩司, 吉川雅智, 村井綱児, 高山守正, 高野照夫: 学齢者大動脈弁狭窄症の病態と対策. 第103回日本内科学会総会・年次講演会, 2006. 3.
- (5) ポスター:
- 1) Iwasaki Y, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Ogano M<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Shioda A<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Tateoka K<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Tanigushi H<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Maruyama M<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The First Department of Internal Medicine): The Mechanism of The Cycle Length and Qrs Alternans During Verapamil-Sensitive Idiopathic Left Ventricular Tachycardia. Heart Rhythm, 26th Annual Scientific Sessions (New Orleans), 2005. 5.
- 2) Iwasaki Y, Yamashita T<sup>2)</sup>, Sekigushi A<sup>2)</sup>, Sagara K<sup>2)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The First Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup>The Cardiovascular Institute): Arrhythmogenic substrates of atrial fibrillation in hypertensive rats. The 1st Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Seoul, Korea), 2006. 12.
- 3) 藤田進彦, 村上大介<sup>2)</sup>, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 田中古都子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 太田真人<sup>1)</sup>, 橋本英洋<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科): 持続型インスリン・グラルギンの使用状況と臨床効果. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005. 5.
- 4) 村井綱児, 山本 剛, 吉川雅智, 加藤浩司, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 中村俊一<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 佐々木朝子<sup>1)</sup>, 山本英世<sup>1)</sup>, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 右冠動脈の巨大血栓に対して5Fr インナーカテーテルによる血栓吸引が有効であった急性心筋梗塞の1例. 第27回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- (6) ポスターセッション:
- 1) Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The First Department of Internal Medicine): Safety and efficacy of angio-seal for the removal of intra-aortic balloon pumps: a pilot study. CCT 2005 in kobe, 2005. 9.
- (7) ラウンドテーブル・ディスカッション:
- 1) 山本 剛: Therapeutic Strategy for Acute Pulmonary Embolism: Current Status and Future Perspectives (肺血栓塞栓症: 現状と展望). 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.



## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

今年は、土屋眞一教授が病理部に加わったことにより、乳腺、細胞診関連の学会報告が目立った。貴重症例の報告にとどまらず、診断に関連した纏まった情報への姿勢も少し見えてきたようであるが、引用、参照される形へと成熟させていくことが望まれる。

基礎配属を選択した学生ほかの、田村浩一助教授を中心とした心・血管系の研究も継続され学会報告された。次年度には、論文として纏まる予定である。中央電子顕微鏡研究施設との診断業務を介した共同研究もそれなりに継続され、腎研究に関しても腎臓班として継続されたが、纏まった研究成果までには至らなかった。次年度に於ける展開を期待したい。

その一方で、医学教育の変化に伴う、卒前・卒後の教育研修、対社会的活動に関する事項が目立った年でもある。卒前・卒後教育、診療面での加重が少人数の分野には重いのが、数年先を期待して頑張っている。今年も数多く開かれた30回余の臨床各科、他施設との勉強会、研究会が、臨床各科との協調、若手医師の教育に大いに役立っており、この中から、研究へのアプローチを今以上に探っていくことが望まれる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tsuchiya S, Li F : Electronmicroscopic findings for diagnosis of breast lesions . Med. Molecu. Morph 2005 ; 4 : 216-225 .
- 2) Kusama R<sup>1)</sup>, Tuchiya S ( <sup>1)</sup>北信綜合病院外科 ): MRI of the breast : comparison of MRI signals and histological characteristics of the same sleces . Med. Molecu. Morph 2005 ; 4 : 204-215 .
- 3) Kitamura T, Tsuchiya S ( <sup>1)</sup>北信綜合病院外科 ): Recovery from idiopathic thrombocytopenic purpura ( ITP ) following right hemicolectomy for mucocele of appendix . J. Gastroenterol 2005 ; 40 ( 7 ): 752-755 .
- 4) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>2)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Wakamatsu K<sup>2)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Ghazizadeh M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>老人病研究所病理部門 ): Reduplicated basal lamina of the peritubular capillaries in renal biopsy specimens . J Submicrosc Cytol Pathol 2005 ; 37 ( 3-4 ): 305-311 .
- 5) Sakai T, Tsuchiya S : A case of unilateral Gravid Macromastia in 23-year-old Japanese woman associated with elevated serum CA19-9 . Breast Cancer 2005 ; 10 ( 3 ): 238-242 .
- 6) Fujita T, Ito K, Tsuchiya S : Increased Nuclear Localization of Transcription Fcator Y-Box Binding Protein 1 Accompanied by Up-Regulation of P-glycoprotein in Breast Cancer Pretreated with Paclitaxel. . Clin. Cancer Res 2005 ; 11 : 8837-8844 .
- 7) Sakai T, Tsuchiya S : Can cytological findings predict intraductal spread of breast cancer? Histological case-control study. . Path Int 2005 ; 55 ( 12 ): 775-780 .
- 8) 土屋眞一, 越川 卓 : 穿刺吸引細胞診の新しい報告様式 . 日臨細 2005 ; 44 : 642-646 .

##### (2) 綜説：

- 1) 田村浩一 : CPC研修の1年を振り返って : 問題点と対応 . 病理専門医部会報 2005 ; 3 .
- 2) 土屋眞一, 越川 卓<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>愛知県立看護大学病理学 ): 穿刺吸引細胞診-実際のアプローチ 穿刺吸引細胞診の新しい報告様式 : 乳腺と甲状腺 . 病理と臨床 2005 ; 23 ( 6 ): 642-646 .
- 3) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 田村浩一, 松本亜紀, 福田 悠<sup>4)</sup>, 山岸峰雄<sup>1)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 山岡淳一<sup>3)</sup>, 功刀しのぶ<sup>4)</sup>, 根井貴仁, 吉村明修 ( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>放射線医学, <sup>4)</sup>病理学第

- 1) : 胃癌術後に嚥下障害と顔面・手指に紅斑を呈した1例. 内科 2005 ; 95 ( 1 ) : 350-361 .
- 4) 田村浩一 : 病理学教育 連載7 : 大学における自主的学習のあり方. 病理と臨床 2005 ; 23 ( 10 ) : 1129-1134 .
- 5) 田村浩一 : 症例解説[58] 心血管 : 大動脈弁の加齢性硬化による狭窄. 病理と臨床 2005 ; 23 ( 12 ) : 1340-1341 .
- 6) 土屋眞一 : 乳腺細胞診の見方・考え方. 福岡県病理・細胞学術研修会誌 2006 ; 11 : 31-46 .
- 7) 土屋眞一 : 細胞診, 針生検の報告様式ガイドライン. 臨床外科 2006 ; 61 : 301-304 .

(3) 症例報告 :

- 1) Asano T<sup>1)</sup>, Abe M<sup>1)</sup>, Asai M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Kamisago M<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>1)</sup>, Nakajima M<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Itoh Y<sup>1)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院小児科, <sup>2)</sup>同病理部 ): Synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis, and ossteitis ( SAPHO ) syndrome in a 14-year-old boy : an immunohistochemical study of infiltrating lymphocytes in acneous skin region. Eur J Pediatr 2005 ; 164 : 466-468 .
- 2) 高田大輔<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 飯野晴彦<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 上田義彦<sup>2)</sup>, 川村哲也<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学内科学第2, <sup>2)</sup>独協医科大学越谷病院病理部, <sup>3)</sup>東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科 ): 溶連菌感染を機に発症し非典型的な病理組織像を呈した急性腎不全の1症例. 腎と透析 2005 ; 58 ( 4 ) : 489-496 .
- 3) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田村浩一, 宮元亮子, 角田美佐子, 土屋玲子, 小原 信, 福田 悠, 津久井拓, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 坪宏一, 高山守正<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup>, 福間長知<sup>3)</sup>, 臼杵二郎<sup>4)</sup>, 藤原ゆり, 川本雅司, 北村博司 ( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>小児科学, <sup>3)</sup>内科学第1, <sup>4)</sup>内科学第4 ): 全身性強皮症の経過中に肺高血圧症をきたし敗血症にて死亡した1例. 内科 2005 ; 96 ( 2 ) : 345-361 .

著 書

- 1) 土屋眞一 : [ 分担 ] 5 . 診断方法最前線4 ) 乳腺細胞診および針生検の新しい報告様式と過剰診断となりやすい良性病変 . 良性乳腺疾患アトラス, 2005 ; pp48-55, 永井書店 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 土屋眞一 : 臨床に必要な病理・細胞学的知識 . 第14回金沢乳腺疾患フォーラム, 2005 . 10 .

(2) 教育講演 :

- 1) 土屋眞一 : 乳腺疾患の画像と細胞診 : 嚢胞性病変を中心にして . 第19回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会, 2005 . 9 .
- 2) 杉崎祐一 : 「腎病理診断標準化」に基づく腎組織の見方 1系球体病変 1) 細胞外基質から見た系球体変化 . 第35回日本腎臓病学会東部学術大会, 2005 . 10 .
- 3) 田村浩一 : 今日から始める 第一弾 「胸部・腹部・骨軟部」第4部 : 大動脈解離のpathology-radiology correlation 大動脈解離の病理 . 日医放 専門医会・医会共催 第19回冬季セミナー, 2006 . 1 .

(3) シンポジウム :

- 1) 田村浩一 : 市民公開フォーラム「病理医 : 病気の最終診断を行う医師たち」病理診療外来の紹介 . 第94回日本病理学会総会, 2005 . 4 .
- 2) 土屋眞一 : 乳癌の診断をめぐる諸問題 : 病理組織増を推定できるか ? . 第13回日本乳癌学会総会, 2005 . 6 .
- 3) 並松茂樹, 釜口晴美, 尾崎正行, 若松恭子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1 ): 免疫組織化学 ( 酵素抗体法 ) において用いられる抗原賦活剤の考察 . 第37回日本臨床分子形態学会, 2005 . 10 .
- 4) 田村浩一 : モデル・コア・カリキュラム改良に対する日本病理学会の試み . 日本医学教育学会生命科学教育委員会シンポジウム, 2005 . 11 .
- 5) 土屋眞一 : 乳腺の臨床と病理 病理医が知っておくべき診断から治療まで . 画像診断 ( MRI ) と病理診断の対

比について．IAP教育シンポジウム，2005．11．

- 6) 関 知之<sup>1)</sup>，田所 衛<sup>2)</sup>，土屋眞一，團野 誠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学病院病理部，<sup>2)</sup>同病理学教室，<sup>3)</sup>三軒茶屋病院外科)：情報化社会における細胞診のあり方．4．ヴァチャルスライドの進歩と課題．第44回日本臨床細胞学会秋季大会，2005．11．

(4) セミナー：

- 1) Shimizu A<sup>1)</sup>，Sugisaki Y，Fujita E<sup>2)</sup>，Masuda Y<sup>1)</sup>，Ishizaki Masamich<sup>1)</sup>，Iino Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology，<sup>2)</sup>Department of Internal Medicine)：Case 7 (J4)．The Second Japanese-Korean Joint Slide Conference of Renal Pathology November 5, 2005，2005．11．

(5) ワークショップ：

- 1) 松原美幸，土屋眞一：乳腺細胞診報告様式判定区分の見方・考え方：「悪性」と「悪性の疑い」の境界．第44回日本臨床細胞学会秋期大会，2005．11．
- 2) 草間 律<sup>1)</sup>，高山文吉<sup>2)</sup>，土屋眞一(<sup>1)</sup>北信総合病院外科，<sup>2)</sup>安曇総合病院放射線科)：乳腺MRIにおける粘液癌の組織型推定：MRIと組織像を対比した検討から．第15回日本乳癌画像研究会，2006．2．

(6) 一般講演：

- 1) Hosone M<sup>1)</sup>，Maeda S<sup>1)</sup>，Sugisaki Y，Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2)：Two cases of HHV-8 (-) primary effusion lymphoma (PEL)：Is HHV-8 (-) PEL a Heterogenous entity?．9th International conference on malignant lymphoma (Ugano, Switzerland)，2005．6．
- 2) Liu AM<sup>1)</sup>，Meda S<sup>2)</sup>，Hosone M<sup>2)</sup>，Katayama H<sup>2)</sup>，Azuma K<sup>2)</sup>，Suzuki S<sup>3)</sup>，Egami K<sup>3)</sup>，Ohaki Y<sup>4)</sup>，Oguro T<sup>4)</sup>，Tanaka N<sup>3)</sup>，Naito Z<sup>5)</sup>，Sugisaki Y(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>同外科，<sup>4)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>5)</sup>病理学第2)：Gastrointestinal stromal tumors (GISTs)：An immunohistochemical and ultrastructural study．The Forth Asia-Pacific IAP Congress (IAP2005)(Beijing, China)，2005．8．
- 3) 竹間友紀，恩田直美，杼窪 寛，羽田圭祐，田村浩一，塚田克也，富樫真由子，居来提托乎提，福田 悠，杉崎祐一：肺動脈血栓症の吸引療法に関する臨床病理学的検討．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 4) 富樫真由子<sup>1)</sup>，田村浩一，益田幸成<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：各種大動脈弁疾患における弁膜石灰沈着像の比較検討．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 5) 中山智子<sup>1)</sup>，田村浩一，川本雅司<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：発生母地が異なることが示唆されたいわゆる Intrapulmonary localized fibrous tumor (ILFT) の2例．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 6) 竹間有紀<sup>1)</sup>，恩田直美<sup>1)</sup>，杼窪 寛<sup>1)</sup>，羽田圭祐<sup>1)</sup>，田村浩一，塚田克也，富樫真由子<sup>2)</sup>，居来提托乎提<sup>2)</sup>，福田 悠<sup>2)</sup>，杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本医科大学学生，<sup>2)</sup>病理学第1)：肺動脈血栓症の吸引療法に関する臨床病理学的検討．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 7) 劉 愛民<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，片山博徳<sup>2)</sup>，東 敬子<sup>2)</sup>，鈴木成治<sup>3)</sup>，江上 格<sup>3)</sup>，内藤善哉<sup>4)</sup>，杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>同外科，<sup>4)</sup>病理学第2)：GIST (消化管間質腫瘍)における免疫染色及び電顕的検索．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 8) 石崎正通<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，北村博司<sup>1)</sup>，益田幸成<sup>1)</sup>，山中宣昭<sup>1)</sup>，杉崎祐一，内藤善哉<sup>2)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1，<sup>2)</sup>病理学第2)：腎系球体におけるNestinの発現．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 9) 實原正明<sup>1)</sup>，伊藤信夫<sup>2)</sup>，西尾昌晃<sup>1)</sup>，金井信一郎<sup>2)</sup>，千賀 脩<sup>3)</sup>，土屋眞一，北村隆司<sup>4)</sup>，光谷俊幸<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>飯田市立病院臨床検査科，<sup>2)</sup>同臨床病理科，<sup>3)</sup>同外科，<sup>4)</sup>昭和大学藤が丘病院病理部)：乳腺アポクリン癌の細胞学的特徴．第46回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2005．5．
- 10) 松原美幸，横山宗伯，北川泰之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院整形外科)：変性軟骨細胞は軟骨肉腫の細胞診に有用か．第46回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2005．5．
- 11) 渡會泰彦，土屋眞一，横山宗伯，田村浩一，杉崎祐一，小池 昇<sup>1)</sup>，船田信顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立駒込病院病理科)：乳管腺腫(Ductal adenoma)の細胞学的特徴．第46回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2005．5．

- 12) 久保貴宏<sup>1)</sup>, 北村隆司<sup>1)</sup>, 松宮彰彦<sup>2)</sup>, 渡辺 紘<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 太田秀一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学藤が丘病院病院病理科,  
<sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>昭和大学医学部第2病理学教室): 乳輪下発生嚢胞内癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会総会(春  
期大会), 2005. 5.
- 13) 佐藤春明, 土屋眞一, 松原美幸, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第2): 乳腺腺様嚢胞癌の1例.  
第46回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2005. 5.
- 14) 実原正明, 土屋眞一: 乳腺アポクリン癌の細胞学的特徴. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 15) 土屋眞一: 乳腺細胞診の見方・考え方(特別講演). 第7回大阪病理研究会, 2005. 5.
- 16) 北村博司<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第1): 間質線維化における腎リンパ管路の動態.  
第48回日本腎臓学会総会, 2005. 6.
- 17) 益田幸成<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第1): UOモデルを用いたThy1-1腎炎への影響  
について. 第48回日本腎臓学会総会, 2005. 6.
- 18) 伊藤研一, 土屋眞一: 当科における乳房温存療法の成績. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 19) 古川恵子<sup>1)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>外科学第1): 当科でのセンチネルリンパ節生検の成績. 第13回日本乳癌学会総会,  
2005. 6.
- 20) 草間 律, 土屋眞一: 乳腺MRI検査における乳癌の組織型推定: 同一断面の病理像との対比. 第13回日本乳癌  
学会総会, 2005. 6.
- 21) 山田理恵子, 土屋眞一: MDCTで得られた斜冠状断MPR像の同一病理切片からの検討. 第13回日本乳癌学会  
総会, 2005. 6.
- 22) 松宮彰彦, 土屋眞一: 当院における嚢胞内乳癌12例の検討. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 23) 藤田知之, 土屋眞一: Paclitaxelによる術前化学療法を施行した乳癌でのYB-1, P糖蛋白の発現の検討. 第  
13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 24) 岩崎玲子<sup>1)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>外科学第1): 皮膚付属器への分化を伴った腺様嚢胞癌(Adenoid cystic carcinoma)  
の1例. 皮膚付属器への分化を伴った腺様嚢胞癌(Adenoid cystic carcinoma)の1例, 2005. 6.
- 25) 野口智子<sup>1)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>外科学第1): リンパ節転移を多数認めたMatrix-producing carcinoma(MPC)の1  
例. 第13回日本乳癌学会総会, 2005. 6.
- 26) 渡會泰彦, 土屋眞一, 田村浩一, 杉崎祐一, 横山宗伯: 乳腺における嚢胞性病変の細胞学的特徴について「画  
像診断との対比を含む」. 第42回関東甲信地区医学検査医学会, 2005. 9.
- 27) 小澤明子<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 北嶋俊寛<sup>1)</sup>, 水谷康彦<sup>1)</sup>, 横沢裕美<sup>1)</sup>, 田村浩一, 塚田克也, 杉崎祐一, 新田 隆<sup>2)</sup>,  
山内仁紫<sup>2)</sup>, 神戸 将<sup>2)</sup>, 野口智子<sup>2)</sup>, 菅野重人<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 岡崎怜子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>外科学  
第2): 心房中隔欠損症・発作性心房細動に対する手術で切除された心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの  
診断に至った1例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 28) 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 松井洋法<sup>2)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>眼科学): X線分析におけ  
る低真空型走査電子顕微鏡の有用性(石灰沈着した含水性アクリル人工レンズを用いて). 第37回日本臨床分  
子形態学会, 2005. 9.
- 29) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 小黑辰夫<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 杉崎  
祐一(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第2): 消化管及  
び消化管外原発GISTにおける電顕的検索. 第37回日本臨床分子形態学会, 2005. 9.
- 30) 鈴木義孝<sup>1)</sup>, 宮坂真木<sup>1)</sup>, 石井恵子<sup>2)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>健康保険岡谷塩嶺病院病理, <sup>2)</sup>信州大学医学部付属病院  
臨床検査部): 乳腺小細胞癌の1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期大会, 2005. 11.
- 31) 永井祥子, 土屋眞一, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 川本雅司, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第  
2): 異型嚢胞腺管(atypical cystic duct; ACD)を認めた浸潤性乳管癌の1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期  
大会, 2005. 11.

- 32) 浅川一枝, 川本雅司, 村瀬幸宏, 横山宗伯, 恩田宗彦, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田村浩一, 土屋眞一, 内藤善哉, 杉崎祐一( <sup>1)</sup>外科学第2): 明瞭な核封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期大会, 2005. 11.

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

近年, 検査の効率性や経済性が求められ, 臨床検査を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある. その中で, 中央検査部は新しい検査技術の習得や検査システムの構築, 合理化などに取り組んでいる. また, 検査の精度と正確度の向上を図りつつ迅速性や効率性等に配慮し, 臨床支援のみならず検査を通じて患者様に貢献できるよう日々努力をしている. 学術研究面においても広範囲に渡る研究活動がおこなわれ, 着実な成果をあげるとともに, より多くの高度な技術や知識の吸収などに地道に取り組んでいる. 今年度における各分野の主な活動概要は下記の通りである.

凝固測定機器による FDP 測定試薬のプロゾーンチェック法の解析, 自己血糖測定装置の比較検討や今後の課題および汎用自動分析器によるグリコアルブミン測定試薬の評価, 外傷患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値の変動背景, プロカルシトシン測定の有用性やテロイド投与症例における重症度との関連性, 心筋マーカーの評価, Fabry 病における尿沈渣の特徴と有用性, 当院の HIV 検出状況や HIV - Ag/Ab 同時測定の有用性, 細菌 DNA 型解析と使用プライマーの検討, MGIT によるノカルジア属の検出, 生化学項目における採血量による測定値の影響

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Utsumi K<sup>1)</sup>, Mitsuhashi F, Asahi K<sup>2)</sup>, Sakurazawa M<sup>1)</sup>, Arai K<sup>1)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Katsumata T<sup>1)</sup>, Katsura Ken-I<sup>1)</sup>, Kase R<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Second Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup>Third Department of Internal Medicine, Fukushima Medical University, School of Medicine, <sup>3)</sup>Department of Clinical Genetics, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research): Enzyme replacement therapy for Fabry disease: Morphologic and histochemical changes in the urinary sediments. Clinica Chimica Acta 2005; 360 (1-2): 103-107.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション:

- 1) 木 豊, 福田高久, 長谷川栄子, 影山憲貴, 飯野幸永: 抗凝血薬療法におけるワーファリン服用年数と患者意識の変化について. 第54回日本医学検査学会, 2005. 5.
- 2) 日ノ澤進一郎, 玉手ひさ子, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 汎用自動分析器によるグリコアルブミン測定の評価. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 3) 鳴海武長, 玉手ひさ子, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 自己血糖測定装置の比較検討と今後の課題. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 4) 橋本政子, 式田竜司, 金子幸江, 田島克美, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): HIV-Ag/Ab同時測定の有用性を示す1例(アキシム HIV-Ag/Ab コンボアッセイ・ダイナバック使用例). 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 5) 式田竜司, 橋本政子, 堤 章江, 金子幸江, 田島克美, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 当院における HIV 抗体検出状況. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 6) 園部晴代, 鳴海武長, 玉手ひさ子, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 採血量による測定

値の影響：生化学項目を中心に．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

- 7) 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>，大脇敦子<sup>1)</sup>，新谷英滋<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup>，青砥泰二，園部一成，篠山明宏<sup>(1)</sup> (微生物学・免疫学)：RAPD-PCR法を用いた細菌DNA型別解析法の検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 8) 若上正明<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>，菊池有道<sup>1)</sup>，青砥泰二，飯野幸永，里村克章<sup>2)</sup> (1) 付属病院薬剤部，<sup>2)</sup> 内科学第1)：付属病院における抗菌薬の使用状況．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 9) 園部一成，小嶋佳子，武井玲子：各種同定キットでのinactive E. colの測定結果．第17回日本臨床微生物学会，2006．1．

(2) 一般講演：

- 1) 柴田泰史，飯野幸永，久志本成樹<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，里村克章<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup> 和光純薬工業臨薬研究開発本部)：ステロイド投与症例におけるプロカルシトニン値と重症度との関連性について．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 2) 小嶋佳子，園部一成，篠山明宏，青砥泰二，飯野幸永：MGITによるノカルジア属の検出と特徴．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 3) 園部一成，小嶋佳子，篠山明宏，青砥泰二，飯野幸永：骨髄移植患者の監視培養において常在菌を検出する意義について．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 4) 影山憲貴，木 豊，中村祐三，飯野幸永：Coagrex800によるFDP測定試薬を用いたプロゾ - ンチェックの傾向．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 5) 日ノ澤進一郎，鳴海武長，玉手ひさ子，飯野幸永：グリコアルブミン測定試薬 - ルシカGA - Lの評価と有用性．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 6) 三橋 太，小林紘士，石野三智男，中村祐三，飯野幸永：Fabry病における尿沈渣の有用性．第54回日本医学検査学会，2005．5．
- 7) 加藤あゆみ<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>1)</sup>，柴田泰史，秀永陸奥子，竹内玲子，菊池有道<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup> (1) 付属病院薬剤部，<sup>2)</sup> 救急医学)：FPIA方法による急性アセトアミノフェン中毒時の対応．第27回日本中毒学会総会・学術集会，2005．7．
- 8) 柴田泰史，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup> (1) 内科学第1，<sup>2)</sup> 救急医学)：細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の有用性について．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 9) 鳴海武長，日ノ澤進一郎，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup> (1) 内科学第1)：血糖自己測定機器における比較検討とISO15197について．第42回関東甲信地区医学検査学会，2005．9．
- 10) 柴田泰史，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup> (1) 内科学第1，<sup>2)</sup> 救急医学)：外傷患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値の変動．第33回日本救急医学会総会，2005．10．
- 11) 柴田泰史，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup> (1) 内科学第1，<sup>2)</sup> 救急医学)：外傷患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 上昇の背景には骨格筋傷害が関与する．第52回日本臨床検査医学会総会・第45回日本臨床化学会年会連合大会，2005．11．
- 12) 影山憲貴，小嶋佳子，木 豊，中村祐三，飯野幸永：Coagrex800におけるプロゾ - ン解析．第52回日本臨床検査医学会総会・第45回日本臨床化学会年会連合大会，2005．11．
- 13) 鳴海武長，日ノ澤進一郎，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup> (1) 内科学第1)：自己血糖測定装置の比較検討と今後の課題．第52回日本臨床検査医学会総会・第45回日本臨床化学会年会連合大会，2005．11．
- 14) 日ノ澤進一郎，鳴海武長，玉手ひさ子，中野一博，谷岡 学，園部晴代，山下純一，飯野幸永，里村克章<sup>1)</sup> (1) 内科学第1)：DimensionRxL-HMによる心筋マ - カ - 測定の性能評価．第52回日本臨床検査医学会総会・第45回日本臨床化学会年会連合大会，2005．11．
- 15) 園部一成，野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup> (1) 微生物学・免疫学)：RAPD法を用いた細菌DNA型別解析と使用プライマーに関する検討．第17回日本臨床微生物学会，2006．1．

- 16) 三橋 太, 小林紘士, 石野三智男, 飯野幸永: Fabry病における特徴的な尿沈渣成分の有用性. 腎・泌尿器検査研究会 第2回学術集会, 2006. 3.

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

付属病院施設は, 平成10年4月より医療法で定められた特定機能病院であり, 研究テーマも特定機能病院に求められる薬剤師業務や緩和・褥そう・NSTなどチーム医療への参画から派生したテーマが増加してきた.

研究内容は, 継続してきたテーマでは抗真菌薬の薬物動態と臨床効果として「ミカファンギンの効果と投与方法並びに薬物動態パラメータに関する検討」や「ホスフルコナゾールの効果と血中濃度に関する検討」, 外来化学療法としては「外来がん化学療法における安全管理」などについてまとめ発表した.

安全管理に関しては, (1) 外来がん化学療法プロトコルデータベースの有用性 (2) 外来化学療法における安全管理: 疑義照会内容の分析・評価により, 安全性確保のためのシステムの有用性とそれを利用した疑義照会内容について分析・評価について検討し発表した.

また, 医療の経済評価に関しては, 「クリニカルパス適用胃切除患者の術後感染発症に及ぼす諸因子の影響」や「NST介入前後の使用薬剤および薬剤費の変化」, 「当院における院内製剤トレチノイン・コペラ軟膏及びハイドロキノクリームを経済的評価」などチーム医療に積極的に関与した結果について, コスト評価を行うことで薬剤師の役割について検討し発表した.

現在は, 国民から必要とされる職種のみが生き残れる時代である. 薬剤部も患者の利益を守るため, 薬学的な視点に立ちチーム医療にさらに貢献できるよう, 医療の質の向上と医療経済的な役割を推進するための研究を継続して行きたいと考えている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Narita M<sup>1)</sup>, Kishimoto Y<sup>1)</sup>, Ise Y, Yajima Y<sup>1)</sup>, Misawa K<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Hoshi University School of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences ): Direct Evidence for the Involvement of the Mesolimbic -Opioid System in the Morphine-Induced Rewarding Effect Under an Inflammatory Pain-Like State. *Neuropsychopharmacology* 2005 ; 30 : 111-118 .
- 2) Ise Y, Hagiwara K, Onda M<sup>1)</sup>, Kamei M<sup>2)</sup>, Katayama S, Nishizawa K, Hirano M, Kiyama T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Hiroshima International University, <sup>2)</sup>College of Pharmacy, Nihon University, <sup>3)</sup>Department of Surgery ): Pharmaceutical Cost Comparison Analysis of Antimicrobial Use for Surgical Prophylaxis on Gastrectomy Patients in a Tertiary Care Hospital. *Chemotherapy* 2005 ; 51 : 384-386 .
- 3) Hirata K, Orito K<sup>1)</sup>, Hashida M<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>2)</sup>, Shirai M<sup>1)</sup>, Akahori F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>School of Veterinary Medicine, Azabu University, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine ): Effects of single intratracheal exposure to chlorhexidine gluconate on the rat lung. *Drug Chem Toxicol* 2006 ; 29 ( 1 ): 1-9 .
- 4) 伊勢雄也, 島 麻智子, 片山志郎: 注射剤調剤による適正使用推進と医療経済的效果. *月刊薬事* 2005 ; 47 ( 4 ): 755-759 .
- 5) 伊勢雄也, 中野暖子<sup>1)</sup>, 菅家甫子<sup>1)</sup>, 加藤あゆみ, 渡邊暁洋, 宮田広樹, 千田英理子<sup>2)</sup>, 山下いずみ<sup>2)</sup>, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟 ( <sup>1)</sup>共立薬科大学, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院看護部 ): 疼痛緩和ケア領域における日本語版EQ-5Dの有用性についての検討. *日病薬誌* 2005 ; 41 ( 7 ): 849-851 .
- 6) 伊勢雄也, 萩原 研, 片山志郎: 薬剤師のパスへの取り組み: 胃切除クリニカルパスへの取り組みを中心に.

日本クリニカルパス学会 2005 ; 7 ( 1 ): 11-18 .

- 7) 伊勢雄也, 和田和子<sup>1)</sup>, 金森麻土香<sup>2)</sup>, 千葉理実子<sup>3)</sup>, 向後麻里<sup>4)</sup>, 吉尾 隆<sup>5)</sup>, 伊東明彦<sup>6)</sup>, 村山純一郎<sup>7)</sup>, 平野公晟 ( <sup>1)</sup> 東京都立豊島病院薬剤科, <sup>2)</sup> 博慈会記念総合病院薬剤部, <sup>3)</sup> 国家公務員共済組合連合会三宿病院薬剤課, <sup>4)</sup> 昭和大学薬学部, <sup>5)</sup> 桜ヶ丘記念病院薬剤部, <sup>6)</sup> 社会保険蒲田総合病院薬剤部, <sup>7)</sup> 昭和大学病院薬剤部 ): 肝硬変患者におけるケアワークシート作成と薬学的管理 : 東京都病院薬剤師会の取り組み . 医療薬学 2005 ; 31 ( 8 ): 668-678 .
- 8) 中野暖子<sup>1)</sup>, 伊勢雄也, 加藤あゆみ, 渡邊暁洋, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 千田英理子<sup>2)</sup>, 山下いずみ<sup>2)</sup>, 矢崎知子<sup>1)</sup>, 吉山友二<sup>1)</sup>, 菅家甫子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 共立薬科大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院看護部 ): 緩和ケア領域におけるQOL評価の試み : 日本語版EQ-5Dを用いて . 医療薬学 2005 ; 31 ( 9 ): 768-776 .
- 9) 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 宮田広樹, 腹子あきこ<sup>2)</sup>, 西澤光代, 若林恵子<sup>2)</sup>, 古賀美帆<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第4, <sup>2)</sup> 付属病院看護部 ): 日本医科大学付属病院の外来化学療法 . 癌と化学療法 2005 ; 32 ( 9 ): 1356-1357 .
- 10) 宮田広樹, 片山志郎, 西澤光代, 本城和義, 菊池有道, 弦間昭彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第4 ): 安全な外来がん化学療法をめざして : 外来がん化学療法プロトコルデータベースの有用性 . 癌と化学療法 2005 ; 32 ( 11 ): 9-11 .

## (2) 綜説 :

- 1) 平田清貴, 菊池有道, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ): 救急患者に関わる人々 . 救急医学 2005 ; 29 : 1551-1554 .
- 2) 平田清隆, 菊池有道, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ): 注射剤処方せんチェックと疑義照会 : カテコラミン製剤 . 薬局 2005 ; 56 : 2972-2978 .
- 3) 片山志郎 : 緩和ケア専門薬剤師育成に向けて : 東京都の取り組み . 緩和ケア 2005 ; 15 ( 3 ): 247-250 .
- 4) 片山志郎 : オピオイドの副作用対策を考える : 症状管理の薬を中心に . Cancer Pain Medical Adviser 2005 ; 4 .
- 5) 菊池有道, 菅谷量俊 : 疾患別ガイドラインと薬物治療 : アレルギー性鼻炎 . 日薬誌 2005 ; 57 ( 9 ): 1191-1194 .
- 6) 宮田広樹 : 緩和ケアに必要な薬剤師の視点と実際 ( 6 ) : 緩和ケアの経済性を考える . 緩和ケア 2006 ; 16 ( 2 ): 174-178 .

## 著 書

- 1) 平田清貴 : [ 分担 ] 消毒薬 . 中毒症のすべて ( 平田清貴, 黒川 顕 ), 2005 ; 永井書店 .
- 2) 片山志郎 : [ 分担 ] 今日の治療指針2006年度版, 2006 ; p279, 医学書院 .
- 3) 片山志郎 : [ 分担 ] 今日の治療指針2006年度版, 2006 ; p287, 医学書院 .
- 4) 片山志郎 : [ 分担 ] 今日の治療指針2006年度版, 2006 ; pp591-592, 医学書院 .
- 5) 片山志郎 : [ 分担 ] 今日の治療指針2006年度版, 2006 ; p1122, 医学書院 .
- 6) 平田清貴 : [ 分担 ] 救急治療・薬剤ハンドブック第二版 ( 山本保博・黒川 顕・菊池有道監修 ), 2006 ; じほう .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 飯田信也<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 古川恵子<sup>1)</sup>, 宮田広樹, 西澤光代, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 当科における乳癌外来化学療法の安全管理 : 患者QOL向上への取り組み . 第105回日本外科学会学術集会, 2005 . 5 .
- 2) 平田清貴, 青山隆彦<sup>1)</sup>, 松本宜明<sup>1)</sup>, 清水万紀子<sup>1)</sup>, 井原智子<sup>1)</sup>, 平野公晟, 山本保博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 昭和薬科大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター ): 低体温療法施行患者におけるミダゾラム母集団薬物動態解析 . 第22回日本TDM学会学術大会, 2005 . 5 .
- 3) 宮田広樹, 片山志郎, 塩川 満<sup>1)</sup>, 渡辺和美<sup>1)</sup>, 山崎真澄<sup>1)</sup>, 柏原由佳<sup>1)</sup>, 井上忠夫<sup>1)</sup>, 岡田美賀子<sup>1)</sup>, 鈴木勉<sup>1)</sup>, 平野公晟 ( <sup>1)</sup> 東京都病院薬剤師会緩和ケア領域薬剤師養成特別委員会 ): 緩和ケアの専門性を有する薬剤



- 師育成の試み：東京都病院薬剤師会の取り組み．第10回日本緩和医療学会総会，2005．6．
- 4) 渡邊暁洋，加藤あゆみ，宮田広樹，片山志郎，平野公晟，千田英理子<sup>1)</sup>，山下いずみ<sup>1)</sup>，三井誠二<sup>2)</sup>，峯岸裕司<sup>4)</sup>，伊藤敬雄<sup>5)</sup>，菅家甫子<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院看護部，<sup>2)</sup>同麻酔科学，<sup>3)</sup>同内科学第4，<sup>4)</sup>同精神神経科，<sup>5)</sup>共立薬科大学)：緩和ケアチームの有用性．第10回日本緩和医療学会総会，2005．6．
  - 5) 輪湖哲也，片山志郎，伊勢雄也，渡邊暁洋，菊池有道，菅家甫子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>共立薬科大学)：デュロテップパッチの有効性および安全性の検討．第13回クリニカルファーマーシーシンポジウム，2005．7．
  - 6) 宮田広樹，片山志郎，西澤光代，本城和義，菊池有道，弦間昭彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4)：安全な外来がん化学療法を目指して：外来がん化学療法プロトコルデータベースの有用性．第16回日本在宅医療研究会学術集会，2005．7．
  - 7) 加藤あゆみ，平田清貴，柴田泰史<sup>1)</sup>，秀永陸典<sup>1)</sup>，竹内玲子<sup>1)</sup>，宮内雅人<sup>2)</sup>，菊池有道，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査部，<sup>2)</sup>高度救命救急センター)：FPIA法による急性アセトアミノフェン中毒時の対応．第27回日本中毒学会総会，2005．7．
  - 8) 田未来，伊勢雄也，菅谷量俊，川田桂子，岸 大輔，大下順子，内田 亨，片山志郎，菊池有道，小森邦子<sup>1)</sup>，千田英理子<sup>1)</sup>，長谷川幸子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部，<sup>2)</sup>医療安全管理部)：当院における持参薬チェック業務．日本病院薬剤師会関東ブロック第35回学術大会，2005．8．
  - 9) 高瀬知永，瀬尾 誠，伊勢雄也，片山志郎，菊池有道：当院における院内製剤トレチノイン・ユベラ軟膏及びハイドロキノンクリームを経済的評価．日本病院薬剤師会関東ブロック第35回学術大会，2005．8．
  - 10) 西澤光代，宮田広樹，腹子あきこ<sup>1)</sup>，若林恵子<sup>1)</sup>，古賀美帆<sup>1)</sup>，本城和義，片山志郎，菊池有道，弦間昭彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部，<sup>2)</sup>内科学第4)：輸液療法室における外来抗がん剤療法：疑義照会内容の分析・評価．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 11) 加藤あゆみ，渡邊暁洋，菊池有道：国際緊急援助隊での薬剤師の活動：インドネシア地震災害での活動．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 12) 内田 亨，大下順子，菅谷量俊，菊池有道：当院における医薬品情報提供業務の検討(第8報)．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 13) 岩上正明，片山志郎，菊池有道，青砥泰二<sup>1)</sup>，飯野幸永<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査部)：付属病院における抗菌薬の使用動向．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 14) 三浦義彦，伊勢雄也，島 麻智子，川田桂子，萩原 研，片山志郎，菊池有道：病棟薬剤師による薬剤適正使用への貢献．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
  - 15) 萩原 研，伊勢雄也，片山志郎，菊池有道，木山輝郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：クリニカルパス適用胃切除患者の術後感染発症に及ぼす諸因子の影響．第15回日本医療薬学会年会，2005．10．
  - 16) 平田清貴，加藤あゆみ，平田理恵<sup>1)</sup>，青山隆彦<sup>1)</sup>，小川太志<sup>2)</sup>，松本宜明<sup>3)</sup>，井原智子<sup>1)</sup>，山崎浩史<sup>1)</sup>，菊池有道，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター，<sup>3)</sup>日本大学薬学部)：ICU患者におけるミカファンギンの効果と投与方法並びに薬物動態パラメータに関する検討．第15回日本医療薬学会年会，2005．10．
  - 17) 伊勢雄也，菅谷量俊，川田桂子，中嶋基広，片山志郎，菊池有道，小森邦子<sup>1)</sup>，千田英理子<sup>1)</sup>，長谷川幸子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>医療安全管理部)：当院における持参薬チェック業務ならびに薬剤経済的有用性．第43回日本病院管理学会学術総会，2005．10．
  - 18) 平田清貴，平田理恵<sup>1)</sup>，塩入理子<sup>2)</sup>，青山隆彦<sup>1)</sup>，小川太志<sup>3)</sup>，松本宜明<sup>4)</sup>，井原智子<sup>1)</sup>，山崎浩史<sup>1)</sup>，菊池有道，山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学，<sup>2)</sup>共立薬科大学，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター，<sup>4)</sup>日本大学薬学部)：ICU患者におけるホスフルコナゾールの効果と血中濃度に関する検討．第26回日本臨床薬理学会，2005．12．
  - 19) 平田清貴，平田理恵<sup>1)</sup>，塩入理子<sup>2)</sup>，青山隆彦<sup>1)</sup>，小川太志<sup>3)</sup>，松本宜明<sup>4)</sup>，井原智子<sup>1)</sup>，山崎浩史<sup>1)</sup>，菊池有

道, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学, <sup>2)</sup> 共立薬科大学, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>4)</sup> 日本大学薬学部): 集中治療室患者におけるホスフルコナゾールの母集団薬物動態解析. 第26回日本臨床薬理学会, 2005. 12.

- 20) 渡邊暁洋, 平田清貴, 林田真紀子<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>2)</sup>, 菊池有道, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>法医学, <sup>2)</sup>救急医学): 当院高度救命救急センターにおける急性中毒の検討. 第20回日本中毒学会東日本地方会, 2006. 1.
- 21) 田畑艶子<sup>1)</sup>, 長谷川幸子<sup>2)</sup>, 木野毅彦<sup>1)</sup>, 鈴木智恵子<sup>1)</sup>, 角田聖子<sup>1)</sup>, 菅谷量俊(<sup>1)</sup>医療安全管理部, <sup>2)</sup>看護部): 薬剤副作用歴・アレルギー歴カードの作成を試みて. 第6回医療マネジメント学会東京地方会, 2006. 2.
- 22) 金井隆安<sup>1)</sup>, 伊勢雄也, 本城和義, 片山志郎, 菊池有道, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 矢崎知子<sup>1)</sup>, 吉山友二<sup>1)</sup>, 菅家甫子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>共立薬科大学, <sup>2)</sup>第一外科): NST介入前後の使用薬剤および薬剤費の変化. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 23) 小林宏司<sup>1)</sup>, 亀井美和子<sup>1)</sup>, 恩田光子<sup>2)</sup>, 伊勢雄也, 森 啓<sup>1)</sup>, 大島 久<sup>1)</sup>, 白神 誠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学薬学部, <sup>2)</sup> 広島国際大学): 疑義照会がもたらす薬剤費変動額を算定するデータベースプログラムの提案. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 24) 中山敏光<sup>1)</sup>, 白井 敦<sup>2)</sup>, 棚上かおり<sup>3)</sup>, 諸星総一<sup>4)</sup>, 外石 昇<sup>5)</sup>, 椎名治揮<sup>6)</sup>, 伊勢雄也, 山田安彦<sup>7)</sup>, 竹ノ内敏孝<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学板橋病院薬剤部, <sup>2)</sup> 昭和大学東病院薬剤部, <sup>3)</sup> 帝京大学溝口病院薬剤部, <sup>4)</sup> 東京女子医科大学病院薬剤部, <sup>5)</sup> 東京女子医科大学東医療センター薬剤部, <sup>6)</sup> 独協医科大学病院薬剤部, <sup>7)</sup> 東京薬科大学薬学部, <sup>8)</sup> 昭和大学病院薬剤部): 薬学生病院実務実習方略の実施調査結果にもとづく改善と標準化: 注射実務実習方略1. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 25) 宮田広樹, 西澤光代, 腹子あきこ<sup>1)</sup>, 若林恵子<sup>1)</sup>, 古賀美帆<sup>1)</sup>, 本城和義, 輪湖哲也, 片山志郎, 菊池有道, 弦間昭彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>内科学第4): 外来がん化学療法における安全管理: 疑義照会内容の分析・評価. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 26) 平田清貴, 平田理恵<sup>1)</sup>, 塩入理子<sup>2)</sup>, 青山隆彦<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>3)</sup>, 松本宜明<sup>4)</sup>, 井原智子<sup>1)</sup>, 山崎浩史<sup>1)</sup>, 菊池有道, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>4)</sup> 日本大学薬学部): ホスフルコナゾールによる -D-グルカン低下速度と血中濃度に関する検討. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

日常業務に忙殺される中で研究するのは非常に厳しい状況になってきているが、今年度は昨年度を上回る幅広い研究成果を得ることができた。心エコーでは、2次元ストレイン法による左室心機能評価、心臓リハビリテーションではエルゴメーターの回転速度の変化に対する各種パラメーターの変化、運動負荷時の炭酸ガス分圧の変化、心筋梗塞患者と酸化ストレスマーカーの関係など循環器系を中心とした発表が多い。そのようななかで、日本医科大学医学会総会で『脊柱・脊髄手術における下肢刺激による体性感覚誘発電位モニターについての検討』で優秀演題賞を受賞したことはスタッフにとって何より大きな励みになった。また、耳鼻科領域では、半規管機能を調べる眼振誘発装置の改良による特許を出願した。今後どのような展開になるかは予測できないが、臨床や基礎医学でもなく、パラメディカルからの出願ということに意義があり、知的財産の分野へ一石を投じたかたちとなった。この事案については、現在継続して改良を重ねている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Munakata Y, Nakamura T, Aoki W, Sugaya J, Saito K, Homma H, Konno S<sup>1)</sup>, Gembun Y<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology): A Studay

of Intraoperative Monitoring of Spinal Cord Function during Spinal Surgery Using Short-Latency Somatosensory Evoked Lower Extremities . J Nippon Med Sch 2005 ; 393-394 .

- 2) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 本江雪貴美, 吉田由紀子, 五十嵐亜希, 中村利枝, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 本間 博, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心臓リハビリテーション導入期における抑うつ状態が血管内皮機能とサイトカインに及ぼす影響 . 心臓リハビリテーション 2005 ; 10 (2): 258-261 .
- 3) 中村利枝, 福間長知<sup>1)</sup>, 加藤政利, 竹田裕子, 平野美子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): エルゴメーター回転速度の差による運動負荷時の心拍反応の変化 . 心臓リハビリテーション 2005 ; 10 (2): 237-240 .

## (2) 総説 :

- 1) 本間 博 : 心房細動と脳血栓・塞栓症予防 . 日医大医会誌 2005 ; 1 (3): 129-134 .
- 2) 本間 博 : 心エコーによる壁運動評価は永遠の課題か? . 心エコー 2005 ; 6 (8): 666-673 .
- 3) 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博(<sup>1)</sup>内科学第1): 両室ペースティングと組織ドブラ . 心エコー 2005 ; 6 (8): 714-723 .

## 著 書

- 1) 藤本啓志<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博(<sup>1)</sup>内科学第1): [ 分担 ] III. 読む 虚血性心疾患 : 血行再建を予定する患者 . 新 目で見る循環器病シリーズ「心エコー図」: 撮る, 診る, 読む (赤石 誠), 2006 ; pp109-113, メジカルビュー .
- 2) 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博(<sup>1)</sup>内科学第1): [ 分担 ] D. 検診で心拡大を指摘されて受診 64歳, 女性 . 拡張期雑音あり . 「Problem・basedでひもとく心エコー図の読み方」: 症状, 所見から考える心エコー診断のアプローチ (羽田勝征), 2006 ; pp152-158, 分光堂 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Sugaya J, Fukuma N<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Saito K, Kato Y<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Tsuchida T<sup>1)</sup>, Mabuchi K<sup>1)</sup>, Honma H, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>1st Department of Internal Medicine): Increment in Oxidative Stress Relates to Type A But Not Depression Score in Patients with Mild Myocardial Infarction . 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 2) 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 福間裕美子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 山本幸弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>GE横河メディカルシステム): 2次元ストレイン法による肥大大心筋収縮様式の評価 . 第78回日本超音波医学会, 2005 . 4 .
- 3) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 中村利枝, 平野美子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度の高速化が酸素摂取効率勾配に与える影響 . 第23回臨床運動療法研究会, 2005 . 4 .
- 4) 菅谷寿理, 加藤政利, 吉田由紀子, 竹田裕子, 中村利枝, 齋藤公一, 福間長知<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 本間 博, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞後の抑うつが心拍変動におよぼす影響 . 第25回ホルター心電図研究会, 2005 . 6 .
- 5) 中村利枝, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 加藤政利, 竹田裕子, 平野美子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 下肢ペダリング運動の回転数変化に伴う呼吸のEntrainment現象について . 第11回日本心臓リハビリテーション学会, 2005 . 7 .
- 6) 加藤政利, 加藤和代<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希, 平野美子, 中村利枝, 菅谷寿理, 齋藤公一, 牛島明子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 非侵襲的経皮的測定装置による運動負荷時炭酸ガス分圧の意義 . 第11回日本心臓リハビリテーション学会, 2005 . 7 .

- 7) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 本江雪貴美, 和泉由妃子, 加藤政利, 吉田由紀子, 五十嵐亜希, 中村利枝, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 抑うつスコア低値である心筋梗塞患者における酸化ストレスマーカー. 第11回日本心臓リハビリテーション学会, 2005. 7.
- 8) 時田祐吉<sup>1)</sup>, 岡田 薫<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 本間博, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 救急外来での急性心血管疾患の初期診断におけるD-dimer迅速測定の有用性. 第53回日本心臓病学会, 2005. 9.
- 9) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 吉田由紀子, 竹田裕子, 中村利枝, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 本間 博, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 経皮的炭酸ガス分圧測定装置により測定された運動負荷時炭酸ガス分圧の意義. 第53回日本心臓病学会, 2005. 9.
- 10) 菅谷寿理, 和泉有妃子, 加藤政利, 吉田由紀子, 竹田裕子, 平野美子, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 福間長知<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 急性心筋梗塞患者における抑うつと酸化ストレスマーカー8iso-prostaneの関係. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 11) 加藤政利, 野原秀明, 緒方たつ子, 齋藤公一, 本間 博, 新藤 晋<sup>1)</sup>, 池園哲郎<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科学): エアーカリックテストの検討. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 12) 宗方祐美子, 中村利枝, 青木 亘, 菅谷寿理, 齋藤公一, 本間 博, 今野俊介<sup>1)</sup>, 元文芳和<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): 脊椎・脊髄手術における下肢刺激による体性感覚誘発電位モニターについての検討. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 13) 関野玲子, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 後藤弘子, 見友優子, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 東春香<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 福間裕美子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 上野 亮<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 2次元ストレイン法による新しい左室心機能評価. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 14) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博, 加藤政利, 中村利枝, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞における抑うつと自律神経機能障害. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 15) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博, 中村利枝, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 運動負荷時経皮炭酸ガス分圧変動の意義. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 16) 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 福間祐美子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 本間 博, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子(<sup>1)</sup>内科学第1): 80才以上の高齢者においてドプタミン負荷心エコー法は有用か?. 第42回日本臨床生理学会総会, 2005. 10.
- 17) 今野俊介<sup>1)</sup>, 青木孝文<sup>1)</sup>, 江川慶長<sup>1)</sup>, 堀口 元<sup>1)</sup>, 吉澤隆明<sup>1)</sup>, 中村利枝, 青木 亘, 宗方祐美子, 伊藤博元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): 数学的近似によるF波判読パラメータの変化に関する検討. 第35回日本臨床神経生理学会, 2005. 11.
- 18) 今野俊介<sup>1)</sup>, 青木孝文<sup>1)</sup>, 江川慶長<sup>1)</sup>, 堀口 元<sup>1)</sup>, 吉澤隆明<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 中村利枝, 青木 亘, 宗方祐美子(<sup>1)</sup>整形外科): 上肢誘発F波のパラメータ判読評価に関する検討. 第28回脊髄機能診断研究会, 2006. 2.
- 19) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博, 加藤政利, 中村利枝, 齋藤公一, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞後運動療法導入期における抑うつと予後規定因子である自律神経機能障害の関係. 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.
- 20) 加藤政利, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博, 中村利枝, 菅谷寿理, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 経皮的に測定された運動負荷中の炭酸ガス分圧の意義. 第70回日本循環器学会総会・学術集会, 2006. 3.

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

- 1) 医療安全領域では、転倒・転落の要因に関する実態調査や薬剤副作用歴・アレルギー歴カードの作成など臨床現場での実践を分析報告した。
- 2) 重症集中看護領域では、心拍動下バイパス術のクリニカルパス導入やNIPPVの取り組みを報告した。
- 3) 整形外科看護領域では、閉鎖式尿道カテーテル挿入中の患者に対して尿道カテーテルバックカバーを作成し、その有効性について報告した。
- 4) 遺伝看護領域では、シャルコーマリートゥース病や結婚前の遺伝カウンセリング、羊水診断の遺伝カウンセリング事例のフォローアップなど臨床実践を報告した。
- 5) 救命救急看護領域では、高度救命救急センターへ搬入された患者の分析から深部静脈血栓症の予測式作成、気道管理中の患者の口腔ケア技術の口腔内洗浄圧・ブラシの大きさによる苦痛やブラッシング効果の検討、看護師の職務継続につながる要因の分析などを行い報告した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 古山景子，渡邊恭子：これだけはおぼえよう！重要疾患の薬とケア 第7回糖尿病(1)「インスリン導入時の看護」. ナーシングトゥデイ 2005；20(14): 42-45.
- 2) 古山景子：これだけはおぼえよう！重要疾患の薬とケア 第8回糖尿病(2)「よりよい血糖コントロールのために」. ナーシングトゥデイ 2005；20(14): 36-39.
- 3) 渡邊恭子，古山景子：これだけはおぼえよう！重要疾患と薬のケア 第9回糖尿病(3)「安全・確実なインスリン自己注射のために」. ナーシングトゥデイ 2005；20(14): 36-38.
- 4) 三橋恭子：急性腹症の知識と技術(初めての夜勤で必要な知識と技術). 臨床看護 2005；31(5): 668-676.
- 5) 古山景子：院内教育に今すぐ活かそう！認定看護師交流集会のノウハウ(2). 糖尿病ケア 2005；2(5): 559-561.
- 6) 稲田浩美：入浴が「病態」に与える影響 「皮膚」に与える影響. エキスパートナース 2005；21(11): 104-105.
- 7) 早坂百合子：事例(3)臨地実習の工夫 各病棟に専任指導者を配置. ナーシング・トゥデイ 2005；20(10): 33-33.
- 8) 鈴木由美，渡辺裕子，千葉弘子，渡邊 淳<sup>1)</sup>，浅野ありさ<sup>1)</sup>，右田 真<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科)：大学病院遺伝診療部における遺伝看護実践(小児領域における遺伝看護の実践と管理). 小児看護 2006；29(2): 158-163.
- 9) 伊与恭子：ペースメーカーの安全管理と患者ケア(特集：クリティカルケアの看護技術). 看護技術 2006；52(3): 177-181.

#### 著書

- 1) 三上ちづ子：〔分担〕看護部の取り組み(Part2医療安全の取り組み). 病院の医療安全 理論と実践(小川 龍・長谷川幸子), 2005；pp56-62, 真興交易(株)医書出版部.
- 2) 鈴木智恵子：〔分担〕集中治療室(Part4医療安全管理の実際). 病院の医療安全 理論と実践(小川 龍・長谷川幸子), 2005；pp177-182, 真興交易(株)医書出版部.
- 3) 早坂百合子：〔分担〕救命救急センター(Part4医療安全管理の実際). 病院の医療安全 理論と実践(小川

- 龍・長谷川幸子), 2005 ; pp183-190, 真興交易(株)医書出版部 .
- 4) 金子栄子 : [ 分担 ] 中央手術部 ( Part4 医療安全管理 の実際 ). 病院の医療安全管理 理論と実践 ( 小川 龍・長谷川幸子 ), 2005 ; pp191-200, 真興交易(株)医書出版部 .
- 5) 千田英理子 : [ 分担 ] 緩和ケア ( Part5 認定看護師の役割 ). 病院の医療安全 理論と実践 ( 小川 龍・長谷川幸子 ), 2005 ; pp202-211, 真興交易(株)医書出版部 .
- 6) 稲田浩美 : [ 分担 ] 褥瘡 ( Part5 認定看護師の役割 ). 病院の医療安全 理論と実践 ( 小川 龍・長谷川幸子 ), 2005 ; pp212-219, 真興交易(株)医書出版部 .
- 7) 古山景子 : [ 分担 ] 糖尿病 ( Part5 認定看護師の役割 ). 病院の医療安全 理論と実践 ( 小川 龍・長谷川幸子 ), 2005 ; pp220-230, 真興交易(株)医書出版部 .

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション :

- 1) 伊藤博希 : 重症呼吸不全患者の看護と今後の課題 . 第56回日本救急医学会関東地方会, 2006 . 2 .

##### (2) ワークショップ :

- 1) 佐藤憲明 : Expert Nurse に必要な病態診断能力と看護実践への応用 . 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006 . 3 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) 鈴木由美, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 渡邊裕子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 千葉弘子, 右田 真<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科): 羊水検査で認められた染色体異常の遺伝カウンセリングのフォローアップ . 第29回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2005 . 5 .
- 2) 古山景子 : 糖尿病認定看護師の役割に基づいた活動報告 . 第10回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2005 . 9 .
- 3) 渡邊裕子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科): 遺伝性神経筋疾患シャルコー・マリー・トゥース病の遺伝子診断を希望された患者のカウンセリングを通して . 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005 . 9 .
- 4) 千葉弘子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 山口病院産婦人科): 遺伝外来における結婚前遺伝カウンセリングでの看護職の役割 . 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005 . 9 .
- 5) 鈴木由美, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 及川真一<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院小児科, <sup>3)</sup> 付属病院内分泌代謝内科): 未発症で同定された成人発症II型シトルリン血症のクライアント・家族の抱える問題と支援 . 日本遺伝看護研究会第4回大会, 2005 . 9 .
- 6) 藤田聖司, 近藤里子, 横山 香, 木本若菜, 古河美津奈, 吉田安代, 丸山祥子, 宮坂梢恵, 渡邊真理子, 藤井裕志, 豊田沙希 : 閉鎖式尿道カテーテル挿入中の患者の看護 : 尿道カテーテルバックカバーの作成 . 東京都看護協会看護研究学会, 2005 . 11 .
- 7) 夏目江里子, 岩澤智子, 鹿野志文, 須藤絵美 : 心拍動下バイパス術 ( off-pumpCABG ) のクリニカルパス導入を試みて . 第19回日本冠疾患学会学術集会, 2005 . 12 .
- 8) 工藤美美, 長谷川幸子<sup>1)</sup>, 小坂好男<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院医療安全管理部, <sup>2)</sup> 付属病院薬剤部): 転倒・転落の要因に関する実態調査 . 第6回医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2006 . 2 .
- 9) 田畑艶子, 長谷川幸子<sup>1)</sup>, 木野毅彦, 鈴木智恵子, 角田聖子, 菅谷量俊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院医療安全管理部, <sup>2)</sup> 付属病院薬剤部): 薬剤副作用歴・アレルギー歴カードの作成を試みて . 第6回医療マネジメント学会東京地方会学術集会, 2006 . 2 .
- 10) 佐藤隆平, 軽部 厚, 伊藤博希, 佐藤憲明, 木野毅彦, 早坂百合子 : 高位頸髄損傷患者に対して陽・陰圧対外式人工呼吸器を施行した1症例 . 第56回日本救急医学会関東地方会, 2006 . 2 .

- 11) 土橋夕香, 毛塚志穂, 吉田安那, 田染雄一: NPPV に関する取り組みと現状の問題点. 第33回日本集中治療学会学術集会, 2006. 3.
- 12) 森 知子, 武正泰子, 水口誠健, 山田貴子, 佐藤憲明, 早坂百合子, 山勢博彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 山口大学医学部保健学科): 救急領域における深部静脈血栓症の発症予測の検討. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.
- 13) 高坂幸子, 中川仁美, 小島一郎, 後藤順一, 石渡美雪, 野口まさみ, 市村健二, 佐藤憲明, 早坂百合子: 起動管理を行う患者の安全かつ安楽な口腔ケア技術の検討. 第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 3.

(4) 示説:

- 1) 鈴木良子, 竹原典子, 大宮司郁代, 新津香代子, 吉田朋代, 佐藤憲明, 早坂百合子: 救命救急領域に勤務する看護師の職務継続につながる要因. 第8回日本救急看護学会, 2005. 10.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線科技術部門は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である. 一般撮影, CT, RI, MRI, 血管撮影および放射線治療に関する研究を日常的に行っている.

一般撮影部門では, 昨年に引き続きデジタルマンモグラフィーの臨床評価, 最適管電圧の検討を中心とした研究, 胸部デジタル撮影システムにおける模擬腫瘍を用いた臨床評価の研究を進めた.

RI部門は, 心筋SPECTの収集軌道と短軸像の濃度変化についての検討, 低収集カウント心筋SPECTにおけるQGSデータ信頼性向上の一考察, コリメータの幾何学的開口がSPECT画像に及ぼす影響についてなど, 心筋SPECTの研究を中心に進めた. また, 核医学検査による左室駆出率評価についても検証した.

MRI部門は, 造影剤を使用せずに鎖骨下動脈および内胸動脈を描出する手法の検討と, 同じく造影剤を使用せずに下肢動脈を短時間で効率よく描出する撮像方法を検討した. 鎖骨下動脈を造影剤を使用せずに描出することは技術的に難しいとされていたが, 本手法を用いることで簡単にそして明瞭に非造影で鎖骨下動脈を描出可能となり, 臨床的に非常に有用な手法と評価された. また, 拡散強調画像に新しい脂肪抑制方法を使用した場合の臨床的有用性について検討した.

放射線科技術部門は, 診療用画像検査全般を扱う部門であり, それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め, 「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように, 研究に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 宮地利明<sup>1)</sup>, 土橋俊男, 今井 広<sup>2)</sup>, 小倉明夫<sup>3)</sup>, 土井 司<sup>4)</sup>, 町田好男<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 金沢大学大学院医学系研究科, <sup>2)</sup> 安城更生病院放射線技術科, <sup>3)</sup> 京都私立病院放射線科, <sup>4)</sup> 奈良県立医科大学付属病院中央放射線部, <sup>5)</sup> 東芝メディカルシステムズ株式会社MRI開発部): Parallel MRIにおける画像SNR評価法の問題点. 日本放射線技術学会誌 2006; 62(1): 145-148.

(2) 綜説:

- 1) 土橋俊男: MRI検査の安全管理: 対外及び体内金属の安全性確保について. 日本放射線技術学会・関東部会誌 2005; 8: 28-31.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男：造影 MR angiography . GE Signa ユーザーズミーティング・東日本大会，2005 . 11 .

### (2) 教育講演：

- 1) 桜井 実：心筋 SPECT 180 度近接収集の盲点：11 時方向の偽欠損 . 第 33 回新潟核医学懇話会，2005 . 4 .
- 2) 桜井 実：polar map と作成上の注意 . 第 27 回心臓核医学談話会，2005 . 6 .
- 3) 土橋俊男：造影 MR angiography の撮像テクニック . 第 98 回磁気共鳴懇話会，2005 . 9 .
- 4) 土橋俊男：部位別の基本的な撮像方法（躯幹部領域）. 日本磁気共鳴医学会（MR 入門講座），2005 . 10 .
- 5) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理 . 関東甲信地区臨床検査技師会，2006 . 1 .
- 6) 土橋俊男：MRI のアーチファクトを理解する . 関東甲信地区臨床検査技師会，2006 . 1 .
- 7) 土橋俊男：部位別の基本的な撮像方法（躯幹部領域）. 日本磁気共鳴医学会（MR 入門講座），2006 . 2 .
- 8) 桜井 実：診断に役立つ SPECT 像の作り方 . 第 31 回ニュータウンカンファレンス，2006 . 2 .

### (3) セミナー：

- 1) 土橋俊男：MRI 検査の実際（血管撮影/造影・非造影 MRA）. 日本放射線技師会（MRI 検査基礎コース），2005 . 4 .
- 2) 土橋俊男：MRI 概論 . 日本放射線技術学会（MR セミナー），2005 . 11 .
- 3) 土橋俊男：MRI の基礎 . 日本放射線技師会（生涯学習セミナー），2006 . 3 .

### (4) 一般講演：

- 1) 藤田 功<sup>1)</sup>，渡邊城大<sup>2)</sup>，土橋俊男，宮田知子<sup>3)</sup>，宮崎美津恵<sup>3)</sup>，喜種慎一<sup>3)</sup>，打田隆夫<sup>1)</sup>，富永紳一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院，<sup>2)</sup>済生会栗橋病院，<sup>3)</sup>東芝メディカルシステムズ（株））：FBI を用いた鎖骨下動脈における至適撮像条件の検討 . 日本磁気共鳴医学会，2005 . 9 .
- 2) 松村善雄，土橋俊男，新田武史，松本 剛，根津伸弘：マルチスラブを用いた非造影 MRA（2）：脂肪抑制併用非造影 MRA による内胸動脈の描出 . 日本放射線技術学会，2005 . 4 .
- 3) 新田武史，土橋俊男，松村善雄，松本 剛，根津伸弘：マルチスラブを用いた非造影 MRA（1）：非造影 MRA による鎖骨下動脈の描出 . 日本放射線技術学会，2005 . 4 .
- 4) 藤田 功<sup>1)</sup>，内田隆夫<sup>1)</sup>，渡邊城大<sup>2)</sup>，土橋俊男，宮田知子<sup>3)</sup>，喜種慎一<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院，<sup>2)</sup>埼玉県済生会栗橋病院，<sup>3)</sup>東芝メディカルシステムズ（株））：3D-TOF における水選択励起法の有用性 . 日本放射線技術学会，2005 . 4 .
- 5) 桜井 実，須田匡也，榎 利夫，根津伸弘：心筋 SPECT の収集軌道と短軸像の濃度変化について . 日本放射線技術学会，2005 . 4 .
- 6) 桜井 実：核医学検査による左室駆出率評価 . 日本放射線技術学会関東部会，2005 . 8 .
- 7) 土橋俊男，松村善雄，新田武史，藤田 功<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院）：非造影 MRA による鎖骨下動脈の描出 . 日本磁気共鳴医学会，2005 . 9 .
- 8) 吉澤賢史，原科悟史，松村善雄，土橋俊男，三代幸幸，根津信弘：SPAIR pulse 付加 SENSE-DWI の検討：磁場不均一での脂肪抑制効果について . 日本放射線技術学会秋季学術大会，2005 . 10 .
- 9) 松本 剛，土橋俊男，松村善雄，新田武史：心電図非同期 3D TOF を用いた非造影下肢 MRA の検討 . 日本放射線技術学会，2005 . 10 .
- 10) 桜井 実，須田匡也，浅野恭司，榎 利夫，根津伸弘：コリメータの幾何学的開口が SPECT 画像に及ぼす影響について：180 度収集および 360 度収集画像のスライス厚の比較 . 日本放射線技術学会，2005 . 10 .
- 11) 桜井 実，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>1)</sup>，水村 直<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線医学）：低収集カウント心筋 SPECT における QGS データ信頼性向上の 1 考察 . 日本核医学会，2005 . 11 .
- 12) 吉澤賢史：SPAIR pulse 付加 SENSE-DWI の有用性 . 東京都放射線技師会スモールグループディスカッション，2006 . 2 .



## [ 付属病院 部 ]

### 研究概要

ME部は、生命維持装置を中心とした医療機器の安全性を維持・向上する目的で、適正な使用および保守を研究テーマとしている。とくに人工呼吸器やその周辺機器の操作方法、それらの保守管理における臨床工学技士の役割を中心に検討している。

今後は、臨床工学技士の業務の三本柱である「臨床技術提供」、「保守管理」、「教育」を中心に、人工心肺、血液浄化、呼吸療法における機器の性能・機能評価や臨床評価、機器の中央管理のあり方、機器の操作に関する教育の支援などについて検討したい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 綜説：

- 1) 野口裕幸：人工呼吸療法と臨床工学技士のかかわり．医工学治療 2006；18(1)：63-67．
- 2) 野口裕幸：呼吸療法の安全を支える人工呼吸器の保守管理：臨床工学技士の役割．日本呼吸管理学会誌 2006；17(4)：356-364．
- 3) 野口裕幸：臨床工学技士からみた人工呼吸器の安全管理体制．日本呼吸管理学会誌 2006；14(3)：376-379．

##### (2) 研究報告書：

- 1) 星 邦彦，篠塚正博，青木郁香，磨田 裕，岡元和文，竹田晋浩，多田健二，林 真理，森永俊彦，丸川征四郎<sup>(1)</sup>日本呼吸療法医学会人工呼吸安全対策委員会)：「人工呼吸器安全使用のための指針」提言後の実態調査．人工呼吸 2005；22(01)：pp55-60．

#### 著書

- 1) 青木郁香：〔共著〕第III章 2 人工呼吸器の準備と設定．もっとも新しい人工呼吸ケア(磨田 裕)，2005；pp54-58，学習研究社．
- 2) 野口裕幸：〔共著〕第8章 給湿療法．CE技術シリーズ 呼吸療法(渡辺 敏，宮川哲夫)，2006；pp188-192，南江堂．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 青木郁香：人工呼吸器の安全性向上のために (人工呼吸患者の安全管理)．第13回アジア太平洋呼吸療法学会(神奈川県横浜市)，2005．9．

##### (2) 一般講演：

- 1) 青木郁香，天野 隆<sup>1)</sup>，南雲秀子<sup>1)</sup>，森川 亘<sup>1)</sup>，柿崎藤泰<sup>1)</sup>，田村富美子<sup>1)</sup>，松木理恵<sup>1)</sup>，野口裕幸<sup>1)</sup>，金子教宏<sup>1)</sup>，木村雅彦<sup>1)</sup>，田中一正<sup>1)</sup>，宮川哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>NPO法人日本呼吸ケアネットワーク)：人工呼吸療法の知識・技術に関する意識調査の分析．第27回日本呼吸両夫尾医学会学術集会，2005．7．
- 2) 渡辺 敏<sup>1)</sup>，小野哲章<sup>2)</sup>，青木郁香<sup>3)</sup>，楠本万里子<sup>4)</sup>，中野壮陸<sup>5)</sup>，箭内博行<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学保健衛生専門学院，<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院，<sup>4)</sup>(財)日本看護協会，<sup>5)</sup>(財)医療機器センター)：医療機器の中央管理に必要な人員とスペースについて．第34回日本医療福祉設備学会，2005．11．

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

当研究施設は、1972年の開設以来、丸山千里先生が開発されたSSM（人型結核菌体抽出物質：いわゆる丸山ワクチン）による癌の免疫療法を研究の中心課題としている。SSMの治験登録患者は、2005年3月31日現在、372,540名を数えるに至り、依然として多数の新規患者の紹介を受けている。最近では、新患・再来・郵送申し込みを含めると多い日には400名以上の患者を迎えている。この数字からも、SSMは有償治験薬という形で供給されているが、実際上は治療薬として使用されていることを考慮し、主治医からの経過報告をもとに画一的使用方法に限定せず各患者について個別に使用法を検討している。これらの研究の結果、基本投与方法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日法から、A単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで、化学療法・放射線療法などの副作用軽減に加え、一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある。SSM使用患者は、多くがSSM開始時点で進行期癌であったにも拘らず、良好な一般状態（Performance Status）を維持しつつ長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる。

現在は、SSMの使用状況・成績についての検討・報告に加え、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifier（BRM）としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から、当研究施設ならではの膨大な症例数をもとにした臨床生命表による検討、SSMの作用が有効に発揮される背景要因の検討などを行っている。また、他療法との関連やSSMの経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 症例報告：

- 1) Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Iida K, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>皮膚科学 ): Papulonecrotic tuberculid with spontaneous remission . J Dermatol. 2006 ; 33 ( 2 ): 112-114 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 高田香織<sup>1)</sup>, 金森幸男<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 飯田和美 ( <sup>1)</sup>皮膚科学 ): 低濃度DNFBにより惹起される接触皮膚炎の解析 . 第55回日本アレルギー学会秋期学術大会, 2005 . 10 .

## 21. 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは消化器外科医，内科医により構成され，消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っている．研究概要としては，消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めている．

#### 【良性疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療，臨床的研究
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究
4. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究
5. 胆道結石に対する内視鏡的治療 (EST+EPBD) ・腹腔鏡手術 (腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術) の技術改良と標準化
6. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求
7. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎研究

#### 【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究 (老人病研究所との共同研究)
2. 胃癌，大腸癌における増殖因子に関する臨床病理学的研究，分子標的治療の基礎的研究
3. 肝細胞癌，膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究 (老人病研究所との共同研究)
4. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法確立
5. 進行膵・胆道癌に対する，血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求
6. 肝臓癌に対する集学的治療
7. 消化器癌に対する低侵襲手術 (腹腔鏡補助下胃切除術，腹腔鏡補助下大腸切除術，胸腔鏡補助下食道切除術) の技術改良と標準化
8. 早期癌に対する内視鏡治療 (EMR・ESD)
9. IVR を応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
10. 閉塞性黄疸に対する減黄術 (PTCD，内視鏡的ステント)

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kiyama T<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Tajiri T<sup>1)</sup>, Barbul A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery I, Nippon Medical School ): Postoperative changes in body composition after gastrectomy. *Journal of Gastrointest Surgery* 2005 ; 9 ( 3 ): 313-319 .
- 2) Matsunobu T<sup>1,2)</sup>, Toshiyuki I<sup>1)</sup>, Masanori Y<sup>1,2)</sup>, Watanabe M<sup>2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>3)</sup>, Tokunaga A<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Integrative Pathology, Graduate School of Medicine ( Department of Pathology II ), Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Center for Digestive Diseases, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Division of Pathology, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Department of Surgery for Organ and Biological Regulation, Graduate School of Medicine ( Department of Surgery I ) ):

Expression of keratinocyte growth factor receptor correlates with expansive growth and early stage of gastric cancer . International journal of oncology 2006 ; 28 ( 1 ) : 307-314 .

- 3) Fujita <sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Tokunaga A , Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation ( Surgery I ), Nippon Medical School Graduate School of Medicine ): Factor XIII Therapy of Anastomotic Leak, and Circulating Growth Factors . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 ( 1 ) : 18-23 .
- 4) Togashi A<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Ohkawa K<sup>1)</sup>, Tokunaga A , Yamada N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School ): Simple and accurate ( 13 ) C-urea breath test for detection of Helicobacter pylori in the remnant stomach after surgery . Journal of Gastroenterol. 2006 ; 41 ( 2 ) : 127-132 .
- 5) 渡会伸治<sup>1)</sup>, 萩原 優<sup>2)</sup>, 酒井 滋<sup>3)</sup>, 貞廣 莊太郎<sup>4)</sup>, 吉澤康男<sup>5)</sup>, 井上晴洋<sup>6)</sup>, 古田一徳<sup>7)</sup>, 渡辺昌則 (<sup>1)</sup>横浜市立大学消化器病態外科, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院外科, <sup>3)</sup>帝京大学溝口病院外科, <sup>4)</sup>東海大学外科, <sup>5)</sup>昭和大学藤が丘病院外科, <sup>6)</sup>昭和大学北部病院消化器病センター, <sup>7)</sup>北里大学外科 ): 神奈川県における手術部位感染防止のためのCDCガイドラインに関する意識調査 . 神奈川医学会雑誌 2005 ; 32 ( 2 ) : 1-15 .
- 6) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭 (<sup>1)</sup>日本医科大学大学院医学研究科 臓器病態制御外科 ): 胃切除周術期・術後の体成分組成の変化 . 外科治療 2006 ; 94 ( 1 ) : 83-84 .

## ( 2 ) 症例報告 :

- 1) Shioya T , Shibuya T , Tokunaga A , Matsumoto K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, NMS 2nd Hospital ): Intestinal Obstruction due to Peritoneal Encapsulation of the Small Bowel-Report of a Case- . Journal of Japanese College of Surgeons 2005 ; 30 : 625-628 .
- 2) 渡辺昌則, 前島頭太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 松本光司<sup>1)</sup>, 徳永 昭 (<sup>1)</sup>第二病院病理部 ): 自然消失した胃 MALT リンパ腫の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2005 ; 2 ( 66 ) : 52-53 .
- 3) 前島頭太郎, 鈴木洋一, 杠葉 良, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭 : 同一と思われる部位に2度穿孔をきたした難治性胃潰瘍症例 . Progress of Digestive Endoscopy 2005 ; 66 ( 2 ) : 68-69 .
- 4) 吉野雅則, 駒崎敏昭, 前島頭太郎, 小泉正樹, 千原直人, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭 : NSAIDs が誘因と考えられる全大腸炎の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2005 ; 67 ( 2 ) : 110-111 .
- 5) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 徳永 昭 (<sup>1)</sup>大学院臓器病態制御外科, <sup>2)</sup>同統御機構病理学 ): 胃全摘Roux-Y再建術後のloop小腸粘膜に腺腫内腺癌を認めた非定型Cronkhite-Canada症候群の1例 . 日本臨床外科学会雑誌 2006 ; 67 ( 1 ) : 107-111 .

## 著 書

- 1) Akimaru K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Tokunaga A , Yoshida H<sup>1)</sup>, Yokomuro S<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Moriyama Y , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan ): [ 分担 ] Effectiveness of Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration after Carbon Tetra - Chloride Administration and Hepatectomy . Hyperbaric Medicine , 2005 ; pp39-46 , BEST PUBLISHING COMPANY .
- 2) Kiyama T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tokunaga A , Matsukura N<sup>1)</sup>, Yoshiyuki Y<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Lee Y<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Moriyama Y (<sup>1)</sup>Department of Surgery ( I ), Nippon Medical School ): [ 分担 ] The Influence of Hyperbaric Oxygen on Colon Anastomotic Healing . Hyperbaric Medicine , 2005 ; pp47-

55, BEST PUBLISHING COMPANY.

- 3) 渡辺昌則, 千原直人, 坊 英樹, 徳永 昭: [分担] 吐血. 消化器外科術後ケアガイド 消化器外科NURSING (小西敏郎編), 2005; pp122-131, メディカ出版.
- 4) 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): [共著] 食道疾患に対する鏡視下手術 3. 食道癌の胸腔鏡手術. 外科, 2005; pp1665-1672, 泰山堂書店.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 渡辺昌則, 前島顕太郎, 鈴木洋一, 千原直人, 水谷 聡, 小峯 修, 坊 英樹, 徳永 昭: 食道癌手術において内視鏡手術は外科感染症を減少させるか? (特別企画2 内視鏡外科と感染症の現状). 第18回日本内視鏡外科学会総会, 2005. 12.

##### (2) パネルディスカッション:

- 1) 水谷 聡, 宮戸靖幸<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田茂男<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所細胞生物学, <sup>2)</sup>外科学第1): 膵臓癌細胞の抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 日本消化器癌発生学会, 2005. 10.
- 2) 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 3領域郭清を行った食道癌症例の検討. 第67回日本臨床外科学会, 2005. 11.

##### (3) ワークショップ:

- 1) 水谷 聡, 塩谷 猛, 前島顕太郎, 千原直人, 吉野昌則, 南部弘太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 卒後10年目消化器外科医から見た食道静脈瘤治療. 12回日本門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 2) 松信哲朗, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉野雅則, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科統御機構病理(病理学第2), <sup>2)</sup>第二病院病理部): 胃癌における線維芽細胞増殖因子受容体(KGFR/FGFR2 IIIb)とそのligandの発現. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.

##### (4) サージカルフォーラム:

- 1) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松信哲朗, 小峯 修, 水谷 聡, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>統御機構病理学(病理学第2), <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>臓器病態制御外科(外科学第1)): 食道癌におけるKeratinocyte growth factor receptor (KGFR)の発現と局在. 第106回日本外科学会定期学術集會, 2006. 3.

##### (5) 一般講演:

- 1) Watanabe M, Maejima K, Yoshino M, Shioya T, Shibuya T, Tokunaga A: Management of Malignant Strictures of the Cervical Esophagus with Self-Expanding Metal Stent. The 4th Korea-Japan Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Seoul, Korea), 2005. 3.
- 2) Mizutani S, Miyato Y<sup>1)</sup>, Shidara Y<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Ohta S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences Graduate School of Medicine, N. M. S.): Mutations in the mitochondrial genome confer resistance against anti-cancer drugs to cancer cells. 75th AACR (Anaheim U. S. A.), 2005. 4.
- 3) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 三浦克洋, 松信哲朗, 小泉正樹, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渋谷哲男, 徳永 昭: The Efficacy of TS-1 based Chemotherapy to Unresectable, Recurrent and/or non curative resection cases of Gastric Cancer. 6th International Gastric Cancer Congress (Japan), 2005. 5.

- 4) Watanabe M , Yoshino M , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Bo H , Mizutani S , Shioya T , Ogata M , Maejima K , Matsunobu T , Naito Z<sup>1)</sup> , Shibuya T , Tokunaga A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ( II ) , Nippon Medical School ) : Expression and Localization of Keratinocyte Growth Factor in Gastric Cancer . 6th International Gastric Cancer Congress ( Yokohama, Japan ) , 2005 . 5 .
- 5) Bou H , Komazaki T , Maejima K , Matsunobu T , Suzuki Y , Yamada Y , Chihara N , Kurihara Y , Shioya T , Ogata M , Watanabe M , Shibuya T , Tokunaga A : Studies on Gastric Cancer with Gastric Ulcer in Stom Resected by Gastric Cancer . 6th International Gastric Cancer Congress , 2005 . 5 .
- 6) Ogata M , Akagawa H , Ryou Y , Koizumi M , Bou H , Watanabe M , Shibuya T , Tokunaga A : A Case of Small Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach Diagnosed Preoperatively . 6th International Gastric Cancer Congress , 2005 . 5 .
- 7) Tokunaga A , Lee Y<sup>1)</sup> , Masuda G<sup>1)</sup> , Okuda T<sup>1)</sup> , Fujita I<sup>1)</sup> , Kiyama T<sup>1)</sup> , Maejima K , Bou H , Shioya T , Watanabe M , Tjiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery I , Nippon Medical School Japan ) : Gastritis in the Gastric Remnant after Gastrectomy . 6th International Gastric Cancer Congress , 2005 . 5 .
- 8) Watanabe M , Suzuki Y , Maejima K , Koizumi M , Yoshino M , Bo H , Tokunaga A : Efficacy of Thoracoscopic Esophagectomy for Thoracic Esophageal Cancer . 7th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Hong Kong, China ) , 2005 . 8 .
- 9) Shibuya T , Uchiyama K<sup>1)</sup> , Shioya T , Mizutani S , Tokunaga A , Matsumoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Ebina General Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, NMS 2nd Hospital ) : Examination of nm23 Expression, LOH of the p53 Gene and Budding in Patients with Colorectal Cancer . International Surgical Week ISW 2005 ( Durban, South Africa ) , 2005 . 8 .
- 10) Yoshino M , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Matsunobu T , Kawamoto Y<sup>1)</sup> , Kawahara K<sup>1)</sup> , Kudo M<sup>1)</sup> , Matsumoto K<sup>2)</sup> , Watanabe M , Tokunaga A , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Integrative Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Division of Pathology, Second Hospital of Nippon Medical School ) : Do Keratinocyte Growth Factor ( KGF/FGF-7 ) and Fibroblast Growth Factor ( FGF ) -10 Stimulate Esophageal Cancer Cell Growth, via the KGF Receptor ( KGFR ) , Proliferation or Differentiation? . 10th World Congress on Advances in Oncology and 8th International Symposium on Molecular Medicine ( Crete, Greece ) , 2005 . 10 .
- 11) Matsunobu T , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Yoshino M , Watanabe M , Takenori F<sup>1)</sup> , Matsumoto K<sup>2)</sup> , Tokunaga A , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Integrative Pathology, Graduate School of Medicine ( Department of Pathology II ) , Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Division of Pathology, Second Hospital of Nippon Medical School ) : Expression of Keratinocyte Growth Factor Receptor and Its Ligands in Gastric Cancer . 10th World Congress on Advances in Oncology ( Crete, Greece ) , 2005 . 10 .
- 12) 千原直人 , 坊 英樹 , 前島顕太郎 , 水谷 聡 , 尾形昌男 , 渡辺昌則 , 徳永 昭 : 出血性胃十二指腸潰瘍における H2-Blocker と P. P. I の比較 . 日本消化管学会 , 2005 . 1 .
- 13) 尾形昌男 , 千原直人 , 小泉正樹 , 渋谷哲男 , 徳永 昭 : 診断が困難であった腹腔内腫瘍の 1 症例 . 第 86 回腹部エコー研究会 , 2005 . 1 .
- 14) 小峯 修 , 渡辺昌則 , 坊 英樹 , 徳永 昭 , 吉川朱実<sup>1)</sup> , 川島吉之<sup>1)</sup> , 田中洋一<sup>1)</sup> , 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学外科学第 1 ) : 異なる 2 施設間における胸腔鏡補助下食道癌根治術の比較検討 . 第 106 回日本外科学会定期学術集会 , 2005 . 3 .
- 15) 小泉正樹 , 近藤恭司 , 前島顕太郎 , 千原直人 , 坊 英樹 , 渡辺昌則 , 徳永 昭 , 李 榮浩<sup>1)</sup> , 藤田逸郎<sup>1)</sup> , 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第 1 ) : 胃切除後の GERD ; ピリテックによる胆汁逆流測定および 24 時間 pH モニタリング . 第 106 回日本外科学会 , 2005 . 3 .
- 16) 千原直人 , 坊 英樹 , 前島顕太郎 , 水谷 聡 , 尾形昌男 , 渡辺昌則 , 渋谷哲男 : 出血性胃十二指腸潰瘍におけ

- る H2-Blocker と P. P. I の比較 . 日本消化器病学会 , 2005 . 4 .
- 17) 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭 : 出血性消化性潰瘍における NSAIDs と *H. pylori* 感染の関与 . 第 91 回日本消化器病学会総会 , 2005 . 4 .
  - 18) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科 ( 外科学第 1 ), <sup>2)</sup> 付属病院病理部 ): 胃 GIST の治療戦略 : 最適な手術方法を求めて . 第 105 回日本外科学会定期学術集会 , 2005 . 4 .
  - 19) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 松信哲朗, 小泉正樹, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 進行・再発胃癌症例に対する TS-1 療法の治療成績 . 第 77 回日本胃癌学会総会 , 2005 . 5 .
  - 20) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉野雅則, 水谷 聡, 駒崎敏昭, 塩谷 猛, 前島顕太郎, 坊 英樹, 渋谷哲男, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 病理学第 2 ): 胃癌における Keratinocyte Growth Factor の発現と局在 . 第 77 回日本胃癌学会総会 , 2005 . 5 .
  - 21) 水谷 聡, 塩谷 猛, 前島顕太郎, 小泉正樹, 千原直人, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第 1 ): 胃癌幽門狭窄症例の検討 . 77 回日本胃癌学会 , 2005 . 5 .
  - 22) 川島吉之<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 岡田洋二郎<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 有馬美和子<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 同消化器内科, <sup>3)</sup> 同病理科 ): パレット粘膜を伴う食道腺癌切除例 8 例の検討 . 第 105 回日本外科学会 , 2005 . 5 .
  - 23) 山田達也<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 岡田洋二郎<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 同病理科 ): endocrine cell differentiation を呈する por 胃癌症例の検討 . 第 106 回日本外科学会 , 2005 . 5 .
  - 24) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>2)</sup>, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 松本光司<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 大宮医師会市民病院外科, <sup>2)</sup> 海老名総合病院外科, <sup>3)</sup> 同病理部 ): 大腸癌における nm23, p53-LOH, 簇の予後検討 . 第 105 回日本外科学会定期学術集会 , 2005 . 5 .
  - 25) 三浦克洋, 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 水谷 聡, 吉野雅則, 駒崎敏昭, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 自然消失を認めた胃 MALT リンパ腫の 1 例 . 第 77 回日本胃癌学会総会 , 2005 . 5 .
  - 26) の場康德<sup>1)</sup>, 赤坂喜清<sup>1)</sup>, 夏越祥次<sup>1)</sup>, 内門泰斗<sup>1)</sup>, 奥村 浩<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 黒島一直<sup>1)</sup>, 愛甲 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院消化器センター消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科 ( 外科学第 1 ): Omental Implantation の穿孔性胃酢酸潰瘍治療過程におけるアポトーシスと Scar-less Repair のメカニズムの検討 . 第 105 回日本外科学会 , 2005 . 5 .
  - 27) 赤川玄樹, 尾形昌男, 杠葉 良, 松信哲朗, 小泉正樹, 重光剛志, 坊 英樹, 栗原雄司, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 術前に診断した胃小 GIST の 1 例 . 第 77 回日本胃癌学会総会 , 2005 . 5 .
  - 28) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 鈴木洋一, 杠葉 良, 松信哲朗, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 松本光司<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 進行胃癌穿孔術後 5 年 無再発生存の 1 例 . 第 80 回日本消化器内視鏡学会関東地方会 , 2005 . 6 .
  - 29) 渡辺昌則, 鈴木洋一, 前島顕太郎, 小泉正樹, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 徳永 昭 : 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術 . 第 30 回日本外科系連合学会学術集会 , 2005 . 6 .
  - 30) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松信哲朗, 小峯 修, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 医学研究科統御機構病理学 ( 病理学第 2 ), <sup>2)</sup> 第二病院病理部 ): 食道癌における KGFR/FGFR2 IIIb の発現と局在 : 増殖および分化への関連性 . 第 59 回日本食道学会学術集会 , 2005 . 6 .
  - 31) 吉野雅則, 駒崎敏昭, 前島顕太郎, 小泉正樹, 千原直人, 水谷 聡, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭 : NSAIDs が誘因と考えられる全大腸炎の 1 例 . 第 80 回日本消化器内視鏡学会関東地方会 , 2005 . 6 .
  - 32) 尾形昌男, 杠葉 良, 小泉正樹, 坊 英樹, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭 : 胃腫瘍に対するアルゴンプラズマ凝固法 ( APC ) 併用及び単独法による内視鏡治療の検討 . 第 80 回日本内視鏡学会関東地方会 , 2005 . 6 .

- 33) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 松信哲朗, 小泉正樹, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 徳永 昭: 進行・再発胃癌に対する TS-1 治療の検討. 第 28 回神奈川胃癌治療研究会, 2005. 7.
- 34) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松信哲朗, 小峯 修, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 徳永昭<sup>(1)</sup> 医学研究科統御機構病理学 (病理学第 2), <sup>2)</sup> 第二病院病理部): 食道癌における KGFR/FGFR2 IIIb の発現と分化の関連性. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005. 7.
- 35) 水谷 聡, 塩谷 猛, 前島顕太郎, 小泉正樹, 千原直人, 吉野雅則, 坊 英樹, 南部弘太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1): 胃癌幽門狭窄症例の検討. 第 60 回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 36) 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 坂本裕之<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 小峯修<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 食道癌鏡視下手術のコツと落とし穴. 第 60 回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 37) 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭: 出血性胃十二指腸潰瘍における NSAIDs・抗凝固剤・ステロイドの関与と治療の検討. 胃病態機能研究会, 2005. 7.
- 38) 的場康徳<sup>1)</sup>, 赤坂喜清<sup>1)</sup>, 夏越祥次<sup>1)</sup>, 帆北修一<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 坊 英樹, 徳永 昭, 黒島一直<sup>1)</sup>, 愛甲 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鹿児島大学医学部・歯学部附属病院消化器センター消化器外科): 胃・十二指腸潰瘍穿孔に対する松林式大網充填術 (Omental Implantation) の臨床的実験の検討. 第 70 回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 39) 川島吉之<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 胃全摘後空腸囊 Roux Y 再建の問題点. 第 60 回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 40) 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 戸塚 修<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 異時単発性胃癌肝転移はよい手術適応である. 第 60 回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 41) 小峯 修<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 関根毅<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup>蓮田病院外科): 下部直腸癌に対する局所切除術の検討. 第 63 回大腸癌研究会, 2005. 7.
- 42) 前島顕太郎, 尾崎卓司, 千原直人, 南部弘太郎, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭: 診断に難渋した肝膿瘍の 1 例. 第 286 回 日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 9.
- 43) 千原直人, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理部): HNPCC 患者にみられた人工肛門部癌の 1 例. 外科集談会, 2005. 9.
- 44) 千原直人, 水谷 聡, 小泉正樹, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭: 上部消化管出血の検討: 特に食道・胃静脈瘤出血を中心として. 門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 45) 勝部隆男<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>2)</sup>, 市川 度<sup>3)</sup>, 藤井雅志<sup>4)</sup>, 徳永 昭, 高木 融<sup>5)</sup>, 東風 貢<sup>6)</sup>, 林 和彦<sup>7)</sup>, 久保田哲朗<sup>8)</sup>, 相羽恵介<sup>9)</sup>, 荒井邦佳<sup>10)</sup>, 寺島雅典<sup>11)</sup>, 北島政樹<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学附属第二病院外科東京消化器癌化学療法研究会 (TSGCC), <sup>2)</sup>東京女子医科大学附属第二病院外科, <sup>3)</sup>埼玉医科大学消化器・一般外科 (2), <sup>4)</sup>駿河台日本大学病院消化器外科, <sup>5)</sup>東京医科大学病院第三外科, <sup>6)</sup>日本大学医学部外科学講座消化器外科, <sup>7)</sup>東京女子医科大学消化器病センター, <sup>8)</sup>慶應義塾大学医学部外科学, <sup>9)</sup>東京慈恵会医科大学内科学講座附属病院臨床腫瘍部, <sup>10)</sup>東京都立駒込病院外科, <sup>11)</sup>福島県立医科大学 外科学第 1): 進行・再発胃癌に対する CPT - 11/TS - 1 併用療法の臨床第 I/II 相試験. 第 43 回日本癌治療学会総会, 2005. 9.
- 46) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 松信哲朗, 小泉正樹, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永昭: 進行・再発胃癌に対する TS-1 療法の検討. 第 43 回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 47) 渡辺昌則, 鈴木洋一, 前島顕太郎, 小泉正樹, 千原直人, 吉野雅則, 坊 英樹, 徳永 昭: 食道癌手術侵襲下における外科感染症の検討: 開胸術と鏡視下手術の比較. 第 18 回日本外科感染症学会総会, 2005. 10.



- 48) 吉野雅則, 尾形昌男, 塩谷 猛, 小泉正樹, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 大腸癌における Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) の意義 < 増殖か? 分化か? > . 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005 . 10 .
- 49) 尾崎卓司, 吉野雅則, 駒崎敏昭, 千原直人, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭: 当科における薬剤起因性大腸病変の検討: 特に NSAIDs 起因性大腸病変について . 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005 . 10 .
- 50) 塩谷 猛, 前島顕太郎, 水谷 聡, 坊 英樹, 南部弘太郎, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 胃癌における TP, DPD 活性からみた再発形式の検討 . 第43回日本癌治療学会総会, 2005 . 10 .
- 51) 塩谷 猛, 前島顕太郎, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭: 高齢者 (80 歳以上) の大腸癌手術症例の検討: POSSUM score を用いた周術期リスク評価 . 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005 . 10 .
- 52) 松信哲朗, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉野雅則, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科統御機構病理 (病理学第2), <sup>2)</sup> 第二病院病理部 ): 胃癌培養細胞と胃癌組織における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGFR/FGFR2 IIIb) の発現と役割 . 第47回日本消化器病学会大会 (第13回消化器関連学会週間), 2005 . 10 .
- 53) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 岡田洋次郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター 消化器外科 ): 咽頭喉頭および縦隔隔の食道癌全切除後に発生した ARDS に対してシベレスタットナトリウム (エラスポール) が著功した1例 . 第33回日本救急医学会, 2005 . 10 .
- 54) 吉川朱実<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 岡田洋次郎<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 同病理科 ): 胃内分泌細胞癌の一切除例 . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 55) 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科 ): 大腸癌肝転移切除後の生存率と再発パターンの検討: 肝の状態と原発巣の状態を考慮した治療方針の決定のために . 第43回日本癌治療学会, 2005 . 10 .
- 56) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科 (外科学第1): 幽門狭窄をきたした胃癌の臨床病理学的検討 . 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 10 .
- 57) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 大学院医学研究科臓器病態制御外科 (外科学第1): 胃癌における抗癌剤感受性試験 (CD - DST 法) の検討 . 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 10 .
- 58) 青笹季文<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 大宮医師会市民病院外科 ): 急性虫垂炎による汎発性腹膜炎の術後, 胸水, 無気肺, 肺炎の治療に難渋した1例 . 第18回日本外科感染症学会総会, 2005 . 11 .
- 59) 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭: 上部消化管異物 (爪楊枝) の1例 . 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005 . 11 .
- 60) 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科 ): 留置肝動注カテーテルに起因すると考えられる脳血管障害 . 第67回日本臨床外科学会, 2005 . 11 .
- 61) 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科 ): 高齢者大腸癌の治療成績 . 第67回日本臨床外科学会, 2005 . 11 .
- 62) 小峯 修<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 尾形英生<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 岡田洋次郎<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科 ): StageIV 大腸癌症例の検討 . 第67回日本臨床外科学会, 2005 . 11 .
- 63) 川島吉之<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 吉川朱実<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科, <sup>2)</sup> 同病理科 ): 2年間で胃全摘と3回の肝

- 転移切除を施行し、その後グリベック内服で3年間無再発が得られている胃GISTの1例．第67回日本臨床外科学会，2005．11．
- 64) 戸塚 統<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，浅香晋一<sup>1)</sup>，尾形英生<sup>1)</sup>，倉林 誠<sup>1)</sup>，岡田洋次郎<sup>1)</sup>，小峯 修<sup>1)</sup>，吉川朱実<sup>1)</sup>，八岡利昌<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター消化器外科): 難治性の食道癌術後乳び胸水に対してソマトスタチンアナログが有効であった1例．第67回日本臨床外科学会，2005．11．
- 65) 坊 英樹，前島顕太郎，小泉正樹，渡辺昌則，徳永 昭，森 秀樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日下部病院外科): *H. Pylori*除菌により消失した残胃の胃 MALT リンパ腫の1例．第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2005．11．
- 66) 小泉正樹，近藤恭司，前島顕太郎，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，徳永 昭: 胃切除後のGERDと胆汁逆流およびpH．第35回胃外科・術後障害研究会(名古屋)，2005．11．
- 67) 松田範子<sup>1)</sup>，秋丸琥甫<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉村成子<sup>1,2)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，徳永 昭，森山雄吉，田久保海誉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>吉村せいこクリニック，<sup>3)</sup>東京都老人総研): 障害肝70%切除後残肝再生に対する高圧酸素療法の有効性．第40回日本高気圧環境医学会総会，2005．11．
- 68) 前島顕太郎，渡辺昌則，松信哲朗，小泉正樹，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，徳永 昭: 切除不能胃癌に対するTS-1療法の検討．第29回神奈川胃癌治療研究会，2005．12．
- 69) 渡辺昌則，二宮理貴，前島顕太郎，小泉正樹，千原直人，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，増田剛太郎<sup>1)</sup>，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌とヘリコバクターピロリ菌感染: UBT 検査の結果から．第29回神奈川胃癌治療研究会，2005．12．
- 70) 栗原雄司<sup>1)</sup>，山川達郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京浜総合病院外科): 腹腔鏡下手術をおこなったMirizzi syndromeの1例．第18回日本内視鏡外科学会総会，2005．12．
- 71) 近藤恭司，尾碓卓司，小泉正樹，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，柳本邦雄<sup>1)</sup>，松本光司<sup>1)</sup>，徳永 昭(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 食道原発小細胞癌の1例．第799回外科集談会，2005．12．
- 72) 的場康徳<sup>1,3,4)</sup>，赤坂喜清<sup>1,2)</sup>，夏越祥次<sup>1,2)</sup>，徳永 昭<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>，愛甲 孝<sup>1)</sup>，黒島一直<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>鹿児島大学大学院歯学総合研究所腫瘍制御学消化器外科学，<sup>2)</sup>東邦大学医学部病理学第二講座，<sup>3)</sup>日本医科大学臓器病態制御外科学・消化器病センター，<sup>4)</sup>栄和会寺田病院外科): 難治性潰瘍の治癒促進作用としての大網の肉芽化とアポトーシスそして癒痕抑制の役割．第35回日本創傷治癒学会，2005．12．
- 73) 星野有哉，渋谷哲男<sup>1)</sup>，青笹李文<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮医師会市民病院): 進行結腸・直腸がんに対するオキサロプラチン/5-FU/ロイコポリン療法の検討．第43回埼玉県医学会総会，2006．1．
- 74) 前島顕太郎，坊 英樹，近藤恭司，吉野雅則，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭: 高齢者(80歳以上)消化管癌症例の検討．第2回日本消化管学会総会，2006．2．
- 75) 栗原雄司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京浜総合病院外科): 鏡視下に治療した巨大腹壁癒痕ヘルニアの1例．第14回クリニカル・ビデオフォーラム(CVF)，2006．2．
- 76) 坊 英樹，千原直人，前島顕太郎，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1): 当施設における上部消化管出血の治療(とくに胃潰瘍について)．第2回日本消化管学会総会学術集會，2006．2．
- 77) 前島顕太郎，渡辺昌則，松信哲朗，小泉正樹，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，塩谷 猛，徳永 昭: 切除不能胃癌に対するTS-1療法の検討．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 78) 渡辺昌則，前島顕太郎，鈴木洋一，小泉正樹，千原直人，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，徳永 昭，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 食道癌における鏡視下手術の導入は外科感染症を減少させるか?．第106回日本外科学会学術定期集會，2006．3．
- 79) 水谷 聡，宮戸靖幸<sup>1)</sup>，山縣久美<sup>1)</sup>，麻生定光<sup>1)</sup>，太田茂男<sup>1)</sup>，徳永 昭，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所細胞生物学，<sup>2)</sup>外科学第1): 抗癌剤耐性におけるミトコンドリアDNA体細胞変異の分子生物学的検討．第39回制癌

剤適応研究会, 2006 . 3 .

- 80) 佐藤精一, 二宮理貴, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 術前冠状断CTにて虫垂嵌頓が疑われた再発鼠径ヘルニアの1例. 第800回外科集談会, 2006 . 3 .
- 81) 佐藤精一, 塩谷 猛, 杠葉 良, 南部弘太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝(<sup>1)</sup>外科学第1): 成人鼠径ヘルニア嵌頓症例の検討. 第42回腹部救急学会, 2006 . 3 .
- 82) 青笹季文<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮医師会市民病院外科): 多発性肝転移と幽門狭窄をきたしたAFP産生胃癌の1例. 第78回日本胃癌学会総会, 2006 . 3 .
- 83) 青笹季文<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮医師会市民病院外科): 肝原発と考えられた小細胞癌の1例. 第800回外科集談会, 2006 . 3 .
- 84) 松信哲朗, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 二宮理貴, 佐藤精一, 近藤恭司, 前島顕太郎, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科統御機構病理(病理学第2), <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1)): 胃癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR)とKGFの発現および神経内分泌細胞のはたす役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .
- 85) 松信哲朗, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 前島顕太郎, 吉野雅則, 坊 英樹, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科統御機構病理(病理学第2), <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1)): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR)とKGFの胃癌における発現と神経内分泌細胞のはたす役割. 第78回日本胃癌学会総会, 2006 . 3 .
- 86) 南部弘太郎, 徳永 昭, 渡辺昌則, 尾形昌男, 塩谷 猛, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 坊 英樹, 吉野雅則, 千原直人, 小泉正樹, 松信哲朗, 佐藤精一, 二宮理貴(<sup>1)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1)): 成人原発性小腸軸捻転症の1例. 第42回日本腹部救急医学会総会, 2006 . 3 .
- 87) 坊 英樹, 近藤恭司, 杠葉 良, 前島顕太郎, 小泉正樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 森 秀樹<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日下部病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属第二病院病理部): 残胃に発生しH. pylori除菌により消失したB cellリンパ腫の1例. 第78回日本胃癌学会総会, 2006 . 3 .
- 88) 坊 英樹, 二宮理貴, 千原直人, 渡辺昌則, 徳永 昭, 前島顕太郎, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1)): 当科におけるNeoadjuvant Chemotherapyの現状. 第78回日本胃癌学会総会, 2006 . 3 .
- 89) 坊 英樹, 清水 一<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 杠葉 良, 水谷 聡, 渡辺昌則(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>大学院医学研究科臓器病態制御外科(外科学第1)): ヒト食道扁平上皮癌放射線照射後に発現低下する遺伝子MetAP2の意義. 第39回制癌剤適応研究会, 2006 . 3 .
- 90) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)): 胃癌における抗癌剤感受性試験(CD - DST法)の臨床応用への問題点. 第39回制癌剤適応研究会, 2006 . 3 .

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断難解例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体であり、症例報告あるいは症例解析などの学会発表及び論文報告を毎年コンスタントに行っている。

平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが、昨年より新たなデータベースによるグレードアップを行い、これまでと同様、リアルタイムに患者の既往歴を検索出来ると同時に、各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出がこれまで以上に容易となり、臨床各科の依頼に沿った疾患の統計学的な解析をさらに詳細に行うことが出来るようになった。スタッフ（医師2名、技師5名）の少ない当病理部としては、各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが、各スタッフの得意分野（肝臓病理および臓器移植の病理、消化管病理および細胞診断）から徐々に研究を進展させていきたいと考えている。また、これまでの年報でも述べたが、平成5年より続けている群馬大学との共同研究（1）臓器移植の際の保存再灌流障害（肺、肝臓、小腸、心臓）に関する研究、（2）NHBD（non-heart beating donor）からの臓器移植に関する研究は、引き続き国内外で高い評価を得ている。

この他、平成7年より慶応大学医学部で、平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的な検討に関する共同研究は、平成12年より本学、横浜市立医科大学、平成13年より自治医科大学、平成17年より東京医科大学も加わり継続して行っているが、多くの施設からの貴重な症例を解析することにより、現在肝臓移植病理のマニュアルをリニューアル中である。

これからも多数の施設と共同し 移植病理学のみならず多くの臨床病理学的な検討を行ってゆきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### （1）原著：

- 1) Kobayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): The Role of Mitogen-Activated Protein Kinase Pathways and the Participation of Intestinal Congestion in Total Hepatic Ischemia-Reperfusion Injury . *Hepatogastroenterol* 2005 ; 53 ( 68 ): 243-248 .
- 2) Shimizu H<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Murakami T<sup>1)</sup>, Hakamata Y<sup>1)</sup>, Kudou S<sup>1)</sup>, Kish T<sup>1)</sup>, Fukuchi K<sup>1)</sup>, Iwanami S<sup>1)</sup>, Kuriyama K<sup>1)</sup>, Yasue T<sup>1)</sup>, Enosawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>, Kobayashi E <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): KRP-203, a novel synthetic immunosuppressant, prolongs graft survival and attenuates chronic rejection in rat skin and heart allografts . *Circulation* 2005 ; 111 ( 2 ): 222-229 .
- 3) Yokota T<sup>1)</sup>, Kouno J<sup>3)</sup>, Adachi K<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Matsumoto K, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Tsunoda T ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子生物部門, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>4)</sup>同病理部 ): Identification of histological markers for malignant glioma by genome-wide expression analysis : dynein, -PIX and sorcin . *A Neuropath* 2005 ; 10 ( 5 ): 401-405 .
- 4) Oshima K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Mohara J<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Long-term preservation using a new apparatus combined with suppression of pro-inflammatory cytokines improves donor heart function after transplantation in a canine model . *J Heart Lung Transplant* 2005 ; 24 ( 5 ): 602-608 .
- 5) Fukusato T<sup>1)</sup>, Fukushima J<sup>1)</sup>, Shiga J<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Nakano T<sup>2)</sup>, Maeyama S<sup>3)</sup>, Uchikoshi T<sup>3)</sup>, Ohbu M<sup>4)</sup>, Matsumoto T<sup>5)</sup>, Mathumoto K, Hano H<sup>6)</sup>, Sakamoto M<sup>7)</sup>, Kondo F<sup>8)</sup>, Komatsu A<sup>9)</sup>, Ishikawa

T<sup>10)</sup>, Ohtake H<sup>11)</sup>, Takikawa H<sup>12)</sup>, Yoshimura K<sup>13)</sup>(<sup>1)</sup> 帝京大学医学部病理学教室, <sup>2)</sup> 国立千葉病院臨床病理部, <sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学医学部病理学教室, <sup>4)</sup> 北里大学医学部病理学教室, <sup>5)</sup> 順天堂大学医学部病理学教室, <sup>6)</sup> 慈恵医科大学医学部病理学教室, <sup>7)</sup> 慶応大学医学部病理学教室, <sup>8)</sup> 船橋中央病院病理部, <sup>9)</sup> 慈誠会病院, <sup>10)</sup> 東京大学健康管理センター病理, <sup>11)</sup> 都立駒込病院内科, <sup>12)</sup> 帝京大学医学部内科, <sup>13)</sup> 東京大学医学部健康科学・看護学科生物統計学): Interobserver variation in the histopathological assessment of nonalcoholic steatohepatitis. *Hepatology Research* 2005; 33: 122-127.

6) Totsuka O<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Arakawa K<sup>1)</sup>, Akao T<sup>1)</sup>, Muraoka M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 群馬大学医学部第二外科学): Effects of a free radical scavenger, MCI-186, on ischemia-reperfusion injury during extended liver resection in dogs. *Hepatogastroenterol* 2005; 52 (65): 1545-1548.

7) Matsunobu T<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>2)</sup>, Matsumoto K, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 外科学第1): Expression of keratinocyte growth factor receptor correlates with expansive growth and early stage of gastric cancer. *International journal of oncology* 2006; 28 (2): 307-314.

## (2) 症例報告:

1) Shioya T<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Matsumoto K (<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター): Intestinal Obstruction due to Peritoneal Encapsulation of the Small Bowel. *Journal of Japanese College of Surgeons* 2005; 30: 625-628.

2) Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hioki M<sup>1)</sup>, Takushima M<sup>1)</sup>, Yanagimoto K, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院外科): Metastatic Chest Wall Tumor Suspected to be of Lung Origin by Immunoreactivity for Cytokeratin 7 and 20. *The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2006; 54 (3): 132-136.

3) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター): 自然消失した胃 MALT リンパ腫の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2005; 2 (66): 52-53.

4) 斎藤良明, 長澤由英, 大塚俊司, 太田吉男, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 柳本邦雄, 松本光司(<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター): 腫瘍細胞が胸水中に出現した腹部原発悪性線維性組織球腫の1症例. *日臨細胞学会神奈川県支部会誌* 2005; 10 (1): 35-39.

5) 長澤由英, 大塚俊司, 斎藤良明, 太田吉男, 柳本邦雄, 原口秀司<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup> 第二病院外科): 細胞像から原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった肺癌甲状腺転移の1例. *日臨細胞学会神奈川県支部会誌* 2006; 10 (1): 26-30.

## (3) 追加分原著:

1) Arakawa K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Akao T<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 群馬大学医学部第二外科学): Bradykinin B2 receptor antagonist FR173657 ameliorates small bowel ischemic-reperfusion injury in dogs. *Dig Dis Sci* 2005; 50 (1): 27-36.

2) Kurabayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Maruyama I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 群馬大学医学部第二外科学): 2-arachidonoylglycerol increases in ischemic-reperfusion injury of the rat. *J Invest Surg* 2005; 18 (1): 25-31.

3) Kurabayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Maruyama I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 群馬大学医学部第二外科学): NO donor ameliorates ischemic-reperfusion injury of the rat liver with iNOS attenuation. *J Invest Surg* 2005; 18 (2): 193-200.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 松本光司：肝移植患者（特にC型肝炎・肝硬変）の術後肝機能不全について．第2回臓器不全患者に対する外科・管理研究会，2005．10．

### (2) シンポジウム：

- 1) 片山博徳<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，東 敬子<sup>1)</sup>，松本光司，劉 愛民<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2）：肺大細胞性神経内分泌癌における免疫組織学的特徴：肺小細胞癌，大細胞癌，低分化腺癌との比較検討．第94回日本病理学会総会，2005．4．

### (3) ワークショップ：

- 1) 松信哲朗<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司，渋谷哲男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2）：胃癌における線維芽細胞増殖因子受容体（KGFR/FGFR2 IIIb）とそのligandの発現．第64回日本癌学会総会，2005．9．

### (4) サージカルフォーラム：

- 1) 吉野雅則<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，小峰 修<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，尾形昌男<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司，内藤善哉<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2，<sup>3)</sup>外科学第1）：食道癌におけるKeratinocyte Growth Factor Receptor（KGFR）の発現と局在．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．

### (5) 一般講演：

- 1) Shibuya T<sup>2)</sup>，Uchiyama K<sup>3)</sup>，Shioya T<sup>1)</sup>，Mizutani S<sup>1)</sup>，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Matsumoto K（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>大宮医師会市民病院，<sup>3)</sup>海老名総合病院）：Examination of nm23 expression, LOH of the p53 gene and budding in patients with colorectal cancer．International Surgical Week ISW 2005 (Durban, South Africa)，2005．8．
- 2) Matsunobu T<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Yoshino M<sup>1)</sup>，Watanabe M<sup>1)</sup>，Fujii T<sup>2)</sup>，Matsumoto K，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Naito Z<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2）：Expression of Keratinocyte Growth Factor Receptor and its Ligands in Gastric Cancer．10th world congress on advances in oncology (Crete, Greece)，2005．10．
- 3) Yoshino M<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Matsunobu T<sup>1)</sup>，Kawamoto Y<sup>2)</sup>，Kawahara K<sup>2)</sup>，Kudo M<sup>2)</sup>，Matsumoto K，Watanabe M<sup>1)</sup>，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Naito Z<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2）：Do Keratinocyte Growth Factor (KGF/FGF-7) and Fibroblast Growth Factor (FGF)-10 stimulate esophageal cancer cell growth, via the KGF Receptor (KGFR), proliferation or differentiation?．10th World Congress on Advances in Oncology and 8th International Symposium on Molecular Medicine (Crete, Greece)，2005．10．
- 4) 吉野雅則<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，小峰 修<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司，内藤善哉<sup>2)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2）：食道癌におけるKGFR/FGFR2 IIIbの発現と局在<増殖および分化への関連性>．第59回日本食道学会学術集会，2005．6．
- 5) 松本光司，柳本邦雄：短時間での悪性転化が疑われた血管平滑筋腫の1例．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 6) 柳本邦雄，松本光司，藤井祐三<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2）：多発性内分泌細胞小胞巣およびリンパ節転移を伴う微小胃カルチノイドの1例．第94回日本病理学会総会，2005．4．
- 7) 松本光司：Pro-Con Debate「プロトコール肝生検は必要か？」必要とする立場から．第23回日本肝移植研究会，2005．5．
- 8) 小林克巳<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，村岡正人<sup>1)</sup>，赤尾敬彦<sup>1)</sup>，清水 尚<sup>1)</sup>，今野兼次郎<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学）：ブタ肝腫阻血再灌流傷害に対するhuman atrial natriuretic peptide (hANP)の効果．第105回日本外科学会総会，2005．5．
- 9) 赤尾敬彦<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，徳峰雅彦<sup>1)</sup>，村岡正人<sup>1)</sup>，小林克巳<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>群馬大学医学部第

- 二外科学): 犬の肺温阻血再灌流傷害におけるPMX-DHPの効果. 第105回日本外科学会総会, 2005. 5.
- 10) 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 内山喜一郎<sup>3)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>(1)</sup> (日本医科大学第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>大宮医師会市民病院, <sup>3)</sup>海老名総合病院): 大腸癌におけるnm23, p53-LOH, 簇の予後検討. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 11) 小林克巳<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 清水 尚<sup>1)</sup>, 今野兼次郎<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> (群馬大学医学部第二外科学): プタ肝温阻血再灌流傷害に対するhuman atrial natriuretic peptide (hANP) の効果. 第23回日本肝移植研究会, 2005. 6.
- 12) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup> (第二病院消化器病センター): 進行胃癌穿孔術後5年 無再発生存の1例. 第80回 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 6.
- 13) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 食道癌におけるKGFR/FGFR2 IIIbの発現と分化の関連性. 第60回日本消化器外科学会定期学術集総会, 2005. 6.
- 14) 大庭孝男, 長澤由英, 大塚俊司, 斎藤良明, 太田吉男, 柳本邦雄, 原口秀司<sup>1)</sup>, 遠藤直也<sup>1)</sup>, 松本光司 (第二病院外科): 前縦隔に発生した脂肪肉腫の1例. 第24回日本臨床細胞学会神奈川支部会, 2005. 9.
- 15) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 胃癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGFR/FGFR2 IIIb) とそのligandの発現. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.
- 16) 千原直人<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司 (第二病院消化器病センター): HNPCC患者に見られた人工肛門部癌の1例. 外科集談会, 2005. 9.
- 17) 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 小林克巳<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> (群馬大学医学部第二外科学): PMX-DHPは肺温阻血再灌流傷害を抑制する. 第41回日本移植学会総会, 2005. 10.
- 18) 大木 孝<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> (群馬大学医学部第二外科学): ラット肝温阻血再灌流障害におけるBradykinin B2 Receptor Antagonist (FR173657) の効果について. 第41回日本移植学会総会, 2005. 10.
- 19) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 胃癌培養細胞と胃癌組織における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGFR/FGFR2 IIIb) の発現と役割. 第47回消化器病学会大会 (第13回消化器関連学会週間), 2005. 10.
- 20) 近藤恭司<sup>1)</sup>, 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 柳本邦雄, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup> (第二病院消化器病センター): 食道原発小細胞癌の1例. 第799回外科集談会, 2005. 12.
- 21) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 佐藤精一<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 胃癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR) とKGFの発現および神経内分泌細胞のはたす役割. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.
- 22) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) とKGFの胃癌における発現と神経内分泌細胞のはたす役割. 第78回日本胃癌学会総会, 2006. 3.
- 23) 佐藤精一<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松本光司 (第二病院消化器病センター): 術前冠状断CTにて虫垂嵌頓が疑われた再発鼠径ヘルニアの1例. 第800回外科集談会, 2006. 3.
- 24) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 佐藤精一<sup>1)</sup>, 近藤恭司<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 胃癌におけるKeratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) とKGFの発現および神経

内分泌細胞のはたす役割．第106回日本外科学会定期学術集会，2006．3．

- 25) 松信哲朗<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，坊 英樹<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，松本光司，徳永 昭<sup>1)</sup>，田尻孝<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>病理学第2): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) と KGF の胃癌における発現と神経内分泌細胞の果たす役割．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．
- 26) 坊 英樹<sup>1)</sup>，近藤恭司<sup>1)</sup>，杠葉 良<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，小泉正樹<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，森 秀樹<sup>2)</sup>，松本光司(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>日下部病院): 残胃に発生し *H. pylori* 除菌により消失した B cell リンパ腫の1例．第78回日本胃癌学会総会，2006．3．

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

近年の医療費抑制政策の煽りを受け，診療報酬改定の度に検査実施料の引き下げが当然のように実施される厳しい状況の下，中央検査室を取り巻く環境も様々な変化をみせている．収益性や有用性の更なる要求に対しては各種検査法の再考，新規検査の導入の検討を通年の課題としている．また，診療支援ネットワークや電子カルテ等院内システムの構築を視野に入れた新規システムの導入を診療部門との連携のもとに進め，他施設にはないバーコード対応を主体とした輸血確認システム (PIS) を導入し，より安全性を高めている．生理機能検査においては，乳腺・甲状腺領域の超音波を日常業務に取り入れることにより，診療部門の要求に応えつつ業務拡大を図ることが可能となった．

臨床検査情報の付加価値提供は病院における検査業務の主たるものであるが，他院に先駆けて実施している病棟出向採血も検査室外業務拡大の意味での価値を位置付けていると思われる．

今後も日々の業務を通し，専門領域の知識・技能・行動特性の実践就業能力を高め，根拠に基づいた有効かつ有用な検査情報が提供できる検査室の資質担保を目指すことに努めたい．

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 坂倉剛志，鈴木憲康，野本恵子，新宅孝征，勝部康弘，望月 徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院救命救急部): ICU内のMRSA 定着環境調査．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 2) 井出尚子，臼井一城，成定昌昭，吉岡美香，中島由美子，菅原 通，新宅孝征，勝部康弘：DダイマーとFDPの測定値の乖離と試薬特性についての考察．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 3) 森本 進，津金香代子，浅井逸子，新宅孝征，勝部康弘：化学発光酵素免疫測定法を原理とするPIVKA - II 測定の基礎的検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 4) 井上雅則，井梅和美，花出 豊，新宅孝征，勝部康弘，島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 輸血業務の安全への取り組み．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 5) 山賀節子，西島美輝子，越谷美由紀，隠岐和美，荒木久美，荒井誠一，大塚紀子，高久貴子，新宅孝征，勝部康弘：健康者における就業前後のABIとCAVIの検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 6) 吉田美和，浅井逸子，因弘弘之，小伊藤保雄，新宅孝征，勝部康弘：緊急異常値速報システムの構築．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．



## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

平成17年度は政府・与党医療改革協議会が医療制度改革大綱をまとめた年であった。これは、日本の経済・財政構造改革の中において医療の方向性を考え、策定されたものである。平たく言えば、患者さんに対してどのような医療を提供すれば良いのか、医療の質や安全をどうするかといった内容である。また医療界がこのような時期において、薬学部にとって‘4年制大学最後の年’でもあった。次年度からの薬学部6年制に向けて文科省、厚生省、薬科大学、医療機関、保険基準薬局等が様々な角度からの協議を重ね、薬学教育、臨床実習に対して結論を出さねばならない年であった。勿論6年制が動き出してから色々な変更点が出るのは言うまでもない事ではあるが、このような状況から大学病院薬剤部・科に対する薬学生教育における期待感もかなり高まってきており、薬剤部・科内の各部署の業務もより充実したものに变化させなければならない状況になっている。医療の質と安全が問われ、病院業務の見直しと時期を同じくして、薬剤部・科内の業務の見直しを余儀なく実行せねばならない時期に来ている訳であり、薬剤部・科の業務を大いに変革する事が、今後病院内の医療の質を向上させ、全ての薬物に関する安全性をバックアップすることに繋がってくると確信している。以上の事を踏まえ当薬剤科では、外来処方箋が医師による手書きからコンピュータを使ったオーダーリングシステムに変更になった本年度は、新たなる院内の薬剤業務構築のための布石を行った年であり、研究内容もそれに合わせた内容で実施した。特に、2型糖尿病患者における末梢神経障害の評価に関する研究と救命救急センターや外来癌化学療法と疼痛緩和チームの中の薬剤業務構築に関して力を注いだ。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Itoh A<sup>1,4</sup> , Ibuki C<sup>2</sup> , Suzuki T<sup>2</sup> , Atarashi H<sup>2</sup> , Kishida H<sup>3</sup> , Hiroyasu O<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> Department of Pharmaceutical Services, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>2</sup> Department of Internal Medicine, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>3</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital , <sup>4</sup> Clinical Pharmacy Course, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Meiji Pharmaceutical University. ) : Fast Fourier transform ( FFT ) analysis of the effects of epalrestat, an aldose reductase inhibitor, on autonomic function in diabetic patients . The Autonomic Nervous System 2005 ; 42 ( 2 ) : 153-161 .

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 野口周作, 島田慰彦, 片岡博邦, 唐木千晶<sup>1</sup>, 牧 真彦<sup>1</sup>, 上笹 宙<sup>1</sup>, 上田康晴<sup>1</sup>, 望月 徹<sup>1</sup>, 畝本恭子<sup>1</sup>, 黒川 顯<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 第二病院救命救急部 ) : 血中エタノール濃度測定の有用性と実施上の問題点 . 第27回 日本中毒学会学術大会, 2005 . 7 .
- 2) 此松晶子, 野口周作, 小坂好男, 島田慰彦, 片岡博邦, 塩谷 猛<sup>1</sup>, 徳永 昭<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター ) : 当院における TS - 1 投与および副作用発現状況の調査 . 第15回日本医療薬学会年会, 2005 . 10 .
- 3) 伊東俊雅<sup>1</sup>, 佐川賢一<sup>3</sup>, 依田啓司<sup>4</sup>, 河野博充<sup>5</sup>, 安部 博<sup>6</sup>, 佐藤 透<sup>7</sup>, 小坂好男, 池田 勉<sup>8</sup>, 柳川忠二<sup>9</sup>, 柴田徹一<sup>10</sup>, 矢後和夫<sup>1・2</sup> ( <sup>1</sup> 北里大学病院薬剤部, <sup>2</sup> 北里大学薬学部, <sup>3</sup> 東京女子医科大学病院薬剤部, <sup>4</sup> 国際親善総合病院薬剤部, <sup>5</sup> 帝京大学附属溝口病院薬剤部, <sup>6</sup> 海老名メディカルプラザ管理課, <sup>7</sup> 医療法人財団石心会川崎幸病院薬剤科, <sup>8</sup> 済生会若草病院薬剤部, <sup>9</sup> 東邦大学薬学部, <sup>10</sup> 日本薬科大学薬学部 ) : いわゆる健康食品の使用状況調査をふまえた医薬品相互作用の1考察 : 神奈川薬物相互作用研究会 . 第15回日本医療薬学会年会, 2005 . 10 .

- 4) 今井洋志<sup>1)</sup>, 小松千絵<sup>2)</sup>, 田利多加子<sup>3)</sup>, 原田好子<sup>4)</sup>, 橋本宏美<sup>5)</sup>, 野口周作, 松本富夫<sup>6)</sup>, 高尾良洋<sup>7)</sup>, 小林静子<sup>8)</sup>, 河村俊一<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup> 慈恵医科大学青戸病院薬剤部, <sup>2)</sup> 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院薬剤部, <sup>3)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター薬剤部, <sup>4)</sup> 順天堂大学医学部附属順天堂医院薬剤部, <sup>5)</sup> 東海大学医学部附属八王子病院薬剤部, <sup>6)</sup> 独協医科大学越谷病院薬剤部, <sup>7)</sup> 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部, <sup>8)</sup> 共立薬科大学薬学部, <sup>9)</sup> 慶応大学病院薬剤部): 薬学生病院実務実習方略の実施調査結果にもとづく改善と標準化: 薬品管理・医薬品情報管理実務実習方略(関東私立医大病院薬剤部研究会). 日本薬学会 第126年会, 2006. 3.

## (2) 一般講演:

- 1) 吉澤一日<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 片岡博邦, 小泉はるか<sup>2)</sup>, 古山めぐみ<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>3)</sup>, 三浦剛史<sup>4)</sup>, 益田律子<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 同外科, <sup>4)</sup> 同泌尿器科, <sup>5)</sup> 同麻酔科): Pain Management Team 活動報告(第3報) 間歇PCAを用いた癌性疼痛対策. 第10回日本緩和医療学会総会, 2005. 6.
- 2) 稲本正之<sup>1)</sup>, 荒木綾子<sup>2)</sup>, 片岡博邦, 福田恵子<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup> 同治験推進室, <sup>3)</sup> 同集中治療室): 当院治験推進室の臨床(自主)研究への関与と取り組み. 第35回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(千葉), 2005. 8.
- 3) 上田康晴<sup>1)</sup>, 野口周作, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院救命救急部): テイコプラニン(TEIC)高用量投与の有用性とTEIC血中濃度について. 第33回日本集中治療医学会学術大会, 2006. 3.

## [ 第二病院看護部 ]

### 研究概要

1. 糖尿病足病変に関するフットケアの行い方
2. 当院産科病棟では母子同室を実施しているが, 同室患者への配慮から母児同室に対する不安を表出する褥婦は少なくない. 帝王切開術直後, 患者・妊婦・他診療科患者が同室となる状況がある中で, 互いの認識・配慮について把握し, 今後の援助の検討を目的に調査
3. 苦手意識と役割意識の低下がある手術室看護師は, 器械管理ミスを起こしやすい傾向にあることが, アンケート調査によってわかった. 技術や知識だけでなく, 手術室看護師の意識にも焦点を当て, 指導・教育していく必要がある
4. 災害時における防火対策として, 手術中に地震が起きたことを想定し, 医師(執刀医, 術者)の協力を得て, シミュレーションを行う対策を検討
5. 術式別専任制を導入し2年経過したので評価する. 専任制導入に伴い, 医師・専任看護師・スタッフ看護師の意識行動を調査・評価する
6. 三次救命救急におけるCPR現場での看護師の実際の行動について参加観察を行い, また, その時の感情について半構成的面接を実施した中から, 看護師のプロ意識とその中でうごめくマイナス方向に向かう感情について考察し, 両者の特徴と相違を明らかにした
7. ICUに長期滞在された特殊な例として, 患者の状態変化に伴い変動する家族の情緒的危機について明らかにし, 各時期に合わせた家族看護の実際と, 産科病棟と連携により, ICU看護だけでは補えなかった母子分離への対応, 父性獲得への働きかけに貢献できた状況について発表
8. 当院で出産した褥婦に3パターンの授乳方法を選択・実施してもらい, 退院時・退院1週間後の授乳状況を調査し, その結果を基に, 授乳開始時期と母親の母乳育児への満足度・母乳栄養の確立度との関係を調査, 研究した

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 堀あすか, 近藤和代：混合産科病棟大部屋における母子同室褥婦と他患者との間に見られる気違いの様相．第46回日本母性衛生学会総会, 2005．10．
- 2) 野沢大樹, 馬上春子, 横尾香代子：手術室教育2．第27回日本手術医学会総会, 2005．10．
- 3) 井上由佳里, 玉置悦子：安全対策・危機管理2．第27回日本手術医学会総会, 2005．10．
- 4) 秋元暁子, 横尾香代子：術式別専任看護師制導入を試みて．第19回日本手術看護学会, 2005．10．
- 5) 川上 薫, 斉藤広美：来院時心肺停止患者への心肺蘇生場面における救命救急看護師の行動と感情・第1報．第7回日本救急看護学会学術集会, 2005．10．
- 6) 川上 薫, 中宅間愛：妻が分娩後大量出血, 危機状態に陥り長期集中治療を強いられた際の夫への援助：産科病棟との共同看護が母子分離・父親役割獲得に功を奏した例．第36回日本看護学会, 2005．10．
- 7) 石井陽子, 森岡邦栄, 西尾麻衣子, 大沢いずみ, 吉賀尚子, 小河原美代子, 朝倉啓文<sup>(1)</sup>第二病院女性診療科・産科)：頻回授乳を実施した母親の母乳栄養に対する満足度：個別性を考慮して．第19回神奈川母性衛生学会, 2006．2．

#### (2) 交流集会：

- 1) 金子佳世, 竹山聡美, 金子貴美恵, 土方ふじ子, 高木あけみ, 杉宮伸子, 森田純子：今日からあなたもフットケア名人．第10回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2005．9．

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院消化器科 ]

#### 研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、それらの疾患に関する研究を行っている。診療ならびに研究活動を以下に述べる。

1) 日常診療では、地域中核病院でもある当院の性格を活かし、消化管出血や閉塞性黄疸など多くの救急患者を受け入れるとともに、上部および下部消化管の内視鏡検査など検査診断技術の向上に努めている。また、各種消化器疾患について内視鏡を用いた治療と臨床研究を行っている。

2) アルコール性肝障害や非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の臨床病理学的検討, C型慢性肝炎に対するインターフェロン, リバビリン, シクロスポリン等による治療効果, 肝細胞癌に対する治療について検討し症例を蓄積中である。

3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法 (5-ASA 注腸療法など) を中心とした臨床研究を続けている。また、潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法やステロイド動注療法の症例を蓄積している。

4) *Helicobacter pylori* 感染と胃病変・胃外病変との関連性, *Helicobacter pylori* の二次除菌, GERD (Gastroesophageal Reflux Disease), FD (Functional Dyspepsia), IBS (Irritable Bowel Syndrome) などについての臨床研究を継続している。

5) 中国, ベトナム, タイ, ネパール, ミャンマーにおける *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患・背景胃粘膜の相違を現地で調査している。

6) 逆流性食道炎, 胃潰瘍の発生機序に関して、病態生理の基礎および臨床研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Katsuta M, Miyashita M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>2)</sup> Integrative Pathology ): Correlation of hypoxia inducible factor-1 alpha with lymphatic metastasis via vascular endothelial growth factor-C in human esophageal cancer. *Exp Mol Pathol* 2005; 78 (2): 123-130.
- 2) Iwakiri K<sup>1)</sup>, Hayashi Y, Kotoyori M<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kawakami A<sup>1)</sup>, Holloway RH<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs ) are the major mechanism of gastroesophageal reflux but are not the cause of reflux disease. *Dig Dis Sci* 2005; 50 (6): 1072-1077.
- 3) Miyake K<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Nakajima A<sup>2)</sup>, Yoshino S<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Rheumatology ): Preventive therapy for non-steroidal anti-inflammatory drug-induced ulcers in Japanese patients with rheumatoid arthritis: the current situation and a prospective controlled study of the preventive effects of lansoprazole or famotidine. *Aliment Pharmacol Ther* 2005; 21 (supple 2): 67-72.
- 4) Miyake K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Iizumi T<sup>1)</sup>, Hiratsuka Y<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medi-

- cine): Implications of corpus gastritis, atrophy and cyclooxygenase in the development of gastric erosions after curing *Helicobacter pylori* infection. *Dig Liver Dis* 2005; 37(6): 394-401.
- 5) Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) Third Department of Internal Medicine): Cox-1 and Cox-2 conversely progress and suppress ischemia-reperfusion gastric injury in mice. *Scand. J Gastroenterol* 2005; 40(8): 903-913.
- 6) Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) Third Department of Internal Medicine): Rebamipide reduces indomethacin-induced gastric injury in mice via down-regulation of ICAM-1 expression. *Dig Dis Sci* 2005; 50(supple 1): S84-S89.
- 7) Iso N<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>) Iso medical clinic, <sup>2)</sup> Second Department of Surgery): *Helicobacter pylori* infection among patients visiting a clinic in Kasama City, Ibaraki Prefecture. *Journal of Nippon Medical School* 2005; 72(6): 341-354.
- 8) Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Seo T<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Tsukui T, Kishida T<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) Third Department of Internal Medicine): Monocyte chemoattractant protein-1 and macrophage cyclooxygenase-2 expression in colonic adenoma. *Gut* 2006; 55(1): 54-61.
- 9) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Ohashi K<sup>2)</sup>, Shimizu M<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Kato S<sup>4)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>) Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Clinical Pharmacology, <sup>3)</sup> Department of Microbiology, <sup>4)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation): T cells increase with gastric mucosal interleukin (IL)-7, IL-1, and *Helicobacter pylori* urease specific immunoglobulin levels via CCR2 upregulation in *Helicobacter pylori* gastritis. *Gastroenterol Hepatol* 2006; 21(1): 32-40.
- 10) 松久威史: タイ・ネパール国への内視鏡技術移転およびその精度管理手法開発に関する研究 胃炎の違いに関する検討を含む。平成16年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告集 2005; 261-262.
- 11) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 上村直実<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2, <sup>2)</sup>国立国際医療センター内視鏡部): ネパール人における *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の観察: 日本人との比較. *消化器内視鏡の進歩* 2005; 67(2): 30-34.
- 12) 松久威史: 高齢者の *Helicobacter pylori*除菌治療における薬剤耐性について. *日本高齢消化器医学会誌* 2005; 7(2): 48-53.
- 13) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2): *Helicobacter pylori*感染診断におけるデタミナーH. ピロリ抗体Jの有用性について. *医学と薬学* 2006; 53(3): 429-435.
- (2) 綜説:
- 1) 楠 正典<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 篠木 啓<sup>1)</sup>, 西垣均<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第3): 長期NSAIDsの服用中関節リウマチ患者にみられた平坦・陥凹型胃癌と鑑別を要する消化性潰瘍. *治療学* 2005; 39(5): 96-98.
- 2) 松久威史, 津久井拓: 慢性胃炎とFDの消化管運動機能検査. *消化器の臨床* 2005; 8(5): 555-559.
- (3) 症例報告:
- 1) 松田 健, 津久井拓, 松久威史, 木村 祐, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例. *日腹救急医誌* 2006; 25(3): 535-538.

## 著 書

- 1) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 西垣 均<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田

謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): [分担] 関節リウマチ患者における長期NSAID投与による消化性潰瘍の治療: 潰瘍予防効果の実態調査と潰瘍治癒効果に対するPPIとPG製剤の前向き比較試験. 消化器病学の進歩2005, 2005; pp77-80, メジカルビュー社.

2) 松久威史, 四田千穂美<sup>1)</sup>, 浅井信治<sup>1)</sup>, 菊地英子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): [分担] 頻回の水様下痢の際は原虫感染も念頭に. 下痢・便秘診療のコツと落とし穴(平塚秀雄), 2005; pp78-79, 中山書店.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

1) Matsuhisa T: Review of *Helicobacter pylori* infection and comparison of gastric mucosa between Japanese and other Asian populations. 第七回陝西省消化内鏡學會(中国, 西安), 2005. 5.

2) 松久威史: 日常臨床における *Helicobacter pylori* Update: 便中抗原の有用性を含めて. 医療情報セミナー Medical Talk, 2005. 6.

### (2) シンポジウム:

1) Futagami S<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Third Department of Internal Medicine): APE expression in *H. pylori* infected gastritis mucosa-Comparison with long *H. pylori* infected mongolian gerbil models. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.

2) 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 飯泉匡<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): FD (Functional dyspepsia) 患者に対する<sup>13</sup>C-acetateを用いた胃排出能の検討. 第37回胃病態機能研究会, 2005. 7.

3) 松久威史<sup>1)</sup>, 河合 隆<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,3)</sup>, 正岡建洋<sup>1,3)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,4)</sup>, 川村 洋<sup>1,5)</sup>, 徳永健吾<sup>1,6)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,7)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,8)</sup>, 高橋信一<sup>1,6)</sup>, 榊 信廣<sup>1,9)</sup>(<sup>1)</sup>東京Hp研究会, <sup>2)</sup>東京医科大学内視鏡センター, <sup>3)</sup>慶應義塾大学消化器内科, <sup>4)</sup>四谷メディカルキューブ, <sup>5)</sup>ハイメディッククリニックダイヤ, <sup>6)</sup>杏林大学第三内科, <sup>7)</sup>国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>8)</sup>東海大学消化器内科, <sup>9)</sup>都立墨東病院内科): 東京都内多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 二次除菌成績. 潰瘍病態研究会第14回フォーラム, 2005. 8.

4) 松久威史, 松田 健, 木村 祐, 水谷 崇, 津久井拓: 吐血により発症した高齢者消化性潰瘍の臨床的検討(消化管出血). 第8回日本高齢消化管学会, 2006. 1.

5) 松久威史: アジア諸国と日本における胃粘膜の相違 (胃粘膜の世界地図 *H. pylori*感染との関連は?). GI Forum 2006, 2006. 2.

### (3) パネルディスカッション:

1) 松久威史: 「ロールプレイ方式を用いた *H. pylori* 診療の実際」(東京 *Helicobacter* クリニック こんな患者さんにどう対応しますか?). 東京 *Helicobacter* カンファレンス, 2006. 3.

### (4) ワークショップ:

1) 松久威史<sup>1)</sup>, 河合 隆<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,3)</sup>, 正岡建洋<sup>1,3)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,4)</sup>, 川村 洋<sup>1,5)</sup>, 徳永健吾<sup>1,6)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,7)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,8)</sup>, 高橋信一<sup>1,6)</sup>, 榊 信廣<sup>1,9)</sup>(<sup>1)</sup>東京Hp研究会, <sup>2)</sup>東京医科大学内視鏡センター, <sup>3)</sup>慶應義塾大学消化器内科, <sup>4)</sup>四谷メディカルキューブ, <sup>5)</sup>ハイメディッククリニックダイヤ, <sup>6)</sup>杏林大学第三内科, <sup>7)</sup>国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>8)</sup>東海大学消化器内科, <sup>9)</sup>都立墨東病院内科): *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討: 東京都内多施設共同調査結果(薬剤耐性菌と除菌治療の現状). 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.

2) 松久威史, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌治療に伴う脂質, レプチンの変化 (新たな視点からみた *Helicobacter pylori* 除菌後の問題点と解決への糸口). 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.

- 3) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 6 .
- 4) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴 . 第58回日本食道学会学術集会, 2005 . 6 .
- 5) 二神生爾<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 和田謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): FD ( Functional dyspepsia ) 患者に対する<sup>13</sup>C - acetateを用いた胃排出能の検討 . 第42回日本臨床生理学会総会, 2005 . 10 .
- (5) 一般講演 :
- 1) Gudis K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> First Department of Pathology): Microsomal prostaglandin E synthase-1 ( mPGES ) -1, MPGES-2 and Cytosolic PGES expression in human gastritis and gastric ulcer tissue . The 11th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology ( Shimoda, Japan ), 2005 . 4 .
- 2) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine ): Cox-2 expression induced by CD 40 engagement in mesenchymal cells associated with gastric cancer is involved in angiogenesis via VEGF and CCR2 upregulation and the anti-apoptotic effect . Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago , IL ), 2005 . 5 .
- 3) Futagami S<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Ohashi K<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Clinical Pathology, <sup>3)</sup> Department of Microbiology): T cells accumulate with gastric mucosal IL-7, IL-1 beta, and *H. pylori* urease specific immunoglobulin levels via upregulating CCR2 in *H. pylori* gastritis . Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago , IL ), 2005 . 5 .
- 4) Wada K<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine ): TGF- is induced by *Helicobacter pylori* and IL-1 in gastric epithelial cells . Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago , IL ), 2005 . 5 .
- 5) Nagata K<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Gudis K<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine ): Heregulin release from gastric fibroblasts via a COX-2-PGE2 pathway is linked to the gastric ulcer repair process . Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago , IL ), 2005 . 5 .
- 6) Tsukui T, Shinji Y<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Hamamoto T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine ): Induced microsomal prostaglandin E synthase-1 ( mPGES-1 ) is involved in vascular endothelial growth factor ( VEGF ) release in gastric fibroblasts . Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago , IL ), 2005 . 5 .
- 7) Iwakiri K<sup>1)</sup>, Hayashi Y, Kotoyori M<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kawakami A<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>, Holloway RH<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Defective triggering of secondary

- peristalsis in patients with non-erosive reflux disease (NERD). Digestive Disease Week and 106th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Chicago, IL), 2005 . 5 .
- 8) Iwakiri K<sup>1)</sup>, Hayashi Y, Kotoyori M<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kawakami A<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>, Holloway RH<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Difference in air reflux patterns during transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs ) between patients with reflux disease and healthy subjects . 106th annual meeting of the American Gastroenterological Association ( Chicago IL ), 2005 . 5 .
- 9) Matsuhisa T , Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Uemura N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 , <sup>2)</sup> 病理学第2 , <sup>3)</sup> 国立国際医療センター内視鏡部 ): Study of the prevalence of *Helicobacter pylori* in accordance with biopsy sites in Asian populations . European *Helicobacter* Study Group XVIII ( Copenhagen , Denmark ), 2005 . 10 .
- 10) Iwakiri K<sup>1)</sup>, Hayashi Y, Kotoyori M<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kawakami A<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>, Holloway RH<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Royal Adelaide Hospital ): Pattern of acid reflux during transient lower esophageal sphincter relaxations ( TLESRs ) differ among patients with mild and severe reflux esophagitis and healthy subjects . . 10th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus ( Adelaide, Australia ), 2006 . 1 .
- 11) Hiratsuka T<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Shinji Y<sup>1)</sup>, Kusunoki M<sup>1)</sup>, Shinoki K<sup>1)</sup>, Nishigaki H<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tsukui T, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine ): Cox-1 and Cox-2 conversely promote and suppress ischemia-reperfusion gastric injury in mice . . The 4th Japan GRG/AGA symposium ( Hamamatsu, Japan ), 2006 . 1 .
- 12) Matsuhisa T , Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 , <sup>2)</sup> 病理学第2 ): Comparison of the prevalence of *Helicobacter pylori* infection among biopsy sites between Thai and Japanese . The 5th Korea-Japan-China Joint Conference on Helicobacter Infection ( Sanya , China ), 2006 . 2 .
- 13) 松久威史, 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): *Helicobacter pylori*除菌判定における便中 *H. pylori*抗原測定の有有用性 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 14) 伊藤慎芳<sup>1,2)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,3)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,4)</sup>, 西澤俊宏<sup>1,4)</sup>, 榊 伸廣<sup>1,5)</sup>, 永原章仁<sup>1,6)</sup>, 大草敏史<sup>1,7)</sup>, 徳永健吾<sup>1,8)</sup>, 高橋信一<sup>1,8)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,9)</sup>, 河合 隆<sup>1,10)</sup>, 鳥居 明<sup>1,11)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京Hp研究会, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ, <sup>3)</sup> 国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>4)</sup> 慶應義塾大学消化器内科, <sup>5)</sup> 都立墨東病院内科, <sup>6)</sup> 順天堂大学越谷病院内科, <sup>7)</sup> 順天堂大学消化器内科, <sup>8)</sup> 杏林大学第三内科, <sup>9)</sup> 東海大学消化器内科, <sup>10)</sup> 東京医科大学内視鏡センター, <sup>11)</sup> 東京慈恵会医科大学消化器肝臓内科 ): 高齢者の *Helicobacter pylori*除菌治療の有有用性と問題点 : 首都圏多施設における共同調査結果から . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 15) 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 篠木 啓<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ): 当科で経験したFD ( Functional dyspepsia ) 患者に対する<sup>13</sup>C - acetateを用いた胃排出能の検討 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 16) 津久井拓, 進士陽子<sup>1)</sup>, 篠木 啓<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 飯泉 匡<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 西垣 均<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ): ヒト培養胃線維芽細胞のVEGF発現とプロスタグランジンE合成酵素 ( PGES ). 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 17) 林 良紀, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ): HP感染の胃食道逆流に及ぼす影響 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 18) 木村 祐, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 張本洗智<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ): 進行肝細胞癌に対するIFN併用low dose FP肝動注療法とlow dose FP肝動注療法の比較検討 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .



- 19) 滝 保彦<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 木村祐, 厚川正則<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 張本洸智<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 慢性肝疾患における全身肝血行動態に関する検討. 第91回日本消化器病学会総会, 2005. 4.
- 20) 林 良紀, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第三): 食道運動機能からみたnon-erosive reflux disease (NERD) の病態. 第7回日本国際消化管運動機能研究会, 2005. 5.
- 21) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 一過性LES弛緩は胃食道逆流 (GER) の主な原因であるが, 逆流性食道炎 (RE) の原因ではない. 第7回日本国際消化管運動機能研究会, 2005. 5.
- 22) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 上村直実<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>国立国際医療センター内視鏡部): ネパール人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の観察. 第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 6.
- 23) 松久威史: *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討 - 第4報 -. 第31回東京 *Helicobacter pylori* 研究会, 2005. 6.
- 24) 松久威史: *Helicobacter pylori* 陽性高齢者における薬剤耐性. 第47回日本老年医学会学術集会, 2005. 6.
- 25) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 上村直実<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>国立国際医療センター内視鏡部): ネパール人における *Helicobacter pylori* 感染, 萎縮, 腸上皮化生の観察. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 26) 松久威史: 便中 *Helicobacter pylori* 抗原測定法を用いた除菌判定の検討. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 27) 松久威史, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌治療に伴う脂質, レプチンの変化. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 28) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 透析患者における *Helicobacter pylori* 感染, 萎縮, 腸上皮化生の観察. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 29) 河合 隆<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,3)</sup>, 正岡建洋<sup>1,3)</sup>, 永原章仁<sup>1,4)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,5)</sup>, 川村 洋<sup>1,6)</sup>, 徳永健吾<sup>1,7)</sup>, 高橋信一<sup>1,7)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,8)</sup>, 加藤俊二<sup>1,9)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,10)</sup>, 上村直美<sup>1,11)</sup>, 榎 信廣<sup>1,12)</sup>(<sup>1)</sup>東京 *Hp* 研究会, <sup>2)</sup>東京医科大学病院内視鏡センター, <sup>3)</sup>慶応大学医学部消化器内科, <sup>4)</sup>順天堂大学越谷病院内科, <sup>5)</sup>四谷メディカルキューブ, <sup>6)</sup>日本大学第三内科, <sup>7)</sup>杏林大学第三内科, <sup>8)</sup>国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>9)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>10)</sup>東海大学消化器内科, <sup>11)</sup>国立国際 医療センター内視鏡部, <sup>12)</sup>東京都立墨東病院内科): 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 30) 松久威史<sup>1)</sup>, 河合 隆<sup>2)</sup>, 鈴木秀和<sup>3)</sup>, 正岡建洋<sup>3)</sup>, 伊藤慎芳<sup>4)</sup>, 川村 洋<sup>5)</sup>, 徳永健吾<sup>6)</sup>, 鈴木雅之<sup>7)</sup>, 峯 徹哉<sup>8)</sup>, 高橋信一<sup>6)</sup>, 榎 信廣<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>東京 *Hp* 研究会, <sup>2)</sup>東京医科大学内視鏡センター, <sup>3)</sup>慶應義塾大学消化器内科, <sup>4)</sup>四谷メディカルキューブ, <sup>5)</sup>ハイメディッククリニックダイヤ, <sup>6)</sup>杏林大学第三内科, <sup>7)</sup>国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>8)</sup>東海大学消化器内科, <sup>9)</sup>都立墨東病院内科): *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討 - 東京都内多施設共同調査結果 -. 第11回日本ヘリコバクター学会, 2005. 6.
- 31) 林 良紀, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): NERD 患者では空気注入による2次蠕動波出現率が健常者に比べ有意に低下している. 第59回日本食道学会, 2005. 6.
- 32) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌における HIF-1, VEGF-C の発現. 第60回日本消化器外科学会, 2005. 7.
- 33) 福田 健<sup>1)</sup>, 林 良紀, 榎原義之<sup>1)</sup>, 張本洸智<sup>1)</sup>, 水口淳子<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 木村 祐, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 特異な肝内血流異常を呈した特発性門脈圧亢進症の1例. 第285回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 7.
- 34) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科): 食道扁平上皮癌における E-cadherin 発現の臨床的意義. 第64回日本癌学会総会, 2005. 9.

- 35) 松田 健, 津久井拓, 松久威史, 沖浜裕司, 木村 祐, 富樫晃祥, 勝田美和子, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院 外科): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の3例. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 36) 田中由理子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 林 良紀, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): Nutcracker esophagus の1例. 第286回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 9.
- 37) 金沢秀典<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 木村 祐, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): TIPSの効果に乏しい難治性腹水例に関する検討. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 38) 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 木村 祐, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): 肝硬変における terlipresin の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼす影響. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 39) 滝 保彦<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 張本洗智<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 水口淳子<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 木村 祐, 榎原義之<sup>1)</sup>, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): II型肝腎症候群を伴う難治性腹水患者に対する TIPS. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 40) 飯泉 匡<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 木村 祐, 榎原義之<sup>1)</sup>, 間宮康貴<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): TIPSの長期予後に関する検討. 第12回門脈圧亢進症学会, 2005. 9.
- 41) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 上村直実<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>国立国際医療センター内視鏡部): ネパール人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の炎症, 活動性, 胃炎像. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 42) 松久威史, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌例における脂質の経時的観察. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 43) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): 透析患者における *Helicobacter pylori* 感染, 萎縮, 腸上皮化生の観察. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 10.
- 44) 松久威史, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌例における萎縮, 腸上皮化生の経時的観察. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 10.
- 45) 勝田美和子, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2</sup>病理学第2): 食道扁平上皮癌における D2-40 発現の意義. 第47回消化器病学会大会, 2005. 10.
- 46) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 津久井拓, 松田 健, 松久威史, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3</sup>外科学第1): GIST-EGIST 症例における切除不能・術後再発例の検討. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 47) 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 飯泉匡<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): 当科における Functional dyspepsia 患者の病態に関する検討. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 48) 二神生爾<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, Gudis K<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): *H. pylori* 感染胃粘膜における V<sub>1</sub> と V<sub>2</sub>T cell の局在と胃粘膜防御におよぼす役割. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 49) 楠 正典<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 中島敦夫<sup>2)</sup>, 吉野真一<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3, <sup>2</sup>リウマチ科): 長期 NSAIDs 使用関節リウマチ患者における胃潰瘍発症部位に関わる内視鏡的・臨床病理学的特徴. 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005. 10.
- 50) 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 飯泉匡<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第3): マウスにおける indomethacin 起因性胃粘膜傷害に対する rebamipide の粘膜防御メカニズムの検討. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.

- 51) 進藤智隆<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 和田謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 胃前癌病変における APE (apurinic/apurimic endonuclease) 発現の検討: *H. pylori* 発癌モデルを用いて. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 52) 松久威史, 津久井拓: *Helicobacter pylori* 除菌治療に伴う脂質の経時的変化. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 53) 磯 長光<sup>1)</sup>, 松久威史(<sup>1)</sup>磯医院): 茨城県笠間市における診療所受診者の *Helicobacter pylori* 感染について. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 54) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松田 健, 松久威史, 津久井拓, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): GANT (Gastro-intestinal autonomic nerve tumor) の臨床病理学的検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005. 11.
- 55) 川見典之<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 飯泉匡<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 早期胃癌にESD施行中粘膜下腫瘍を発見し同時に切除した1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 56) 川見典之<sup>1)</sup>, 片倉玲樹<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 林 良紀, 飯泉 匡<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 抗ARS抗体症候群に合併した胃癌, 食道癌切除後に間質性肺炎が自然軽快した1例. 第287回日本消化器病学会関東支部例会, 2005. 12.
- 57) 磯 長光<sup>1)</sup>, 松久威史(<sup>1)</sup>磯医院): 茨城県笠間市における診療所受診者の *Helicobacter pylori* 感染について. 第2回日本消化管学会, 2006. 2.
- 58) 植木信江<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): メトロニダゾールとアモキシシリンを用いた *H. pylori* 2次除菌におけるクラリスロマイシンの付加的効果に関する検討. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 59) 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 和田謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 飯泉 匡<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): FD (functional dysplasia) 患者に対する<sup>13</sup>C - acetateを用いた胃排出能の検討. 第2回日本消化管学会, 2006. 2.
- 60) 楠 正典<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 西垣均<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 和田 謙<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 中島敦夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>リウマチ科): 発生部位に基づいた長期NSAIDs服用関連胃潰瘍の臨床的・内視鏡的特徴. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 61) 二神生爾<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 和田謙<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 選択的COX-2阻害剤による胃癌発生抑制の検討. 第2回日本消化管学会総会, 2006. 2.
- 62) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 松久威史, 松田 健, 津久井拓, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): GIST-EGIST症例におけるMAGE-A family 蛋白発現とその臨床的意義. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.

## [ 多摩永山病院病理部 ]

### 研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである.

- (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立
- (2) 免疫細胞・組織化学（サイトケラチン7/20, 34 E12, 35 H11, MIB-1, Napsin A, Villin）を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立
- (3) 乳腺腫瘍
  - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立；細胞転写法を用いて増殖能（MIB-1）、増殖因子受容体（HER2タンパク質）、ホルモンレセプターを免疫細胞学的に検討する
  - 2) 乳癌における、ホルモンレセプターと細胞骨格、接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究；HER2タンパク質と基底膜分解酵素について
- (4) 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立（特異抗体；カルレチニン, CK5/6, メゾテリン, D2-40, WT1など）
- (5) 骨軟部腫瘍
  - 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）
- (6) 子宮癌
  - 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：特にセルブロック法
- (7) リンパ節病変
  - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ
  - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索
  - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Shimizu H<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Okada S<sup>3)</sup>, Maeda S, Naito Z<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, NMS Chibahokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, NMS Chibahokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiology, NMS Chibahokuso Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, NMS ): Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue . Brain Tumor Pathol 2005 ; 22 : 59-74 .
- 2) 椋 清美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 剖検時における迅速細胞診断の有用性 . 日本臨床検査医学会 2005 ; 53 ( 4 ): 284-289 .
- 3) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 穿刺吸引材料の塗沫法とそれらが細胞診に与える影響 . 病理と臨床 2005 ; 23 ( 6 ): 611-614 .

#### (2) 綜説：

- 1) 前田昭太郎, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 臨床に呼応した迅速細胞診 . 日医大医会誌 2005 ; 1 ( 3 ): 102-109 .

#### (3) 症例報告：

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Iketani M<sup>2)</sup>, Hirukawa M<sup>3)</sup>, Yokoyama M<sup>4)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, NMS, <sup>2)</sup> the Iketani Orthopaedic Clinic, Saitama, <sup>3)</sup> the Hirukawa Orthopaedic Clinic, Saitama, <sup>4)</sup> the Second Department of Pathology, NMS ): Epithelioid Hemangioendothelioma of the Phalanx : A Case Report . J Hand Surg 2005 ; 30A ( 3 ): 615-619 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 中皮腫 up-date . 第44回日本臨床細胞学会秋期大会 : 細胞専門医・指導医会 , 2005 . 11 .

### (2) 招待講演 :

- 1) Maeda S : How to make a correct diagnosis on breast tumours by FNAC . The 3rd Asian Breast Diseases Association ( Malaysia ) , 2005 . 5 .
- 2) Maeda S : Interesting Cases in Breast Cytology . The second National Breast Cancer Training Program Meeting ( Malaysia ) , 2005 . 5 .
- 3) Maeda S : How to make a correct diagnosis on breast tumor . The second National Breast Cancer Training Program Meeting ( Thailand ) , 2005 . 6 .
- 4) Maeda S : Interesting cases FNAC Part 1 . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology ( Chonburi, Thailand ) , 2006 . 3 .
- 5) Maeda S : Interesting cases FNAC Part 2 . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology ( Chonburi, Thailand ) , 2006 . 3 .
- 6) Katayama H , Maeda S : Management of FNAC Specimens . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology ( Chonburi, Thailand ) , 2006 . 3 .

### (3) 教育講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診 . 平成17年度細胞検査士養成公開講座 , 2005 . 6 .
- 2) 片山博徳 , 前田昭太郎 : 乳腺の細胞診 . 平成17年度細胞検査士養成公開講座 , 2005 . 6 .
- 3) 細根 勝 : リンパ節の細胞診 : 穿刺吸引細胞診を中心に . 平成17年度第3回細胞診従事者講習会 ( 東京都成人病検診従事者講習会 ) , 2006 . 3 .

### (4) セミナー :

- 1) 前田昭太郎 : 骨・軟部・中枢神経 . 第31回細胞診断学セミナー , 2005 . 8 .
- 2) 細根 勝 : 胸腺・リンパ節・骨髄 . 第31回細胞診断学セミナー , 2005 . 8 .

### (5) ワークショップ :

- 1) Hosone M , Sugisaki Y , Maeda S , Naito Zenya : Interesting NK-cell malignancies including leukemia and lymphoma : CD7<sup>+</sup> and CD56<sup>+</sup> myeloid/natural killer cell precursor acute leukemia . Society for Hematopathology/European Society for Hematopathology 2005 Workshop Progress in T-cell Malignancies : Classification and Molecular Pathogenesis ( Houston, Texas, USA ) , 2005 . 10 .
- 2) Maeda S , Hosone M , Sugisaki Y , Tamura K , Matsumoto K , Yanagimoto K , Ohaki Y , Arai S , Fukuda Y , Naito Z : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : A study of 10 cases of mesothelioma in Nippon Medical School . The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ) , 2006 . 1 .
- 3) Katayama H , Maeda S : Multiheader Microscope Session . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology ( Chonburi, Thailand ) , 2006 . 3 .
- 4) Maeda S : Multiheader Microscope Session . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology ( Chonburi, Thailand ) , 2006 . 3 .
- 5) 松久威史<sup>1)</sup> , 前田昭太郎 , 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科 , <sup>2)</sup> 病理学第2 ) : *Helicobacter pylori* 除菌治療に伴う脂質 , レプチンの変化 . 第11回ヘリコバクタ - 学会 , 2005 . 6 .
- 6) 前田昭太郎 : 中皮腫 . 第24回日本臨床細胞学会東京都支部 総会・学術集会 , 2005 . 7 .

### (6) 一般講演 :

- 1) Liu A<sup>1)</sup> , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Azuma K , Suzuki S<sup>2)</sup> , Egami K<sup>2)</sup> , Ohaki Y<sup>3)</sup> , Oguro T<sup>3)</sup> ,

- Naito Z<sup>4)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for EM Researches, NMS, <sup>2)</sup>Department of Surgery, NMS Nagayama Hospital, <sup>3)</sup>Department of Pathology, NMS Chibahokuso Hospital, <sup>4)</sup>Department of Pathology, NMS): Gastrointestinal Stromal Tumors (GISTs): An Immunohistochemical and Ultrastructural Study. The 4th Asia-Pacific IAP Congress (Beijing China), 2005. 8.
- 2) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Hando K, Isobe H, Yanagida Y, Iwase H, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, NMS): Case of invasive micropapillary carcinoma diagnosed by fine-needle aspiration cytology. The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2006. 1.
- 3) Hando K, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Azuma K, Isobe H, Yanagida Y, Kawano K, Iwase H, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, NMS): Usefulness of rapid cytological diagnosis at autopsy. The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2006. 1.
- 4) Liu A<sup>1)</sup>, Hosone M, Maeda S, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for EM Researches, NMS, <sup>2)</sup>Department of Pathology, NMS): Gastrointestinal Stromal Tumors (GISTs): An Immunohistochemical and Ultrastructural Study on 17 cases. 95th Annual Meeting, United States and Canadian Academy of Pathology. (Atlanta, GA, USA), 2006. 2.
- 5) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 秋山裕美, 東 敬子, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>病理学第2): 臀部に発生した巨大悪性顆粒細胞腫の1例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 6) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 胸腔内・大動脈下リンパ節発生の辺縁帯B細胞性リンパ腫と考えられる1例. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 7) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 東 敬子, 松本光司<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>病理学第1, <sup>4)</sup>病理学第2): 肺大細胞性神経内分泌癌における免疫組織学的特徴: 肺小細胞癌, 大細胞癌, 低分化腺癌との比較検討. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 8) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): GIST (消化管間質腫瘍)における免疫染色及び電顕的検索. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 9) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 対照的な臨床経過を示した体腔液原発悪性リンパ腫の2例. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 5.
- 10) 前田昭太郎, 細根 勝, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 臀部に発生した巨大肉腫の1例. 日本病理学会関東支部平成17年度総会および第27回学術集会, 2005. 6.
- 11) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根勝, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 非アルコール性脂肪性肝炎を背景として発症した肝細胞癌の1例. 第17回日本肝胆膵外科学会, 2005. 6.
- 12) 岩瀬裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 川野記代子, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 体腔液細胞診陽性例における原発巣推定のための免疫組織化学的アプローチ. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 13) 川野記代子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 岩瀬裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): L. A. B. Solution (Liberte Antibody Binding Solution)を用いた抗原賦活化の検討. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 14) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 椋清美, 原 博, 中井章人<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>病理学第2): 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.

- 15) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 大秋美治<sup>2)</sup>, 小黑辰夫<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 消化管及び消化管外原発GISTにおける電顕の検索. 第37回日本臨床分子形態学会総会, 2005. 11.
- 16) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腋窩リンパ節転移から診断された潜在性乳癌の1例. 第67回臨床外科学会, 2005. 11.
- 17) 岩瀬裕美, 細根 勝, 前田昭太郎, 柳田裕美, 磯部宏昭, 片山博徳, 椋 清美, 日吾美栄子, 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 穿刺吸引細胞診で診断し得たinvasive micropapillary carcinomaの1例. 第44回日本臨床細胞学会秋期大会, 2005. 11.
- 18) 平田知己<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 片山博徳, 前田昭太郎, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup>付属病院外科学第2・呼吸器外科): 肺腫瘍に対する術中迅速細胞診の有用性. 第144回日本肺癌学会関東部会, 2005. 12.

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

1) 吉田輝彦: 新規採用臨床工学士の居場所. 生体医工学 2005; 43(4): 491-492.

##### (2) 研究報告書:

1) 羽場和美<sup>1)</sup>, 岩瀬絵利子<sup>1)</sup>, 山本裕行<sup>1)</sup>, 緋田雅美<sup>1)</sup>, 久保田稔, 加地正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 院内におけるBLS・AEDの浸透. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2005; 26(43): pp174-175.

#### 著書

1) 久保田稔: [分担]重症脳障害における誘発電位. 臨床神経生理技術講習会・東京テキスト, 2005; pp131-151, キタ・メディア.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 久保田稔(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 血中濃度の異常高値を示したメラトニン中毒の1例. 第8回日本臨床救急医学会総会, 2005. 4.
- 2) 久保田稔, 直江康孝<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 救命救急領域における電気生理学検査の有用性. 第8回日本臨床救急医学会総会, 2005. 4.
- 3) 井上 淳, 佐々木友里, 高須佳奈子, 下村由紀, 佐藤知枝, 池野廣幸, 草間芳樹: CMV低抗体価検体におけるアボットCMV-G・ダイナパックの有用性. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 4) 井口輝彦, 相澤 正, 恩田怜子, 池野廣幸, 草間芳樹: 当院における輸血前後の感染症検査実施状況について.

第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

- 5) 水谷行伸，酒井貴史，手嶋浩恵，林 綾子，佐藤寛之，池野廣幸，草間芳樹：高血圧患者における左室拡張障害の検討．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．
- 6) 酒井貴史，水谷行伸，手嶋浩恵，林 綾子，佐藤寛之，池野廣幸，草間芳樹，木村 祐<sup>1)</sup>，松田 健<sup>1)</sup>，沖濱裕司<sup>1)</sup>，松久威史<sup>1)</sup>，津久井拓<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>同外科)：パルスドブラ法を用いた門脈および脾静脈血流測定の有用性について．第73回日本医科大学医学会総会，2005．9．

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

現在，薬剤師は薬物の適正使用に関してチーム医療への参加が求められており，またがん領域，感染領域など認定薬剤師制度が近々発足しようとしている．このように薬剤師を取り巻く環境が大きく変化する中，薬剤師が薬物治療に対し患者の安全性，QOLの向上にどのように貢献できるか問題となっている．そこで薬剤科としては，当院内科，薬科大学と共同で薬物適正使用，QOLに対する影響等の研究を行い，また，がん化学療法に対し薬剤師の安全性への関わりについて研究，発表した．さらに近隣調剤薬局と連携し外来患者のQOLの向上を目的に協議，研究しその成果を発表した．

今後，薬剤師のチーム医療への参加，患者への安全性の確保およびQOLの向上を目指しさらなる努力したいと考えている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 下平秀夫，茂木 徹，戸塚淳逸，阿部宏子，村田和也：多摩薬業連携協議会の活動状況：ホームページの開設と第1回～第4回フォーラム開催を中心に．都薬雑誌 2005；27(5)：25-31．
- 2) 阿部宏子，下平秀夫，茂木 徹，戸塚淳逸，村田和也：多摩薬業連携協議会の活動状況：第5回多摩薬業連携協議会フォーラム「お薬手帳の現状と課題」より．都薬雑誌 2005；27(12)：42-47．
- 3) 村田和也：平成16年度 医療機関と薬局の連携推進事業「東京都における医療機関薬剤部と薬局の連携モデル事業について(第2報)」第38回 日本薬剤師会学術大会．都薬雑誌 2006；28(3)：42-48．

#### 著書

- 1) 村田和也：〔共著〕薬学生・実習生指導者のための実務実習ガイドブック((19)日本薬剤師研修センター)，2005；南山堂．
- 2) 堀川佳津美：〔共著〕新生物・子宮癌．疾患別薬剤管理指導ハンドブック2(日本病院薬剤師会中小病院委員会)，2005；pp42-43，エルゼアジャパン株式会社．
- 3) 村田和也：〔編集〕医学大辞典，2006；南山堂．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 桐林美緒<sup>1)</sup>，新 博次<sup>3)</sup>，村田和也，藤掛佳男<sup>1)</sup>，越前宏俊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>さいたま赤十字病院薬剤部，<sup>2)</sup>明治薬科大学，<sup>3)</sup>日本医科大学多摩永山病院循環器内科)：血清高感度CRPに対する各種循環器系疾患治療薬の影響に関するメタ解析とその臨床応用．第15回日本医療薬学会年会，2005．10．
- 2) 男鹿宏和，稲葉育弘，堀川佳津美，村田和也：オーダリングシステム未導入における外来がん化学療法の実践．



第15回日本医療薬学会年会，2005．10．

- 3) 畝本賜男，村田和也：酸化マグネシウム細粒服用における義歯への影響について．第15回日本医療薬学会年会，2005．10．
- 4) 栗矢勝宏<sup>1)</sup>，森川正子<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>1)</sup>，雪吹周生<sup>2)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>，村田和也（<sup>1)</sup>東京薬科大学，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科）：降圧薬が認知機能およびQOLに与える影響：アンギオテンシンII受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬併用の効果．第126年会日本薬学会，2006．3．
- 5) 安掛美紀<sup>1)</sup>，森川正子<sup>1)</sup>，寺澤孝明<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>2)</sup>，雪吹周生<sup>2)</sup>，草間芳樹<sup>2)</sup>，村田和也（<sup>1)</sup>東京薬科大学，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科）：軽症糖尿病患者の血中アディポサイトカインと動脈硬化指標：メタボリックシンドローム合併の有無による差異．第126年会日本薬学会，2006．3．
- 6) 片野昌宏（<sup>1)</sup>自治医大病院薬，<sup>2)</sup>昭和大藤が丘病院薬，<sup>3)</sup>東京慈恵医大病院薬，<sup>4)</sup>順天堂大東京江東高齢者医療センター薬，<sup>5)</sup>聖マリアンナ医大病院薬，<sup>6)</sup>東京医大八王子医療センター薬，<sup>7)</sup>昭和大薬，<sup>8)</sup>東邦大大橋病院薬）：薬学生病院実務実習方略の実施調査結果にもとづく改善と標準化：注射実務実習方略（2）（関東私立医大病院薬剤部研究会）．第126年会日本薬学会，2006．3．

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究概要

2005年度はこれまでと同様に各専門領域において，日頃実施している看護実践の中から看護介入を目的とした看護現象の探索，看護方法の効果の検討，外来化学療法を受ける患者の不安の分析や思春期にある患者の療養行動について，さらには救命救急士の養成課程の現状についての報告など，それぞれの研究問題を見出し取り組んだ．

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 上運天知佐，伊藤有希，永瀬亜希子，小林美貴，廣田裕佳：音楽がもたらす分娩時の不安軽減とリラックス効果．日本看護学会（母性看護），2005．7．
- 2) 山田美由紀，藤田佐代子，石井清美：外来がん化学療法を受ける患者の抱える懸念の分析．第36回 日本看護学会 成人看護II，2005．7．
- 3) 狩野宏実，広瀬めぐみ，石塚愛子：女性生殖器のがん患者における術後の性生活に関する研究：タイムリーな介入を目指して．第36回 日本看護学会 成人看護，2005．7．
- 4) 竹山聡美：思春期の発達課題・家族関係が糖尿疾患者の療養行動へもたらす影響．日本糖尿教育看護学会，2005．9．
- 5) 平田明子，寺町千夏，中川笑子，高木由希子：口腔内清拭にレモン水併用の有効性：唾液分泌促進による唾液中の細菌数の変動．日本看護学会 成人看護I，2005．10．
- 6) 高橋和恵，石川秀一，三島正彦：アディクション問題を抱えた患者にどう関わるか：摂食障害患者との関わりを検討して．第56回 日本救急医学会関東地方会，2006．2．
- 7) 塩津正己：民間養成校における救急救命士養成課程の病院実習の現状報告と在り方の検討．第56回 日本救急医学会関東地方会，2006．2．

## [ 多摩永山病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

#### 1. 放射線被ばくに対する意識調査

現在，放射線診療は医療の中で重要な位置を占めているが，医療従事者の持つ放射線被曝に対する意識はさまざまである．今回，医療従事者（放射線技師養成学校の学生・診療放射線技師・看護師・医師）が放射線被曝に対してどんな意識を持っているか，アンケート調査を行った．

#### 2. 医療従事者の放射線防護について

当院で行っている医師・看護師等の医療従事者対象の放射線防護講習について，講習方法・講習後の意識等あらゆる角度から検討を行った．

#### 3. 照射野の精度管理と現状

一般撮影系の精度管理で特別な装置を必要としない照射野の精度管理について検討を行った．

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 笹沼和智：放射線管理士の将来展望．南関東放射線技師学術大会，2005．6．
- 2) 池田隆志，笹沼和智，織田 宏，高橋克幸，濱口雄慈，森 克彦：X線照射野の精度管理と現状．日本放射線技術学会 東京部会秋季学術大会，2005．11．
- 3) 笹沼和智，濱口雄慈，森 克彦：放射線被ばくに対する意識調査．第15回 ACRT・第21回放射線技師総合学術大会，2005．11．
- 4) 笹沼和智：放射線被ばくに対する意識調査．多摩放射線技師連合会総会学術講演会学術推薦講演，2005．11．

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている。そのため、研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌および呼吸器疾患と新たに血液内科が加わりほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。また、不整脈では電気生理学的検査やカテーテルアブレーションを行っている。心不全では睡眠時無呼吸との問題を研究している。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断及び肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。肝癌に対してはPEIT、RFA、TAEなどの診療を行い、治療効果を検討している。

神経では、脳梗塞・パーキンソン病に対する医師主導の治験に参加。自主研究としては各種神経マーカーの測定を行っている。

腎臓では、蛋白尿から、急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

甲状腺癌におけるサイログロブリンと糖鎖の役割、甲状腺機能亢進症の診断における核医学検査の有用性について研究している。

呼吸器では、肺癌に対する集学的療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析による診断を行っている。

血液では各種貧血、血小板減少症、造血器腫瘍（急性白血病を除く）などの臨床的研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T, Kobayashi T<sup>1)</sup>, Sekita Y, Seo T<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院内科学第3, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 同病理部): Helicobacter pylori infection increase the risk of colorectal adenoma and adenocarcinoma, especially in women. . J Gastroenterol 2005 ; 40 : 887-893 .
- 2) Kidokoro-Kunii Y<sup>1)</sup>, Emoto N, Cho K<sup>2)</sup>, Oikawa S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School): Analysis of the factors associated with Tc-99m pertechnetate in thyrotoxicosis and Graves' disease. . Journal of Nippon Medical School 2006 ; 73 (1): 10-17 .
- 3) 関田祥久, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院内科学第3): 高濃度酸素療法が著効した多発性筋炎合併腸管囊胞状気腫症の1例. Prog. Dig. Endosc 2005 ; 66 (2): 35-38 .
- 4) 三井啓吾<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院内科学第3): ダブルバルーン小腸内視鏡検査の有用性: カプセル内視鏡検査と比較して. 胃と腸 2005 ; 40 (11): 1518-1527 .

- 5) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 桑名壮太郎<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>2)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>2)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 米澤真興<sup>2)</sup>, 柴田喜明<sup>2)</sup>, 永田和弘<sup>2)</sup>, 田中 周<sup>2)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院内科学第3): 潰瘍性大腸炎に合併した大腸 Inflammatory Fibroid Polyp の1例. Prog Dig Endosc 2005 ; 67 (2): 106-107 .

(2) 総説 :

- 1) Takano M , Mizuno K : Late coronary thrombosis in a sirolimus-eluting stent due to the lack of neointimal coverage . Eur. Heart j. Advance Access published 2005 .
- 2) Takano M , Mizuno K : Late coronary thrombosis in a sirolimus-eluting stent due to the lack of neointimal coverage . Eur. Heart j. Advance Access published 2005 .
- 3) Takano M , Jang IK-Kyung<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>Harvard Medical School ): Neointimal proliferation around malapposed struts of a sirolimus-eluting stent : optical coherence tomography findings . Eur. Heart j. Advance Access published 2006 .
- 4) 水野杏一 : WOSCOPS : West of Scotland Coronary Prevention Study . 動脈硬化予防 2006 ; 4 (4) : 80-81 .
- 5) 水野杏一 : プラークと急性冠症候群 . The Lipid 2005 ; 16 (2) : 12-13 .
- 6) 高野雅充, 水野杏一 : プラークの新しい診断法 Optic coherence tomography (OCT) と血管内視鏡 . The Lipid 2005 ; 40-46 .
- 7) 水野杏一 : 血管内視鏡 . 臨床医 2005 ; 31 : 973-980 .
- 8) 水野杏一 : 血管内視鏡による評価 . Heart View 3 2006 ; 3 : 128-132 .

著 書

- 1) 岸田輝幸 : [ 分担 ] 下痢・便秘診療のコツと落とし穴 : 下痢の鑑別診断・疾患別の下痢の治療 145 (平塚秀雄), 2005 ; pp56-57, 中山書店 .
- 2) 日野光紀 : [ 自著 ] MRSA 肺炎の院内感染対策 . 呼吸器診療のコツと落とし穴 : 呼吸器感染症 (工藤翔二), 2005 ; pp168-169, 中山書店 .
- 3) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院内科学第3): [ 共著 ] Crohn病治療における biotherapy の有用性 . 消化器病学の進歩2005 - モノグラフ 消化管編 (荒川泰行), 2005 ; メディカルレビュー社 .
- 4) 水野杏一 : [ 自著 ] 血管内視鏡 . NAVIGATOR 血栓症ナビゲーター (池田康夫・内山真一郎), 2006 ; pp188-189, メディカルレビュー社 .
- 5) 水野杏一, 清宮康嗣 : [ 自著 ] 血管内エコー . NAVIGATOR 血栓症ナビゲーター (池田康夫・内山真一郎), 2006 ; pp190-191, メディカルレビュー社 .
- 6) 水野杏一 : [ 自著 ] 急性冠症候群の診療に関するガイドライン . 今日の治療2006 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢他), 2006 ; pp1577-1583, 医学書院 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Mizuno K : Detection and Treatment of Thin Fibrous Cap, Lipid Rich, and Inflammatory Vulnerable Plaque - Angioscopic Evaluation . Angioplasty Summit 2005 TCT Asia Pacific (Seoul), 2005 . 4 .

(2) シンポジウム :

- 1) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 飲酒週間は血清脂質と大腸腫瘍の危険性の性差に関する . 第69回日本消化器内視鏡学会総会, 2005 . 5 .
- 2) 高野雅充, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一 : 血管内視鏡による無症候性プラーク破綻の検出ならびに黄色プラークの経時的変化の検出 . 第37回日本動脈硬化学会, 2005 . 7 .

- 3) 高野雅充, 水野杏一: Optical Coherence Tomography を用いた生体冠動脈プラークの組織特性. 第19回日本心臓血管内視鏡学会, 2005. 9.
- 4) 清宮康嗣, 高野雅充, 山本真功, 木股仲恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 大場崇芳, 大野則彦, 酒井俊太, 奥村 敏, 水野杏一: Drug-Eluting Stent 留置後の血管内視鏡所見: 示唆に富む症例. 第19回日本心臓血管内視鏡学会, 2005. 9.

(3) ワークショップ:

- 1) 三井啓吾<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 関田祥久, 岸田輝幸 ( <sup>1)</sup>内科学第3): カプセル内視鏡 (VCE) とダブルバルーン内視鏡 (DBE) の組み合わせによる小腸検査. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 2) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第3): Crohn病治療におけるbiotherapyの有用性. 第91回日本消化器病学会総会, 2005.

(4) 一般講演:

- 1) Shimonaka M<sup>1)</sup>, Emoto N, Ashizawa M<sup>2)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Matsui K<sup>1)</sup>, Oikawa S<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, Tokyo University of Science, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School ): The mitogenic effect of thyroglobulin extracted from bovine, porcine and human thyroids on FRTL-5 rat thyroid cells. The Endocrine Society's 87th annual meeting ( San Diego, California, USA ), 2005. 6.
- 2) Emoto N, Ashizawa M<sup>1)</sup>, Oikawa S<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Toyoda A<sup>3)</sup>, Toyoda H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Bio-analytical Chemistry, Chiba University ): Structural analysis of chondroitin sulfate of human thyroglobulin purified from normal thyroids and papillary thyroid carcinomas. The Endocrine Society's 87th annual meeting ( San Diego, California, USA ), 2005. 6.
- 3) Emoto N, Shimonaka M<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Matsui Y<sup>1)</sup>, Akasu H<sup>2)</sup>, Kitagawa W<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, Tokyo University of Science, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School ): The mitogenic effect of thyroglobulin extracted from bovine, porcine and human thyroids on FRTL-5 rat thyroid cells. The 17th annual meeting of Asia-Pacific endocrine conference ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2006. 1.
- 4) Uehara T<sup>1)</sup>, Hino M<sup>1)</sup>, Kudoh Shoji <sup>2)</sup>, Kamizuru R<sup>1)</sup>, Omata M<sup>1)</sup>, Ono Y<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Ueda Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Respiratory center, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> The Fourth Department of Internal Medicine Nippon Medical School. ): Clinical difference between Wegener's granulomatosis and Lemierre's syndrome. 第45回呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 5) Tajika K, Ogawa B, Murakami D, Tokuyama K, Inami S, Takano M, Seimiya K, Ohno N, Okamatsu K, Ohba T, Nomura A, Okumura S, Okamatsu K, Mizuno K, Kotani K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Daiichi Kagakuyakuhin ): Malondialdehyde-modified LDL (MDA-LDL) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque: Angioscopic Analysis. 第70回日本循環器学会総会学術集会, 2006. 3.
- 6) Inami Shigenobu, Yamamoto M, Kimata N, Tomita K, Ogawa B, Murakami D, Tajika K, Tokuyama K, Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Nomura A, Sakai S, Okumura S: C-Reactive Protein May Be Absorbed Through Yellow Plaque and Lead to the Formation of Vulnerable Plaque. 第70回日本循環器学会総会学術集会, 2006. 3.
- 7) 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup> 横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院内科学第4 ): 当院における睡眠時呼吸障害に対するアプノモニター計測結果と右心機能障害の検討. 第45回呼吸器学会総会, 2005. 4.

- 8) 日野光紀<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): 呼吸器疾患に対するKL-6, SP-D測定値の解釈について: 二検査値の乖離例について. 第45回日本呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 9) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院内科学第4): 慢性閉塞性肺疾患患者のphysical statusの指標としての血漿乳酸値の検討. 第45回呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 10) 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): イレッサ有効症例の再発形式の検討. 第45回呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 11) 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 若林律子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): 安定期COPDにおける気道閉塞可逆性テストと健康関連QOLに関する研究. 第45回呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 12) 村上大介, 大場崇芳, 富田和憲, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 川口直美, 野村敦宣, 奥村 敏, 酒井俊太, 水野杏一: チクロピジンが禁忌なステント再狭窄に対しPCIを施行し, 難渋した1例. 第26回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2005. 5.
- 13) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 村上大介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 酒井俊太, 奥村 敏, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 偏頭痛により判明した, 卵円孔開存(patent foramen ovale)を合併した脳梗塞の1例. 第196回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 6.
- 14) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 桑名壮太郎<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院内科学第3): 潰瘍性大腸炎に合併した大腸inflammatory fibroid polypの1例. 第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 6.
- 15) 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 秋谷麻衣<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 窪倉浩俊<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>同呼吸器外科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>付属病院内科学第4): 数年来のかっ血を繰り返した肺底区動脈大動脈起始症の1症例の検討. 第113回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2005. 6.
- 16) 秋谷麻衣<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院内科学第4): 気管支鏡合併症として発症した重症心筋梗塞の一救命例. 第113回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2005. 6.
- 17) 田近研一郎, 小川 紅, 村上大介, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 小谷一夫<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>第一化学薬品): プラークの色調とMDA-LDLの関係. 第11回日本血管内治療学会, 2005. 7.
- 18) 清宮康嗣, 水野杏一, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太: 血管内視鏡から見たプラークの安定化. 第11回日本血管内治療学会, 2005. 7.
- 19) 木股伸恒, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 奥村 敏, 水野杏一, 川俣博志<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 抗凝固療法中の腰動脈出血による巨大後腹膜血腫に対して経カテーテルの動脈塞栓術が有効であった1例. 第11回日本血管内治療学会, 2005. 7.
- 20) 江本直也, 芦澤真代<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>, 松井康蔵<sup>2)</sup>, 林もゆる<sup>2)</sup>, 下仲基之<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院内科学第3, <sup>2)</sup>東京理科大学理学部化学科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院外科学第2): 精製ブタおよびヒトサイログロブリンの細胞増殖刺激作用. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 21) 岡村健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 小川 紅, 田近研一郎, 村上大介, 大野則彦, 野村敦宣, 奥村 敏, 横山真也<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): プラーク破綻後の急性冠症候群進展と病変形態. 第19回日本心臓血管内視鏡学会, 2005. 9.

- 22) 田近研一郎, 小川 紅, 村上大介, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 野村敦宣, 酒井俊太, 奥村 敏, 小谷一夫<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>第一化学薬品): プラークの色調とMDA-LDLの関係. 第19回日本心臓血管内視鏡学会, 2005. 9.
- 23) 横瀬紀夫, 大秋美治<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 塩井由美子<sup>3)</sup>, 緒方清行<sup>3)</sup>, 檀 和夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>同内科学第3): 細胞内CD20陽性・細胞表面 CD20陰性を示したCD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005. 9.
- 24) 田近研一郎, 西條由之, 安藤友一, 秋谷麻衣, 山本真功, 木股仲恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 奥村 敏, 水野杏一, 横瀬紀夫, 荒井悟<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 4弁の疣贅と疣贅を複数の左右短絡を認めた感染性心内膜炎の1例. 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 25) 小川 紅, 稲見茂信, 水野杏一, 石崎聡之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学スポーツ健康科学部): 低強度筋力トレーニングの血管内皮機能に及ぼす影響. 第42回日本臨床生理学会, 2005. 10.
- 26) 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): 当院における睡眠時呼吸障害に対する簡易アブノモニター計測結果と右心機能障害の検討. 千葉CHF-HOT 学術講演会, 2005. 10.
- 27) 江本直也, 豊田亜希子<sup>1)</sup>, 豊田英尚<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>2)</sup>, 北川 亘<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大学大学院薬学研究生体分析化学研究室, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院外科学第2): 甲状腺乳頭癌におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸の組成変化. 第48回日本甲状腺学会, 2005. 11.
- 28) 高橋陽子<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 間宮康孝<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): 門脈圧亢進症性腸症 (PHE) の1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 29) 松下洋子<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 送気下小腸鏡と比較してカプセル内視鏡で確認が容易であった空腸 Angiodysplasia の1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2005. 11.
- 30) 日野光紀<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): 原発性肺癌に対する血清KL-6値測定の意義について. 第46回日本肺癌学会総会, 2005. 11.
- 31) 大岩健満<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 峰岸裕司<sup>2)</sup>, 野呂林太郎<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): 非小細胞肺癌に対するイレッサの治療効果について. 第46回日本肺癌学会総会, 2005. 11.
- 32) 田近研一郎, 小川 紅, 村上大介, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 岡松健太郎, 野村敦宣, 奥村 敏, 小谷一夫<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>第一化学薬品): プラークの色調とMDA-LDLの関係. 第19回日本冠疾患学会, 2005. 12.
- 33) 木股仲恒, 富田和憲, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 野村敦宣, 奥村 敏, 水野杏一: 薬剤溶出性ステント留置31ヶ月後に遅発性血栓症を起こした1例. 第198回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 12.
- 34) 大岩健満<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 窪倉浩俊<sup>2)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>同呼吸器外科, <sup>3)</sup>内科学第4): PET陽性で肺癌との鑑別が困難であった化膿性脊椎炎の1例. 第165回日本肺癌学会地方会, 2005.
- 35) 清宮康嗣, 高野雅充, 山本真功, 木股仲恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信,

大場崇芳, 大野則彦, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 奥村 敏, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>酒井医院 ): Drug-Eluting Stent 留置後の血管内視鏡所見: 示唆に富む症例. 第16回日本心血管画像動態学会, 2006. 1.

36) 西城由之, 山本真功, 富田和憲, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 野村敦宣, 水野杏一: 有茎性の左室内血栓に高用量経静脈ヘパリンが著効した1例. 第199回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006. 2.

37) 山脇秀元<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1): 下血を繰り返し, ダブルバルーン法による小腸内視鏡により同定し得た, 非定型抗酸菌症に合併した空腸の MALT リンパ腫の1切除例. 第288回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 2.

38) 田近研一郎, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 野村敦宣, 酒井俊太, 小谷一夫, 水野杏一: プラークの色調と MDA-LDL の関係. 第103回日本内科学会, 2006. 2.

39) 小野 靖<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科学第4): イレッサ有効症例の再発形式の検討. 第46回日本肺癌学会総会, 2006. 11.

(5) Concurrent Session :

1) Mizuno K : Plaque stabilization by coronary intervention . CCT2005 ( Complex Catheter Therapeutics 2005 ) ( Kobe ), 2005 . 9 .

2) Mizuno K : Detection and treatment of the thin fibrous cap atheroma . CCT2005 ( Complex Catheter Therapeutics 2005 ) ( Kobe ), 2005 . 9 .

(6) Poster Session :

1) Nakamura S<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Terashima M<sup>2)</sup>, Akasaka T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Mizuno K, Muramatsu T<sup>4)</sup>, Nakamura M<sup>1)</sup>, Takayama T<sup>5)</sup>, Yoshikawa J<sup>6)</sup>, Yamaguchi T<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Toho University Ohashi Medical Center , <sup>2)</sup>Toranomon Hospital , <sup>3)</sup>Kinki University School of Medicine , <sup>4)</sup>Kawasaki Social Insurance Hospital , <sup>5)</sup>Nihon University Itabashi Hospital , <sup>6)</sup>Osaka City University Medical School Hospital ): Safety and Feasibility of a Novel Intravascular Optical Coherence Tomography Image Wire System in a Clinical Setting : Japanese Multicenter Study . The American College of Cardiology Annual Scientific Session 2006 ( Atlanta ), 2006 . 3 .

2) Tajika K, Ogawa B, Murakami D, Tokuyama K, Inami S, Seimiya K , Takano M, Takayoshi O, Ohno N, Nomura A, Okumura S, Okamatsu K, Mizuno K : Malondialdehyde-modified LDL ( MDA-LDL ) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque : Angioscopic Analysis . The American College of Cardiology Annual Scientific Session 2006 ( Atlanta ), 2006 . 3 .

3) Okamatsu K, Inami S, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Takano M, Seimiya K, Ohba T, Ishibashi F, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>千葉北総集中治療室 ): Comparison between Culprit and Nonculprit Lesions in Patients with Multiple Plaque Ruptures and Acute Coronary Syndrome . The American College of Cardiology Annual Scientific Session 2006 ( Atlanta ), 2006 . 3 .

4) Inami S, Sakai S, Ishibashi F, Okamatsu K, Ogawa B, Murakami D, Tajika K, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Nomura A, Okumura S, Mizuno K : C-Reactive Protein May Be Absorbed Through Yellow Plaque and Lead to the Formation of Vulnerable Plaque . The American College of Cardiology Annual Scientific Session 2006 ( Atlanta ), 2006 . 3 .

5) Okumura S, Yamamoto Masanori , Kimata N, Tomita K, Ogawa B, Murakami D, Tajika K, Tokuyama K, Inami S, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Nomura A, Mizuno K, Takano T<sup>1)</sup>, Tsunematsu T<sup>2)</sup>, Ishikawa Y<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of 1st Internal Medicine Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. Of Physiology and Medicine, Yokohama City University School of Medicine, Kanagawa ): Type 5 Adenylyl Cyclase Hampers Desen-



sitization of cAMP Signal to Attenuate Akt Signal and Myocyte Viability in the Heart . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .

- 6) Muramatsu T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Terashima M<sup>2)</sup>, Akasaka T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Mizuno K, Nakamura M<sup>4)</sup>, Nakamura S<sup>4)</sup>, Takayama T<sup>5)</sup>, Yoshikawa J<sup>6)</sup>, Yamaguchi T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Kawasaki Social Insurance Hospital, <sup>2)</sup>Toranomon Hospital, <sup>3)</sup>Kinki University School of Medicine, <sup>4)</sup>Toho University Ohashi Medical Center, <sup>5)</sup>Nihon University Itabashi Hospital, <sup>6)</sup>Osaka City University Medical School Hospital): Safety and Feasibility of a Novel Intravascular Optical Coherence Tomography Image Wire System in a Clinical Setting : Japanese Multicenter Study . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .
- 7) Okamatsu K, Inami S, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Takano M, Seimiya K, Ohba T, Ishibashi F, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno Kyoichi (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital CCU): Comparison between Culprit and Nonculprit Lesions in Patients with Multiple Plaque Ruptures and Acute Coronary Syndrome . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .
- 8) Hata N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>1)</sup>, Kaneko N<sup>1)</sup>, Hiramitsu S<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K, Nejima J<sup>1)</sup>, Kinoshita M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>PROTECT ( Prospective Trial of Cardioprotective Effect of Carperitide Treatment ) Study ): Effect of Carperitide on Cardioresenal Protection and Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure : PROTECT Study . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .
- 9) Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kaneko N<sup>1)</sup>, Hiramitsu S<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Nejima J<sup>1)</sup>, Kinoshita M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>( Prospective Trial of Cardioprotective Effect of Carperitide Treatment ) Study Group ): Effect of Carperitide Treatment on Cardio-Renal Biomarkers in Patients with Acute Decompensated Heart Failure : Sub-analyses of the PROTECT Study . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .
- 10) Ohno N, Kawase A<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Lin SF<sup>1)</sup>, Chen Peng-Sheng<sup>1)</sup>, Hrayr SK<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Medical Center and David Geffen School of Medicine at UCLA, <sup>2)</sup>First Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Spontaneous Atrial Fibrillation Initiated by Early Afterdepolarization-mediated Triggered Activity in the Aged Atria during Glycolytic Inhibition . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .

(7) Round table Discussion :

- 1) Takano M, Mizuno K : Intracoronary Imaging Modalities-Up to Date- . 第70回日本循環器学会総会学術集会 , 2006 . 3 .

(8) パネルディスカッション5 :

- 1) 奥村 敏, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 水野杏一, 高野照夫<sup>1)</sup>, 常松尚志<sup>2)</sup>, 石川義弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院内科学第1, <sup>2)</sup>横浜市立大学循環制御医学): 成人期の心臓に特異的発現を示す5型アデニル酸シクラーゼの心不全発症に果たす役割とその特異的抑制薬による新しい心不全治療 . 第53回日本心臓病学会 , 2005 . 9 .

(9) ビジュアルワークショップ :

- 1) 大場崇芳, 酒井俊太, 木股伸恒, 富田和憲, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 水野杏一 : Usefulness of Intracoronary angiography for detecting the cause of complication after percutaneous coronary intervention . 第53回日本心臓病学会 , 2005 . 9 .

(10) ビデオワークショップ :

- 1) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 山門 進<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 当科におけるカプセル内視鏡の使用経験 . 第80回日本消化器内視鏡学会関東地方会 , 2005 . 6 .

(11) ポスター :

- 1) Ishibashi F, Mizuno K, Weiss ER<sup>1)</sup>, Dabreo A<sup>1)</sup>, Sergio W<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Tufs-New England Medical Center): Quantative Colorimetry of Coronary Plaques in Myocardial Infarction and Stable Angina : Implication for

- Plaque Colorimetry to Identify Vulnerable Plaques . The Society for Cardiovascular Angiography and Interventions'28th Annual Scientific Sessions ( California, USA ), 2005 . 5 .
- 2) Ishibashi F, Mizuno K, Weiss ER<sup>1)</sup>, Sergio W<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Tufs-New England Medical Center): Quantative Colorimetry of Coronary Plaques Using \*L\*A\*B Color Space During Angioscopy For The Detection of Vulnerable Plaques . The Society for Cardiovascular Angiography and Interventions'28th Annual Scientific Sessions ( California, USA ), 2005 . 5 .
- 3) Tajika K, Ogawa B, Murakami D, Tokuyama K, Inami S, Takano M, Seimiya K, Ohno N, Okamatsu K, Ohba T, Nomura A, Okumura S, Mizuno K, Kotani K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Daiichi Kagaku Yakuhin): Malondialdehyde-modified LDL ( MDA-LDL ) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque : Angioscopic Analysis . 第70回記念日本循環器学会総会・学術集会, 2006 . 3 .
- 4) 大場崇芳, 廣瀬知人, 木股仲恒, 山本真功, 富田和憲, 村上大介, 徳山権一, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Cypher スtent留置6ヶ月後の興味ある血管内視鏡所見 . 第16回日本心血管画像動態学会, 2006 . 1 .
- (12) 一般講演ポスター :
- 1) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): ヒト大腸癌組織におけるシクロオキシゲナーゼ (COX) -2と膜型マトリックスメタプロテアーゼ1の発現 . 第91回日本消化器病学会総会, 2005 . 4 .
- 2) 田中 周<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の相違 . 第70回日本消化器内視鏡学会総会, 2005 . 10 .

## [ 千葉北総病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性冠症候群, うっ血性心不全, 急性大動脈解離, 急性肺塞栓症, 致死性不整脈などの急性重症循環器疾患と多臓器不全, 全身性炎症反応症候群を主な対象疾患として研究を行っている。心血管疾患については急性期緊急画像診断に基づく治療と臨床所見(検査成績, 臨床経過, 予後)との対比を行うことにより, より適切な治療戦略の構築に有用な情報を見出し, かかる疾患の予後を改善することが目標である。

当施設の臨床研究で用いる主な研究手段は, 上記画像診断(冠動脈造影, 血管内超音波, 血管内視鏡, 核医学検査), サイトカインを含む生化学検査, 各種補助循環装置(血液浄化療法, IABP, PCPS, 呼吸器など)である。

また, 急性循環器疾患の予後改善には適切な初期治療をより早期に開始することが肝要であり, その一助としてのドクターヘリ導入の有用性についても研究を進めており, この研究は本邦においては先駆的地位を占めている。

現在進行している主な研究テーマは,

- (1) 急性冠症候群におけるカテーテル治療成績の向上に係わる, 血管内視鏡ならびに超音波検査所見の有用性の検討。
- (2) 急性心筋梗塞の予後推定に関する冠動脈血流評価の意義についての研究。
- (3) 急性大動脈解離の短期ならびに長期予後に関する研究。
- (4) 全身性炎症反応症候群ならびに多臓器不全に対する急性血液浄化療法の有用性についての研究。
- (5) 重症疾患におけるサイトカインの関与についての研究。
- (6) 体液サイトカインと循環器疾患についての研究。
- (7) 循環器疾患における各種薬物療法の有用性に関する研究。

であり, 当施設独自の研究はもとより, 国内および海外との共同研究にも数多く参加し, その一部については多施設を代表しての研究成果発表を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hata N, Kobayashi N, Imaizumi T, Yokoyama S, Shinada T, Tanabe J, Shiiba K, Suzuki Y, Matsumoto H<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Use of an air ambulance system improves time to treatment of patients with acute myocardial infarction. Internal Medicine 2006 ; 45 (2): 45-50 .

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 畑 典武：初期救命救急処置について．茂原市長生郡初期救命救急処置講習会，2005．7．
- 2) 畑 典武：循環器疾患のヘリコプター搬送．第3回日本医科大学東北地区循環器研究会，2005．9．
- 3) 畑 典武：BLSとACLS．2005年千葉県医師会ACLS講習会，2005．9．
- 4) 畑 典武：急性心筋梗塞とドクターヘリ搬送．第5回銚子地区循環器疾患勉強会，2005．9．
- 5) 畑 典武：高血圧治療の変遷と最近のトピックス．佐原市香取郡医師会学術講演会，2005．11．
- 6) 畑 典武：ドクターヘリの現況と心筋梗塞治療．第77回東葉臨床医学セミナー，2006．3．

#### (2) パネルディスカッション：

- 1) 大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，村上大介<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，徳山権一<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，畑典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：Cypher Stent Post Marketing Study．第14回日本心血管インターベンション学会，2005．6．

#### (3) 一般講演：

- 1) Hata N, Kobayashi N, Imaizumi T, Yokoyama S, Shinada T, Ishikawa M, Shiiba K, Suzuki Y, Tanabe J, Mashiko K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Efficacy of Air Ambulance System for Treatment of Acute Myocardial Infarction. 12th World Congress on Heart Disease ( Vancouver ), 2005 . 7 .
- 2) Hata N, Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>2)</sup>, Kaneko N<sup>3)</sup>, Hisamitsu S<sup>4)</sup>, Yoshikawa T<sup>5)</sup>, Yokoyama H<sup>6)</sup>, Tanaka K<sup>7)</sup>, Mizuno K<sup>8)</sup>, Nejima J<sup>9)</sup>, Kinoshita M<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> The 1st Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science, <sup>3)</sup> Dept. of Cardiology and Pneumology, Dokkyo University School of Medicine, <sup>4)</sup> Dept. of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, <sup>5)</sup> Cardiopulmonary Division, Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>6)</sup> Dept. of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital, <sup>7)</sup> Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School, <sup>8)</sup> Dept. of Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon medical School, <sup>9)</sup> Dept. of Internal Medicine, Tsurumi University School of Dental Science, <sup>10)</sup> Kusatsu General Hospital): Effects of Carperitide on Cardiorenal Protection and Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. PROTECT Study. 第70回記念日本循環器学会学術集会，2006．3．
- 3) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Comparison between Culprit and Nonculprit Lesions in Patients with Multiple Plaque Ruptures and Acute Coronary Syndrome. 第70回記念日本循環器学会学術集会，2006．3．
- 4) Seino Y<sup>1)</sup>, Tsutamoto T<sup>2)</sup>, Hata N, Kaneko N<sup>3)</sup>, Hiramitsu S<sup>4)</sup>, Yoshikawa T<sup>5)</sup>, Yokoyama H<sup>6)</sup>, Tanaka K<sup>7)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>8)</sup>, Nejima J<sup>9)</sup>, Kinoshita M<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> The 1st Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Sci-

- ence, <sup>3)</sup> Dept. of Cardiology and Pneumology, Dokkyo University School of Medicine, <sup>4)</sup> Dept. of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, <sup>5)</sup> Cardiopulmonary Division, Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>6)</sup> Dept. of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital, <sup>7)</sup> Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School, <sup>8)</sup> Dept. of Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon medical School, <sup>9)</sup> Dept. of Internal Medicine, Tsurumi University School of Dental Science, <sup>10)</sup> Kusatsu General Hospital): Effects of Carperitide Treatment on Cardio-renal Biomarkers in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. a Prospective Study. 第70回記念日本循環器学会学術集会, 2006. 3.
- 5) 畑 典武, 今泉孝敬, 横山真也, 小林宣明, 品田卓郎, 石川昌弘, 椎葉邦人, 鈴木雄一朗, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急救命センター): 急性心筋梗塞治療におけるドクターヘリ搬送の意義. 第102回日本内科学会講演会, 2005. 4.
- 6) 秋谷麻衣<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 大岩健満<sup>1)</sup>, 上田有香<sup>1)</sup>, 佐々木朝子, 横山真也, 畑 典武, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科学第4): 気管支鏡合併症として発症した重症心筋梗塞の一救命例. 第113回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2005. 6.
- 7) 椎葉邦人, 勝部乙大, 岡崎大武, 鈴木雄一朗, 田邊 潤, 品田卓郎, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武: 重症三枝病変に対し血行再建と不整脈管理に苦慮した1例. 第11回第一内科心カテ班研究会, 2005. 7.
- 8) 鈴木浩臣, 横山真也, 斉藤友香<sup>1)</sup>, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 田邊 潤, 品田卓郎, 今泉孝敬, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科): IL-6が異常高値を示し, Toxic Shock Syndromeが疑われた1例. 第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2005. 8.
- 9) 稲本正之<sup>1)</sup>, 荒木綾子<sup>1)</sup>, 片岡博邦<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>第二病院薬剤科): 当院治験推進室の臨床(自主)研究への関与と取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック第35回学術大会, 2005. 8.
- 10) 菊池有史, 横山真也, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 田邊 潤, 品田卓郎, 今泉孝敬, 畑 典武: AED 頻回使用により救命した院外発生心肺停止の1例. 第19回千葉県重症患者管理研究会, 2005. 9.
- 11) 菊池有史, 横山真也, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 品田卓郎, 今泉孝敬, 畑 典武: AED 頻回使用により救命した院外発生心肺停止の1例. 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005. 10.
- 12) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 小川 紅<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 奥村 敏<sup>1)</sup>, 横山真也, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院内科): ブラーク破綻後の急性冠症候群進展と病変形態. 第19回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会, 2005. 10.
- 13) 稲本正之<sup>1)</sup>, 荒木綾子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 柴田晶子<sup>1)</sup>, 磯村玲子<sup>1)</sup>, 寺山尚美<sup>1)</sup>, 矢内花郁<sup>1)</sup>, 落合好乃<sup>1)</sup>, 水谷桂子<sup>1)</sup>, 下條陽子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院治験推進室): 医療機関とSMOの連携と今後の課題. 第5回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 2005. 10.
- 14) 今泉孝敬: 肺塞栓症の治療. 千葉県肺塞栓症研究会, 2005. 10.
- 15) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>救急医学): 航空機に起因した肺血栓塞栓症の検討. 第12回肺塞栓症研究会学術集会, 2005. 11.
- 16) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 畑 典武, 益子邦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院救急救命センター): 成田空港と救急医療. 第51回日本宇宙航空環境医学会大会, 2005. 11.
- 17) 畑 典武, 稲本正之<sup>1)</sup>, 荒木綾子<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 柴田晶子<sup>1)</sup>, 落合好乃<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院治験推進室): 市販後(製造販売後)使用成績調査のIRB審査についての検討. 第26回日本臨床薬理学会年会, 2005. 12.
- 18) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 廣瀬知人<sup>1)</sup>, 木俣伸恒<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Cypher スtent留置6ヶ月後の興味ある血管内視鏡所見. 第16回日本心血管画像動態学会, 2006. 1.
- 19) 横山真也, 品田卓郎, 椎葉邦人, 鈴木雄一朗, 白壁章宏, 今泉孝敬, 畑 典武: PMX-DHP療法の効果, 導入

時期についての検討．第10回エンドトキシン研究会，2006．2．

20) 品田卓郎，畑 典武，小林宣明，鈴木雄一郎，椎葉邦人，田邊 潤，横山真也，今泉孝敬：急性心筋梗塞治療におけるドクターヘリ搬送の意義．第33回日本集中治療医学会学術集会，2006．3．

21) 横山真也，鈴木雄一郎，椎葉邦人，品田卓郎，田邊 潤，今泉孝敬，畑 典武：PMX-DHP療法の適応症例，導入時期についての検討．第33回日本集中治療医学会学術集会，2006．3．

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

1. 筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し，麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって，さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している．脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において，手関節伸展，手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し，訓練前後での手関節，手指関節の可動域，被験筋のroot mean square (RMS)，巧緻性の変化を計測パラメーターとしている．手指関節可動域，手根伸筋のRMS，巧緻動作の改善が認められた．筋電比例式電気刺激は，きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり，筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される．
2. アルツハイマー病患者において感覚入力刺激に対応する運動誘発電位にてcortico-cortical inhibitionを検討する．健常人では電気刺激・磁気刺激感覚が23～24msで60%程度のcortico-cortical inhibitionが認められるが，アルツハイマー病患者では抑制は20%程度にとどまり，重度であると抑制は殆ど認められなくなる．コリン作動薬の投与によってこのcortico-cortical inhibitionの低下に改善が認められるか検討を行う．
3. 脳の可塑性を検討する基礎的検討として，124チャンネルの脳磁図を用いて手指・手関節運動時の脳神経活動の局在，運動準備電位との関連を検討する．
4. 回復期～慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し，脳梗塞患者のDVT合併頻度，それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三村聡男，原 行弘，辻内和人：脊髄炎後の便失禁患者における筋電図バイオフィードバックを用いた排便リハビリテーション．日本脊髄障害医学会雑誌 2005；18(1)：228-229．

##### (2) 綜説：

- 1) 小柳貴裕，原 行弘<sup>(1)</sup>東京歯科大学市川総合病院整形外科)：運動ニューロン疾患と頸椎変性疾患．脊椎脊髄ジャーナル 2005；18(6)：715-722．

#### 著書

- 1) 原 行弘：〔共著〕大腿骨頸部骨折．リハビリテーションMOOK 13 高齢者のリハビリテーション(千野直一・安藤徳彦)，2005；pp199-208，金原出版．
- 2) 原 行弘：〔共著〕排泄機能障害のリハビリテーション．リハビリテーション医学の新しい流れ．先端医療シリーズ36，2005；pp23-28，先端医療技術研究所．
- 3) 原 行弘：〔自著〕かかりつけ医のための脳卒中リハビリテーション．かかりつけ医のための脳卒中リハビリテーション(片山泰朗)，2005；大塚製薬．

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 永田雅章<sup>1)</sup>, 原 行弘<sup>(1)</sup> (市川市リハビリテーション病院): 脊髄損傷の新たな挑戦, 上肢機能. 第40回日本脊髄障害医学会, 2005. 11.
- 2) 村岡慶裕<sup>1)</sup>, 原 行弘<sup>(1)</sup> (藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科): FES, TES. 第21回日本義肢装具学会学術大会, 2005. 11.

### (2) 一般講演 :

- 1) Hara Y, Ogawa S, Tujiuti K, Muraoka Y<sup>1)</sup> (Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University): Power-Assisted Functional Electrical Stimulation Home program to Improve Hemiparetic Upper Extremity. . 4th World Congress of Neurorehabilitation ( Hong Kong ), 2006 . 2 .
- 2) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人, 村岡慶裕<sup>1)</sup> (藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科): 新型パワーアシスト治療的電気刺激装置による片麻痺上肢促通ホームプログラム. 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 3) 村岡慶裕, 小川真司, 辻内和人, 村岡慶裕<sup>1)</sup> (藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科): パラメーター記憶機能付パワーアシスト TES 新型器による片麻痺上肢促通ホームプログラム. 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 4) 三村聡男, 原 行弘, 辻内和人, 高橋正憲<sup>1)</sup> (東京歯科大学市川総合病院): 痙性片麻痺に対する double AFO 療法の効果. 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 5) 三村聡男, 原 行弘, 辻内和人, 高橋正憲<sup>1)</sup> (東京歯科大学市川総合病院): 手関節交互運動負荷装置を用いた痙性上肢における手関節背屈運動の効果. 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 6) 有田元英<sup>1)</sup>, 原 行弘, 小川真司, 高橋 修<sup>2)</sup>, 新城吾朗<sup>2)</sup> (有田内科整形リハビリクリニック, <sup>2)</sup> 市川市リハビリテーション病院): 経頭蓋磁気刺激による脊髄伝導速度の計測. 第42回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005 . 6 .
- 7) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人, 村岡慶裕<sup>1)</sup> (藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科): パラメーター記憶機能付パワーアシスト TES 新型器による片麻痺上肢促通ホームプログラム. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 2005 . 11 .
- 8) 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 山口 博<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 原 行弘, 大久保誠二<sup>2)</sup> (日本医科大学付属病院神経内科, <sup>2)</sup> 多摩北部医療センター神経内科): アルツハイマー病に対する Short latency afferent inhibition (SLAI) を用いた donepezil の効果の検討. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 2005 . 11 .
- 9) 有田元英<sup>1)</sup>, 原 行弘, 小川真司, 高橋 修<sup>2)</sup>, 新城吾朗<sup>2)</sup>, 藤田吉之<sup>3)</sup> (有田内科整形リハビリクリニック, <sup>2)</sup> 市川市リハビリテーション病院, <sup>3)</sup> 日本光電工業株式会社): 頸髄から腰髄に至る中枢伝導時間の測定と標的筋収縮の影響. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 2005 . 11 .
- 10) 三村聡男<sup>1)</sup>, 永田雅章<sup>1)</sup>, 松井伸子, 辻内和人, 原 行弘, 里宇明元<sup>2)</sup> (市川市リハビリテーション病院, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): 痙性片麻痺に対する double AFO 療法の効果 (第2報). 第21回日本義肢装具学会学術大会, 2005 . 11 .

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

臨床各科の協力のもと、腫瘍性病変を中心とした各種疾患の臨床病理学的検討を実施継続中である。特に、乳腺腫瘍や脳腫瘍では、日常業務として実施してきた免疫染色や迅速診断から得られた所見の集積および解析から、新たな知見も得られてきており、さらに症例数を増やし検討中である。

#### 1) 乳腺腫瘍

外科の協力により乳癌治療薬適応例の選択に用いる検査法 Hercep Test 法を院内で更に継続実施中である。蓄積された検索症例から、染色性や染色様式の特異的な群を抽出し、組織、細胞診断学的、免疫組織学的、電子顕微鏡的に検討を加え、さらに、開院以来蓄積してきた乳癌症例の多数の電顕試料標本を用いた乳癌における神経内分泌的性格の特徴に関する解析も開始した。

#### 2) 女性器腫瘍

女性診療科、放射線科の協力のもとに、子宮、卵巣などの女性生殖器に発生する腫瘍性疾患の形態学的、細胞生物学的特性につき、臨床病理学的検索を進行中である。

#### 3) 消化管腫瘍

外科の協力により大腸癌、GIST などを中心とする消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である。

4) 脳腫瘍：脳神経外科の協力により、脳腫瘍の術中迅速診断に際し作製してきた圧挫細胞診検体の集積および解析により得られた知見を論文として報告できた。

5) 術中迅速診断に際しての迅速免疫染色法の臨床応用に関する検討を開始した。

6) アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を第二内科、第二病理などとの共同研究として進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokoi K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Shoji K<sup>2)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Tajiri T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> The First Dept. of Surgery ): A study of histopathological assessment criteria for assessing malignancy of gastrointestinal stromal tumor, from a clinical standpoint . J Gastroenterol 2005 ; 40 ( 5 ): 467-473 .
- 2) Asano T<sup>1)</sup>, Abe M<sup>1)</sup>, Asai M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Kamisago M<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>1)</sup>, Nakajima M<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Sugizaki Y<sup>2)</sup>, Itoh Y<sup>3)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Paediatrics, Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Division of surgical pathology, Nippon medical School, <sup>3)</sup> Department of Paediatrics, Nippon Medical School ): Synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis, and osteitis ( SAPHO ) syndrome in a 14 year-old boy : an immunohistochemical study of infiltrating lymphocytes in acneous skin regions . Eur J Pediatr 2005 ; 164 ( 7 ): 466-468 .
- 3) Okada S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Inoue K<sup>1)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Radiology ): A case of dermoid cyst of the ovary with malignant transformation complicated with small intestinal fistula formation . Radiat Med 2005 ; 23 ( 6 ): 443-446 .
- 4) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>2)</sup>, Sekita Y<sup>1)</sup>, Seo T<sup>2)</sup>, Nagata K<sup>2)</sup>, Tatsuguchi A<sup>2)</sup>, Gudis K<sup>2)</sup>, Yokoi K<sup>3)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Yamashita K<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>4)</sup>, Ohaki Y, Sakamoto C<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> The 3rd Dept. of internal medicine, <sup>3)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>4)</sup> The first Dept. of Surgery, <sup>5)</sup> Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School ): *Helicobacter pylori* infection increases the risk of colorectal adenoma and adenocarcinoma, especially in women . J Gastroenterol 2005 ; 40 ( 9 ): 887-893 .
- 5) Shimizu H, Mori O, Ohaki Y, Kamoi S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Okada S<sup>3)</sup>, Maeda S<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chibahokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Chibahokuso Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, <sup>5)</sup> Department of Pathology,

Nippon Medical School): Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue . The Japan Society of Brain Tumor Pathology 2005 2005 ; 22 ( 2 ): 59-74 .

6) Yoshino N<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y , Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Thoracic surgery, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup>The Second Dept. of Surgery): Lymphoepithelioma-like carcinoma of the lung : case in which the patient has been followed up for 7 years postoperatively . Jpn J Thorac Cardio-vasc Surg 2005 ; 53 ( 12 ): 653-656 .

7) 清水秀樹: 有機溶剤作業主任者技能講習を受講して . メディカル・テクノロジー 2005 ; 33 ( 4 ): 428-428 .

## (2) 追加分症例報告 :

1) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 上杉健哲<sup>2)</sup>, 岸 宏久<sup>3)</sup>, 大秋美治, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 石倉 浩<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院女性診療科, 産科, <sup>2)</sup>成田赤十字病院産婦人科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科, 産科, <sup>5)</sup>千葉大学大学院医学研究院病態病理学): 17歳女性に発症した高カルシウム血症型卵巣小細胞癌の1例 . 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2005 ; 23 ( 2 ): 179-184 .

## 著 書

1) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y , Kawamura T<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Obstet. and Gynecol. Chiba Hokusou Hosp. , <sup>2)</sup>Dept. of Obstet. and Gynecol. ): [ 分担 ] Ovarian endometrioid adenocarcinoma with yolk sac tumor component : Case presentation and clinicopathological review of nine cases . Treatment of ovarian cancer ( Bardos AP ), 2005 ; pp211-227 , Nova publishers .

2) 清水秀樹, 田中宣威<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 濱本 真<sup>2)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 佐治 守<sup>4)</sup>, 山本臣生<sup>5)</sup>, 横田貴久<sup>5)</sup>, 大秋美治, 森 修, 内藤善哉<sup>6)</sup>, 成田真一<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同看護部, <sup>4)</sup>同薬剤科, <sup>5)</sup>同庶務課, <sup>6)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>7)</sup>西新井病院臨床検査科): [ 共著 ] 医療現場の危険有害化学物質取扱い ( 労働安全管理のために ). 医療現場の危険有害化学物質取扱い ( 労働安全管理のために ) ( 清水秀樹 ), 2006 ; pp1-180 , メディカグループ .

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

1) 清水秀樹: 病理標本作製と有機溶剤 法と対策 ( 労働安全衛生法と有機溶剤中毒予防規則を中心に ). 福島県 県北 県南細胞診研究班 病理組織研究班合同勉強会, 2005 . 8 .

### (2) シンポジウム :

1) 清水秀樹, 森 修, 大秋美治, 小林士郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第2): 細胞診における浸潤性星細胞腫と周囲組織のインターフェイス ( Cytological interface of diffusely infiltrating astrocytoma and its marginal tissue ). 第23回日本脳腫瘍病理学会, 2005 . 4 .

### (3) ワークショップ :

1) 金沢義一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 大秋美治, 三枝順子, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>付属病院外科学第1): 胃癌における 5-FU 代謝関連酵素と p-53, bcl-2 蛋白発現 . 第64回日本癌学会学術総会, 2005 . 9 .

### (4) サージカルフォーラム :

1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高橋秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 石渡俊之<sup>3)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): 内分泌細胞含有大腸低分化腺癌における VEGF 発現の意義 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .



(5) 一般講演 :

- 1) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> The First Dept. of Surgery, <sup>3)</sup> Second Dept. of Pathology ): Expression of EMMPRIN matrix metalloproteinases E-9 and type IV collagen in colorectal cancer without liver metastasis. 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005. 10.
- 2) Shinji S<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>3)</sup>, Suzuki H<sup>3)</sup>, Teranishi N<sup>3)</sup>, Ohaki Y, Naito Z<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Second Dept. of Pathology, <sup>3)</sup> The First Dept. of Surgery ): Liver metastasis in poorly differentiated colorectal adenocarcinoma with neuroendocrine features is associated with vascular endothelial growth factor ( VEGF ). 13th United European Gastroenterology Week ( Copenhagen, Denmark ), 2005. 10.
- 3) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院外科学第1, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 大腸低分化腺癌におけるCK20/CK7の発現について. 第94回日本病理学会, 2005. 4.
- 4) 黒川実愛, 京本晃典, 三枝順子, 赤坂久美, 清水秀樹, 小黒辰夫, 新井 悟, 森 修, 大秋美治: 乳腺原発神経内分泌癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会総会 ( 春期大会 ), 2005. 5.
- 5) 京本晃典, 黒川実愛, 三枝順子, 赤坂久美, 清水秀樹, 小黒辰夫, 新井 悟, 森 修, 大秋美治: Invasive micropapillary carcinoma との鑑別に難渋した肺原発転移性乳癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会総会 ( 春期大会 ), 2005. 5.
- 6) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢一義<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 石渡俊之<sup>3)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN ( E ), MMP-9 ( M-9 ), IV型コラーゲン ( IVc ) の出現. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005. 5.
- 7) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 肝動注療法を行った大腸癌肝転移症例の臨床病理学的因子とTS, DPD発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 8) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 寺西宣央<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 出血をきたした胃GIST症例の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 9) 相馬廣明<sup>1)</sup>, 大沢洋之<sup>1)</sup>, 畑 俊夫<sup>1)</sup>, 小黒辰夫, 藤田浩司<sup>2)</sup>, 岡田真也<sup>2)</sup>, 工藤玄恵<sup>2)</sup>, 吉浜 勲<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学産婦人科教室, <sup>2)</sup> 東京医科大学病理学講座, <sup>3)</sup> 同電子顕微鏡室 ): 胎児水腫合併胎盤絨毛の超微構造上の特徴. 第37回日本臨床分子形態学会総会, 2005. 9.
- 10) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 大秋美治, 小黒辰夫, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 消化管及び消化管外原発GISTにおける電顕的検索. 第37回日本臨床分子形態学会総会, 2005. 9.
- 11) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): GISTに対する悪性度の判定基準に関する新提案. 第47回日本消化器病学会大会, 2005. 10.
- 12) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 再発小腸GISTに対し, Glivecの低用量投与にて著効を示した1例. 第43回日本癌治療学会総会, 2005. 10.
- 13) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 大秋美

治, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 術前診断に難渋した直腸悪性黒色腫の1例. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.

14) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): 大腸低分化腺癌における脈管浸襲判定の意義. 第60回日本大腸肛門病学会総会, 2005. 10.

15) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 白川毅<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 上部・下部直腸癌pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義. 第64回大腸癌研究会, 2006. 1.

#### (6) 追加分シンポジウム:

1) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 大秋美治, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科): 子宮体癌におけるホルモン療法の早期生検による効果予知の試み(子宮体癌の集学的治療). 第37回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 11.

#### (7) 追加分一般講演:

1) 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 小西英喜<sup>3)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科, 産科, <sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup>第二病院女性診療科・産科): 脂腺系腫瘍を合併した成熟嚢胞性奇形腫の1例. 第36回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 7.

2) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 上杉健哲<sup>2)</sup>, 岸 宏久<sup>3)</sup>, 大秋美治, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup>, 石倉 浩<sup>5)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>成田赤十字病院産婦人科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>5)</sup>千葉大学医学研究院病態病理学): Ovarian small cell carcinoma (hypercalcemic type) と考えられた1例. 第36回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2004. 7.

3) 白川 毅<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 大秋美治, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 短期間に形態変化した胃潰瘍合併進行胃癌の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2004. 12.

## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

今年度における当検査室の活動状況は、社会的問題となっている個人情報保護法案の施行の年であることから、改めて医療情報の原点を見据えて基本的な法令順守を規範に活動を行なった。中でも情報保護に関する基本では(1)検査依頼に関する対応,(2)検査成績に関するデータ管理,(3)各プライバシーに関する対応,(4)検査室の総合管理,(5)院内での総合対応等で数々の工夫を要する活動を実施した。

また検査室特有の実績では職能団体である基本学会において(1)検体検査を主体とした個人情報保護ガイドライン,(2)生体検査を主体とした個人情報保護ガイドライン,(3)検査情報システムの安全管理を目的としたガイドライン,(4)医療機器管理に関するガイドライン,(5)総合医療安全管理に関するガイドラインの作成を行い、全国的規模においての規範となる構築を図っている。

その他では臨床検査技師養成に関する分野別テキストの作成・発刊,血液製剤管理上での地域的問題の検索と利用状況の円滑化,微生物分野では院内感染対策への情報協力,生理学分野では成田国際空港クリニック特有なフレキシブルな対応,(社)東京都医師会精度管理事業への運営協力など,継続課題を含めた上で例年と異なり特徴的な活動が行なわれた。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

1) 町田幸雄：検査情報システムの安全管理について．東京都臨床検査技師会誌 2006；34(2)：17-21．

#### (2) 研究報告書：

1) 町田幸雄：個人情報保護に関する法律：検査室の視点から．Kameraden 2005；(41)：pp2-5．

### 著書

1) 片山勝利<sup>1)</sup>，野本剛史，江藤正則<sup>1)</sup>，川口克彦<sup>1)</sup>，三村邦裕<sup>2)</sup>，小林光男<sup>3)</sup>，高橋秀治<sup>4)</sup>，元吉正巳<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東武医学技術専門学校，<sup>2)</sup>東洋公衆衛生学院，<sup>3)</sup>北里大学保健衛生専門学院，<sup>4)</sup>東京医学技術専門学校，<sup>5)</sup>JR東京総合病院)：〔編集〕免疫血清検査学，2005；株式会社 京成工 - ジェンシ - ．

2) 片山勝利<sup>1)</sup>，野本剛史，江藤正則<sup>1)</sup>，川口克彦<sup>1)</sup>，三村邦裕<sup>2)</sup>，小林光男<sup>3)</sup>，高橋秀治<sup>4)</sup>，元吉正巳<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東武医学技術専門学校，<sup>2)</sup>東洋公衆衛生学院，<sup>3)</sup>北里大学保健衛生専門学院，<sup>4)</sup>東京医学技術専門学校，<sup>5)</sup>JR東京総合病院)：〔編集〕輸血・移植検査学，2005；三幸印刷株式会社．

3) 町田幸雄：〔共著〕検査室における個人情報保護ガイドライン：検体検査を中心として，2006；(社)日本臨床検査技師会編．

4) 町田幸雄：〔共著〕検査室における個人情報ガイドライン：生体検査を中心として，2006；(社)日本臨床検査技師会編．

5) 町田幸雄：〔共著〕検査情報システムの安全管理に関するガイドライン，2006；(社)日本臨床検査技師会編．

6) 町田幸雄：〔共著〕医療安全管理に関するガイドライン，2006；(社)日本臨床検査技師会編．

7) 町田幸雄：〔共著〕医療機器管理に関するガイドライン，2006；(社)日本臨床検査技師会編．

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

1) 町田幸雄：検査部における個人情報の取扱いについて．平成17年度社会保険病院検査技師長研修会，2005．6．

2) 町田幸雄：個人情報保護に関する法律：検査室の対応は？．平成17年度私立医科大学臨床検査技師会学術研修会，2005．7．

3) 町田幸雄：検査室における患者データの管理について．東京都臨床検査技師会渉外部研修会，2005．11．

#### (2) シンポジウム：

1) 町田幸雄：個人情報保護に関する法律：プライバシ - マ - ク制度．第42回関東甲信地区医学検査学会，2005．9．

#### (3) 一般講演：

1) 石渡統夫，稲川美実，野本剛史，長峰誠一郎<sup>1)</sup>，高橋昌子<sup>1)</sup>，渡辺数由<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>富士市立中央病院)：検出抗体の地域性についての検討．第54回日本医学検査学会，2005．5．

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

医療環境が大きく変化していく中，安全に業務を遂行しながら各方面で課題を持ち成果をまとめ発表する機会を持つことができました．

その中のひとつに，来年度から薬学教育もいよいよ6年制に移行いたしますが，教育現場に求められること，実際現場でできることを関東私立医科大学病院間で討議し，まとめていく過程を報告しました．また，常に患者の立場に

立って安全な医療を担うべく取り組んだ結果、治験推進室のかかわりや病棟での持参薬の取り扱い、さらには、緩和ケアチームの成果等も報告、教育のための講演等を行うことができました。

ますます増えるであろう薬剤師に対しての業務を、今後も医療チームを組み成果を報告していければと思います。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 浜田康次：逆走する薬学部．MONTHYミクス 2005；増刊号：25-25．
- 2) 浜田康次：薬剤師のいない夜．MONTHYミクス 2005；増刊号：18-18．
- 3) 浜田康次：モイライが紡ぐ運命の糸．レシピ（南山堂） 2005；4（2）：60-61．
- 4) 浜田康次：PHARM-2E．日本病院薬剤師会雑誌 2005；41（6）：709-709．
- 5) 伊藤義樹：C型肝炎に対する服薬指導．千葉県病薬会報 2005；（149）：4-9．
- 6) 浜田康次：日本人が発見した抗エイズ薬．レシピ（南山堂） 2005；4（3）：56-57．
- 7) 浜田康次：カビ族の叛乱 土壌菌の代理戦争．レシピ（南山堂） 2005；4（4）：66-67．
- 8) 浜田康次：パイ・ドール法．日本病院薬剤師会雑誌 2005；41（11）：1372-1372．
- 9) 浜田康次：唾液の秘密．レシピ（南山堂） 2006；5（1）：58-59．
- 10) 浜田康次：薬局版バランス・スコアカード．日本病院薬剤師会雑誌 2006；42（2）：183-183．
- 11) 浜田康次：CRS（企業の社会的責任）．日本病院薬剤師会雑誌 2006；42（2）：255-255．

### 著書

- 1) 浜田康次，佐竹尚子<sup>1)</sup>，鈴木知子<sup>2)</sup>，中村由喜<sup>3)</sup>，道下佳子<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>大多喜病院，<sup>2)</sup>日本公定所協会，<sup>3)</sup>恵信甲府病院，<sup>4)</sup>星ヶ丘厚生年金病院）：〔監修〕クスリ早分かりガイドブック，2005；pp1-243，医学芸術社．
- 2) 吉澤一巳：〔翻訳〕第12章オピオイド耐性と依存性，第20章グルタミン酸受容体拮抗薬，第35章鎮痛薬の相互作用．痛みの治療薬：その基礎から臨床まで（井上哲夫），2005；pp199-204，エルゼビア・ジャパン．

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 浜田康次：21世紀へのパラダイムシフト：最新薬業事情とトピックス．第61回講師招聘講演会（四病院医療事務研究会），2005．6．

#### (2) 一般講演：

- 1) 吉澤一巳：当院における疼痛緩和チームの活動状況と薬剤師の役割．第2回PCUを考える会，2005．5．
- 2) 吉澤一巳，木本陶子，片岡博邦，小泉はるか<sup>1)</sup>，古山めぐみ<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>2)</sup>，三浦剛史<sup>3)</sup>，益田律子<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>同泌尿器科，<sup>4)</sup>同麻酔科）：Pain Management Team 活動報告（第3報）間歇PCAを用いたがん性疼痛対策．第10回日本緩和医療学会総会，2005．6．
- 3) 山田岳史<sup>1)</sup>，益田律子<sup>2)</sup>，三浦剛史<sup>3)</sup>，古山めぐみ<sup>4)</sup>，藤岡久恵<sup>4)</sup>，伊藤由紀子<sup>4)</sup>，吉澤一巳<sup>5)</sup>，木本陶子<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>同麻酔科，<sup>3)</sup>同泌尿器科，<sup>4)</sup>同看護部，<sup>5)</sup>同薬剤科）：緩和ケアにおける知識・意識：現状調査と，現状分析をもとに実施した学習会の評価．第10回日本緩和医療学会総会，2005．6．
- 4) 伊藤義樹，福田恵子，吉澤雅史<sup>1)</sup>，厚川正則<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院内科）：ペグインターフェロン 2a製剤の臨床報告．第35回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（千葉），2005．8．
- 5) 勇 美穂<sup>1)</sup>，伊藤義樹，相良由里子，中山 健，その他<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>わかば薬局，<sup>2)</sup>16施設）：医薬品の客観的評価の試みⅤ：3種類の薬剤を対象として．第35回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（千葉），2005．8．
- 6) 貫川東洋，薄木玲子，吉江文彦，佐治 守，福田恵子，菊池陽子<sup>1)</sup>，深井靖雄<sup>2)</sup>，中嶋隆夫<sup>2)</sup>，南 和文<sup>2)</sup>

- (<sup>1</sup>)千葉北総病院看護部,<sup>2</sup>)同整形外科): 難治性 methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) 感染褥瘡に関する臨床的検討. 第35回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(千葉), 2005. 8.
- 7) 稲本正之, 荒木綾子<sup>1</sup>), 片岡博邦<sup>2</sup>), 福田恵子, 畑 典武<sup>3</sup>)(<sup>1</sup>) 治験推進室, <sup>2</sup>) 第二病院, <sup>3</sup>) 千葉北総病院集中治療室): 当院治験推進室の臨床(自主)研究への関与と取り組み. 第35回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(千葉), 2005. 8.
- 8) 小川雅教<sup>1</sup>), 浜田康次, 山村重雄<sup>2</sup>), 吉岡ゆう子<sup>3</sup>), 野本 禎<sup>4</sup>), 折井孝男<sup>5</sup>)(<sup>1</sup>) (有)メディファーム, <sup>2</sup>) 東邦大学薬学部, <sup>3</sup>) ネオフィスト研究所, <sup>4</sup>) 東日本メディコム(株), <sup>5</sup>) NTT東日本関東病院): 医療用医薬品添付文書中の薬物代謝酵素情報をベースにした薬物間相互作用チェック支援システムの構築. 第38回日本薬剤師会学術大会(広島), 2005. 10.
- 9) 吉岡ゆう子<sup>1</sup>), 浜田康次, 小川雅教<sup>2</sup>), 山村重雄<sup>3</sup>)(<sup>1</sup>) ネオフィスト研究所, <sup>2</sup>) (有)メディファーム, <sup>3</sup>) 東邦大学薬学部): 医療用医薬品添付文書ビジュアル化の試み(第1報): ファーマカードの有用性. 第38回日本薬剤師会学術大会(広島), 2005. 10.
- 10) 稲本正之, 荒木綾子, 畑 典武, その他<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) イーピーリンク他): 医療機関とSMOの連携と今後の課題. 第5回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 2005. 10.
- 11) 小川雅教<sup>1</sup>), 浜田康次, 山村重雄<sup>2</sup>), 吉岡ゆう子<sup>3</sup>), 野本 禎<sup>4</sup>), 折井孝男<sup>5</sup>)(<sup>1</sup>) (有)メディファーム, <sup>2</sup>) 東邦大学薬学部, <sup>3</sup>) ネオフィスト研究所, <sup>4</sup>) 東日本メディコム(株), <sup>5</sup>) NTT東日本関東病院): 医療用医薬品添付文書中の薬物代謝酵素情報を基盤にした薬物間相互作用チェック支援システムの構築と評価. 第6回日本医療情報学会(横浜), 2005. 11.
- 12) 畑 典武<sup>1</sup>), 稲本正之, 荒木綾子<sup>2</sup>), 福田恵子, 柴田昌子<sup>2</sup>), 落合好乃<sup>2</sup>)(<sup>1</sup>) 千葉北総病院集中治療部, <sup>2</sup>) 同治験推進室): 市販後(製造販売後)使用成績調査のIRB審査についての検討. 第26回日本臨床薬理学会, 2005. 12.
- 13) 山田岳史<sup>1</sup>), 益田律子<sup>2</sup>), 三浦剛史<sup>3</sup>), 藤岡久恵<sup>4</sup>), 吉澤一巳, 木本陶子, 田中宣威<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 千葉北総病院外科, <sup>2</sup>) 同麻酔科, <sup>3</sup>) 同泌尿器科, <sup>4</sup>) 同看護部): 大学病院における看護師に対する緩和医療教育: 緩和ケア卒業学習の重要性: 知識調査を元に計画した学習会の評価. 第6回千葉緩和医療研究会, 2006. 2.
- 14) 千葉達夫<sup>1</sup>), 吉江文彦, 原田香里, 浜田康次, 福田恵子, 山村重雄<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 東邦大学薬学部): HMG-CoA 還元酵素阻害薬の脂質低下作用における性差. 日本薬学会第126年会(仙台), 2006. 3.
- 15) 津田麻記絵<sup>1</sup>), 浜田康次, 星 憲司<sup>1</sup>), 川上準子<sup>1</sup>), 金澤洋祐<sup>1</sup>), 中村 仁<sup>1</sup>), 佐藤憲一<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 東北薬科大学): 抗菌薬情報のビジュアル化 サークル図とSOMマップの作成. 日本薬学会第126年会, 2006. 3.
- 16) 小川雅教<sup>1</sup>), 浜田康次, 吉岡ゆう子<sup>2</sup>), 野本 禎<sup>3</sup>), 山村重雄<sup>4</sup>), 折井孝男<sup>5</sup>)(<sup>1</sup>) (有)メディファーム, <sup>2</sup>) ネオフィスト研究所, <sup>3</sup>) 東日本メディコム(株), <sup>4</sup>) 東邦大学薬学部, <sup>5</sup>) NTT東日本関東病院): 添付文書中の薬物代謝酵素情報(P450CYP)を基盤にした薬物間相互作用チェック支援システム. 日本薬学会第126年会(仙台), 2006. 3.
- 17) 伊藤義樹, 福田恵子: 包括医療制度と治療費の比較. 日本薬学会第126年会(仙台), 2006. 3.
- 18) 土井啓員<sup>1</sup>), 相良由里子, 伊藤義樹, 中山 健, その他<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 東邦大学佐倉病院): 医薬品の客観的評価の試み VI オキサリプラチン, ロスバスタチン, 抗菌薬皮内反応試験について. 第21回千葉県会員発表会, 2006. 3.
- 19) 實川東洋, その他<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 関東私立医大病院薬剤部研究会): 学生病院実務実習方略の実施調査結果にもとづく改善と標準化: 製剤実務実習方略. 日本薬学会第126年会(仙台), 2006. 3.
- 20) 中山菜央<sup>1</sup>), 古山めぐみ<sup>2</sup>), 藤岡久恵<sup>2</sup>), 三浦剛史<sup>3</sup>), 山田岳史<sup>4</sup>), 益田律子<sup>5</sup>), 吉澤一巳, 木本陶子, 橋口英俊<sup>6</sup>), 木村真人<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科, <sup>2</sup>) 同看護部, <sup>3</sup>) 同泌尿器科, <sup>4</sup>) 同外科, <sup>5</sup>) 同麻酔科, <sup>6</sup>) ルーテル学院大学): 当院における疼痛緩和チームの活動状況と心理士の役割. 第106回日本心身医学会関東地方会, 2006. 3.

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。

一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている。

透視撮影部門では上部消化管造影法や心因性嚔下障害の診断技術について各診療科との連携を行っている。

MRI検査部門では基礎臨床における研究を継続して行っている。今年度は基礎検討としてはフィルター処理による頭部画像の画質の向上化、緩和時間と各種撮像パラメータがMRI及ぼす影響についての報告が行われた。臨床面では新しい撮像法における脳腫瘍の造影効果に関して、また内耳の高分解能撮影法など多岐にわたる研究を進めている。

RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて、脳神経系についても行っている。

放射線治療部門では放射線治療計画におけるウエッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。

CT検査部門では3D-CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Maruyama T, Watanabe T, Tomisato K, Miwa M, Kawamura Y, Nakajima T<sup>1)</sup>, Okada S ( <sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery, <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Development of an Imaging System Using 1/20th the Normal Dose : Application to Whole Spinal Imaging . Radiological Society North America, 91st Scientific Assembly and Annual Meeting , 2005 . 11 .
- 2) 阿部雅志, 加藤文司, 結城聖子, 仲田佳宏, 富里謙一, 渡辺典男, 川村義彦 : MR-cisternography の検討 : 3D-FIESTA 法と 3D-Fast Recovery Fast Spin echo 法 . 日本放射線技術学会 第 61 回総会学術大会, 2005 . 4 .
- 3) 加藤文司, 富里謙一, 井上垂矢, 阿部雅志, 結城聖子, 渡辺典男, 川村義彦 : 転移性脳腫瘍のガドリニウム高用量 MRI : 異なる T1 緩和時間をもつ腫瘍モデルの信号強度変化 . 日本放射線技術学会 第 61 回総会学術大会, 2005 . 4 .
- 4) 加藤文司, 富里謙一, 井上垂矢, 阿部雅志, 仲田佳宏, 渡辺典男, 川村義彦 : FIESTA 法における腫瘍の造影効果 : 造影剤濃度と画像コントラスト . 日本放射線技術学会 第 61 回総会学術大会, 2005 . 4 .
- 5) 丸山智之, 渡辺典男, 三輪宗史, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科) : 全脊椎撮影に於ける低線量撮影の検討 . 日本放射線技術学会 第 61 回総会学術大会, 2005 . 4 .
- 6) 加藤文司, 結城聖子, 仲田佳宏, 阿部雅志, 富里謙一, 渡辺典男, 川村義彦 : 女性骨盤の MRI : 子宮の T2 強調画像コントラスト . 日本放射線技術学会 第 59 回東京部会春期学術大会, 2005 . 5 .
- 7) 加藤文司, 阿部雅志, 結城聖子, 仲田佳宏, 富里謙一, 渡辺典男, 川村義彦 : Fast Spin Echo T2 強調画像における : 子宮 3 層構造の信号強度変化とコントラスト . 日本放射線技術学会 . 第 33 回秋期学術大会, 2005 . 5 .
- 8) 丸山智之 : 被曝低減とノイズ・撮影システム構築と被曝軽減 . 日本放射線技術学会東京部会 第 6 回技術シンポジウム, 2005 . 10 .
- 9) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>, 吉田和則<sup>2)</sup>, 中野秀治<sup>3)</sup>, 川野美樹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>東京医科大学放射線科, <sup>3)</sup>東邦大学医学部附属大森病院放射線科, <sup>4)</sup>東京慈恵会医科大学附

属病院放射線科): CRによる高周波信号の特徴抽出: 肋骨撮影への応用. 日本放射線技術学会 第33回秋季学術大会, 2005. 10.

- 10) 丸山智之: 耳鼻科形成領域の頭部撮影技術. 日本放射線技術学会東京部会 第113回技術フォーラム, 2005. 10.
- 11) 加藤文司, 渡辺典男, 川村義彦: 多発性硬化症の頭部MRI: T1強調像における脱髄斑の信号変化とコントラスト. 日本放射線技術学会 第26回東京部会秋期学術大会, 2005. 11.
- 12) 村越秀光, 恵志正輝, 丸山智之, 川村義彦: 空港クリニックにおける放射線科の役割. 日本放射線技師会 第21回総合学術大会, 2005. 11.
- 13) 河原崎昇, 菅沼一男, 高岡慎市, 田村 京, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 楔フィルタ使用での非対称照射野における治療計画装置のMU値計算について. 日本放射線腫瘍学会 第18回学術大会, 2005. 11.
- 14) 加藤文司, 渡辺典男, 川村義彦, 小倉順子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): T1強調型FLAIR法における造影効果: 造影剤濃度と画像コントラストについて. 第33回千葉MR研究会, 2006. 2.

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

当歯科では, 歯科治療における歯周治療への応用として, 炭酸ガスレーザー, Nd-YGAレーザー, 半導体レーザー, 高周波レーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的效果について研究.

歯周組織再生療法の応用方法では, 各種移植材を用いての検討およびヒト初期胎盤由来因子やヒト骨髄由来因子の成長因子を用いた再生療法についての基礎的研究および臨床的效果について研究.

歯周病原性細菌に対する各種抗菌剤の効果についての基礎的研究および臨床的效果について研究.

交通外傷におけるインプラント治療の長期応用に対する臨床的效果について研究.

有病者や身体障害者における口腔衛生管理に対する臨床的效果について研究などを行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Sato E<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>2)</sup>, Tachibana T<sup>2)</sup>, Kamoi H, Ishikawa H<sup>2)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Dentistry, <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Jikei University School of Medicine): Proliferation and tube formation of periodontal endothelial cells. HUMAN CELL 2005; 18(2): 83-91.
- 2) Nagai M<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Kamoi H, Kamoi K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Dentistry, Tokyo, Japan.): Effects of Application of Platelet Releasate in Periodontal Regeneration Therapy. Int. J. Periodont. Rest. Dent. 2005; 25(6): 571-583.
- 3) 鴨井久博: 口腔内再生医療の基礎と応用: PR (Platelet Rich; 血小板由来因子) 応用の可能性. 歯科臨床研究 2005; 2(2): 8-17.

#### 著書

- 1) 鴨井久博, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): [ 翻訳 ] 口腔内病変におけるCO2レーザーによる切除生検: ケースシリーズの研究. Int. J. Periodont. Rest. Dent. Japan 13(4), 2005; pp18-25, クインテ

ッセンス出版 .

- 2) 長井正彦<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): [ 翻訳 ] 歯周組織再生療法への血小板由来因子の応用 . Int. J. Periodont. Rest. Dent. Japan 14 (1), 2006 ; pp34-44, クインテッセンス出版 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 石川 博<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学解剖学第2): ヒト初期胎盤由来因子の歯周組織再生に対する影響 : 免疫組織学的検討 . 第48回春季歯周病学会学術大会, 2005 . 4 .
- 2) 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 海草由来骨補填材 (C-GRAFT<sup>R</sup>) を用いた歯周組織再生に対する研究 . 日本歯科保存学会2005年度秋季学会, 2005 . 11 .

## [ 千葉北総病院看護部 ]

### 研究概要

本年の院内での研究発表は, 9演題の発表が行われた . 内容的には, 各専門領域の臨床での看護の質の向上を目指すものであった .

<テーマ>

- 1) 「ケア計画に結びつく看護記録1号用紙の検討」  
~短期入院を対象としたデータベースとアセスメント過程に焦点をあてて~
- 2) 「手術を受ける患者へのオリエンテーション方法の有効性」  
~パンフレットの振り返りと患者の準備行動の実態~
- 3) 「消化器疾患患者の転倒・転落要因の抽出」
- 4) 「語りを聴く事を通して患者理解が深められた事例の一考察」
- 5) 「誤嚥性肺炎予防に有効な口腔ケアの検討」
- 6) 「一人で眼科外来通院する老年患者の看護支援」
- 7) 「肺癌患者のグループ形成過程と患者交流が及ぼす相互作用」  
~患者当事者が入院中に形成したグループの実態~
- 8) 「器械出し看護師の手術進行状態に応じた行動とその獲得過程」
- 9) 「看護師が退職したいと表明したときの状況と退職を踏み止まった要因」

院外発表は7演題が行われ, 年々増加傾向にある . 1) ~ 4) は, 四病院看護継続教育において1年間受講し, その成果として各専門領域で研究発表を行った .

- 1) 産褥早期に乳房ケア外来を訪れた褥婦のニーズとその支援
- 2) 心疾患患者の再入院となる要因とそれに関連したライフスタイルの変化との関係
- 3) フライトナースが遭遇する困難な状況判断の分析
- 4) 交通事故により救命救急センターへ緊急入院した患者の入院初期における言動の変化
- 5) 誤嚥性肺炎予防に有効な口腔ケアの検討
- 6) 緩和医療におけるチーム医療の現状とあり方について ~ 医師と看護師の意識調査からの検討 ~
- 7) ドクターヘリにおける効率的な情報提供について ~ ドクターヘリ患者搬送表を改善して ~



## 研究業績

### 著書

- 1) 増渕美恵子：〔共著〕6章「医療領域におけるホスピタリティ」．ビジネスクリエーターとホスピタリティ（亀川雅人），2006；pp177-198，創成社．
- 2) 菅原光子：〔共著〕「ストーマの位置決定の方法」．ストーマリハビリテーション・実践と理論（ストーマリハビリテーション講習会実行委員会），2006；pp109-113，金原出版．

### 学会発表

#### (1) ワークショップ：

- 1) 伊藤智美，加藤美和子，飯田紋子，岡田知弥子，宮本恵美，松田朋子：脳卒中専門医時代のチーム医療．第24回 The Mt. Fuji Workshop on CVD，2005．9．

#### (2) 一般講演：

- 1) 紺野久美子：産褥早期に乳房ケア外来を訪れた褥婦のニーズとその支援．第36回日本看護学会 母性看護，2005．7．
- 2) 国崎亜希：心疾患患者の再入院となる要因とそれに関連したライフスタイルの変化との関係．第36回日本看護学会 成人看護II，2005．7．
- 3) 佐藤 愛，堀米優子，小田むつみ，加藤美和子，久野香織，高橋祐子，松本麻依子，佐々木優子，野口 素，水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科)：誤嚥性肺炎予防に有効な口腔ケアの検討．第14回日本意識障害学会，2005．7．
- 4) 平田貴和子，笹岡香里，小黒亜希，外谷地香，村本加奈子，鈴木佳澄，中川美都子，鈴木真由美，伊藤頼子，松丸雪江：緩和医療におけるチーム医療の現状とあり方について：医師と看護師の意識調査からの検討．第10回日本緩和医療学会総会，2005．7．
- 5) 大森章代，干場ひふみ：フライトナースが遭遇する困難な状況判断の分析．第7回日本救急看護学会学術集会，2005．10．
- 6) 干場ひふみ，星島洋子，水野憲宏：ドクターヘリにおける効率的な情報提供について：ドクターヘリ患者搬送表を改善して．第12回日本航空医療学会，2005．11．
- 7) 竹内 信，斉藤亜沙美，河野由里：交通事故により救命救急センターへ緊急入院した患者の入院初期における言動の変化．第56回日本救急医学会関東地方会，2006．2．

## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [ 病理学部門 ]

### 研究概要

研究成果としては、1) ケロイド癒痕中の線維芽細胞がIL-6を放出するが電子線照射がその活性を抑制する機序を明らかにしJ Invest Dermatolに報告した(形成外科 土佐)。2) 間質性肺炎のusual interstitial pneumonia (UIP) とnonspecific interstitial pneumonia (NSIP)との間には、肺泡毛細血管内皮に特徴的变化がありそれを3D再構築で明らかにした(リウマチ科 立原)。3) 肺塞栓血栓症誘発を動物で試みたい肺動脈基幹部に器質化血栓を形成することに成功した(リウマチ科 松岡)。4) LPSによる急性肺傷害を作成し、老研生化学部門の作成したFNKタンパクが用量依存性に組織損傷を抑制し治療効果を示すことが分かった。FNKタンパクが血管内皮と上皮のアポトーシスを抑制するためと見なされた(ハルビン医科大学助教授Jin Zhanfeng, 講師Chen He)。これらの結果は現在原著論文として準備中である。

その他の活動としては、1) 金 恩京は川並, 松岡と米国胸部疾患学会に参加途上ハーバード大学Beth Israel Deaconess Medical Center, Vascular Biology Center (Prof. William Aird)で合計5時間のInterviewを受けた。2ヵ月後合格の通知があり現在ポスドクの資格で滞在中である。2) 川並, 金 恩京は国際交流センターの依頼により中国瀋陽市(東北大学)で開催された国際学長論壇大会(荒木学長代理)に参加し大学の将来像について討論した。3) ガジザデ助教授は長年にわたる臨床家との共同研究を通し多彩な新知見を得ると同時に、多くの学位取得者を生み大学の発展にも尽くしたことで第1回日本医科大学賞(研究部門)の受賞を受けた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Katsumata S<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Tachihara A<sup>1)</sup>, Wauke K<sup>2)</sup>, Saito S<sup>2)</sup>, Jin E, Kawanami O, Ogawa R<sup>3)</sup>, Yoshino S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Shizuoka Hospital for Rheumatism, Orthopedic and Rehabilitation, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Changes in coagulation-fibrinolysis marker and neutrophil elastase following the use of tourniquet during total knee arthroplasty and the influence of neutrophil elastase on thromboembolism. Acta Anaesthesiol Scand 2005; 49(4): 510-516.
- 2) Tosa M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Shimizu H, Hirai T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Kawanami O(<sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Second Hospital, Kawasaki, Japan, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Global gene expression analysis of keloid fibroblasts in response to electron beam irradiation reveals the involvement of interleukin-6 pathway. J Invest Dermatol 2005; 124(4): 704-713.
- 3) Adachi A<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Maeda M<sup>2)</sup>, Kaizu K<sup>2)</sup>, Liu XL<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics Nippon Medical School): Electron microscopic studies on the occurrence of activated neutrophils in peripheral blood of children with acute leukemias. J Submicrosc Cytol Pathol 2005; 37(1): 13-18.
- 4) Okino K<sup>1)</sup>, Konishi H<sup>1)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Yoneyama K<sup>1)</sup>, Ota Y<sup>1)</sup>, Jin E, Kawanami O, Takeshita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ): Up-regulation of growth factor receptor-bound protein 10 in cervical squamous cell carcinoma. Oncol Rep 2005; 13(6): 1069-1074.

- 5) Pan J<sup>1, 2)</sup>, Pan X, Wang N<sup>2)</sup>, Ghazizadeh M, Yeldandi A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> College of Life Sciences, Shandong Normal University, People's Republic of China, <sup>2)</sup> College of Life Sciences, Zhejiang University, Zi-jing-gang Campus, <sup>3)</sup> 4Department of Pathology, Northwestern University, Feinberg School of Medicine ): Characterization of the degradation of recombinant rat urate oxidase in tetracycline controlled gene expression cells . J Electron Microsc ( Tokyo ) 2005 ; 53 ( 9 ): 1121-1129 .
- 6) Fujiwara M, Jin E, Ghazizade M, Kawanami O : Activation of PAR4 induces a distinct Actin fiber formation via p38 MAPK in human lung endothelial cells . J Histochem Cytochem 2005 ; 53 ( 9 ): 1121-1129 .
- 7) Sato S<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>2)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Wakamatsu K<sup>2)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> First Department of Pathology, Nippon Medical School ): Reduplicated basal lamina of the peritubular capillaries in renal biopsy specimens . J Submicrosc Cytol Pathol 2005 ; 37 ( 3-4 ): 305-311 .

( 2 ) グラビア :

- 1) Minton C<sup>1)</sup>, Jin E, Taniuchi N, Matsuoka T, Yamagishi S, Ghazizadeh M, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Visiting High-school Student, Uppingham School, Uppingham, UK ): Demonstration of microvessel networks and endothelial cell phenotypes in the normal murine lung . J Nippon Med Sch 2005 ; 72 ( 6 ): 314-315 .

学会発表

( 1 ) シンポジウム :

- 1) ガジザデモハマッド, 谷内七三子, 山岸茂樹 : Tracheobronchial wall vessel remodeling and endothelial cell activation in a Murine asthma model ( 気管支喘息の気道リモデリング : 特に血管内皮細胞と血液凝固系との関連について ). 第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2005 . 10 .
- 2) 金 恩京, 川並汪一 : 健康および気管支喘息における気管支循環系の血管内皮細胞の表現型 ( 気管支喘息の気道リモデリング : 特に血管内皮細胞と血液凝固系との関連について ). 第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2005 . 10 .

( 2 ) 一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Shimizu H, Tosa M<sup>1)</sup>, Egawa S, Hirai T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Second Hospital, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School ): Functional evidence for the involvement of IL-6 signal pathway in keloid pathogenesis . 第94回日本病理学会総会, 2005 . 4 .
- 2) Jin E, Tachihara A<sup>1)</sup>, Matsuoka T, Takemura T<sup>2)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgical Pathology ): Alveolar capillary remodeling in NSIP and UP might be in part due to the imbalance of VEGF/VEGFR expressions in alveolar walls . ATS2005 ( SanDiego, USA ), 2005 . 5 .
- 3) ガジザデモハマッド, 清水 一, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 枝川聖子, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ): ヒト食道扁平上皮癌における放射線照射後のMetAP2遺伝子発現の抑制について . 第64回日本癌学会学術総会, 2005 . 9 .
- 4) Tosa M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Department of plastic and reconstructive surgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Response of keloid fibroblasts to electron beam irradiation by cDNA microarray analysis . 1st Scar Meeting, 2006 . 3 .
- 5) 山岸茂樹, ガジザデモハマッド, 清水 一, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ): Clinicopathological characterization of MetAP2 expression in non-small cell lung cancer . 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 3 .

- 6) 清水 一, 枝川聖子, ガジザデモハマッド, 原 博<sup>1)</sup>, 福田剛明<sup>2)</sup>, 鈴木利光<sup>2)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>原産婦人科医院, <sup>2)</sup>福島県立医科大学医学部病理学第二講座 ): マトリゲルインページョン法による卵巣癌細胞株の浸潤能の解析. 第46回日本臨床細胞学会総会, 2005. 4.
- 7) 松岡利明, 立原章年<sup>1)</sup>, 金 恩京, 吉野槇一<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>リウマチ科 ): 肺動脈血栓栓症の新しい動物モデル. 第49回日本リウマチ学会総会, 2005. 4.
- 8) 松岡利明, 立原章年<sup>1)</sup>, 金 恩京, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>リウマチ科 ): 肺動脈血栓栓症の新しい動物モデル. 第94回日本病理学会総会, 2005. 4.
- 9) 清水 一, ガジザデモハマッド, 枝川聖子, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, トーマスグレス<sup>3)</sup>, 鈴木利光<sup>4)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同第二病院産婦人科, <sup>3)</sup>Department of internal of medicine I, University Medica Center, University of Ulm, Germany, <sup>4)</sup>福島県立医科大学医学部病理学第二講座 ): ヒト卵巣がんにおけるプロテアーゼネキシン1の機能解析. 第64回日本癌学会学術総会, 2005. 9.
- 10) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド, 清水 一, 大木琴美<sup>1)</sup>, 内谷栄一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科 ): ケロイド発生におけるIL-6シグナル伝達回路に関する機能的解析. 第14回形成外科学会基礎学術集会, 2005. 10.
- 11) 枝川聖子, 谷内七三子, 清水 一, 松本光司<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>第二病院病理部 ): 肺肉芽腫性の鑑別診断における気管支肺胞洗浄液 (BAL) 細胞診の重要性. 第44回日本臨床細胞学会秋季大会, 2005. 11.
- 12) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院形成外科・美容外科 ): ケロイド発生過程におけるIL-6 signal pathwayの関与についての機能解析. 第35回日本創傷治癒学会, 2005. 12.
- 13) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 清水 一, ガジザデモハマッド, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 杠葉 良<sup>2)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>外科学第1 ): ヒト食道扁平上皮癌放射線照射後に低下する遺伝子MetAP2の意義. 第39回制癌剤適応研究会, 2006. 3.

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

主な研究テーマは、(1)ミトコンドリアをターゲットとした細胞死抑制強化蛋白質を用いた蛋白質導入治療法の開発、(2)脳神経変性疾患や老化におけるミトコンドリアと酸化ストレスの役割、(3)ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異と癌、老化、疾患の関連、(4)ミトコンドリアと核のクロストークの分子機構、(5)ミトコンドリア脳筋症の分子機構と治療法の開発、(6)ミトコンドリアと細胞分化との関連、などである。

ミトコンドリアと疾患の関連研究は、国際的にも広く注目され、2006年には、OncogeneとJournal of Alzheimer diseaseでミトコンドリア特集が企画され、両方から太田は執筆を依頼された。

本年度の研究では、J. Cell Sci. に、ミトコンドリアの形成を制御する新しい因子MIDASの論文が掲載された。

ALDH2(アルデヒド脱水素酵素2)の研究では、脳のALDH2酵素活性を低下させた遺伝子操作マウスを作製したところ、老化に伴い神経細胞が死滅し、認知障害が生じることがわかった。老化に伴う認知症のモデル動物として期待される。

蛋白質導入治療法の開発では、蛋白質導入ペプチド(PTD)に接続された蛋白質は細胞種に関わらず細胞内に取り込まれるのではなく、癌細胞と正常細胞では全く違うことが分かった。これを利用し癌細胞と正常細胞を区別した治療法を開発したい。

また、本研究室の知的財産の実用化を目的としたベンチャー企業株式会社ミトスを設立した。Mitosはミトコンドリアの省略語であり、ミトコンドリア研究の実用化の意思を明確に表した。

学会活動では、日本ミトコンドリア研究会を発展させて日本ミトコンドリア学会を設立した。太田は常任理事として活動を支えている。第一回年会は、アジアミトコンドリア医学研究会との合同で国際コンファレンスを開催し、当研究室は、この運営に携わった。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Asoh S, Mori T, Nagai S, Yamagata K, Nishimaki K, Miyato Y, Shidara Y<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. Pathol., Tokyo Women's Med. Univ., Sch. Med. ): Zonal necrosis prevented by transduction of the artificial anti-death FNK protein. Cell Death Differ. 2005 ; 12 ( 4 ): 384-394 .
- 2) Uematsu M, Ohsawa I, Aokage T, Nishimaki K, Matumoto K<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Asoh S, Teramoto A<sup>3)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. Pathol. , <sup>2)</sup>Dept. Neurosurg. Second Hosp. , <sup>3)</sup>Dept. Neurosurg. ): Prognostic significance of the immunohistochemical index of survivin in glioma: a comparative study with the MIB-1 index. J. Neurooncol. 2005 ; 72 ( 3 ): 231-238 .
- 3) Yasukawa T<sup>1,3)</sup>, Kirino Y<sup>1,2)</sup>, Ishii N, Holt IJ<sup>3)</sup>, Jacobs HT<sup>4)</sup>, Makifuchi T<sup>5)</sup>, Fukuhara N<sup>6)</sup>, Ohta S, Suzuki T<sup>1,2)</sup>, Watanabe K<sup>1,2,7)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Chem. Biotechnol., Grad. Sch. Engin., Univ. Tokyo, <sup>2)</sup>Dept. Integrated Biosci., Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, <sup>3)</sup>MRC Dunn Human Nutrition Unit, <sup>4)</sup>Inst. Med. Technol. and Tampere Univ. Hosp., Finland, <sup>5)</sup>Noto General Hosp., Ishikawa, Dept. Clinical Res., <sup>6)</sup>Urol., Nagoya Univ. Grad. Sch. Med., <sup>7)</sup>BIRC, Natl. Inst. Advanced Indus. Sci. Technol ): Wobble modification deficiency in mutant tRNAs in patients with mitochondrial diseases. FEBS Lett. 2005 ; 579 ( 13 ): 2948-2952 .
- 4) Sudo K, Asoh S, Ohsawa I, Ozaki D, Yamagata K, Ito H<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. Orthopedic Surgery ): The anti-cell death FNK protein protects cells from death induced by freezing and thawing. Biochem Biophys Res Commun. 2005 ; 330 ( 3 ): 850-856 .
- 5) Nakashima-Kamimura N, Asoh S, Ishibashi Y, Mukai Y, Shidara Y<sup>1)</sup>, Oda H<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>2)</sup>, Goto Y<sup>2)</sup>,

- Ohta S ( <sup>1</sup> Dept. Pathol. , Tokyo Women's Med. Univ. , Sch. Med. , <sup>2</sup> Dept. Mental Retardation and Birth Defect Res. , Natl. Inst. Neurosci. , NCNP ): MIDAS/GPP34, a nuclear gene product, regulates total mitochondrial mass in response to mitochondrial dysfunction . J. Cell Sci. 2005 ; 118 ( Pt22 ): 5357-5367 .
- 6) Suzuki Y , Ando F<sup>1</sup> , Ohsawa I , Shimokata H<sup>1</sup> , Ohta S ( <sup>1</sup> Dep. Epidemiol. , Natl. Inst. Longevity Sci. ) : Association of alcohol dehydrogenase 2\*1 allele with liver damage and insulin concentration in the Japanese . J. Hum. Genet. 2006 ; 51 ( 1 ): 31-37 .

## 著 書

- 1) 太田成男 : [ 自著 ] アルツハイマー病におけるミトコンドリア機能低下, 酸化ストレスの役割 . 神経研究の進歩, 2005 ; pp357-366, 医学書院 .
- 2) 太田成男 : [ 自著 ] ミトコンドリア病を引き起こす変異 tRNA : アンチコドンのタウリン修飾欠損 . 細胞工学, 2005 ; pp814-819, 秀潤社 .
- 3) 太田成男 : [ 自著 ] ミトコンドリア異常症の治療戦略 . 日本先天代謝異常学会誌 ( 桃井真理子・井田博幸 ), 2005 ; pp52-61, 日本先天代謝異常学会 .
- 4) 太田成男 : [ 自著 ] 脳梗塞と飲酒の関連は? . 肥満と糖尿病 ( 赤沼安夫・松澤佑次・金澤康徳・岩本安彦・齋藤康・坂根直樹・山田信博 ), 2005 ; pp852-854, 丹水社 .
- 5) 太田成男, 麻生定光 : [ 共著 ] ミトコンドリア DNA 体細胞変異の蓄積と老化・がん・アポトーシス . 蛋白質核酸酵素, 2005 ; pp1765-1769, 共立出版 .
- 6) 太田成男 : [ 自著 ] 動物ミトコンドリア DNA テクノロジーの可能性と問題点 . 蛋白質核酸酵素, 2005 ; pp1899-1900, 共立出版 .
- 7) 太田成男 : [ 自著 ] 核コドンに変換したミトコンドリア DNA 遺伝子の核への導入 . 蛋白質核酸酵素, 2005 ; pp1901-1903, 共立出版 .
- 8) 大澤郁朗, 太田成男 : [ 共著 ] アルツハイマー病の危険因子である酵素活性欠損型アルデヒド脱水素酵素 2 遺伝子 : その分子メカニズムとモデル動物の開発 . 日本認知症学会誌, 2005 ; pp284-295, 日本認知症学会 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Ohta S , Nakashima-Kamimura N : MIDAS/GPP34, a nuclear gene product, regulates total mitochondrial mass in response to mitochondrial dysfunction . International Conference on Mitochondria and Life 2005 ( Tokyo ), 2005 . 12 .
- 2) 太田成男 : 遺伝子の個人差と病気のなりやすさ . 健康科学研究所フォーラム, 2005 . 7 .
- 3) 太田成男 : 糖尿病におけるミトコンドリア DNA 変異 . 第6回糖尿病ミトコンドリア研究会, 2005 . 7 .
- 4) 太田成男 : アルツハイマー病の危険因子としての ALDH2 遺伝子多型, 脳梗塞の危険因子としての ADH2 遺伝子多型 . 第40回日本アルコール・薬物医学会総会, 2005 . 9 .

### (2) 招待講演 :

- 1) Ohta S : Studies on multiple functional mitochondria from Basic aspects towards Medical applications . Fin-MIT/J-Mit Joint Meeting ( Finland ), 2005 . 11 .
- 2) Ohta S : The Hydrogen Molecule as a Scavenger against Reactive Oxygen Species . THAI ASSOCIATION OF TISSUE BANKING ( THAI ), 2005 . 11 .
- 3) 太田成男 : アポトーシス抑制因子 Bcl-x を改変した細胞死抑制活性因子 FNK によるネクローシス阻害 . 第14回日本アポトーシス研究会, 2005 . 7 .
- 4) 太田成男 : 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK を用いた蛋白質導入治療法の開発 . 第7回ペプチドフォーラム,

2005 . 8 .

5) 太田成男: 多彩な機能をもつミトコンドリア . 第23回内分泌・代謝学セミナー , 2005 . 8 .

(3) セミナー :

1) 渡邊健一: 内耳とアポトーシス . 第15回日本耳科学会総会 , 2005 . 10 .

(4) ワークショップ :

1) 渡邊健一<sup>1)</sup>, 麻生定光, 山縣久美, 八木聰明<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学 ): 細胞死抑制活性化蛋白質 FNK は抗癌剤シスプラチン副作用による聴覚障害を抑制する . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .

2) 麻生定光, 森 隆<sup>1)</sup>, 永井信也, 山縣久美, 宮戸靖幸, 設楽雄次郎, 太田成男 ( <sup>1)</sup>埼玉医大・再生医療セ ): 細胞死抑制活性化蛋白質 FNK は四塩化炭素による肝臓带状壊死を抑制する . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .

3) 大澤郁朗, 太田成男: 水素分子 ( H<sub>2</sub> ) による酸化ストレス細胞死の抑制 . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .

4) 石井徳恵, 西楨貴代美, 大澤郁朗, 太田成男: トランスジェニック DAL マウスで惹起される酸化ストレスの飽和水素水飲用による抑制 . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .

5) 福田慶一, 麻生定光, 大澤郁朗, 山本保博<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター ): 水素ガスによる活性酸素フリーラジカルの除去: 虚血再灌流傷害の軽減効果 . 第78回日本生化学会大会 , 2005 . 10 .

(5) 一般講演 :

1) Watanabe K<sup>1)</sup>, Asoh S, Yamagata K, Yagi T<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept, ORL, 2nd Nippon Med. , Sch. Hosp. ): The protein therapy using super anti-apoptotic FNK decreases cisplatin-induced hearing loss . 42nd Workshop on Inner Ear Biology. ( Germany ), 2005 . 9 .

2) Nakashima-Kamimura N, Asoh S, Ishibashi Y, Mukai Y, Shidara Y<sup>1)</sup>, Oda H<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>2)</sup>, Goto Y<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Tokyo Women ' s Med. Univ. , <sup>2)</sup>Dept. Mental Retardation and Birth Defect Res. , Natl. Inst. Neurosci. , NCNP ): MIDAS, a nuclear gene product, that regulates total mitochondrial mass in response to mitochondrial dysfunction . FinMIT/J- Mit Joint Meeting ( Finland ), 2005 . 11 .

3) Yamagata K, Kirino Y<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Grad. Schs. of Frontier Sci. , and Eng. , Univ. of Tokyo ): A nuclear complements the dysfunction of mitochondrial mutant tRNA . FinMIT/J- Mit Joint Meeting ( Finland ), 2005 . 11 .

4) Asoh S, Mori T<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>2)</sup>, Yamagata K, Nishimaki K, Yagi T<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Saitama Med. , Ctr. /Sch. , , <sup>2)</sup>Dept, ORL, 2nd Nippon Med. , Sch. Hosp. ): The anti-cell death protein FNK targeted to mitochondria reduces side effects of anti-cancer drugs without affecting their anti-cancer activity . International Conference on Mitochondria and Life 2005 ( Tokyo ), 2005 . 12 .

5) Ohsawa I, Nishimaki K, Murakami Y, Suzuki Y, Ishikawa M, Ohta S : Deficiency in a mitochondrial aldehyde dehydrogenase promotes oxidative stress and the onset of Alzheimer's disease : Its molecular mechanisms and animal models . International Conference on Mitochondria and Life 2005, ( Tokyo ), 2005 . 12 .

6) Nishimaki K, Ohsawa I, Suzuki Y, Nukina T, Kodaira E, Yagihashi S<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Dept. Pathology, Hiroasaki Univ. Sch. Med. ): Development of amyotrophy in mice overexpressing a dominant negative form of mitochondrial aldehyde dehydrogenase . International Conference on Mitochondria and Life 2005 ( Tokyo ), 2005 . 12 .

7) Miyato Y, Mizutani S, Sidara Y, Yamagata K, Ohta S : Somatic mutations in mitochondrial DNA derived from pancreatic cancer cells inhibit apoptosis induced by anticancer drugs by preventing caspase-3 activation in cybrid cells . International Conference on Mitochondria and Life 2005 ( Tokyo ), 2005 . 12 .

8) Murakami Y, Ohsawa I, Ihara Y<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Kasahara T<sup>3)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup>Gunma Univ. , Sch. Health



Sci. , <sup>2)</sup> Dept. of Neuropathol. , Faculty of Med. , Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Dept. of Biochem. , Kyoritsu Univ. of Pharm. ) : Somatic mutations in mitochondrial DNA of the brain from Alzheimer ' s disease patients . International Conference on Mitochondria and Life 2005 ( Tokyo ) , 2005 . 12 .

- 9) 宮戸靖幸, 水谷 聡, 設楽雄次郎, 山縣久美, 太田成男: ミトコンドリア DNA 変異により抗癌剤抵抗性を獲得したヒト癌細胞に対する温熱の効果. 第14回日本アポトーシス研究会, 2005. 7.
- 10) 山縣久美, 桐野陽平<sup>1)</sup>, 鈴木 勉<sup>1,2)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 東大院・新領域, <sup>2)</sup> 東大院・工学系 ): ミトコンドリア病由来の変異ミトコンドリア tRNA 機能低下を相補する核遺伝子のクローニング. 第7回日本RNA学会年会, 2005. 8.
- 11) 大澤郁朗, 西槇貴代美, 鈴木悠子, 太田成男: ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素活性抑制トランスジェニックマウスにおける中枢神経系の加齢に伴う変性. 第24回日本痴呆学会, 2005. 9.
- 12) 村上弥生, 大澤郁朗, 井原康夫<sup>1)</sup>, 山口晴保<sup>2)</sup>, 笠原 忠<sup>3)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 東大院・医・基礎神経, <sup>2)</sup> 群大医・保健学・総合理学療法, <sup>3)</sup> 共立薬科大学 ): アルツハイマー病患者脳におけるミトコンドリア DNA の体細胞変異解析. 第24回日本痴呆学会, 2005. 9.
- 13) 上村尚美, 麻生定光, 森 隆<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 埼玉医大・再生医療セ ): 細胞死抑制活性強化タンパク質 PTD-FNK は抗癌副作用による脱毛を予防する. 第78回日本生化学会大会, 2005. 10.
- 14) 麻生定光, 渡邊健一<sup>1)</sup>, 森 隆<sup>2)</sup>, 山縣久美, 西槇貴代美, 八木聡明<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup> 埼玉医大・再生医療セ ): 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK はシスプラチンの抗癌剤を抑制することなくその副作用を軽減・抑制する. 第28回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 15) 上村尚美, 伊藤世由<sup>1)</sup>, 長谷川紀昭<sup>1)</sup>, 鷹岡昭夫<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup> 阪大超高压電顕センター ): 超高压電子顕微鏡によるミトコンドリア構造の3次元解析. 第28回日本分子生物学会年会, 2005. 12.

## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

p53は代表的な癌抑制遺伝子であり、標的遺伝子群の発現を誘導することで癌化を抑制している。正常細胞内で癌遺伝子が活性化すると、細胞内にオンコジェニックストレスが誘起され、その細胞はp53によって排除される。したがって、癌化および癌抑制の全体像を明らかにするためには、(1) p53標的遺伝子の解析による異常細胞の排除機構、(2) p53による癌化の監視機構を回避していかにして癌化がおこるのか、(3) p53の機能喪失が起こった細胞はどのようにして癌化するのか、の3方向から解析を進めていくことが重要であるという判断に至った。

そこで、(1) に関してはp53の新規標的遺伝子の同定を行い興味ある分子の機能解析を進めていると同時に、p53によるアポトーシス誘導の機構の解析を行っている。これらの研究は、本年度は論文にまとめることはできなかったが、早急にまとめるていく。また、これに関してある種の癌細胞ではアポトーシス誘導作用をもつp53標的遺伝子群のいくつかのエピジェネティックな不活性化が起きていることを見出しており、論文投稿中である。

(2) に関しては胃癌、肺癌等多くの癌で恒常的に活性が亢進しているHedgehogシグナルがp53の分解を促進することでp53による癌化の監視機構を回避することで癌化の促進因子であることを初めて発見し、論文を投稿しているところである。さらに、他のp53抑制シグナルに関しては引続き解析している。

(3) 多くの癌で活性が亢進している転写因子NF- $\kappa$ Bの活性がp53によって制御されていること、p53の機能喪失によりNF- $\kappa$ Bが恒常的に活性化されることが癌化に重要であることを発見し、論文の投稿準備をしている。また、p53の機能を喪失した細胞では炎症反応や自然免疫系の制御因子群の活性が誘導されており、これらが癌化の抑制に関与していることを推測させる結果を得ており、解析を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 田中信之：Bcl-2ファミリーと癌。癌の臨床 2005；51(7)：491-497。
- 2) 田中信之：p53経路と発癌。Molecular Medicine 2005；42(9)：1008-1014。
- 3) 佐藤(織田)恵理，田中信之：p53経路の解明はどこまでなされたか？。分子消化器病学 2006；3(1)：30-34。

#### 著書

- 1) 田中信之：〔分担〕細胞増殖の制御と転写。転写研究集中マスター(半田 宏，和田忠士，山口雄輝)，2005；pp101-108，羊土社。

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Nobuyuki T, Kawauchi K：Role of transcription factor NF- $\kappa$ B in p53-mediated tumor suppression and oncogenesis. DECODE Systems for Biological Responses (Tokyo), 2005. 9。

##### (2) 一般講演：

- 1) 飛梅 圭，八木修立郎，川内恵子，阿部芳憲，佐藤(織田)恵理，田中信之：p53欠損細胞特異的なDNA損傷による細胞死誘導経路の同定。第64回 日本癌学会学術総会，2005. 9。
- 2) 川内敬子，飛梅 圭，阿部芳憲，佐藤(織田)恵理，田中信之：p53によるNF- $\kappa$ B活性化抑制の分子機構。第64回日本癌学会学術総会，2005. 9。
- 3) 阿部芳憲，飛梅 圭，佐藤(織田)恵理，田中信之：Hedgehogシグナル活性化によるp53の抑制機構。第64回日本癌学会学術総会，2005. 9。

- 4) 上原郁野, 佐藤(織田)恵理, 安藤 大, 八木修立郎, 飛梅 圭, 田中信之: DNA 損傷のよって p53 欠損細胞特異的に活性化される Stat1 の役割. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 5) 飛梅 圭, 八木修立郎, 中嶋 亘, 佐藤(織田)恵理, 田中信之: p53 欠損細胞における DNA 損傷ストレスによる細胞死誘導経路の同定. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 6) 中嶋 亘, 飛梅 圭, 田中信之: アポトーシス誘導刺激に伴う Bax 活性化機構の解析とそれを制御する分子の同定. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 7) 荒木啓吾, 川内敬子, 田中信之: NF- $\kappa$ B を介した新たな細胞老化誘導機構. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 8) 川内敬子, 田中信之: 転写因子 NF- $\kappa$ B の p53 の癌抑制機構における役割と癌化への関与. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.
- 9) 阿部芳憲, 佐藤(織田)恵理, 飛梅 圭, 川内敬子, 岡本康司<sup>1)</sup>, 田矢洋一<sup>1)</sup>, 田中信之(<sup>1)</sup>国立がんセ・研・放射線): Hedgehog シグナルは p53 による癌抑制作用を妨げることで癌化を促進因子として機能している. 第 28 回日本分子生物学会年会, 2005. 12.

## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明を目指し、ホルモンを対象として生理学的研究を行う。

#### I. corticotropin-releasing factor (CRF) と urocortin の生理作用に関する研究

CRF の生理作用は多様であり、CRF 受容体のクローニング、新たな内因性リガンド urocortin の発見などによって、CRF の機能や病態との関連の解明が進んだ。CRF, urocortin の生理的意義について研究している。今城らは、CRF ノックアウトマウスの脳内遺伝子発現についてワイルドタイプと比較検討し、中枢神経系における新たなCRFの作用を検討している。

#### II. 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用

下垂体からのGH分泌パターンは超日リズムを形成するが、そのリズム形成機構については全く不明である。また、GHは末梢の細胞で諸種の生理作用を持つが、詳細は十分に解明されていない。南らは、GH分泌における超日リズムの発現機構と意義を解明し、GHの生理作用を解明することを目的として研究を行っている。本年度は、GHと小胞体ストレスとの関連を想定して検討をし、unfolded protein response の枢軸となる転写因子であるXBP1遺伝子発現がGHによって誘導されることを見いだした。

#### III. 三量体Gタンパク質を介する細胞内シグナル伝達機構の研究

三量体Gタンパク質のG12サブファミリーを介する細胞内シグナル伝達経路が、神経系形成や細胞の癌化など諸種の現象に関与していることが明らかになってきた。鈴木らは、このような生体现象を制御することを目的として、シグナル活性化機構の分子レベルでの解析を行っている。G12のエフェクターでもありかつ負の制御因子でもある特異的な性質を持つRGS-RhoGEFによる空間的にも時間的にも精緻なG12シグナルの制御機構について解明してきた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Chida D<sup>1)</sup>, Imaki T, Suda T<sup>2)</sup>, Iwakura Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. of Tokyo, <sup>2)</sup> Hirosaki Univ. ): Involvement of Corticotropin-Releasing Hormone- and Interleukin (IL)-6-Dependent Proopiomelanocortin Induction in the Anterior Pituitary during Hypothalamic-Pituitary-Adrenal Axis Activation by IL-1. *Endocrinology* 2005; 146: 5496-5502.
- 2) 今城俊浩, 勝又晴美, 田中知恵, 南 史朗, 須田俊宏<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大3内): マウスの視床下部室傍核 (PVN) の Corticotropin-releasing hormone type-1 receptor (CRFR-1) 遺伝子発現はグルココルチコイドで抑制される. *ACTH RELATED PEPTIDES* 2005; 16: 43-52.

##### (2) 綜説:

- 1) 今城俊浩: 受容体の調節と作用 CRF-R1. *内分泌 糖尿病科* 2005; 5: 499-506.
- 2) 南 史朗, 中田朋子: タンパク・遺伝子からみた分子病: 新しく解明されたメカニズム「成長ホルモン受容体 (GHR)」. *生体の科学* 2005; 56: 428-429.

#### 著書

- 1) 今城俊浩: [ 分担 ] 内分泌疾患の救急処置, シミュレーション内科. 内分泌疾患を探る, 2005; pp42-44, 永井書店.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Suzuki N, Minami S, Kozasa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. of Illinois at Chicago ): A role of the RGS domain in the stimulation of the GEF activity of leukemia-associated RhoGEF by G 13. 第77回日本生化学学会, 2005. 10.
- 2) 鈴木信周, 時田玲子, 今城俊浩, 南 史朗: ラット神経系発生過程における IGF-1 受容体とそのエフェクター, Rho 活性化因子の発現. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 3) 今城俊浩, 勝又晴美, 田中知恵, 須田俊宏<sup>1)</sup>, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 弘前大3内 ): マウスの視床下部室傍核 ( PVN ) の corticotropin-releasing factor type-1 receptor ( CRFR-1 ) 遺伝子発現はグルココルチコイドで抑制される. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 4) 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>2)</sup>, 島本芳子<sup>1)</sup>, 立木美香<sup>1)</sup>, 渡辺大輔<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大2内, <sup>2)</sup> 国立京都病院 ): 選択的アルドステロン拮抗薬エプレレノンによる心臓リバースモデリング効果. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 5) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>2)</sup>, 島本芳子<sup>2)</sup>, 立木美香<sup>2)</sup>, 渡辺大輔<sup>2)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 長田太助<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都病院, <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ): 選択的アルドステロン拮抗薬エプレレノンと非選択的アルドステロン拮抗薬スピロラクトンの臓器保護作用の比較. 第78回日本内分泌学会学術総会, 2005. 7.
- 6) 大塚智之<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 南 史朗, 宗像一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院内科 ): CA125の異常高値を示した Basedow 病クラーゼの1例. 第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2006. 3.

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

#### 1. 乳癌の遺伝子診断・発現解析の臨床への技術移転

昨年度に引き続き、乳癌術後5年間の追跡調査と遺伝子解析により、術後予知因子となる染色体欠失を同定した。これに基づき癌研付属病院（約1000症例）で遺伝子診断を継続し、症例の層別化と高危険群の予測を実施した。さらに heat shock protein が乳癌発症に関与することを見出し、乳癌治療の新しいターゲットとしての可能性を示した。

#### 2. 癌の体系的遺伝子発現解析

下記の癌組織について、マイクロアレイを用いて約3万の遺伝子の発現プロファイルを網羅的に解析した。

##### 1) 甲状腺癌

未分化癌 (cell line) では、GDI2, Stathmin, Destrin等の新規甲状腺癌関連遺伝子を多数同定した。さらに未分化癌 (原発性) でも特徴的な発現パターンを示す新規遺伝子を同定し、これら遺伝子の中から HBB, EFHC1, TMM34等の機能解析を行い、未分化癌発生・進展への関与を示した。

##### 2) 肺癌

遺伝子発現の(1)多発癌と単発癌との差,(2)性差,(3)若年者肺癌と高齢者肺癌との差を網羅的に解析した。これらの結果を基に、現在遺伝子の機能を解析中である。また(1)に関連し、縦郭リンパ節転移群と未転移群との発現の差が real time RT-PCRにて確認された一遺伝子に対し、その発現が病期によらず予後に関連することを示した。

##### 3) 脳腫瘍

神経膠腫 (WHO分類: Grade II, III, IV) の各 grade間における遺伝子発現の差を比較した。各 grade間で発現に差があった遺伝子を real time RT-PCRにて確認し、免疫組織学的染色を行った結果、新たに神経膠腫の病理組織学的な鑑別診断に有用である病理組織マーカーを見出した。

#### 3. 骨粗鬆症の体系的遺伝子多型 (SNP) 解析 (継続課題)

骨粗鬆症の発症に関与する感受性遺伝子多型を同定するため、東京大学老年病科、東京都老人医療センター、東京都老人総合研究所、成人病診療研究所、日本医科大学の5施設にてDNAサンプルを収集した。遺伝子タイピングシステムを構築し、3,500症例のサンプル集団を300万回以上のタイピングにて解析することにより、骨粗鬆症の感受性遺伝子多型マーカーを新たに50個以上同定した。特に DBP, GnRH, QPCT, BNP, POMC, IRAK1, I-TRAF, LIFR, LRP5等の感受性遺伝子多型について、機能解析や詳細な連鎖不平衡の解析を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yokota T, Kouno J<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Onda M, Tsunoda T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Nippon Med School, Dept. Nerosurgery, <sup>2)</sup>Nippon Med School, Dept. Pathology, <sup>3)</sup>RIKEN): Identification of histological markers for malignant glioma by genome-wide expression analysis: dynein, alpha-PIX and sorcin. . *Neuropathologica* 2005; 111 (1): 29-38.
- 2) Shioji G, Ezura Y, Nakajima T, Ogaki K, Fujiwara H, Kubota Y, Ichikawa T, Inoue K, Shuin T, Habuchi T, Ogawa O, Nishimura T, Emi M: Nucleotide variations in genes encoding plasminogen activator inhibitor-2 and serine proteinase inhibitor B10 associated with prostate cancer. *J Hum Genet* 2005; 50 (1): 507-515.
- 3) Fujita Y, Ezura Y, Bujyo H, Nakajima T, Takahashi K, Kamimura K, Iino Y, Katayama Y, Saito Y, Emi M: Association of nucleotide variations in the apolipoprotein B48 receptor gene (APOB48R) with hypercholesterolemia. *J Hum Genet.* 2005; 50 (1): 203-209.

- 4) Nakajima T , Wooding S , Satta Y , Jinnai N , Goto S , Hayasaka I , Saitou N , Guan-Jun J , Tokunaga K , Jorde Lb , Emi M , Inoue I : Evidence for natural selection in the HAVCR1 gene : high degree of amino-acid variability in the mucin domain of human HAVCR1 protein. . *Genes Immun* 2005 ; 6 ( 1 ): 398-406 .
- 5) Onda M , Mizutani K , Asaka S , Akaishi J , Miyamoto S , Yoshida A<sup>1)</sup> , Nagahama M<sup>2)</sup> , Ito K<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Kanagawa Cancer Center , <sup>2)</sup> Ito hospital ): Over Expressed in Anaplastic Thyroid Cancer ?1 ( OEATC-1 ) , as a novel responsible gene for anaplastic thyroid cancer . *Cancer* 2005 ; 103 ( 9 ): 1785-1790 .
- 6) Mizutani K , Miyamoto S , Nagahata T , Konishi N<sup>1)</sup> , Emi M , Onda M ( <sup>1)</sup> Nara Medical School ): Up-regulation and over-expression of DVL-1, the human counterpart of Drosophila disheveled gene, in prostate cancers . *Tumori* 2005 ; 91 ( 6 ): 546-551 .
- 7) Nagahata T , Sato T<sup>1)</sup> , Tomura A<sup>1)</sup> , Onda M , Nishikawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Kayaku Co. Ltd. ): Identification of RAI3 as a therapeutic target for breast cancer. . *Endocrine-related cancer* 2005 ; 12 ( 1 ): 65-73 .

(2) 綜説 :

- 1) 中島敏晶 : 本体性高血圧感受性遺伝子アンジオテンシノーゲン遺伝子の多様性と自然選択 . *医学のあゆみ* 2005 ; 202 ( 1 ): 759-763 .
- 2) 中島敏晶 : 低HDLコレステロール血症とABCA1遺伝子 - SNP解析を基盤とした疾患関連遺伝子研究の問題点 . *最新医学* 2005 ; 60 ( 1 ): 120-127 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Onda M : Gene expression profile of anaplastic thyroid cancer cell lines and the novel candidate gene responsible for anaplastic thyroid cancer carcinogenesis . *AACR Annual Meeting ( Anaheim, USA )* , 2005 . 4 .
- 2) Nakajima T : Evidence for natural selection in the HAVCR1 gene : high degree of amino-acid variability in the mucin domain of human HAVCR1 protein . *American Society of Human Genetics ( Salt Lake City, USA )* , 2005 . 9 .
- 3) 音田正光 : 1 . 甲状腺未分化癌・セルラインにおける遺伝子発現解析 . *日本癌学会* , 2005 . 9 .
- 4) 水谷和則 : 前立腺癌におけるDVL-1遺伝子発現の意義 . *日本癌学会* , 2005 . 9 .
- 5) 横田 隆 : マイクロアレイを用いたgliomaの悪性化に関わる遺伝子の発現解析 . *日本癌学会* , 2005 . 9 .

## [ 生体応答学部門 ]

### 研究概要

I. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している。とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった交感神経神経の1Hz以下のゆらぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見した。このゆらぎは圧受容体反射とは独立であることを相互情報量解析で明らかにした。さらに、この遅い周期の交感神経活動が低次元カオスを起こして、心拍変動の1/fゆらぎを起こしていることも明らかにした。これにより武者らが心拍変動の1/fゆらぎを先駆的に報告して以来謎であったその機序が明らかにされた。高血圧の薬物療法は単に抹消血管を拡張させるだけではなく、中枢性に過度に興奮している交感神経系を抑制させる必要があると考え、その新しい枠組みを考案する予定である。

II. ラット延髄の交感神経の中核と想定される核の活動電位が自律的に興奮しているかどうかを非線形解析から明らかにする予定である。

III. ある現象がカオスかどうかを判定するのはむずかしい問題で、さまざまな検出方法が提案されている。筆者もこの問題に精力的に取り組んでいる。

IV. 心拍変動の1/fゆらぎを再現する電気回路を考案したのでこの臨床応用をめざしている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

1) 大坂元久：不整脈出現の周期性に関する理論。第32回比較心電図研究会，2005．9．

##### (2) 一般講演：

1) 滝本千恵<sup>1)</sup>，熊谷裕生<sup>1)</sup>，大波敏子<sup>1)</sup>，佐方克史<sup>1)</sup>，大坂元久，飯ヶ谷嘉門<sup>1)</sup>，猿田享男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶応義塾大学医学部腎臓内科)：高血圧自然発症ラット(SHR)とストレプトゾトシン誘発性糖尿病を伴う高血圧自然発症ラット(SHR-STZ)における循環調節の線形性・非線形性的変化。第29回日本高血圧学会総会，2005．9．



〔 5 〕 そ の 他

# 1. 教育推進室

## 研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来4年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究および業務内容は拡大し多岐にわたっている。また、医学教育の進歩・変化に即応するため、学外における医学教育に関するワークショップおよびセミナーに参加し新しい教育技法の修得と開発に努めている。

今年度は、Faculty Development (FD)の一環として、昨年に引き続き第2回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第13回医学教育のためのFDワークショップを開催した。

教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し幅広い活動を展開している。

学生による授業評価は、昨年度より本施行となり、評価結果は教員に直ちにフィードバックされ授業改善に結びついている。今年度は新しい学習環境として、クリニカル・シミュレーション・ラボを開設し、同運営委員会の管理の下、学生・研修医等の医療手技の体得に寄与した。また、昨年度に続き模擬患者を養成し、OSCEのみならず基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、卒業前OSCE等に導入し臨床医学教育への活用を実行した。

その他の学内の医学教育への具体的な活動内容については以下に列記する。

- (1) カリキュラム、特に臨床系コース講義の評価と有機的な調整
- (2) 医師国家試験対策
- (3) 総合試験制度の確立と運用
- (4) モデル・コア・カリキュラムと共用試験への対応
- (5) 医学教育に関する講演会の主催等のFD活動
- (6) 学長、教育推進室主催の医学教育セミナーの共催、学内講演会と公開討論会の企画・立案
- (7) 学生教育委員会との教育カンファランス
- (8) 「みんなで学ぼう救急救命」実行委員会主催の心肺蘇生法講習会の後援

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

1) Kokubo Y<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Kataoka K<sup>1)</sup>, Matsuda K<sup>1)</sup>, Okano T<sup>1)</sup>, Minegishi Y<sup>1)</sup>, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Shibuya M<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>4th Dept. of Internal Medicine ): Reduction of PTEN protein and loss of epidermal growth factor receptor gene mutation in lung cancer with natural resistance to gefitinib ( IRES-SA ). British journal of cancer 2005 ; 92 ( 9 ): 1711-1719 .

2) 吉村明修<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第4 ): 大学病院における厚生労働省モデル病室の役割 . 結核 2005 ; 80 ( 12 ): 759-762 .

#### (2) 綜説：

1) 吉村明修 : 薬剤性肺障害 : ゲフィチニブ ( イレッサ ) による急性肺障害・間質性肺炎 . 月刊メディカル・サイエンス・ダイジェスト 2005 ; 31 ( 5 ): 167-169 .

2) 志村俊郎 : 特集 / 卒前医学教育専従部署の紹介 日本医科大学教育推進室 . 医学教育 2006 ; 37 ( 1 ): 62-63 .

## 著 書

- 1) 志村俊郎, 寺本 明, 久保田紀彦: [分担] 脳腫瘍I 5章 神経上皮由来腫瘍 発生起源不明の神経こう腫. 脳神経外科学大系 (山浦 昌), 2005; pp364-372, 中山書店.
- 2) 志村俊郎: [分担] 神経病理学用語集 (日本神経病理学会編), 2005; 日本神経病理学会.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 吉村明修, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第4): 大学病院における厚生労働省モデル病室の役割. 第80回日本結核病学会, 2005. 5.

### (2) 一般講演:

- 1) 折茂英生<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>生化学第2): 医学教育における栄養学教育の現状. . 第59回栄養・食糧学会大会, 2005. 5.
- 2) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 坂本静樹<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>内科学第3, <sup>4)</sup>脳神経外科学): 日本医科大学における臨床実習 (BSL) のアンケートによる実態調査. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 3) 宮川雄一<sup>1)</sup>, 島 淳<sup>1)</sup>, 沼田健裕<sup>1)</sup>, 福永景子<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>脳神経外科学, 教育委員会委員長): 学生と教員による定期的な医学教育検討会の試み. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 4) 阿曾亮子, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 大橋和史<sup>2)</sup>, 吉村明修, 志村俊郎 (<sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設, <sup>2)</sup>薬理学): 4年次学生へのアンケートから見た臨床薬理学実習における服薬体験の有用性. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 5) 後藤 忠<sup>1)</sup>, 石川朋子<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>1)</sup>, 森 美貴<sup>1)</sup>, 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>解剖学第1): 日本医科大学における分子解剖学の授業評価. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 6) 高柳和江<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 吉村明修, 阿曾亮子 (<sup>1)</sup>医療管理学, <sup>2)</sup>内科学第2): 医療面接のSP教育について. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 7) 角館奈緒子<sup>1)</sup>, 高柳和江<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 吉村明修, 阿曾亮子 (<sup>1)</sup>医療管理学, <sup>2)</sup>内科学第2): 模擬患者教育によるSPの行動変容の分析. 第37回日本医学教育学会, 2005. 7.
- 8) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 坂本静樹<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>内科学第3, <sup>4)</sup>脳神経外科学): 日本医科大学における臨床実習 (BSL) のアンケートによる実態調査: 学生と教員の比較. 第73回日本医科大学学会総会, 2005. 9.
- 9) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修: 日本医科大学におけるクリニカル・シミュレーション・ラボの開設と今後の展望. 第73回日本医科大学医学会総会, 2005. 9.
- 10) 阿曾亮子, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 大橋和史<sup>2)</sup>, 吉村明修, 志村俊郎 (<sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設, <sup>2)</sup>薬理学): 臨床薬理学実習における服薬体験の有用性: 卒業生232名のアンケートより. 第26回日本臨床薬理学会年会, 2005. 12.

### (3) 追加分一般講演:

- 1) Oyama K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Tahara S<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Shimura T, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. Neurosurgery): Management of Pituitary Incidentalomas. . The 16th Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference. (Ho Chi Minh City, Vietnam), 2004. 9.

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 17 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者	所属・職	決定額：千円	研究課題
特定領域研究		佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	24,000	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析
"		太田 成男	細胞生物学・大学院教授	5,400	発癌時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積による核遺伝子発現制御
"		田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	21,600	核内癌抑制因子による遺伝子発現制御システムの解析
萌芽研究		川並 汪一	分子細胞構造学・大学院教授	700	ヒト気道 肺胞上皮系における幹細胞の免疫組織学的同定と分離培養
"		佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	900	逆行性標識タンパク質特異的発現を利用した GnRH 分泌調節回路の可視化
"		右田 真	小児科学・助教授	900	造血幹細胞の生着のメカニズムの解明
"		横田 裕行	救急医学・助教授	700	ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究
"		竹下 俊行	女性生殖発達病態学・大学院教授	1,300	自己抗原解析を中心とした子宮内膜症の病態プロテオミクス
"		瀧澤 俊広	機能形態学・大学院教授	1,300	胎盤における IgG 輸送機構の鍵となる Fc 受容体のディファレンシャル解析
"		高柳 和江	医療管理学・助教授	3,100	医療安全を加味した医師の臨床判断教育と評価のためのシミュレーションツールの開発
"		島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	3,400	自己再生脂肪細胞組織をキャリアーとするリソゾーム病の ex vivo 遺伝子治療
"		瀧澤 敬美	解剖学第一・助手	2,000	精巣形成過程における生殖細胞に特異的なマイクロ RNA の同定と発現解析
若手研究 (B)		岩崎 俊雄	生化学第一・講師	900	超好熱菌の新規呼吸鎖複合体 II のサブユニット会合に伴う機能変換
"		酒主 敦子	耳鼻咽喉科学・助手	700	好酸球性中耳炎における好酸球浸潤機序の解明
"		新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助手	1,100	新たな内耳疾患予防・治療法 HSP 誘導剤による内耳保護作用の検討
"		松村 智裕	生化学第一・助手	1,100	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構
"		上村 尚美	生化学部門・助手	1,200	核遺伝子産物 MIDAS によるミトコンドリア増殖機構の解明
"		中山 智子	病理学第一・助手	800	特発性間質性肺炎における転写因子 foxF1 と MMP/TIMP の検討
"		山口 博樹	内科学第三・助手	900	骨髄不応性疾患におけるテロメラーゼ複合体遺伝子群の塩基配列変異の関連性について

"	初鹿野見春	小児科学・助手	1,600	妊婦の受動・能動喫煙に起因する子宮内胎児発育抑制のメカニズム
"	河野美乃里	皮膚科学・助手	1,600	手包における神経内分泌ペプチドの発現部位とその働きを解明する
"	下田 貴子	皮膚科学・助手	1,400	ストレス負荷による皮膚肥満細胞脱顆粒現象の病態の解明
"	二神 綾子	皮膚科学・講師	1,300	ケロイド発生におけるCOX-2発現の役割およびCOX-2特異的阻害剤の効果
"	根本 崇宏	生理学第二・助手	600	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジー関与の解明
"	舘野 周	精神医学・助手	700	PET・SPECTを用いたうつ病の認知機能及び末梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究
"	市川 和雄	放射線医学・助手	400	フラットパネルディテクタ検出型コーンビームCTの物理特性に関する基礎的研究
"	吉野 雅則	消化器病センター・助手	800	線維芽細胞増殖因子受容体KGFRのmRNAレベルでの阻害による大腸癌分子標的治療
"	大森 裕也	外科学第二・助手	1,500	光学的マッピングを用いた左心房容量負荷心房細動モデルの電気生理学的検討
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	700	下垂体腺種におけるPPARの発現と下垂体の機能分化に関わる転写因子との関連
"	金 恩京	病理部門・講師	1,100	関節リウマチ肺における血管内皮細胞の役割とトロンビンの関与
"	黒瀬 圭輔	産婦人科学・助手	1,500	子宮内膜癌発癌過程における腫瘍上皮細胞および間質細胞の遺伝学的変化の解析
"	小原澤英彰	眼科学・講師	1,500	糖尿病網膜症での新生血管発生の予防法の開発
"	佐藤(織田) 恵理	免疫部門・講師	1,800	細胞周期破綻時のp53によるアポトーシス誘導機構の解析
"	田村 秀樹	内科学第三・助手	1,600	新規ストレス関連ペプチドによる成長ホルモンの分泌調節
"	浅井 牧子	小児科学・助手	1,400	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか？ イオンチャネルからの検討
"	池田裕美子	薬理学・助手	2,000	機能的MRIを用いた統合失調症の聴覚性注意機能ネットワーク障害解明に関する研究
"	眞野あすか	生理学第二・助手	1,400	不安反応におけるCRFファミリーペプチド/受容体とニューロステロイドの役割の解明
"	一宮 哲哉	精神医学・助手	2,100	PETを用いた抗うつ薬の脳内ノルエピネフリントランスポーター占有に関する研究
"	宮戸 靖幸	細胞生物学・ポストドクター	1,300	ミトコンドリアDNA変異により抵抗性を獲得した癌の効果的放射線治療法の開発
"	三嶋 拓也	機能形態学・ポストドクター	2,500	肝胆道系癌細胞に特異的なmicroRNAの同定と発現プロファイル解析

		森 美貴	解剖学第一・助手	1,800	新規ラングハンス細胞特異抗体による胎盤閉門機能の解析
		横山有希子	耳鼻咽喉科学・助手	1,300	好酸球性中耳炎での好酸球遊走と好酸球性炎症の維持における肥満細胞の新たな役割
		小川 令	形成外科学・助手	2,000	脂肪組織由来幹細胞を用いた造血器再生
		飛梅 圭	免疫部門・講師	1,900	改変型自殺遺伝子 Bax を用いた抗癌剤の感受性を強化する新しいシステム
基盤研究 (A)	一般	西野 武士	医科生物化学・大学院教授	10,500	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明
基盤研究 (B)	一般	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	3,000	エストロゲン反応性に見られる脳の性差の細胞生理学基盤の解明
		大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,400	統合失調症の進行性憎悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究
		寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	2,200	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学的解明
		八木 聡明	頭頸部・感覚器科学・大学院教授	1,200	前庭性眼振はリスティングの法則に従うか
		田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,000	癌抑制転写因子 p53 によるアポトーシスの制御を介した癌抑制機構の解明
		太田 成男	細胞生物学・大学院教授	3,500	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳梗塞治療法の開発
		瀧澤 俊広	機能形態学・大学院教授	2,700	胎盤における IgG 輸送の鍵となる型 Fc 受容体を含む新しい細胞内小器官の解析
		島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	7,900	遺伝性神経変性疾患に対する非侵襲的遺伝子治療法の開発 (BBB を超えられるか?)
		百束 比古	形態機能再生再生医学 (形成外科学)・大学院教授	8,000	脂肪組織幹細胞による生体内 3 次元組織再生 大動物を用いた前臨床研究
基盤研究 (C)	一般	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	1,000	パーフォリンノックアウトマウスを用いる有機リン農薬による免疫機能低下の機序の検討
		林田真喜子	法医学・講師	600	脳死判定と薬物に関する臨床法医学中毒学的アプローチ
		宮本 正章	内科学第一・助教授	600	スーパーアポトーシス抑制因子 PTD-FNK 蛋白を用いたバイオ人工臓の開発
		清野 精彦	内科学第一・教授	400	Fabry 病に対する AAV ベクターを用いた酵素補充遺伝子治療
		田島 廣之	放射線医学・教授	500	致命的深部静脈血栓症に対する血栓溶解破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究
		石原 圭一	放射線医学・講師	800	糖尿病性心筋症ラットを用いた Tc-99mMIBI 洗い出し率に関する研究
		清水 一雄	機能制御再生外科学・大学院教授	800	内分泌頸部外科における整容面を重視した低侵襲手術の確立
		横室 茂樹	外科学第一・講師	1,300	胆管癌治療に対するサイトカイン IL-6、HGF、TGFB1 の応用

"	"	中井 章人	産婦人科学・助教授	800	脳神経発達障害におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究
"	"	土佐眞美子	形成外科学・助手	900	ケロイド発生における Wnt シグナル分子機構の解明と新しい分子標的治療に関する研究
"	"	村上 正洋	形成外科学・助教授	700	皮下脂肪由来組織幹細胞の分化制御による軟骨組織の生体内立体再生
"	"	原 行弘	千葉北総病院リハビリテーション科・助教授	1,000	片麻痺に対するハイブリッド・パワーアシスト治療的電気刺激
"	"	高市 眞一	生物学・助教授	900	カロテノイド成分・遺伝子から見た光合成細菌からシアノバクテリアへの進化
"	"	加藤 昌克	生理学第一・助教授	1,400	GnRH ニューロンにおける GABA 作用とニューロステロイドによる修飾
"	"	木山 裕子	生理学第一・講師	800	ゲノム構築から捉えた発生段階特異的ヒト・グロビン鎖合成スイッチング機構の解析
"	"	折笠千登世	生理学第一・助手	1,000	脳部位特異的に発現するエストロゲン受容体サブタイプの遺伝子発現制御と機能
"	"	鈴木 秀典	神経情報科学・大学院教授	1,000	新規気分障害治療薬開発を志向した霊長類中枢タキキニン作動性神経伝達に関する研究
"	"	川田 智之	環境医学・大学院教授	200	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究
"	"	仁平 信	法医学・助教授	1,200	アルコール・覚醒剤複合中毒における死後経過時間と薬物濃度の関連
"	"	坂本 長逸	内科学第三・教授	1,900	消化管における COX2 を介した heregulin 発現と erbB2 リン酸化の役割
"	"	奥村 敏	千葉北総病院内科・助手	900	アデニル酸シクラーゼサブタイプによる心機能調節とその選択的抑制薬による心不全治療
"	"	白杵 二郎	内科学第四・講師	1,300	Smad タンパクの細胞内導入による肺線維化の制御
"	"	福田 悠	解析人体病理学・大学院教授	1,000	特異性間質性肺炎における線維芽細胞増殖因子 (FGF)10,7 の役割
"	"	片山 泰朗	神経・腎病態内科学・大学院教授	1,200	超軽微低体温 (35 ) の神経保護作用のメカニズムの解明 生存シグナル増強作用
"	"	小川 俊一	小児科学・教授	1,300	交感神経の血管トーンと血管再構築におよぼす効果と除神経による影響
"	"	上砂 光裕	小児科学・講師	800	プロテインチップを用いた川崎病の原因蛋白質、冠動脈病変発症に関わる蛋白質の探求
"	"	今城 俊浩	疫学部門・助教授	1,700	慢性疼痛ストレスの病態に関連する新規遺伝子のクローニング
"	"	隈崎 達夫	臨床放射線医学・大学院教授	900	シルクセリンによるスーパーハイブリット徐放薬物伝達システム開発の基盤研究
"	"	渡辺 昌則	武蔵小杉病院消化器病センター・講師	700	線維芽細胞増殖因子受容体 KGFR の遺伝子発現制御による大腸癌分子標的治療の可能性



"	"	木山 輝郎	外科学第一・講師	1,500	胃切除後の身体構成変動におけるグレリンの病態意義
"	"	鈴木 成治	多摩永山病院外科・助手	900	胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコピー数の迅速定量法の開発
"	"	吉田 寛	外科学第一・助教授	1,100	肝細胞遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝線維化および再生に及ぼす影響
"	"	田尻 孝	臓器病態制御外科学・大学院教授	1,200	マウスTGFレセプターターゲットRNAiによる慢性肝障害の遺伝子治療
"	"	工藤 光洋	病理学第二・助手	700	細胞への分化能を有する脾内外のprogenitor cellの同定とその応用
"	"	菅野 重人	外科学第二・講師	1,300	虚血心筋における不整脈発生のメカニズム
"	"	新田 隆	外科学第二・助教授	800	左心房容量負荷モデルにおける肺静脈の電気生理学的特性
"	"	輪嶋善一郎	麻酔科学・講師	500	喫煙者・慢性閉塞性肺疾患に対する至適麻酔法の検討 周術期予後を改善させるために
"	"	中西 一浩	麻酔科学・講師	1,200	虚血再灌流時における炎症性メディエーターと心機能障害との関連
"	"	西村 泰司	外科治療学(泌尿器外科学)・大学院教授	1,100	ホルモン不応性前立腺癌増殖に対するCdc25蛋白の役割の究明
"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,700	胎児脳および冠微小循環障害におけるアデノシンによる虚血部位のサルベージ
"	"	渡邊 健一	耳鼻咽喉科学・講師	1,200	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による新たな内耳保護治療法の開発
"	"	相田 瑞恵	耳鼻咽喉科学・助手	1,300	鼻茸の発生機序における細胞の新たな機能の解析
"	"	山木邦比古	眼科学・助教授	1,400	抗原特異的調節性樹状細胞の樹立とこれによる原田病治療の可能性
"	"	岩切 致	形成外科学・助手	800	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発
"	"	濱田 知宏	生理学第一・助手	2,100	可視化エストロゲン感受性ニューロンを用いたエストロゲン多機能性の解明
"	"	洲鎌 秀永	生理学第二・講師	1,700	ストレスは退行性神経疾患を促進する?
"	"	山本 直之	解剖学第二・講師	1,900	神経修飾系として働く終神経のGnRH細胞群の入出力回路とその進化
"	"	大澤 郁郎	生化学部門・講師	1,300	エネルギー代謝低下による神経細胞終末分化促進機構の解明
"	"	三上 俊夫	スポーツ科学・助教授	2,400	慢性的な精神ストレスによる脳神経細胞死に対して身体運動は抑制効果を持つか否か
"	"	岡 敦子	生物学・教授	2,500	両生類消化管をモデルとした器官再構築機構の形態学的解析
"	"	二神 生爾	内科学第三・助手	1,000	T細胞により誘導される腸管上皮細胞由来PGE2によるAPE発現制御の解析

"	"	麻生 定光	生化学部門・助教授	1,200	細胞死抑制活性強化蛋白質の細胞内導入治療法による肝組織変性の抑制
"	"	吾妻安良太	内科学第四・助教授	1,500	日本人特有の急性肺障害と薬剤性肺障害の素因解明に関する基礎的研究
"	"	三品 雅洋	千葉北総病院内科・助手	2,100	アデノシン受容体 PET によるパーキンソン病の病態解明とテーラーメイド医療への応用
"	"	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	1,800	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンの体脂肪蓄積作用機構の解明
"	"	亀谷 純	病態制御腫瘍内科学・特別研究生	1,800	肥満における成長ホルモン分泌障害機序の解明
"	"	檀 和夫	病態制御腫瘍内科学・大学院教授	2,600	MLL/AF4 遺伝子の癌化能と分子標的薬の基礎実験
"	"	緒方 清行	内科学第三・助教授	1,800	CD45 <sup>-</sup> CD34 <sup>-</sup> CD38 <sup>-</sup> Lin <sup>-</sup> 細胞の解析
"	"	伊藤 敬雄	精神医学・講師	2,200	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究
"	"	林 宏光	放射線医学・助教授	1,400	異種造影剤の同時投与による腎機能障害：正常および糖尿病性腎症ラットを用いた検討
"	"	保坂 純郎	放射線医学・講師	900	静脈内レーザー照射の慢性期作用の解明と下肢静脈瘤に対する日帰り根治療法の確立
"	"	天神 敏博	外科学第二・講師	1,400	リアルタイム PCR と FCM による乳癌リンパ節癌微小転移の自動診断と予後の観察
"	"	松谷 毅	多摩永山病院外科・助手	1,100	外科手術における免疫反応の性差と DHEA の関連に関する研究
"	"	内藤 善哉	統御機構病理学・大学院教授	1,700	膵癌 膵炎における lumican の細胞増殖分化に及ぼす役割
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・助教授	1,300	低酸素関連転写因子を介した下垂体腺種の浸潤の機序に関する分子生物学的研究
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・教授	1,000	実験的自己免疫性迷路炎モデルにおける内耳特異的抗体の機能解析
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	1,300	cDNA マイクロアレイを用いた鼻副鼻腔線維芽細胞活性化分子機構の解明
"	"	滝沢 竜太	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	RS ウィルス感染アレルギーマウスの気道における好酸球脱顆粒機序の解明
"	"	亀谷 修平	眼科学・助手	2,400	視細胞変性疾患の原因となる RPE 特異的蛋白質の機能および相互作用解析
"	"	堀 純子	眼科学・助教授	2,000	眼の免疫特権機構の解明と角膜移植後拒絶反応の制御
"	"	水野 博司	形成外科学・講師	2,300	脂肪組織幹細胞による歯周組織の再生 根治的歯周病治療法の開発に向けて
"	"	相星 淳一	救急医学・助手	1,500	出血性ショックに続発する多臓器障害に対する代用血液および保存血の影響

2. 平成 17 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 太田 成男 細胞生物学	特定領域研究	林 純一 筑波大学大学院生命 環境科学研究科	ミトコンドリア tRNA 遺伝子突然変異 導入マウスの病態解析と遺伝子治療
2 佐藤 茂 中央電子顕微 鏡研究施設	基盤研究 (B)	木口 憲爾 信州大学繊維学部	重イオンマイクロビーム利用による昆 虫の生体損傷修理機構の解析
3 相星 淳一 救急医学	基盤研究 (B)	小池 薫 東北大学大学院医学 系研究科	多臓器不全発生に関する脂質メディ エーターと脳障害発症メカニズムの解明
補助金合計額			7,400,000 円

3. 平成 17 年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成 17 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行分）			
大学院高度化推進特別経費			
1 大学院整備重点化経費			
教育研究拠点大学院重点経費		264,568	264,568
研究科特別経費			
研究科分	40,700	19,300	60,000
学生分	14,890	8,310	23,200
2 ティーチング・アシスタント経費	5,200	3,000	8,200
学術研究推進特別経費			
1 学術研究高度化推進経費			
ハイテク・リサーチ・センター経費	46,100	43,100	89,200
共同研究経費	23,259	13,739	36,998
2 リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター等経費			
リサーチ・アシスタント	28,400	34,000	62,400
ポスト・ドクター	20,100	18,900	39,000
大学教育高度化推進特別経費			
1 教育・学習方法等改善支援経費			
教育・学習方法等改善支援分	12,409	11,000	23,409
2 多元的評価支援経費	1,219	500	1,719
3 海外研修派遣	2,845	2,665	5,510
高度情報化推進特別経費			
1 教育学術情報ネットワーク	51,171	51,400	102,571
2 教育学術コンテンツ			
教育研究用ソフトウェア	15,586	14,100	29,686
3 教育研究情報利用経費	12,649	10,600	23,249
合計	274,528	495,182	769,710
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
個性化推進特別経費			
1 学習方法の改善			
大学院基盤整備経費			
大学院基盤整備経費		96,844	96,844
研究支援分ア		21,023	21,023
少人数教育の推進		7,000	7,000
2 学習機会の多様化			
外国人留学生の受入れ		2,257	2,257
合計		127,124	127,124
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置整備費補助			
研究装置	20,518	20,517	41,035
教育装置	22,308	22,307	44,615
2 研究設備	8,300	16,600	24,900
合計	51,126	59,424	110,550

4. 平成17年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
高市 真一	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	カロテノイド成分・遺伝子から見た 光合成細菌からシアノバクテリア への進化	高市 真一	
高市 真一	自然科学・生物学	分担	独立行政法人新工ネ ルギ一・産業技術総 合開発機構 平成17 年度・平成18年度産 業記述研究助成事業 費助成金	小規模利水地点における分散型水 質管理を目的とした重金属検出用 微生物センサーの開発	前田 勇	宇都宮大学
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	西生類消化管をモデルとした器官 再構築機構の形態学的解析	岡 敦子	
三嶋 拓也	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	肝胆道系癌細胞に特異的な microRNAの同定と発現プロファ イル解析	三嶋 拓也	
森 美貴	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	新規ラングハンス細胞特異抗体に よる胎盤関門機能の解析	森 美貴	
瀧澤 敬美	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	精巢形成過程における生殖細胞に特 異的なマイクロRNAの同定と発現解析	瀧澤 敬美	
瀧澤 俊広	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	胎盤におけるIgG輸送の鍵となる 型Fc受容体を含む新しい細胞内 小器官の解析	瀧澤 俊広	
瀧澤 俊広	解剖学第一	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	胎盤におけるIgG輸送機構の鍵と なるFc受容体のディスプレイシヤ ル解析	瀧澤 俊広	
山本 直之、 薛 昊	解剖学第二	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	神経修飾系として働く終神経のGnRH 細胞群の入出力回路とその進化	山本 直之	
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 特定領域研究(2)	ラット脳の性分化の際にエストロ ゲンにより駆動される制御分子の 同定と機能解析	佐久間康夫	
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	エストロゲン反応性に見られる脳 の性差の細胞生理学基盤の解明	佐久間康夫	
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	逆行性標識タンパク質特異的発現を利 用したGnRH分泌調節回路の可視化	佐久間康夫	
加藤 昌克	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	GnRHニューロンにおけるGABA作 用とニューロステロイドによる修飾	加藤 昌克	
木山 裕子	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ゲノム構築から捉えた発生段階特 異的ヒト・グロビン鎖合成スイッ チング機構の解析	木山 裕子	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
折笠千登世	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳部位特異的に発現するエストロゲン受容体サブタイプの遺伝子発現制御と機能	折笠千登世	
大西 知宏	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	可視化エストロロジェン感受性ニューロンを用いたエストロジェン多機能性の解明	大西 知宏	
西野 武士 岡本 研, 松村 智裕, 菊地 浩人	生化学第一	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(A)	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明	西野 武士	
松村 智裕	生化学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構	松村 智裕	
岩崎 俊雄	生化学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	超好熱菌の新規呼吸鎖複合体のサブユニット会合に伴う機能変換	岩崎 俊雄	
西野 武士	生化学第一	代表	文部科学省タンパク 3000プロジェクト	ヒト培養細胞を用いた発生・分化に伴い変動する蛋白質の結晶化と構造解析	西野 武士	
池田裕美子	薬理学	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	機能的MRIを用いた統合失調症の脳機能注意機能ネットワーク障害の解明に関する研究	池田裕美子	
鈴木 秀典	薬理学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	新規気分障害治療薬開発を志向した霊長類中枢タキキニン作用性神経伝達に関する研究	鈴木 秀典	
鈴木 秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	統合失調症の進行性増悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究	大久保善朗	精神医学
小林 克典	薬理学	代表	The International Human Frontier Science Program Organization	Environmental regulation of the brain function via the hippocampal mossy fibers.	小林 克典	
小林 克典	薬理学	代表	上原記念生命科学財 団	中枢興奮薬逆耐性現象に関する海馬シナプス修飾機構の検討	小林 克典	
中山 智子	病理学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	特発性間質性肺炎における転写因子 foxF1 と MMP/TIMP の検討	中山 智子	
福田 悠, 石崎 正通, 中山 智子	病理学第一	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	特発性間質性肺炎における線維芽細胞増殖因子(FGF)10,7の役割	福田 悠	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
福田 悠	病理学第一	分担	厚生労働省科学研究費補助金	間質性肺炎肺組織における転写因子 foxF1, FGF-10, FGF-R の発現について：組織内 m-RNA と蛋白発現についての検討	貴和 敏博	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍分野
内藤 善哉	病理学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳癌 膵炎における Lumican の細胞増殖分化に及ぼす役割	内藤 善哉	
工藤 光洋	病理学第二	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	細胞への分化能を有する膜内外の progenitor cell の同定とその応用	工藤 光洋	
川田 智之, 稲垣 弘文, 若山 葉子, 李 英姫, 李 勝又, 李 聖夫, 李 卿, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究	川田 智之	
李 卿	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	パーフォリンノックアウトマウスを用いる有機リン農薬による免疫機能低下の機序の検討	李 卿	
川田 智之	衛生学・公衆衛生学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ライフスタイルと末梢血ゲノム DNA 安定性との関連性に係わる予防医学的追跡研究	呂 玉泉	大阪大学大学院医学研究科社会環境医学
李 卿	衛生学・公衆衛生学	代表	農林水産省高度化学事業研究	森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明	川田 智之	
李 英姫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	農林水産省高度化学事業研究 環境再生保全機構	森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明	李 卿	
川田 智之, 稲垣 弘文, 勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	喫煙科学研究財団研究助成金 特定研究	気管支ぜん息等の発症増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究	工藤 翔二	内科学第4
林田真喜子	法医学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳死判定と薬物に関する臨床法医学中毒学的アプローチ	川田 智之	
仁平 信	法医学	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	アルコール・覚醒剤複合中毒における死後経過時間と薬物濃度の関連	林田真喜子	
平川 慶子	法医学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	出血性ショックに続発する多臓器障害に対する代用血液および保存血の影響	仁平 信 相星 淳一	救急医学
長谷場 健	法医学	代表	アサヒビール株式会社	酒類の熟成が生体に与える影響	長谷場 健	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
平川 慶子	法医学	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	多臓器不全発生に関連する脂質メ タボリズムの解明	小池 薫	東北大学・大学院医学 系研究所
佐藤 茂	中央電子顕微鏡研究施設	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	重イオンマイクロビーム利用によ る昆虫の生体損傷修復機構の解析	木口 憲爾	
広畑 泰久	中央電子顕微鏡研究施設	代表	三菱化学技術研究セ ンター	医学生物系記号の電子顕微鏡観察 における前処理技術	広畑 泰久	
加藤 貴雄	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究 費補助金	医薬品医療機器等レギュラトリー サイエンス評価研究事業	上田 慶二	独立行政法人医薬品医 療機器総合機構
高野 照夫	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究 費補助金	難治性血管炎に関する調査研究	尾崎 承一	聖マリアンナ医科大学
高野 照夫	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	独立行政法人理化学 研究所	全ゲノム領域を対象としたSNP解 析による不安定狭心症感受性遺伝 子の探索	高野 照夫	
加藤 貴雄	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	トヨタ自動車株式会社	無侵襲・無意識下心電図連続解析に よる自動車運転中の心血管イベン ト・心臓性突然死の予知・予防シス テムの開発に関する研究	加藤 貴雄	
加藤 貴雄	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	株式会社デンソー	無侵襲・無意識下心電図連続解析に よる自動車運転中の心血管イベン ト・心臓性突然死の予知・予防シス テムの開発に関する研究	加藤 貴雄	
加藤 貴雄	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	株式会社スズケン	QT計測システムと的手法との計測 精度	加藤 貴雄	
宮内 靖史	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	財団法人喫煙化学研 究財団	ニコチン慢性投与が心房細動発生 とその解剖学的 substrate に及ぼす 影響	宮内 靖史	
加藤 貴雄	内科学第一・付属病院第1内 科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	社団法人日本医師会	治験の実施に関する研究(塩酸ペプ リシール)	加藤 貴雄	
大庭 建三	内科学第一・付属病院老人科	分担	厚生労働省科学研究 費補助金	高齢者糖尿病病状に対する総合診療体 制確立のための総合的研究 無作 業化比較研究(J-EDIT)を中心に	井藤 英吾	多摩北部医療センタ ー
大庭 建三	内科学第一・付属病院老人科	分担	公益信託日本動脈硬 化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究 高血圧 患者における年齢階層と動脈硬化 度, 高血圧合併症との関連臨床コ ホート研究(J-CHEARS)	大内 耐義	東京大学加齢医学



研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
片山 泰朗 神谷 達司	内科学第二・付属病院第2内 科(神経内科, 腎臓内科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	超軽微低体温(35℃)の神経保護作 用のメカニズムの解明 生存シグ ナル増強作用	片山 泰朗	
三品 雅洋	内科学第二・付属病院第2内 科(神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	アデノシン受容体PETによるパー キンソン病の病態解明とテラーニ メイド医療への応用	三品 雅洋	日本医科大学付属千葉 北総病院 脳神経セン ター
山崎 峰雄	内科学第二・付属病院第2内 科(神経内科, 腎臓内科)	分担	厚生労働省科学研究 費補助金 長寿科学 総合研究事業 の科学	筋萎縮性側索硬化症の最早期病変 を求めて:運動ニューロンにおける 蛋白合成系の治療法開発の試み	清光 小柳	東京都神経科学総合研 究所 神経病理3
中島 敦夫	内科学第二・付属病院リウマ チ科	分担	厚生労働省科学研究 費補助金 免疫アレ ルギー疾患予防・治 療研究事業	関節リウマチ治療における新規生 物製剤の治療方針の作成及びその 検証に関する研究	宮坂 信之	東京医科歯科大学リウ マチ膠原病内科
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科学研究 費補助金	糖尿病における血管合併の発症予 防と進展抑制に関する研究 (JDCStudy)	山田 信博	筑波大学
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科学研究 費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	山田 信博	筑波大学
田村 秀樹	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	新規ストレス関連ペプチドによる 成長ホルモンの分泌調節	田村 秀樹	
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	農林水産省:生物系 産業創出のための異 分野融合研究支援事 業 若手研究(C)	米ぬかトコトリエノールによる血 管新生病に関するヒト臨床試験	及川 眞一	
亀谷 純	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(C)	肥満における成長ホルモン分泌障 害機序の解明	亀谷 純	
坂本 長逸	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(C)	消化管におけるCOX2を介した herequilin 発現とerbB2 リン酸化の 役割	坂本 長逸	
山口 博樹	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	骨髄 不応性疾患におけるテロメ ラーセ複合体遺伝子群の塩基配列 変異の関連性について	山口 博樹	
壇 和夫	内科学第三・付属病院第3内 科(血液内科, 内分泌代謝内 科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(C)	MLL/AF4 遺伝子の糖化能と分子標 的薬の基礎実験	壇 和夫	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
二神 生爾	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 若手研究(C)	T細胞により誘導される腸管上皮細胞由来PGE2によるAPE発現制御の解析	二神 生爾	
緒方 清行	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究C	CD45陰性造血細胞(CD45-CD34-CD38-Lin <sup>-</sup> 細胞)の解析	緒方 清行	
田村 秀樹	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	日本医科大学同窓会	腸管ホルモンによる成長ホルモンの分泌調節の解明	田村 秀樹	
及川 眞一	内科学第三・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	財団法人長寿科学振興財団糖尿病研究事業	高齢者糖尿病の大規模介入研究事業	井藤 英喜	東京都老人医療センター
伊藤 敬雄	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業	自殺企図の実態と予防介入に関する研究	保坂 隆	東海大学医学部
伊藤 敬雄	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究	伊藤 敬雄	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任	厚生労働省科学研究費補助金	神経伝達機能イメージングを用いた機能的精神疾患の治療効果の客観的評価法および診断法の確立に関する研究	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	統合失調症の進行性憎悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究	大久保善朗	
大久保善朗, 一宮 哲也	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表 分担	第38回精神薬療研究助成	抗うつ薬によるセロトニンおよびノルエピネフリントランスポーターの占有率に関するPET研究	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	平成17年度学術研究高度化推進経費共同研究経費	分子イメージングを用いた抗うつ薬作用の神経基盤の解明	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	自殺関連うつ対策戦略研究	平安 良雄	横浜市立大学医学部

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	統合失調症の基本障害に基づいた診断装置の実用化	小島 卓也	日本大学医学部
紺野 周	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	PET・SPECTを用いたうつ病の認知機能及び末梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究	紺野 周	
福永 慶隆	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	引きこもりに繋がる小児慢性疲労、不登校の治療・予防に関する臨床的研究	三池 輝久	熊本大学医学部
浅井 牧子	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか? : イオンチャンネルからの検討	浅井 牧子	
初鹿野見春	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	妊婦の受動・能動喫煙に起因する子宮内胎児発育抑制のメカニズム	初鹿野見春	
上砂 光裕	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	プロテインチップを用いた川崎病の原因蛋白質、冠動脈病変発症に関わる蛋白質の探求	上砂 光裕	
上砂 光裕	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	日本川崎病研究センター	プロテインチップを用いた川崎病の原因蛋白質の探求	上砂 光裕	
浅野 健	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	H17.私立大学研究設備等整備費(文・研・設)	遺伝子発現解析システム	浅野 健	
浅野 健	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	H17.私立大学教育研究高度化推進特別補助「教育研究用ソフトウェア」	サイファージエンクロスプレス・バリオオマーカー解析システムパッケージ	浅野 健	
前田 美穂	小児科学・付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	新しく確立したフェュージョンパートナーSPYMEGによるヒト抗血小板抗体産生ハイブリドーマの作製	山本 正雅	興羽大学

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
林 宏光	放射線医学・付属病院放射線科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	異種造影剤の同時投与による腎機能障害；正常および糖尿病腎症ラットを用いた検討	林 宏光	
石原 趙 圭一 汲田 伸一郎 鳥羽 正浩	放射線医学・付属病院放射線科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	糖尿病性心筋症ラットを用いたTc-99mMIBI 洗い出し率に関する研究	石原 趙 圭一	
保坂 純郎	放射線医学・付属病院放射線科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	静脈内レーザー照射の慢性期作用の解明と下肢静脈瘤に対する日帰り根治療法の確立	保坂 純郎	
二神 綾子	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ケロイド発生におけるCOX-2発現の役割およびCOX-2特異的阻害剤の効果	二神 綾子	
下田 貴子	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ストレス負荷による皮膚肥満細胞脱顆粒現象の病態の解明	下田 貴子	
河野美乃里	皮膚科学・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	毛包における神経内分泌ペプチドの発現部位とその働きを解明する	河野美乃里	
吉田 寛 田尻 孝 秋丸 琥甫 真々田 裕宏 谷 信彦	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝繊維化および再生に及ぼす影響	吉田 寛	
木山 輝郎	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	胃切除後の身体構成変動におけるグレリンの病態意義	木山 輝郎	
田尻 孝 秋丸 琥甫 有馬 保生 吉田 寛 横室 茂樹	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	マウス TGF レセプターターゲットRNAiによる慢性肝障害の遺伝子治療	田尻 孝	
木山 輝郎	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金 医療技術評価研究事業	諸外国における院内感染対策の応用に関する研究	芳賀 克夫	
松谷 毅 笹島 耕二 松倉 則夫	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	外科手術における免疫反応の性差とQHEA の関連に関する研究	松谷 毅	
進士 誠一	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	代表	丸山記念研究助成金	大腸癌リンパ節転移機構の解析 isolated tumor cell から micrometastasis として overt lymph node metastasis 形成過程における癌細胞形質発現の変化	進士 誠一	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
松倉 則夫	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	分担	厚生労働省がん研究助成金(15-5)	発がん機序に基づいた胃がんの予防に関する研究	齊藤 大三	国立がんセンター中央病院内視鏡部
鈴木 成治	外科学第一・多摩永山病院外科(消化器外科・乳腺外科・一般外科)	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコピー数の迅速定量法の開発	鈴木 成治	
鈴木 成治	外科学第二・付属病院第2外科(内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコピー数の迅速定量法の開発	鈴木 成治	
金 景成	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金若手研究(B)	下垂体腺腫における低酸素関連因子によるVEGF発現調節に関する研究	金 景成	千葉北総病院脳神経センター脳神経外科
田原 重志	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金若手研究(B)	下垂体腺腫におけるPPARの発現と下垂体の機能分化に関わる転写因子との関連	田原 重志	
寺本 明	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(B)	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学的解明	寺本 明	
高橋 弘	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	DNAマイクログリアによるインターフェロン抗腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析	高橋 弘	第二病院脳神経外科
吉田 大蔵	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	GFP遺伝子導入ヒト腫瘍モデルでの抗微小管剤の研究	吉田 大蔵	第二病院脳神経外科
山口 文雄	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	神経膠細胞の腫瘍化におけるFGR2の機能解明	山口 文雄	
大山 健一	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	脳下垂体腫瘍における各種視床下部ホルモン受容体発現の解析	大山 健一	
吉田 大蔵	脳神経外科学・第二病院脳神経外科	分担	科学研究費補助金基盤研究(B)	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学的解明	寺本 明	付属病院脳神経外科
吉田 大蔵	脳神経外科学・第二病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金基盤研究(C)	低酸素関連転写因子を介した下垂体腺腫の浸潤の機序に関する分子生物学的研究(新規)	吉田 大蔵	
中井 章人, 谷内 良成, 奥田 直貴, 三宅 秀彦, 横田 明重	産婦人科学・多摩永山病院女性診療科・産科	代表 分担	科学研究費補助金基盤研究(C)	脳神経発達障害におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究	中井 章人	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
中井 章人	産婦人科学・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科学研究所子ども家庭総合研究	多施設共同ランダム化比較試験による早期予防のための妊婦管理ガイドラインの作成	岡井 崇	昭和大学
荻原 亮 河村 苑	産婦人科学・千葉北総病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科学研究所	「若い女性の食生活はこのままで良いのか？次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的研究」妊産婦健康調査【理想妊娠体重栄養管理の検討】	豊田 長康	三重大学医学部
池園 哲郎 齋藤 明彦 渡邊 淳	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任分担	厚生労働省科学研究所 感覚器障害研究事業	内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発・治療指針の作成	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究所 患者克服研究事業	前庭機能異常に関する調査研究	竹田 泰三	高知大学医学部 聴平衡・嚔下機能統御教室
大久保公裕 後藤 穰	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任分担	厚生労働省科学研究所 アレルギー疾患治療研究事業	リアルタイムモニタール花粉飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	大久保公裕	
滝沢 竜太	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	RSウイルス感染アレルギーマウスの好酸球脱顆粒機序の解明	滝沢 竜太	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究所 アレルギー疾患治療研究事業	小児アレルギー性鼻炎の成人への移行を阻止するための治療法の確立に関する研究	阿本 美孝	千葉大学耳鼻咽喉科
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究所 アレルギー疾患治療研究事業	ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	須甲松 信	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
Pawankar Ruby	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	AAA Educational grant	Impact of AR on QOL of patients with Asthma : An Asian Survey	Pawankar Ruby	
小原澤英彰	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金若手研究(B)	糖尿病網膜症での新生血管発生の予防法の開発	小原澤英彰	
堀純子	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金基礎研究(C)	眼の免疫特権機構の解明と角膜移植後拒絶反応の制御	堀純子	
北原中子	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金基礎研究(C)	視細胞変性疾患の原因となるRPE特異的蛋白質の機能および相互作用解析	亀谷修平	
亀谷修平	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金基礎研究(C)	抗原特異的調節性樹状細胞の樹立とこれによる原田病治療の可能性	山木邦比古	
山木邦比古	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金基礎研究(C)	眼組織再生のための羊膜細胞由来神経幹細胞の移植	堀純子	
堀純子 宣男 利忠 竹森明聡 王由紀 北原保博 山本竜介	眼科学・付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院高度救命救急センター・多摩永山病院高度救命救急センター・成田国際空港クリニック	代表 分担	大学院整備重点化経費		山本保博	
山本保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院高度救命救急センター・多摩永山病院高度救命救急センター・成田国際空港クリニック	主任	厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業	メデイカルコントロール体制の充実強化に関する研究	山本保博	
山本保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院高度救命救急センター・多摩永山病院高度救命救急センター・成田国際空港クリニック	主任	厚生労働省科学研究費補助金厚生労働特別研究事業	NBC災害・テロ対応のシミュレーションと標準的対応に関する研究	山本保博	
山本保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院高度救命救急センター・多摩永山病院高度救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金新興感染症研究事業	生物テロに使用される可能性の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究	佐多徹太郎	国立感染症研究所
横田裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・第二病院高度救命救急センター・多摩永山病院高度救命救急センター・成田国際空港クリニック	代表	文部科学省研究費補助金萌芽研究	ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究		

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科学研究費補助金	ドクターヘリの実態と評価に関する研究	小濱 啓次	川崎医療福祉大学保健看護学科
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	日本私立学校振興・共済事業団、私立大 学等経常費補助金特 別補助「高等教育研 究改革推進経費」 費補助金	Patient Safetyの向上を目指したダ イナミックシミュレーション医学 教育システムの開発	益子 邦洋	
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科学研究費補助金	テータベース作成のための基礎的 検討	島崎 修次	杏林大学救急医学
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	消防防災科学技術研 究推進制度委託研究	ヘリコプター救急体制の構築のも たらす社会的利益に関する定量的 な研究	益子 邦洋	
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	三井住友海上福祉財 団研究助成事業	交通事故死者数の削減を目的とし た重点的交通事故ミクログ調査の意 義に関する研究	益子 邦洋	
吉野 雅則	第二病院付置施設等 第二病 院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	線維芽細胞増殖因子受容体 KGFR の mRNA レベルでの阻害による大 腸癌分子標的治療	吉野 雅則	
渡辺 昌則	第二病院付置施設等 第二病 院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	線維芽細胞増殖因子受容体 KGFR の遺伝子発現制御による大腸癌分 子標的治療の可能性	渡辺 昌則	
松久 威史	多摩永山病院付置施設等 多 摩永山病院消化器科	主任	厚生労働省科学研究費補助金	タイ・ネパール国への内視鏡技術移 転およびその精度管理手法開発に 関する研究 胃炎の違いに関する 検討を含む	松久 威史	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等 千 葉北総病院リハビリテーショ ン科	代表	大塚製薬(株)	脳梗塞片麻痺にともなう深部下肢 静脈血栓症	原 行弘	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等 千 葉北総病院リハビリテーショ ン科	代表	日本損害保険協会	外傷性脊髄損傷患者の排便障害に 対するリハビリテーションアプ ローチ	原 行弘	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等 千 葉北総病院リハビリテーショ ン科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	片麻痺に対するハイブリッド・パ ワーアシスト治療的電気刺激	原 行弘	
川並 汪一	老人病研究所・病理学部門	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	ヒト気道 肺上皮系における幹 細胞の免疫組織学的同定と分離培 養	川並 汪一	
金 恩京	老人病研究所・病理学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	関節リウマチ肺における血管内皮 細胞の役割とトロンビンの関与	金 恩京	



研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
成男, 靖幸, 郁朗, 直美, 成男, 郁朗, 伸	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	発癌時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積による核遺伝子発現制御	太田 成男	
成男, 郁朗, 伸	老人病研究所・生化学部門	主任 分担	厚生労働省科学研究費補助金	トランスジェニックマウスを用いたミトコンドリア酸化ストレスの抑制によるアルツハイマー病予防・治療法の開発	太田 成男	
成男, 定光, 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳梗塞治療法の開発	太田 成男	
成男, 定光, 郁朗, 隆	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	アポトーシス抑制蛋白質改良型の投与による虚血性神経細胞死抑制と治療への適用	麻生 定光	
郁朗, 尚美, 成男, 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	アポトーシス抑制蛋白サバイビンの脳神経細胞生存維持における役割	大澤 郁朗	
尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	核遺伝子産物MIDASによるミトコンドリア増殖機構の解明	上村 尚美	
靖幸	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	ミトコンドリアDNA変異により抵抗性を獲得した癌の効率的放射線治療法の開発	宮戸 靖幸	
成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 特定領域研究(1)	ミトコンドリアtRNA遺伝子突然変異導入マウスの病態解析と遺伝子治療	林 純一	筑波大学生物科学系
成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 精神・神経疾患委託事業	筋ジストロフィーおよびその関連する疾患の病態生理の解明と治療薬物の開発に関する研究	清水 輝夫	帝京大学医学部神経内科
成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 長寿医療研究委託事業	分子疫学研究による老年病発症予測に関する縦断的研究	下方 浩史	国立長寿医療センター
成男	老人病研究所・生化学部門	代表	ブルー・マーキュリー	株式会社ブルー・マーキュリーで開発した中性含酸素水の生理作用の解明とその応用開発	太田 成男	
俊浩	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	慢性疼痛ストレスの病態に関与する新規遺伝子のクローニング	今城 俊浩	

5. 平成17年度学術受賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
渡邊 淳	生化学第二	個人	平成17年度 Best Presentation Award	血管型 Ehlers-Danlos syndrome (ED-SIV) に対する遺伝子治療方略の検討	日本結核組織学会	2006	5
進士誠一	病理学第二	個人	丸山記念研究助成金	大腸癌リンパ節転移機構の解析 isolated tumor cell から micrometastasis として overt lymph node metastasis 形成過程における癌細胞形質発現の変化	日本医科大学	2005	7
Shinji S, Tanaka N <sup>1</sup> ; Ishiwata T, Furukawa K <sup>2</sup> ; Suzuki H <sup>2</sup> ; Teranishi N, Ohaki Y <sup>3</sup> ; Naito Z, Tajiri T <sup>2</sup> ) ( <sup>1</sup> )Department of Surgery, Chibahokuso Hospital, <sup>2</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>3</sup> Department of Pathology, Chibahokuso Hospital)	病理学第二	グループ	13th United European Gastroenterology Week 2005 Best Abstract Award	Liver metastasis in poorly differentiated adenocarcinoma with neuroendocrine features is associated with vascular endothelial growth factor (VEGF)	THE UNITED EUROPEAN GASTROENTEROLOGY FEDERATION (UEGF)	2005	10
加藤祐子	内科学第一・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	第7回心世代核医学研究会優秀賞	アドリアマインシン心筋症ラットにおける Tc99m-MIBI の洗い出しは心筋だけでなく骨格筋においても亢進している	第7回心世代核医学研究会	2005	6
横島友子	内科学第一・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	日本心臓病学会優秀論文賞	Improvement Stratification of Perioperative Cardiac Risk in Patients Undergoing Noncardiac Surgery Using New Indices of Dobutamine Stress Echocardiography	日本心臓病学会	2005	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
田野崎栄	内科学第三・付属病院 第三内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	個人	優秀ポスター賞	P230 Bcr/Ablトランス ジェニニックマウス ES細胞を用いた血 液細胞分化の解析	第67回日本血液 学会第47回日本 臨床血液学会合同 総会	2005	8
山口博樹	内科学第三・付属病 院第三内科(血液内 科,内分泌代謝内科, 消化器内科)	個人	財団法人難病医学研 究財団医学研究奨励 賞	骨髄不応性疾患にお けるテロメラーゼ複 合体遺伝子群の塩基 配列変異の関連性 について	財団法人難病医学 研究財団	2006	1
岡野哲也	内科学第四・付属病 院呼吸器内科	個人	第9回東京呼吸病態 研究会 奨励賞	プロテオーム解析を 用いた肺癌細胞株の イレッサ感受性に関 わる因子の検索	東京呼吸病態研究 会	2005	11
前田美穂	小児科学・付属病院 小児科・第二病院小 児科・多摩永山病院 小児科・千葉北総病 院小児科	個人	森永奉社会奨励賞	鉄欠乏乳児における 発達の検討	森永奉社会	2005	7
野呂佐知子	皮膚科学・付属病院 皮膚科	個人	日本皮膚科学会・雑 誌論文賞	悪性黒色腫の sentinel node bi- opsy および病理組 織学的検討	日本皮膚科学会	2005	4
山岡淳一, 川名誠司	皮膚科学・付属病院 皮膚科	グループ	第35回日本皮膚ア レルギー学会・第30 回日本接触皮膚炎学 会展示発表優秀賞	マウス皮膚搔癢刺激 による神経線維およ び神経成長因子発 現の変化	日本皮膚アレルギー 学会	2005	10
Kiyama T	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科,一般外科,乳腺 外科,移植外科)	個人	The best poster of the session prize	Prediction of 5- fluorouracil and CDHP synergism for advanced gas- tric cancer using a collagen gel droplet embedded culture	6th International Gastric Cancer Congress	2005	5
Shinji S	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科,一般外科,乳腺 外科,移植外科)	個人	Best Abstract Award	Liver metastasis in poorly differenti- ated adenocarci- noma with neuroen- docrine features is associated with vas- cular endothelial growth factor (VEGF)	13th United European Gastro- enterology Week, Copenhagen, Denmark	2005	10

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
相本隆幸	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	個人	第14回指定研究賞	再生医療を用いた膜消化管吻合術の基礎的研究生体修復材料による安全で確実な吻合手技を旨指して食道扁平上皮癌におけるD2-40発現の意義	手術手技研究会	2005	10
勝田美和子	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	個人	優秀賞		第47回日本消化器病学会大会	2005	10
Xing C	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 一般外科, 乳腺外科, 移植外科)	個人	研究奨励賞	Interleukin-8, Cyclooxygenase-2, and Tumor Factor Family 1 Gene Expression and Their Association with Helicobacter pylori Infection in the Remnant Stomach 35:1026-1032	日本外科学会	2006	3
Shinji S	外科学第一・千葉北総病院外科	個人	Best abstract award	Liver metastasis in poorly differentiated adenocarcinoma with neuroendocrine features is associated with vascular endothelial growth factor (VEGF)	13th United European Gastroenterology Week	2005	10
原田明希摩, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 川島徹生, 山岸茂樹, 榎本 豊, 川本雅司(1), 清水一雄(1病理学第1)	外科学第二・付属病院第2外科(内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	グループ	第15回日本サイトメトリー学会学術集優秀演題	肺腺癌におけるCortactinの発現検討	日本サイトメトリー学会	2005	10
深見武彦	産婦人科学・第二病院女性診療科・産科	個人	第73回日本医科大学医学総会優秀演題	切迫早産患者の早産予防における子宮頸管腺領域像消失の意義: 頸管長と頸管粘液エラスターゼとの比較	日本医科大学医学会	2005	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	個人	ICAI Allergy Ora- tion Award	Immuno modulation in allergic airway disease	Indian College of Allergy	2005	12
三枝英人	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	個人	優秀論文賞	M-mode color Dop- pler ultrasonic im- aging of vertical tongue movement during articulatory movement	財団法人博慈会老 人病研究所	2006	1
北原由紀	眼科学・付属病院眼 科・第二病院眼科・ 多摩永山病院眼科	個人	ヒト羊膜間葉細胞の 網膜下移植による網 膜再生の可能性	学術展示優秀賞	第109回日本眼科 学会	2005	04
鈴木久晴	眼科学・付属病院眼 科・第二病院眼科・ 多摩永山病院眼科	個人	ペンタカムでみた白 内障手術前後の角膜 厚と体積の変化	ベストペーパー賞	第29回日本眼科 手術学会	2006	01
小川 令	形成外科学・付属病 院形成外科・美容外 科	個人	2005年度日本医科 大学回窓会賞(回窓 会医学研究助成金)	脂肪組織から採取し た体性幹細胞による 骨髄再生	日本医科大学回窓 会	2005	5
渡邊 淳	付属病院付置施設等 付属病院遺伝診療科	個人	平成17年度 Best Presentation Award	血管型 Ehlers-Dan- los syndrome (ED- SIV) に対する遺伝 子治療方略の検討	日本結合組織学会	2006	5
宗方祐美子	付属病院付置施設等 生理機能センター	個人	第73回日本医科大 学医学会総会優秀演 題賞	脊椎・脊髄手術にお ける下肢刺激による 体性感覚誘発電位モ ニターについての検 討	日本医科大学医学 会	2005	9
三浦義彦	付属病院付置施設等 薬剤部	個人	第73回日本医科大 学医学会総会優秀演 題賞	病棟薬剤師による薬 剤適正使用への貢献	日本医科大学医学 会	2005	9
Hosone M	多摩永山病院付置施 設等 多摩永山病院 病理部	個人	最優秀賞	Lymphoma pathol- ogy competition	European School of Oncology 2005	2005	6

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Katayama H, Maeda S, Hosone M, Hando K, Isobe H, Yanagida Y, Iwabe H, Naito Z	多摩永山病院付置施設 多摩永山病院 設等 病理部	グループ	最優秀賞	Case of invasive micropapillary carcinoma diagnosed by fine-needle aspiration cytology	The 12th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology	2006	1
笹沼和智，池田隆志， 織田 宏，高橋克幸	多摩永山病院付置施設 放射線科技師室	グループ	学術奨励賞	放射線被ばくに関する発表	日本放射線技術学会 東京部会	2005	5
ガジザデ モハマッド	老人病研究所・病理 部門	個人	日本医科大学賞	日本医科大学多教室 間にわたる萌芽的病 理学的共同研究の推 進	日本医科大学	2006	3

6. 平成17年度知的財産一覧(特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
Wada H, Jinno K, Saito Y, Ohno Y, Hayashida M	法医学	薬物の簡易分析方法	特願 2005 71452			和田啓男, 神野清勝, 齊戸美弘, 大野曜吉, 林田真喜子
Wada H, Jinno K, Saito Y, Ohno Y, Hayashida M	法医学	薬物の簡易分析方法	PST/JP2006/ 305036			和田啓男, 神野清勝, 齊戸美弘, 大野曜吉, 林田真喜子
平川慶子, 有福和紀, 藤原正子	法医学	NMR データの処理装置及び方法	特願 2005 274503	特開 2005 253342	2005/09/22	日本電子株式会社, 学校 法人日本医科大学
水村直・汲田伸一郎・ 中川原謙二・三木秀哉・ 西川和宏・浜田一男	放射線医学・付属病 院放射線科	画像処理法・画像処理 プログラム・および画 像処理装置	2005 303064			学校法人日本医科大学 日本メジッククス 中川原謙二
水口義昭, 三嶋拓也, 横室茂樹, 田尻孝, 瀧澤俊宏	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科, 一般外科, 乳腺 外科, 移植外科)	ヒトチミジル酸合成酵 素に対する RNAi とし て作用する RNA 配列	特願 2004 068081			学校法人日本医科大学
水口義昭, 三嶋拓也, 横室茂樹, 田尻孝, 瀧澤俊宏	外科学第一・付属病 院第1外科(消化器外 科, 一般外科, 乳腺 外科, 移植外科)	TGF 1 レセプター 型に対する RNAi とし て作用する RNA 配列	特願 2004 068151	特開 2005 253344	2005/09/22	学校法人日本医科大学
茆原弘光	産婦人科学・千葉北 総病院女性診療科・ 産科	妊娠期間における妊婦 別の適正な体格指標算 出ソフトウェア	2005 045708			学校法人日本医科大学
茆原弘光	産婦人科学・千葉北 総病院女性診療科・ 産科	妊婦体重管理早見表	2005 374581			キッセイ薬品工業株式会社
池園哲郎, 八木聰明, 大森 彬	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	外リンパ嚢の検出方法	特願 2003182860			学校法人日本医科大学, 三菱化学株式会社
池園哲郎, 八木聰明, 大森 彬	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	外リンパ嚢の検出方法	PCT/JP03/ 08123			学校法人日本医科大学, 三菱化学株式会社

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
加藤政利，新藤 晋， 池園哲郎，八木聡明	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	眼振誘発装置	特願 2005179515号			学校法人日本医科大学
大久保公裕，奥田 稔， 橋口一宏	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	抗原暴露室システム	017865			新菱冷熱工業（株）
大久保公裕，奥田 稔， 橋口一宏	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	抗原暴露室の抗原供給 装置	017866			新菱冷熱工業（株）
大久保公裕，奥田 稔， 橋口一宏	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	抗原暴露室およびその 洗浄・乾燥方法	017867			新菱冷熱工業（株）
太田成男，麻生定光， 渡邊健一	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・第二病院 耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽 喉科	細胞死抑制活性強化タ ンパク質 FNK または それをコードする核酸 を含む抗癌治療の細胞 毒性に基づく副作用の 予防または治療剤	P05 0415		2005 241685 2005/08/23	学校法人日本医科大学
Namimatsu S	付属病院付置施設等 付属病院病理部	ANTIGEN ACTI- VATING METHOD AND ANTIGEN AC- TIVATOR			US 6,960, 450 B2 2005/11/01	Shigeki Namimatsu



発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
加藤政利，新藤 晋， 野原秀明，池園哲郎， 八木聡明	付属病院付置施設等 付属病院生理機能セ ンター	眼振誘発装置	2005 179515			学校法人日本医科大学
太田成男，麻生定光， 渡邊健一	老人病研究所・生化 学部門	細胞死抑制活性強化タ ンパク質FNKまたは それをコードする核酸 を含む抗癌治療の細胞 毒性に基づく副作用の 予防または治療剤	2005 241685			学校法人日本医科大学

## あ と が き

本年（2006年）4月に、日本医科大学創立130周年記念式典が執り行われた。本学は1876年に済生学舎として創立、1952年に新制日本医科大学の誕生を経て、現在まで130年間に亘って医師の育成にあたり、医療に貢献してきた。この長い歴史は大変重いものである。「創立百三十周年記念誌」によると、1926年に大学に昇格した時、初代学長中原徳太郎は本学の使命を3つに分けて唱えた。その一つが“真の医学研究をなすこと”である。「真の医学研究」とは、大変含蓄のある言葉であり、その言葉に託す個々の人の思いは多様であろうが、本学において連綿と続けられてきた研究活動も、その具現化に向けた1つの営為であると考えらる。

本業績年報（平成17年度）において、本年度の論文数は1,777件で昨年度とほぼ同数であり、その39.7%が英文論文であった。英文論文の割合は過去最高となっている。学部教育や卒後研修制度の变革に伴って大学における研究環境は少なからずその影響を受けながらも、国際化の時代に着々と適応し、臨床あるいは基礎研究に取り組んでいる本学研究者の姿がここに浮かび上がっている。

何を「伝統」として定着させるべきかは、「現在におけるチョイスの問題」、と言う（刈部 直著「丸山眞男」岩波新書）。現在の本学の学是は、「愛と研究心を有する医師および医学者を育成すること」である。すなわち、研究心を持った医師であることは現在の日本医科大学が選び取った「伝統」とであると考えらる。この「伝統」が今後も受け継がれることを、130周年という節目の年にあたり、研究委員会の一委員として願っている。

最後に、本年度も業績集を纏めるにあたり、研究業績入力ウェブ掲載にご協力いただいた情報科学センター伊藤高司施設長、渡部昇先生、また実際の編纂にご尽力いただいた大学院課担当各位に対し、この場を借りて深く感謝申し上げる。

研究委員会委員長 鈴木 秀典

平成18年 12 月 1 日 印 刷

平成18年 12 月 11 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 ( 3822 ) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 ( 3910 ) 4 3 1 1 5